

柏北部東地区 埋蔵文化財発掘調査報告書13

— 柏市矢船Ⅰ遺跡・矢船Ⅱ遺跡・駒形遺跡・富士見遺跡・
原畑遺跡・花前Ⅰ遺跡・花前Ⅲ遺跡・寺下前遺跡・
大松遺跡・小山台遺跡・八反目台遺跡・館林Ⅱ遺跡 —

旧石器時代編

平成30年3月

独立行政法人 都市再生機構

公益財団法人 千葉県教育振興財団

柏北部東地区 埋蔵文化財発掘調査報告書13

かしわ やぶねいち やぶねに こまがた ふじみ
一 柏市矢船 I 遺跡・矢船 II 遺跡・駒形遺跡・富士見遺跡・
はらはた はなまえいち はなまえさん てらしたまえ
原畑遺跡・花前 I 遺跡・花前 III 遺跡・寺下前遺跡・
おまつ こやまだい はなまえさん たてばやしに
大松遺跡・小山台遺跡・八反目台遺跡・館林 II 遺跡 —
旧石器時代編



序 文

公益財団法人千葉県教育振興財団(文化財センター)は、埋蔵文化財の調査研究、文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立され、以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

このたび、千葉県教育振興財団調査報告書第771集として、独立行政法人都市再生機構の柏北部東地区土地区画整理事業に伴って実施した柏市矢船Ⅰ遺跡・矢船Ⅱ遺跡・駒形遺跡・富士見遺跡・原畑遺跡・花前Ⅰ遺跡・花前Ⅲ遺跡・寺下前遺跡・大松遺跡・小山台遺跡・八反目台遺跡・館林Ⅱ遺跡の12遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

今回報告するのは上記12遺跡の旧石器時代の調査成果です。各遺跡から検出された石器集中地点は96か所にのぼり、特徴的な形態のナイフ形石器や尖頭器、彫器など各文化層の示準となる資料が数多く出土しました。この地域の歴史を知る上で欠くことのできない貴重な成果が得られております。

刊行にあたり、本書が学術資料として、また埋蔵文化財の保護に対する理解を深めるための資料として広く活用されることを願ってやみません。

終わりに、調査に際し御指導、御協力をいただきました地元の方々をはじめとする関係の皆様や関係機関、また、発掘から整理まで御苦労をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成30年3月

公益財団法人 千葉県教育振興財団
理 事 長 平 林 秀 介

凡　例

1 本書は、独立行政法人都市再生機構による柏北部東地区土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2 本書に収録したのは下記の12遺跡の下層の調査成果である。

矢船 I 遺跡	柏市船戸字矢ノ船1579-5ほか	(遺跡コード217-039)
矢船 II 遺跡	柏市船戸字本町1783-2ほか	(遺跡コード217-019)
駒形遺跡	柏市小青田字ヤゴ山402ほか	(遺跡コード217-024)
富士見遺跡	柏市船戸字富士見130-1ほか	(遺跡コード217-026)
原畠遺跡	柏市大室字前畠269-7ほか	(遺跡コード217-021)
花前 I 遺跡	柏市船戸字花前1219-1ほか	(遺跡コード217-040)
花前 III 遺跡	柏市船戸字新町1473-1ほか	(遺跡コード217-038)
寺下前遺跡	柏市大室御領前1060-1ほか	(遺跡コード217-022)
大松遺跡	柏市小青田字大松334-1ほか	(遺跡コード217-031)
小山台遺跡	柏市大室字前畠427-6ほか	(遺跡コード217-020)
八反目台遺跡	柏市大室字東山1479-1ほか	(遺跡コード217-023)
館林 II 遺跡	柏市船戸字館林1781-17ほか	(遺跡コード217-018)

3 発掘調査から報告書作成に至る業務は、独立行政法人都市再生機構の委託を受け、公益財団法人千葉県教育振興財団が実施した。

4 発掘調査および整理作業の期間、担当者などについては第1章に記載した。

5 本書の執筆は、新田浩三・山岡磨由子・橋本勝雄が担当した。編集は山岡が行った。執筆分担は下記のとおりである。

新田 第2章～第4章

山岡 第1章、第5章～第14章(第10章第1～第4節1を除く)

橋本 第10章第1～第4節1

6 発掘調査から報告書の刊行に至るまで、千葉県教育庁教育振興部文化財課、独立行政法人都市再生機構および柏市教育委員会の御指導、御協力を得た。

7 本書で使用した地形図は以下のとおりである。

第1-1図 柏市都市計画課 1/2,500都市地形図(平成17年修正測量)

第1-3図 参謀本部陸軍測量局第1軍管地方迅速測図「流山村」、「我孫子宿」(明治13年測量)

「野田町」、「守谷町」(明治14年測量)

第1-4図 国土地理院発行 1/25,000地形図「流山」[N1-54-25-1-2](平成17年8月発行)

8 本書で使用した航空写真は以下のとおりである。

図版1 在日極東アメリカ軍撮影(昭和22年8月)

図版2 京葉測量株式会社撮影(昭和48年3月)

- 9 本書で使用した座標は日本測地系に基づく平面直角座標(国家標準直角座標第IX系)で、図面の方位はすべて座標北である。ただし抄録の経緯度は世界測地系に基づく。
- 10 嶺岡産珪質頁岩は、自然面が明黄褐色、内部は灰褐色の地に濃灰色の紡錘形の斑紋が混じる珪質頁岩である。いわゆる「白滝頁岩」や「保田層産珪化泥岩」と同じものを示す。
- 11 ブロックごとに器種・母岩別分布図、組成表を示した。ブロックの大きさは(南北)m×(東西)mと表記したが、例外的に長短で示した箇所がある。
- 12 卷末に添付したCD-ROMには、旧石器属性表(全点)・組成表をはじめ、石器及び出土状況のカラー図版を収納した。フォーマットはWindows、Macに対応する。ファイル形式は、表をXLS(Excel)、写真をJPEGで作成した。

本文目次

序文

凡例

第1章 はじめに	1
第1節 調査の概要	1
1 調査の経緯と経過	1
2 調査の方法と概要	3
第2節 遺跡の位置と環境	3
1 遺跡の位置と地理的環境	3
2 周辺の遺跡	7
第3節 基本層序	14
第2章 矢船I遺跡	16
第1節 遺跡の概要	16
第2節 第1文化層	16
第3節 単独出土石器	52
第4節 まとめ	53
第3章 矢船II遺跡	57
第1節 遺跡の概要	57
第2節 第1文化層	57
第3節 第2文化層	148
第4節 第3文化層	168
第5節 第4文化層	176
第6節 第5文化層	210
第7節 第6文化層	212
第8節 単独出土石器	218
第9節 まとめ	219
第4章 駒形遺跡	227
第1節 遺跡の概要	227
第2節 第1文化層	230
第3節 第3文化層	234
第4節 単独出土石器	252
第5節 まとめ	254
第5章 富士見遺跡	257
第1節 遺跡の概要	257
第2節 第2文化層	257
第3節 第3文化層	265

第4節 第4文化層	267
第5節 単独出土石器	283
第6節 まとめ	290
第6章 原畑遺跡	293
第1節 遺跡の概要	293
第2節 第3文化層	296
第3節 第4文化層	308
第4節 まとめ	333
第7章 花前Ⅰ遺跡	335
第1節 遺跡の概要	335
第2節 石器分布・出土石器	336
第3節 まとめ	336
第8章 花前Ⅲ遺跡	338
第1節 遺跡の概要	338
第2節 第1文化層	339
第3節 まとめ	341
第9章 寺下前遺跡	342
第1節 遺跡の概要	342
第2節 第1文化層	343
第3節 第2文化層	346
第4節 単独出土石器	348
第5節 まとめ	348
第10章 大松遺跡	350
第1節 遺跡の概要	350
第2節 ブロック分布	351
第3節 単独出土石器	354
第4節 まとめ	358
第11章 小山台遺跡	360
第1節 遺跡の概要	360
第2節 第1文化層	364
第3節 第3文化層	371
第4節 第4文化層	380
第5節 第5文化層	391
第6節 第6文化層	401
第7節 単独出土石器	403
第8節 まとめ	406
第12章 八反目台遺跡	408

第1節 遺跡の概要	408
第2節 石器分布	409
第3節 出土石器	412
第4節 単独出土石器	417
第5節 まとめ	418
第13章 館林Ⅱ遺跡	419
第1節 遺跡の概要	419
第2節 第1文化層	422
第3節 第2文化層	434
第4節 第3文化層	439
第5節 第4文化層	457
第6節 第5文化層	470
第7節 単独出土石器	473
第8節 まとめ	475
第14章 おわりに	478
報告書抄録	卷末

挿 図 目 次

第1章 はじめに	
第1-1図 柏北部東地区遺跡位置図	2
第1-2図 グリッドの呼称例	3
第1-3図 旧石器時代遺跡分布と周辺の地形(旧況図)	8
第1-4図 旧石器時代遺跡分布と周辺の地形(現況図)	9
第1-5図 基本層序	15
第2章 矢船I遺跡	
第2-1図 矢船I遺跡調査次別区域と確認・本調査範囲	17
第2-2図 矢船I遺跡文化層別ブロック位置図	17
第2-3図 第1文化層遺物分布及びブロック配置	18
第2-4図 第1文化層器種別分布	19
第2-5図 第1文化層石材別分布	20
第2-6図 第1文化層第1ブロック器種別分布	25
第2-7図 第1文化層第1ブロック母岩別分布	26
第2-8図 第1文化層第1ブロック出土石器(1)	27
第2-9図 第1文化層第1ブロック出土石器(2)	28
第2-10図 第1文化層第1ブロック出土石器(3)	29
第2-11図 第1文化層第1ブロック出土石器(4)	30
第2-12図 第1文化層第1ブロック出土石器(5)	31
第2-13図 第1文化層第2ブロック遺物分布	33
第2-14図 第1文化層第2ブロック出土石器(1)	34
第2-15図 第1文化層第2ブロック出土石器(2)	35
第2-16図 第1文化層第3ブロック遺物分布	36
第2-17図 第1文化層第3ブロック出土石器(1)	37
第2-18図 第1文化層第3ブロック出土石器(2)	38
第2-19図 第1文化層第4ブロック遺物分布	40
第2-20図 第1文化層第4ブロック出土石器	41
第2-21図 第1文化層第5ブロック遺物分布	43
第2-22図 第1文化層第5ブロック出土石器(1)	44
第2-23図 第1文化層第5ブロック出土石器(2)	45
第2-24図 第1文化層第6ブロック器種別分布	47
第2-25図 第1文化層第6ブロック母岩別分布	48
第2-26図 第1文化層第6ブロック出土石器(1)	49
第2-27図 第1文化層第6ブロック出土石器(2)	50
第2-28図 第1文化層単独出土石器	52
第2-29図 単独出土石器	53
第2-30図 矢船I遺跡文化層別主要石器(1)	55
第2-31図 矢船I遺跡文化層別主要石器(2)	56
第3章 矢船II遺跡	
第3-1図 矢船II遺跡調査次別区域と確認・本調査範囲	58
第3-2図 矢船II遺跡文化層別ブロック位置図	59
第3-3図 第1文化層遺物分布及びブロック配置	63
第3-4図 第1文化層1ユニット器種別分布(1)	70
第3-5図 第1文化層1ユニット器種別分布(2)	71
第3-6図 第1文化層1ユニット石材別分布	72
第3-7図 第1文化層1ユニット石材別母岩分布(1)	73
第3-8図 第1文化層1ユニット石材別母岩分布(2)	74
第3-9図 第1文化層1ユニット石材別母岩分布(3)	75
第3-10図 第1文化層1ユニット接合関係図	76
第3-11図 第1文化層1ユニット第1ブロック器種別分布	78
第3-12図 第1文化層1ユニット第1ブロック母岩別分布	79
第3-13図 第1文化層1ユニット第2ブロック器種別分布	80
第3-14図 第1文化層1ユニット第2ブロック母岩別分布	81
第3-15図 第1文化層1ユニット第3ブロック遺物分布	82
第3-16図 第1文化層1ユニット第4ブロック器種別分布	84
第3-17図 第1文化層1ユニット第4ブロック母岩別分布	85
第3-18図 第1文化層1ユニット第5ブロック器種別分布	86
第3-19図 第1文化層1ユニット第5ブロック母岩別分布	87
第3-20図 第1文化層1ユニット第6ブロック遺物分布	88
第3-21図 第1文化層1ユニット第7ブロック遺物分布	89
第3-22図 第1文化層1ユニット第8ブロック遺物分布	92
第3-23図 第1文化層1ユニット第9ブロック遺物分布	93
第3-24図 第1文化層1ユニット第10ブロック遺物分布	94
第3-25図 第1文化層1ユニット第11ブロック遺物分布	96
第3-26図 第1文化層1ユニット出土石器(1)	100
第3-27図 第1文化層1ユニット出土石器(2)	101
第3-28図 第1文化層1ユニット出土石器(3)	102
第3-29図 第1文化層1ユニット出土石器(4)	103
第3-30図 第1文化層1ユニット出土石器(5)	104
第3-31図 第1文化層1ユニット出土石器(6)	105
第3-32図 第1文化層1ユニット出土石器(7)	106
第3-33図 第1文化層1ユニット出土石器(8)	107
第3-34図 第1文化層1ユニット出土石器(9)	108
第3-35図 第1文化層1ユニット出土石器(10)	109
第3-36図 第1文化層1ユニット出土石器(11)	110
第3-37図 第1文化層1ユニット出土石器(12)	111
第3-38図 第1文化層1ユニット出土石器(13)	112
第3-39図 第1文化層1ユニット出土石器(14)	113
第3-40図 第1文化層1ユニット出土石器(15)	114
第3-41図 第1文化層1ユニット出土石器(16)	115
第3-42図 第1文化層1ユニット出土石器(17)	116
第3-43図 第1文化層1ユニット出土石器(18)	117
第3-44図 第1文化層1ユニット出土石器(19)	118
第3-45図 第1文化層1ユニット出土石器(20)	119
第3-46図 第1文化層1ユニット出土石器(21)	120
第3-47図 第1文化層第12ブロック出土石器	123
第3-48図 第1文化層第12ブロック遺物分布	124
第3-49図 第1文化層第13ブロック器種別分布	126
第3-50図 第1文化層第13ブロック母岩別分布	127
第3-51図 第1文化層第13ブロック出土石器(1)	128
第3-52図 第1文化層第13ブロック出土石器(2)	129
第3-53図 第1文化層第13ブロック出土石器(3)	130

第3-54図	第1文化層第13ブロック出土石器(4)	131
第3-55図	第1文化層第13ブロック出土石器(5)	132
第3-56図	第1文化層第13ブロック出土石器(6)	133
第3-57図	第1文化層第13ブロック出土石器(7)	134
第3-58図	第1文化層第13ブロック出土石器(8)	135
第3-59図	第1文化層第14ブロック器種別分布	138
第3-60図	第1文化層第14ブロック母岩別分布	139
第3-61図	第1文化層第14ブロック出土石器(1)	140
第3-62図	第1文化層第14ブロック出土石器(2)	141
第3-63図	第1文化層第15ブロック器種別分布	142
第3-64図	第1文化層第15ブロック母岩別分布	143
第3-65図	第1文化層第15ブロック出土石器(1)	144
第3-66図	第1文化層第15ブロック出土石器(2)	145
第3-67図	第1文化層第16ブロック遺物分布	146
第3-68図	第1文化層第16ブロック出土石器	147
第3-69図	第2文化層遺物分布及びブロック配置	149
第3-70図	第2文化層第17ブロック遺物分布	151
第3-71図	第2文化層第17ブロック出土石器	152
第3-72図	第2文化層第18ブロック遺物分布	153
第3-73図	第2文化層第18ブロック出土石器(1)	154
第3-74図	第2文化層第18ブロック出土石器(2)	155
第3-75図	第2文化層第19ブロック器種別分布	158
第3-76図	第2文化層第19ブロック母岩別分布	159
第3-77図	第2文化層第19ブロック出土石器(1)	160
第3-78図	第2文化層第19ブロック出土石器(2)	161
第3-79図	第2文化層第19ブロック出土石器(3)	162
第3-80図	第2文化層第20ブロック遺物分布	164
第3-81図	第2文化層第20ブロック出土石器	164
第3-82図	第2文化層第21ブロック遺物分布	165
第3-83図	第2文化層第21ブロック出土石器(1)	166
第3-84図	第2文化層第21ブロック出土石器(2)	167
第3-85図	第3文化層遺物分布及びブロック配置	169
第3-86図	第3文化層第22ブロック出土石器	170
第3-87図	第3文化層第22ブロック遺物分布	171
第3-88図	第3文化層第23ブロック出土石器	172
第3-89図	第3文化層第23ブロック遺物分布	173
第3-90図	第3文化層第24ブロック遺物分布	174
第3-91図	第3文化層第24ブロック出土石器	175
第3-92図	第4文化層遺物分布及びブロック配置	177
第3-93図	第4文化層第25ブロック器種別分布	180
第3-94図	第4文化層第25ブロック母岩別分布	181
第3-95図	第4文化層第25ブロック出土石器(1)	182
第3-96図	第4文化層第25ブロック出土石器(2)	183
第3-97図	第4文化層第26ブロック遺物分布	185
第3-98図	第4文化層第26ブロック出土石器	186
第3-99図	第4文化層第27ブロック出土石器	186
第3-100図	第4文化層第27ブロック遺物分布	187
第3-101図	第4文化層第28ブロック出土石器	188
第3-102図	第4文化層第28ブロック遺物分布	189
第3-103図	第4文化層第29ブロック出土石器	190
第3-104図	第4文化層第29ブロック遺物分布	191
第3-105図	第4文化層第30ブロック出土石器	192
第3-106図	第4文化層第30ブロック遺物分布	193
第3-107図	第4文化層第31ブロック出土石器	194
第3-108図	第4文化層第31ブロック遺物分布	195
第3-109図	第4文化層第32ブロック出土石器	196
第3-110図	第4文化層第32ブロック遺物分布	196
第3-111図	第4文化層第33ブロック器種別分布	197
第3-112図	第4文化層第33ブロック母岩別分布	198
第3-113図	第4文化層第33ブロック出土石器(1)	199
第3-114図	第4文化層第33ブロック出土石器(2)	200
第3-115図	第4文化層第34ブロック遺物分布	202
第3-116図	第4文化層第34ブロック出土石器(1)	203
第3-117図	第4文化層第34ブロック出土石器(2)	204
第3-118図	第4文化層第34ブロック出土石器(3)	205
第3-119図	第4文化層第34ブロック出土石器(4)	206
第3-120図	第4文化層第34ブロック出土石器(5)	207
第3-121図	第4文化層第35ブロック遺物分布	209
第3-122図	第4文化層第35ブロック出土石器	210
第3-123図	第5文化層第36ブロック遺物分布	211
第3-124図	第5文化層第36ブロック出土石器	211
第3-125図	第5文化層単独出土石器	212
第3-126図	第6文化層第37ブロック器種別分布	214
第3-127図	第6文化層第37ブロック母岩別分布	215
第3-128図	第6文化層第37ブロック出土石器(1)	216
第3-129図	第6文化層第37ブロック出土石器(2)	217
第3-130図	単独出土石器	219
第3-131図	矢船II遺跡文化層別主要石器(1)	221
第3-132図	矢船II遺跡文化層別主要石器(2)	223
第3-133図	矢船II遺跡文化層別主要石器(3)	225
第4章 駒形遺跡		
第4-1図	駒形遺跡調査次別区域と確認・本調査範囲	228
第4-2図	駒形遺跡文化層別ブロック位置図	229
第4-3図	第1文化層第7ブロック器種別分布	231
第4-4図	第1文化層第7ブロック母岩別分布	232
第4-5図	第1文化層第7ブロック出土石器	233
第4-6図	第3文化層器種別分布	235
第4-7図	第3文化層石材別分布	236
第4-8図	第3文化層第8ブロック器種別分布	241
第4-9図	第3文化層第8ブロック母岩別分布	242
第4-10図	第3文化層第8ブロック出土石器(1)	243
第4-11図	第3文化層第8ブロック出土石器(2)	244
第4-12図	第3文化層第8ブロック出土石器(3)	245
第4-13図	第3文化層第8ブロック出土石器(4)	246
第4-14図	第3文化層第8ブロック出土石器(5)	247
第4-15図	第3文化層第9ブロック遺物分布	249
第4-16図	第3文化層第9ブロック出土石器	249
第4-17図	第3文化層第10ブロック遺物分布	251
第4-18図	第3文化層第10ブロック出土石器	252
第4-19図	単独出土石器	253

第4-20図 駒形遺跡文化層別主要石器	256	第6-21図 第4文化層第33ブロック出土石器	319
第5章 富士見遺跡		第6-22図 第4文化層第34ブロック遺物分布	321
第5-1図 富士見遺跡調査次別区域と確認・本調査範囲	258	第6-23図 第4文化層第34ブロック出土石器(1)	322
第5-2図 富士見遺跡文化層別ブロック位置図	259	第6-24図 第4文化層第34ブロック出土石器(2)	323
第5-3図 第2文化層第19ブロック器種別分布	262	第6-25図 第4文化層第35ブロック遺物分布	325
第5-4図 第2文化層第19ブロック母岩別分布	263	第6-26図 第4文化層第35ブロック出土石器	326
第5-5図 第2文化層第19ブロック出土石器	264	第6-27図 第4文化層第36ブロック遺物分布	327
第5-6図 第3文化層第20ブロック遺物分布	265	第6-28図 第4文化層第36ブロック出土石器	328
第5-7図 第3文化層第20ブロック出土石器	266	第6-29図 第4文化層第37ブロック出土石器	328
第5-8図 第3文化層単独出土石器	266	第6-30図 第4文化層第37ブロック遺物分布	329
第5-9図 第4文化層第21ブロック遺物分布	269	第6-31図 第4文化層第38ブロック出土石器	330
第5-10図 第4文化層第21ブロック出土石器(1)	270	第6-32図 第4文化層第38ブロック器種別分布	331
第5-11図 第4文化層第21ブロック出土石器(2)	271	第6-33図 第4文化層第38ブロック母岩別分布	332
第5-12図 第4文化層第22ブロック遺物分布	272	第6-34図 原畠遺跡文化層別主要石器	334
第5-13図 第4文化層第22ブロック出土石器(1)	273	第7章 花前I遺跡	
第5-14図 第4文化層第22ブロック出土石器(2)	274	第7-1図 花前I遺跡調査次別区域と確認・本調査範囲	335
第5-15図 第4文化層第22ブロック出土石器(3)	276	第7-2図 遺物分布・出土石器	337
第5-16図 第4文化層第22ブロック出土石器(4)	277	第8章 花前III遺跡	
第5-17図 第4文化層第23ブロック器種別分布	279	第8-1図 花前III遺跡調査次別区域と確認・本調査範囲	338
第5-18図 第4文化層第23ブロック母岩別分布	280	第8-2図 第1文化層第1ブロック出土石器	339
第5-19図 第4文化層第23ブロック出土石器	281	第8-3図 第1文化層第1ブロック遺物分布	340
第5-20図 第4文化層第24ブロック遺物分布	282	第9章 寺下前遺跡	
第5-21図 第4文化層第24ブロック出土石器	282	第9-1図 寺下前遺跡調査次別区域と確認・本調査範囲	342
第5-22図 第4文化層単独出土石器	283	第9-2図 第1文化層第1ブロック遺物分布	344
第5-23図 単独出土遺物分布	284	第9-3図 第1文化層第1ブロック出土石器(1)	345
第5-24図 単独出土石器(1)	286	第9-4図 第1文化層第1ブロック出土石器(2)	346
第5-25図 単独出土石器(2)	288	第9-5図 第2文化層第2ブロック遺物分布	347
第5-26図 単独出土石器(3)	289	第9-6図 第2文化層第2ブロック出土石器	347
第5-27図 富士見遺跡文化層別主要石器	291	第9-7図 寺下前遺跡ブロック位置と単独出土遺物分布・ 出土石器	348
第6章 原畠遺跡		第10章 大松遺跡	
第6-1図 原畠遺跡調査次別区域と確認・本調査範囲	294	第10-1図 大松遺跡調査次別区域と確認・本調査範囲及び ブロック位置図	350
第6-2図 原畠遺跡文化層別ブロック位置図	295	第10-2図 第22ブロック遺物分布	351
第6-3図 第3文化層(第28~31ブロック)遺物分布	297	第10-3図 第23ブロック遺物分布	352
第6-4図 第3文化層第28ブロック遺物分布	299	第10-4図 第22・23ブロック出土石器	353
第6-5図 第3文化層第28ブロック出土石器	300	第10-5図 単独出土遺物分布	355
第6-6図 第3文化層第29ブロック遺物分布	301	第10-6図 単独出土石器(1)	356
第6-7図 第3文化層第29ブロック出土石器(1)	302	第10-7図 単独出土石器(2)	357
第6-8図 第3文化層第29ブロック出土石器(2)	303	第10-8図 国府型ナイフ形石器と神山型に類する彫器分布	359
第6-9図 第3文化層第29ブロック出土石器(3)	304	第11章 小山台遺跡	
第6-10図 第3文化層第30ブロック遺物分布	305	第11-1図 小山台遺跡調査次別区域と確認・本調査範囲	361
第6-11図 第3文化層第30ブロック出土石器	306	第11-2図 小山台遺跡文化層別ブロック位置図	362
第6-12図 第3文化層第31ブロック遺物分布	306	第11-3図 第1文化層ブロック位置図	364
第6-13図 第3文化層第31ブロック出土石器	307	第11-4図 第1文化層第80ブロック遺物分布	365
第6-14図 第3文化層単独出土石器	308	第11-5図 第1文化層第80ブロック出土石器	366
第6-15図 第4文化層器種別分布	309	第11-6図 第1文化層第81ブロック器種別分布	367
第6-16図 第4文化層石材別分布	310	第11-7図 第1文化層第81ブロック母岩別分布	368
第6-17図 第4文化層第32ブロック器種別分布	313	第11-8図 第1文化層第81ブロック出土石器	369
第6-18図 第4文化層第32ブロック母岩別分布	315	第11-9図 第1文化層単独出土石器	370
第6-19図 第4文化層第32ブロック出土石器	316		
第6-20図 第4文化層第33ブロック遺物分布	318		

第11-10図	第3文化層ブロック位置図	371
第11-11図	第3文化層第82ブロック器種別分布	372
第11-12図	第3文化層第82ブロック母岩別分布	373
第11-13図	第3文化層第82ブロック出土石器(1)	375
第11-14図	第3文化層第82ブロック出土石器(2)	376
第11-15図	第3文化層第83ブロック遺物分布	377
第11-16図	第3文化層第83ブロック出土石器	378
第11-17図	第3文化層単独出土石器	379
第11-18図	第4文化層ブロック位置図	380
第11-19図	第4文化層第84ブロック遺物分布	381
第11-20図	第4文化層第84ブロック出土石器(1)	383
第11-21図	第4文化層第84ブロック出土石器(2)	384
第11-22図	第4文化層第85ブロック出土石器	385
第11-23図	第4文化層第85ブロック遺物分布	386
第11-24図	第4文化層第86ブロック器種別分布	387
第11-25図	第4文化層第86ブロック母岩別分布	388
第11-26図	第4文化層第86ブロック出土石器	389
第11-27図	第4文化層単独出土遺物分布・出土石器	390
第11-28図	第5文化層ブロック位置図	391
第11-29図	第5文化層第87ブロック器種別分布	392
第11-30図	第5文化層第87ブロック母岩別分布	393
第11-31図	第5文化層第87ブロック出土石器(1)	394
第11-32図	第5文化層第87ブロック出土石器(2)	396
第11-33図	第5文化層第88ブロック遺物分布	398
第11-34図	第5文化層第88ブロック出土石器	398
第11-35図	第5文化層第89ブロック遺物分布	399
第11-36図	第5文化層第89ブロック出土石器	400
第11-37図	第6文化層ブロック位置図	401
第11-38図	第6文化層第90~92ブロック遺物分布	402
第11-39図	第6文化層単独出土石器	402
第11-40図	小山台遺跡単独出土遺物分布	403
第11-41図	単独出土遺物分布	404
第11-42図	単独出土石器	405
第12章	八反目台遺跡	
第12-1図	八反目台遺跡調査次別区域と確認・本調査範囲	408
第12-2図	第1ブロック遺物分布	410
第12-3図	第1ブロック出土石器(1)	413
第12-4図	第1ブロック出土石器(2)	415
第12-5図	第1ブロック出土石器(3)	416
第12-6図	単独出土石器	417
第13章	館林II遺跡	
第13-1図	館林II遺跡調査次別区域と確認・本調査範囲	420
第13-2図	館林II遺跡文化層別ブロック位置図	420
第13-3図	第1文化層ブロック位置図	422
第13-4図	第1文化層第1ブロック遺物分布	423
第13-5図	第1文化層第1ブロック出土石器	424
第13-6図	第1文化層第2ブロック器種別分布	426
第13-7図	第1文化層第2ブロック母岩別分布	427
第13-8図	第1文化層第2ブロック出土石器	428
第13-9図	第1文化層第3ブロック遺物分布	430
第13-10図	第1文化層第3ブロック出土石器	431
第13-11図	第1文化層第4ブロック遺物分布	433
第13-12図	第1文化層第4ブロック出土石器	434
第13-13図	第2文化層ブロック位置図	434
第13-14図	第2文化層第5ブロック遺物分布	435
第13-15図	第2文化層第5ブロック出土石器(1)	437
第13-16図	第2文化層第5ブロック出土石器(2)	438
第13-17図	第3文化層ブロック位置図	439
第13-18図	第3文化層第6ブロック器種別分布	442
第13-19図	第3文化層第6ブロック母岩別分布	443
第13-20図	第3文化層第6ブロック出土石器(1)	445
第13-21図	第3文化層第6ブロック出土石器(2)	447
第13-22図	第3文化層第6ブロック出土石器(3)	448
第13-23図	第3文化層第7・8ブロック器種別分布	450
第13-24図	第3文化層第7・8ブロック母岩別分布	451
第13-25図	第3文化層第7・8ブロック出土石器(1)	454
第13-26図	第3文化層第7・8ブロック出土石器(2)	455
第13-27図	第4文化層ブロック位置図	457
第13-28図	第4文化層第9~11ブロック器種別分布	458
第13-29図	第4文化層第9ブロック器種別分布	459
第13-30図	第4文化層第10ブロック器種別分布	460
第13-31図	第4文化層第11ブロック器種別分布	461
第13-32図	第4文化層第9~11ブロック母岩別分布	462
第13-33図	第4文化層第9~11ブロック出土石器(1)	464
第13-34図	第4文化層第9~11ブロック出土石器(2)	465
第13-35図	第4文化層第12ブロック器種別分布	467
第13-36図	第4文化層第12ブロック母岩別分布	468
第13-37図	第4文化層第12ブロック出土石器	469
第13-38図	第5文化層ブロック位置図	470
第13-39図	第5文化層第13ブロック遺物分布	471
第13-40図	第5文化層第13ブロック出土石器	473
第13-41図	単独出土遺物分布	473
第13-42図	単独出土石器	474
第13-43図	第3文化層主要石器	476
第13-44図	第5文化層主要石器	477
第14章	おわりに	
第14-1図	柏北部東地区全遺跡位置図	479
第14-2図	ブロック分布	482
第14-3図	V層~IV層下部段階接合資料(1)	485
第14-4図	V層~IV層下部段階接合資料(2)	486
第14-5図	大松遺跡の彫器出土位置・関連する遺構とブロック	489
第14-6図	神山型彫器関連資料	489

表 目 次

第1章 はじめに		
第1-1表 発掘調査一覧	4	
第1-2表 周辺遺跡の調査概要	12	
第2章 矢船I遺跡		
第2-1表 文化層ブロック別器種組成表	16	
第2-2表 文化層ブロック別石材組成表	16	
第2-3表 第1文化層器種石材組成表	18	
第2-4表 第1文化層ブロック別組成表	21	
第2-5表 第1文化層第1ブロック組成表	24	
第2-6表 第1文化層第2ブロック組成表	32	
第2-7表 第1文化層第3ブロック組成表	39	
第2-8表 第1文化層第4ブロック組成表	42	
第2-9表 第1文化層第5ブロック組成表	46	
第2-10表 第1文化層第6ブロック組成表	51	
第2-11表 第1文化層単独出土石器組成表	52	
第3章 矢船II遺跡		
第3-1表 文化層ブロック別器種組成表	60	
第3-2表 文化層ブロック別石材組成表	61	
第3-3表 第1文化層器種石材組成表	62	
第3-4表 第1文化層ブロック別組成表(1)	64	
第3-5表 第1文化層ブロック別組成表(2)	65	
第3-6表 第1文化層1ユニット器種石材組成表	66	
第3-7表 第1文化層第1ブロック組成表	69	
第3-8表 第1文化層第2ブロック組成表	77	
第3-9表 第1文化層第3ブロック組成表	83	
第3-10表 第1文化層第4ブロック組成表	83	
第3-11表 第1文化層第5ブロック組成表	89	
第3-12表 第1文化層第6ブロック組成表	89	
第3-13表 第1文化層第7ブロック組成表	91	
第3-14表 第1文化層第8ブロック組成表	91	
第3-15表 第1文化層第9ブロック組成表	94	
第3-16表 第1文化層第10ブロック組成表	95	
第3-17表 第1文化層第11ブロック組成表	95	
第3-18表 第1文化層第12ブロック組成表	122	
第3-19表 第1文化層第13ブロック組成表	125	
第3-20表 第1文化層第14ブロック組成表	137	
第3-21表 第1文化層第15ブロック組成表	137	
第3-22表 第1文化層第16ブロック組成表	148	
第3-23表 第2文化層器種石材組成表	150	
第3-24表 第2文化層ブロック別組成表	150	
第3-25表 第2文化層第17ブロック組成表	151	
第3-26表 第2文化層第18ブロック組成表	156	
第3-27表 第2文化層第19ブロック組成表	157	
第3-28表 第2文化層第20ブロック組成表	164	
第3-29表 第2文化層第21ブロック組成表	167	
第3-30表 第3文化層器種石材組成表	168	
第3-31表 第3文化層ブロック別組成表	168	
第3-32表 第3文化層第22ブロック組成表	172	
第3-33表 第3文化層第23ブロック組成表	172	
第3-34表 第3文化層第24ブロック組成表	176	
第3-35表 第4文化層器種石材組成表	178	
第3-36表 第4文化層ブロック別組成表	179	
第3-37表 第4文化層第25ブロック組成表	184	
第3-38表 第4文化層第26ブロック組成表	185	
第3-39表 第4文化層第27ブロック組成表	188	
第3-40表 第4文化層第28ブロック組成表	188	
第3-41表 第4文化層第29ブロック組成表	190	
第3-42表 第4文化層第30ブロック組成表	192	
第3-43表 第4文化層第31ブロック組成表	192	
第3-44表 第4文化層第32ブロック組成表	194	
第3-45表 第4文化層第33ブロック組成表	201	
第3-46表 第4文化層第34ブロック組成表	208	
第3-47表 第4文化層第35ブロック組成表	210	
第3-48表 第5文化層ブロック別組成表	210	
第3-49表 第5文化層第36ブロック組成表	211	
第3-50表 第5文化層単独出土組成表	212	
第3-51表 第6文化層器種石材組成表	213	
第3-52表 第6文化層第37ブロック組成表	213	
第3-53表 単独出土器種石材組成表	219	
第4章 駒形遺跡		
第4-1表 文化層ブロック別器種組成表	227	
第4-2表 文化層ブロック別石材組成表	227	
第4-3表 第1文化層第7ブロック組成表	230	
第4-4表 第3文化層器種石材組成表	234	
第4-5表 第3文化層ブロック別組成表	234	
第4-6表 第3文化層第8ブロック組成表	238	
第4-7表 第3文化層第9ブロック組成表	250	
第4-8表 第3文化層第10ブロック組成表	250	
第4-9表 単独出土器種石材組成表	253	
第5章 富士見遺跡		
第5-1表 文化層ブロック別器種組成表	260	
第5-2表 文化層ブロック別石材組成表	260	
第5-3表 第2文化層第19ブロック組成表	261	
第5-4表 第3文化層器種石材組成表	265	
第5-5表 第3文化層第20ブロック組成表	266	
第5-6表 第3文化層単独出土石器組成表	266	
第5-7表 第4文化層器種石材組成表	267	
第5-8表 第4文化層ブロック別組成表	267	
第5-9表 第4文化層第21ブロック組成表	271	
第5-10表 第4文化層第22ブロック組成表	278	
第5-11表 第4文化層第23ブロック組成表	281	
第5-12表 第4文化層第24ブロック組成表	282	
第5-13表 第4文化層単独出土組成表	283	
第5-14表 単独出土器種石材組成表	285	

第6章 原畠遺跡	
第6-1表 文化層ブロック別器種組成表	293
第6-2表 文化層ブロック別石材組成表	293
第6-3表 第3文化層器種石材組成表	298
第6-4表 第3文化層ブロック別組成表	298
第6-5表 第3文化層第28ブロック組成表	298
第6-6表 第3文化層第29ブロック組成表	305
第6-7表 第3文化層第30ブロック組成表	306
第6-8表 第3文化層第31ブロック組成表	307
第6-9表 第3文化層単独出土石器組成表	308
第6-10表 第4文化層ブロック別組成表	311
第6-11表 第4文化層器種石材組成表	312
第6-12表 第4文化層第32ブロック組成表	314
第6-13表 第4文化層第33ブロック組成表	317
第6-14表 第4文化層第34ブロック組成表	324
第6-15表 第4文化層第35ブロック組成表	326
第6-16表 第4文化層第36ブロック組成表	328
第6-17表 第4文化層第37ブロック組成表	330
第6-18表 第4文化層第38ブロック組成表	332
第7章 花前Ⅰ遺跡	
第7-1表 石器組成表	337
第8章 花前Ⅲ遺跡	
第8-1表 第1文化層第1ブロック組成表	341
第9章 寺下前遺跡	
第9-1表 器種組成表	349
第9-2表 石材組成表	349
第9-3表 第1文化層組成表	349
第9-4表 第2文化層組成表	349
第9-5表 単独出土組成表	349
第10章 大松遺跡	
第10-1表 石器組成表	354
第10-2表 単独出土遺物一覧	355
第11章 小山台遺跡	
第11-1表 文化層別器種組成表	363
第11-2表 文化層別石材組成表	363
第11-3表 第1文化層器種石材組成表	364
第11-4表 第1文化層第80ブロック組成表	366
第11-5表 第1文化層第81ブロック組成表	368
第11-6表 第1文化層単独出土石器組成表	370
第11-7表 第3文化層器種石材組成表	371
第11-8表 第3文化層第82ブロック組成表	374
第11-9表 第3文化層第83ブロック組成表	376
第11-10表 第3文化層単独出土石器組成表	379
第11-11表 第4文化層器種石材組成表	380
第11-12表 第4文化層第84ブロック組成表	385
第11-13表 第4文化層第85ブロック組成表	385
第11-14表 第4文化層第52・86ブロック組成表	389
第11-15表 第4文化層第86ブロック組成表	390
第11-16表 第5文化層器種石材組成表	391
第11-17表 第5文化層第87ブロック組成表	397
第11-18表 第5文化層第88ブロック組成表	397
第11-19表 第5文化層第89ブロック組成表	399
第11-20表 第6文化層器種石材組成表	402
第11-21表 第6文化層ブロック別組成表	402
第11-22表 単独出土石器組成表	405
第12章 八反目台遺跡	
第12-1表 器種組成表	411
第12-2表 石材組成表	411
第12-3表 第1ブロック組成表	411
第12-4表 第1ブロック黒曜石・チャート数量	418
第13章 館林Ⅱ遺跡	
第13-1表 文化層ブロック別器種組成表	421
第13-2表 文化層ブロック別石材組成表	421
第13-3表 第1文化層ブロック別組成表	422
第13-4表 第1文化層第1ブロック組成表	425
第13-5表 第1文化層第2ブロック組成表	428
第13-6表 第1文化層第3ブロック組成表	429
第13-7表 第1文化層第4ブロック組成表	432
第13-8表 第2文化層第5ブロック組成表	438
第13-9表 第3文化層ブロック別組成表	440
第13-10表 第3文化層第6ブロック組成表	441
第13-11表 第3文化層第7・8ブロック組成表	452
第13-12表 第3文化層第7ブロック組成表	456
第13-13表 第3文化層第8ブロック組成表	456
第13-14表 第4文化層ブロック別組成表	457
第13-15表 第4文化層第9ブロック組成表	459
第13-16表 第4文化層第10ブロック組成表	460
第13-17表 第4文化層第11ブロック組成表	461
第13-18表 第4文化層第9～11ブロック組成表	461
第13-19表 第4文化層第12ブロック組成表	470
第13-20表 第5文化層第13ブロック組成表	472
第14章 おわりに	
第14-1表 柏北部東地区遺跡ブロック一覧	478
第14-2表 柏北部東地区遺跡別器種組成表	480
第14-3表 柏北部東地区遺跡別石材組成表	480

図版目次

- 図版1 遺跡周辺航空写真(昭和22年撮影)
- 図版2 柏北部東地区遺跡航空写真(昭和48年撮影)
- 図版3 矢船I遺跡 O15-97グリッド東壁面、L16-45グリッド西壁面、第1文化層第1ブロック北から、第1文化層第1ブロック西から、第1文化層第2～4ブロック南から、第1文化層第5ブロック南東から、第1文化層第6ブロック南から、第1文化層M16-97-1南から
- 図版4 矢船I遺跡出土石器(1)
- 図版5 矢船I遺跡出土石器(2)
- 図版6 矢船I遺跡出土石器(3)
- 図版7 矢船II遺跡 K20-00グリッド北壁面、第1文化層1ユニット第1ブロック西から、第1文化層1ユニット第2ブロック南から、第1文化層1ユニット第3・4ブロック南から、第1文化層1ユニット第4・5ブロック北東から、第1文化層1ユニット第6・7ブロック西から、第1文化層1ユニット第8・9ブロック北から、第1文化層1ユニット第10・11ブロック北東から
- 図版8 矢船II遺跡 第1文化層第12ブロック西から、第1文化層第13ブロック南東から、第1文化層第14ブロック北から、第1文化層第15ブロック南東から、第1文化層第16ブロック南西から、第2文化層第17ブロック南から、第2文化層第18ブロック南西から、第2文化層第19ブロック南から
- 図版9 矢船II遺跡 第2文化層第20ブロック南東から、第2文化層第21ブロック東から、第3文化層第22・23ブロック東から、第3文化層第24ブロック東から、第4文化層第25・26ブロック南西から、第4文化層第27ブロック西から、第4文化層第28ブロック西から、第4文化層第29ブロック北東から
- 図版10 矢船II遺跡 第4文化層第30ブロック西から、第4文化層第31ブロック北から、第4文化層第33ブロック南西から、第4文化層第34ブロック北から、第4文化層第35ブロック東から、第6文化層第37ブロック南西から、第6文化層第37ブロック尖頭器出土状況 南から、単独出土N23-03-1 南から
- 図版11 矢船II遺跡出土石器(1)
- 図版12 矢船II遺跡出土石器(2)
- 図版13 矢船II遺跡出土石器(3)
- 図版14 矢船II遺跡出土石器(4)
- 図版15 矢船II遺跡出土石器(5)
- 図版16 矢船II遺跡出土石器(6)
- 図版17 矢船II遺跡出土石器(7)
- 図版18 矢船II遺跡出土石器(8)
- 図版19 駒形遺跡 BB16-32グリッド北壁面、DD15-38グリッド南壁面、第1文化層第7ブロック北から、第3文化層第8ブロック南東から、第3文化層第9ブロック南から、第3文化層第10ブロック南東から
- 図版20 駒形遺跡出土石器(1)
- 図版21 駒形遺跡出土石器(2)
- 図版22 富士見遺跡 R20-46グリッド北壁面、第2文化層第19ブロック西から、第2文化層第19ブロック砥石出土状況 南西から、第3文化層第20ブロック南東から、第4文化層第21ブロック東から、第4文化層第22ブロック南から、第4文化層第23ブロック北東から、第4文化層第24ブロック北西から
- 図版23 富士見遺跡出土石器(1)
- 図版24 富士見遺跡出土石器(2)
- 図版25 原畠遺跡 EE38-76グリッド北壁面、FF37-24グリッド北西壁面、第3文化層第28～30ブロック南西から、第3文化層第28～30ブロック北東から、第4文化層第31ブロック南から、第4文化層第32ブロック南西から、第4文化層第32～36ブロック南東から
- 図版26 原畠遺跡出土石器(1)
- 図版27 原畠遺跡出土石器(2)
- 図版28 花前I遺跡 Y3-24グリッド北壁、Y3-14グリッド西から
花前III遺跡 N12-18グリッド北壁、Q10-35・45グリッド南から
寺下前遺跡 第1文化層第1ブロック南西から、OO44-20グリッド北壁、第2文化層第2ブロック遺物出土状況 南東から
大松遺跡 第23ブロック北壁、第23ブロック南西から
- 図版29 小山台遺跡 GG39-05グリッド西壁、第1文化層第80ブロック南東から、第1文化層第81ブロック北東から、第3文化層第82ブロック西から、第3文化層第83ブロック北から、第3文化層MM39-52グリッド周辺 西から、第4文化層第84ブロック南西から、第4文化層第85ブロック東から
- 図版30 小山台遺跡 第4文化層第86ブロック南西から、第5文化層第87ブロック南西から、第5文化層第88ブロック南西から、第6文化層第90ブロック南から
八反目台遺跡 調査前風景、第1ブロック南東から、第1ブロック南西から
- 図版31 館林II遺跡 調査前風景、C19-38グリッド西壁、第1ブロック南東から、第2ブロック南西から、第3ブロックの一部 南から、第3ブロック南から、第4ブロック東から、第5ブロック北西から
- 図版32 館林II遺跡 第2・6・12ブロック南東から、第2・6・12ブロック北から、第7ブロック北から、第8ブロック西から、第9ブロック南東から、第9・10ブロック北東から、第11ブロック南東から、第13ブロック南西から
- 図版33 花前I遺跡出土石器
花前III遺跡出土石器
寺下前遺跡出土石器
- 図版34 大松遺跡出土石器
- 図版35 小山台遺跡出土石器(1)
- 図版36 小山台遺跡出土石器(2)
- 図版37 小山台遺跡出土石器(3)
- 図版38 八反目台遺跡出土石器
- 図版39 館林II遺跡出土石器(1)
- 図版40 館林II遺跡出土石器(2)
- 図版41 館林II遺跡出土石器(3)
- 図版42 館林II遺跡出土石器(4)

第1章 はじめに

第1節 調査の概要(第1-1図、第1-1表)

1 調査の経緯と経過

独立行政法人都市再生機構は、常磐新線(つくばエクスプレス)建設に関連して「柏北部東地区土地区画整理事業」を計画した。柏市北部に位置する事業予定地内には花前Ⅰ遺跡・花前Ⅱ遺跡・花前Ⅲ遺跡・矢船Ⅰ遺跡・矢船Ⅱ遺跡・館林Ⅱ遺跡・富士見遺跡・駒形遺跡・大松遺跡・原畑遺跡・小山台遺跡・寺下前遺跡・宮前遺跡・八反目台遺跡の14遺跡(以下、柏北部東遺跡群とする)が所在し、千葉県教育委員会とその取り扱いについて協議した結果、現状換地等により現状保存が可能な部分を除き記録保存の措置を講ずることとし、公益財団法人千葉県教育振興財団が委託を受けて発掘調査を実施することになった。

事業に伴い、柏北部東遺跡群の遺跡について、これまでに12冊の発掘調査報告書を刊行している。今回は下記12遺跡の下層の調査成果を報告する。

矢船Ⅰ遺跡(1)~(4)

矢船Ⅱ遺跡(1)~(36)

駒形遺跡(20)~(42)

富士見遺跡(27)~(59)

原畑遺跡(22)~(29)

花前Ⅰ遺跡(1)~(3)

花前Ⅲ遺跡(1)~(3)

寺下前遺跡(1)~(3)

大松遺跡(8)~(18)

小山台遺跡(51)~(98)

八反目台遺跡(1)

館林Ⅱ遺跡(1)~(6)

発掘調査は平成11年から平成28年にかけて断続的に行った。調査対象面積は240,443m²で、下層は9,880m²の確認調査と10,580m²の本調査を実施した。各遺跡の調査期間および担当者は第1-1表に示した。また、整理の期間・担当者は下記のとおりである。

平成27年度

文化財センター長 小久貫隆史

整理課長 岸本雅人

担当職員主任上席文化財主事 新田浩三

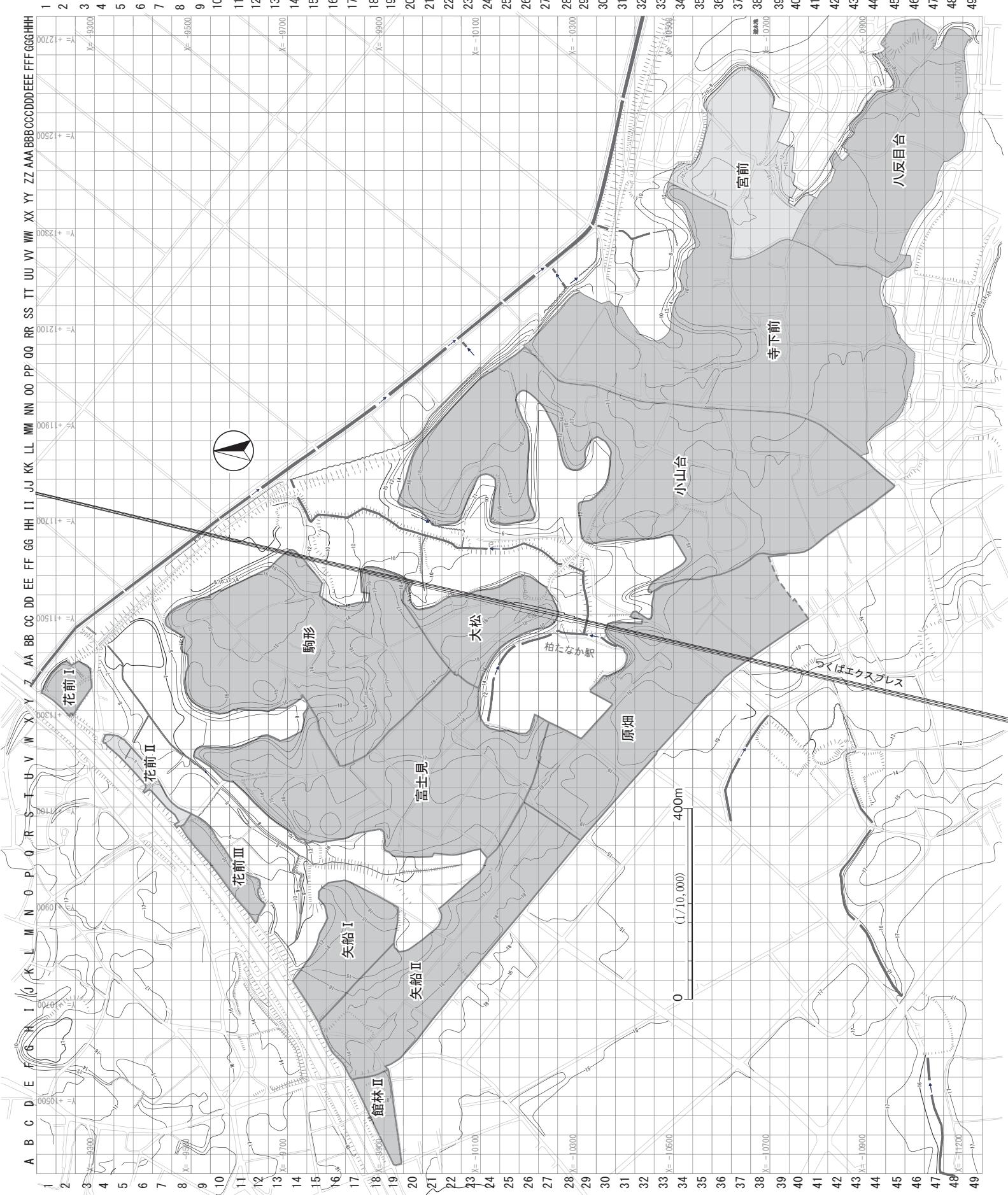
内容 記録整理・分類

平成28年度

文化財センター長 上守秀明

整理課長 山口典子

第1章 はじめに



第1-1図 柏北部東地区遺跡位置図

担当職員 主任上席文化財主事 新田浩三
 文化財主事 山岡磨由子
 内 容 記録整理～原稿執筆の一部
 平成29年度
 文化財センター長 上守秀明
 整理課長 田井知二
 担当職員 上席文化財主事 橋本勝雄 山口典子
 文化財主事 山岡磨由子
 内 容 原稿執筆の一部～刊行

2 調査の方法と概要

発掘調査の開始に当たり、柏北部東地区の調査対象区域全体に公共座標(旧座標 国家標準直角座標第IX系)を基準とした方眼網を設定した。方眼は40m×40mの区画を大グリッドとし、西から東へA、B、C、……、北から南へ1、2、3、……と記号を付け、両者を組み合わせてA1、B2、……と呼称した。さらにその大グリッド内を4m×4mの小グリッドに100分割し、北西隅を起点として西から東へ00、01、02、……、北から南へ00、10、20、……と番号を付けた(第1-2図)。これを大グリッドの名称と組み合わせて、例えばNN29-00のように表記した。NN29-00は、日本測地系座標でX = -10,300.0000、Y = +11,9000.0000である。JGD2000系変換値ではX = -9,945.2596、Y = +11,606.7997、北緯35°54'37"、東経139°57'43"である¹⁾。

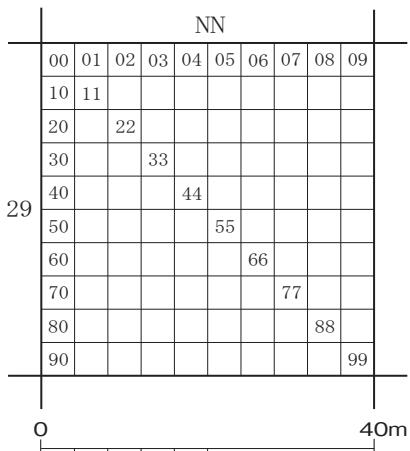
下層の調査は上層の本調査終了後、調査対象面積の4%について2m×2mのグリッドを設定して確認調査を行った。石器等の遺物が集中的に出土した箇所については、拡張後、本調査を実施した。

注1 変換値はWeb版 TKY2JGD Ver.1.3.79 パラメータ Ver.2.1.1による。

第2節 遺跡の位置と環境(第1-3・4図、第1-2表、図版1・2)

1 遺跡の位置と地理的環境

今回報告する柏北部東遺跡群が所在する柏市は、千葉県の北西部、首都圏30km圏内に位置するベッドタウンである。地形はほぼ平坦で、北の境界に利根川が流れ、標高は南部から北部にかけて次第に低くなる。利根川、利根運河、大堀川、大津川の大きな河川と手賀沼に囲まれ、市内には多数の湧水が点在している。手賀沼に注ぐ水路の「地金堀」は、柏市正連寺地区に存在する湧水(こんぶくろ池、弁天池)が水源のひとつとなっている。中央部や南部は、大堀川(流山市に源を発し、柏市を南北に二分するように西から東へ流れ手賀沼に達する)、大津川(鎌ヶ谷市に源を発し、柏市増尾と柏市高柳(旧沼南町)の境を南から北に流れ手賀沼に注ぐ)によってできた侵食谷が入り込み、台地を分断している。遺跡群(第1-3・4図)は利根川と地金堀の開析谷にはさまれた台地上および地金堀東側の対岸に立地している。



第1-2図 グリッドの呼称例

第1-1表 発掘調査一覧（1）

矢船I遺跡

年 度	調査次	対象面積 (m ²)	確認調査(m ²)		本調査(m ²)		調査期間	担当者	調査事務所長 調査課長	調査研究部長
			上層	下層	上層	下層				
平成17	(1)	188	188	4	0	0	17. 5. 16～17. 5. 31	岡田 光広 土屋 潤一郎	田坂 浩	矢戸 三男
平成17・18	(2)	16,385	1,680	588	5,700	875	18. 1. 26～18. 8. 4	渡邊 高弘 岡田 光広	田坂 浩	矢戸 三男
平成19	(3)	472	332	20	0	0	19. 12. 3～19. 12. 14	稻生 一夫	及川 淳一	矢戸 三男
平成25	(4)	511	511	20	125	0	25. 4. 22～25. 5. 14	岡田 誠造	白井 久美子	伊藤 智樹

矢船II遺跡

年 度	調査次	対象面積 (m ²)	確認調査(m ²)		本調査(m ²)		調査期間	担当者	調査事務所長 調査課長	調査研究部長
			上層	下層	上層	下層				
平成11	(1)	3,012	260	24	0	0	11. 8. 9～11. 8. 31	部 淳一	及川 淳一	沼澤 豊
平成11	(2)	4,111	411	-	0	-	12. 3. 1～12. 3. 27	廣瀬 和之	及川 淳一	沼澤 豊
平成12	(3)	3,047	370	394	-	0	12. 3. 1～12. 3. 27	横山 仁	及川 淳一	沼澤 豊
平成12	(4)	1,305	204	78	0	0	12. 4. 5～12. 5. 31	横山 仁	及川 淳一	沼澤 豊
平成13	(5)	2,866	304	152	0	0	13. 4. 5～13. 4. 27	横山 仁	田坂 浩	佐久間 豊
平成13	(6)	660	66	12	226	0	13. 5. 1～13. 5. 25	織田 良昭	田坂 浩	佐久間 豊
平成13	(7)	4,855	486	280	0	331	13. 7. 2～13. 8. 31	豊田 秀治	田坂 浩	佐久間 豊
平成13	(8)	5,547	555	389	1,073	356	13. 7. 2～13. 9. 28	横山 仁	田坂 浩	佐久間 豊
平成13	(9)	793	80	116	757	273	13. 12. 3～13. 12. 27	横山 仁	田坂 浩	佐久間 豊
平成15	(10)	2,000	290	84	920	0	15. 8. 19～15. 9. 30	岸本 雅人	田坂 浩	斎木 勝
平成15	(11)	473	473	16	0	0	16. 1. 7～16. 1. 23	木下 圭司	田坂 浩	斎木 勝
平成16	(12)	811	530	60	310	195	16. 12. 15～17. 1. 18	落合 章雄	田坂 浩	矢戸 三男
平成17	(13)	46	46	4	0	0	17. 6. 20～17. 6. 23	岡田 光広	田坂 浩	矢戸 三男
平成17	(14)	79	50	4	0	0	17. 8. 1～17. 8. 5	土屋 潤一郎	田坂 浩	矢戸 三男
平成18	(15)	1,279	515	68	166	80	18. 7. 18～18. 8. 18	渡邊 高弘	田坂 浩	矢戸 三男
平成18	(16)	1,158	180	88	0	655	18. 8. 28～18. 11. 15	渡邊 高弘	田坂 浩	矢戸 三男
平成19	(17)	2,786	280	80	0	132	19. 4. 6～19. 5. 11	池田 大助	及川 淳一	矢戸 三男
平成19	(18)	2,512	272	144	0	804	19. 6. 1～19. 8. 20	川勝 里文	及川 淳一	矢戸 三男
平成19	(19)	1,391	352	68	0	0	19. 6. 21～19. 7. 20	池田 大助	及川 淳一	矢戸 三男
平成19	(20)	649	90	16	0	0	19. 11. 19～19. 11. 29	川勝 里文	及川 淳一	矢戸 三男
平成19	(21)	751	736	48	130	126	19. 12. 17～20. 1. 23	稻生 一夫	及川 淳一	矢戸 三男
平成19	(22)	1,138	126	100	0	96	20. 1. 24～20. 2. 18	稻生 一夫	及川 淳一	矢戸 三男
平成20	(23)	260	260	8	0	0	20. 4. 4～20. 4. 21	石倉 亮治	及川 淳一	大原 正義
平成20	(24)	212	212	12	0	48	20. 6. 19～20. 6. 30	岡田 光広	及川 淳一	大原 正義
平成20	(25)	1,771	178	80	0	0	20. 8. 18～20. 9. 5	沖松 信隆	及川 淳一	大原 正義
平成20	(26)	124	30	4	0	0	21. 1. 14～21. 1. 22	西野 雅人	及川 淳一	大原 正義
平成20	(27)	952	96	63	0	0	21. 2. 2～21. 2. 16	沖松 信隆	及川 淳一	大原 正義
平成20	(28)	1,500	184	80	0	0	21. 3. 9～21. 3. 27	岡田 光広	及川 淳一	大原 正義
平成21	(29)	160	40	15	0	48	21. 8. 3～21. 8. 12	沖松 信隆	橋本 勝雄	及川 淳一
平成21	(30)	518	60	16	0	0	21. 8. 17～21. 8. 28	沖松 信隆	橋本 勝雄	及川 淳一
平成21	(31)	765	72	36	0	128	21. 11. 24～21. 12. 14	沖松 信隆	橋本 勝雄	及川 淳一
平成21	(32)	70	35	4	0	0	21. 12. 21～21. 12. 25	岡田 光広	橋本 勝雄	及川 淳一
平成22	(33)	123	123	9	0	0	22. 6. 28～22. 7. 2	柴田 龍司	橋本 勝雄	及川 淳一
平成22	(34)	2,504	258	108	241	306	22. 8. 24～23. 10. 18	宮 重行	橋本 勝雄	及川 淳一
平成24	(35)	4,356	530	202	820	0	24. 6. 21～24. 9. 14	岸本 雅人	白井 久美子	閑口 達彦
平成25	(36)	710	106	66	0	0	25. 4. 8～25. 4. 18	岡田 誠造	白井 久美子	伊藤 智樹

駒形遺跡

年 度	調査次	対象面積 (m ²)	確認調査(m ²)		本調査(m ²)		調査期間	担当者	調査事務所長 調査課長	調査研究部長
			上層	下層	上層	下層				
平成18	(20)	1,768	304	38	0	0	18. 4. 6～18. 4. 28	渡邊 高弘	田坂 浩	矢戸 三男
平成18	(21)	6,794	1,487	72	809	0	18. 5. 1～18. 7. 14	渡邊 高弘	田坂 浩	矢戸 三男
平成18	(22)	4,374	496	176	3,100	0	18. 11. 1～19. 1. 31	岡田 光広	田坂 浩	矢戸 三男
平成18	(23)	4,300	560	120	1,720	0	19. 1. 9～19. 2. 28	渡邊 高弘	田坂 浩	矢戸 三男
平成18	(24)	3,346	335	108	1,162	0	19. 2. 1～19. 3. 22	岡田 光広	田坂 浩	矢戸 三男
平成19	(25)	1,350	430	56	500	0	19. 4. 5～19. 5. 11	岡田 光広	及川 淳一	矢戸 三男
平成19	(26)	3,357	336	116	0	0	19. 5. 14～19. 6. 20	岡田 光広	及川 淳一	矢戸 三男
平成19	(27)	2,699	600	72	370	0	19. 5. 14～19. 6. 20	池田 大助	及川 淳一	矢戸 三男
平成19	(28)	7,847	1,180	324	4,732	2,032	19. 7. 2～20. 2. 8	石倉 亮治	及川 淳一	矢戸 三男
平成19	(29)	766	452	16	300	0	19. 7. 9～19. 7. 30	岡田 光広	及川 淳一	矢戸 三男
平成19	(30)	2,678	330	76	1,250	0	19. 10. 4～19. 11. 15	岡田 光広	及川 淳一	矢戸 三男
平成19	(31)	1,985	776	76	0	0	19. 10. 9～19. 11. 9	稻生 一夫	及川 淳一	矢戸 三男
平成19	(32)	1,871	1,735	52	440	0	19. 11. 1～19. 12. 12	岡田 光広	及川 淳一	矢戸 三男
平成19	(33)	221	40	4	0	0	19. 11. 12～19. 11. 15	稻生 一夫	及川 淳一	矢戸 三男
平成19	(34)	371	322	10	120	80	19. 12. 14～19. 12. 21	岡田 光広	及川 淳一	矢戸 三男
平成19	(35)	209	209	8	0	0	20. 3. 3～20. 3. 7	稻生 一夫	及川 淳一	矢戸 三男

第1-1表 発掘調査一覧（2）

駒形遺跡

年 度	調査次	対象面積 (m ²)	確認調査(m ²)		本調査(m ²)		調査期間	担当者	調査事務所長 調査課長	(文化財センター長) 調査研究部長
			上層	下層	上層	下層				
平成20	(36)	807	807	32	450	36	20. 4. 22～20. 5. 29	石倉 亮治	及川 淳一	大原 正義
平成20	(37)	304	304	8	0	0	20. 5. 14～20. 5. 23	田井 知二	及川 淳一	大原 正義
平成20	(38)	31	31	-	31	-	20. 8. 4～20. 8. 6	田井 知二	及川 淳一	大原 正義
平成20	(39)	369	160	-	185	-	20. 8. 18～20. 8. 26	田井 知二	及川 淳一	大原 正義
平成20	(40)	167	167	4	0	0	21. 1. 21～21. 1. 29	沖松 信隆	及川 淳一	大原 正義
平成26	(41)	298	298	12	170	0	26. 5. 7～26. 5. 15	岸本 雅人	白井 久美子	伊藤 智樹
平成28	(42)	310	310	12	18	0	28. 8. 1～28. 8. 26	及川 淳一	蜂屋 孝之	(小久貴 隆史)

富士見遺跡

年 度	調査次	対象面積 (m ²)	確認調査(m ²)		本調査(m ²)		調査期間	担当者	調査事務所長 調査課長	(文化財センター長) 調査研究部長
			上層	下層	上層	下層				
平成17	(27)	548	548	64	0	60	18. 2. 7～18. 2. 24	岡田 光広	田坂 浩	矢戸 三男
平成17	(28)	2,082	269	96	0	0	18. 3. 1～18. 3. 27	沖松 信隆	田坂 浩	矢戸 三男
平成18	(29)	424	424	16	300	0	18. 5. 1～18. 5. 19	渡邊 高弘	田坂 浩	矢戸 三男
平成18	(30)	810	810	16	368	0	18. 6. 5～18. 6. 16	渡邊 高弘	田坂 浩	矢戸 三男
平成18	(31)	392	392	20	0	0	18. 7. 18～18. 8. 16	岡田 光広	田坂 浩	矢戸 三男
平成18	(32)	5,307	1,150	188	2,340	0	18. 8. 17～18. 10. 31	岡田 光広	田坂 浩	矢戸 三男
平成18	(33)	56	56	4	0	0	18. 12. 21～18. 12. 25	渡邊 高弘	田坂 浩	矢戸 三男
平成18	(34)	289	73	12	0	0	19. 3. 5～19. 3. 14	岡田 光広	田坂 浩	矢戸 三男
平成19	(35)	311	311	28	0	0	19. 6. 21～19. 7. 6	岡田 光広	及川 淳一	矢戸 三男
平成19	(36)	172	172	8	0	0	19. 7. 23～19. 8. 3	岡田 光広	及川 淳一	矢戸 三男
平成19	(37)	2,291	274	80	529	0	19. 8. 6～19. 9. 25	岡田 光広	及川 淳一	矢戸 三男
平成19	(38)	696	696	24	406	0	19. 8. 21～19. 9. 13	稻生 一夫	及川 淳一	矢戸 三男
平成19	(39)	453	453	16	0	0	19. 9. 26～19. 10. 3	岡田 光広	及川 淳一	矢戸 三男
平成19	(40)	2,000	460	4	0	0	19. 11. 1～19. 11. 16	川勝 里文	及川 淳一	矢戸 三男
平成19	(41)	3,033	626	100	1,440	80	19. 12. 25～20. 2. 28	岡田 光広	及川 淳一	矢戸 三男
平成19	(42)	4,050	558	76	417	0	20. 2. 13～20. 3. 27	岡田 光広	及川 淳一	矢戸 三男
平成20	(42)	-	-	579	-	0	20. 4. 4～20. 4. 23	岡田 光広	及川 淳一	大原 正義
平成19	(43)	427	427	16	0	0	20. 3. 11～20. 3. 18	稻生 一夫	及川 淳一	矢戸 三男
平成20	(44)	3,040	360	96	670	0	20. 4. 24～20. 6. 18	岡田 光広	及川 淳一	大原 正義
平成20	(45)	3,021	1,160	100	840	0	20. 8. 12～20. 10. 3	岡田 光広	及川 淳一	大原 正義
平成20	(46)	1,571	657	64	0	0	20. 9. 24～20. 11. 10	沖松 信隆	及川 淳一	大原 正義
平成20	(47)	1,359	518	88	695	170	20. 11. 11～20. 12. 19	沖松 信隆	及川 淳一	大原 正義
平成20	(48)	515	515	16	0	0	21. 3. 16～21. 3. 27	西野 雅人	及川 淳一	大原 正義
平成21	(49)	2,762	293	88	482	0	21. 12. 15～22. 1. 15	沖松 信隆	橋本 勝雄	及川 淳一
平成22	(50)	471	176	8	80	0	23. 1. 20～23. 2. 4	関口 亮	橋本 勝雄	及川 淳一
平成23	(51)	122	12	0	0	0	23. 4. 13～23. 4. 14	関口 亮	橋本 勝雄	及川 淳一
平成23	(52)	772	76	12	0	0	23. 6. 28～23. 7. 1	関口 亮	橋本 勝雄	及川 淳一
平成23	(53)	1,448	182	40	148	0	23. 7. 4～24. 7. 29	関口 亮	橋本 勝雄	及川 淳一
平成23	(54)	568	52	12	0	0	23. 8. 1～23. 8. 5	関口 亮	橋本 勝雄	及川 淳一
平成23	(55)	112	112	14	0	55	23. 11. 17～23. 12. 2	関口 亮	橋本 勝雄	及川 淳一
平成24	(56)	182	18	4	0	0	24. 5. 7～24. 5. 11	山崎 清美	白井 久美子	関口 達彦
平成26	(57)	707	550	32	475	0	27. 3. 10～27. 3. 10	岸本 雅人	白井 久美子	伊藤 智樹
平成26	(57)-2	249	249	8	0	0	27. 3. 11～27. 3. 13	岸本 雅人	白井 久美子	伊藤 智樹
平成27	(58)	222	222	12	24	0	27. 6. 1～27. 6. 17	香取 正彦	今 泉 潔	(小久貴 隆史)
平成27	(59)	205	205	12	24	0	28. 1. 21～28. 2. 4	白鳥 章	今 泉 潔	(小久貴 隆史)

原畑遺跡

年 度	調査次	対象面積 (m ²)	確認調査(m ²)		本調査(m ²)		調査期間	担当者	調査事務所長 調査課長	(文化財センター長) 調査研究部長
			上層	下層	上層	下層				
平成21	(22)	1,404	140	52	0	0	21. 7. 6～21. 7. 27	沖松 信隆	橋本 勝雄	及川 淳一
平成21	(23)	2,068	223	92	148	313	21. 10. 14～21. 11. 20	沖松 信隆	橋本 勝雄	及川 淳一
平成24	(24)	366	44	16	0	0	24. 9. 18～24. 10. 5	岸本 雅人	白井 久美子	関口 達彦
平成26	(25)	1,590	280	76	0	0	26. 7. 1～26. 8. 18	宮重 行	白井 久美子	伊藤 智樹
平成26	(26)	2,445	254	60	0	0	27. 1. 29～27. 2. 27	雨宮 龍太郎	白井 久美子	伊藤 智樹
平成27	(27)	473	473	28	0	473	28. 1. 12～28. 2. 26	白鳥 章	今 泉 潔	(小久貴 隆史)
平成28	(28)	17	-	0	17	0	28. 6. 24～28. 6. 30	蜂屋 孝之	(上守 秀明)	
平成28	(29)	205	205	-	205	174	28. 8. 16～28. 9. 9	白鳥 章	蜂屋 孝之	(上守 秀明)

花前I遺跡

年 度	調査次	調査対象 (m ²)	確認調査(m ²)		本調査(m ²)		調査期間	担当者	調査事務所長 調査課長	(文化財センター長) 調査研究部長
			上層	下層	上層	下層				
平成24	(1)	1,762	210	84	1,762	0	24. 4. 5～24. 6. 20	岸本 雅人	白井 久美子	関口 達彦
平成26	(2)	2,611	546	56	0	0	26. 9. 9～26. 10. 16	雨宮 龍太郎	白井 久美子	伊藤 智樹
平成27	(3)	0	0	1,308	0	0	27. 12. 1～28. 1. 19	白鳥 章	今 泉 潔	(小久貴 隆史)

第1-1表 発掘調査一覧（3）

花前III遺跡

年 度	調査次	調査対象 (m ²)	確認調査(m ²)		本調査(m ²)		調査期間	担当者	調査事務所長 調査課長	調査研究部長
			上層	下層	上層	下層				
平成17	(1)	40	40	4	0	0	17. 4. 25～17. 4. 28	岡田 光広	田坂 浩	矢戸 三男
平成20	(2)	2,260	238	44	0	0	20. 4. 4～20. 4. 25	西野 雅人	及川 淳一	大原 正義
平成25	(3)	2,370	288	92	212	36	25. 5. 15～25. 6. 27	岡田 誠造	白井 久美子	伊藤 智樹

寺下前遺跡

年 度	調査次	調査対象 (m ²)	確認調査(m ²)		本調査(m ²)		調査期間	担当者	調査事務所長 調査課長	(文化財センター長) 調査研究部長
			上層	下層	上層	下層				
平成11	(1)・(2)	1,515	160	0	1,515	0	12. 2. 1～12. 3. 27	石塚 浩	及川 淳一	沼澤 豊
平成12			0	112	0	144	12. 4. 6～12. 4. 28	岡田 誠造	及川 淳一	沼澤 豊
平成27	(3)	427	427	17	427	0	27. 6. 26～27. 8. 20	沖松 信隆	今泉 潔	(小久賀 隆史)

大松遺跡

年 度	調査次	調査対象 (m ²)	確認調査(m ²)		本調査(m ²)		調査期間	担当者	調査事務所長 調査課長	調査研究部長
			上層	下層	上層	下層				
平成15	(8)	2,590	320	108	410	0	15. 6. 23～15. 7. 24	岸本 雅人	田坂 浩	斎木 勝
平成15	(9)	610	610	24	0	0	16. 3. 1～16. 3. 12	岸本 雅人	田坂 浩	斎木 勝
平成16	(10)	738	738	32	476	0	16. 7. 15～17. 8. 31	落合 章雄	田坂 浩	矢戸 三男
平成16	(11)	327	327	16	0	0	16. 9. 1～16. 9. 10	落合 章雄	田坂 浩	矢戸 三男
平成16	(12)	3,110	310	124	1,900	0	17. 1. 19～17. 3. 29	落合 章雄	田坂 浩	矢戸 三男
平成16	(13)	280	280	16	120	0	17. 2. 21～17. 3. 7	落合 章雄	田坂 浩	矢戸 三男
平成16	(14)	3,180	320	0	900	0	17. 3. 8～17. 3. 29	岡田 光広	田坂 浩	矢戸 三男
平成17	(14)	0	0	148	2,280	64	17. 4. 4～17. 7. 29	岡田 光広	田坂 浩	矢戸 三男
平成18	(15)	580	580	12	0	0	18. 12. 5～18. 12. 20	渡邊 高弘	田坂 浩	矢戸 三男
平成20	(16)	831	720	48	463	83	20. 4. 28～20. 5. 27	西野 雅人	及川 淳一	大原 正義
平成22	(17)	1,552	174	84	1,552	0	22. 5. 6～22. 7. 9	宮 重行	橋本 勝雄	及川 淳一
平成22	(18)	1,959	1,959	81	846	0	22. 10. 19～22. 11. 29	宮 重行	橋本 勝雄	及川 淳一

小山台遺跡

年 度	調査次	対象面積 (m ²)	確認調査(m ²)		本調査(m ²)		調査期間	担当者	調査事務所長 調査課長	(文化財センター長) 調査研究部長
			上層	下層	上層	下層				
平成24	(51)	161	161	8	161	0	25. 2. 1～25. 2. 28	岸本 雅人	白井 久美子	関口 達彦
平成24	(52)	202	202	8	202	0	25. 3. 1～25. 3. 27	岸本 雅人	白井 久美子	関口 達彦
平成25	(53)	404	404	20	404	0	25. 4. 4～25. 6. 4	岸本 雅人	白井 久美子	伊藤 智樹
平成25	(54)	857	857	28	857	0	25. 6. 5～25. 7. 19	岸本 雅人	白井 久美子	伊藤 智樹
平成25	(55)	2,719	2,719	24	2,719	0	25. 7. 22～26. 3. 27	岸本 雅人	白井 久美子	伊藤 智樹
平成25	(56)	269	269	8	75	0	26. 2. 17～26. 3. 14	岡田 誠造	白井 久美子	伊藤 智樹
平成26	(57)	974	707	20	510	0	26. 4. 7～26. 6. 30	雨宮 龍太郎	白井 久美子	伊藤 智樹
平成26	(58)	763	763	28	763	0	26. 5. 26～26. 7. 23	岸本 雅人	白井 久美子	伊藤 智樹
平成26	(59)	334	334	12	334	0	26. 5. 28～26. 6. 23	及川 淳二	白井 久美子	伊藤 智樹
平成26	(60)	724	724	40	0	0	26. 7. 1～26. 7. 29	及川 道行	白井 久美子	伊藤 智樹
平成26	(61)	606	606	32	230	0	26. 7. 24～26. 8. 29	及川 道行	白井 久美子	伊藤 智樹
平成26	(62)	328	328	52	126	27	26. 8. 19～26. 9. 24	宮 重行	白井 久美子	伊藤 智樹
平成26	(63)	207	207	32	0	0	26. 10. 17～26. 11. 20	雨宮 龍太郎	白井 久美子	伊藤 智樹
平成26	(64)	151	151	8	151	0	26. 11. 4～26. 12. 9	岸本 雅人	白井 久美子	伊藤 智樹
平成26	(65)	1,261	260	60	615	0	26. 12. 10～27. 1. 28	雨宮 龍太郎	白井 久美子	伊藤 智樹
平成26	(66)	506	506	50	506	0	27. 1. 13～27. 3. 27	岡田 誠造	白井 久美子	伊藤 智樹
平成26	(66)-2	1,312	-	-	-	0	27. 3. 16～27. 3. 27	岸本 雅人	白井 久美子	伊藤 智樹
平成27	(66)-2	-	30	460	0	27. 4. 6～27. 6. 1	矢本 節朗	今泉 潔	(小久賀 隆史)	
平成26	(67)-1	170	170	4	170	0	27. 3. 2～27. 3. 27	及川 淳一	白井 久美子	伊藤 智樹
平成26	(67)-2	703	703	8	0	0	27. 3. 2～27. 3. 27	及川 淳一	白井 久美子	伊藤 智樹
平成27	(68)	499	-	54	499	0	27. 4. 6～27. 6. 25	及川 道行	今泉 潔	(小久賀 隆史)
平成27	(69)	568	568	24	568	0	27. 4. 6～27. 5. 15	沖松 信隆	今泉 潔	(小久賀 隆史)
平成27	(70)	1,749	-	88	1,749	0	27. 5. 18～27. 11. 10	香取 正彦	今泉 潔	(小久賀 隆史)
平成27	(71)	588	-	24	588	0	27. 6. 1～27. 7. 7	及川 淳一	今泉 潔	(小久賀 隆史)
平成27	(72)	96	-	4	96	0	27. 7. 29～27. 8. 11	香取 正彦	今泉 潔	(小久賀 隆史)
平成27	(73)	3,037	-	92	3,037	0	27. 7. 21～27. 10. 8	及川 淳一	今泉 潔	(小久賀 隆史)
平成27	(74)	616	-	40	616	0	27. 8. 17～27. 10. 9	香取 正彦	今泉 潔	(小久賀 隆史)

第1-1表 発掘調査一覧（4）

小山台遺跡

年 度	調査次	対象面積 (m ²)	確認調査(m ²)		本調査 (m ²)		調査期間	担当者	調査事務所長 調査課長	(文化財センター長) 調査研究部長
			上層	下層	上層	下層				
平成27	(75)	240	240	11	75	0	27. 8. 21～27. 9. 11	沖 松 信 隆	今 泉 潔	(小久 貫 隆 史)
平成27	(76)	629	-	24	629	0	27. 9. 14～27. 10. 21 27. 10. 29～27. 10. 30	沖 松 信 隆	今 泉 潔	(小久 貫 隆 史)
平成27	(77)	1,270	-	56	1,270	0	27. 10. 13～27. 12. 25	香 取 正 彦	今 泉 潔	(小久 貫 隆 史)
平成27	(78)	1,306	-	48	1,306	0	27. 10. 15～28. 1. 8	及 川 淳 一	今 泉 潔	(小久 貫 隆 史)
平成27	(79)	160	-	12	160	62	27. 11. 4～27. 11. 25	沖 松 信 隆 矢 本 節 朗	今 泉 潔	(小久 貫 隆 史)
平成27	(80)	1,011	-	32	1,011	0	27. 11. 11～27. 11. 13 27. 11. 26～28. 2. 5	矢 本 節 朗	今 泉 潔	(小久 貫 隆 史)
平成27	(81)	162	-	8	162	0	28. 1. 5～28. 1. 12	香 取 正 彦	今 泉 潔	(小久 貫 隆 史)
平成27	(82)	634	634	16	0	82	28. 1. 12～28. 3. 10	及 川 淳 一 白 鳥 章 矢 本 節 朗	今 泉 潔	(小久 貫 隆 史)
平成27	(83)	93	-	4	93	0	28. 1. 19～28. 1. 25	香 取 正 彦 白 鳥 章	今 泉 潔	(小久 貫 隆 史)
平成27	(84)	89	-	4	89	0	28. 2. 8～28. 2. 25	矢 本 節 朗	今 泉 潔	(小久 貫 隆 史)
平成28	(85)	805	805	12	0	0	28. 4. 5～28. 4. 12	及 川 淳 一	蜂 屋 孝 之	(上 守 秀 明)
平成28	(86)	758	-	32	758	0	28. 4. 5～28. 5. 31	岸 本 雅 人	蜂 屋 孝 之	(上 守 秀 明)
平成28	(87)	312	-	16	312	0	28. 4. 5～28. 7. 12	及 川 淳 一	蜂 屋 孝 之	(上 守 秀 明)
平成28	(88)	5,760	576	462	2,800	719	28. 9. 12～28. 9. 30 28. 11. 1～28. 12. 2	白 鳥 章	蜂 屋 孝 之	(上 守 秀 明)
平成28	(89)	446	-	32	446	0	28. 4. 14～28. 5. 24	及 川 淳 一	蜂 屋 孝 之	(上 守 秀 明)
平成28	(90)	312	312	12	312	0	28. 5. 19～28. 6. 27	岡 田 誠 造	蜂 屋 孝 之	(上 守 秀 明)
平成28	(91)	370	-	0	370	0	28. 6. 6～28. 6. 20	及 川 淳 一	蜂 屋 孝 之	(上 守 秀 明)
平成28	(92)	546	-	28	546	0	28. 6. 9～28. 7. 29	岸 本 雅 人	蜂 屋 孝 之	(上 守 秀 明)
平成28	(93)	526	-	32	526	0	28. 8. 1～28. 8. 18 28. 9. 6～28. 9. 30	岸 本 雅 人	蜂 屋 孝 之	(上 守 秀 明)
平成28	(94)	186	186	13	0	0	28. 8. 29～28. 9. 6	及 川 淳 一	蜂 屋 孝 之	(上 守 秀 明)
平成28	(95)	288	-	4	288	0	28. 9. 9～28. 9. 30	及 川 淳 一	蜂 屋 孝 之	(上 守 秀 明)
平成28	(96)	311	-	16	311	0	28. 10. 3～28. 10. 31	白 鳥 章	蜂 屋 孝 之	(上 守 秀 明)
平成28	(97)	453	453	16	0	0	28. 12. 5～28. 12. 14	白 鳥 章	蜂 屋 孝 之	(上 守 秀 明)
平成28	(98)	656	-	16	656	0	29. 2. 7～29. 2. 28	白 鳥 章	蜂 屋 孝 之	(上 守 秀 明)

八反目台遺跡

年 度	調査次	調査対象 (m ²)	確認調査(m ²)		本調査(m ²)		調査期間	担当者	調査事務所長 調査課長	調査研究部長
			上層	下層	上層	下層				
平成11	(1)	1,841	254	73	0	0	11. 11. 1～12. 1. 7	竹 田 良 男	及 川 淳 一	沼 泽 豊

館林II遺跡

年 度	調査次	調査対象 (m ²)	確認調査(m ²)		本調査(m ²)		調査期間	担当者	調査事務所長 調査課長	調査研究部長
			上層	下層	上層	下層				
平成10	(1)	2,846	427	114	0	666	11. 2. 1～11. 3. 25	綿 貫 貴 鈴 木 定 明	沼 泽 豊	
平成13	(2)	974	104	60	0	0	13. 8. 1～13. 8. 31	中 道 俊 一 田 坂 浩	佐 久 間 豊	
平成13	(3)	1,180	118	52	0	365	13. 9. 3～13. 9. 28	中 道 俊 一 田 坂 浩	佐 久 間 豊	
平成17	(4)	243	243	37	0	0	17. 8. 8～17. 8. 26	土 屋 潤 一 郎 田 坂 浩	矢 戸 三 男	
平成20	(5)	964	450	40	0	286	20. 7. 1～20. 8. 11	岡 田 光 広	及 川 淳 一	大 原 正 義
平成24	(6)	219	219	48	0	120	25. 3. 1～25. 3. 15	雨 宮 龍 太 郎 白 井 久 美 子	白 井 久 美 子	関 口 達 彦

水系および低地については、明治時代に作られた迅速測図(第1-3図)を基にして、薄いスクリーントーンで示した。宅地等でみえにくくなった旧地形を想起できるよう、現代の地形図に貼り込んだものが第1-4図である。図版1は昭和22年、図版2は昭和48年に撮影された航空写真である。

2 周辺の遺跡

本報告書では、旧石器時代の遺跡について記述する。遺跡の内容については、報告書が刊行されたもののうち、主要な石器群について概要を示した。第1-3・4図、図版1・2の遺跡名は、第1-2表の周辺遺跡一覧表と対応している。なお、今回報告分は第1-2表の1～12にて太字表記を行っており、本節と併せて参考にしていただきたい。

1～13は柏北部東地区土地区画整理事業に伴って発掘された遺跡群であり、事業地の北西を常磐自動車





第1-2表 周辺遺跡の調査概要（1）

番号	遺跡名	事業名	内容(報告書・抄報・年報などから)※	文献
1	矢船 I 遺跡	常磐自動車道	VII層、V層～IV層、III層に11集中地点(うち6か所礫群)、280点。ナイフ形石器、削器、搔器など。	15
		柏北部東	(1)～(4)次調査で6か所の集中地点を検出。総点数268点。いずれもVII層下部の、下縦型石刃再生技法を有する石器群で、礫群を伴う。大型の敲石が注目される。	
2	矢船 II 遺跡	柏北部東	(1)～(36)次調査で石器集中地点37か所を検出。総点数2,047点。出土層位は、IXc層上部～IXa層下部(11か所の集中地点から成るユニットを含む。ナイフ形石器、局部磨製石斧など)、VII層上部～VI層(硬質頁岩が主体の石器群、大型の礫製品を伴う)、V層～IV層下部、IV層上部～III層下部(ナイフ形石器、小型の尖頭器、搔器など)、III層上面(細石刃石核)、III層上面～II層下部(大型の両面加工尖頭器など)。	
3	駒形遺跡	柏北部東	(1)～(19)次調査で石器集中地点6か所を検出。総点数354点。出土層位は、VII層上部～VI層下部、V層～IV層下部(ナイフ形石器・角錐状石器を主体とする石器群で、高原山甘湯沢群の黒曜石が用いられていた)、III層下部～III層中部(高原山甘湯沢群の黒曜石製の尖頭器など)である。続く(20)～(28)次調査で出土したのは、総点数308点、集中地点は4か所で、VII層上部～VI層下部、III層下部～III層中部(黒曜石製の有撃尖頭器、彫器など)の石器群である。	2
4	富士見遺跡	柏北部東	(1)～(26)次調査で石器集中地点18か所を検出。総点数2,002点。Xa層上部～IXc層下部(局部磨製石斧、ナイフ形石器など)、IXc層上部～IXa層下部(石刃と石刃石核が多数出土し、黒曜石は天城柏崎群が用いられていた)、IXa層上部～VII層、V層～IV層下部(ナイフ形石器を主体とし、礫群を伴う)の石器群が検出された。続く(27)～(59)次の調査では総点数279点、6か所の集中地点が検出。出土層位はIXc層上部～IXa層下部(大型の砥石)、IXa層上部～VII層、V層～IV層下部(有底の横長剝片の接合資料とそれを素材としたナイフ形石器)である。	2
5	原畠遺跡	柏北部東	(1)～(21)次調査で、総点数1,475点が出土。石器集中地点27か所、出土層位は、IXc層上部～IXa層下部(局部磨製石斧の再生加工が行われていた)、VII層～VI層下部(下縦型石刃再生技法を有する石器群)、V層～IV層下部(ナイフ形石器、角錐状石器が主体で礫群を伴う)であった。続く(22)～(29)次調査では、総点数413点、11か所の集中地点を検出し、V層～IV層下部(ナイフ形石器、角錐状石器が主体)とIII層下部～III層中部(東内野型有撃尖頭器を有する石器群で礫群を伴う)である。	2
6	花前 I 遺跡	常磐自動車道	頁岩の片刃礫器。	14
		柏北部東	(1)～(3)次調査で、7点出土。VII層から砂岩製の剥片1点、上層遺物に混在して玉髓製ナイフ形石器1点とガラス質黒色安山岩製尖頭器1点出土。	
7	花前 III 遺跡	常磐自動車道	III層から4集中地点、総点数635点。ナイフ形石器・礫器など。(報告書では花前 II-1遺跡と呼称される。)	15
		柏北部東	(1)～(3)次調査で、V層～IV層下部の礫集中地点1か所、29点出土。安山岩の原石2点、ガラス質黒色安山岩製のナイフ形石器1点出土。	
8	寺下前遺跡	柏北部東	(1)～(3)次調査で、総点数61点が出土。出土層位はIX層下部(ガラス質黒色安山岩剥片が主体)、III層(大型の石刃2点、ナイフ形石器1点)など。	
9	大松遺跡	柏北部東	(1)～(7)次調査により、IX層から環状ブロック群(総点数2,449点、20集中地点で構成)、IV層～III層下部から小規模な石器群を検出。続く(8)～(18)次調査では80mの距離を置いて2か所の集中地点(V層～IV層下部4点、III層32点)。総点数は74点で、利器の割合が高く、ナイフ形石器8点、尖頭器6点、石錐、細石刃石核、細石刃などが出土。中でも東北頁岩(硬質頁岩)を用いた国府型ナイフ形石器や神山型に類する彫器資料は注目に値する。	1
10	小山台遺跡	柏北部東	(1)～(50)次調査で、総点数5,766点、79か所の集中地点が検出された。出土層位はIXc層上部～IXa層下部、IXa層上部～VII層下部(環状ブロック群を成し、ナイフ形石器、台形様石器、局部磨製石斧など出土)、VII層上部～VI層(黒曜石と硬質頁岩による下縦型石刃再生技法の石器群)、V層～IV層下部、IV層上部～III層、III層上面(野辺山型細石刃石核など)であった。(51)～(98)次調査は広範囲であったが総点数269点と少ない。13か所の集中域が確認され、出土層位はIX層(黒曜石製石刃素材のナイフ形石器群)、VII・VI層、V層～IV層下部(角錐状石器・ナイフ形石器の製作工程が追える接合資料)、IV層上部～III層下部、III層であった。	3
11	八反目台遺跡	柏北部東	(1)次調査で良質な黒曜石・チャートを用いた細石刃石器群を検出。細石刃18点、楔形石器4点、加工具など。	
12	館林 II 遺跡	常磐自動車道	東寄り台地平坦部で、III層から1集中地点、剥片153点。(報告書では館林遺跡A集中地点と呼称される。)	13
		柏北部東	(1)～(6)次調査で703点出土。出土層位は、IX層、VII層、VI層(黒曜石を主体とし硬質頁岩・珪質頁岩が混在する石刃石器群)、V層～IV層、III層(東内野型に関連する石器群)である。	
13	花前 II 遺跡	常磐自動車道	ナイフ形石器・尖頭器など。(報告書では花前 II-2遺跡と呼称される。)	15
		柏北部東	一括採集資料から流紋岩製の尖頭器と凝灰岩製の使用痕ある剥片。	4
14	館林 I 遺跡	常磐自動車道	西端台地緩斜面で、III層から1集中地点、剥片32点。(報告書では館林遺跡B集中地点と呼称される。)	13
15	水砂遺跡	常磐自動車道	III層、V層、VII層から4集中地点、567点。ナイフ形石器・削器・東内野型尖頭器など。(「水砂遺跡」として調査、報告。遺跡分布地図では水砂I遺跡に括られる。柏市では水砂II遺跡と呼称される。)	13・23
16	水砂 II 遺跡		柏市調査 プレは確認していない。	25
17	中山新田 I 遺跡	常磐自動車道	IX層から9地点の出土か所、総点数2,156点。ナイフ形石器・石錐・局部磨製石斧など。	16
18	中山新田 II 遺跡	常磐自動車道	VII層、VII層～VI層、V層、IV層、III層に23集中地点。ナイフ形石器・削器・礫器など。	14
19	中山新田 III 遺跡	常磐自動車道	ナイフ形石器・二次加工のある剥片。	14

第1-2表 周辺遺跡の調査概要（2）

番号	遺跡名	事業名	内容(報告書・抄報・年報などから)※	文献
20	聖人塚遺跡	常磐自動車道	総点数1,345点。X層、IX層～VII層、VI層、V層～IV層、III層から、ナイフ形石器・削器・尖頭器など。	16
				25
21	元割遺跡	常磐自動車道	総点数1,215点。VII層～VI層、IV層、III層から、尖頭器・ナイフ形石器・削器など。	16
22	宮前遺跡		包蔵地	
23	原山遺跡	柏北部中央	X層上部～IX層下部、IX層中部～VII層下部(環状ブロック群を含む)、VI層下部～V層、V層～IV層下部、III層に52か所の集中地点が検出された。総点数2,254点。ナイフ形石器、台形様石器、尖頭器、角錐状石器などが出土した。	18
24	溜井台遺跡	柏北部中央	IX層～VII層、V層～III層に9か所の集中地点、総点数968点。ナイフ形石器・削器などが出土した。	17
25	須賀井遺跡	柏北部中央	総点数396点。IX層、V層～III層、III層上部からナイフ形石器・角錐状石器・礫器・楔形石器などが出土した。	20
				24
26	大割遺跡	柏北部中央	総点数2,921点、50か所の集中地点が検出された。IX層から14か所の集中地点、421点出土。石斧・石斧再生加工関連資料など。IX層上部～VII層から2か所の集中地点、96点出土。小型のナイフ形石器など。V層～IV層下部から34か所の集中地点、2,404点出土。多数のナイフ形石器(切出形の形態が主体)・角錐状石器・搔器・削器など。	20
27	内山遺跡	柏北部中央	(1)次調査にて、集中地点4か所(III層)209点。(2)次調査にて、集中地点3か所(IX層～VII層、III層)139点。(3)次調査にて、集中地点2か所(V層～III層、III層)151点。(4)次調査にて、集中地点2か所(VII層～III層、III層)58点。(5)次調査にて、集中地点2か所(IV層～III層)136点。	未
28	屋敷内遺跡	柏北部中央	多量の旧石器が出土している。このなかで、出土点数が多く出土した調査次数の概要を掲載する。(12)次調査にて、集中地点3か所(V層～III層)229点。(13)次調査にて、集中地点3か所(IX層、III層)117点。(14)次調査にて、集中地点5か所(IX層～VII層、VI層～IV層、V層～IV層)149点。(16)次調査にて、集中地点1か所(IX層～VI層)62点。(17)次調査にて、集中地点2か所(VI層～IV層、III層)170点。(21)次調査にて、集中地点4か所(X層～IX層、III層)267点。	未
29	農協前遺跡	柏北部中央	総点数1,219点、18か所の集中地点が検出された。出土層位は、IX層(環状ブロック群、912点、台形様石器、石斧など)とVII層(大型で厚手のガラス質黒色安山岩の接合資料)。	19
30	北花崎遺跡	柏北部中央	(1)次調査にて、搅乱層から尖頭器など14点出土。	
31	翁原遺跡	柏北部中央	多量の旧石器が出土している。このなかで、出土点数が多い出土した調査次数の概要を掲載する。(3)次調査にて、集中地点16か所(IXc層、IXa層、IV層、III層)1,094点出土しており、IXc層の集中地点はほぼ環状に分布している。(7)次調査にて、集中地点4か所(IV層、III層)142点出土している。(9)次調査にて、集中地点7か所検出(IX層、IV層、III層)。(11)次調査にて、集中地点2か所(IX層、VI層)。	未
32	高砂遺跡		削器・尖頭器など。	22
33	鴻ノ巣II遺跡		ナイフ形石器・尖頭器など。	21
34	十太夫第II遺跡	流山新市街地	V層から1か所の集中地点、63点。	9
35	十太夫第III遺跡	流山新市街地	(1)～(7)次調査の成果は、単独で3点の石器が出土した。	11
36	東初石六丁目第I遺跡	流山新市街地	V層～IV層下部から3か所の集中地点、総点数13点。	9
37	東初石六丁目第II遺跡	流山新市街地	V層～IV層下部から5か所の集中地点、総点数1,045点、ナイフ形石器・角錐状石器など。	9
38	花山東遺跡		ナイフ形石器。昭和61年、平成7、8年一部調査。旧・西初石四丁目遺跡。	
39	西初石五丁目遺跡	流山新市街地	総点数275点、6か所の集中地点。IX層から2か所、IV層下部～IV層中部から3か所(ナイフ形石器・角錐状石器など)、III層から1か所検出。	6・10・11
40	市野谷宮尻遺跡	流山新市街地	槍先形尖頭器。	5
41	市野谷入台遺跡	流山新市街地	総点数1,896点、26か所の集中地点。VII層、VI層、V層～IV層、III層から、ナイフ形石器・搔器・角錐状石器・細石刃核など。	7・10
42	大久保遺跡	流山新市街地	総点数10,706点、41か所の集中地点。IX層下部から2か所の集中地点、111点、削器など。IV層下部～IV層中部から18か所の集中地点、8,468点、多数のナイフ形石器・角錐状石器と礫群が伴う。IV層下部～IV層中部から21か所の集中地点、2,127点、ナイフ形石器・角錐状石器・尖頭器など。	9
43	市野谷立野遺跡	流山新市街地	(1)～(17)次調査の成果は、単独で尖頭器・ナイフ形石器・細石刃などが18点の石器が出土した。(18)～(23)次調査の成果は、V層～III層に包蔵される4か所の石器集中地点が検出され、角錐状石器・ナイフ形石器・搔器などが出土した。	11・12
44	市野谷二反田遺跡	流山新市街地	総点数3,664点、12か所の集中地点。IXa層～VII層から3か所の集中地点。VII層上部～VI層下部から2か所の集中地点、下縦型石刃再生技法による石器群。V層～IV層下部から7か所集中地点、ナイフ形石器を主体とし礫群を伴う。	8
45	市野谷向山遺跡	流山新市街地	総点数1,396点、22か所の集中地点。IX層上部から4か所の集中地点、158点、ナイフ形石器・削器など。VII層から6か所の集中地点、737点、ナイフ形石器など。V層～IV層下部から12か所の集中地点、501点、ナイフ形石器・角錐状石器など。	9・10・12
46	市野谷芋久保遺跡	流山新市街地	(1)～(13)・(15)～(20)次調査の成果は、石器集中地点46か所、礫群16か所、総点数2,878点。X層上部～IX層最下部から、環状ブロック群が検出された。(21)～(25)次の調査成果は、細石刃核が1点出土した。	11・12
47	市野谷中島遺跡	流山新市街地	V層～IV層下部から1か所の集中地点、19点。	10・12

※ 第1-2表の本報告書掲載内容はゴシック体で、それ以外の内容については明朝体で表示した。

道、北東を低地に区画される。調査は平成28年度で終了し、現在は整理作業が進められている。大松遺跡(9)では、21か所の石器集中地点が検出され、このうちIX層に属する20か所が50m×40mの環状ブロック群を構成する。原畠遺跡(5)のIXc層上部～IXa層下部では、局部磨製石斧の再生加工が行われ、VII層～VI層下部では下縦型石刃再生技法を駆使した石器群が検出された。駒形遺跡(3)のV層～IV層下部の石器群は、ナイフ形石器・角錐状石器が主体であり、高原山甘湯沢群産黒曜石が多用される。富士見遺跡(4)のIXc層上部～IXa層下部では、この時期の房総半島にはあまり例のない天城柏崎群産黒曜石が出土しており、一部の環状ブロック群に伴うことが知られている。器種としては石刃や石刃石核が多数みられた。V層～IV層下部からはナイフ形石器を主体とする石器群と礫群が検出された。なお、第14章では、以上の既報告分に加えて、本報告の各遺跡から検出されたブロックの特徴を一部図表化し、視覚化を試みている。下位の層では富士見遺跡Xa層～IXc層、上位の層では矢船Ⅱ遺跡Ⅲ層上部～Ⅱ層下部からブロックが検出されたことで、2枚の文化層が新たに加わり、より長期にわたる人々の活動痕跡が明らかとなった。

1・6・7・12～21は常磐自動車道建設に関連する遺跡群である。昭和50年代に行われた発掘調査の後、度重なる開発や宅地化により、調査範囲が特定できない地点がある。さらに一部の遺跡は柏北部東地区と重複し、分別に困難が生じている。報告書刊行時の遺跡名が現在と異なるものに関しては、第1-2表の内容欄に括弧付けて変更事由を記した。経緯は原山遺跡¹⁸⁾第1章第2節を参照されたい。

水砂遺跡(15)VII層～VI層のA～Cブロックでは下縦型石刃再生技法を駆使した石器群、IV層～III層のDブロックからは東内野型尖頭器が4点出土した。中山新田Ⅰ遺跡(17)のIX層下部では環状ブロック群が検出され、石材には高原山産黒曜石やその周辺の基盤岩が多く用いられていた。中山新田Ⅱ遺跡(18)は、県北西部地域でも最古とされるX層で、ガラス質黒色安山岩製の横長剥片が多数生産されていた。また、黒色頁岩やガラス質黒色安山岩の石刃製ナイフ形石器がVII層～VI層から出土している。第10ユニットではナイフ形石器4点がまとまって出土しており、一時保管所的な場を想定させる。聖人塚遺跡(20)は、礫群を持つV層～IV層下部の石器数が全体の1/3を占める一方、中山新田Ⅱ遺跡同様、事業地内では最古段階にあたるX層上部の石器群が検出された。中山新田Ⅱ遺跡との違いは、石材に黒色頁岩が利用されていること、客体的な石刃石器群であることがあげられる。元割遺跡(21)では、IV層～III層の石器群が質・量ともに充実しており、八溝山地を構成する青灰色のチャートが大量に消費され、多くの石器が作出された。III層上部～II層から大型の尖頭器が出土している。

23～31は柏北部中央地区土地区画整理事業に関連する遺跡群である。原山遺跡(23)は、5枚の文化層から2,254点の石器が出土し、最下層の第1文化層は上記の中山新田Ⅱ遺跡第11ユニット、聖人塚遺跡第5文化層と同じくX層上部～IX層下部に比定される。IX層中部～VII層では環状ブロック群が検出された。溜井台遺跡(24)では5枚の文化層から礫群4か所を含む14か所のブロックが検出された。968点中776点がIV層下部の出土であり、切出状を呈するナイフ形石器がみられる。須賀井遺跡(25)は、3枚の文化層からナイフ形石器などを含む396点の石器が出土している。大割遺跡(26)では50か所のブロックから2,921点出土している。IX層、IX層～VII層、V層～IV層下部の3枚の文化層に分けられるが、80%以上がV層～IV層下部からの出土で、切出状を主体とした多数のナイフ形石器や角錐状石器、搔器、削器などを組成する。地金堀対岸の台地上に立地する農協前遺跡(29)では環状ブロック群が検出されている。

34～37・39～47は流山新市街地地区土地区画整理事業に伴う遺跡群である。西初石五丁目遺跡(39)では、IX層～VII層に1か所、V層～IV層に3か所の集中地点が検出されている。市野谷入台遺跡(41)では5枚の

文化層から25か所のブロックが検出された。大久保遺跡(42)では3枚の文化層から41か所のブロックが検出された。このうちⅣ層中部～Ⅳ層上部に生活面を持つ第2a文化層は18か所のブロックで構成され、多数のナイフ形石器と角錐状石器に礫群が伴っている。最長で約80m離れて接合した資料もみられた。市野谷二反田遺跡(44)では3枚の文化層から12か所のブロックが検出された。第12ブロックでは元割遺跡Ⅳ層～Ⅲ層と同様、青灰色のチャートが角礫状の原石として遺跡内に持ち込まれ、消費されている。市野谷中島遺跡(47)ではV層～Ⅳ層下部から1か所のブロックが検出された。流山新市街地地区はⅣ層を中心とした遺跡の多くに礫群が伴う。

参考文献(番号は第1-2表の文献欄に対応)

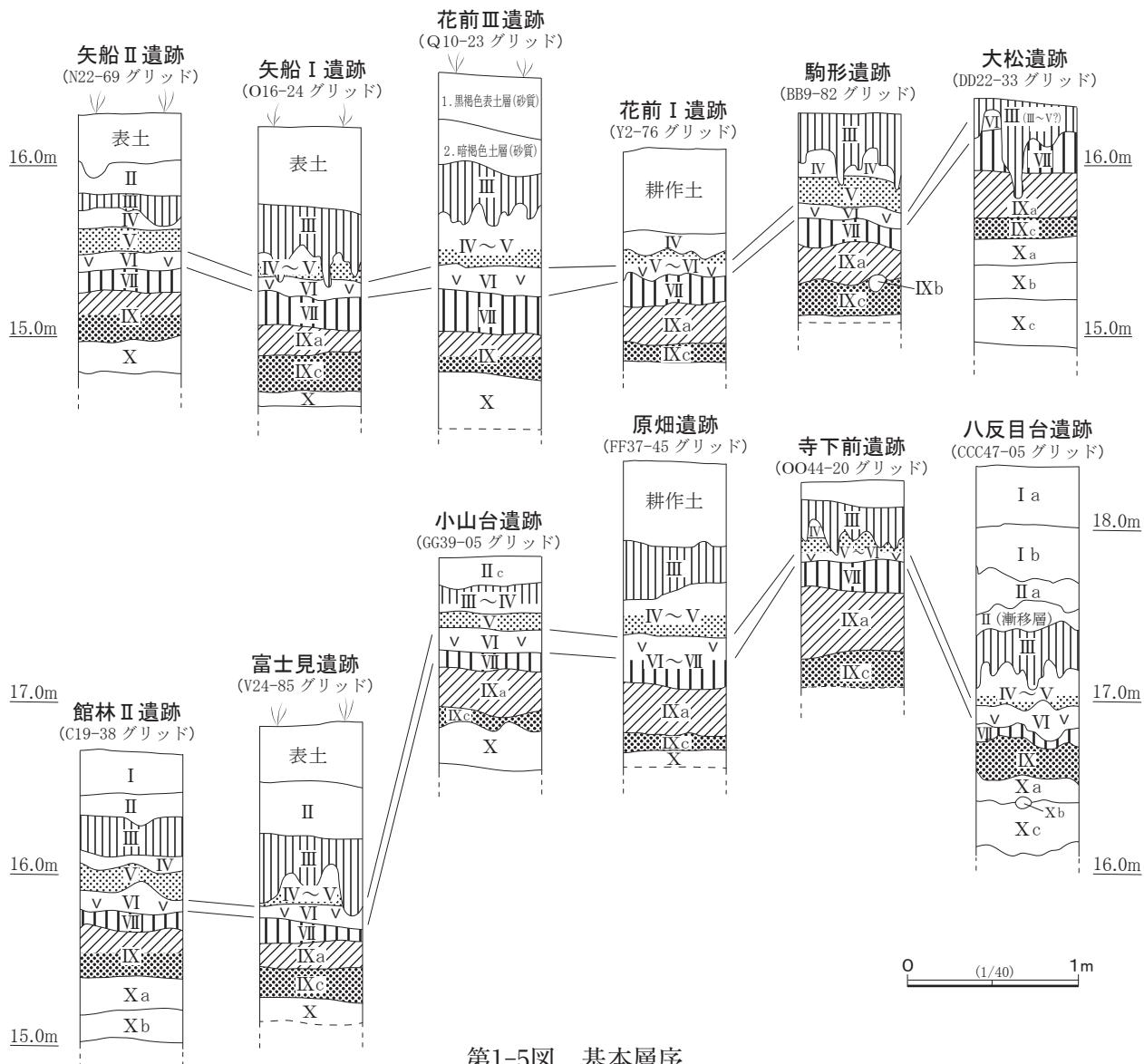
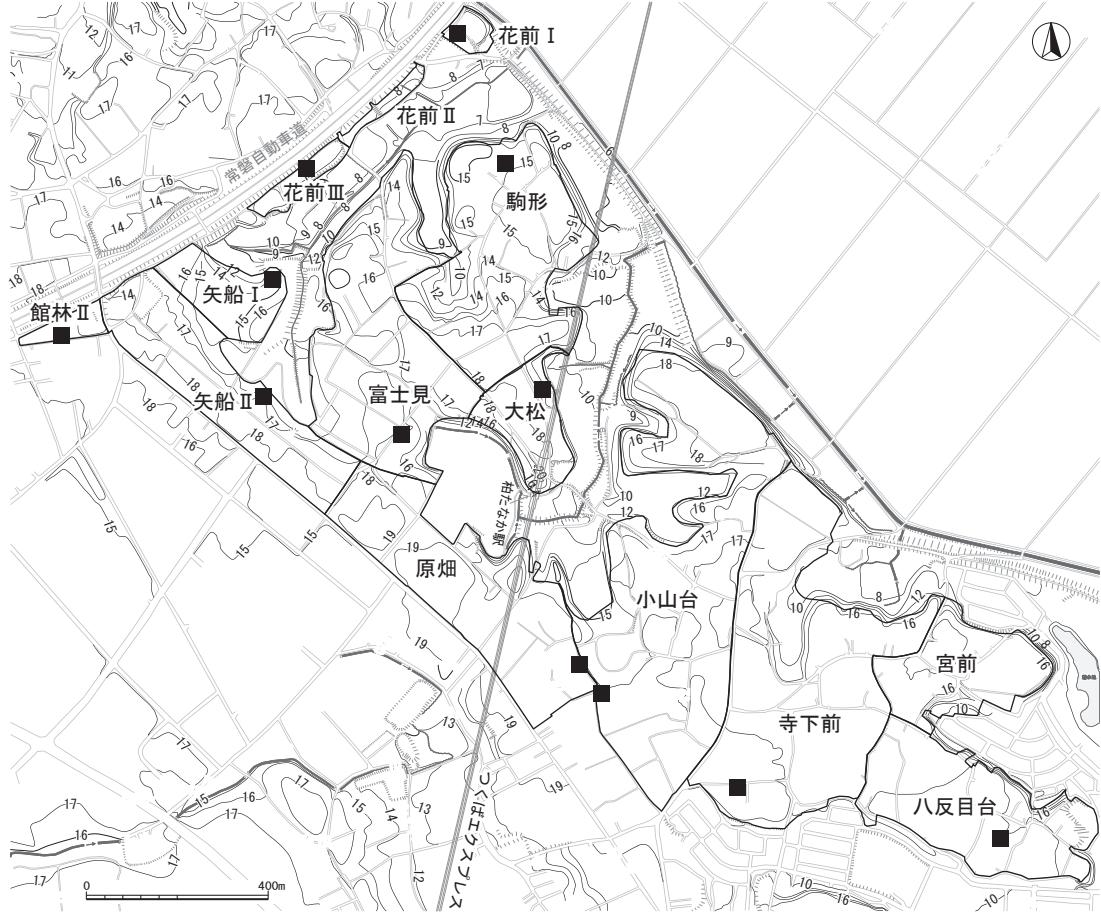
- 1 『柏北部東地区埋蔵文化財発掘調査報告書1-柏市大松遺跡-旧石器時代編』2008 (財)千葉県教育振興財団
- 2 『柏北部東地区埋蔵文化財発掘調査報告書8-柏市富士見遺跡・原畠遺跡・駒形遺跡-旧石器時代編』2015 (公財)千葉県教育振興財団
- 3 『柏北部東地区埋蔵文化財発掘調査報告書10-柏市小山台遺跡-旧石器時代編』2017 (公財)千葉県教育振興財団
- 4 『柏北部東地区埋蔵文化財発掘調査報告書11-柏市花前Ⅱ遺跡・花前Ⅲ遺跡・矢船Ⅰ遺跡・矢船Ⅱ遺跡・寺下前遺跡・八反目台遺跡-縄文時代以降編』2017 (公財)千葉県教育振興財団
- 5 『流山新市街地地区埋蔵文化財調査報告書1-流山市市野谷宮尻遺跡-』2006 (財)千葉県教育振興財団
- 6 『流山新市街地地区埋蔵文化財調査報告書2-流山市西初石五丁目遺跡-』2008 (財)千葉県教育振興財団
- 7 『流山新市街地地区埋蔵文化財調査報告書3-流山市市野谷入台遺跡-』2008 (財)千葉県教育振興財団
- 8 『流山新市街地地区埋蔵文化財調査報告書4-流山市市野谷二反田遺跡-』2009 (財)千葉県教育振興財団
- 9 『流山新市街地地区埋蔵文化財調査報告書5-流山市大久保遺跡(下層)・市野谷向山遺跡(下層)・東初石六丁目第I遺跡(下層)・東初石六丁目第II遺跡・十太夫第II遺跡-』2011 (財)千葉県教育振興財団
- 10 『流山新市街地地区埋蔵文化財調査報告書6-流山市市野谷中島遺跡・市野谷向山遺跡・市野谷入台遺跡・西初石五丁目遺跡-旧石器時代編』2013 (公財)千葉県教育振興財団
- 11 『流山新市街地地区埋蔵文化財調査報告書7-流山市市野谷芋久保遺跡・市野谷中島遺跡(上層)・市野谷向山遺跡(上層)・市野谷立野遺跡・大久保遺跡(上層)・西初石五丁目遺跡・東初石六丁目第I遺跡(上層)・十太夫第I遺跡・十太夫第III遺跡-』2015 (公財)千葉県教育振興財団
- 12 『流山新市街地地区埋蔵文化財調査報告書8-流山市市野谷芋久保遺跡・市野谷中島遺跡・市野谷向山遺跡・市野谷立野遺跡・大久保遺跡(上層)-』2016 (公財)千葉県教育振興財団
- 13 『常磐自動車道埋蔵文化財調査報告書I-水砂・館林・花前Ⅱ-1-』1982 (財)千葉県文化財センター
- 14 『常磐自動車道埋蔵文化財調査報告書II-花前Ⅰ・中山新田Ⅱ・中山新田Ⅲ-』1984 (財)千葉県文化財センター
- 15 『常磐自動車道埋蔵文化財調査報告書III-矢船・花前Ⅱ-1・花前Ⅱ-2-』1985 (財)千葉県文化財センター
- 16 『常磐自動車道埋蔵文化財調査報告書IV-聖人塚・元割・中山新田Ⅰ-』1986 (財)千葉県文化財センター
- 17 『柏北部中央地区埋蔵文化財調査報告書1-柏市溜井台遺跡-』2007 (財)千葉県教育振興財団
- 18 『柏北部中央地区埋蔵文化財調査報告書2-柏市原山遺跡-旧石器時代編』2009 (財)千葉県教育振興財団
- 19 『柏北部中央地区埋蔵文化財調査報告書3-柏市農協前遺跡-旧石器時代編』2011 (財)千葉県教育振興財団
- 20 『柏北部中央地区埋蔵文化財調査報告書4-柏市大割遺跡・須賀井遺跡-旧石器時代編』2012 (公財)千葉県教育振興財団
- 21 『柏市鴻ノ巣遺跡』1974 千葉県都市公社

- 22 『柏市高砂遺跡・林台遺跡』1983 柏市教育委員会
- 23 『柏市埋蔵文化財調査報告書33』1997 柏市教育委員会・柏市遺跡調査会
- 24 『平成10年度市内遺跡発掘調査報告書』2000 柏市教育委員会
- 25 『平成12年度柏市市内遺跡発掘調査報告書』2002 柏市教育委員会

第3節 基本層序(第1-5図)

柏北部東遺跡群の基本層序は第1-5図のとおりである。Ⅱ層、Ⅸ層、X層については、細分できない地点も多くみられた。基本層序については、この地域で細分可能な標準土層の特徴を記載した。

- I 層 黒色の表土である。
- IIa層 黒褐色土である。
- IIb層 明褐色土である。いわゆる「新期テフラ層」である。
- IIc層 暗褐色土である。
- III 層 明黄褐色ローム土である。立川ローム最上層に相当する。いわゆる「ソフトローム層」である。下部に向かってソフト化が進行している。赤色スコリアを少量含む。
- IV 層 明褐色ローム土である。硬質のローム層でいわゆる「ハードローム層」である。2mm～3mm大の赤色スコリアを多く含み、全体に赤みを帯びた明色である。
- V 層 黄褐色ローム土である。第1黒色帶に相当する。IV層に比べて赤色スコリアの量が少なく、全体に黒ずんでいる。IV層とV層とを明確に区分できる地点は少なかった。
- VI 層 明黄褐色ローム土である。A T(始良丹沢火山灰)がブロック状に含まれる。
- VII 層 褐色ローム土である。第2黒色帶上部に相当する。全体に黒ずんでいる。1mm～2mm大の黄色スコリアと1mm大の赤色スコリアが少量含まれる。
- IXa層 暗褐色ローム土である。第2黒色帶下部の上半である。IX層を細分できた地点もあるが、細分できなかった地点も多い。VII層よりも黒ずんでいる。2mm～3mm大の赤色スコリアが多く含まれる。
- IXb層 暗褐色ローム土である。第2黒色帶下部の間層である。ほとんどの地点で、この層はみられなかった。
- IXc層 暗黄褐色ローム土である。第2黒色帶下部の下半である。2mm大の赤色スコリアが微量含まれる。
- Xa層 暗黄褐色ローム土である。スコリア粒がほとんど含まれない。X層を細分できる地点は少なかった。
- Xb層 黄褐色ローム土である。Xa層に比べて暗色である。スコリア粒がほとんど含まれない。粘性が強い。立川ローム最下部層ととらえられるが、武藏野ロームとの境界を識別するのが困難であった。
- XI 層 灰褐色ローム土である。武藏野ローム最上層である。粘性を帯びる。



第1-5図 基本層序

第2章 矢船I遺跡

第1節 遺跡の概要(第2-1・2図、第2-1・2表)

確認・本調査範囲と文化層別ブロック位置図は第2-1・2図のとおりである。遺跡の北側の斜面の縁辺に遺物が集中して検出された。石器総数268点である。第1文化層(Ⅶ層下部に生活面を持つ石器群)から石器総数266点、6か所のブロックが検出された。このほか、いずれの文化層に帰属するか明確でなく、単独で出土した石器が2点出土している。ブロック別の器種組成・石材組成は第2-1・2表のとおりである。

第2節 第1文化層

1 概要(第2-3～5図、第2-3・4表)

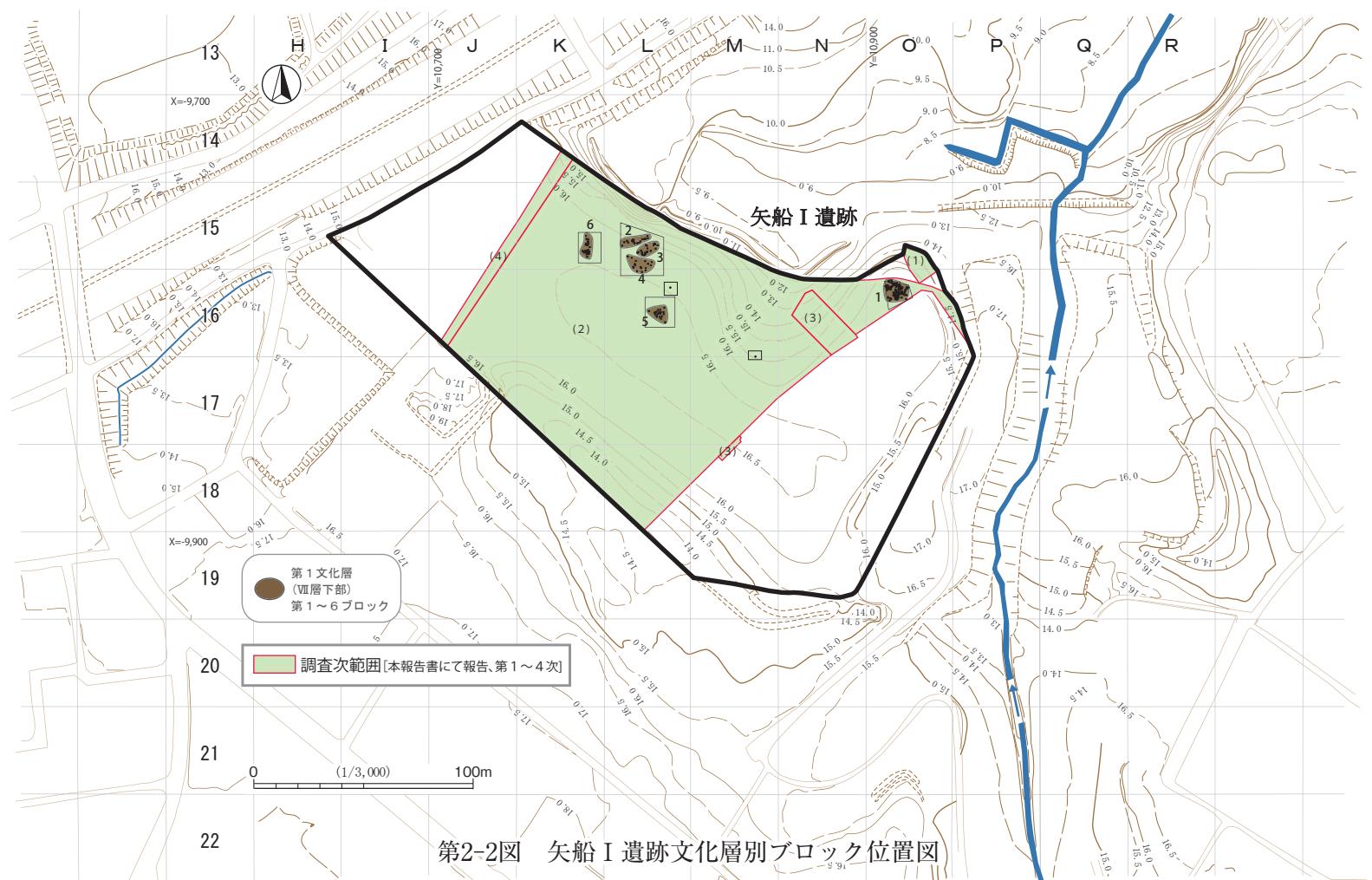
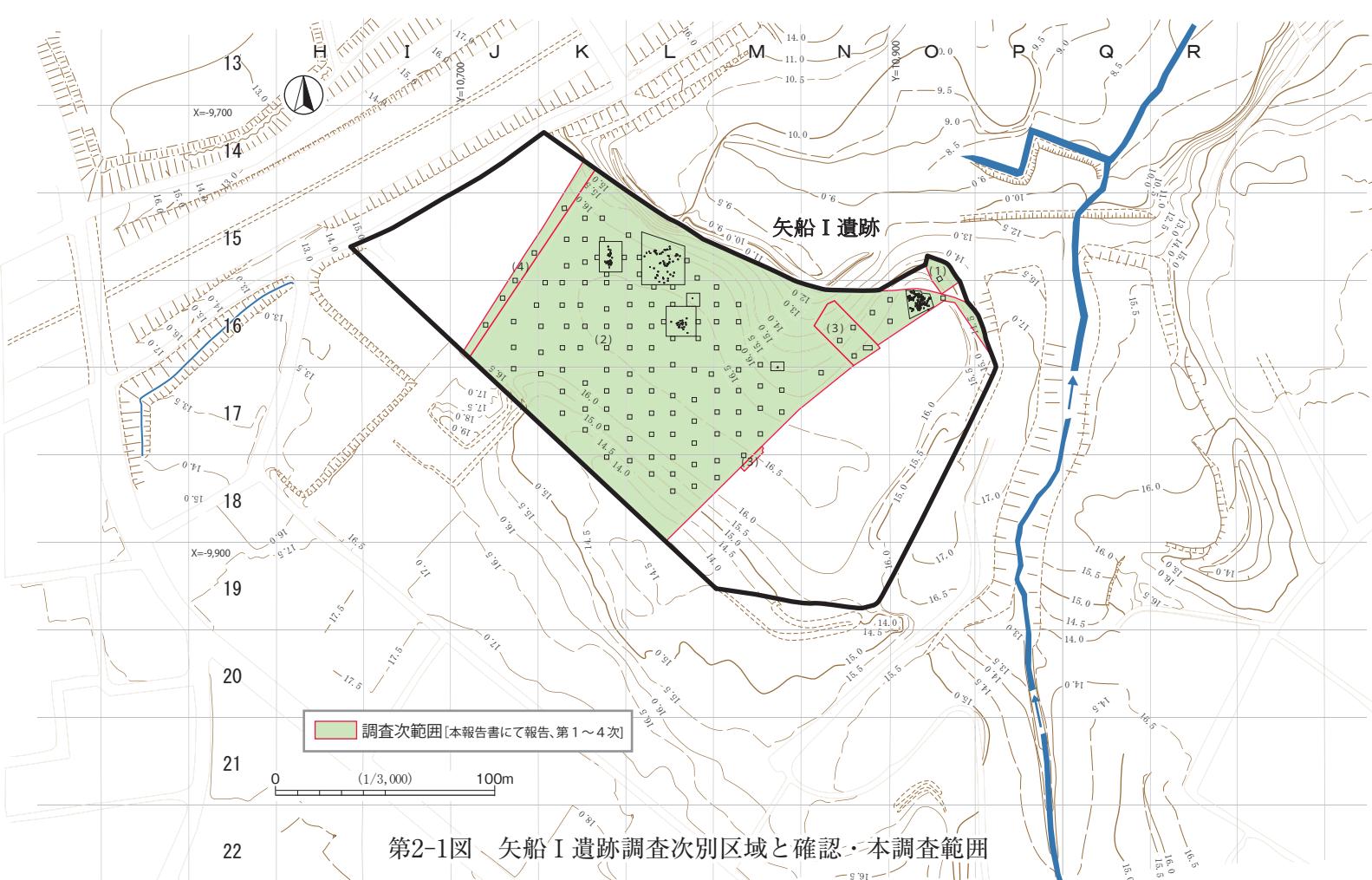
第1文化層の石器群は総計266点出土し、第1～6ブロックの6か所で構成される。Ⅶ層下部に生活面

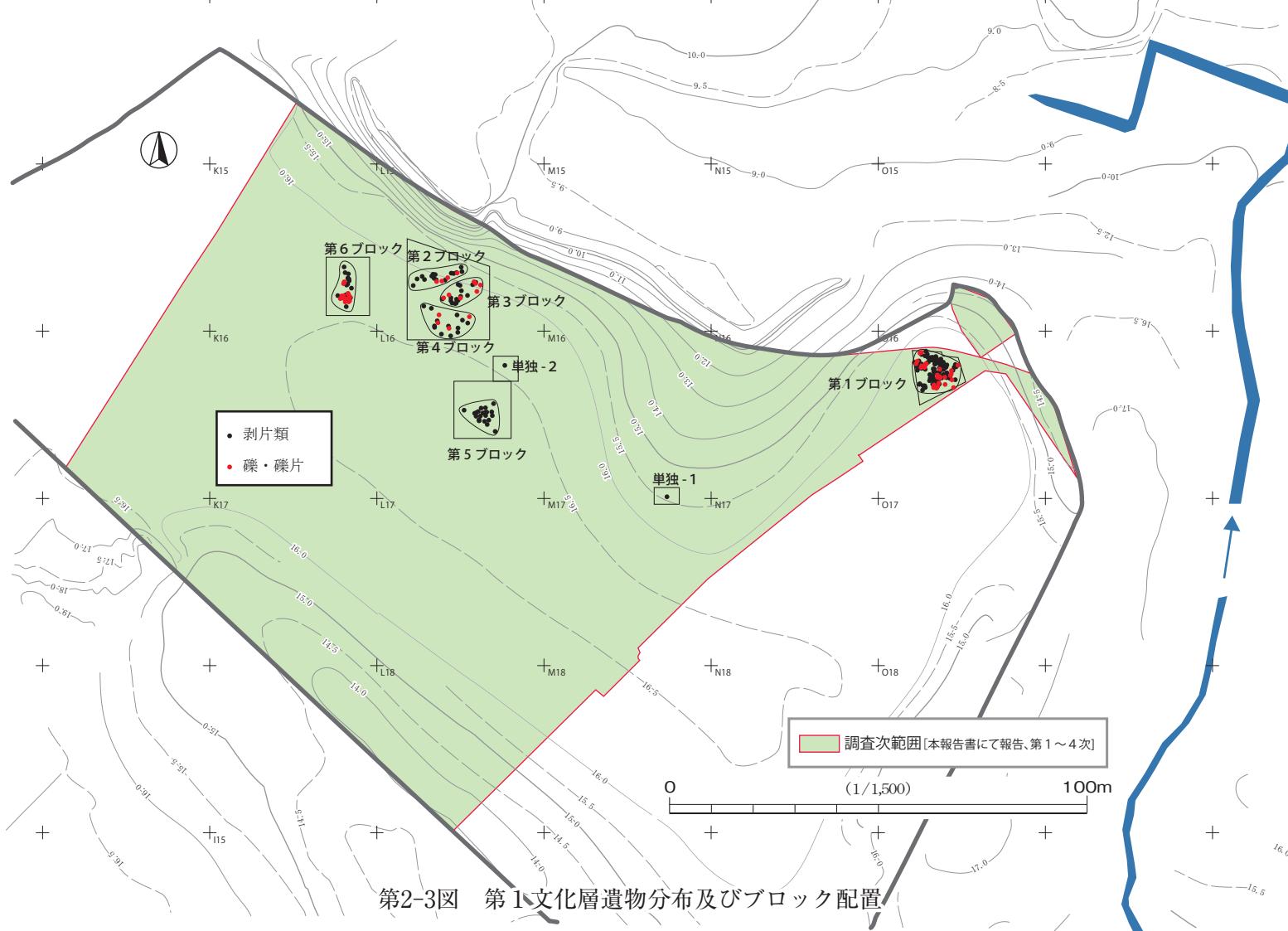
第2-1表 文化層ブロック別器種組成表

文化層	ブロッツク	ナイフ形石器	尖頭器	楔形石器	有撻石	二次加工のある剥片	微細剥離痕のある剥片	石刃	削片	剥片	碎核	石	敲石	台石	礫	点数合計	
1	1	10		2	2	4	5	1	1	66	11	7			10	23	142
	2	1			1					1	7	3	3	1	3	1	21
	3						2			6			8		5	2	23
	4	1				1				6	2	1	4		4		19
	5				3		1	4	1	11	3						23
	6	1				2				10			5	1	5	12	36
	単独	1										1					2
第1文化層合計		14		2	6	7	8	5	2	100	23	12	20	2	27	38	266
単独出土合計			1			1											2
総計点数		14	1	2	6	8	8	5	2	100	23	12	20	2	27	38	268

第2-2表 文化層ブロック別石材組成表

文化層	ブロッツク	黒曜石	ガラス質黑色安山岩	トロトロ	頁岩	珪質頁岩	硬質頁岩	黒色頁岩	玉髓	綠色凝灰岩	ホルンフェルス	チヤ	砂岩	流紋岩	石英斑岩	点数合計
1	1		28	12		30		15	1	1	18	11	7	8	11	142
	2	1	2		1	6						3	3	2	3	21
	3		6		1					5	1	10				23
	4	1	3		2			1				5	5		2	19
	5	1	1	8		4			8		1					23
	6		5								4	8	2	5	12	36
	単独	1						1								2
第1文化層合計		3	40	26	3	41		17	9	1	28	28	27	15	28	266
単独出土合計		1					1									2
総計点数		4	40	26	3	41	1	17	9	1	28	28	27	15	28	268



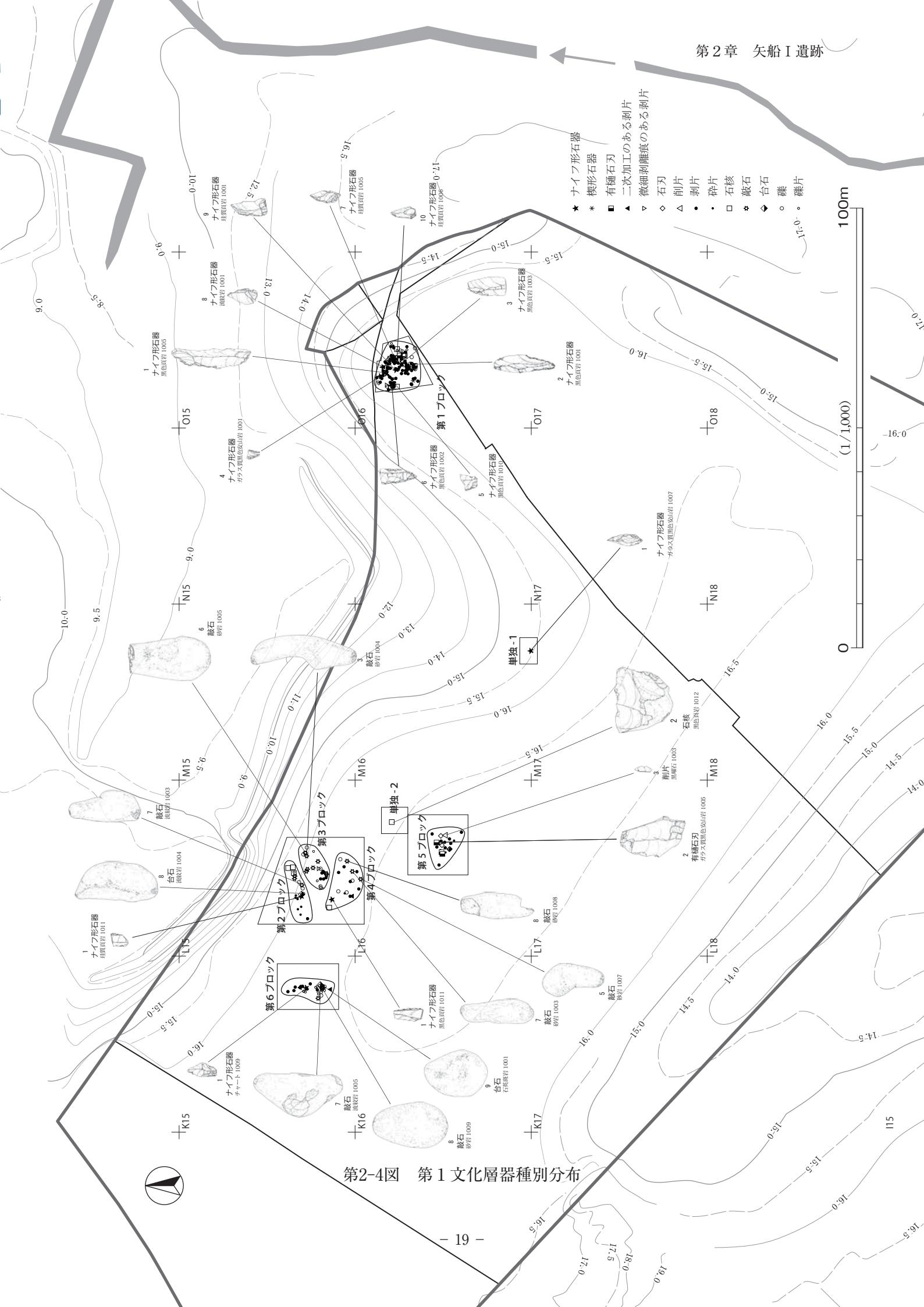


第2-3図 第1文化層遺物分布及びブロック配置

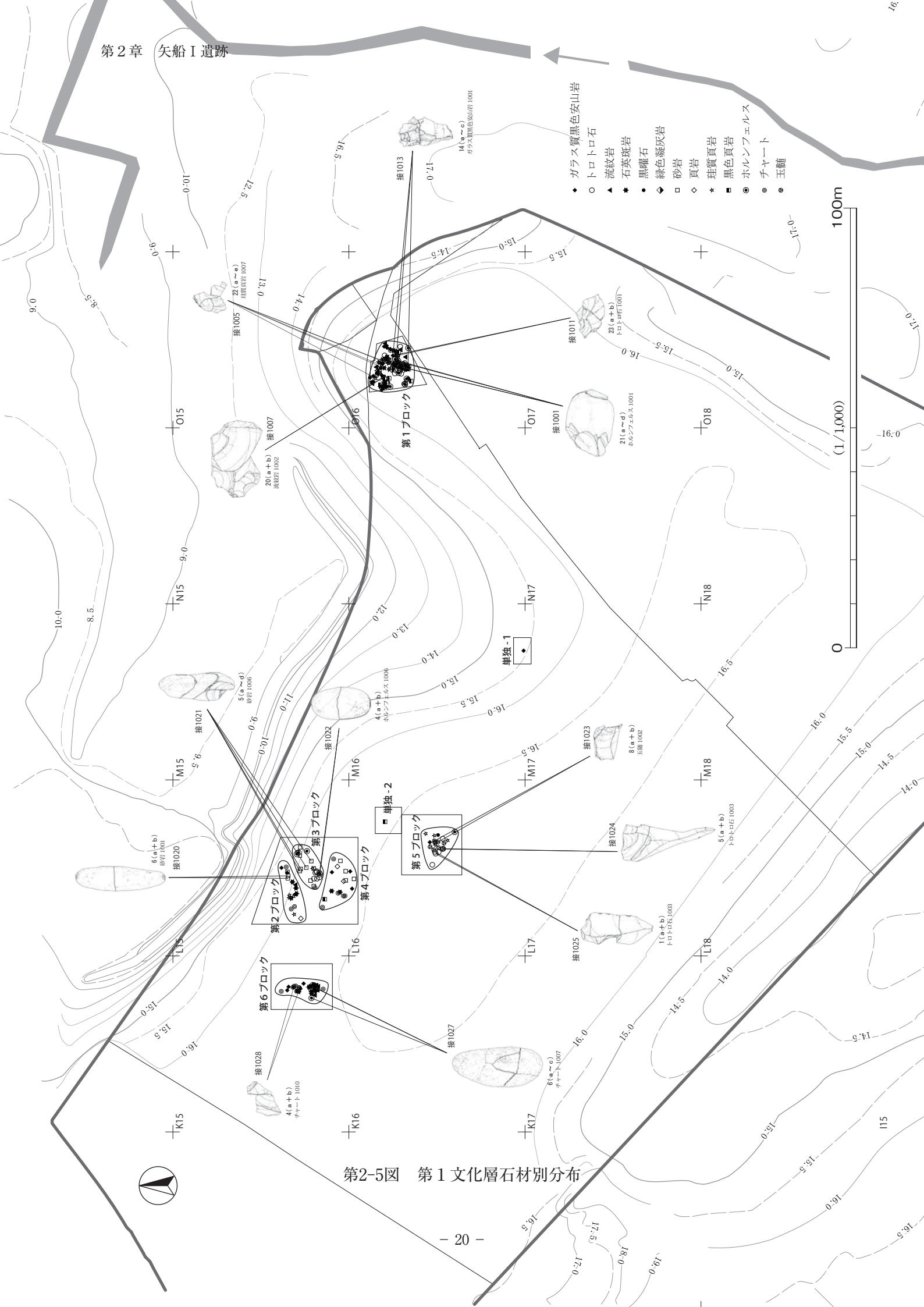
第2-3表 第1文化層器種石材組成表

石 器 種	ナイフ形石器	楔形石器	有 樋 石	二 次 加 工 の あ る 剥 片	微 細 剥 離 痕 の あ る 剥 片	石 刃	削 片	剥 片	碎 片	石 核	敲 石	台 石	点 磯	合 計	
黒曜石				1				1		1				3	
ガラス質黑色安山岩	2		3					1	26	4	4			40	
トロトロ石			2	1		2		17	2	2				26	
頁岩								3						3	
珪質頁岩	4			2	1	3		22	7	2				41	
黒色頁岩	6			1	1			6	2	1				17	
玉髓					1			7	1					9	
緑色凝灰岩								1						1	
ホルンフェルス					2			12	3	1	5		3	28	
チャート	1	2		3	1			6	3	2			2	8	28
砂岩											13		7	7	27
流紋岩	1				2						2	1	5	4	15
石英斑岩											1	10	17	28	
全 体 点 数 合 計	14	2	6	7	8	5	2	100	23	12	20	2	27	38	266

を持つ石器群と推定される。調査区北部に位置し、標高15.5m～16.5m(現地表面)にかけて分布しており、北東に傾斜する斜面の縁辺に立地している。ブロック間の接合資料はみられなかった。第1文化層の器種石材組成とブロック別組成は第2-3・4表のとおりである。ナイフ形石器・有樋石刃・削片・敲石が本文化



第2-4図 第1文化層器種別分布



第2-5図 第1文化層石材別分布

層を特徴づける器種である。大型の礫片で構成される礫群が第1～4・6ブロックに伴っている。石材は珪質頁岩とガラス質黒色安山岩を主体とするが、ナイフ形石器は黒色頁岩と珪質頁岩が主に用いられる。

第2-4表 第1文化層ブロック別組成表

2 第1文化層第1ブロック(第2-6~12図、第2-5表、図版3・4)

出土状況 調査区北東部のO16-12・13・22~24・32~34グリッドに分布している。北東に傾斜する斜面の縁辺に立地する。9.4m×10.5mの範囲から142点の石器が出土した。第1文化層のなかで、第1ブロックが東側に離れて分布している。北西部と南東部の2か所の集中地点がみられる。北西部と南東部の集中地点とともに、大型の礫・礫片で構成される礫群を伴う。北西部は、大半のものが石器類で礫群は南東側に

分布する。南東部は、石器類が北西側、礫群が南東側に分布する。接合資料は近接したもの同士の接合で占められる。IXc層からV層にかけて出土しており、V層下部に集中する。

出土遺物 器種組成はナイフ形石器10点、楔形石器2点、有樋石刃2点、二次加工のある剥片4点、微細剥離痕のある剥片5点、石刃1点、削片1点、剥片66点、碎片11点、石核7点の石器類109点と礫10点、礫片23点の礫・礫片33点で構成される。本ブロックの特徴は、ナイフ形石器の割合が高いことと、ほかのブロックで特徴的にみられる敲石が出土していないことである。突出した台地の先端部に分布し、眼下の東側と北側には湧水地点があることから、第1ブロックは狩場的な機能を果たしたことが推察される。

石器類の石材は珪質頁岩30点、ガラス質黒色安山岩28点、ホルンフェルス17点、黒色頁岩15点、トロトロ石12点、流紋岩3点、チャート2点、玉髓1点、緑色凝灰岩1点である。礫・礫片の石材は石英斑岩11点、チャート9点、砂岩7点、流紋岩5点、ホルンフェルス1点である。

1~10はナイフ形石器である。いずれも石刃を素材とする。1・3・6~10は単独母岩で、製品の形で搬入されている。1・2・7は二側縁加工で尖鋭な先端部と尖鋭な基部を呈する東林跡型ナイフ形石器に分類されるものである。このほか3・4・6・10も欠損しているが、素材や調整加工のあり方から、東林跡型ナイフ形石器と分類できる。このように、本ブロックから出土したナイフ形石器の大半が東林跡型ナイフ形石器ととらえられる。

ナイフ形石器を石材別にみると、1~3・5・6は黒色頁岩、7・9・10は珪質頁岩、4はガラス質黒色安山岩、8は流紋岩が用いられている。黒色頁岩のものは、いずれも大型の石刃を素材とし打面部側を基部に設置しており、ナイフ形石器の石材の半数を占めている。珪質頁岩・流紋岩・ガラス質黒色安山岩製のものは、中型・小型の石刃を使用している。石材によってサイズが異なる点が特徴としてあげられる。

1は左側縁と右側縁下部に調整加工が施されている。左側縁中部と左側縁下部に急角度の調整加工、裏面と表面左上部に平坦な調整加工がそれぞれ施されている。基部は尖った形状をしている。2は両側縁の基部と左側縁上部に急角度の調整加工が施されている。基部は尖った形状をしており、先端部は破損している。3は器体の中央部から破損して上半部が残存している。左側縁上部に急角度の調整加工が施されており、先端部は破損している。右側縁上部は裏面側に微細剥離痕がみられる。4~6は器体の中央部付近から破損しているが基部は残存している。4は両側縁に急角度の調整加工が施され、基部は尖った形状をしている。素材の打面はわずかに残っている。5は左側縁に急角度の調整加工が施され、右側縁下部にわずかに細かい調整加工が施され、素材の打面が残っている。6は左側縁と右側縁下部に急角度の調整加工が施され、右側縁中部に細かい調整加工が施されている。右側縁上部に素材の縁辺がわずかに残っている。素材の打面は残っておらず、尖鋭な基部を呈している。典型的な東林跡型ナイフ形石器の基部の形状をしている。7~9は中型の石刃を素材としている。7は左側縁と右側縁下部に急角度の調整加工が施され、先端と基部は尖鋭な形状をしている。素材の打面は残っていない。サイズは異なるが、2・6と類似した形態をしている。8は右側縁に急角度の調整加工が施されている。素材の打面はわずかに残っている。9は左側縁下半部と右側縁中部に急角度の調整加工が施されている。素材の打面が大きく残っている。10は石刃を素材とする。基部の両側縁と左側縁上部に急角度の調整加工が施されている。下端部は折れている。

11は二次加工のある剥片である。右側縁と下端部に急角度の調整加工が施されている。器体の左半部は折れしており、全体形状が不明である。ナイフ形石器の基部が折れた可能性がある。

12・13は楔形石器である。12は大型の石刃を素材として上下両端から両極剥離が行われている。有樋石

刃を素材として両極剥離を行った可能性がある。13は左側縁に階段状の調整加工を施した後に、上下両端から両極剥離が行われている。

14(a～c)は下総型石刃再生技法によって剥離された接合資料である。厚みのある大型の石刃を素材としている。4つの剥離工程がみられた。第1工程は、素材の打面部付近を裏面側から剥離している。素材の打面部を折断する工程ととらえられる。第2工程は、大型石刃の表面中央部を打面として14aと14(b+c)とに分割している。第3工程は、14aを素材とし、上面の分割面を打面として表面上部に樋状剥離が行われている。14aは有樋石刃である。第4工程は、14(b+c)を素材とし、下面の分割面を打面として左側縁と表面に数回の樋状剥離が行われ小型の削片が剥離されている。14bは上面方向に樋状剥離を行った際に剥離されたものである。14cも有樋石刃である。本接合資料と同一母岩のものは、4・24・26である。4のナイフ形石器は大型石刃から剥離された小型の削片を素材としている可能性がある。24・26は大型石刃を分割して最終的に石核として用いたものと思われる。

15は微細剥離痕のある剥片である。大型石刃を素材として上下両端を折断し、下面の折断面に微細剥離痕がみられる。右側縁にみられる微細剥離痕は、大型石刃の形状の時の剥離痕である。上述の14(a～c)の接合資料でみられたように、石刃を分割している点で共通点がみられる。

16・18は二次加工のある剥片である。16は側面形状が湾曲した縦長剥片を素材として右側縁下部に稜上から鋸歯状の調整加工が施されている。素材となった縦長剥片は、大型石刃から剥離された削片ととらえることができる。削片を剥離した剥離面は、表面にも2枚観察できる。大型石刃の主要剥離面は表面下部に残っている。18は幅広の剥片を素材として左側縁に鋸歯状の調整加工が施されている。

17は石刃である。末端部に微細剥離痕がみられる。19は微細剥離痕のある剥片である。打面再生剥片を素材として右側縁に微細剥離痕がみられる。表面中央部の剥離面はポジティブ面である。

20(a+b)は、上面を打面として横長剥片を連続剥離したことを示す接合資料である。頭部調整と打面調整は行われていない。20aと20bは、どちらも大型で末端部が鋭利な縁辺を有しており、縁辺部に微細剥離痕がみられる。良質の流紋岩1002が用いられており、この母岩は20aと20bの2点のみの出土である。鋭利な縁辺を有する横長剥片が製品として搬入された可能性が高い。21(a～d)は大型の橢円形礫を素材として横長剥片を連続剥離したことを示す接合資料である。剥離順序は、上面左側を打面として剥離した際に21aを含む数枚の横長剥片が剥離(21aは階段状に剥離された際に折れた末端部残存品である)→上面中央の自然面を打面として幅広で厚みのある21bを剥離(21bの末端部に微細剥離痕がみられる)→右側面に打面を転移して横長剥片21(c+d)の剥離となる。21(c+d)は打点直下の衝撃により21cと21dとに分割されている。

22(a～e)は厚みのない板状の剥片を素材としている。剥離順序は、上面中央部を打面として縦方向に剥離(この剥離によって22aと22bが剥離されている)→左側面中部を打面として横長剥片22(c+d)を剥離(この剥離の際に、22cと22dは同時割れしている)となる。22eは22a～22dの剥片を剥離した石核ととらえることも可能ではあるが、折断した剥片として識別した。

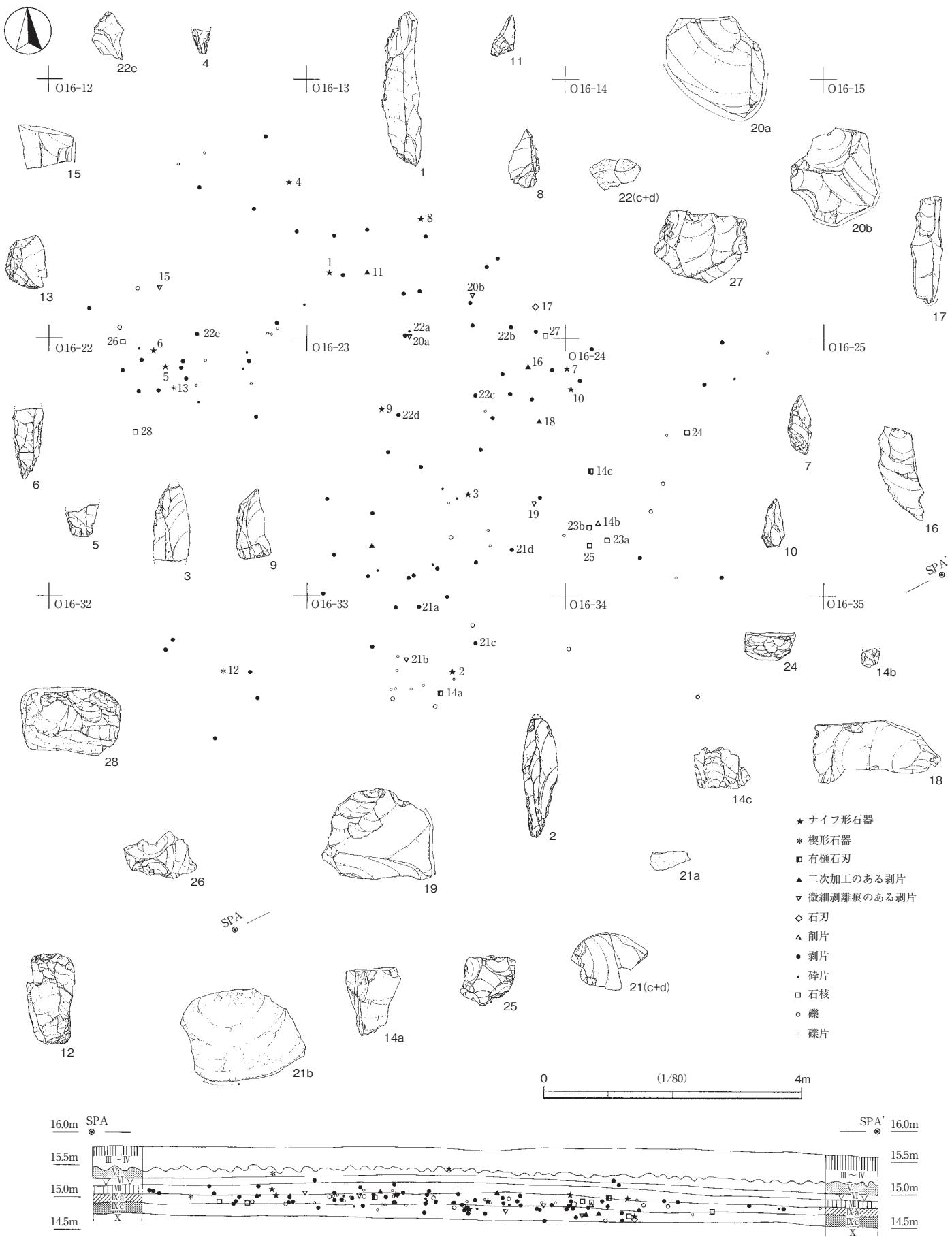
23～28は石核である。23(a+b)は、厚みのある横長剥片を素材として表裏両面の上半部に小型の横長剥片を剥離した石核の接合資料である。上面右部を打面として剥離を行った際に、23aと23bとに分割されている。

24は厚みのある剥片を素材としている。素材の主要剥離面は下面左中央部に残っている。剥離順序は、

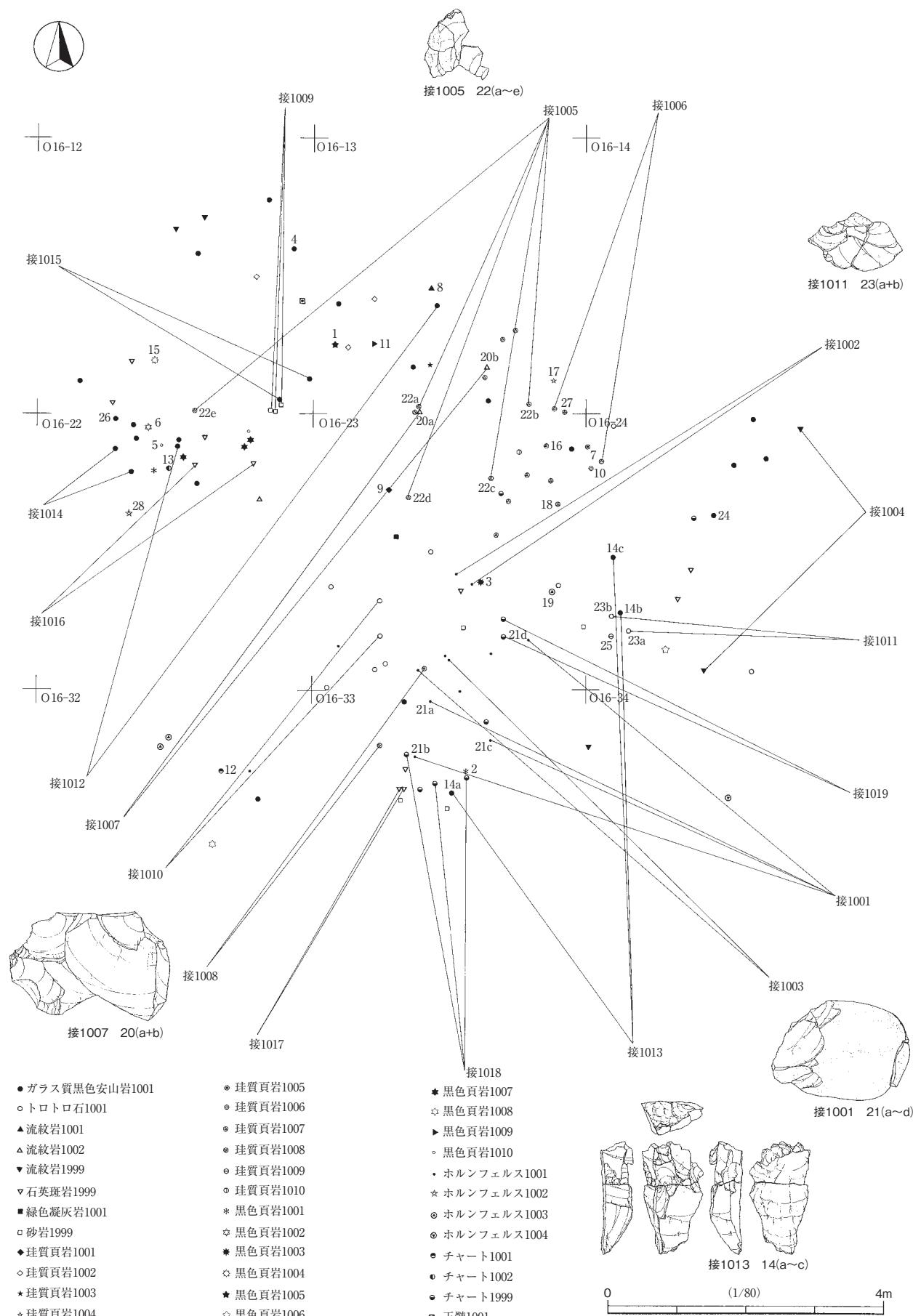
上面右上部を打面として幅広の剥片を剥離→表面右部を打面として右面方向に縦長剥片を剥離→裏面左上部を打面として上面方向に小型の貝殻状の剥片を剥離→上面下部を打面として貝殻状の小型の剥片を剥離となる。25は厚みのある剥片を素材としている。素材の主要剥離面は表面中央部に残っている。剥離順序は、右側面上部を打面として裏面方向に縦長剥片を剥離→裏面右上部を打面として上面方向に小型の剥片を剥離→表面上部を打面として上面方向に小型の貝殻状の剥片を剥離→表面縁辺部を打面としてほぼ全周に打点を順次転移して求心的に横長剥片を剥離となる。26は厚みのある剥片を素材としている。素材の主要剥離面は表面右側に残っている。剥離順序は、表面右部を打面として右側面方向に小型の貝殻状の剥片を剥離→左側面を打面として裏面方向に縦長剥片を剥離→裏面下部を打面として表面方向に貝殻状の小型の剥片を剥離→上面下部を打面として横長の剥片となる。27は節理面に沿って剥離された厚みのある剥片を素材としている。素材の主要剥離面は、裏面に大きく残っている。剥離順序は、表面上部を打面として上面方向に幅広の剥片を剥離→裏面左部を打面として右側面下部方向に幅広の剥片を剥離→上面下部を打面として表面方向に縦長剥片を剥離→裏面左上部を打面として表面方向に小型の貝殻状の剥片を剥離→裏面右部を打面として表面方向に剥片の剥離となる。28は拳大の楕円形礫を素材としている。剥離順序は、上面を打面として表面方向に大きく分割→表面右下部を打面として右側面方向に縦長剥片を剥離→上面を打面として表面方向に横長剥片を剥離→右側面左部を打面として表面方向に剥片の剥離となる。

第2-5表 第1文化層第1ブロック組成表

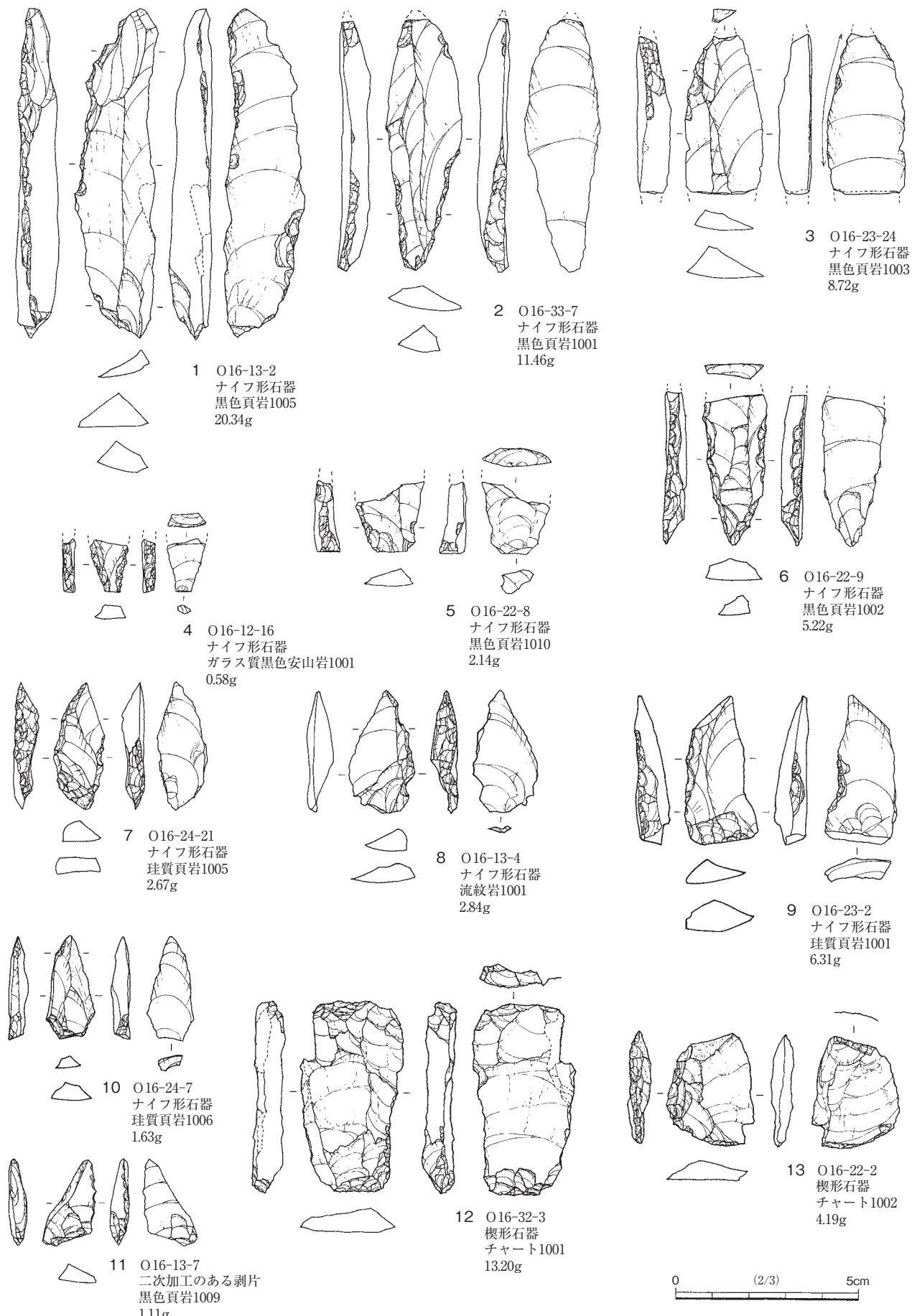
母岩 器種 番号	母岩 番号	ナイフ 形石器	楔形 石器	有孔 石刃	二次加工の ある剥片	微細剥離痕 のある剥片	石刃	削片	剥片	碎片	石核	礫	礫片	点数 合計	点数比 (%)	重量合計 (g)	重量比 (%)
ガラス質黒色安山岩	1001	1		2				1	18	4	2			28	19.72	166.73	4.11
トロトロ石	1001				1			8	1	2				12	8.45	114.12	2.81
珪質頁岩	1001	1												1	0.70	6.31	0.16
	1002								3					3	2.11	4.62	0.11
	1003								1					1	0.70	3.44	0.08
	1004					1								1	0.70	8.03	0.20
	1005	1												1	0.70	2.67	0.07
	1006	1												1	0.70	1.63	0.04
	1007			2				14	1	1				18	12.68	169.35	4.18
	1008							2						2	1.41	0.83	0.02
	1009									1				1	0.70	15.65	0.39
	1010								1					1	0.70	7.93	0.20
珪質頁岩合計		3		2		1		21	1	2				30	21.13	220.46	5.44
黒色安山岩	1001	1						1						2	1.41	13.75	0.34
	1002	1												1	0.70	5.22	0.13
	1003	1												1	0.70	8.72	0.22
	1004				1									1	0.70	11.84	0.29
	1005	1												1	0.70	20.34	0.50
	1006							1						1	0.70	2.19	0.05
	1007							2	1					3	2.11	2.34	0.06
	1008							1						1	0.70	0.81	0.02
	1009			1										1	0.70	1.11	0.03
	1010	1						1	1					3	2.11	3.36	0.08
黒色安山岩合計		5		1	1			6	2					15	10.56	69.68	1.72
玉髓	1001							1						1	0.70	0.66	0.02
緑色凝灰岩	1001							1						1	0.70	2.42	0.06
ホルンフェルス	1001				1			9	3					13	9.15	105.65	2.61
	1002								1					1	0.70	384.59	9.49
	1003				1			2						3	2.11	50.35	1.24
	1004													1	0.70	23.92	0.59
ホルンフェルス合計					2			11	3	1	1			18	12.68	564.51	13.92
チャート	1001	1												1	0.70	13.20	0.33
	1002	1												1	0.70	4.19	0.10
	1999										1	8	9	6.34	400.47	9.88	
チャート合計			2								1	8	11	7.75	417.86	10.31	
砂岩	1999										3	4	7	4.93	352.86	8.70	
流紋岩	1001	1												1	0.70	2.84	0.07
	1002				2									2	1.41	63.28	1.56
	1999										1	4	5	3.52	582.96	14.38	
流紋岩合計		1			2						1	4	8	5.63	649.08	16.01	
石英斑岩	1999										4	7	11	7.75	1,495.66	36.89	
全体点数合計		10	2	2	4	5	1	1	66	11	7	10	23	142	100.00	4,054.04	100.00



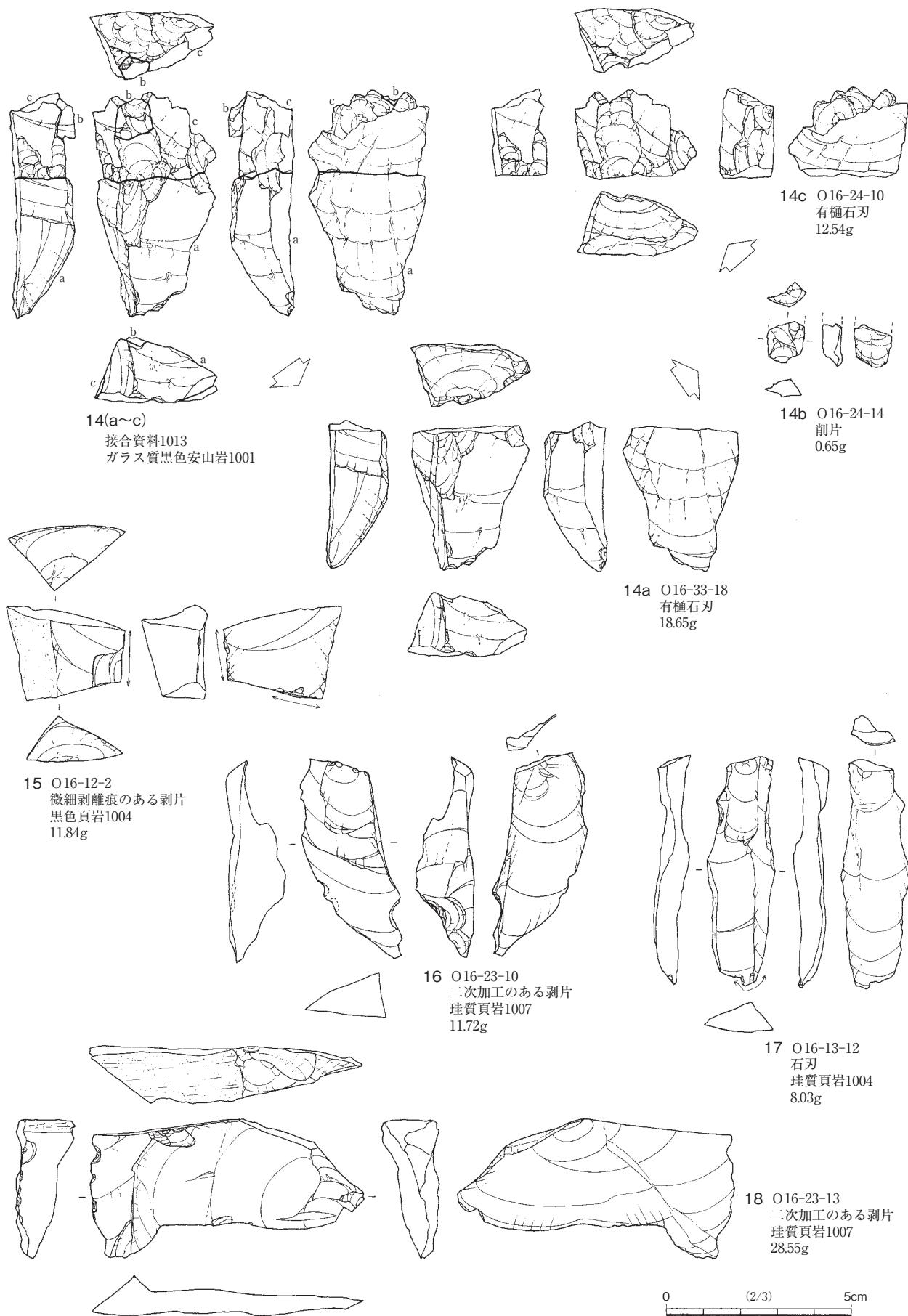
第2-6図 第1文化層第1ブロック器種別分布



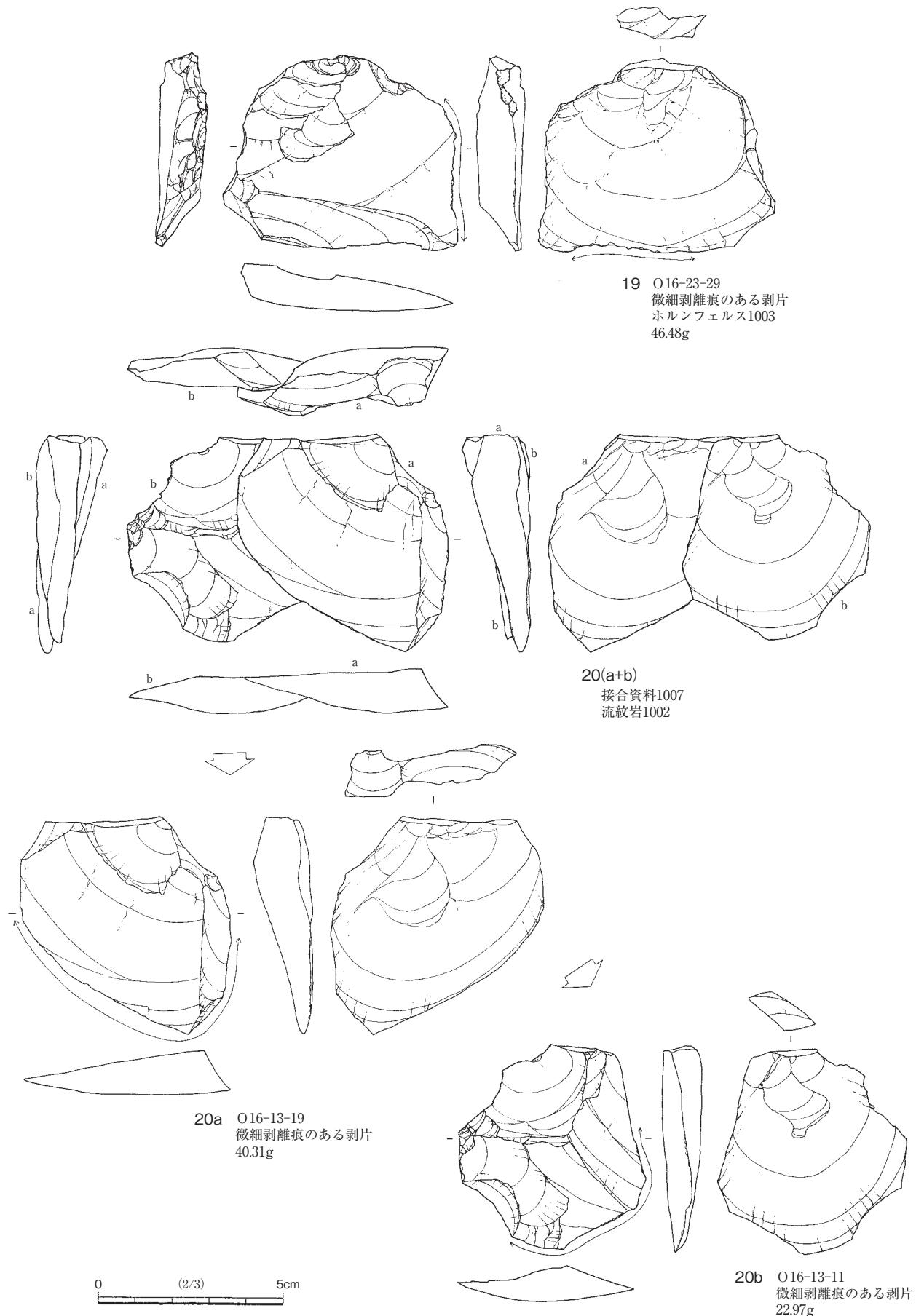
第2-7図 第1文化層第1ブロック母岩別分布



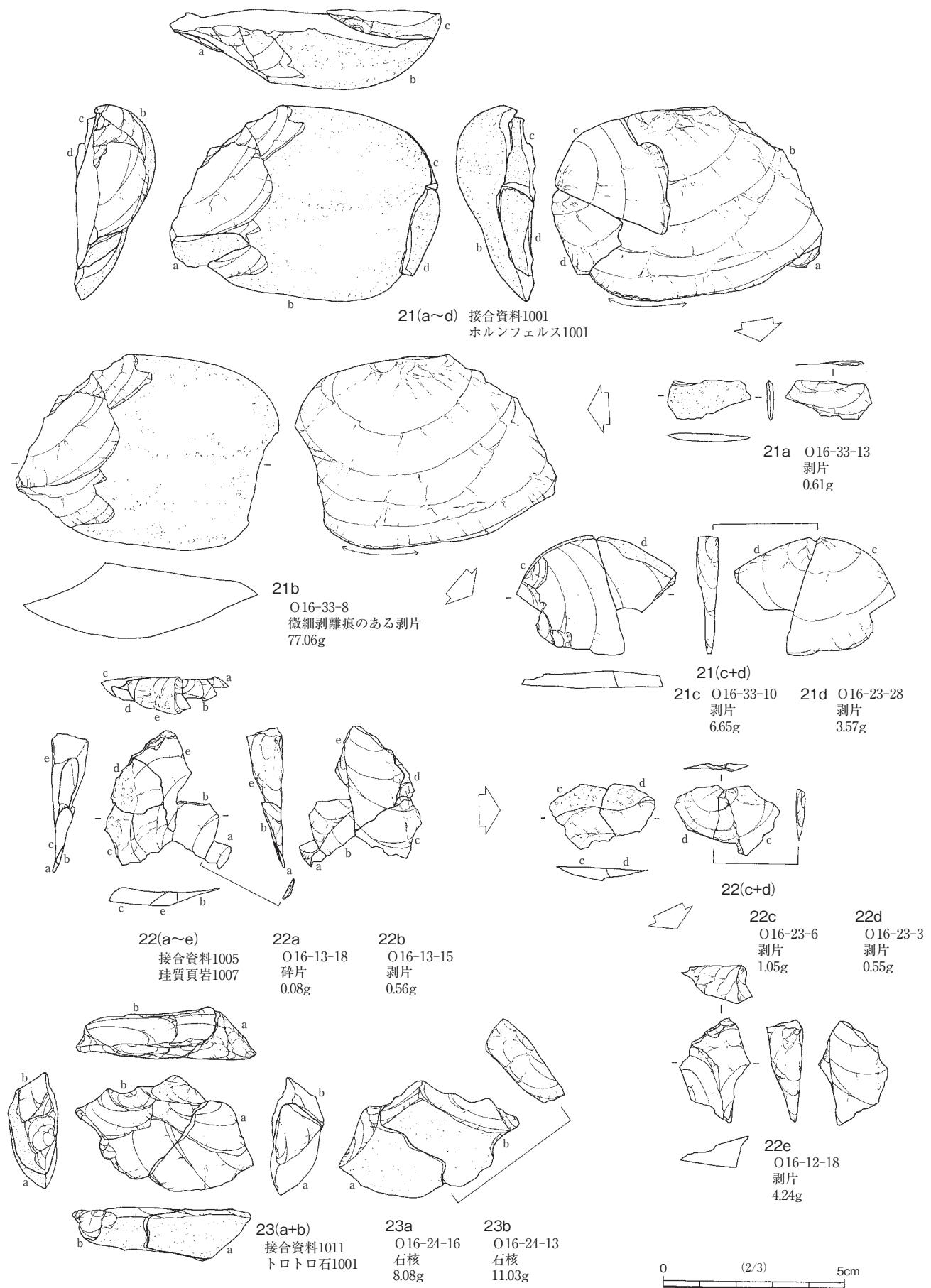
第2-8図 第1文化層第1ブロック出土石器(1)



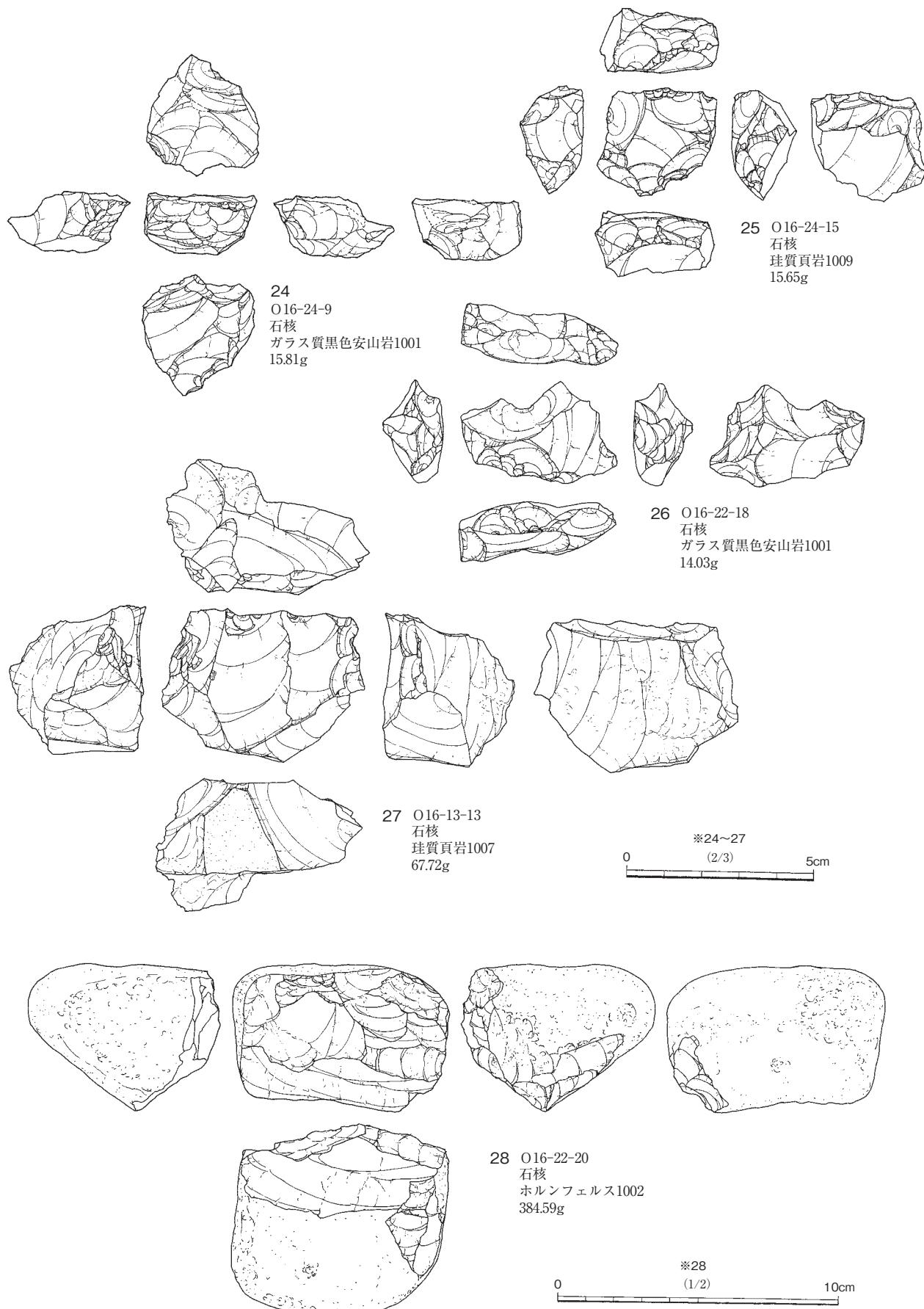
第2-9図 第1文化層第1ブロック出土石器(2)



第2-10図 第1文化層第1ブロック出土石器(3)



第2-11図 第1文化層第1ブロック出土石器(4)



第2-12図 第1文化層第1ブロック出土石器(5)

3 第1文化層第2ブロック(第2-13~15図、第2-6表、図版3・5)

出土状況 調査区北西部のL15-62~65、72・73グリッドに分布している。北東に急傾斜する斜面の縁辺に立地する。第1文化層のなかでは、第2~6ブロックが西側に近接して分布しており、第2ブロックは、そのまとまりの中で最も北側に分布している。11.6m×11.7mの範囲から21点の石器が出土した。東西方向に帶状に分布しており、西部・中央部・東部の3か所の集中地点がみられる。中央部に敲石と礫・礫片が分布し、西部と東部に石器類が分布している。IXa層からVII層にかけて出土しており、VII層下部に集中する。

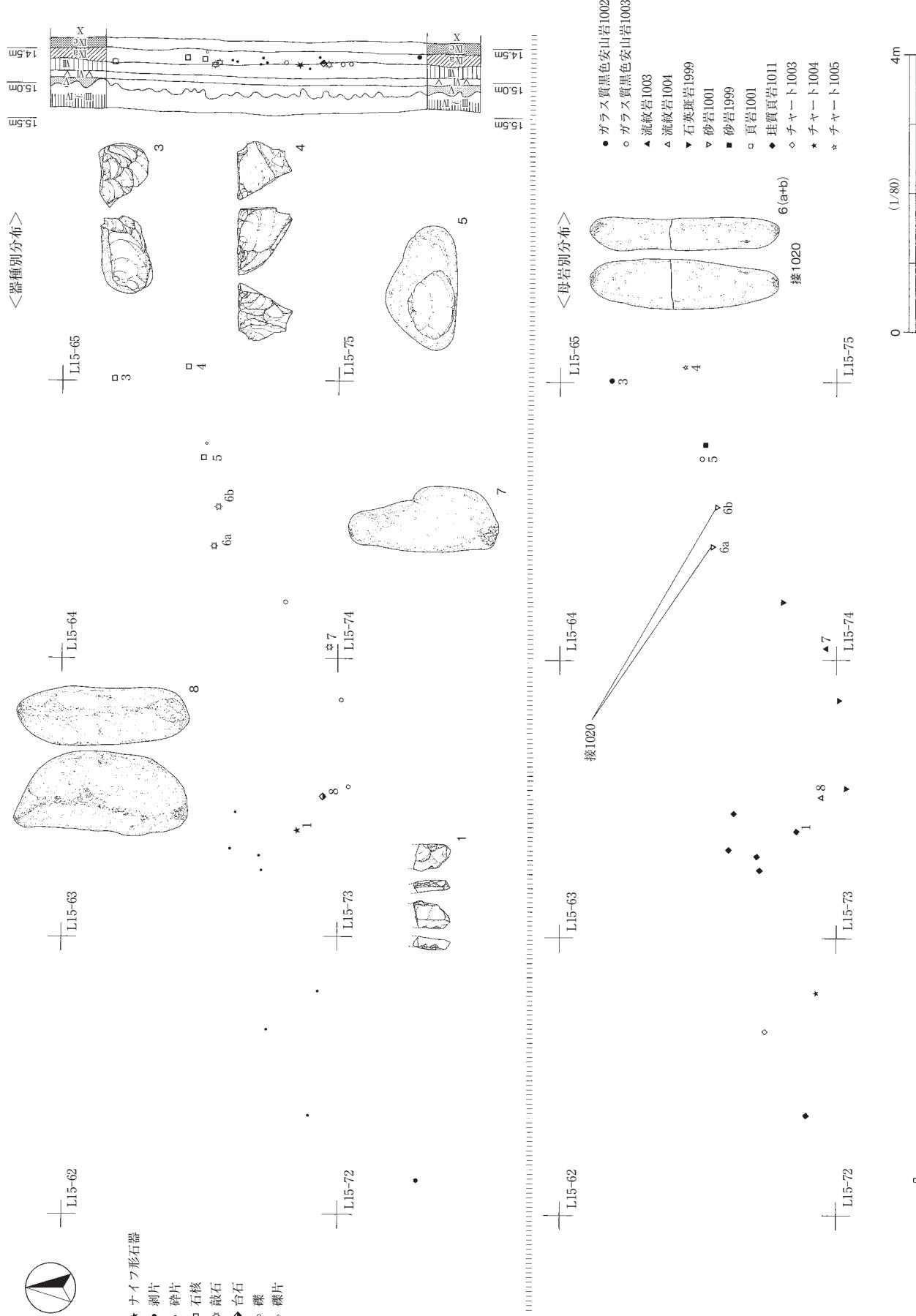
出土遺物 器種組成はナイフ形石器1点、有柄石刃1点、剥片1点、碎片7点、石核3点、敲石3点、台石1点の石器類17点と礫3点、礫片1点の礫・礫片4点で構成される。石器類の石材は珪質頁岩6点、チャート3点、ガラス質黒色安山岩2点、砂岩2点、流紋岩2点、黒曜石1点、頁岩1点である。礫・礫片の石材は石英斑岩3点、砂岩1点である。

1はナイフ形石器である。器体の中央部から破損して基部が残存している。第1ブロック出土のナイフ形石器と同様に、石刃を素材として打面部側を基部に設置している。右側縁に急角度の調整加工が施され、左側縁は裏面側に平坦な調整加工が施されている。素材の打面はわずかに残っている。基部はやや尖った形状をしており、第1ブロックの1・2・6・7の基部の形状と類似している。東林跡型ナイフ形石器ととらえられる。2は有柄石刃である。中型の石刃を素材として上面を打面として表面中央部に柄状剥離を行われている。第1ブロックの14(a~c)の接合資料と同様に、石刃を素材として柄状剥離を行っている。本資料は素材となる石刃の大きさが小さいため、柄状剥離は表面中央部に1回のみ行われている。

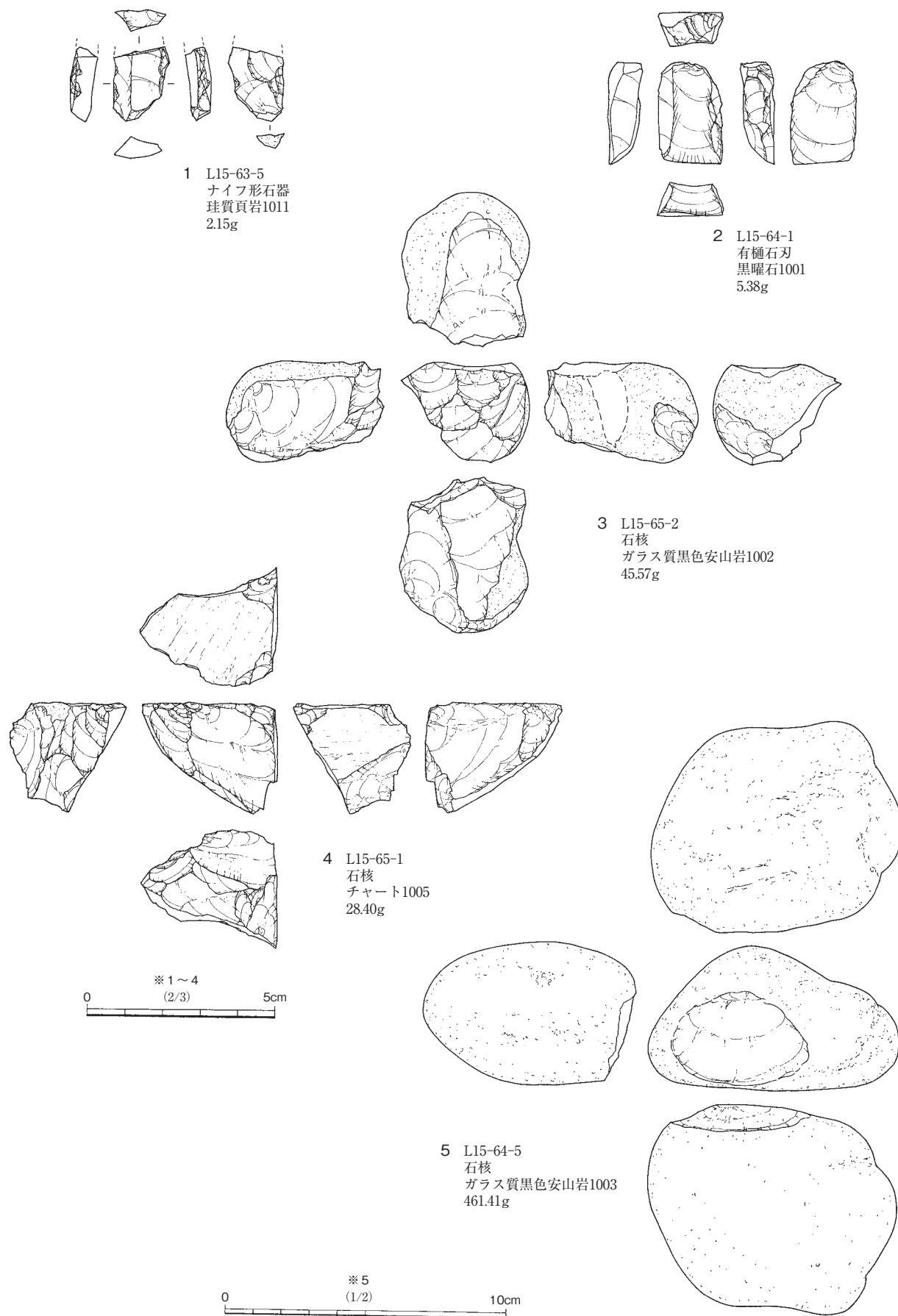
3~5は石核である。3は分割した橢円形礫を素材としている。分割面は下面中央部に残り、剥離順序は、左面左上部を打面として横長剥片を剥離→上面下部を打面として表面方向に小型の横長剥片を数枚剥離となる。4は節理面に沿って剥離された角礫を素材としている。剥離順序は、右面右上部を打面として横長剥片を剥離→下面右下部を打面として横長剥片を剥離→上面下部を打面として表面方向に数枚の剥片の剥離となる。5は不定形な橢円形礫を素材として上面の自然面を打面として横長剥片を剥離している。

第2-6表 第1文化層第2ブロック組成表

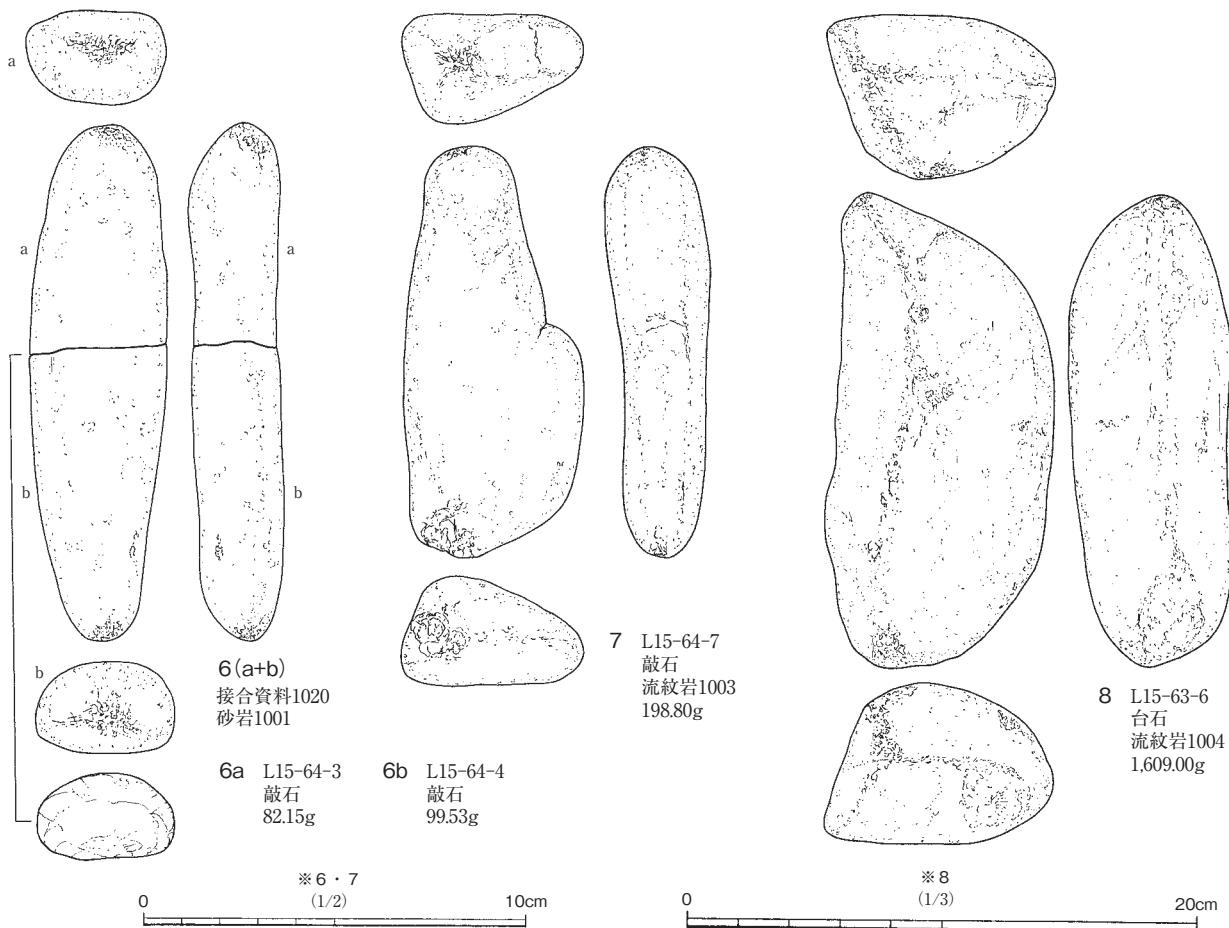
母岩	器種	母岩番号	ナイフ形石器	有柄石刃	剥片	碎片	石核	敲石	台石	礫	礫片	点数合計	点数比 (%)	重量合計 (g)	重量比 (%)
黒曜石		1001		1								1	4.76	5.38	0.14
ガラス質安山岩		1002					1					1	4.76	45.57	1.18
		1003					1					1	4.76	461.41	11.93
ガラス質安山岩	合計						2					2	9.52	506.98	13.11
頁岩		1001			1							1	4.76	20.19	0.52
珪質頁岩		1011	1				5					6	28.57	3.04	0.08
チャート		1003					1					1	4.76	0.39	0.01
		1004					1					1	4.76	0.15	0.00
		1005					1					1	4.76	28.40	0.73
チャート	合計				2	1						3	14.29	28.94	0.75
砂岩		1001					2					2	9.52	181.68	4.70
		1999								1	1	4.76	11.47	0.30	
砂岩	合計						2			1	3	14.29	193.15	5.00	
流紋岩		1003					1					1	4.76	198.80	5.14
		1004							1			1	4.76	1,609.00	41.61
流紋岩	合計						1	1				2	9.52	1,807.80	46.75
石英斑岩		1999								3		3	14.29	1,301.13	33.65
全体	点数合計		1	1	1	7	3	3	1	3	1	21	100.00	3,866.61	100.00



第2-13図 第1文化層第2ブロック遺物分布



第2-14図 第1文化層第2ブロック出土石器(1)



第2-15図 第1文化層第2ブロック出土石器(2)

6・7は敲石である。どちらも握りやすい形状のものが用いられている。6は細長い棒状の楕円形礫を用いて上下両端に敲打痕がみられる。器体の中央部から破損している。細長い形状のため、敲打時の衝撃によって破損した可能性が高い。7は扁平で上下両端が突出した楕円形礫を用いている。上下両端に敲打痕がみられる。下端部は強い敲打により剥離面が形成されている。8は台石である。大型で扁平な楕円形礫を用いている。表面の器体中央部付近が高くなっている。その高まりに沿って凹み痕が列状に連なっている。表面中央と表面下部付近には、あばた状の凹み痕が集中している。

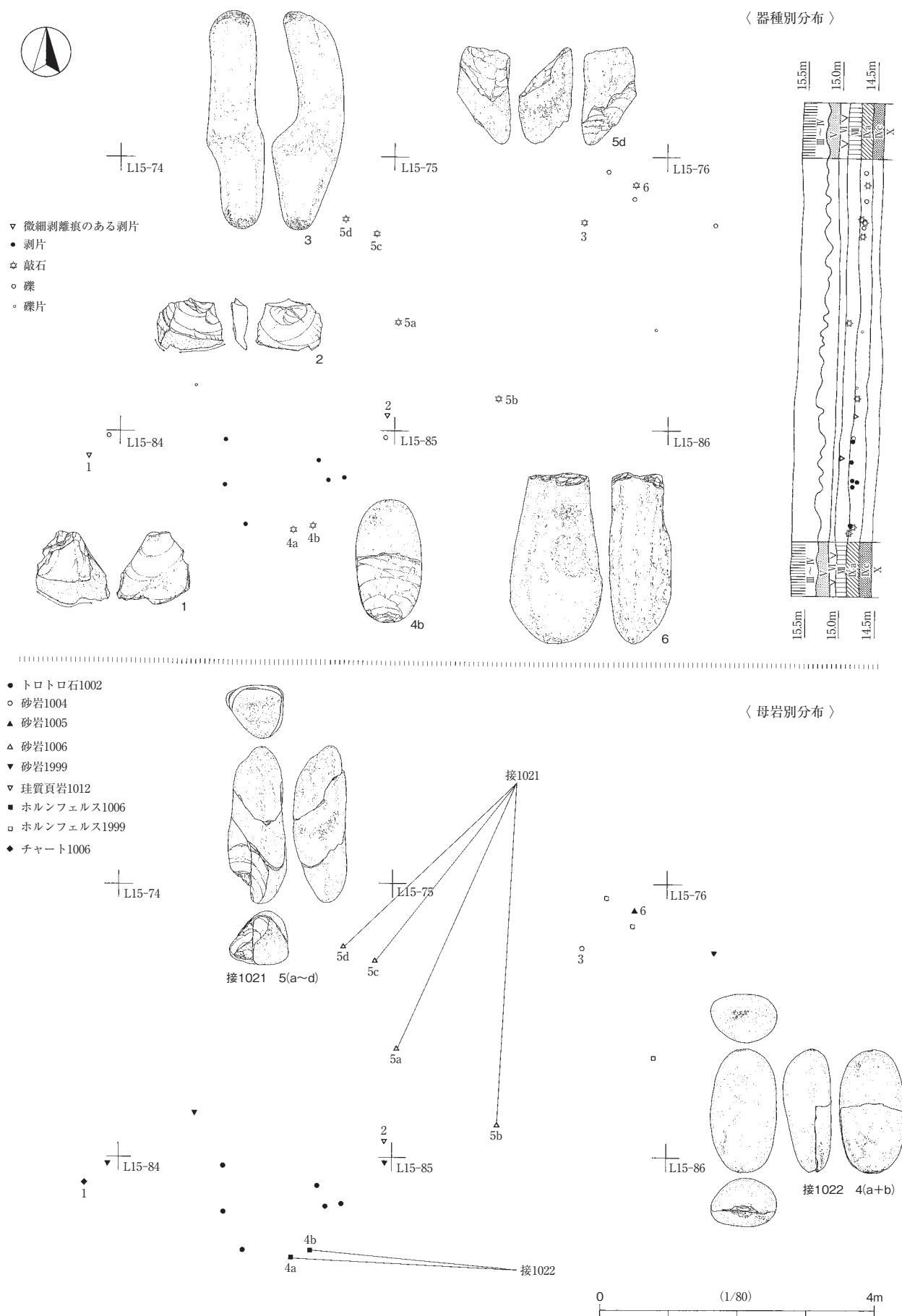
4 第1文化層第3ブロック(第2-16~18図、第2-7表、図版3・5)

出土状況 調査区北西部のL15-74~76・83・84グリッドに分布している。北東に急傾斜する斜面の縁辺に立地する。第2ブロックの南東側に隣接して分布している。5.4m×9.2mの範囲から23点の石器が出土した。北東部と南西部の2か所の集中地点がみられる。北東部は敲石と礫・礫片を主体とし、南西部は石器類を主体とする。IXa層からVI層にかけて出土しており、VII層下部に集中する。

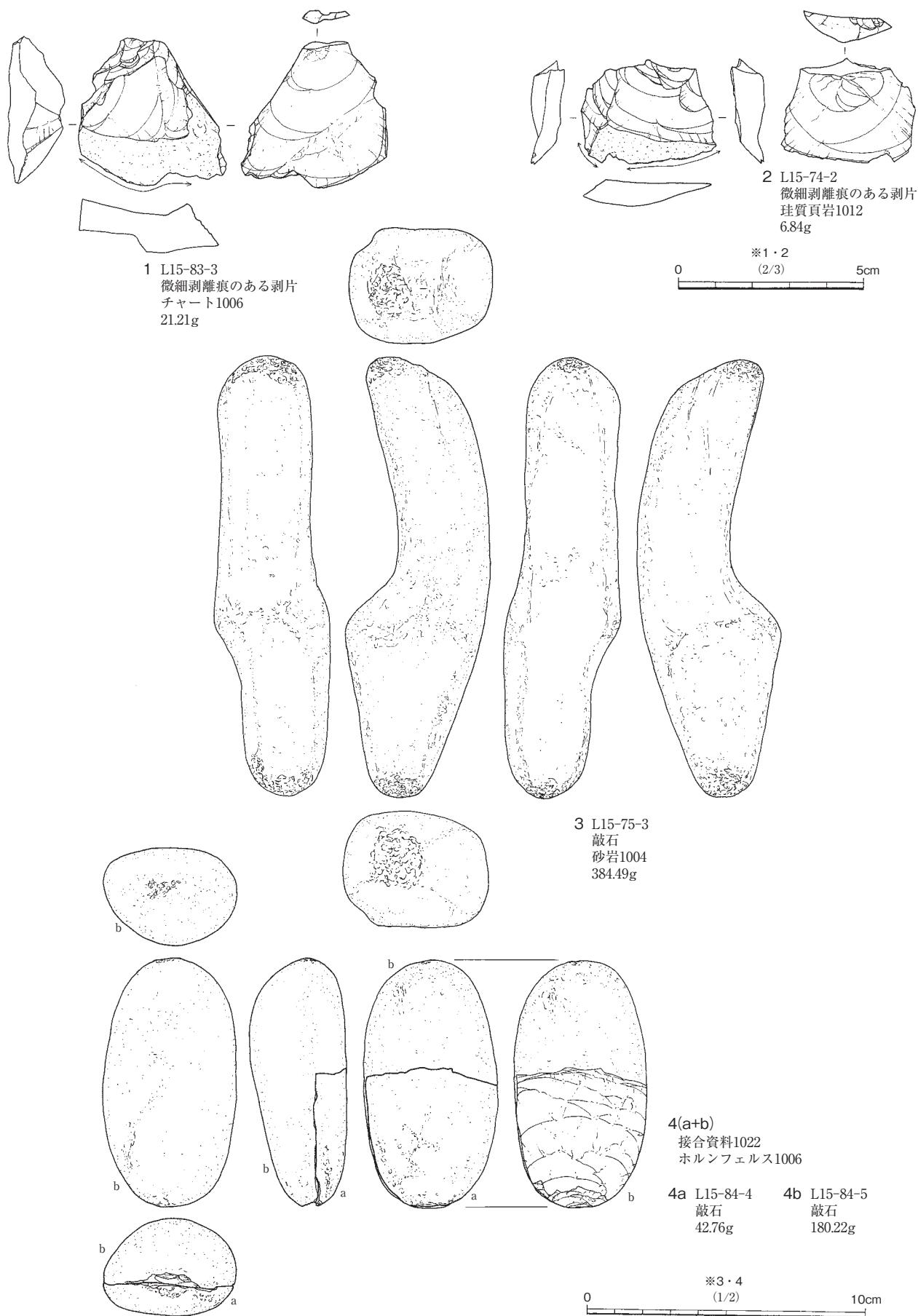
出土遺物 器種組成は微細剥離痕のある剥片2点、剥片6点、敲石8点の石器類16点と礫5点、礫片2点の礫・礫片7点で構成される。石器類の石材はトロトロ石6点、砂岩6点、ホルンフェルス2点、珪質頁岩1点、チャート1点である。礫・礫片の石材は砂岩4点、ホルンフェルス3点である。

1・2は微細剥離痕のある剥片である。1は下端部に厚みのある剥片を素材とし、末端部に微細剥離痕がみられる。2は厚みのない横長剥片を素材とし、末端部の縁辺部に微細剥離痕がみられる。

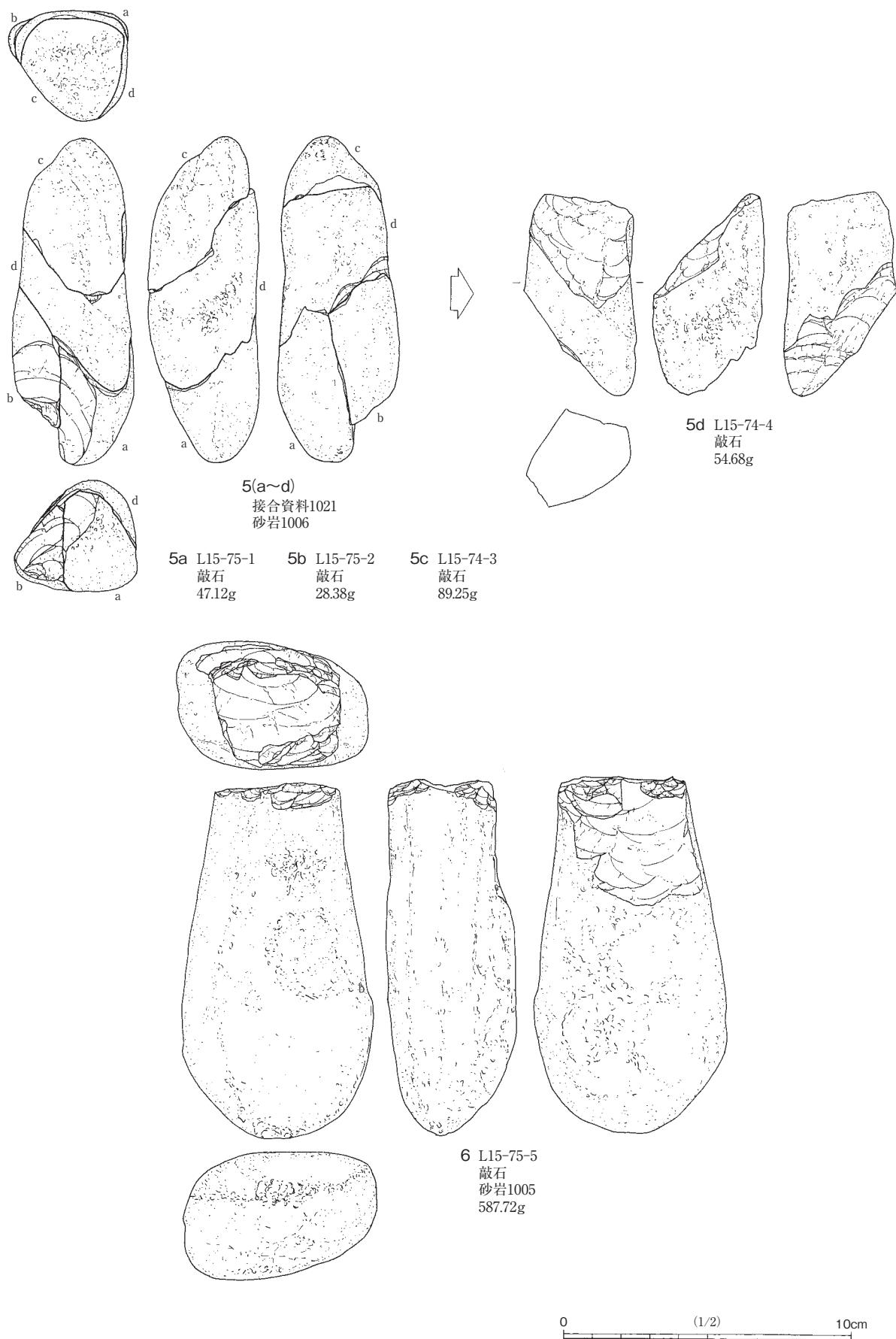
3~6は敲石である。3は棒状の楕円形礫を用いている。器体の中央部付近が細くなっている。握りや



第2-16図 第1文化層第3ブロック遺物分布



第2-17図 第1文化層第3ブロック出土石器(1)



第2-18図 第1文化層第3ブロック出土石器(2)

すい形状をしている。上下両端に顕著な敲打痕がみられる。特に下端部が敲打の頻度が高い。4(a+b)は橢円形礫を用いており、上下両端に顕著な敲打痕がみられる。裏面平坦面の左上部と左下部には帯状に1~2cm程度の長さの擦痕がみられる。下端部の敲打により破損して4aが剥離されている。4bは破損後も使用されており、下端部に敲打痕がみられる。5(a~d)は厚みのある橢円形礫を用いており、上下両端と表面中央部に敲打痕がみられる。下端部の敲打により5aと5bが剥離されている。さらに、上端部の敲打により5cが剥離されている。接合した4点の敲石は、5aと5bが赤みを帯び、5cと5dが黒みを帯び変色している。破損後に火熱を受けて変色した可能性がある。第1文化層においては、第1~4・6ブロックが礫・礫片を伴っており、礫群を形成していたととらえられる。5(a~d)の敲石は、破損した後に礫群の礫片として用いられた可能性が高い。6は大型で厚みのある橢円形礫を用いており、上下両端に敲打痕がみられる。上端部は破損した後も敲打が続けられ、破損面の縁辺部に細かい剥離面が形成されている。表裏両面の平坦面には、あばた状の凹み痕が数か所みられることから、台石として用いられた可能性もある。

第2-7表 第1文化層第3ブロック組成表

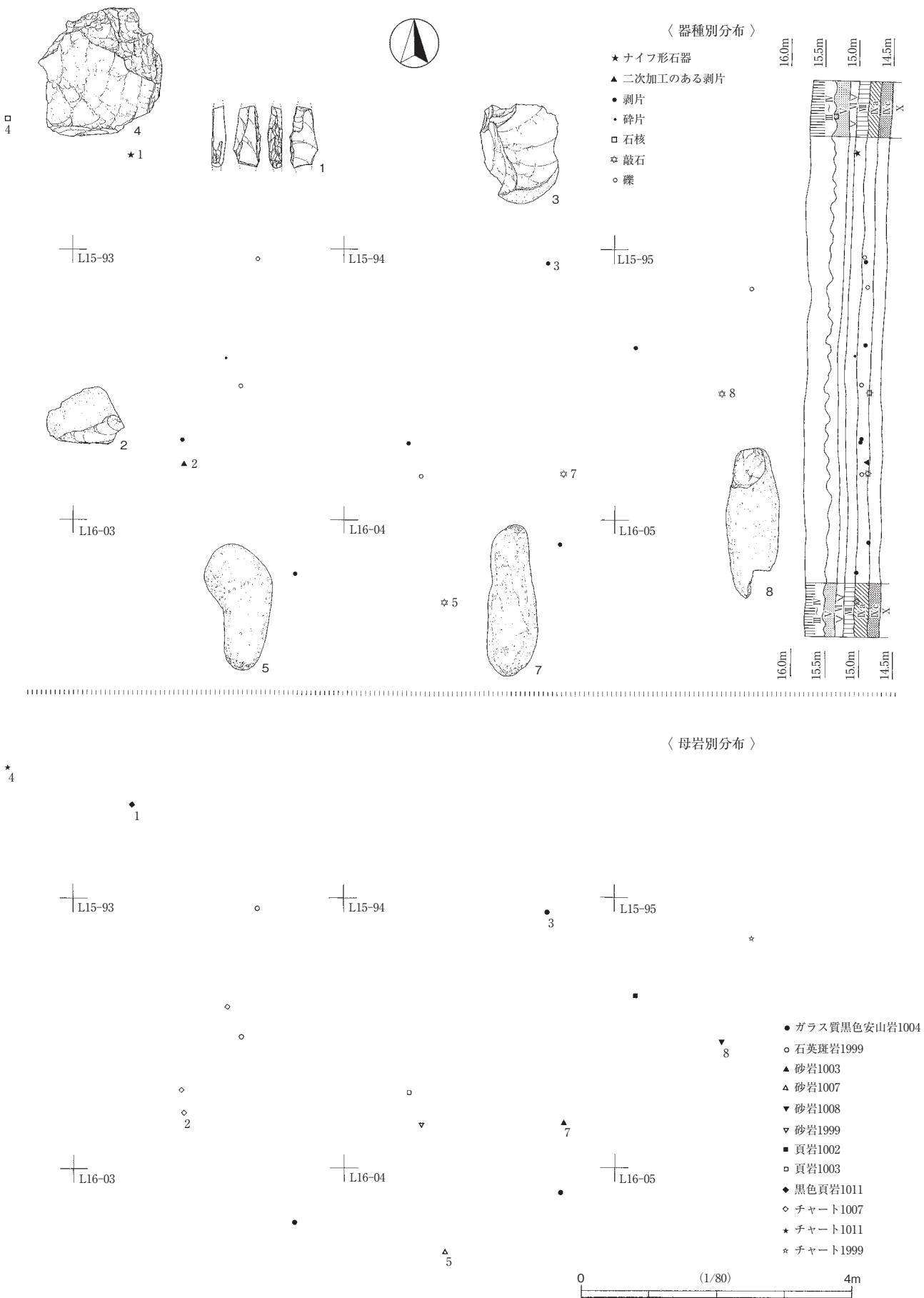
母岩	器種	母岩番号	微細剥離痕のある剥片	剥片	敲石	礫	礫片	点数合計	点数比(%)	重量合計(g)	重量比(%)
トロトロ岩		1002		6				6	26.09	57.45	1.78
珪質頁岩		1012	1					1	4.35	6.84	0.21
ホルンフェルス		1006			2			2	8.70	222.98	6.90
		1999				2	1	3	13.04	592.64	18.35
ホルンフェルス	合計				2	2	1	5	21.74	815.62	25.25
チャート		1006	1					1	4.35	21.21	0.66
砂岩		1004			1			1	4.35	384.49	11.90
		1005			1			1	4.35	587.72	18.19
		1006			4			4	17.39	219.43	6.79
		1999				3	1	4	17.39	1,137.56	35.22
砂岩	合計				6	3	1	10	43.48	2,329.20	72.10
全体	点数合計		2	6	8	5	2	23	100.00	3,230.32	100.00

5 第1文化層第4ブロック(第2-19・20図、第2-8表、図版3・5)

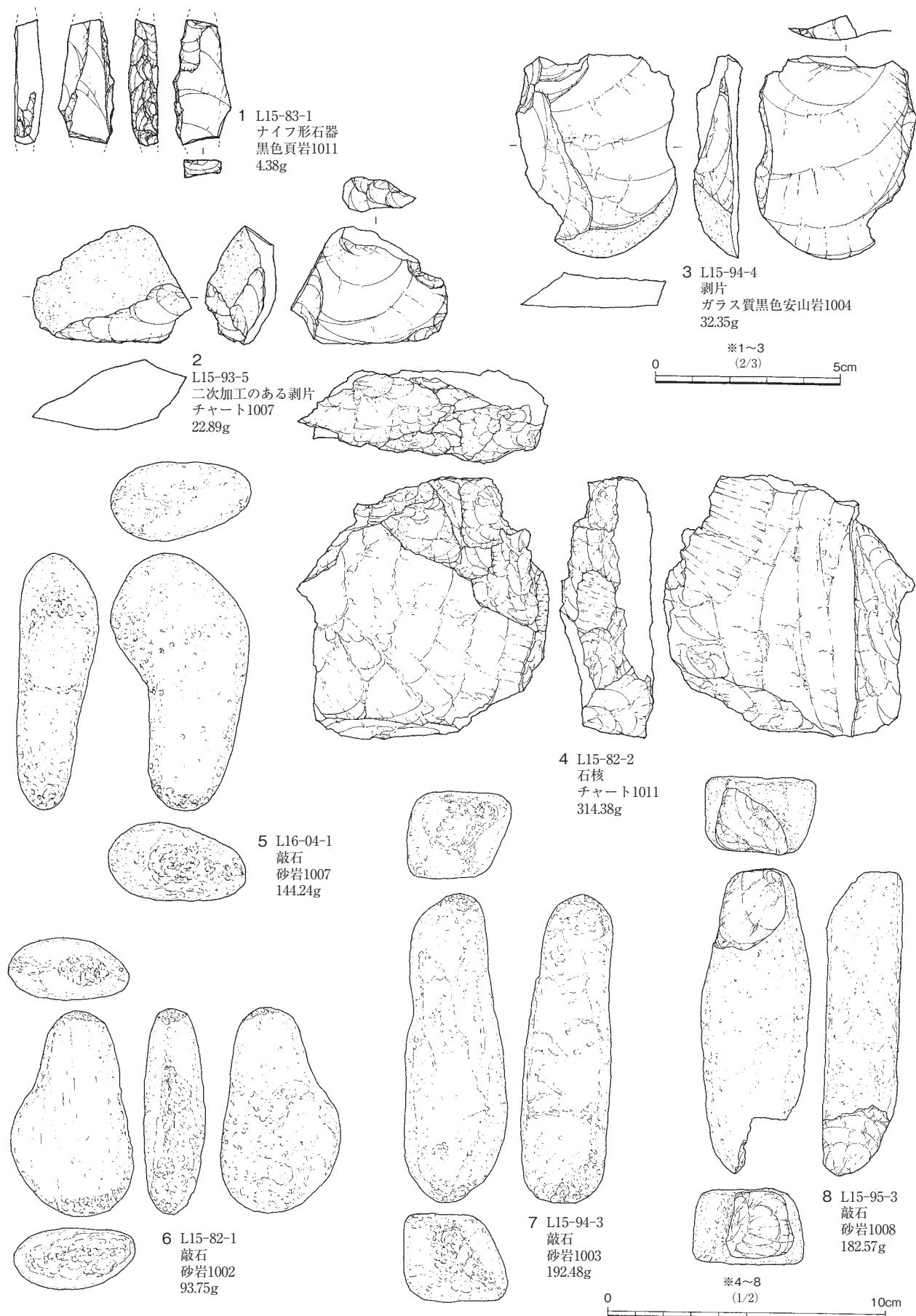
出土状況 調査区北西部のL15-82・83・93~95、L16-03・04グリッドに分布している。北東に急傾斜する斜面の縁辺に立地する。第3ブロックの南側に隣接して分布する。6.8m×11.0mの範囲から19点の石器が出土した。第2・3ブロックに比べて散漫な分布状況である。西部と東部の2か所の集中地点がみられる。どちらの集中地点も石器類が主体で、礫がわずかに出土している。敲石は東部の集中地点の南側に分布している。IXc層からVI層にかけて出土しており、VII層下部に集中する。

出土遺物 器種組成はナイフ形石器1点、二次加工のある剥片1点、剥片6点、碎片2点、石核1点、敲石4点の石器類15点と礫4点で構成される。石器類の石材はチャート4点、砂岩4点、ガラス質黒色安山岩3点、頁岩2点、黒曜石1点、黑色頁岩1点、礫の石材は石英斑岩2点、チャート1点、砂岩1点である。

1はナイフ形石器である。石刃を素材とし、右側縁と左側縁下部に急角度の調整加工が施されている。先端部と下端部が破損して全体形状が不明であるが、第1ブロックで黒色頁岩製の東林跡型ナイフ形石器がまとまって出土しており、本資料も東林跡型ナイフ形石器ととらえられる。裏面上部の楕円状の剥離面は先端部が破損した際の剥離面の可能性もあるが、第1ブロックの14(a~c)や第2ブロックの2の資料において有楕円形石器が出土していることから、本資料はナイフ形石器を素材として楕円状剥離を行い、鋭利な縁辺部を作出した資料ととらえられる。2は厚みのある横長剥片を素材とする二次加工のある剥片である。剥離順序は、右側縁下部を打面として表面下部方向に縦長剥片を剥離→表面右下部を打面として裏面左下部方向



第2-19図 第1文化層第4ブロック遺物分布



第2-20図 第1文化層第4ブロック出土石器

に細長の剥片の剥離となる。石核として分類することも可能である。3は幅広の板状の剥片で、右側縁は折れていることから折断剥片ととらえたが、横長の剥片を剥離した石核と分類することも可能である。4は石核である。節理面に沿って剥離された大型で板状の剥片を素材としている。剥離順序は、表面右下部を打面として裏面下部方向に横長剥片を剥離→裏面上部を打面として上面方向に横長剥片を剥離→表面左部を打面として裏面方向に横長剥片を剥離→裏面左上部を打面として表面方向に横長剥片を数枚剥離となる。

5～8は敲石である。5は上部が幅広で下部が棒状の橢円形礫を用いている。第2ブロックの7や第3ブロックの3と同様、非常に握りやすい形状をしている。下端部に強い敲打痕、左面上部にやや弱い敲打痕がみられる。6は下部が幅広で上部が棒状の橢円形礫を用いている。上下両端に敲打痕がみられる。上端部は擦痕も観察されることから、敲打時の対象物の角度が垂直ではなく、斜め方向に擦るように敲打することによって形成された可能性が高い。下端部と裏面の平坦面下半部には、あばた状の凹み痕が数か所みられる。7は細長い橢円形礫を用いている。上下両端に敲打痕がみられる。8は断面が四角形をした細長い橢円形礫を用いている。上下両端に敲打痕がみられ、強い敲打により剥離面が形成されている。

第2-8表 第1文化層第4ブロック組成表

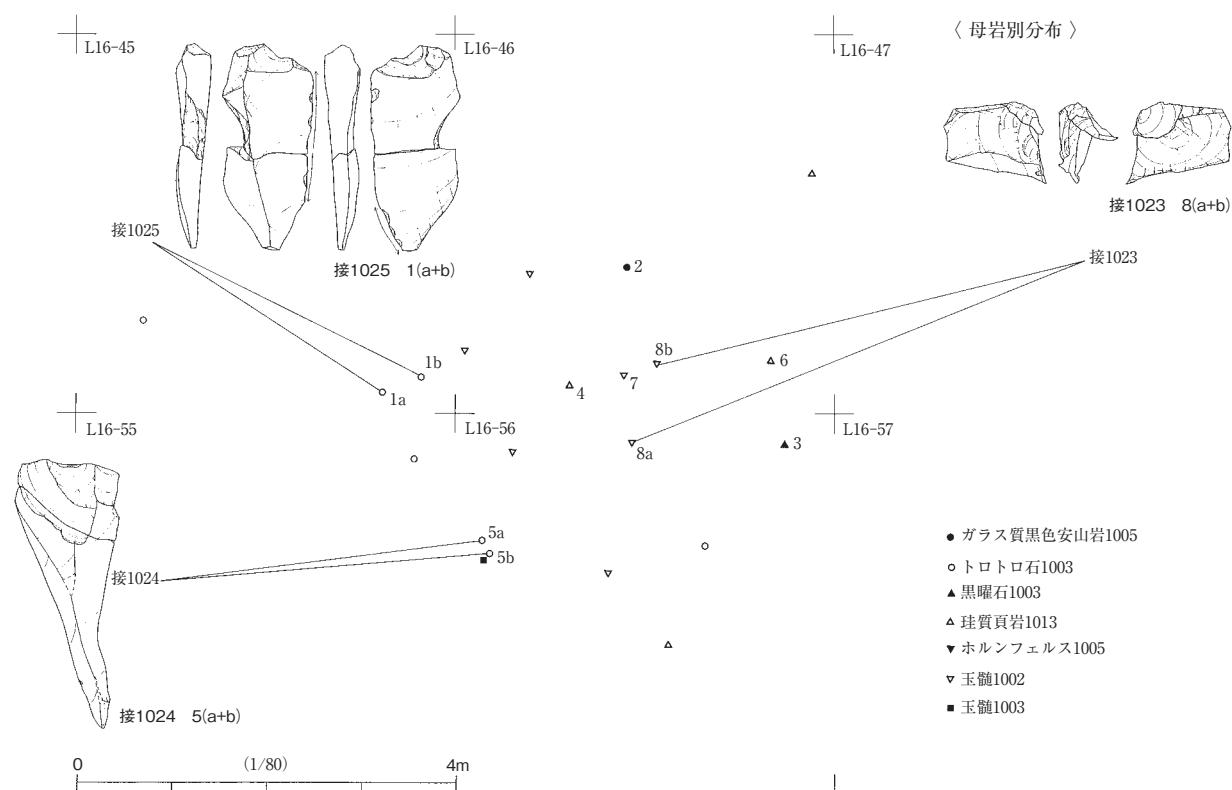
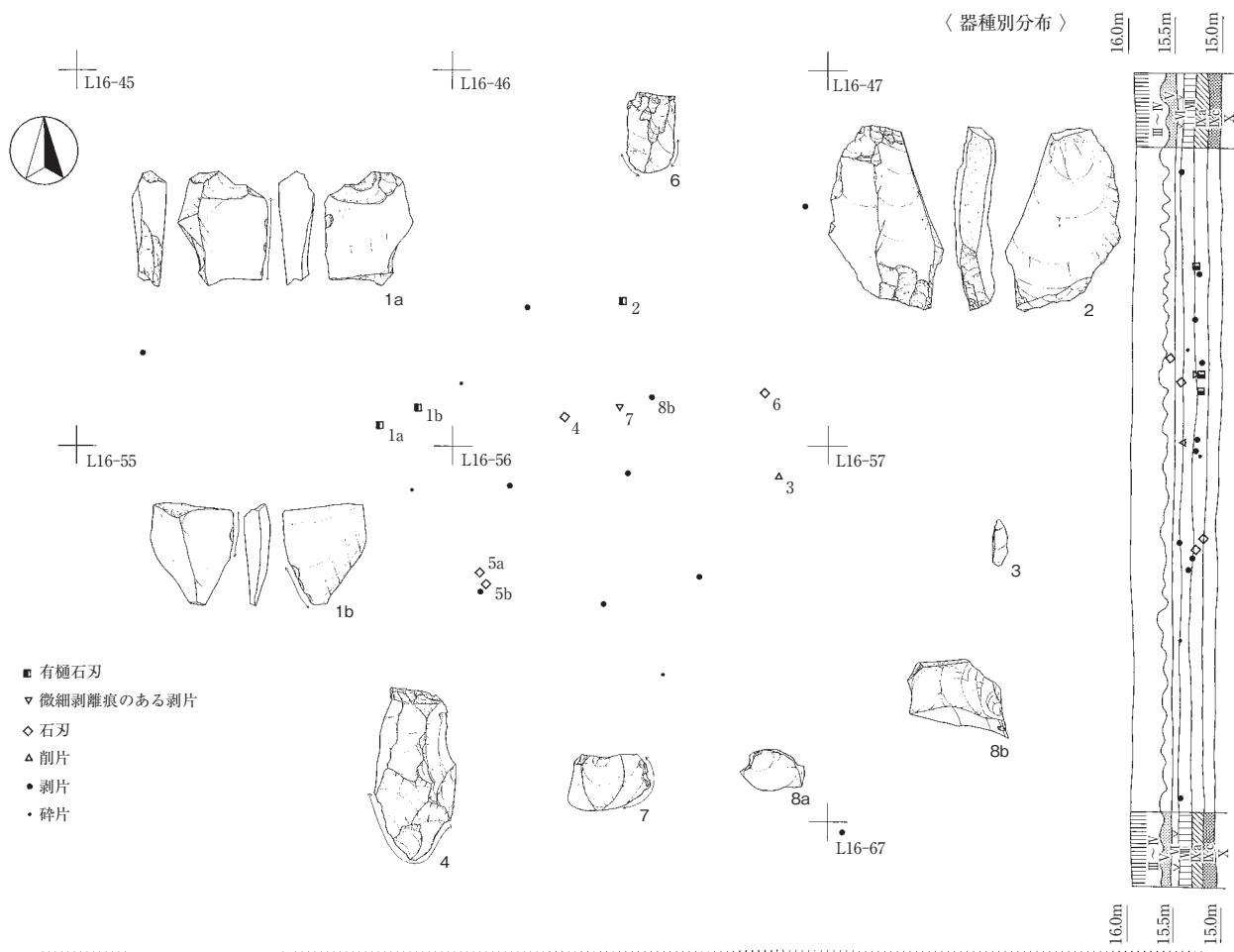
母岩	器種	母岩番号	ナイフ形石器	二次加工のある剥片	剥片	碎片	石核	敲石	礫	点数合計	点数比(%)	重量合計(g)	重量比(%)
黒曜石		1002				1				1	5.26	0.34	0.02
ガラス質黑色安山岩	合計	1004			3					3	15.79	51.11	2.35
頁岩		1002			1					1	5.26	0.47	0.02
		1003			1					1	5.26	3.76	0.17
頁岩	合計				2					2	10.53	4.23	0.19
黒色頁岩		1011	1							1	5.26	4.38	0.20
チヤート		1007		1	1	1				3	15.79	29.65	1.36
		1011					1			1	5.26	314.38	14.47
		1999							1	1	5.26	309.12	14.23
チヤート	合計			1	1	1	1		1	5	26.32	653.15	30.06
砂岩		1002					1			1	5.26	93.75	4.31
		1003					1			1	5.26	192.48	8.86
		1007					1			1	5.26	144.24	6.64
		1008					1			1	5.26	182.57	8.40
		1999							1	1	5.26	280.62	12.91
砂岩	合計						4	1	5	26.32	893.66	41.13	
石英斑岩		1999							2	2	10.53	566.03	26.05
全体	点数合計		1	1	6	2	1	4	4	19	100.00	2,172.90	100.00

6 第1文化層第5ブロック(第2-21～23図、第2-9表、図版3・6)

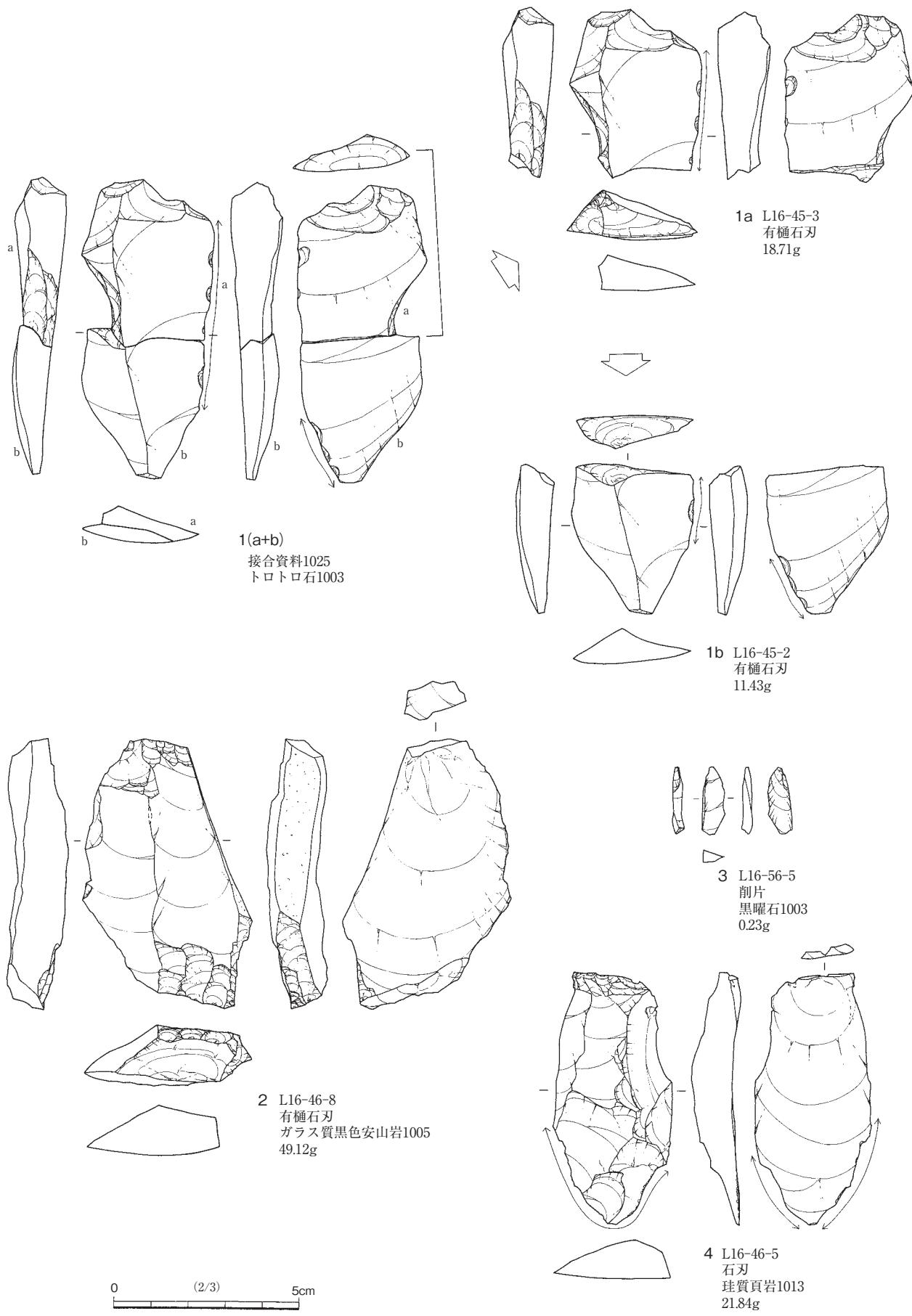
出土状況 調査区北西部のL16-45・46・55・56・66・67グリッドに分布している。北東に急傾斜する斜面の頂上に立地する。第4ブロックから南側にやや離れており、第1文化層では最も標高の高い地点に分布している。5.0m×7.4mの範囲から23点の石器が出土した。本文化層のなかで、礫群を伴わない唯一のブロックである。IXa層からV層にかけて出土しており、V層下部に集中する。

出土遺物 器種組成は有柄石刃3点、微細剥離痕のある剥片1点、石刃4点、削片1点、剥片11点、碎片3点の石器類23点で構成される。石器類の石材はトロトロ石8点、玉髓8点、珪質頁岩4点、黒曜石1点、ガラス質黑色安山岩1点、ホルンフェルス1点である。

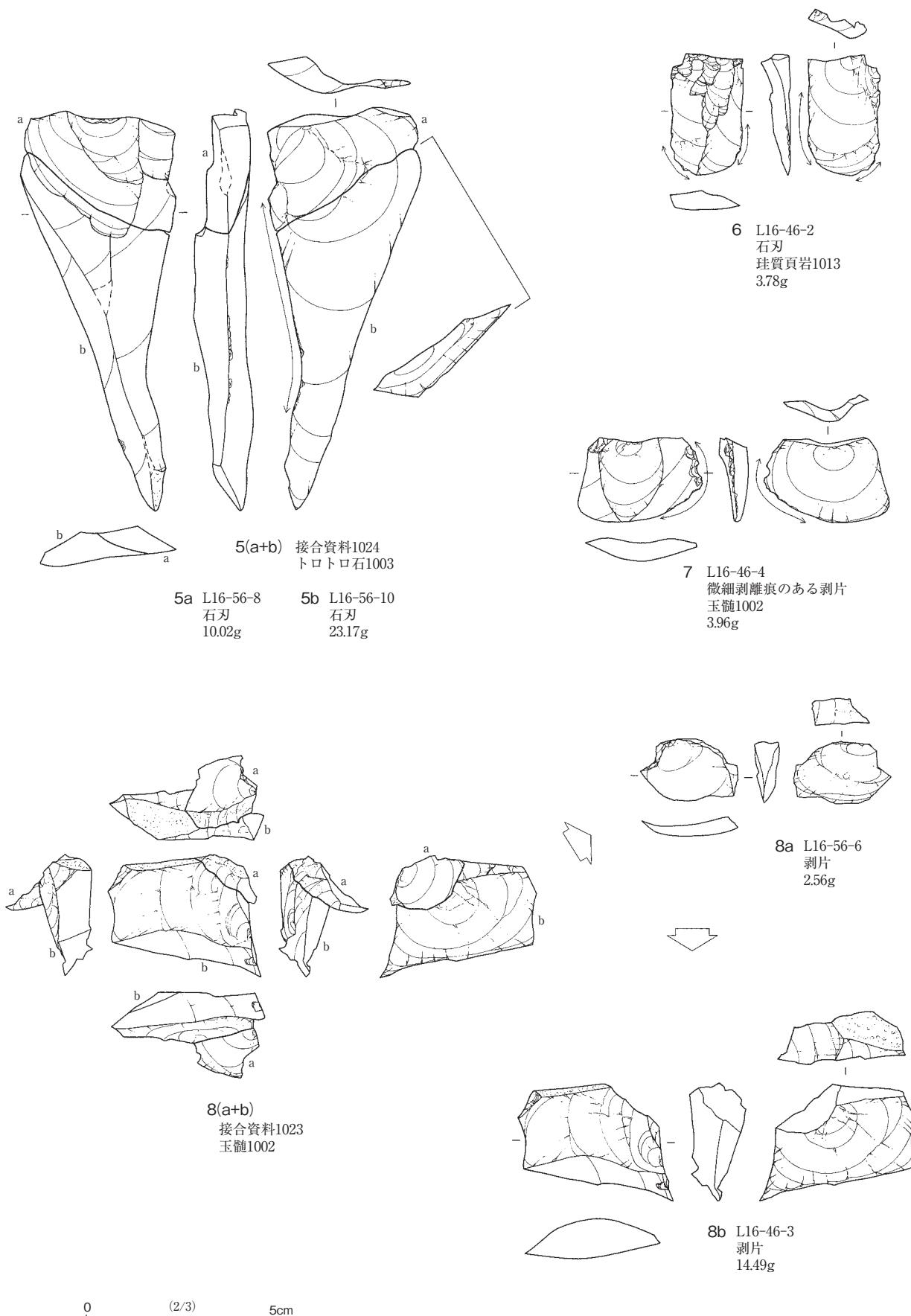
1(a+b)は有柄石刃の接合資料である。大型石刃を素材としている。3つの剥離工程がみられる。第1工程は、裏面上部を打面として表面方向に横長剥片を剥離した後に、表面上部に打面を転移して裏面方向に横長剥片を剥離している。第2工程は、大型石刃の表面中央部付近を打面として1aと1bとに2分割してい



第2-21図 第1文化層第5ブロック遺物分布



第2-22図 第1文化層第5ブロック出土石器(1)



第2-23図 第1文化層第5ブロック出土石器(2)

る。第3工程は、1aを素材として分割面を打面として左側面下部方向に3回の樋状剥離が行われている。1bは分割後に樋状剥離は行われていない。2は有樋石刃である。大型石刃を素材とし、裏面下部の分割面を打面として表面下部から右側面下部にかけて打点を順次移動しながら、7回の樋状剥離を行っている。

3は削片である。良質の黒曜石1003が用いられており、単独母岩で検出されている。大型石刃を素材として数回の樋状剥離を行った際に作出された削片である。素材である大型石刃の主要剥離面は、左面に残されている。樋状剥離の剥離面は、左側面上部と表面と裏面にそれぞれ1回ずつ観察できる。

4～6は石刃である。4と6は同一母岩の珪質頁岩1013が用いられている。どちらも頭部調整が顕著に行われているが、打面調整は行われていない。末端部に微細剥離痕がみられる。5(a+b)は末端部が非常に細い形状をしている。頭部調整はわずかに施されているが、打面調整は行われていない。裏面左側縁に微細剥離痕がみられる。器体上半部付近で5aと5bとに分割されているが、5aと5bとが接合した状態で微細剥離痕が観察されることから、使用等の際に破損したものと思われる。

7は微細剥離痕のある剥片である。横長剥片を素材として右側縁に微細剥離痕がみられる。8(a+b)と同じ玉髓1002が用いられている。8(a+b)は剥片の接合資料である。表面中央部の剥離面がポジティブ面であることから、分割した厚みのある剥片を素材として剥片剥離を行った可能性が高い。剥離順序は、表面右上部を打面として8aの横長剥片を剥離→上面の8aの剥離面を打面として8bの横長剥片を剥離となる。

第2-9表 第1文化層第5ブロック組成表

母岩	器種	母岩番号	有樋石刃	微細剥離痕のある剥片	石刃	削片	剥片	碎片	点数合計	点数比(%)	重量合計(g)	重量比(%)
黒曜石		1003			1				1	4.35	0.23	0.10
ガラス質黒色安山岩		1005	1						1	4.35	49.12	21.86
トロトロ石		1003	2		2		3	1	8	34.78	80.07	35.63
珪質頁岩		1013			2		1	1	4	17.39	49.08	21.84
玉髓		1002		1			5	1	7	30.43	36.44	16.22
		1003					1		1	4.35	4.32	1.92
玉髓合計				1			6	1	8	34.78	40.76	18.14
ホルンフェルス		1005					1		1	4.35	5.46	2.43
全体点数合計			3	1	4	1	11	3	23	100.00	224.72	100.00

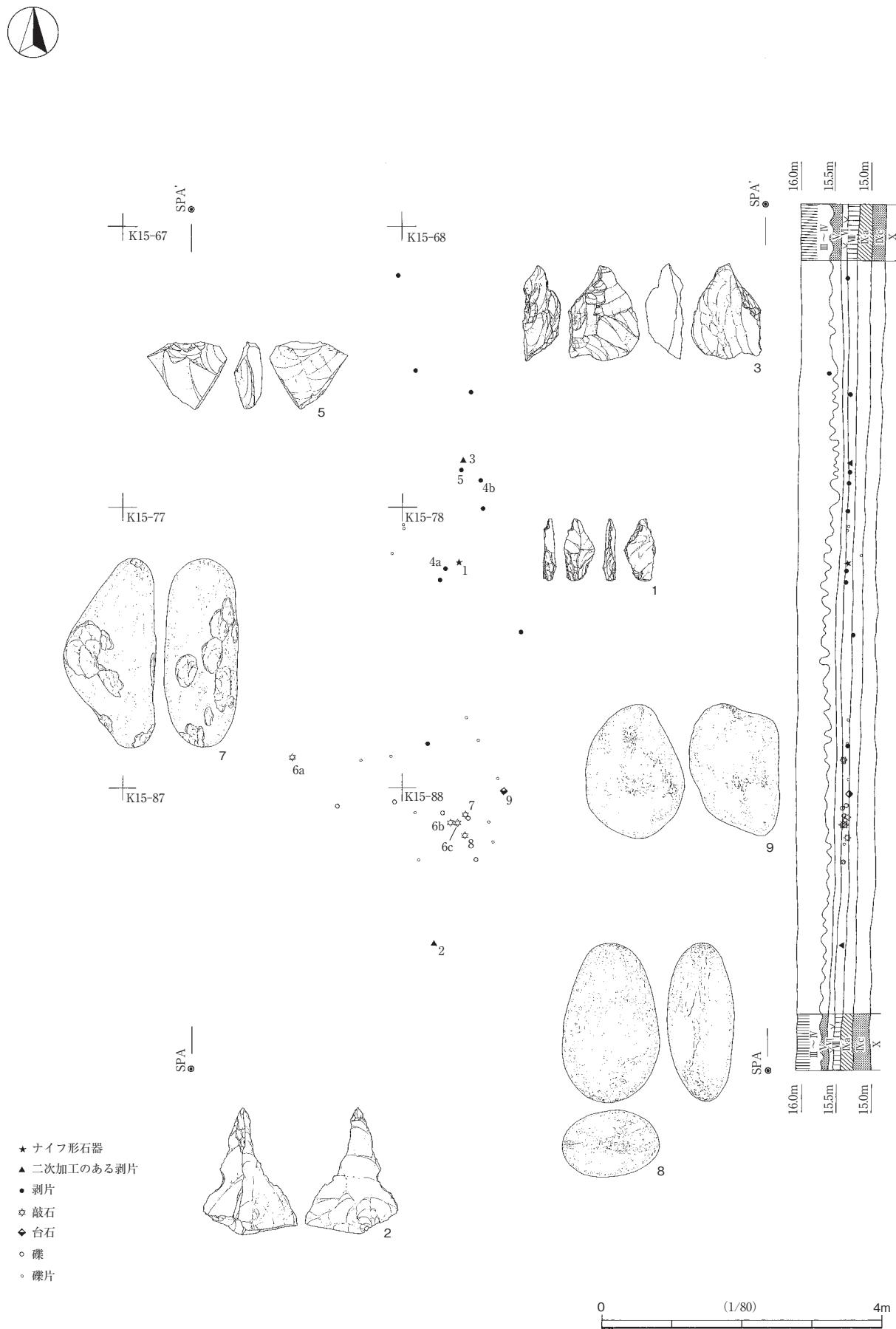
7 第1文化層第6ブロック(第2-24～27図、第2-10表、図版3・6)

出土状況 調査区北西部のK15-67・68・77・78・87・88グリッドに分布している。北東に急傾斜する斜面の縁辺に立地する。第2ブロックの西側にやや離れて分布している。9.6m×3.4mの範囲から36点の石器が出土した。北部と南部の2か所の集中地点がみられる。どちらの集中地点とともに石器類と礫・礫片が混在して分布しているが、北部は石器類を主体とし、南部は礫・礫片を主体とする。また、敲石は南部の集中地点にまとまって分布している。IXa層からV層にかけて出土しており、V層下部に集中する。

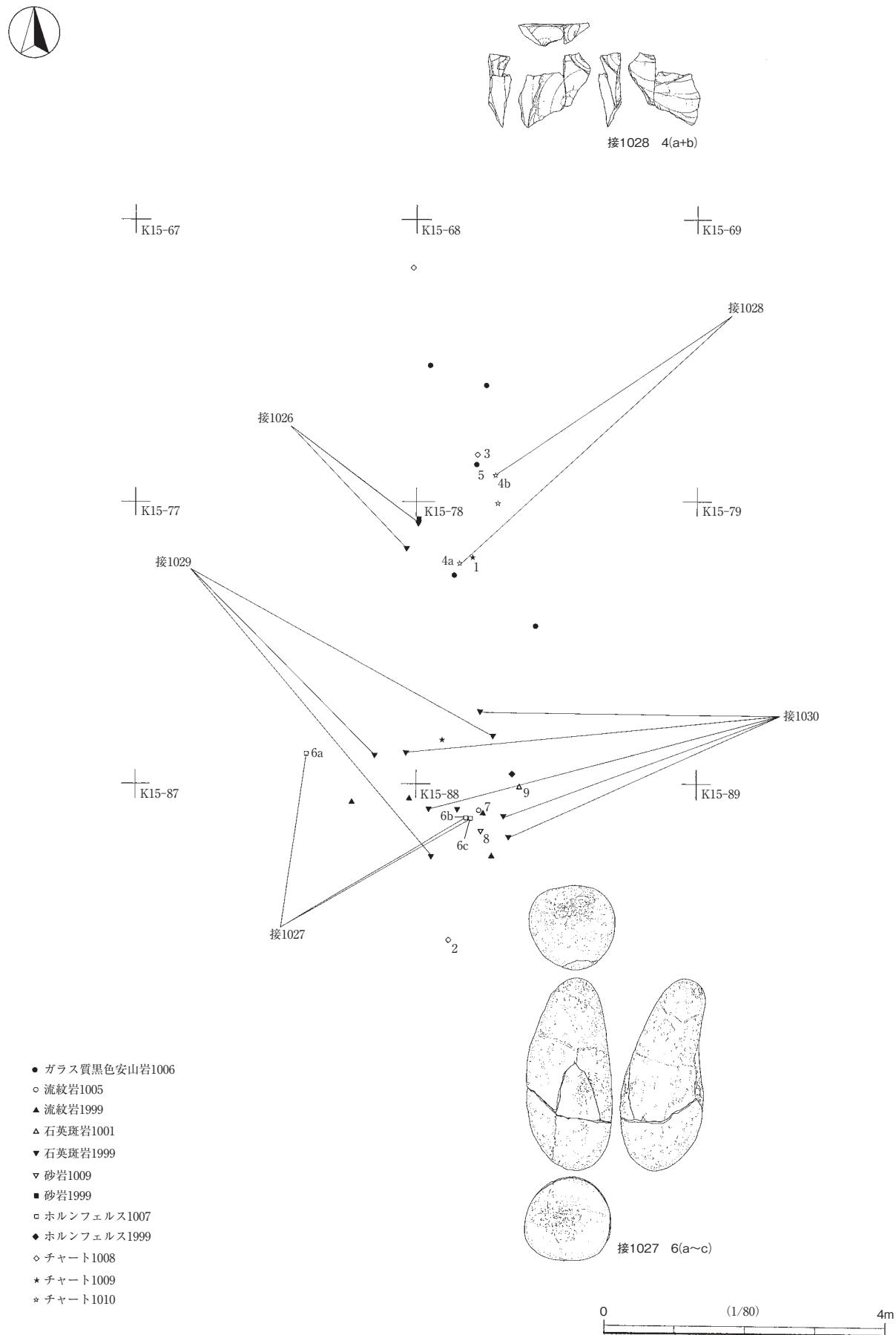
出土遺物 器種組成はナイフ形石器1点、二次加工のある剥片2点、剥片10点、敲石5点、台石1点の石器類19点と礫5点、礫片12点の礫・礫片17点で構成される。石器類の石材はチャート8点、ガラス質黒色安山岩5点、ホルンフェルス3点、砂岩1点、流紋岩1点、石英斑岩1点である。礫・礫片の石材は石英斑岩11点、流紋岩4点、ホルンフェルス1点、砂岩1点である。

1はナイフ形石器である。縦長剥片を斜位に用いて右側縁と左側縁下部に調整加工が施されている。右側縁下部は急角度の調整加工が、左側縁下部は表面方向に平坦な剥離が、左側縁上部は裏面方向に平坦剥離が施されている。裏面右上部に素材の縁辺がわずかに残されている。基部は折れている。

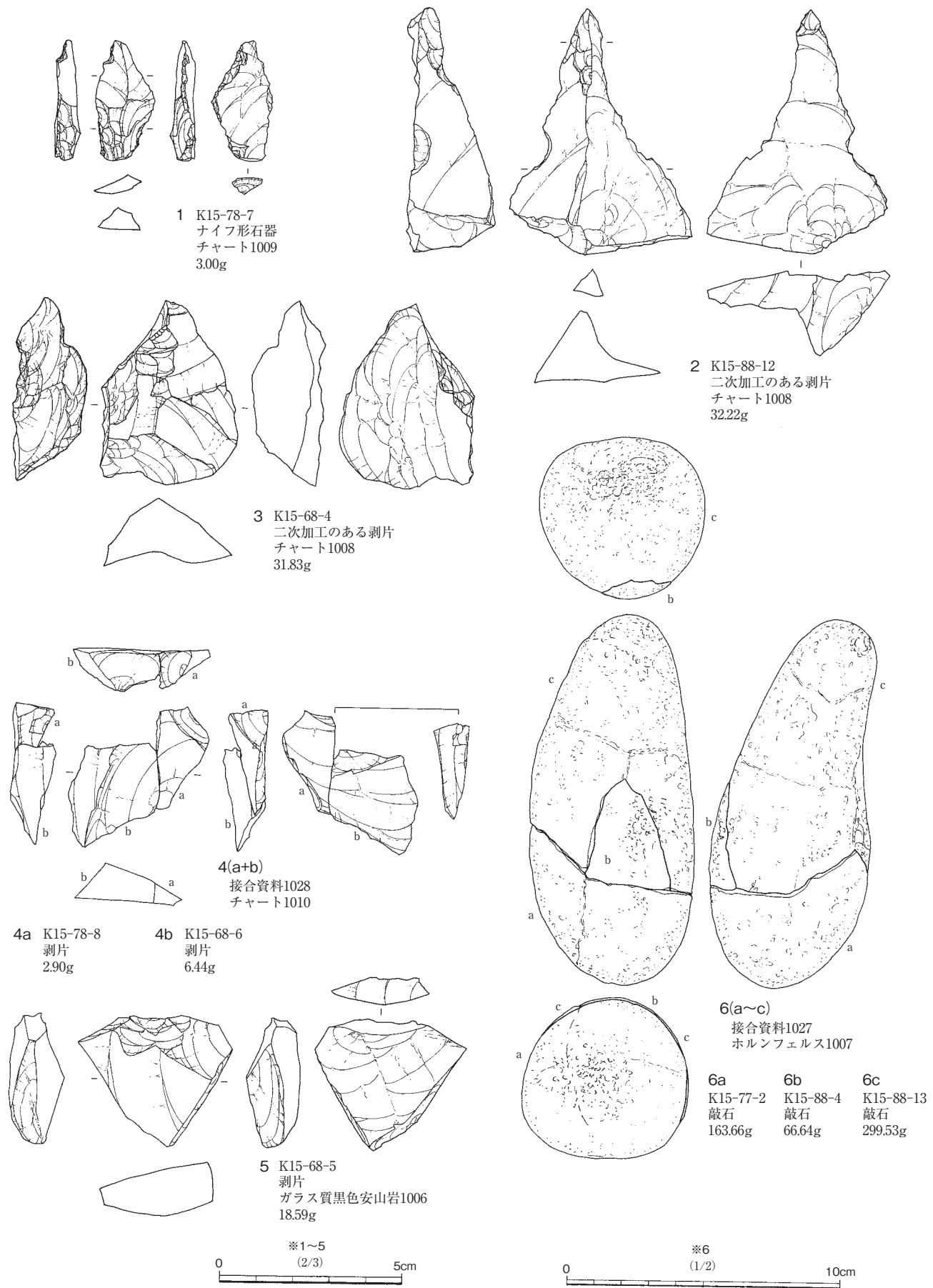
2・3は二次加工のある剥片である。どちらも同一母岩のチャート1008が用いられている。2は先端部



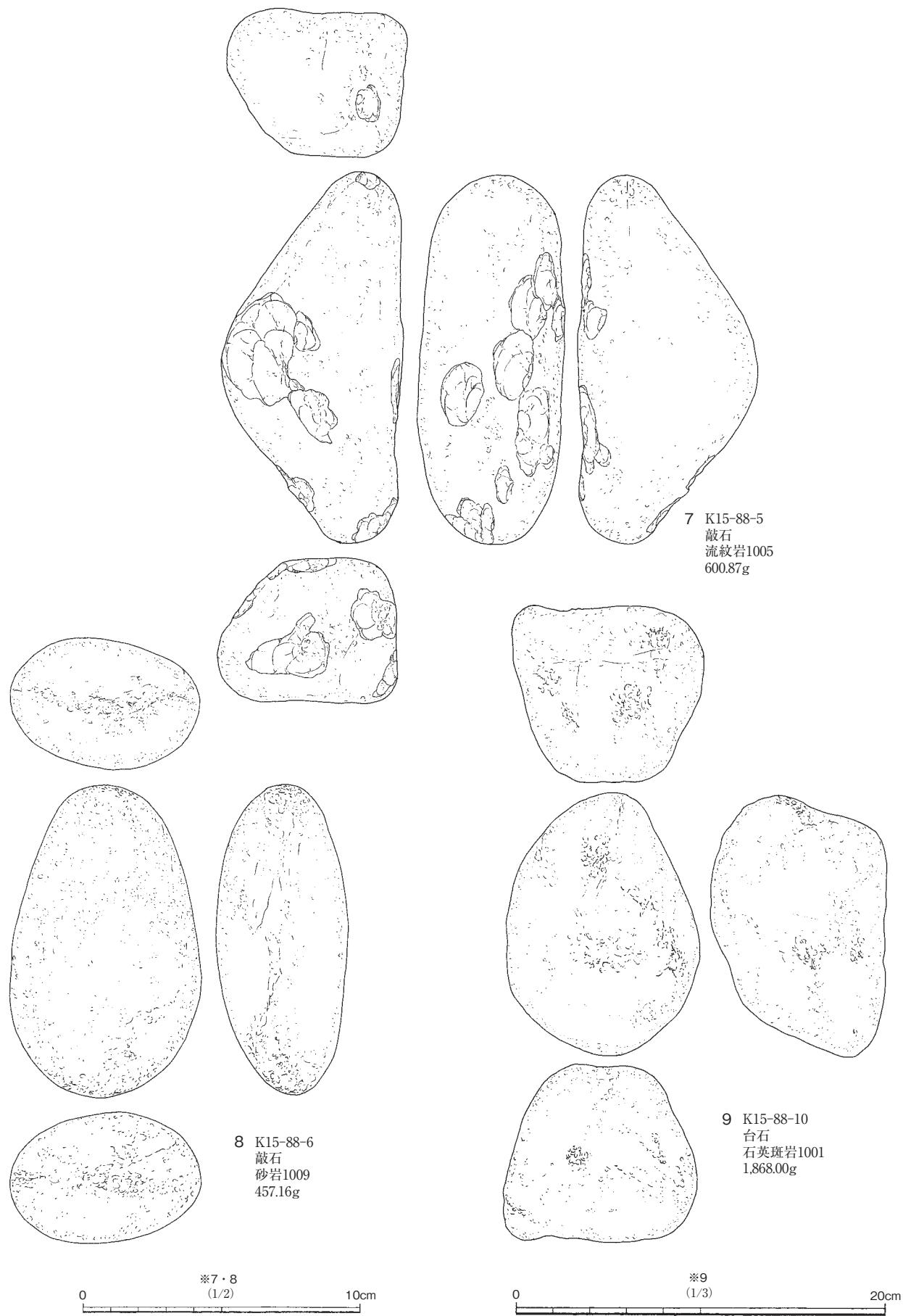
第2-24図 第1文化層第6ブロック器種別分布



第2-25図 第1文化層第6ブロック母岩別分布



第2-26図 第1文化層第6ブロック出土石器(1)



第2-27図 第1文化層第6ブロック出土石器(2)

が先細りの縦長剥片を素材として先端部と左側縁中部に調整加工が施されている。形状的に石錐と分類することも可能ではあるが、突出部の調整加工が稜上からわずかにしか施されていないことから、二次加工のある剥片として分類した。3は厚みのある横長剥片を横位に用いて素材の打面部側の左側縁を折断した後に急角度の調整加工が施されている。4(a+b)は板状の幅広の剥片を素材として剥片を折断したことを示す接合資料である。4aと4bはいずれも折断された後に、上面が切斷されている。この上面の剥離面を小型の剥片を剥離した剥離面であるととらえることも可能であることから、4aと4bを石核と分類することも可能である。5は剥片である。両側縁が折断された剥片としたが、4(a+b)の接合資料と同様に、両側縁の剥離面を横長剥片を剥離した剥離面ととらえて、石核と分類することも可能である。

6～8は敲石である。いずれも表面が赤化していることから、敲石として機能した後に礫群の礫として用いられた可能性がある。6(a～c)は上部がやや細い楕円形礫を素材としている。上下両端部と表面中央右側に敲打痕がみられる。表面中央右側の敲打によって、3分割したものと思われる。7は中央部が幅広の楕円形礫を素材としている。上下両端部と表面中央左側と右側面に敲打による剥離面が数か所みられる。6(a～c)や8の敲打とは異なる強さで敲打が行われたものと思われる。8は扁平な楕円形礫を素材としている。上下両端部に敲打が集中しているが、側縁部や平坦面にも数か所敲打痕がみられる。

9は台石である。裏面が平坦で厚みがある楕円形礫を素材としている。表面上部と中央部付近にあばた状の凹み痕が顕著にみられる。また、上下両端部や右面にも数か所のあばた状の凹み痕がみられる。

第2-10表 第1文化層第6ブロック組成表

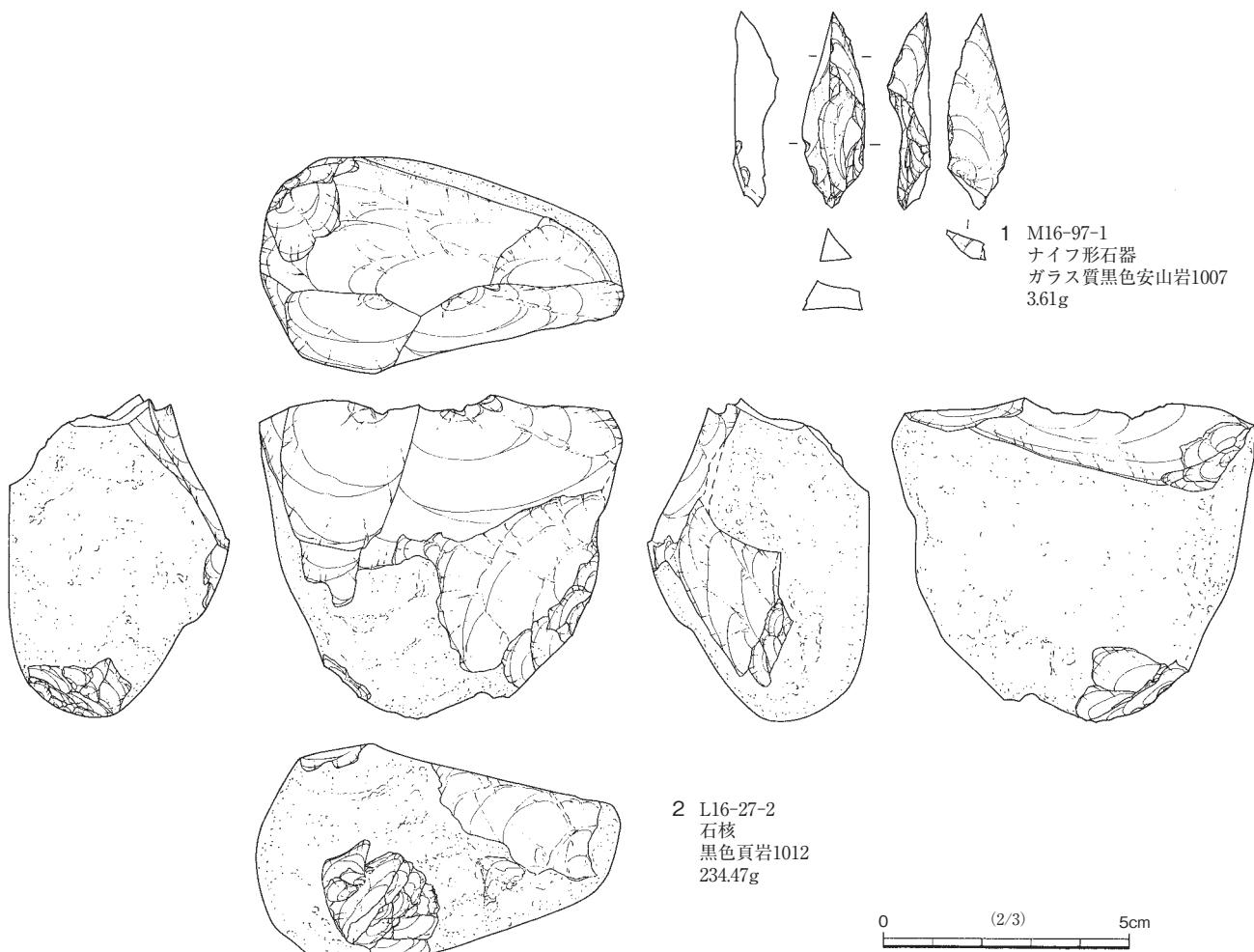
母岩 器種	母岩番号	ナイフ形石器	二次加工のある剥片	剥片	敲石	台石	礫	礫片	点数合計	点数比(%)	重量合計(g)	重量比(%)
ガラス質黒色安山岩	1006			5					5	13.89	36.11	0.51
ホルンフェルス	1007				3				3	8.33	529.83	7.52
	1999							1	1	2.78	447.19	6.35
ホルンフェルス合計				3				1	4	11.11	977.02	13.87
チヤート	1008		2	1					3	8.33	97.30	1.38
	1009	1		1					2	5.56	19.68	0.28
	1010			3					3	8.33	23.81	0.34
チヤート合計	1	2	5						8	22.22	140.79	2.00
砂岩	1009				1				1	2.78	457.16	6.49
	1999							1	1	2.78	240.20	3.41
砂岩合計					1			1	2	5.56	697.36	9.90
流紋岩	1005				1				1	2.78	600.87	8.53
	1999							4	4	11.11	1,023.08	14.53
流紋岩合計					1		4		5	13.89	1,623.95	23.06
石英斑岩	1001					1			1	2.78	1,868.00	26.53
	1999							1	10	11	30.56	1,698.69
石英斑岩合計						1	1	10	12	33.33	3,566.69	50.65
全体点数合計	1	2	10	5	1	5	5	12	36	100.00	7,041.92	100.00

8 第1文化層単独出土石器(第2-3～5・28図、第2-11表、図版6)

出土状況 第1文化層に帰属される石器のうち、調査ブロックとして区分けすることができなかったものを第1文化層単独出土石器として扱うこととした。2点が該当する。

出土遺物 1はナイフ形石器である。第1・5ブロックの中間地点M16-97グリッドから出土した。縦長剥片を素材とし右側縁を折断した後に、右側縁下部は表面方向に平坦な剥離が施されている。ガラス質黒色安山岩が用いられ素材の打面が残る。2は石核である。第5ブロック北側のL16-27グリッドから出土した。

剥離順序は、裏面右下部を打面として小型の横長剥片を剥離→表面上部を打面として裏面方向に横長剥片を剥離→裏面上部を打面として表面方向に横長剥片を剥離→裏面左下部を打面として横長剥片の剥離となる。



第2-28図 第1文化層単独出土石器

第2-11表 第1文化層単独出土石器組成表

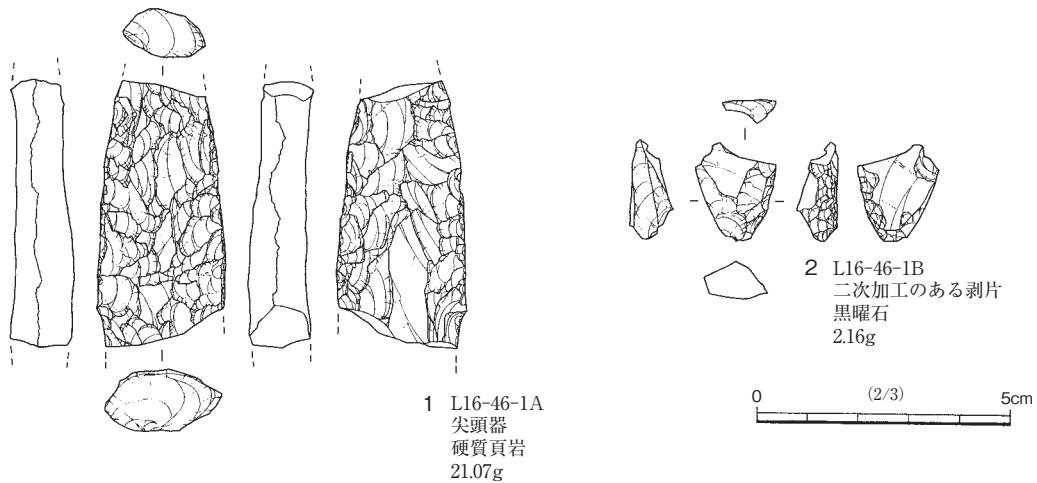
母岩	器種	母岩番号	ナイフ形石器	石核	点数合計	点数比 (%)	重量合計 (g)	重量比 (%)
ガラス質黒色安山岩		1007	1		1	50.00	3.61	1.52
黒色頁岩		1012		1	1	50.00	234.47	98.48
全 体	点 数 合 計		1	1	2	100.00	238.08	100.00

第3節 単独出土石器(第2-29図、図版6)

出土状況 いずれの文化層に帰属するか明確でなく、単独で出土したものを本節では単独出土石器としてまとめて扱うことにする。2点が該当する。どちらも第5ブロックの北側のL16-46グリッドから出土している。グリッド一括で取り上げた資料であるため出土層位は不明であるが、大型の尖頭器が出土していることから、旧石器時代の最終段階の石器である可能性が高い。

出土遺物 1は尖頭器である。良質な硬質頁岩を用いており、厚みのある剥片を素材としている。素材の主要剥離面は裏面の下部中央に残っている。器体の中央部付近と先端部が折れている。完形品は大型であったことが推察される。表面の全面と裏面の周縁部に平坦な調整加工が入念に施されている。2は二次加工

のある剥片である。透明度がほとんどない黒曜石が用いられている。厚みのある剥片を素材として、右側縁の表裏両面に細かい調整加工が施されている。左側縁は下端部から平坦な調整加工が施されている。器体の中央部付近から破損している。調整加工の特徴や1の尖頭器が同じグリッドから出土していることから、尖頭器の製作過程で剥離された欠損品である可能性が高い。



第2-29図 単独出土石器

第4節 まとめ(第2-30・2-31図)

石器出土総点数が268点である。第1文化層266点、単独出土2点の石器が出土している。本節では、第2-30・31図に掲載した文化層別主要石器をもとに文化層の様相をまとめることにする。

1 第1文化層(第2-30・31図1~50)

VII層下部に生活面を持つと考えられる石器群である。本報告書で掲載している矢船II遺跡第2文化層も同じ段階の石器群であり、類似する内容を持つ。石器総数266点、6か所のブロックが検出された。遺跡の北側の斜面の縁辺部に集中して分布している。ブロック間の接合資料はみられなかった。第5ブロックを除くすべてのブロックで礫群を伴っていた。礫群を構成する礫片の大きさは、本段階(VII層下部段階)のものが、後出するV層~IV層下部段階のものに比べてかなり大型であるという傾向¹⁾がみられた。

ブロック別に石器群の様相を概観すると次のようになる。第1ブロックは、第1文化層の最も東側の台地の突出部に単独で分布し、東林跡型ナイフ形石器がまとまって出土しており、下総型石刃再生技法による有柄石刃が出土している。敲石は出土していない。ナイフ形石器の製品がまとまって出土しており、突出した台地の先端部に分布し、眼下の東側と北側には湧水地点があることから、狩場的な機能を果たしたことが推察される。第1ブロックから西側に約100m離れて分布している第2~6ブロックは、近接して分布しておりブロック群を形成している。大型で棒状・卵形の敲石がまとまって出土している。調理施設的な機能を果たしたブロック群であることが推察される。

次に、出土石器を器種別にみていくことにしよう。主要石器は、ナイフ形石器(1~14)・有柄石刃・有柄石刃接合資料(15~17)・削片(16b・19)・敲石(36~49)である。

ナイフ形石器(1~14)は、14点出土しているもののうち、第1ブロック出土のもの(10点)が大半を占める。石刃を素材としている。ほとんどが単独母岩で、製品の形で搬入されている。1~5・7・8・11・14は二側縁加工で、先鋒な先端部と先鋒な基部を呈する東林跡型ナイフ形石器と分類される。このほかに、折損しているものなどを含めると本文化層の大半が東林跡型ナイフ形石器ととらえられる。ナイフ形石器

の石材は黒色頁岩と珪質頁岩が主に用いられている。

有樋石刃接合資料[15(a+b)・16(a～c)]・有樋石刃(15a・15b・16a・16c・17・18)・削片(16b・19)は本文化層を特徴づける「下総型石刃再生技法」によるものである。15(a+b)は、大型石刃を素材として器体を15aと15bとに2分割し、15aの分割面を打面として3回の樋状剥離が行われている。16(a～c)は厚みのある大型石刃を素材として器体を16aと16(b+c)とに2分割し、それぞれの分割した個体の分割面を打面として樋状剥離が行われている。石刃(20～22)はいずれも頭部調整が顕著に行われているが、打面調整は行われていない。縁辺部に微細剥離痕がみられる。楔形石器(23・24)はどちらも石刃を素材とし、上下両端から両極剥離が行われている。

下総型石刃再生技法を有する本石器群における石刃の消費過程は、次の3つの工程がみられた。①当初の工程は石刃(20～22)を搬入して使用→②次の工程で石刃の刃部再生を行うことによって有樋石刃・削片(15～19)を作出→③最終工程で両極剥離によって楔形石器(23・24)が作出される。

二次加工のある剥片(25～27)は、不定形の剥片を素材とし、先端部が尖る形状のものが作出されている。石核(28～35)は厚みのある剥片や分割礫を素材とし、頻繁に打面転移を行って横長剥片を剥離している。石刃を剥離した石核は出土していない。

敲石(36～49)はいずれも大型のもので、形態的に特徴のあるものである。特に、36～41・47は非常に握りやすい形状のものが用いられている。全体が棒状(36～38・47)、上部あるいは下部が棒状(39～41)、卵形(42～45)、厚みのある楕円形(46)、不定形(48・49)など多様な形態のもので構成されている。これら敲石は、ほかの段階ではあまりみられない形状であり、本段階を特徴づける器種といえよう。台石(50)は非常に大型の楕円形礫が用いられ、あばた状凹み痕が数か所にみられる。

第1文化層の石器群の特徴をまとめると、次の3点があげられる。

- ①下総型石刃再生技法による石器群であり、東林跡型ナイフ形石器と有樋石刃が主要石器である。
- ②大型で棒状・卵形の形態的に特徴のある敲石が、まとまって出土している。
- ③大型の礫・礫片で構成される礫群が、石器集中地点と重複して出土している。

類似する石器群としては、東林跡型ナイフ形石器がまとまって出土している鎌ヶ谷市東林跡遺跡Ⅷ層出土石器²⁾、大型の棒状の敲石が出土している市野谷向山遺跡第2文化層³⁾があげられる。

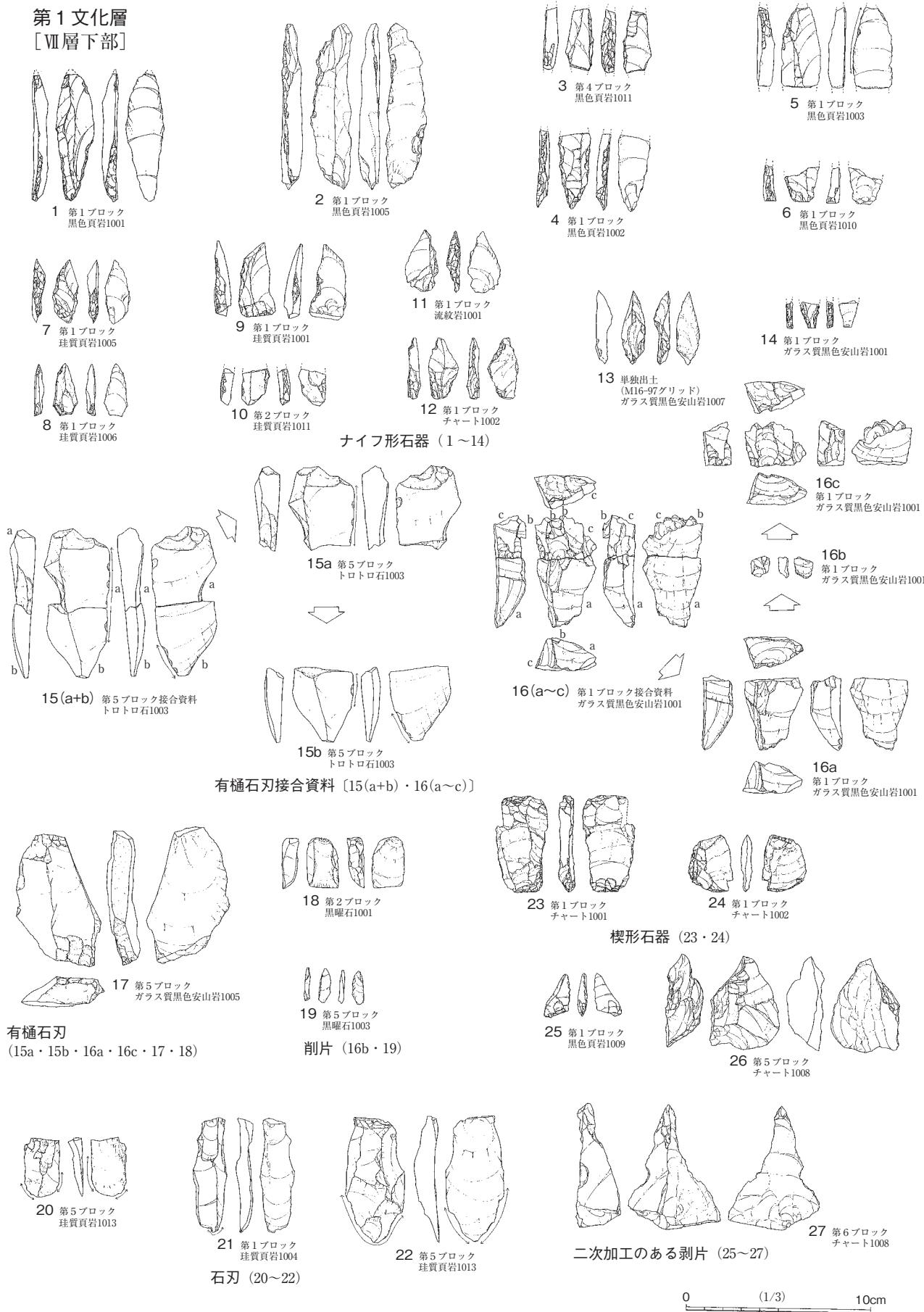
2 単独出土石器(第2-31図51・52)

いずれの文化層に帰属するか明確でないものを単独出土石器として扱った。2点ともL16-46グリッドから出土しており、集中地点を形成していたものと思われる。51の尖頭器は大型の破損品で、旧石器時代終末期の段階の可能性が高い。52の二次加工のある剥片は尖頭器の製作過程で剥離された欠損品の可能性がある。

注1 磫群を構成する礫片の大きさは重量を指標とした。近接する遺跡の礫片の平均重量を示すと、矢船I遺跡第1文化層(Ⅶ層下部)が78.71g [総点数38点]、矢船II遺跡第3文化層(V層～IV層下部)が56.79g [総点数65点]、駒形遺跡第3文化層(Ⅲ層下部～Ⅲ層中部)が39.58g [総点数44点]となり、古い段階のものほど大きく、新しい段階のものほど小さいという傾向がみられる。この傾向は下総台地全域の礫群においてみられる。

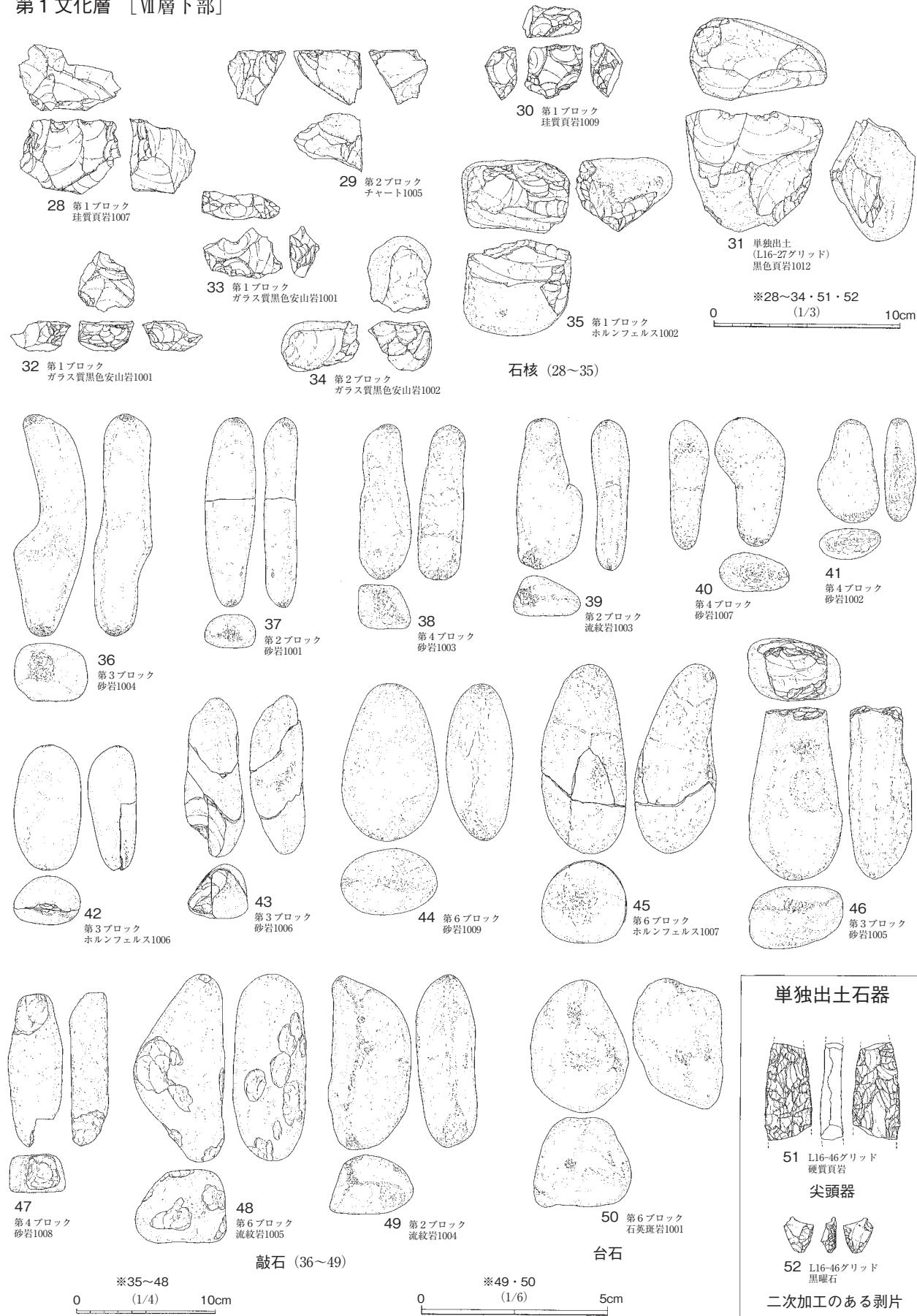
2 織笠明子 2010『東林跡遺跡』『鎌ヶ谷市史 資料編I(考古)-東林跡遺跡-』鎌ヶ谷市教育委員会

3 新田浩三ほか 2011『流山新市街地地区埋蔵文化財調査報告書5-流山市大久保遺跡(下層)・市野谷向山遺跡(下層)・東初石六丁目第I遺跡(下層)・東初石六丁目第II遺跡・十太夫第II遺跡-』(財)千葉県教育振興財団



第2-30図 矢船I遺跡文化層別主要石器(1)

第1文化層 [VII層下部]



第2-31図 矢船I遺跡文化層別主要石器(2)

第3章 矢船II遺跡

第1節 遺跡の概要(第3-1・2図、第3-1・2表)

確認・本調査範囲と文化層別ブロック位置図は第3-1・2図のとおりである。文化層は第1～6文化層の6枚で構成され、石器総点数2,047点、37か所のブロックが検出された。文化層・ブロック別の器種組成・石材組成は第3-1・2表のとおりである。6枚の文化層の概要を下に記す。

第1文化層 IXa層上部に生活面を持つ。総計790点出土し、第1～16ブロックの16か所の集中地点で構成される。このうち第1～11ブロックは近接し、ブロック間接合資料がみられるブロック群のため1ユニットと呼称する。1ユニットは総計486点出土し、長径58m×短径32mの橢円形状に分布している。環状ブロック群とは異なる分布状況で、重扇状ブロック群であるととらえられる。主要石器は、ナイフ形石器を主体とし、楔形石器・局部磨製石斧・局部磨製石斧調整剥片・削器・磨石・敲石・台石が出土しており、礫・礫片が伴う。石材はチャート・ガラス質黒色安山岩・珪質頁岩・硬質頁岩を主体とする。

第2文化層 VII層下部に生活面を持つ。総計145点出土し、第17～21ブロックの5か所の集中地点で構成される。ブロック間接合資料は1個体のみではあるが、第19ブロックと第20ブロックとの間で57m離れて接合している。主要石器はナイフ形石器を主体とし、有撃石刃・彫器・削片・楔形石器・磨石・敲石が出土している。石材は硬質頁岩・ホルンフェルス・玉髓・黒曜石を主体とする。

第3文化層 V層～IV層下部に生活面を持つ。総計132点出土し、第22～24ブロック3か所の集中地点で構成される。ブロック間の接合資料はみられなかった。主要石器はナイフ形石器を主体とし、削器・楔形石器が出土している。第22・23ブロックにおいて礫群が伴う。剥片石器の石材は黒曜石を主体とする。礫群の石材は流紋岩・石英斑岩・チャート・砂岩が用いられている。

第4文化層 III層下部～III層中部に生活面を持つ。総計759点出土し、第25～35ブロックの11か所の集中地点で構成される。ブロック間の接合資料は1個体のみで、隣接する第25ブロックと第26ブロックとの間で接合している。主要石器は、ナイフ形石器・尖頭器を主体とし、削器・搔器が出土している。第25～30・34ブロックにおいて礫群が伴う。剥片石器の石材は黒曜石・ガラス質黒色安山岩・トロトロ石を主体とする。礫群の石材は流紋岩・ホルンフェルス・チャートを主体とする。

第5文化層 III層上面に生活面を持つ。総計3点出土し、第36ブロックの1か所のみの集中地点である。主要石器は細石刃石核で、石材は凝灰岩と玉髓が用いられている。

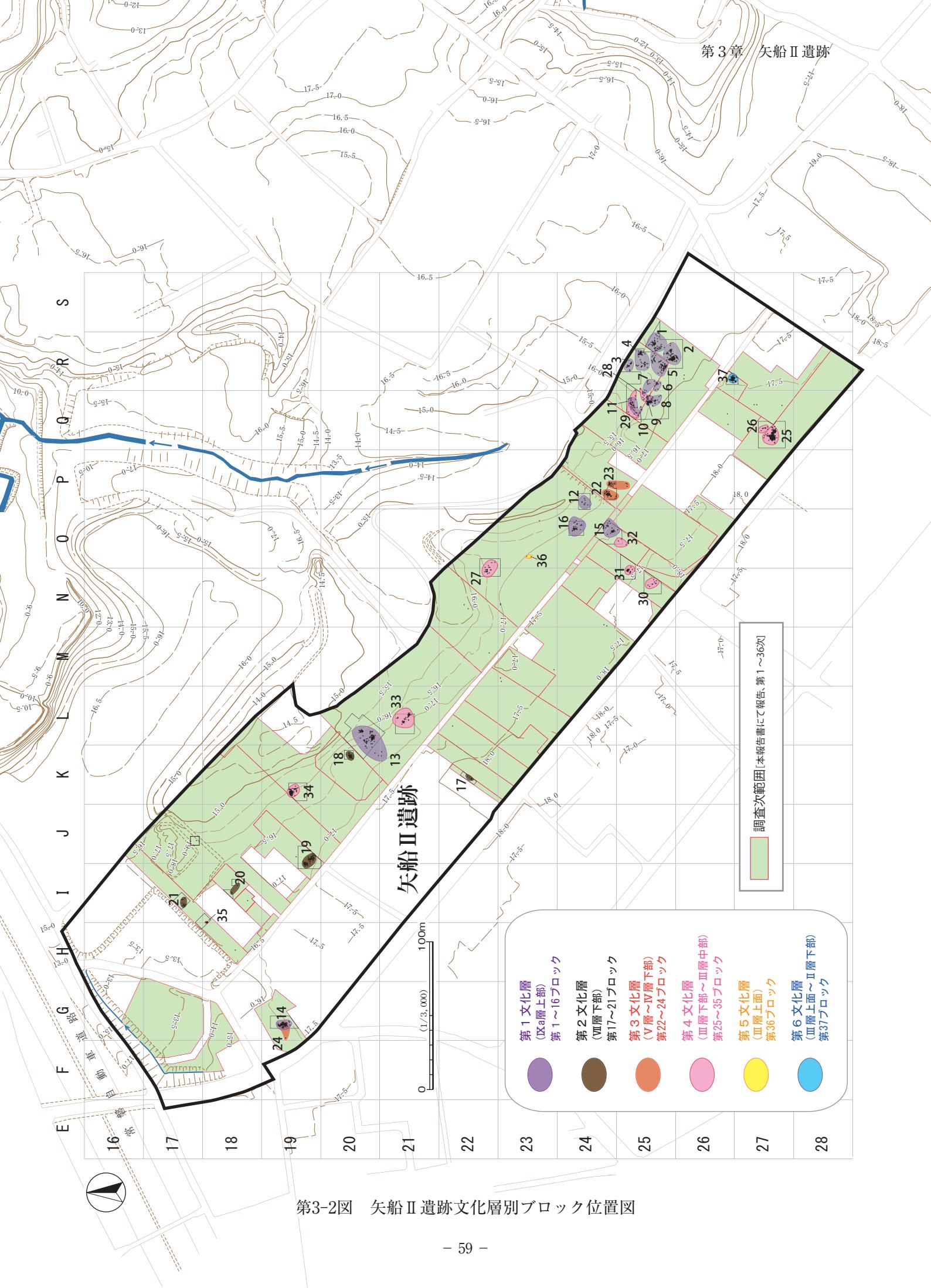
第6文化層 III層上面～II層下部に生活面を持つ。総計199点出土し、第37ブロックの1か所のみの集中地点である。主要石器は尖頭器である。礫群を伴う。剥片石器の石材は硬質頁岩とガラス質黒色安山岩を主体とする。礫群の石材は流紋岩・石英斑岩を主体とする。

第2節 第1文化層

1 概要(第3-3図、第3-3～5表)

第1文化層の石器群は総計790点出土し、第1～16ブロックの16か所の集中地点で構成される。IXa層上部に生活面を持つ石器群と推定される。調査区南東部にブロック群が形成されており、1ユニットと呼称





第3-1表 文化層ブロック別器種組成表

文 化 層	ユ ニ ツ ト	ブ ロ ッ ク	ナ イ フ 形 石 器	尖 頭	削 器	搔 器	楔 器	彫 器	有 無	二 次 加 工 の あ る 剥 片	微 細 剥 離 痕 の あ る 剥 片	削 片	細 刃	剥 石	碎 核	石 片	局 部 磨 製 石 斧	局 部 磨 製 石 斧	磨 石	敲 石	台 石	礫 片	点 数 合 計	
1	1	1								1	7			43	5	3				1		2	62	
	2	3								2	8			99	15	5			4			2	138	
	3										1			14	1	1						2	19	
	4	1		1						4	7			38	6	1			2			1	61	
	5	1								2	4			48	8	1	1		1		1	3	70	
	6									1				9	1						1	1	13	
	7									1				7							1	4	13	
	8				2					1				6	2	1		1		1	1	1	16	
	9	2			2					2	1			35	9	1						10	62	
	10	2			1									2									5	
	11									2	1			15					4			1	4	27
	1 ユニット合計	9	1	5		15	30			316	47	13	1	1	10	2	1	6	29	486				
	12	1			4					1												2	8	
	13									8	3			103	19	17				1		1	152	
	14									2				44	18	2				1		4	71	
	15				1					3	4			21	5	1							35	
	16	2			1					9	5			17	1	1							36	
	単独																				2		2	
	1ユニット以外合計	3			6		22	13		185	43	21						2		3	6	304		
	第1文化層合計	12	1	11		37	43		501	90	34	1	1	10	4	1	9	35	790					
2	17					1	1	1		4												7		
	18	1			2			1		31	3											38		
	19	3			2	2			5	9			42	6				2	7		4	82		
	20								1				3									4		
	21								1				9	1				3				14		
	第2文化層合計	4			4	2	1	3	6	10		89	10					2	10		4	145		
3	22	3							2			1		5						11	52	74		
	23	2	1						4	1		4		1						2	13	28		
	24				1				2	2	1	18	5	1								30		
	第3文化層合計	5	1	1		8	3	1	23	5	7							13	65	132				
4	25	1	2			4			119	5	4							6	250	391				
	26		1			1	1		2	1							1	1			8			
	27	1	1			1	1		8											9	21			
	28								1			6								2		9		
	29	1	2						7									1	1		12			
	30	2				2			2	1	1							1			9			
	31	1				5			14	6	1										27			
	32		2						2												4			
	33	2		3		4	3		22	7	2										43			
	34		1	1		12	1		105	27	12							2	1	162				
	35		3						32	38											73			
	第4文化層合計	8	8	4	4		29	7	319	85	20							10	265	759				
5	36								2												2			
	単独								1												1			
	第5文化層合計								3												3			
6	37	3	1			4	1	1	48	5	2							22	112	199				
	第6文化層合計	3	1			4	1	1	48	5	2							22	112	199				
	単独出土合計	1	1			2	3		9		2								1		19			
	総計点数	30	12	7	4	16	2	1	83	63	12	3	989	195	65	1	1	12	14	1	58	478	2,047	

第3-2表 文化層ブロック別石材組成表

文 化 層	ユ ニ ット	ブ ロ ッ ク	黒 曜 石	ガ ラ ス 質	ト ト 口	安 山 岩	貞 山 岩	珪 質 石	嶺 岡 産	硬 質 色	黒 質 色	玉 質 色	緑 凝 色	緑 凝 色	結 晶 灰	緑 泥 片	ホ ル フ エ ル	チ ヤ ー	砂 フ エ ト	流 ニ 片 岩	石 斑 岩	点 数 合	
1	1	1	24		1	10			1	18							3	1	4		62		
		2	1	91		4	3		4	16	8						5		6		138		
		3	5	1		2			1	4							5	1			19		
		4	2	15		2	5		19	2	3						12	1			61		
		5	4	4		1	10		10		5	1	24				2	2	7		70		
		6	3			1				3							4	2			13		
		7		1		3			1								2	3	2	1	13		
		8		2	2	1	1			2	1						6	1			16		
		9		2	5		25			2	4						21	2		1	62		
		10		2						1							2				5		
		11	5	11		4				1							5	1			27		
		1 ユニット合計	15	156	9	14	59		33	24	48	2	24				67	14	19	2	486		
		12					1										7				8		
		13		18						5							1	127	1		152		
		14			1	5	6										58	1			71		
		15	1				28		2	1	2						1				35		
		16	9	11	1		2		10	2								1			36		
		単独																1	1		2		
		1 ユニット以外合計	10	29	2		5	37		12	3	7					1	193	3	2	304		
	第1文化層	合計	25	185	11	14	5	96		45	27	55	2	24				1	260	17	21	2	790
2		17		2					1	1							3				7		
		18	1	5		1	5			10							16				38		
		19	9	2		1			50		4						2	1	2	5	6	82	
		20	2	1					1												4		
		21				1											7	3	3		14		
	第2文化層	合計	12	10		1	1	6		52	1	14					2	27	5	8	6	145	
3		22	6	4													2	17	14	21	10	74	
		23	13															6	9		28		
		24	28	1			1														30		
	第3文化層	合計	47	5			1										2	17	14	27	19	132	
		25	1	6	1	1	2	5	1	3		10					96	68	127	36	34	391	
		26					1		3	1							2	1				8	
		27		2	2					8							1	5	1	2		21	
		28	1						1	1							4	1	1		9		
		29	2				2		1								1	6				12	
		30	3	4													1	1				9	
		31	27																			27	
		32	3							1												4	
		33	32	5													5	1				43	
		34	31	62	47		7			1							11		3			162	
		35	71															1	1			73	
	第4文化層	合計	171	79	50	1	7	5	5	6	2	13	10				114	82	136	41	37	759	
		36												2								2	
		単独								1												1	
	第5文化層	合計								1		2										3	
		37	22	4		2			31	2	1						1	2	8	29	59	38	199
	第6文化層	合計		22	4		2		31	2	1						1	2	8	29	59	38	199
	单独出土	合計	3	5		2	2			3							3		1			19	
	総計	点数	258	306	65	16	15	112	5	134	32	87	2	34	2	2	1	146	375	204	155	96	2,047

した。1ユニットは総計486点出土し、第1～11ブロックの11か所の集中地点で構成され、ブロック間の接合資料がみられた。1ユニット以外のものは総計304点出土しており、ブロック間の接合資料は1個体のみであった。第12・15・16ブロックが調査区南東部西寄りに近接して分布している。第13ブロックが調査区中央部北寄り、第14ブロックが調査区北西部にそれぞれ単独で分布している。

器種組成はナイフ形石器12点、削器1点、楔形石器11点、二次加工のある剥片37点、微細剥離痕のある剥片43点、剥片501点、碎片90点、石核34点、局部磨製石斧1点、局部磨製石斧調整剥片1点、磨石10点、敲石4点、台石1点の石器類746点と礫9点、礫片35点の礫・礫片44点である。ナイフ形石器・局部磨製石斧・局部磨製石斧調整剥片・楔形石器・磨石・敲石・台石が本文化層を特徴づける器種である。

石材組成は石器類がチャート235点、ガラス質黒色安山岩185点、珪質頁岩96点、玉髓55点、硬質頁岩45点、黑色頁岩27点、黒曜石25点、緑色凝灰岩24点、流紋岩19点、安山岩14点、トロトロ石11点、頁岩5点、緑色岩2点、砂岩2点、ホルンフェルス1点でチャート・ガラス質黒色安山岩・珪質頁岩を主体とする。礫・礫片はチャート25点、砂岩15点、流紋岩2点、石英斑岩2点でチャート・砂岩を主体とする。

2 第1文化層1ユニット(第3-4～46図、第3-4～17表)

(1)概要(第3-4～9図、第3-4～6表)

第1文化層1ユニットの石器群は、総計486点出土し、第1～11ブロックの11か所の集中地点で構成される。IXa層上部に生活面を持つ石器群と推定される。調査区南東部に位置し、標高15.5m～17.0m(現地表面)に分布し、北側に開口する谷津の奥まった斜面の縁辺に立地している。

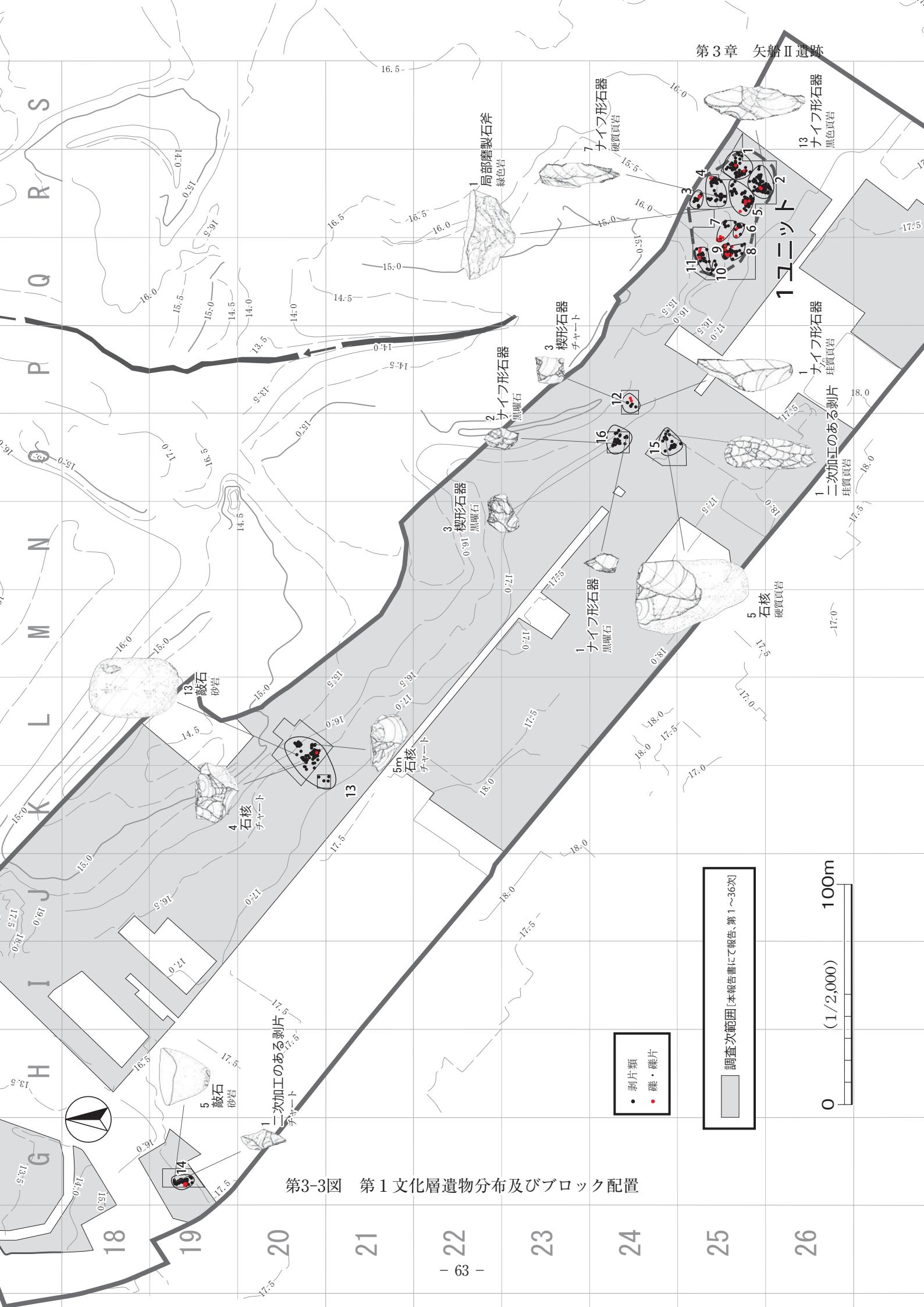
(2)石器組成(第3-4～6表)

器種組成はナイフ形石器9点、削器1点、楔形石器5点、二次加工のある剥片15点、微細剥離痕のある剥片30点、剥片316点、碎片47点、石核13点、局部磨製石斧1点、局部磨製石斧調整剥片1点、磨石10点、敲石2点、台石1点の石器類451点と礫6点、礫片29点の礫・礫片35点で構成される。ナイフ形石器・局部磨製石斧・局部磨製石斧調整剥片・削器・磨石・敲石・台石が1ユニットを特徴づける器種である。礫・礫片は少数ではあるが、第10ブロック以外のすべてのブロックに伴っている。

第3-3表 第1文化層器種石材組成表

石 材 器 種	ナ イ フ 形 石 器	削 器	楔 形 石 器	二 次 加 工 の あ る 剥 片	微 細 剥 離 痕 の あ る 剥 片	剥 片	碎 片	石 核	局 部 磨 製 石 斧	局 部 磨 製 石 斧 調 整 剥 片	磨 石	敲 石	台 石	礫	点 数 合 計	
黒曜石	3		1	8	3	10										25
ガラス質黒色安山岩	2			5	2	149	16	11								185
トロトロ石						7	4									11
安山岩						1					10	2	1			14
頁岩						4	1									5
珪質頁岩	1			4	12	61	15	3								96
硬質頁岩	1			4	9	28	1	2								45
黒色頁岩	2		1		2	20	1	1								27
玉髓	1	1		2	8	37	5	1								55
緑色岩										1	1					2
緑色凝灰岩				1		19	4									24
ホルンフェルス						1										1
チャート	2		9	12	5	151	41	15						1	24	260
砂岩												2		6	9	17
流紋岩				1	2	13	2	1						2		21
石英斑岩														2		2
全 体 点 数 合 計	12	1	11	37	43	501	90	34	1	1	10	4	1	9	35	790

第3章 矢船II遺跡



第3-3図 第1文化層遺物分布及びブロック配置

第3-4表 第1文化層ブロック別組成表（1）

ユ ニ ツ ト	ブ ロ ッ ク	石 材	ナ イ フ 形 石 器	削 器	楔 形 石 器	二 次 加 工 の あ る 剥 片	微 細 剥 離 痕 の あ る 剥 片	剥 片	碎 片	石 核	局 部 磨 製 石 斧	局 部 磨 製 石 斧	磨 石	敲 石	台 石	礫 片	点 数 合 計
1	1	ガラス質黒色安山岩 安山岩 珪質頁岩 黒色頁岩 玉髓 チヤート 砂岩 流紋岩						19	2	3						24	
														1		1	
						2		7	1							10	
						1										1	
						1		2	13	2						18	
						2									1	3	
						4									1	1	
		第1ブロック合計				1	7	43	5	3				1		2	62
2		黒曜石 ガラス質黒色安山岩 安山岩 珪質頁岩 硬質頁岩 黒色頁岩 玉髓 チヤート 砂岩 流紋岩	1			1	1	74	10	4							91
													4			4	
						2	1									3	
						3	1									4	
			1			14	1									16	
						2	3	2	1							8	
			1			2								2		5	
						1	2	2	1							6	
		第2ブロック合計	3			2	8	99	15	5			4			2	138
3		ガラス質黒色安山岩 トロトロ石 珪質頁岩 黒色頁岩 玉髓 チヤート 砂岩						5									5
								1									1
							2										2
										1							1
						1	3										4
						3	1								1		5
						1										1	
		第3ブロック合計				1	14	1	1							2	19
4		黒曜石 ガラス質黒色安山岩 安山岩 珪質頁岩 硬質頁岩 黒色頁岩 玉髓 チヤート 砂岩				1	1										2
						3	8	3	1								15
													2				2
			1			1	2	2									5
						1	3	15									19
									2								2
			1			1	1										3
						9	3										12
		第4ブロック合計	1	1	4	7	38	6	1				2		1		61
5		黒曜石 ガラス質黒色安山岩 安山岩 珪質頁岩 硬質頁岩 玉髓 綠色岩 綠色凝灰岩 チヤート 砂岩 流紋岩	1					3									4
								4									4
							1	7	2					1			10
						1	3	6									10
							4	1									5
													1				1
			1			19	4										24
						1									1		2
							1								2		2
							4	1	1						1		7
		第5ブロック合計	1		2	4	48	8	1	1			1		1	3	70
6		黒曜石 安山岩 玉髓 チヤート 砂岩				1	2										3
							1										1
						3											3
						3	1										4
														1	1		2
		第6ブロック合計			1		9	1							1	1	13
7		トロトロ石 珪質頁岩 玉髓 チヤート 砂岩 流紋岩 石英斑岩						1									1
							1	2									3
							1										1
							1								1	2	2
							2										2
															1		1
		第7ブロック合計					1	7							1	4	13

第3-5表 第1文化層ブロック別組成表(2)

ユ	ブ	石	ナ イ フ 形 石	削 器	楔 形 石	二 次 加 工 の 有 る 剥 片	微 細 剥 離 痕 の 有 る 剥 片	剥 片	碎 片	石 核	局 部 磨 製 石 斧	局 部 磨 製 石 斧	磨 石	敲 石	台 石	礫 片	点 数 合 計					
ニ	口																					
ツ	ツ																					
ト	ク	材	器	器	器			片	片	核	斧	調 整 剥 片	石	石	石	片						
	8	ガラス質黒色安山岩 トロトロ石 安山岩 珪質頁岩 玉髓 緑色岩 チヤート 砂岩						2								2						
									2							2						
										1						1						
																1						
									2							2						
																1						
																1						
		第8ブロック合計				2	1	6	2	1	1			1	1	16						
	9	ガラス質黒色安山岩 トロトロ石 珪質頁岩 黒色頁岩 玉髓 チヤート 砂岩 石英斑岩						2								2						
									3	2						5						
								1	19	4	1					25						
										1						2						
										3						4						
																7						
						2	2		7	3						21						
		第9ブロック合計	2	2	2	1	35	9	1							10	62					
	10	ガラス質黒色安山岩 黒色頁岩 チヤート	1					1								2						
									1							1						
										1						2						
		第10ブロック合計	2		1			2								5						
	11	黒曜石 ガラス質黒色安山岩 安山岩 黒色頁岩 チヤート 砂岩				2	1	2								5						
									11							11						
																4						
																1						
										1						1						
		第11ブロック合計					2	1	15							4						
1	ユ	ニ	ツ	ト	合	計	9	1	5	15	30	316	47	13	1	1	10	2	1	6	29	486
	12	珪質頁岩 チヤート	1														1					
							4		1							2						
		第12ブロック合計	1		4		1									2						
	13	ガラス質黒色安山岩 玉髓 ホルンフェルス チヤート 砂岩						1	14		3					18						
								1		4						5						
									1							1						
										1						127						
		第13ブロック合計					8	3	103	19	17					1						
	14	トロトロ石 頁岩 珪質頁岩 チヤート 砂岩							1							1						
									4	1						5						
									2	3	1					6						
									37	14	1					4						
		第14ブロック合計					2		44	18	2					1						
	15	黒曜石 珪質頁岩 硬質頁岩 黒色頁岩 玉髓 チヤート														4						
								1								71						
								2	2	19	5					1						
									1							28						
										1						2						
										1						1						
										2						2						
		第15ブロック合計					1	3	4	21	5	1				35						
	16	黒曜石 ガラス質黒色安山岩 トロトロ石 珪質頁岩 硬質頁岩 黒色頁岩 流紋岩	2		1	4		2								9						
								1		9	1					11						
									1							1						
										3	3	3				10						
										1	1					2						
		第16ブロック合計	2		1	9	5	17	1	1						36						
	単独	ガラス質黒色安山岩 黒色頁岩														1						
																1						
		單独出土合計														2						
1	ユ	ニ	ツ	ト	以外	合計	3		6	22	13	185	43	21			2					
							12	1	11	37	43	501	90	34	1	1	10	4	1	9	35	790
		全体点数合計																				

第3-6表 第1文化層1ユニット器種石材組成表

石 材 器 種	ナイフ形石器	削器	楔形石器	二次加工のある剥片	微細剥離痕のある剥片	剥片	碎片	石核	局部磨製石斧	局部磨製石斧調整剥片	磨石	敲石	台石	礫	点数合計	
						片	片	核			石	石	石	礫片		
黒曜石	1			3	3	8									15	
ガラス質黒色安山岩	2			4	1	126	15	8							156	
トロトロ石						5	4								9	
安山岩						1					10	2	1		14	
珪質頁岩				1	9	40	7	2							59	
硬質頁岩	1			1	6	24	1								33	
黒色頁岩	2		1		1	18	1	1							24	
玉髓	1	1		1	6	33	5	1							48	
緑色岩									1	1					2	
緑色凝灰岩					1		19	4							24	
チャート	2		4	3	2	30	8							18	67	
砂岩													5	9	14	
流紋岩					1	2	12	2	1					1	19	
石英斑岩														2	2	
全 体 点 数 合 計	9	1	5	15	30	316	47	13	1	1	10	2	1	6	29	486

石器類の石材はガラス質安山岩156点、珪質頁岩59点、チャート49点、玉髓48点、硬質頁岩33点、黒色頁岩24点、緑色凝灰岩24点、流紋岩18点、黒曜石15点、安山岩14点、トロトロ石9点、緑色岩2点である。ガラス質黒色安山岩・珪質頁岩・チャート・玉髓を主体とする。礫・礫片の石材はチャート18点、砂岩14点、石英斑岩2点、流紋岩1点である。

(3) ブロックと接合状況(第3-4~10図)

1ユニットは第1~11ブロックで構成され、全体の規模が長径58m×短径32mで北西から南東方向に細長い帯状の分布状況を示す。ブロック群の中央部に遺物空白部がみられず、円環状のブロック群を形成していないことから、環状ブロック群とは異なる可能性が高い。ブロックの分布状況を詳細にみると、東側ブロック群(第1~5ブロック)と西側ブロック群(第6~11ブロック)の2つの扇状ブロック群が重なったような分布状況を示していることから、重扇状ブロック群を形成しているととらえられる。ブロック群の規模は東側が長径36m×短径27m、西側が長径25m×短径20mであり、東側の方が西側よりも大きい。

第3-6図において接合線・接合番号を太線・太字で示したものがブロック間の接合資料である。ブロック間接合資料は8個体あり、すべて2つのブロック群間の接合資料である。接合距離が15m以内のものが6個体(接1019・1020・1022・1026・1028・1038)であり、近接した接合資料が多くみられる傾向がある。接合距離が15m以上のものは2個体(接1008・1030)で、どちらの個体とも第3ブロックと第9ブロックとの接合資料である。接1008が最も離れた接合資料で接合距離は約30mである。

このようにブロック間の接合関係をみても、3つ以上のブロック間の接合資料がみられず、近接したブロック間の接合資料が主体を占めていることから、重扇状ブロック群を形成しているものと思われる。

(4) 器種別分布状況(第3-4・5図)

すべての器種を図示したものが第3-4図、器種別に図示したものが第3-5図である。全体の特徴としては、微細剥離痕のある剥片・剥片・碎片が各ブロックにおいてほぼ均一の割合で全体に分布する傾向がみられたが、ナイフ形石器・楔形石器・磨石・礫・礫片などの分布状況は、ブロックごとにある程度まとまって出土する傾向がみられた。ナイフ形石器は東側ブロック群西部の第2・4・5ブロックと西側ブロック群西部の第9・10ブロックにまとまって出土している。この分布状況とほぼ重複するものが石核である。楔

形石器は西側ブロック群南西部にまとまって分布している。磨石は東側ブロック群東部の第2・4ブロックと西側ブロック群北部の第11ブロックにまとまって出土している。このような器種による分布域の違いは、ブロックにおける生業を反映している可能性がある。局部磨製石斧に関する資料は2点と少ないが、東側と西側ブロック群から各1点出土している。礫・礫片は西側ブロック群では中央部の第7・9ブロックに密集しており、東側ブロック群では外縁部から出土し中央部付近に空白部がみられる。

(5)石材別・母岩別分布状況(第3-6~9図)

全石材の分布図を第3-6図に掲載した。石材別(母岩別を含む)の分布図は第3-7~9図のとおりである。これらの分布図を用いて石材別・母岩別に分布状況をみていくことにしよう。

①黒曜石(第3-7図) 15点出土した。7母岩で構成される。東側ブロック群の中央部付近の第2・4~6ブロックと西側ブロック群の北側の第11ブロックから出土している。接合資料はみられなかった。黒曜石1001が第2・5ブロック、黒曜石1004が第6ブロック、黒曜石1005が第11ブロックに分布しており、非常に狭い範囲にそれぞれの母岩が分布する傾向がみられた。

②硬質頁岩(第3-7図) 33点出土した。8母岩で構成される。遺物は東側ブロック群の第2・4・5ブロックから出土している。接合資料のすべてのものが同一ブロック内の接合である。硬質頁岩1001が第2・4・5ブロックの比較的広い範囲から出土している。硬質頁岩1002が第2・4ブロック、硬質頁岩1006が第5ブロックに分布している。

③黒色頁岩(第3-7図) 24点出土した。9母岩で構成される。東側ブロック群東部と西側ブロック群北西部に分布している。黒色頁岩1001は、約30m離れた東側ブロック群北部の第3ブロックの石核と西側ブロック群中央部の第9ブロックの剥片との接合資料(接1008)である。黒色頁岩1004は第2ブロック、黒色頁岩1006は第4ブロックに分布しており、非常に狭い範囲に分布している。

④珪質頁岩(第3-7図) 59点出土した。15母岩で構成される。第6・10・11ブロック以外のすべてのブロックに分布している。東側と西側の両方に分布する母岩はみられず、分布に偏りがある。西側ブロック群に分布するものが珪質頁岩1001・1002の2つの母岩である。西側ブロック群中央部に密集して分布している。珪質頁岩1002は剥片が第9ブロックにまとまって出土し、石核が1点のみ第8ブロックから出土していた。東側ブロック群に分布するものが珪質頁岩1008で第2・4・5ブロックに散漫に分布する。

⑤チャート(第3-8図) 67点出土した。20母岩で構成される。すべてのブロックに分布する。チャート1006・1008は西側ブロック群の中央部に密集して分布している。チャート1016は東側ブロック群の第4ブロックに集中して分布し、接合はしていないが西側ブロック群の第9ブロックから1点出土している。

⑥玉髓(第3-8図) 48点出土した。14母岩で構成される。第10・11ブロック以外のすべてのブロックから出土している。玉髓1001は東西の両ブロック群に分布し、接1030は東側ブロック群北部の第3ブロックと西側ブロック群中央部の第9ブロックと約22m離れて接合する。玉髓1003は東側ブロック群南部の第1・2ブロック、玉髓1010は東側ブロック群北部の第3ブロックから出土し、狭い範囲に分布する。

⑦緑色凝灰岩(第3-8図) 24点出土した。2母岩で構成される。東側ブロック群南西部の第5ブロックのみから出土している。緑色凝灰岩1001・1002は、ともにほぼ同じ範囲に密集して分布している。

⑧流紋岩(第3-8図) 19点出土した。6母岩で構成される。東側ブロック群南部の第1・2・5ブロックと西側ブロック群西部の第7ブロックから出土している。流紋岩1001が第2・5ブロック、流紋岩1002が第1ブロック、流紋岩1003が第2ブロックから出土しており、非常に狭い範囲に分布している。

⑨ガラス質黒色安山岩(第3-9図) 156点出土した。20母岩で構成される。第6・7ブロック以外のすべてのブロックから出土しており、第1・2・4ブロックに密集している。ガラス質黒色安山岩1001・1004・1011・1012の4母岩が比較的広い範囲に分布しているが、東西の両ブロック群にわたる分布状況は示していない。このほかの母岩は非常に狭い範囲に分布している。

⑩そのほかの石材(第3-9図) トロトロ石は9点出土し、3母岩で構成される。東側ブロック群北部の第3ブロックと西側ブロック群中央部の第7～9ブロックから出土している。安山岩は14点出土し、12母岩で構成される。大半のものが磨石であり、東側ブロック群東部の第2・4ブロックと西側ブロック群北部の第11ブロックにまとまって出土している。緑色岩は局部磨製石斧と局部磨製石斧調整剥片の2点が出土し、2母岩で構成される。東側と西側ブロック群から各1点出土している。石英斑岩は礫片が2点出土し、西側ブロック群中央部の第7・9ブロックに分布している。砂岩は礫・礫片が14点出土し、第2・10ブロック以外のすべてのブロックから出土している。

(6) ブロック間の接合関係(第3-10図)

ブロック間の接合関係については、剥離順序と出土ブロックとの対応関係を第3-10図に示した。上段において剥離した順にアルファベットでa・b・c…で表示し、ブロック間で接合したものを矢印で示した。下段において分布図でこれらの接合状況を示した。剥離された順番に石器がブロックに遺棄されたわけではないが、母岩の消費過程を検討するうえで重要な要素と考えて接合関係図を作成した。

ブロック別にブロック間接合個体数(全8個体)をみていく。多いものから表示すると、第9ブロックが5個体、第3ブロックが4個体、第5・8ブロックが2個体、第1・4・6ブロックが1個体である。第3・9ブロックは接合個体数の半数以上を占めており、東西の2つのブロック群の形成をとらえる上で重要なブロックと推察されることから「接合核ブロック」と呼称して分析することにする。東西のブロック群に1か所ずつ接合核ブロックが分布している。東西のブロック群間の接合関係がみられるのは、この2つの接合核ブロックで接合したもので、接1008と接1030の2個体が該当する。

次に、剥離順序に着目してみよう。東西のブロック群間で接合した2個体は、いずれも西側ブロック群の第9ブロック→東側ブロック群の第3ブロック群の順番に剥離されていた。西側ブロック群内で接合したものを見ると、接1019が第9ブロック→第8ブロック、接1026が第9ブロック→第6ブロックの順番の剥離であり、どちらも接合核ブロックの第9ブロックを起点としていた。一方の東側ブロック群内で接合したものを見ると、接1038が第3ブロック→第4ブロック、接1022が第5ブロック→第3ブロック、接1020が第5ブロック→第1ブロックの順番の剥離であった。

これらの剥離順序から、1ユニットのブロック群の形成過程は次のように推察される。当初、本遺跡にブロック群が形成されたのは西側ブロック群であった。石器石材の一部は、西側ブロック群の中央部に位置する接合核ブロックの第9ブロックに供給され、周辺の第6・8ブロックなどに分配され消費された。次に形成されたのは、東側ブロック群である。石器石材の一部は、西側ブロック群の接合核ブロックの第9ブロックの石器石材を東側ブロック群の接合核ブロックである第3ブロックに持ち込んでブロック群で消費している。東西の両ブロック群の存続関係については、同時期に併存し続け集落が広がったか、あるいは、西側ブロック群から東側ブロック群へと集落が移動したかについては不明な点が多い。また、ブロック群間の存続・移動については、遺跡への回帰が行われたことによる可能性も高い。集落形成過程を探るためにには、地道ではあるが個体別資料分析を行い、接合関係に基づいた分析が必要であると思われる。

(7) 第1文化層1ユニットのブロック別分布状況(第3-11~25図、第3-7~17表)

① 第1文化層1ユニット第1ブロック(第3-11・12図、第3-7表、図版7)

出土状況 東側ブロック群東部のR25-57・58・66~69・76~79・87グリッドに分布している。10.9m × 11.1mの範囲から62点の石器が出土した。西側に隣接する第5ブロックとの接合資料が1個体(接1020)出土している。北部・南西部・南東部の3か所の集中地点がみられる。北部が密集し、南西部・南東部が散漫に分布している。IX層からIV層にかけて出土しており、IX層上部に集中する。

出土遺物 器種組成は二次加工のある剥片1点、微細剥離のある剥片7点、剥片43点、碎片5点、石核3点、敲石1点の石器類60点と礫片2点で構成される。石器類の石材はガラス質黒色安山岩24点、玉髓18点、珪質頁岩10点、流紋岩4点、チャート2点、安山岩1点、黒色頁岩1点である。礫片の石材はチャート1点、砂岩1点である。

第3-7表 第1文化層第1ブロック組成表

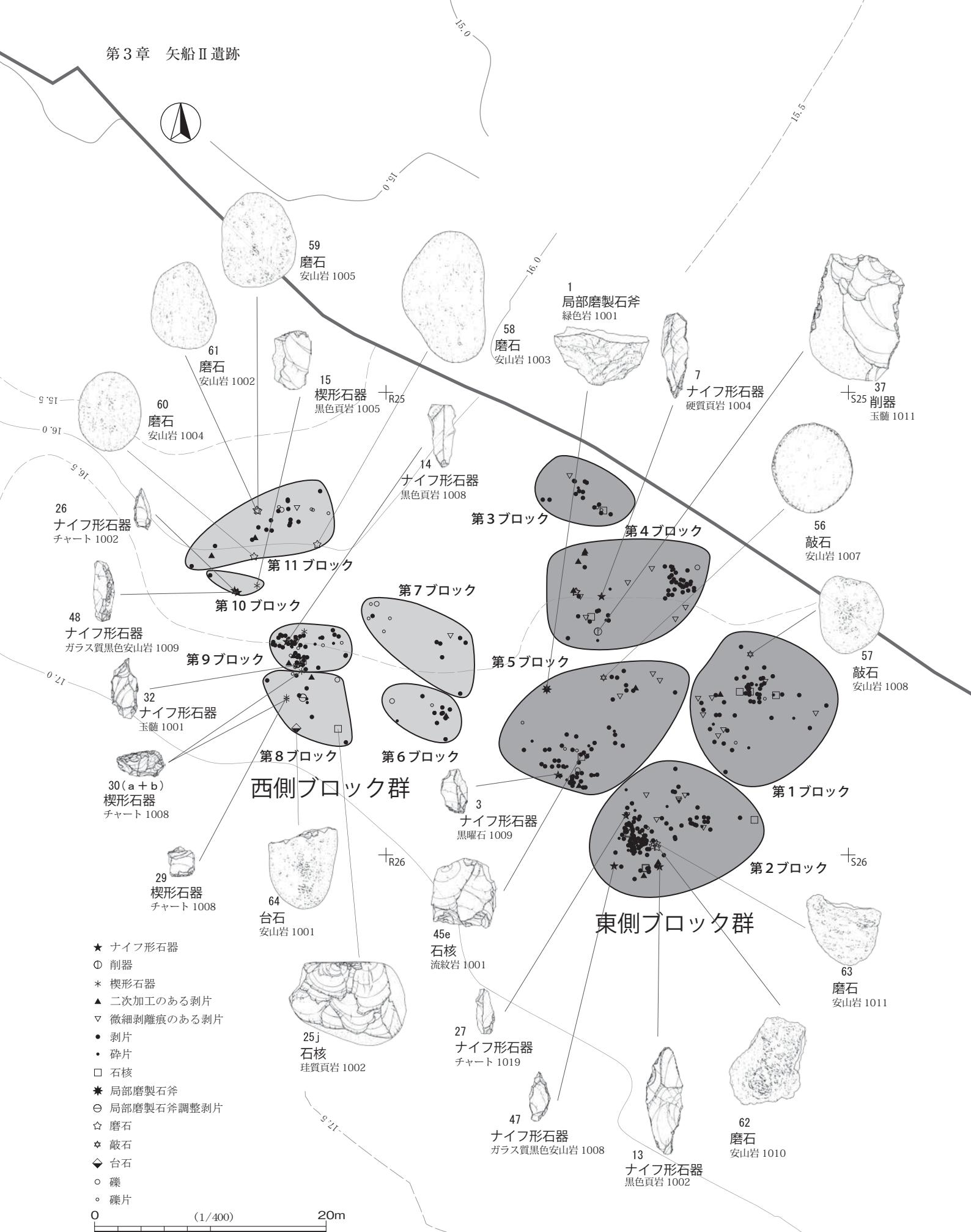
母岩 \ 器種	母岩番号	二次加工のある剥片	微細剥離痕のある剥片	剥片	碎片	石核	敲石	礫片	点数合計	点数比 (%)	重量合計 (g)	重量比 (%)
ガラス質黒色安山岩	1001			4					4	6.45	56.03	11.20
	1003			6		2			8	12.90	130.52	26.08
	1007					1			1	1.61	26.89	5.37
	1009			1					1	1.61	12.02	2.40
	1011			5	1				6	9.68	5.07	1.01
	1012				1				1	1.61	0.65	0.13
	1014			1					1	1.61	0.47	0.09
	1015			2					2	3.23	3.82	0.76
ガラス質黒色安山岩合計				19	2	3			24	38.71	235.47	47.05
安山岩	1008						1		1	1.61	174.78	34.92
珪質頁岩	1004		1						1	1.61	11.38	2.27
	1005		1						1	1.61	12.64	2.53
	1006			6	1				7	11.29	10.44	2.09
	1007			1					1	1.61	4.12	0.82
珪質頁岩合計				2	7	1			10	16.13	38.58	7.71
黒色頁岩	1007		1						1	1.61	9.52	1.90
玉髓	1001			12	1				13	20.97	9.22	1.84
	1003		1	1					2	3.23	3.47	0.69
	1004				1				1	1.61	0.11	0.02
	1005	1							1	1.61	0.78	0.16
	1006		1						1	1.61	12.23	2.44
玉髓合計		1	2	13	2				18	29.03	25.81	5.16
チャート	1010		1						1	1.61	3.65	0.73
	1015		1						1	1.61	5.05	1.01
	1999							1	1	1.61	0.14	0.03
チャート合計				2				1	1	4.84	8.84	1.77
砂岩	1999							1	1	1.61	0.34	0.07
流紋岩	1002				4				4	6.45	7.14	1.43
全体点数合計		1	7	43	5	3	1	2	62	100.00	500.48	100.00

② 第1文化層1ユニット第2ブロック(第3-13・14図、第3-8表、図版7)

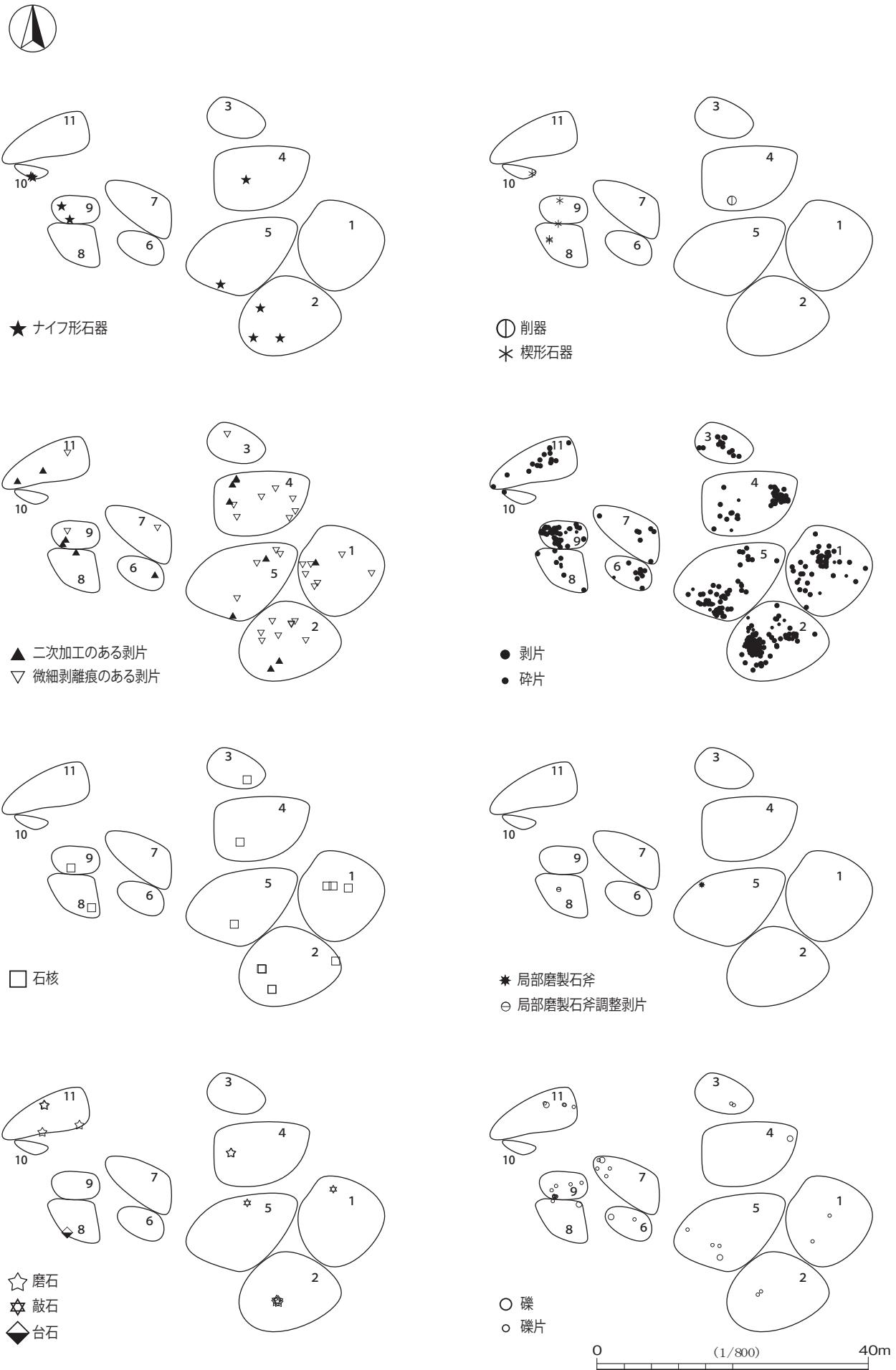
出土状況 東側ブロック群南部のR25-85・86・94~97、R26-04・05グリッドに分布している。9.5m × 13.7mの範囲から138点の石器が出土した。北西部・南部・北東部の3か所の集中地点がみられる。北西部が密集し、南部・北東部が散漫に分布している。磨石が4点出土しており、これらは北西部の集中地点の南東側にまとまって出土している。接合資料は13個体出土しているが、すべて近接した遺物の接合であった。IX層からV層にかけて出土しており、IXa層上部に集中する。

出土遺物 器種組成はナイフ形石器3点、二次加工のある剥片2点、微細剥離のある剥片8点、剥片99点、碎片15点、石核5点、磨石4点の石器類136点と礫片2点で構成される。石器類の石材はガラス質黒

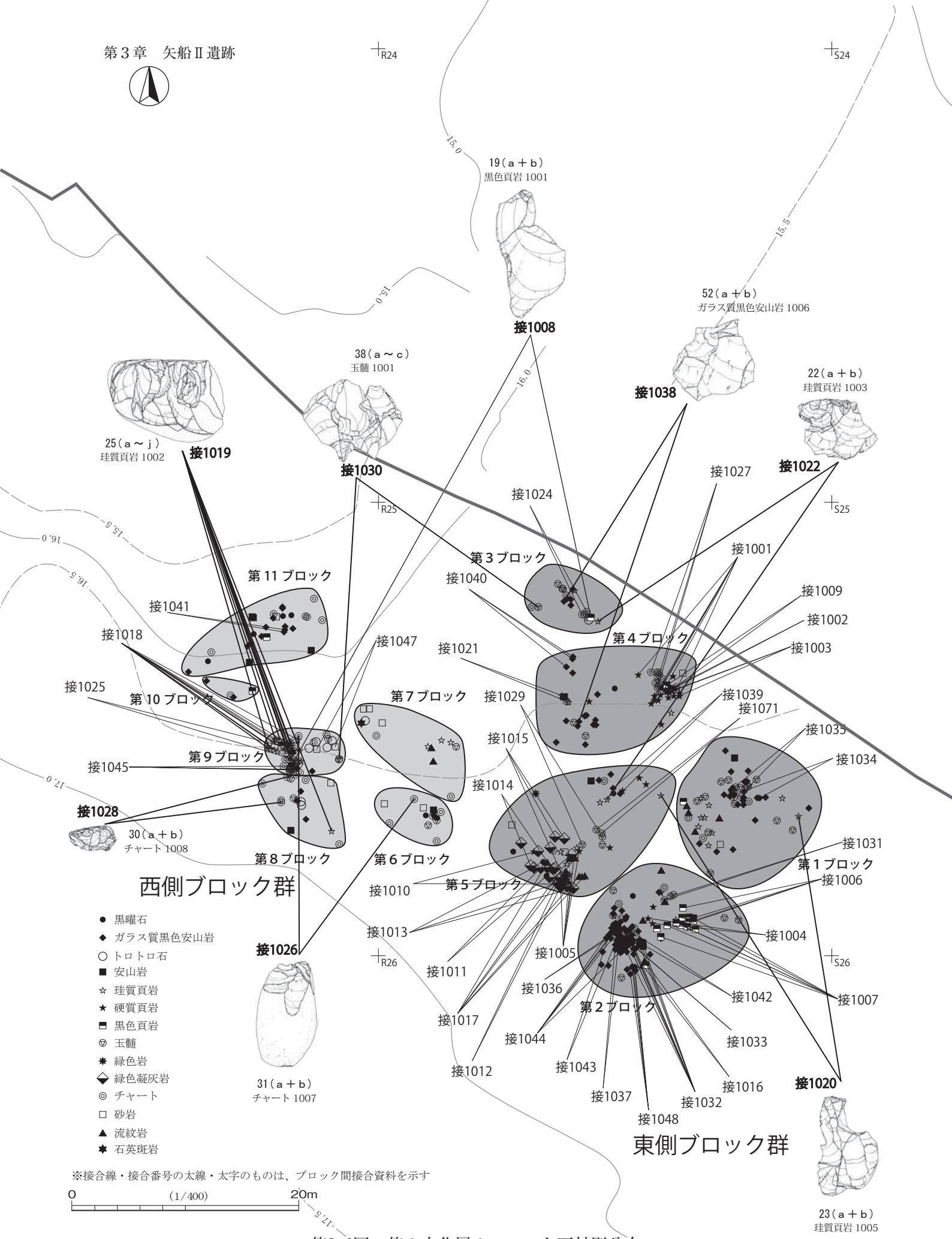
第3章 矢船II遺跡



第3-4図 第1文化層1ユニット器種別分布(1)



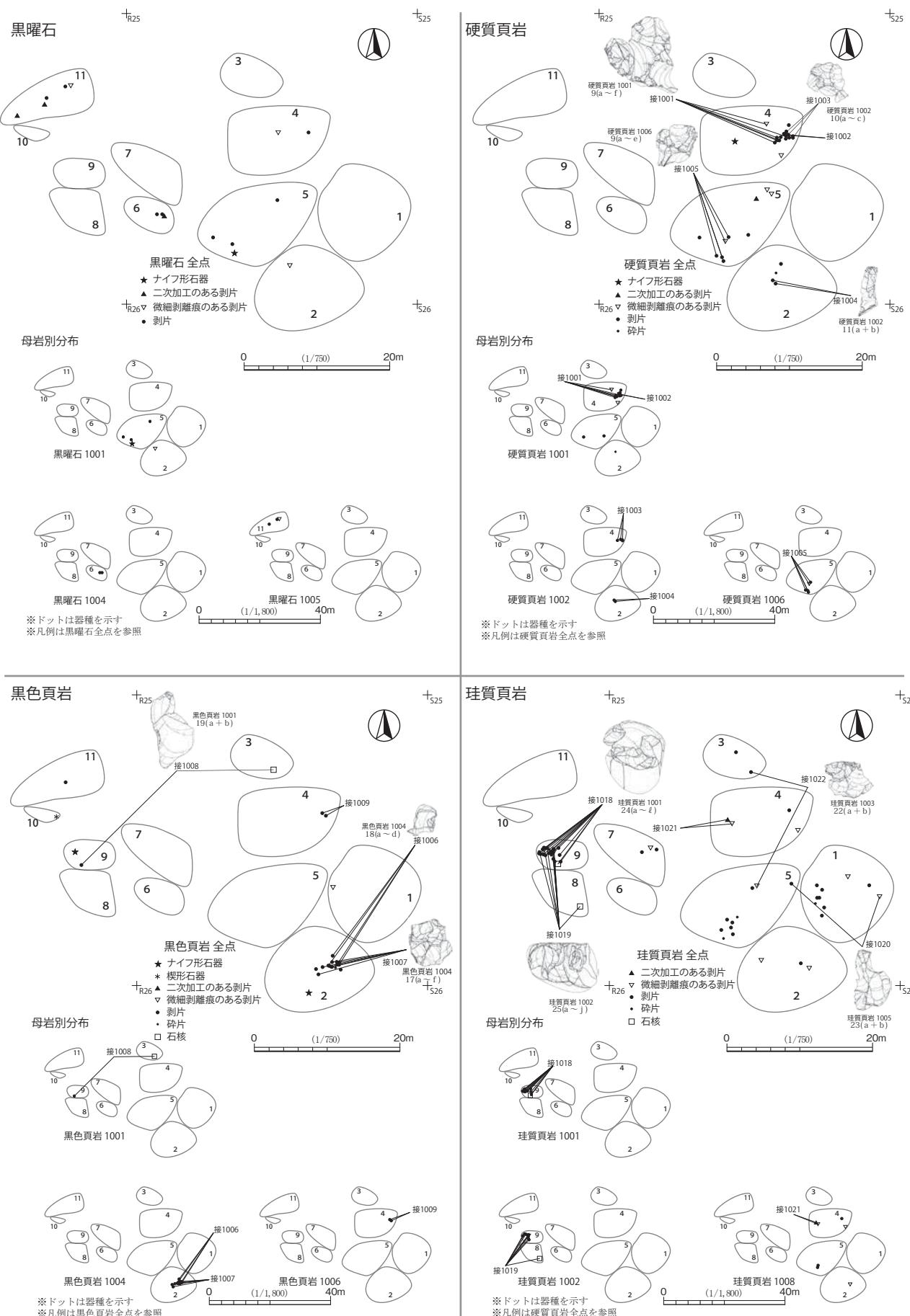
第3-5図 第1文化層1ユニット器種別分布(2)



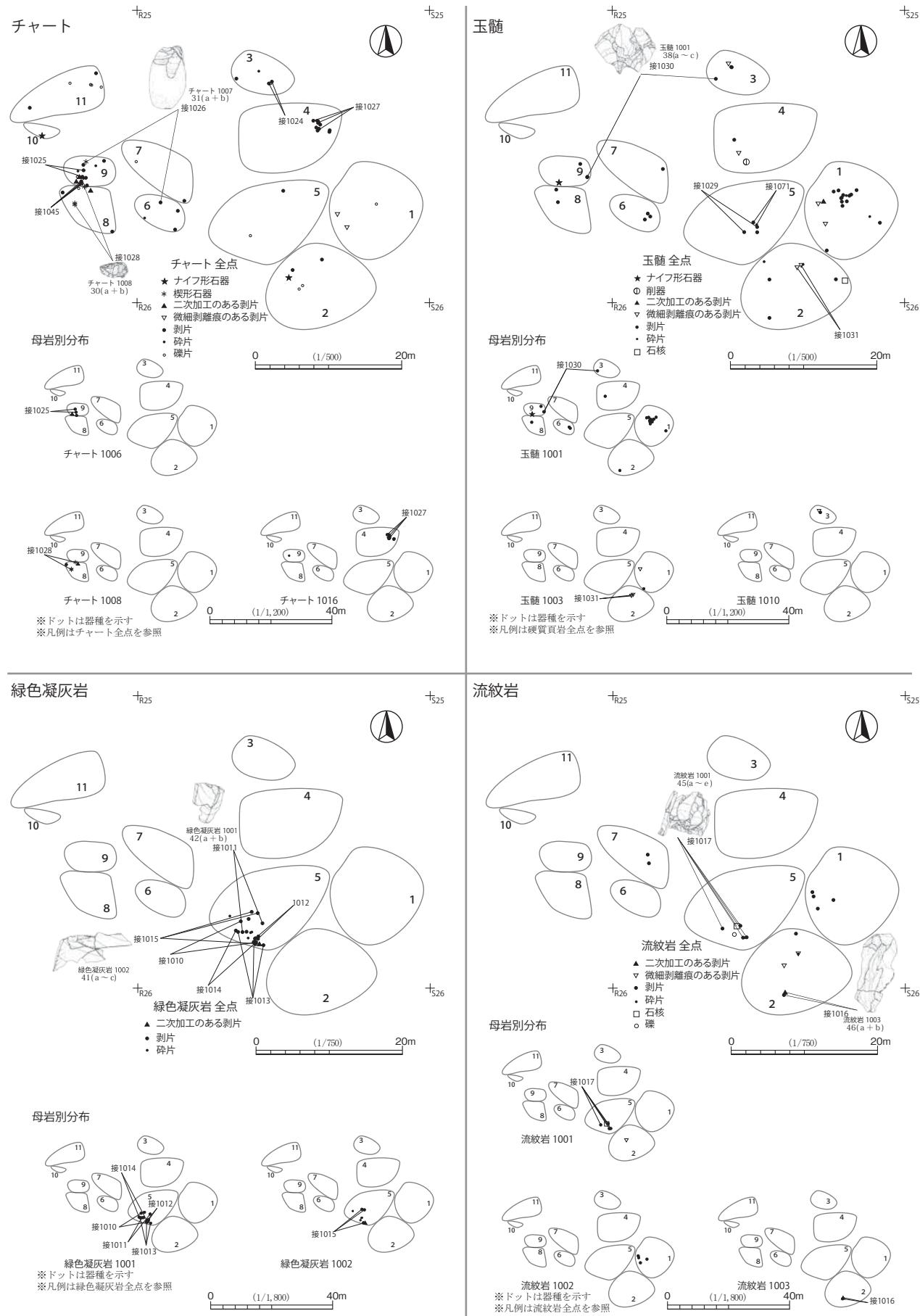
*接合線・接合番号の大線・大字のものは、ブロック間接会資料を示す

0 (1/400) 20m

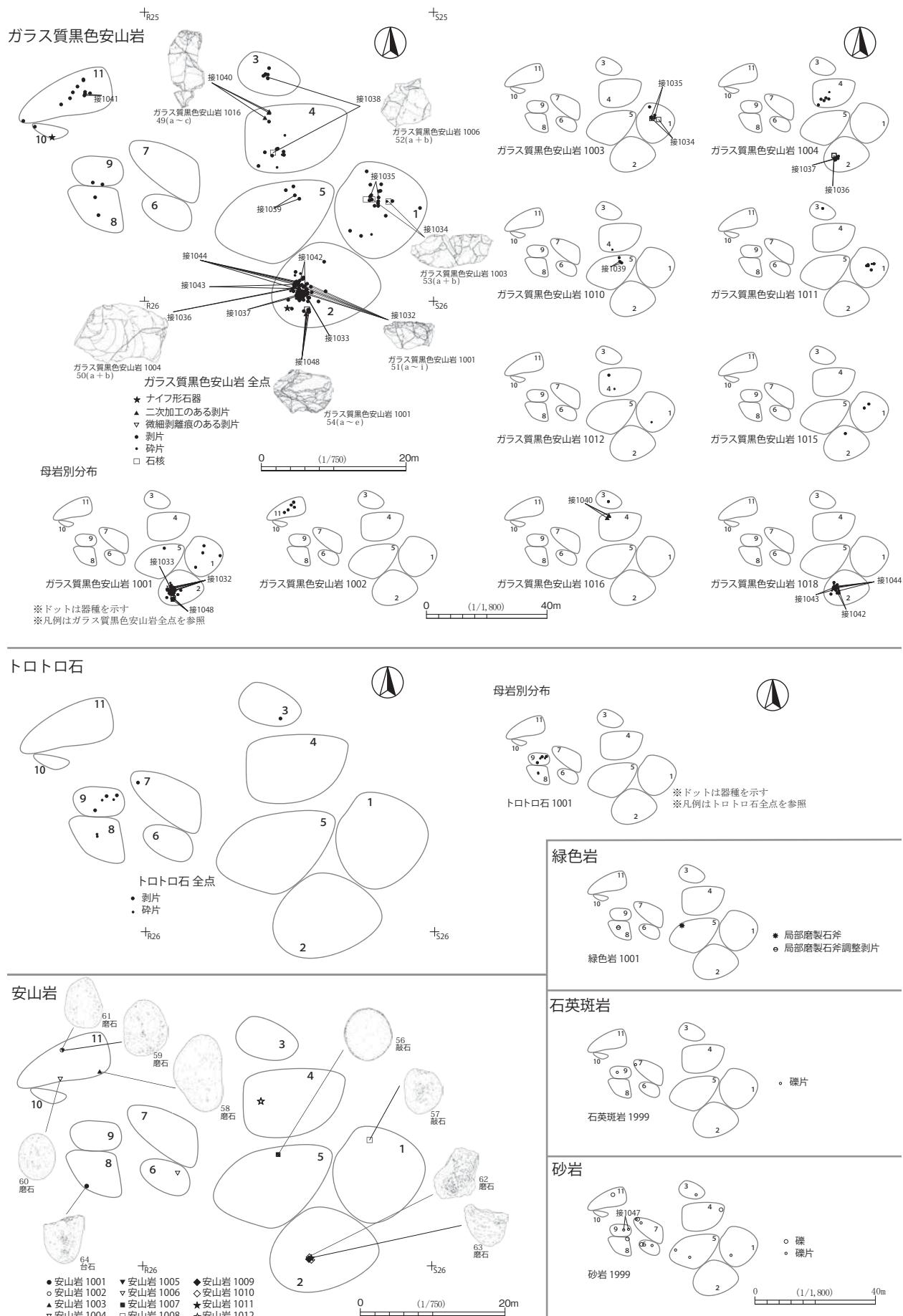
第3-6図 第1文化層1ユニット石材別分布



第3-7図 第1文化層1ユニット石材別母岩分布(1)



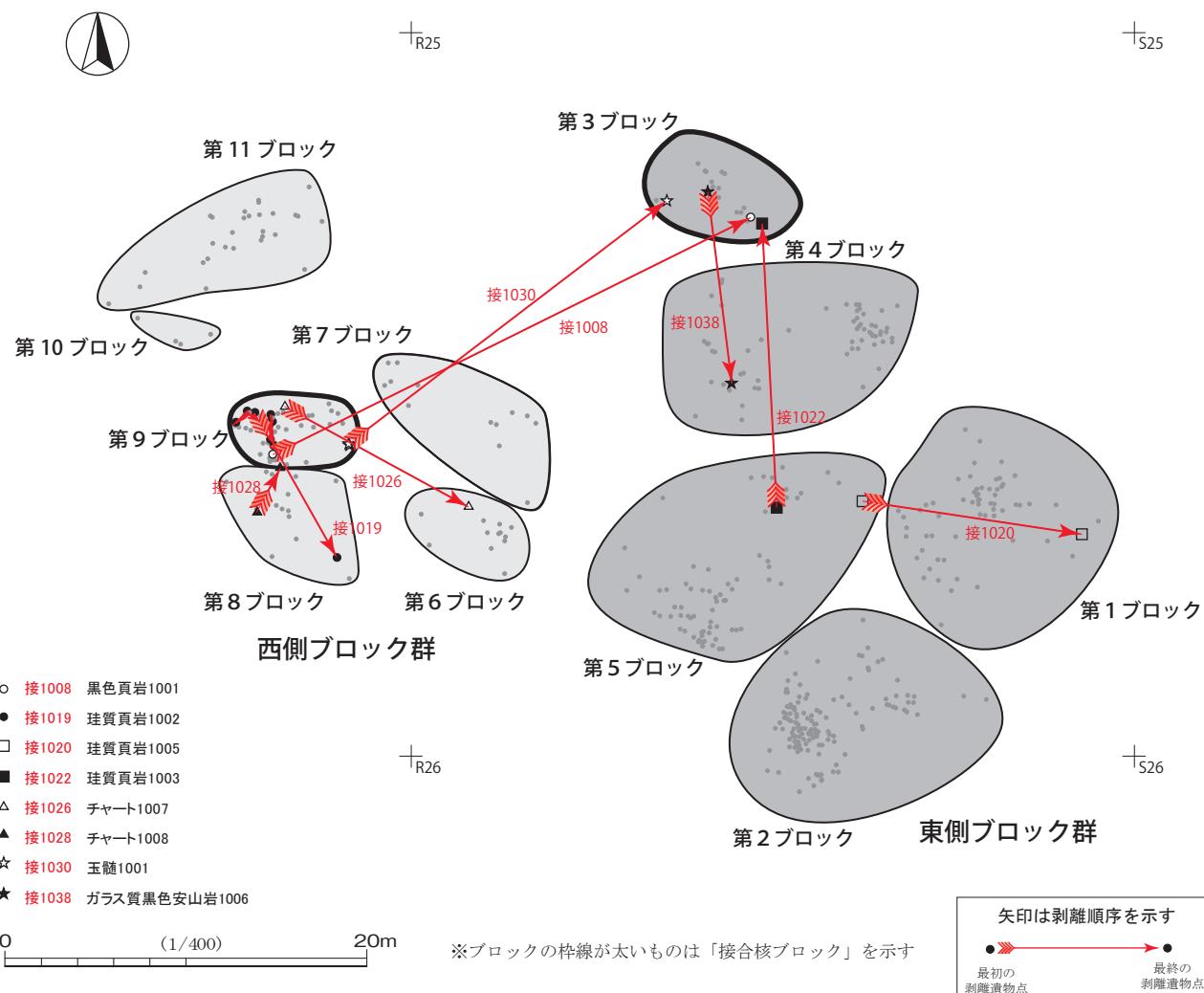
第3-8図 第1文化層1ユニット石材別母岩分布(2)



第3-9図 第1文化層1ユニット石材別母岩分布(3)

母岩	接合番号 挿図番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	総数
黒色頁岩1001	接1008 19(a+b) ○			b					a				
	点数			1						1			2
珪質頁岩1002	接1019 25(a~j) ●							j		a~i			
	点数								1	9			10
珪質頁岩1005	接1020 23(a+b) □		b		a								
	点数	1			1								2
珪質頁岩1003	接1022 22(a+b) ■			b		a							
	点数		1		1								2
チャート1007	接1026 31(a+b) △						a			b			
	点数						1		1				2
チャート1008	接1028 30(a+b) ▲								a	b			
	点数								1	1			2
玉髓1001	接1030 38(a~c) ☆			c						a+b			
	点数			1						2			3
ガラス質黒色安山岩 1006	接1038 52(a+b) ★			a		b							
	点数			1	1								2

※ 一連の剥離 剥離順序 接合核ブロック



第3-10図 第1文化層1ユニット接合関係図

第3-8表 第1文化層第2ブロック組成表

母岩 器種	母岩番号	ナイフ形石器	二次加工のある剥片	微細剥離痕のある剥片	剥片	碎片	石核	磨石	礫片	点数合計	点数比(%)	重量合計(g)	重量比(%)	
黒曜石	1001			1						1	0.72	12.16	1.11	
ガラス質黒色安山岩	1001		1	1	41	6	2			51	36.96	387.40	35.46	
	1004				8	2	2			12	8.70	126.88	11.61	
	1008	1								1	0.72	2.84	0.26	
	1015				1					1	0.72	13.15	1.20	
	1018				24	2				26	18.84	70.10	6.42	
ガラス質黒色安山岩合計		1	1	1	74	10	4			91	65.94	600.37	54.96	
安山岩	1009							1		1	0.72	40.84	3.74	
	1010							2		2	1.45	107.52	9.84	
	1011							1		1	0.72	77.17	7.06	
安山岩合計								4		4	2.90	225.53	20.64	
珪質頁岩	1008			1						1	0.72	11.12	1.02	
	1009			1	1					2	1.45	18.06	1.65	
珪質頁岩合計				2	1					3	2.17	29.18	2.67	
硬質頁岩	1001					1				1	0.72	0.06	0.01	
	1002				2					2	1.45	4.15	0.38	
	1003				1					1	0.72	7.46	0.68	
硬質頁岩合計					3	1				4	2.90	11.67	1.07	
黒色頁岩	1002	1								1	0.72	17.28	1.58	
	1003				1					1	0.72	0.86	0.08	
	1004				13	1				14	10.14	45.57	4.17	
黒色頁岩合計		1			14	1				16	11.59	63.71	5.83	
玉髓	1001				1					1	0.72	0.35	0.03	
	1003			2						2	1.45	17.46	1.60	
	1004					2				2	1.45	0.33	0.03	
	1007				1					1	0.72	0.45	0.04	
	1008						1			1	0.72	38.47	3.52	
	1009				1					1	0.72	4.43	0.41	
玉髓合計				2	3	2	1			8	5.80	61.49	5.63	
チャート	1009				1					1	0.72	10.73	0.98	
	1013				1					1	0.72	3.78	0.35	
	1019	1								1	0.72	1.09	0.10	
	1999								2	2	1.45	0.89	0.08	
チャート合計		1			2					2	5	3.62	16.49	1.51
流紋岩	1001			1						1	0.72	23.88	2.19	
	1003		1		1					2	1.45	35.73	3.27	
	1004			1		1				2	1.45	11.54	1.06	
	1005				1					1	0.72	0.72	0.07	
流紋岩合計			1	2	2	1				6	4.35	71.87	6.58	
全体点数合計	3	2	8	99	15	5	4	2	138	100.00	1,092.47	100.00		

色安山岩91点、黒色頁岩16点、玉髓8点、流紋岩6点、安山岩4点、硬質頁岩4点、珪質頁岩3点、チャート3点、黒曜石1点である。礫片の石材はチャート2点である。

③第1文化層1ユニット第3ブロック(第3-15図、第3-9表、図版7)

出土状況 東側ブロック群北部のR25-13・14・23・24グリッドに分布している。3.4m×5.9mの範囲から19点の石器が出土地した。ブロック間の接合資料は4個体検出されている。出土点数は少ないが、ブロック間接合するものが多いという特徴から、接合核ブロックととらえた。このうち2個体(接1008・1030)が西側ブロック群の第9ブロックと接合している。接1008は約30m離れて接合しており、1ユニットのなかで最も離れた接合資料である。北西部と南東部の2か所の集中地点がみられる。IX層からV層にかけて出土しており、IX層上部に集中する。

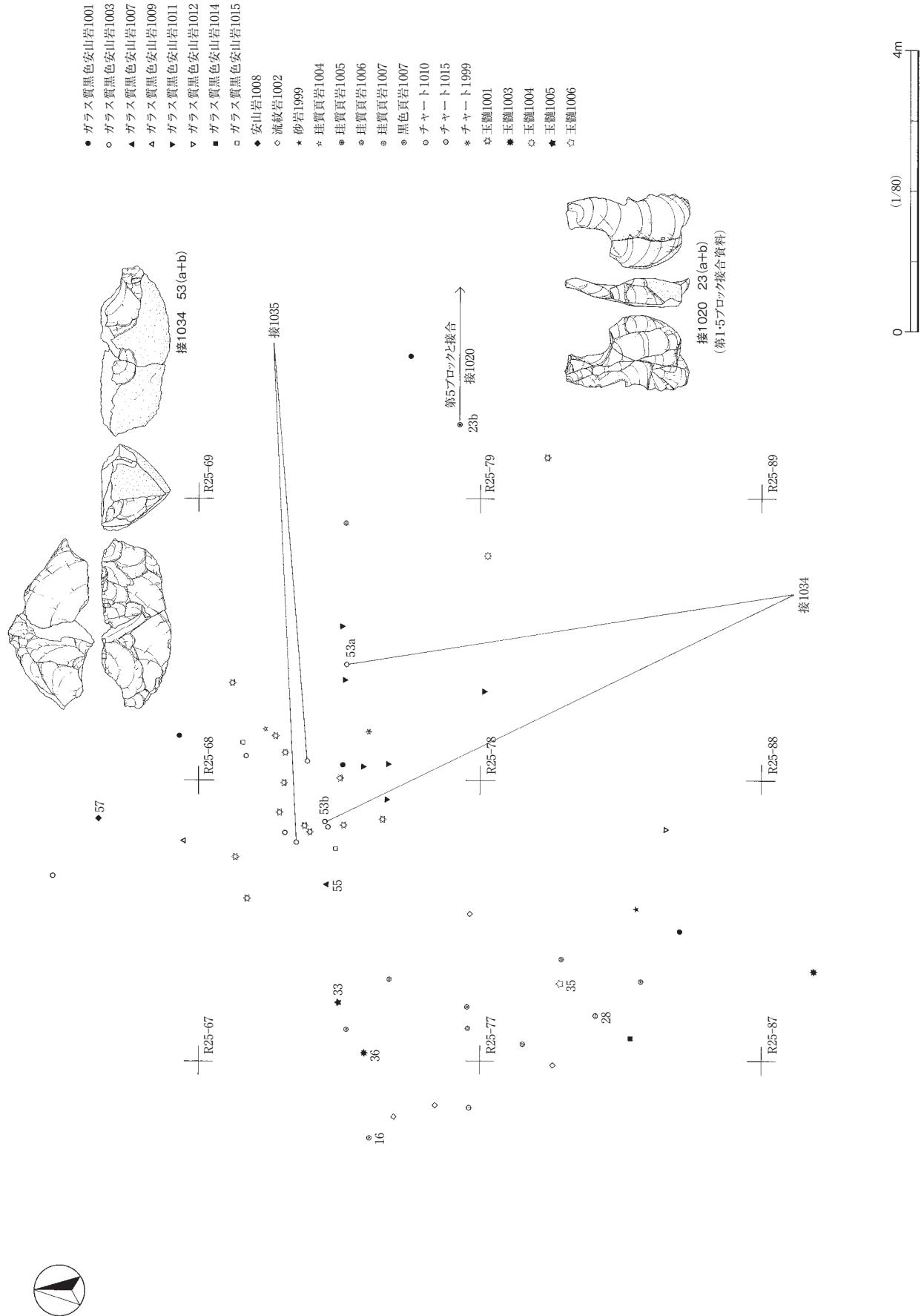
出土遺物 器種組成は微細剥離痕のある剥片1点、剥片14点、碎片1点、石核1点の石器類17点と礫片2点で構成される。石器類の石材はガラス質黒色安山岩5点、玉髓4点、チャート4点、珪質頁岩2点、トロトロ石1点、黒色頁岩1点である。礫片の石材はチャート1点、砂岩1点である。

④第1文化層1ユニット第4ブロック(第3-16・17図、第3-10表、図版7)

出土状況 東側ブロック群北部の南寄りのR25-34~36・44~46・53~55グリッドに分布している。7.8m



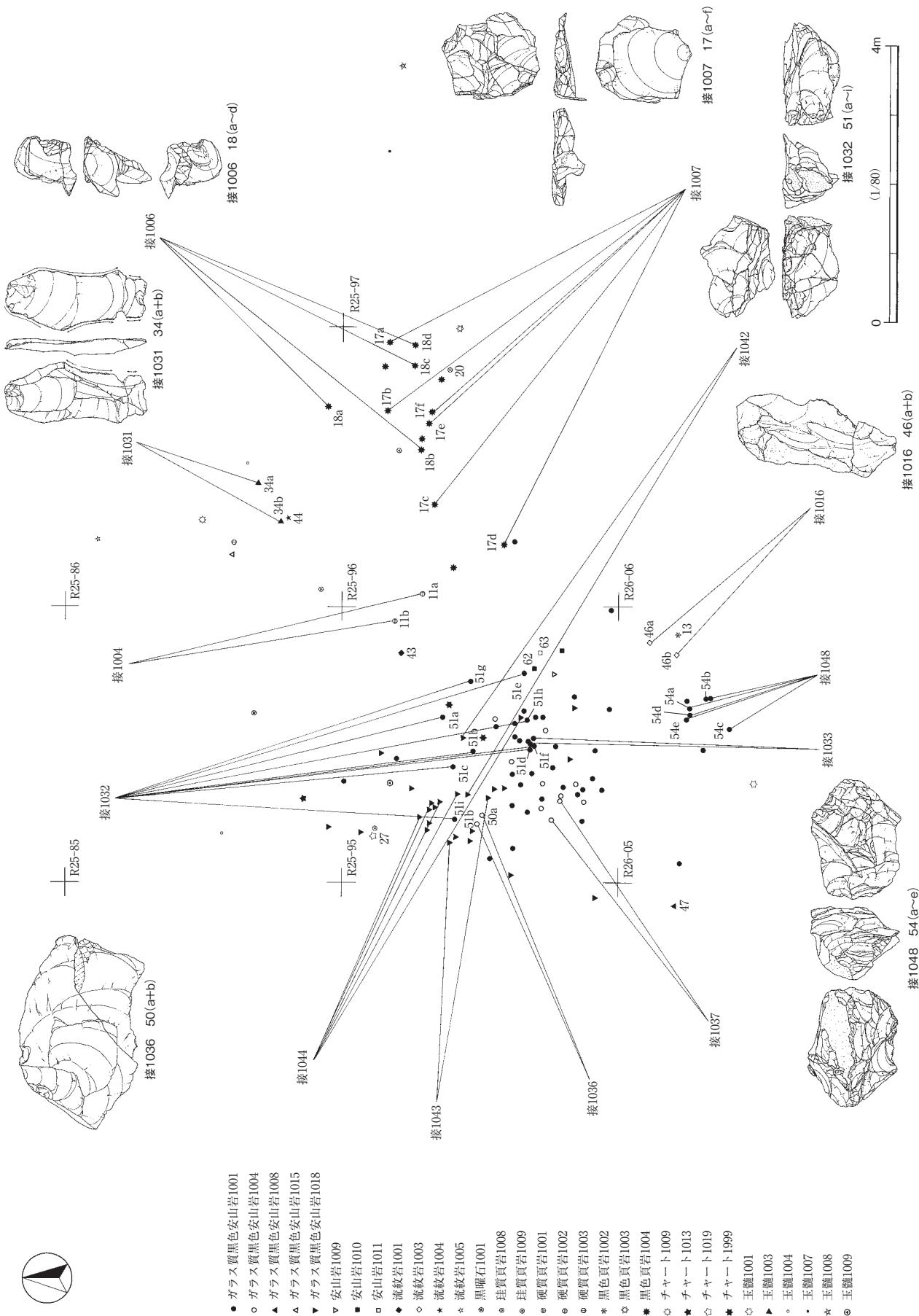
第3-11図 第1文化層1ユニット第1ブロック器種別分布



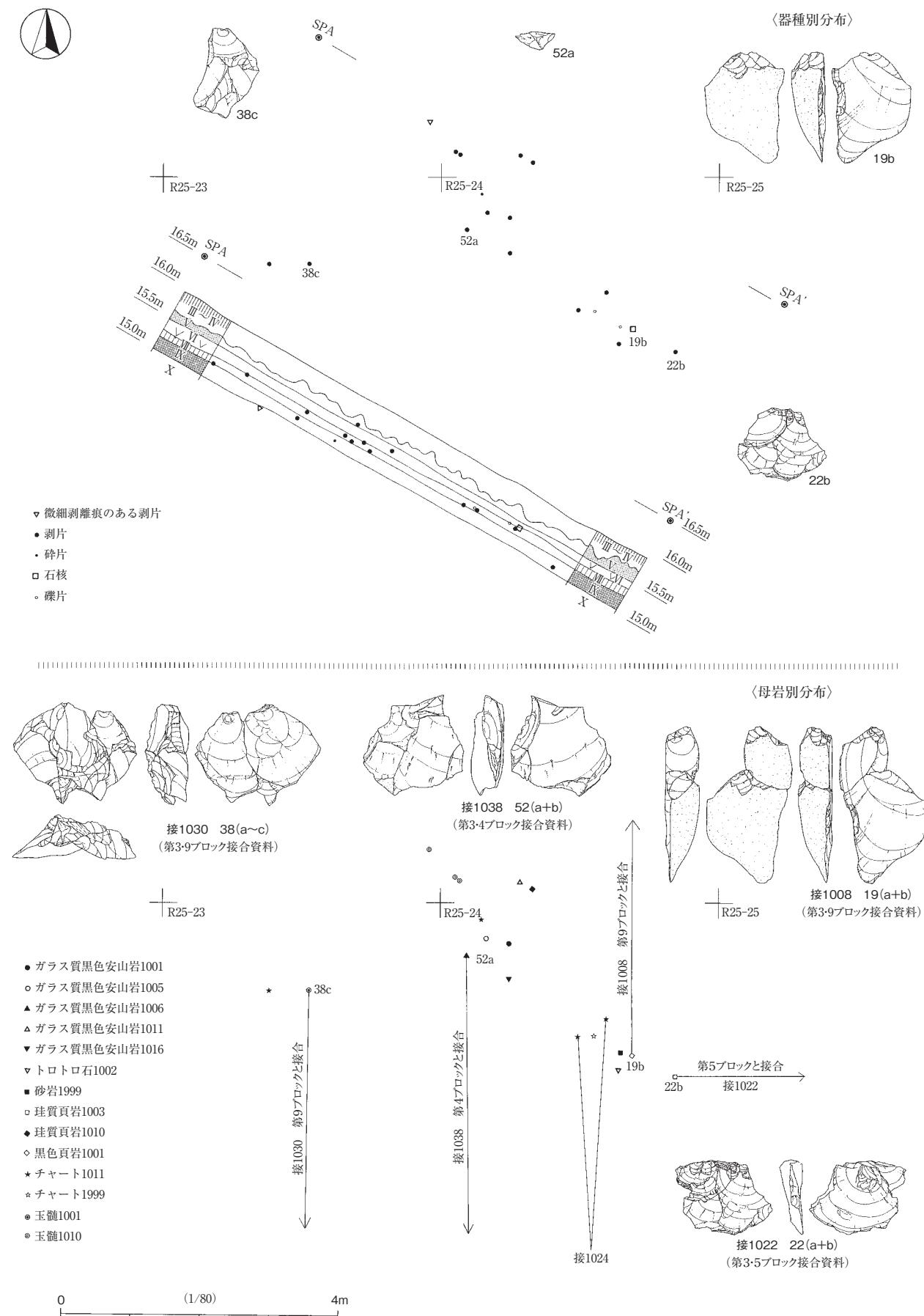
第3-12図 第1文化層1ユニット第1ブロック母岩別分布



第3-13図 第1文化層1ユニット第2ブロック器種別分布



第3-14図 第1文化層1ユニット第2ブロック母岩別分布



第3-15図 第1文化層1ユニット第3ブロック遺物分布

第3-9表 第1文化層第3ブロック組成表

母岩	器種	母岩番号	微細剥離痕 のある剥片	剥片	碎片	石核	礫片	点数合計	点数比 (%)	重量合計 (g)	重量比 (%)
ガラス質黒色安山岩		1001		1				1	5.26	19.51	8.97
		1005		1				1	5.26	8.08	3.71
		1006		1				1	5.26	1.03	0.47
		1011		1				1	5.26	1.48	0.68
		1016		1				1	5.26	0.51	0.23
ガラス質黒色安山岩合計			5					5	26.32	30.61	14.07
トロトロ岩		1002		1				1	5.26	5.89	2.71
珪質頁岩		1003		1				1	5.26	12.98	5.97
		1010		1				1	5.26	5.02	2.31
珪質頁岩合計			2					2	10.53	18.00	8.27
黒色頁岩		1001				1		1	5.26	42.96	19.75
玉髓		1001		1				1	5.26	12.96	5.96
		1010	1	2				3	15.79	9.43	4.33
玉髓合計			1	3				4	21.05	22.39	10.29
チャート		1011		3	1			4	21.05	10.31	4.74
		1999					1	1	5.26	0.36	0.17
チャート合計			3	1			1	5	26.32	10.67	4.90
砂岩		1999					1	1	5.26	87.03	40.00
全体点数合計			1	14	1	1	2	19	100.00	217.55	100.00

×11.3mの範囲から61点の石器が出土した。北側に隣接する第3ブロックと接合するものが1個体(接1038)検出された。東部と西部の2か所の集中地点がみられる。東部が密集し、西部がやや散漫に分布している。IX層からVI層にかけて出土しており、IX層上部に集中する。

出土遺物 器種組成はナイフ形石器1点、削器1点、二次加工のある剥片4点、微細剥離痕のある剥片7点、剥片38、碎片6点、石核1点、磨石2点の石器類60点と礫1点で構成される。石器類の石材は硬質頁岩19点、ガラス質黒色安山岩15点、チャート12点、珪質頁岩5点、玉髓3点、黒曜石2点、安山岩2点、黒色頁岩2点である。礫の石材は砂岩1点である。

⑤第1文化層1ユニット第5ブロック(第3-18・19図、第3-11表、図版7)

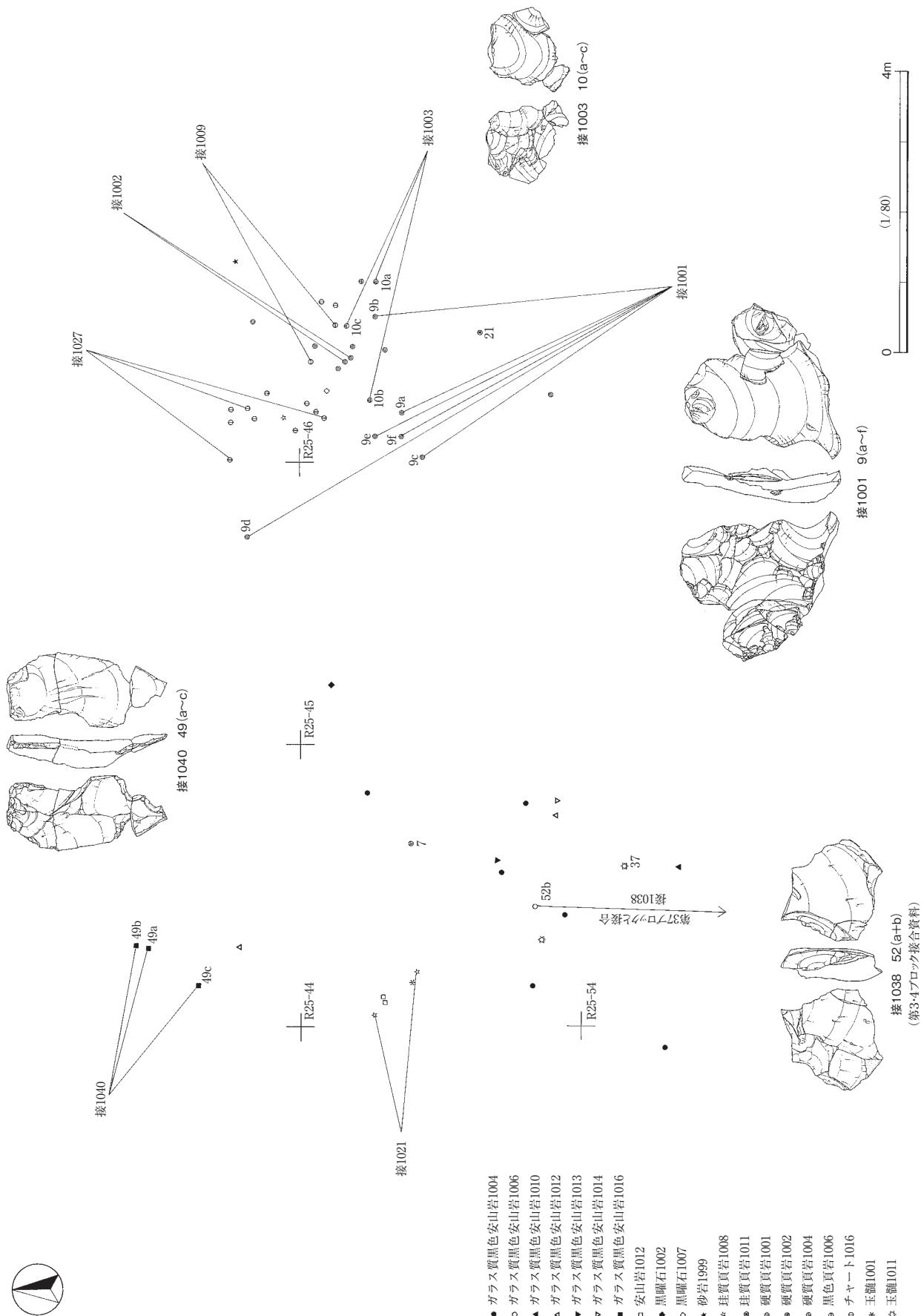
出土状況 東側ブロック群西部のR25-63~66・72~75・83・84ブロックに分布している。10.1m×13.2m

第3-10表 第1文化層第4ブロック組成表

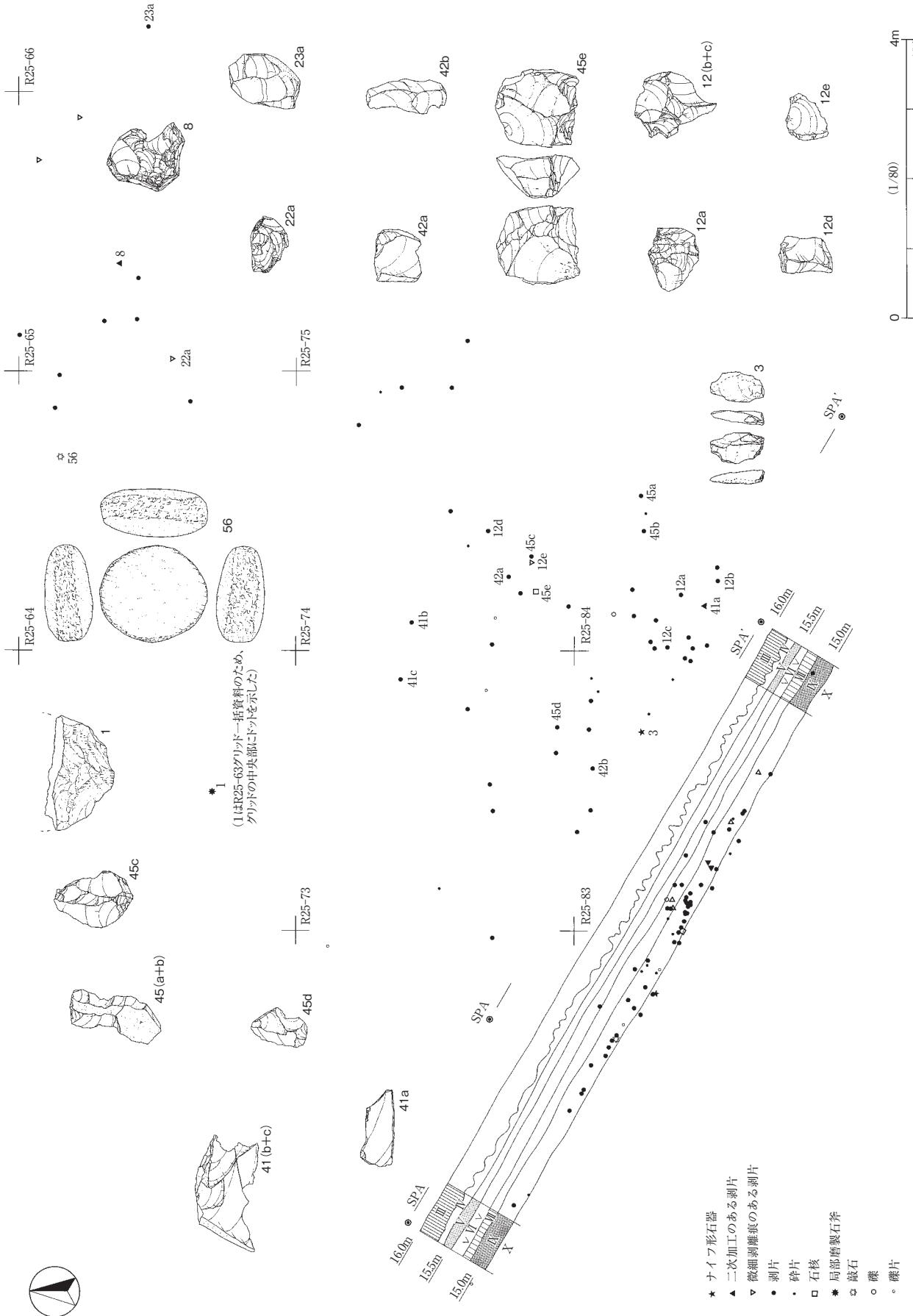
母岩	器種	母岩番号	ナイフ形石器	削器	二次加工のある剥片	微細剥離痕のある剥片	剥片	碎片	石核	磨石	礫	点数合計	点数比 (%)	重量合計 (g)	重量比 (%)
黒曜石		1002				1						1	1.64	1.70	0.38
		1007					1					1	1.64	4.98	1.11
黒曜石合計					1	1						2	3.28	6.68	1.49
ガラス質黒色安山岩		1004					5	1				6	9.84	45.63	10.16
		1006										1	1.64	44.11	9.83
		1010						1				1	1.64	0.25	0.06
		1012					1	1				2	3.28	1.37	0.31
		1013					1					1	1.64	20.63	4.60
		1014					1					1	1.64	0.72	0.16
		1016			3							3	4.92	40.72	9.07
ガラス質黒色安山岩合計					3		8	3	1			15	24.59	153.43	34.18
安山岩		1012								2		2	3.28	49.31	10.98
珪質頁岩		1008			1	1	2					4	6.56	12.93	2.88
		1011				1						1	1.64	9.32	2.08
珪質頁岩合計					1	2	2					5	8.20	22.25	4.96
硬質頁岩		1001				3	11					14	22.95	87.28	19.44
		1002					4					4	6.56	13.45	3.00
		1004	1									1	1.64	7.18	1.60
硬質頁岩合計			1		3	15						19	31.15	107.91	24.04
黒色頁岩		1006					2					2	3.28	9.87	2.20
玉髓		1001					1					1	1.64	1.63	0.36
		1011		1		1						2	3.28	85.15	18.97
玉髓合計			1		1	1						3	4.92	86.78	19.33
チャート		1016					9	3				12	19.67	9.56	2.13
砂岩		1999									1	1	1.64	3.13	0.70
全体点数合計			1	1	4	7	38	6	1	2	1	61	100.00	448.92	100.00



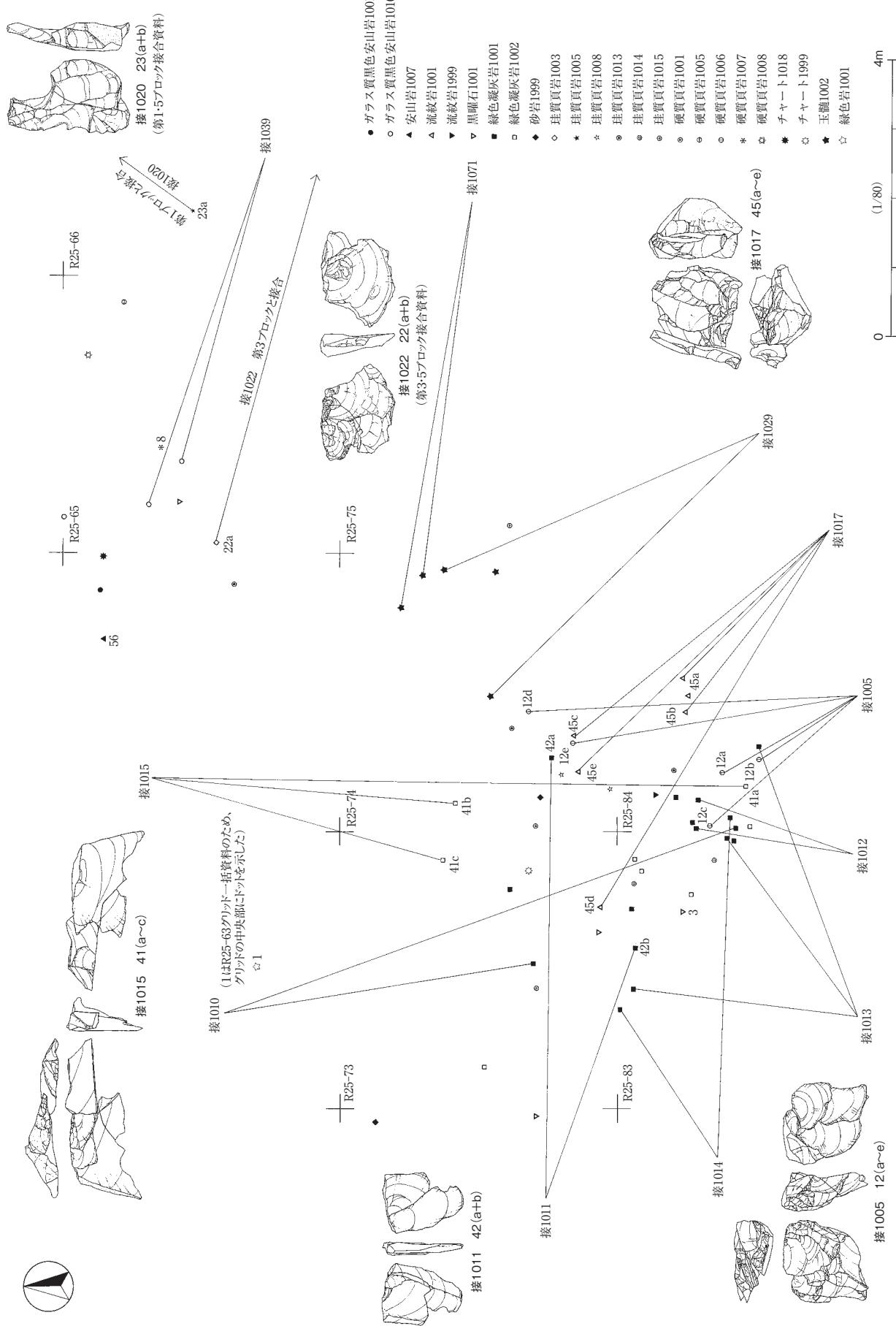
第3-16図 第1文化層1ユニット第4ブロック器種別分布



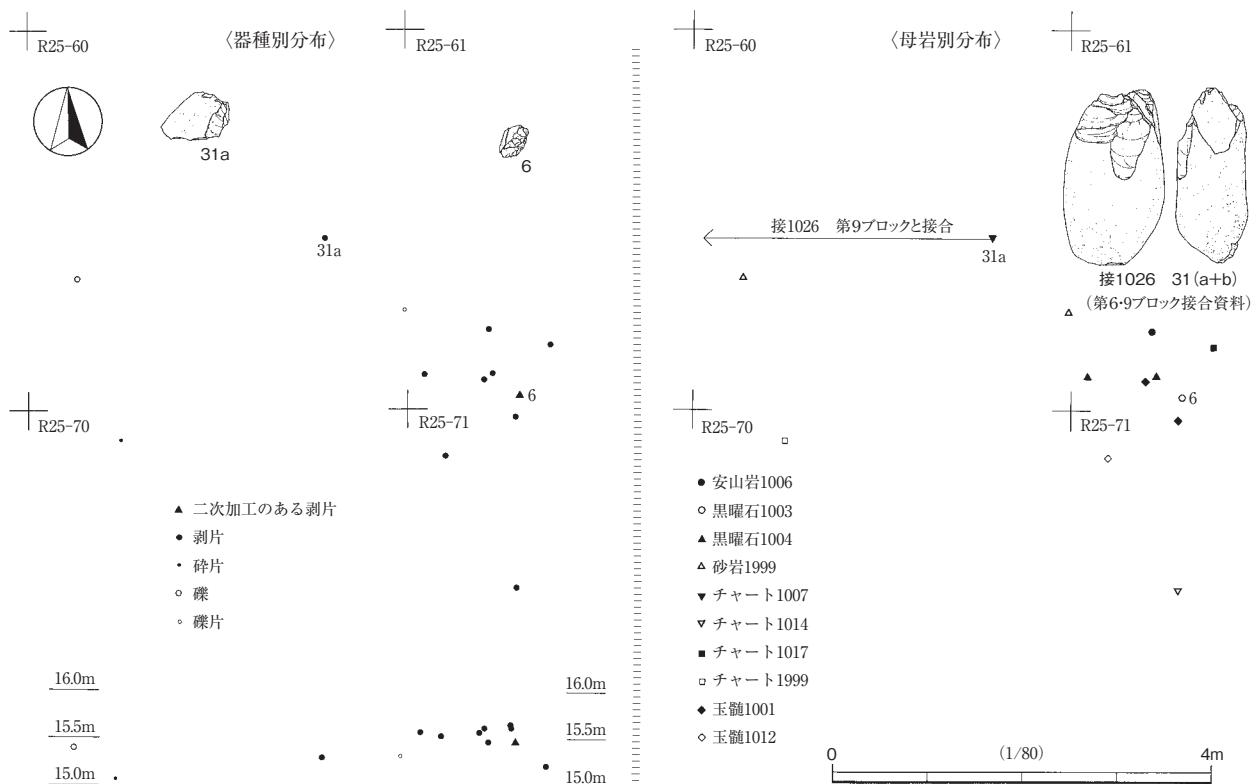
第3-17図 第1文化層1ユニット第4ブロック母岩別分布



第3-18図 第1文化層1ユニット第5ブロック器種別分布



第3-19図 第1文化層1ユニット第5ブロック母岩別分布



第3-20図 第1文化層1ユニット第6ブロック遺物分布

の範囲から70点の石器が出土した。南西部と北東部の2か所の集中地点がみられる。南西部が密集し、北東部が散漫に分布している。ブロック間の接合資料は2個体検出されており、第1ブロック(接1020)と第3ブロック(接1022)と接合している。局部磨製石斧と敲石は集中地点からやや離れた北部に分布している。X層からVI層にかけて出土しており、IX層上部に集中する。

出土遺物 器種組成はナイフ形石器1点、二次加工のある剥片2点、微細剥離痕のある剥片4点、剥片48点、碎片8点、石核1点、局部磨製石斧1点、敲石1点の石器類66点と礫1点、礫片3点の礫・礫片4点で構成される。石器類の石材は緑色凝灰岩24点、珪質頁岩10点、硬質頁岩10点、流紋岩6点、玉髓5点、黒曜石4点、ガラス質黒色安山岩4点、安山岩1点、緑色岩1点、チャート1点である。礫・礫片の石材は砂岩2点、チャート1点、流紋岩1点である。

⑥第1文化層1ユニット第6ブロック(第3-20図、第3-12表、図版7)

出土状況 西側ブロック群南東部のR25-60・61・70・71グリッドに分布している。3.7m×5.0mの範囲から13点の石器が出土した。ブロック間の接合資料は1個体検出され、第9ブロックと接合する。集中地点は1か所であるが、西側に離れて礫が1点出土している。遺物分布状況をセクション図に投影できなかつたが、現場での遺物取り上げ時の所見などから、出土層位はIX層上部に集中すると判断した。

出土遺物 器種組成は二次加工のある剥片1点、剥片9点、碎片1点の石器類11点と礫1点、礫片1点で構成される。石器類の石材はチャート4点、黒曜石3点、玉髓3点、安山岩1点である。礫・礫片の石材は砂岩2点である。

⑦第1文化層1ユニット第7ブロック(第3-21図、第3-13表、図版7)

出土状況 西側ブロック群東部のQ25-49・59、R25-40・51・61グリッドに分布している。7.8m×8.4mの

第3-11表 第1文化層第5ブロック組成表

母岩 \ 器種	母岩番号	ナイフ形石器	二次加工のある剥片	微細剥離痕のある剥片	剥片	碎片	石核	局部磨製石斧	敲石	礫	礫片	点数合計	点数比 (%)	重量合計 (g)	重量比 (%)
黒曜石	1001	1			3							4	5.71	15.41	2.20
ガラス質黒色安山岩	1001				1							1	1.43	1.70	0.24
	1010				3							3	4.29	8.76	1.25
ガラス質黒色安山岩合計					4							4	5.71	10.46	1.50
安山岩	1007								1			1	1.43	240.37	34.39
珪質頁岩	1003		1									1	1.43	3.69	0.53
	1005			1								1	1.43	9.25	1.32
	1008			2								2	2.86	22.11	3.16
	1013			2	1							3	4.29	3.44	0.49
	1014			1	1							2	2.86	11.81	1.69
	1015			1								1	1.43	6.92	0.99
珪質頁岩合計			1	7	2							10	14.29	57.22	8.19
硬質頁岩	1001			2								2	2.86	32.17	4.60
	1005		1									1	1.43	23.80	3.40
	1006		1	4								5	7.14	28.37	4.06
	1007	1										1	1.43	12.03	1.72
	1008		1									1	1.43	8.48	1.21
硬質頁岩合計		1	3	6								10	14.29	104.85	15.00
玉髓	1002			4	1							5	7.14	2.65	0.38
緑色岩	1001						1					1	1.43	52.82	7.56
緑色凝灰岩	1001			16								16	22.86	123.70	17.70
	1002	1		3	4							8	11.43	22.25	3.18
緑色凝灰岩合計		1		19	4							24	34.29	145.95	20.88
チャート	1018			1								1	1.43	2.43	0.35
	1999											1	1.43	0.55	0.08
チャート合計				1								2	2.86	2.98	0.43
砂岩	1999											2	2.86	3.23	0.46
流紋岩	1001			4	1	1						6	8.57	58.70	8.40
	1999											1	1.43	4.40	0.63
流紋岩合計				4	1	1						7	10.00	63.10	9.03
全体点数合計		1	2	4	48	8	1	1	1	1	3	70	100.00	699.04	100.00

第3-12表 第1文化層第6ブロック組成表

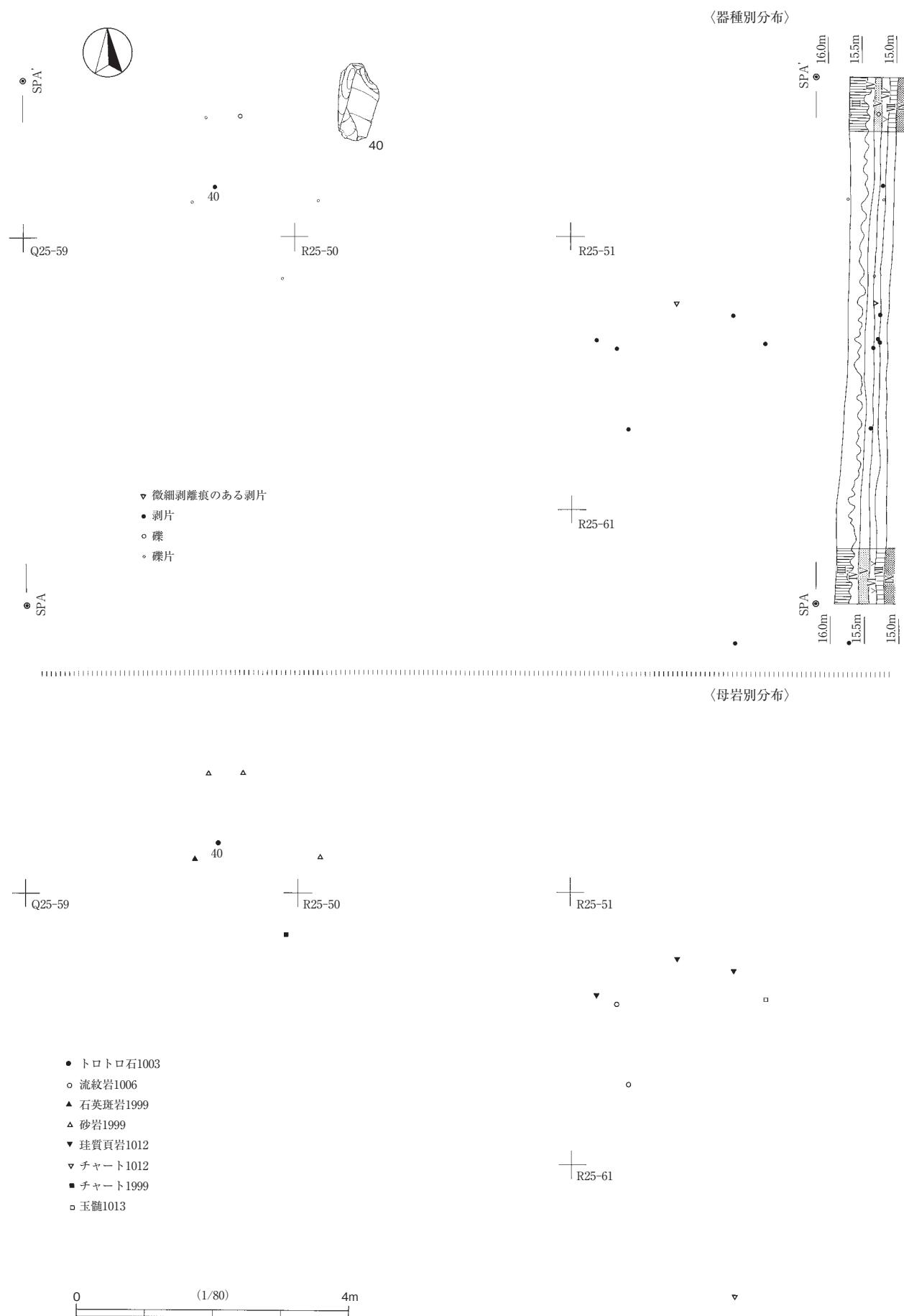
母岩 \ 器種	母岩番号	二次加工のある剥片	剥片	碎片	礫	礫片	点数合計	点数比 (%)	重量合計 (g)	重量比 (%)
黒曜石	1003	1					1	7.69	0.95	0.78
	1004		2				2	15.38	0.44	0.36
黒曜石合計		1	2				3	23.08	1.39	1.13
安山岩	1006		1				1	7.69	10.05	8.20
玉髓	1001		2				2	15.38	3.26	2.66
	1012		1				1	7.69	0.23	0.19
	1007		3				3	23.08	3.49	2.85
チャート	1007		1				1	7.69	4.35	3.55
	1014		1				1	7.69	1.07	0.87
	1017		1				1	7.69	3.09	2.52
	1999			1			1	7.69	0.50	0.41
チャート合計		3	1				4	30.77	9.01	7.35
砂岩	1999				1	1	2	15.38	98.62	80.47
全体点数合計		1	9	1	1	1	13	100.00	122.56	100.00

範囲から13点の石器が出土した。北西部と南東部の2か所の集中地点がみられる。北西部が礫・礫片を主体とし、南東部が石器類で占められる。V層からVI層にかけて出土しており、VII層に集中する。

出土遺物 器種組成は微細剥離痕のある剥片1点、剥片7点の石器類8点と礫1点、礫片4点の礫・礫片5点で構成される。石器類の石材は珪質頁岩3点、流紋岩2点、トロトロ石1点、玉髓1点、チャート1点の石器類である。礫・礫片の石材は砂岩3点、チャート1点、石英斑岩1点である。

⑧第1文化層1ユニット第8ブロック(第3-22図、第3-14表、図版7)

出土状況 西側ブロック群南西部のQ25-67・68・78・79グリッドに分布している。4.7m×6.6mの範囲か



第3-21図 第1文化層1ユニット第7ブロック遺物分布

第3-13表 第1文化層第7ブロック組成表

母岩	器種	母岩番号	微細剥離痕 のある剥片	剥片	礫	礫片	点数合計	点数比 (%)	重量合計 (g)	重量比 (%)
トロトロ石		1003		1			1	7.69	10.49	6.74
珪質頁岩		1012	1	2			3	23.08	3.88	2.49
玉髓		1013		1			1	7.69	0.23	0.15
チャート		1012		1			1	7.69	3.81	2.45
		1999				1	1	7.69	1.00	0.64
チャート	合計			1		1	2	15.38	4.81	3.09
砂岩		1999			1	2	3	23.08	58.07	37.31
流紋岩		1006		2			2	15.38	1.73	1.11
石英斑岩		1999				1	1	7.69	76.42	49.10
全 体	点 数 合 計		1	7	1	4	13	100.00	155.63	100.00

ら16点の石器が出土した。北東部と南西部の2か所の集中地点がみられる。どちらも散漫に分布している。ブロック間の接合資料は2個体(接1019・1028)検出され、どちらも北側に隣接する第9ブロックと接合する。X層からIXa層にかけて出土しており、IXa層に集中する。

出土遺物 器種組成は楔形石器2点、二次加工のある剥片1点、剥片6点、碎片2点、石核1点、局部磨製石斧調整剥片1点、台石1点の石器類14点と礫1点、礫片1点の礫・礫片2点で構成される。石器類の石材はチャート5点、ガラス質黒色安山岩2点、トロトロ石2点、玉髓2点、安山岩1点、珪質頁岩1点、緑色岩1点である。礫・礫片の石材はチャート1点、砂岩1点である。

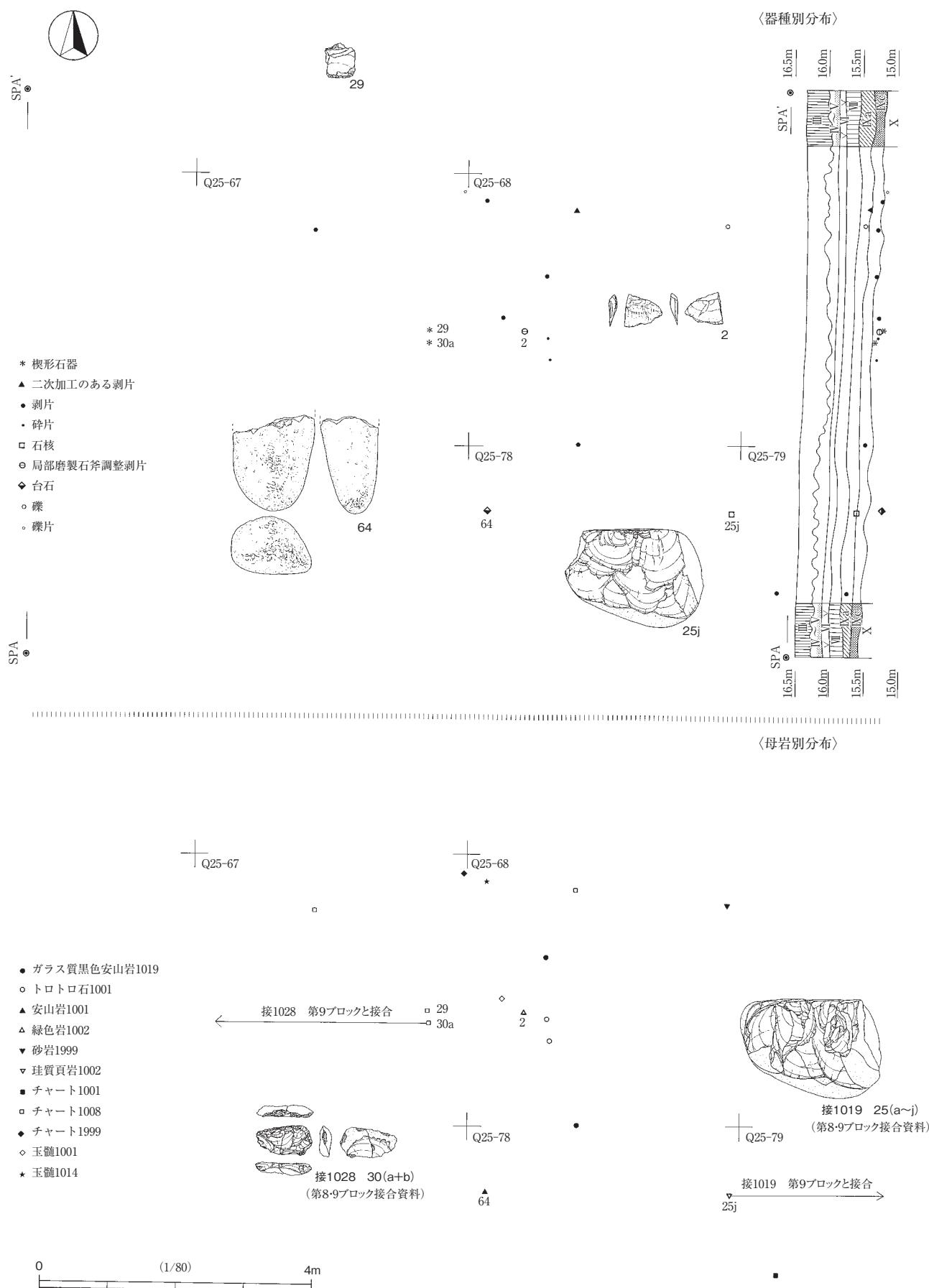
第3-14表 第1文化層第8ブロック組成表

母岩	器種	母岩番号	楔形石器	二次加工の ある剥片	剥片	碎片	石核	局部磨製石斧 調整剥片	台石	礫	礫片	点数合計	点数比 (%)	重量合計 (g)	重量比 (%)
ガラス質黒色安山岩		1019			2							2	12.50	3.96	0.33
トロトロ石		1001				2						2	12.50	0.78	0.07
安山岩		1001							1			1	6.25	740.00	61.92
珪質頁岩		1002					1					1	6.25	322.89	27.02
玉髓		1001			1							1	6.25	0.68	0.06
		1014			1							1	6.25	20.01	1.67
玉髓	合計				2							2	12.50	20.69	1.73
緑色岩		1002						1				1	6.25	1.28	0.11
チャート		1001				1						1	6.25	2.75	0.23
		1008	2	1	1							4	25.00	9.22	0.77
		1999										1	6.25	6.14	0.51
チャート	合計		2	1	2							6	37.50	18.11	1.52
砂岩		1999								1		1	6.25	87.47	7.32
全 体	点 数 合 計		2	1	6	2	1	1	1	1	1	16	100.00	1,195.18	100.00

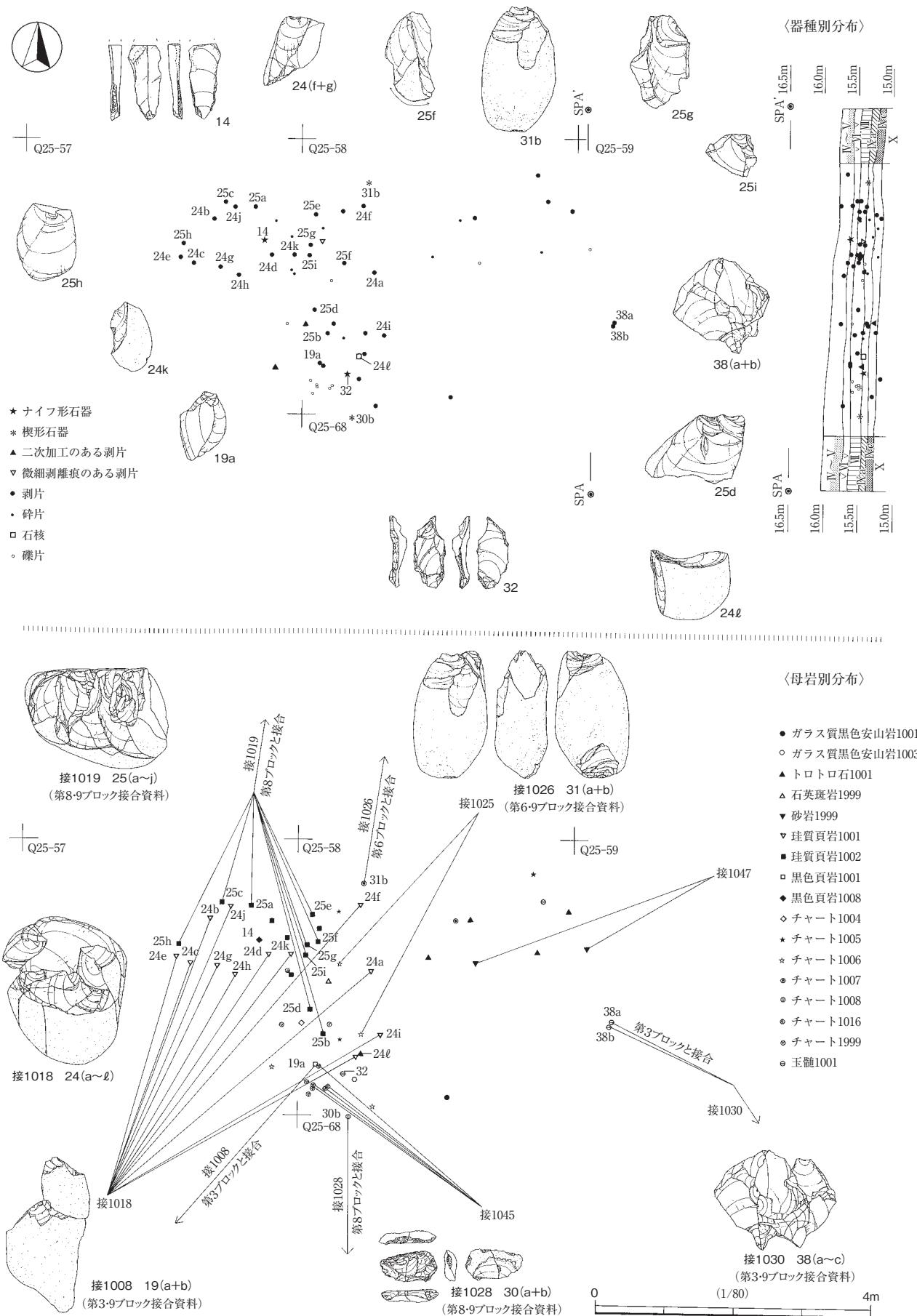
⑨第1文化層1ユニット第9ブロック(第3-23図、第3-15表、図版7)

出土状況 西側ブロック群西部のQ25-57~59・68グリッドに分布している。3.2m×6.0mの範囲から62点の石器が出土した。西部と東部の2か所の集中地点がみられる。西部は密集しており、東部は散漫に分布する。礫片はそれぞれの集中地点の南側に分布している。ブロック間の接合資料は5個体検出されている。1ユニットの中でブロック間の接合個体が最も多いことから接合核ブロックととられた。ブロック群間の接合資料は2個体(接1008・1030)検出され、どちらも東側ブロック群の第3ブロックと接合する。このほかに第6ブロックと接合するものが1個体(接1026)、第8ブロックと接合するものが2個体(接1019・1028)検出された。IX層からIV層にかけて出土し、IXa層上部に集中する。

出土遺物 器種組成はナイフ形石器2点、楔形石器2点、二次加工のある剥片2点、微細剥離痕のある剥片1点、剥片35点、碎片9点、石核1点の石器類52点と礫片10点で構成される。石器類の石材は珪質頁岩



第3-22図 第1文化層1ユニット第8ブロック遺物分布



第3-23図 第1文化層1ユニット第9ブロック遺物分布

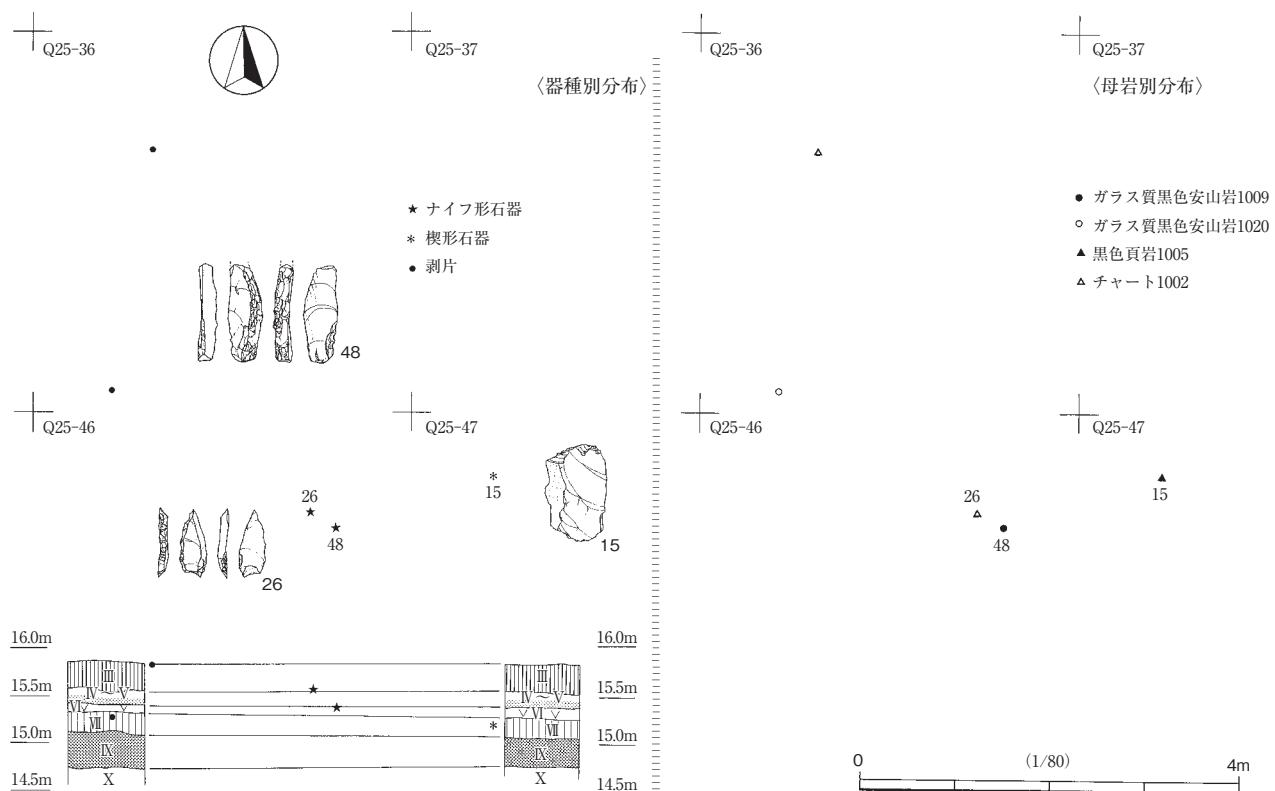
第3-15表 第1文化層第9ブロック組成表

母岩	器種	母岩番号	ナイフ形石器	楔形石器	二次加工のある剥片	微細剥離痕のある剥片	剥片	碎片	石核	礫片	点数合計	点数比(%)	重量合計(g)	重量比(%)	
ガラス質黒色安山岩		1001					1				1	1.61	0.39	0.05	
		1003					1				1	1.61	1.62	0.21	
ガラス質黒色安山岩	合計						2				2	3.23	2.01	0.26	
トロトロ石	1001						3	2			5	8.06	11.85	1.54	
珪質頁岩	1001						11		1		12	19.35	147.18	19.07	
	1002						1	8	4		13	20.97	80.20	10.39	
珪質頁岩	合計						1	19	4	1	25	40.32	227.38	29.46	
黒色頁岩	1001						1				1	1.61	12.74	1.65	
	1008	1									1	1.61	4.46	0.58	
黒色頁岩	合計	1					1				2	3.23	17.20	2.23	
玉髓	1001						3				4	6.45	42.89	5.56	
チャート	1004			1							1	1.61	4.70	0.61	
	1005						2	1			3	4.84	2.39	0.31	
	1006			1			3				4	6.45	6.54	0.85	
	1007		1					1			2	3.23	100.88	13.07	
	1008		1								1	1.61	2.20	0.29	
	1016							1			1	1.61	0.05	0.01	
	1999						2				7	9	14.52	232.73	30.16
チャート	合計			2	2		7	3			7	21	33.87	349.49	45.29
砂岩	1999										2	2	3.23	89.51	11.60
石英斑岩	1999										1	1	1.61	31.40	4.07
全 体 点 数 合 計		2	2	2	1	35	9	1	10		62	100.00	771.73	100.00	

25点、チャート14点、トロトロ石5点、玉髓4点、ガラス質黒色安山岩2点、黒色頁岩2点である。礫片はチャート7点、砂岩2点、石英斑岩1点の礫片である。

⑩第1文化層1ユニット第10ブロック(第3-24図、第3-16表、図版7)

出土状況 西側ブロック群北西部南寄りのQ25-36・46・47グリッドに分布している。4.0m×4.0mの範囲から5点の石器が出土した。小範囲に分布しており、南側に2点のナイフ形石器が近接して分布している。VII層からIII層にかけて出土している。



第3-24図 第1文化層1ユニット第10ブロック遺物分布

第3-16表 第1文化層第10ブロック組成表

母岩	器種	母岩番号	ナイフ形石器	楔形石器	剥片	点数合計	点数比 (%)	重量合計 (g)	重量比 (%)
ガラス質黒色安山岩		1009	1			1	20.00	3.82	18.20
		1020			1	1	20.00	3.18	15.15
ガラス質黒色安山岩	合計		1		1	2	40.00	7.00	33.35
黒色頁岩	1005			1		1	20.00	8.01	38.16
チャート	1002		1		1	2	40.00	5.98	28.49
全 体	点 数 合 計		2	1	2	5	100.00	20.99	100.00

出土遺物 器種組成はナイフ形石器2点、楔形石器1点、剥片2点の石器類5点で構成される。石材はガラス質黒色安山岩2点、チャート2点、黒色頁岩1点である。

⑪第1文化層1ユニット第11ブロック(第3-25図、第3-17表、図版7)

出土状況 西側ブロック群北西部のQ25-27・28・35~38グリッドに分布している。6.5m×11.8mの範囲から27点の石器が出土した。北東部と南西部の2か所の集中地点がみられる。どちらも散漫に分布しており、外縁部から4点の磨石が出土している。X層からⅧ層にかけて出土しており、Ⅸ層上部に集中する。

出土遺物 器種組成は二次加工のある剥片2点、微細剥離痕のある剥片1点、剥片15点、磨石4点の石器類22点と礫1点、礫片4点の礫・礫片5点である。石器類の石材はガラス質黒色安山岩11点、黒曜石5点、安山岩4点、黒色頁岩1点、チャート1点で、礫・礫片の石材はチャート4点、砂岩1点である。

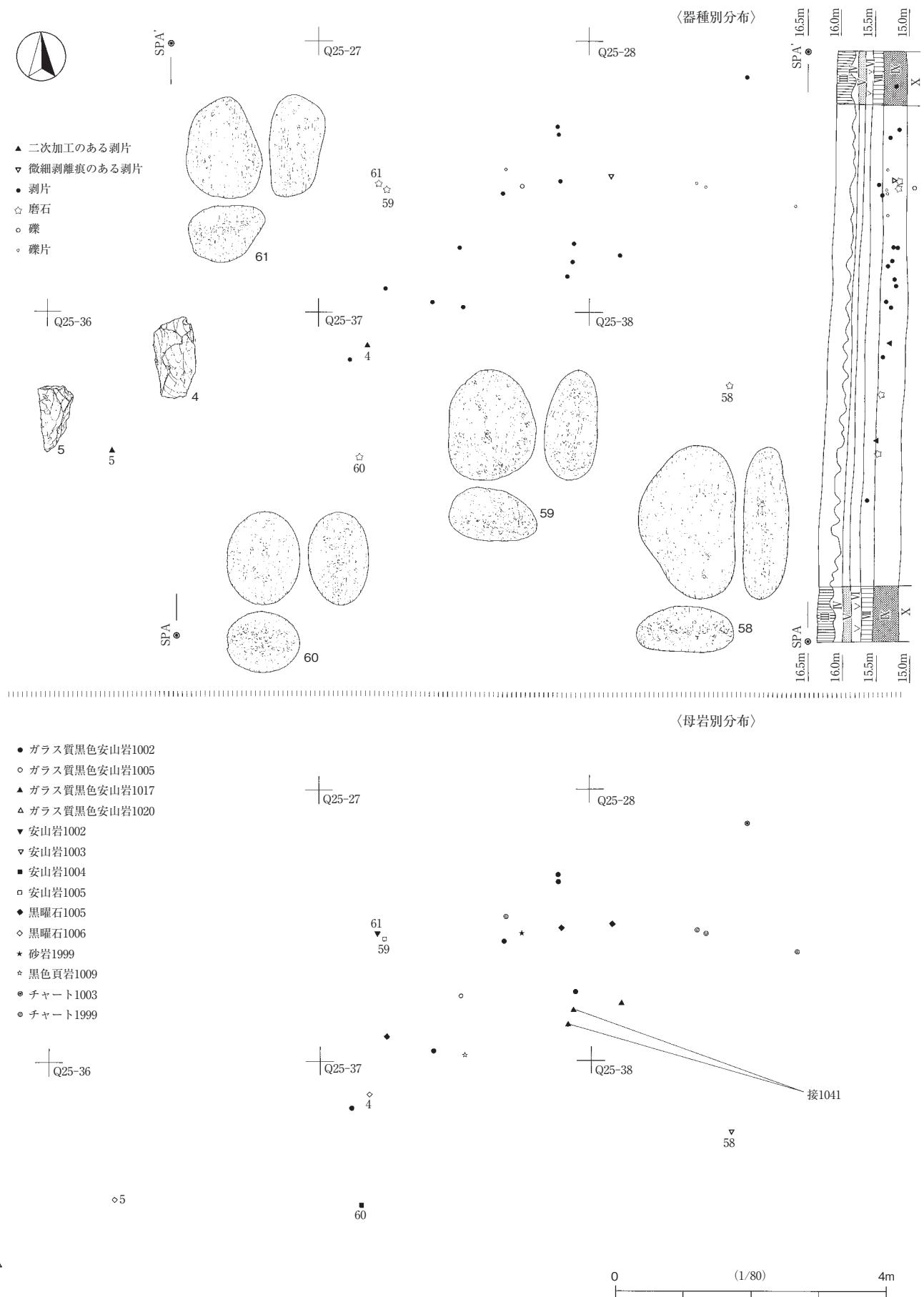
第3-17表 第1文化層第11ブロック組成表

母岩	器種	母岩番号	二次加工のある剥片	微細剥離痕のある剥片	剥片	磨石	礫	礫片	点数合計	点数比 (%)	重量合計 (g)	重量比 (%)
黒曜石		1005		1	2				3	11.11	20.90	1.77
		1006		2					2	7.41	17.26	1.47
黒曜石	合計		2	1	2				5	18.52	38.16	3.24
ガラス質黒色安山岩		1002			6				6	22.22	86.42	7.34
		1005			1				1	3.70	30.37	2.58
		1017			3				3	11.11	28.54	2.42
		1020			1				1	3.70	2.70	0.23
ガラス質黒色安山岩	合計				11				11	40.74	148.03	12.57
安山岩		1002				1			1	3.70	202.60	17.20
		1003				1			1	3.70	378.63	32.14
		1004				1			1	3.70	129.64	11.00
		1005				1			1	3.70	255.52	21.69
安山岩	合計					4			4	14.81	966.39	82.03
黒色頁岩	1009			1					1	3.70	7.73	0.66
チャート	1003			1					1	3.70	0.83	0.07
	1999							4	4	14.81	0.66	0.06
チャート	合計				1			4	5	18.52	1.49	0.13
砂岩	1999						1		1	3.70	16.25	1.38
全 体	点 数 合 計		2	1	15	4	1	4	27	100.00	1,178.05	100.00

(8)第1文化層1ユニットの出土石器(第3-26~46図、図版11~13)

第1文化層1ユニットから出土した石器については、近接したブロック群であり、ブロック間接合資料もみられることから、ブロック単位ではなく石材単位で記載する。

①緑色岩(第3-26図、図版11) 1は局部磨製石斧である。下端部の残存品である。2つの剥離工程がみられた。第1工程は、器体のほぼ全面を研磨して石斧を製作する工程である。この工程を示す部位は、裏面の大半と表面下部中央にみられる。研磨が顕著で光沢している。裏面の大半の部位は自然面を研磨した可能性もあるが、わずかに凹凸がみられることから、平坦な剥離によって整形された後に入念に研磨され



第3-25図 第1文化層1ユニット第11ブロック遺物分布

たものと思われる。第2工程は、再生加工する工程である。裏面右側に平坦な調整加工を施した後、表面下部にやや深い階段状の剥離を行うことによって下端部に銳利な刃部を新たに作出している。第2工程での研磨は剥離面の稜上部に研磨面がみられる。剥離面の内部にまで研磨はされていない。

2は局部磨製石斧調整剥片である。表面のほぼ全面が研磨されている。1の局部磨製石斧とは異なる母岩ではあるが、1の資料でみられた第2工程での刃部を再生する段階で剥離された剥片と思われる。上端部が元の局部磨製石斧の刃部に相当する。

②黒曜石(第3-26図、図版11) 3はナイフ形石器である。石刃を素材として両側縁の下部に急角度の調整加工が施されている。基部加工のナイフ形石器である。器体全面の光沢がなく、やや白みを帯びていることから、火熱を受けたものと思われる。裏面右部は発掘時に欠損している。

4～6は二次加工のある剥片である。4・5は同一母岩の黒曜石1006が用いられている。4は横長剥片の打点部と末端部を折断し、右側縁上部に急角度の調整加工が施される。5は厚みのある剥片を素材とし上部と右側面に粗い調整加工が施される。6は右側縁に急角度の調整加工が入念に施される。上下部と左部が発掘時に欠損しており、全体形状は不明だが、ナイフ形石器が欠損したものである可能性がある。

③硬質頁岩(第3-26～28図、図版11) 7はナイフ形石器である。石刃を素材として右側縁と左側縁下部に調整加工が施されている。製品の形で搬入されている。右側縁下部・右側縁上部・左側縁中部は、裏面側から急角度の調整加工が施されている。左側縁下部は表面側から急角度の調整加工が施されている。これにより尖った形状の基部が作り出されている。裏面側と表面側からの調整加工を組み合わせて急角度の調整加工を施し、先鋭な基部を作り出すという特徴を見出すことができる。黒色頁岩を用いた13・14のナイフ形石器も同じ形態をしていた。なお、先端部は上部に裏面側から急角度の調整加工が施されており、先端部が破損したものを再生加工したものと思われる。

8は二次加工のある剥片である。打面再生剥片を素材として末端部に調整加工が施されている。表面には石核の打面部が残されており、周縁部から平坦な打面調整が行われたことが観察できる。左側面と下面には石刃を連続的に剥離した痕跡が観察できる。

9～12は接合資料である。9(a～f)は打面再生剥片の接合資料である。表面は石核の打面の剥離面で構成されており、この剥離面の形状から、石核はかなり大型のものであったと思われる。左側面と下面には石刃を連続的に剥離した痕跡が観察できる。剥離順序は、左側面下部を打面として9aと9(b+c)を含む剥片を剥離→上面右上部に打面を転移して大型の微細剥離痕のある剥片9dを剥離→再び左側面下部に打面を転移して9(e+f)の剥離となる。打面転移を頻繁に行なながら、石核の打面を整形していることが伺える接合資料である。8と10(a～c)の資料も石核の打面再生が行われたことが観察され、大型の石核を持ち込み、この遺跡において打面再生を行いながら石刃を剥離したことがうかがえる。このような剥離進行形態は、硬質頁岩と黒色頁岩において顕著にみられる。

11(a+b)は石刃と識別可能な縦長剥片の接合資料である。器体の中央部から破損している。頭部調整と打面調整が顕著に行われている。12(a～e)は上面右下部を打面として12aと12(b+c)を剥離している。その後、上面左中部付近に打面調整を行って12dと12eを剥離している。12eの上面に石核の打面を調整加工(あるいは打面再生加工)した痕跡がみられる。

④黒色頁岩(第3-29・30図、図版11) 13・14はナイフ形石器であり、どちらも製品の形で搬入されている。硬質頁岩を用いた7のナイフ形石器と同様に尖鋭な基部が作り出されている。

13は石刃を素材としている。左側縁と右側縁下部に急角度の調整加工が施されている。これらの調整加工を詳細にみると、左側縁の調整加工は、最初に側縁部全体を裏面側から調整加工を施した後に、中央部から下部にかけて表面側から対向調整加工が施されている。右側縁下部も同様に、裏面側から調整加工をした後に表面側から対向調整加工が施され、尖鋭な基部が作り出されている。対向調整加工は急角度に行われており、断面形状が角張った形状をしている。右側縁上部の刃部には微細剥離痕がみられることから、かなりの頻度で使用され続けたことが推察される。

14は石刃を素材としている。下端部は裏面側から調整加工が施され、両側縁の下部は表面側から調整加工が施されている。尖鋭な基部が作り出されている。器体の中央部付近から破損しており全体形状が不明であるが、13と同様の形状をしていたと思われる。

15は楔形石器である。石刃を素材とし上下両端から両極剥離が行われている。右側縁に両極剥離で細長い小型石刃状の剥片が剥離された跡がみられる。16は微細剥離痕のある剥片である。頭部調整が顕著に行われている。打面部側が細く末端部が幅広の縦長剥片を素材とし、数か所に微細剥離がみられる。

17(a～f)は、打面再生が繰り返し行われたことを示す良好な接合資料である。18(a～d)と同一母岩の黒色頁岩1004が用いられ、4つの剥離工程がみられる。第1工程は打面調整を行う工程で、裏面右上部を打面として上面方向に17(a+b)を剥離している。第2工程は、上面左中部を打面として左面方向に17cを含む数枚の小型の剥片を剥離している。第3工程は最初の打面再生する工程で、表面左上部を打面として上面方向に17(d+e)を剥離している。この剥離は石核の打面全体の半分程度の剥離に留まっており、打面全体の再生は行われていない。第4工程は2回目の打面再生する工程で、打面を180度転移して裏面左中央部付近を打面として17fを剥離している。この剥離によって石核の打面全体の再生が行われている。

18(a～d)は上面下部を打面として18(a+b)を剥離した後に、右面上部中央に打面を転移して上面方向に18cと18dを剥離している。

19(a+b)は第3・9ブロック間の接合資料である。約30m離れた接合資料で、1ユニットのなかで最も離れて接合している。表面が自然面に覆われた厚みのある横長剥片を素材としている。上面右部を打面として細長の剥片を数枚剥離、続けて上面右部を打面として19aを剥離している。19bの石核は19aの剥離面を打面として細長の剥片を剥離している。裏面左部には平坦な剥離が施されている。

⑤珪質頁岩(第3-31～35図、図版11) 20・21は微細剥離痕のある剥片である。どちらも頭部調整が行われた縦長剥片を素材として側縁部に微細剥離がみられる。

22は第3・5ブロック間、23は第1・5ブロック間、25は第8・9ブロック間の接合資料である。22(a+b)は上面を打面として頭部調整を行いながら横長剥片を連続剥離している。22aの左側縁に微細剥離がみられる。23(a+b)は、上面右部を打面として23aを剥離した後に、上面左部に打面を移動して23bを剥離している。23bの裏面左下部に微細剥離がみられる。

24(a～l)は扁平な橢円形礫を素材としている。剥離順序は、左側面左中央部を打面として幅広の剥片24aを剥離→表面左上部を打面として24bと24cを連続剥離→表面右上部を打面として24(d+e)と24(f+g)の連続剥離となる。これ以降は24(h～l)の実測図をもとに説明する。裏面右上部を打面として横長剥片の24hと24iを連続剥離→24iの剥離面を打面として縦長剥片の24jと24kを連続剥離している。石核である24lは表面に自然面を大きく残している。

25(a～j)はブロック間接合資料である。剥片・微細剥離痕のある剥片はすべて第9ブロック、石核のみ

が約10m離れた第8ブロックから出土している。拳大の楕円形礫を素材としている。剥離順序は、上面右下部を打面として25aから25cを連続剥離→25cの剥離面を打面として幅広の剥片25dを剥離→上面左下部を打面として25eから25gを連続剥離→25fの剥離面を打面として左面方向に25hを剥離→再び上面左下部に打面を転移して25iの剥離となる。石核である25jは表面と左上部以外は大きく自然面が残されている。

⑥チャート(第3-36図、図版12) 26・27はナイフ形石器であり、どちらも小型の石刃を素材としている。26は左側縁と右側縁下部に急角度の調整加工が施されており、基部は折れている。27は右側縁下部に急角度の調整加工が施されている。素材の打面は残存しており、先端部は折れている。

28は微細剥離痕のある剥片である。縦長剥片を素材として右側縁に微細剥離がみられる。29は楔形石器である。厚みのある剥片を素材として上下両端から両極剥離が行われている。30(a+b)は第8・9ブロック間の接合資料である。上下両端から両極剥離が行われ、最終的に30aと30bとに分割されている。31(a+b)は第6・9ブロック間の接合資料である。長細い楕円形礫を素材として上下両端から両極剥離が行われている。31aは上端から剥離された剥片で、31bは楔形石器である。

⑦玉髓(第3-37・38図、図版12) 32はナイフ形石器である。縦長剥片を素材として左側縁と右側縁下部に急角度の調整加工が施され、裏面下部は打瘤を除去するような平坦な調整加工が施されている。右側縁上部は折れている。33は二次加工のある剥片である。両側縁に急角度の調整加工が施されている。上部は折れしており、下部は発掘時に欠損している。34~36は微細剥離痕のある剥片である。いずれも両側縁に微細剥離がみられる。34(a+b)は折れた末端部が接合している。35は頭部調整と打面調整が行われた縦長剥片を素材としている。36は細長の縦長剥片を素材としており、上下両端部が折れている。

37は削器である。大型で幅広の剥片を素材として両側縁に平坦な剥離が施され、裏面右上部に抉り状の調整加工が施されている。38(a~c)は第3・9ブロック間の接合資料である。上面を打面として厚みのある剥片38(a+b)と38cとが連続剥離されている。39は石核であり、厚みのある剥片を素材としている。剥離順序は、表面右上部を打面として右面方向に幅広の剥片を剥離→左面を打面として表面方向に幅広の剥片を剥離→表面左上部から下部にかけて打点を順次移動しながら裏面方向に小型の横長剥片の剥離となる。石核と分類したが、下端部に鋭利な縁辺部が作出されており、削器と分類することも可能である。

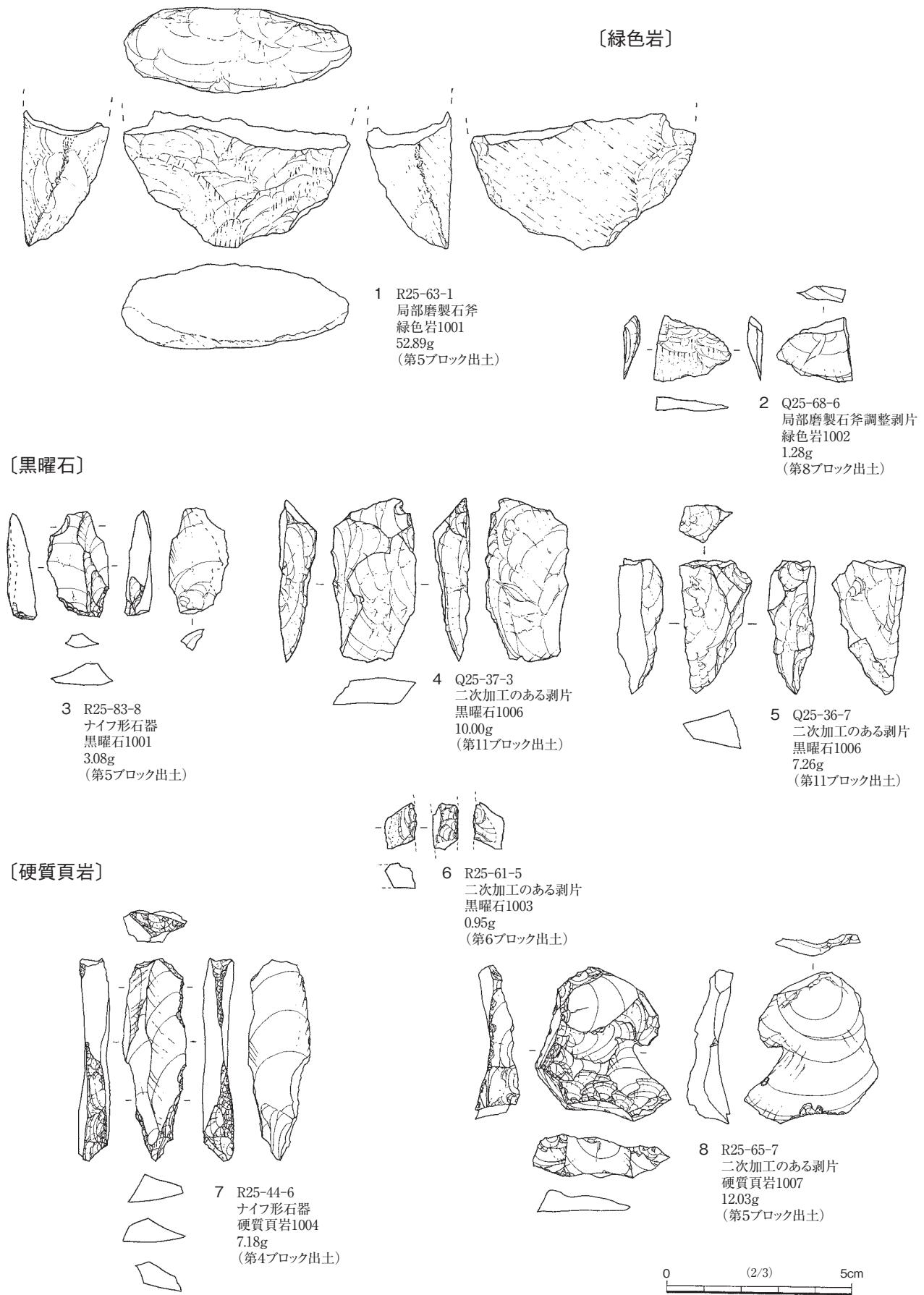
⑧トロトロ石(第3-38図、図版12) 40は折断された剥片である。幅広の厚みのある剥片を素材として左側縁と上部を折断している。上部は小型の剥片を剥離したような痕跡もあることから、石核として識別することも可能である。

⑨緑色凝灰岩(第3-39図、図版12) 41(a~c)は上面右部を打面として打面調整を行って幅広の剥片41aを剥離した後に、上面左部に打面を転移して頭部調整と打面調整を行って横長剥片41(b+c)を剥離している。41aは下部を折断し、折断面を打面として小型の剥片を剥離している。二次加工のある剥片としたが、石核と分類することも可能である。

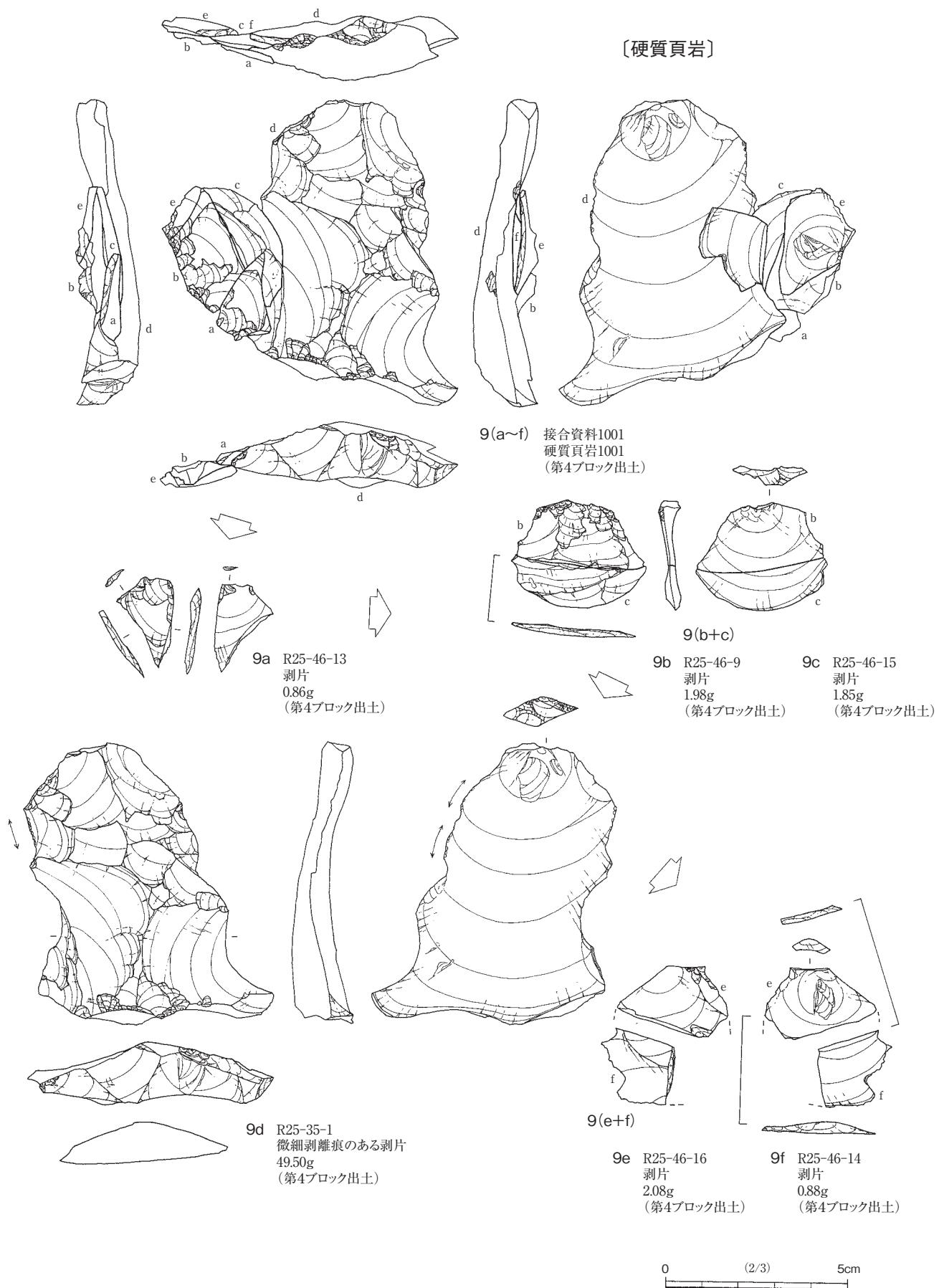
42(a+b)は上面を打面として頭部調整を行いながら42aと42bの剥片を連続剥離している。

⑩流紋岩(第3-39・40図、図版12) 43・44は微細剥離痕のある剥片である。どちらも頭部調整が行われた縦長剥片を素材とし、微細剥離は43が左側縁中部と右側縁上部に、44が右側縁中部に観察できる。

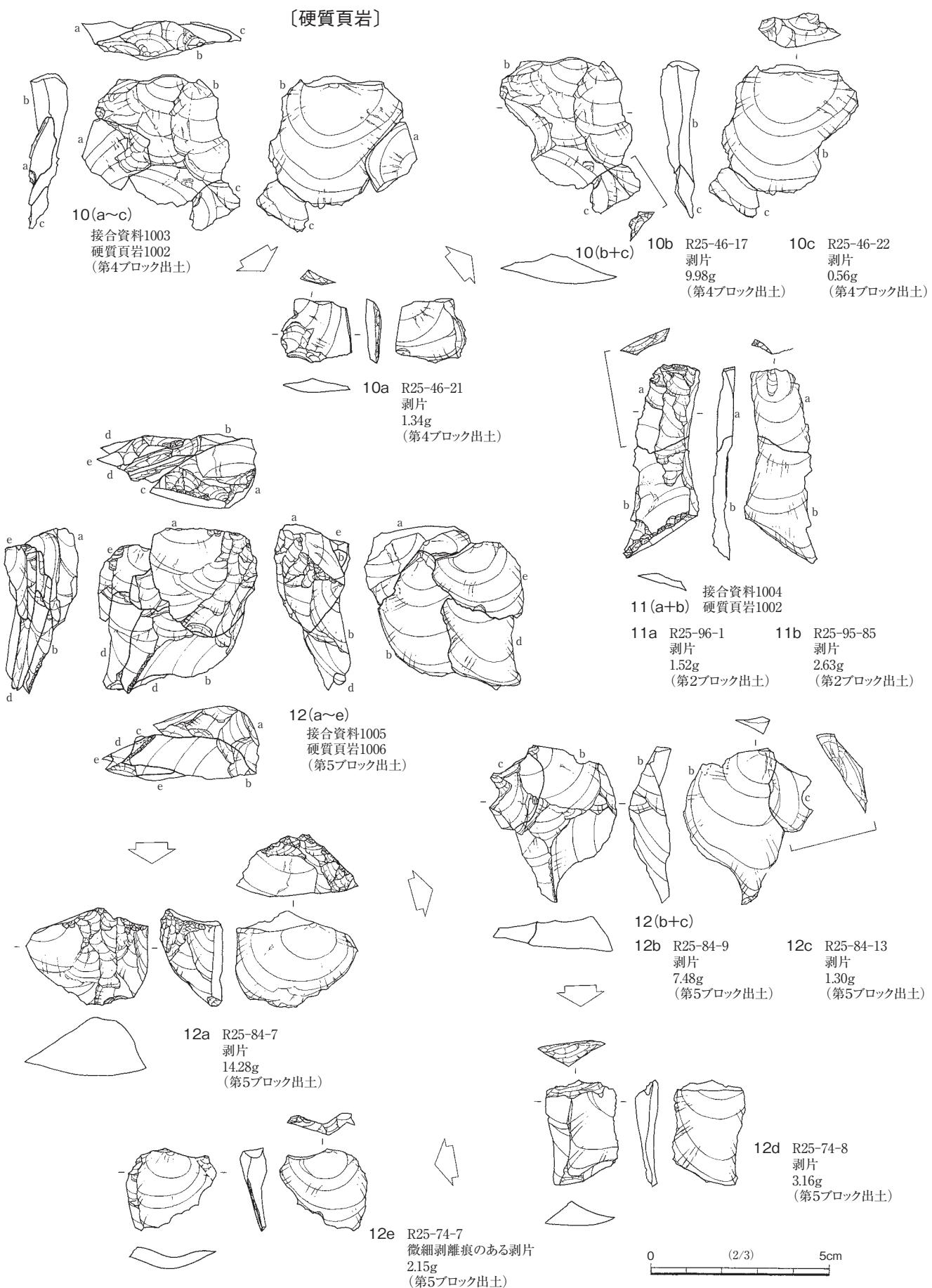
45(a~c)の剥離順序は、下面左部を打面として縦長剥片45(a+b)を剥離→表面下部を打面として下面方向に幅広の剥片を剥離→下面上部を打面として表面下部方向に小型の剥片を剥離→上面中央部付近を打面として45cと45dの剥離となる。45cは裏面の形状から両極剥離によって剥離された可能性もある。45eの



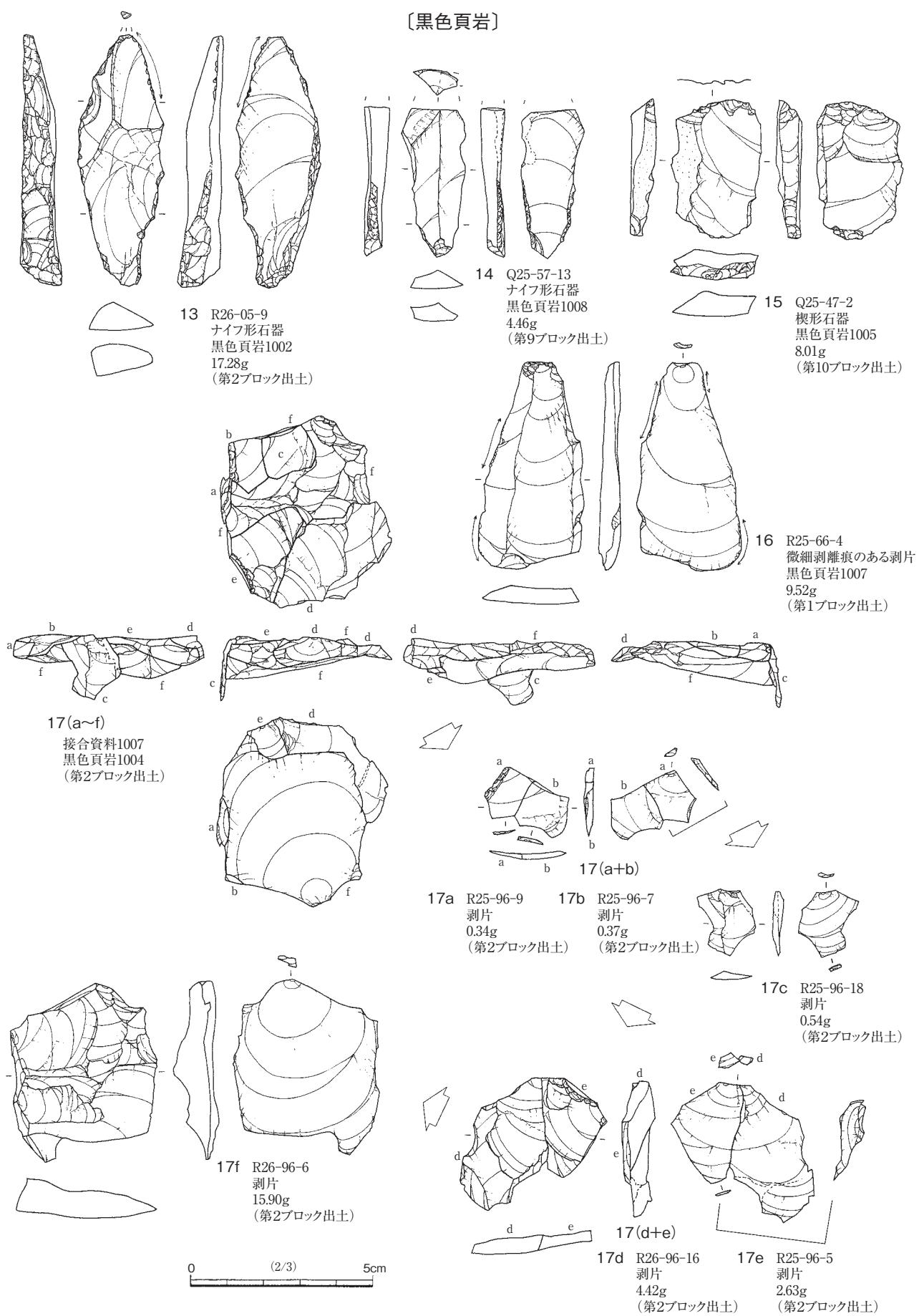
第3-26図 第1文化層1ユニット出土石器(1)



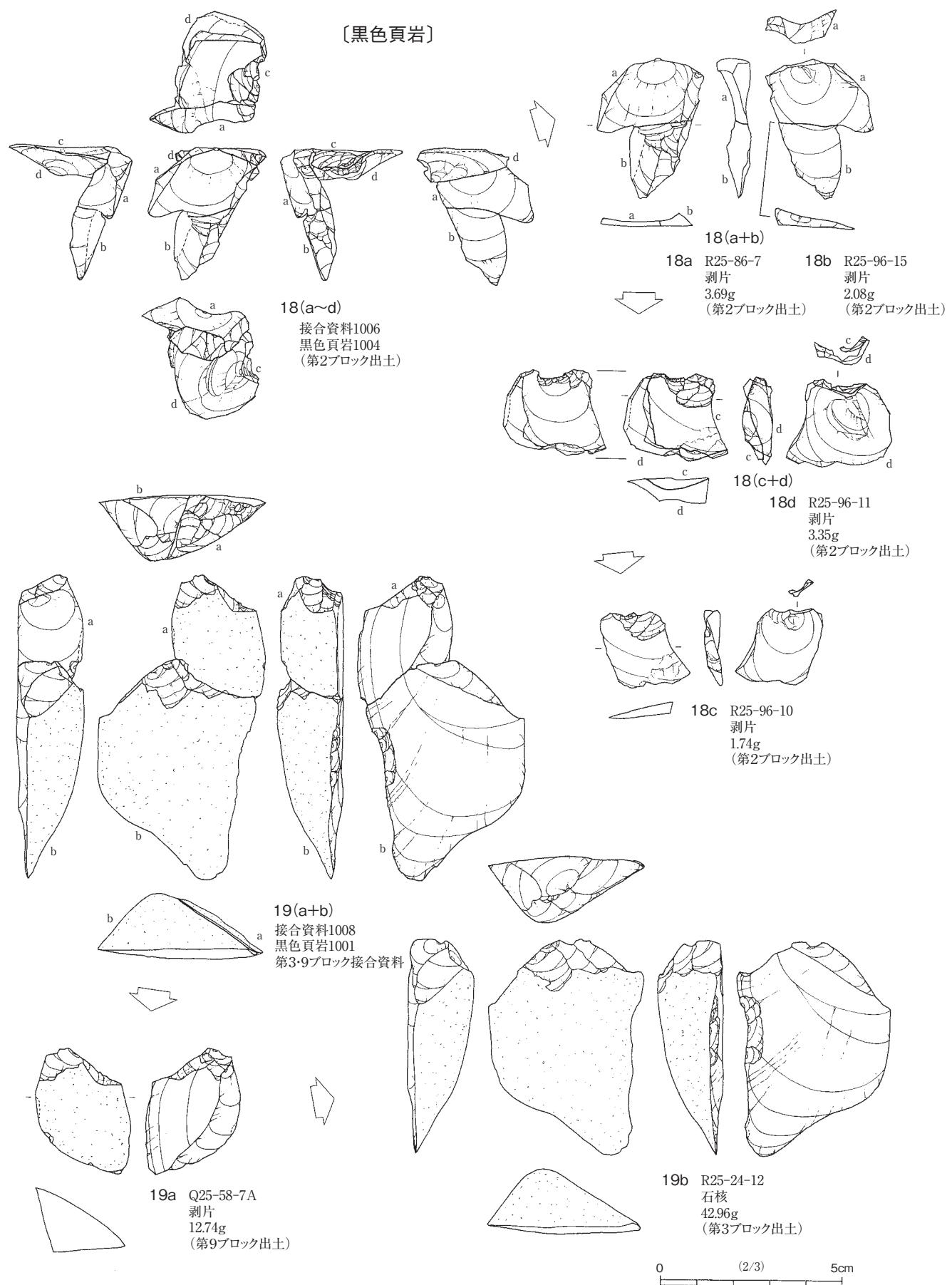
第3-27図 第1文化層1ユニット出土石器(2)



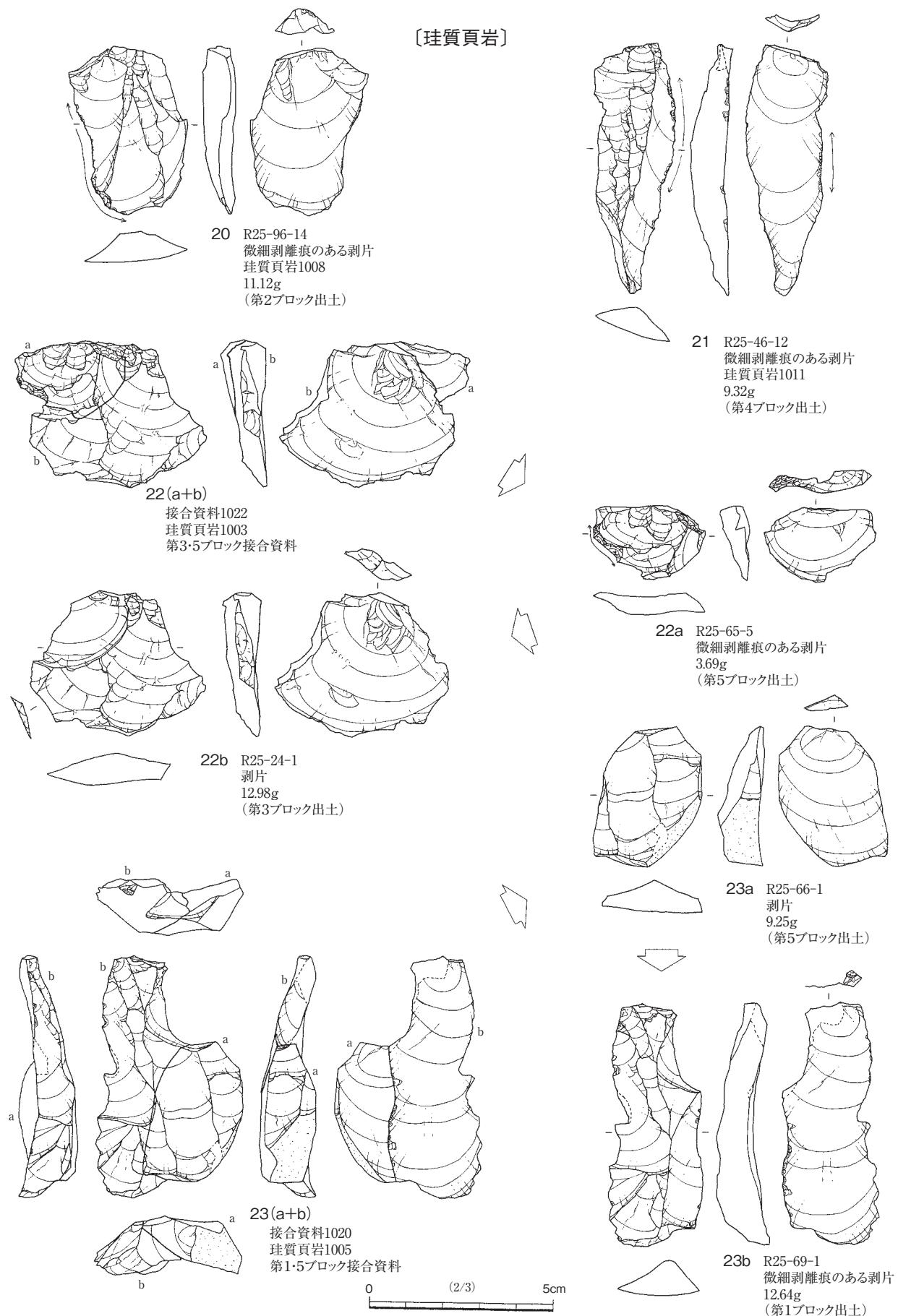
第3-28図 第1文化層1ユニット出土石器(3)



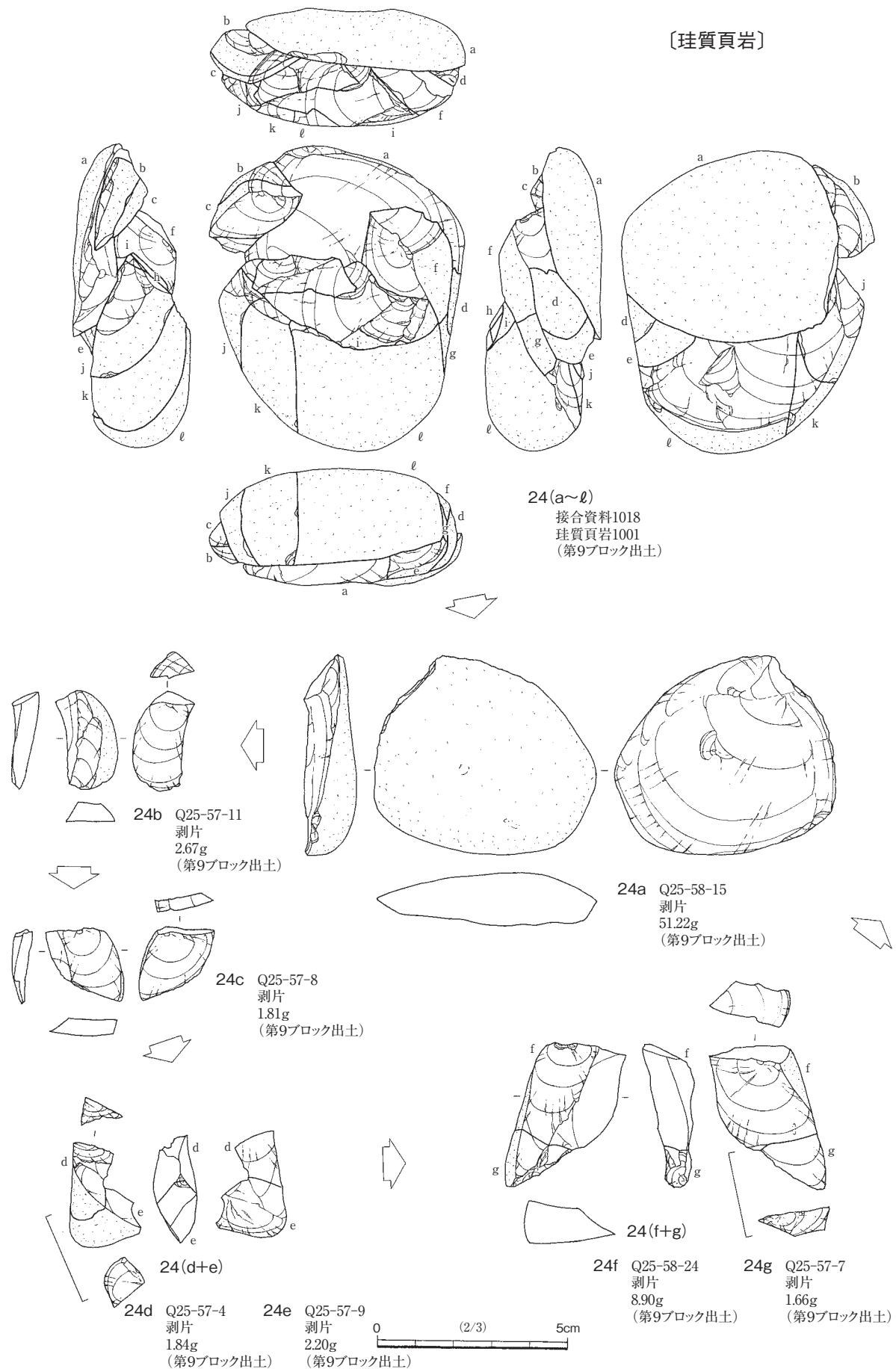
第3-29図 第1文化層1ユニット出土石器(4)



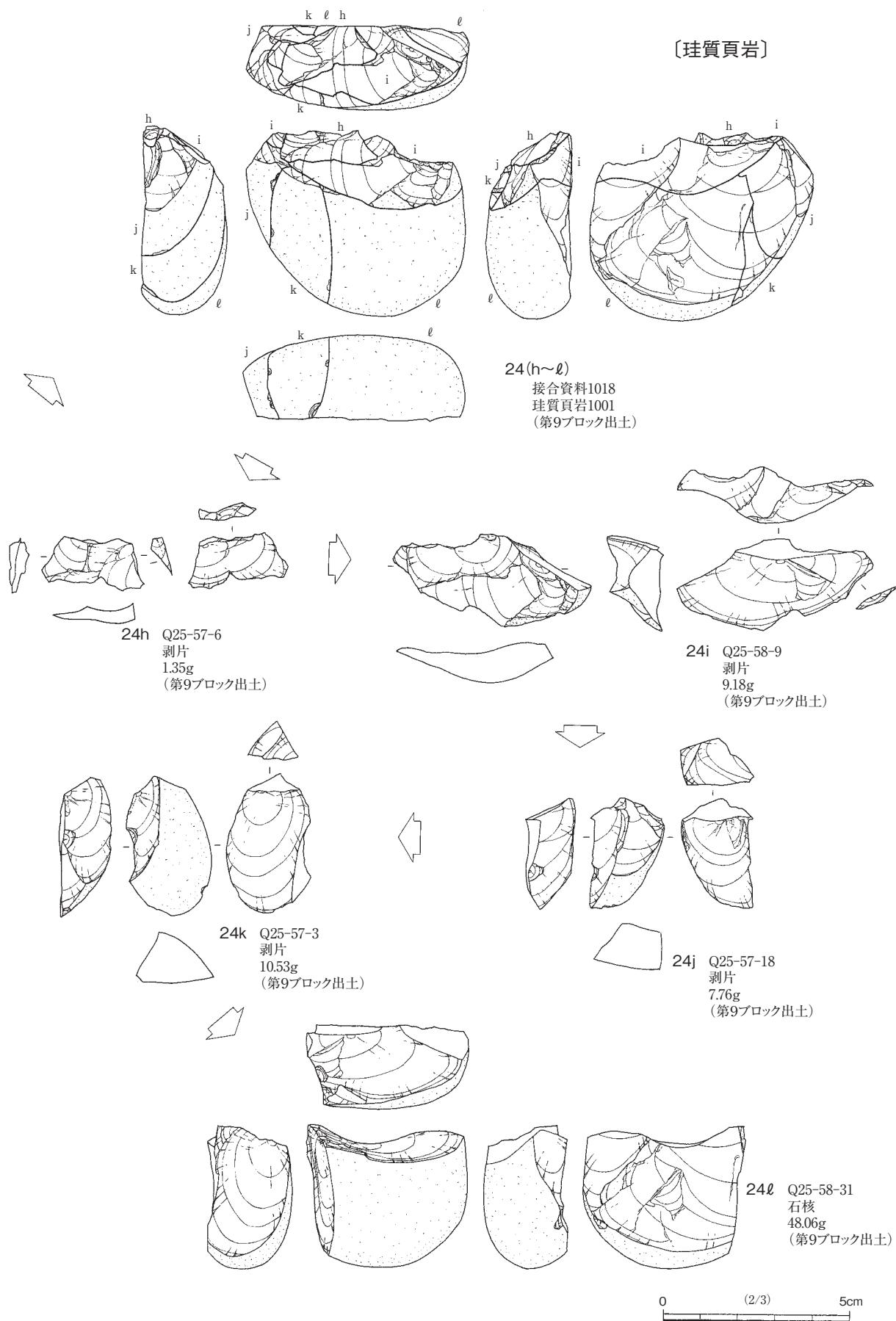
第3-30図 第1文化層1ユニット出土石器(5)



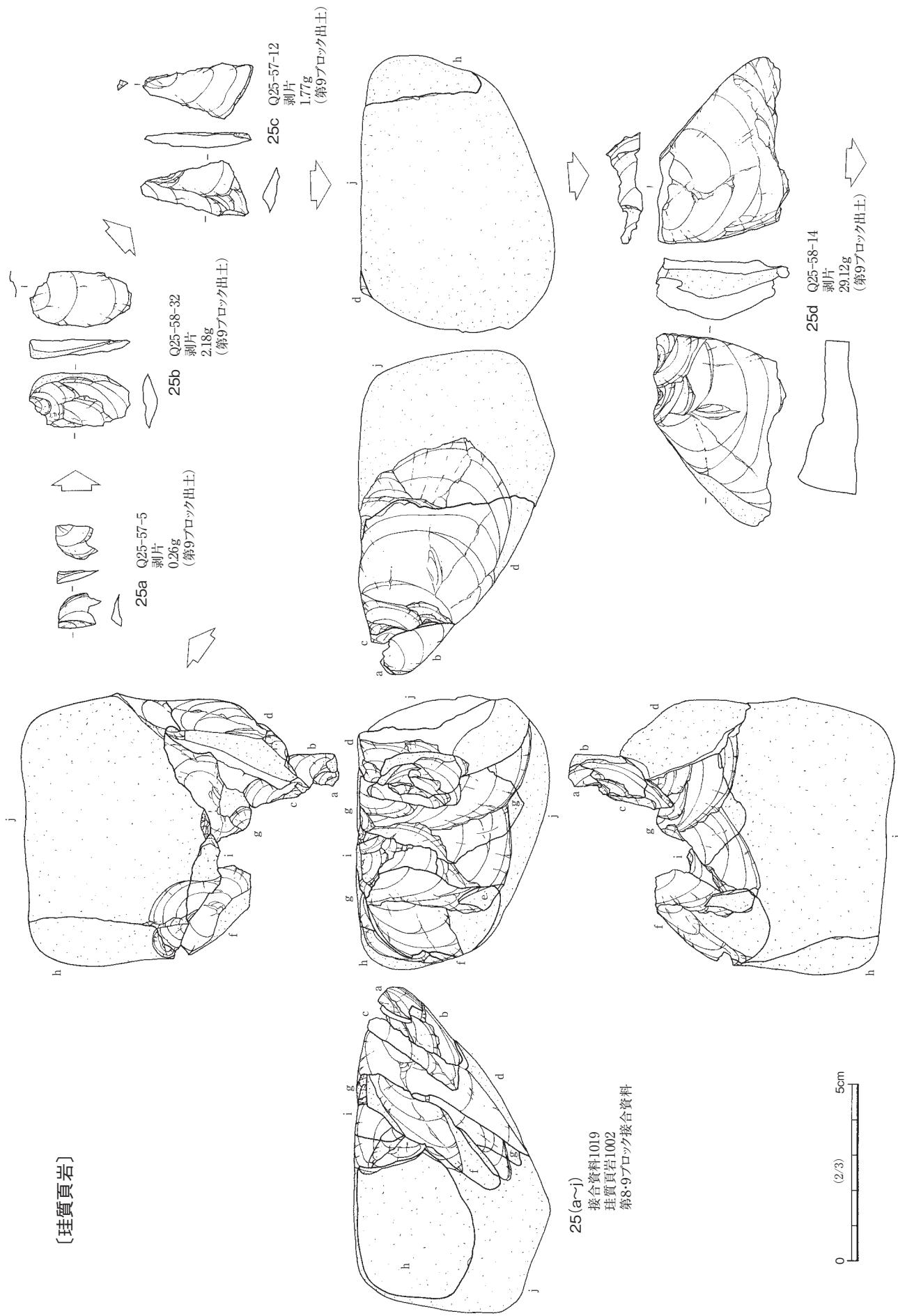
第3-31図 第1文化層1ユニット出土石器(6)



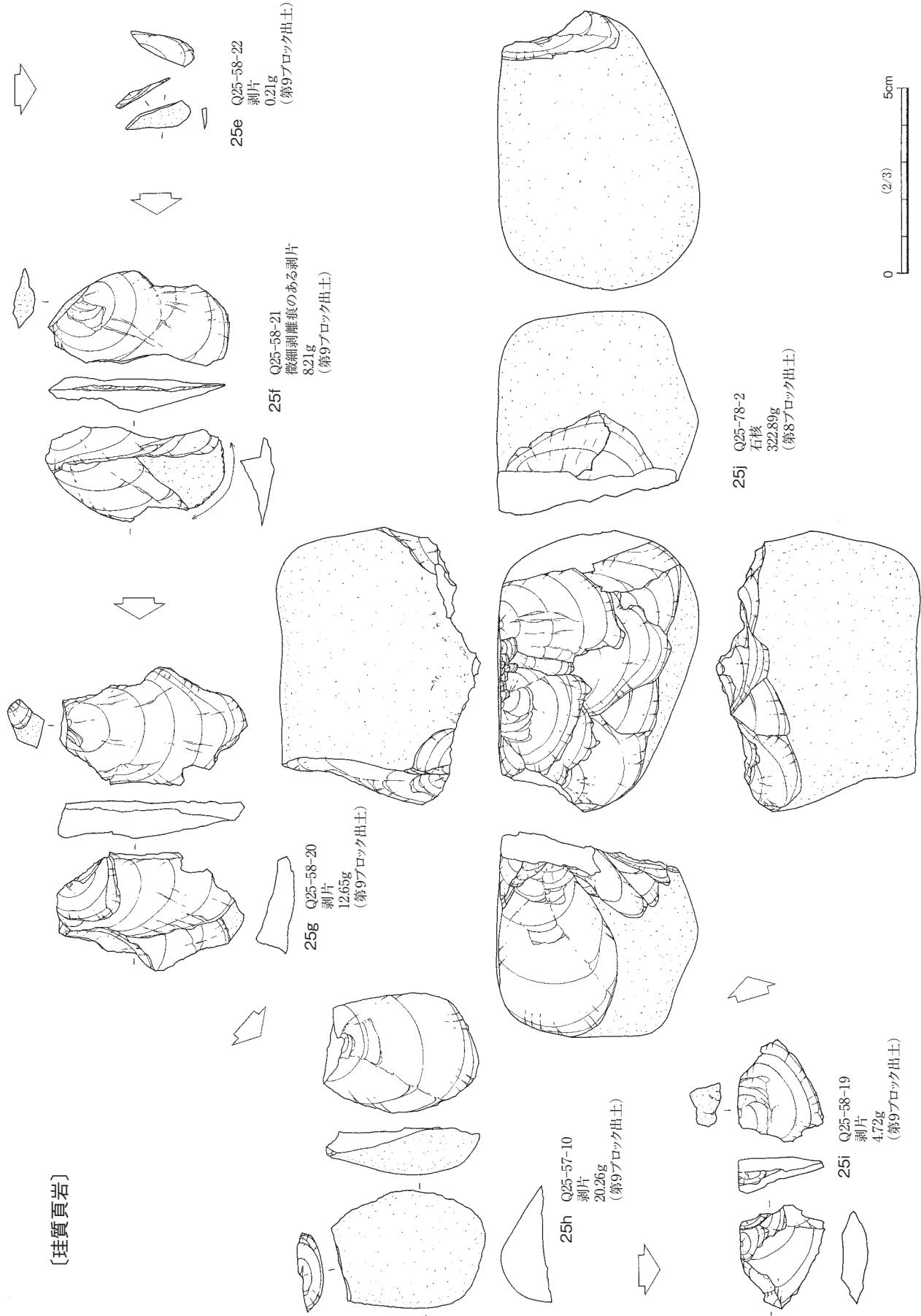
第3-32図 第1文化層1ユニット出土石器(7)



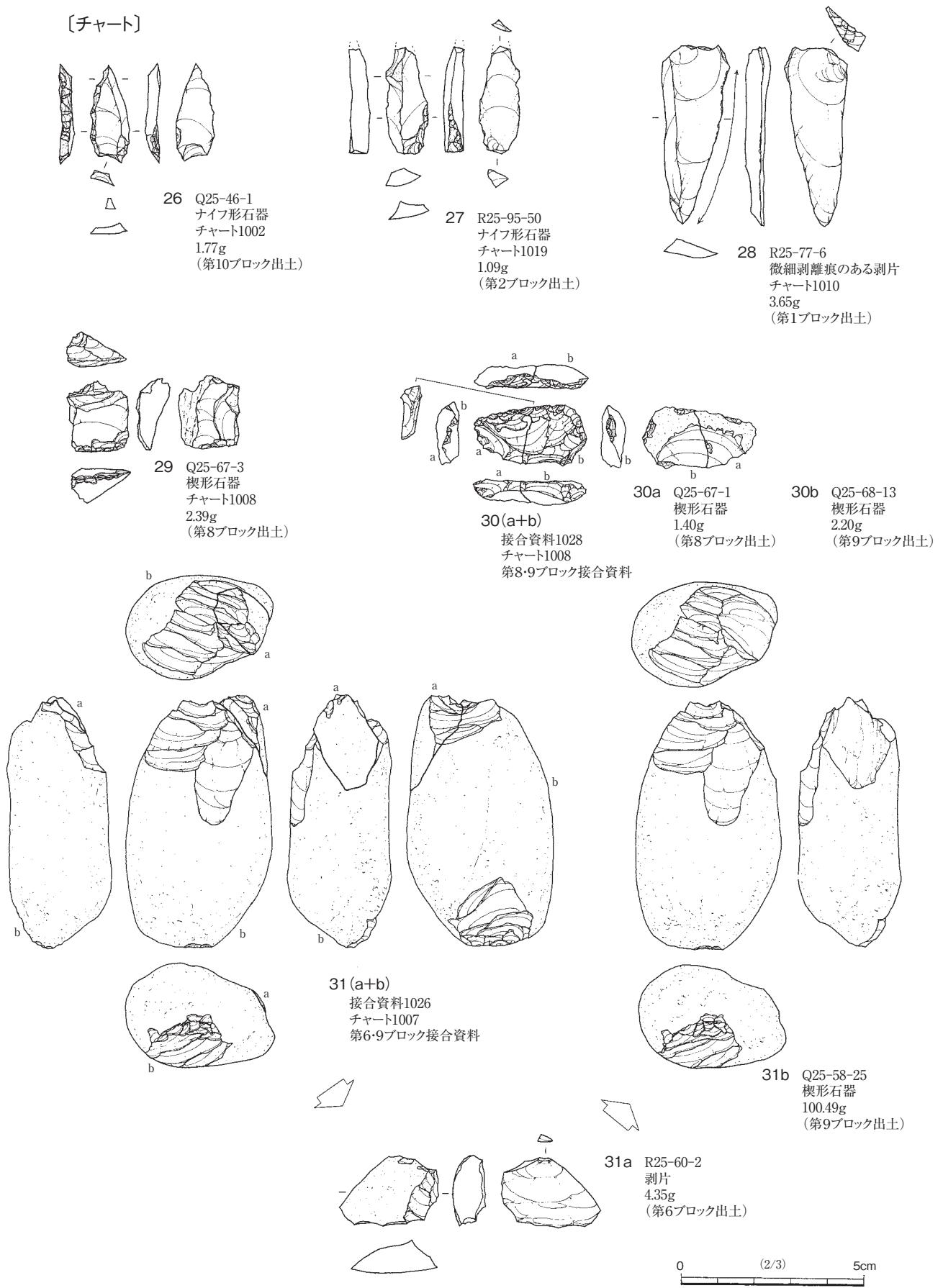
第3-33図 第1文化層1ユニット出土石器(8)



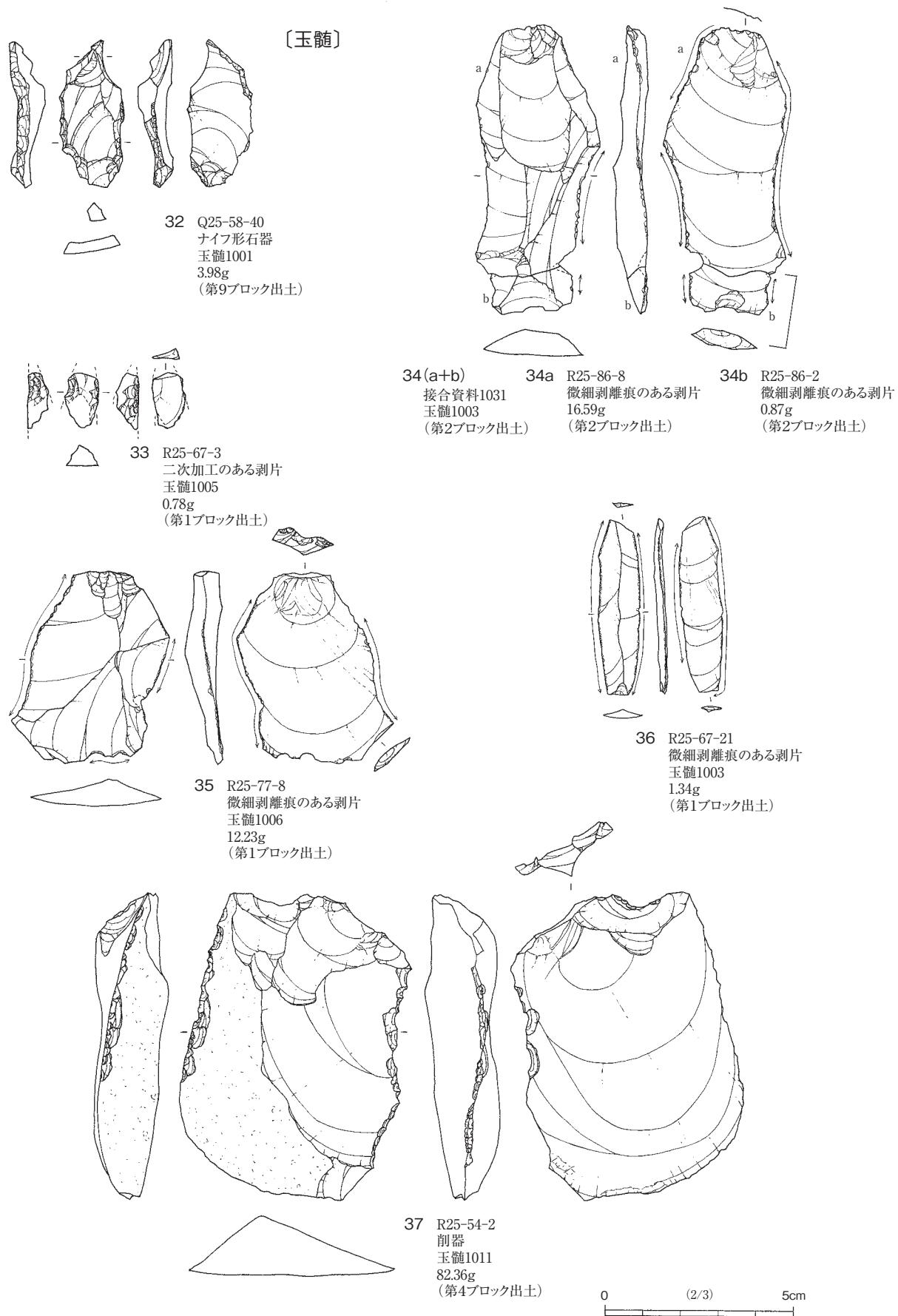
第3-34図 第1文化層1ユニット出土石器(9)



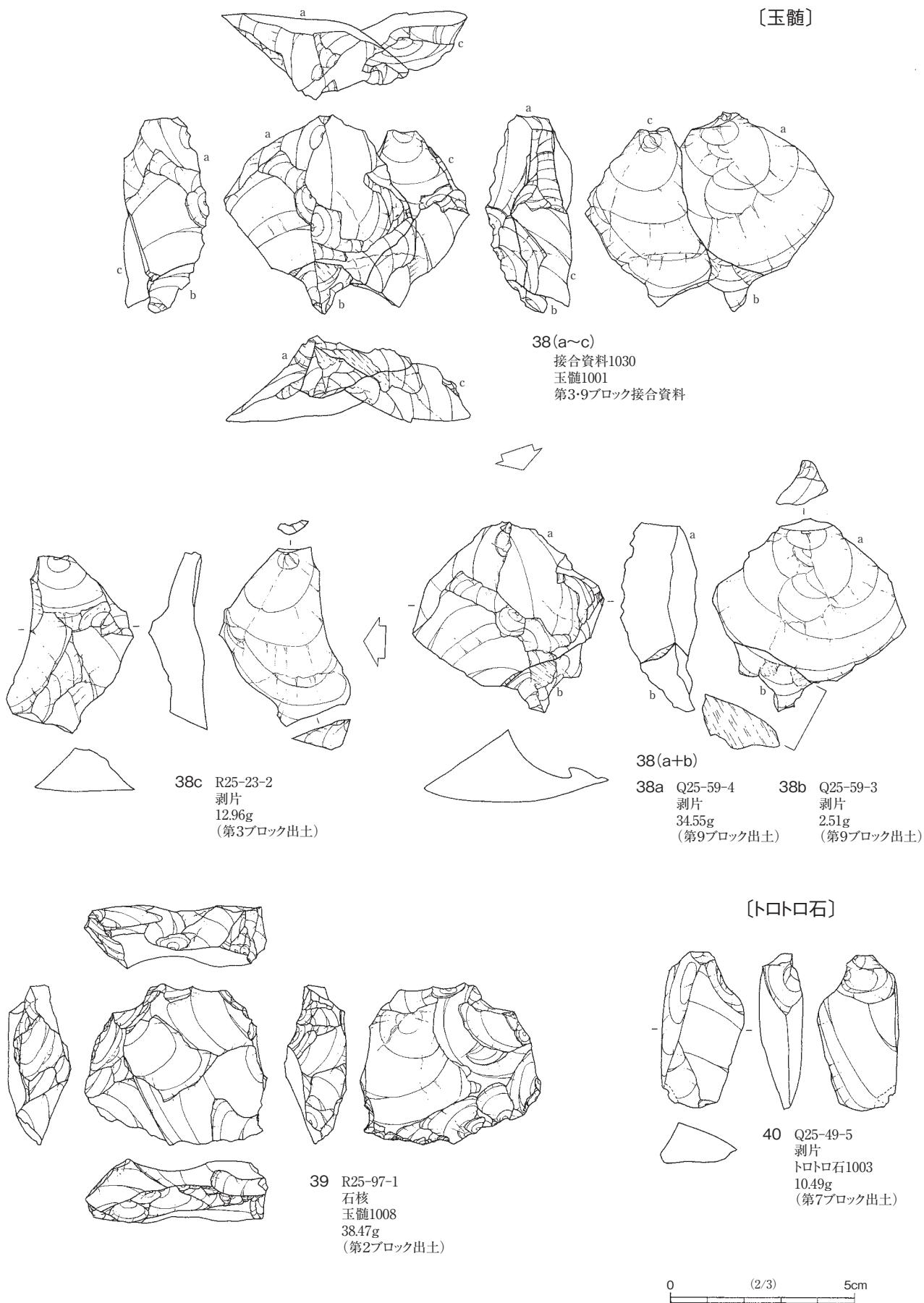
第3-35図 第1文化層1ユニット出土石器(10)



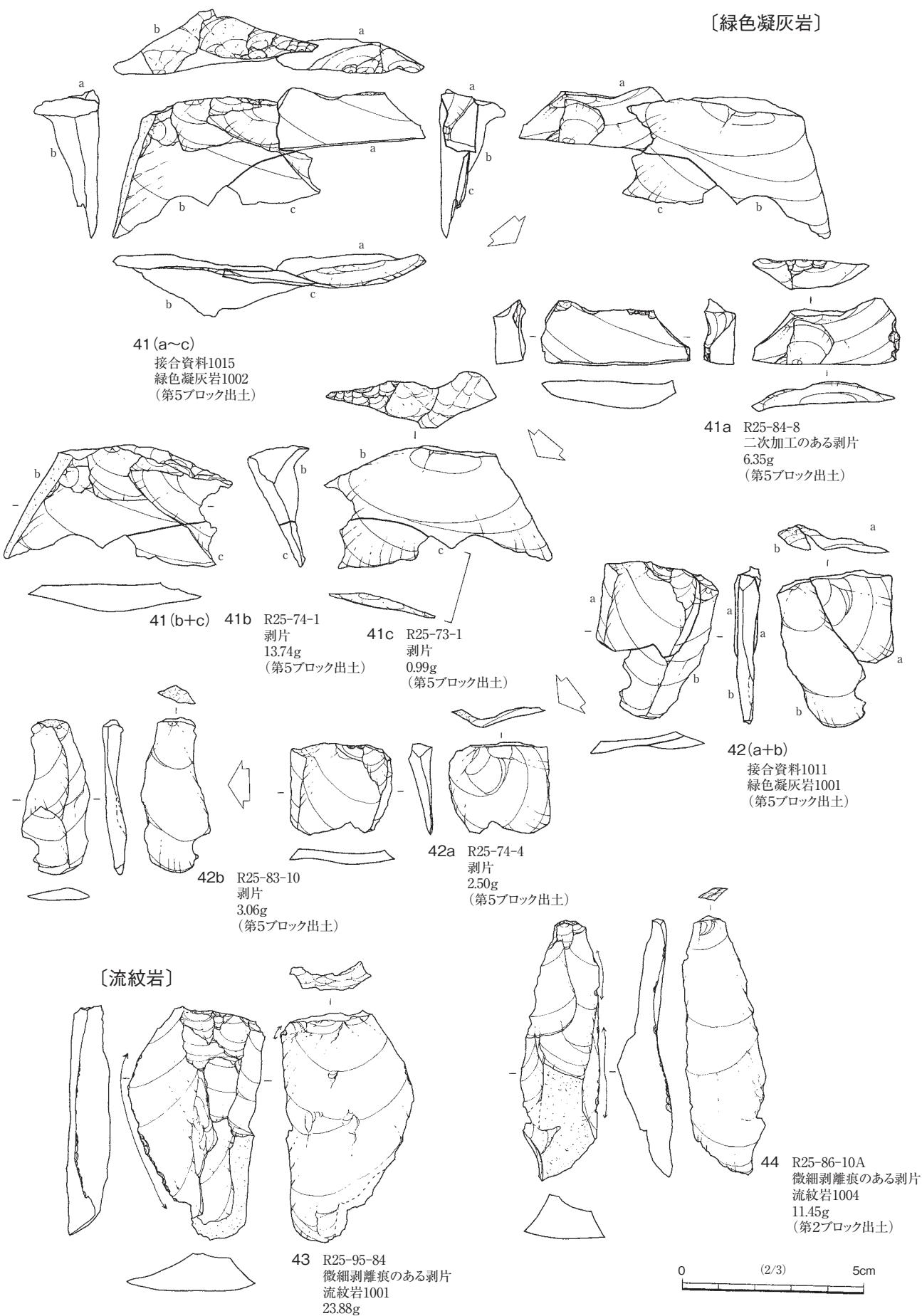
第3-36図 第1文化層1ユニット出土石器(11)



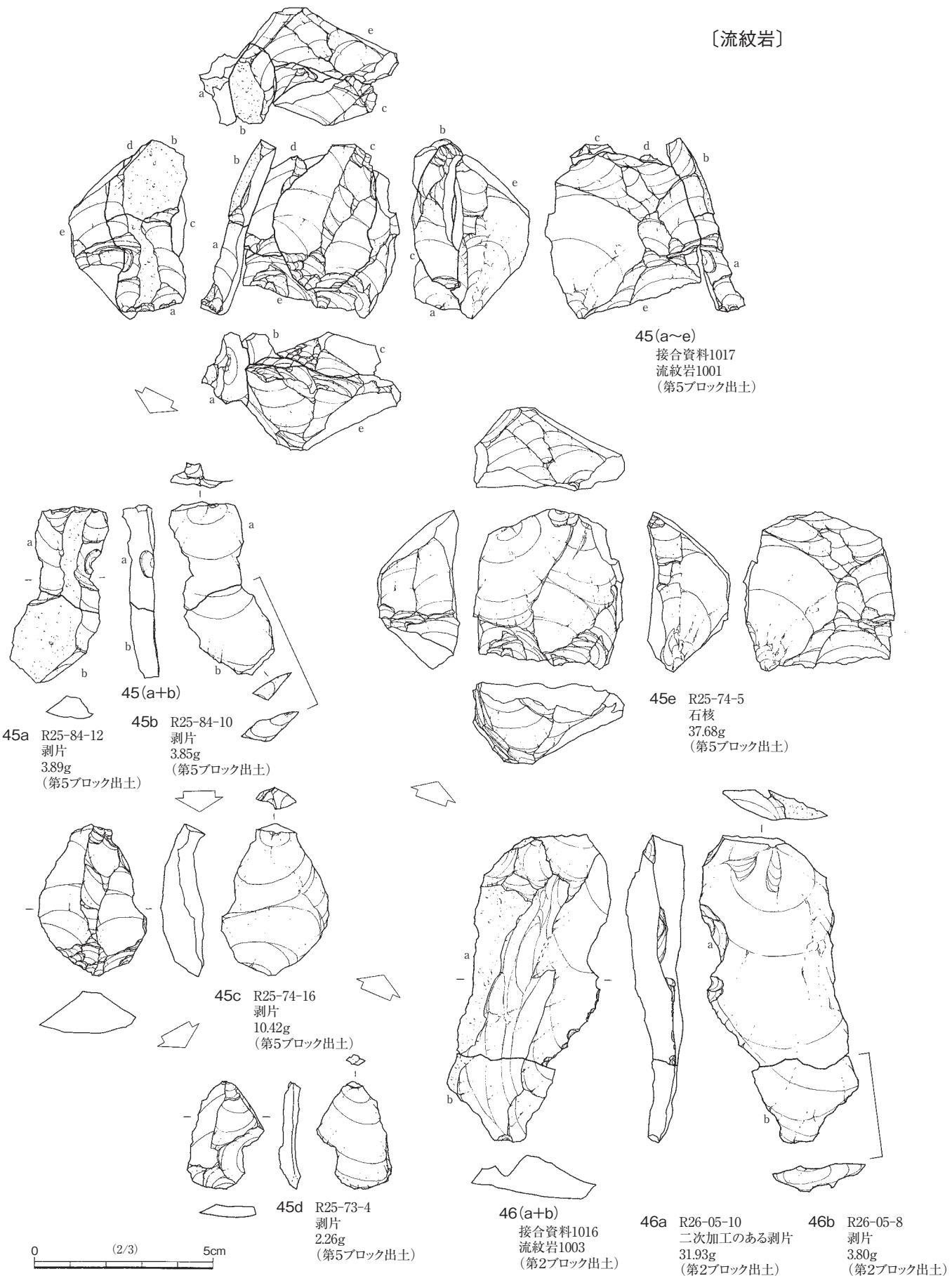
第3-37図 第1文化層1ユニット出土石器(12)



第3-38図 第1文化層1ユニット出土石器(13)

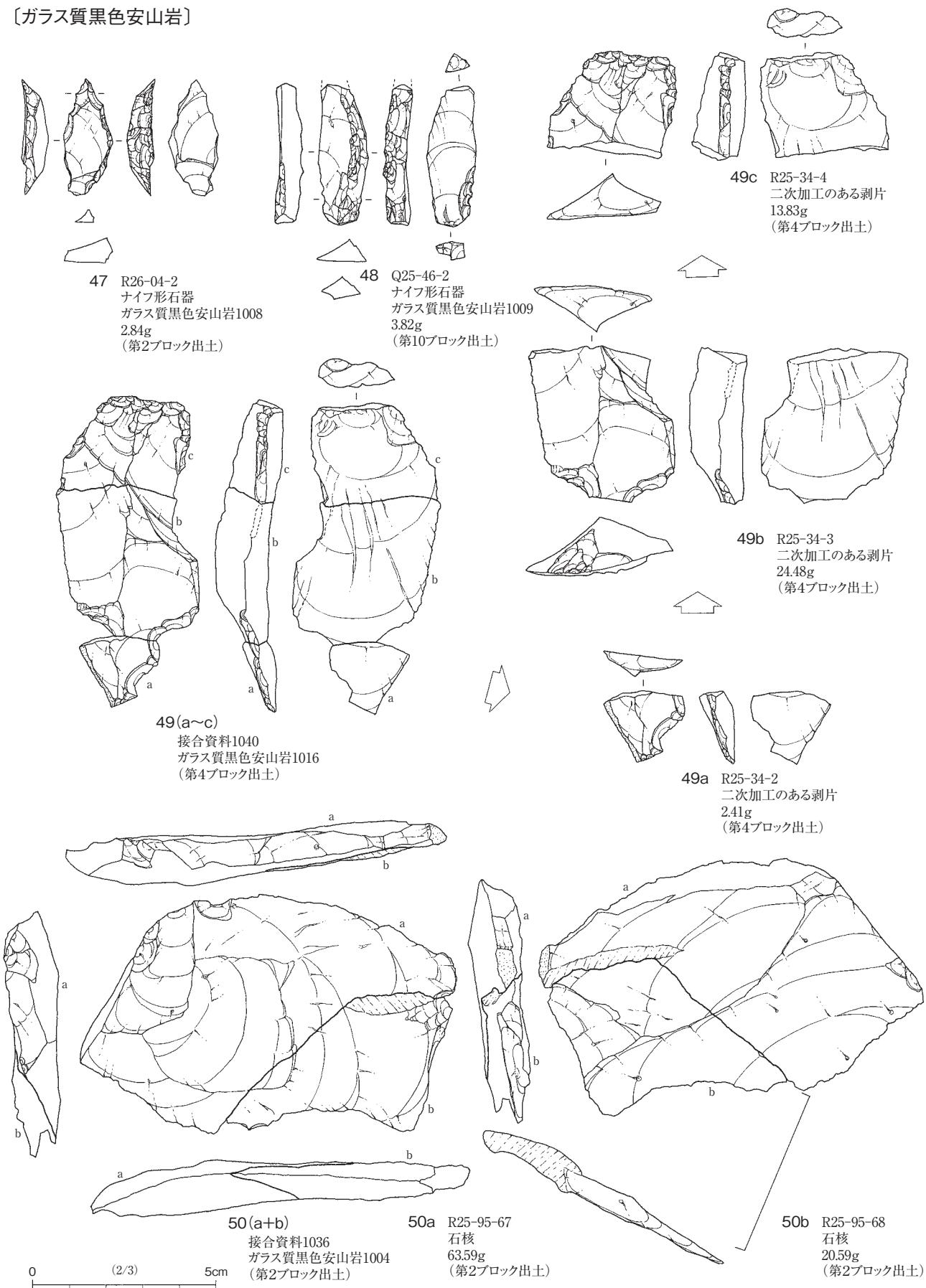


第3-39図 第1文化層1ユニット出土石器(14)

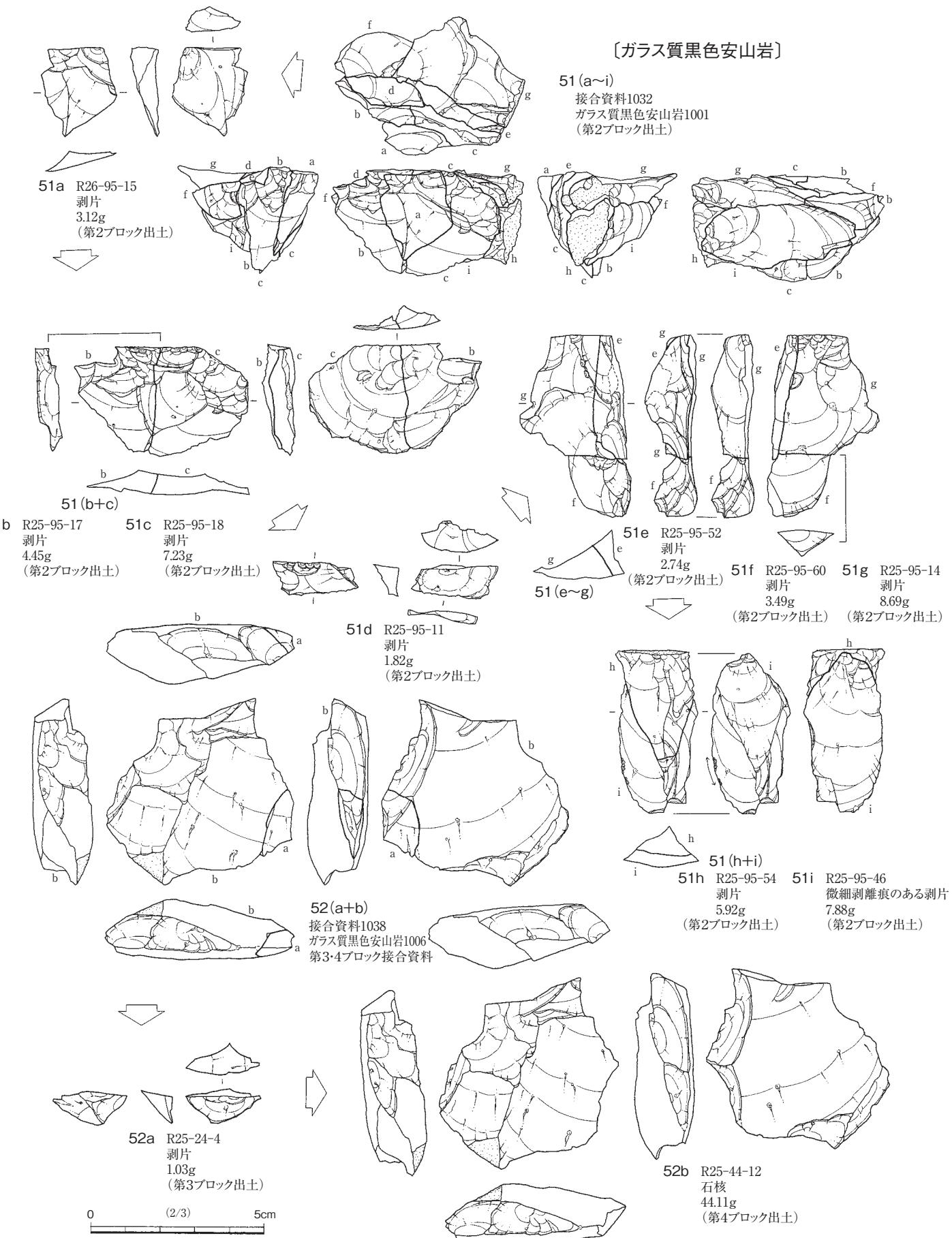


第3-40図 第1文化層1ユニット出土石器(15)

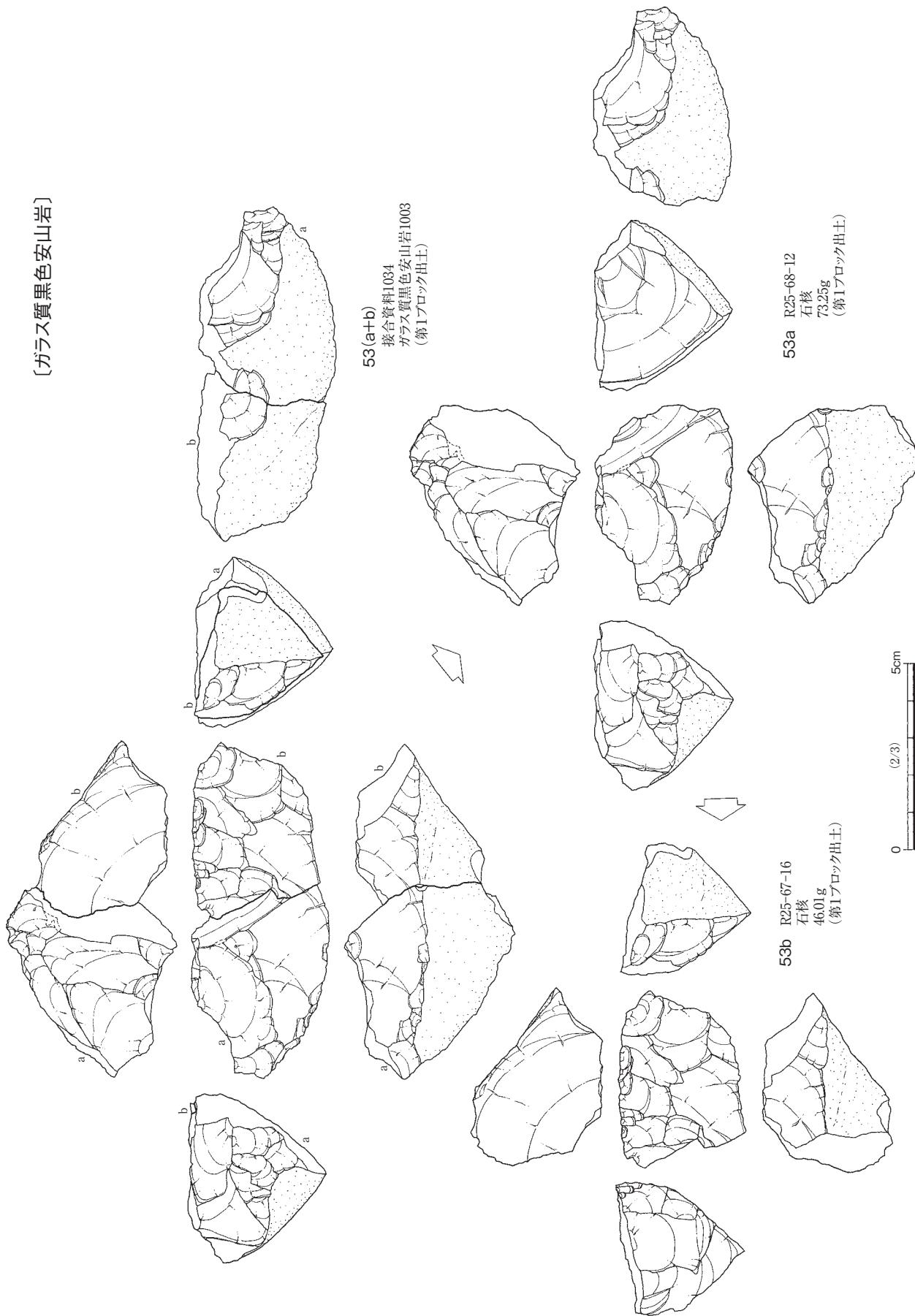
[ガラス質黒色安山岩]



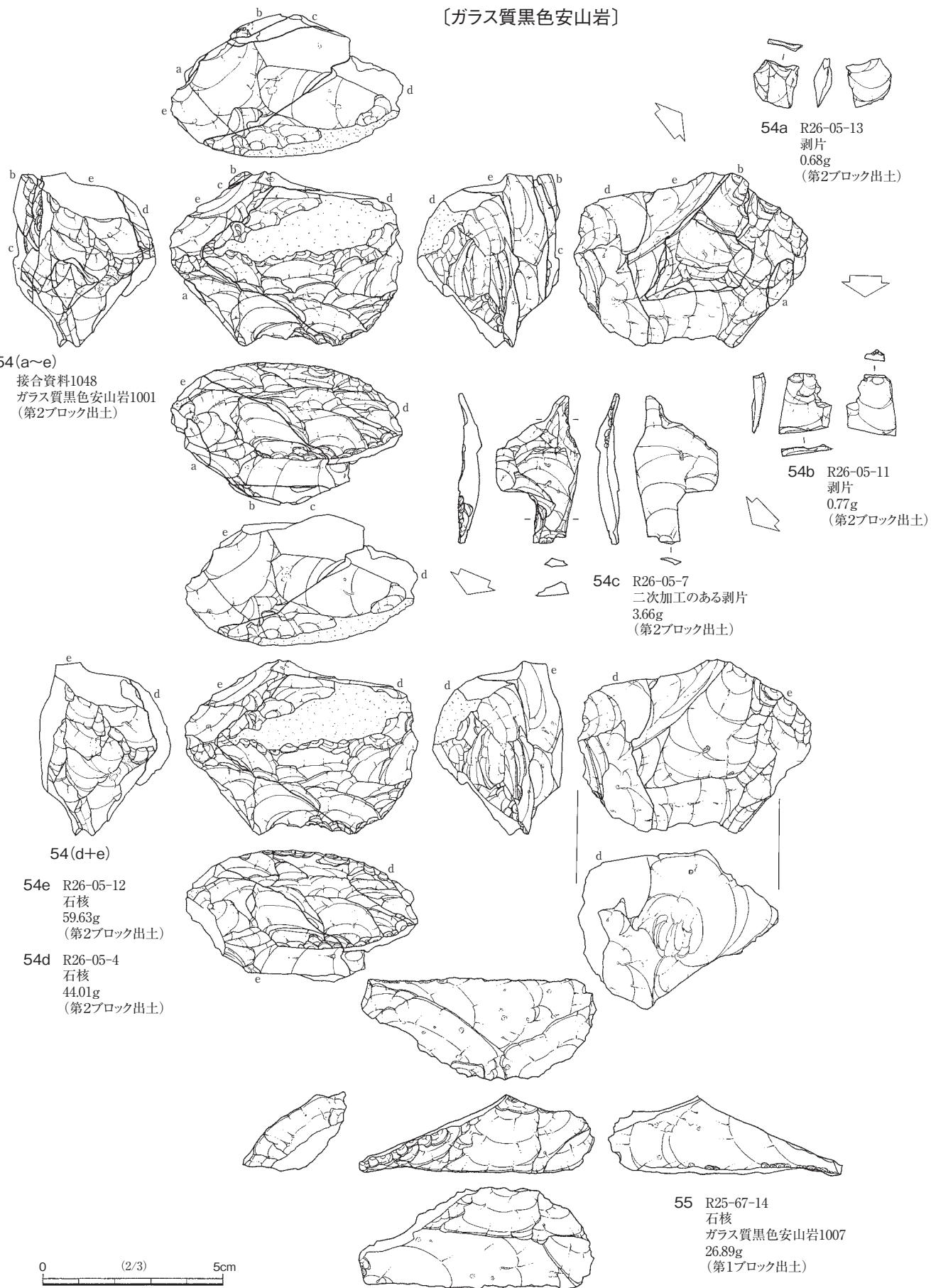
第3-41図 第1文化層1ユニット出土石器(16)



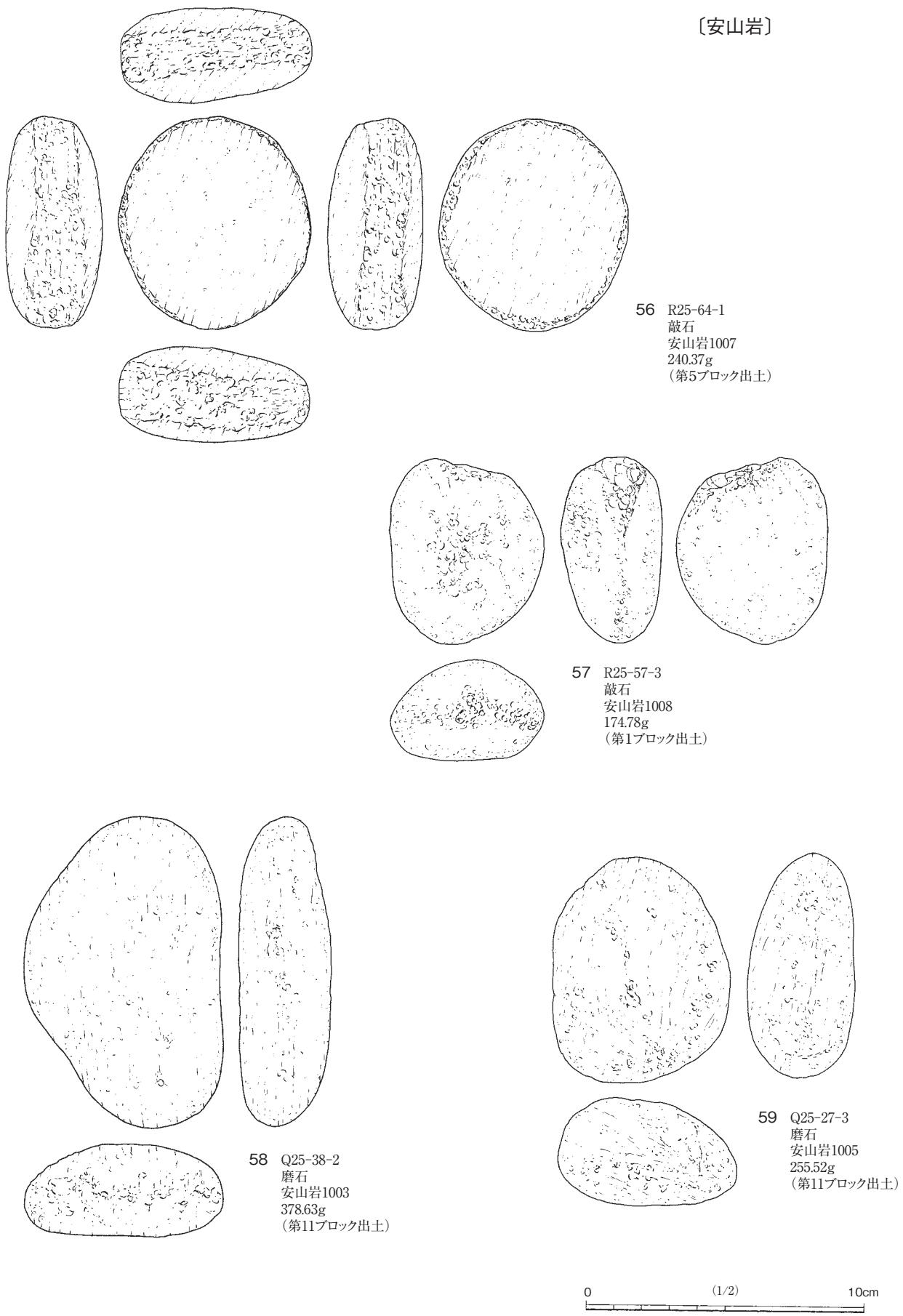
第3-42図 第1文化層1ユニット出土石器(17)



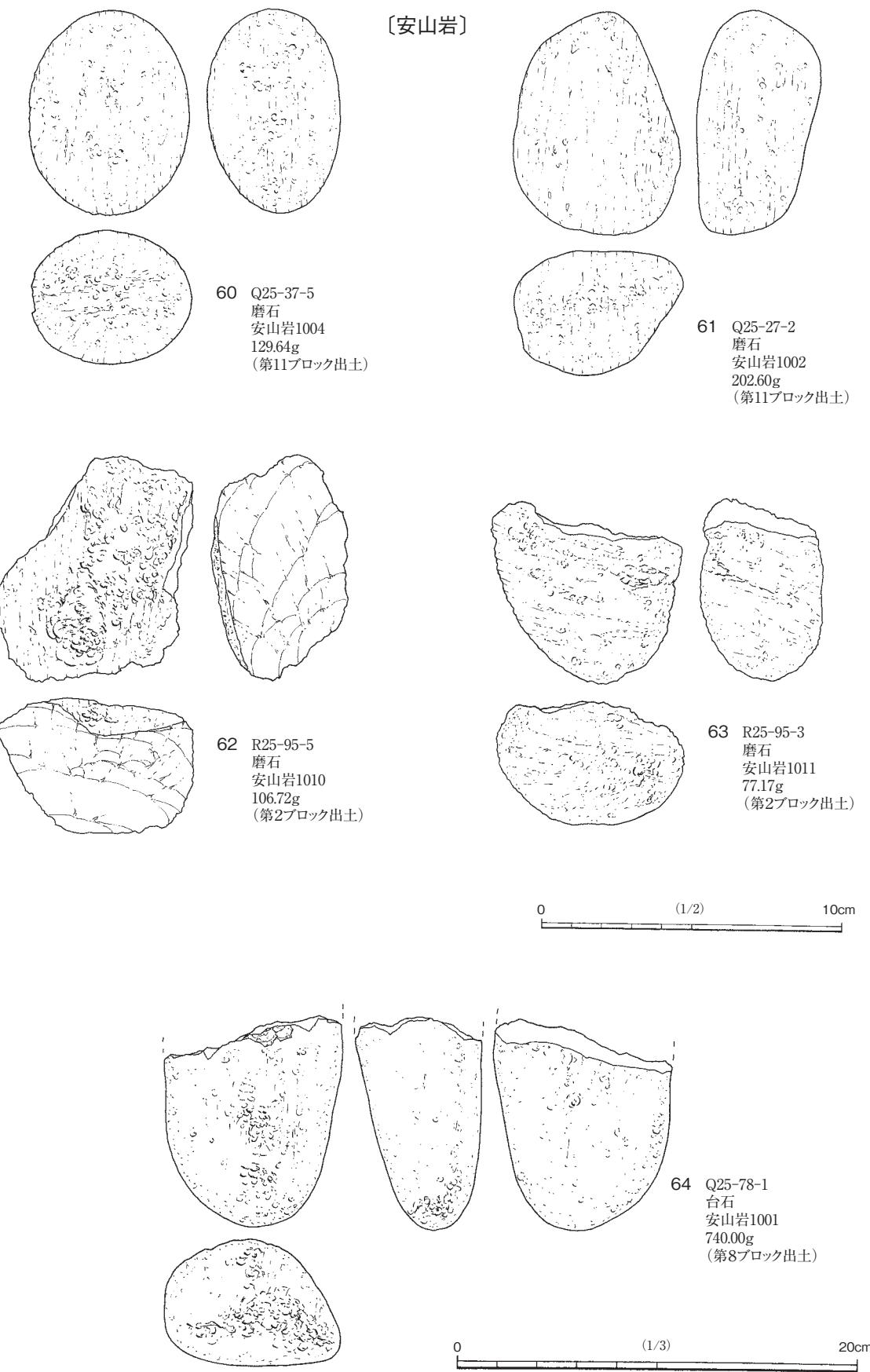
第3-43図 第1文化層1ユニット出土石器(18)



第3-44図 第1文化層1ユニット出土石器(19)



第3-45図 第1文化層1ユニット出土石器(20)



第3-46図 第1文化層1ユニット出土石器(21)

石核は、直方体の形状をしている。46(a+b)は縦長剥片を素材として末端部付近が折れている。46aは折れた後、裏面左部に細かい調整加工が施されている。

⑪ガラス質黒色安山岩(第3-41~44図、図版13) 47・48はナイフ形石器である。47は横長剥片を素材とし、右側縁と左側縁下部に急角度の調整加工が施されている。左側縁上部と裏面下部は平坦な調整加工が施されている。素材の縁辺部が残っていないが、左側縁上部に鋭利な縁辺が作成されており、この部位が刃部として機能したものと思われる。玉髓を用いた32のナイフ形石器と形態的に類似する。

48は表面右部に稜上調整加工がみられる縦長剥片を素材とし、裏面右下部に平坦な調整加工が施されている。先端部は折れており、素材の打面は残っている。

49(a~c)は頭部調整が行われた縦長剥片を素材としている。49(a~c)の状態で右側縁下部に急角度の調整加工が施されており、この調整加工の際に末端部付近で49aが折れている。49(b+c)の状態で左側縁下部に急角度の調整加工が施されている。49cの両側縁上部に細かい調整加工が施されており、この調整加工の際に折れて49bと49cとに分割されたものと思われる。大型の基部加工のナイフ形石器、あるいは削器を製作する過程で破損した資料と思われる。50(a+b)は大型の板状の剥片を素材とした石核である。素材の主要剥離面は表面側にみられる。上面左部を打面として表面方向に細長の剥片が剥離されている。器体の中央部付近から折れしており、その後に剥離は行われていない。

51(a~i)は分割した厚みのある剥片を素材としている。表面左部に分割面が残っている。剥離順序は、上面下半部を打面として51aと51(b+c)と51dを連続剥離→右面上部を打面として上面方向に51(e~g)と51hと51iの連続剥離となる。なお、51(b+c)と51(e~g)は剥離されたときに同時割れしたものと思われる。

52(a+b)は第3・4ブロック間の接合資料である。幅広の横長剥片を素材としている。剥離順序は、裏面右上部を打面として表面方向に横長剥片を剥離→表面上部を打面として上面方向に横長剥片を剥離→表面右部を打面として52aを含む横長剥片の数枚剥離となる。石核である52bは表裏両面の全周にわたって求心的な剥離が行われている。

53(a+b)は分割した厚みのある剥片を素材としている。素材の分割面は表面下部に残っている。裏面上部中央付近を打面とし53aと53bの2個体に分割し、それぞれの個体から剥片が剥離されている。53aの剥離順序は、表面上部を打面として上面方向に剥片を剥離→上面下部を打面として表面方向に横長剥片を剥離している。53bの剥離順序は、表面上部を打面として上面方向に大型の横長剥片を剥離→右面左部を打面として表面方向に小型の横長剥片を剥離→上面下部を打面として表面方向に剥片の数枚剥離となる。

54(a~e)は分割した厚みのある剥片を素材としている。素材の分割面は、上面中央部と裏面中央部に残っている。剥離順序は、裏面右上部を打面として上面方向に大型の横長剥片を剥離→上面左下部を打面として裏面方向に54aから54cを含む数枚の剥片を剥離→裏面下部を打面として表面方向に横長剥片を数枚剥離→裏面左下部を打面として剥離した際に54dと54eとに分割となる。

55は石核である。板状の剥片を素材としている。素材の主要剥離面は上面の上半部に残っている。剥離順序は、表面左上部を打面として上面方向に横長剥片を剥離→上面右上部を打面として上面方向に横長剥片を剥離→上面下部を打面として表面方向に横長剥片の数枚剥離となる。

⑫安山岩(第3-45・46図、図版13) 56・57は敲石である。56は扁平なハンバーグ状の楕円形礫を素材としている。周縁部は全周にわたって強い敲打が行われ、研磨も並行して行われている。特に右面下部と左面の研磨が顕著に行われている。表裏両面の平坦面も研磨が顕著に行われている。敲打と研磨によって、

周縁部の断面は角張った形状をしている。57は厚みのある楕円形礫を素材とし、上下両端と表面中央部に強い敲打が行われている。特に上端部は強い敲打により剥離面が形成されている。

58~63は磨石である。58~61は厚みのある楕円形礫を素材とし、全面が研磨されている。上下両端部に弱い敲打痕もみられる。62・63は大型の多孔質の安山岩を用いている。62は破損しており、全体形状が不明である。表面の平坦面は研磨されており、表面中央部付近に2か所の深さ約5mm程度の窪みがみられる。63は上半部が破損しており全体形状が不明である。破損面を除いてほぼ全面が研磨されている。

64は台石である。大型の楕円形礫を素材としている。上半部が破損している。表面中央部と下端部にあらわした状の窪みが数か所みられる。

3 第1文化層第12ブロック(第3-47・48図、第3-18表、図版8・14)

出土状況 調査区南西部西寄りのP24-40・41・50グリッドに分布している。4.0m×4.4mの範囲から8点の石器が出土した。北東に傾斜する斜面の縁辺に立地する。西部と東部の2か所の集中地点がみられる。どちらも散漫に分布している。西部は石器類、東部は礫片が出土している。IX層からIV層にかけて出土しており、IX層上部に集中する。

出土遺物 器種組成はナイフ形石器1点、楔形石器4点、微細剥離痕のある剥片1点の石器類6点と礫片2点である。石器類の石材はチャート5点、珪質頁岩1点で、礫片の石材はチャート2点である。

1はナイフ形石器である。頭部調整が行われ、打面幅の狭い縦長剥片を素材としている。右側縁上部・先端部・裏面右下部に平坦剥離が施され、左側縁中部に急角度の調整加工が施されている。先端部の調整加工は先端部が破損したものを再生加工した可能性が高い。

2は微細剥離痕のある剥片であり、中型の縦長剥片を素材としている。表面の剥離面の構成から石刃と識別可能である。頭部調整が行われており、左側縁上部と裏面左下部に微細剥離がみられる。3は楔形石器であり、上下両端から両極剥離が行われている。平面が四角形で、厚みのない形状をしている。4(a~c)は楔形石器の接合資料である。幅広の剥片を素材とし、上下両端から両極剥離が繰り返し行われており、細長の小型の石刃状の楔形石器が数枚剥離されている。

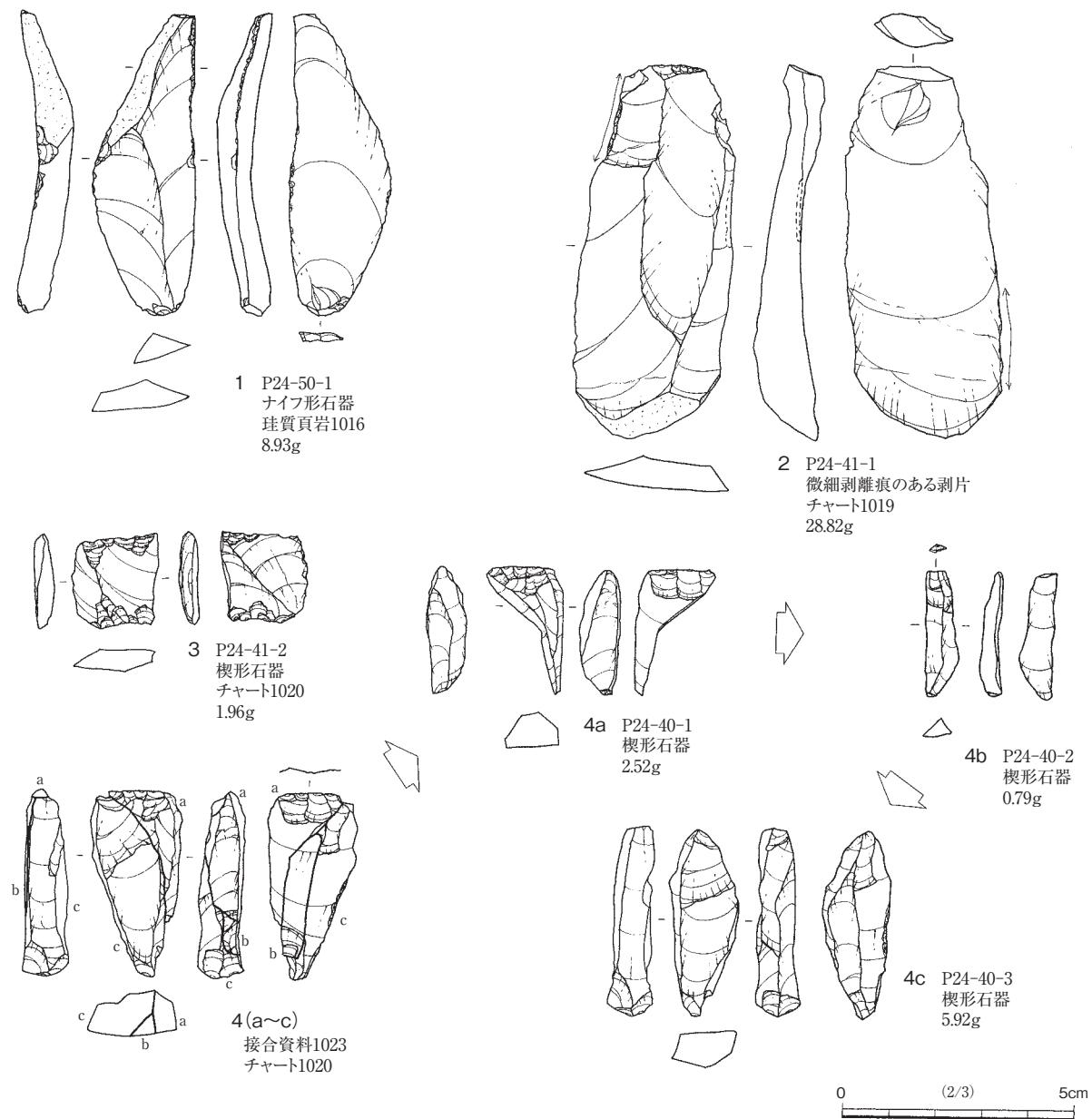
4 第1文化層第13ブロック(第3-49~58図、第3-19表、図版8・14)

出土状況 調査区中央部北寄りのK20-79・89・98、K21-08、L20-61・62・70~72・80~82・90・91グリッドに分布している。北東に傾斜する斜面の縁辺に立地する。16.0m×17.8mの範囲から152点の石器が出土した。北東部・北部・南東部・南西部の4か所の集中地点がみられる。北東部・南東部が密集し、北部・南西部が散漫に分布する。IX層からIV層にかけて出土しており、IX層上部に集中する。

出土遺物 器種組成は二次加工のある剥片8点、微細剥離痕のある剥片3点、剥片103点、碎片19点、石核17点、敲石1点の石器類151点と礫1点で構成される。石器類の石材はチャート126点、ガラス質黒色安山岩18点、玉髓5点、ホルンフェルス1点、砂岩1点で、礫の石材はチャート1点である。

第3-18表 第1文化層第12ブロック組成表

母岩 器種	母岩番号	ナイフ形石器	楔形石器	微細剥離痕 のある剥片	礫片	点数合計	点数比 (%)	重量合計 (g)	重量比 (%)
珪質頁岩	1016	1				1	12.50	8.93	10.43
チャート	1019			1		1	12.50	28.82	33.66
	1020		4			4	50.00	11.19	13.07
	1999				2	2	25.00	36.67	42.83
チャート合計			4	1	2	7	87.50	76.68	89.57
全体点数合計		1	4	1	2	8	100.00	85.61	100.00



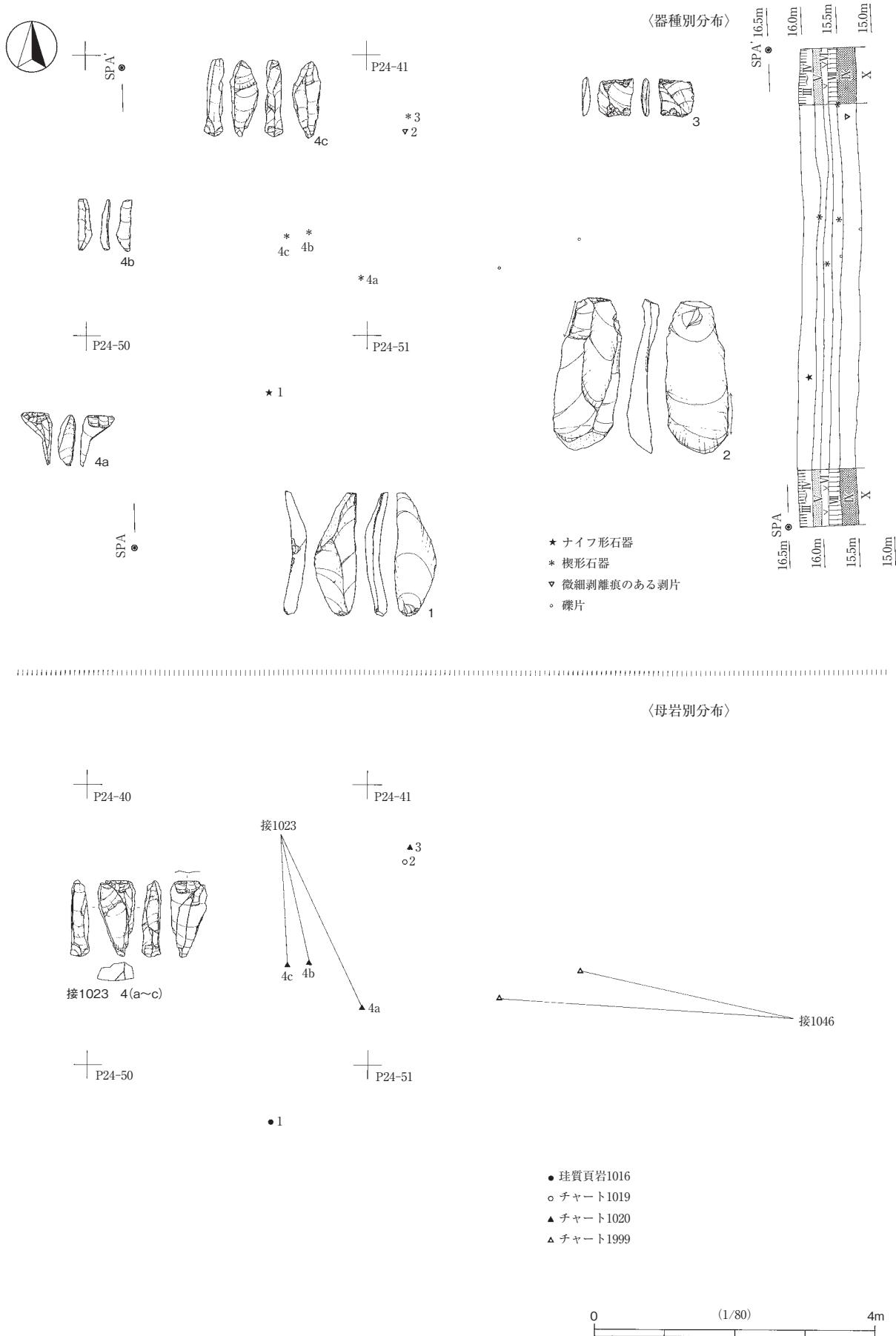
第3-47図 第1文化層第12ブロック出土石器

1は二次加工のある剥片である。幅広の剥片を素材とし、左側縁は表面側から急角度に粗い調整加工が、裏面は平坦な調整加工が施されている。2は微細剥離痕のある剥片である。厚みのない幅広の剥片を素材とし末端部に微細剥離がみられる。3は二次加工のある剥片である。厚みのない縦長剥片を素材とし、左側縁に粗い調整加工が施されている。

4は石核である。打面転移を頻繁に繰り返して剥離を行っている。剥離順序は、表面右下部の自然面を打面として右面方向に縦長剥片を剥離→表面上部を打面として上面方向に横長剥片を剥離→下面左上部を打面として左面方向に横長剥片を剥離→上面下部を打面として表面方向に剥片の数枚剥離となる。

5～12は接合資料である。5～8はすべてチャート1024で、非常に大型の母岩が持ち込まれ、本遺跡で礫を分割し剥片剥離が行われたことがうかがえる。節理に沿って分割された素材を用いているものが多い。

5 (a～m)は節理面に沿って剥離された分割礫を素材としている。剥離順序は、上面右部を打面として右面方向に5aを剥離→裏面左中部を打面として左面方向に5bを剥離→左面右下部を打面として表面方向



第3-48図 第1文化層第12ブロック遺物分布

に5cを剥離→左面左部を打面として表面方向に5d・5eを剥離→裏面左部を打面として5fから5kを連続剥離→上面左上部を打面として裏面方向に5lの剥離となる。5mの石核はその後に剥離されていない。

6(a~m)は節理面に沿って剥離された分割礫を素材としている。節理に沿って数枚に同時割れしているものが多い。上面右上部を打面として6(a~k)と6(l+m)の2個体に分割してそれぞれの個体から剥離が行われている。1つ目の分割個体である6(a~k)の剥離順序は、上面左下部を打面として6aから6dを剥離(これらは同時割れと思われる)→上面左上部を打面として裏面方向に6e・6fを剥離→上面中央付近を打面として表面方向に6gから6jを剥離している。6kは石核である。2つ目の個体である6(l+m)の剥離順序は、表面右下部を打面として6lを剥離→上面右上部を打面として表面方向に6mの剥離となる。

7(a~d)は節理面に沿って分割された分割礫を素材としている。左面上部付近を打面として7aから7cを剥離している。7aから7cは剥離した際に3個体に分割されている。その後、左面下部を打面として7dを剥離している。剥離された剥片のうち、7cは石核として用いられており、上面を打面として表面方向に数枚の小型剥片が剥離されている。8(a+b)は分割礫を素材としている。剥離順序は、下面左下部を打面として裏面方向に剥片を剥離→裏面下部を打面として下面方向に剥片を剥離→裏面上部を打面として上面方向に剥片を剥離→上面下部を打面として8aの剥離となる。8bは石核である。

9(a~c)の剥離順序は、表面右部を打面とし裏面方向に縦長剥片を剥離→左面上部を打面とし上面方向に9aを剥離→9bの剥離面を打面とし表面方向に9bを含む数枚の剥片の剥離となる。9cの石核はサイコロ状の形態を呈する。10(a~e)の剥離順序は、表面上部中央を打面とし裏面方向に10aを剥離→裏面右上部を打面とし表面方向に10bを剥離→表面右上部を打面とし裏面方向に10cを剥離→表面右下部を打面とし右面方向に10dの剥離となる。10eは石核である。11(a~e)は分割礫を素材としている。剥離順序は、表面中央部付近を打面とし11aを剥離→表面下部中央を打面とし11bと11c(11cは石核で、表面方向に横長剥片が剥離される)を剥離→左面右中央部を打面とし表面方向に11dの剥離となる。11eは石核である。

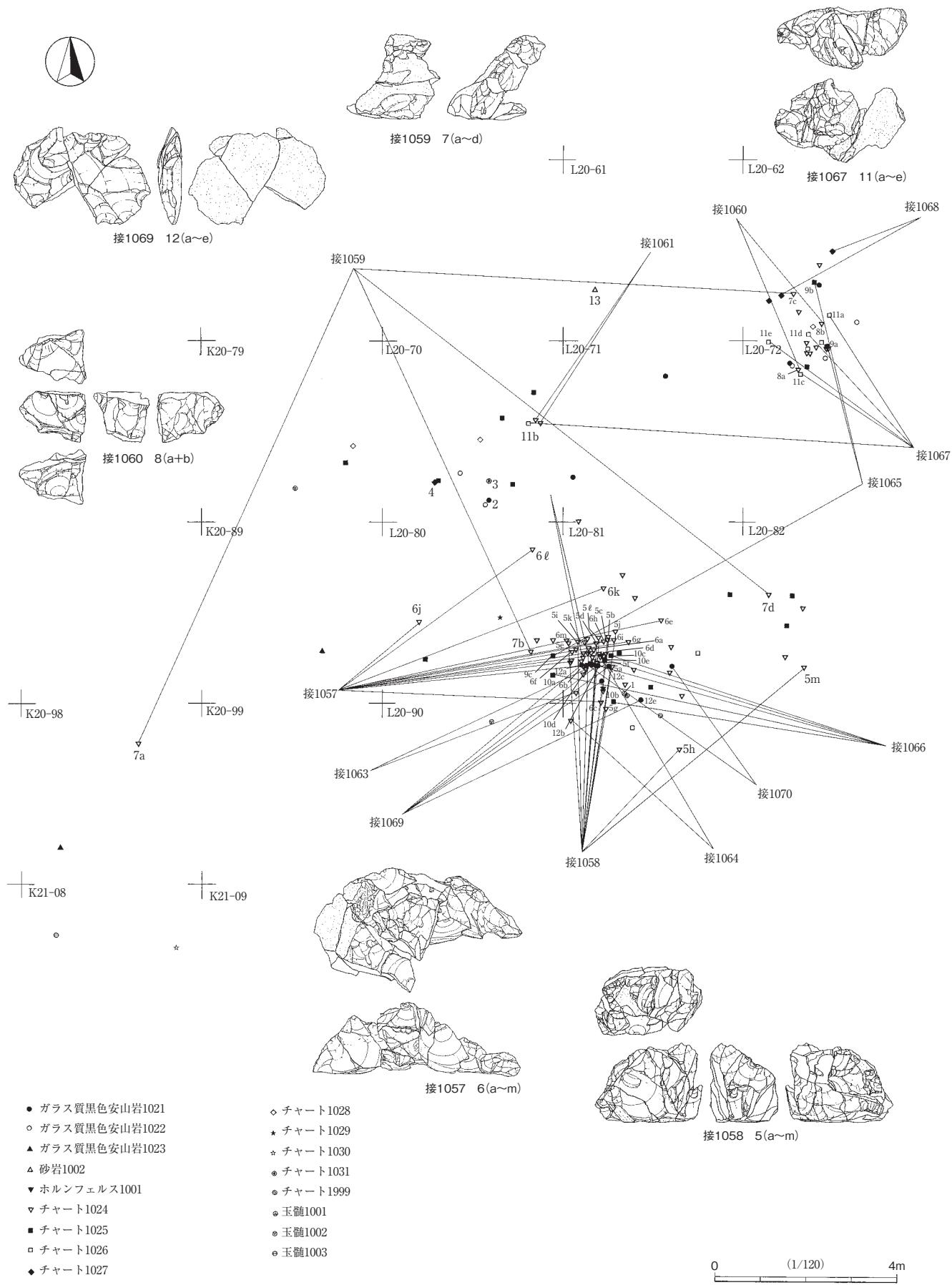
12(a~e)は板状の剥片を素材としている。表面中央部を打面とし、12(a~c)と12(d+e)の2個体に分

第3-19表 第1文化層第13ブロック組成表

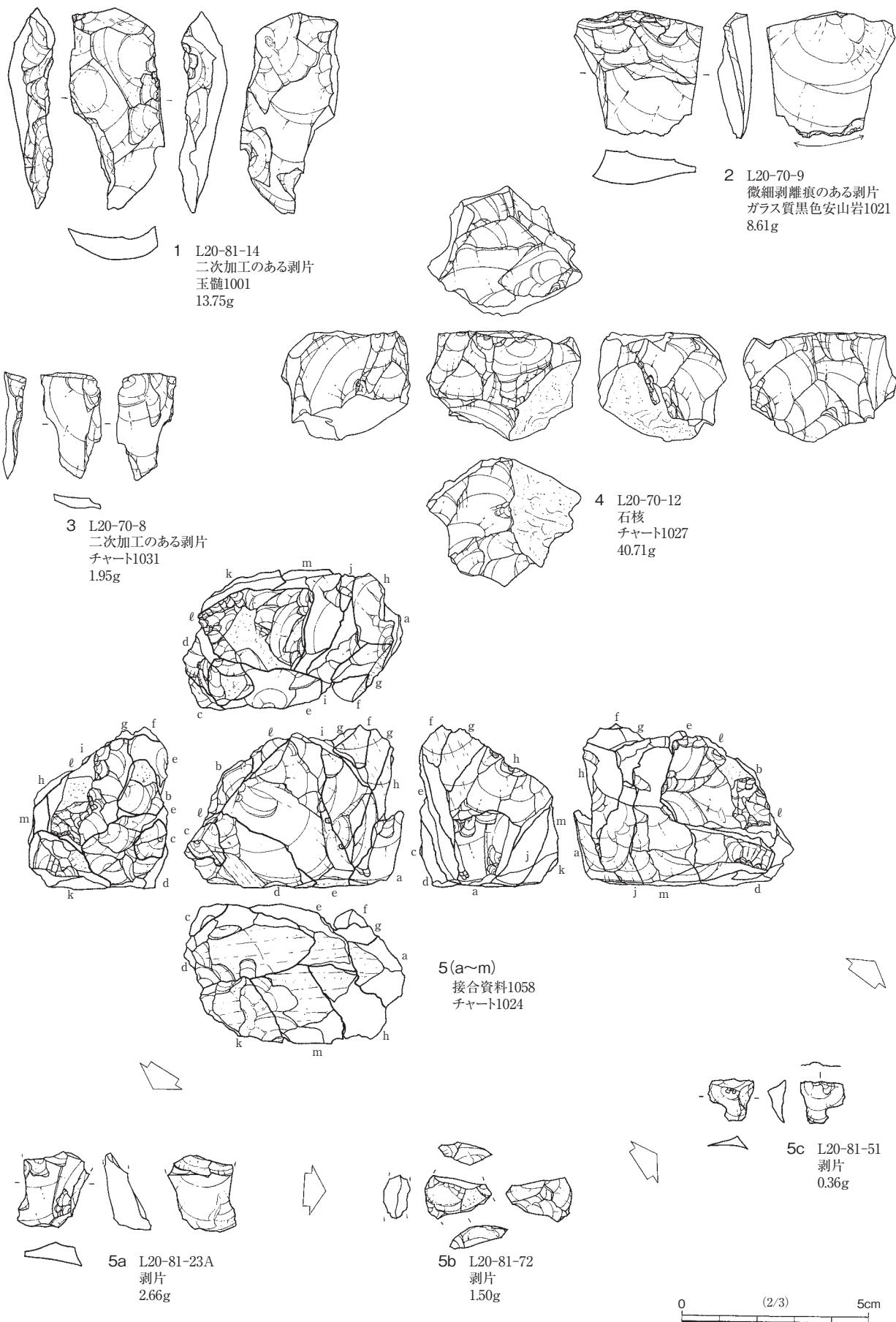
母岩 \ 器種	母岩番号	二次加工のある剥片	微細剥離痕のある剥片	剥片	碎片	石核	敲石	礫	点数合計	点数比 (%)	重量合計 (g)	重量比 (%)
ガラス質黒色安山岩	1021		1	8		3			12	7.89	75.78	6.37
	1022			4					4	2.63	9.33	0.78
	1023			2					2	1.32	1.66	0.14
ガラス質黒色安山岩合計		1	14			3			18	11.84	86.77	7.29
玉 髓	1001	1		1					2	1.32	17.50	1.47
	1002			2					2	1.32	29.43	2.47
	1003			1					1	0.66	4.67	0.39
玉 髓 合 計	1		4						5	3.29	51.60	4.34
ホルンフェルス	1001			1					1	0.66	0.95	0.08
チ ャ 一 ト	1024	3		57	18	5			83	54.61	438.02	36.81
	1025	2	1	12	1	5			21	13.82	113.98	9.58
	1026	1		7		2			10	6.58	97.34	8.18
	1027			3		1			4	2.63	49.56	4.16
	1028			5					5	3.29	14.66	1.23
	1029					1			1	0.66	24.33	2.04
	1030		1						1	0.66	6.49	0.55
	1031	1							1	0.66	1.95	0.16
	1999								1	0.66	1.43	0.12
チ ャ 一 ト 合 計	7	2	84	19	14			1	127	83.55	747.76	62.84
砂 岩	1002								1	0.66	302.93	25.46
全 体 点 数 合 計	8	3	103	19	17	1	1	152	100.00	1,190.01	100.00	



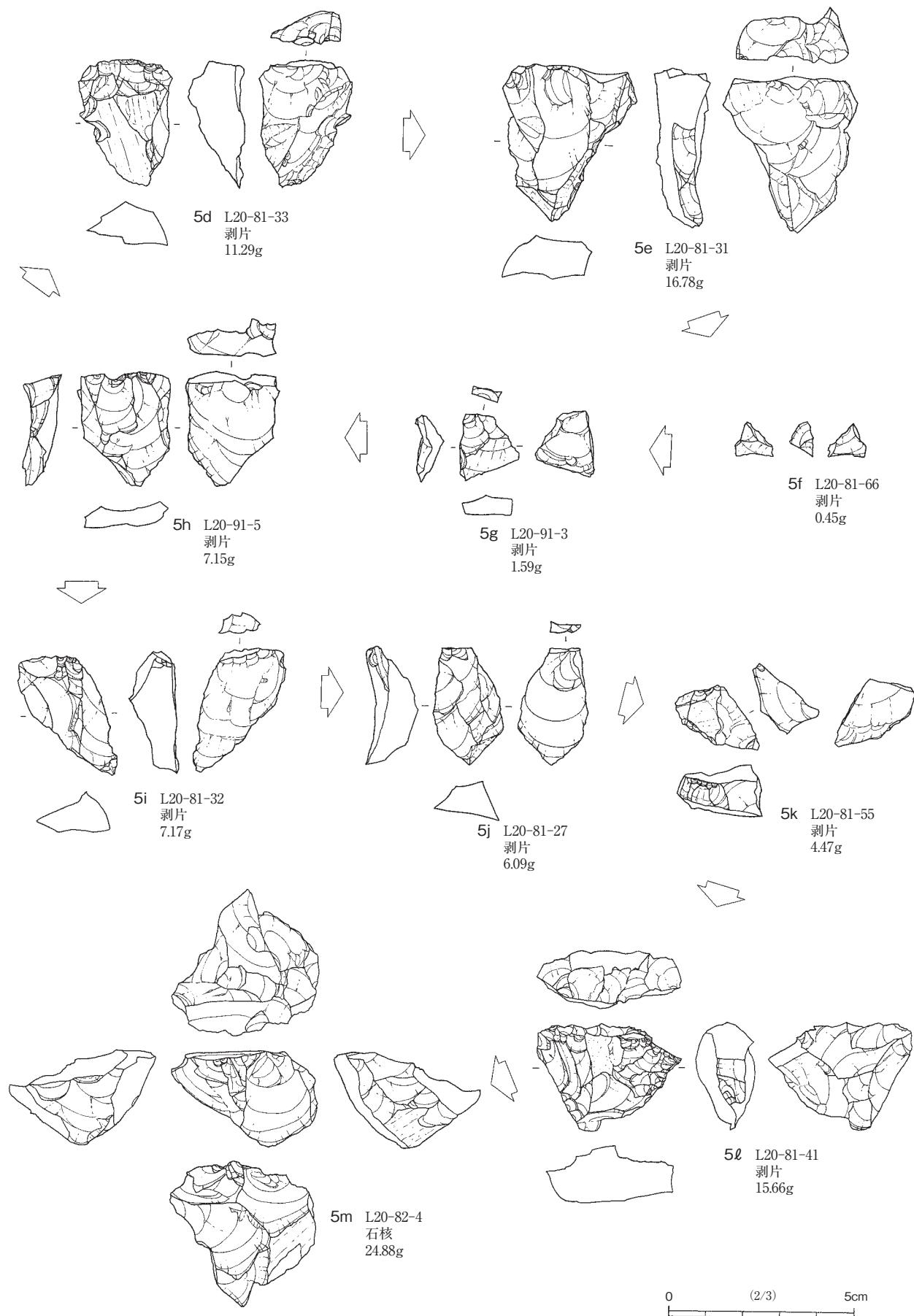
第3-49図 第1文化層第13ブロック器種別分布



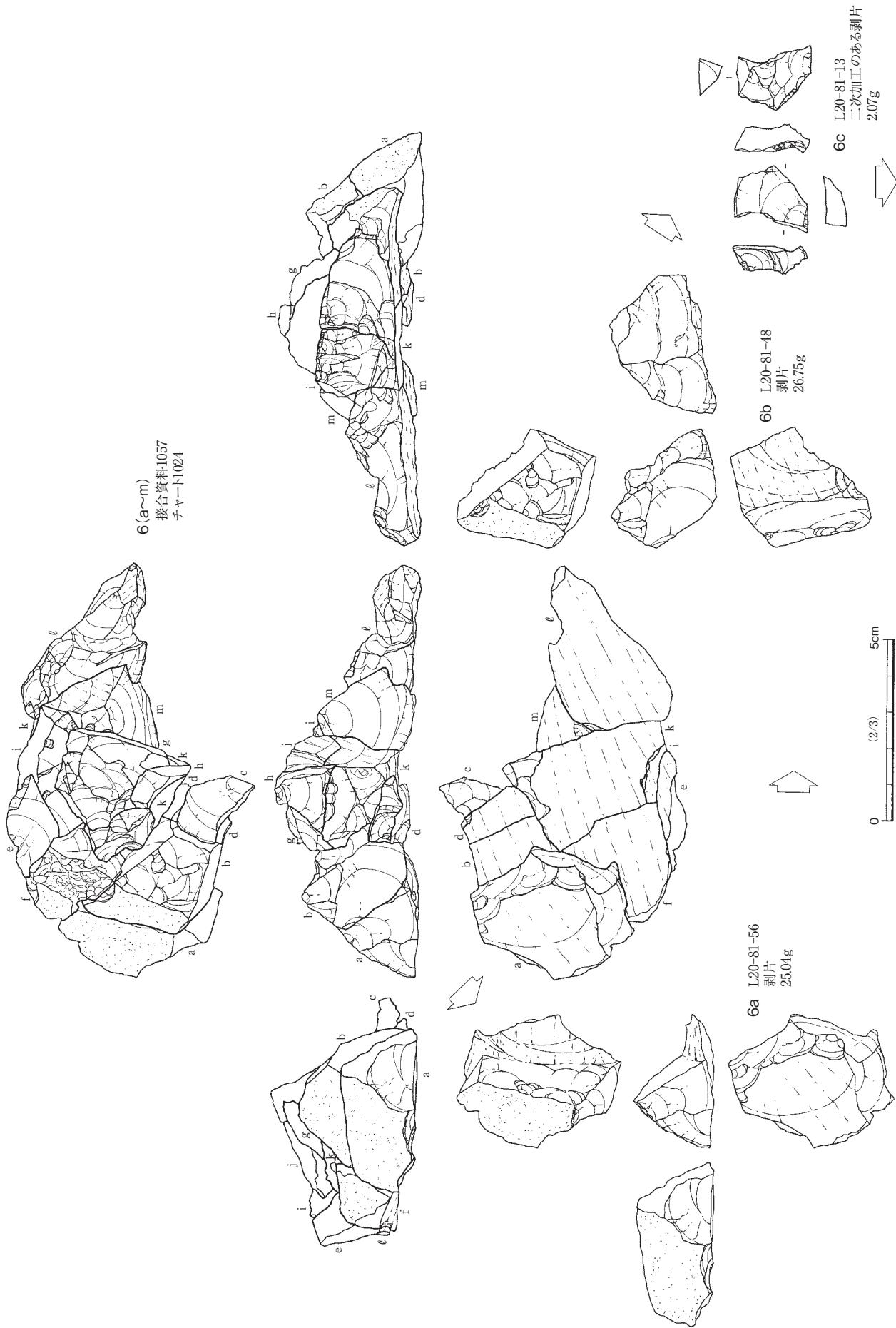
第3-50図 第1文化層第13ブロック母岩別分布



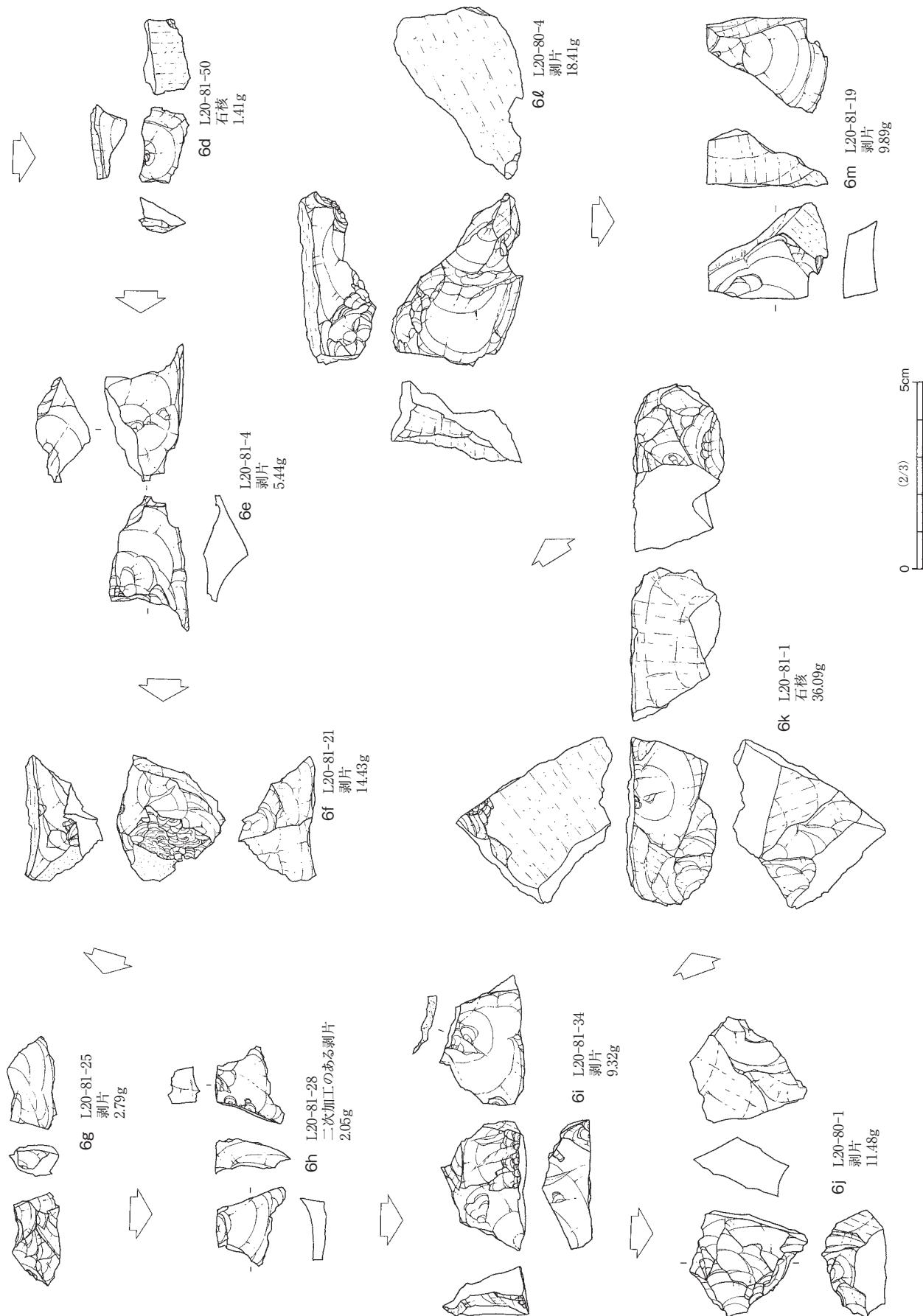
第3-51図 第1文化層第13ブロック出土石器(1)



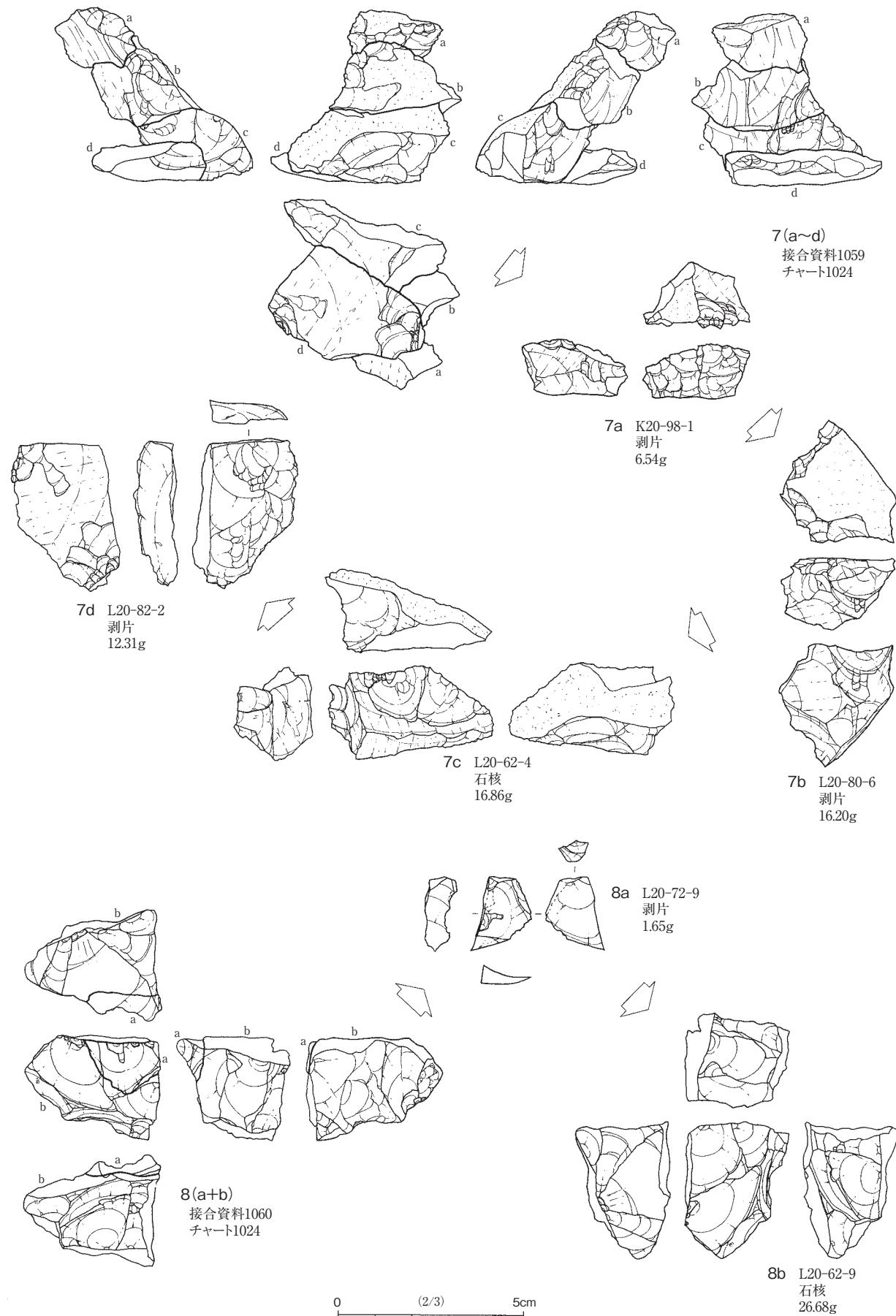
第3-52図 第1文化層第13ブロック出土石器(2)



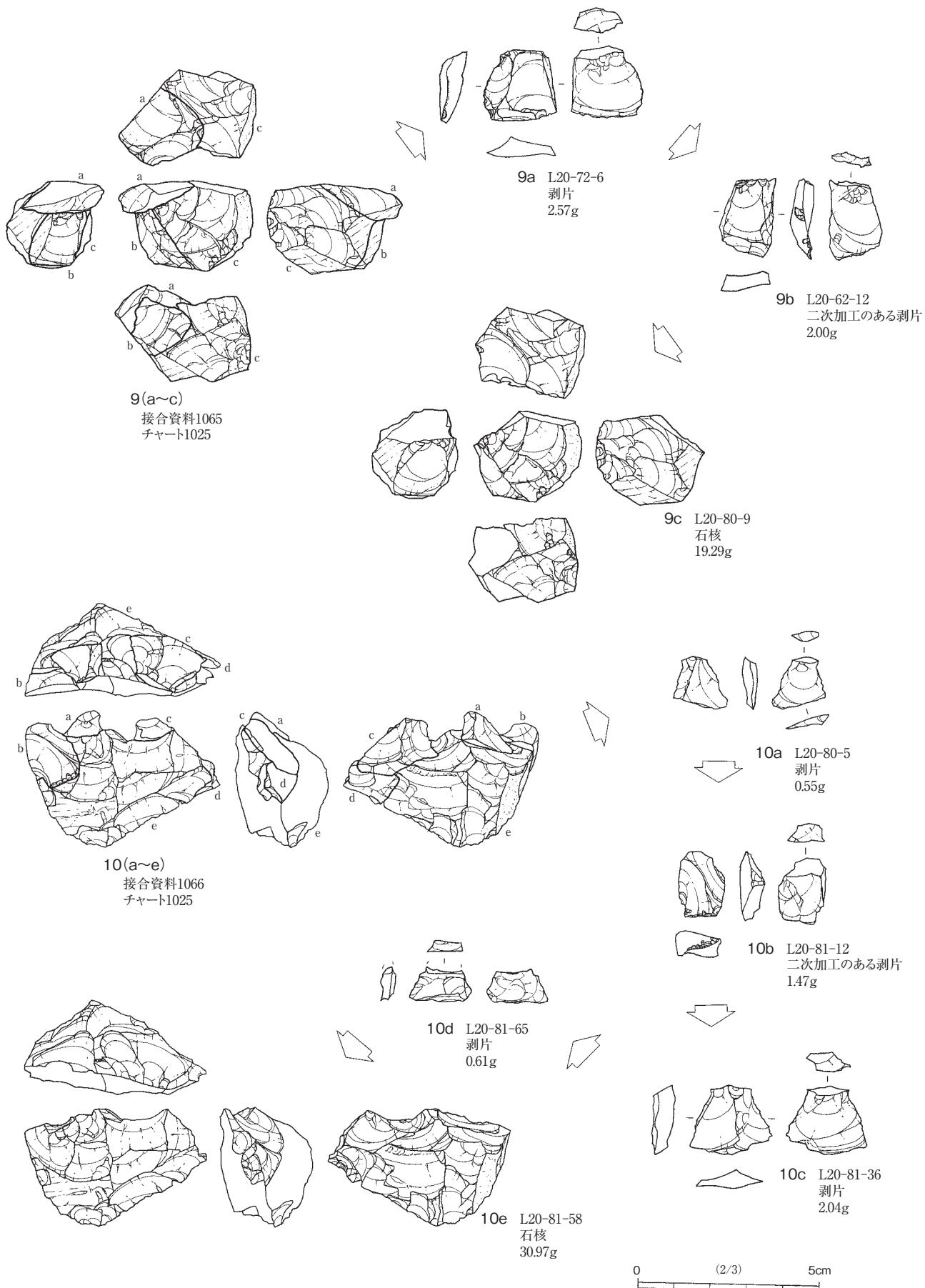
第3-53図 第1文化層第13ブロック出土石器(3)



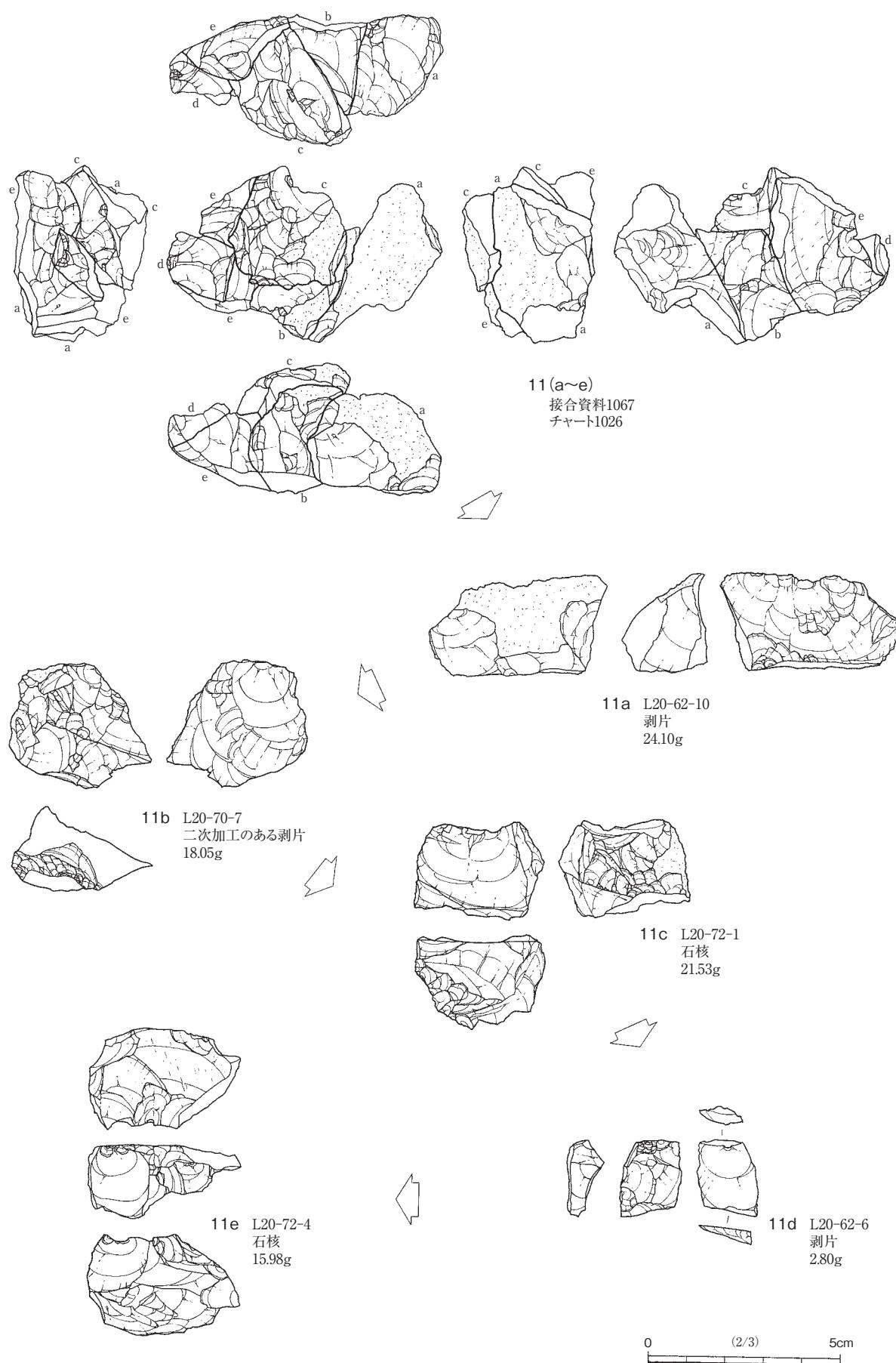
第3-54図 第1文化層第13ブロック出土石器(4)



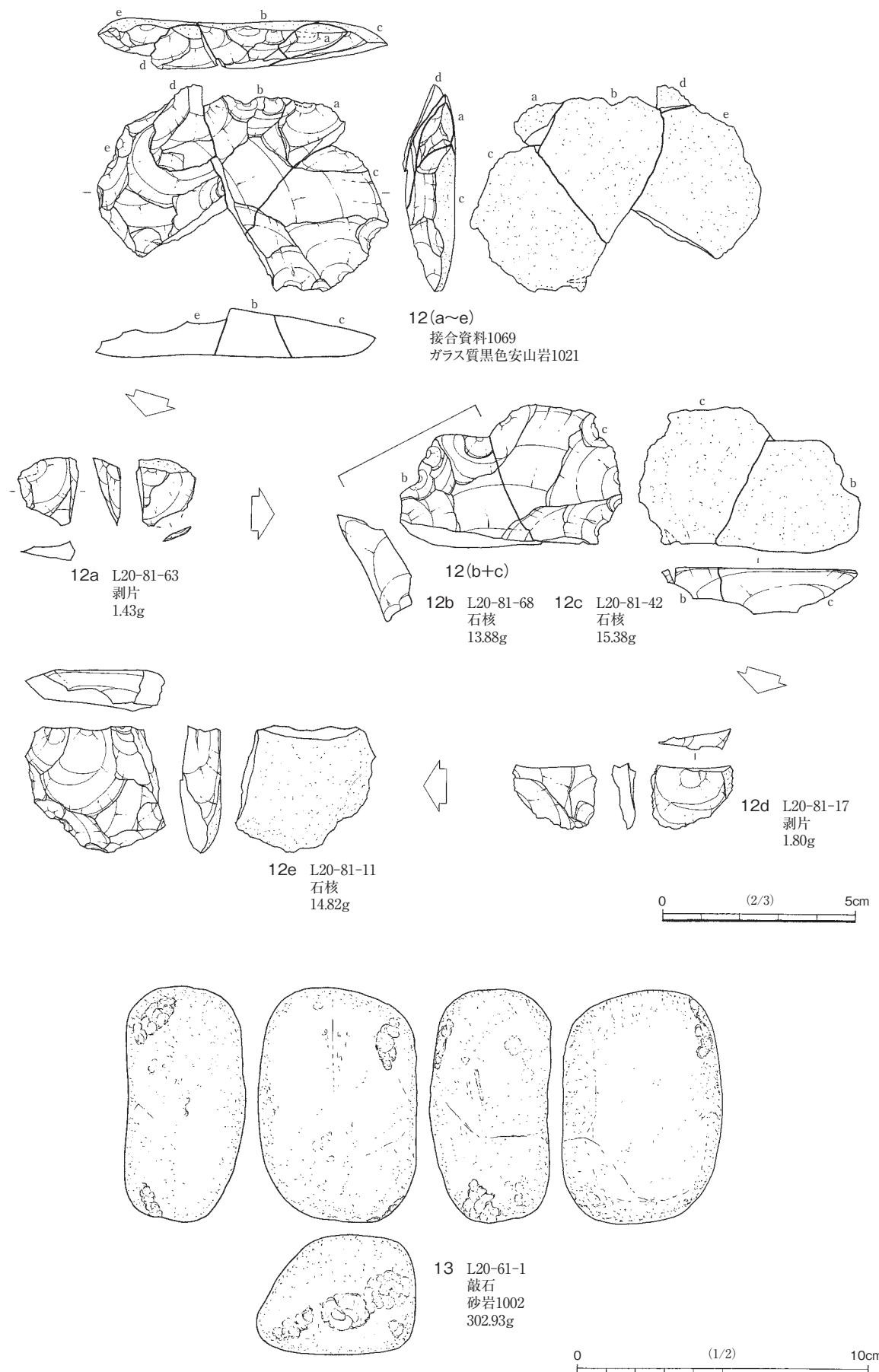
第3-55図 第1文化層第13ブロック出土石器(5)



第3-56図 第1文化層第13ブロック出土石器(6)



第3-57図 第1文化層第13ブロック出土石器(7)



第3-58図 第1文化層第13ブロック出土石器(8)

割している。1つ目の個体の12(a～c)は周縁部を打面とし、表面と裏面方向に12aを含む数枚の剥片を剥離している。石核である12(b+c)は、表面左上部からの剥離の際に12bと12cとに分割されている。2つ目の個体の12(d+e)は分割面を打面として12dを含む数枚の剥片を剥離している。12eは石核である。13は敲石である。厚みのある橢円形礫を素材とし、下端部・表面右上部・左面左上部に強い敲打痕がみられる。

5 第1文化層第14ブロック(第3-59～62図、第3-20表、図版8・14)

出土状況 調査区北西部のG19-22・32・42・43グリッドに分布している。北側に傾斜する斜面の縁辺に立地する。8.2m×3.9mの範囲から71点の石器が出土した。北部・南部の2か所の集中地点がみられる。どちらもやや散漫に分布している。X層からIV層にかけて出土しており、IXa層下部に集中する。

出土遺物 器種組成は二次加工のある剥片2点、剥片44点、碎片18点、石核2点、敲石1点の石器類67点と礫片4点で構成される。石器類の石材はチャート54点、珪質頁岩6点、頁岩5点、トロトロ石1点、砂岩1点で、礫片の石材はチャート4点である。

1は二次加工のある剥片である。横長剥片を素材とし、裏面左下部と右面中部に平坦な調整加工が施される。2～4は接合資料である。2(a～c)は厚みのある剥片を素材としている。剥離順序は、表面右部を打面とし裏面方向に横長剥片を剥離→裏面右部を打面とし表面方向に横長剥片を剥離した際に2aと2(b+c)とに分割される。さらに2(b+c)を素材として表面上部を打面とし裏面方向に横長剥片を剥離→裏面上部を打面とし表面方向に表面右部を打面とし裏面方向に横長剥片を剥離→表面上部を打面とし裏面方向に横長剥片を剥離→裏面上部を打面とし2bを含む数枚の横長剥片の剥離となる。2cは石核である。

3(a～d)は分割礫を素材としている。剥離順序は、裏面下部を打面として下面方向に3a・3bを剥離→裏面左部を打面とし、右面方向に3cの剥離となる。3dは石核である。4(a～c)は横長剥片を素材としている。剥片剥離時に打瘤部がはじけ飛んだものが4aである。4bは末端部が折られたものである。4cは右側縁上部に急角度の調整加工が施されている。5は敲石である。下端部に敲打痕がみられ、裏面には敲打によって剥離面が形成されている。器体の中央部から破損しているので全体形状は不明である。

6 第1文化層第15ブロック(第3-63～66図、第3-21表、図版8・15)

出土状況 調査区南東部西寄りのO24-85～87・95～97、O25-06グリッドに分布している。北側に傾斜する斜面の縁辺に立地する。ブロック間の接合資料は1個体(接1073)で、北側に約20m離れた第16ブロックと接合している。7点の接合資料であるが、1点のみが第15ブロックから出土している。8.2m×12.2mの範囲から35点の石器が出土した。南西部・北東部の2か所の集中地点がみられる。南西部が密集しており、北東部は散漫に分布している。IXc層からVII層にかけて出土しており、IXa層に集中する。

出土遺物 器種組成は楔形石器1点、二次加工のある剥片3点、微細剥離痕のある剥片4点、剥片21点、碎片5点、石核1点である。石材は珪質頁岩28点、硬質頁岩2点、玉髓2点、黒曜石1点、黑色頁岩1点、チャート1点である。

1は二次加工のある剥片である。表面左下部に稜上調整加工が行われたことを示す剥離がみられる。頭部調整が行われ、左側縁上部に急角度の調整加工が施されている。2は剥片である。頭部付近が最大幅で、末端部が細い形状をしている。3は二次加工のある剥片である。幅広の剥片を素材として左側縁下部に急角度の調整加工が施され、右側縁は折断されている。4(a+b)は頭部調整が入念に行われた縦長剥片を素材としている。左側縁上部と下端部に微細剥離がみられ、折れた末端部が接合している。

5は石核である。橢円形礫を素材として右面上部を打面として上面方向に幅広の剥片を剥離した後に、

第3-20表 第1文化層第14ブロック組成表

母岩	器種	母岩番号	二次加工のある剥片	剥片	碎片	石核	敲石	礫片	点数合計	点数比(%)	重量合計(g)	重量比(%)
トロトロ石		1004		1					1	1.41	29.25	9.89
頁岩		1001		4	1				5	7.04	6.81	2.30
珪質頁岩		1001		2	3	1			6	8.45	13.94	4.72
チヤート		1021		17	13				30	42.25	30.49	10.31
		1022		13		1			14	19.72	27.53	9.31
		1023	2	5	1				8	11.27	11.97	4.05
		1024		1					1	1.41	0.47	0.16
		1025		1					1	1.41	2.53	0.86
		1999						4	4	5.63	108.25	36.62
チヤート合計			2	37	14	1		4	58	81.69	181.24	61.31
砂岩		1001					1		1	1.41	64.39	21.78
全体点数合計			2	44	18	2	1	4	71	100.00	295.63	100.00

第3-21表 第1文化層第15ブロック組成表

母岩	器種	母岩番号	楔形石器	二次加工のある剥片	微細剥離痕のある剥片	剥片	碎片	石核	点数合計	点数比(%)	重量合計(g)	重量比(%)
黒曜石		1010		1					1	2.86	0.65	0.15
珪質頁岩		1019		1					1	2.86	9.72	2.23
		1020				1			1	2.86	0.26	0.06
		1021		1					1	2.86	20.97	4.81
		1022				1			1	2.86	12.07	2.77
		1023			2	16	5		23	65.71	30.34	6.96
		1024				1			1	2.86	28.62	6.56
珪質頁岩	合計			2	2	19	5		28	80.00	101.98	23.38
硬質頁岩		1009				1			1	2.86	11.64	2.67
		1012						1	1	2.86	263.71	60.47
硬質頁岩	合計					1		1	2	5.71	275.35	63.14
黒色頁岩		1011				1			1	2.86	34.61	7.94
玉髓		1015			2				2	5.71	20.94	4.80
チヤート		1032	1						1	2.86	2.57	0.59
全体点数合計			1	3	4	21	5	1	35	100.00	436.10	100.00

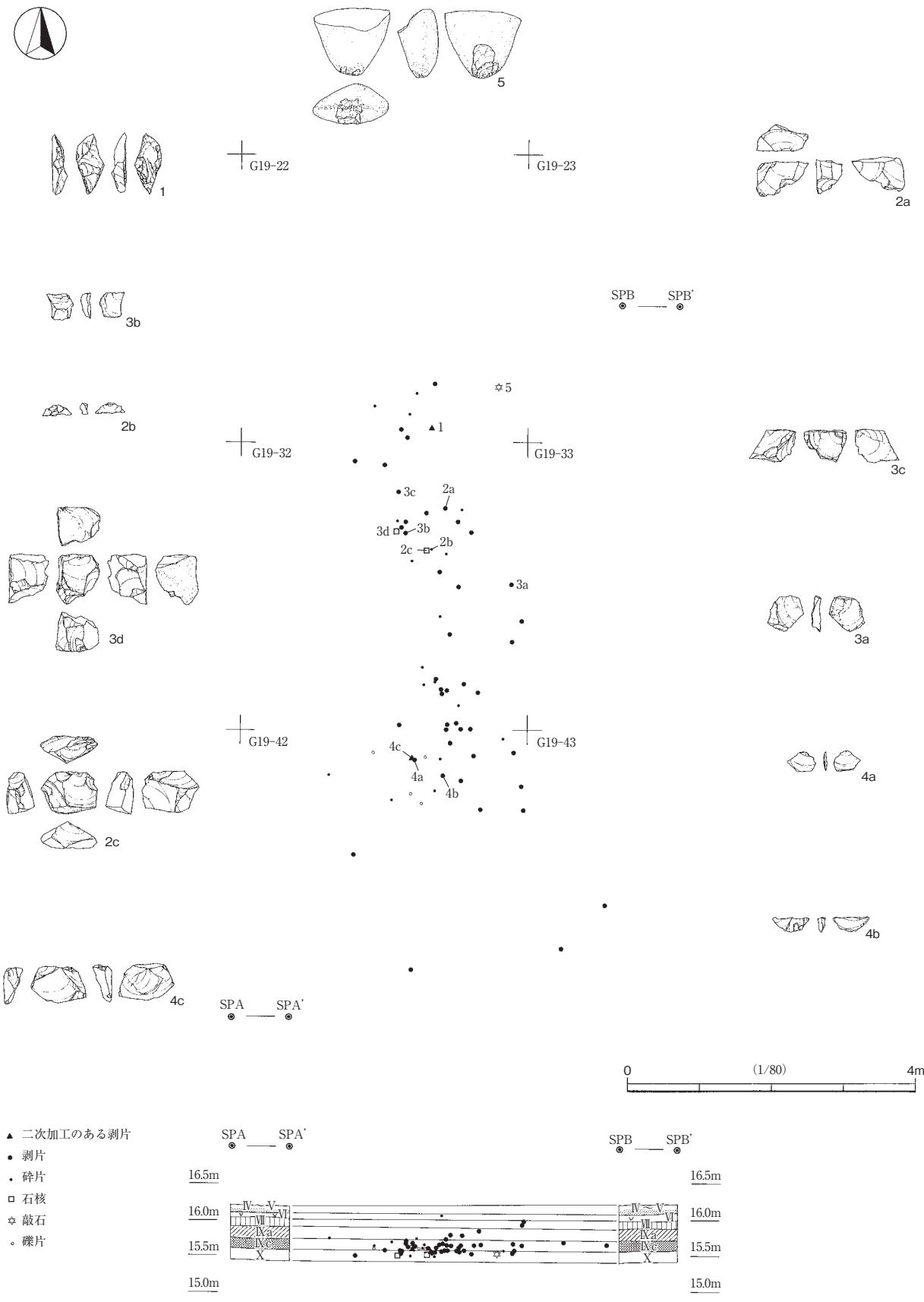
上面を打面として表面方向に縦長剥片を剥離している。広く自然面が残されており、石核から剥片はそれほど剥離されていない。単独の母岩で持ち込まれており、石材が枯渇した時に備えた可能性が高い。

6・7は接合資料である。どちらも珪質頁岩1023が用いられている。6(a～g)は両設打面の石核から縦長剥片が量産されたことを示す接合資料である。上面を打面として6a～6fを剥離した後に、下面を打面として6gを剥離している。7(a+b)も同様に両設打面の石核から縦長剥片が剥離されたことを示す接合資料である。上面を打面として7aを剥離した後に、下面を打面として7bが剥離されている。

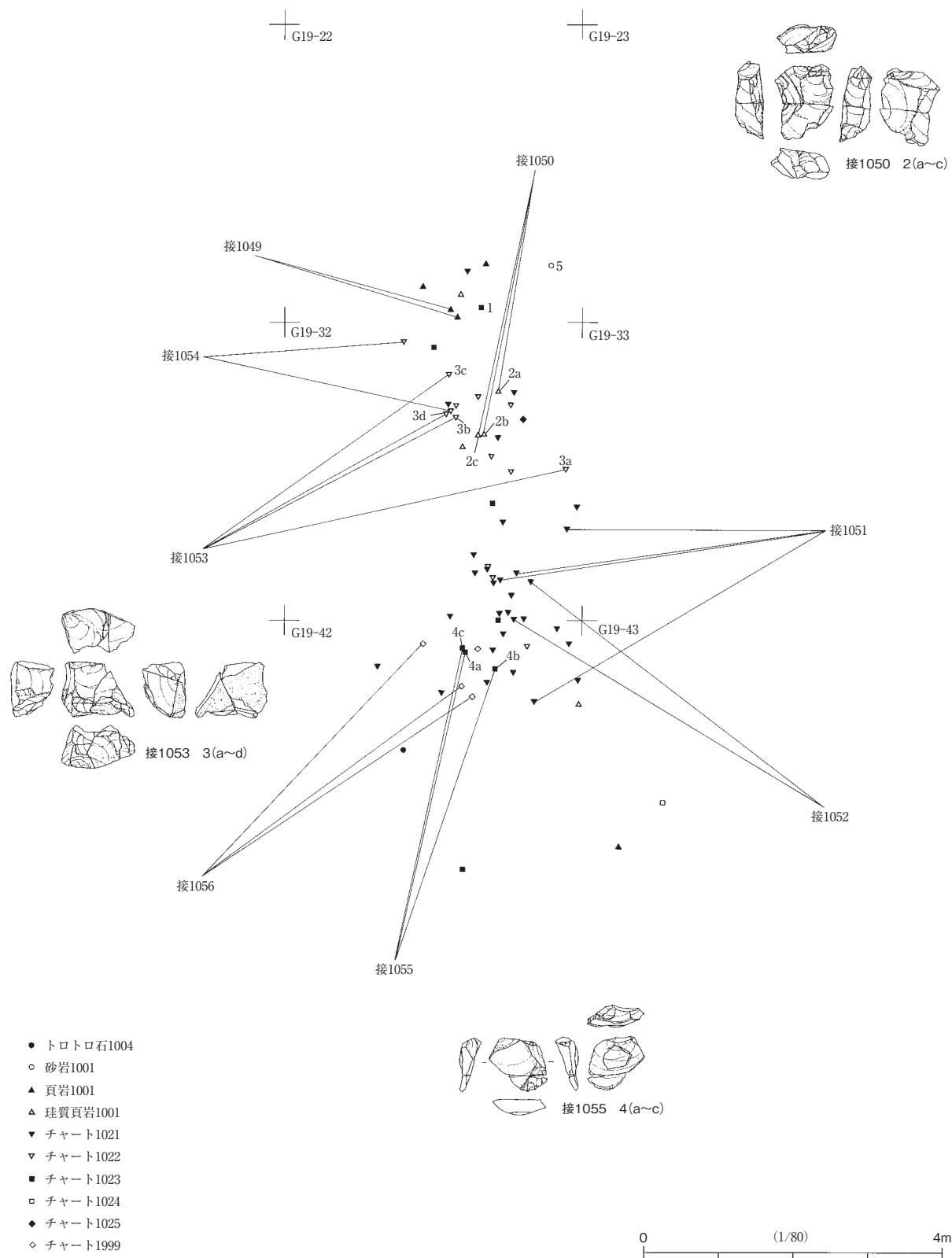
7 第1文化層第16ブロック(第3-67・68図、第3-22表、図版8・15)

出土状況 調査区南東部西寄りのO24-26・27・36・37・47グリッドに分布している。北側に傾斜する斜面の縁辺に立地する。ブロック間の接合資料は、第15ブロックと接合したものが1個体(接1073)検出された。6.3m×6.6mの範囲から36点の石器が出土した。北西部・北東部・南部の3か所の集中地点がみられる。北西部は密集しており、北東部・南部は散漫に分布している。IX層からV層にかけて出土しており、IX層上部に集中する。

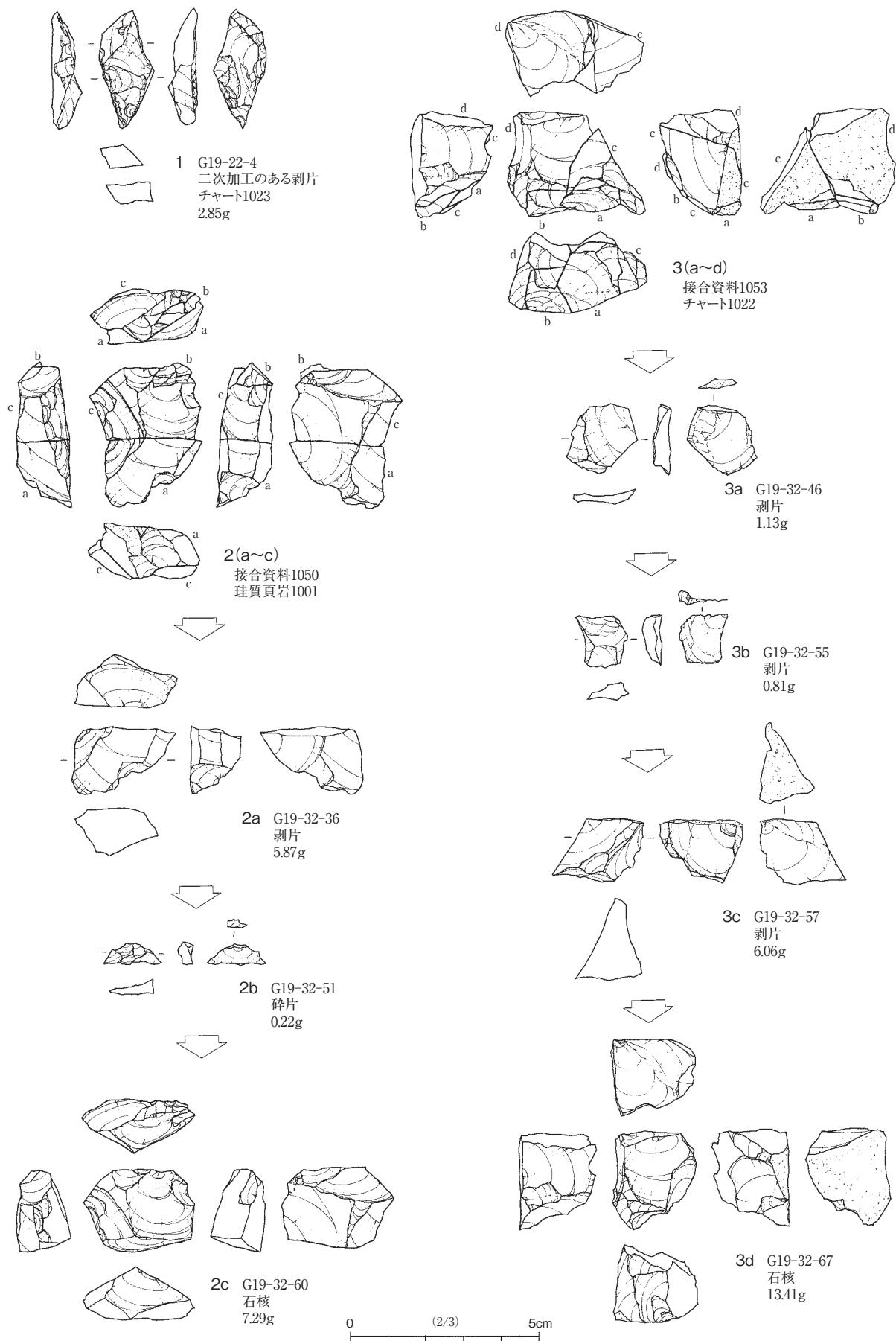
出土遺物 器種組成はナイフ形石器2点、楔形石器1点、二次加工のある剥片9点、微細剥離痕のある剥片5点、剥片17点、碎片1点、石核1点である。石材はガラス質黒色安山岩11点、硬質頁岩10点、黒曜石9点、珪質頁岩2点、黑色頁岩2点、トロトロ石1点、流紋岩1点である。



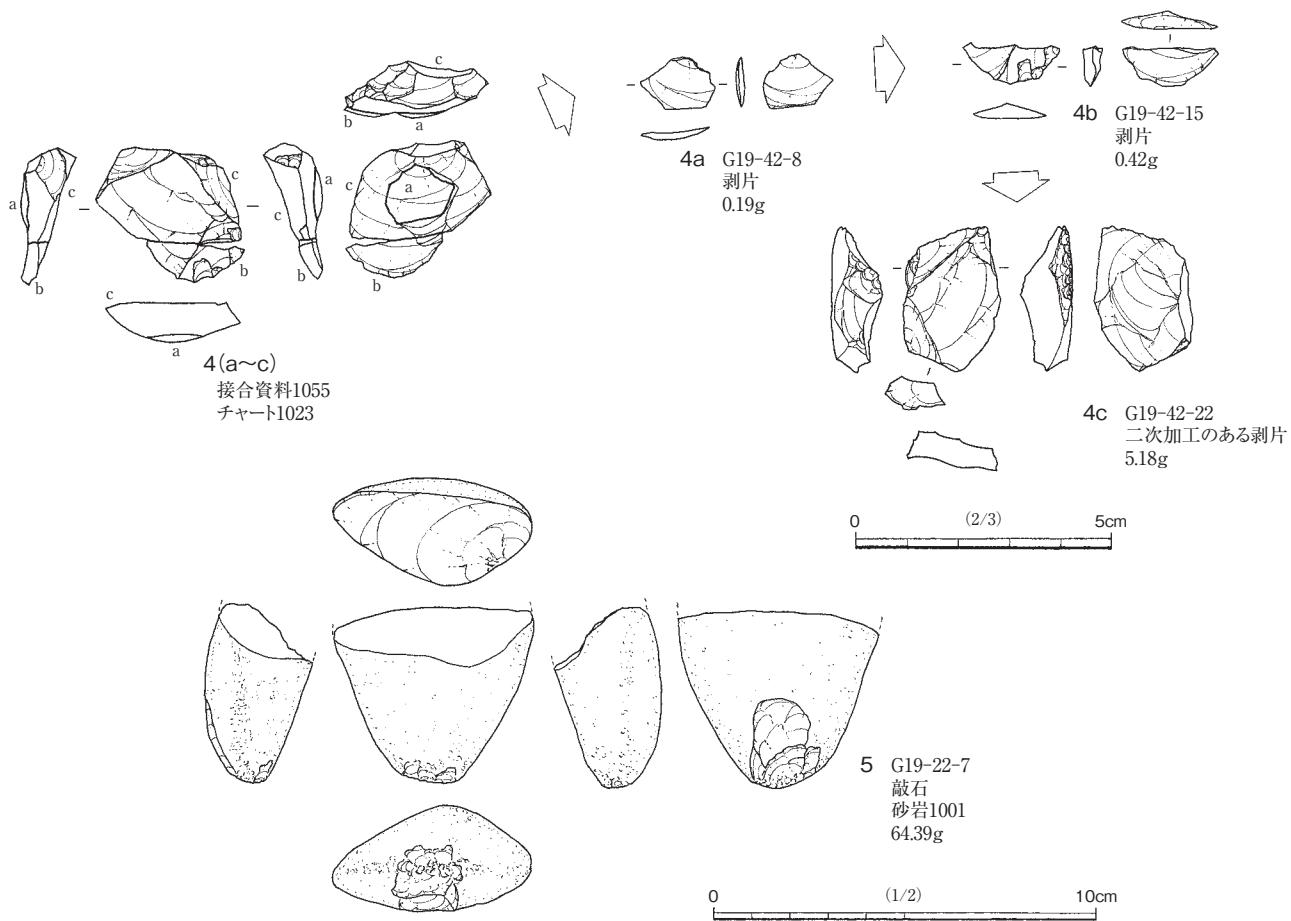
第3-59図 第1文化層第14ブロック器種別分布



第3-60図 第1文化層第14ブロック母岩別分布

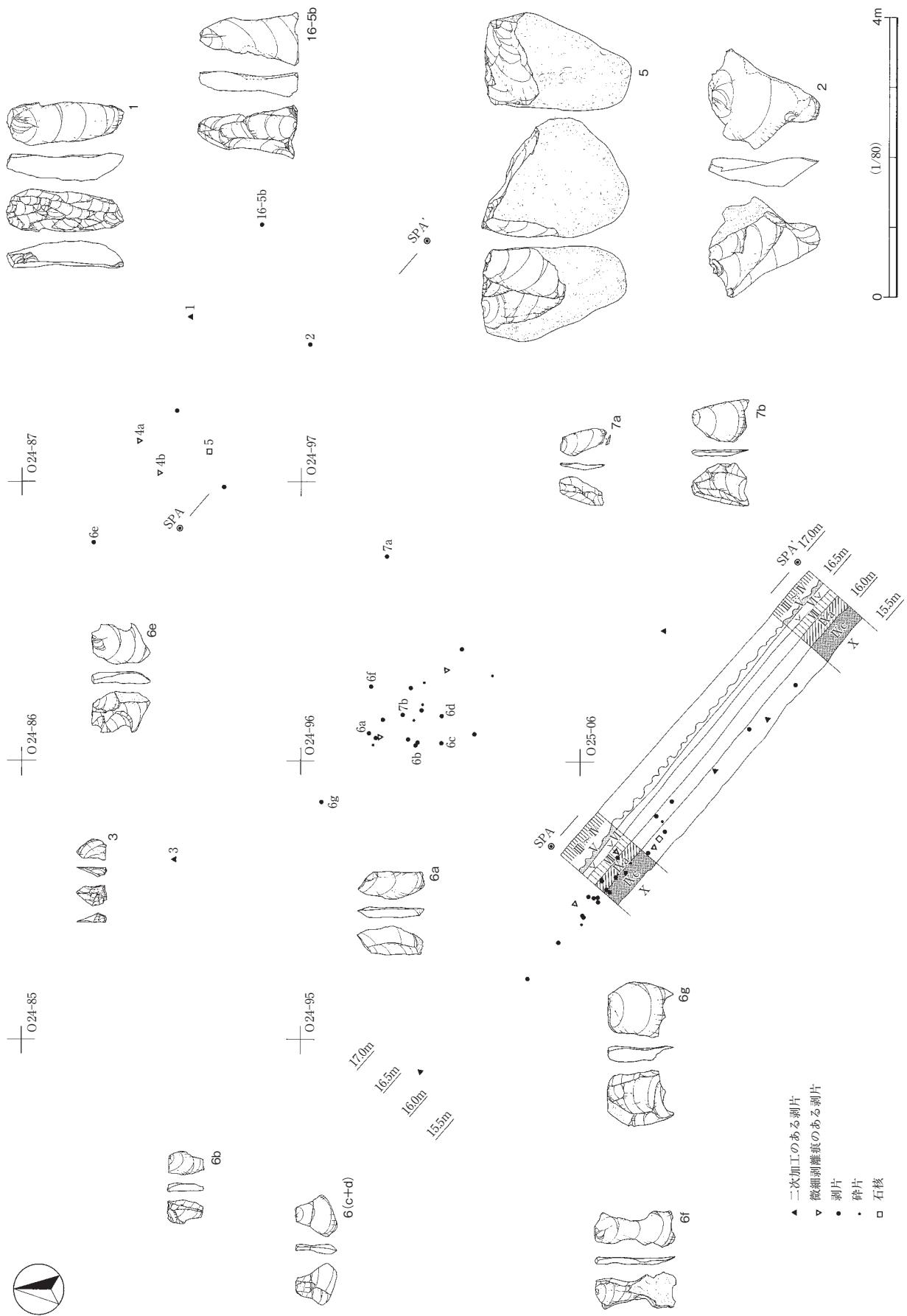


第3-61図 第1文化層第14ブロック出土石器(1)

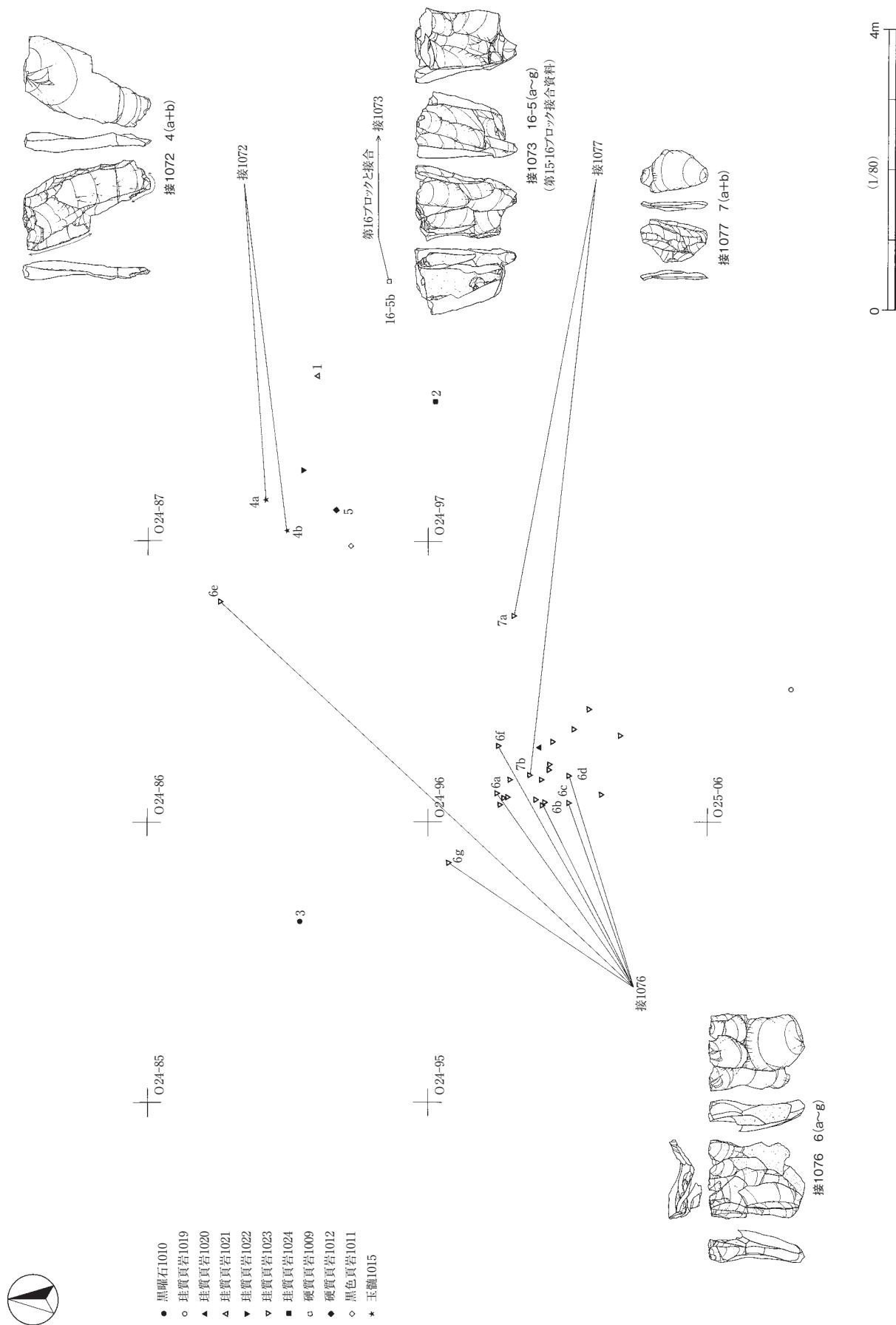


第3-62図 第1文化層第14ブロック出土石器(2)

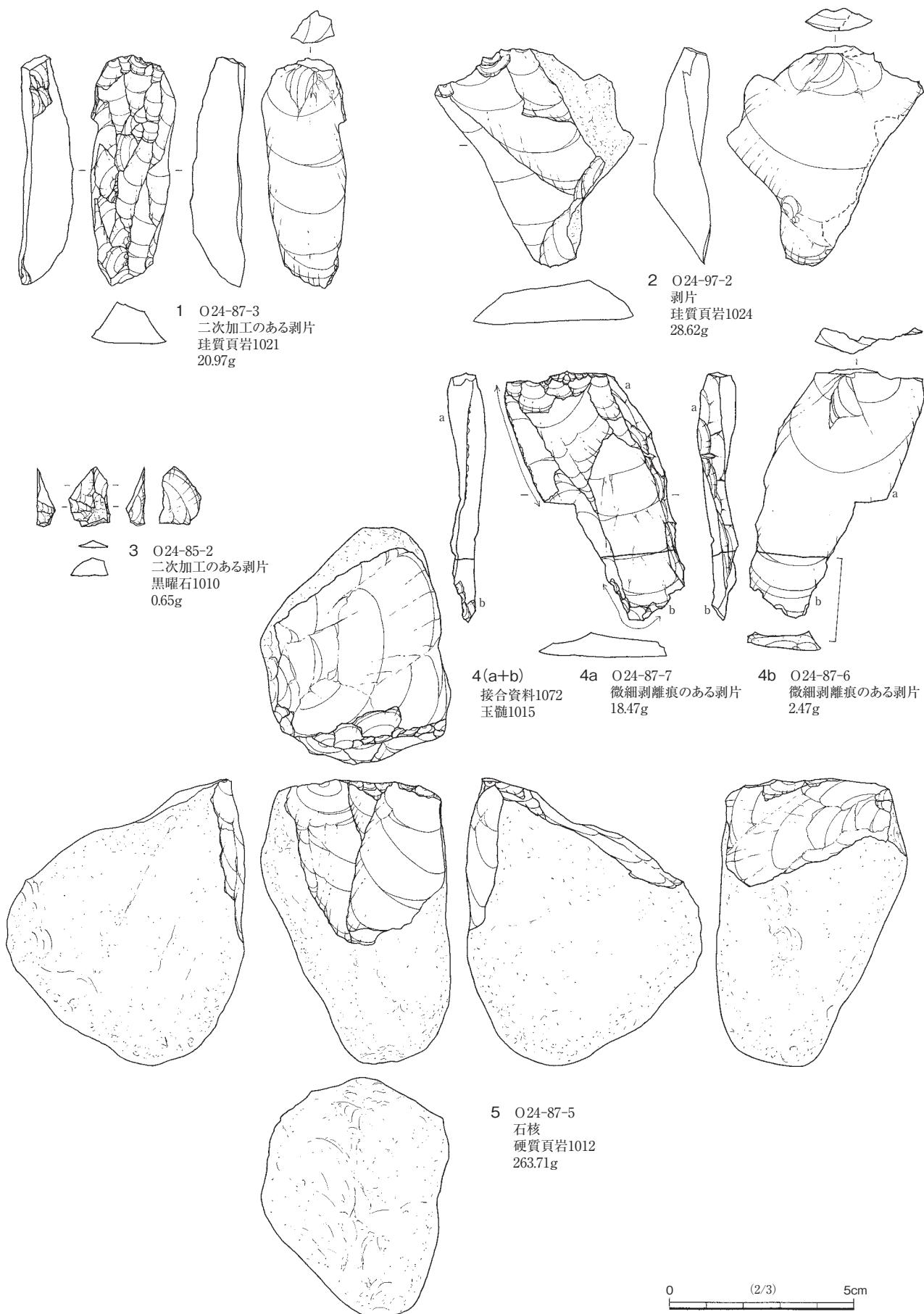
1・2はナイフ形石器である。1は縦長剥片を縦位に用い、右側縁と左側縁下部に急角度の調整加工が施される。下部は破損している。2は横長剥片を横位に用い右側縁下部と左側縁中部は裏面側から急角度の調整加工が施され、裏面左上部と右側縁下部は平坦な調整加工が施される。素材の鋭利な縁辺は表面左上部にわずかに残される。3は楔形石器である。厚みのある剥片を素材とし上下両端から両極剥離が行われている。4は二次加工のある剥片である。縦長剥片を素材とし右側縁に細かい調整加工が施されている。5(a~g)は第15・16ブロック間の接合資料である。5bのみが第15ブロックから出土している。両設打面の石核から石刃と識別可能な縦長剥片を量産していることを示す接合資料である。縦長剥片を数枚剥離する度に、打面整形を入念に行い石核の形状を整えながら剥離が行われていることが観察でき、7つの剥離工程がみられる。第1工程は、上面右部を打面とし下面方向に5aを剥離している。5aは頭部調整と打面調整が顕著に行われている。第2工程は、5aを剥離後に上面の打面を再生する工程である。上面の周縁部から平坦な剥離が入念に施され、水平な打面が形成される。第3工程は、下面上部を打面とし上面方向に5bが剥離されている。5bの末端部は石核の上面を取り込んでいる。第4工程は、上面に打面を転移して5c・5dを含む数枚の縦長剥片を剥離している。第5工程は上面の打面を調整する工程で、5bの剥離面を打面とし5eが剥離されている。第6工程は下面の打面を再生する工程で、5bの剥離面を打面として下面方向に5fを含む数枚の剥片が剥離される。第7工程は、下面を打面とし表面下部方向に数枚の剥片が剥離されている。石核である5gは上下両面に入念に打面調整が行われたことが観察できる。



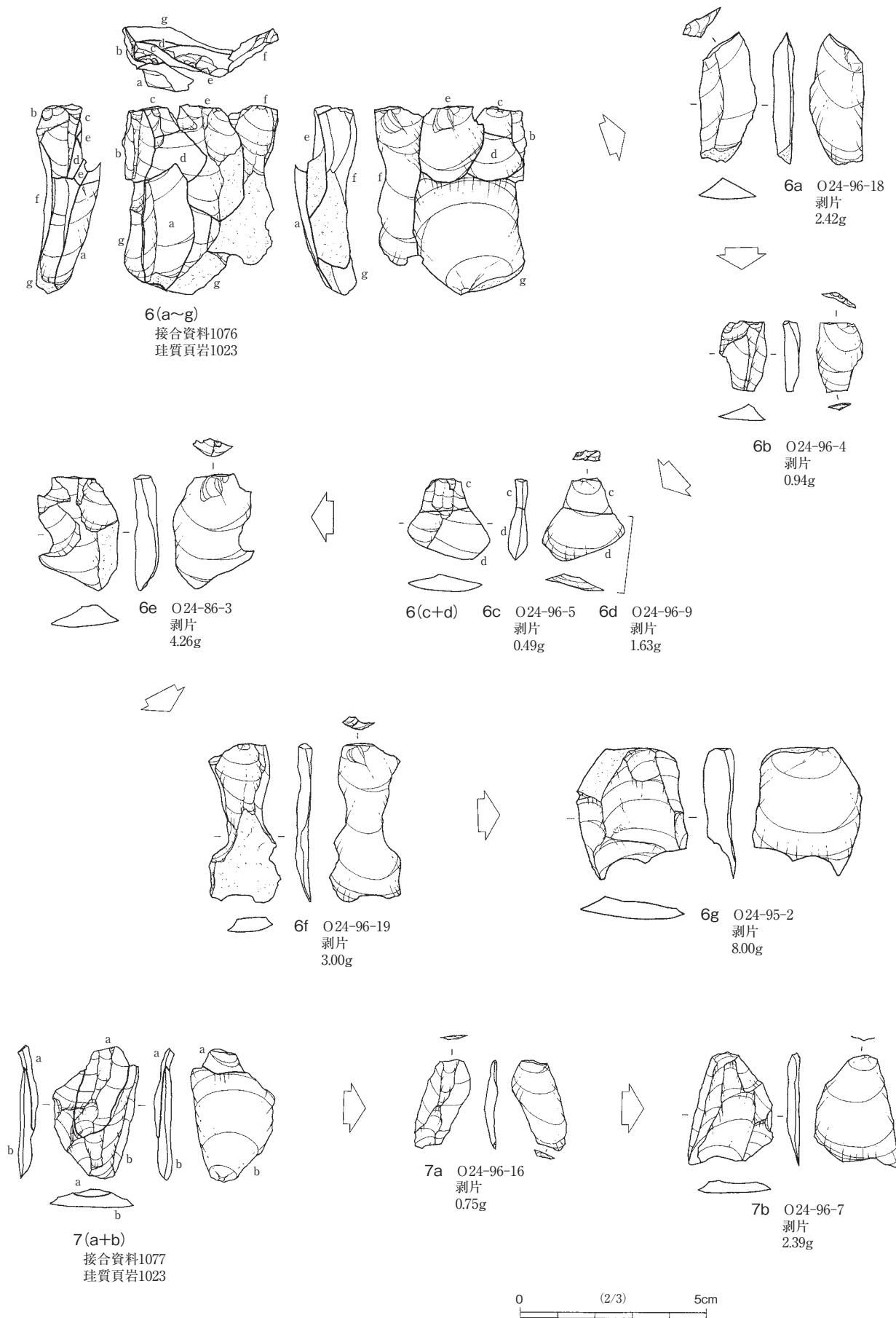
第3-63図 第1文化層第15ブロック器種別分布



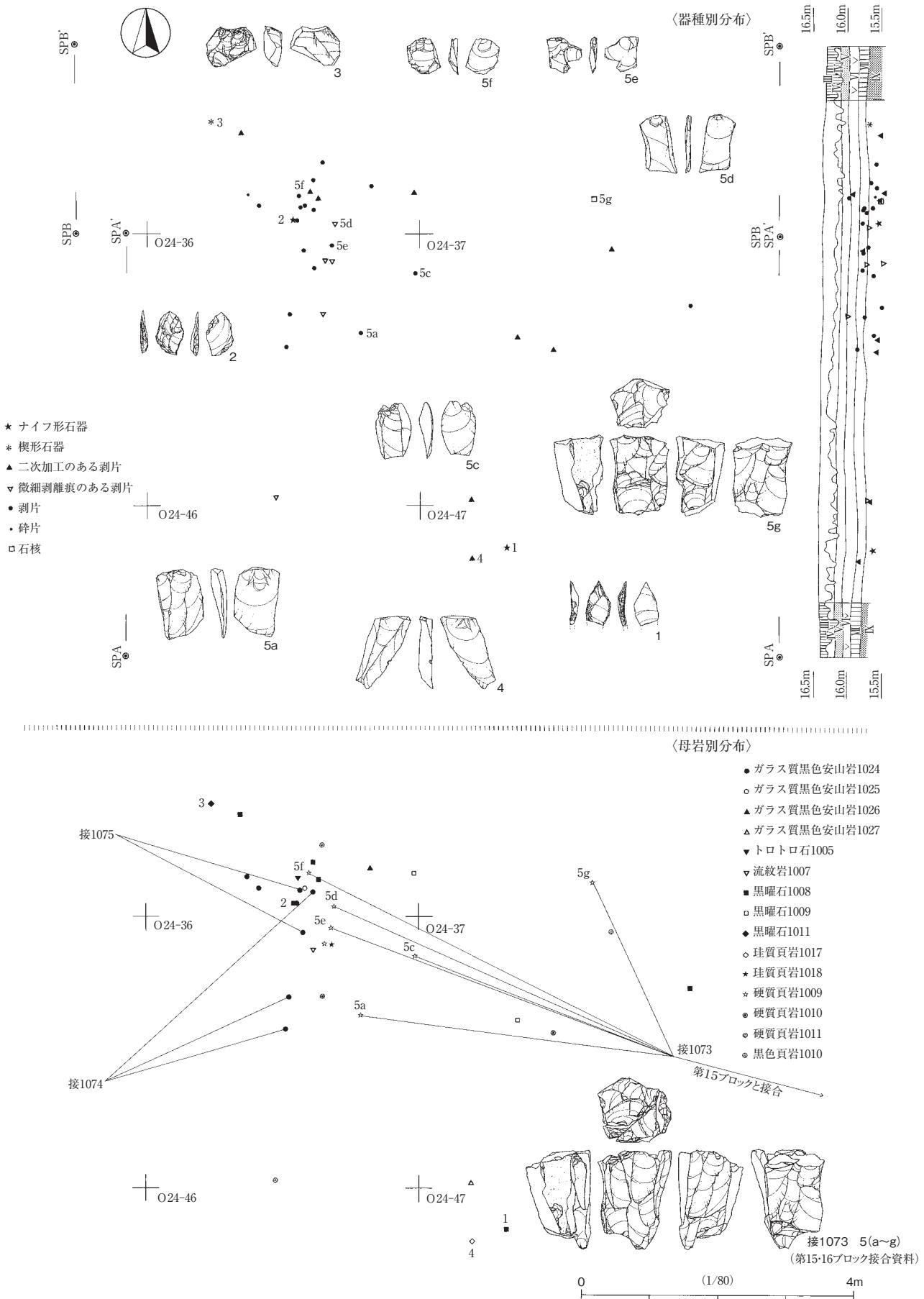
第3-64図 第1文化層第15ブロック母岩別分布



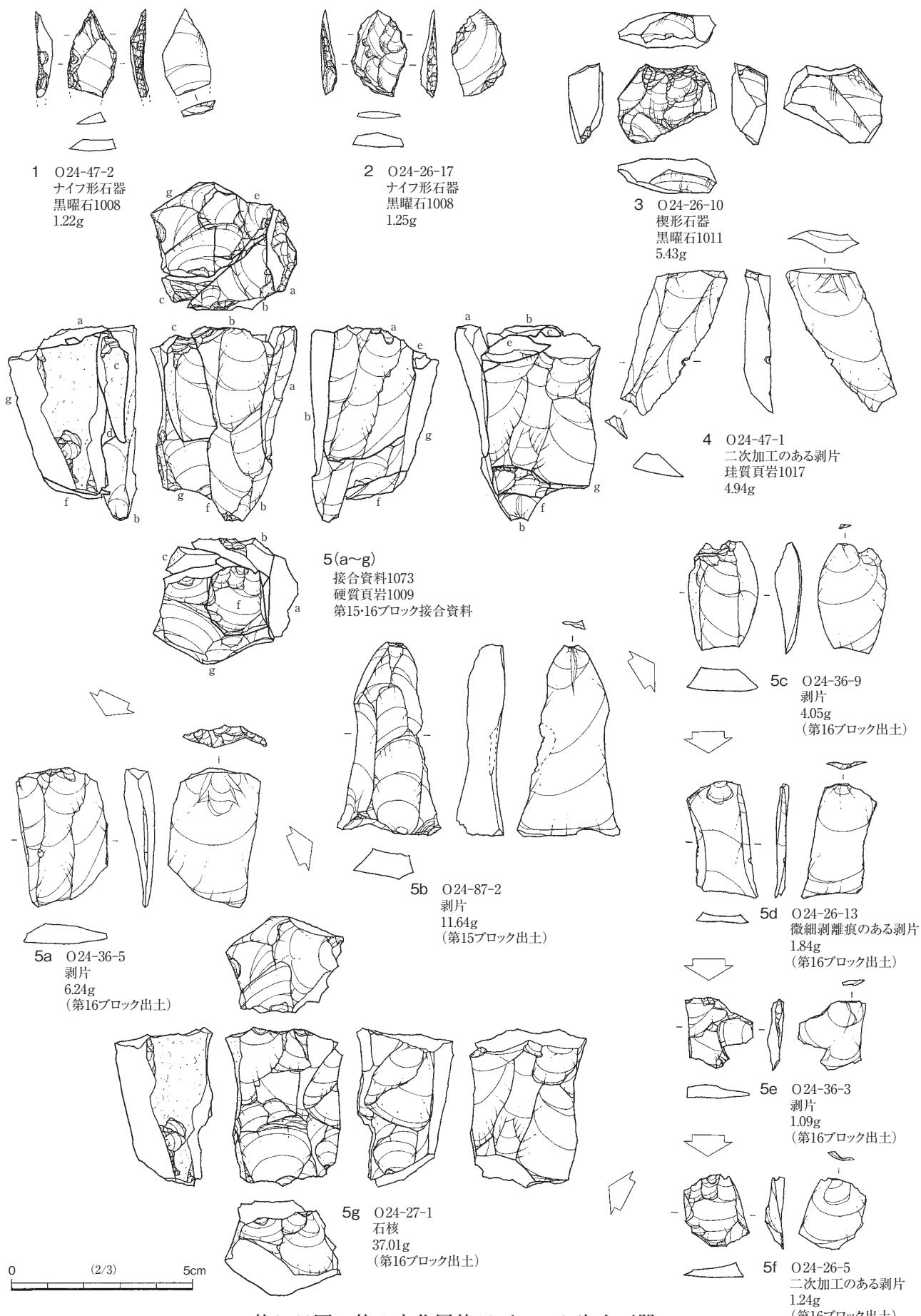
第3-65図 第1文化層第15ブロック出土石器(1)



第3-66図 第1文化層第15ブロック出土石器(2)



第3-67図 第1文化層第16ブロック遺物分布



第3-68図 第1文化層第16ブロック出土石器

第3-22表 第1文化層第16ブロック組成表

母岩	器種	母岩番号	ナイフ形石器	楔形石器	二次加工のある剥片	微細剥離痕のある剥片	剥片	碎片	石核	点数合計	点数比(%)	重量合計(g)	重量比(%)
黒曜石	1008	2			2		2			6	16.67	5.99	1.98
	1009				2					2	5.56	5.12	1.69
	1011			1						1	2.78	5.43	1.79
黒曜石	合計		2	1	4		2			9	25.00	16.54	5.46
ガラス質黒色安山岩	1024					7	1			8	22.22	145.01	47.83
	1025					1				1	2.78	1.09	0.36
	1026					1				1	2.78	26.22	8.65
	1027			1						1	2.78	1.24	0.41
ガラス質黒色安山岩	合計				1		9	1		11	30.56	173.56	57.25
トロトロ石	1005					1				1	2.78	3.01	0.99
珪質頁岩	1017			1						1	2.78	4.94	1.63
	1018				1					1	2.78	1.51	0.50
珪質頁岩	合計				1	1				2	5.56	6.45	2.13
硬質頁岩	1009			1	2	3			1	7	19.44	52.90	17.45
	1010			1	1					2	5.56	6.91	2.28
	1011			1						1	2.78	3.43	1.13
硬質頁岩	合計				3	3	3		1	10	27.78	63.24	20.86
黒色頁岩	1010				1	1				2	5.56	36.48	12.03
流紋岩	1007						1			1	2.78	3.88	1.28
全體点数合計			2	1	9	5	17	1	1	36	100.00	303.16	100.00

第3節 第2文化層

1 概要(第3-69図、第3-23・24表)

第2文化層の石器群は総計145点出土し、第17～21ブロックの5か所の集中地点で構成される。VII層下部に生活面を持つ石器群と推定される。調査区北半部に位置し、標高16.5m～17.5m(現地表面)に分布しており、北側に開口する谷津の南西側斜面の縁辺部に立地している。ブロック間の接合資料は1個体(接2007)で、約57m離れた第19ブロックと第20ブロックとが接合した。第2文化層の器種石材組成とブロック別組成は、第3-23・24表のとおりである。

器種組成はナイフ形石器4点、楔形石器4点、彫器2点、有撃石刃1点、二次加工のある剥片3点、微細剥離痕のある剥片6点、削片10点、剥片89点、碎片10点、磨石2点、敲石10点の石器類141点と礫4点である。ナイフ形石器・彫器・有撃石刃・削片・磨石・敲石が本文化層を特徴づける器種である。

石器類の石材は硬質頁岩52点、ホルンフェルス27点、玉髓14点、黒曜石12点、ガラス質黒色安山岩10点、砂岩7点、珪質頁岩6点、流紋岩5点、チャート3点、結晶片岩2点、安山岩1点、頁岩1点、黒色頁岩1点である。硬質頁岩・ホルンフェルスを主体とする。礫・礫片の石材はチャート2点、砂岩1点、流紋岩1点である。

2 第2文化層第17ブロック(第3-70・71図、第3-25表、図版8・15)

出土状況 調査区中央部北寄りのK22-44・54グリッドに分布している。北東に傾斜する斜面の縁辺に立地する。2.9m×2.2mの範囲から7点の石器が出土したが、散漫な分布状況を示している。IX層からVII層にかけて出土し、VII層下部に集中する。

出土遺物 器種組成は有撃石刃1点、二次加工のある剥片1点、微細剥離痕のある剥片1点、剥片4点で、石材はホルンフェルス3点、ガラス質黒色安山岩2点、硬質頁岩1点、黒色頁岩1点である。

1は有撃石刃であり、単独母岩で持ち込まれている。大型の石刃を素材として素材の打面部付近を表面側から折断した後に、上面の折断面右部を打面とし右面方向に2回の撃状剥離が行われている。1回目の撃状剥離は末端部まで達しており、非常に細長い削片が剥離されたものと思われる。大型石刃の素材の打



1 二次加工のある剥片
チャート2001

第21ブロック

+I18

+J18

+K18

+L18

16.5

+I19

第20ブロック

+J19

+K19

+L19

15.5

敲石

砂岩2004

削片

硬質頁岩2009

+I20

敲石
流紋岩2001

削片

硬質頁岩2003

6

削片

硬質頁岩2009

11

削片

硬質頁岩2010

22

敲石

砂岩2004

21

敲石

流紋岩2001

+I21

敲石

砂岩2003

23

第19ブロック

+J20

+K20

+L20

15.5

敲石

砂岩2004

削片

硬質頁岩2010

11

削片

硬質頁岩2010

4

彫器

硬質頁岩2008

10

削片

硬質頁岩2006

18

敲石

流紋岩2002

1

ナイフ形石器

黒曜石2001

2

ナイフ形石器

硬質頁岩2003

9

削片

硬質頁岩2010

8

削片

硬質頁岩2006

5

彫器

硬質頁岩2009

21

楔形石器

硬質頁岩2007

15

楔形石器

硬質頁岩2007

22

- 剥片類
- 磕・礫片

敲石

砂岩2003

23

敲石

砂岩2003

- 剥片類
- 磕・礫片

+I22

+J22

+K22

+L22

17.5

二次加工のある剥片

ホルンフェルズ2001

2

二次加工のある剥片

ホルンフェルズ2001

1

有機能石刃

硬質頁岩2001

149

+J23

+K23

+L23

17.5

二次加工のある剥片

ホルンフェルズ2001

1

有機能石刃

硬質頁岩2001

149

+J23

+K23

+L23

18.0

第3-69図 第2文化層遺物分布及びブロック配置

0 (1/850) 40m

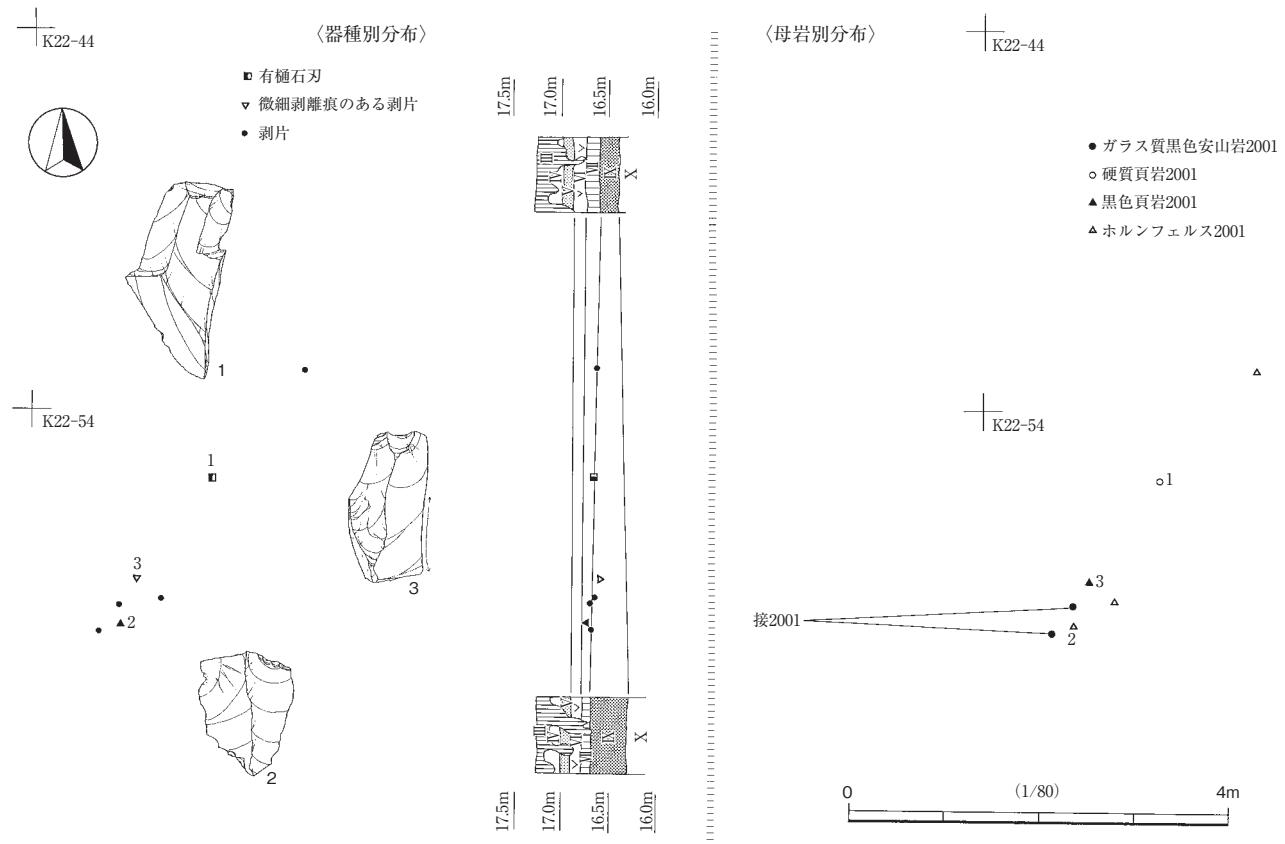
第3-23表 第2文化層器種石材組成表

石 材 器 種	ナ イ フ 形 石 器	楔 形 石 器	彫 器	有 槌 石 刃	二 次 加 工 の あ る 剥 片	微 細 剥 離 痕 の あ る 剥 片	削 片	剥 片	碎 片	磨 石	敲 石	礫	点 数 合 計
黒曜石	1					2		8	1				12
ガラス質黒色安山岩								10					10
安山岩										1			1
頁岩								1					1
珪質頁岩		1						5					6
硬質頁岩	3	2	2	1		3	10	27	4				52
黒色頁岩						1							1
玉髓		1			1			9	3				14
結晶片岩										2			2
ホルンフェルス						1		24	2				27
チヤート						1		2				2	5
砂岩											7	1	8
流紋岩								3			2	1	6
全體点数合計	4	4	2	1	3	6	10	89	10	2	10	4	145

第3-24表 第2文化層ブロック別組成表

ブ ロ ッ ク	石 材	ナ イ フ 形 石 器	楔 形 石 器	彫 器	有 槌 石 刃	二 次 加 工 の あ る 剥 片	微 細 剥 離 痕 の あ る 剥 片	削 片	剥 片	碎 片	磨 石	敲 石	礫	点 数 合 計
17	ガラス質黒色安山岩								2					2
	硬質頁岩				1									1
	黒色頁岩					1								1
	ホルンフェルス					1			2					3
第17ブロック合計					1	1	1		4					7
18	黒曜石	1												1
	ガラス質黒色安山岩								5					5
	頁岩								1					1
	珪質頁岩	1							4					5
	玉髓	1			1				6	2				10
	ホルンフェルス								15	1				16
第18ブロック合計	1	2			1				31	3				38
19	黒曜石						2		6	1				9
	ガラス質黒色安山岩								2					2
	安山岩										1			1
	硬質頁岩	3	2	2			3	9	27	4				50
	玉髓								3	1				4
	結晶片岩										2			2
	ホルンフェルス								1					1
	チヤート											2	2	
	砂岩										4	1		5
	流紋岩								3			2	1	6
第19ブロック合計	3	2	2			5	9	42	6	2	7	4		82
20	黒曜石								2					2
	ガラス質黒色安山岩								1					1
	硬質頁岩								1					1
第20ブロック合計								1	3					4
21	珪質頁岩									1				1
	ホルンフェルス									6	1			7
	チヤート				1					2				3
	砂岩											3		3
第21ブロック合計					1				9	1			3	14
全體点数合計	4	4	2	1	3	6	10	89	10	2	10	4		145

面部から細長い規格的な削片を剥離することが困難であることから、打面部付近を折断している可能性が高い。このような特徴は下総型石刃再生技法を有する石器群に多くみられる。2は二次加工のある剥片である。打面幅が広い幅広の剥片を素材とし左側縁下部に平坦な調整加工が施されている。3は微細剥離痕のある剥片である。縦長剥片を素材とし右側縁に微細剥離がみられ、下端部は折れている。



第3-70図 第2文化層第17ブロック遺物分布

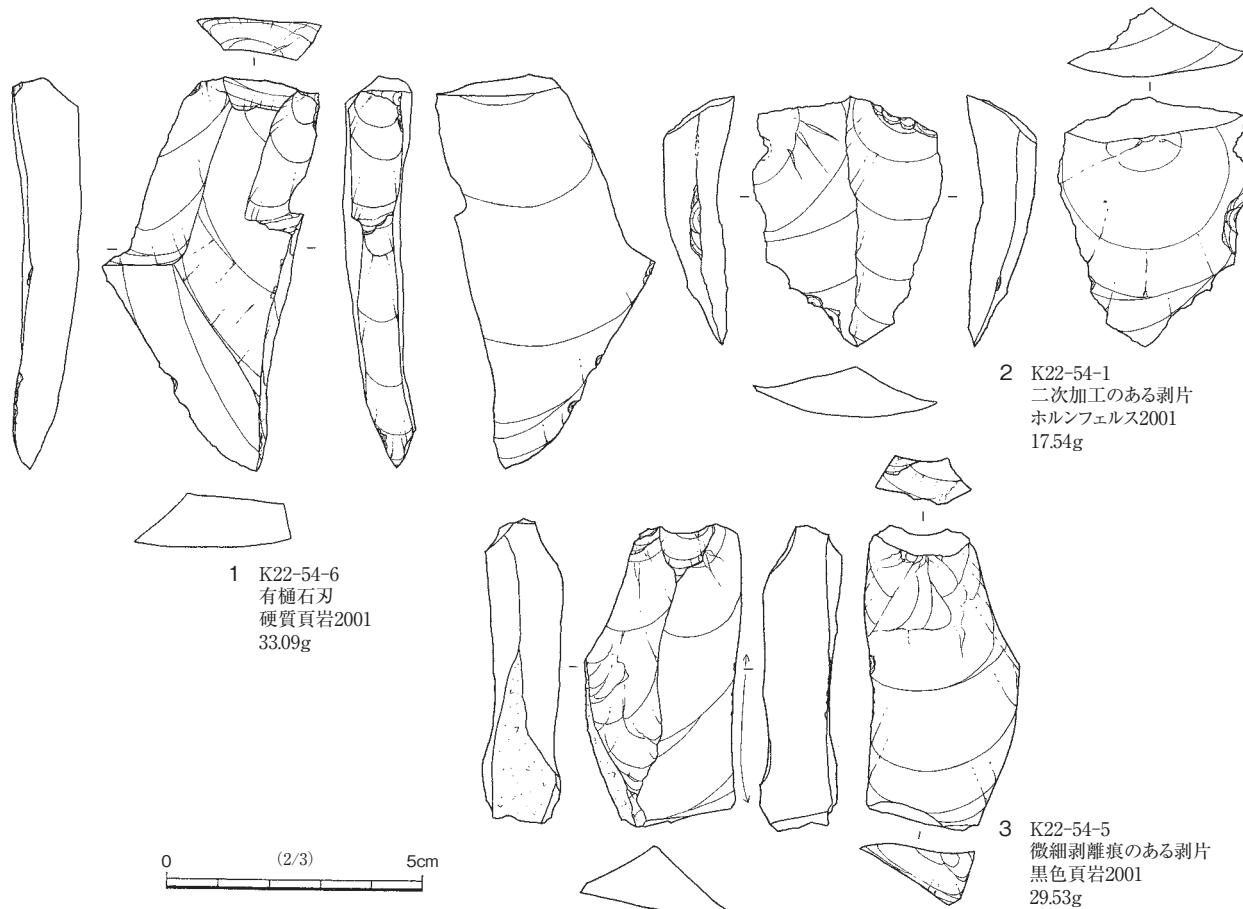
第3-25表 第2文化層第17ブロック組成表

母岩	器種	母岩番号	有撻石刃	二次加工のある剥片	微細剥離痕のある剥片	剥片	点数合計	点数比 (%)	重量合計 (g)	重量比 (%)
ガラス質黒色安山岩		2001				2	2	28.57	99.88	42.97
硬質頁岩		2001	1				1	14.29	33.09	14.24
黒色頁岩		2001			1		1	14.29	29.53	12.70
ホルンフェルス		2001		1		2	3	42.86	69.95	30.09
全 体	点 数 合 計		1	1	1	4	7	100.00	232.45	100.00

3 第2文化層第18ブロック(第3-72~74図、第3-26表、図版8・15)

出土状況 調査区中央部北寄りのK20-47・48・57・58グリッドに分布している。北東に傾斜する斜面の縁辺に立地する。2.6m×4.0mの範囲から38点の石器が出土した。南西部・北東部の2か所の集中地点がみられる。南東部が密集し、北東部が散漫に分布している。遺物分布状況をセクション図に投影できなかつたが、調査時の所見などからⅧ層下部に集中すると判断した。

出土遺物 器種組成はナイフ形石器1点、楔形石器2点、二次加工のある剥片1点、剥片31点、碎片3点である。石材はホルンフェルス16点、玉髓10点、ガラス質黒色安山岩5点、珪質頁岩5点、黒曜石1点、



第3-71図 第2文化層第17ブロック出土石器

頁岩1点である。

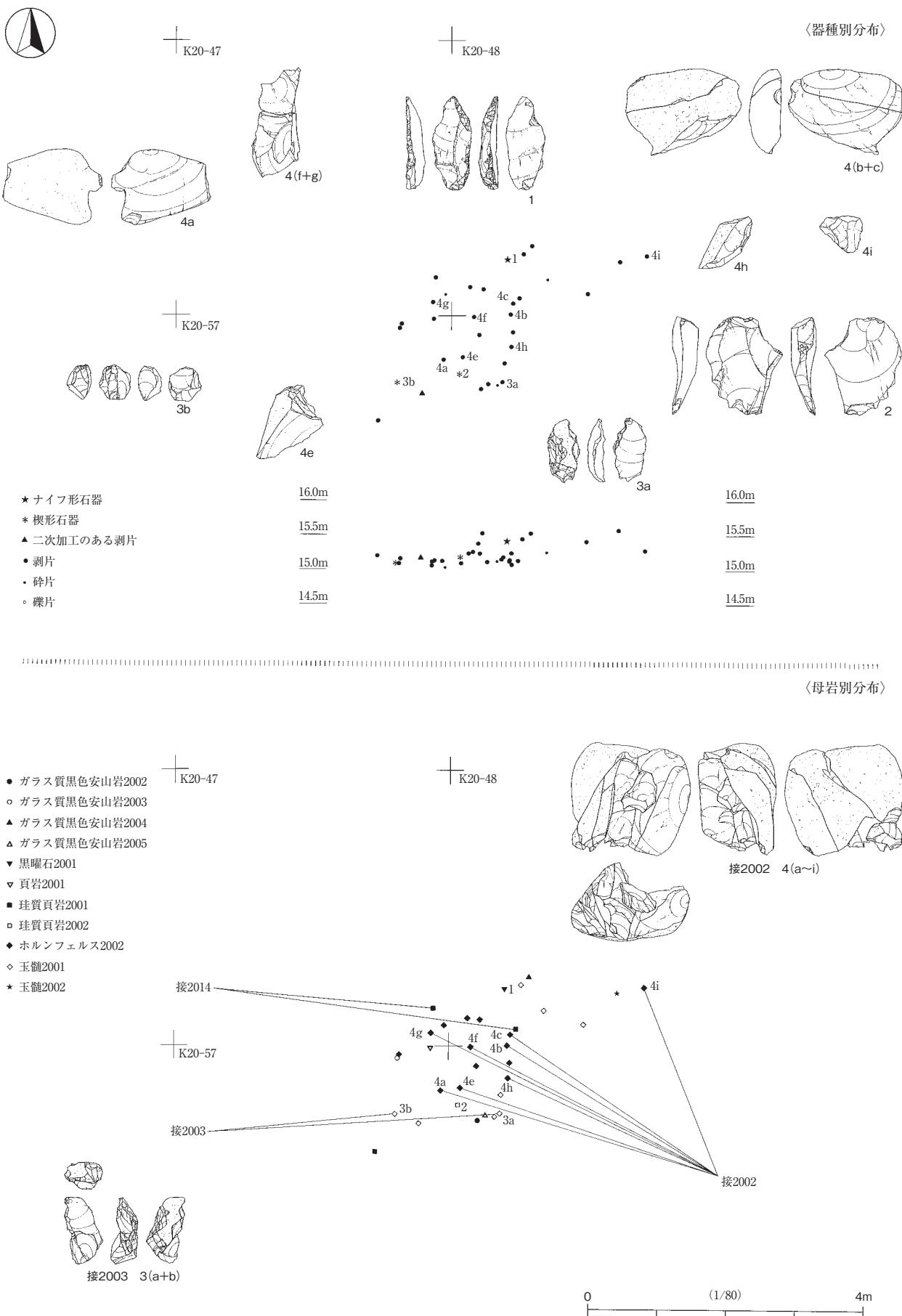
1はナイフ形石器である。縦長剥片を素材とし打面部側を先端に設置している。右側縁には、中部を打面とし折断に近い形で平坦な大きな剥離を行った後、上・下半部に急角度の調整加工が入念に施される。左側縁は、上部に表面側から抉り状の調整加工が、下半部に急角度の調整加工が施されている。裏面には、右下部と右上部に平坦な調整加工が施される。表面左上部に鋭利な縁辺がわずかに残されている。

2は楔形石器であり、単独母岩で搬入されている。幅広の剥片を素材とし、上下両端から両極剥離が行われている。両極剥離によって、右側縁に上下両端から細長い削片状の剥離面が形成されている。3(a+b)は上下両端から両極剥離によって削片状の剥片3aが剥離されている。3aが剥離された後にも続けて両極剥離が行われ小型の楔形石器3bが作出されている。下総型石刃再生技法においては、大型石刃が変形して小型になると両極剥離によって削片を剥離するものが多くみられることから、2と3(a+b)もこのような技法によるものと思われる。究極的な母岩消費過程がうかがえる資料といえよう。

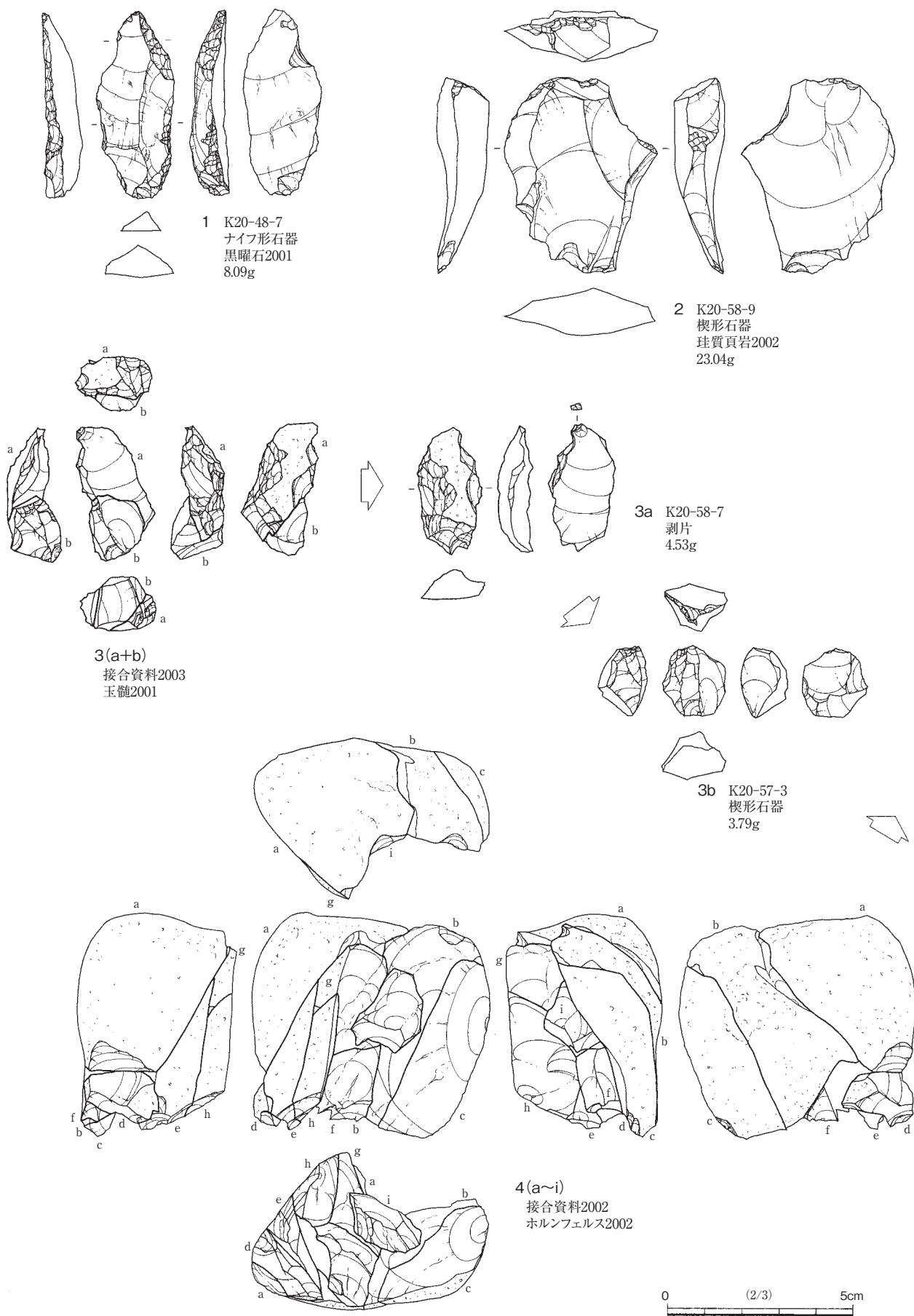
4(a-i)は楕円形礫を素材としている。剥離順序は、裏面中央部を打面として4aを剥離→裏面左部を打面として表面方向に横長剥片4(b+c)を剥離→下面左下部を打面として4d~4iの剥離となる。4iは打面が明確でなく下面方向からの剥離によるものであることから、下面下半部付近を打面として剥離した際に同時割れしたものと判断した。なお、4(b+c)と4(f+g)も剥離時に同時割れしたものと思われる。

4 第2文化層第19ブロック(第3-75~79図、第3-27表、図版8・15・16)

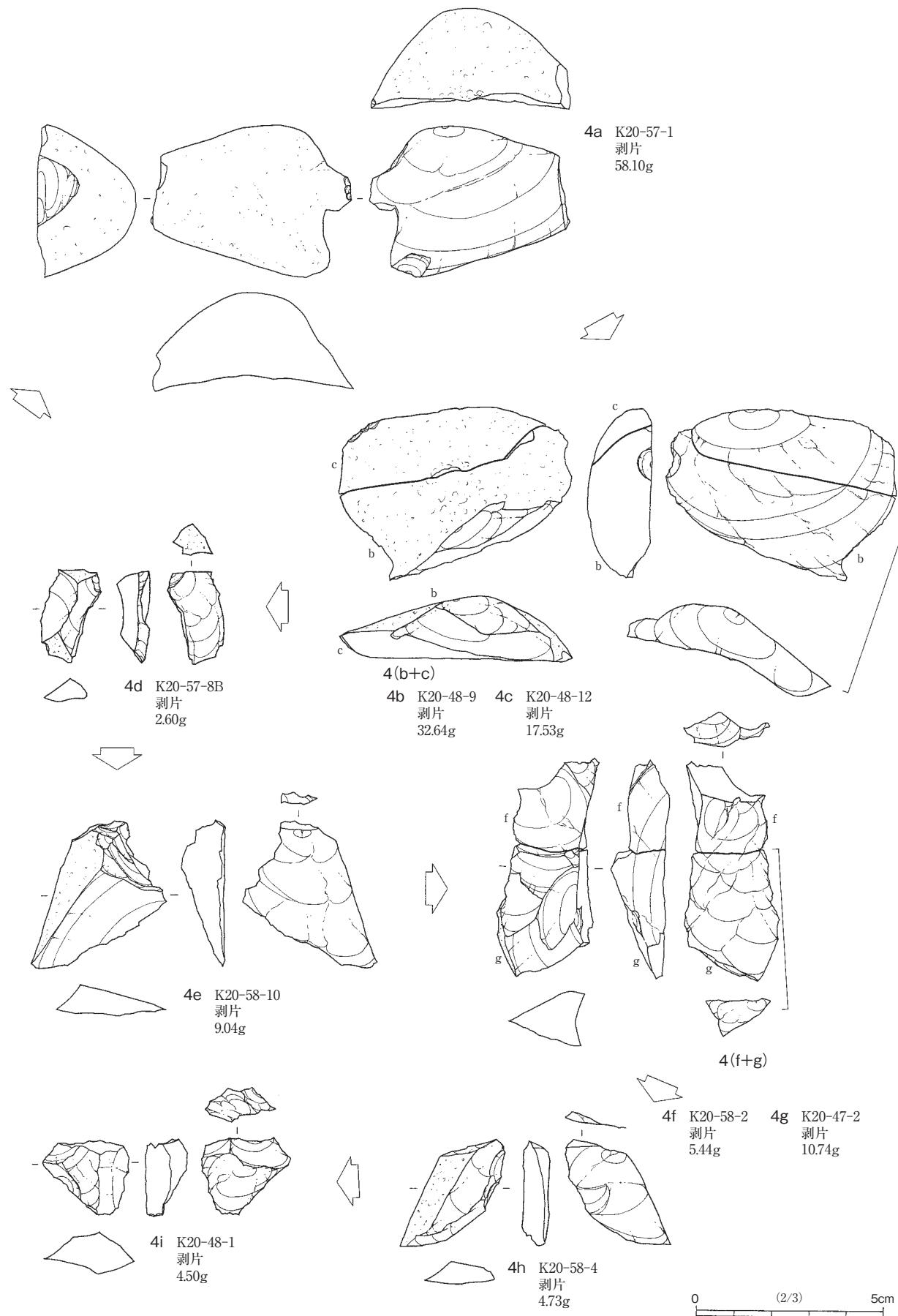
出土状況 調査区北西部の南寄りのI19-79・89、J19-70・71・80・81・91グリッドに分布している。北東に傾斜する斜面の縁辺に立地する。8.0m×8.2mの範囲から82点の石器が出土した。北側に約57m離れた



第3-72図 第2文化層第18ブロック遺物分布



第3-73図 第2文化層第18ブロック出土石器(1)



第3-74図 第2文化層第18ブロック出土石器(2)

第3-26表 第2文化層第18ブロック組成表

母岩	器種	母岩番号	ナイフ形石器	楔形石器	二次加工のある剥片	剥片	碎片	点数合計	点数比(%)	重量合計(g)	重量比(%)
黒曜石		2001	1					1	2.63	8.09	2.92
ガラス質黒色安山岩		2002				2		2	5.26	5.78	2.09
		2003				1		1	2.63	6.49	2.35
		2004				1		1	2.63	1.33	0.48
		2005				1		1	2.63	7.27	2.63
	ガラス質黒色安山岩	合計				5		5	13.16	20.87	7.54
頁岩		2001				1		1	2.63	20.30	7.34
珪質頁岩		2001				4		4	10.53	9.13	3.30
		2002		1				1	2.63	23.04	8.33
珪質頁岩	合計			1		4		5	13.16	32.17	11.63
玉髓		2001		1	1	5	2	9	23.68	21.40	7.74
		2002				1		1	2.63	16.19	5.85
玉髓	合計			1	1	6	2	10	26.32	37.59	13.59
ホルンフェルス		2002				14	1	15	39.47	156.84	56.70
		2003				1		1	2.63	0.76	0.27
ホルンフェルス	合計					15	1	16	42.11	157.60	56.97
全 体	点 数	合 計	1	2	1	31	3	38	100.00	276.62	100.00

第20ブロックと接合する資料が1個体(接2007)検出された。北西部・南東部の2か所の集中地点がみられ、どちらも密集している。IXa層からIV層にかけて出土し、V層下部に集中する。

出土遺物 器種組成はナイフ形石器3点、楔形石器2点、彫器2点、微細剥離痕のある剥片5点、削片9点、剥片42点、碎片6点、磨石2点、敲石7点の石器類78点と礫4点である。石器類の石材は硬質頁岩50点、黒曜石9点、流紋岩5点、玉髓4点、砂岩4点、ガラス質黒色安山岩2点、結晶片岩2点、安山岩1点、ホルンフェルス1点である。礫の石材はチャート2点、砂岩1点、流紋岩1点である。

1～3はナイフ形石器である。いずれも器体の中央部付近で折断された先端部残存品である。折断面の縁辺部には細かい調整加工が施されている。先端部残存品がまとまって出土し、先端部の片側縁に刃部が残されていることから、意図的に器体を折断し小型のナイフ形石器として再利用した可能性がある。本ブロックからは、削片がまとまって出土しており、削片を植刃器として用いて1～3のような小型のナイフ形石器を先端に装着した可能性も考えられる。すべて硬質頁岩が用いられている。

1は横長剥片を斜位に用いて素材の打面側を先端部に設置している。右側縁に急角度の調整加工が施されて、左側縁に刃部が残されている。2は幅広の剥片を斜位に用いて素材の打面側を先端部に設置している。左側縁に急角度の調整加工が施され、右側縁に刃部が残されている。1・2とも下部の折断面はネジリ折られた形状をしていて、折断面の縁辺部にあたる左側縁下部には細かい調整加工が施されている。

3は横長剥片を斜位に用いて素材の末端側を先端部に設置している。左側縁に急角度の調整加工が施されている。右側縁に刃部が残され、下部の折断面は、裏面側から表面方向にネジリ折られた形状をしている。折断面の縁辺部にあたる左側縁下部と右側縁下部には、細かい調整加工が施されている。

4・5は彫器である。4は幅広の剥片の末端部を折断した後に折断面右部を打面として右面方向に樋状剥離が行われている。樋状剥離面の末端部には、樋状剥離をした後に細かい調整加工が施される。この加工により表面右下部は尖った形状をしている。この部位に着目し揉錐器と器種認定することも可能である。

5は幅広の剥片を素材として上下両端部に急角度の調整加工を施した後に、上面左部を打面として左面方向に樋状剥離が行われている。主要剥離面の形状から幅広の剥片であったことが観察され、上面左部からの樋状剥離は複数回行われた可能性がある。上面部の調整加工は樋状剥離を行うための打面調整であり、

第3-27表 第2文化層第19ブロック組成表

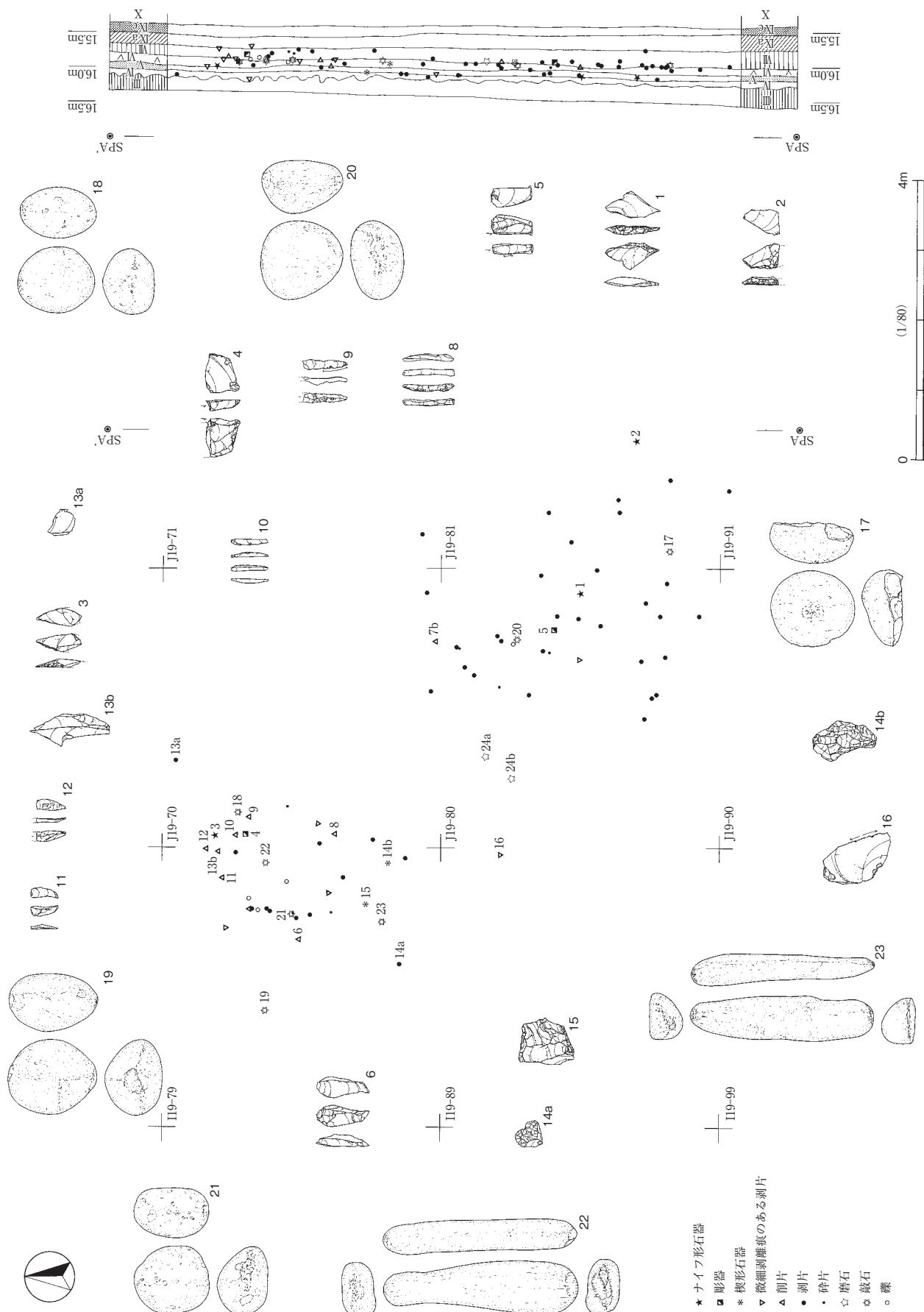
母岩	器種	母岩番号	ナイフ形石器	楔形石器	彫器	微細剥離痕のある剥片	削片	剥片	碎片	磨石	敲石	礫	点数合計	点数比(%)	重量合計(g)	重量比(%)
黒曜石	2001						1						1	1.22	1.65	0.12
	2002				2		3						5	6.10	2.72	0.19
	2003						1						1	1.22	0.33	0.02
	2004						1	1					2	2.44	0.78	0.05
黒曜石合計					2		6	1					9	10.98	5.48	0.38
ガラス質黒色安山岩	2006						2						2	2.44	15.21	1.06
安山岩	2001									1			1	1.22	26.85	1.87
硬質頁岩	2002				1		3	1					5	6.10	12.74	0.89
	2003	2					5						7	8.54	11.30	0.79
	2004				1		1						2	2.44	2.77	0.19
	2005						4						4	4.88	23.00	1.60
	2006					3	2	1					6	7.32	7.34	0.51
	2007	1				3	2						6	7.32	13.61	0.95
	2008	1	1				2						4	4.88	12.20	0.85
	2009			1		1	3	1					6	7.32	6.18	0.43
	2010	1				2	1	1					5	6.10	1.51	0.11
	2011				1		2						3	3.66	4.22	0.29
	2012						2						2	2.44	1.43	0.10
硬質頁岩合計		3	2	2	3	9	27	4					50	60.98	96.30	6.71
玉髓	2003						2	1					3	3.66	5.75	0.40
	2004						1						1	1.22	0.76	0.05
玉髓合計							3	1					4	4.88	6.51	0.45
結晶片岩	2001								2				2	2.44	622.63	43.40
ホルンフェルス	2004						1						1	1.22	81.09	5.65
チヤート	2999												2	2.44	110.57	7.71
砂岩	2001									1			1	1.22	73.88	5.15
	2002									1			1	1.22	67.03	4.67
	2003									1			1	1.22	59.69	4.16
	2004									1			1	1.22	73.21	5.10
	2999												1	1	62.34	4.35
砂岩合計									4	1	5	6.10	336.15	23.43		
流紋岩	2001									1			1	1.22	49.81	3.47
	2002									1			1	1.22	51.78	3.61
	2003						3						3	3.66	9.55	0.67
	2999												1	1	1.22	22.75
流紋岩合計		3	2	2	5	9	42	6	2	2	1	6	7.32	133.89	9.33	
全体点数合計		3	2	2	5	9	42	6	2	7	4	82	100.00	1,434.68	100.00	

下端部の調整加工は剥離される削片の形状を整えるための器体整形加工と思われる。

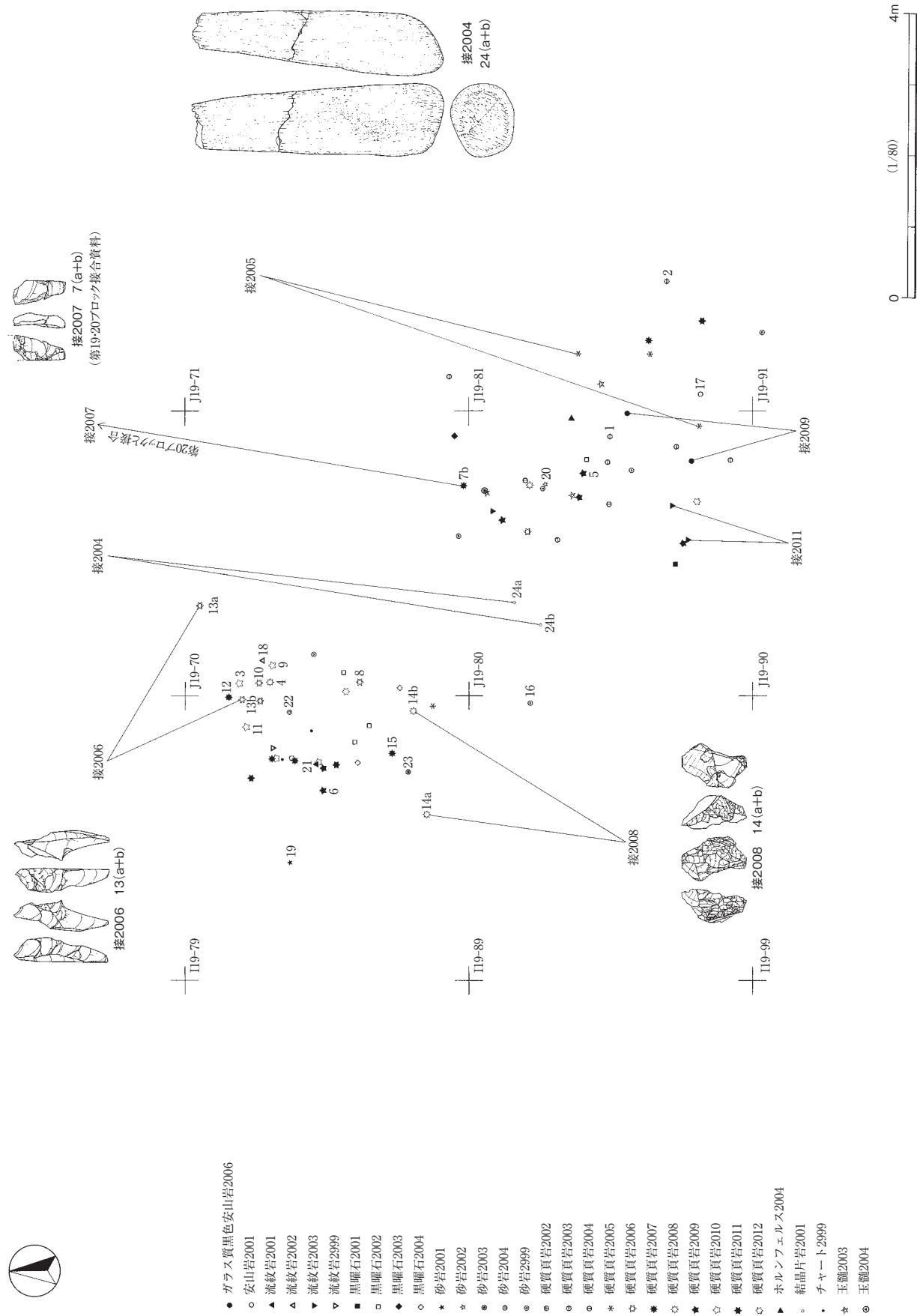
6～12は削片である。6・7は幅広でやや大型の削片である。6は左面に樋状剥離面がみられ、複数回の樋状剥離が行われた後に剥離されたと判断される。下端部には下部からの細かい調整加工がみられる。5のように下端部に細かい調整加工を施すことにより、規格的な削片を量産したことが伺える。

7(a+b)は第19・20ブロック間の接合資料で約57m離れて接合している。左面下部に素材である大型石刃の主要剥離面が残される。表面に樋状剥離による剥離面があり、本資料も複数回の樋状剥離が行われた後に剥離されたと判断される。器体全体が黒みを帯び裏面の両側縁や表面上部には器体の内部から、はじけ飛んだような剥離面が観察され火熱を受けたものと思われる。これと同様に黒みを帯びはじけ飛んだような剥離面が観察できる資料は、9・11・12・15があげられる。本ブロックをはじめ下総型石刃再生技法を有する石器群においては、火熱を受けた資料の割合が高いことが特徴としてあげられる。火熱処理を行うことによって石材が均質化し、樋状剥離などの細かい剥離を行うことが可能になったものと思われる。

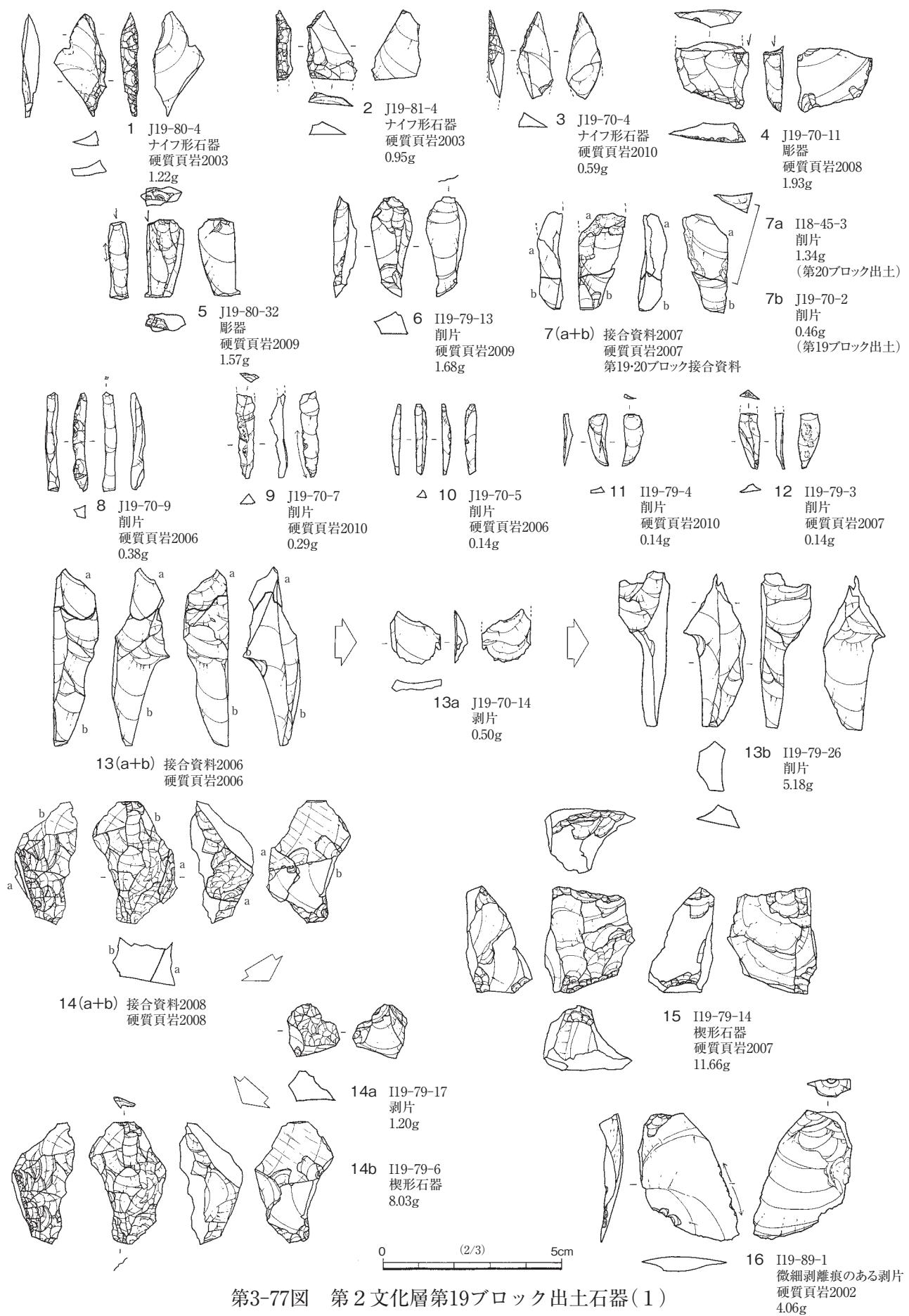
8～12は細長で小型の削片である。8の表面には削片を剥離する前に行われた調整加工が残される。調整加工の形状から、ナイフ形石器あるいは削器が素材であったと推察される。右面に削片の主要剥離面を



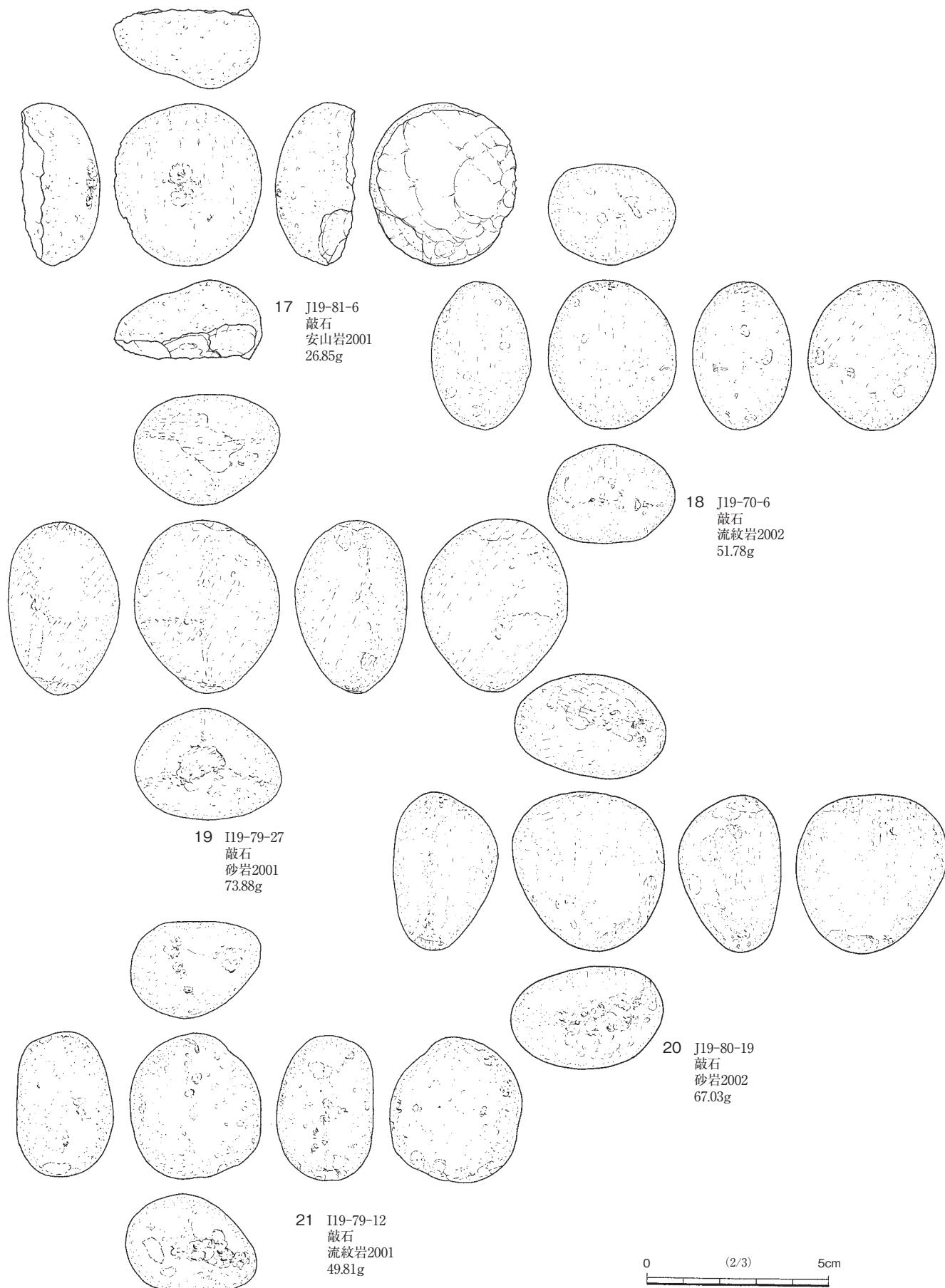
第3-75図 第2文化層第19ブロック器種別分布



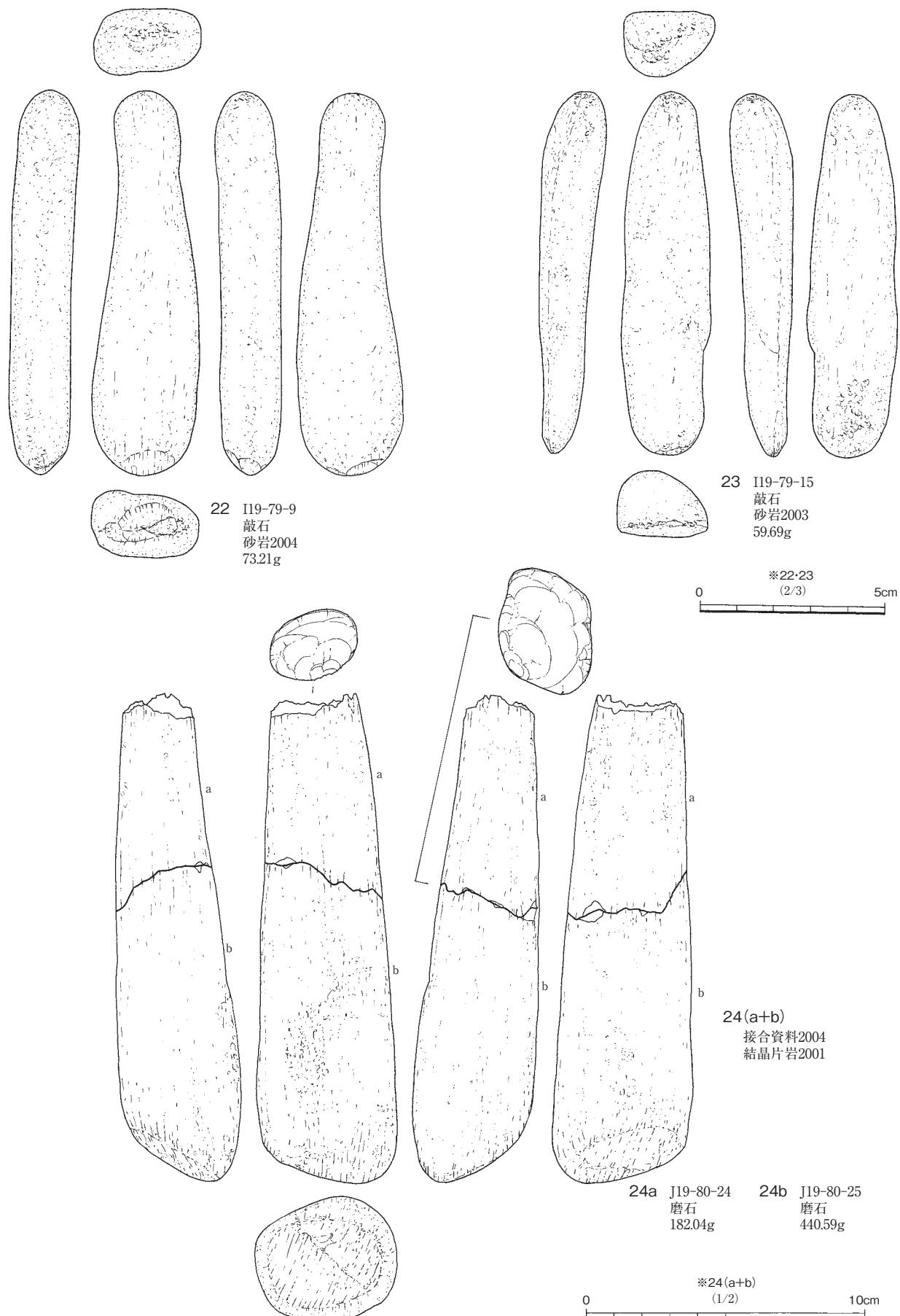
第3-76図 第2文化層第19ブロック母岩別分布



第3-77図 第2文化層第19ブロック出土石器(1)



第3-78図 第2文化層第19ブロック出土石器(2)



第3-79図 第2文化層第19ブロック出土石器(3)

図示した。裏面に素材の主要剥離面が残されている。左面には2枚の楕状剥離面がみられることから、複数回の楕状剥離で剥離されたと判断できる。9は黒みを帯びており、表面に火熱によると思われる剥離面が観察できる。裏面左下部に微細剥離がみられる。器体の中央部から折れている。使用時に折れたか、意図的に折断し用いた可能性が高い。10は左面に削片の主要剥離面を図示した。11は黒みを帯びており、火熱を受けたものと思われる。12は黒みを帯びており、裏面に火熱によると思われる剥離面が観察できる。

13(a+b)は削片と剥片の接合資料である。大型石刃を素材としている。13(a+b)全体で削片であり、削片の打面は表面右中央部の剥離面(大型石刃の主要剥離面)である。13(a+b)を剥離した際に、打点部付近の衝撃により13aと13bとに同時割れしたものと思われる。

14(a+b)は上下両端からの両極剥離によって14aを含む数枚の剥片が剥離され、14bの楔形石器が作成されている。大型石刃を素材とし、素材の主要剥離面は裏面下部に残っている。15は楔形石器であり、上下両端から両極剥離が行われている。大型石刃を素材とし、素材の主要剥離面は左面下部に残される。下総型石刃再生技法を有する石器群においては大型石刃を素材として楕状剥離を行うが、素材が小さくなると最終的には両極剥離により剥片が剥離されている。14(a+b)・15はこの技法によるものと思われる。

16は微細剥離痕のある剥片であり、表面右下部に微細剥離がみられる。素材は大型石刃から剥離された剥片で、大型の削片と識別することも可能である。大型石刃の主要剥離面は、表面に大きく残っている。

17~23は敲石である。いずれも平坦面に擦痕、突出部に敲打痕が観察できる。これらの敲石は楕状剥離を行う際に用いられた可能性が高い。敲打時に微妙な力のコントロールをするのに適した形状をしたものを使っている。使用状況としては打面の縁辺部の凹凸を平坦にするため敲石を擦りあて、楕状剥離を行う際に敲石の突出部で敲打したことが推察される。

17~21は小型の卵状の形態をしている。17は表面中央部に敲打による凹み痕がみられる。側縁部にも敲打痕がみられ、左面を敲打した際に破損したと思われる剥離面が裏面に残っている。18~21はほぼ同じ大きさ・形状をしている。上下両端部の突出部に敲打痕がみられる。ただし、剥離面ができるほど敲打ではなく、比較的弱い敲打によって凹み痕が形成されている。擦痕は平坦面のほぼ全面にみられる。特に、19の上下両端部と20の右側面と上面は表面が白くなっている、この部位は敲打と擦痕が重複して行われたものと思われる。22・23は細長い棒状の形態をしている。上下両端部に敲打痕と擦痕がみられる。17~23と同様にそれほど強い敲打によるものではなく、弱い敲打と擦痕が繰り返し行われている。特に、22の下端部は擦痕によって、小範囲ではあるが平坦な面が3面ほど形成されている。

24(a+b)は磨石であり、大型で細長い棒状の形態をしている。全面に擦痕がみられることから磨石と分類したが、下端部や表面下半部付近など敲打による凹み痕がみられることから、敲石と分類すること也可能である。下端部の擦痕が顕著に行われており、側縁下部の末端部が角張った形状をしている。小型であるが、22の敲石の下端部の形状と類似する。器体中央部は平坦面からの敲打により24aと24bとに分割されている。上端部も平坦面からの敲打により分割されている。

5 第2文化層第20ブロック(第3-80・81図、第3-28表、図版9・16)

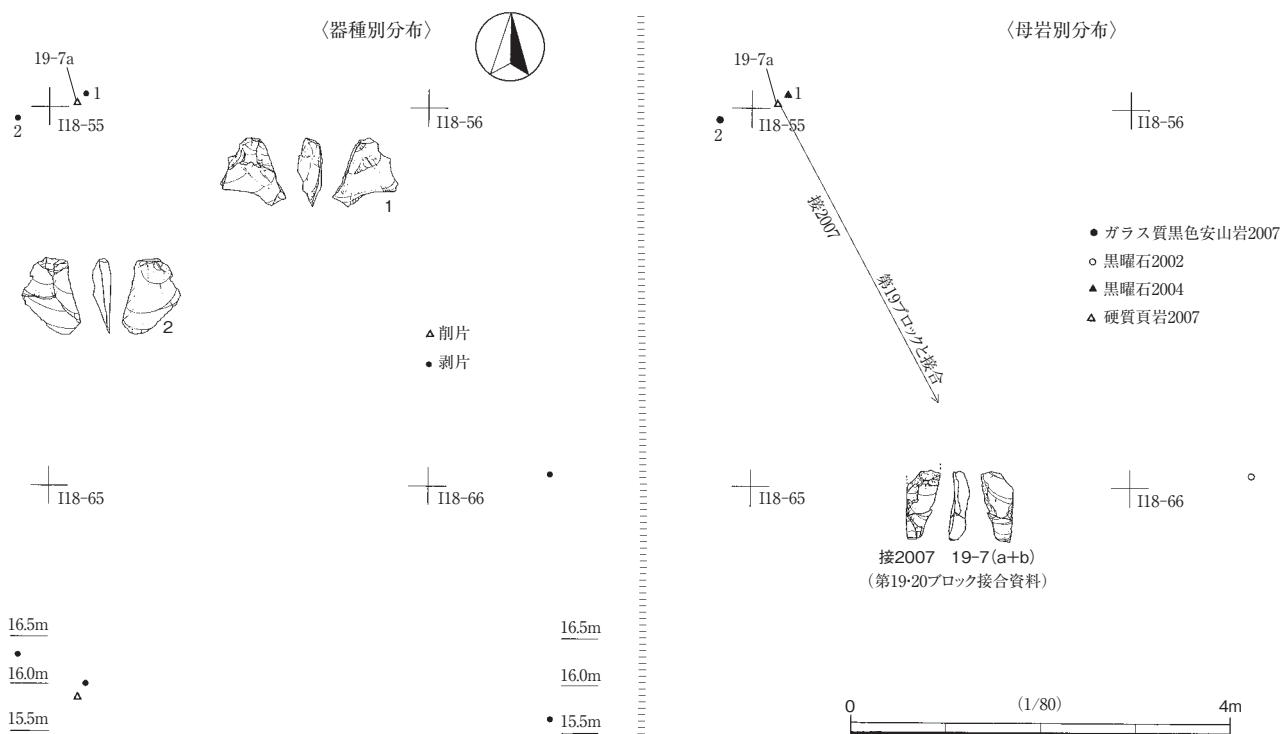
出土状況 調査区北西部の北寄りのI18-45・54・56グリッドに分布している。北東に傾斜する斜面の縁辺に立地する。4.0m×5.7mの範囲から4点の石器が出土した。南側に約57m離れた第19ブロックと接合する資料が1個体(接2007)検出された。北西部に集中しており、1点のみ南西部に離れて出土している。遺物分布状況をセクション図に投影することができなかったが、接合する第19ブロックの出土層位や調査時

の所見などから、Ⅶ層下部に集中すると判断した。

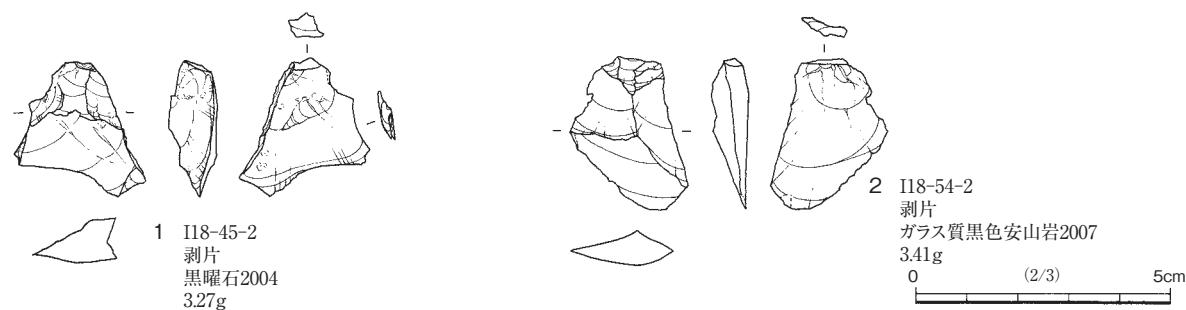
出土遺物 器種組成は削片1点、剥片3点である。石材は黒曜石2点、ガラス質黑色安山岩1点、硬質頁岩1点である。1・2は剥片である。どちらも頭部調整が行われている。

6 第2文化層第21ブロック(第3-82~84図、第3-29表、図版9・16)

出土状況 調査区北西部北寄りのI17-62・63・72・74グリッドに分布している。東に傾斜する斜面の縁辺に立地する。2.6m×5.4mの範囲から14点の石器が出土した。西部・東部の2か所の集中地点がみられる。



第3-80図 第2文化層第20ブロック遺物分布



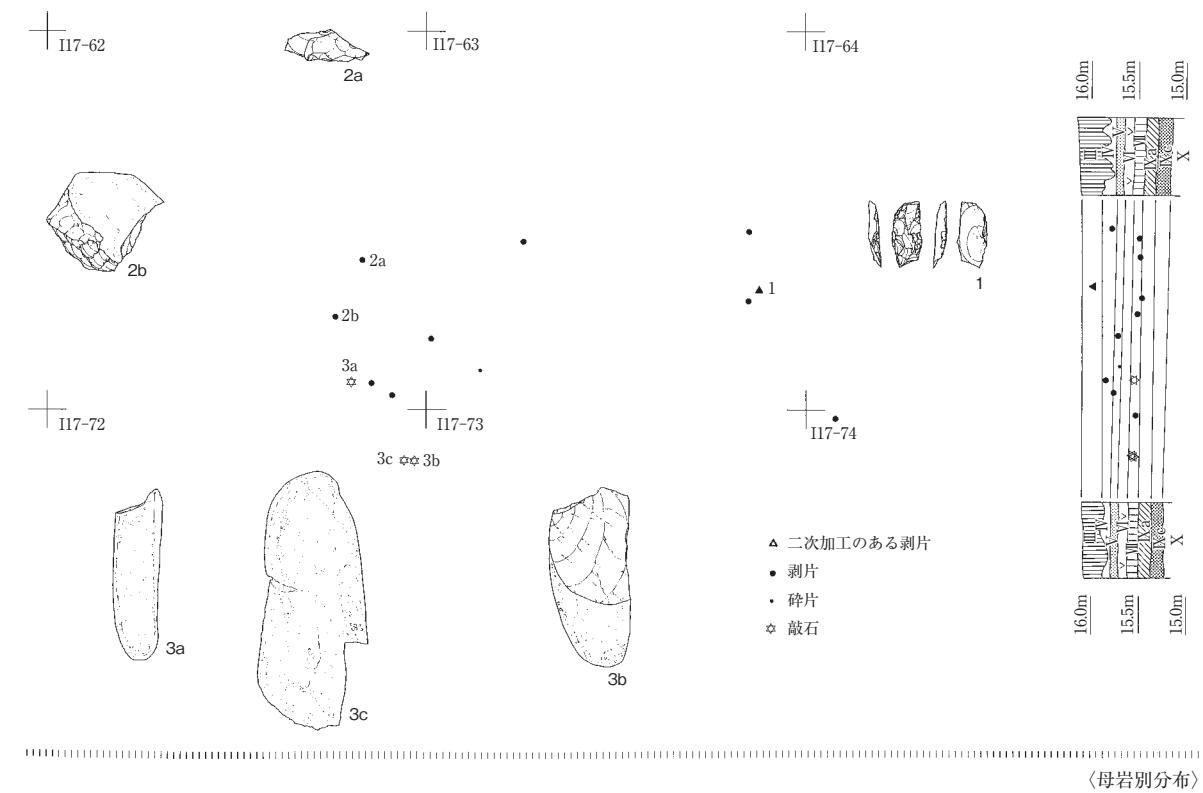
第3-81図 第2文化層第20ブロック出土石器

第3-28表 第2文化層第20ブロック組成表

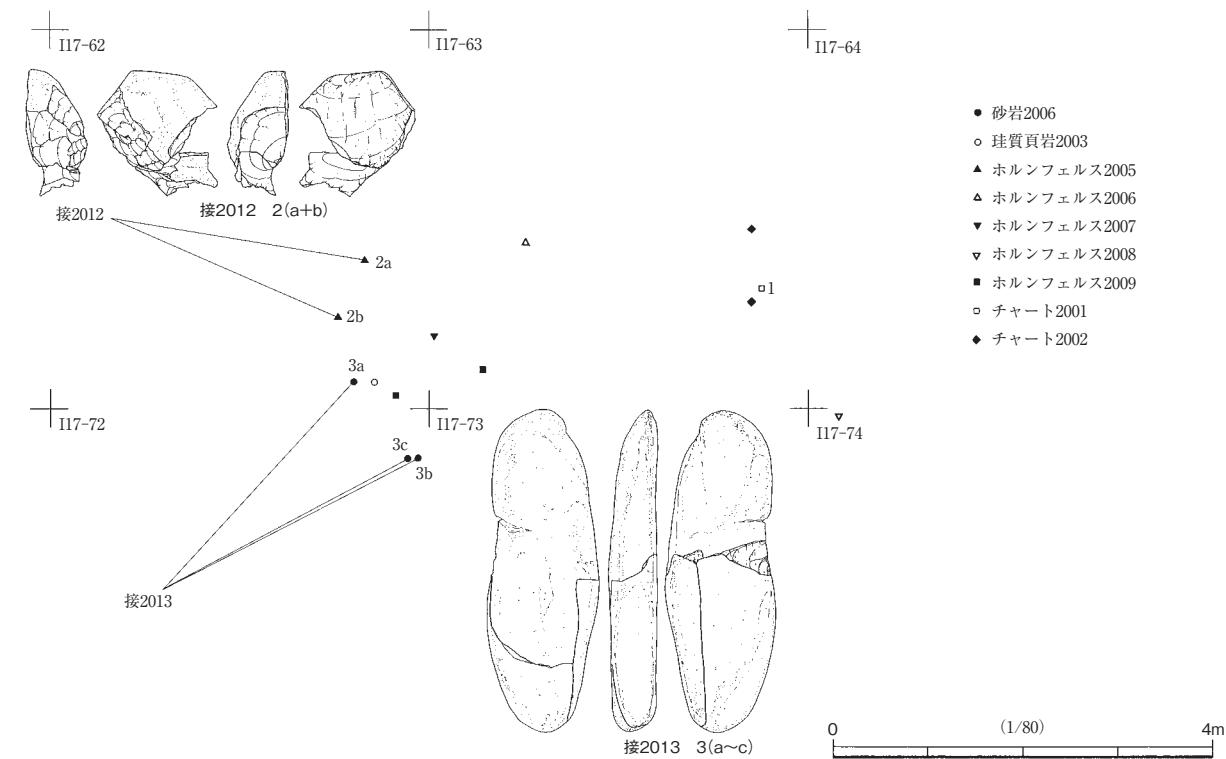
母岩	器種	母岩番号	削片	剥片	点数合計	点数比 (%)	重量合計 (g)	重量比 (%)
黒曜石	2002			1	1	25.00	4.37	35.27
	2004			1	1	25.00	3.27	26.39
黒曜石合計				2	2	50.00	7.64	61.66
ガラス質黑色安山岩	2007			1	1	25.00	3.41	27.52
硬質頁岩	2007		1		1	25.00	1.34	10.82
全體	点数合計		1	3	4	100.00	12.39	100.00



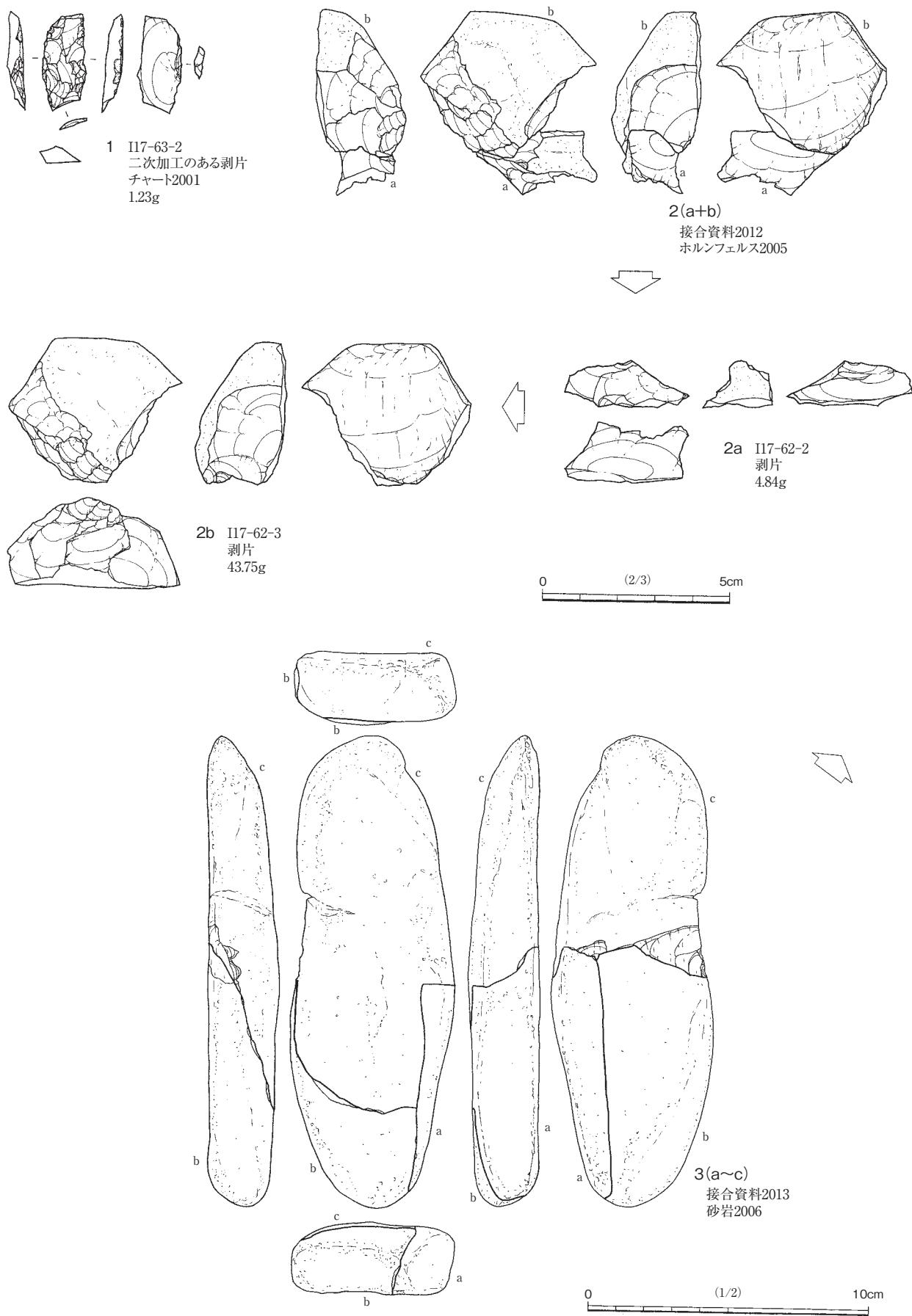
〈器種別分布〉



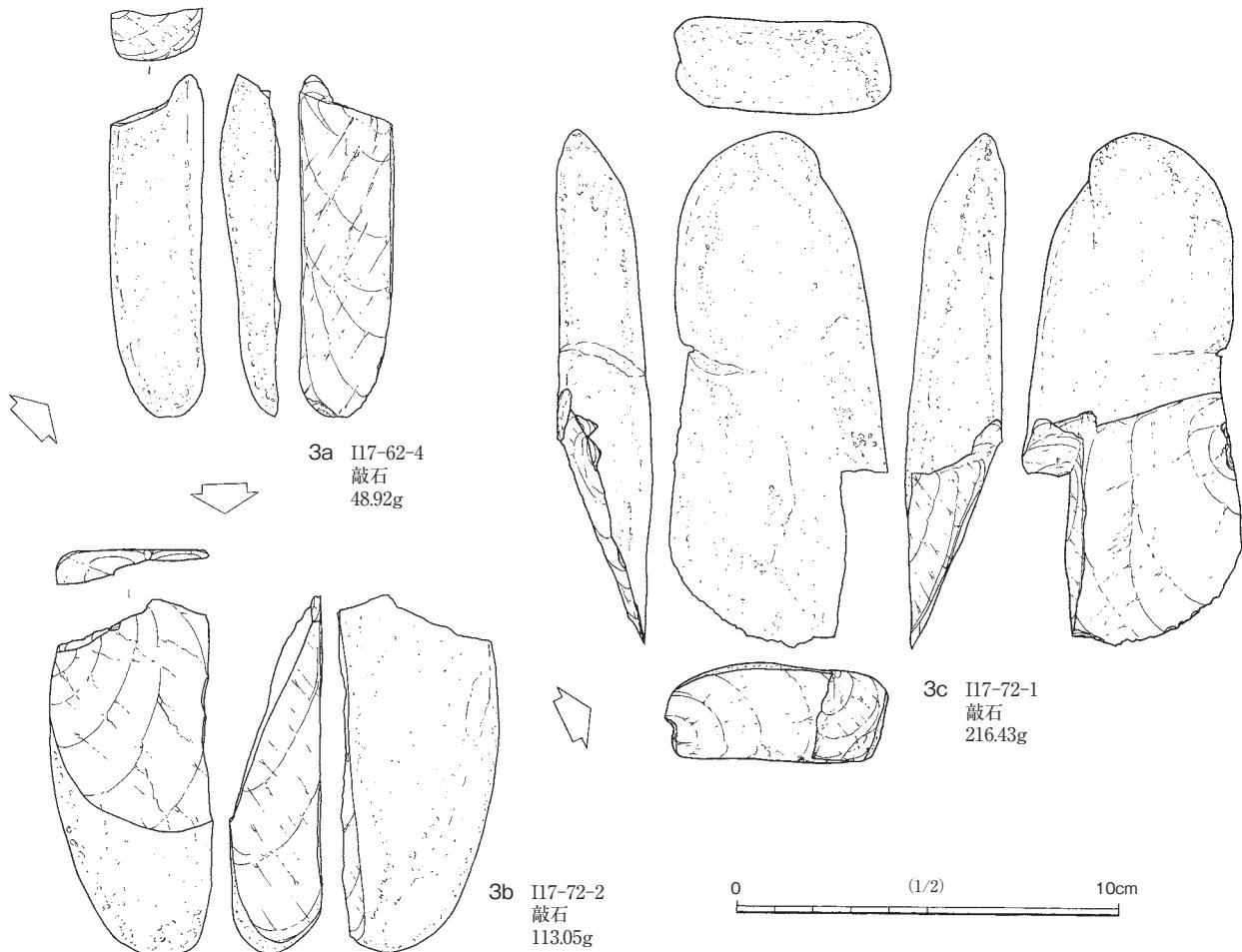
〈母岩別分布〉



第3-82図 第2文化層第21ブロック遺物分布



第3-83図 第2文化層第21ブロック出土石器(1)



第3-84図 第2文化層第21ブロック出土石器(2)

第3-29表 第2文化層第21ブロック組成表

母岩	器種	母岩番号	二次加工のある剥片	剥片	碎片	敲石	点数合計	点数比(%)	重量合計(g)	重量比(%)
珪質頁岩		2003		1			1	7.14	1.95	0.43
ホルンフェルス		2005		2			2	14.29	48.59	10.62
		2006		1			1	7.14	0.79	0.17
		2007		1			1	7.14	3.12	0.68
		2008		1			1	7.14	17.58	3.84
		2009		1	1		2	14.29	2.67	0.58
	ホルンフェルス合計			6	1		7	50.00	72.75	15.91
チャート		2001	1				1	7.14	1.23	0.27
		2002		2			2	14.29	2.99	0.65
チャート合計			1	2			3	21.43	4.22	0.92
砂岩		2006				3	3	21.43	378.40	82.74
全体点数合計			1	9	1	3	14	100.00	457.32	100.00

どちらも散漫に分布している。IXa層からIII層にかけて出土しており、VII層下部に集中する。

出土遺物 器種組成は二次加工のある剥片1点、剥片9点、碎片1点、敲石3点である。石材はホルンフェルス7点、チャート3点、砂岩3点、珪質頁岩1点である。

1は二次加工のある剥片である。横長剥片を素材とし、右側縁に細かい調整加工が施され下部は折れている。2(a+b)は厚みのある剥片を素材とし裏面右下部から2aと2bとに分割している。2bは2aの剥片を剥離した石核とみることも可能である。3(a~c)は敲石の接合資料である。扁平な橢円形礫を素材とし上下両端部と左側面中央部に敲打痕がみられる。左側面中央部を敲打した際に3分割したものと思われる。

第4節 第3文化層

1 概要(第3-85図、第3-30・31表)

第3文化層の石器群は総計132点出土し、第22~24ブロックの3か所の集中地点で構成される。V層~IV層下部に生活面を持つ石器群と推定される。調査区南西部の東寄りに第22・23ブロックが隣接して分布し、調査区北西部に第24ブロックが分布している。標高17.0m~17.5m(現地表面)に分布している。ブロック間の接合資料はみられなかった。

器種組成はナイフ形石器5点、削器1点、楔形石器1点、二次加工のある剥片8点、微細剥離痕のある剥片3点、削片1点、剥片23点、碎片5点、石核7点の石器類54点と礫13点・礫片65点の礫・礫片78点で構成される。ナイフ形石器・削器・楔形石器・削片が本文化層を特徴づける器種である。また、礫・礫片の占める割合(59.09%)が高く、第22・23ブロックに礫群が伴っている。

石器類の石材は黒曜石47点、ガラス質黒色安山岩5点、珪質頁岩1点、チャート1点である。礫・礫片の石材は流紋岩27点、石英斑岩19点、チャート16点、砂岩14点、ホルンフェルス2点である。

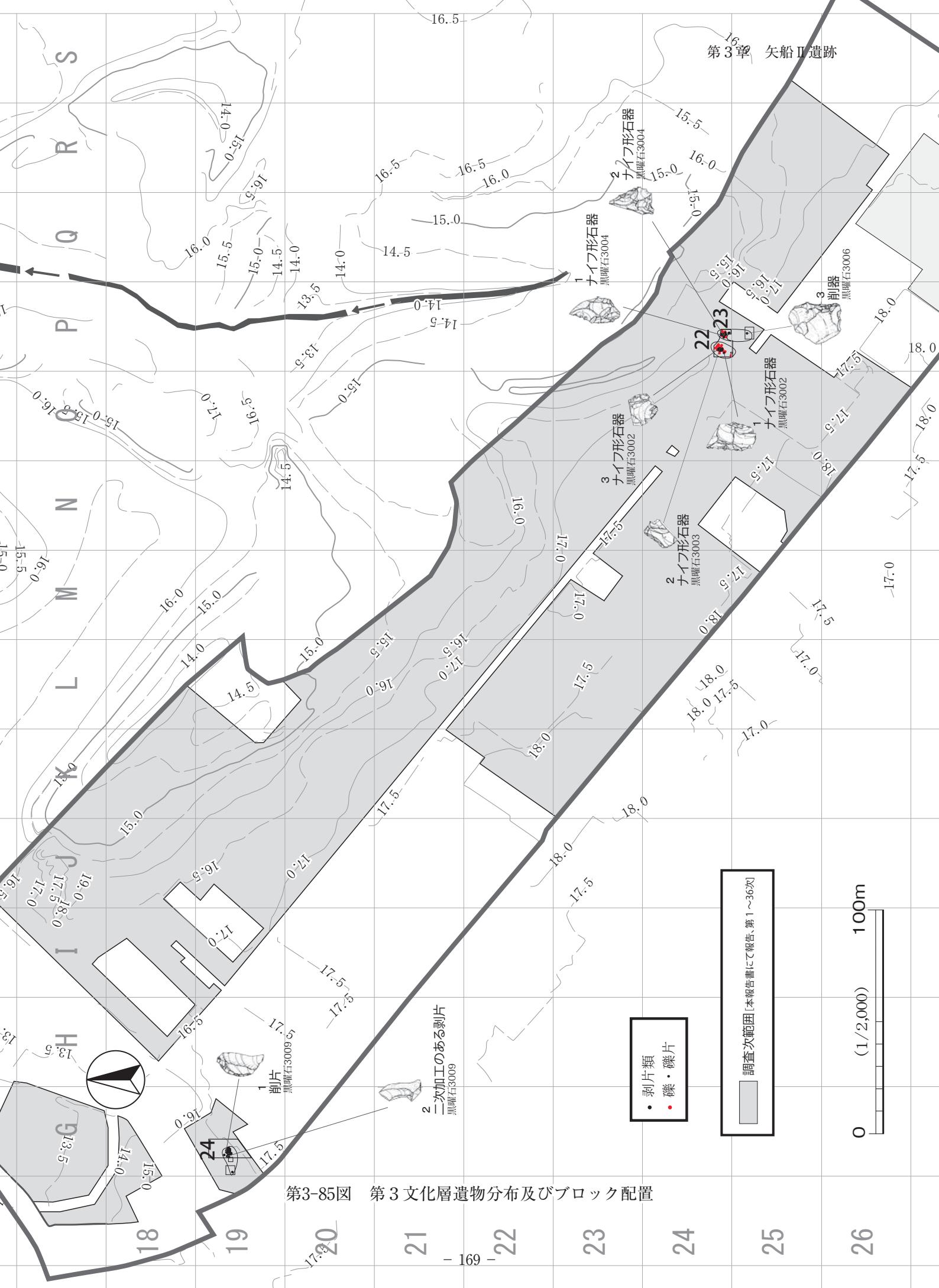
第3-30表 第3文化層器種石材組成表

石 材 器 種	ナイ フ 形 石 器	削 器	楔 形 石 器	二 次 加 工 の あ る 剥 片	微 細 剥 離 痕 の あ る 剥 片	削 片	剥 片	碎 片	石 核	礫	点 数 合 計	
黒 曜 石	5	1	1	7	3	1	20	5	4		47	
ガラス質黒色安山岩				1			2		2		5	
珪 質 頁 岩							1				1	
ホルンフェルス										2	2	
チ ャ 一 ト									1	16	17	
砂 岩										2	12	
流 紋 岩									5	22	27	
石 英 斑 岩									6	13	19	
全 体 点 数 合 計	5	1	1	8	3	1	23	5	7	13	65	132

第3-31表 第3文化層ブロック別組成表

ブ ロ ッ ク	石 材	ナイ フ 形 石 器	削 器	楔 形 石 器	二 次 加 工 の あ る 剥 片	微 細 剥 離 痕 の あ る 剥 片	削 片	剥 片	碎 片	石 核	礫	点 数 合 計
22	黒 曜 石	3			1					2		6
	ガラス質黒色安山岩				1			1		2		4
	ホルンフェルス										2	2
	チ ャ 一 ト								1		16	17
	砂 岩									2	12	14
	流 紋 岩								4	17	21	
	石 英 斑 岩								5	5	10	
第 22 ブ ロ ッ ク 合 計		3			2			1		5	11	52
23	黒 曜 石	2	1		4	1		4		1		13
	流 紺 岩									1	5	6
	石 英 斑 岩									1	8	9
第 23 ブ ロ ッ ク 合 計		2	1		4	1		4		1	2	13
24	黒 曜 石			1	2	2	1	16	5	1		28
	ガラス質黒色安山岩							1				1
	珪 質 頁 岩							1				1
第 24 ブ ロ ッ ク 合 計				1	2	2	1	18	5	1		30
全 体 点 数 合 計		5	1	1	8	3	1	23	5	7	13	65
												132

第3章 矢船II遺跡



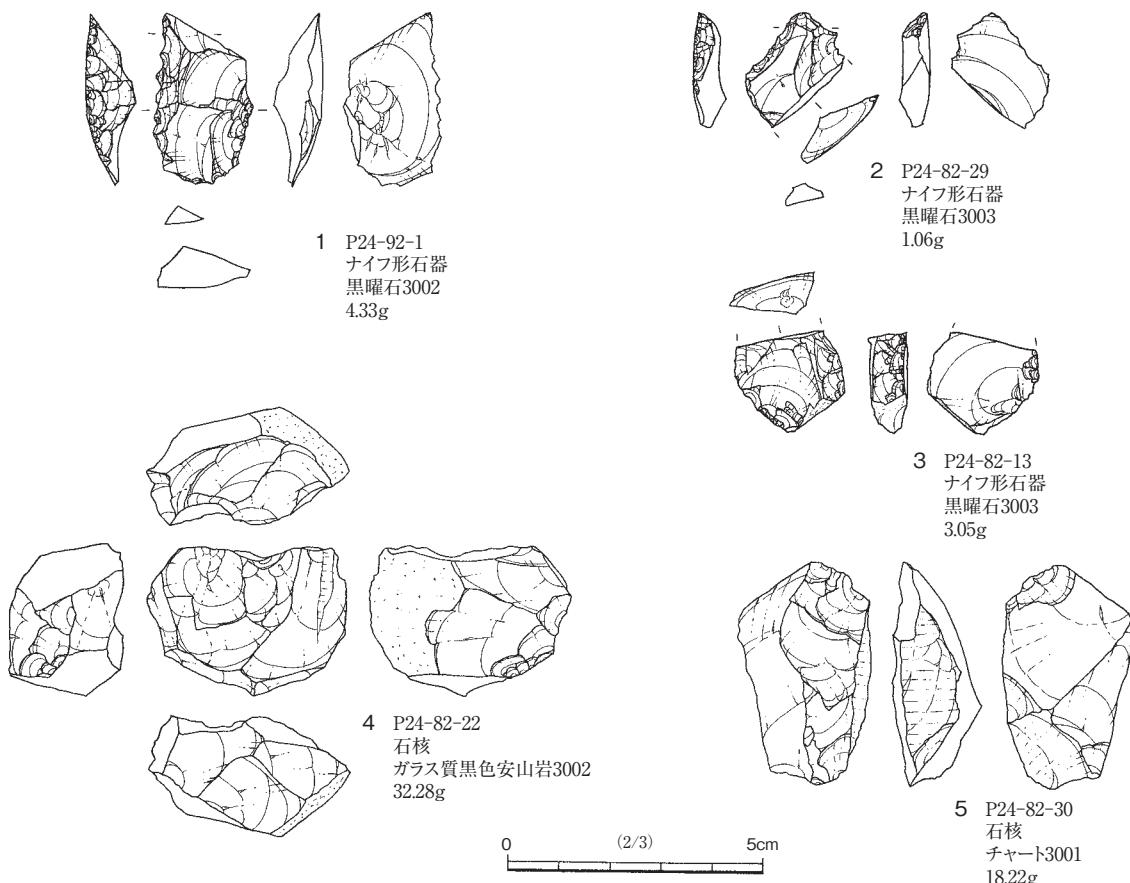
2 第3文化層第22ブロック(第3-86・87図、第3-32表、図版9・16)

出土状況 調査区南西部西寄りのP24-82・91・92グリッドに分布している。北側に開口する谷津の奥部に位置し、北に傾斜する斜面の縁辺に立地する。7.6m×5.0mの範囲から74点の石器が出土した。北東部・南西部の2か所の集中地点がみられる。北東部は密集し、南西部は散漫に分布する。北東部は礫・礫片が全体に分布し、石器類が中央に分布する。VI層からIII層にかけて出土し、V層～IV層下部に集中する。

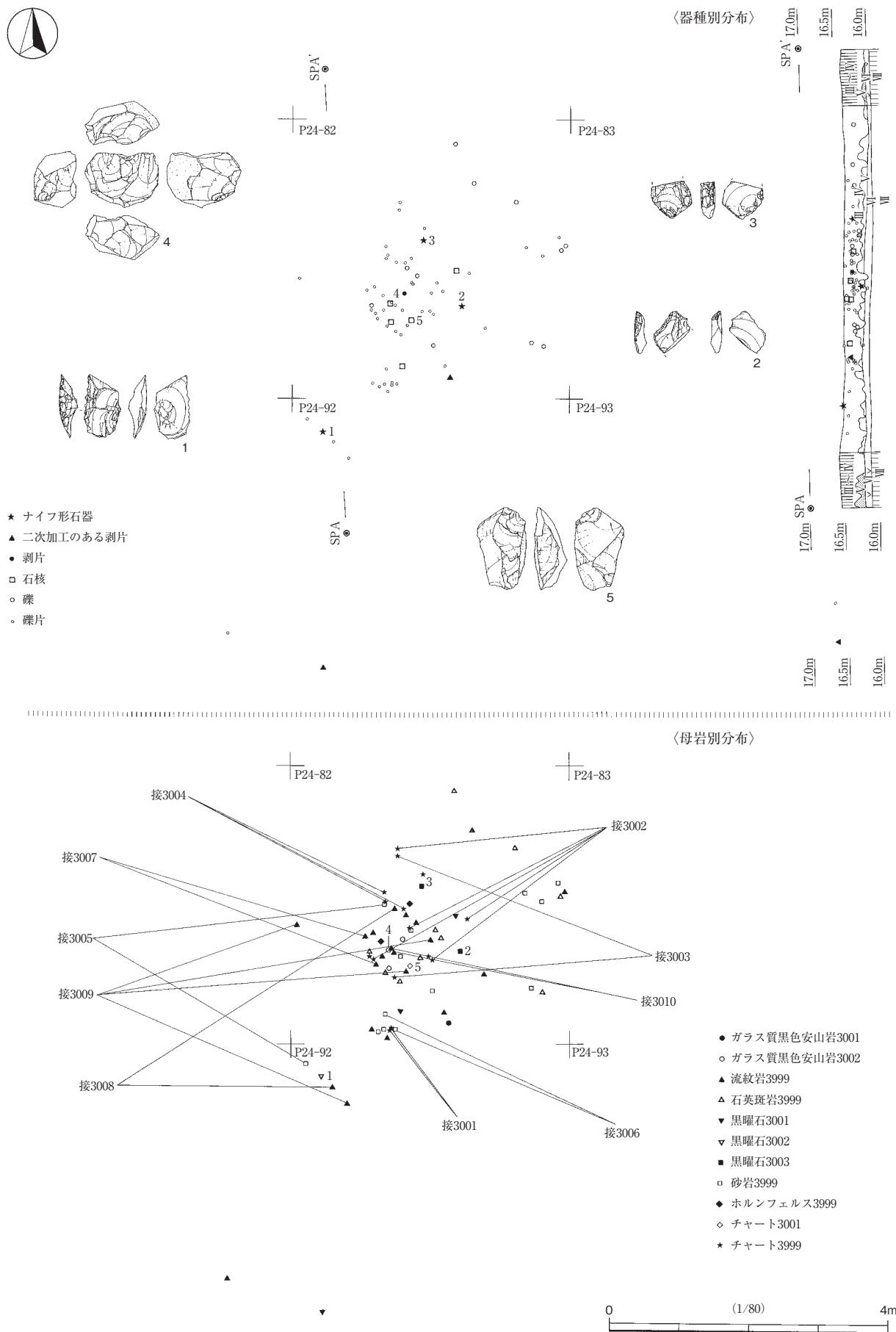
出土遺物 器種組成はナイフ形石器3点、二次加工のある剥片2点、剥片1点、石核5点の石器類11点と礫11点、礫片52点の礫・礫片63点で構成される。石器類の石材は黒曜石6点、ガラス質黒色安山岩4点、チャート1点である。礫・礫片の石材は流紋岩21点、チャート16点、砂岩14点、石英斑岩10点、ホルンフェルス2点である。

1～3はナイフ形石器である。1は横長剥片を斜位に用いて左側縁に鋸歯状の粗い調整加工が施されている。切出形の形態を呈する。第23ブロックから出土した1のナイフ形石器と形態的に類似する。2は左側縁上部と右側縁上部に急角度の調整加工が施されている。左側縁下部に鋭利な縁辺が残されている。器体の中央部から折れているため、全体形状は不明である。3は右側縁と左側縁の下部に急角度の調整加工が施されている。2と同様に器体の中央部から折れており、全体形状は不明である。

4・5は石核である。4は分割礫を素材としている。分割面は裏面右下部に残されている。剥離順序は、左面上部を打面として裏面方向に剥片を剥離→右面下部を打面として下面方向に縦長剥片を剥離→表面上部を打面として上面方向に横長剥片を剥離→上面下部を打面として表面方向に横長剥片の剥離となる。5は節理面に沿って剥離された厚みのある剥片を素材としている。剥離順序は、表面下部を打面として裏面右方向に縦長剥片を剥離→裏面上部を打面として表面方向に縦長剥片の剥離となる。



第3-86図 第3文化層第22ブロック出土石器



第3-87図 第3文化層第22ブロック遺物分布

第3-32表 第3文化層第22ブロック組成表

母岩 \ 器種		母岩番号	ナイフ形石器	二次加工のある剥片	剥片	石核	礫	礫片	点数合計	点数比 (%)	重量合計 (g)	重量比 (%)
黒曜石	3001			1		2			3	4.05	27.40	0.60
	3002		1						1	1.35	4.33	0.09
	3003		2						2	2.70	4.11	0.09
黒曜石合計		3	1			2			6	8.11	35.84	0.78
ガラス質黒色安山岩	3001			1					1	1.35	2.93	0.06
	3002				1	2			3	4.05	70.81	1.54
ガラス質黒色安山岩合計				1	1	2			4	5.41	73.74	1.60
ホルンフェルス	3999							2	2	2.70	109.28	2.37
チヤート	3001					1			1	1.35	18.22	0.40
	3999							16	16	21.62	338.39	7.35
チヤート合計						1		16	17	22.97	356.61	7.75
砂岩	3999						2	12	14	18.92	1,497.24	32.52
流紋岩	3999						4	17	21	28.38	1,406.46	30.55
石英斑岩	3999						5	5	10	13.51	1,124.25	24.42
全体点数合計		3	2	1	5	11	52		74	100.00	4,603.42	100.00

3 第3文化層第23ブロック(第3-88・89図、第3-33表、図版9・16)

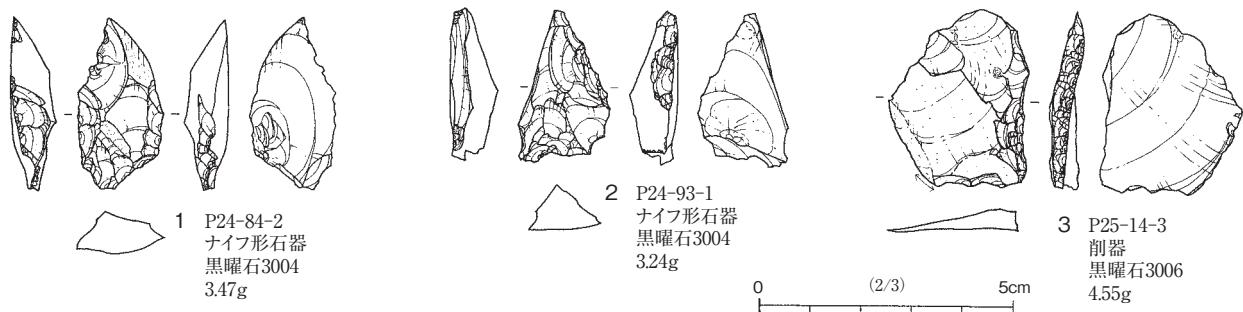
出土状況 調査区北東部西寄りのP24-83・84・84・93・94、P25-14グリッドに分布している。北側に開口する谷津の奥部に位置し、北に傾斜する斜面の縁辺に立地する。3.6m×2.7mの範囲から28点の石器が出土した。北部・南東部の2か所の集中地点がみられる。どちらの集中地点も石器類と礫・礫片が混在するが、北部は礫・礫片を主体とし、南西部は石器類を主体とする。出土層位は、VI層からIV層にかけて出土し、V層～IV層下部に集中する。

出土遺物 器種組成はナイフ形石器2点、削器1点、二次加工のある剥片4点、微細剥離痕のある剥片1点、剥片4点、石核1点の石器類13点と礫2点、礫片13点の礫・礫片15点で構成される。石器類の石材はすべて黒曜石で、礫・礫片の石材は石英斑岩9点、流紋岩6点である。

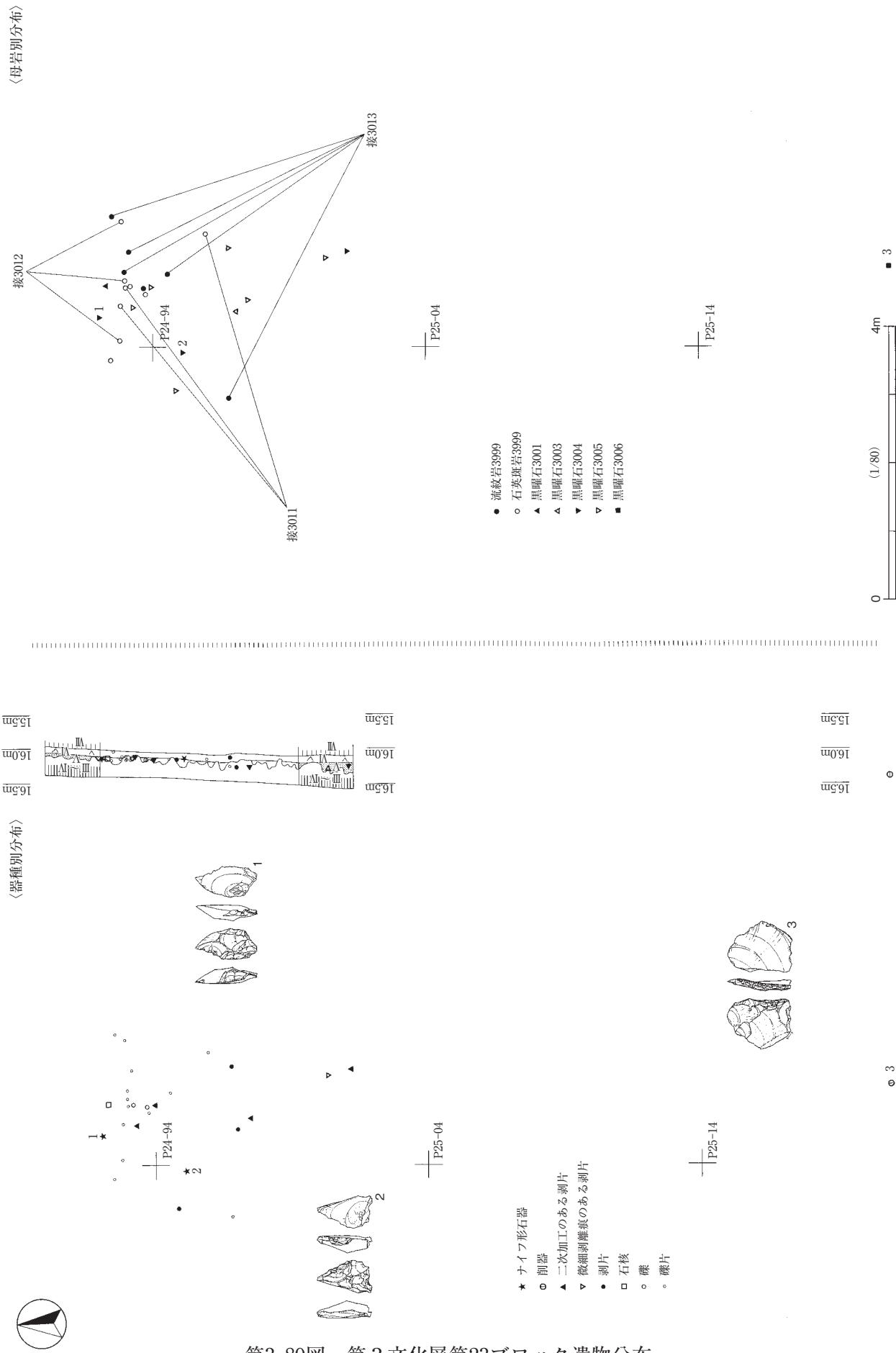
1・2はナイフ形石器である。1は横長剥片を斜位に用い両側縁の下部に急角度の調整加工が施されて

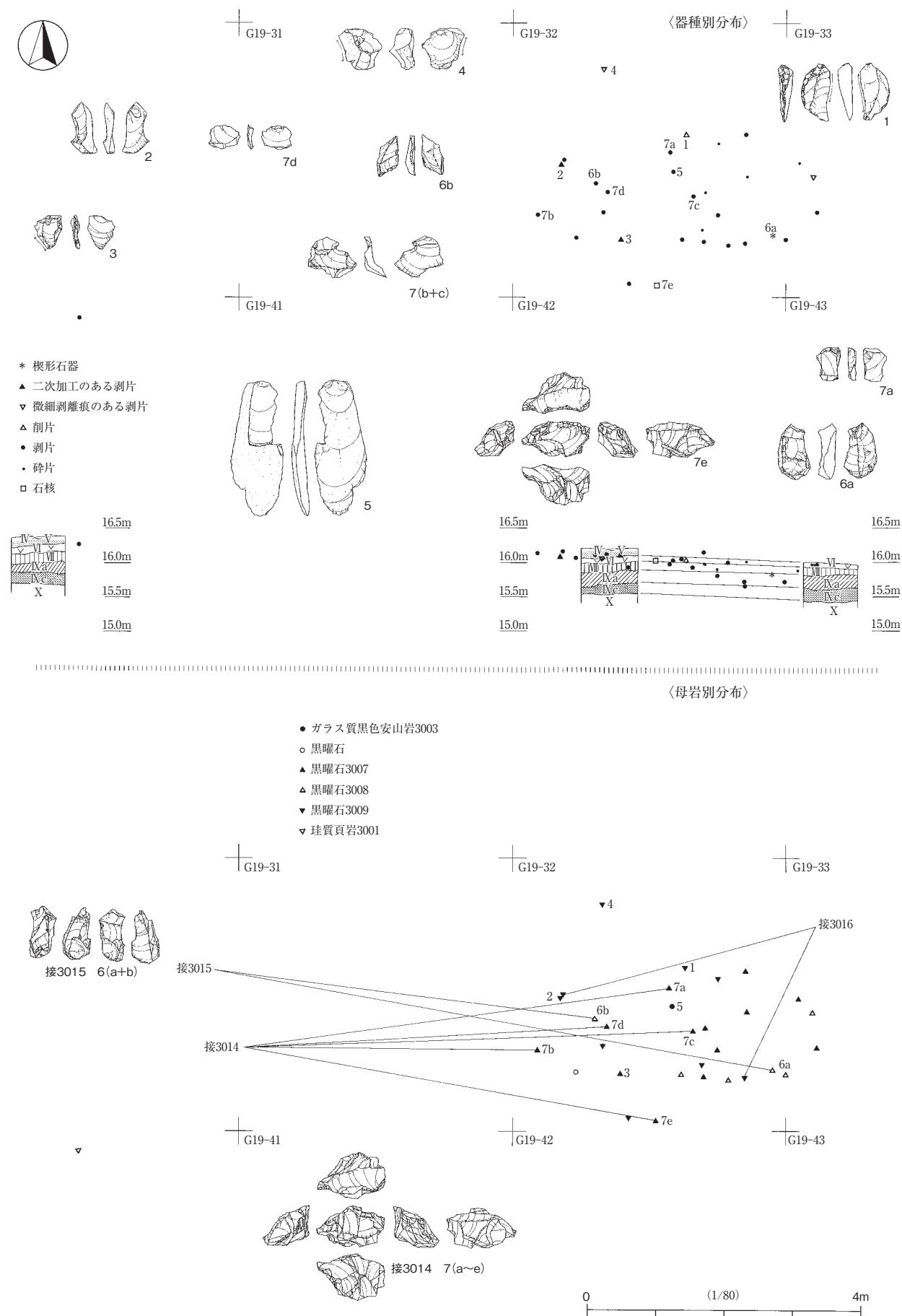
第3-33表 第3文化層第23ブロック組成表

母岩 \ 器種		母岩番号	ナイフ形石器	削器	二次加工のある剥片	微細剥離痕のある剥片	剥片	石核	礫	礫片	点数合計	点数比 (%)	重量合計 (g)	重量比 (%)
黒曜石	3001							1			1	3.57	11.64	0.63
	3003						1				1	3.57	5.16	0.28
	3004	2			1						3	10.71	9.29	0.50
	3005				3	1	3				7	25.00	10.85	0.59
	3006		1								1	3.57	4.55	0.25
黒曜石合計		2	1	4	1	4	1				13	46.43	41.49	2.25
流紋岩	3999								1	5	6	21.43	282.44	15.32
石英斑岩	3999								1	8	9	32.14	1,519.70	82.43
全体点数合計		2	1	4	1	4	1	2	13	28	100.00	1,843.63	100.00	

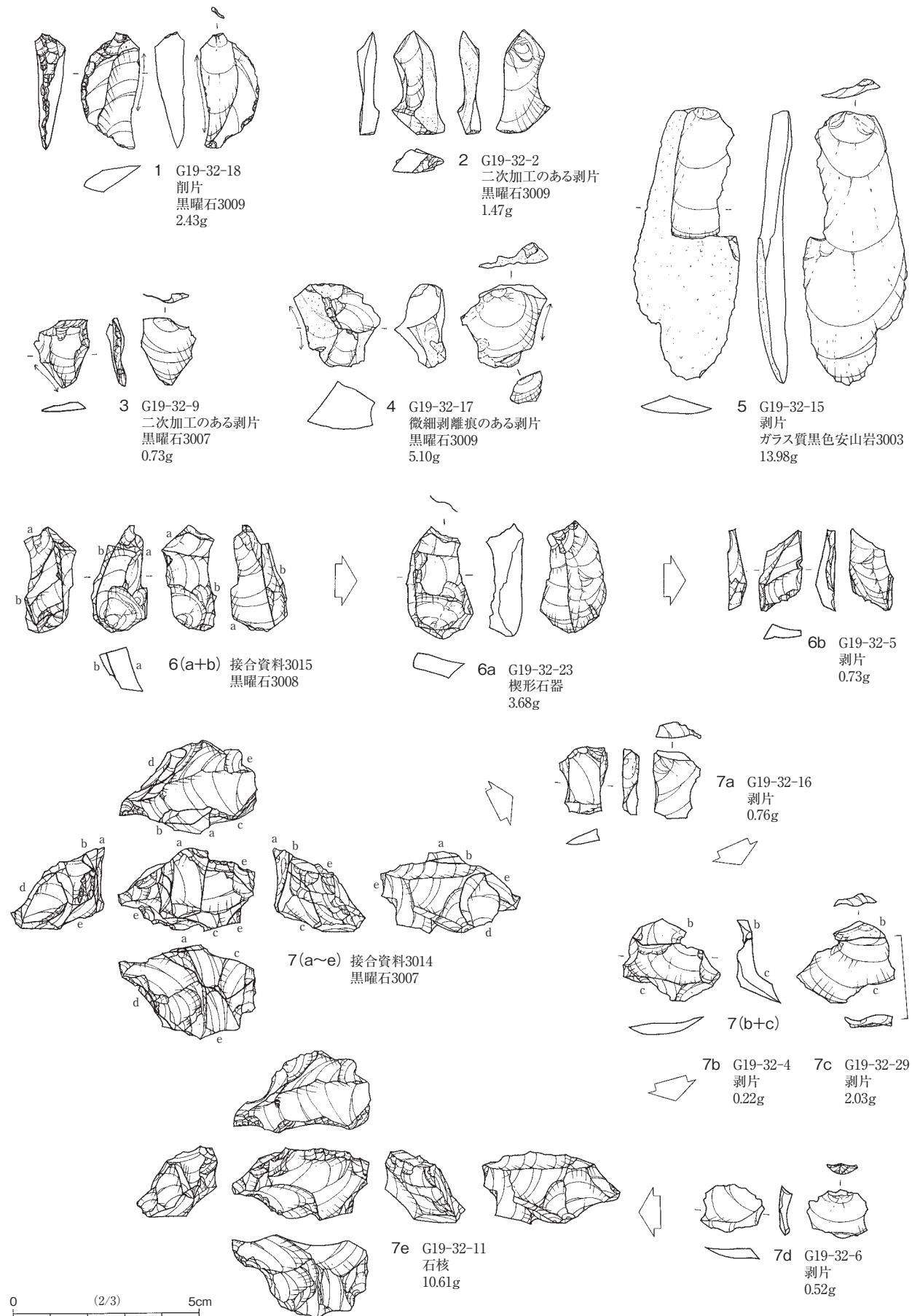


第3-88図 第3文化層第23ブロック出土石器





第3-90図 第3文化層第24ブロック遺物分布



第3-91図 第3文化層第24ブロック出土石器

いる。2は幅広の剥片を縦位に用いて素材の打面側を基部に設置し、右側縁上部と左側縁下部に急角度の調整加工が施されている。3は削器である。幅広の剥片を素材とし右側縁に急角度の調整加工が施される。

4 第3文化層第24ブロック(第3-90・91図、第3-34表、図版9・16)

出土状況 調査区北西部のG19-32・33・40グリッドに分布している。北に傾斜する斜面の縁辺に立地する。3.8m×10.8mの範囲から30点の石器が出土した。東側に集中地点がみられ、西側に離れて1点出土している。IXa層からⅢ層にかけて出土しており、V層～IV層下部に集中する。

出土遺物 器種組成は楔形石器1点、二次加工のある剥片2点、微細剥離痕のある剥片2点、削片1点、剥片18点、碎片5点、石核1点の石器類30点である。石材は黒曜石28点、ガラス質黒色安山岩1点、珪質頁岩1点で、黒曜石が大半を占める。

1は削片であり、左側縁には素材であるナイフ形石器(あるいは削器)の調整加工された剥離面が残されている。樋状剥離の主要剥離面を裏面左側に図示した。裏面左側縁に微細剥離がみられる。

2・3は二次加工のある剥片である。2は縦長剥片の末端部に急角度の調整加工が施されている。3は幅広の剥片の右側縁に粗い調整加工が施されている。4は微細剥離痕のある剥片である。厚みのある幅広の剥片の左側縁に微細剥離がみられる。5は縦長剥片である。単独母岩で搬入されている。

6(a+b)は厚みのある剥片を素材として上下両端から両極剥離が行われ、6bの剥片が剥離され6aの楔形石器が作出されている。7(a～e)は厚みのある剥片を素材としている。剥離順序は、上面下部を打面として7aと7(b+c)を剥離→上面左面を打面として裏面方向に横長剥片を数枚剥離→表面左下部を打面として裏面方向に7dの剥離となる。7eは石核である。

第3-34表 第3文化層第24ブロック組成表

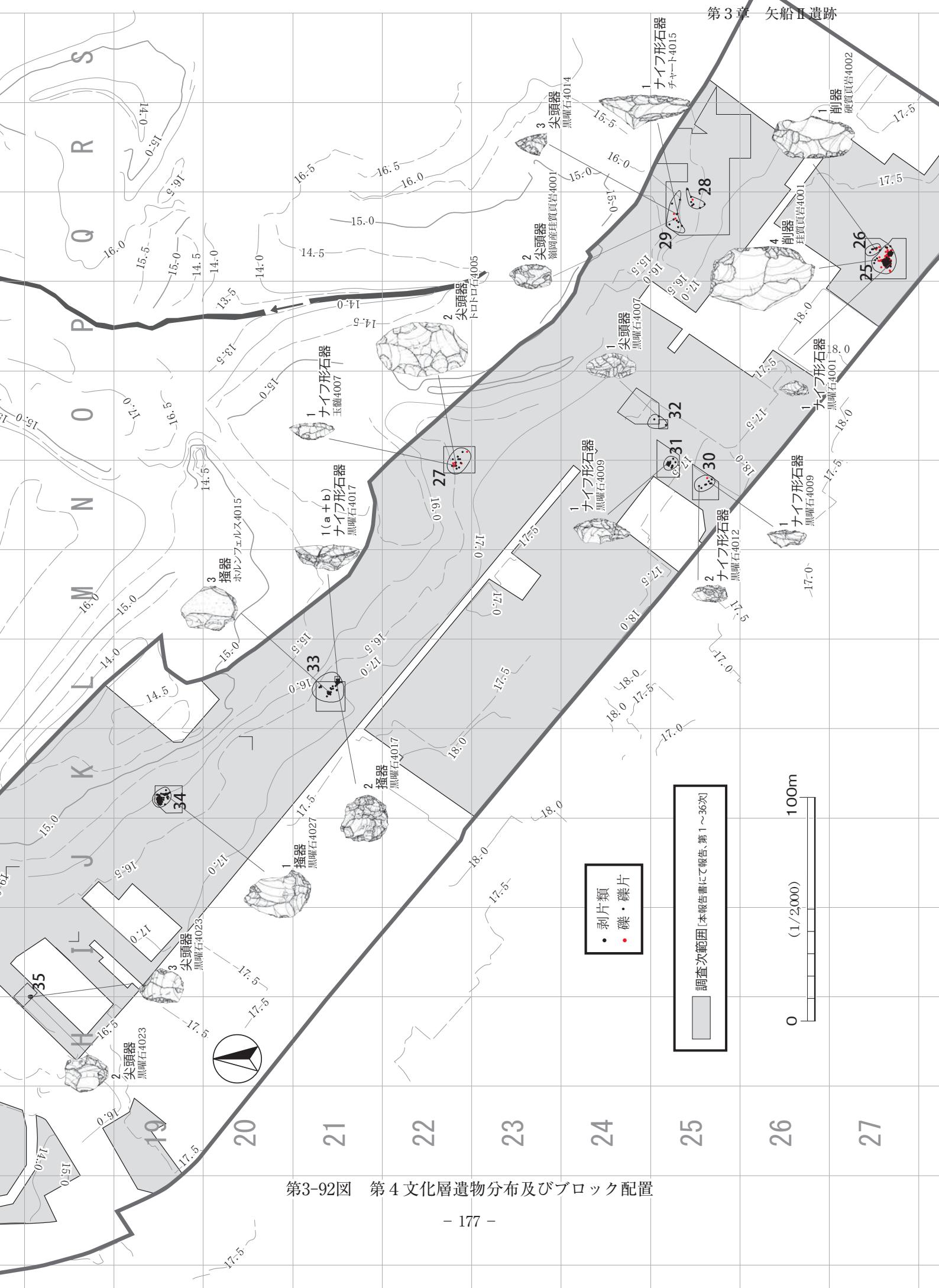
母岩	器種	母岩番号	楔形石器	二次加工のある剥片	微細剥離痕のある剥片	削片	剥片	碎片	石核	点数合計	点数比(%)	重量合計(g)	重量比(%)
黒曜石	3007		1				8	3	1	13	43.33	16.41	29.34
	3008	1		1			4			6	20.00	11.43	20.44
	3009		1	1	1	1	4	2		9	30.00	11.14	19.92
黒曜石合計		1	2	2		1	16	5	1	28	93.33	38.98	69.69
ガラス質黒色安山岩	3003						1			1	3.33	13.98	25.00
珪質頁岩	3001						1			1	3.33	2.97	5.31
全体点数合計		1	2	2		1	18	5	1	30	100.00	55.93	100.00

第5節 第4文化層

1 概要(第3-92図、第3-35・36表)

第4文化層の石器群は総計759点出土し、第25～35ブロックの11か所の集中地点で構成される。Ⅲ層下部～Ⅲ層中部に生活面を持つ石器群と推定される。調査区全域に分布している。ブロック間の接合資料は、隣接して分布する第25ブロックと第26ブロックとの接合資料が1個体(接4015)検出された。第4文化層の器種石材組成とブロック別組成は第3-35・36表のとおりである。

器種組成はナイフ形石器8点、尖頭器7点、削器4点、搔器4点、二次加工のある剥片29点、微細剥離痕のある剥片7点、剥片320点、碎片85点、石核20点の石器類484点と、礫10点・礫片265点の礫・礫片275点で構成される。ナイフ形石器・尖頭器・削器・搔器が本文化層を特徴づける器種である。また、礫・礫片の占める割合(36.23%)が高く、第25～29・34ブロックにおいて礫群を伴う。



第3-92図 第4文化層遺物分布及びブロック配置

石器類の石材は黒曜石171点、ホルンフェルス105点、ガラス質黒色安山岩79点、トロトロ石50点、チャート28点、玉髓13点、緑色凝灰岩10点、頁岩7点、硬質頁岩6点、珪質頁岩5点、嶺岡産珪質頁岩5点、黒色頁岩2点、流紋岩2点、砂岩1点で、黒曜石を主体とする。礫・礫片の石材は砂岩135点、チャート54点、流紋岩39点、石英斑岩37点、ホルンフェルス9点、安山岩1点で、砂岩を主体とする。

第3-35表 第4文化層器種石材組成表

石 材 器 種	ナ イ フ 形 石 器	尖 頭 器	削 器	搔 器	二 次 加 工 の あ る 剥 片	微 細 剥 離 痕 の あ る 剥 片	剥 片	碎 片	石 核	礫	点 数 合 計
黒曜石	5	7	1	2	14	4	74	61	3		171
ガラス質黒色安山岩	1					4		61	5	8	79
トロトロ石		1				1		35	9	4	50
安山岩										1	1
頁岩						4		3			7
珪質頁岩								5			5
嶺岡産珪質頁岩								3		2	5
硬質頁岩			2			1	1	2			6
黒色頁岩								2			2
玉髓	1					1	1	9	1		13
緑色凝灰岩						2		7	1		10
ホルンフェルス			1	2				94	6	2	8
チャート	1					2	1	22	1	1	52
砂岩									1		135
流紋岩								2		2	41
石英斑岩										4	33
全体点数合計	8	8	4	4	29	7	319	85	20	10	265
											759

2 第4文化層第25ブロック(第3-93~96図、第3-37表、図版9・17)

出土状況 調査区南西部のQ27-51・52・61~63・73グリッドに分布している。北に緩やかに傾斜する斜面の縁辺に立地する。北東側に第26ブロックが分布しており、第26ブロックと接合する資料が1個体(接4015)検出された。8.4m×11.2mの範囲から391点の石器が出土した。南西部・南東部・北部の3か所の集中地点がみられる。南西部・南東部は密集し、北部は散漫に分布している。礫・礫片は南西部・南東部において石器類と混在している。VI層からIIc層にかけて出土し、III層下部~III層中部に集中する。

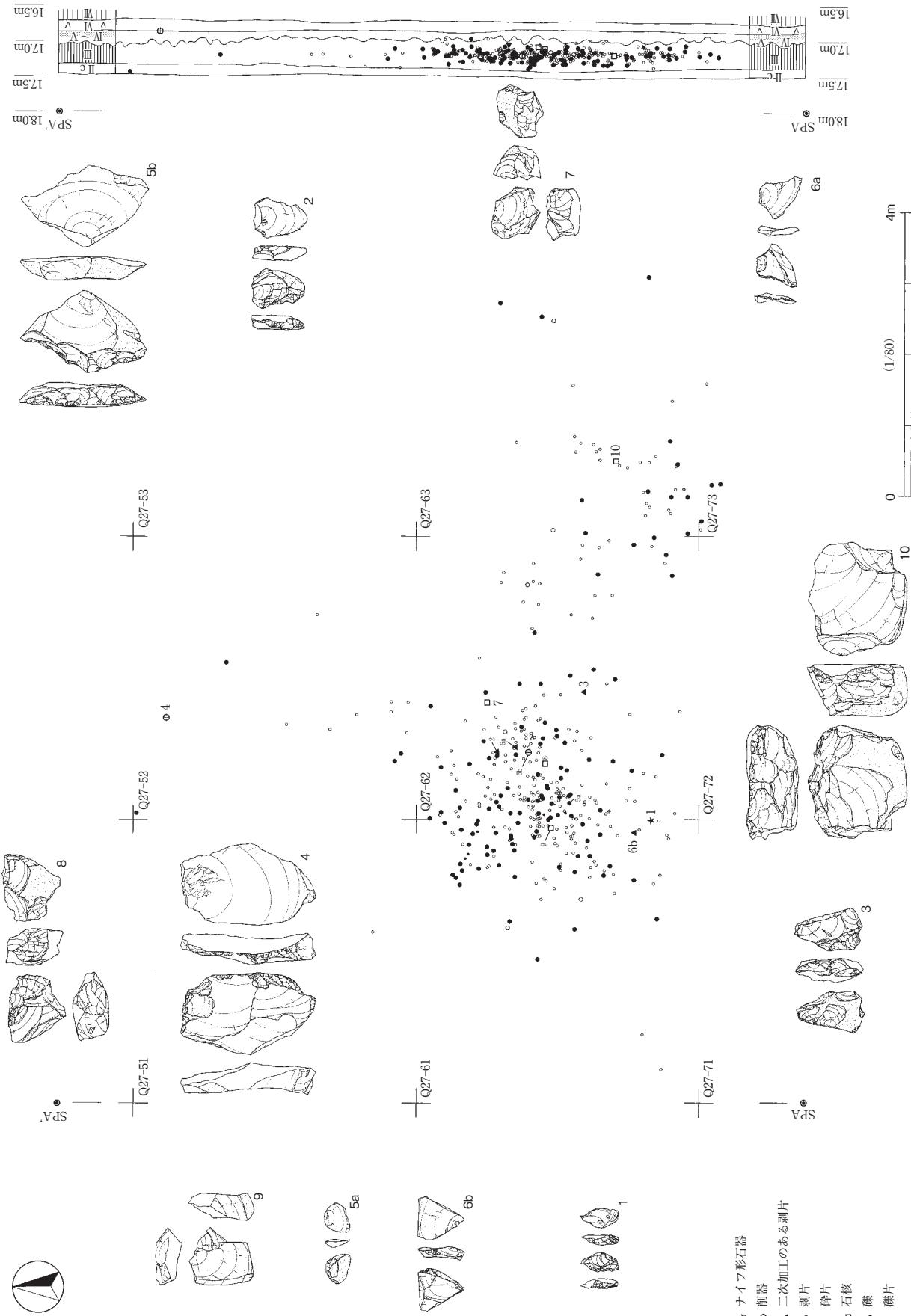
出土遺物 器種組成はナイフ形石器1点、削器2点、二次加工のある剥片4点、剥片119点、碎片5点、石核4点の石器類135点と礫6点、礫片250点の礫・礫片256点で構成される。石器類の石材はホルンフェルス89点、チャート16点、緑色凝灰岩10点、ガラス質黒色安山岩6点、嶺岡産珪質頁岩5点、玉髓3点、珪質頁岩2点、黒曜石1点、トロトロ石1点、硬質頁岩1点、流紋岩1点である。礫・礫片の石材は砂岩127点、チャート52点、流紋岩35点、石英斑岩34点、ホルンフェルス7点、安山岩1点である。

1はナイフ形石器である。小型の横長剥片を横位に用いて左側縁と右側縁下部に急角度の調整加工が施されている。素材の打面は右側縁中部に残っている。下端部は折れている。2・3は二次加工のある剥片である。2は幅広の剥片を素材として左側縁と右側縁上部に粗い調整加工が施されている。3は厚みのある横長剥片を素材として右側縁と下端部に粗い調整加工が施されている。4は削器である。左側縁下部に石核の底面を取り込んだ幅広の剥片を素材としている。右側縁上部から下部にかけて裏面側から平坦な調整加工が施され、右側縁下端部は表面側から裏面方向に抉状の調整加工が施されている。

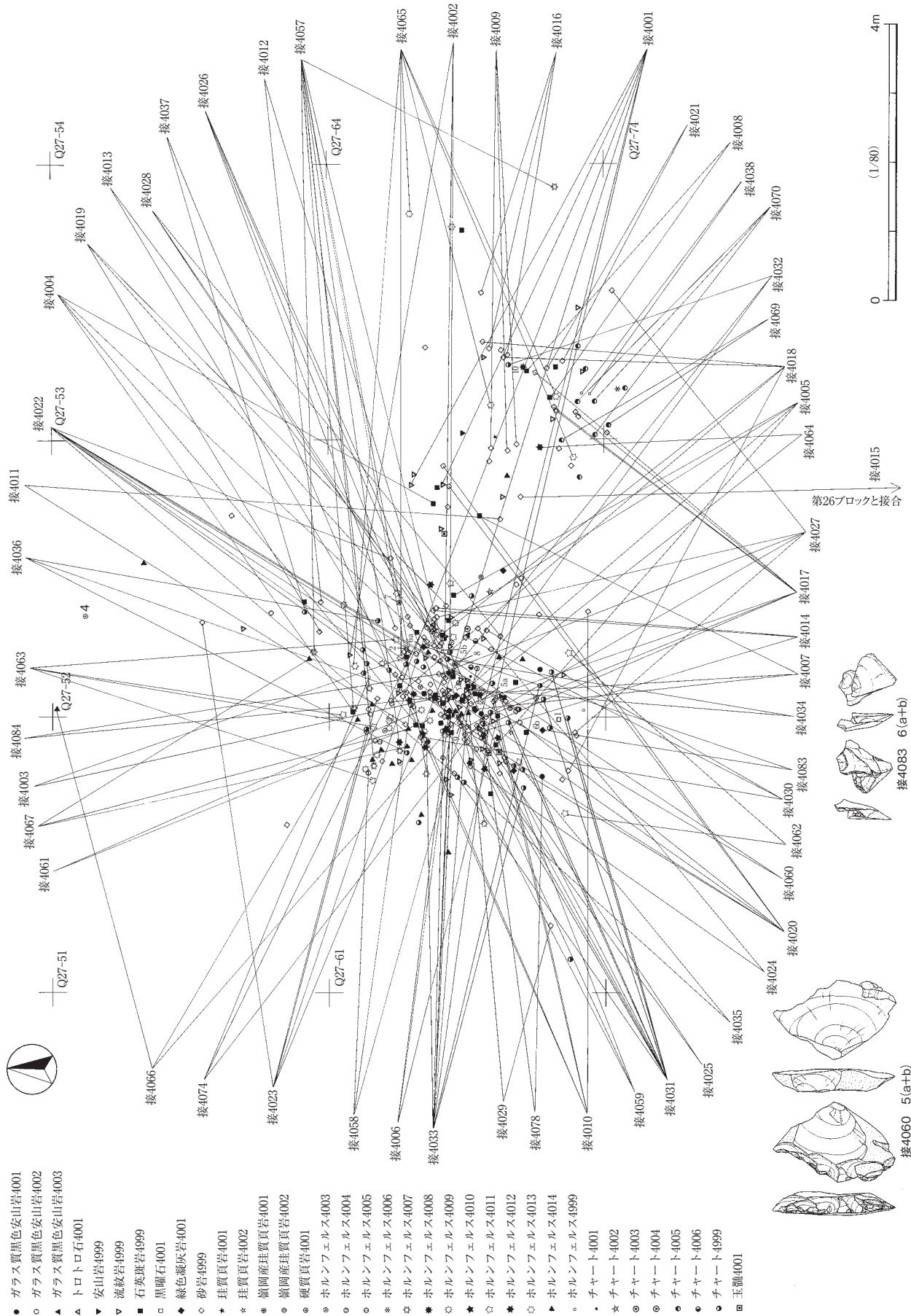
5は削器と調整剥片の接合資料である。横長剥片を素材とし、素材の末端部にあたる左側縁に急角度の

第3-36表 第4文化層ブロック別組成表

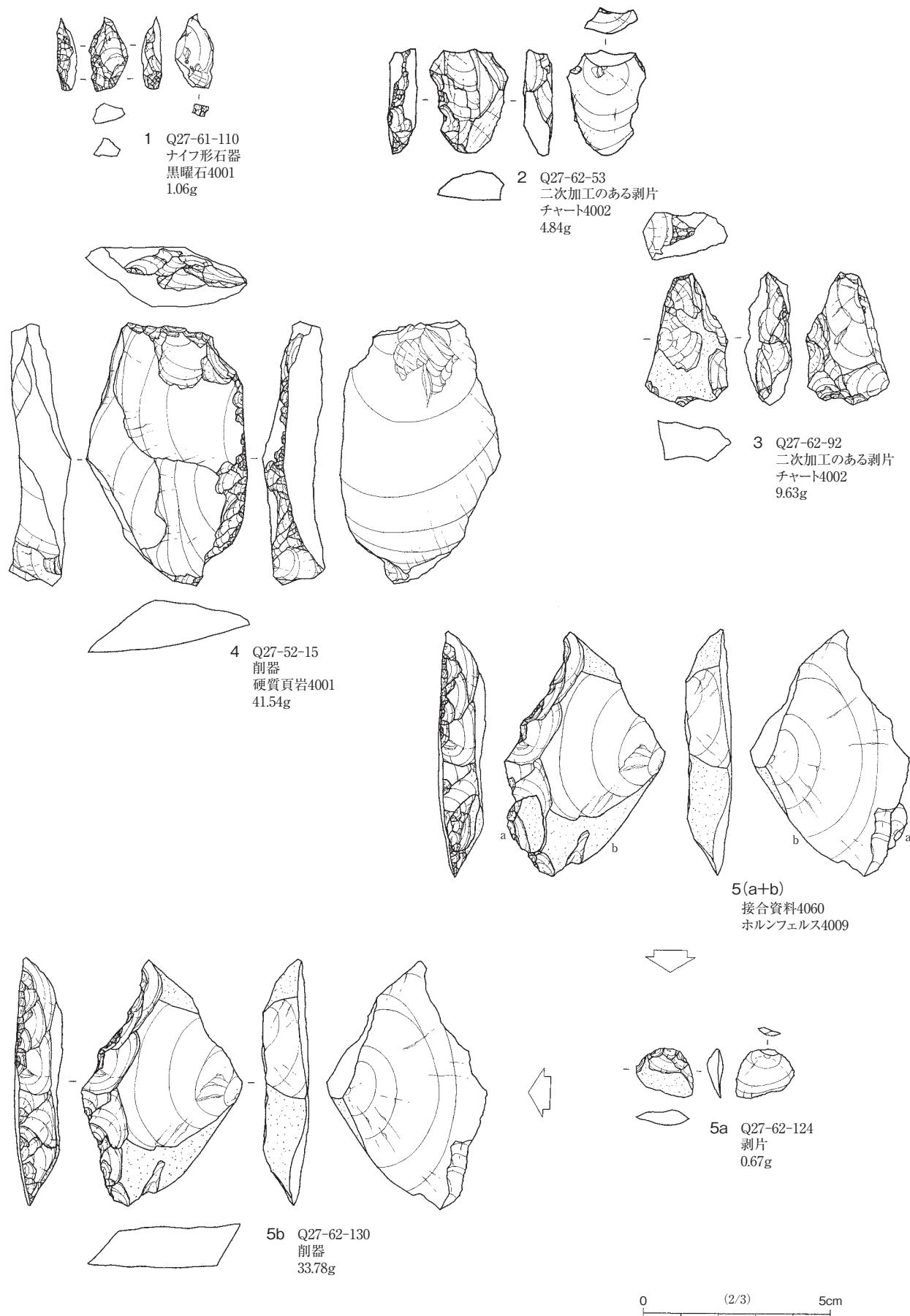
ブ ロ ッ ク	石 材	ナ イ フ 形 石 器	尖 頭 器	削 器	搔 器	二 次 加 工 の 有 る 剥 片	微 細 剥 離 痕 の 有 る 剥 片	剥 片	碎 片	石 核	礫	礫 片	点 数 合 計
25	黒曜石 ガラス質黒色安山岩 トロトロ石 安山岩 珪質頁岩 嶺岡産珪質頁岩 硬質頁岩 玉髓 緑色凝灰岩 ホルンフェルス チヤート 砂岩 流紋岩 石英斑岩	1						5	1				1
								1					6
													1
											1		1
								2					2
								3	2				5
													1
						1							3
								3					3
								2	1				10
									7				
									83	4	1	7	96
									14			1	51
													68
													127
													35
													36
											4	30	34
第 25 ブロック合計		1		2		4		119	5	4	6	250	391
26	珪質頁岩 硬質頁岩 玉髓 チヤート 砂岩							1					1
									1				3
									1				1
											1		2
												1	1
第 26 ブロック合計			1		1	1		2	1		1	1	8
27	ガラス質黑色安山岩 トロトロ石 玉髓 ホルンフェルス 砂岩 流紋岩 石英斑岩							2					2
									1				2
									1				8
													1
													5
													5
													1
													2
第 27 ブロック合計		1	1			1	1	8				9	21
28	黒曜石 硬質頁岩 黑色頁岩 チヤート 砂岩 石英斑岩								1				1
									1				1
									1				1
									1	3			4
													1
													1
第 28 ブロック合計			1	1				1	6			2	9
29	黒曜石 珪質頁岩 硬質頁岩 ホルンフェルス チヤート		2										2
													2
									2				1
									1				1
											1		1
													1
第 29 ブロック合計		1	2					7			1	1	12
30	黒曜石 ガラス質黑色安山岩 チヤート 砂岩		1					1					3
			1					1		1			4
									1				1
													1
第 30 ブロック合計		2				2		2	1	1		1	9
31	黒曜石 2	1				5		14	6	1			27
32	黒曜石 黑色頁岩		2					1					3
第 32 ブロック合計		2						2					4
33	黒曜石 ガラス質黑色安山岩 ホルンフェルス チヤート		2		1	4	3	14	7	1			32
								5					5
								3					5
											1		1
第 33 ブロック合計		2			3	4	3	22	7	2			43
34	黒曜石 ガラス質黑色安山岩 トロトロ石 頁岩 玉髓 ホルンフェルス 流紋岩		1	1	4	1	12	11	1				31
						3		49	4	6			62
						1		33	9	4			47
						4		3					7
									1				1
													11
								8	2	1			3
第 34 ブロック合計			1	1	12	1	105	27	12	2	1		162
35	黒曜石 砂岩 流紋岩		3					31	37				71
									1				1
													1
第 35 ブロック合計		3						32	38				73
全 体 点 数 合 計		8	8	4	4	29	7	319	85	20	10	265	759



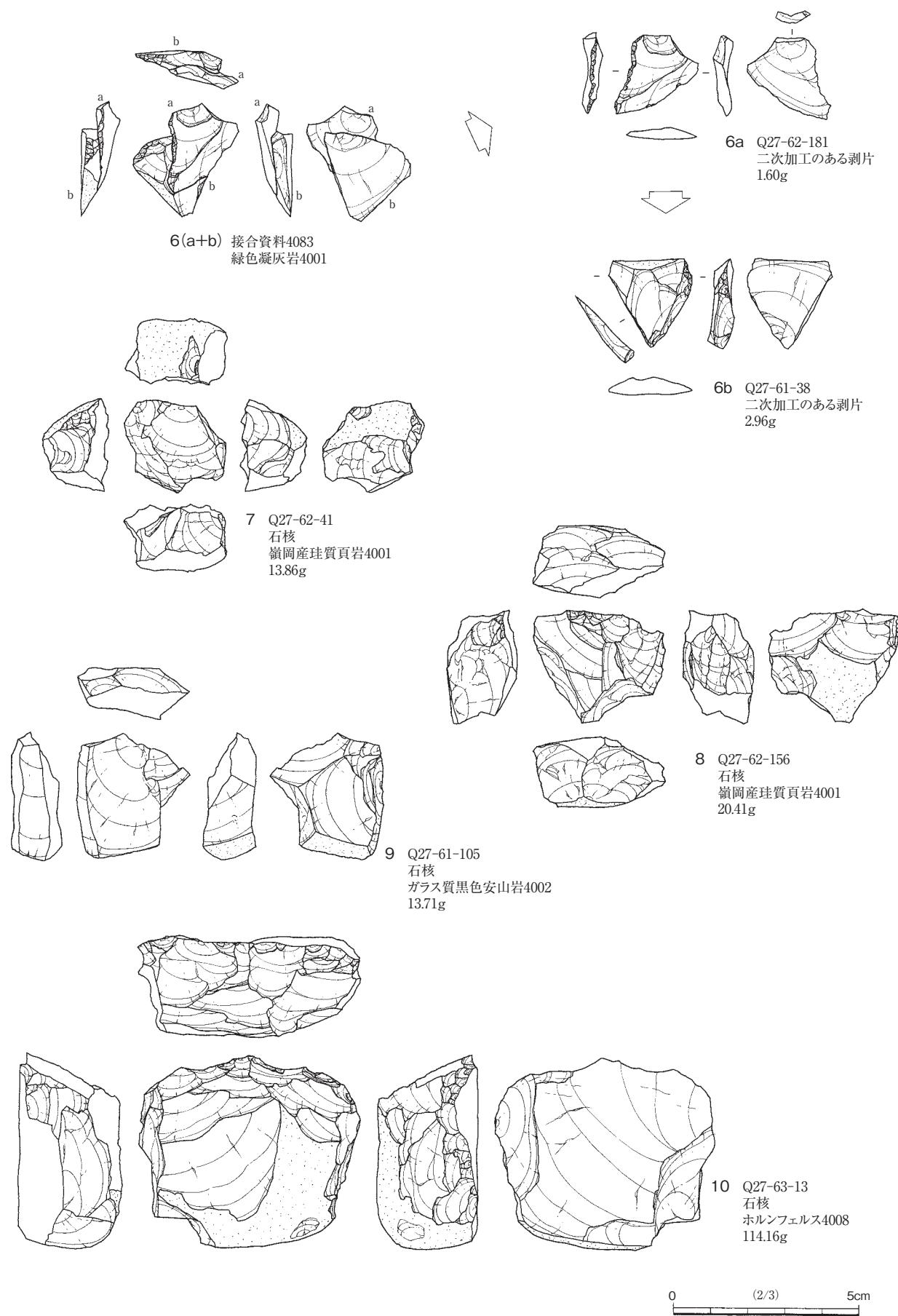
第3-93図 第4文化層第25ブロック器種別分布



第3-94図 第4文化層第25ブロック母岩別分布



第3-95図 第4文化層第25ブロック出土石器(1)



第3-96図 第4文化層第25ブロック出土石器(2)

第3-37表 第4文化層第25ブロック組成表

母岩 \ 器種	母岩番号	ナイフ形 石器	削器	二次加工の ある剥片	剥片	碎片	石核	礫	礫片	点数合計	点数比 (%)	重量合計 (g)	重量比 (%)	
黒曜石	4001	1								1	0.26	1.06	0.01	
ガラス質黒色安山岩	4001				3					3	0.77	13.35	0.15	
	4002				1		1			2	0.51	15.26	0.17	
	4003				1					1	0.26	3.85	0.04	
ガラス質黒色安山岩 合計					5		1			6	1.53	32.46	0.35	
トロトロ石	4001				1					1	0.26	1.80	0.02	
安山岩	4999							1		1	0.26	134.52	1.47	
珪質頁岩	4001				1					1	0.26	5.25	0.06	
	4002				1					1	0.26	3.68	0.04	
珪質頁岩 合計					2					2	0.51	8.93	0.10	
嶺岡産珪質頁岩	4001				1		2			3	0.77	35.15	0.38	
	4002				2					2	0.51	17.75	0.19	
嶺岡産珪質頁岩 合計					3		2			5	1.28	52.90	0.58	
硬質頁岩	4001		1							1	0.26	41.54	0.45	
玉髓	4001				3					3	0.77	7.16	0.08	
緑色凝灰岩	4001			2	7	1				10	2.56	30.87	0.34	
ホルンフェルス	4003				4					4	1.02	92.18	1.01	
	4004				3					3	0.77	19.62	0.21	
	4005				1					1	0.26	14.00	0.15	
	4006				1					1	0.26	7.03	0.08	
	4007				9					9	2.30	47.54	0.52	
	4008				1		1			2	0.51	114.53	1.25	
	4009	1			13	2				16	4.09	74.57	0.81	
	4010				3					3	0.77	148.30	1.62	
	4011				12					12	3.07	80.33	0.88	
	4012				7					7	1.79	43.51	0.47	
	4013				9					9	2.30	101.54	1.11	
	4014				20	2				22	5.63	73.37	0.80	
	4999									7	1.79	439.20	4.79	
ホルンフェルス 合計		1			83	4	1			96	24.55	1,255.72	13.69	
チャート	4001				1					1	0.26	4.18	0.05	
	4002			2						2	0.51	14.47	0.16	
	4003				1					1	0.26	6.01	0.07	
	4004				1					1	0.26	2.27	0.02	
	4005				9					9	2.30	92.16	1.00	
	4006				2					2	0.51	1.68	0.02	
4999								1	51	52	13.30	424.44	4.63	
チャート 合計				2	14			1	51	68	17.39	545.21	5.95	
砂岩	4999									127	127	32.48	4,376.79	47.73
流紋岩	4999				1					35	36	9.21	641.82	7.00
石英斑岩	4999							4	30	34	8.70	2,039.85	22.24	
全 体 点 数 合 計	1	2	4	119	5	4	6	250	391	100.00	9,170.63	100.00		

調整加工が施されている。5aは削器の調整加工を行った際に剥離された剥片である。削器である5bの先端部は尖った形状をしている。6(a+b)は上面を打面として6aと6bを連続剥離している。6aは右側縁と左側縁上部に粗い調整加工、6bは両側縁を折断した後、右側縁上部に急角度の調整加工が施されている。

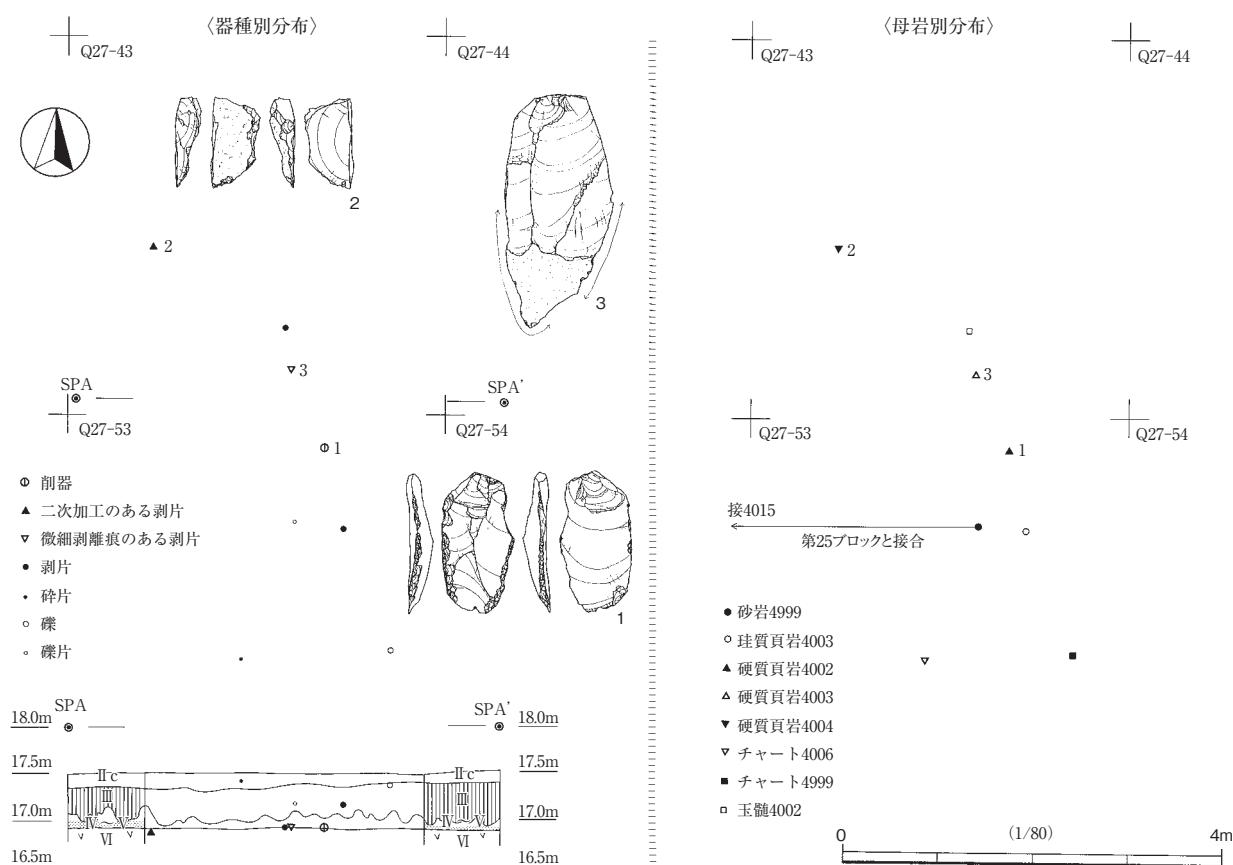
7～10は石核であり、いずれも分割礫を素材としている。7の剥離順序は、左面を打面とし裏面方向に剥片を剥離→上面を打面とし表面方向に幅広の剥片を剥離→裏面右部を打面とし左面方向に横長剥片の剥離となる。8の剥離順序は、表面右上部から左上部に打点を転移しながら裏面方向に横長剥片を剥離→裏面の周縁部を打面とし順次打点を転移しながら表面方向に横長剥片を剥離となる。9の剥離順序は、左面を打面とし裏面方向に横長剥片を剥離→上面を打面とし表面方向に縦長剥片を剥離となる。10の剥離順序は、右面上部を打面とし裏面方向に横長剥片を剥離→裏面右上部から左上部にかけて打点を順次移動させ、右面と上面方向に横長剥片を剥離→表面左下部を打面とし左面方向に横長剥片を剥離となる。

3 第4文化層第26ブロック(第3-97・98図、第3-38表、図版9・17)

出土状況 調査区南西部のQ27-43・53グリッドに分布している。北に緩やかに傾斜する斜面の縁辺に立地する。南西側に隣接する第25ブロックと接合する資料が1個体(接4015)検出された。4.4m×2.6mの範囲から8点の石器が出土した。IV層からⅡc層にかけて出土し、Ⅲ層下部～Ⅲ層中部に集中する。

出土遺物 器種組成は削器1点、二次加工のある剥片1点、微細剥離痕のある剥片1点、剥片2点、碎片1点の石器類6点と礫1点、礫片1点の礫・礫片2点で構成される。石器類の石材は硬質頁岩3点、珪質頁岩1点、玉髓1点、チャート1点である。礫・礫片の石材はチャート1点、砂岩1点である。

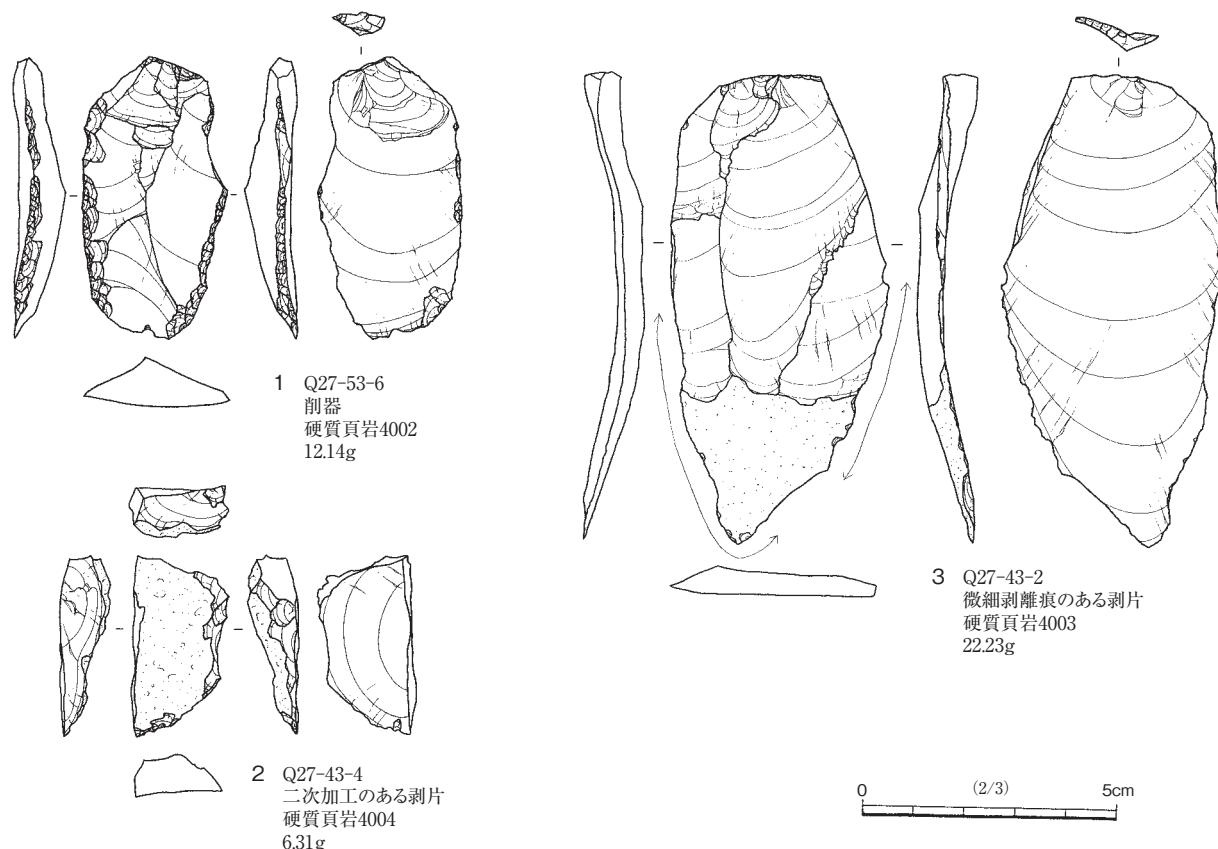
1は削器である。石刃を素材として両側縁に平坦な調整加工が施されている。2は二次加工のある剥片である。幅広の剥片を素材として左側縁と上面を折断した後に、右側面に平坦な調整加工が施されている。



第3-97図 第4文化層第26ブロック遺物分布

第3-38表 第4文化層第26ブロック組成表

母岩	器種	母岩番号	削器	二次加工のある剥片	微細剥離痕のある剥片	剥片	碎片	礫	礫片	点数合計	点数比 (%)	重量合計 (g)	重量比 (%)
珪質頁岩		4003				1				1	12.50	1.68	1.37
硬質頁岩		4002	1							1	12.50	12.14	9.89
		4003			1					1	12.50	22.23	18.11
		4004		1						1	12.50	6.31	5.14
硬質頁岩	合計		1	1	1					3	37.50	40.68	33.14
玉髓		4002				1				1	12.50	0.88	0.72
チャート		4006					1			1	12.50	0.10	0.08
		4999						1		1	12.50	57.71	47.01
チャート	合計						1	1		2	25.00	57.81	47.09
砂岩		4999							1	1	12.50	21.71	17.68
全 体	点 数 合 計		1	1	1	2	1	1	1	8	100.00	122.76	100.00



第3-98図 第4文化層第26ブロック出土石器

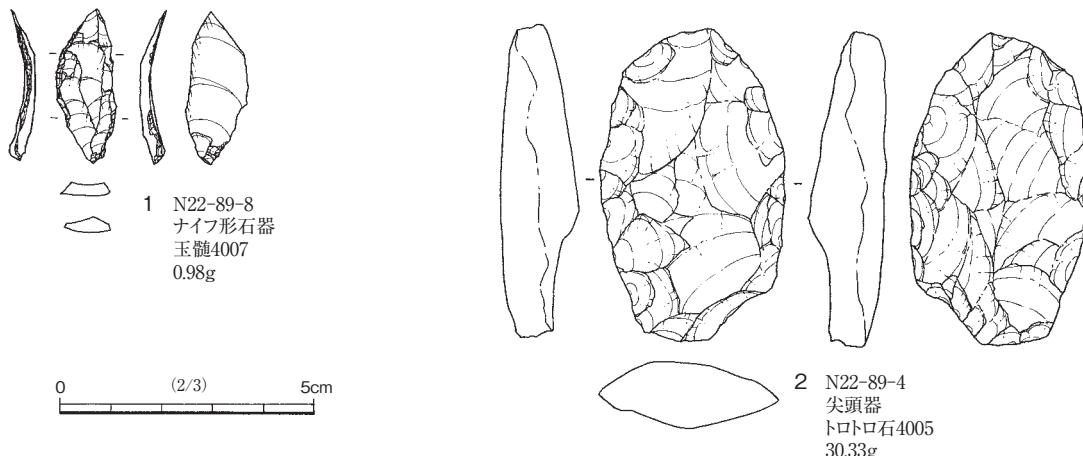
3は微細剥離痕のある剥片である。石刃を素材として両側縁下部に微細剥離がみられる。

4 第4文化層第27ブロック(第3-99・100図、第3-39表、図版9・17)

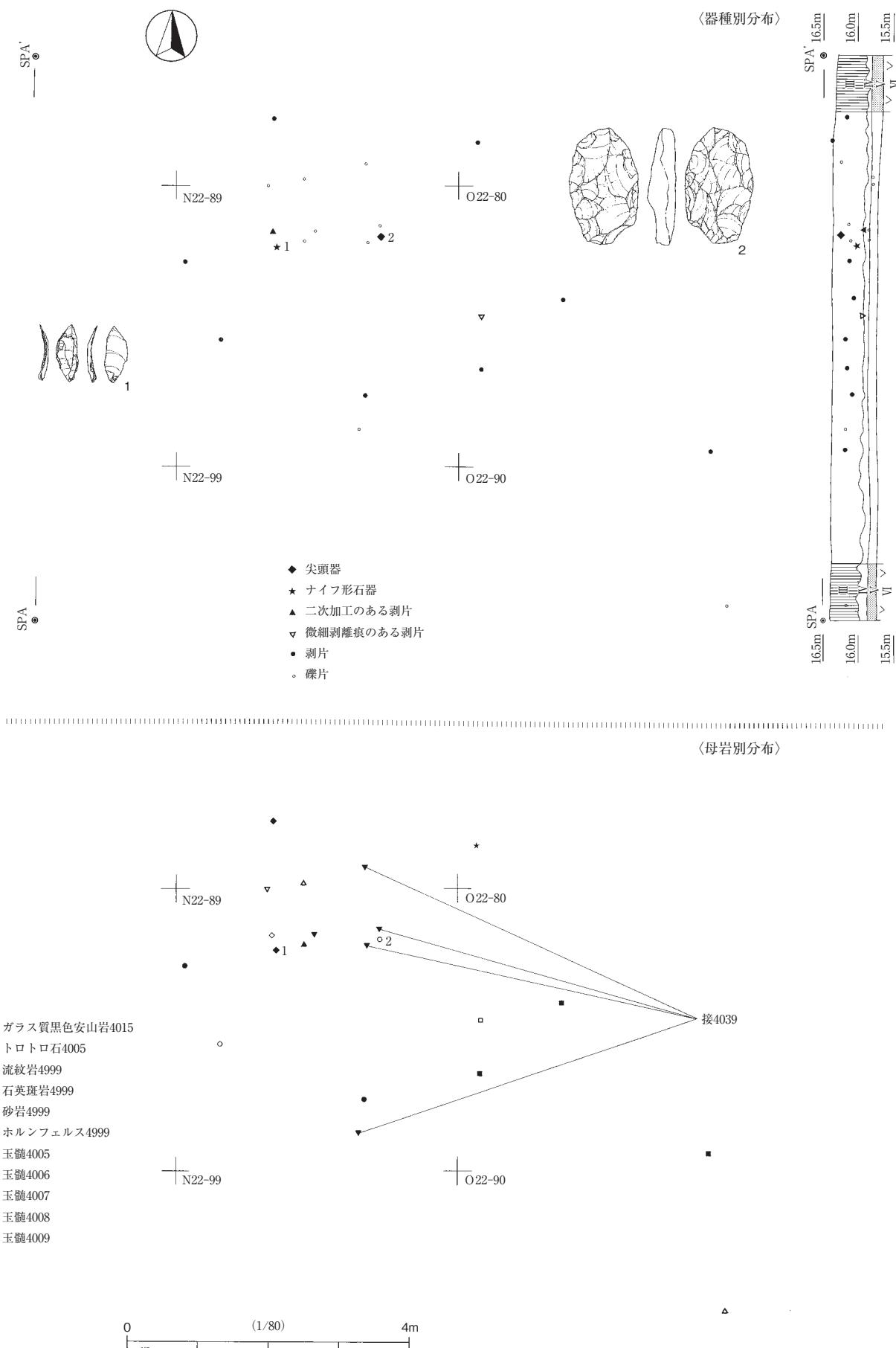
出土状況 調査区中央部東寄りのN22-79・89、O22-70・80・90グリッドに分布している。北に傾斜する斜面の縁辺に立地する。7.0m×7.8mの範囲から21点の石器が出土した。北西部・南東部の2か所の集中地点がみられる。北西部は密集し、南西部は散漫に分布している。石器類と礫・礫片は混在して分布しており、北西部の東側に集中する。V層からⅢ層にかけて出土しており、Ⅲ層下部～Ⅲ層中部に集中する。

出土遺物 器種組成はナイフ形石器1点、尖頭器1点、二次加工のある剥片1点、微細剥離痕のある剥片1点、剥片8点の石器類12点と礫片9点である。石器類の石材は玉髓8点、ガラス質黒色安山岩2点、トロトロ石2点、礫片は、砂岩5点、石英斑岩2点、ホルンフェルス1点、流紋岩1点である。

1はナイフ形石器である。小型の石刃を素材として右側縁と左側縁下部に急角度の調整加工が施されて



第3-99図 第4文化層第27ブロック出土石器



第3-100図 第4文化層第27ブロック遺物分布

いる。裏面下部は打瘤を除去するような平坦な調整加工が施されている。2は尖頭器である。幅広の剥片を素材としてほぼ全面に平坦な調整加工が施されている。裏面上部中央付近に素材の主要剥離面が残されている。先端部と基部に最終剥離面がみられることから、先端部と基部が破損したものを再生加工した可能性がある。

第3-39表 第4文化層第27ブロック組成表

母岩	器種	母岩番号	ナイフ形石器	尖頭器	二次加工のある剥片	微細剥離痕のある剥片	剥片	礫片	点数合計	点数比(%)	重量合計(g)	重量比(%)
ガラス質黒色安山岩		4015					2		2	9.52	9.87	0.78
トロトロ石		4005		1			1		2	9.52	31.33	2.49
玉髓		4005					3		3	14.29	0.55	0.04
		4006				1			1	4.76	7.41	0.59
		4007	1				1		2	9.52	8.94	0.71
		4008			1				1	4.76	2.66	0.21
		4009					1		1	4.76	0.20	0.02
玉 體 合 計			1		1	1	5		8	38.10	19.76	1.57
ホルンフェルス		4999						1	1	4.76	114.36	9.09
砂 岩		4999						5	5	23.81	790.20	62.79
流 紋 岩		4999						1	1	4.76	115.81	9.20
石 英 斑 岩		4999						2	2	9.52	177.12	14.07
全 体 点 数 合 計			1	1	1	1	8	9	21	100.00	1,258.45	100.00

5 第4文化層第28ブロック(第3-101・102図、第3-40表、図版9・17)

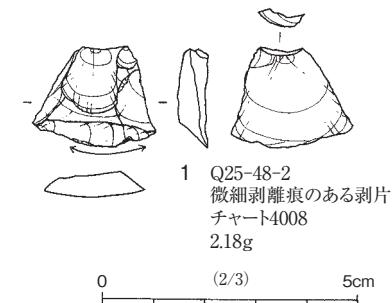
出土状況 調査区南西部のQ25-48・49・58・68、R25-40グリッドに分布している。北東に傾斜する斜面の縁辺に立地する。北西側に隣接して第29ブロックが分布している。7.6m×8.4mの範囲から9点の石器が出土した。北東部・南西部の2か所の集中地点に散漫に分布しており、V層～IV層下部に集中する。

出土遺物 器種組成は微細剥離痕のある剥片1点、剥片6点の石器類7点と礫片2点で構成される。石器類の石材はチャート4点、黒曜石1点、硬質頁岩1点、黑色頁岩1点である。礫片の石材は砂岩1点、石英斑岩1点である。

1は微細剥離痕のある剥片である。幅広の剥片を素材として末端部に微細剥離がみられる。

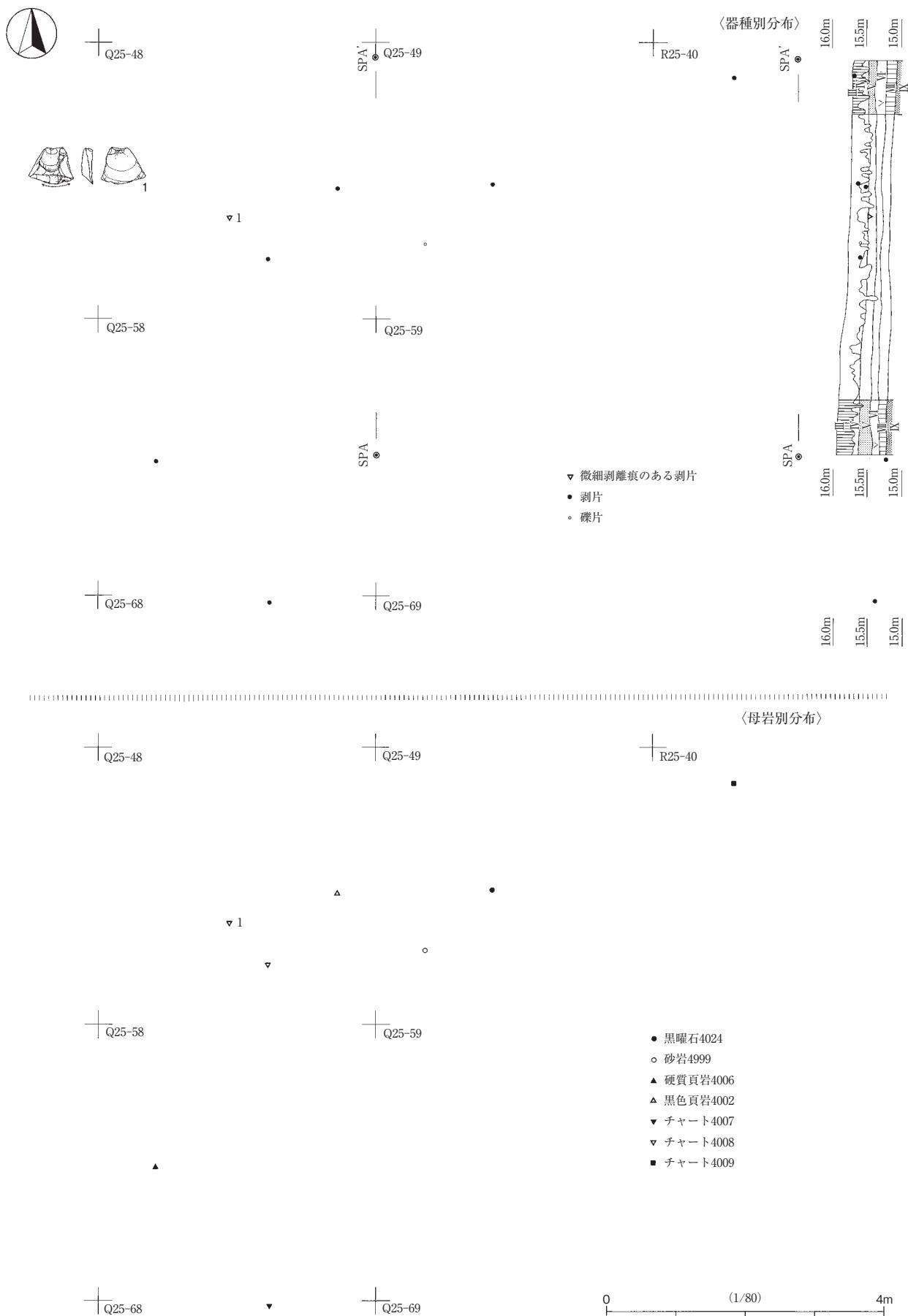
第3-40表 第4文化層第28ブロック組成表

母岩	器種	母岩番号	微細剥離痕のある剥片	剥片	礫片	点数合計	点数比(%)	重量合計(g)	重量比(%)
黒曜石		4024		1		1	11.11	0.73	1.78
硬質頁岩		4006		1		1	11.11	1.11	2.71
チャート		4002		1		1	11.11	5.74	14.01
		4007		1		1	11.11	5.80	14.16
		4008	1	1		2	22.22	4.39	10.72
		4009		1		1	11.11	2.78	6.79
チャート	合 計		1	3		4	44.44	12.97	31.66
砂 岩		4999			1	1	11.11	0.36	0.88
石 英 斑 岩		4999			1	1	11.11	20.06	48.96
全 体 点 数 合 計			1	6	2	9	100.00	40.97	100.00

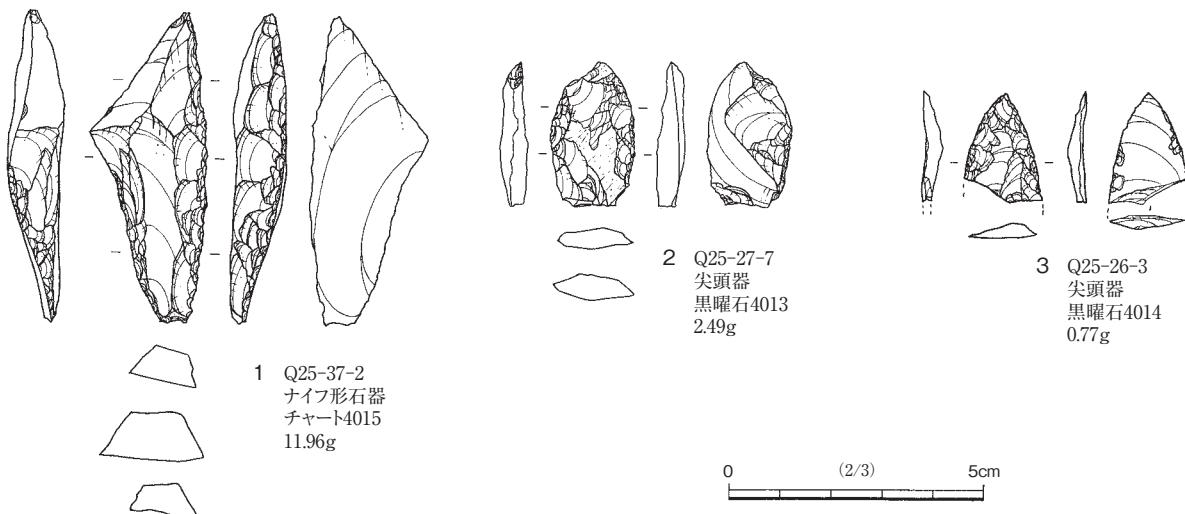
第3-101図 第4文化層
第28ブロック出土石器

6 第4文化層第29ブロック(第3-103・104図、第3-41表、図版9・17)

出土状況 調査区南西部のQ25-26～28・36・37・39グリッドに分布している。北に傾斜する斜面の縁辺に立地する。南西側に隣接して第28ブロックが分布している。5.7m×12.4mの範囲から12点の石器が出土した。西部・東部の2か所の集中地点がみられ、どちらも散漫に分布している。VI層からIII層にかけて出土しており、III層下部～III層中部に集中する。



第3-102図 第4文化層第28ブロック遺物分布



第3-103図 第4文化層第29ブロック出土石器

第3-41表 第4文化層第29ブロック組成表

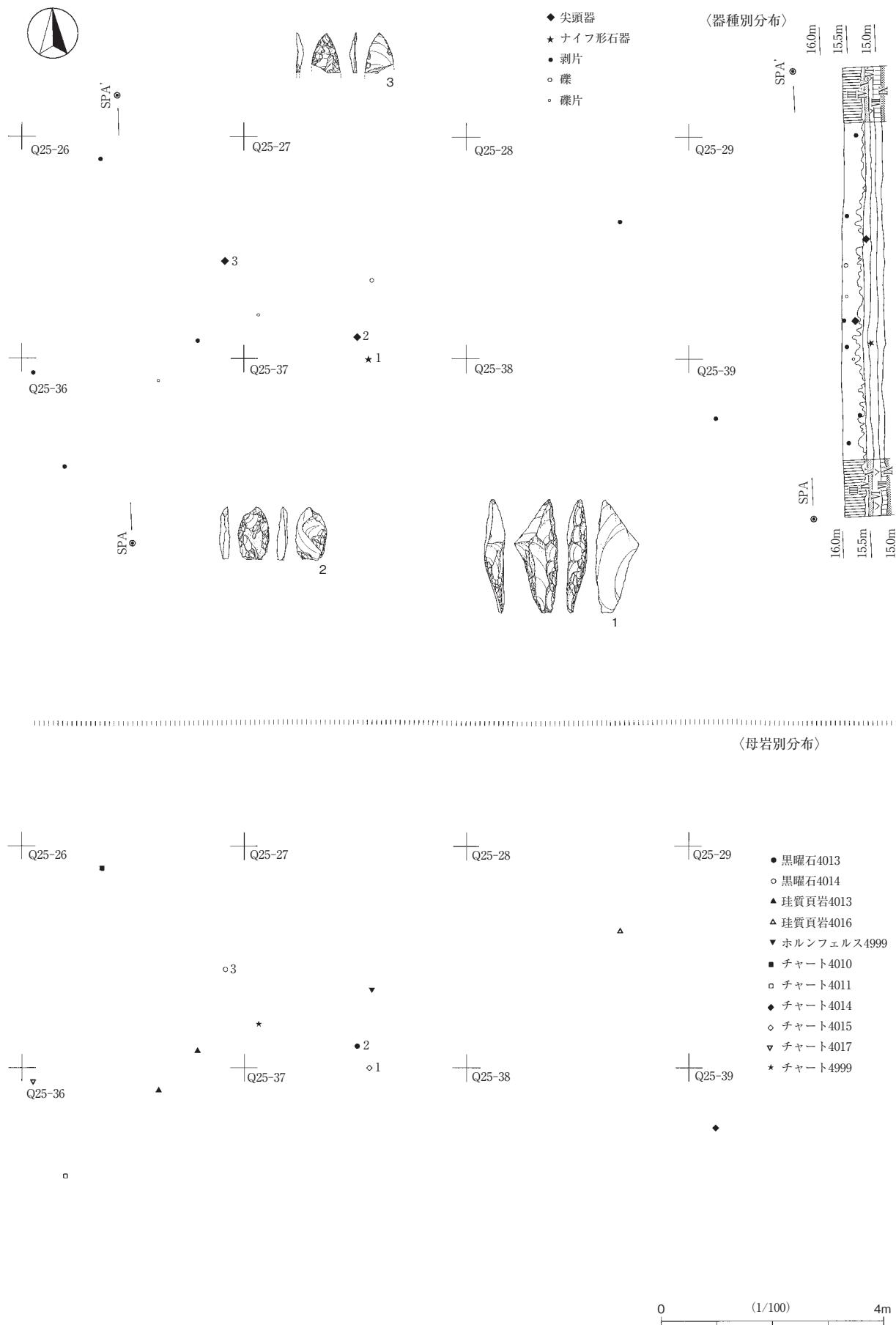
母岩	器種	母岩番号	ナイフ形石器	尖頭器	剥片	礫	礫片	点数合計	点数比 (%)	重量合計 (g)	重量比 (%)
黒曜石		4013		1				1	8.33	2.49	2.75
		4014		1				1	8.33	0.77	0.85
黒曜石	合計			2				2	16.67	3.26	3.60
珪質頁岩	4013				2			2	16.67	1.23	1.36
硬質頁岩	4016				1			1	8.33	0.45	0.50
ホルンフェルス	4999					1		1	8.33	67.47	74.54
チャート	4010				1			1	8.33	0.91	1.01
	4011				1			1	8.33	1.92	2.12
	4012				1			1	8.33	0.63	0.70
	4015	1						1	8.33	11.96	13.21
	4017				1			1	8.33	0.31	0.34
	4999						1	1	8.33	2.38	2.63
チャート	合計		1		4		1	6	50.00	18.11	20.01
全体	点数合計		1	2	7	1	1	12	100.00	90.52	100.00

出土遺物 器種組成はナイフ形石器1点、尖頭器2点、剥片7点の石器類10点と礫1点、礫片1点の礫・礫片2点である。石器類の石材はチャート5点、黒曜石2点、珪質頁岩2点、硬質頁岩1点で、礫・礫片の石材はホルンフェルス1点、チャート1点である。

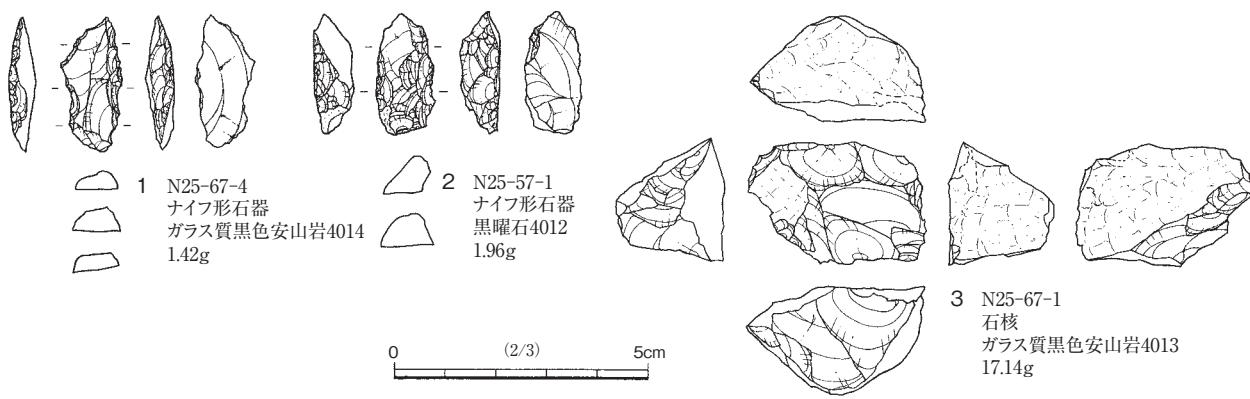
1はナイフ形石器であり、切出形の形態をしている。横長剥片を横位に用いて右側縁と左側縁下部に急角度の調整加工が施されている。2・3は尖頭器である。2は横長剥片を素材として表面は周縁部からほぼ全周に平坦な調整加工が施され、裏面右上部は打瘤を除去するような平坦な調整加工が施されている。3は縦長剥片を素材とし、表面は周縁部から平坦剥離が施されている。器体の中央部から破損しており、先端部が残存している。

7 第4文化層第30ブロック(第3-105・106図、第3-42表、図版10・17)

出土状況 調査区中央部東寄りのN25-56・57・67・68グリッドに分布している。北西に緩やかに傾斜する斜面の縁辺に立地する。東側に近接して第31・32ブロックが分布している。5.7m×4.6mの範囲から9点の石器が出土した。北西部・南東部の2か所の集中地点がみられる。どちらも散漫に分布している。V



第3-104図 第4文化層第29ブロック遺物分布



第3-105図 第4文化層第30ブロック出土石器

第3-42表 第4文化層第30ブロック組成表

母岩	器種	母岩番号	ナイフ形石器	二次加工のある剥片	剥片	碎片	石核	礫片	点数合計	点数比 (%)	重量合計 (g)	重量比 (%)
黒曜石		4011		1	1				2	22.22	6.32	9.39
		4012	1						1	11.11	1.96	2.91
黒曜石合計			1	1	1				3	33.33	8.28	12.30
ガラス質黒色安山岩		4013		1		1	1		3	33.33	18.67	27.72
		4014	1						1	11.11	1.42	2.11
ガラス質黒色安山岩合計			1	1		1	1		4	44.44	20.09	29.83
チャート		4014			1				1	11.11	0.62	0.92
砂岩		4999						1	1	11.11	38.35	56.95
全体点数合計			2	2	2	1	1	1	9	100.00	67.34	100.00

層からⅢ層にかけて出土しており、Ⅲ層下部～Ⅲ層中部に集中する。

出土遺物 器種組成はナイフ形石器2点、二次加工のある剥片2点、剥片2点、碎片1点、石核1点の石器類8点と礫片1点で構成される。石器類の石材はガラス質黒色安山岩4点、黒曜石3点、チャート1点で、礫片の石材は砂岩1点である。

1・2はナイフ形石器である。どちらも切出形の形態で、大きさは異なるが第29ブロック1のナイフ形石器と類似する。1は横長剥片を横位に用い右側縁と左側縁下部に急角度の調整加工が施されている。2は横長剥片を横位に用い右側縁と左側縁下部に急角度の調整加工が施されている。3は石核であり、厚みのある剥片を素材とする。剥離順序は、表面下部を打面とし下面方向に横長剥片を剥離→下面上部を打面とし表面方向に小型の横長剥片を剥離→上面下部を打面とし表面方向に小型の横長剥片の剥離となる。

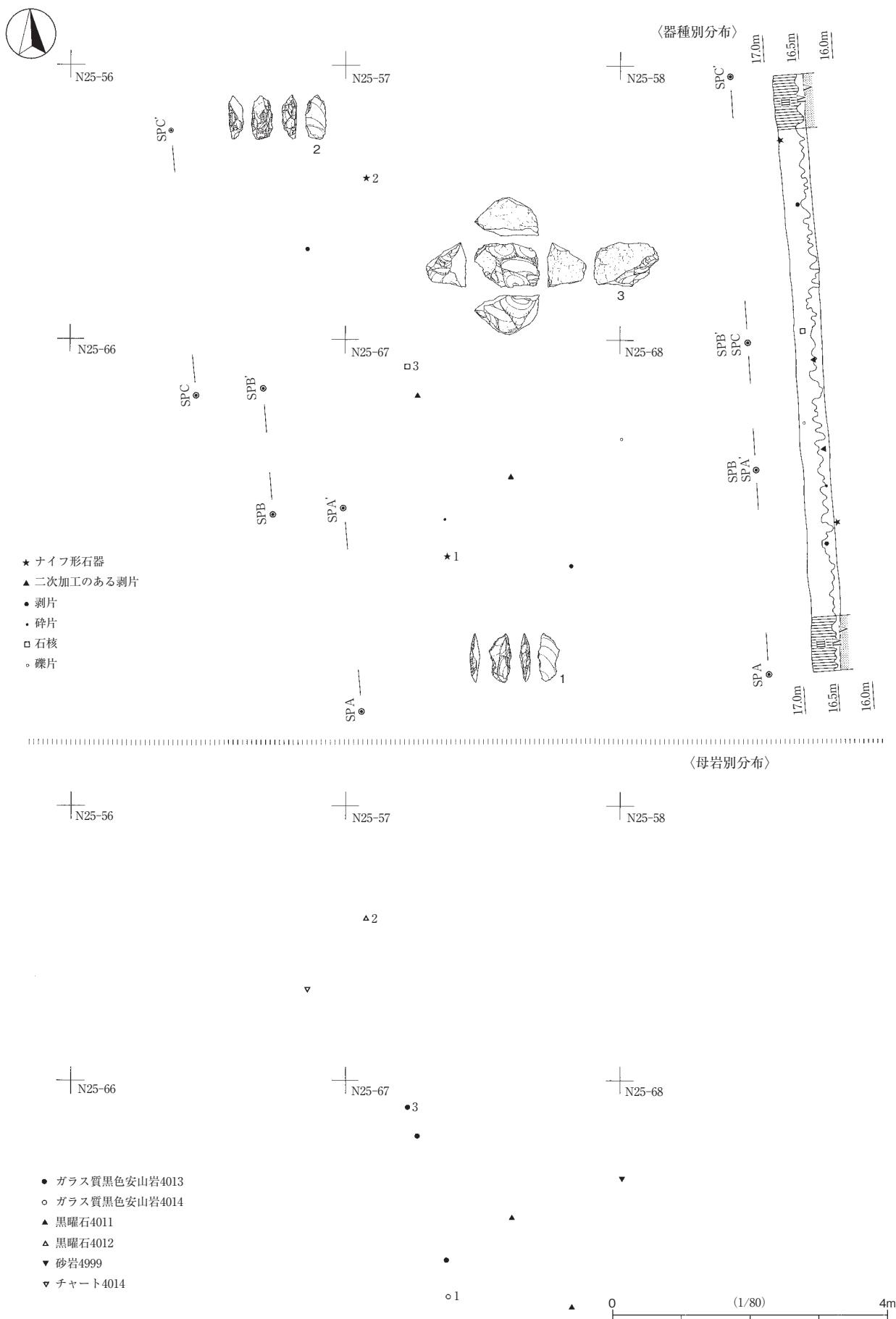
8 第4文化層第31ブロック(第3-107・108図、第3-43表、図版10・17)

出土状況 調査区中央部東寄りのN25-19・29、O25-20グリッドに分布している。北西に緩やかに傾斜する斜面の縁辺に立地する。西側に第30ブロック、東側に第32ブロックが近接して分布している。3.8m×4.2mの範囲から27点の石器が出土した。北部・南部の2か所の集中地点がみられ、北部は密集しており、南部は散漫に分布している。V層からⅢ層にかけて出土しており、Ⅲ層下部～Ⅲ層中部に集中する。

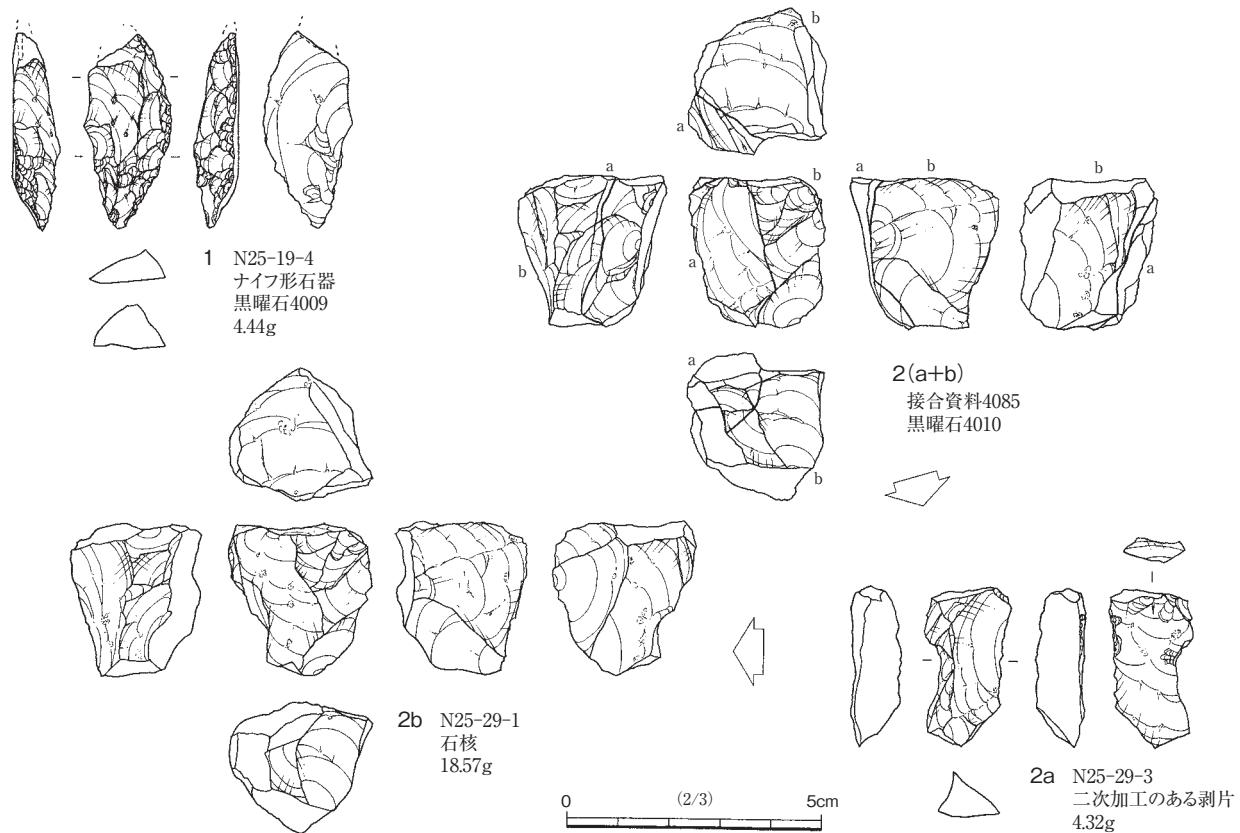
出土遺物 器種組成はナイフ形石器

第3-43表 第4文化層第31ブロック組成表

1点、二次加工のある剥片5点、剥片14点、碎片6点、石核1点である。 石材はすべて黒曜石である。 1はナイフ形石器である。横長剥	母岩	器種	母岩番号	ナイフ形石器	二次加工のある剥片	剥片	碎片	石核	点数合計	点数比 (%)	重量合計 (g)	重量比 (%)
	黒曜石	4009	1	1			3		5	18.52	5.64	12.88
		4010		4	14	3	1	22	81.48	38.16	87.12	
	黒曜石合計	1	5	14	6	1	27	100.00	43.80	100.00		
		全體点数合計	1	5	14	6	1	27	100.00	43.80	100.00	



第3-106図 第4文化層第30ブロック遺物分布



第3-107図 第4文化層第31ブロック出土石器

片を横位に用いて右側縁と左側縁下部に急角度の調整加工が施されている。刃部にあたる左側縁上部は折れている。おそらく全体形状は、第29ブロック1のナイフ形石器と同様の切出形の形態をしているものと思われる。

2(a+b)は石核と二次加工のある剥片の接合資料であり、厚みのある剥片を素材としている。剥離順序は、右面下部を打面として裏面方向に横長剥片を剥離→裏面左下部を打面として右面方向に縦長剥片を剥離→表面上部を打面として上面方向に横長剥片を剥離→上面下部を打面して表面方向に2aを剥離→右面左上部を打面として表面方向に小型の剥片の剥離となる。2aは右側縁上部に細かい調整加工が施されている。2bの石核はサイコロ状の形態をしている。

9 第4文化層第32ブロック(第3-109・110図、第3-44表、図版10・17)

出土状況 調査区南西部東寄りのO24-94、O25-04・13グリッドに分布している。北西に緩やかに傾斜する斜面の縁辺に立地する。西側に第30・31ブロックが近接して分布している。5.2m×3.9mの範囲から4点の石器が出土した。散漫に分布しており、Ⅲ層下部～Ⅲ層中部に集中している。

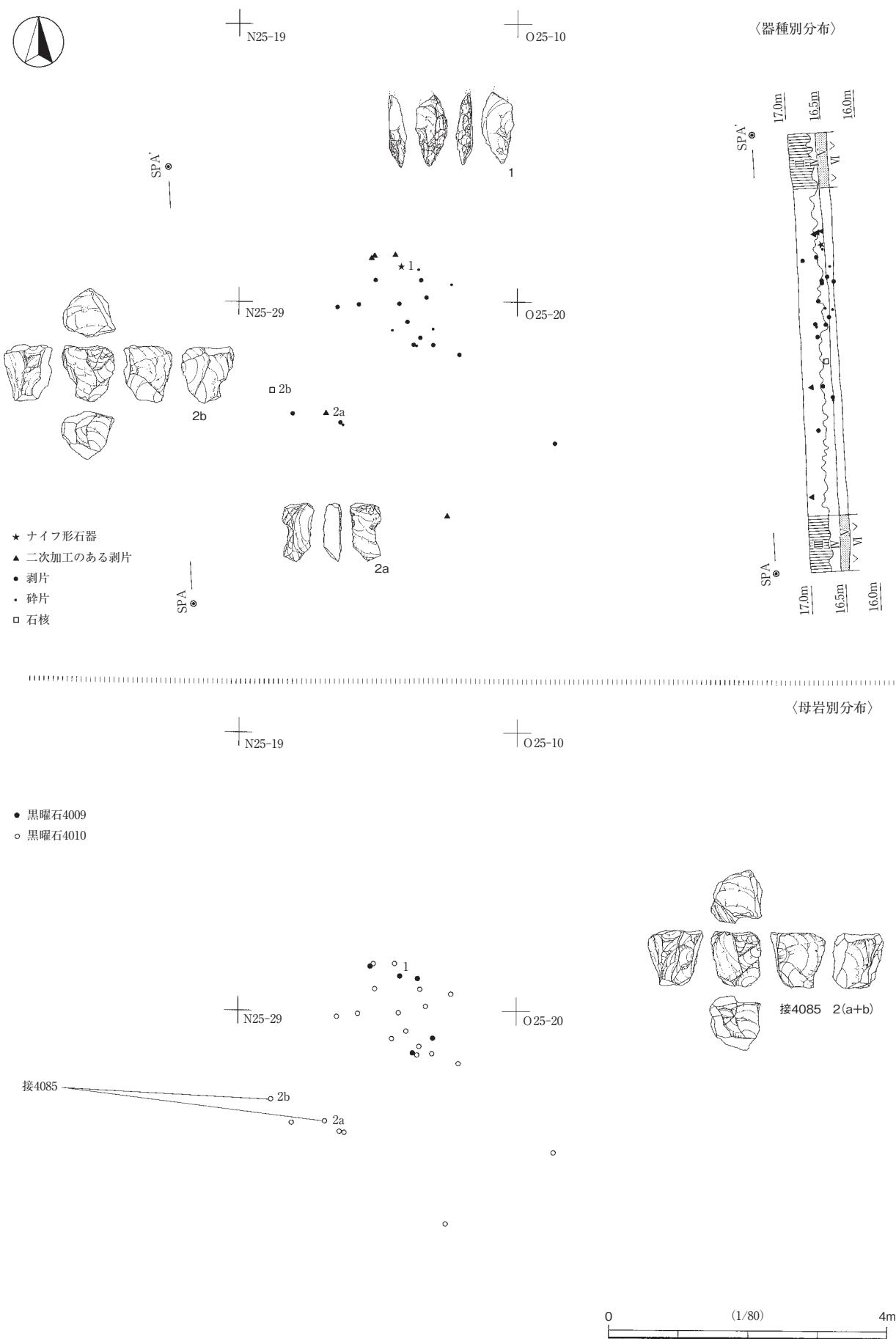
出土遺物 器種組成は尖頭器2点、剥片2

点である。石材は黒曜石3点、黒色頁岩1点である。

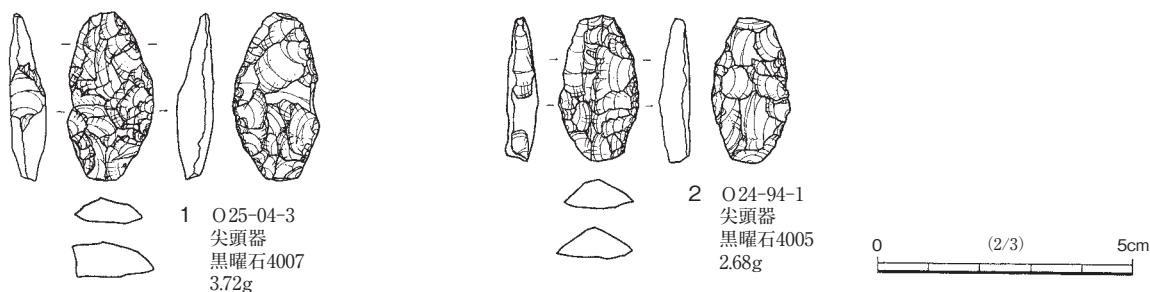
1・2は尖頭器である。1は縦長剥片を縦位に用いて打面側を基部に設置している。素材の主要剥離面は裏面右中央部にわずかに残される。ほぼ全面に平坦剥離が施

第3-44表 第4文化層第32ブロック組成表

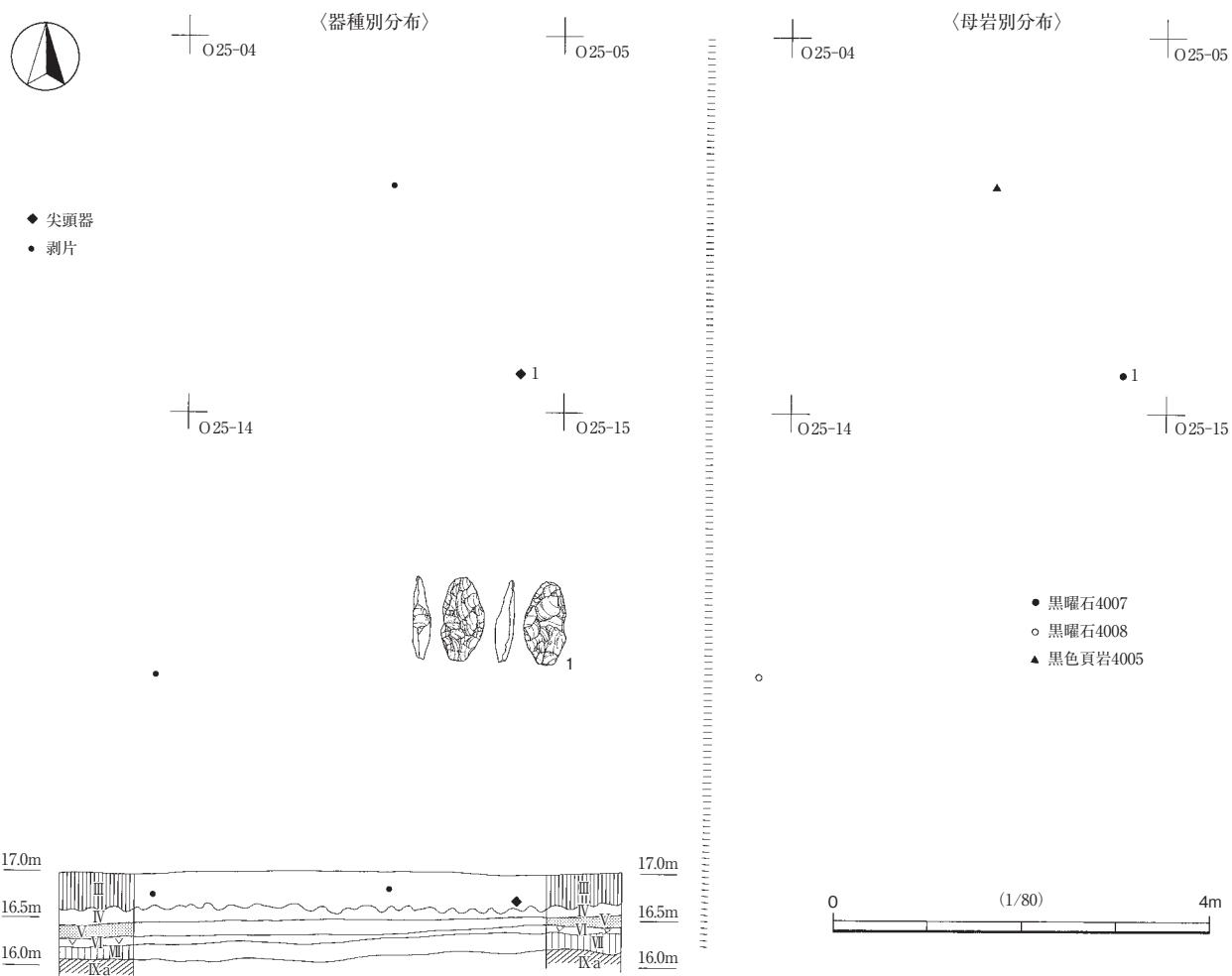
母岩	器種	母岩番号	尖頭器	剥片	点数合計	点数比(%)	重量合計(g)	重量比(%)
黒曜石		4005	1		1	25.00	2.68	14.16
		4007	1		1	25.00	3.72	19.66
		4008		1	1	25.00	1.53	8.09
黒曜石合計		2	1	3	75.00	7.93	41.91	
黒色頁岩	4005			1	1	25.00	10.99	58.09
全点数合計		2	2	4	100.00	18.92	100.00	



第3-108図 第4文化層第31ブロック遺物分布



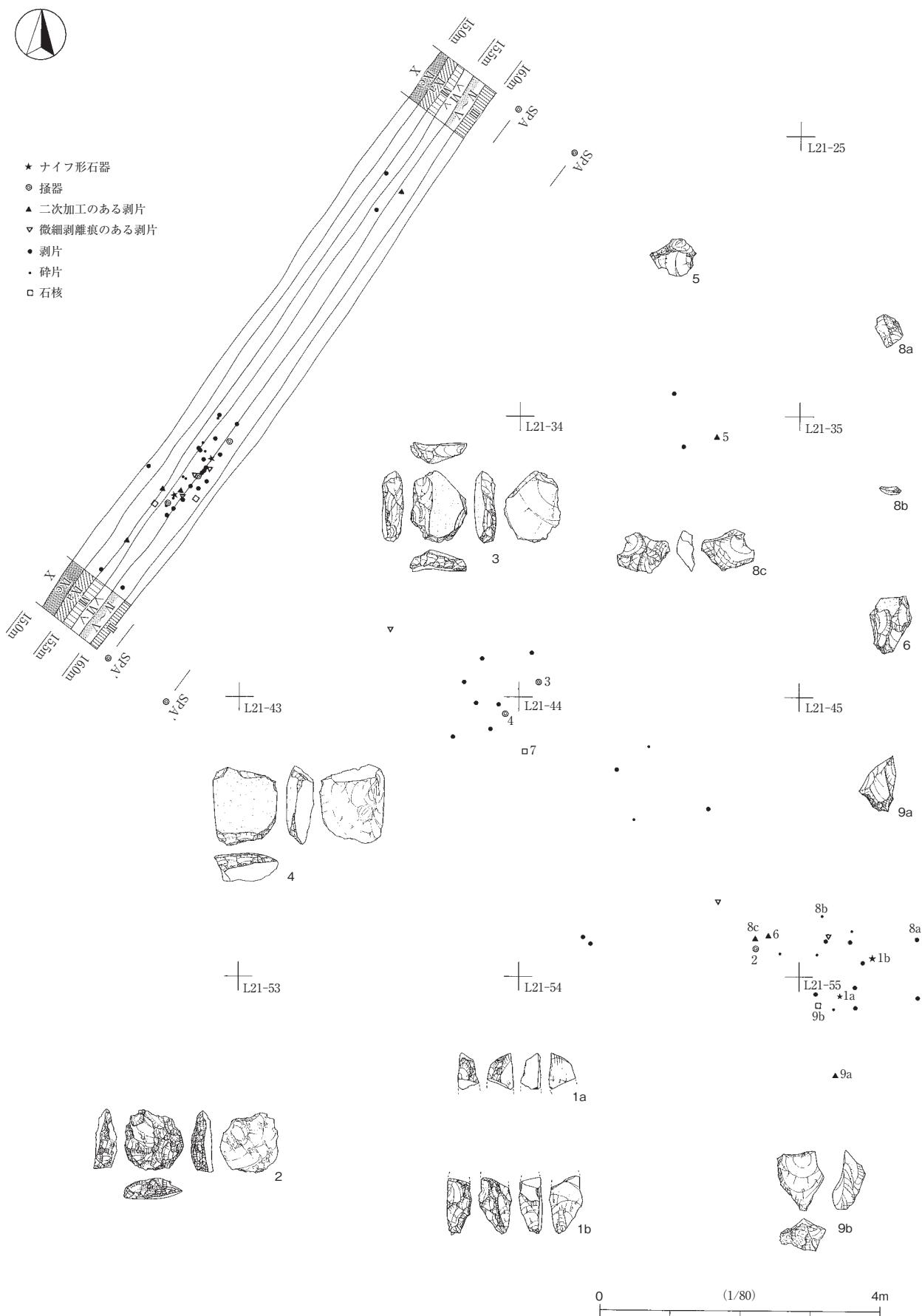
第3-109図 第4文化層第32ブロック出土石器

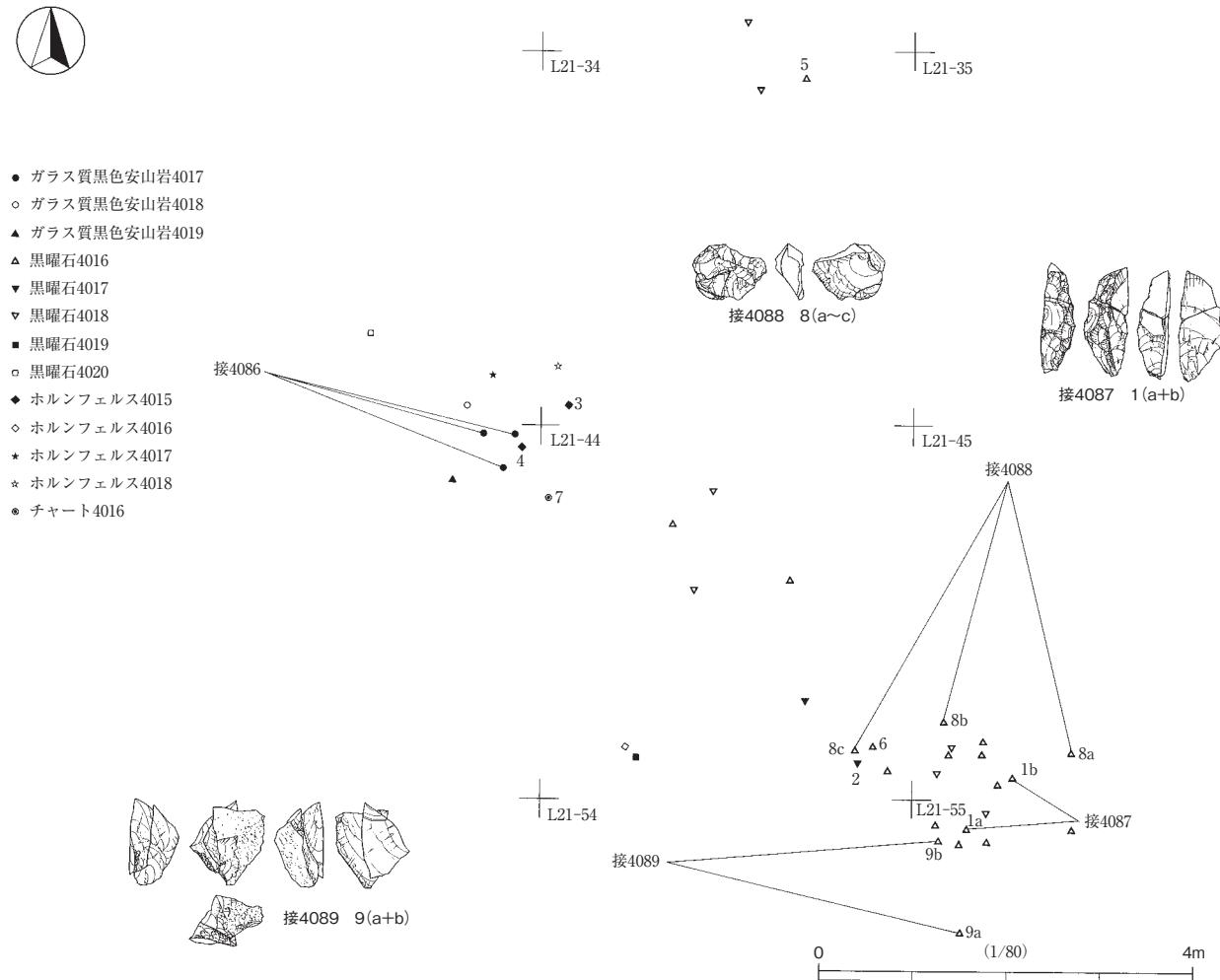


第3-110図 第4文化層第32ブロック遺物分布

されている。表面左中央部に節理面が残っており、この部位の厚みを除去するために左側縁中部から調整加工が施されているが、器体の内部まで及ぶような調整加工は施されていない。裏面下部の素材の打瘤を除去する調整加工が入念に施されている。

2は有柄尖頭器である。全面に平坦剥離を行って尖頭器を製作した後に、先端部から左上部にと下端部から左下部にそれぞれ1回ずつ樋状剥離が行われ、片側縁に鋭い刃部が作り出されている。それぞれの樋状剥離の末端部は細部加工が施されている。先端部と下端部はどちらも折れているが、樋状剥離面の形状や剥離進行形態から、おそらく、当初は下端部を尖頭器の先端として樋状剥離を行い、先端部が破損した段階で器体を上下逆にして再び樋状剥離を行ったものと思われる。





第3-112図 第4文化層第33ブロック母岩別分布

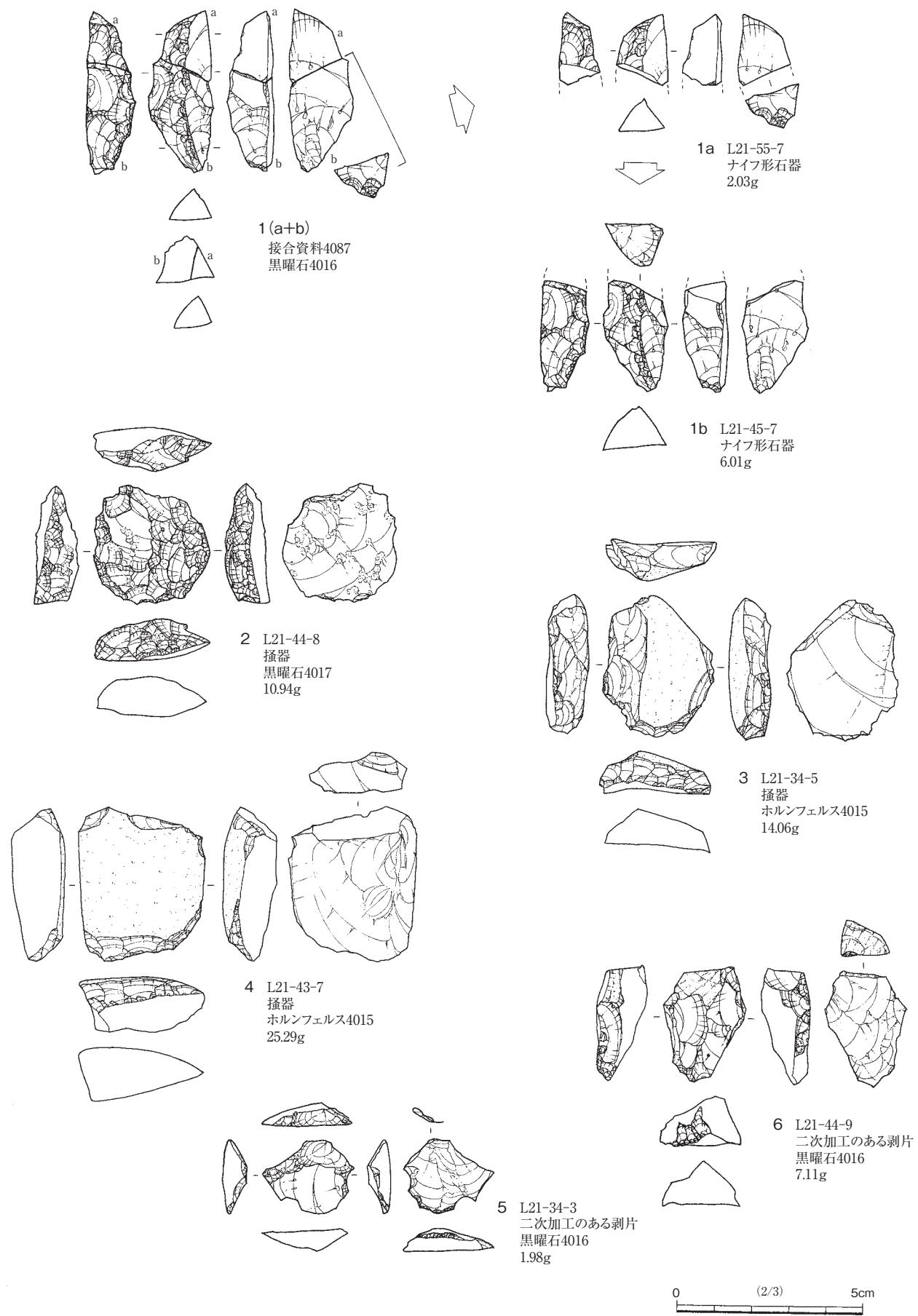
10 第4文化層第33ブロック(第3-111～114図、第3-45表、図版10・17)

出土状況 調査区中央部のL21-24・33・34・43～45・55グリッドに分布している。北東に傾斜する斜面の縁辺に立地する。9.8m×7.6mの範囲から43点の石器が出土した。南西部・西部・北部の3か所の集中地点がみられる。南西部・西部は密集しており、北部は散漫に分布している。VII層からIII層にかけて出土しており、IV層上部に集中する。

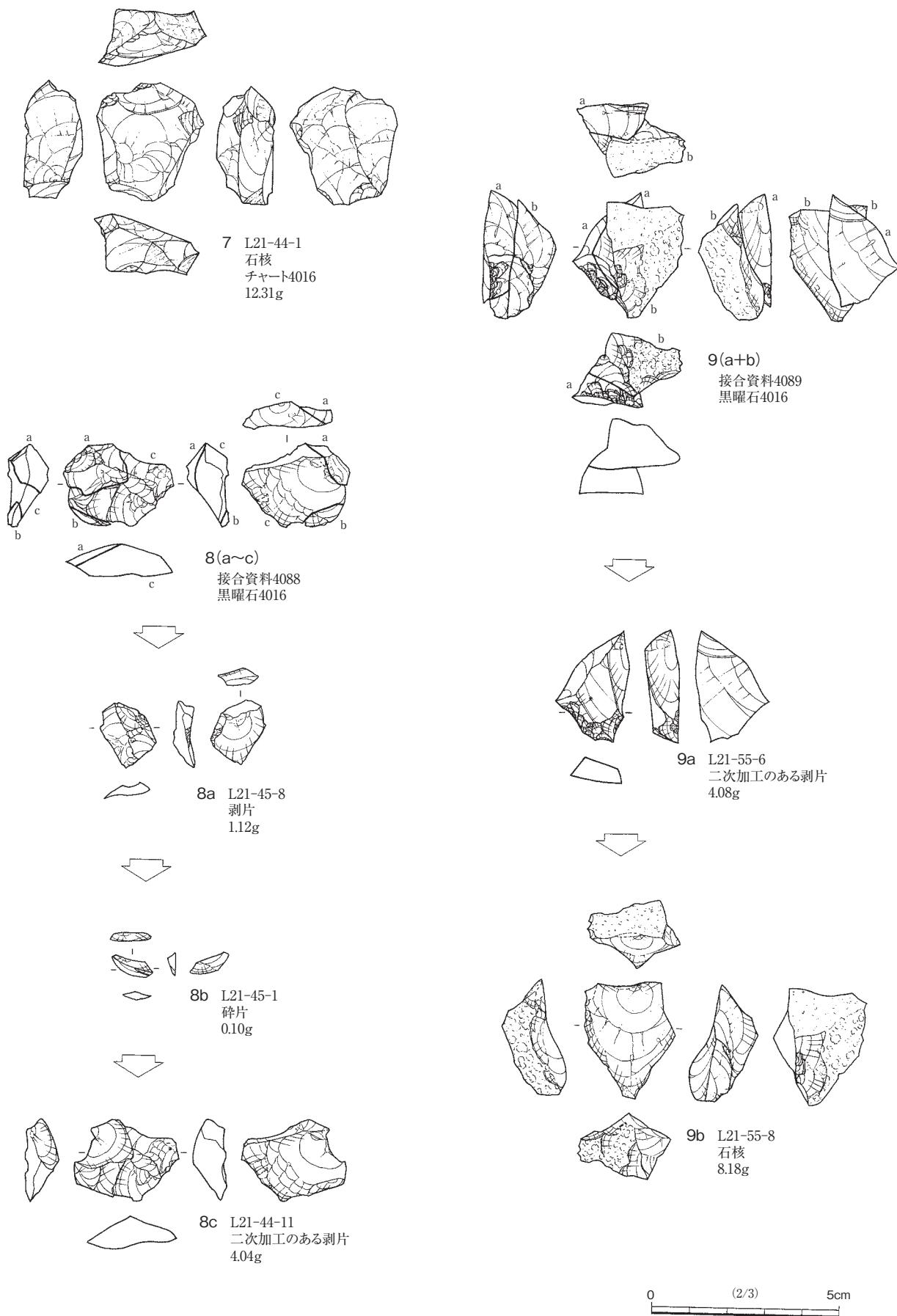
出土遺物 器種組成はナイフ形石器2点、搔器3点、二次加工のある剥片4点、微細剥離痕のある剥片3点、剥片22点、碎片7点、石核2点である。石材は黒曜石32点、ガラス質黒色安産岩5点、ホルンフェルス5点、チャート1点である。

1 (a+b)はナイフ形石器の接合資料である。厚みのある縦長剥片を縦位に用いて打面側を基部に設置している。左側縁と右側縁下部に調整加工が施されている。調整加工の剥離順序は、最初に下端部を打面として右側面下部に平坦剥離を施し、裏面右中央部を打面として表面方向に急角度の調整加工を施している。次に表面中央の稜上部には左面方向に対向調整加工が施されている。最後に裏面右上部を打面として表面方向に急角度の調整加工が施された際に、1aと1bとに破損している。

2～4は搔器である。2が円形を呈し、3・4が拇指形を呈する。いずれも厚みのある幅広の剥片を素材としている。2は全周に調整加工が施されている。下部と左右両側縁は急角度の調整加工が施され、厚みのある刃部が作り出されている。上部は平坦でやや粗い調整加工が施され厚みがない。3は下部と右側



第3-113図 第4文化層第33ブロック出土石器(1)



第3-114図 第4文化層第33ブロック出土石器(2)

第3-45表 第4文化層第33ブロック組成表

母岩 ＼ 器種	母岩番号	ナイフ形 石器	搔器	二次加工の ある剥片	微細剥離痕 のある剥片	剥片	碎片	石核	点数合計	点数比 (%)	重量合計 (g)	重量比 (%)
黒曜石	4016	2		4		9	4	1	20	46.51	38.78	19.84
	4017		1		1				2	4.65	21.14	10.82
	4018				1	4	3		8	18.60	7.03	3.60
	4019					1			1	2.33	0.47	0.24
	4020				1				1	2.33	5.98	3.06
黒曜石合計		2	1	4	3	14	7	1	32	74.42	73.40	37.56
ガラス質黒色安山岩	4017					3			3	6.98	13.85	7.09
	4018					1			1	2.33	8.00	4.09
	4019					1			1	2.33	0.84	0.43
ガラス質黒色安山岩合計						5			5	11.63	22.69	11.61
ホルンフェルス	4015		2						2	4.65	39.35	20.14
	4016					1			1	2.33	5.85	2.99
	4017					1			1	2.33	33.87	17.33
	4018					1			1	2.33	7.96	4.07
ホルンフェルス合計			2			3			5	11.63	87.03	44.53
チヤート	4016							1	1	2.33	12.31	6.30
全 体 点 数 合 計		2	3	4	3	22	7	2	43	100.00	195.43	100.00

縁に急角度の調整加工が施され、厚みのある刃部が作り出されている。左側縁は平坦な調整加工が施され厚みがない。4は下部に急角度の調整加工が施され、厚みのある刃部が作り出されている。両側縁の上端部は平坦な調整加工が施されている。

5・6は二次加工のある剥片である。5は幅広の剥片の末端部に急角度の調整加工が施されている。6は厚みのある横長剥片を素材として、左側縁と右側縁上部に急角度の調整加工が施されている。ナイフ形石器の未成品の可能性がある。7は石核であり、厚みのある剥片を素材としている。裏面右上部を打面として右面方向に横長剥片を剥離した後に、裏面上部を打面として表面方向に横長剥片を剥離している。

8(a～c)は横長剥片を素材としている。裏面上部と下部を打面として8aと8bを剥離して二次加工のある剥片8cが製作されている。9(a+b)は二次加工のある剥片と石核の接合資料である。上面を打面として厚みのある剥片9aが剥離されている。9aは両側縁を折断した後に、両側縁下部に急角度の調整加工が施されている二次加工のある剥片である。9bは石核で、裏面に自然面が大きく残っている。

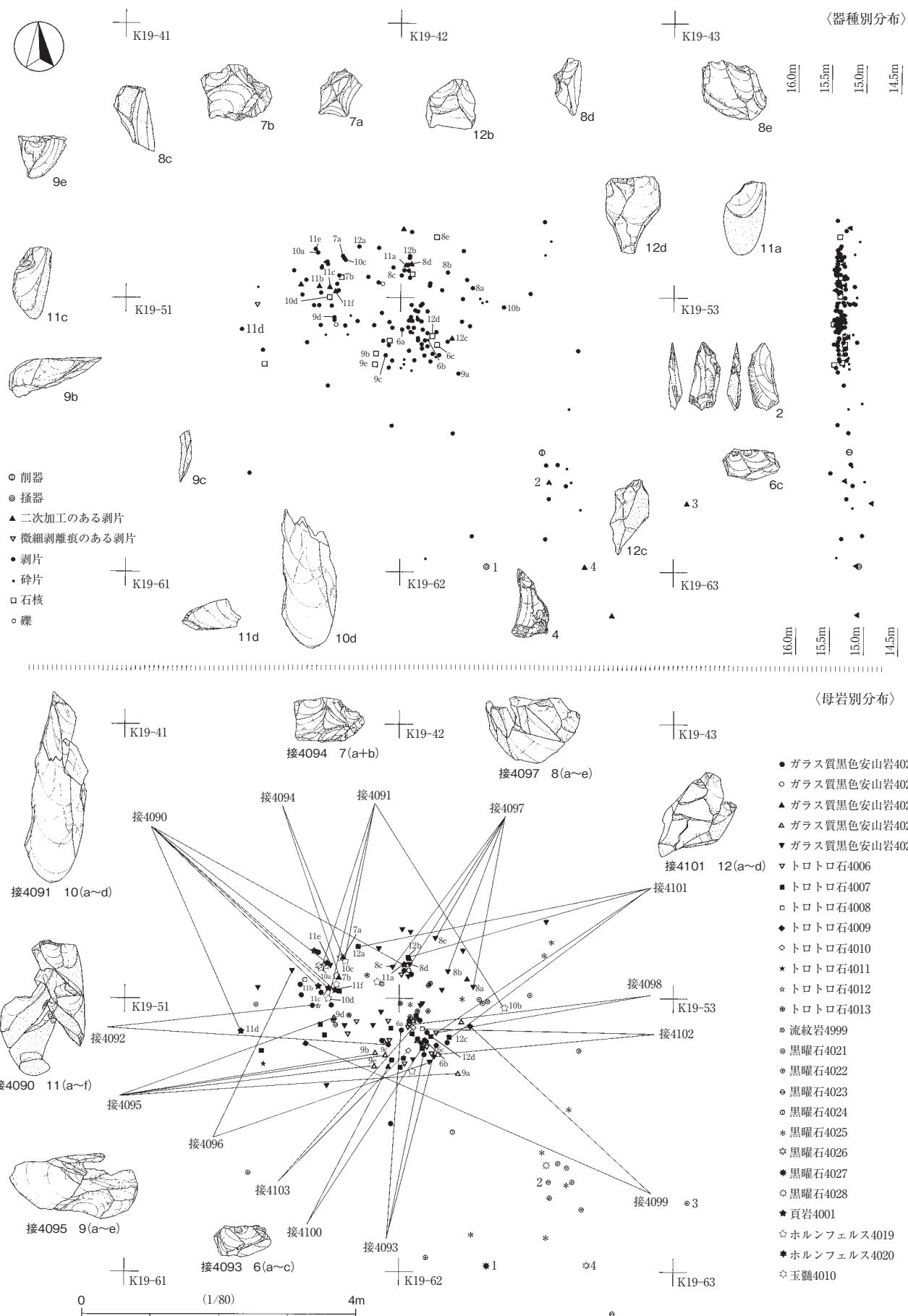
11 第4文化層第34ブロック(第3-115～120図、第3-46表、図版10・17・18)

出土状況 調査区北西部南寄りのK19-41・42・51～53・62グリッドに分布している。北東に傾斜する斜面の縁辺に立地する。5.8m×6.6mの範囲から162点の石器が出土した。北西部・南西部の2か所の集中地点がみられる。北西部は密集しており、南東部は散漫に分布している。遺物分布状況をセクション図に投影できなかったが、現場での遺物取り上げ時の所見や出土状況写真から、出土層位はⅢ層下部～Ⅲ層中部に集中すると判断した。

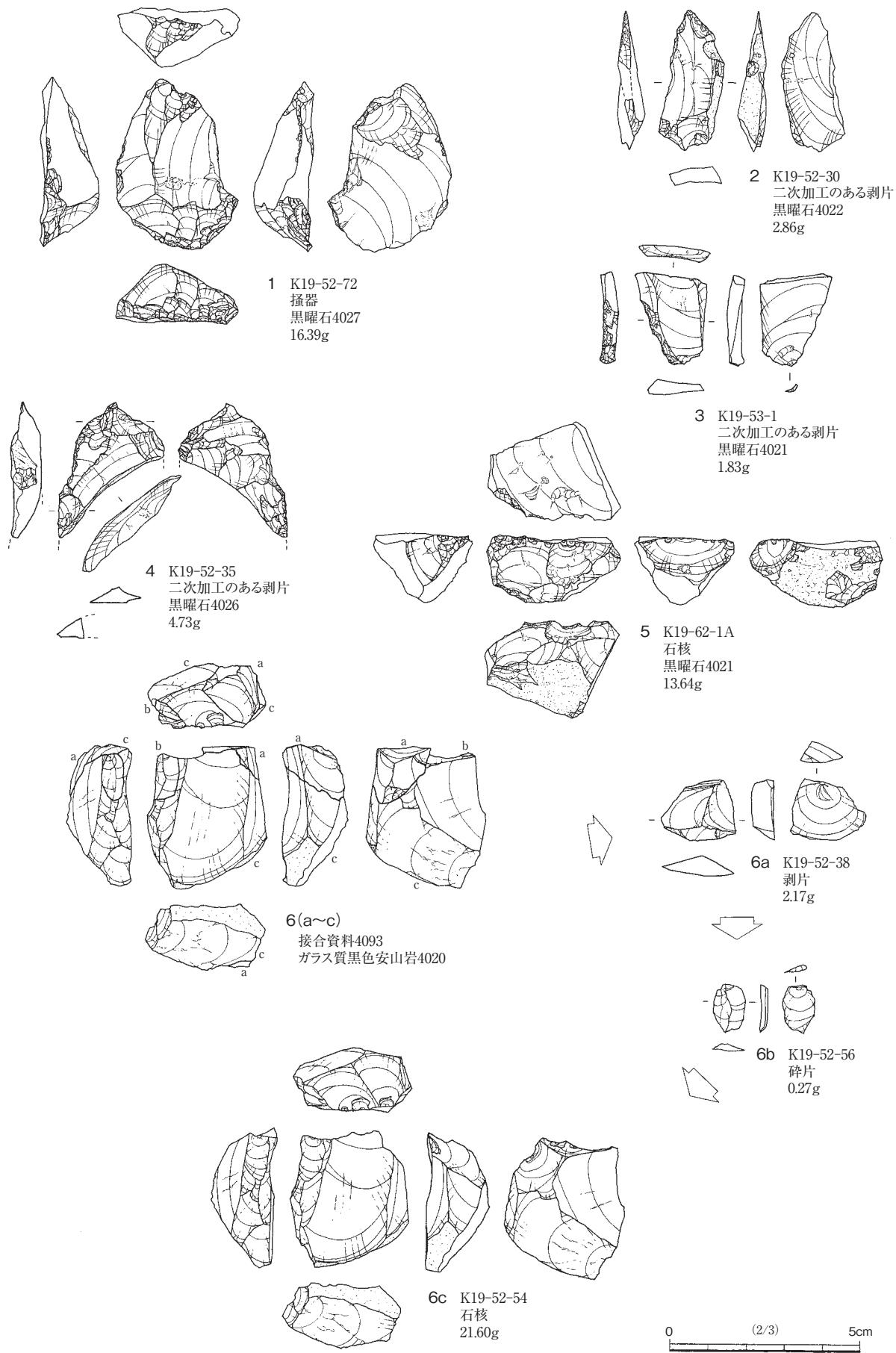
出土遺物 器種組成は削器1点、搔器1点、二次加工のある剥片12点、微細剥離痕のある剥片1点、剥片105点、碎片27点、石核12点の石器類159点と礫2点、礫片1点の礫・礫片3点で構成される。石器類の石材はガラス質黒色安山岩62点、トロトロ石47点、黒曜石31点、ホルンフェルス11点、頁岩7点、玉髓1点で、礫・礫片の石材は流紋岩3点である。

1は搔器である。拇指形の形態をしている。厚みのある剥片を斜位に用いている。下部は急角度の調整加工が施され、厚い刃部が作り出されている。上部は表裏両面に平坦な調整加工が施され厚みがない。

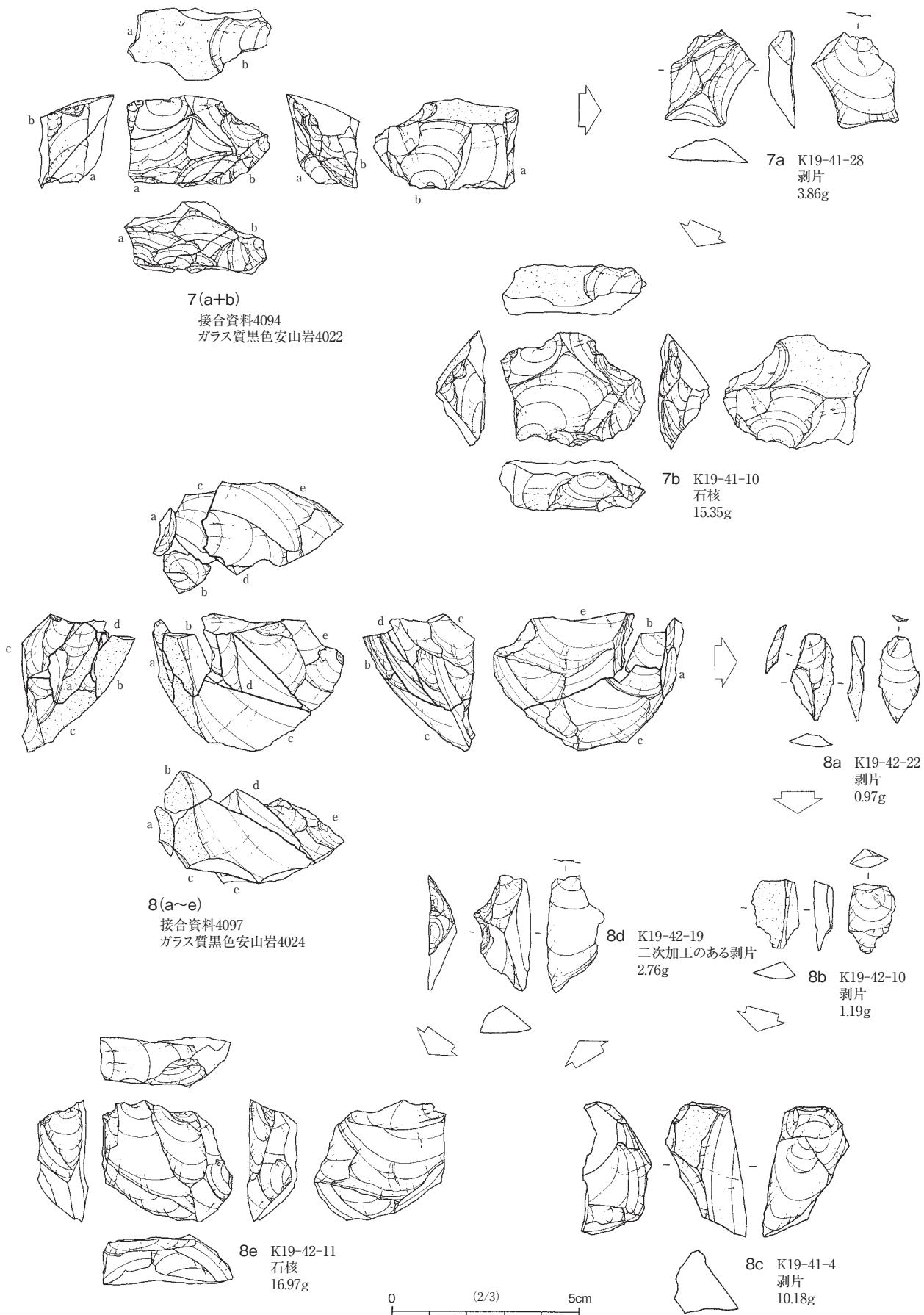
2～4は二次加工のある剥片である。2は横長剥片を素材として左側縁を折断した後に、左側縁と右側



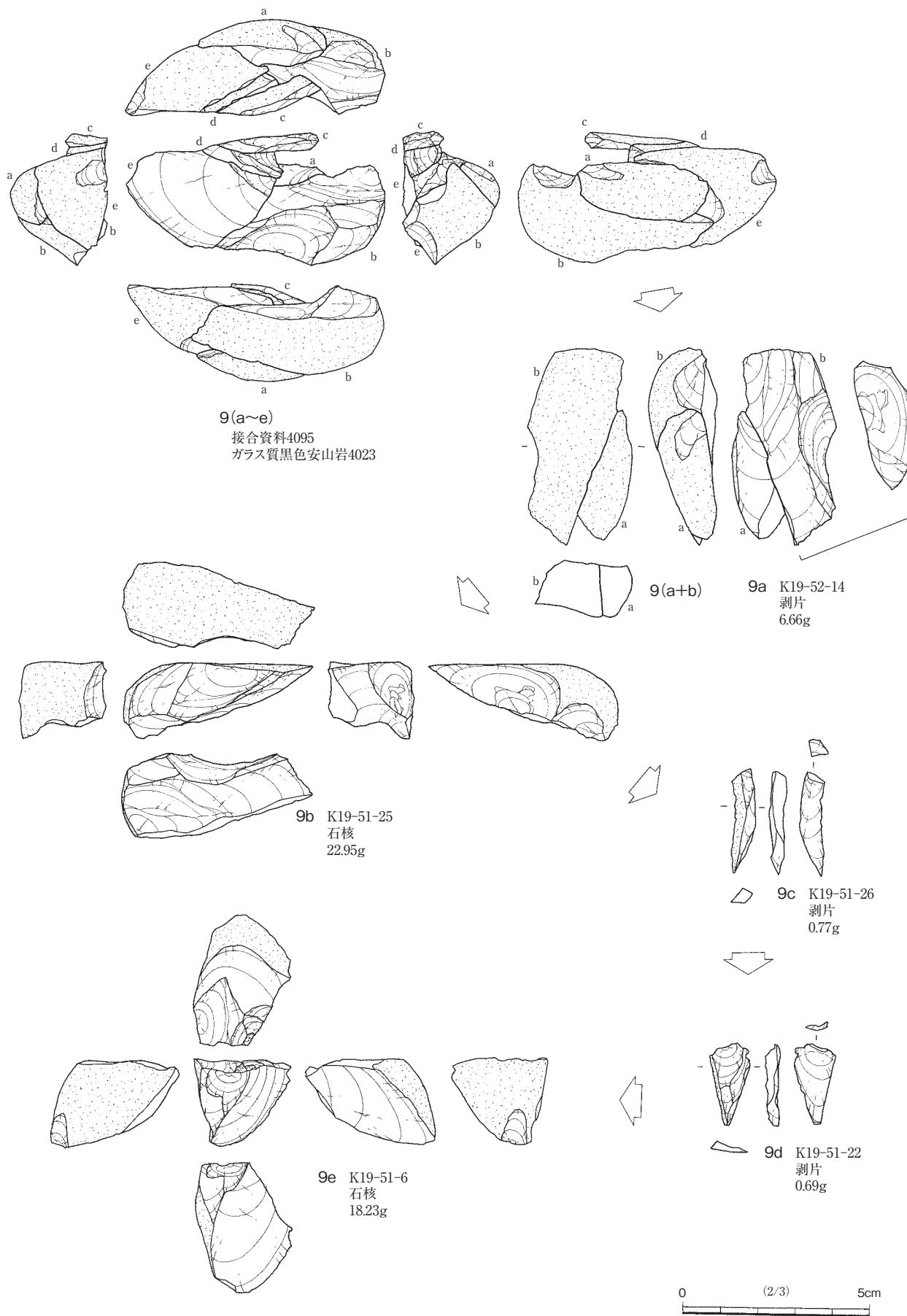
第3-115図 第4文化層第34ブロック遺物分布



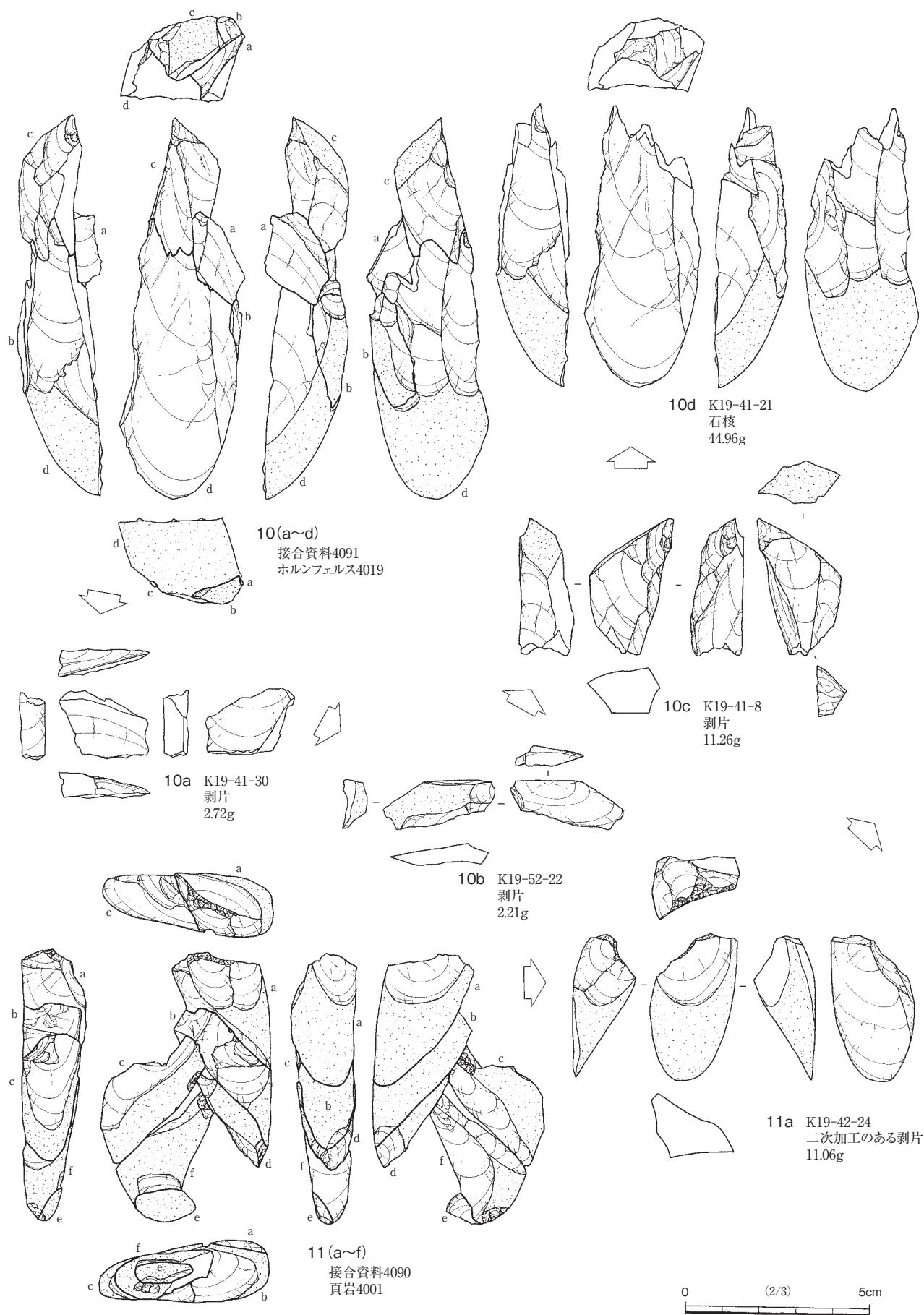
第3-116図 第4文化層第34ブロック出土石器(1)



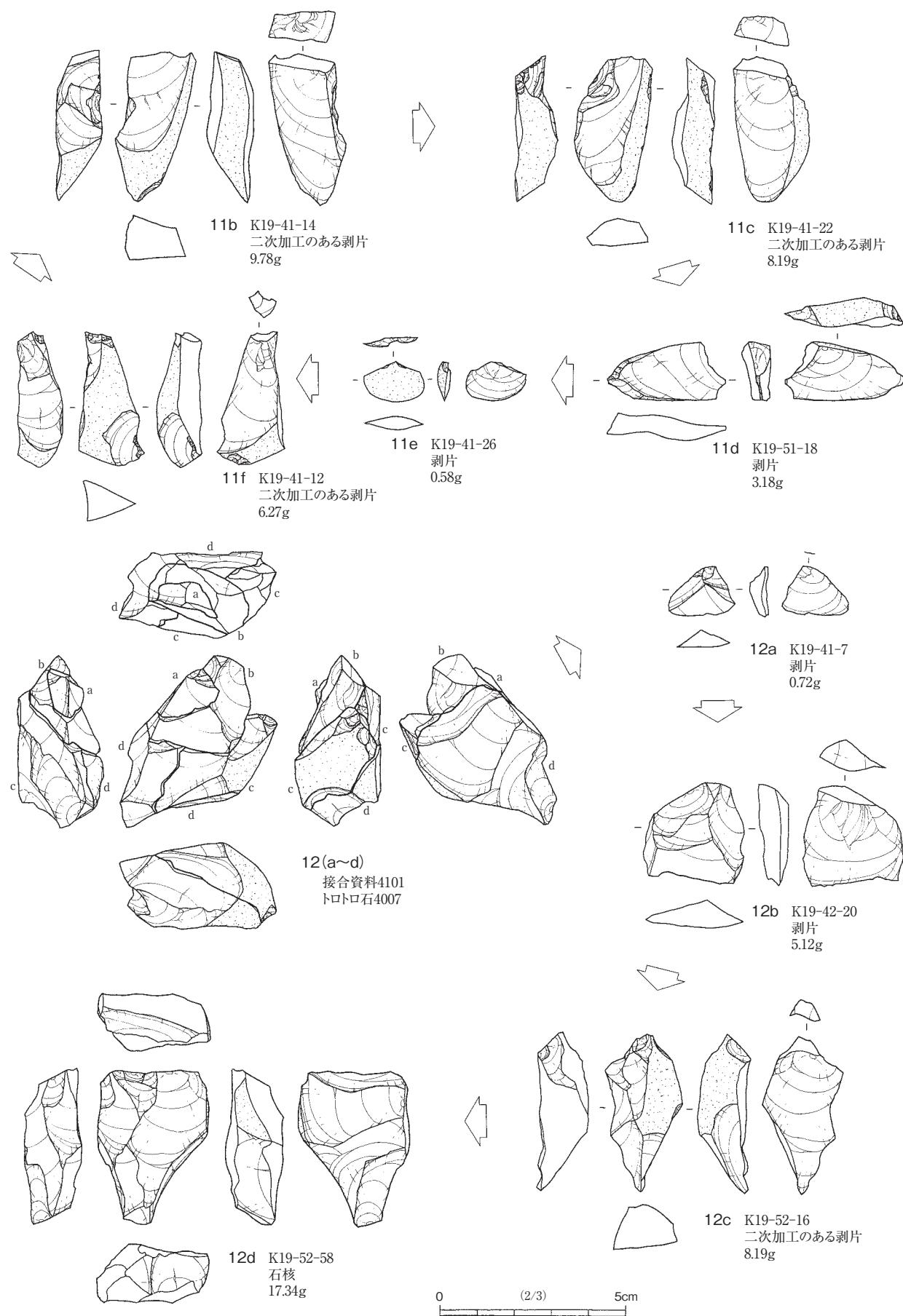
第3-117図 第4文化層第34ブロック出土石器(2)



第3-118図 第4文化層第34ブロック出土石器(3)



第3-119図 第4文化層第34ブロック出土石器(4)



第3-120図 第4文化層第34ブロック出土石器(5)

縁上部に急角度の調整加工が施されている。3は縦長剥片を素材とし、左側縁下部に急角度の調整加工が施されている。器体の中央部から破損しており、下半部が残存している。2・3はナイフ形石器の未成品の可能性がある。4は幅広の剥片を素材としている。素材の主要剥離面は表面中央部に残っている。表裏両面の周縁部に平坦な調整加工が施され、鋭利な先端が作り出されている。器体の中央部から破損しており全体形状は不明であるが、尖頭器の未成品の可能性がある。

5は石核であり、厚みのある剥片を素材としている。剥離順序は、上面右部を打面として右面方向に横長剥片を剥離→裏面右下部を打面として表面方向に横長剥片を剥離→上面右下部を打面として表面方向に小型の横長剥片の剥離となる。

6～12は接合資料である。6(a～c)は厚みのある剥片を素材としている。素材の主要剥離面は裏面右上部に残っている。剥離順序は、表面左下部を打面として裏面方向に縦長剥片を剥離→上面を打面として表面中央方向に幅広の剥片を剥離→表上部を打面として6aを含む数枚の剥片を剥離し、上面に打面を形成→上面左下部を打面として6bを含む数枚の小型の縦長剥片の剥離となる。6cは石核である。

7(a+b)は厚みのある剥片を素材としている。素材の主要剥離面は裏面右下部に残される。剥離順序は、右面左上部を打面とし表面方向に横長剥片を剥離→裏面下部を打面とし表面方向に横長剥片を剥離→表面下部を打面とし裏面方向に横長剥片を剥離→上面を打面とし表面方向に縦長剥片を剥離→裏面右下部を打

第3-46表 第4文化層第34ブロック組成表

母岩	器種	母岩番号	削器	搔器	二次加工のある剥片	微細剥離痕のある剥片	剥片	碎片	石核	礫	礫片	点数合計	点数比(%)	重量合計(g)	重量比(%)		
黒曜石	4021				1	1	3	2	1			8	4.94	17.70	1.50		
	4022				1		2	6				9	5.56	4.46	0.38		
	4023				1							1	0.62	7.09	0.60		
	4024						1					1	0.62	1.84	0.16		
	4025	1					5	3				9	5.56	15.13	1.28		
	4026				1							1	0.62	4.73	0.40		
	4027			1								1	0.62	16.39	1.39		
	4028						1					1	0.62	1.09	0.09		
黒曜石合計		1	1	4	1	12	11	1				31	19.14	68.43	5.81		
ガラス質黑色安山岩	4020				1		18	1	2			22	13.58	100.40	8.53		
	4021						1					1	0.62	17.83	1.51		
	4022						4		1			5	3.09	33.14	2.81		
	4023						7	1	2			10	6.17	76.63	6.51		
	4024				2		19	2	1			24	14.81	85.70	7.28		
ガラス質黑色安山岩合計				3		49	4	6				62	38.27	313.70	26.64		
トロトロ石	4006						7	2	2			11	6.79	77.48	6.58		
	4007			1			9	5	1			16	9.88	64.31	5.46		
	4008						4					4	2.47	29.87	2.54		
	4009						2					2	1.23	118.52	10.06		
	4010						2					2	1.23	31.25	2.65		
	4011								1			1	0.62	22.16	1.88		
	4012						1					1	0.62	12.13	1.03		
	4013						8	2				10	6.17	9.55	0.81		
トロトロ石合計				1		33	9	4				47	29.01	365.27	31.02		
頁岩	4001				4		3					7	4.32	47.14	4.00		
玉髓	4010											1	0.62	0.31	0.03		
ホルンフェルス	4019						7	2	1			10	6.17	70.39	5.98		
	4020						1					1	0.62	4.45	0.38		
ホルンフェルス合計							8	2	1			11	6.79	74.84	6.36		
流紋岩	4999											2	1	3	1.85	307.94	26.15
全体点数合計		1	1	12	1	105	27	12	2	1		162	100.00	1,177.63	100.00		

面とし表面方向に縦長剥片7aの剥離となる。7bの石核は周縁部から求心的に剥離が行われている。

8(a~e)は厚みのある剥片を素材としている。素材の主要剥離面は裏面下部に残っている。剥離順序は、表面表部を打面として裏面方向に横長剥片を剥離→左面表部を打面として上面方向に縦長剥片を剥離→上面左部を打面として8aから8dの縦長剥片を剥離となる。8eは石核である。

9(a~e)は分割礫を素材としている。素材の分割面は表面左部に残っている。右面上部を打面として厚みのある剥片9(a+b)を剥離し、これを素材として表面左下部を打面として横長剥片を剥離し、裏面左中部を打面として横長剥片9aを剥離している。9bは石核である。9(a+b)を剥離後に、右面上部を打面として細長い縦長剥片9cと9dを剥離している。9eは石核である。

10(a~d)は分割礫を素材としている。上面を打面として10aから10cを剥離しており、これらの剥片は節理面に沿って同時割れしたものと思われる。10dは石核である。11(a~f)は扁平な橢円形礫を素材としている。打面を入れ替えながら、剥離が行われていることが伺える。剥離順序は、左面上部を打面として縦長剥片11aと11bを剥離→11bの剥離面を打面として縦長剥片11cを剥離→表面右中部の自然面を打面として裏面方向に横長剥片11dを剥離→裏面下部を打面として表面方向に小型の剥片11eを剥離→11dの剥離面を打面として裏面方向に縦長剥片11fの剥離となる。

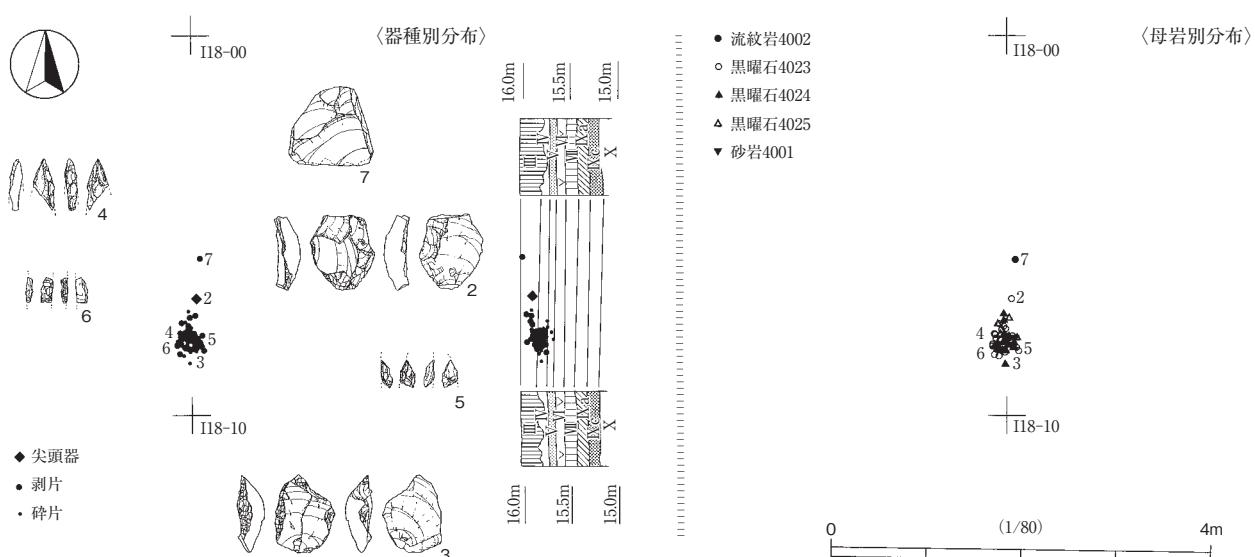
12(a~d)は分割礫を素材としている。剥離順序は、左面下部を打面として下面方向に剥片を剥離→左面左中央部を打面として横長剥片を剥離→左面左上部を打面として裏面方向に横長剥片を剥離→裏面上部を打面として9aから9cを剥離となる。12dは石核である。

12 第4文化層第35ブロック(第3-121・122図、第3-47表、図版10・18)

出土状況 調査区北西部のH18-09、I18-00グリッドに分布している。北西に傾斜する斜面の縁辺に立地する。1.2m×0.4mの範囲から73点の石器が出土した。狭い範囲に密集して分布している。IV層からIII層にかけて出土しており、III層下部～III層中部に集中する。

出土遺物 器種組成は尖頭器3点、剥片32点、碎片38点である。石材は黒曜石71点、砂岩1点、流紋岩1点である。

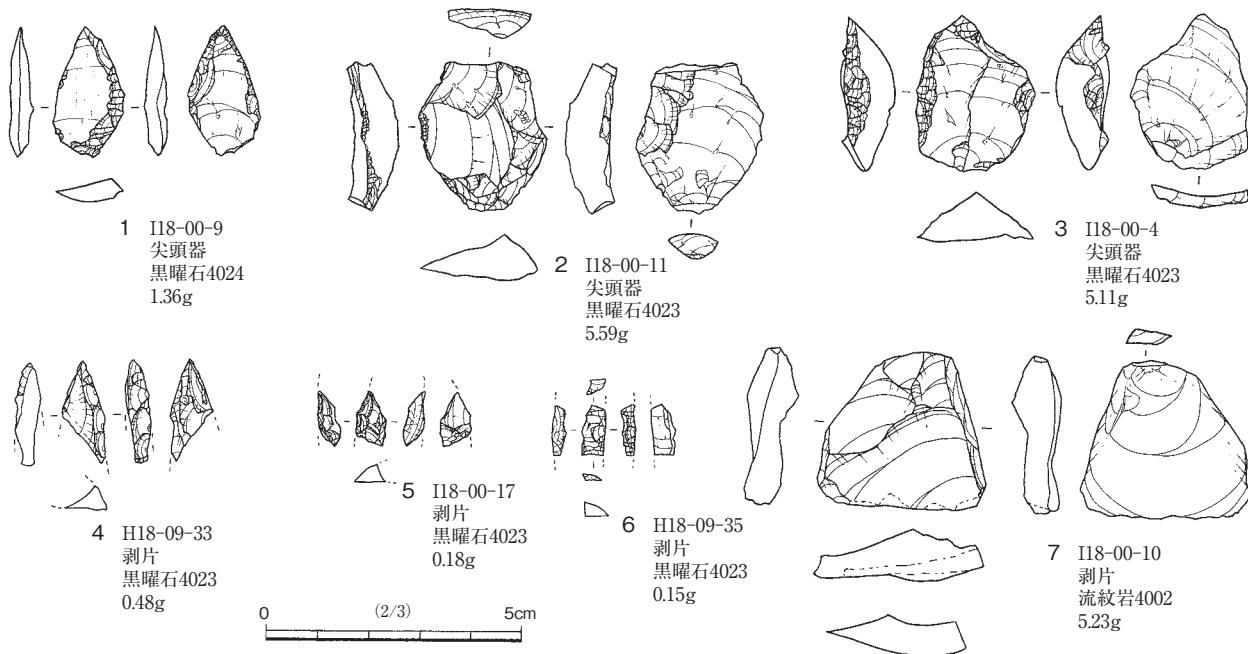
1～3は尖頭器である。いずれも縦長剥片を縦位に用い打面側を基部に設置している。1は厚みのない剥片を素材とし周縁部に平坦な調整加工が施されている。2は厚みのある剥片を素材とし、左側縁の縁辺



第3-121図 第4文化層第35ブロック遺物分布

第3-47表 第4文化層第35ブロック組成表

母岩	器種	母岩番号	尖頭器	剥片	碎片	点数合計	点数比 (%)	重量合計 (g)	重量比 (%)
黒曜石	4023	2	14	20	36	49.32	23.61	59.19	
		4024	1	7	12	20	27.40	3.41	8.55
		4025		10	5	15	20.55	7.57	18.98
黒曜石合計		3	31	37	71	97.26	34.59	86.71	
砂岩	4001			1	1	1.37	0.07	0.18	
流紋岩	4002			1	1	1.37	5.23	13.11	
全体点数合計		3	32	38	73	100.00	39.89	100.00	



第3-122図 第4文化層第35ブロック出土石器

部に細かい調整加工、裏面左上部に平坦な調整加工が施されている。先端は折れ、素材の打面が残される。

3は左側縁には平坦な調整加工が入念に、右側縁はやや粗い調整加工が施され、素材の打面が残される。

4～6は尖頭器の調整剥片である。4は先端部を調整剥離したものである。剥片の主要剥離面を表面に図示した。右面に急角度の調整加工面、裏面に平坦剥離面がそれぞれ観察できる。5・6は尖頭器の側縁部を調整加工した際に剥離された剥片である。5の剥片の主要剥離面を右面に、6の剥片の主要剥離面を左面に図示した。7は幅広の剥片である。流紋岩が用いられており、単独母岩で搬入されている。

第6節 第5文化層

1 概要(第3-123図、第3-48表)

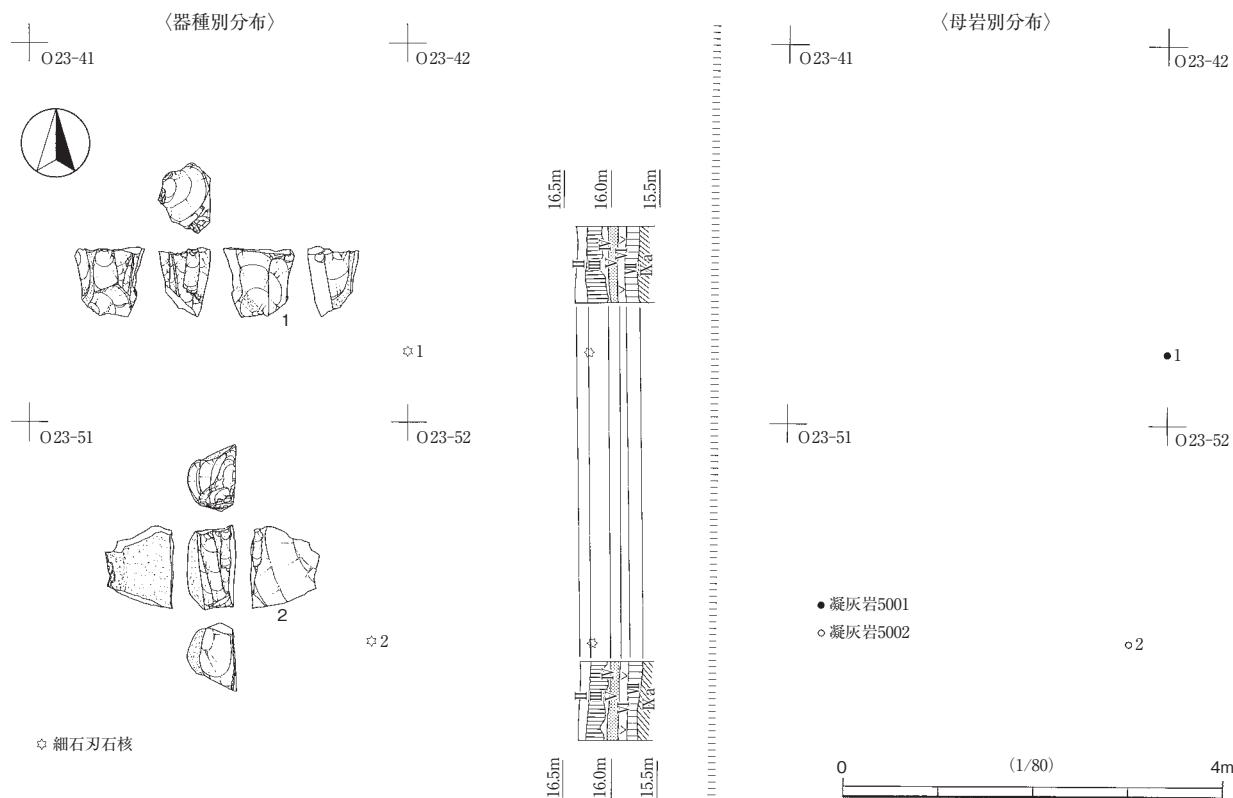
第5文化層の石器群は総計3点出土し、集中地点は第36ブロックの1か所が検出された。Ⅲ層上面に生活面を持つ石器群と推定される。

2 第5文化層第36ブロック(第3-123・124図、第3-49表、図版18)

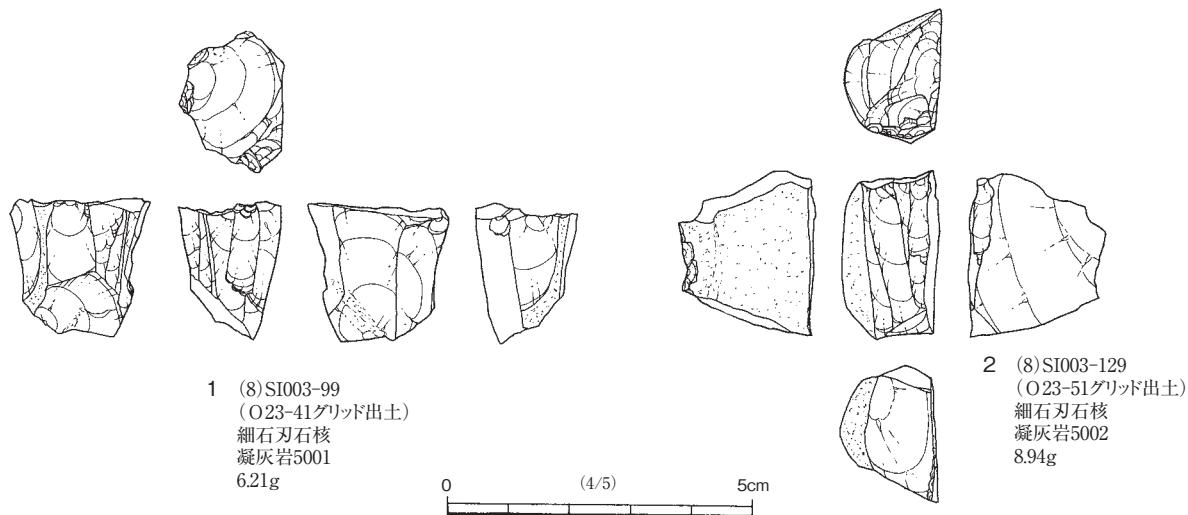
出土状況 調査区中央部東寄りのO23-41・51グリッドに分布している。上層の遺構(8)SI-003の覆土中から出土しているため出土層位は不明であるが、細石刃石核が2点出土していることから、Ⅲ層上面付近

第3-48表 第5文化層ブロック別組成表

ブロック	石材	細石刃石核	点数合計
36	凝灰岩	2	2
単独	玉髓	1	1
全体点数合計		3	3



第3-123図 第5文化層第36ブロック遺物分布



第3-124図 第5文化層第36ブロック出土石器

から出土したものと思われる。

出土遺物 器種組成は細石刃石核2点である。石材はすべて凝灰岩である。

1・2は野辺山型の細石刃石核である。凝灰岩が用いられ、どちらも単独母岩で持ち込まれている。1は左面左上部を打面として上面方向に横長剥片を剥離して石核の打面を作成し、上面右下部から左部にかけて打点を順次移動しながら表面と左面方向に細石刃を剥離している。次いで、表面右部を打面として裏面

第3-49表 第5文化層第36ブロック組成表

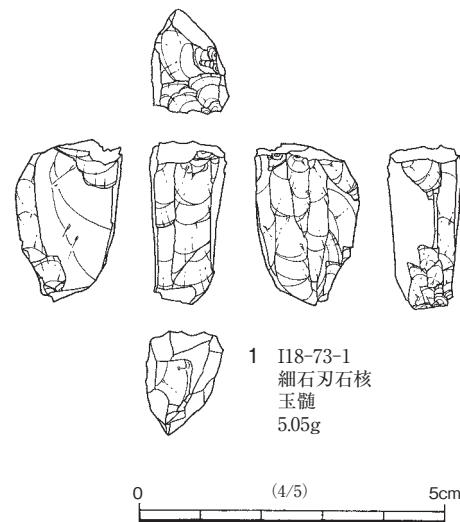
母岩	器種	母岩番号	細石刃石核	点数合計	点数比 (%)	重量合計 (g)	重量比 (%)
凝灰岩		5001	1	1	50.00	6.21	40.99
		5002	1	1	50.00	8.94	59.01
凝灰岩合計			2	2	100.00	15.15	100.00
全休点数合計			2	2	100.00	15.15	100.00

方向に側面調整をした後、裏面右下部から左面方向に剥離し、底面側に新たに打面を作っている。最後に、下面を打面として右方向に幅広の細石刃を剥離している。2は厚みのある剥片が素材で、主要剥離面は裏面に大きく残っている。剥離順序は、左面右下部を打面として下面方向に幅広の剥片を剥離して石核の底面の作成している。次いで、裏面上部を打面として上面方向に幅広の剥片を剥離し上面に打面を作成し、上面下部に打面調整が行われている。最後に、上面を打面として表面方向に細石刃を数枚剥離している。

3 第5文化層単独出土石器(第3-125図、第3-50表、図版18)

出土状況 ブロックとして区分けすることができなかつた石器のうち、第5文化層に帰属すると思われるもの1点を第5文化層単独出土石器として扱うこととする。

出土遺物 1は細石刃石核である。第36ブロックと同様に野辺山型のものである。厚みのある剥片を素材としており、素材の主要剥離面は左面に残っている。左面下部を打面として下面方向に横長剥片を剥離して石核の底面に打面を形成している。この下面を打面として裏面方向に細石刃が剥離されている。次いで、右面上部を打面として上面方向に横長剥片を剥離して上面に打面を作成している。上面下部から上面右部にかけて打面調整加工を行った後に、表面から左面方向に細石刃を剥離している。



第3-125図 第5文化層単独出土石器

第3-50表 第5文化層単独出土組成表

石材	器種	細石刃石核	点数合計	点数比 (%)	重量合計 (g)	重量比 (%)
玉 髓		1	1	100.00	5.05	100.00
全体	点数合計	1	1	100.00	5.05	100.00

第7節 第6文化層

1 概要(第3-126図、第3-51・52表)

第6文化層の石器群は、総計199点出土し、集中地点は第37ブロックの1か所が検出された。Ⅲ層上面～Ⅱ層下部に生活面を持つ石器群と推定される。調査区南西部に位置し、標高17.0m～17.5m(現地表面)に分布している。

2 第6文化層第37ブロック(第3-126～129図、第3-52表、図版10・18)

出土状況 調査区南西部のR26-91・92、R27-01・02グリッドに分布している。北西に緩やかに傾斜する斜面の縁辺に立地する。4.9m×4.8mの範囲から199点の石器が出土した。北東部・南西部の2か所の集中地点がみられる。北東部は密集しており、南西部は散漫に分布する。石器類と礫・礫片が混在して分布している。Ⅲ層からⅡ層にかけて出土しており、Ⅲ層上面～Ⅱ層下部に集中する。

出土遺物 器種組成は尖頭器3点、削器1点、二次加工のある剥片4点、微細剥離痕のある剥片1点、削片1点、剥片48点、碎片5点、石核2点の石器類65点と礫22点、礫片112点の礫・礫片134点で構成される。石器類の石材は硬質頁岩31点、ガラス質黒色安山岩22点、トロトロ石4点、珪質頁岩2点、黒色頁岩2点、ホルンフェルス2点、玉髓1点、緑泥片岩1点である。礫・礫片の石材は流紋岩59点、石英斑岩38点、砂岩29点、チャート8点ある。

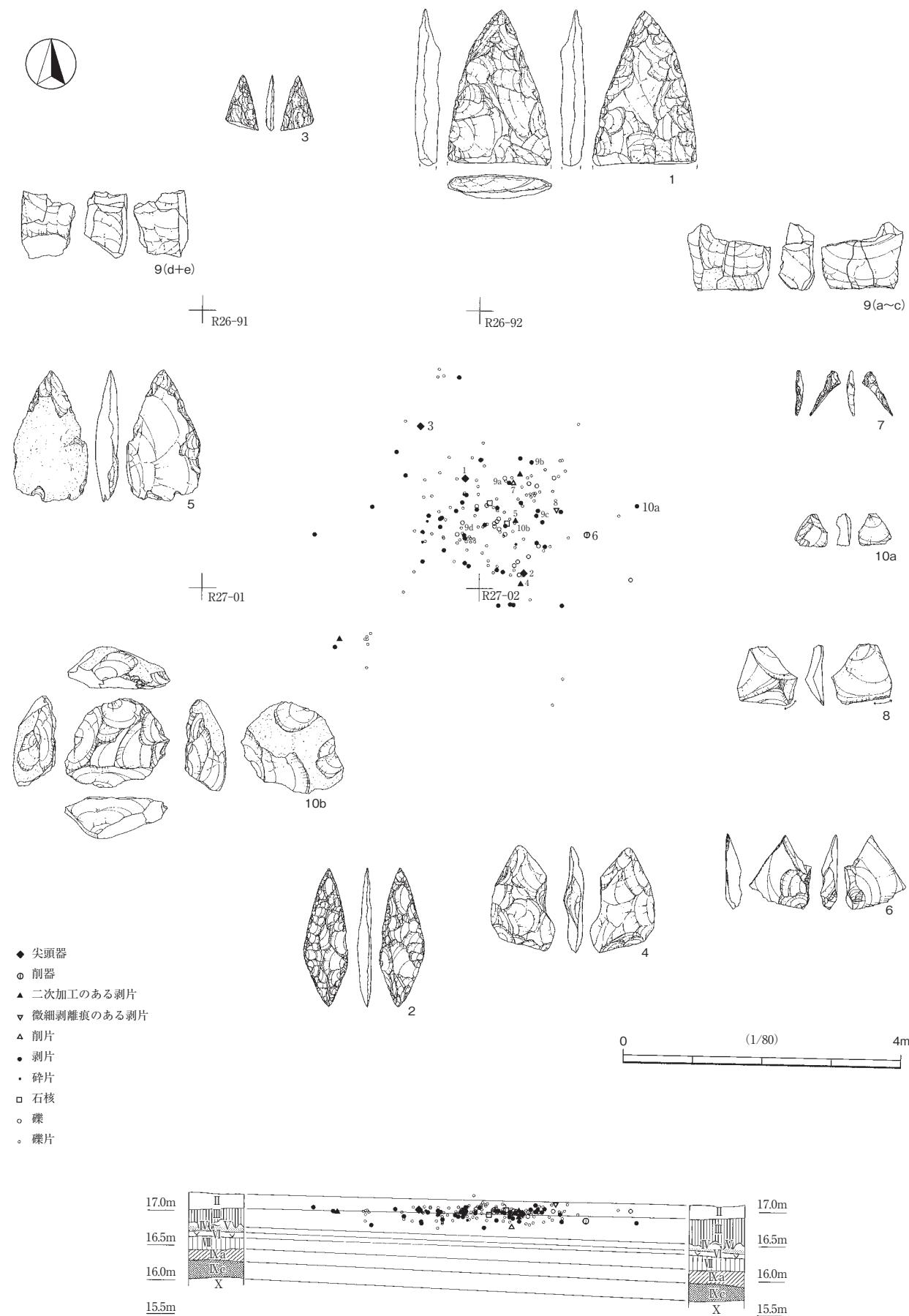
第3-51表 第6文化層器種石材組成表

石材 器種	尖頭	削器	二次加工のある剥片	微細剥離痕のある剥片	削片	剥片	碎片	石核	礫	点数合計
	器	器			片	片	片	核	片	片
ガラス質黒色安山岩	1		3			15	1	2		22
トロトロ石			1			2	1			4
珪質頁岩						2				2
硬質頁岩	1	1		1	1	24	3			31
黒色頁岩						2				2
玉髓						1				1
緑泥片岩						1				1
ホルンフェルス	1					1				2
チヤート									1	7
砂岩									1	28
流紋岩									11	48
石英斑岩									9	29
全体点数合計	3	1	4	1	1	48	5	2	22	112
										199

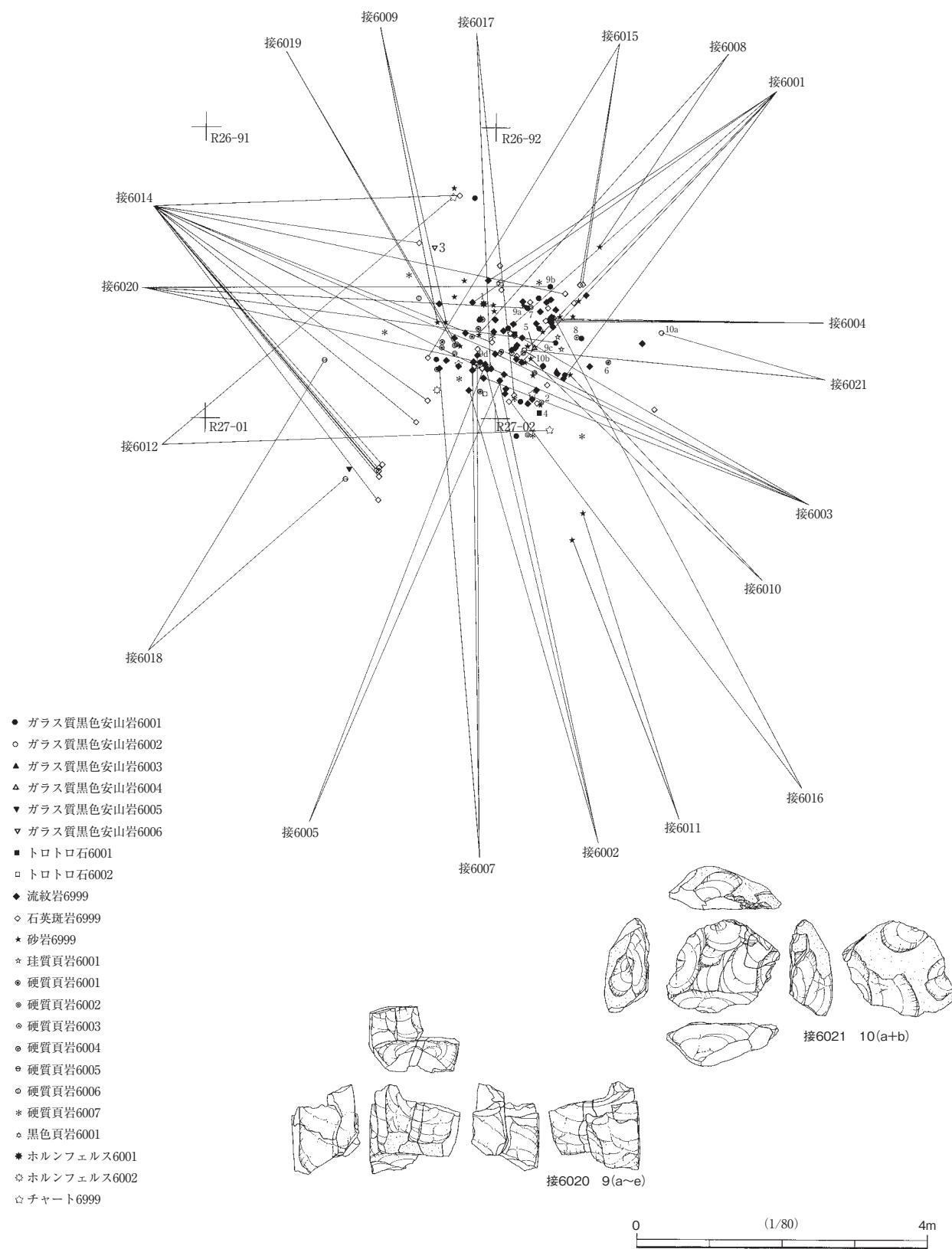
第3-52表 第6文化層第37ブロック組成表

母岩 器種	母岩番号	尖頭器	削器	二次加工のある剥片	微細剥離痕のある剥片	削片	剥片	碎片	石核	礫	点数合計	点数比(%)	重量合計(g)	重量比(%)			
ガラス質黒色安山岩	6001			1			12	1	1			15	7.54	236.16	5.20		
	6002						1		1			2	1.01	58.67	1.29		
	6003						2					2	1.01	39.17	0.86		
	6004		1									1	0.50	31.43	0.69		
	6005		1									1	0.50	17.67	0.39		
	6006	1										1	0.50	2.07	0.05		
ガラス質黒色安山岩合計	1		3				15	1	2			22	11.06	385.17	8.48		
トロトロ石	6001			1			1					2	1.01	62.34	1.37		
	6002						1	1				2	1.01	23.39	0.51		
トロトロ石合計			1				2	1				4	2.01	85.73	1.89		
珪質頁岩	6001						2					2	1.01	0.75	0.02		
硬質頁岩	6001		1				7	2				10	5.03	7.71	0.17		
	6002						1	6	1			8	4.02	3.08	0.07		
	6003	1										1	0.50	11.61	0.26		
	6004			1								1	0.50	5.82	0.13		
	6005						2					2	1.01	0.74	0.02		
	6006						1					1	0.50	0.47	0.01		
	6007						8					8	4.02	3.05	0.07		
硬質頁岩合計	1	1		1	1	24	3					31	15.58	32.48	0.71		
黒色頁岩	6001						2					2	1.01	0.54	0.01		
玉髓	6001						1					1	0.50	0.69	0.02		
緑泥片岩	6001						1					1	0.50	12.20	0.27		
ホルンフェルス	6001	1										1	0.50	62.22	1.37		
	6002						1					1	0.50	3.84	0.08		
ホルンフェルス合計	1						1					2	1.01	66.06	1.45		
チヤート	6999											1	7	8	4.02	105.28	2.32
砂岩	6999											1	28	29	14.57	1,119.48	24.64
流紋岩	6999											11	48	59	29.65	1,451.94	31.96
石英斑岩	6999											9	29	38	19.10	1,282.89	28.24
全体点数合計	3	1	4	1	1	48	5	2	22	112	199	100.00	4,543.21	100.00			

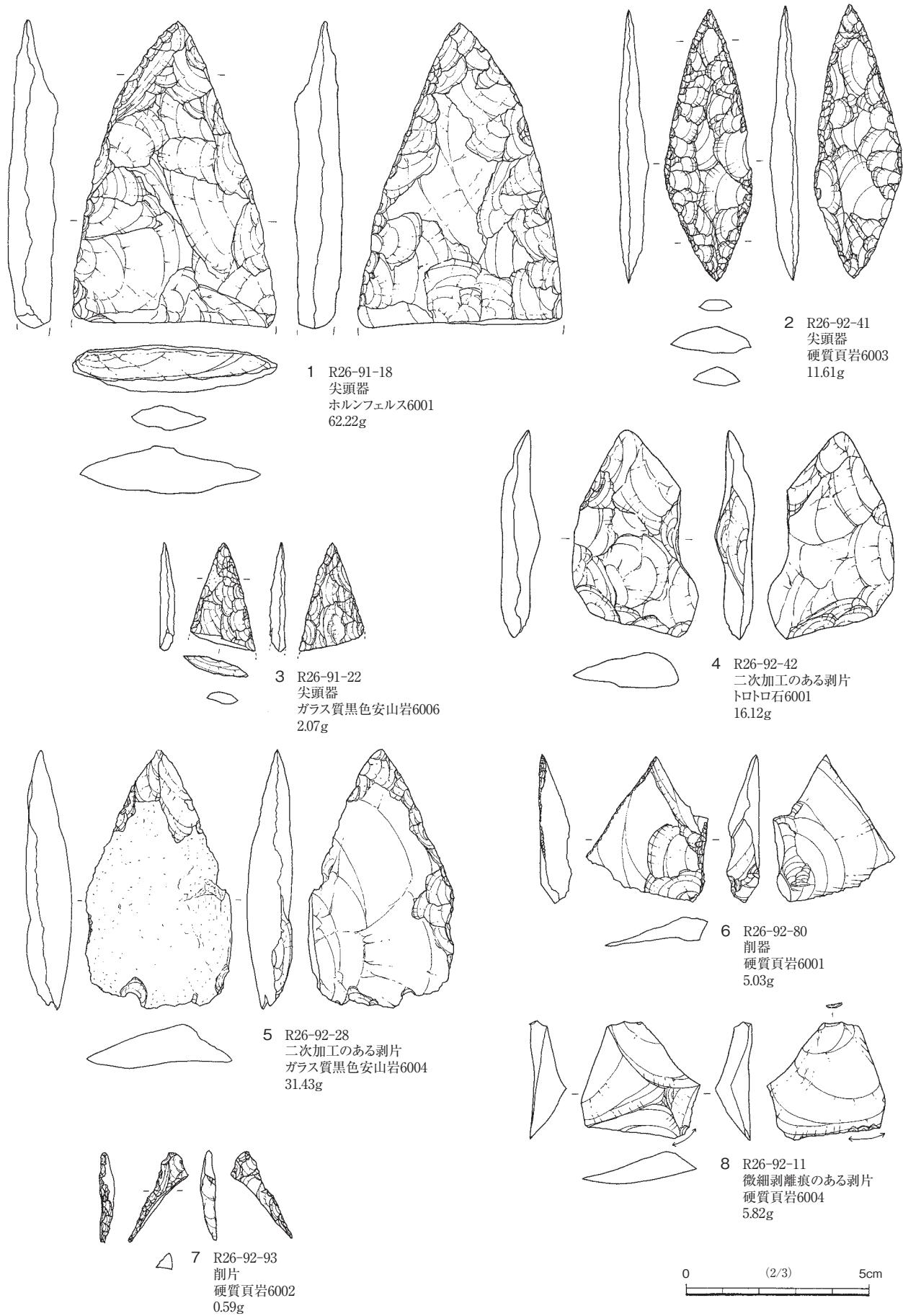
1～3は尖頭器である。1は大型のもので、旧石器時代終末期に特徴的にみられる形態をしている。器体の中央部から破損しており、先端部残存品である。素材の主要剥離面が裏面中央部付近に残っており、大型の横長剥片を素材としたものと思われる。表面は平坦な調整加工が全面に施され、裏面は周縁部に平坦な調整加工が施されている。器体の下部を調整加工した後に、先端部に最終調整加工が入念に施されて



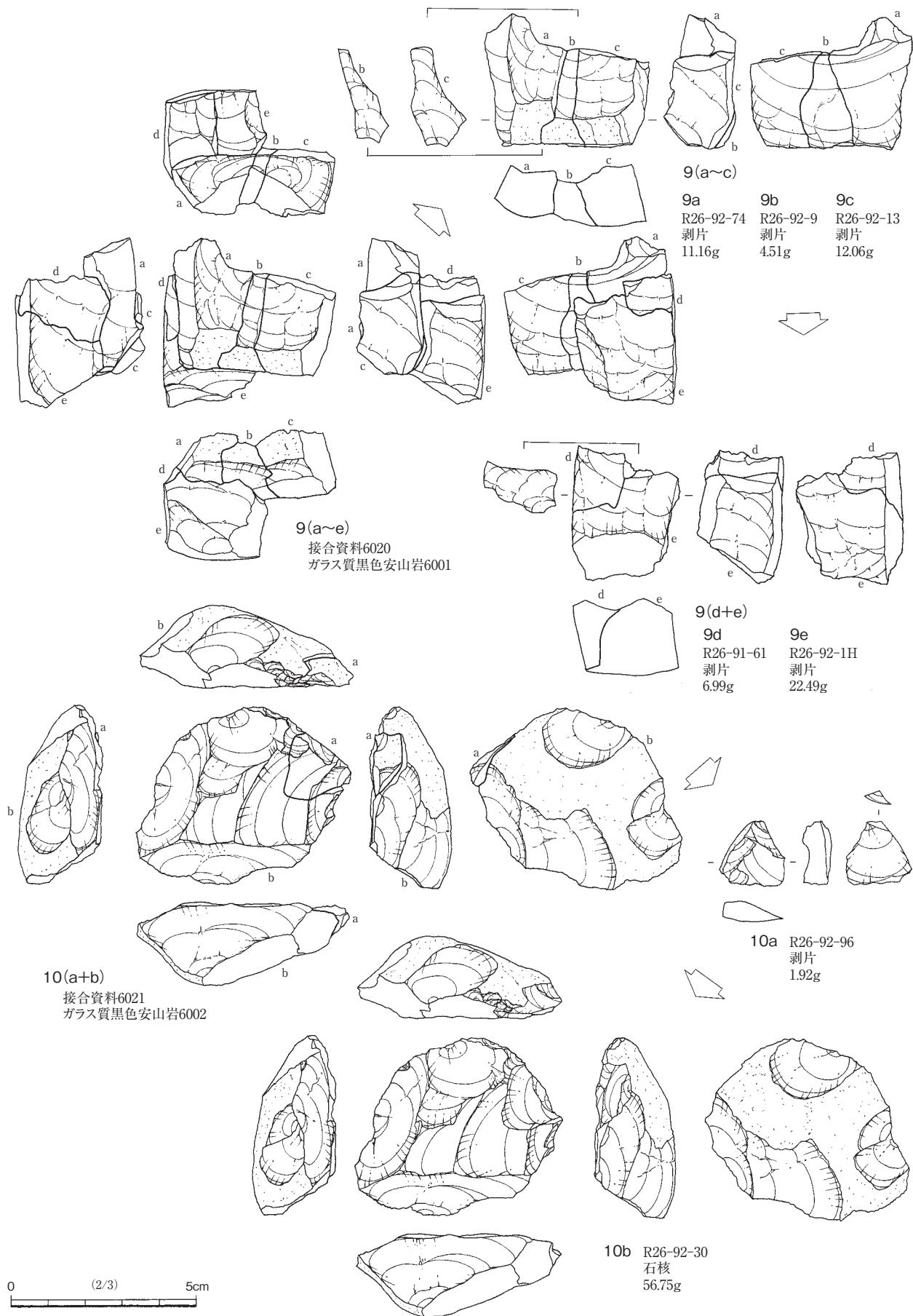
第3-126図 第6文化層第37ブロック器種別分布



第3-127図 第6文化層第37ブロック母岩別分布



第3-128図 第6文化層第37ブロック出土石器(1)



第3-129図 第6文化層第37ブロック出土石器(2)

いる。剥離順序を部位単位でみると、器体の下部が裏面右下部→表面左下部→表面右下部→裏面左下部の順番に剥離され、先端部が表面上部→裏面左上部→裏面右上部→左面上部の順番に剥離されている。

2は中型のもので柳葉形をしている。平坦な調整加工が全面に施されている。器体の中央部を調整加工した後に、先端部と下端部に調整加工が施されている。器体中央部の剥離順序を部位単位でみると、裏面右部→表面左部→表面右部→裏面左部の順番に剥離されている。3は小型のもので先端部残存品である。裏面中央部に素材の主要剥離面が残っており、それ以外は全面に平坦剥離が入念に施されている。

4・5は二次加工のある剥片である。どちらも三角形で先端が尖った形状をし、尖頭器と分類することも可能である。4は横長剥片を横位に用いて表面の全面と裏面上部に平坦剥離が施され、先端部と下部の縁辺部に細かい調整加工が施されている。5は横長剥片を横位に用いて裏面右部に平坦剥離が施されている。先端部は両面に細かい調整加工が施されたため尖った形状をし、右面下部に素材の打面が残っている。

6は削器である。厚みのない幅広の剥片を斜位に用い右面左上部に細かい調整加工が施され、尖った先端部が作出されている。7は削片である。両面加工の尖頭器の先端部の右側を打面とした楕状剥離により剥離されたと思われる。8は微細剥離痕のある剥片である。幅広の剥片の末端部に微細剥離がみられる。

9(a~e)は節理面に沿って同時割れした剥片の接合資料である。上面からの加撃により9(a~c)と9(d+e)とに分割される。9(a~c)はさらに3分割され、9(d+e)は2分割されている。10(a+b)は主要剥離面が表面中央部に残る分割礫を素材とする。剥離順序は、表面を打面とし裏面左下部・上部・右下部に横長剥片を剥離→裏面の周辺部を打面とし表面方向に求心状に10aを含む数枚の横長剥片を剥離となる。

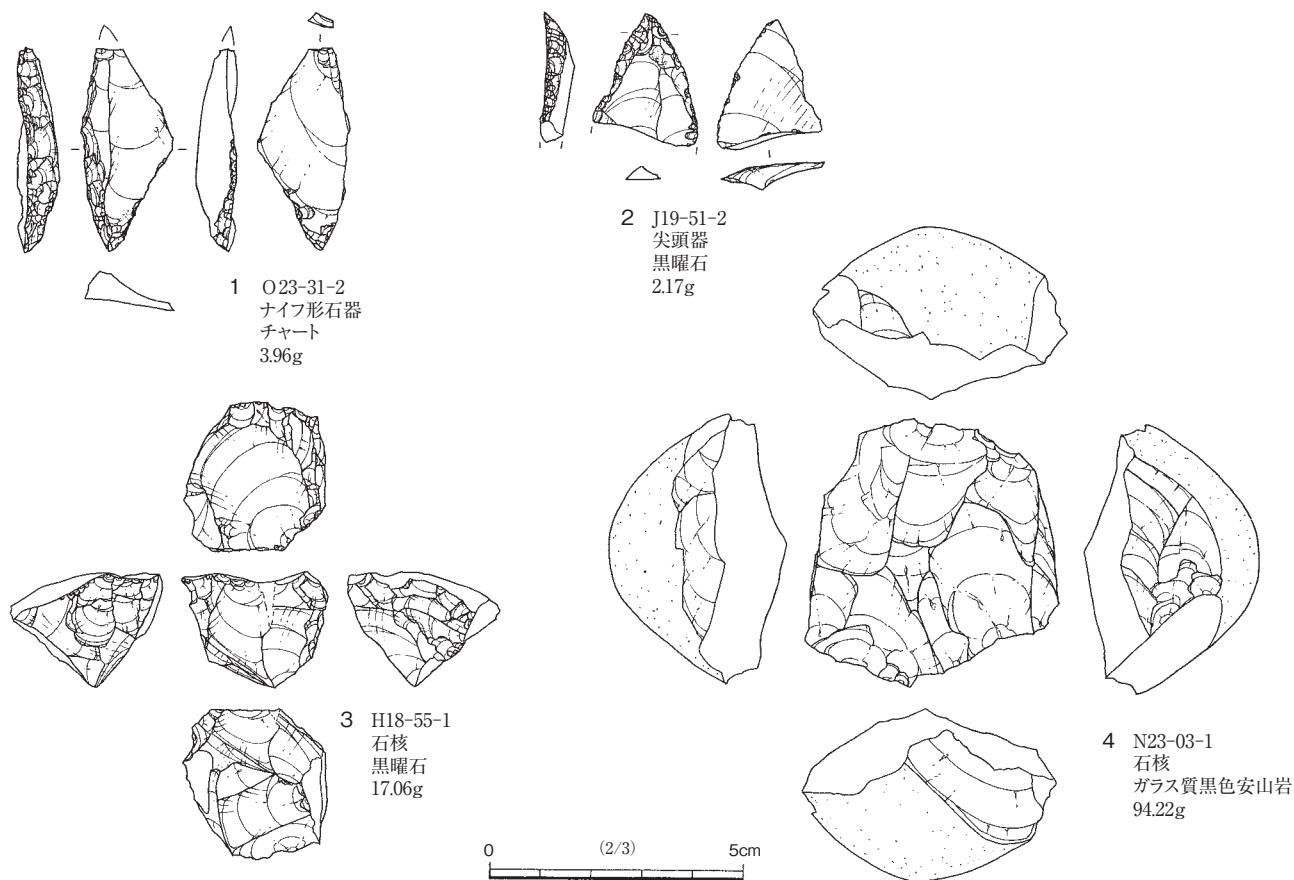
第8節 単独出土石器(第3-130図、第3-53表、図版10・18)

出土状況 いずれの文化層に帰属するか明確でなく、単独で出土したものを本節では単独出土としてまとめて取り扱うことにする。19点が該当する。

出土遺物 器種組成はナイフ形石器1点、尖頭器1点、二次加工のある剥片2点、微細剥離痕のある剥片3点、剥片9点、石核2点の石器類18点と礫片1点で構成される。石器類の石材はガラス質黒色安山岩5点、黒曜石3点、玉髓3点、頁岩2点、珪質頁岩2点、チャート2点、流紋岩1点である。礫片の石材はチャート1点である。

1はナイフ形石器である。切出形の形態をしている。縦長剥片を縦位に用いて打面側を先端に設置している。左側縁と右側縁下部に急角度の調整加工が施されている。先端部はわずかに折れている。第4文化層から切出形のナイフ形石器が多く出土しており、第4文化層に帰属する可能性が高い。本資料は、第4文化層第27ブロックの南側から出土している。2は尖頭器である。縦長剥片を縦位に用いている。先端部の両側縁に平坦な調整加工が施されている。器体の中央部付近が破損しており、全体形状は不明である。第4文化層から出土している尖頭器と形態的に類似するため、第4文化層に帰属する可能性がある。

3・4は石核である。3は打面転移を頻繁に行いながら剥片が剥離されている。剥離順序は、下端部を打面として上面方向に縦長剥片を剥離→左面左部を打面として裏面方向に小型の細長い剥片を数枚剥離→表面右上部を打面として上面方向に幅広の剥片を剥離→上面下部を打面として表面方向に縦長剥片の剥離となる。4は分割礫を素材としている。素材の主要剥離面は表面中央にわずかに残っている。周縁部を打面として求心状に横長剥片を剥離している。



第3-130図 単独出土石器

第3-53表 単独出土器種石材組成表

石 材 \ 器 種	ナイフ形石器	尖頭器	二次加工のある剥片	微細剥離痕のある剥片	剥片	石核	礫片	点数合計
黒 曜 石		1		1		1		3
ガラス質黑色安山岩					4	1		5
頁 岩					2			2
珪 質 頁 岩			1		1			2
玉 髓			1	1	1			3
チ ャ 一 ト	1				1		1	3
流 紋 岩				1				1
全 体 点 数 合 計	1	1	2	3	9	2	1	19

第9節まとめ(第3-2・131~133図、第3-1・2表)

石器出土総点数が2,047点で、37か所のブロックが検出された。6枚の文化層の石器群と単独出土石器19点が出土している。文化層の概要については、第3-2図の文化層別ブロック位置図、第3-1・2表の文化層別器種・石材組成表を参照していただきたい。本節では、第3-131~133図に掲載した文化層別主要石器をもとに文化層の様相をまとめることにする。

1 第1文化層(第3-131・132図 1~43)

IXa層上部に生活面を持つと考えられる石器群である。総計790点出土した。第1~16ブロックの16か所

の集中地点で構成される。第1～11ブロックは近接して分布していて、ブロック間接合資料がみられブロック群を形成しており、1ユニットと区分した。それ以外のものを第12～16ブロックとして取り扱った。

(1) 1ユニット(第3-131図1～30)

総計486点出土し、第1～11ブロックの11か所の集中地点で構成される。1ユニットは全体の規模が長径58m×短径32mで北西から南東方向に細長い帯状の分布状況を示す。東側ブロック群(第1～5ブロック)と西側ブロック群(第6～11ブロック)の2つの扇状ブロック群が重なったような分布状況を示しており、重扇状ブロック群を形成しているととらえられる。各ブロック群の規模は、東側が長径36m×短径27m、西側が長径25m×短径20mである。分布状況・接合関係(第3-6～15図を参照)・石器群の内容・出土層位などから、環状ブロック群よりも後出する段階の石器群ととらえられる。

主要石器は、局部磨製石斧・局部磨製石斧調整剥片(1・2)・ナイフ形石器(3～11)・削器(12)・楔形石器(14～17)・敲石(22・23)・台石(24)・磨石(25～30)である。石器類の石材は、ガラス質黒色安山岩・珪質頁岩・チャート・玉髓・硬質頁岩を主体とする。35点出土した礫・礫片の石材は、チャート・砂岩を主体とする。

局部磨製石斧(1)は緑色岩が用いられ、再生加工が行われている。ナイフ形石器は、石材により大きさや形態に違いがみられた。大型(3～5)のものは、黑色頁岩・硬質頁岩が用いられ石刃を素材とする。いずれも製品の形で搬入され、石刃を縦位に用いて素材の打面側を基部に設置している。基部は表裏両側から急角度の調整加工が施され尖った形状をしている。中型(6～8)のものは、玉髓・ガラス質黒色安山岩が用いられ縦長剥片を素材とする。このうち6・7は、素材を斜位に用いて素材の打瘤部を除去するような平坦な剥離が施され、先端部は尖った形状をしている。小型(9～11)のものは、黒曜石・チャートが用いられ小型の石刃を素材とする。

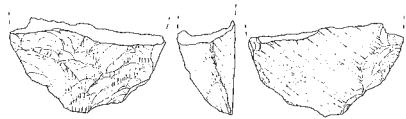
削器(12)は大型で幅広の剥片の両側縁に平坦な剥離が施されている。楔形石器は剥片を素材とするもの(14～16)や楕円形礫を素材とするもの(17)など多様な形態をしている。敲石(22)はハンバーグ状の楕円形礫を素材として周縁部は敲打と研磨が並行して行われており、特徴的な形態をしている。磨石(25～30)は楕円形礫を素材として全面が研磨されている。

類似する石器群としては、重扇状ブロック群を形成する八千代市西芝山南遺跡第1文化層¹⁾、袖ヶ浦市台山遺跡第1文化層²⁾、成田市東峰御幸畑西遺跡(空港No.61遺跡)エリア1³⁾があげられる。これらの石器群は、石刃を素材とするナイフ形石器がまとまって出土しており、器種組成が類似する。石材はガラス質黒色安山岩・チャート・玉髓を主体とし、黑色頁岩・黒曜石などを含み多様な石材を用いている点でも共通点がみられた。

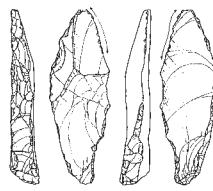
(2) 第12～16ブロック(第3-132図31～43)

総計304点出土した。ナイフ形石器は、大型のもの(33)が珪質頁岩、小型のもの(31・32)が黒曜石を用いている。1ユニットと同様に石材によって大きさが異なる傾向がみられた。二次加工のある剥片(34・35)はナイフ形石器の未完成の可能性がある。楔形石器(36～38)は剥片を素材としており、細長い小型石刃状の剥片が剥離された痕跡がみられる。石核(39・40)・接合資料(41)は石刃あるいは規格的な縦長剥片が量産されたことがうかがえる。このうち、40・41は両設打面の石核からは剥片剥離が行われている。敲石(42・43)は厚みのある楕円形礫が用いられている。類似する石器群は、1ユニットと同様の石器群があげられる。

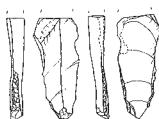
第1文化層1ユニット
[IXa層上部]



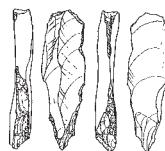
1 第5ブロック
緑色岩1001
2 第8ブロック
緑色岩1002



3 第2ブロック
黒色頁岩1002

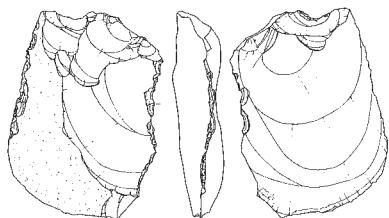


4 第9ブロック
黒色頁岩1008



5 第4ブロック
硬質頁岩1004

局部磨製石斧・局部磨製石斧調整剥片(1-2)



12 第4ブロック
玉髓1011
削器



9 第5ブロック
黒曜石1001



10 第2ブロック
チャート1019

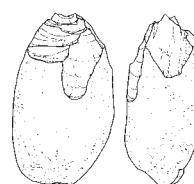


11 第10ブロック
チャート1002

ナイフ形石器(3~11)

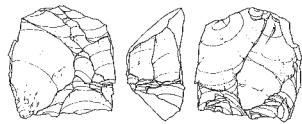


15 第8-9ブロック接合資料
チャート1008

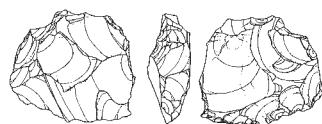


17 第9ブロック
チャート1007

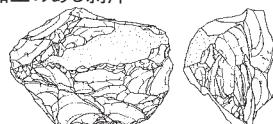
二次加工のある剥片



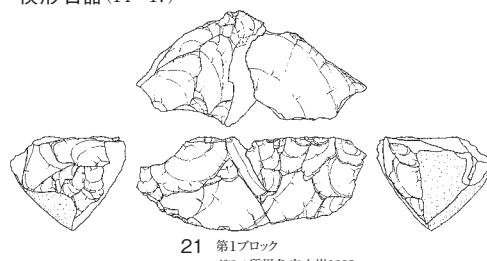
18 第5ブロック
流紋岩1001



19 第2ブロック
玉髓1008



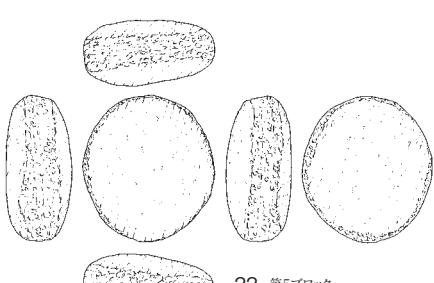
20 第2ブロック
ガラス質黑色安山岩1001



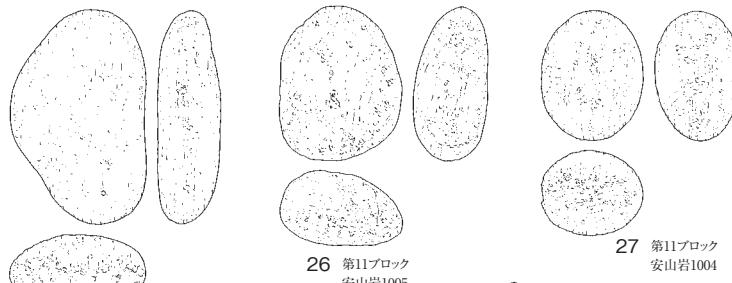
21 第1ブロック
ガラス質黑色安山岩1003

石核(18~21)

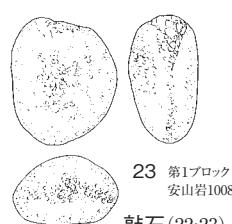
※1~21
(1/3) 10cm



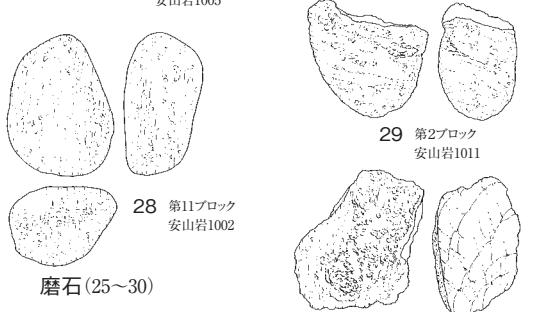
22 第5ブロック
安山岩1007



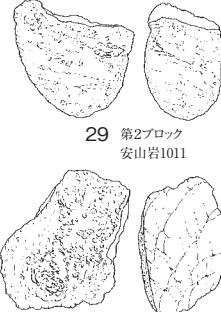
25 第11ブロック
安山岩1003



23 第1ブロック
安山岩1008
敲石(22-23)



28 第11ブロック
安山岩1002



29 第2ブロック
安山岩1011

30 第2ブロック
安山岩1010

※24
(1/6) 20cm

0 (1/4) 10cm

第3-131図 矢船II遺跡文化層別主要石器(1)

2 第2文化層(第3-132図44~67)

V層下部に生活面を持つと考えられる石器群である。総計145点出土した。第17~21ブロックの5か所の集中地点で構成される。下縦型石刃再生技法による石器群であり、この特徴は第19ブロック(45~55・57・59~65・67)において顕著にみられる。また、本文化層においてはブロック間接合資料が1個体のみ検出されたが、約57m離れた第19ブロックと第20ブロックとが接合している。

ナイフ形石器は、44が二側縁に調整加工が施され、鋭利な縁辺がわずかに残っている。45~47は器体の中央部付近から折断され先端部残存品である。意図的に器体を折断し、小型のナイフ形石器として再利用した可能性が高い。このようにナイフ形石器は鋭利な縁辺がほとんど残らないくらい使用し尽され、先端部が再利用されており、究極的に使用されたことが推察される。

彫器は48・49である。48は樋状剥離を行った後に右下部に調整加工が施され尖った形状をしており、揉錐器として再加工された可能性がある。削片(50~55)は小型で細長い形状をしている。51はナイフ形石器(あるいは削器)を素材としたものから剥離されたものと思われる。59は大型石刃を素材として大型の削片が剥離されたことを示す接合資料である。削片の縁辺には微細剥離が観察できるものが多くみられる。削片を植刃として用いて45~47のような小型のナイフ形石器を先端に装着した可能性も考えられる。

楔形石器(57・58)は大型石刃を素材としており、両極剥離によって削片と同様の形態のものが剥離されている。このように下縦型石刃再生技法を有する石器群においては、当初は樋状剥離を行うが、素材が小さくなると最終的に両極剥離によって小型の削片を剥離する技法がみられる。

敲石(60~66)はいずれも平坦面に擦痕、突出部に敲打痕が観察できる。60~63は小型の卵状、64~66は細長い棒状の形態をしている。これらの敲石は、敲打時に微妙な力のコントロールをするのに適した形態をしている。擦痕は打面の縁辺部の凹凸を平坦にするために敲石を擦りあてた痕跡と思われる。65の下端部は擦痕により平坦な面が3面ほど形成されている。磨石(67)は全面に擦痕がみられることから磨石と分類したが、敲石の可能性がある。56と同様に、下端部に擦痕により形成された平坦面が観察できる。

このほかの特徴として、52・54・55・57は黒みを帯び、はじけ飛んだような剥離面が観察されることから、火熱を受けたものと思われる。第2文化層の石器群からはこのほかにも同様の資料がみられ、火熱を受けた石器が多くみられた。石器製作において火熱処理を行って削片剥離を行った可能性が高い。

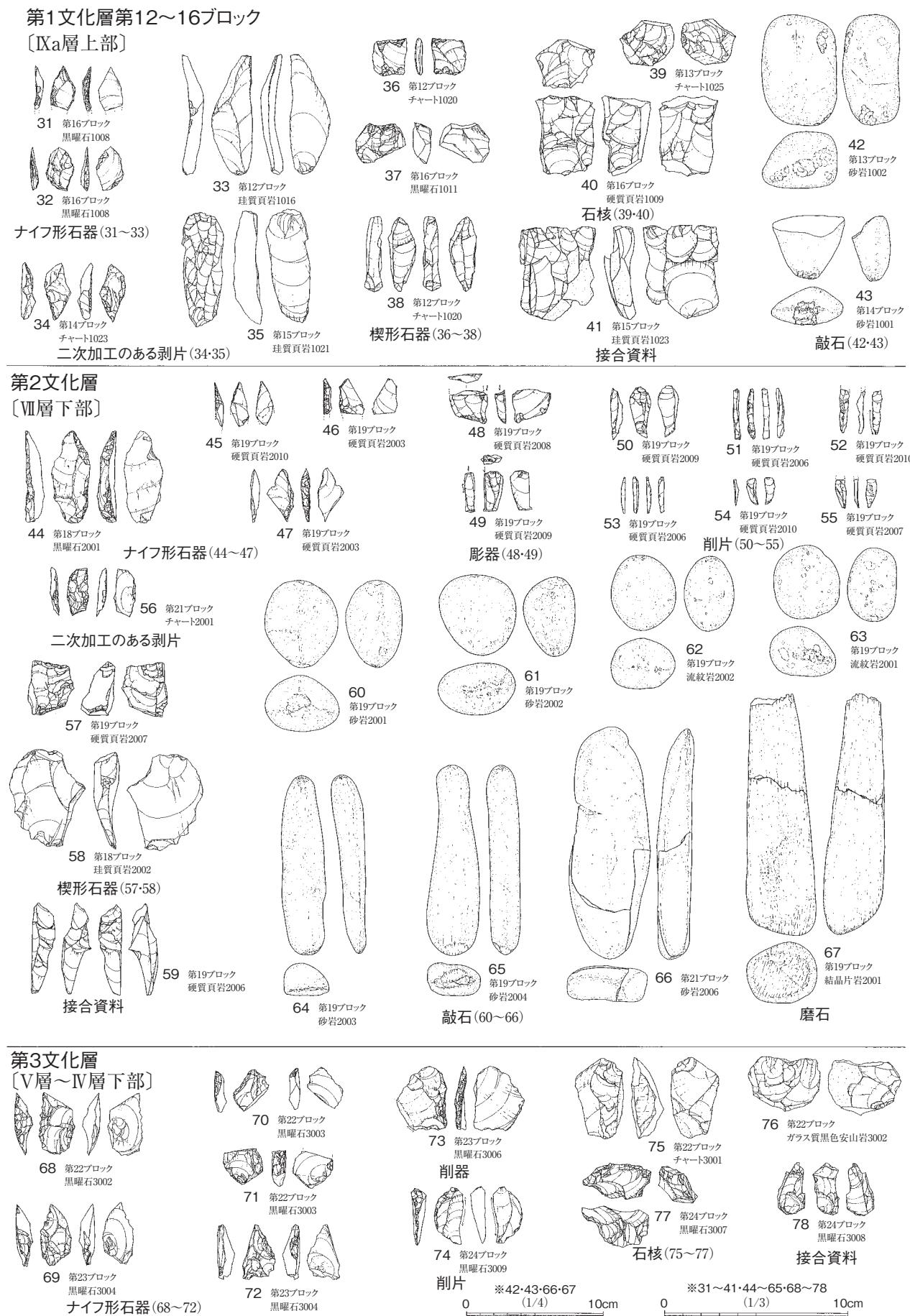
類似する石器群としては、下縦型石刃再生技法を有する石器群で卵形・棒状の敲石が出土している矢船I遺跡第1文化層(本報告書第2章に掲載)、鎌ヶ谷市東林跡遺跡V層出土石器⁴⁾、市野谷向山遺跡第2文化層⁵⁾があげられる。

3 第3文化層(第3-132図68~78)

V層~IV層下部に生活面を持つと考えられる石器群である。総計132点出土した。第22~24ブロックの3か所の集中地点で構成される。ブロック間の接合資料はみられなかった。石材は黒曜石を主体とする。第22・23ブロックにおいて礫群が伴っている。

ナイフ形石器(68~72)は68・69が切出形の形態で、70~72は破損しており全体形状が不明である。削器(73)は幅広の削片を素材として素材の打面部側に急角度の調整加工が施されている。削片(74)はナイフ形石器(あるいは削器)を素材として剥離されたものである。石核(75~77)は打面転移を頻繁に行いながら削片が剥離されている。接合資料(78)は両極剥離が行われ楔形石器が作出されている。

類似する石器群としては、黒曜石を主体として切出形のナイフ形石器を主要石器とする石器群である柏



第3-132図 矢船II遺跡文化層別主要石器(2)

市大割遺跡第3文化層⁶⁾、柏市富士見遺跡第4文化層⁷⁾があげられる。

4 第4文化層(第3-133図79~108)

Ⅲ層下部～Ⅲ層中部に生活面を持つと考えられる石器群である。総計759点出土した。第25～35ブロックの11か所のブロックで構成される。調査区全域に分布しており、ブロック間の接合資料は隣接して分布する第25ブロックと第26ブロックとの1個体のみである。また、各ブロックの器種組成に違いがみられることが第4文化層の特徴としてあげられる。石器類の石材は、黒曜石・ホルンフェルス・ガラス質黒色安山岩を主体とする。礫・礫片の割合(36.23%)が高く、第25～29・34ブロックにおいて礫群が伴っている。礫・礫片の石材は、砂岩・チャート・流紋岩・石英斑岩を主体とする。

ナイフ形石器は、切出形を呈するもの(79・81・82・84・85)、柳葉形を呈するもの(80)、小型で幾何形をしたもの(83)で構成され、切出形を呈するものが多くみられた。横長剥片を横位に用いているもの(79・81～84)が主体を占め、縦長剥片を縦位に用いるもの(80・85)の割合が少ない。石材は黒曜石(82～85)が主体を占める。

尖頭器は多様な形態のもので構成される。各ブロックで形態の異なるものが出土する傾向がみられた。両面加工で厚みのないもの(86・91)は第32ブロックから出土している。91は有樋尖頭器で上下両端から樋状剥離が行われ片側縁に鋭い刃部が作り出されている。当初は下端部を先端として用いて樋状剥離を行い、先端部が破損した段階で器体を上下逆にして再び樋状剥離を行ったものと思われる。両面加工で厚みのあるもの(93)は80のナイフ形石器に伴って第27ブロックから出土している。片面加工のもの(87・88)は81のナイフ形石器に伴って第29ブロックから出土している。尖頭器とナイフ形石器が伴っているブロックは第27・29ブロックである。周縁加工のもの(89・90・92)は第35ブロックから出土している。

搔器(94～97)は第33・34ブロックから出土している。いずれも厚みのある幅広の剥片を素材としている。94が円形、95～97が拇指形をしている。削器(98～100)は第25・26ブロックから出土している。98・99が縦長剥片を素材とし平坦な調整加工が施され、100が横長剥片を素材として鋸歯状の粗い調整加工が施されている。二次加工のある剥片(101・102)は、第34ブロックから出土している。101がナイフ形石器の未成品、102が尖頭器の未成品の可能性がある。石核(103～108)は、分割礫を素材としたもの(103・106～108)が多くみられる。打面転移を頻繁に繰り返して横長剥片を剥離している。

類似する石器群としては、両面加工の有樋尖頭器・切出形のナイフ形石器・拇指形の搔器などを主要器種として礫群を伴っている成田市取香和田戸遺跡第2文化層⁸⁾があげられる。

5 第5文化層(第3-133図109～111)

Ⅲ層上面に生活面を持つと考えられる石器群である。総計3点出土し、第36ブロックの1か所の集中地點と単独出土1点で構成される。細石刃石核(109～111)はすべて野辺山型のものである。いずれも厚みのある剥片を素材としており、凝灰岩(109・110)と玉髓(111)が用いられている。

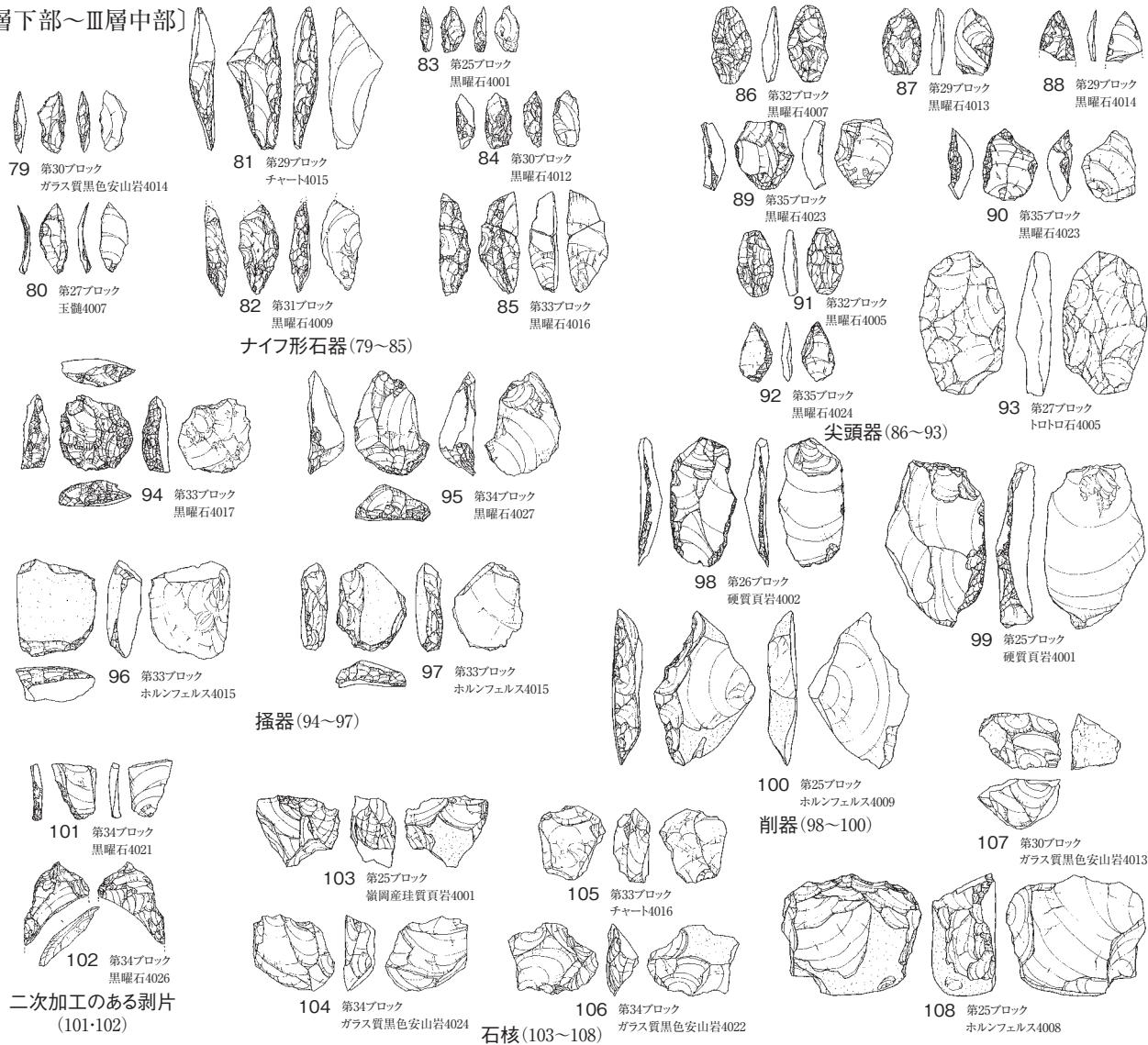
類似する石器群としては、非黒曜石を主体とする細石刃石器群である佐倉市大林遺跡第1文化層⁹⁾、四街道市大割遺跡第7文化層¹⁰⁾があげられる。

6 第6文化層(第3-133図119～121)

Ⅲ層上面～Ⅱ層下部に生活面を持つと考えられる石器群である。総計199点出土し、第37ブロックの1か所のみの集中地點である。尖頭器を主要石器とし礫群を伴う。尖頭器は大型(113)・中型(114)・小型(115)のものがみられる。113の大型の尖頭器は旧石器時代終末期に特徴的にみられる形態をしている。大

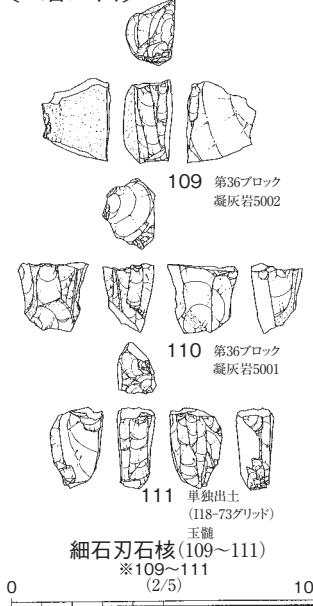
第4文化層

〔Ⅲ層下部～Ⅲ層中部〕



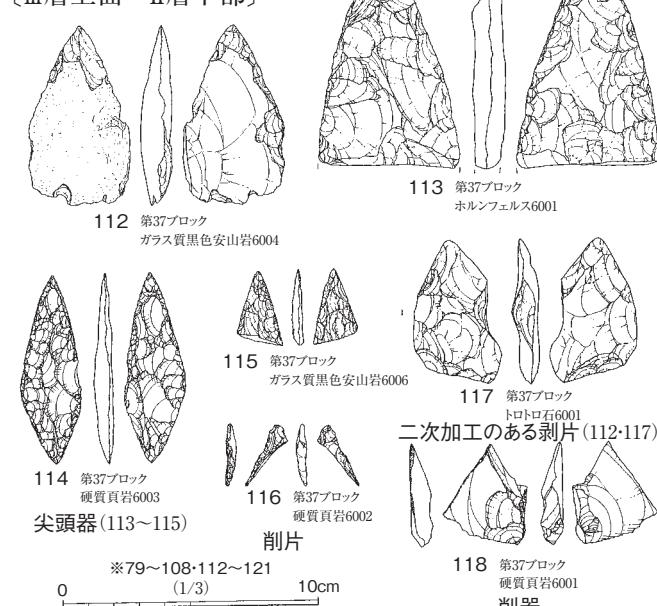
第5文化層

〔Ⅲ層上面〕



第6文化層

〔Ⅲ層上面～Ⅱ層下部〕



単独出土石器



第3-133図 矢船II遺跡文化層別主要石器(3)

型尖頭器は単独出土で検出されることが多いため、どのような石器群に伴うものか不明なものが多い。本ブロックでは、中型・小型の尖頭器や削器と礫・礫片が伴って出土しており、貴重な出土例といえよう。神子柴・長者久保期に比定される石器群と思われる。二次加工のある剥片(112・117)は三角形状を呈し先端が尖った形状をしていることから、尖頭器と分類することも可能である。削片(116)は両面加工の尖頭器の先端部から楕状剥離されたものと思われる。削器(118)は幅広の剥片を斜位に用いて尖った先端部を作り出されている。

類似する石器群として、旧石器時代終末期に位置づけられ尖頭器石器群である四街道市木戸先遺跡第3群¹¹⁾、富里市南大溜袋遺跡¹²⁾、千葉市弥三郎第2遺跡¹³⁾があげられる。

7 単独出土石器(第3-133図119~121)

ナイフ形石器(119)、尖頭器(120)、石核(121)が出土している。119・120が第4文化層に帰属する可能性がある。121は第3文化層に帰属する可能性がある。

- 注1 島立 桂ほか 2010『西八千代北部地区埋蔵文化財調査報告書2-八千代市西芝山南遺跡-』(公財)千葉県教育振興財団
- 2 新田浩三ほか 2002『東関東自動車道(千葉・富津線)埋蔵文化財調査報告書10-袖ヶ浦市台山遺跡-』(財)千葉県文化財センター
- 3 永塚俊司ほか 2000『新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書X III-東峰御幸畑西遺跡(空港No61遺跡)-』(財)千葉県文化財センター
- 4 織笠明子 2010『東林跡遺跡』『鎌ヶ谷市史 資料編I(考古)-東林跡遺跡-』鎌ヶ谷市教育委員会
- 5 新田浩三ほか 2011『流山新市街地地区埋蔵文化財調査報告書5-流山市大久保遺跡(下層)・市野谷向山遺跡(下層)・東初石六丁目第I遺跡(下層)・東初石六丁目第II遺跡・十太夫第II遺跡-』(財)千葉県教育振興財団
- 6 島立 桂ほか 2012『柏北部中央地区埋蔵文化財調査報告書4-柏市大割遺跡・須賀井遺跡-旧石器時代編』(公財)千葉県教育振興財団
- 7 新田浩三 2015『柏北部東地区埋蔵文化財発掘調査報告書8-柏市富士見遺跡・原畑遺跡・駒形遺跡-旧石器時代編』(公財)千葉県教育振興財団
- 8 新田浩三ほか 1994『新東京国際空港発掘調査報告書VIII-取香和田戸遺跡(空港No60遺跡)-』(財)千葉県文化財センター
- 9 田村 隆ほか 1989『佐倉市南志津地区埋蔵文化財発掘調査報告書1-佐倉市御塚山・大林・大堀・西野・芋窪遺跡-』(財)千葉県文化財センター
- 10 渡辺修一 1991『四街道市内黒田遺跡群-内黒田特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書-』(財)千葉県文化財センター
- 11 林田利之ほか 1994『木戸先遺跡』(財)印旛郡市文化財センター
- 12 田村 隆・橋本勝雄 1984『房総考古学ライブライアリーワーク先土器時代』(財)千葉県文化財センター
- 13 織笠 昭・寺門義範 1992『土気南遺跡群II-弥三郎第2遺跡-』(財)千葉市文化財調査協会

第4章 駒形遺跡

第1節 遺跡の概要(第4-1・2図、第4-1・2表)

確認・本調査範囲と文化層別ブロック位置図は第4-1・2図のとおりである。既報告の成果を合わせて表示しており、灰色が第1～19次の調査範囲、黄緑色が第20～42次の調査範囲である。本報告書においては第20～42次調査の成果を掲載する。今回報告する石器群は、第1文化層第7ブロック・第3文化層第8～10ブロックである。石器出土総点数は308点で、2枚の文化層から4か所のブロックが検出された。文化層・ブロック別の器種組成・石材組成は第4-1・2表のとおりである。

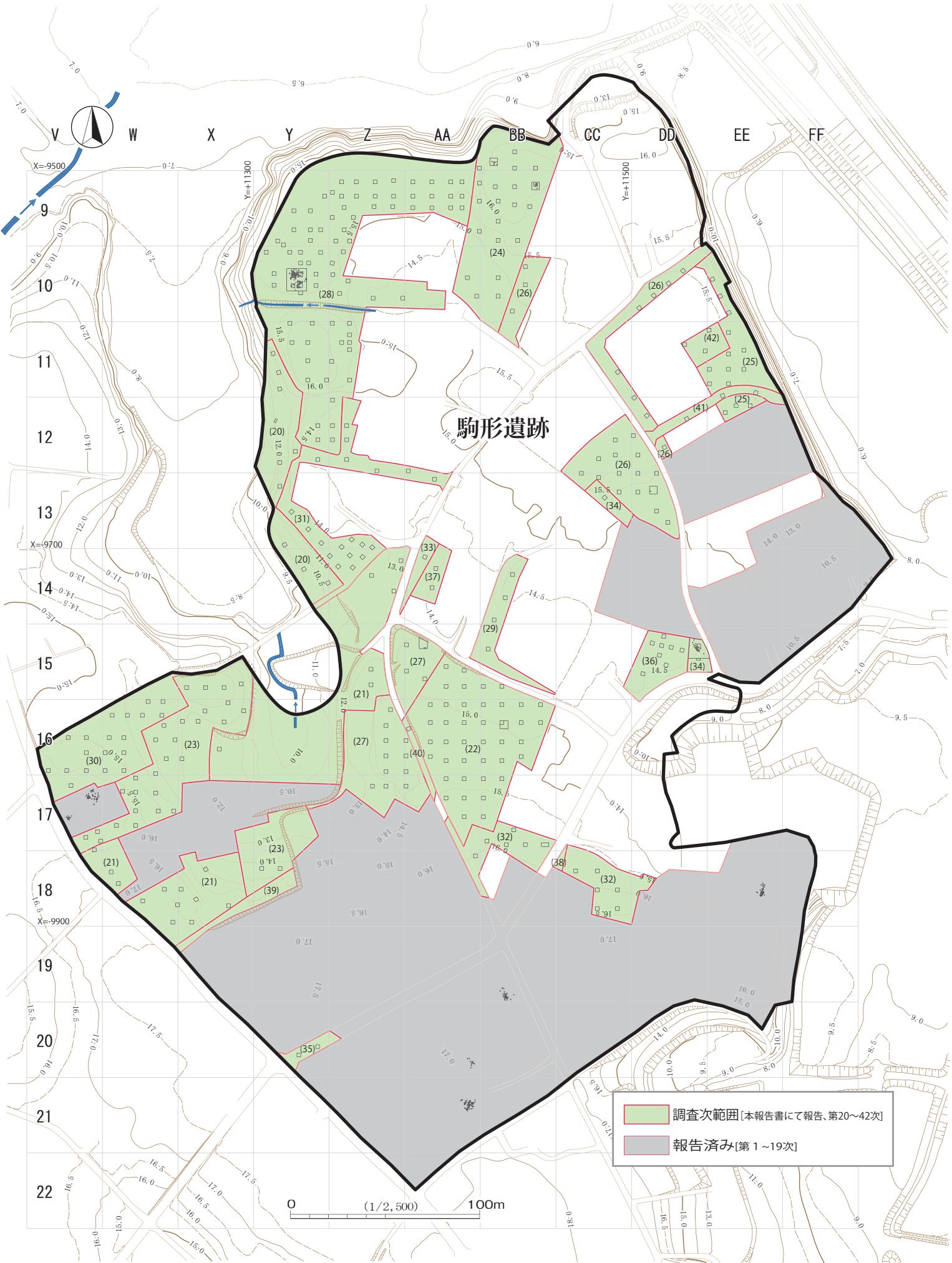
なお、第1～19次調査の成果は柏北部東地区8(2015年刊行)で報告済みで、総計354点の石器と3枚の文化層(第1～3文化層)・6か所の石器集中地点(第1～6ブロック)が検出された。

第4-1表 文化層ブロック別器種組成表

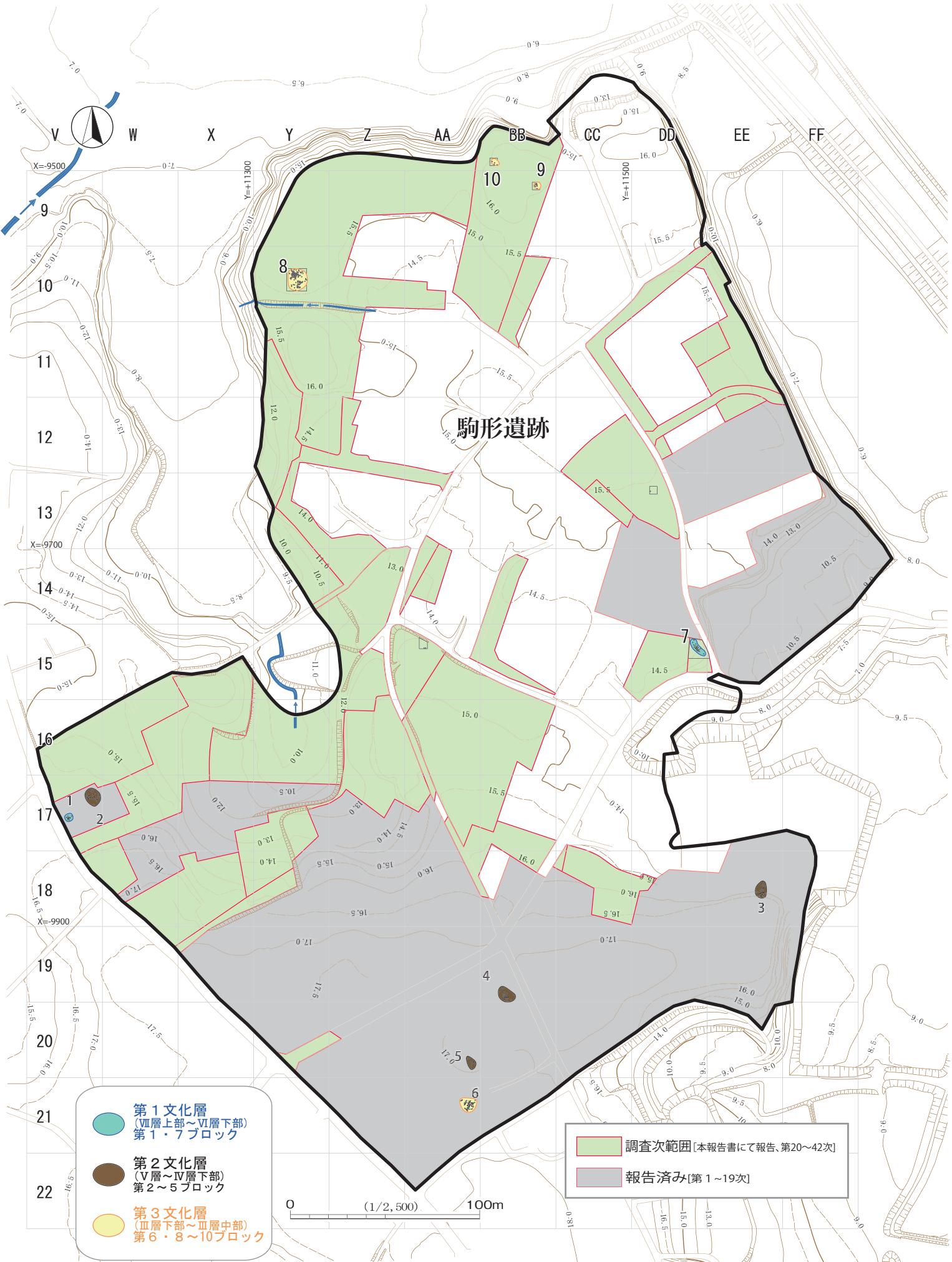
文化層	ブロツク	ナイフ形石器	角錐状石器	尖頭器	彫器	二次加工のある剥片	微細剥離痕のある剥片	削片	細石刃	剥石核	碎片	石核	敲石	礫	点数合計	
1	7	4				1	8			14	4				31	
第1文化層合計		4				1	8			14	4				31	
3	8			10	7	8	10	19		88	58	5	1	2	241	
	9						1			2				1	9	13
	10										2			1	2	5
第3文化層合計				10	7	8	11	19		90	58	7	1	4	44	259
単独出土合計	2	2	4			2			1	3					4	18
総 計 点 数	6	2	14	7	11	19	19	1	107	62	7	1	4	48	308	

第4-2表 文化層ブロック別石材組成表

文化層	ブロツク	黒曜石	ガラス質黑色安山岩	珪質頁岩	硬質頁岩	玉髓	ホルンフェルス	チヤ	砂岩	流紋岩	石英斑岩	碧玉(赤玉)	点数合計
1	7	7		14	4	2		3		1			31
第1文化層合計		7		14	4	2		3		1			31
3	8	168	3	1	5	5	16	11	17	11	3	1	241
	9							2		5	4	2	13
	10			2			1	1	1				5
第3文化層合計	168	3	3	5	5	19	12	23	15	5	1		259
単独出土合計	4	2	1	1	2	1	3	4					18
総 計 点 数	179	5	18	10	9	20	18	27	16	5	1		308



第4-1図 駒形遺跡調査次別区域と確認・本調査範囲



第4-2図 駒形遺跡文化層別ブロック位置図

第2節 第1文化層

1 概要(第4-2図、第4-1・2表)

第1文化層の石器群は総計31点出土し、第7ブロックのみで構成される。VII層上部～VI層下部に生活面を持つ石器群と推定される。調査区中央部の東寄りに位置し、標高14.0m～15.0m(現地表面)にかけて分布しており、南東に緩やかに傾斜する斜面の縁辺に立地している。なお、既に報告された第1文化層第1ブロックは、調査区中央部西寄りのV17グリッドから出土している。

2 第1文化層第7ブロック(第4-3～5図、第4-3表、図版19・20)

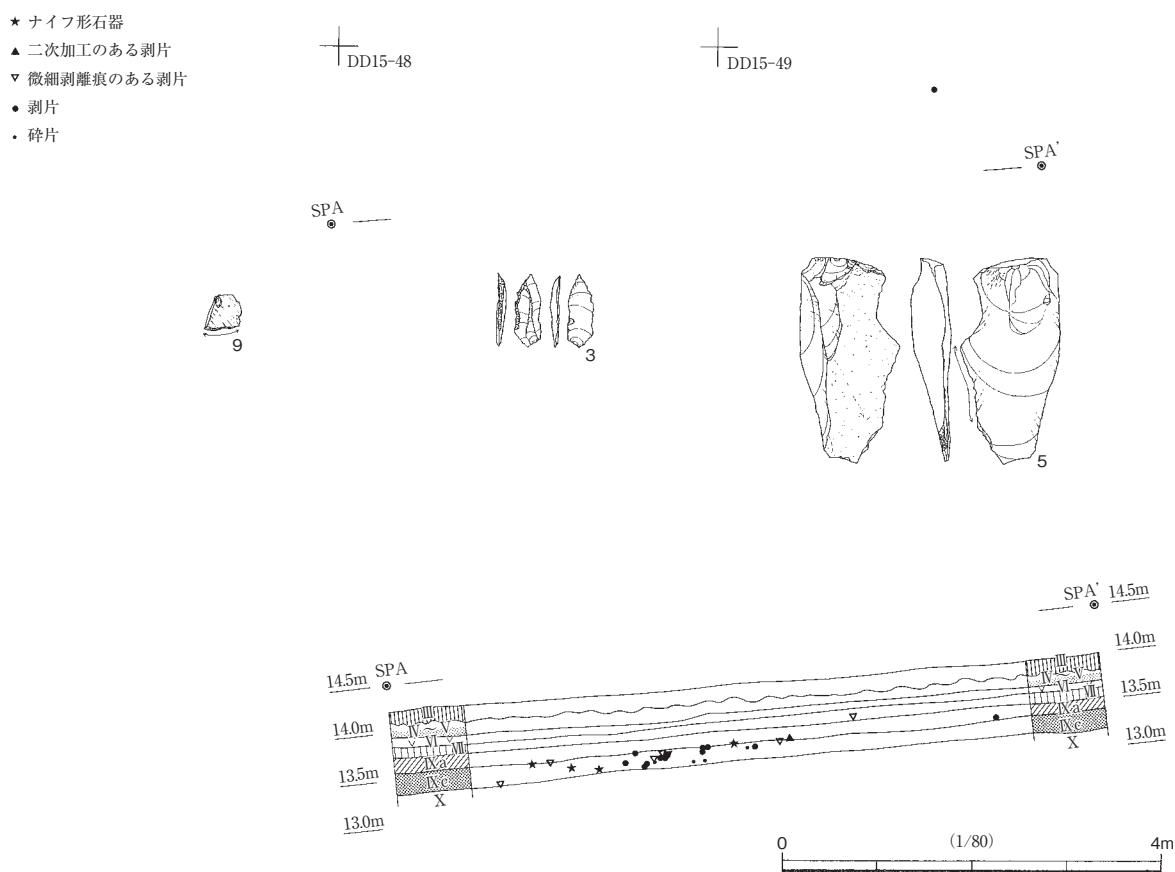
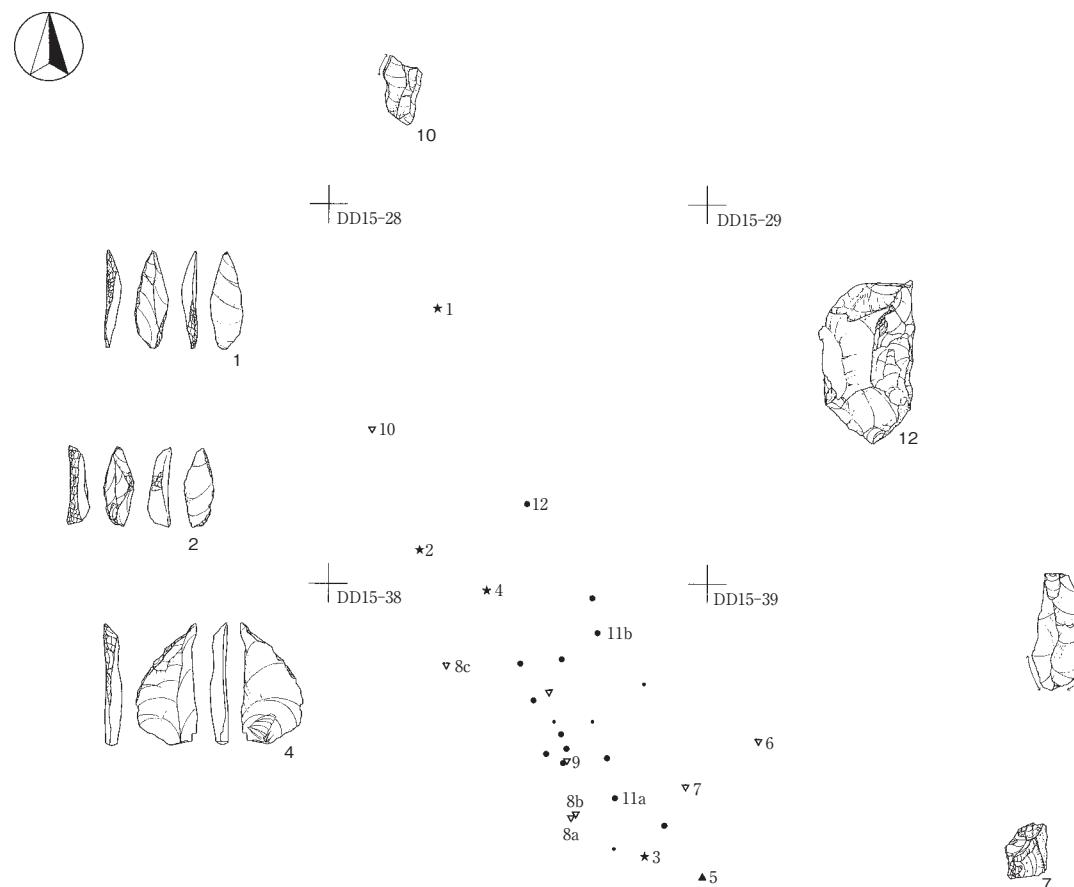
出土状況 調査区中央部東寄りのDD15-28・38・39・49グリッドに分布している。7.5m×5.9mの範囲から31点の石器が出土した。北西部と南東部の2か所の集中地点がみられる。北西部は出土点数が少ないが、ナイフ形石器がまとまって出土している。南東部は小範囲に密集しており、剥片・碎片が主に分布している。IXc層からVII層にかけて出土しており、VII層上部に集中する。

出土遺物 器種組成はナイフ形石器4点、二次加工のある剥片1点、微細剥離痕のある剥片8点、剥片14点、碎片4点の石器類31点である。石材は珪質頁岩14点、黒曜石7点、硬質頁岩4点、チャート3点、玉髓2点、流紋岩1点である。

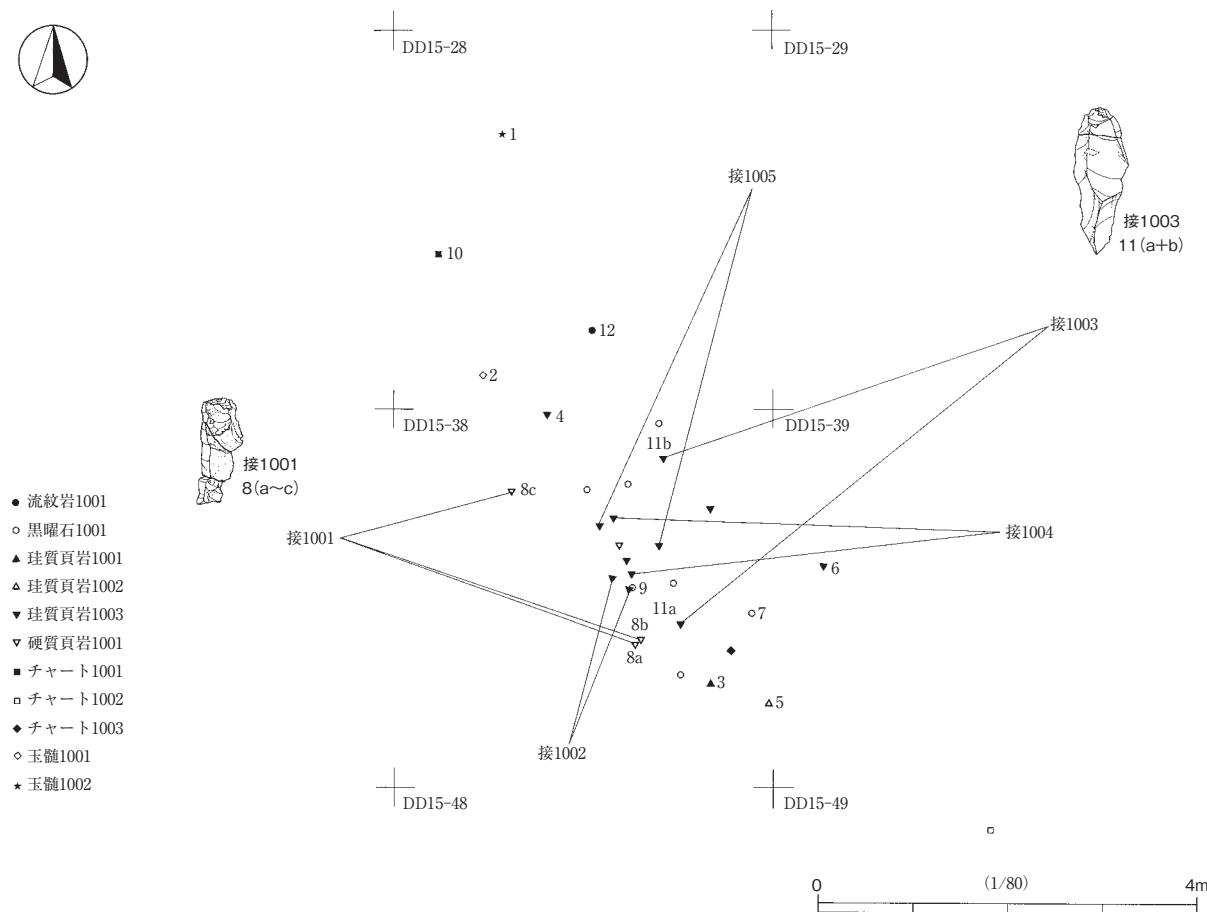
1～4はナイフ形石器である。1・2は二側縁加工で、尖鋭な先端部と先鋭な基部を呈する東林跡型ナイフ形石器である。1は石刃を素材として素材の打面部側を先端部に設置している。単独母岩で製品として搬入されている。左側縁と右側縁下部に急角度の調整加工が施されている。2は厚みのある石刃を素材として素材の打面部側を先端部に設置している。単独母岩で製品として搬入されている。左側縁と右側縁中部に急角度の調整加工が施されている。1・2はどちらも、素材の打面部を先端部に設置しており、形態的に非常に類似している。3は厚みのない石刃を素材として素材の打面部側を基部に設置している。単独母岩で製品として搬入されている。左側縁上半部に急角度の調整加工が施されており、縁辺は鋸歯状を呈する。素材の打面は残っている。4は中型の石刃を素材として素材をやや斜位に用いて素材の打面側を基部に設置している。6・11(a+b)と同一母岩の珪質頁岩1003が用いられている。珪質頁岩1003はこの

第4-3表 第1文化層第7ブロック組成表

母岩 器種	母岩番号	ナイフ形 石器	二次加工の ある剥片	微細剥離痕 のある剥片	剥片	碎片	点数合計	点数比 (%)	重量合計 (g)	重量比 (%)
黒 曜 石	1001			2	4	1	7	22.58	4.70	3.54
珪 質 頁 岩	1001	1					1	3.23	0.95	0.72
	1002		1				1	3.23	34.90	26.31
	1003	1		2	7	2	12	38.71	22.15	16.70
珪 質 頁 岩 合 計		2	1	2	7	2	14	45.16	58.00	43.72
硬 質 頁 岩	1001			3		1	4	12.90	2.22	1.67
玉 髓	1001	1					1	3.23	2.38	1.79
	1002	1					1	3.23	2.22	1.67
玉 髓 合 計		2					2	6.45	4.60	3.47
チ ヤ 一 ト	1001			1			1	3.23	1.34	1.01
	1002				1		1	3.23	7.27	5.48
	1003				1		1	3.23	5.29	3.99
チ ヤ 一 ト 合 計				1	2		3	9.68	13.90	10.48
流 紋 岩	1001				1		1	3.23	49.24	37.12
全 体 点 数 合 計		4	1	8	14	4	31	100.00	132.66	100.00



第4-3図 第1文化層第7ブロック器種別分布



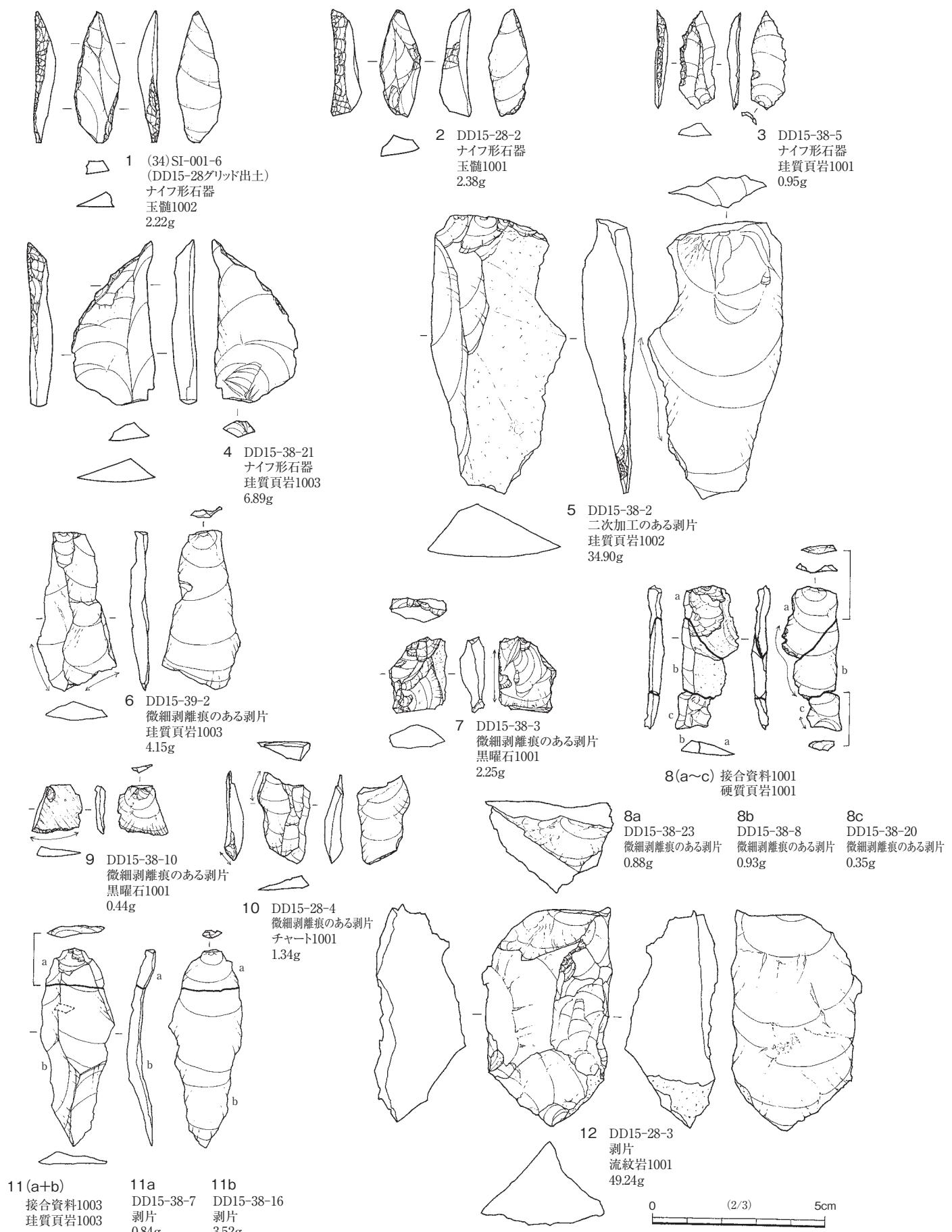
第4-4図 第1文化層第7ブロック母岩別分布

ほかに剥片7点・碎片2点で構成されていることから、本ブロックにおいて剥片剥離やナイフ形石器の製作が行われた可能性がある。左側縁上部に急角度の調整加工が施されている。先端部は右側に捻れており、尖った形状をしている。素材の打面は残っている。3・4は一側縁加工で、先端部が尖った形状をしており、サイズは異なるが形態的に類似している。

5は二次加工のある剥片である。頭部調整が行われ、打面調整が行われていない大型の縦長剥片を素材としている。右側縁下部には、表面側から急角度の調整加工が施されている。

6～10は微細剥離痕のある剥片である。6は頭部調整が行われ、打面調整が行われていない石刃を素材としている。素材の末端部に微細剥離痕がみられる。7は剥離面の形状から両極剥離によって剥離されたと思われる縦長剥片を素材としている。裏面左側縁に微細剥離痕がみられる。8(a～c)は厚みのない縦長剥片を素材としている。裏面左側縁に微細剥離痕がみられる。厚みのない縦長剥片を素材としているため、使用時に破損して3分割されたものと思われる。9は横長剥片を素材としている。末端部に微細剥離痕がみられる。10は縦長剥片を素材としている。左側縁上部と下部に微細剥離痕がみられ、上半部は折れている。

11(a+b)は石刃の接合資料である。打瘤部直下付近の厚みのない部位から折れていることから、11(a+b)を剥離した際に、11aと11bとに同時割れした資料と思われる。12は厚みのある剥片であり、良質の流紋岩1001が単独母岩で持ち込まれている。打面部は裏面側から折断されている。



第4-5図 第1文化層第7ブロック出土石器

第3節 第3文化層

1 概要(第4-6・7図、第4-4・5表)

第3文化層の石器群は総計259点出土し、第8～10ブロックの3か所で構成される。Ⅲ層下部～Ⅲ層中

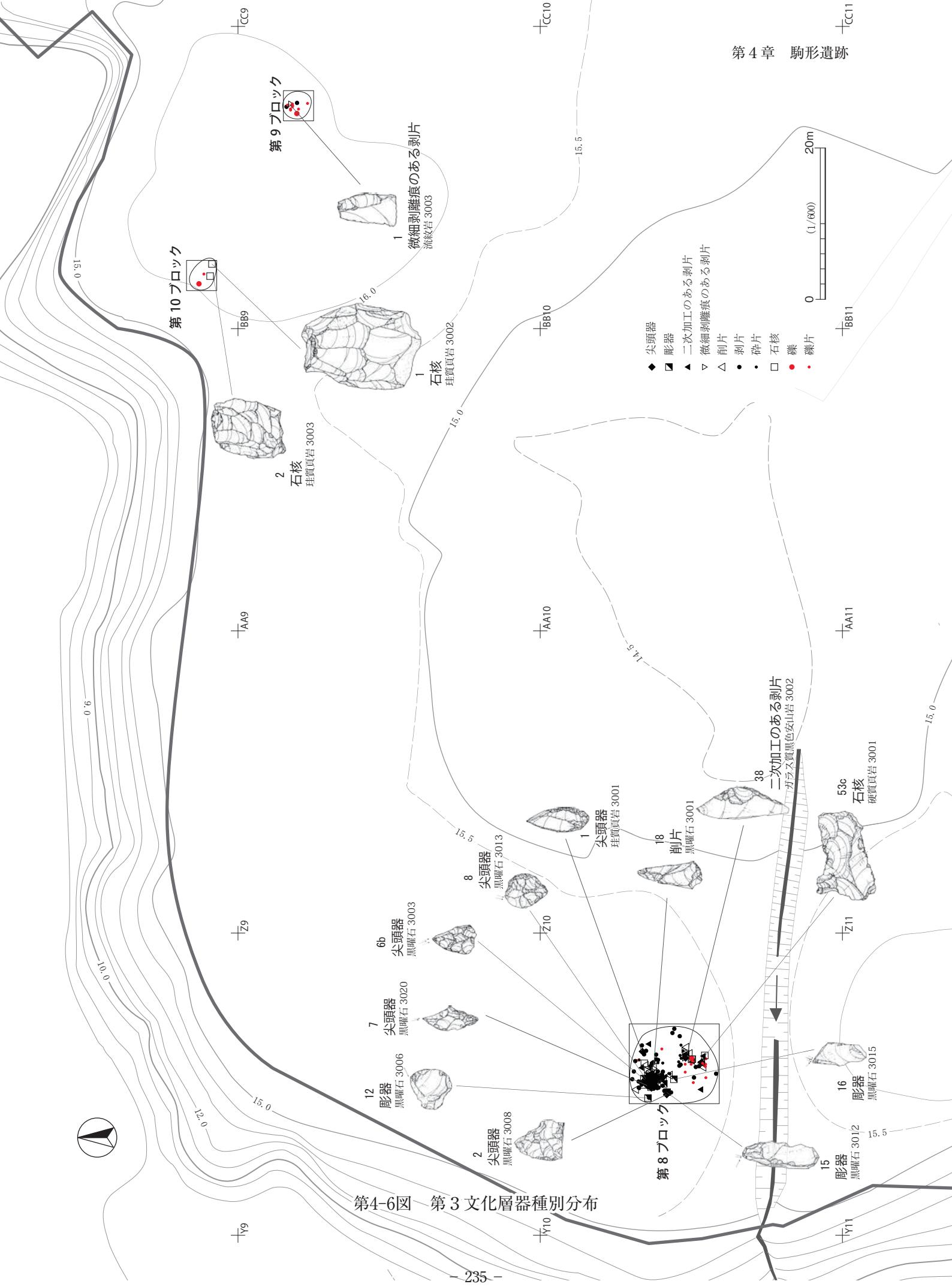
第4-4表 第3文化層器種石材組成表

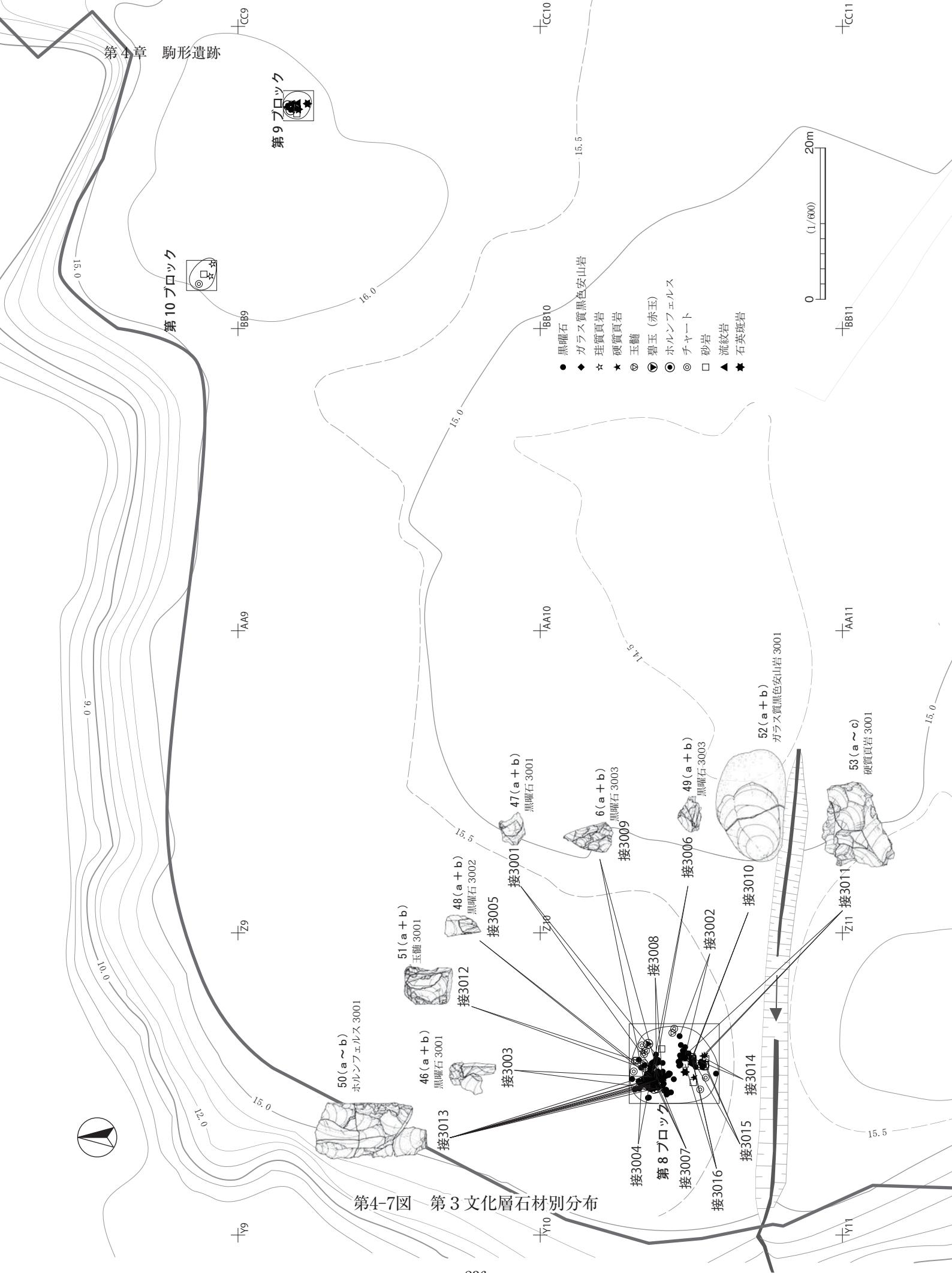
石 材 器 種	尖	彫	二 次 加 工 の あ る 剥 片	微 細 剥 離 痕 の あ る 剥 片	削	剥	碎	石	敲		礫	点 数 合 計
	頭	器	器	片	片	片	核	石		礫	片	計
黒曜石	8	7	1	8	19	68	57					168
ガラス質黑色安山岩			1					2				3
珪質頁岩	1							2				3
硬質頁岩			2			2		1				5
玉髓				1		3		1				5
ホルンフェルス			2			7	1	1		1	7	19
チヤート			1	1		8				1	1	12
砂岩										2	21	23
流紋岩	1			1		2						11
石英斑岩									1		4	5
碧玉(赤玉)			1									1
全 体 点 数 合 計	10	7	8	11	19	90	58	7	1	4	44	259

第4-5表 第3文化層ブロック別組成表

ブ ロ ッ ク	石 材	尖	彫	二 次 加 工 の あ る 剥 片	微 細 剥 離 痕 の あ る 剥 片	削	剥	碎	石	敲		礫	点 数 合 計
		頭	器	器	片	片	片	核	石		礫	片	計
8	黒曜石	8	7	1	8	19	68	57					168
	ガラス質黑色安山岩			1					2				3
	珪質頁岩	1											1
	硬質頁岩			2			2		1				5
	玉髓				1		3		1				5
	ホルンフェルス			2			7	1	1		1	4	16
	チヤート			1	1		8						11
	砂岩										1	16	17
	流紋岩	1											10
	石英斑岩									1		2	3
	碧玉(赤玉)			1									1
第 8 ブ ロ ッ ク 合 計		10	7	8	10	19	88	58	5	1	2	33	241
9	ホルンフェルス											2	2
	砂岩										1	4	5
	流紋岩				1		2					1	4
	石英斑岩											2	2
第 9 ブ ロ ッ ク 合 計					1		2				1	9	13
10	珪質頁岩								2				2
	ホルンフェルス											1	1
	チヤート										1		1
	砂岩											1	1
第 10 ブ ロ ッ ク 合 計									2		1	2	5
全 体 点 数 合 計		10	7	8	11	19	90	58	7	1	4	44	259

第4-6図 第3文化層器種別分布





部に生活面を持つ石器群と推定される。調査区北部と南部に位置し、標高15.5m～17.5m(現地表面)にかけて分布している。第3文化層の器種石材組成とブロック別組成は第4-4・5表のとおりである。器種は尖頭器10点、彫器7点、二次加工のある剥片8点、微細剥離痕のある剥片11点、削片19点、剥片90点、碎片58点、石核7点、敲石1点の石器類211点と礫4点、礫片44点の259点で構成される。尖頭器・彫器・削片が第3文化層の主要器種である。石器類の石材は黒曜石168点、ホルンフェルス11点、チャート10点、硬質頁岩5点、玉髓5点、流紋岩4点、ガラス質黒色安山岩3点、珪質頁岩3点、石英斑岩1点、碧玉(赤玉)1点である。黒曜石が大半を占める。礫・礫片の石材は砂岩23点、流紋岩11点、ホルンフェルス8点、石英斑岩4点、チャート2点である。すべてのブロックに礫群が伴っている。構成される礫・礫片の大きさは、Ⅶ層下部に生活面を持つ矢船I遺跡第1文化層に比べて、小型のものであることが特徴としてあげられる。

2 第3文化層第8ブロック(第4-8～14図、第4-6表、図版19～21)

出土状況 調査区北西部のY10-34～36・44～46・54・55グリッドに分布している。10.8m×9.2mの範囲から241点の石器が出土した。北西部・南部・北東部の3か所の集中地点がみられる。石器類と礫・礫片が混在して分布している。北西部は密集し大半が石器類で占められる。南部は散漫に分布し礫・礫片の占める割合が高い。北東部は散漫に分布し石器類の占める割合が高い。V層からII層にかけ出土しており、III層下部～III層中部に集中する。

出土遺物 器種組成は尖頭器10点、彫器7点、二次加工のある剥片8点、微細剥離痕のある剥片10点、削片19点、剥片88点、碎片58点、石核5点、敲石1点の石器類206点と礫2点、礫片33点の礫・礫片35点で構成される。尖頭器は先端部に樋状剥離が行われた有樋尖頭器の占める割合が高い。これらは東内野型有樋尖頭器に分類される。また、彫器と削片が多く出土しており、樋状剥離をすることで頻繁に刃部が作り出されていた。石器類の石材は黒曜石168点、ホルンフェルス11点、チャート10点、硬質頁岩5点、玉髓5点、ガラス質黒色安山岩3点、珪質頁岩1点、流紋岩1点、石英斑岩1点、碧玉(赤玉)1点である。黒曜石の占める割合がきわめて高い。礫・礫片の石材は砂岩17点、流紋岩10点、ホルンフェルス5点、石英斑岩2点、チャート1点である。

1～10は尖頭器である。石材は1が珪質頁岩、5が流紋岩で、それ以外はすべて黒曜石が用いられている。1は石刃を素材として素材の打面部側を基部に設置している。縁辺部のほぼ全周に平坦な調整加工が施されている。調整加工は表面側が左部と右下部に、裏面側が左上部と右下部にそれぞれ施されている。左側縁上部の調整加工は微細剥離痕ともとらえられることから、ナイフ形石器と識別することも可能である。2は右側縁上部に最終の調整加工が施されており、先端部が破損した後に調整加工が施されたものと思われる。3は表裏全面に平坦な調整加工が施されている。先端部と中央部付近が折れている。4は先端部残存品である。表裏全面に平坦な調整加工が施されている。5は基部残存品である。

6(a+b)は有樋尖頭器と削片の接合資料である。尖頭器の変形に伴う削片の剥離が先端部と基部の両方から施されている。4つの剥離工程がみられた。第1工程では尖頭器が製作されている。この工程の剥離面は裏面の中央部にわずかに残されている。第2工程は基部側から樋状剥離が繰り返し行われ、その都度再生加工が行われる工程である。下半部が丸みを帯び全体形状が三角形を呈している。表面右下部の細長い剥離面は、基部から樋状剥離が行われたと判断される。第3工程は樋状剥離の作業面を基部から先端部に転移している。先端部から1回目の樋状剥離が行われ、右側縁上部に鋭利な刃部が作り出されている。

第4-6表 第3文化層第8ブロック組成表

母岩 器種	母岩 番号	尖頭器	彫器	二次加工 のある剥片	微細剥離痕 のある剥片	削片	剥片	碎片	石核	敲石	礫	礫片	点数合計	点数比 (%)	重量合計 (g)	重量比 (%)	
黒曜石	3001				2	5	16	12					35	14.52	15.61	0.77	
	3002				2	5	25	19					51	21.16	8.69	0.43	
	3003	1			1	3	7	7					19	7.88	8.34	0.41	
	3004				1	2	13	11					27	11.20	3.31	0.16	
	3005					3	4	7					14	5.81	0.91	0.05	
	3006		1	1	1		2						5	2.07	11.23	0.56	
	3007					1		1					2	0.83	0.41	0.02	
	3008	1											1	0.41	7.49	0.37	
	3009	1											1	0.41	7.78	0.39	
	3010		1										1	0.41	4.04	0.20	
	3011		1										1	0.41	4.35	0.22	
	3012		1										1	0.41	10.10	0.50	
	3013	1											1	0.41	4.55	0.23	
	3014	1											1	0.41	2.93	0.15	
	3015		1										1	0.41	4.47	0.22	
	3016	1											1	0.41	0.43	0.02	
	3017	1											1	0.41	2.80	0.14	
	3018						1						1	0.41	3.95	0.20	
	3019		1										1	0.41	1.73	0.09	
	3020	1											1	0.41	3.27	0.16	
	3021				1								1	0.41	1.86	0.09	
	3022		1										1	0.41	0.95	0.05	
黒曜石合計	8	7	1	8	19	68	57						168	69.71	109.20	5.41	
ガラス質黑色安山岩	3001								2				2	0.83	161.22	7.99	
	3002			1									1	0.41	9.57	0.47	
ガラス質黑色安山岩合計				1					2				3	1.24	170.79	8.46	
珪質頁岩	3001	1											1	0.41	3.02	0.15	
硬質頁岩	3001			2			2		1				5	2.07	39.53	1.96	
玉髓	3001				1		3		1				5	2.07	22.92	1.14	
ホルンフェルス	3001			2			7	1	1				11	4.56	56.53	2.80	
	3999										1	4	5	2.07	157.82	7.82	
ホルンフェルス合計				2			7	1	1		1	4	16	6.64	214.35	10.62	
チヤート	3001			1									2	0.83	1.67	0.08	
	3002				1		1						4	1.66	0.48	0.02	
	3003						4						1	0.41	3.26	0.16	
	3004						1						1	0.41	1.90	0.09	
	3005						1						1	0.41	0.22	0.01	
	3006						1						1	0.41	2.00	0.10	
	3999												1	1	0.41	47.03	2.33
チヤート合計				1	1		8						1	11	4.56	56.56	2.80
砂岩	3999										1	16	17	7.05	721.71	35.76	
流紋岩	3001	1											1	0.41	0.43	0.02	
	3999												10	10	4.15	224.79	11.14
流紋岩合計	1												10	11	4.56	225.22	11.16
石英斑岩	3001								1				1	0.41	344.49	17.07	
	3999											2	2	0.83	108.92	5.40	
石英斑岩合計									1		2		3	1.24	453.41	22.46	
碧玉(赤玉)	3001			1									1	0.41	1.74	0.09	
全休点数合計	10	7	8	10	19	88	58	5	1	2	33	241	100.00	2,018.45	100.00		

この剥離によって6aの削片が作出され、樋状剥離面の末端部にあたる右側縁下部に細かい整形加工が施されている。第4工程は上端部から2回目と3回目の樋状剥離が行われ、右側縁上部に鋭利な刃部が作り出されている。2回目と3回目の打面部にあたる左側縁上部は、細かい整形加工が施されている。先端部からの3回の樋状剥離面は、1回目が2・3回目に比べて大型幅広で、打点が2.0mm程度上位であることから、第3工程と第4工程とに製作工程を分けてとらえた。

7～10は有樋尖頭器である。7は基部と先端部が残存して全体形状が把握でき、東内野型有樋尖頭器の典型的な形態をしている。右面上部を打面として2回の樋状剥離が行われ、右側縁に鋭利な刃部を作り出された後に、先端部と樋状剥離の末端部側に細部加工が施されている。

8～10は先端部が丸みを持ち、表面左上部に樋状剥離が施されたものである。先端部から樋状剥離が繰り返し行われ、先端部に丸みのあるものが製作されている。8は尖頭器が製作されてから、基部側から樋状剥離(この剥離面は表面左下部にわずかに残っている)されている。次に上端部から2回の樋状剥離が行なわれ、左側縁上部の縁辺部に鋭利な刃部が作出されている。最後に先端部と樋状剥離の末端部に細かい整形加工が施されている。9は表裏両面の全面に平坦剥離を行い尖頭器が製作されている。次に表面左上部に2回の樋状剥離が行なわれ、左側縁上部に鋭利な刃部が作り出されている。最後に樋状剥離の打点部に細かい調整加工が施されている。10は表面右下部と左下部に平坦な調整加工が施され、菱形の形状の尖頭器が製作されている。次に表面左上部に1回の樋状剥離が行われ、左側縁上部に鋭利な刃部が作り出されている。最後に先端部と樋状剥離の末端部に細かい整形加工が施されている。

11～17は彫器である。11・12は全体形状が丸みを帯びた形状、13～17は尖った形状をしている。

11は打面幅の厚い横長剥片を素材として、右側縁から上部にかけて素材の末端部に急角度の調整加工を施して搔器が製作されている。これを素材として表面左上部に2回の樋状剥離が行われた後に、樋状剥離の打点部と末端部に細かい整形加工が施されている。搔器が彫器として転用されたものである。12は横長剥片を素材として裏面左側に平坦剥離を施し、搔器が製作されている。これを素材として右上部に1回の樋状剥離が行われ、最後に樋状剥離の打点部と末端部に表面方向へ細かい整形加工が施されている。搔器が彫器として転用されたものである。

13は大型の削片を素材としている。表面に削片の主要剥離面が大きく残されており、右側縁には削片を剥離する前に施された調整剥離面が取り込まれている。上端部を打点として裏面左上部に1回目の樋状剥離が行われ、1回目の樋状剥離に直交する角度で表面左上部に2回目の樋状剥離が行われ、最後に樋状剥離の打点部と末端部に細かい整形加工が施されている。14は厚みのある横長剥片を素材としている。右側縁上部の自然面を打面として左側縁方向に3回の樋状剥離が行われ、これに直交する角度で幅広で短い樋状剥離が行われている。最後に樋状剥離の打点部と末端部に細かい整形加工が施されている。末端部の整形加工は、裏面右下部方向に平坦な加工が入念に施されている。15は厚みのある剥片を素材としている。素材の主要剥離面は裏面上半部に残されている。下端部を打面として幅広の剥片が剥離(この剥離を樋状剥離ととらえることも可能)された後に、左面を打面として表面上部方向に平坦剥離している。次に上端部を打面として3回の樋状剥離(1回目が左側面上部に幅広の形状、2回目が表面左上部に短くて細い形状、3回目が直交する角度で右側縁上部方向にやや幅広で短い形状をしている。)が行われ、最後に樋状剥離の打点部と縁辺部に細かい整形加工が施されている。16は縦長剥片を素材としている。右側縁下部を折断し、上端部を打面として5回の樋状剥離が行われている。この剥離は1回目が左側縁上部方向に細長い

形状、2回目はこれに交差する角度で右側縁上部方向に細長い形状、3～5回目は2回目の剥離面の打面付近に細くて短い形状をしている。17は大型の削片を素材としている。削片の主要剥離面は、裏面の下半部に大きく残されている。上端部を打面として表面右上部方向に3回の樋状剥離（1回目が右側縁の中央部まで細長い形状、2・3回目が短くて細長い形状）が行われ、これと交差する角度で上端部を打面として樋状剥離が裏面方向に2回行われている。

6a・18～35は削片で19点出土している。削片の多くのものは、縁辺部に微細剥離痕がみられる。明確に微細剥離がみられたものは18・23・24・26・27・29・30であるが、ほかにも図示できないような非常に細かい剥離痕がみられた。これらのことから、削片を目的的に剥離して使用した可能性が高い。

削片を大きさ別にみると、大型（現存最大長が4cm以上）が18の1点、中型（4cm～2cm）が6a・19～25・30の9点、小型（2cm以下）が26～29・31～35の9点である。大半のものが中型・小型のものである。13・17の彫器は大型の削片が用いられており、大きい削片は彫器として再利用されているため、大型の削片の出土点数が少ないことが推察される。

残存部位別にみると、完形品が18・19・21・25・27・29・30・32・34・35の10点、頭部欠損品が20・23・24・26・33の5点、末端部欠損品が6a・22・28・31の4点である。頭部または末端部が折断されているものが半数程度である。19・23・30・34・35は側縁の形状が湾曲している。これらのことから、厚さを均等にするために頭部や末端部を折断し、側縁が湾曲した部分を折断することによって形状が整えられたと思われる。削片は植刃として用いられた可能性が高いといえよう。

36～40は二次加工のある削片である。36は末端部が湾曲した縦長削片を素材としている。周縁部のほぼ全周に平坦な調整加工が施されている。最終調整加工が、表面左上部に樋状剥離と識別可能な剥離面がみられることから、彫器と分類することも可能である。37は横長削片を素材としている。左側面に石核の底面が取り込まれている。素材の打面部側の右側縁に急角度の調整加工が施されている。38は幅広の削片を素材として左側面を折断した後に、右側縁下部には急角度の調整加工と右側縁中部に平坦な調整加工が施されている。39は幅広の削片を素材として右側縁を折断し、左側縁下部に調整加工が施されている。40は縦長削片を素材として左側縁に調整加工が施されている。下端部は折断されている。

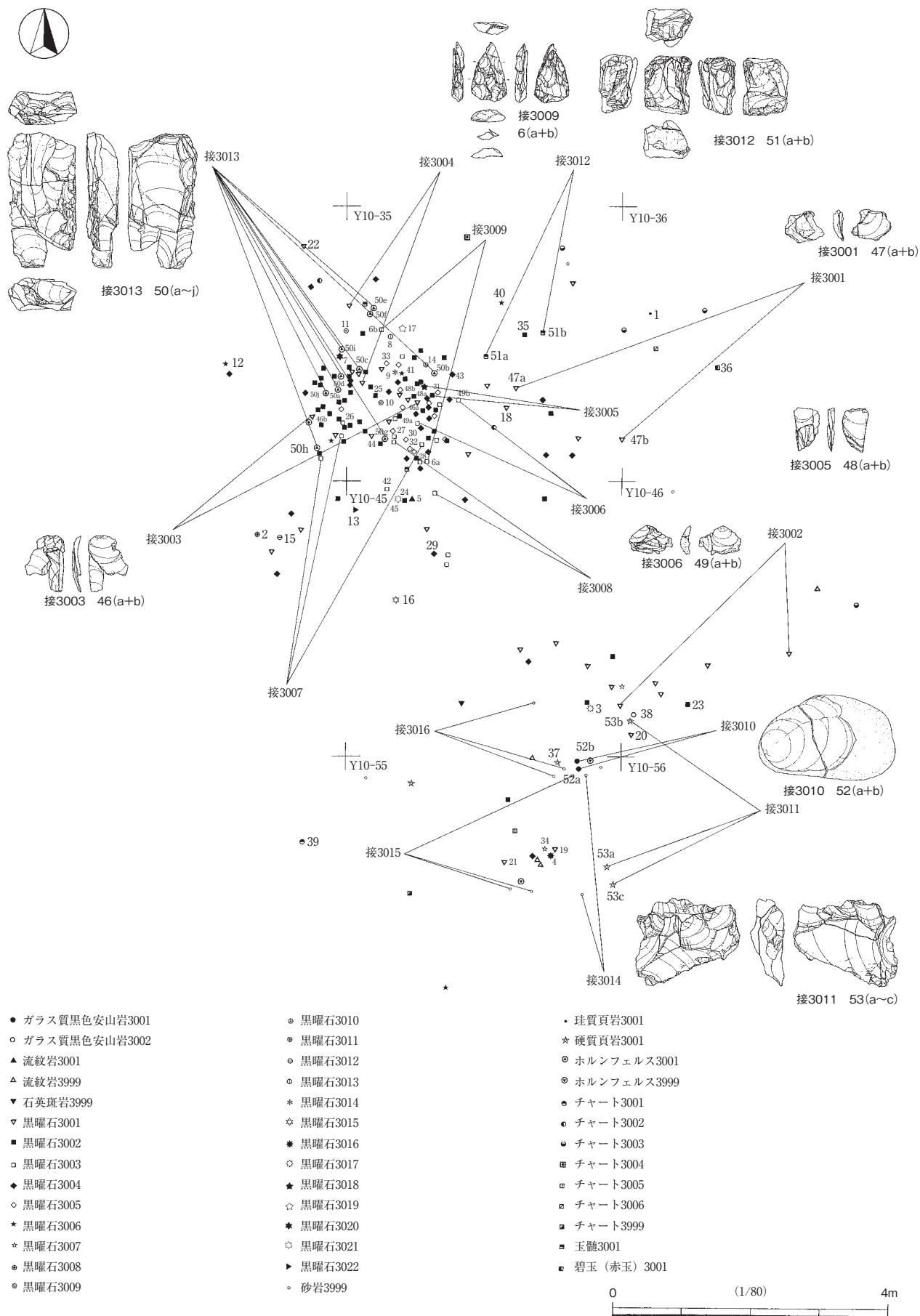
41～45は微細剥離痕のある削片である。41は細長い縦長削片の右側縁に微細剥離痕がみられる。42～45は、表面には多方向からの平坦剥離面がみられることから、尖頭器の調整削片を素材としたものと思われる。42・43はほぼ全周に微細剥離痕がみられる。44は横長削片を素材としている。上下両端部に微細剥離痕がみられる。45は側縁が湾曲した横長削片を素材として末端部に微細剥離痕がみられる。

46～53は接合資料である。46～49の接合資料は、打面が残存しているものはすべて線状打面であり、表面の剥離面が多方向から平坦剥離面で構成されることから、尖頭器を調整加工した削片の接合資料と思われる。46(a+b)は下端部を打面として細長の縦長削片46aを剥離した後に、上面に打面を転移し、末端部が湾曲した縦長削片46bが剥離されている。46bの裏面左中央部には微細剥離痕がみられる。47(a+b)は上面を打面として横長削片が連続剥離されている。48(a+b)は上面を打面として厚みのない縦長削片が連続剥離されている。どちらの削片も打面部が折れている。49(a+b)は右面下部を打面として細長の縦長削片49aが剥離された後に、上面に打面転移して横長削片49bが剥離されている。

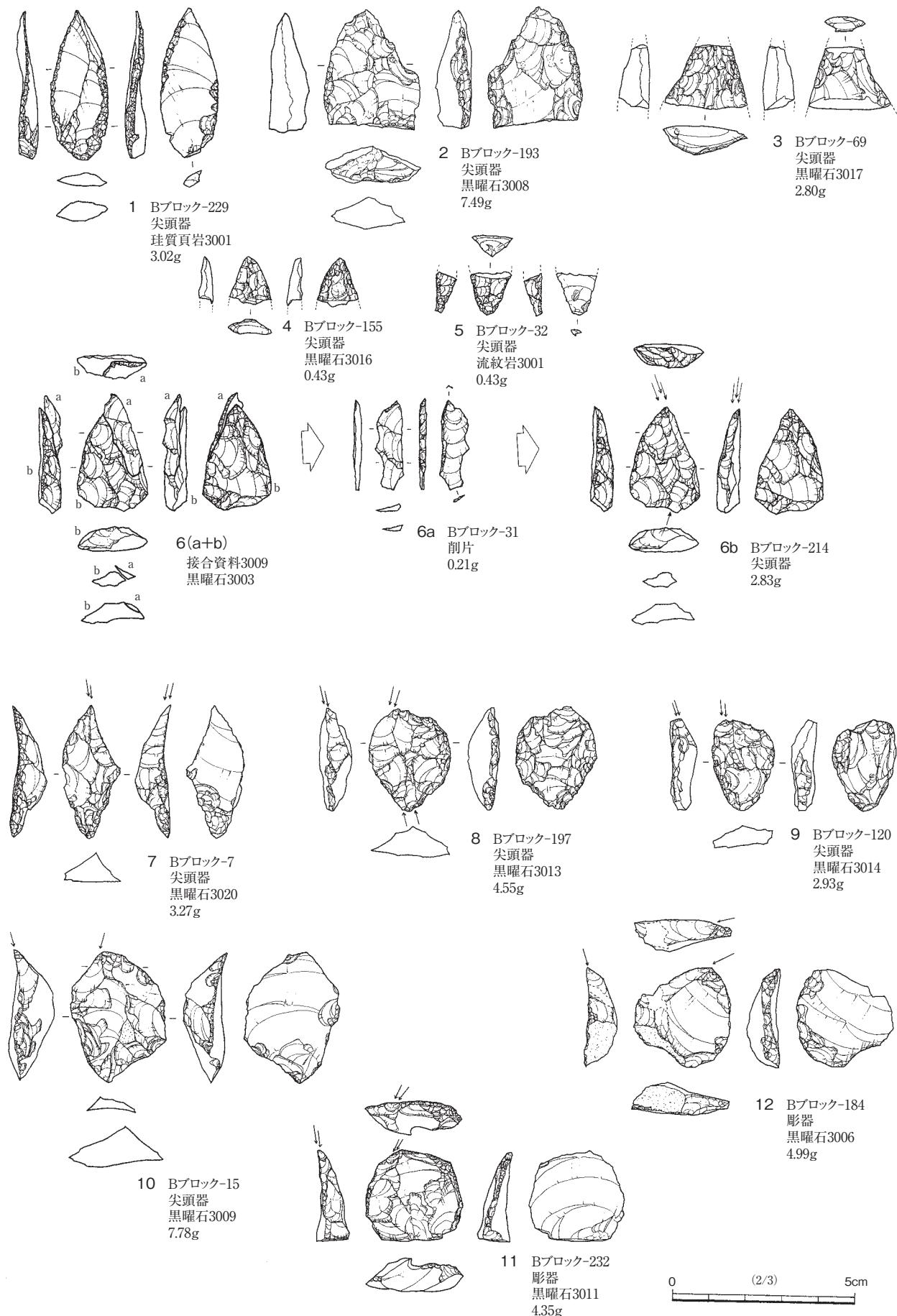
50(a～j)は厚みのある板状の縦長削片を素材としている。この母岩は節理に沿って折れている資料が多い。4つの剥離工程がみられた。第1工程は、下面下部を打面として裏面下部方向に縦長削片を3回剥



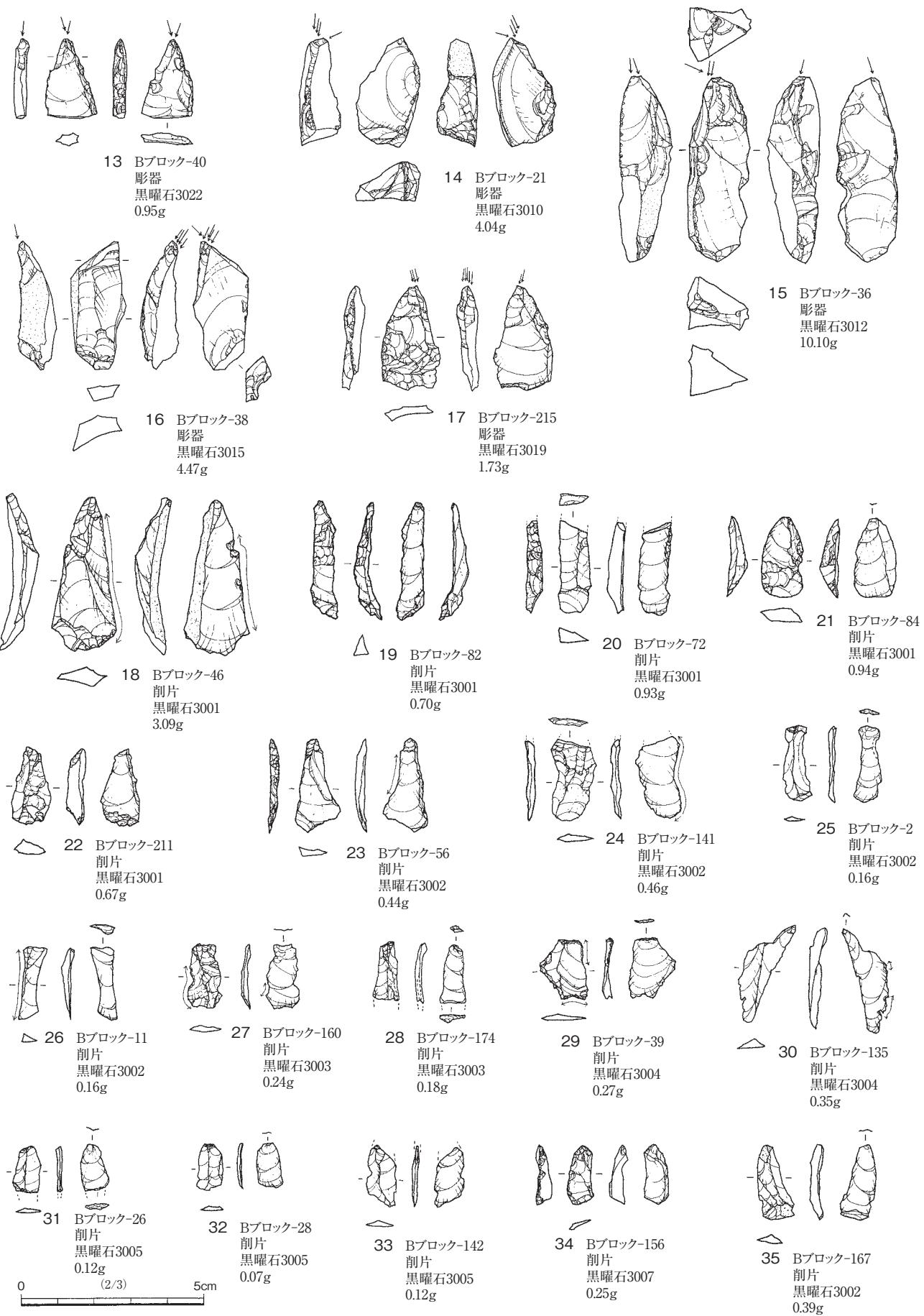
第4-8図 第3文化層第8ブロック器種別分布



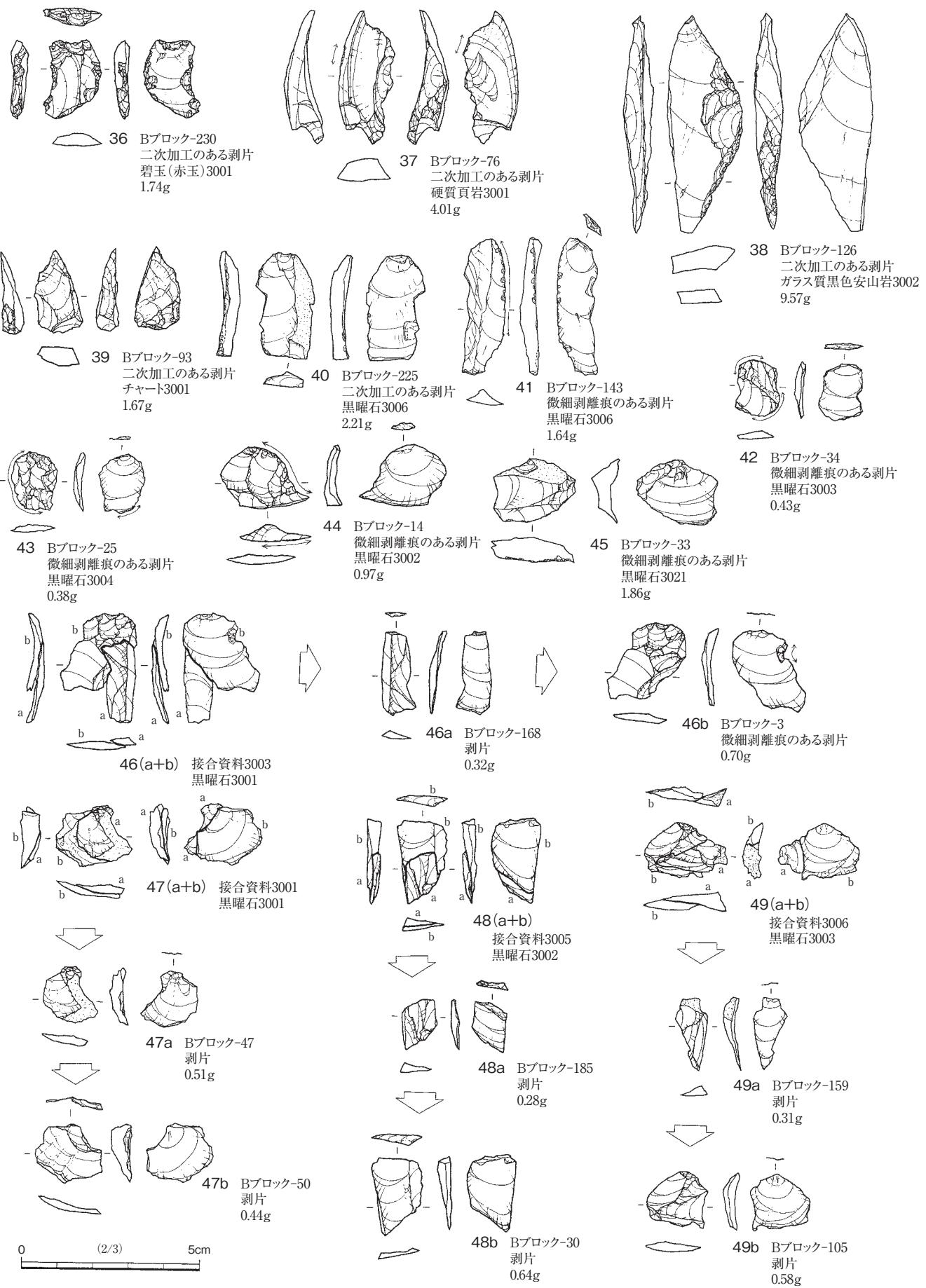
第4-9図 第3文化層第8ブロック母岩別分布



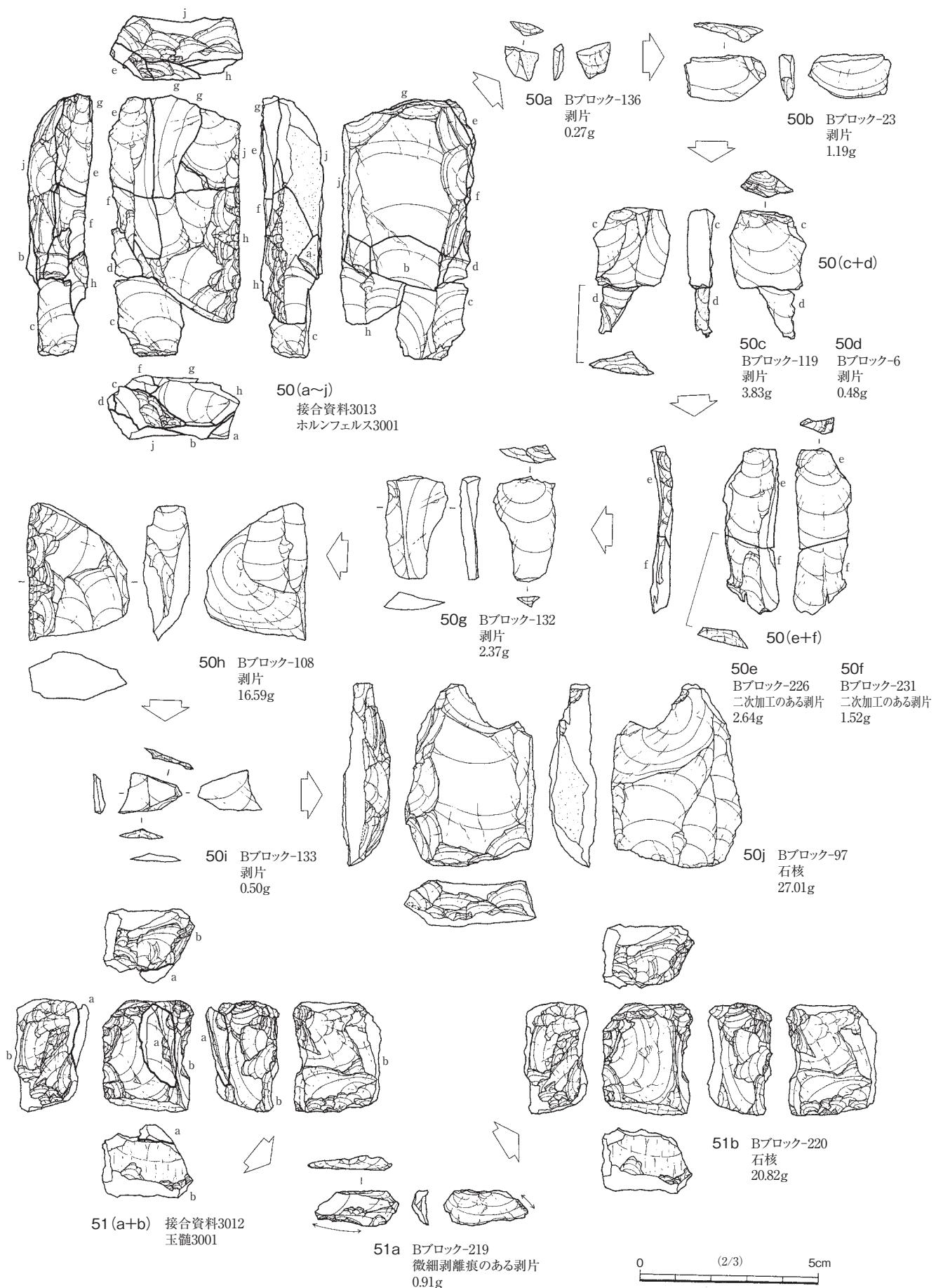
第4-10図 第3文化層第8ブロック出土石器(1)



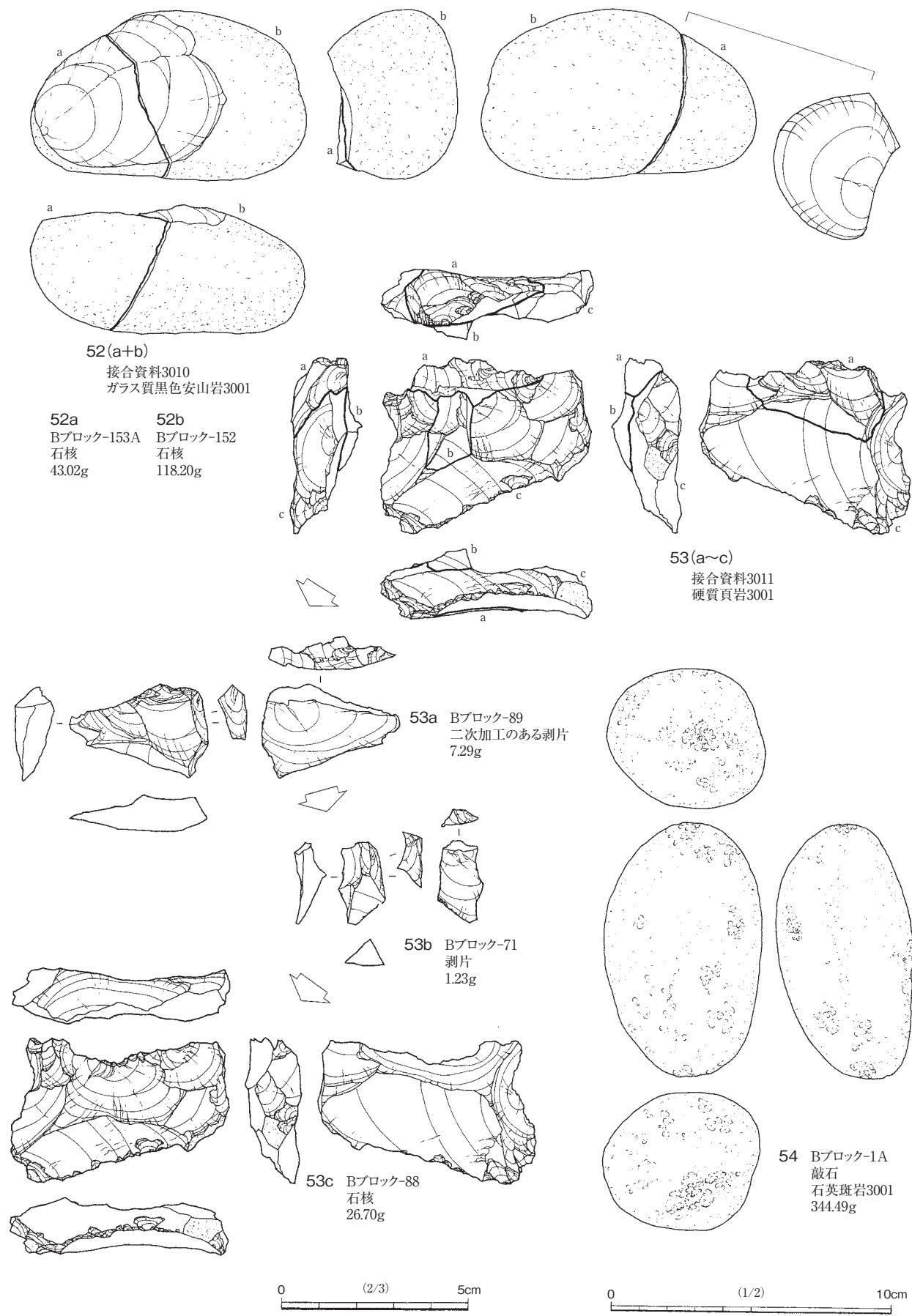
第4-11図 第3文化層第8ブロック出土石器(2)



第4-12図 第3文化層第8ブロック出土石器(3)



第4-13図 第3文化層第8ブロック出土石器(4)



第4-14図 第3文化層第8ブロック出土石器(5)

離している。50aと50bは1回目と2回目に剥離されたもので末端部残存品である。50(c+d)は3回目に剥離されたもので末端部が折れて50cと50dに分割されている。50(c+d)は打面調整が入念に行われ、頭部調整がわずかに行われている。第2工程は、上面左部を打面として50(e+f)と50gの縦長剥片が連続剥離されている。この剥片は打面調整が行われているが頭部調整は行われていない。50(e+f)は器体の中央部付近から節理面に沿って折れている。第1・2工程は50(a~j)の左側面を上下から樋状剥離が行われたと見えることが可能である。50(e+f)は左側縁に素材の調整剥離面が取り込まれており、18の大型の削片と類似した形状を持つ。第3工程は、表面右下部を打面として横長剥片50hが剥離されている。第4工程は、上面右下部を打面として幅広の剥片が剥離されている。50iはこの剥片の末端部残存品である。50jは石核と識別したが裏面上端部に50hの剥離によって形成された鋭利な縁辺が形成されていることから、彫器と分類することも可能である。

51(a+b)は分割礫を素材としている。表面上部を打面として上面方向に小型の剥片が剥離され、左側面を打面として表面方向に横長剥片(51aはこの剥片の末端部残存品で微細剥離痕がある)が剥離されている。次に表面左部を打面として左面方向に横長剥片が剥離され、右面右上部を打面として裏面方向に横長剥片が剥離されている。最後に下面下部を打面として裏面下部方向に横長剥片が剥離されている。本接合資料は、打面を頻繁に転移して剥片剥離が行われている。

52(a+b)は石核が分割された接合資料である。橢円形礫を素材としている。表面左下部を打面として幅広の剥片が剥離された後に、表面左中央部付近を打面として52aと52bとに分割されている。本接合資料からは剥片が1枚しか剥離されていない。

53(a~c)は厚みのある板状の剥片を素材としている。良質な硬質頁岩3001が用いられている。左側面を打面として表面方向に剥片が剥離された後に、打面を180°入れ替えて表面左部を打面として裏面右部方向に横長剥片が剥離されている。次に表面上部を打面として53aを含む数枚の横長剥片が剥離され、打面を180°入れ替えて、裏面上部を打面として53bを含む数枚の小型の剥片が剥離されている。このように交互剥離によって剥離が行われている。石核である53cは、表面下部に平坦な調整加工が施されており、石核が削器として転用された可能性が高い。

54は敲石である。大型の橢円形礫を素材として上下両端部に強い敲打痕がみられる。平坦な部位にも敲打痕がみられる。

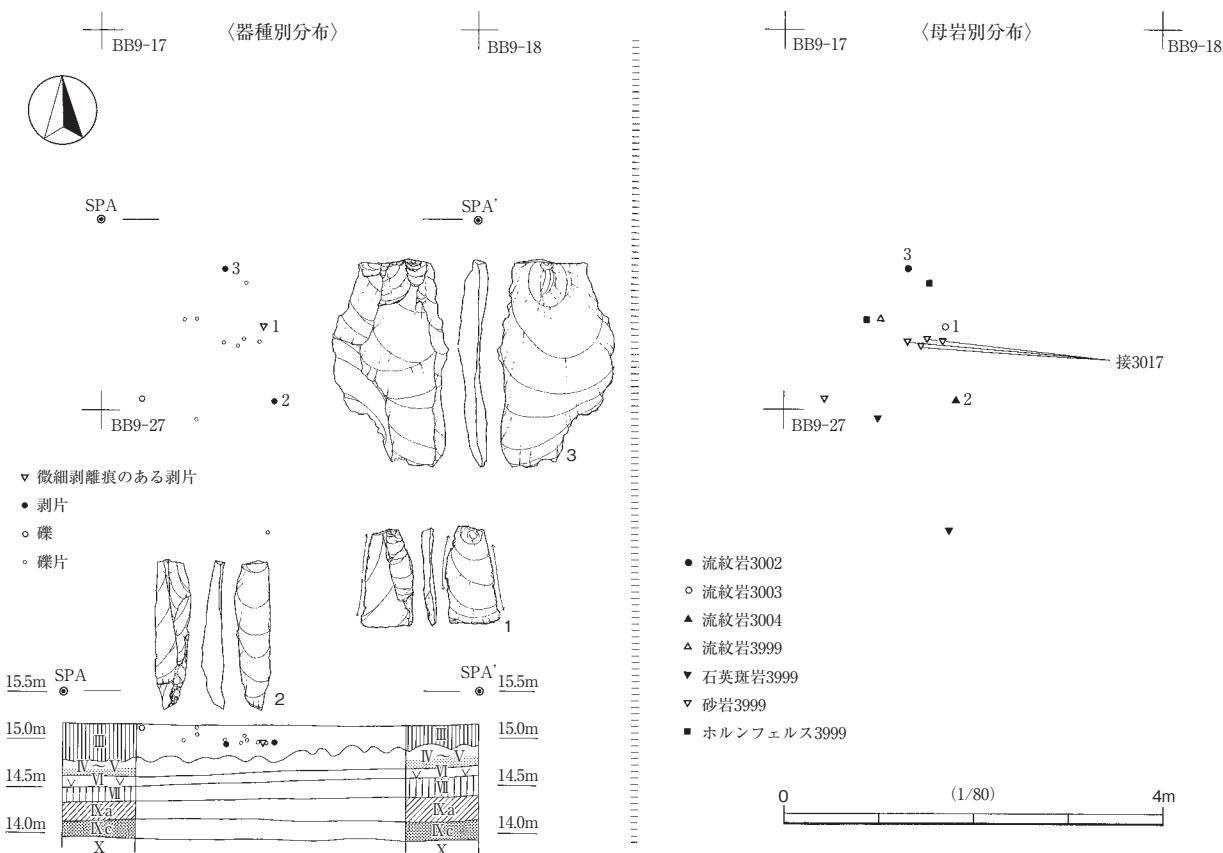
3 第3文化層第9ブロック(第4-15・16図、第4-7表、図版19・21)

出土状況 調査区北部のBB9-17・27グリッドに分布している。第8ブロックの北東側約130m離れた位置に分布する。2.9m×1.5mの範囲から13点の石器が出土した。北東部と南西部の2か所の集中地点が隣接して分布している。北東部は出土点数が少ないが石器類を主体とする。南西部は礫・礫片を主体とする。石器類と礫群が隣接して分布している。Ⅲ層下部～Ⅲ層上部に出土しており、Ⅲ層中部に集中する。

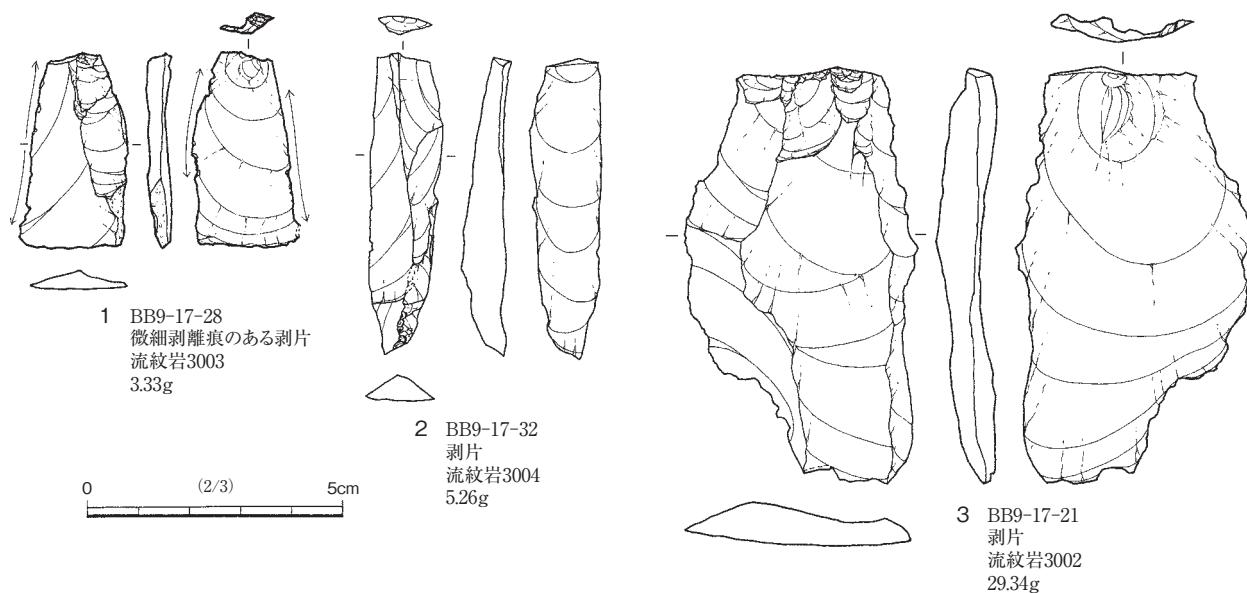
出土遺物 器種組成は微細剥離痕のある剥片1点、剥片2点の石器類3点と礫1点、礫片9点の礫・礫片10点で構成される。石器類の占める割合が低く、定型的な製品は出土していない。礫群を主体とするブロックといえる。石器類の石材は流紋岩3点である。礫・礫片の石材は砂岩5点、ホルンフェルス2点、石英斑岩2点、流紋岩1点である。

1は微細剥離痕のある剥片である。両側縁に微細剥離痕がみられる。素材の縦長剥片は打面調整と頭部調整が顕著に行われている。背面の剥離面は主要剥離面と同じ剥離方向であることから、石刃と識別する

ことも可能である。2・3は剥片と分類したが、石刃と識別することが可能である。2は細長い形状をしており打面部が折れて欠損している。表面下部中央付近に右方向の剥離面がみられることから、稜上調整剥片であると思われる。3は幅広の形状をしている。頭部調整と打面調整が行われている。



第4-15図 第3文化層第9ブロック遺物分布



第4-16図 第3文化層第9ブロック出土石器

第4-7表 第3文化層第9ブロック組成表

母岩 器種	母岩番号	微細剥離痕 のある剥片	剥片	礫	礫片	点数合計	点数比 (%)	重量合計 (g)	重量比 (%)
ホルンフェルス	3999				2	2	15.38	155.50	24.16
砂岩	3999			1	4	5	38.46	212.29	32.99
流紋岩	3002		1			1	7.69	29.34	4.56
	3003	1				1	7.69	3.33	0.52
	3004		1			1	7.69	5.26	0.82
	3999				1	1	7.69	35.55	5.52
流紋岩合計		1	2		1	4	30.76	73.48	11.42
英斑岩	3999				2	2	15.38	202.23	31.43
全 体 点 数 合 計		1	2	1	9	13	100.00	643.50	100.00

4 第3文化層第10ブロック(第4-17・18図、第4-8表、図版19・21)

出土状況 調査区北部のBB8-81・84・91・92グリッドに分布している。第9ブロックの北西側に約25m離れた位置に分布する。1.8m×2.7mの範囲から5点の石器が出土した。散漫な分布を示すが、南東側に石核が出土し、北西側に礫・礫片が分布する。出土層位はⅢ層下部～Ⅲ層中部に集中する。

出土遺物 器種組成は石核2点の石器類2点と礫1点、礫片2点の礫・礫片3点である。石器類の石材は珪質頁岩2点である。礫・礫片の石材はホルンフェルス1点、チャート1点、砂岩1点である。

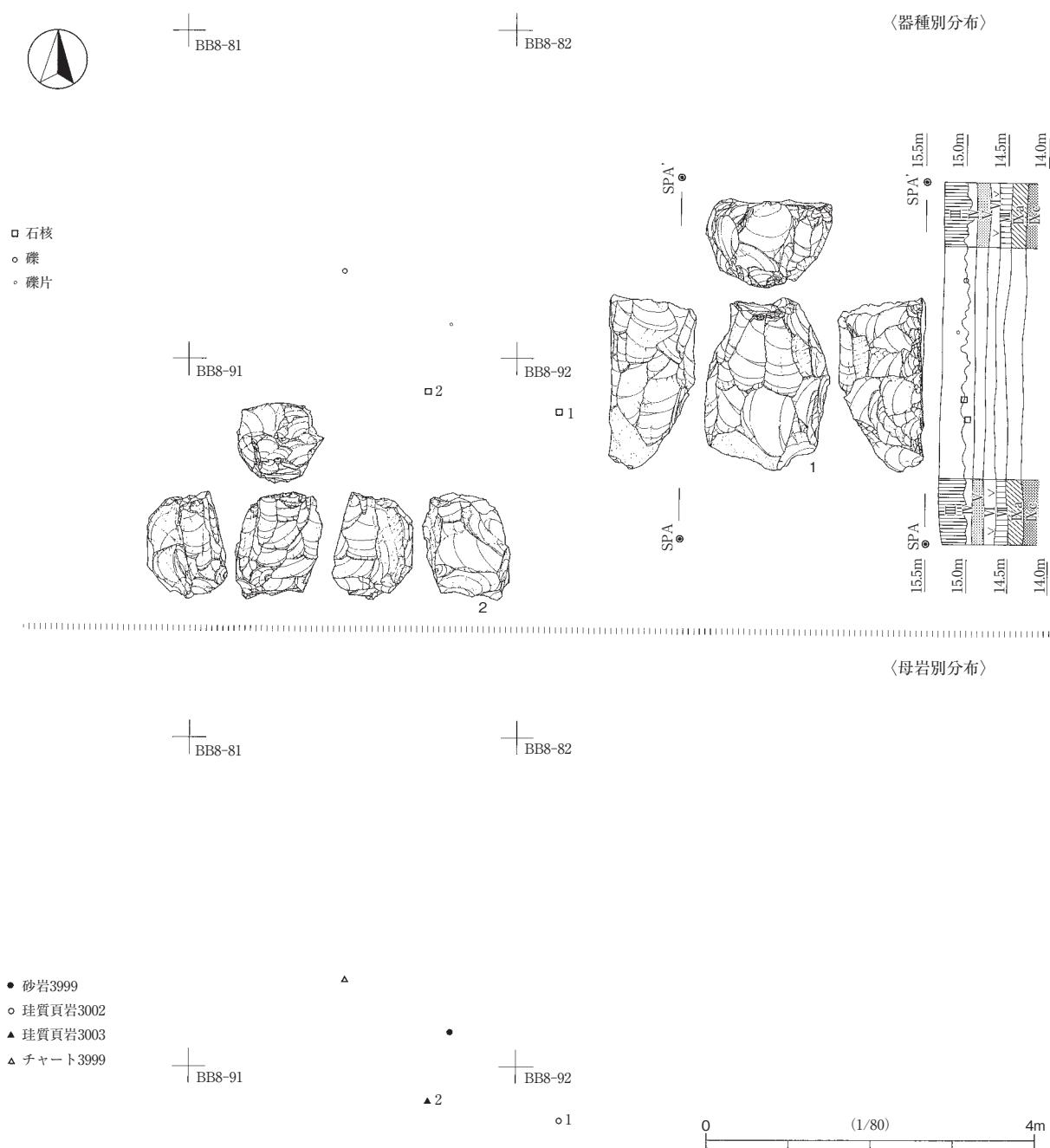
1・2は石核である。どちらも規格的な石刃が量産された石刃石核である。石核はまだ数枚の石刃を剥離することができる形状をしており、石核のみをまとめて遺棄したブロックである可能性が高い。

1は裏面に大きく自然面が残されている。4つの剥離工程がみられた。第1工程は、裏面左上部を打面として右側面方向に厚みのない石刃が数枚剥離されている。頭部調整が入念に行われているが、打面調整は行われていないようである。第2工程は、裏面左下部を打面として右側面方向に比較的厚みのある石刃が数枚剥離されている。この工程は頭部調整と打面調整を行いながら剥離されている。第3工程は、第4工程の打面の作出と打面調整が行われた工程である。裏面上部を打面として上面方向に幅広の剥片が剥離された後に、表面上部に打面を転移して上面方向に打面調整が行われている。第4工程は、上面左部から上面下部中央にかけて打点を順次移動しながら、比較的大型の石刃が数枚剥離されている。この工程で剥離された石刃の枚数は、自然面の形状から表面側よりも左側面側のほうが多く剥離されたことが観察できる。第4工程において大型で規格的な石刃が量産されているが、第1・2工程は規格的な石刃がそれほど剥離されていない。第1・2工程は石刃石核の側縁・下端部が成形された工程と判断される。

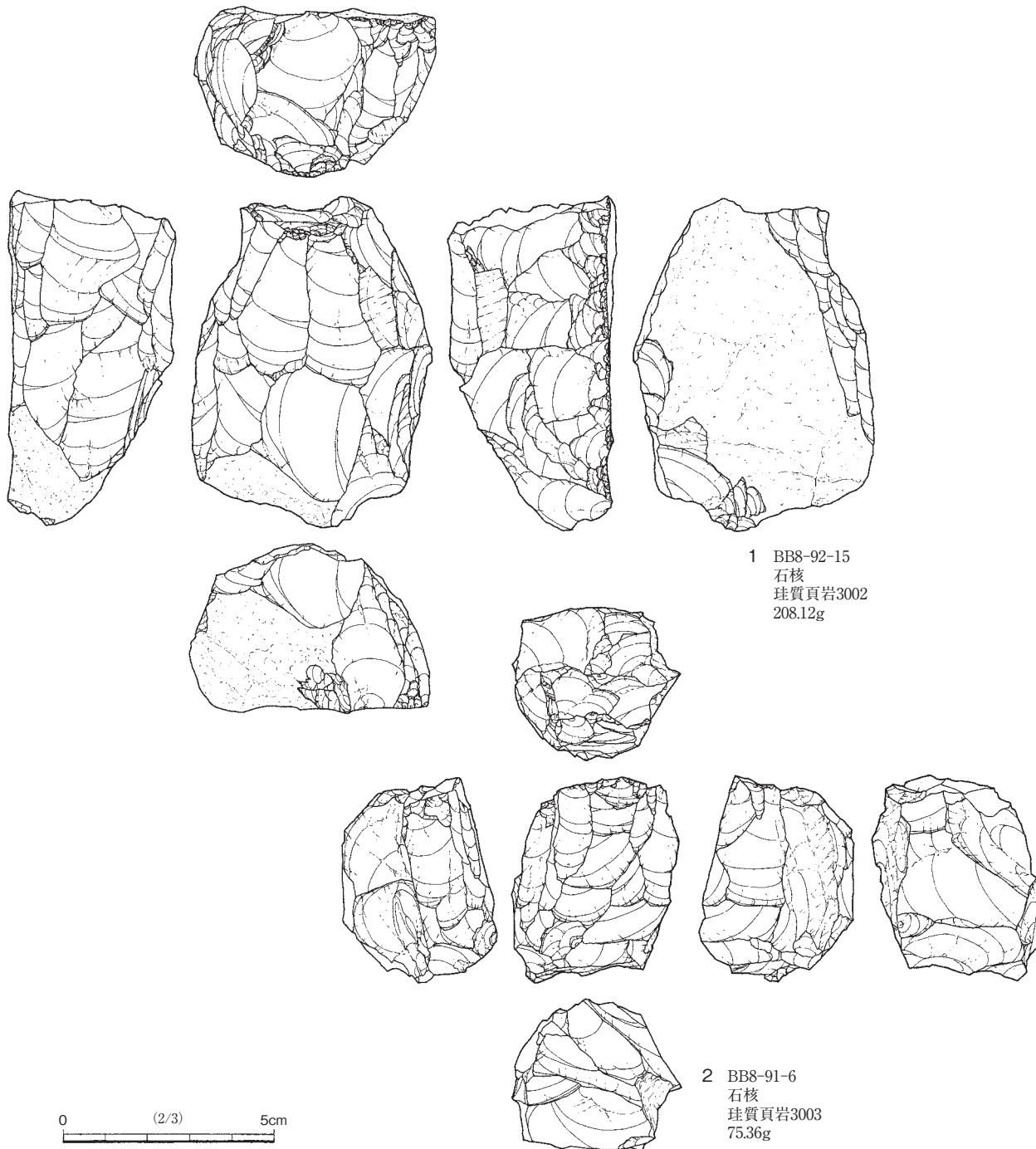
第4-8表 第3文化層第10ブロック組成表

母岩 器種	母岩番号	石核	礫	礫片	点数合計	点数比 (%)	重量合計 (g)	重量比 (%)
珪質頁岩	3002	1			1	20.00	208.12	45.52
	3003	1			1	20.00	75.36	16.48
珪質頁岩合計		2			2	40.00	283.48	62.00
ホルンフェルス	3999			1	1	20.00	34.59	7.57
チャート	3999		1		1	20.00	70.61	15.44
砂岩	3999			1	1	20.00	68.55	14.99
全 体 点 数 合 計		2	1	2	5	100.00	457.23	100.00

2は1と同様の手順で剥離が行われている。4つの剥離工程がみられる。第1工程は、表面下部を打面として下面方向に幅広の剥片が剥離されている。第2工程は、左側面を打面として裏面方向に横長剥片が剥離されている。第1・2工程によって石刃石核の下端部・側縁が成形されている。第3工程は、石刃石核の打面が作り出される工程である。表面上部を打面として上面方向に平坦な剥離が行われている。打点部付近の細かい打面調整は行われていない。第4工程は、上面右下部から左下部にかけて打点を順次移動しながら、表面方向に石刃が数枚剥離されている。



第4-17図 第3文化層第10ブロック遺物分布



第4-18図 第3文化層第10ブロック出土石器

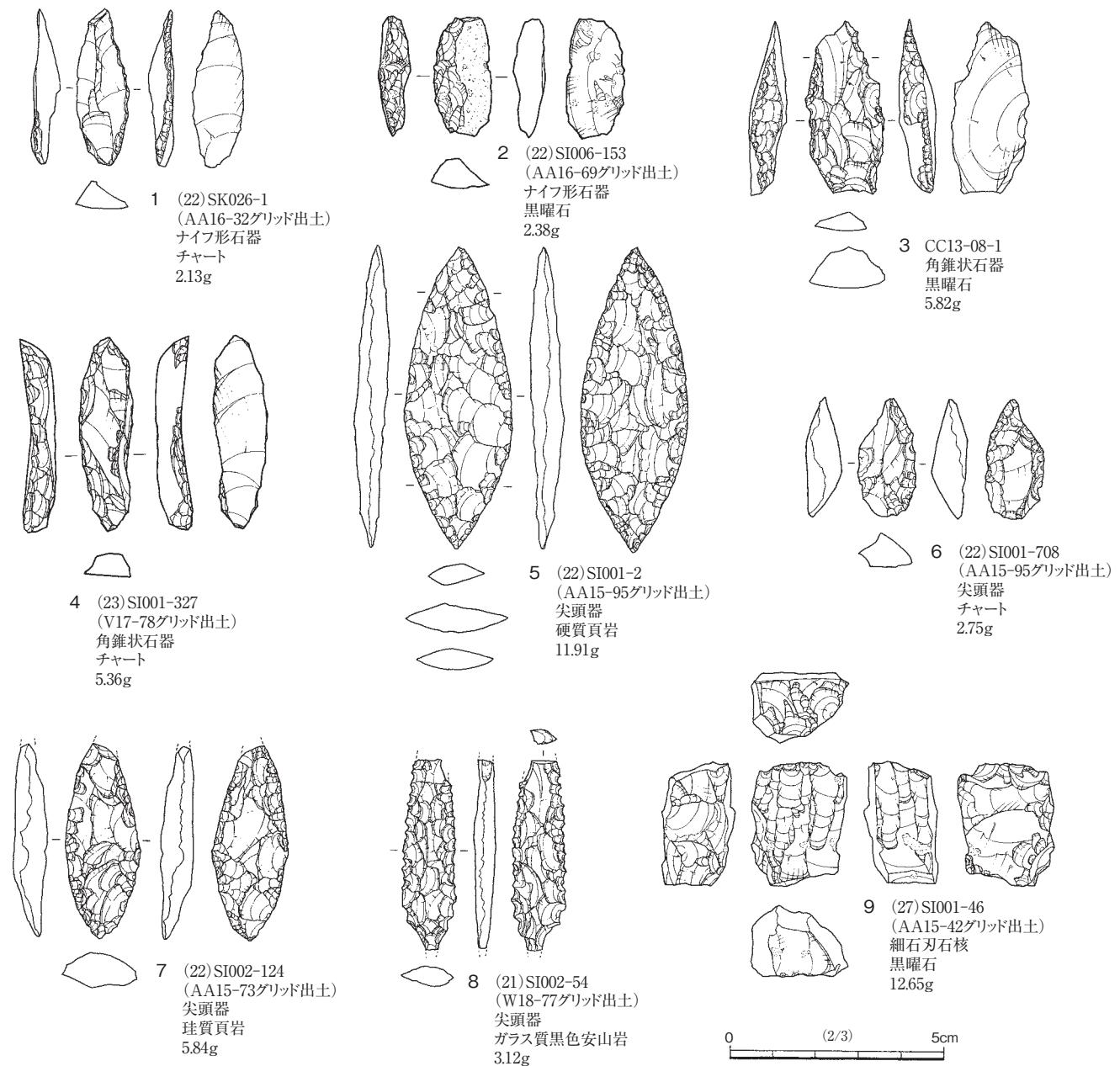
第4節 単独出土石器(第4-19図、第4-9表、図版21)

いずれの文化層に帰属するか明確でないものを単独出土としてまとめて取り扱った。総計18点出土した。器種組成はナイフ形石器2点、角錐状石器2点、尖頭器4点、二次加工のある剥片2点、細石刃石核1点、剥片3点、礫片4点である。石器類の石材は黒曜石4点、チャート3点、ガラス質黑色安山岩2点、玉髓2点、珪質頁岩1点、硬質頁岩1点、ホルンフェルス1点で、礫片は砂岩4点である。

1・2はナイフ形石器である。1は石刃を素材として素材の打面部側を基部に設置している。左側縁と右側縁下部に急角度の調整加工が施されている。第1文化層に帰属する可能性がある。2は横長剥片を横位に用いている。左側縁に急角度の調整加工が施されている。V層～IV層下部段階の石器ととらえられ、

第4-9表 単独出土器種石材組成表

石 材 器 種	ナイフ形石器	角錐状石器	尖頭器	二次加工のある剥片	細石刃石核	剥片	礫片	点数合計	点数比 (%)	重量合計 (g)	重量比 (%)
黒曜石	1	1		1	1			4	22.22	31.33	21.48
ガラス質黑色安山岩			1			1		2	11.11	5.96	4.09
珪質頁岩			1					1	5.56	5.84	4.00
硬質頁岩			1					1	5.56	11.91	8.17
玉髓						2		2	11.11	4.50	3.09
ホルンフェルス				1				1	5.56	10.55	7.23
チヤート	1	1	1					3	16.67	10.24	7.02
砂岩							4	4	22.22	65.51	44.92
全 体 点 数 合 計	2	2	4	2	1	3	4	18	100.00	83.50	100.00



第4-19図 単独出土石器

既報告の第2文化層に帰属する可能性がある。3・4は角錐状石器である。どちらも既報告の第2文化層に帰属する可能性がある。3は横長剥片を横位に用いている。二側縁に鋸歯状の調整加工が施されている。4は縦長剥片を縦位に用いている。両側縁に調整加工が施されている。5～8は尖頭器である。5～7はAA15-73・95グリッドから出土しており、この付近にブロックが形成されていた可能性がある。第3文化層に帰属する可能性がある。5は柳葉形をしており、平坦な調整加工が器体の全面に入念に施されている。6は先端部が左右非対称の形状となっている。7は5と類似した形態を呈している。柳葉形をしており平坦な調整加工が全面に施されている。8は両側縁の形状が鋸歯状を呈している。基部と先端部は破損している。有舌尖頭器の可能性が高い。9は野辺山型の細石刃石核である。分割した剥片を素材としている。左側縁下部を打面として下端部を折断した後に、裏面右部を打面として左側面方向に横長剥片が剥離されている。次に左側縁上部を打面として裏面上部方向に平坦な剥離が施され、表面上部を打面として上面方向に小型の横長剥片が剥離されている。最後に上面を打面として細石刃が剥離されている。

第5節まとめ(第4-2・20図、第4-1・2表)

石器出土総点数が308点である。第1文化層31点、第3文化層259点、単独出土18点の石器が出土している。本節では、第4-20図に掲載した文化層別主要石器をもとに文化層の様相をまとめることにする。

1 第1文化層(第4-20図1～5)

VII層上部～VI層下部に生活面を持つと考えられる石器群である。第7ブロックのみで構成される。石刃技法を基盤とする石器群ととらえられる。ナイフ形石器(1～4)が主要器種である。2・3は二側縁加工で、先鋭な先端部と先鋭な基部を呈する東林跡型ナイフ形石器である。4は左側縁上部に調整加工が施されている。5は二次加工のある剥片である。頭部調整が行われ、打面調整が行われていない石刃を素材としている。類似する石器群は、東林跡型ナイフ形石器を多く出土している柏市小山台遺跡第3文化層¹⁾、印西市荒野前遺跡第3文化層²⁾があげられる。

2 第3文化層(第4-20図6～49)

III層下部～III層中部に生活面を持つと考えられる石器群である。総計259点出土した。第8～10ブロックの3か所のブロックで構成される。

第8ブロックが本文化層を代表する石器群である。まずこのブロックの内容について記載する。東内野型有樋尖頭器(11b・12～15)・彫器(16～22)・削片(11a・23～40)がまとめて出土している。石器類の石材は黒曜石を主体としており、東内野型有樋尖頭器・彫器・削片はすべて黒曜石が用いられていた。この石器群の製作工程は、基本的に①～④の4つの工程にまとめられる^{3・4)}。

- ①片面両面加工・両面加工の尖頭器が製作される。
- ②先端部から縁辺を削ぐように樋状剥離が加えられ、片側縁に鋭い刃部が作り出される。
- ③先端部と②の樋状剥離の末端部に細部加工が加えられ、最終的な整形が行われる。
- ④剥離された削片は分割して植刃としてまた樋状剥離を加えて彫器として用いられる。

片側縁の鋭い刃部が破損などで機能しなくなると、②・③の工程を繰り返し尖頭器を変形させながら使用している。この変形過程と製作工程①～④対比させながら石器群の特徴を抽出することにする。

12は変形過程の初期段階のもので、基部と先端部が残存しており非対称で有肩の尖頭器である。東内野型有樋尖頭器の典型的な形態をしている。②・③の工程は繰り返し行われていない。素材の主要剥離面が

大きく残っている。13・15は変形過程の中盤段階のもので、②・③の工程を繰り返し行った結果、15は菱形の形状、13は上半部の形状が丸みを持つ。11(a+b)と14は変形過程の終盤段階のものである。先端部と基部の両方から樋状剥離が行われた形跡がみられる。下端部からの樋状剥離によって刃部を作出することが困難になると、器体を上下逆にして樋状剥離が行われている。削片が接合している11(a+b)の資料は、表面右下部に樋状剥離面がみられることから、当初は下端部から②・③の工程が繰り返し行われ下端部からの剥離が困難になると、上端部から②・③の工程が行われている。上端部から1回目の樋状剥離によって11aの削片が剥離され、続けて2回の樋状剥離が行われている。先端部からの剥離においても工程②・③が繰り返し行われている。

工程④の特徴は、19点出土している削片と17・18の彫器によくあらわれている。削片は厚さを均等にするために頭部や末端部を折断し、側縁が湾曲したものを折断することによって形状が整えられている。植刃として用いられていると思われる。17・18の彫器は大型の削片を素材としている。

東内野型以外の尖頭器は6～10の5点である。6は尖頭器として分類したが、左側縁上部は微細な剥離であることからナイフ形石器と識別することも可能である。彫器は、交差する角度で樋状剥離が行われたもの(16～20)や搔器を転用したもの(21・22)がみられた。二次加工のある削片(42～44)・石核(45)・接合資料(46)が出土している。第9・10ブロック出土のものは、41の微細剥離痕のある削片と47・48の石核である。第3文化層は石刃技法を基盤に持つ石器群ととらえられる。そのほかの第3文化層の特徴として、すべてのブロックにおいて小型の礫片⁵⁾で構成される礫群が伴っていることがあげられる。類似する石器群は、富里市東内野遺跡第2文化層⁶⁾、印西市平賀一ノ台遺跡⁷⁾、印西市角田台遺跡⁸⁾があげられる。

3 単独出土石器(第4-20図50～58)

ナイフ形石器(50・51)、角錐状石器(52・53)、尖頭器(54～57)、細石刃石核(58)が出土している。50が第1文化層、51～53が既報告の第2文化層、54・55・57が第3文化層に帰属する可能性がある。

注1 新田浩三 2017『柏北部東地区埋蔵文化財発掘調査報告書10-柏市小山台遺跡-旧石器時代編』(公財)千葉県教育振興財団

2 新田浩三ほか 2012『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書X X V-印西市荒野前遺跡-』(財)千葉県教育振興財団

3 篠原 正 1977「東内野型尖頭器について」『東内野遺跡発掘調査概報』富里村教育委員会

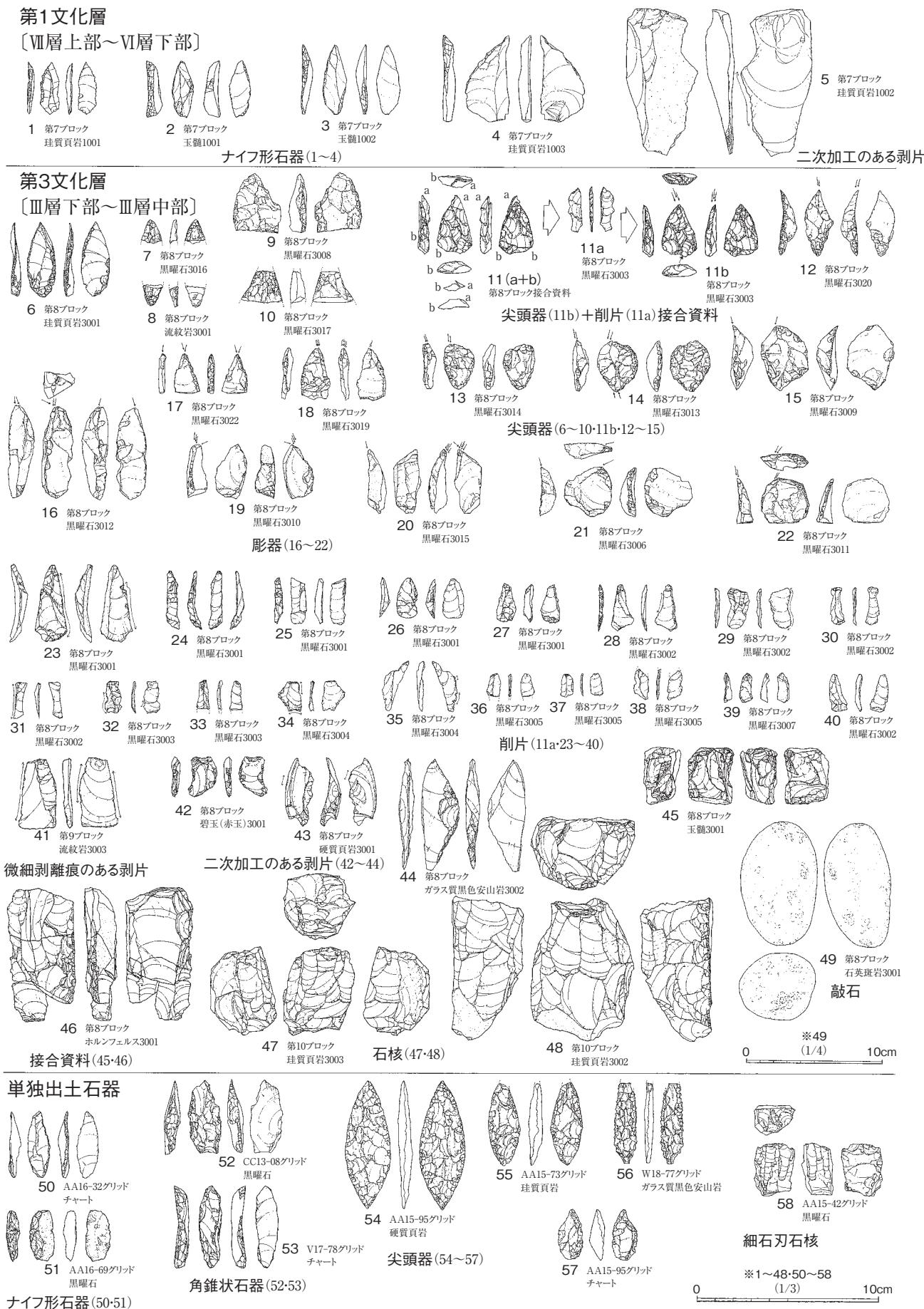
4 篠原 正 1980「東内野型尖頭器と樋状剥離に関する一考察」『大野政治先生古稀記念房総史論集』大野政治先生古稀記念論集刊行会

5 矶群を構成する礫片の大きさについては第2章矢船I遺跡第4節まとめの注1を参照していただきたい。

6 田村 隆ほか 2003『富里市東内野遺跡旧石器時代石器資料調査報告書』(財)千葉県史料研究財団

7 道澤 明ほか 1986『平賀一ノ台』平賀遺跡群発掘調査会

8 古内 茂ほか 『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書X X VI-印西市角田台遺跡(旧石器・縄文時代編)-』(公財)千葉県教育振興財団



第4-20図 駒形遺跡文化層別主要石器

第5章 富士見遺跡

第1節 遺跡の概要(第5-1・2図、第5-1・2表)

確認・本調査範囲と文化層別ブロック位置図は第5-1・2図のとおりである。今回報告する第27～59次調査区は第2～4文化層の3枚で構成され、6か所のブロックが検出された。石器総数278点のうち、文化層・ブロックに帰属しない単独出土資料は44点である。前回2か所のブロックが検出された第1文化層だが、今回の調査では石器を確認できなかったため、第2文化層から報告する。

文化層・ブロック別の器種組成・石材組成は第5-1・2表に、3枚の文化層の概要は下記に示す。

第2文化層 IXc層上部～IXa層下部に生活面を持つ。総計28点出土し、第19ブロックのみが該当する。主要石器としてはチャート製の削器と砂岩製の大型砥石が各1点のほか、浅緑色～青灰色の縞を成す玻璃質のチャート製縦長剥片が10点以上出土している。石器類の石材はチャート、珪質頁岩を主体とする。また、砥石の存在はこの場所で「研磨」という石器製作工程の一部が行われたことを示すものであり、場の機能とともに、希少性という観点からも出土の意義は大きい。

第3文化層 IXa層上部～VII層に生活面を持つ。石器類が5点出土し、第20ブロックのみで構成される。主要石器はナイフ形石器、微細剥離痕のある剥片、磨石で、石材は安山岩、黒色頁岩、流紋岩が用いられている。

第4文化層 V層～IV層下部に生活面を持つ。総計201点出土し、第21～24ブロックの4か所の集中地点で構成される。主要石器はナイフ形石器、角錐状石器、削器、楔形石器、石錐である。礫・礫片は8点が散漫に分布する。石器類の石材には珪質頁岩、ガラス質黒色安山岩、黒曜石、流紋岩、玉髓などが用いられ、多くの石片が接合した。

第2節 第2文化層

1 概要(第5-1・2表)

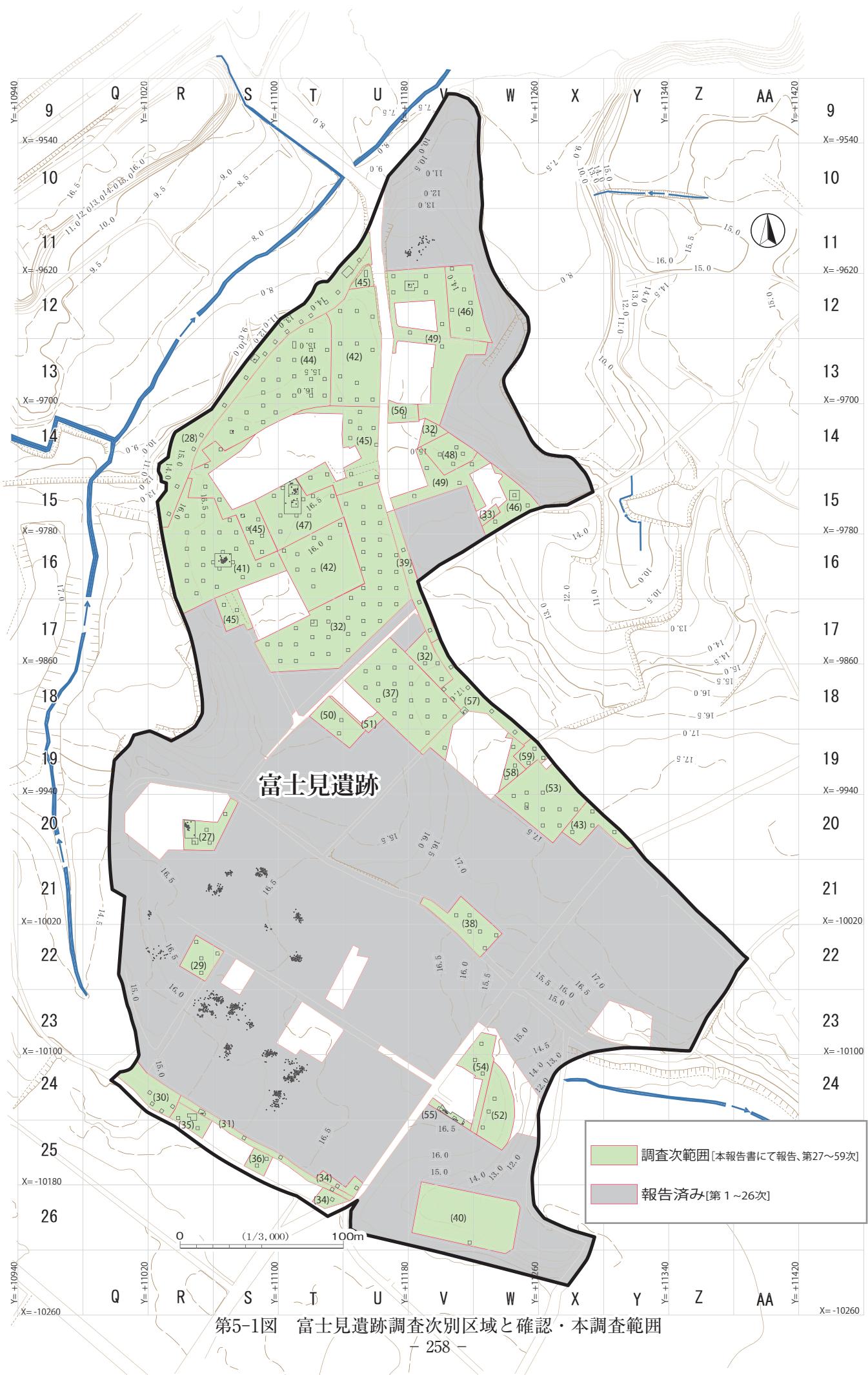
第2文化層はIXc層上部～IXa層下部に生活面を持つ石器群であり、第19ブロック1か所から石器28点が出土した。調査区南東部のやや北側に位置し、ブロックの現地表面は標高16.0m～16.5mであり、南東に緩やかに傾斜する斜面の縁辺部に立地している。

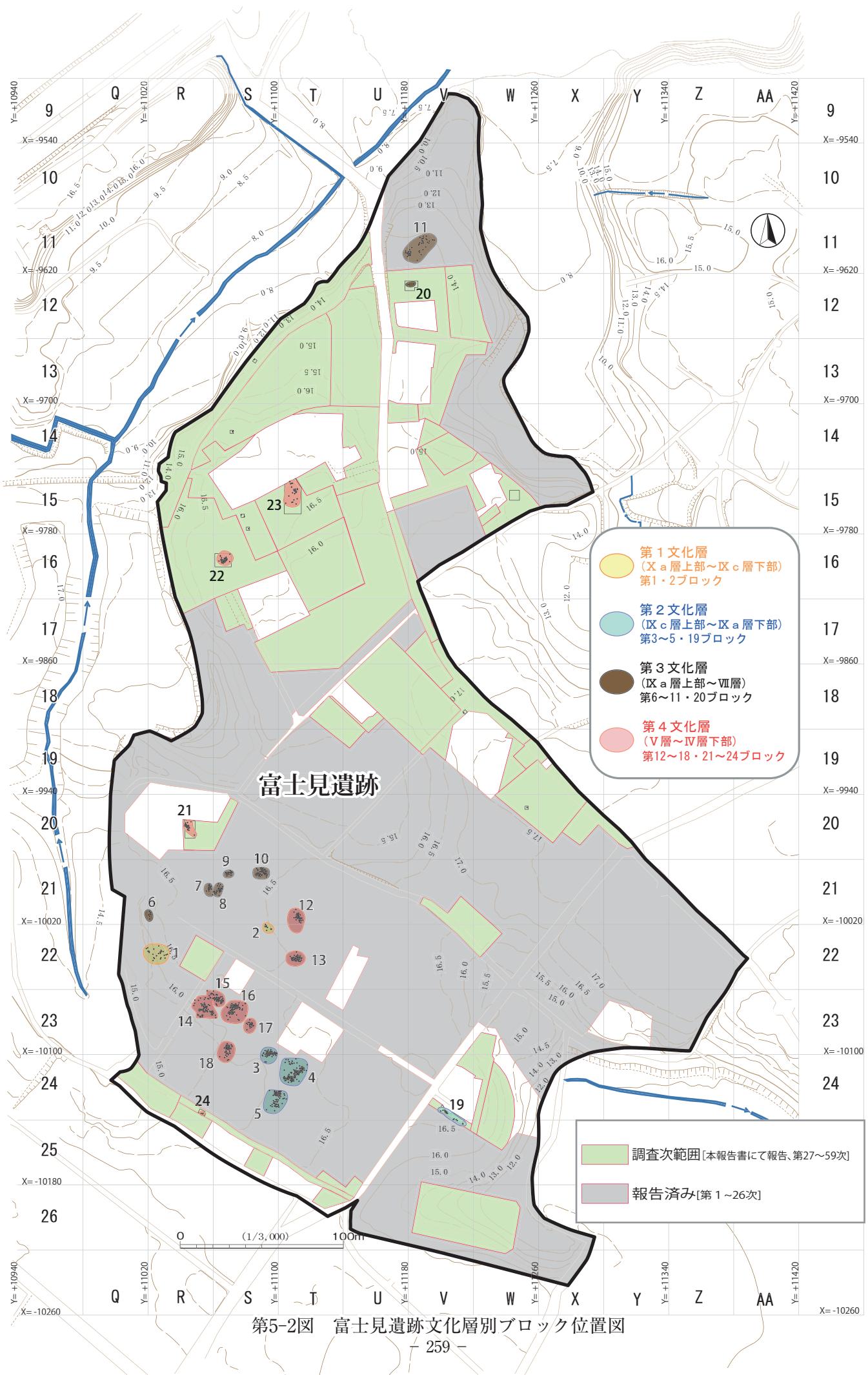
第2文化層の器種石材組成とブロック別組成は第5-1・2表のとおりであり、器種組成は削器1点、微細剥離痕のある剥片2点、剥片21点、碎片1点、石核2点、砥石1点である。また、石材組成はチャート14点、珪質頁岩10点、ホルンフェルス2点、砂岩1点、ガラス質黒色安山岩1点である。

前回報告した第3～5ブロックとは約100m離れており、石器の形態や石材には類似する点は見受けられない。しかし、標高15.2m～15.3mを中心として直線状に分布し、IXc層上部～IXa層下部に包含されることから、本文化層に帰属するブロックとして報告する。

2 第2文化層第19ブロック(第5-3～5図、第5-3表、図版22・23)

出土状況 調査区南部のV24-84・85・96・97、V25-07・08グリッドから出土した石器類28点は、調査範囲の制約を受けて長さ19.0m×幅2.4mの帶状に連なる。北西、中央、南東部の3か所に分かれるが、分布





第5-1表 文化層ブロック別器種組成表

文化層	ブロッカ	ナイフ形石器	角錐状石器	尖頭器	削形石器	楔形石器	石錐	二次加工のある剥片	微細剥離痕のある剥片	細石刃	細石核	剥片	碎石	局部磨製石斧	磨石	敲石	砥石	礫	点数合計	
2	19				1				2			21	1	2			1		28	
第2文化層合計					1				2			21	1	2			1		28	
3	20								1							3			4	
単独	1								1										1	
第3文化層合計	1								1							3			5	
4	21	2						15	3			25	10						3	58
	22	3	1		1		1	14	4			57	9	5		1	1		97	
	23						2		1			30	3				1		37	
	24							2				1	1					4	4	
単独									1									4	5	
第4文化層合計	5	1		1	2	1	32	8				113	23	5		1	1	8	201	
単独出土合計	2		7	2	4		1			2	1	13	2	6	2		2	2	44	
総計点数	8	1	7	4	6	1	33	11	2	1	147	26	13	2	3	1	1	10	278	

第5-2表 文化層ブロック別石材組成表

文化層	ブロッカ	黒曜石	ガラス質黑色安山岩	トロトロ石	安山岩	珪質頁岩	黒色頁岩	玉髓	緑色岩	ホルンフェルス	チャート	砂岩	流紋岩	石英斑岩	点数合計	
2	19		1				10				2	14	1			28
第2文化層合計			1				10				2	14	1			28
3	20				3									1		4
単独							1									1
第3文化層合計				3			1							1		5
4	21	2					5		5		1		2	43		58
	22	2	4				3		86		1	1				97
	23	2					1				4	30				37
	24	4														4
単独							1				1	2				5
第4文化層合計	10	4					10		91		5	32	5	43	1	201
単独出土合計	13	15	5		3		2		1		2	2		2		44
総計点数	23	20	5		3		22	1	92	2	9	48	6	46	1	278

の中心は北西部にあり、南東へ向かうにしたがい疎らとなる。出土層位はX層からⅦ層にかけてで、IX層下部～IX層上部に集中する。

出土遺物 器種組成は削器1点、微細剥離痕のある剥片2点、剥片21点、碎片1点、石核2点、砥石1点の石器類28点である。石器類の石材はチャート¹⁾14点、珪質頁岩10点、ホルンフェルス2点、砂岩1点、ガラス質黑色安山岩1点である。

1は削器である。縦長剥片を素材として頭部を折断した後に、緩やかな弧を描く右側縁にグラインディング状の細かい調整加工が施されている。チャート2002が母岩である。

2・3は微細剥離痕のある剥片である。頭部調整のある石刃を素材としている。規格的な剥離工程から作出された2点の長幅は揃っているが、接合関係はない。微細剥離痕は2が左側縁上部、3が末端部にみられる。ともに濃灰色～黒色の珪質頁岩2002が母岩である。

4(a+b)は石核の接合資料である。節理面に沿って剥離された厚みのある横長剥片を素材としている。素材の主要剥離面は、裏面左下部に残っている。剥離順序は、裏面上部を打面として横長剥片を剥離→裏面右下部を打面として横長剥片を剥離→表面上部を面として横長剥片の剥離となり、この剥離の際に4aと4bとに分割されている。

5～8は剥片である。チャート製の5～7は2・3と同様、頭部調整のある縦長を呈し、長さは3.5cm～4.5cmである。6・7の背面には主要剥離面と逆の方向から入る剥離痕がみられる。下部を固定し、石

第5-3表 第2文化層第19ブロック組成表

母岩	器種	母岩番号	削器	微細剥離痕のある剥片	剥片	碎片	石核	砥石	点数合計	点数比(%)	重量合計(g)	重量比(%)
ガラス質黒色安山岩		2001			1				1	3.57	3.26	0.19
珪質頁岩		2001			2				2	7.14	6.65	0.39
		2002		2					2	7.14	7.31	0.43
		2003			5	1			6	21.43	11.74	0.69
	珪質頁岩合計			2	7	1			10	35.71	25.70	1.50
ホルンフェルス	2001				1				1	3.57	1.63	0.10
	2002				1				1	3.57	11.46	0.67
ホルンフェルス合計				2					2	7.14	13.09	0.76
チャート	2001				6		2		8	28.57	54.54	3.18
	2002		1						1	3.57	12.09	0.71
	2003				1				1	3.57	14.86	0.87
	2004				2				2	7.14	14.60	0.85
	2005				2				2	7.14	13.60	0.79
チャート合計		1			11		2		14	50.00	109.69	6.40
砂岩	2001							1	1	3.57	1,562.00	91.15
全体点数合計		1	2	21	1	2	1	28	100.00	1,713.74	100.00	

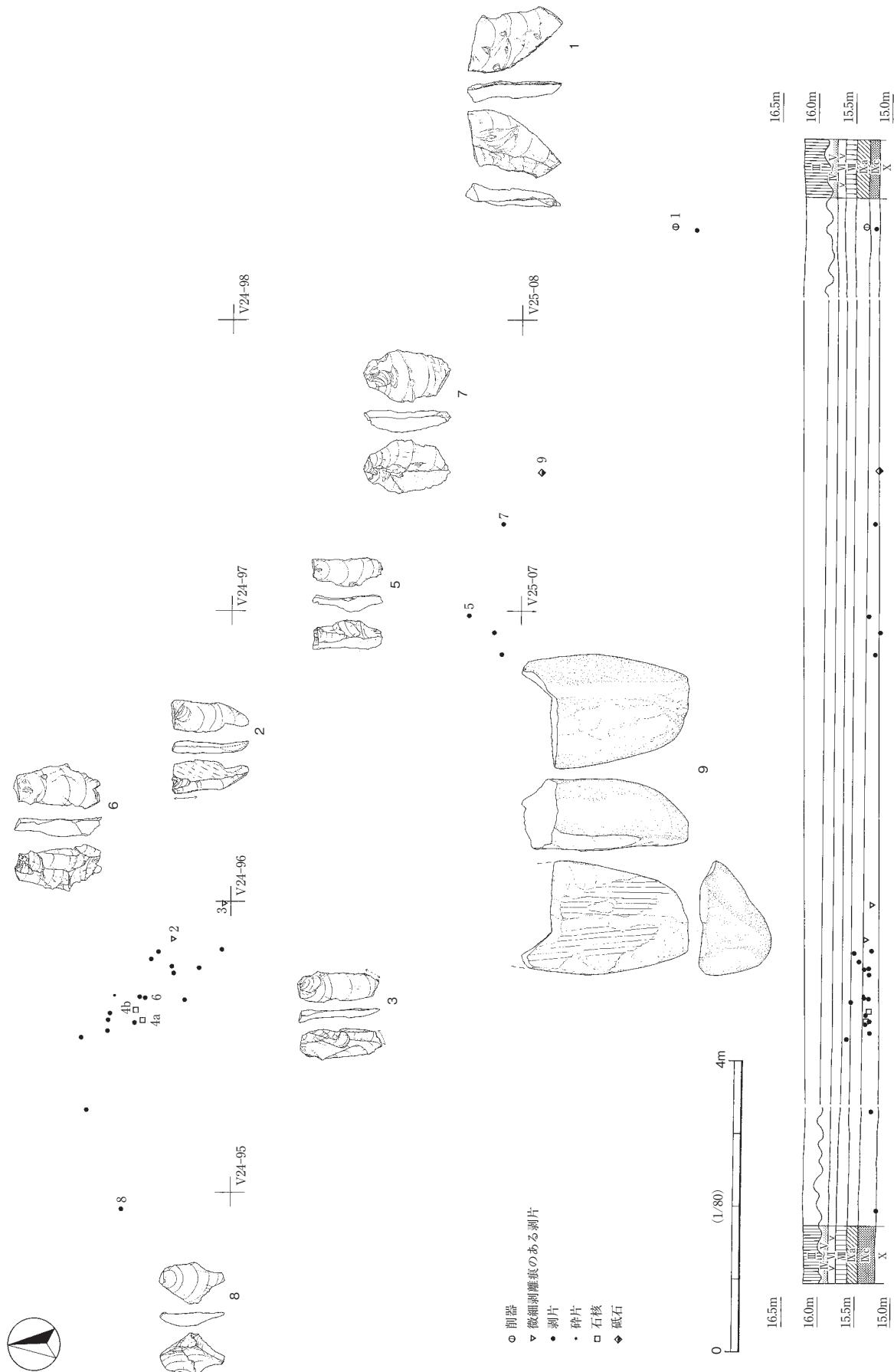
核を安定させたうえで剥離行為に及んだ痕跡であろう。8は第19ブロックで唯一のガラス質黒色安山岩製である。背面に残る多方向の剥離痕から、器面調整を目的としたものと推測される。

9は砂岩の砥石である。機能面は3面あり、横断面は角の丸い三角形状である。正面に据えた平坦面には、微光沢のある表面を粗く削いた後の擦りによって、複数の平滑な面が形成されている。V25-07グリッド付近に5や7、チャートの剥片とともに分布しており、これら5点はX層上部～IX層下部に直線状に並ぶ。発掘調査時の砥石検出状況は、正面図として示した平滑面が上に向けて設置され、地表面と水平であった。三角柱状であるため、自然に置けば凸部が上に向くことから、使用時の状況を残しているものと推測される。なお、検出された際の写真を図版22に掲載した。

県内における砥石の出土例は四街道市出口・鐘塚遺跡²⁾、市原市草刈六之台遺跡³⁾、千葉市白鳥台遺跡⁴⁾、成田市天神峰最上遺跡⁵⁾、千葉市餅ヶ崎遺跡⁶⁾などがあげられ、いずれもIX層下部から出土している。これらの砥石には淡黄褐色の細粒軟質な砂岩が用いられており、粒子間の結合度が弱く簡単に分離するため、研磨剤としても活用できたものと思われる。本例に最も近い形状の砥石は餅ヶ崎例である。

注1 チャート2001～2004は緑色を帯びた玻璃質で、所々薄い褐色と緑灰色が年輪のように層を成す。色みの違った同一母岩と思われるが、別母岩とすれば4つの母岩がごく近い場所で採取されたものと推測される。自然面が残る資料は少なく、艶を失った平らな自然面には部分的に弱いパーカッションマークが残る。原石は少なくとも直径10cm以上で角礫状かと思われる。このチャートは濃灰色～黒色の微光沢を持つチャートと共に伴することが多く、当ブロックで珪質頁岩2002とした石材がこれにあたる。千葉県内の遺跡では主にIX層から出土することが知られ、環状ブロック群を構成する石材としても注目されている。現在まで、東京都奥多摩地方の海沢層のほかには原産地は確認されていない。

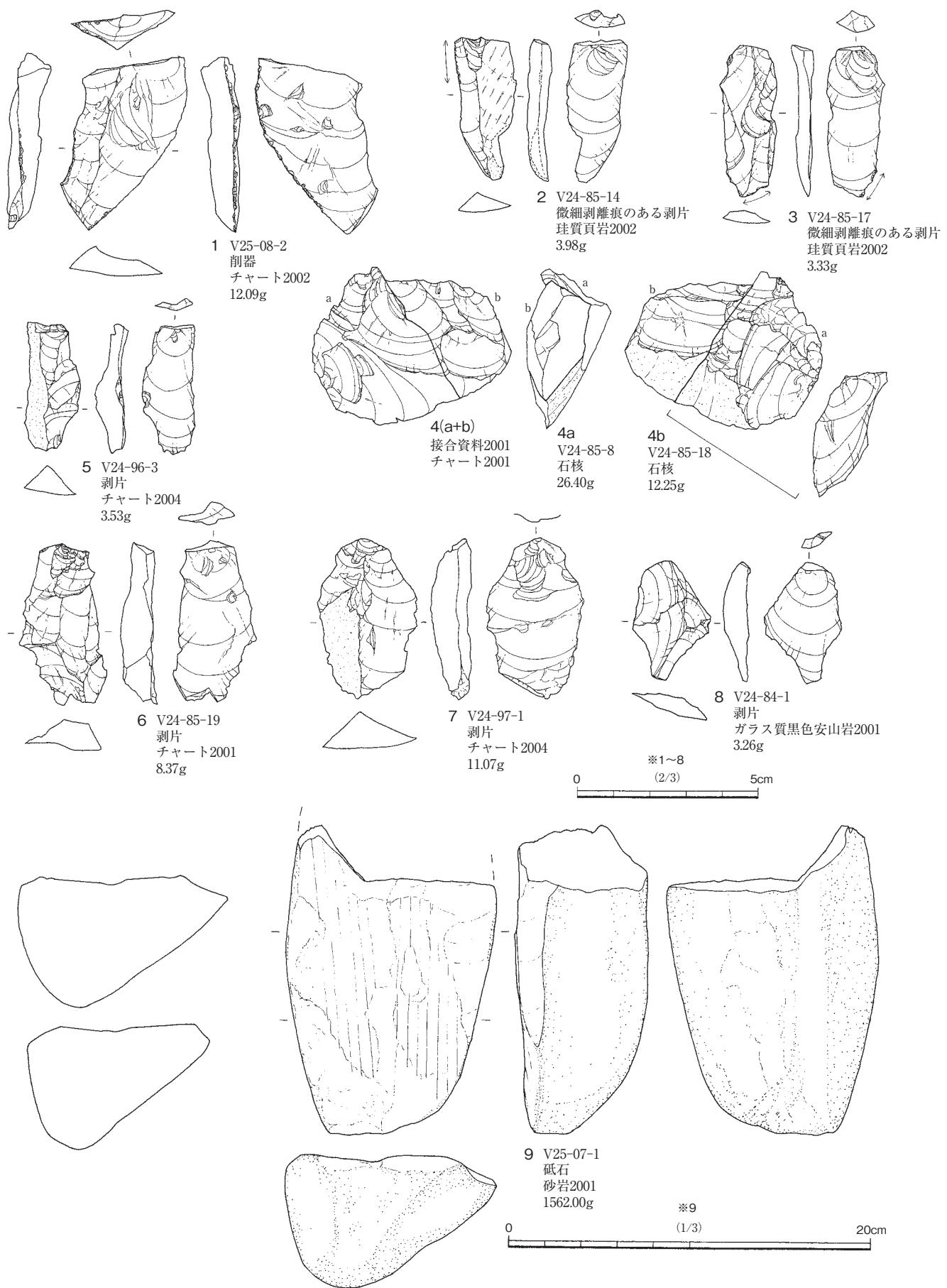
- 2 田村 隆 2015『四街道市出口・鐘塚(2)・(3)・(4)遺跡-物井地区埋蔵文化財発掘調査報告書XⅧ-』
(公財)千葉県教育振興財団
- 3 島立 桂 1994『千原台ニュータウンIV-市原市草刈六之台遺跡-』(財)千葉県文化財センター
- 4 古内 茂 1984『千葉東南部ニュータウン15-馬の口遺跡・有吉城跡・白鳥台遺跡-』(財)千葉県文化財センター



第5-3図 第2文化層第19ブロック器種別分布



第5-4図 第2文化層第19ブロック母岩別分布



第5-5図 第2文化層第19ブロック出土石器

- 5 永塚俊司 2001『新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書X V-天神峰最上遺跡(空港No64遺跡)-』
 (財)千葉県文化財センター
- 6 柳瀬裕一 1988『千葉市餅ヶ崎遺跡-昭和60年度発掘調査報告書-』(財)千葉市文化財調査協会

第3節 第3文化層

1 概要(第5-4表)

第3文化層の石器群は、第20ブロックから4点と単独出土の1点の合計5点で構成され、IXa層上部～VII層に生活面を持つと推定される。調査区北部の標高は14.0m～14.5m(現地表面)で、北北東に緩やかに傾斜する斜面の縁辺部に立地している。北方15mには縄文時代早期～前期を中心とした竪穴住居跡8件と炉穴5群、土坑13基が検出されており、第20ブロック至近にも土坑が点在する。

第3文化層の器種石材組成とブロック別組成は第5-4表のとおりである。

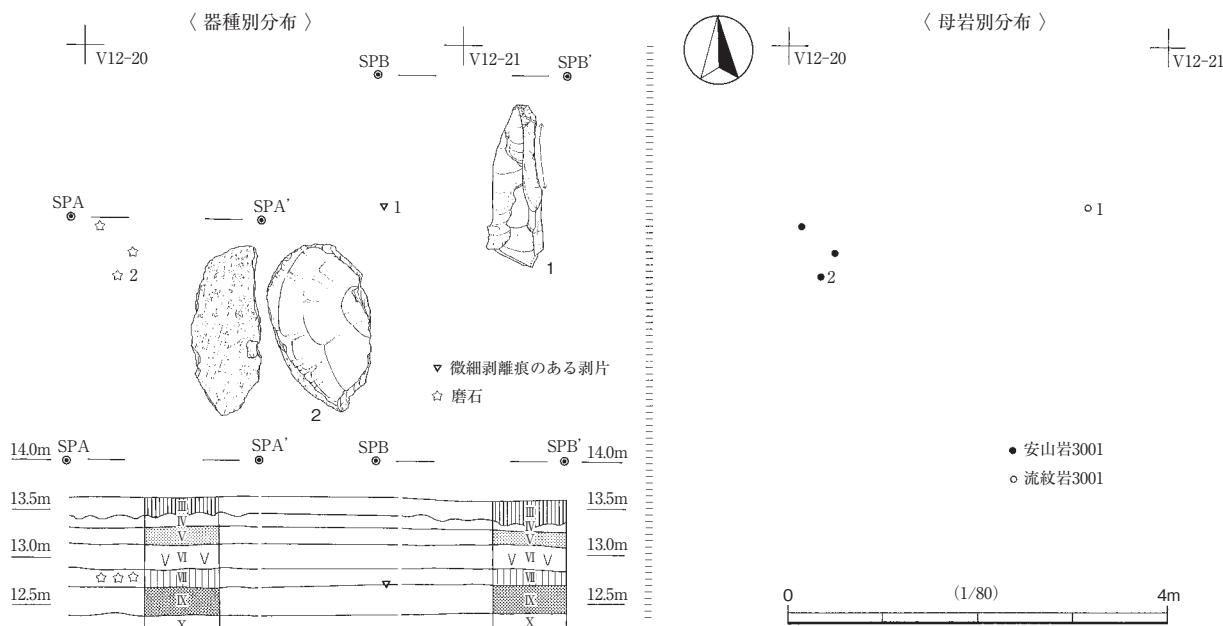
2 第3文化層第20ブロック(第5-6・7図、第5-5表、図版22・23)

出土状況 第20ブロックは調査区北部の台地先端部南側に位置し、北北東に傾斜する斜面に立地する。V12-20グリッドの0.6m×3.0mの範囲から4点の石が出土した。西側に多孔質安山岩の磨石片3点がまとまり、東に微細剥離痕のある剥片1点が分布している。

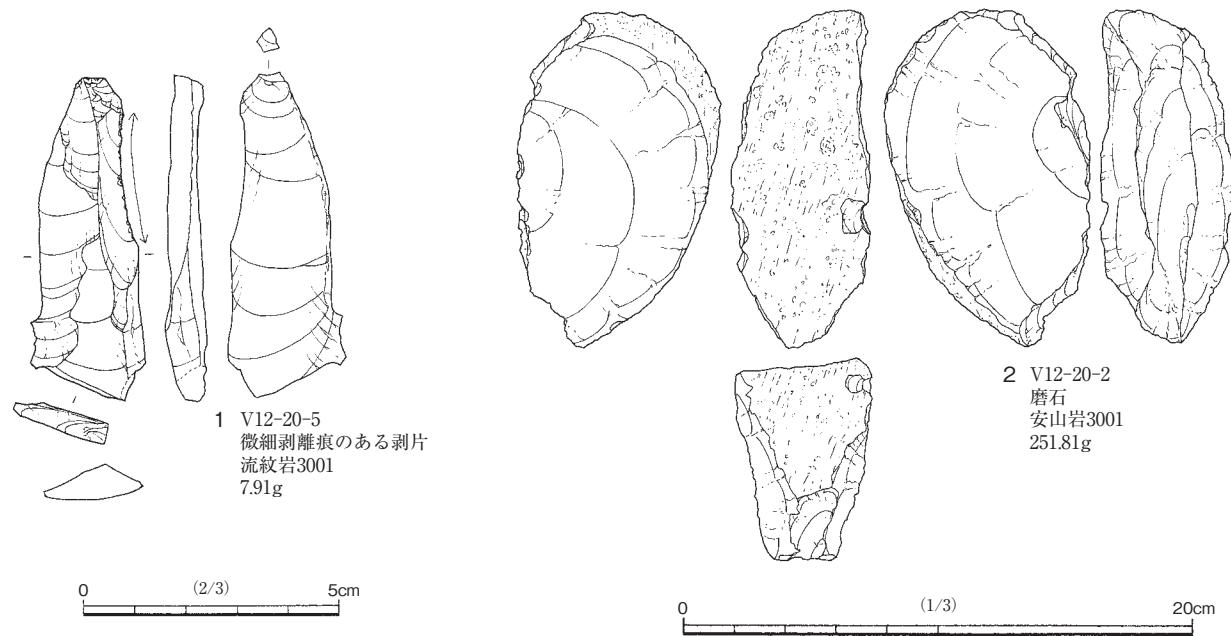
出土遺物 1は微細剥離痕のある剥片である。頭部調整され、小さくしつらえた打面から規格的に剥離さ

第5-4表 第3文化層器種石材組成表

石 材	器 種	ナイフ形石器	微細剥離痕のある剥片	磨石	総計
安 山 岩				3	3
黒 色 頁 岩		1			1
流 紋 岩			1		1
総 計		1	1	3	5



第5-6図 第3文化層第20ブロック遺物分布



第5-7図 第3文化層第20ブロック出土石器

第5-5表 第3文化層第20ブロック組成表

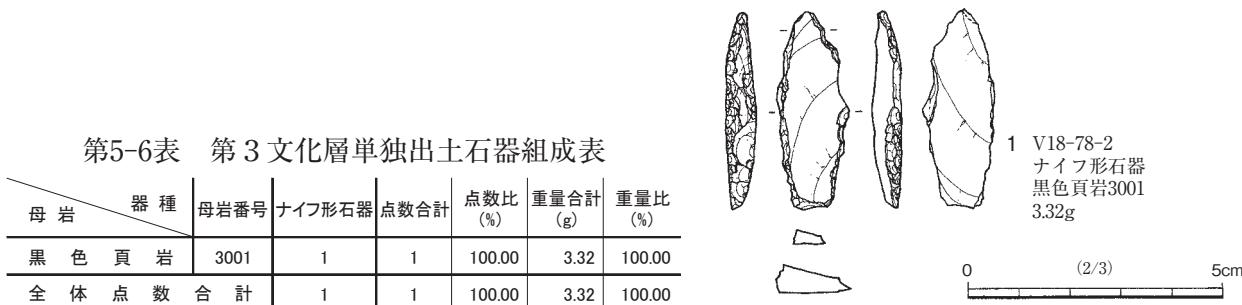
母 岩	器 種	母岩番号	微細剥離痕のある剥片	磨 石	点数合計	点数比 (%)	重量合計 (g)	重量比 (%)
安 山 岩		3001		3	3	75.00	283.12	97.28
流 紋 岩		3001	1		1	25.00	7.91	2.72
全 体	点 数 合 計		1	3	4	100.00	291.03	100.00

れた石刃である。末端に向かってやや広がっているが端部は折れて遺存しない。右上部縁辺に微細剥離痕がみられる。石材は灰白色で極細粒だが光沢はなく、さらさらとした質感の流紋岩である。斑晶は確認できない。珪質な凝灰岩ともとらえられよう。

2は安山岩の磨石である。同一母岩は3点であるが、小片2点は2の一部であったものが剥落・欠損した欠片であり、個々に機能した痕跡はない。千葉県内では縄文時代に石皿として多用される多孔質安山岩であり、推定される完全形は橢円形ドーム形の石皿状であろう。

3 第3文化層単独出土石器(第5-8図、第5-6表、図版23)

出土状況と遺物 調査区北東部のV18-78グリッドから1点のみ出土した石器はナイフ形石器で、石材は黒色頁岩である。貝殻状の剥片を縦方向に折り取って素材とし、この折面に背腹両面から急角度の調整加工が施される。対縁下半部の基部加工は主要剥離面側を打面として行われ、先鋒な先端部が作出される。前回調査の第10ブロックからは同様の形態・石材のナイフ形石器が複数出土している。



第5-8図 第3文化層単独出土石器

第4節 第4文化層

1 概要(第5-7・8表)

第4文化層では総計201点の石器が出土し、第21～24ブロックの4か所を検出した。これらのブロックは調査区西側の標高15.5m～16.5m(現地表面)に位置し、西に緩やかに傾斜する斜面の縁辺部に立地している。V層～IV層下部に生活面を持つ石器群と推定され、剥片を素材として利器を作出する工程がみられるが、ブロック間で接合する資料はない。

第4文化層の器種石材組成とブロック別組成は第5-7・8表のとおりである。

器種組成はナイフ形石器5点、角錐状石器1点、削器1点、楔形石器2点、石錐1点、二次加工のある剥片32点、微細剥離痕のある剥片8点、剥片113点、碎片23点、石核5点、敲石1点の石器類192点と、礫1点、礫片8点の礫・礫片9点である。

石材組成は石器類が玉髓91点、流紋岩43点、チャート30点、黒曜石10点、珪質頁岩10点、ガラス質黑色

第5-7表 第4文化層器種石材組成表

石 材 器 種	ナ イ フ 形 石 器	角 锥 状 石 器	削 器	楔 形 石 器	石 锥	二 次 加 工 の あ る 剥 片	微 细 剥 离 痕 の あ る 剥 片	剥 片	碎 片	石 核	敲 石	礫	点 数 合 計
黒 曜 石	2					4		2	2				10
ガラス質黑色安山岩		1				1		2					4
珪 質 頁 岩	1					4	1	4					10
玉 體			1		1	15	4	56	9	5			91
ホルンフェルス								3				2	5
チ ャ 一 ト				2		1		25	2		1	1	32
砂 岩										1		4	5
流 紋 岩	2					7	3	21	10				43
石 英 斑 岩												1	1
全 体 点 数 合 計	5	1	1	2	1	32	8	113	23	5	1	1	201

第5-8表 第4文化層ブロック別組成表

ブ ロ ッ ク	石 材	ナ イ フ 形 石 器	角 锥 状 石 器	削 器	楔 形 石 器	石 锥	二 次 加 工 の あ る 剥 片	微 细 剥 离 痕 の あ る 剥 片	剥 片	碎 片	石 核	敲 石	礫	点 数 合 計
21	黒 曜 石						2							2
	珪 質 頁 岩						3		2					5
	玉 體						3		2					5
	ホルンフェルス											1	1	
	砂 岩											2	2	
	流 紋 岩	2					7	3	21	10				43
第 21 ブ ロ ッ ク 合 計		2					15	3	25	10			3	58
22	黒 曜 石	2												2
	ガラス質黑色安		1				1		2					4
	珪 質 頁 岩	1					1		1					3
	ホルンフェルス			1		1	12	4	54	9	5			86
	チ ャ 一 ト											1		1
	砂 岩											1		1
第 22 ブ ロ ッ ク 合 計		3	1	1		1	14	4	57	9	5	1	1	97
23	黒 曜 石								1	1				2
	珪 質 頁 岩								1					1
	ホルンフェルス								3			1	4	
	チ ャ 一 ト				2		1		25	2				30
第 23 ブ ロ ッ ク 合 計			2			1			30	3			1	37
24	黒 曜 石						2		1	1				4
第 24 ブ ロ ッ ク 合 計							2		1	1				4
単 独	珪 質 頁 岩													1
	チ ャ 一 ト											1	1	
	砂 岩											2	2	
	石 英 斑 岩											1	1	
单 独 出 土 合 計								1					4	5
全 体 点 数 合 計	5	1	1	2	1	32	8	113	23	5	1	1	8	201

安山岩4点、ホルンフェルス3点、砂岩1点である。礫・礫片類は砂岩4点、ホルンフェルス2点、チャート2点、石英斑岩1点である。

2 第4文化層第21ブロック(第5-9~11図、第5-9表、図版22・23)

出土状況 第21ブロックは調査区中央部西側、R20-45・46・55・56・67グリッドの北北西に傾斜する斜面縁辺に立地する。9.1m×4.5mの範囲から58点が出土した。直径2mの円内に大半が密集し、北側と南東に10点ほどが散漫に分布する。出土層位はVI層上部からⅢ層にかけてで、V層上部～IV層下部に集中する。

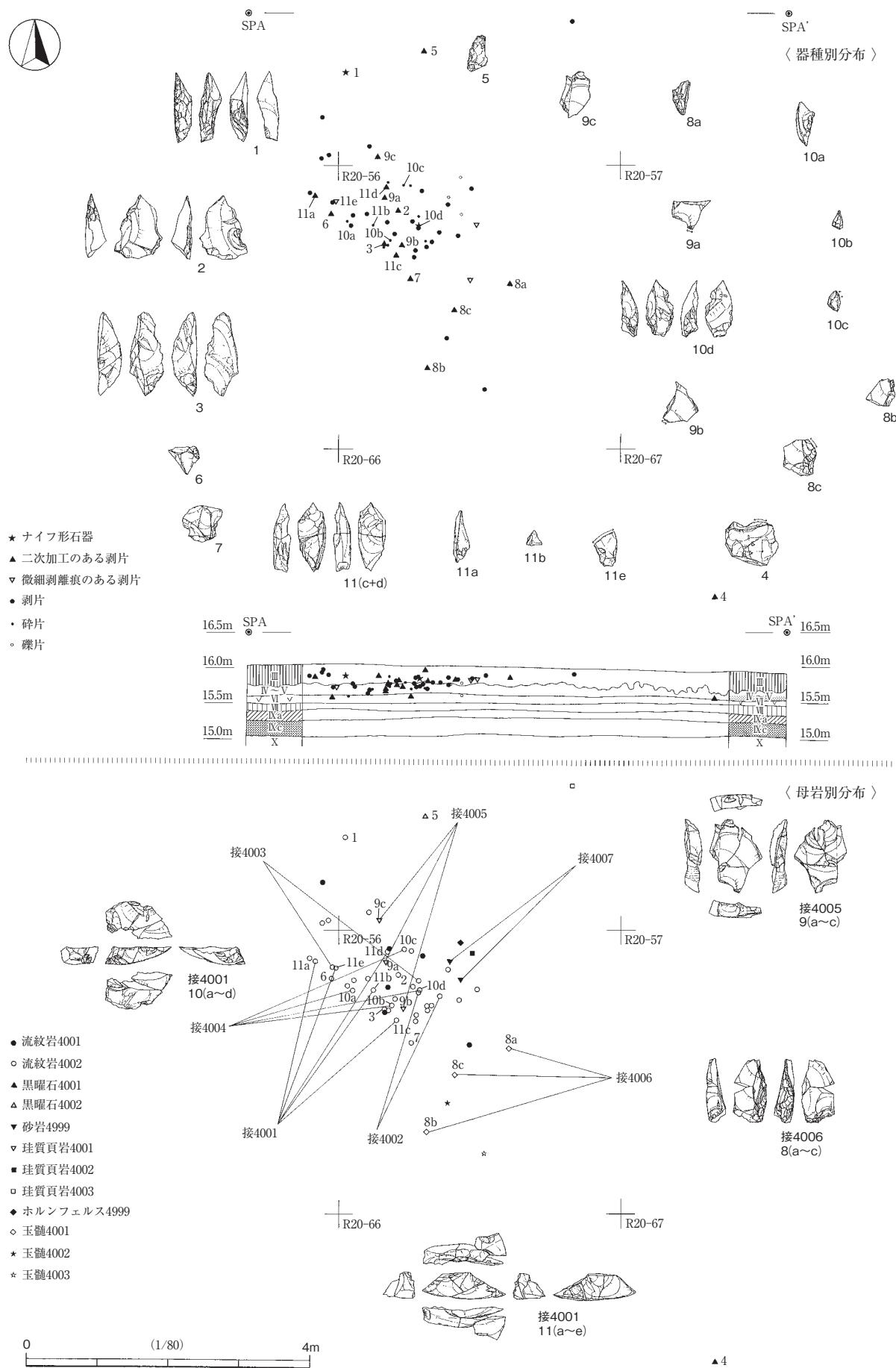
出土遺物 器種組成はナイフ形石器2点、二次加工のある剥片15点、微細剥離痕のある剥片3点、剥片25点、碎片10点の石器類55点と礫片3点で構成される。石器類の石材は流紋岩43点、珪質頁岩5点、玉髓5点、黒曜石2点である。礫片の石材は砂岩2点、ホルンフェルス1点である。なお、第21ブロックで出土した流紋岩は2種類あり、37点を数える流紋岩4002は石材名は異なるが、栃木県寺野東遺跡¹⁾のV層～IV層下部から出土した珪質頁岩と近似する。

1はナイフ形石器である。横長剥片を素材とし、打面側とその対縁が主要剥離面側から背面へ向けた急角度剥離によって調整加工される。刃部付近の断面は正三角形、基部は山高の台形である。素材の縁辺は1/3以上残されているが使用痕はみられない。淡黄褐色で細粒緻密な流紋岩4002を母岩とする。

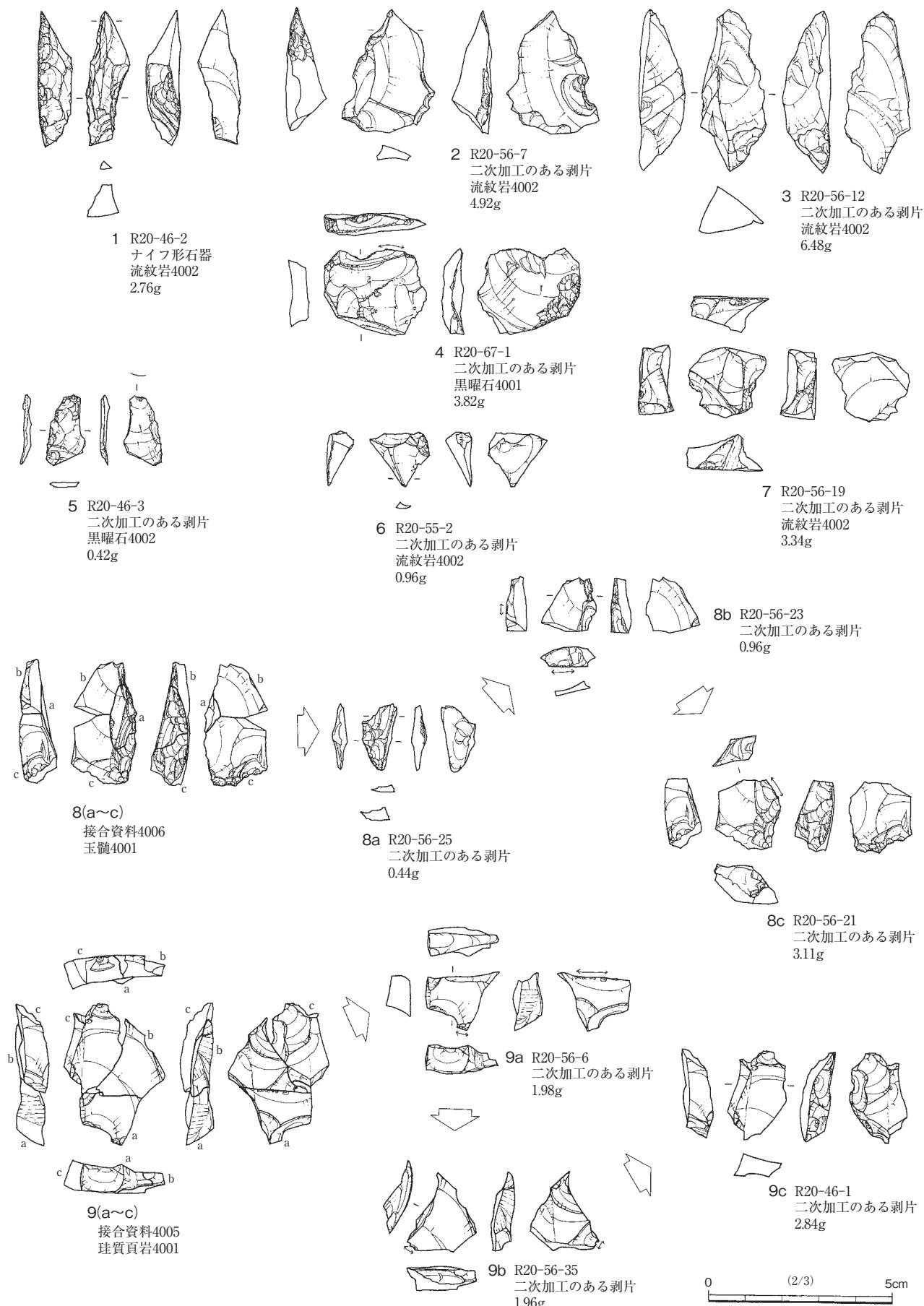
2～7は二次加工のある剥片である。2の折面に微細な剥離が、素材縁辺には鋸歯状の二次加工が施されており、何らかの利器の未成品の可能性が高い。3は厚みのある剥片の打面部に加工が施されている。背稜を通すように縦に設置すると横断面が正三角形となり、わずかに基部加工されたナイフ形石器の素材ともとらえられよう。2・3は1と同じく流紋岩4002が母岩である。4・5は黒曜石製の二次加工のある剥片である。4の打面部は主要剥離面側から削がれ、末端部には折面を持つ。二次加工は側面の自然面を打面として主要剥離面側に施される。また、削がれた打面部の鋭い稜線に微細剥離痕がみられる。5は最大長20.0mmほどと小型だが、主要剥離面の片側縁辺中ほどに二次加工痕がみられる。線状打面で、右側縁と下縁部は折損する。6・7は1～3と同じく流紋岩4002が母岩である。6の二次加工は打面部、7は両側縁に内湾気味に施され、利器の基部かと推測される。

8～11は接合資料である。8は有底の横長剥片の打面部を急角度に調整している途中で3片に破損した資料であり、8aは調整剥片、8b、8cは直下折れの剥片である。完形形態は角錐状石器、あるいはナイフ形石器が想定されよう。石器密集域から1mほど南東に3点が分布する。灰白色の玉髓4001が母岩である。9は板状の剥片が3片に分かれた資料である。意図的な折れかどうかは不明であるが、9cの右側面には上部と下部に裏面からの急角度剥離が施されており、ほかの2点よりも白色が強い。緑灰色を基調とし、節理面が淡褐色の珪質頁岩4001が母岩である。3点とも密集域に分布する。

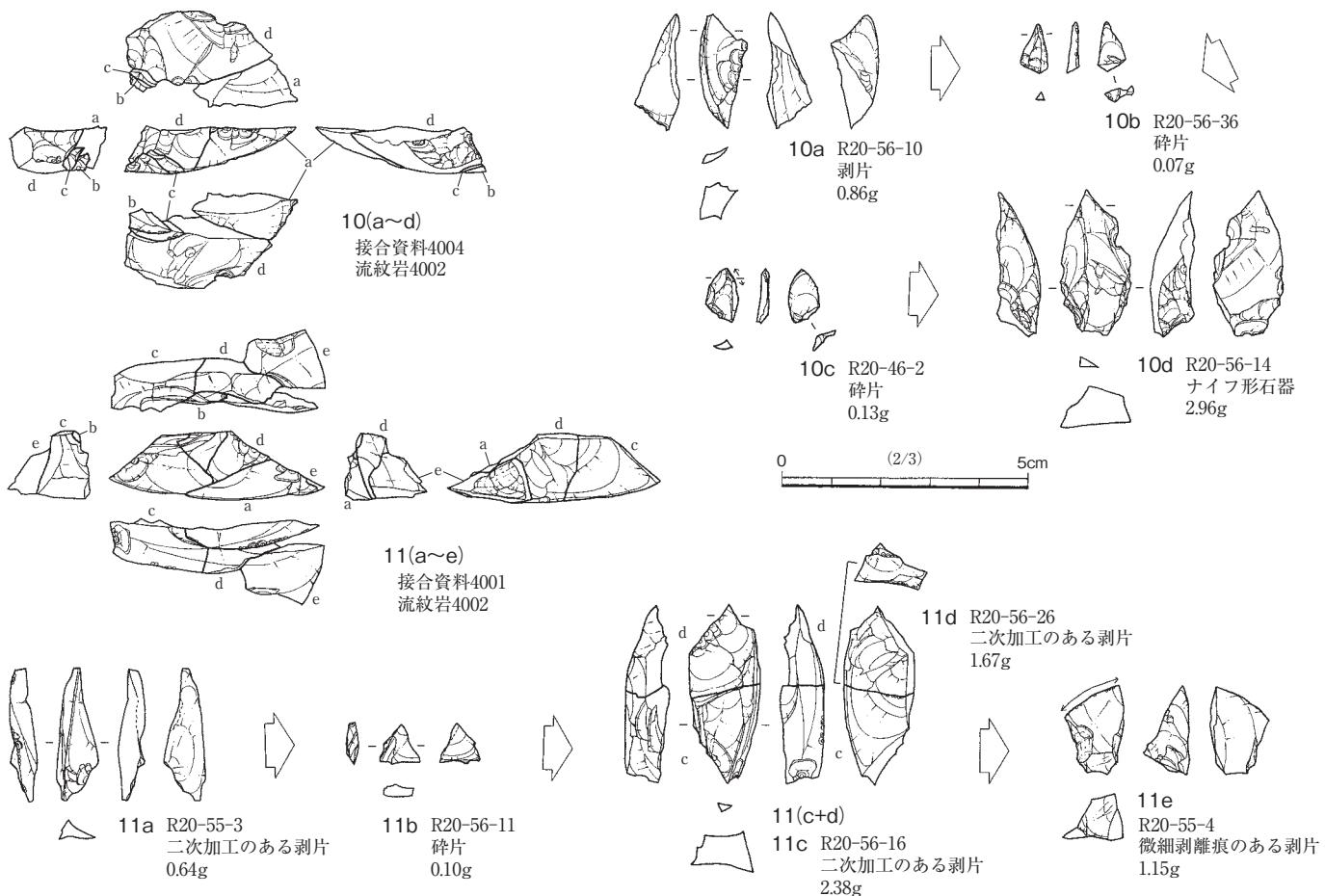
10・11は流紋岩4002が母岩である。10は剥片1点、碎片2点、ナイフ形石器1点が接合した。ナイフ形石器が作出されるまでの工程を復元できる資料である。まず、上下に分割された剥片の上部が粗く成形され、横長の素材が縦位に設定される。次に折面が主要剥離面側から急角度に調整される。10b、10cは基部加工の際に剥離された碎片で、10bの剥離が足りず、再度同じ部分を10cを削ぐことで調整している。11は二次加工のある剥片、微細剥離痕のある剥片、碎片を組成する接合資料である。厚みある板状の剥片の平坦面を打面とし、上下に打点をずらしながら薄く剥離される。11(c+d)が利器の素材と推定されるが、折れが生じたために完成には至っていない。11eには素材時の刃こぼれ痕が弧状の縁辺に残る。



第5-9図 第4文化層第21ブロック遺物分布



第5-10図 第4文化層第21ブロック出土石器(1)



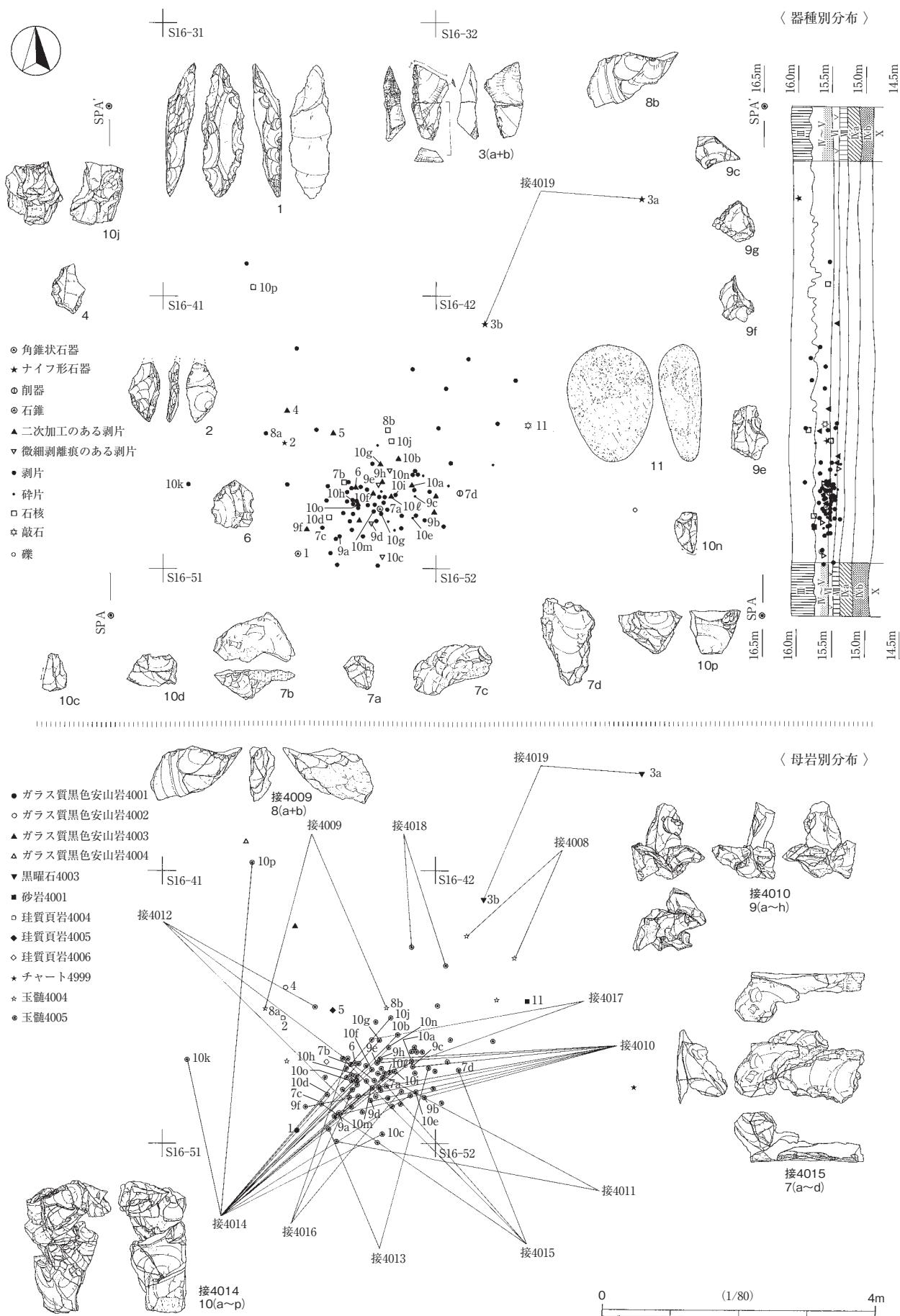
第5-11図 第4文化層第21ブロック出土石器(2)

第5-9表 第4文化層第21ブロック組成表

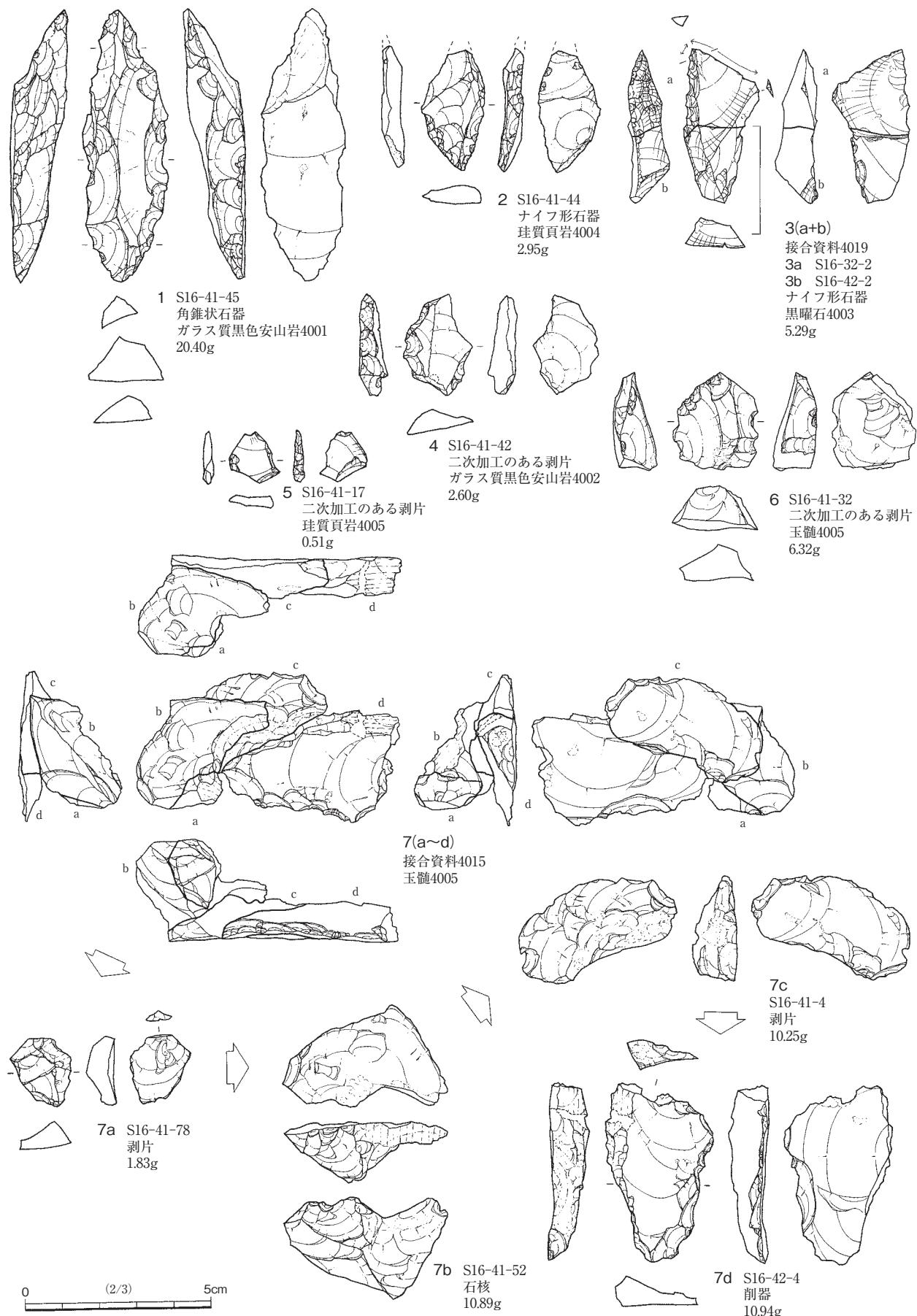
母岩	器種	母岩番号	ナイフ形石器	二次加工 のある剥片	微細剥離痕 のある剥片	剥片	碎片	礫片	点数合計	点数比 (%)	重量合計 (g)	重量比 (%)
黒曜石		4001		1					1	1.72	3.82	2.52
		4002		1					1	1.72	0.42	0.28
黒曜石合計				2					2	3.45	4.24	2.80
珪質頁岩		4001		3					3	5.17	6.78	4.48
		4002				1			1	1.72	2.04	1.35
		4003				1			1	1.72	2.38	1.57
珪質頁岩合計				3		2			5	8.62	11.20	7.40
玉髓		4001		3					3	5.17	4.51	2.98
		4002				1			1	1.72	3.61	2.39
		4003				1			1	1.72	0.26	0.17
玉髓合計				3		2			5	8.62	8.38	5.54
ホルンフェルス		4999					1		1	1.72	16.81	11.11
砂岩		4999					2		2	3.45	58.16	38.43
流紋岩		4001			1	3	2		6	10.34	12.79	8.45
		4002	2	7	2	18	8		37	63.79	39.77	26.28
流紋岩合計			2	7	3	21	10		43	74.14	52.56	34.73
全体点数合計			2	15	3	25	10	3	58	100.00	151.35	100.00

3 第4文化層第22ブロック(第5-12~16図、第5-10表、図版22~24)

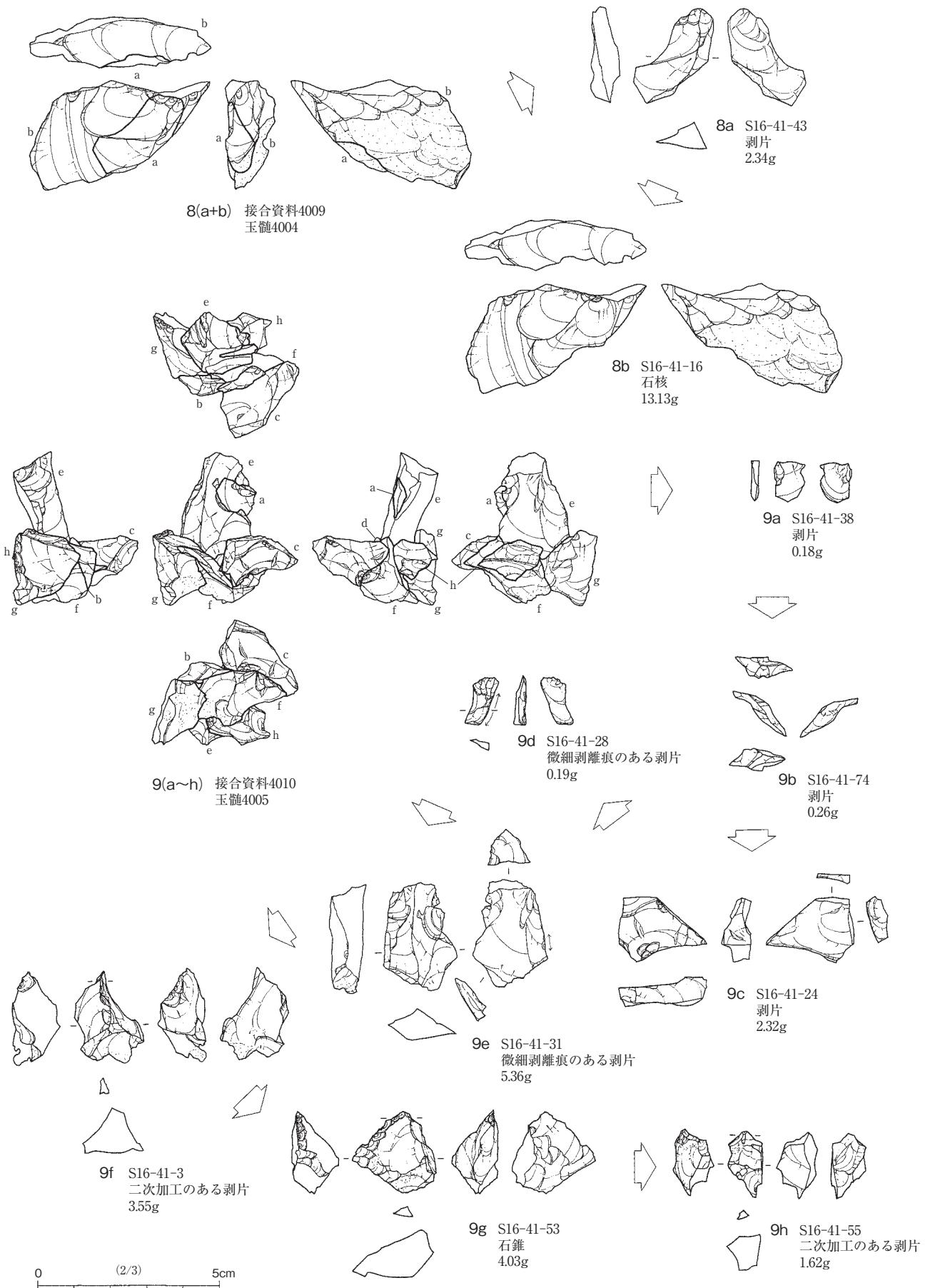
出土状況 第22ブロックは調査区北部のS16-31・32・41・42グリッドの、北北西に傾斜する斜面縁辺に立地する。7.9m×6.7mの範囲から97点の石が出土し、南西部の直径3.9mの円内に密集する。出土層位は



第5-12図 第4文化層第22ブロック遺物分布



第5-13図 第4文化層第22ブロック出土石器(1)



第5-14図 第4文化層第22ブロック出土石器(2)

VI層からII層にかけてで、V層～IV層下部に集中する。母岩の82%が乳白色の玉髓4005であり、複数の接合資料を確認した。

出土遺物 器種組成はナイフ形石器2(3)点、角錐状石器1点、削器1点、石錐1点、二次加工のある剥片14点、微細剥離痕のある剥片4点、剥片57点、碎片9点、石核5点、敲石1点の石器類96点と礫1点である。石器類の石材は玉髓86点、ガラス質黒色安山岩4点、珪質頁岩3点、黒曜石2点、砂岩1点である。礫の石材はチャートである。

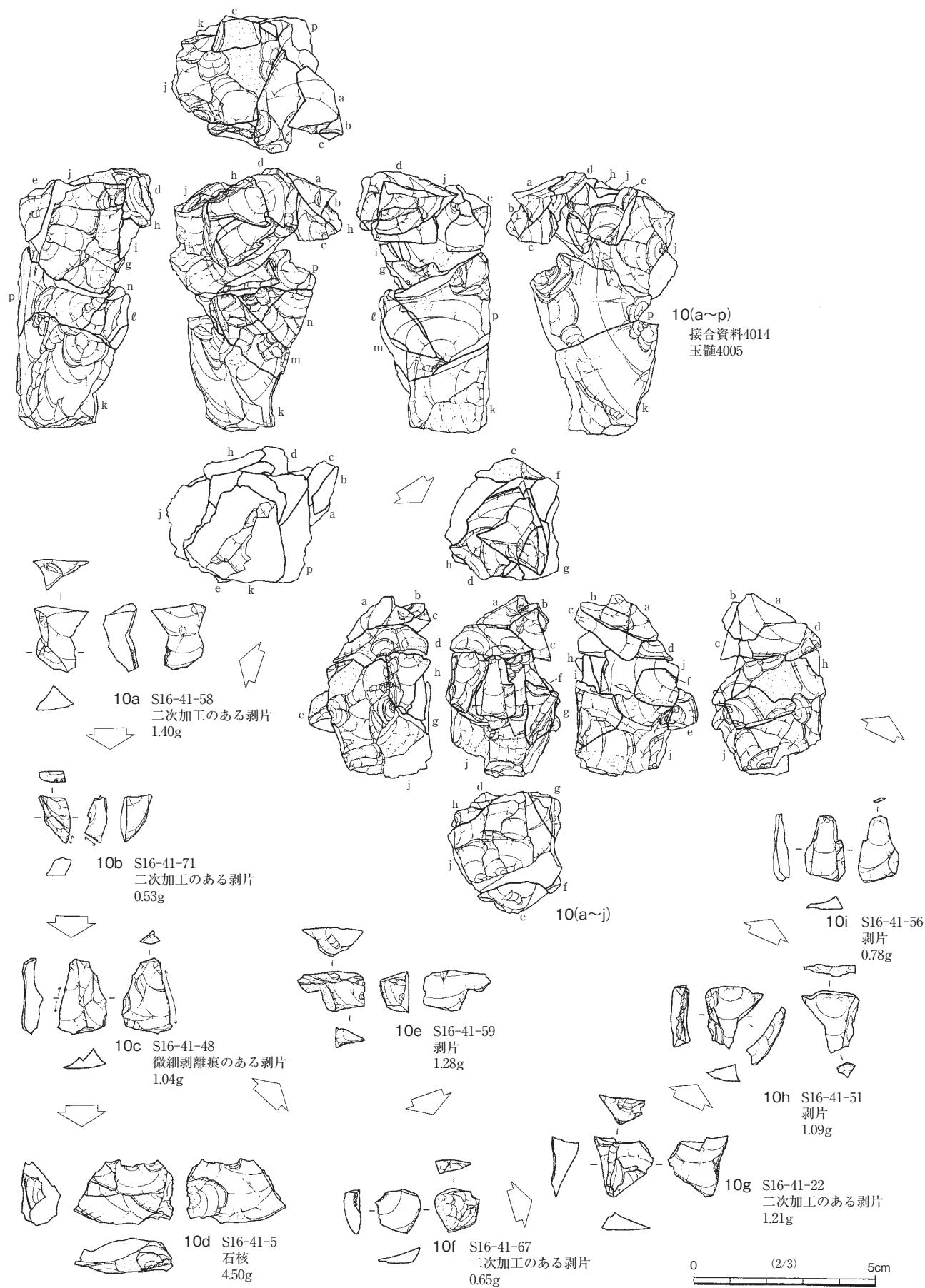
1は角錐状石器である。素材側縁に施された加工は、右側縁では比較的急角度だが、左側縁は43°～53°と平坦な剥離痕が並ぶ。先端部は裏面が削がれた後、右側縁がノッチ状に剥離され、裏面には摩耗痕がみられる。石材は青みを帯びた濃灰色のガラス質黒色安山岩で、最大長75.0mmを測る。

2・3はナイフ形石器である。2は横長剥片を斜位に用い、無加工の打面と厚みのある剥片中央部が基部を成す。先端は欠損する。1の角錐状石器と同様に上半部に器厚の減少がみられるが、2の剥離は刺突の際の衝撃による剥離痕と思われる。石材は茶褐色の珪質頁岩で、自然面は黄褐色で光沢がある。3は横長剥片を素材とし、打面部に急角度の加工が施された切出状を呈するナイフ形石器である。刃部と先端部に細かな刃こぼれがみられる。母岩は褐色の夾雜物を含み不透明であるが、薄い縁辺では光を透過する黒曜石4003である。上下に折れた状態で出土した。2点間の距離は約3mである。

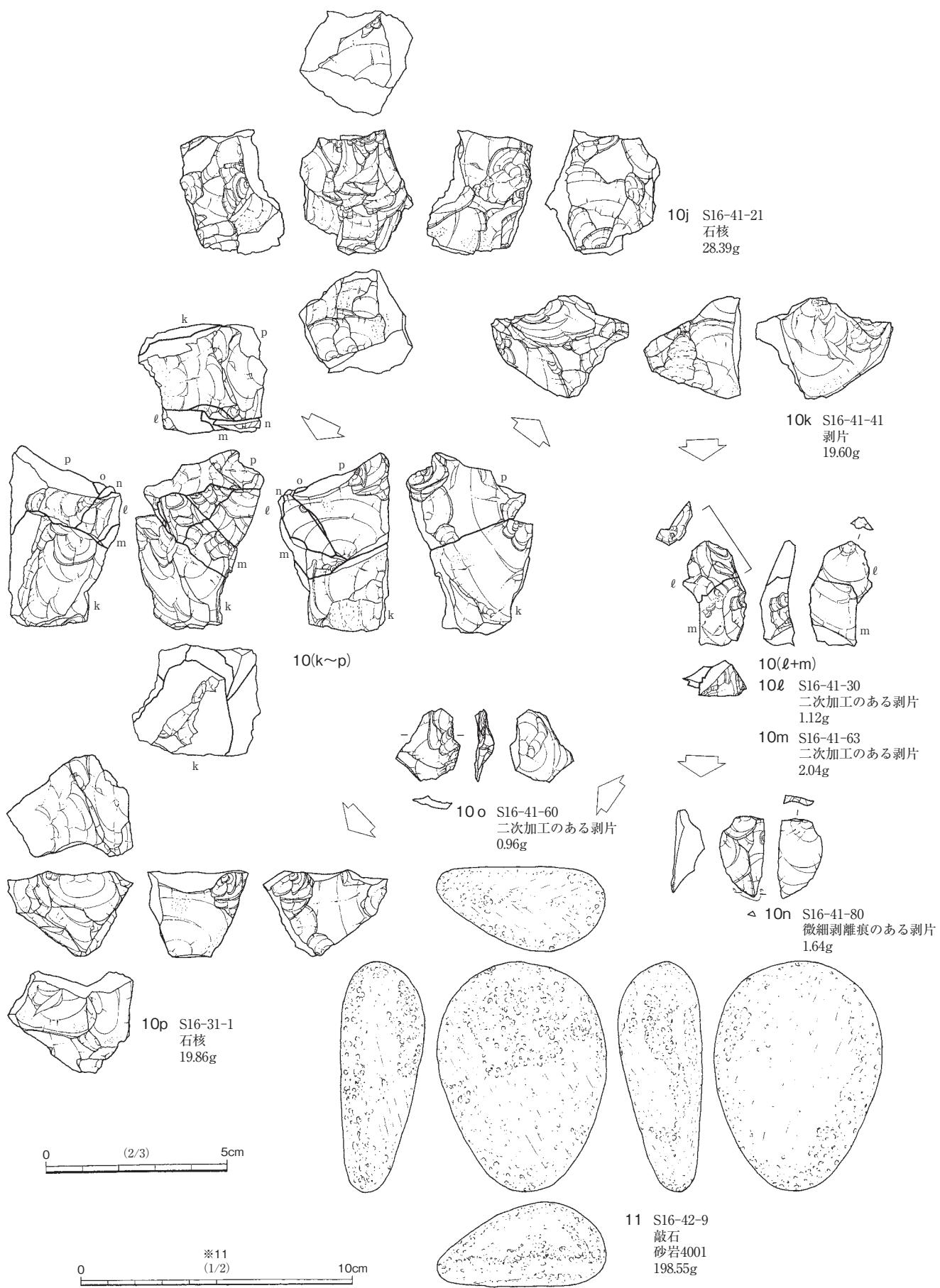
4～6は二次加工のある剥片である。4の縁辺には主要剥離面側から60°～83°の加工が施され、鋸歯状の剥離痕が並ぶ。石材はガラス質黒色安山岩である。1よりも黒みが強く粘質である。打面部を無加工の基部とするならば小型のナイフ形石器ともとらえられよう。5はごく小型ながら側縁に急角度の剥離痕が施された資料である。陶器のような光沢のある石材で、第22ブロックの密集域外縁部から1点のみ出土した。6の下部は欠損しているが側縁からの加工の形態は鋸歯状で、1、4と共に通するものがある。7～10は接合資料である。7は4点が接合した。削器1点、剥片2点、石核1点である。玉髓4005を母岩とし、すべて密集域に分布する。剥離された剥片のうち、7dの末端縁辺は鋸歯状に加工され、削器が作出される。上部は欠損する。

8は剥片と石核各1点が接合した。器厚を削ぐように8aが剥離されているが、この前後にも同様の剥離が少なくとも3回行われている。先端部を尖銳にするための減厚を目的とした加工であろうか。9は8点接合した。石錐1点、二次加工のある剥片2点、微細剥離痕のある剥片2点、剥片3点を組成し、すべて密集域からの出土である。明確な打点をもたない資料は4点あり、目的的剥片というよりむしろ、打点直下で破損した石片といった要素が強い。その中で9gの石錐は縁辺に二次加工が施され、端部には微細な調整が加えられて錐機能部が作出されている。9f、9hも同様であり、微細な加工による尖銳な凸部がみられる。

10は16点の接合資料である。10kの剥片は第22ブロックの西端、10pの石核が北西端に分布するほかは14点すべて密集域から出土した。資料は10(a～j)、10(k～p)の2つの塊に分けられたのちに剥片剥離作業が行われるが、2塊の前後関係は不明である。まず10(a～j)だが、石核を除いた剥片類の中で打点をもたない資料は8点中4点、直下折れは2点であり、意図された剥片は10hと10iの2点である。作出された剥片類の縁辺に微細な剥離痕がみられるものもあるが、人為的な痕跡か否かは定かでない。10(a～j)の器種組成は二次加工のある剥片4点、微細剥離痕のある剥片1点、剥片3点、石核2点である。もう一方の10(k～p)は6点で構成され、二次加工のある剥片2(出土点数3)点、微細剥離痕のある剥片1点、



第5-15図 第4文化層第22ブロック出土石器(3)



第5-16図 第4文化層第22ブロック出土石器(4)

第5-10表 第4文化層第22ブロック組成表

母岩 器種 番号	母岩 番号	ナイフ形 石器	角錐状 石器	削器	石錐	二次加工の ある剥片	微細剥離痕 のある剥片	剥片	碎片	石核	敲石	礫	点数 合計	点数比 (%)	重量合計 (g)	重量比 (%)	
黒曜石	4003	2											2	2.06	5.29	0.59	
ガラス質黑色安山岩	4001		1										1	1.03	20.40	2.29	
	4002					1							1	1.03	2.60	0.29	
	4003						1						1	1.03	4.23	0.48	
	4004							1					1	1.03	0.76	0.09	
ガラス質黑色安山岩合計		1				1		2					4	4.12	27.99	3.15	
珪質頁岩	4004	1											1	1.03	2.95	0.33	
	4005					1							1	1.03	0.51	0.06	
	4006						1						1	1.03	0.63	0.07	
珪質頁岩合計		1				1		1					3	3.09	4.09	0.46	
玉髓	4004						5		1				6	6.19	22.23	2.50	
	4005		1	1	12	4	49	9	4				80	82.47	244.69	27.51	
玉髓合計			1	1	12	4	54	9	5				86	88.66	266.92	30.01	
チャート	4999												1	1	1.03	386.63	43.47
砂岩	4001									1			1	1.03	198.55	22.32	
全体点数合計		3	1	1	1	14	4	57	9	5	1	1	97	100.00	889.47	100.00	

剥片1点、石核1点を組成する。石核以外の4点に明確な打点があり、企図された剥片であることが認識される。上下折れした10($l+m$)の右下部に二次加工痕がみられる。10oの主要剥離面は切られていないが打面部背面に小剥離痕が並ぶため、これも二次加工のある剥片とした。10nは側縁が末端で収束する形状の剥片であり、先端部に刃こぼれが観察される。

11は砂岩製の敲石である。丸みのある三角形状で下端部に弱い敲打痕がみられるが、器形を変えるほどではない。裏面は磨耗し平滑である。密集域から1.5mほど北東に外れた外縁部に分布する。

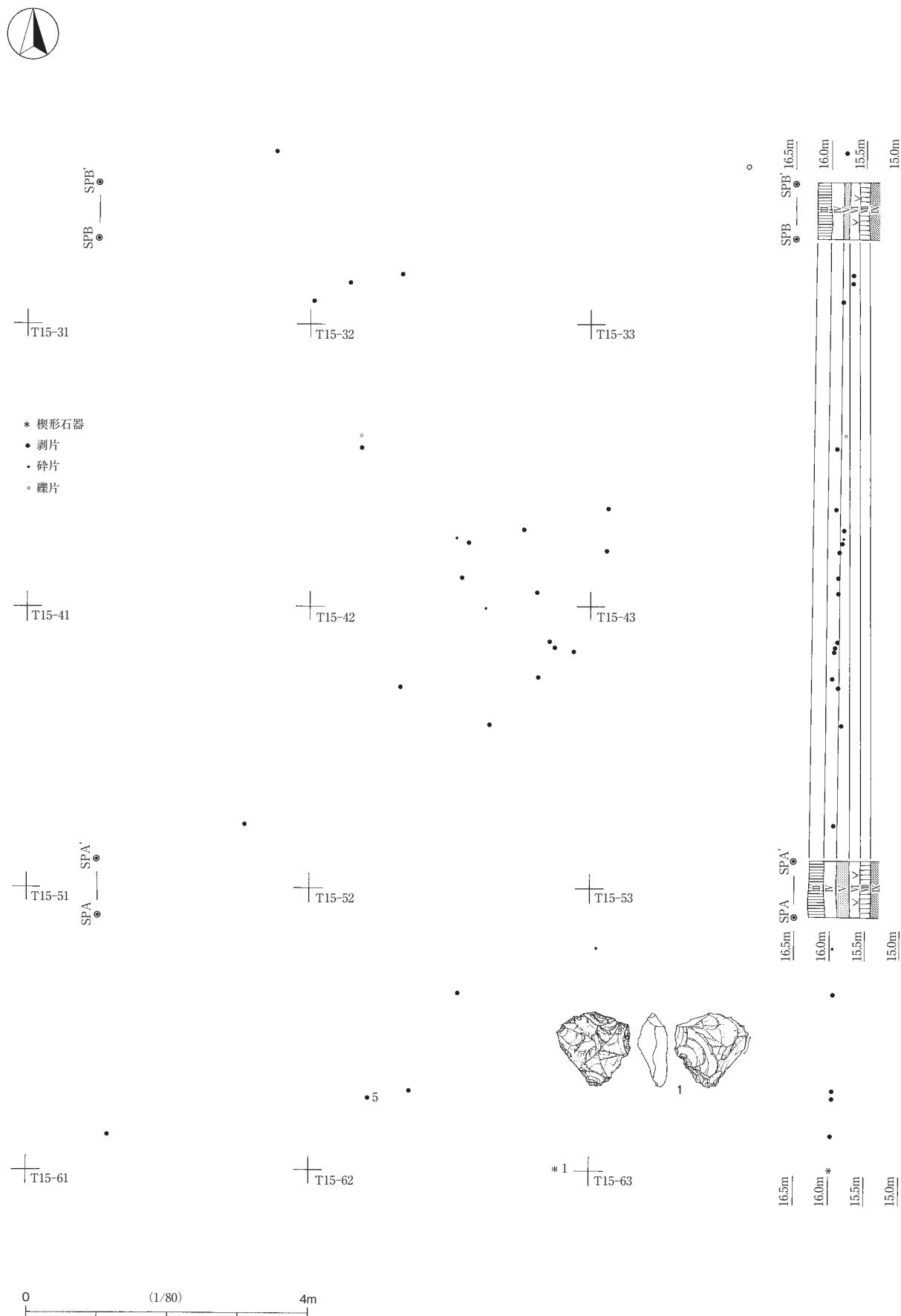
4 第4文化層第23ブロック(第5-17~19図、第5-11表、図版22・24)

出土状況 調査区北部のT15-21・22・31~33・41・42・51~53グリッドに分布している。北側は北北東にゆるやかに傾斜する斜面の縁辺にあたるが、中央部のT15-42・43グリッド付近から南部は比較的平坦で、石器の垂直分布状況はほぼ直線状である。14.5m×7.4mの南北に広がる範囲から37点の石が出土した。北部、中央部、南部の3か所の集中地点がみられるが全体的には散漫な分布状況を示している。出土層位はVI層からIV層にかけて、V層上部~IV層下部に集中する。

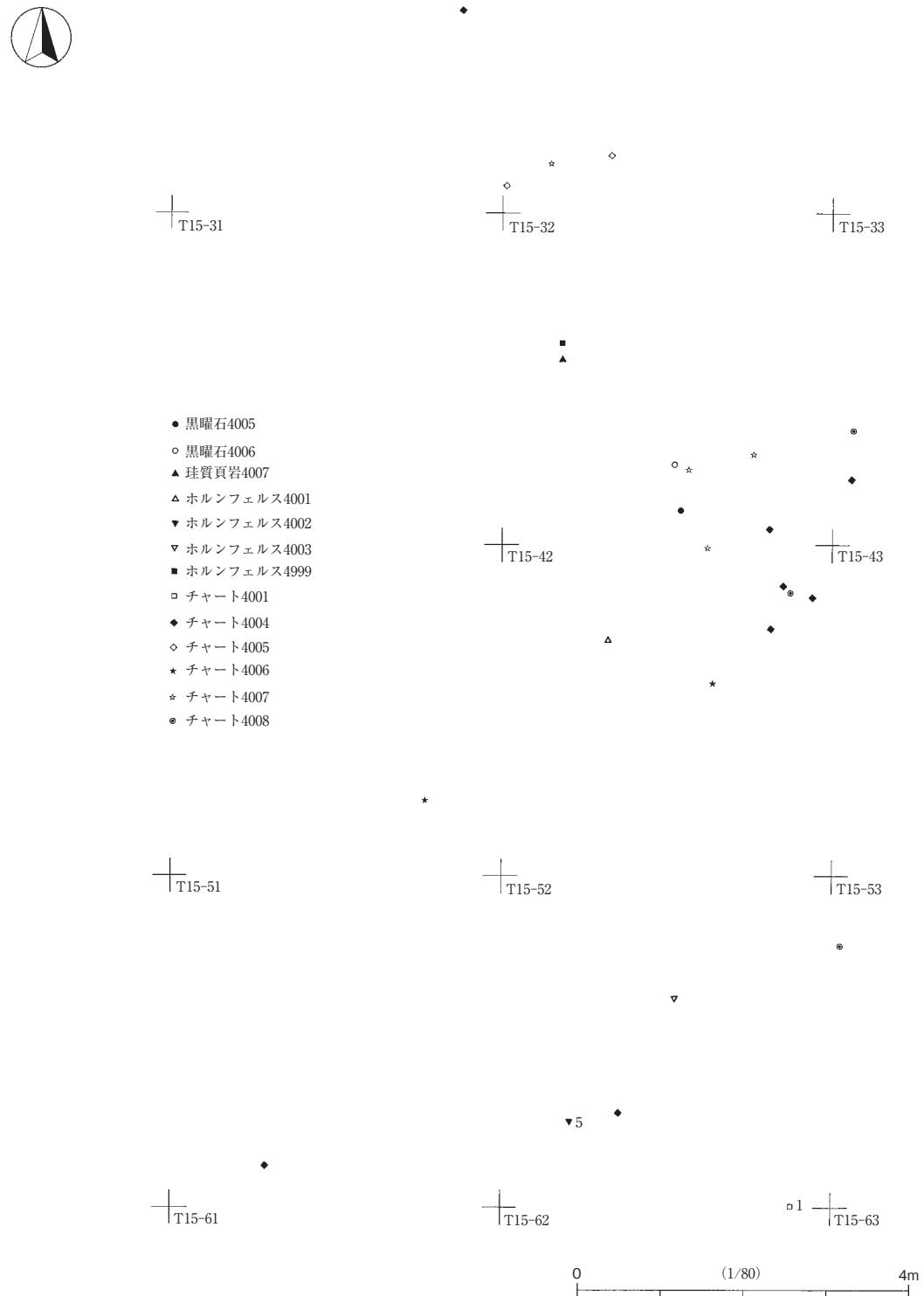
出土遺物 器種組成は楔形石器2点、二次加工のある剥片1点、剥片30点、碎片3点の石器類36点と礫片1点で構成される。石器類の石材はチャート30点、ホルンフェルス3点、黒曜石2点、珪質頁岩1点である。礫片の石材はホルンフェルスである。これらのうち楔形石器2点、二次加工のある剥片1点、剥片2点を図示した。

1は対向する縁辺に加工痕を持つ楔形石器である。周縁部から器面の中心にある高まりを除去しようとする意図が感じられるが、取りきれていない。平坦打面を持つ大型の剥片上部が素材である。母岩はチャート4001で濃緑灰色~褐灰色を呈する。濃灰色の紡錘状の斑紋を持ち、網目状構造がみられないため、嶺岡産珪質頁岩ともとらえられる。2は小型の円礫を挟み割りしてできた楔形石器である。主要剥離面は平坦で、打点の膨らみを持たない。T15-52グリッドの一括資料であり、より下層から出土した可能性がある。

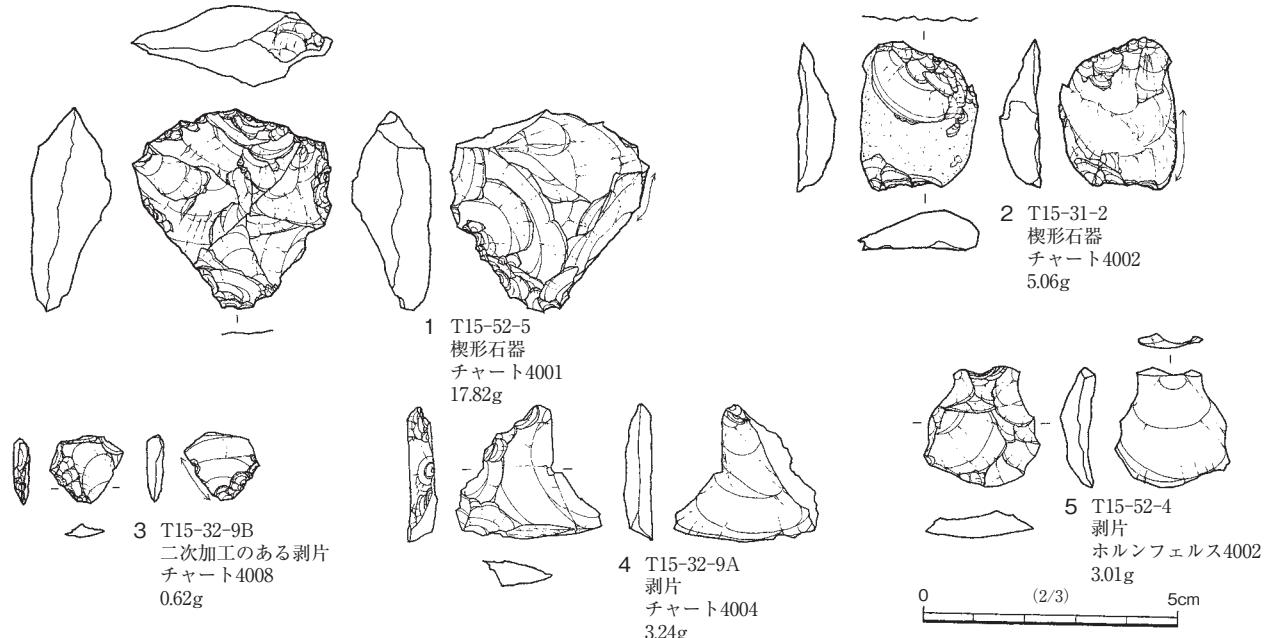
3は末端が背面側に回り込んだ小型の貝殻状剥片である。一側縁の背腹両面に二次加工痕が並ぶ。



第5-17図 第4文化層第23ブロック器種別分布



第5-18図 第4文化層第23ブロック母岩別分布



第5-19図 第4文化層第23ブロック出土石器

第5-11表 第4文化層第23ブロック組成表

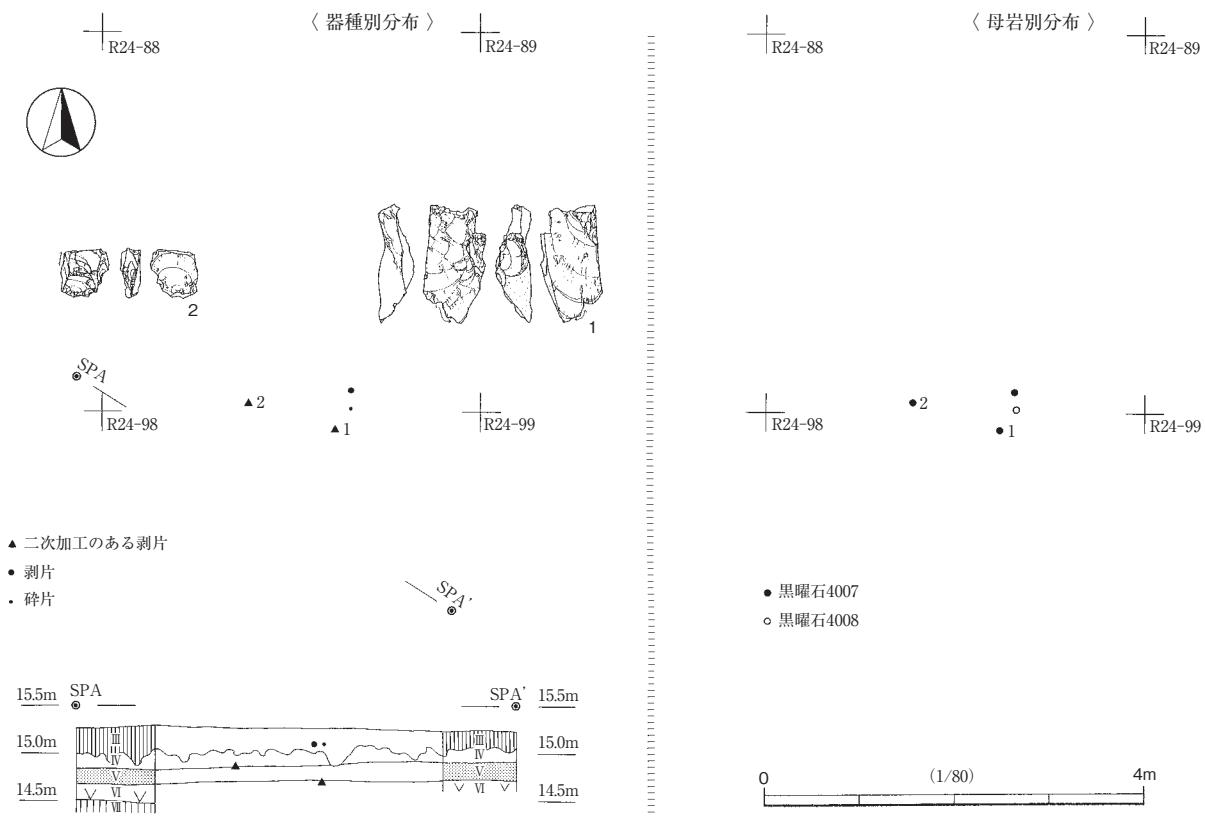
母岩 器種	母岩番号	楔形石器	二次加工の ある剥片	剥片	碎片	礫片	点数合計	点数比 (%)	重量合計 (g)	重量比 (%)
黒曜石	4005			1			1	2.70	0.21	0.22
	4006				1		1	2.70	0.09	0.10
黒曜石合計				1	1		2	5.41	0.30	0.32
珪質頁岩	4007			1			1	2.70	2.70	2.88
ホルンフェルス	4001			1			1	2.70	0.47	0.50
	4002			1			1	2.70	3.01	3.21
	4003			1			1	2.70	1.42	1.51
	4999					1	1	2.70	37.70	40.17
ホルンフェルス合計				3		1	4	10.81	42.60	45.40
チャート	4001	1					1	2.70	17.82	18.99
	4002	1					1	2.70	5.06	5.39
	4003			1			1	2.70	1.06	1.13
	4004			11			11	29.73	15.67	16.70
	4005			3			3	8.11	1.71	1.82
	4006			2			2	5.41	1.18	1.26
	4007			5	1		6	16.22	2.82	3.01
	4008		1	3	1		5	13.51	2.92	3.11
チャート合計		2	1	25	2		30	81.08	48.24	51.41
全体点数合計		2	1	30	3	1	37	100.00	93.84	100.00

4はT15-32グリッドで3とともに一括採集された、黒色の網目状の構造を持つ濃緑灰色のチャート製の剥片である。5は第23ブロックの南端から出土したホルンフェルス製の剥片である。背面に多方向の剥離痕が残ることから、ナイフ形石器など、なんらかの利器の器面を調整するための剥片であろうと思われる。

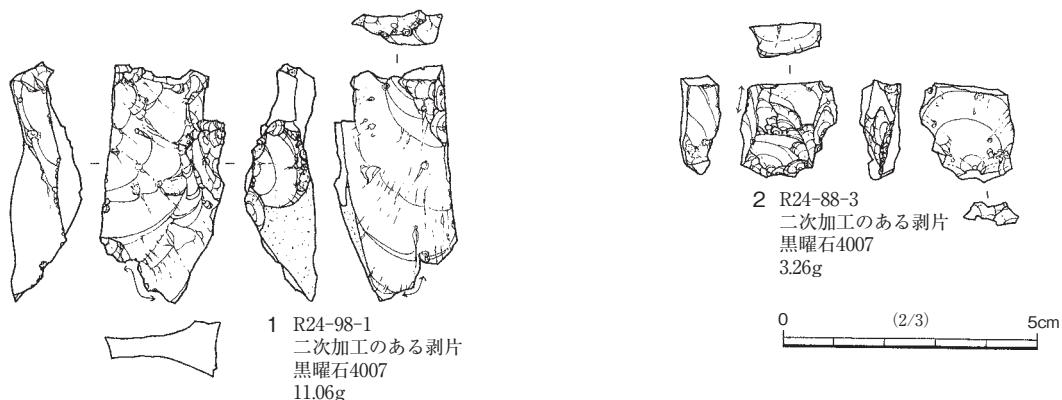
5 第4文化層第24ブロック(第5-20・21図、第5-12表、図版22・24)

出土状況 調査区南西部のR24-88・98グリッドに位置し、北西に傾斜する斜面の縁辺に立地する。0.6m×1.1mの範囲から4点の石器が出土した。出土層位はVI層上部～Ⅲ層である。

出土遺物 器種組成は二次加工のある剥片2点、剥片1点、碎片1点である。石材はすべて黒曜石である。



第5-20図 第4文化層第24ブロック遺物分布



第5-21図 第4文化層第24ブロック出土石器

第5-12表 第4文化層第24ブロック組成表

母 岩	器 種	母岩番号	二次加工の ある剥片	剥片	碎片	点数合計	点数比 (%)	重量合計 (g)	重量比 (%)
黒 曜 石	4007	2	1			3	75.00	14.67	97.48
	4008				1	1	25.00	0.38	2.52
全 体	点 数 合 計		2	1	1	4	100.00	15.05	100.00

1は打点直下で縦折れをおこした剥片である。右側面は自然面であり、左下縁辺と末端縁辺に微細剥離痕がみられる。2は厚みのある剥片の縁辺に、主要剥離面側から急角度に加撃された二次加工のある剥片だが、上部は欠損する。機能部が欠損した刺突具あるいはナイフ形石器の基部の可能性がある。1・2は不透明で、淡褐色の夾雜物を多く含む黒曜石4007を母岩とする。

6 第4文化層単独出土石器(第5-22図、第5-13表、図版24)

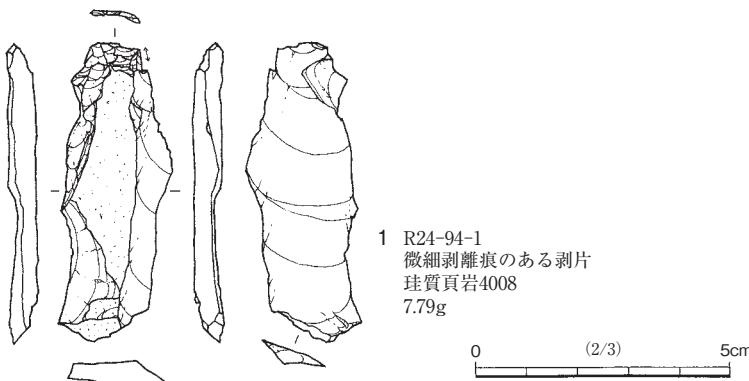
出土状況 調査区南西部のR24-94・96・97グリッドに位置し、北西に傾斜する斜面の4.0m×16.0m内に5点が散漫に分布している。5点中4点が礫であり、ブロックとしてのまとまりはない。出土層位はV層～IV層下部である。

出土遺物 器種組成は微細剥離痕のある剥片1点と礫片4点で構成される。石器類の石材は珪質頁岩である。礫片の石材は砂岩2点、チャート1点、石英斑岩1点である。ここでは微細剥離痕のある剥片を図示した。

1は珪質頁岩製の微細剥離痕のある剥片である。頭部調整された打面から規格的に剥離された石刃で、右側縁に刃こぼれ、打点付近の上部に使用による丸みが表れている。背面の中央部に淡褐色の平らな自然面が残る。剥離面は淡緑灰色で、かなり大型の角礫から剥離されたことが推定される。

第5-13表 第4文化層単独出土組成表

母岩 ↓ 器種	母岩番号	微細剥離痕のある剥片	礫片	点数合計	点数比 (%)	重量合計 (g)	重量比 (%)
珪質頁岩	4008	1		1	20.00	7.79	4.51
チャート	4999		1	1	20.00	32.55	18.85
砂岩	4999		2	2	40.00	54.98	31.85
石英斑岩	4999		1	1	20.00	77.32	44.79
全 体 点 数 合 計		1	4	5	100.00	172.64	100.00



第5-22図 第4文化層単独出土石器

第5節 単独出土石器

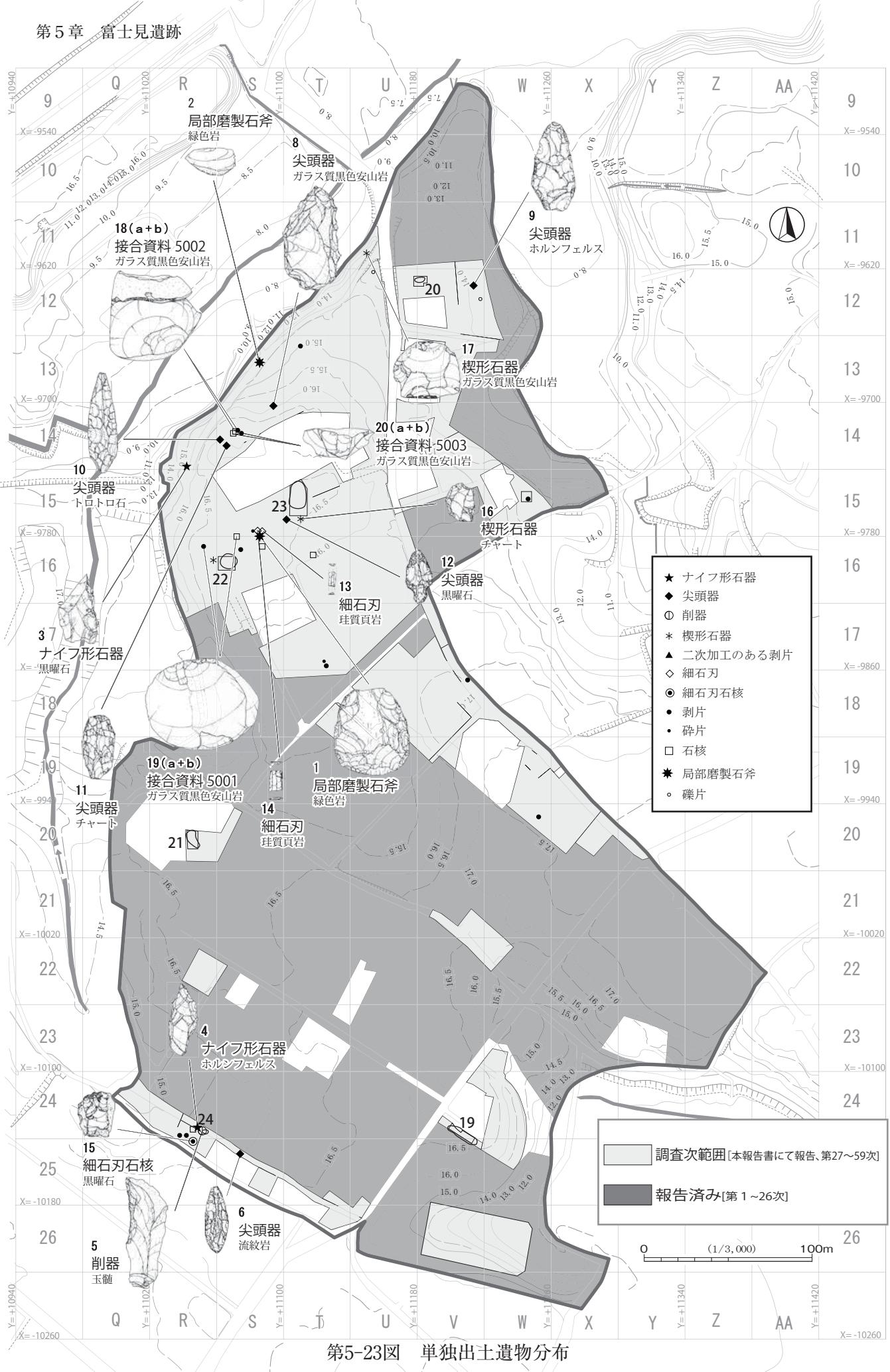
1 概要(第5-23～26図、第5-14表、図版24)

いずれの時期、文化層に帰属するのか明確でないものを単独出土としてまとめて取り扱った。総計44点出土した。遺跡の北側では傾斜地と平坦面、南西の傾斜地にまとまる傾向があるが、尖頭器は台地の縁から出土したものが多い。

単独出土器種石材組成は第5-14表のとおりである。

器種組成はナイフ形石器2点、尖頭器類7点、削器2点、楔形石器4点、二次加工のある剥片1点、細石刃2点、細石刃石核1点、剥片13点、碎片2点、石核6点、局部磨製石斧2点の石器類42点と礫片2点である。

第5章 富士見遺跡



第5-23図 単独出土遺物分布

第5-14表 単独出土器種石材組成表

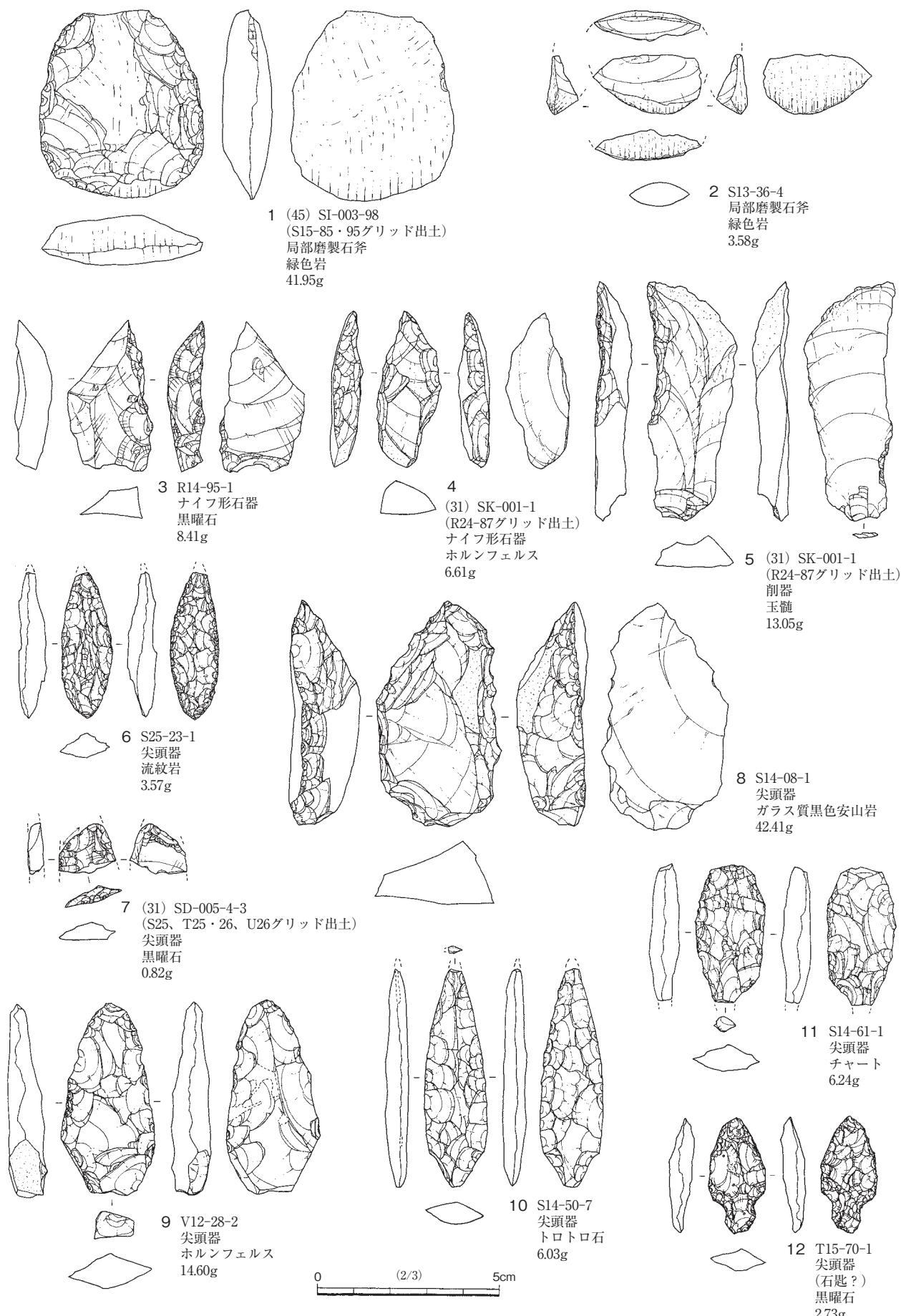
石材 器種	ナイフ形石器	尖頭器	削器	楔形石器	二次加工のある剥片	細石刃	細石核	剥片	碎片	石核	局部磨製石斧	礫片	点数合計
黒曜石	1	2			1		1	6	1	1			13
ガラス質黑色安山岩		1	1	1				7		5			15
トロトロ石		1		2					1			1	5
珪質頁岩						2							2
玉髓			1										1
緑色岩											2		2
ホルンフェルス	1	1											2
チャート		1		1									2
流紋岩		1										1	2
全体点数合計	2	7	2	4	1	2	1	13	2	6	2	2	44

石材組成は、石器類の石材がガラス質黑色安山岩15点、黒曜石13点、トロトロ石4点、珪質頁岩2点、緑色岩2点、ホルンフェルス2点、チャート2点、玉髓1点、流紋岩1点である。礫片はトロトロ石1点、流紋岩1点である。

1・2は緑色岩製の局部磨製石斧である。1は周縁から中心部に向けて成形加工が施され、中央部の高まりは磨りによって平坦に整形される。裏面は全面が自然面のように滑らかで、刃部の研磨痕は細かな剥離による調整後に研ぎ出され、刃部角は約50°である。最大長は51.6mm、最大幅は44.6mmと小型であり、厚さは13.5mmと扁平である。帰属するグリッドはS15-85・95グリッドで、遺跡北西部の西側に入り込む谷に面した縄文時代の住居跡SI-093・094(旧(45)SI-003)から出土した。この遺構は早期後葉の野島式期から鵜ガ島台式期と、前期の諸磯a式期の住居が切り合っており、帰属時期はそのどちらかに求められようが、旧石器時代の出土例にも石材や形状が極めて近似する資料がある。成田市の東峰御幸畠西遺跡(空港No.61遺跡)¹⁾の第1文化層から出土した局部磨製石斧である。報告時の石材は蛇紋岩と記録されているが、近年の研究^{2・3)}の結果、「緑色岩」と改められた石材であり、本資料と酷似する。大きさは本資料より一回り大きいが、自然面を磨り調整した裏面や周縁の加工の仕方、刃部の作出方法など、見た目には全くの相似形である。2は遺跡北部のS13-36グリッドから出土した。浅黄緑の緑色岩で両面が磨かれた片刃の刃部片である。縄文時代前期の磨製石斧の可能性があるが、1・2とも明確な帰属時期は不明である。

3・4はナイフ形石器である。3は素材剥片中心部分の厚みを基部とし、急角度の加工が直線状に施されている。刃部角は62°で器長の1/2ほどであるが、刃こぼれなどの使用痕はみられない。下部に折れが生じていることから、角錐状石器の未完成とともにとらえられる。夾雜物を多く含むが、縁辺は半透明の黒曜石製である。4は横長剥片の打面部に急角度加工が施されたナイフ形石器である。両側縁下部は急角度で断面形は長方形を呈し、素材末端縁辺の刃部には尖端を意識した加工が施されている。石材は灰色のホルンフェルスであり風化が進んでいる。

5は削器である。頭部調整があり、自然面を底面に持つ石刃が素材である。直線状の側縁2/3に54°～62°の刃部が作出される。対縁には所々細かな刃こぼれがみられる。石材は、剥離面は白色半透明、自然面は淡黄褐色の玉髓である。



第5-24図 単独出土石器(1)

6～12は尖頭器類をまとめた。6は小型木葉形の尖頭器である。精緻な作りであるが僅かな歪みがあり、左右側縁は非対称となっている。背稜の高みを削ぐために右下側縁から加撃されるが取りきれず、正面下半部に瘤状に残される。この際の加工が器形の歪みをもたらしている。先端部はガジリであり、青みがかつた新鮮面がのぞく。石材を流紋岩としたがこの新鮮面の特徴から、珪質凝灰岩の可能性も考えられる。

7は尖頭器の先端部分である。折面の剥離痕は夾雜物に由来するものであり、二次的な加工ではない。近世の溝状遺構から出土した遺物で、不透明な黒曜石製である。

8は厚みのある横長の大型剥片を素材とした尖頭器である。主要剥離面を打面とし、下部以外のすべての縁辺が加工される。右側縁は急角度に、左側縁上部は63°～73°の鋸歯状となる。背面の一部に自然面が残される。全体に黄褐色のローム粒をまとったガラス質黒色安山岩で、斑晶はごく少なく剥離面は濃灰色を呈する。

9は板状の大型剥片を素材とした資料で左下部に自然面打面を残す。基部以外の加工は平坦剥離によって行われ、背稜の目立たない平板な形状となっている。先端部には細かな潰れ痕があり、一部磨耗している。石材は風化により全体的に明黄褐色だが、新鮮面は灰色であり、磁性を帯びる。安山岩起源のホルンフェルスか。

10は有舌尖頭器である。残存長60.0mm、幅は17.5mmであり、縦横比は7:2である。長狭で向勢の二等辺三角形を呈し、先端部はわずかに欠損するが鋭く作出される。カエシの形状は左右で異なり、左部の抉りは内湾するが、右は基端部まで直線的に収束する。最大幅の位置はカエシよりやや先端側に寄る。両面に加工が施されており、素材面は残されていない。断面形状は凸レンズ状である。石材は灰白色のトロトロ石である。

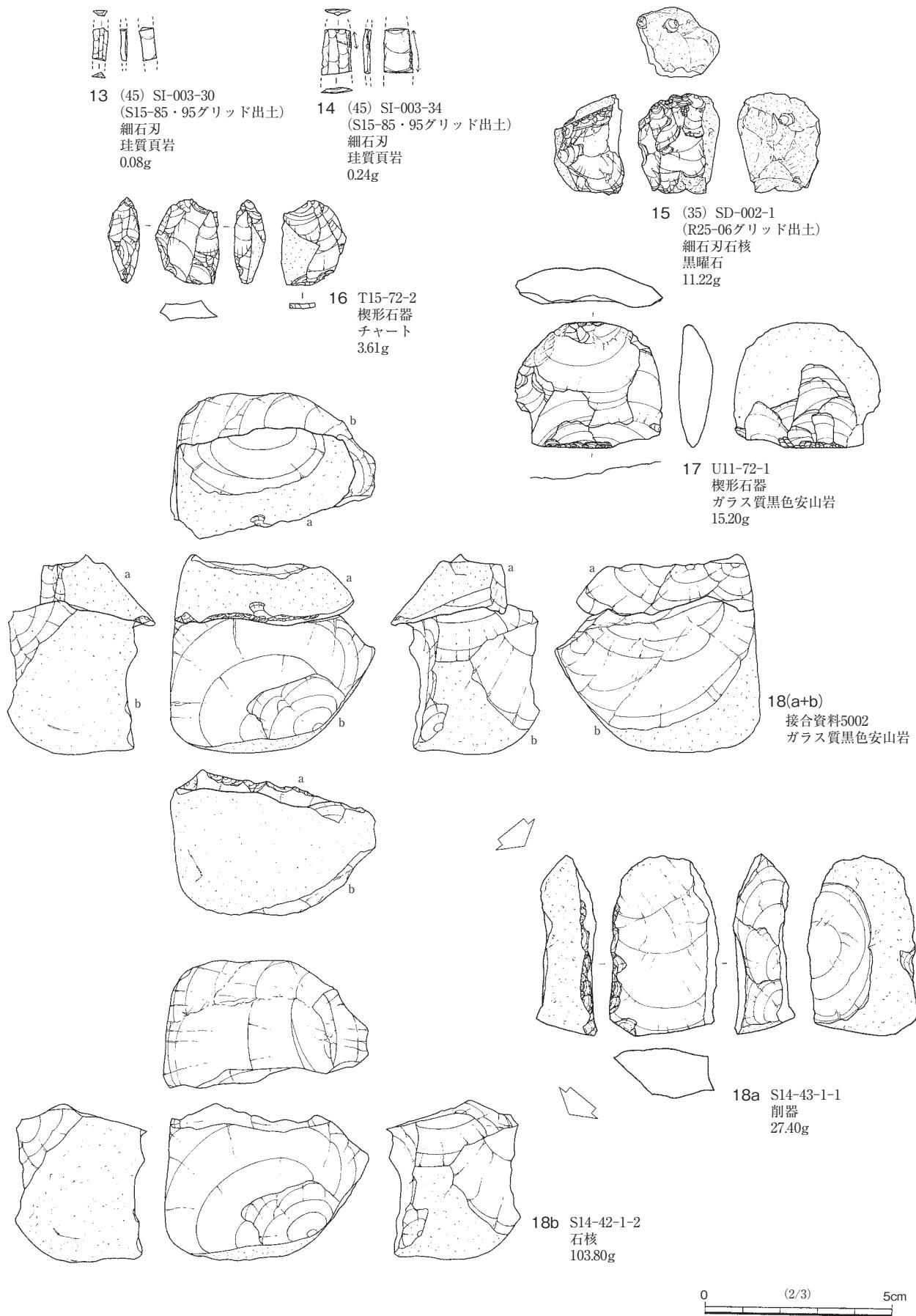
11の両端部は欠損する。先端は使用時の欠損、下端は茎(舌)部の欠損か。全体形状は不明であるが、両側縁は剥離による成形の後、軟質の砂岩などに縁辺を押し引きしたような摩滅痕がみられ、左側縁に特に顕著である。石材がチャートのためか、縁辺の摩滅痕は本来の色調よりも白みが強い。

12は尖頭器の上部が加工された石器である。器体は全体的にやや向勢で丸みが感じられる。先端部の器幅は薄く加工され、11と同様に、縁辺に摩滅痕がみられる。黒色不透明で褐色の夾雜物を含む黒曜石製である⁴⁾。

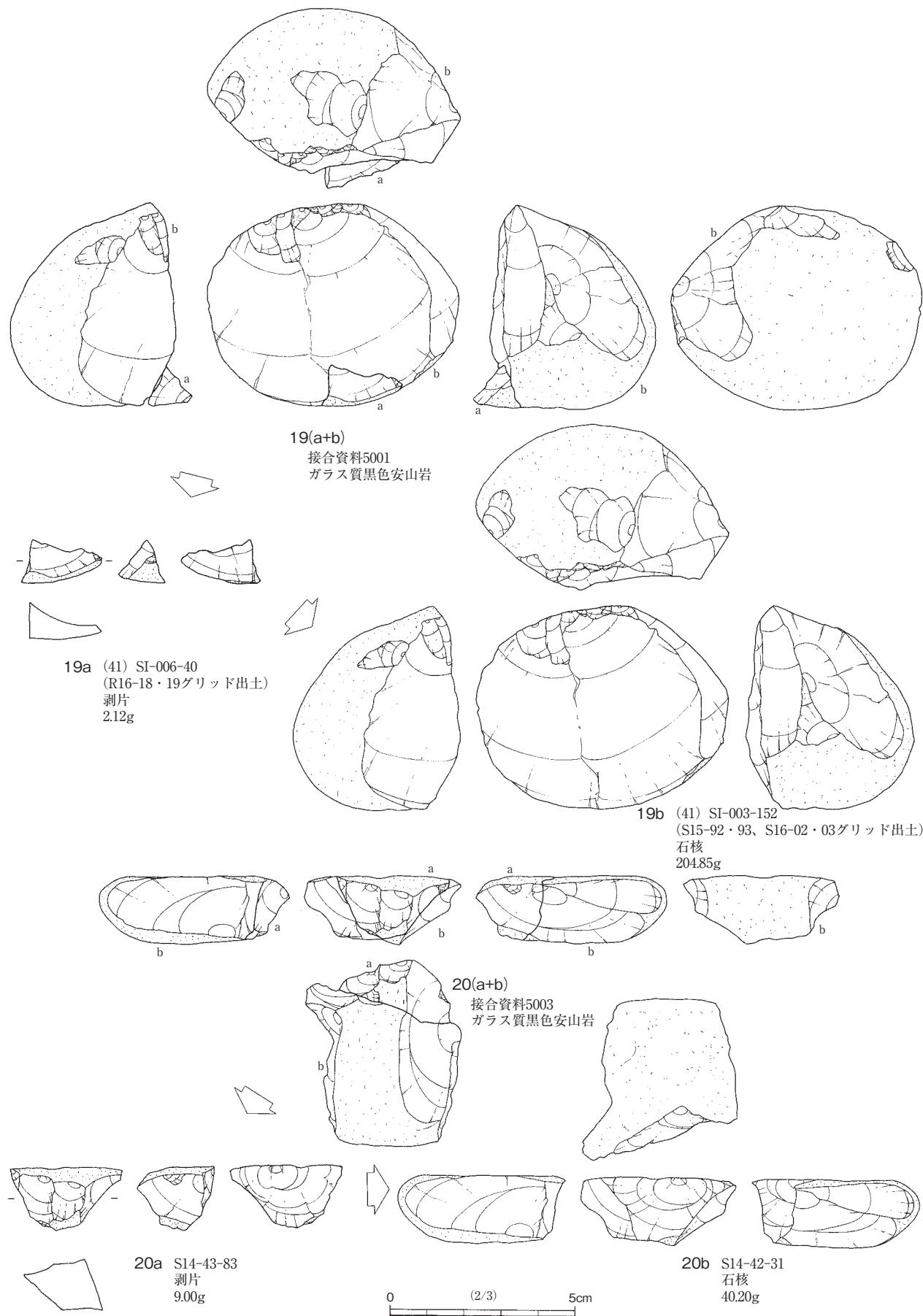
13・14は珪質頁岩製の細石刃である。ともに上下折れで打面部と末端部が遺存しない。14の両側縁には微細な剥離痕がみられる。

15は細石刃石核である。小型の亜角礫を素材とし、正面と左面に作業面を残す。加撃縁辺部は細かい敲打によってすり潰すように調整されているが、工程の終盤には作業面に残る剥離痕は上部で留まり、末端まで到達しない。作業面以外は打面を含めてすべて黄褐色で光沢を持たない自然面であり、黒曜石の素材としては特異である。

16・17は楔形石器である。16は挟み割りにより細石刃様の小型縦長剥片が作出された痕跡が残る。青灰色のチャート製で網目状構造はなく、自然面と剥離面の色の差はない。扁平な小型の円礫が素材である。17は自然面が多く残るガラス質黒色安山岩製で、下縁辺が細かな剥離によって直線状に整えられている。刃器として用いられたものか。



第5-25図 単独出土石器(2)



第5-26図 単独出土石器(3)

18は削器と石核の接合資料である。18aの削器がS14-43グリッド、18bの石核がS14-42グリッドから出土した。ともにグリッド一括資料であり最短では0m、最長でも9mと離れていない。直径5.5cmほどの球状の礫を素材とし、自然面を打面として外皮を剥ぐようにして4枚以上の剥片が作出される。18aはそのうちの1片であり、一側縁が急角度に、その対縁は連続した小剥離によって加工される。

19は剥片と石核の接合資料である。敲打痕と擦り痕を持つ球状礫の中心部が加撃されているが、敲石、あるいは台石の破損品の可能性がある。

20は剥片と石核の接合資料である。板状礫を素材とし、裏面から正面へ向けて剥離作業が行われる。18と同じく近距離で接合する。接合資料18~20の石材はガラス質黒色安山岩である。

注1 永塚俊司 2000『新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書X III-東峰御幸畑西遺跡(空港No61遺跡)-』千葉県文化財センター調査報告第385集 (財)千葉県文化財センター

2 中村由克 2011「旧石器時代における石斧の石材鑑定」『野尻湖ナウマンゾウ博物館報告』第19号 31-54頁

3 中村由克 2014「石器の石材研究の現状と課題」『第68回 地学団体研究会九州総会講演要旨集』39頁

4 橋本勝雄氏より、多摩ニュータウン727遺跡1号住居覆土から出土した石鏃に近似し、尖頭器を石匙に再加工した「堅型(たてがた)石匙」の可能性があるとのご教示を得た。

福田敏一ほか 1984『多摩ニュータウン遺跡』東京都埋蔵文化財センター調査報告第5集 (財)東京都埋蔵文化財センター

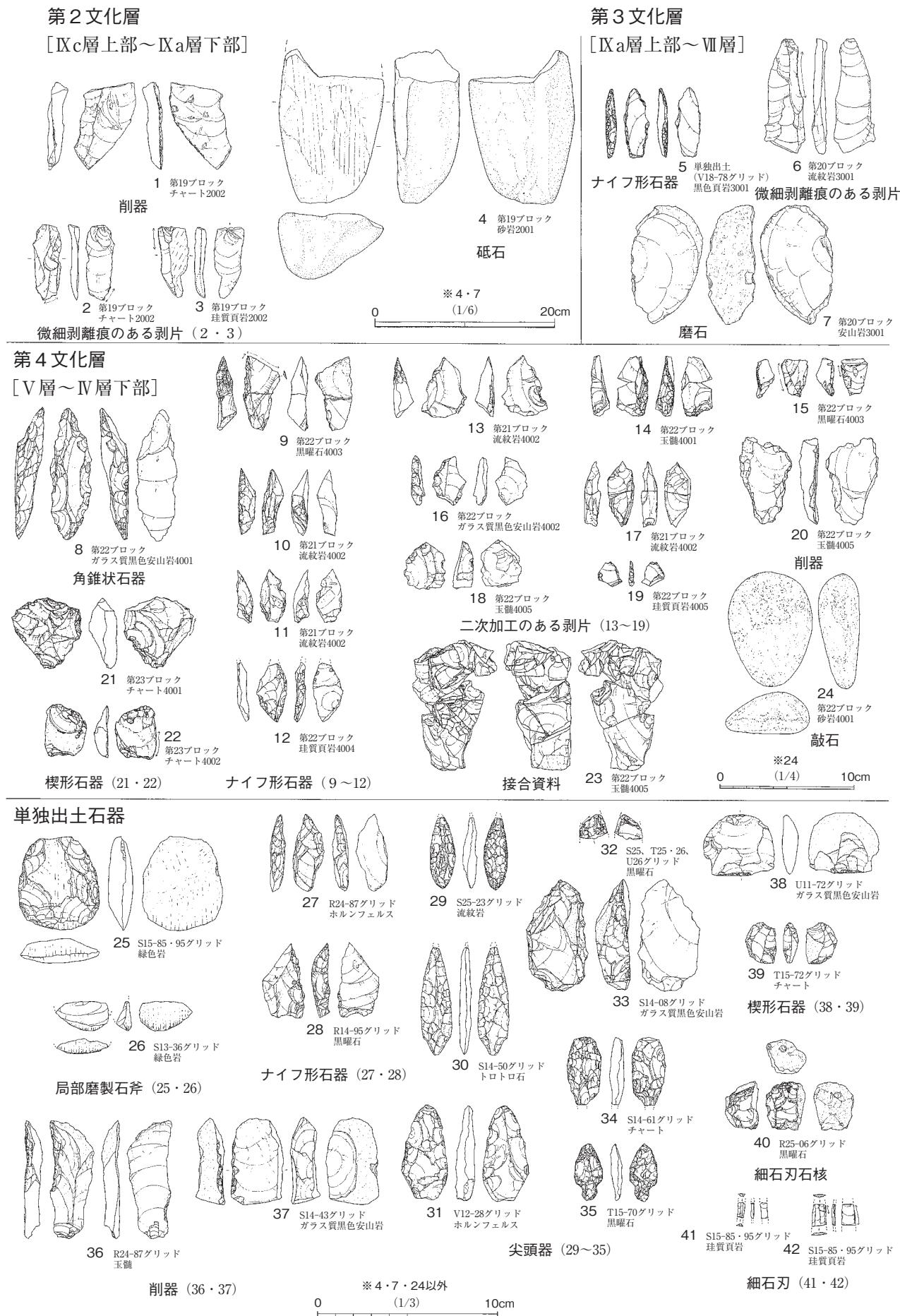
第6節まとめ(第5-2・27図、第5-1・2表)

富士見遺跡第27~59次調査では6か所のブロックから石器234点が出土した。これらはIXc層上部~IXa層下部、IXa層上部~VII層、V層~IV層下部の3枚の文化層に分けられる。前回は第1文化層であるXa層上部~IXc層下部の石器群が検出されたが、今回は検出されなかつたため、第2文化層第19ブロックから報告を行った。ブロック外から出土した44点を加えた278点が本遺跡の総出土点数である。文化層の概要については、第5-2図の文化層別ブロック位置図、第5-1・2表の文化層別器種・石材組成表を参照していただきたい。文化層別に主要石器を掲載した第5-27図を中心にして、各文化層の様相をまとめ、石器群の編年的位置づけを行うこととする。なお、第3文化層は5点出土のごく小規模なブロックであるため本文のみ掲載する。

1 第2文化層(第5-27図1~4)

IXc層上部~IXa層下部に生活面を持つと考えられる石器群である。今回の報告では第19ブロックの1か所が該当し、石器28点が出土した。主要器種には削器(1)と砥石(4)があげられ、微細剥離痕のある縦長剥片(2・3)2点とともに図化した。IXc層から出土した砂岩製の砥石は全体的に磨耗し丸みを持つが、正面に示した平坦な面では、敢えてざらつく剥離面を作り出したのちに対象物を研磨したようである。黄褐色の細粒緻密な砂岩であるが固結度は弱いため、研磨剤としても有用であったと思われる。類例は本文中に記載した。

石材はチャートと珪質頁岩の合計数が86%を占める。このチャートは千葉県では現在のところX層~IX層でしか検出されていない石材で、玻璃質で薄い縁辺は半透明、青緑色で縞状を呈する部位や黒みがちな部分があり、変異幅が大きい。自然面が平滑なことから、大型の角礫状の原石が想定される。近在では柏



第5-27図 富士見遺跡文化層別主要石器

市小山台遺跡、同原畠遺跡、同原山遺跡からも出土している。環状ブロック群に伴うことが多く、印西市泉北側第3遺跡¹⁾、流山市思井上ノ内遺跡²⁾、四街道市出口・鐘塚遺跡³⁾、同小屋ノ内遺跡⁴⁾、八千代市坊山遺跡⁵⁾、成田市南三里塚宮原第1遺跡⁶⁾と検出例は枚挙に暇がない。

2 第4文化層(第5-27図8~24)

V層上部~IV層下部に生活面を持つと考えられる石器群で、総点数201点、第21~24ブロックが該当する。前回調査では遺跡南西部に第12~18ブロックの7か所がまとまっていたが、今回の調査では第21ブロックと第24ブロックがこのまとまりに比較的近く、第22・23ブロックは遺跡北側の台地上の平坦面から検出された。ブロック間で共通する母岩はなく、器種、石材ともに個々で異なった組成を示す。第21ブロックでは出土した58点中7個体21点に接合関係が認められる。第5-9図の母岩別分布図に剥片類の接合図4資料を示したが、いずれもナイフ形石器(10)などの利器を製作、あるいは製作途中(11・13)であろうことがうかがわれる。

第22ブロックでは97点中86点が玉髓であり、合計重量は266.9 gを量る。玉髓の半数以上の46点に接合関係が認められ、11個体を数える。角錐状石器(8)並びにナイフ形石器(9・12)は、玉髓以外の石材によって製作されたものが持ち込まれ、削器(20)や石錐にはブロック内に多出する玉髓が利用される。接合資料(23)は16点が接合し、二次加工のある剥片、微細剥離痕のある剥片を含むものの、利器は組成しない。石器の密集域がやや疎らな状態となる外縁部では敲石(24)が分布する。

37点が散漫な分布示す第23ブロックは楔形石器2点、礫片1点のほかは剥片と碎片で構成される。図示した中で出土地点が明確な遺物はチャートの楔形石器(21)のみである。

3 単独出土石器(第5-27図25~42)

ブロックに帰属せず単独で出土した石器は44点であるが、主要石器の割合が高く、第5-27図にて4割にあたる18点を掲載した。集中域を持たず散漫な分布状況であるが、1/3,000の地図上で俯瞰すると、遺跡の北側では傾斜地と平坦面、南西の傾斜地にまとまる傾向がみえてくる。ナイフ形石器(27・28)・尖頭器(29~34)は台地の縁に分布し、旧石器時代の尖頭器を後世の縄文時代に再加工した石匙(35)は台地の平坦面に分布する。雑駁などらえ方ではあるが、刺突具は縁辺に、加工具や剥片類・石核などは台地の平坦面に残されるようである。

注1 山岡磨由子 2011『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書-印西市泉北側第3遺跡(下層)-』(財)千葉県教育振興財團

2 島立 桂ほか 2016『流山運動公園周辺地区埋蔵文化財調査報告書3-流山市思井上ノ内遺跡-』第11集 千葉県教育委員会

3 岡田誠造 1999『四街道市出口・鐘塚遺跡-物井地区埋蔵文化財発掘調査報告書II-』(財)千葉県文化財センター

4 古内 茂 2005『四街道市小屋ノ内遺跡(1) 旧石器時代編-物井地区埋蔵文化財発掘調査報告書III-』(財)千葉県文化財センター

5 大野康男 1993『八千代市坊山遺跡-萱田地区埋蔵文化財調査報告書VI-』(財)千葉県文化財センター

6 宇井義典 2004『南三里塚宮原第1遺跡・南三里塚宮原第2遺跡』(財)印旛郡市文化財センター

第6章 原畠遺跡

第1節 遺跡の概要(第6-1・2図、第6-1・2表)

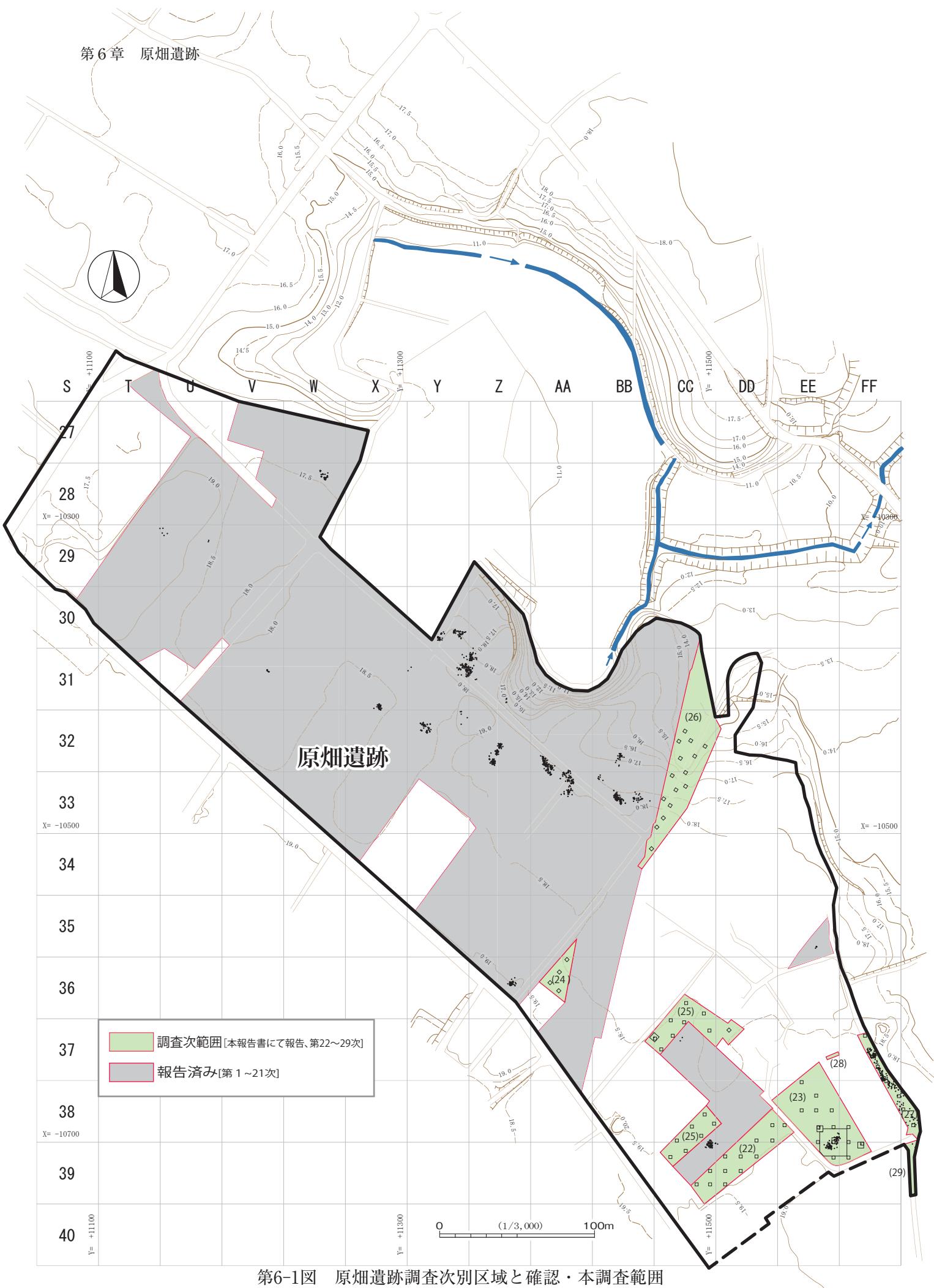
確認・本調査範囲と文化層別ブロック位置図は第6-1・2図のとおりである。本報告書において、第22～29次調査の成果を掲載する。既報告の成果を合わせたものが第6-1・2図で、灰色が第1～21次の調査範囲、黄緑色が第22～29次の調査範囲である。第6-2図が文化層別ブロック配置で、今回報告する石器群は第3

第6-1表 文化層ブロック別器種組成表

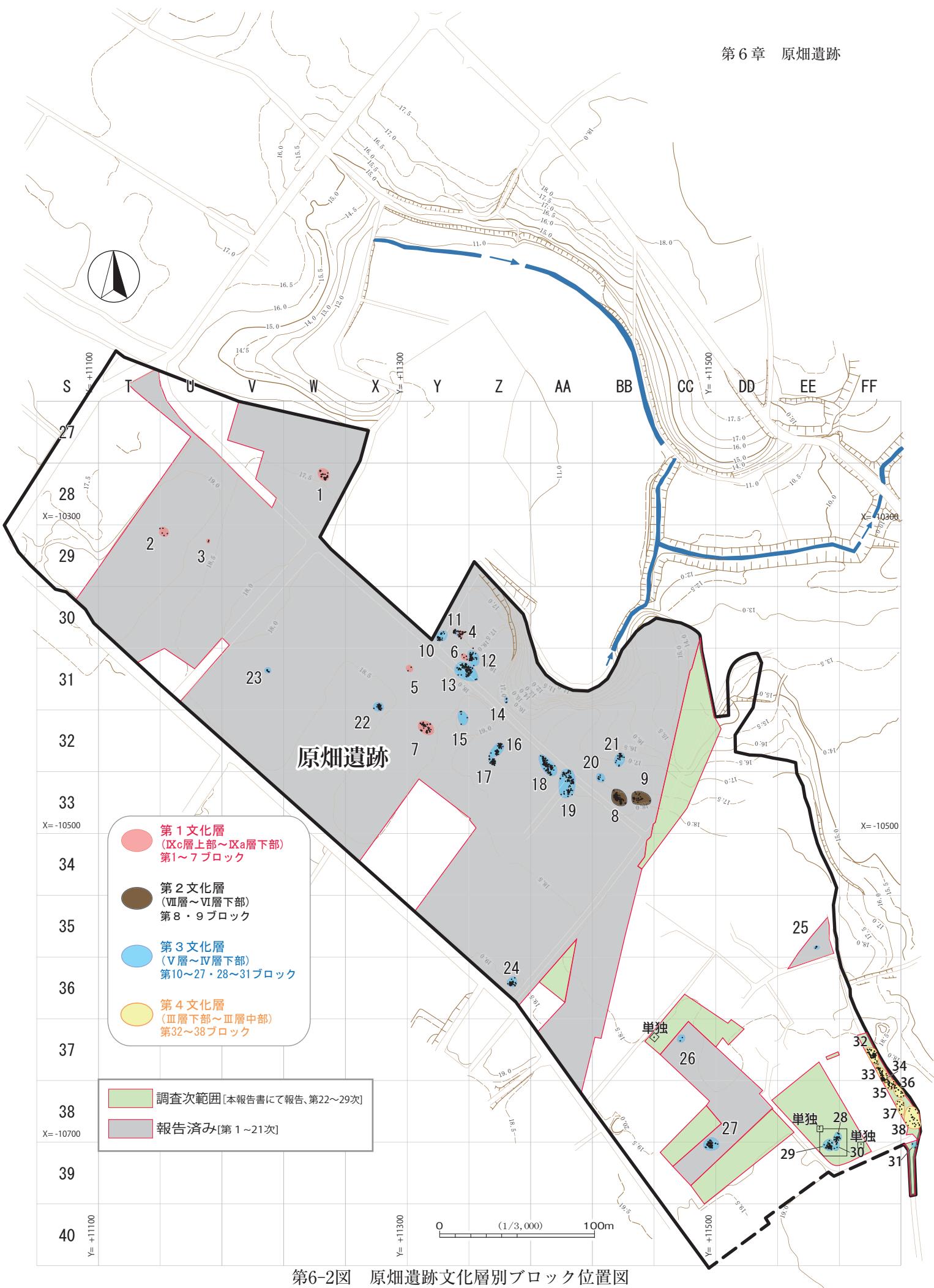
文 化 層	ブ ロ ッ ク	ナ イ フ 形 石 器	角 錐 状 石 器	尖 頭	彫 器	二 次 加 工 の あ る 剥 片	微 細 剥 離 痕 の あ る 剥 片	削 片	剥 片	碎 核	石 石	磨 石	敲 石	礫 片	点 数 合 計	
3	28	2				4		28	4							38
	29		1			6	2	38	7	3	1					58
	30	1						4	1							6
	31					1		1		1						3
	単独						1					1				2
	第3文化層合計	3	1			11	3	71	12	4	2					109
4	32	3		3	2	3		1	7	2			1	6	90	118
	33			1	1	1	1	15			1					7
	34			2		3	1	13	2	1			1	4	29	56
	35	2				1	1	10	1					4	10	29
	36	1						6						2	10	19
	37					1	1	2						2	6	12
	38					1							1	3	39	44
	第4文化層合計	6		6	3	10	4	1	53	5	2		3	21	190	304
	総 計 点 数	9	1	6	3	21	7	1	124	17	6	2	3	21	192	413

第6-2表 文化層ブロック別石材組成表

文 化 層	ブ ロ ッ ク	黒 曜 石	ガ ラ ス 質 黒 色 安 山 岩	ト ロ ト ロ 石	安 山 岩	頁 岩	珪 質 頁 岩	嶺 岡 産 珪 質 頁 岩	硬 質 頁 岩	黒 色 頁 岩	玉 髓	ホ ル ン フ エ ル ス	チ ヤ ー ト	砂 岩	流 紋 岩	石 英 斑 岩	点 数 合 計
3	28	38															38
	29	55									1	2					58
	30	6															6
	31					1				2							3
	単独					1	1						2				4
	第3文化層合計	99			1	1	1		2	1	2	2					109
4	32	3	4	1		1	1		2		3	3	23	41	4	32	118
	33	2	4	3				9			1	1	3	2			27
	34	1	3	4			3	1			12	5	14		13	56	
	35	2	11				1				6	6			3	29	
	36		3	1			3				2	8			2	19	
	37	1		2						1	2	1	2		3	12	
	38		1								5	25			13	44	
	第4文化層合計	9	26	11		1	8	10	2		5	18	45	98	4	67	304
	総 計 点 数	108	26	11	1	2	9	10	2	2	6	20	47	98	4	67	413



第6-1図 原畑遺跡調査次別区域と確認・本調査範囲



第6-2図 原畑遺跡文化層別ブロック位置図

文化層第28～31ブロック・第4文化層第32～38ブロックである。文化層・ブロック範囲は前任者の設定をそのまま踏襲した。器種組成・石材組成は第6-1・2表のとおりである。

なお、第1～21次調査では石器類1,475点が出土し、27か所の集中地点(第1～27ブロック)が検出された。これらはIXc層～IXa層の第1文化層、VII層・VI層の第2文化層、V層～IV層下部の第3文化層の3枚に分層されており、報告書第737集(2015年3月刊行)にて報告済みである。今回の調査によって第3文化層に第28～31ブロックが加わり、新たにIII層下部～III層中部に生活面を持つ第32～38ブロックを第4文化層と設定した。

第2節 第3文化層

1 概要(第6-3図、第6-3・4表)

第3文化層の石器群は総計109点出土し、第28～31ブロックの4か所を識別できた。V層上部～IV層下部に生活面を持つ石器群と推定される。調査区南東部に3か所がまとまり、南東端部では1か所が標高18.5m～19.0m(現地表面)に分布する。第28～30ブロックは約10mの範囲内にまとまっており、3個体の接合資料を確認した。この3か所のブロックでは102点のうち99点が黒曜石であり、大部分が黒色不透明で褐色の夾雜物を多く含んでいる。

第3文化層の器種石材組成とブロック別組成は第6-3・4表のとおりである。

器種組成はナイフ形石器3点、角錐状石器1点、二次加工のある剥片11点、微細剥離痕のある剥片3点、剥片71点、碎片12点、石核4点、磨石2点の石器類107点と礫片2点で構成される。

石材組成は黒曜石99点、黒色頁岩2点、ホルンフェルス2点、安山岩1点、頁岩1点、珪質頁岩1点、玉髓1点の石器類と、チャート2点の礫片である。

2 第3文化層第28ブロック(第6-4・5図、第6-5表、図版25・26)

出土状況 調査区南東部のEE38-88・99、FF38-90グリッドに分布している。5.7m×3.9mの範囲から38点の石が出土した。北に分布する3点を除いて、南側の直径4.3m円内に集中する。出土層位はVI層からIII層にかけてで、V層上部～IV層下部に集中する。

出土遺物 器種組成はナイフ形石器2点、二次加工のある剥片4点、剥片28点、碎片4点の石器類38点である。石材はすべて黒曜石である。36点出土した黒曜石3005は夾雜物の多い黒色不透明の石材で、前回報告した高原山甘湯沢群産と同じ特徴を持つ。黒曜石3004は2点の出土であるが、1点は第29ブロックと接合する。石基は黒曜石3004と近似するが、球顆は白色小粒で丸みがある。

1・2はナイフ形石器である。1は横長剥片を斜位に用いる。基部は左右とも素材主要剥離面側から加撃され、断面は五角形状である。2は小型幾何形を呈し、自然面と主要剥離面とが作出する刃部に刃こぼれがみられる。

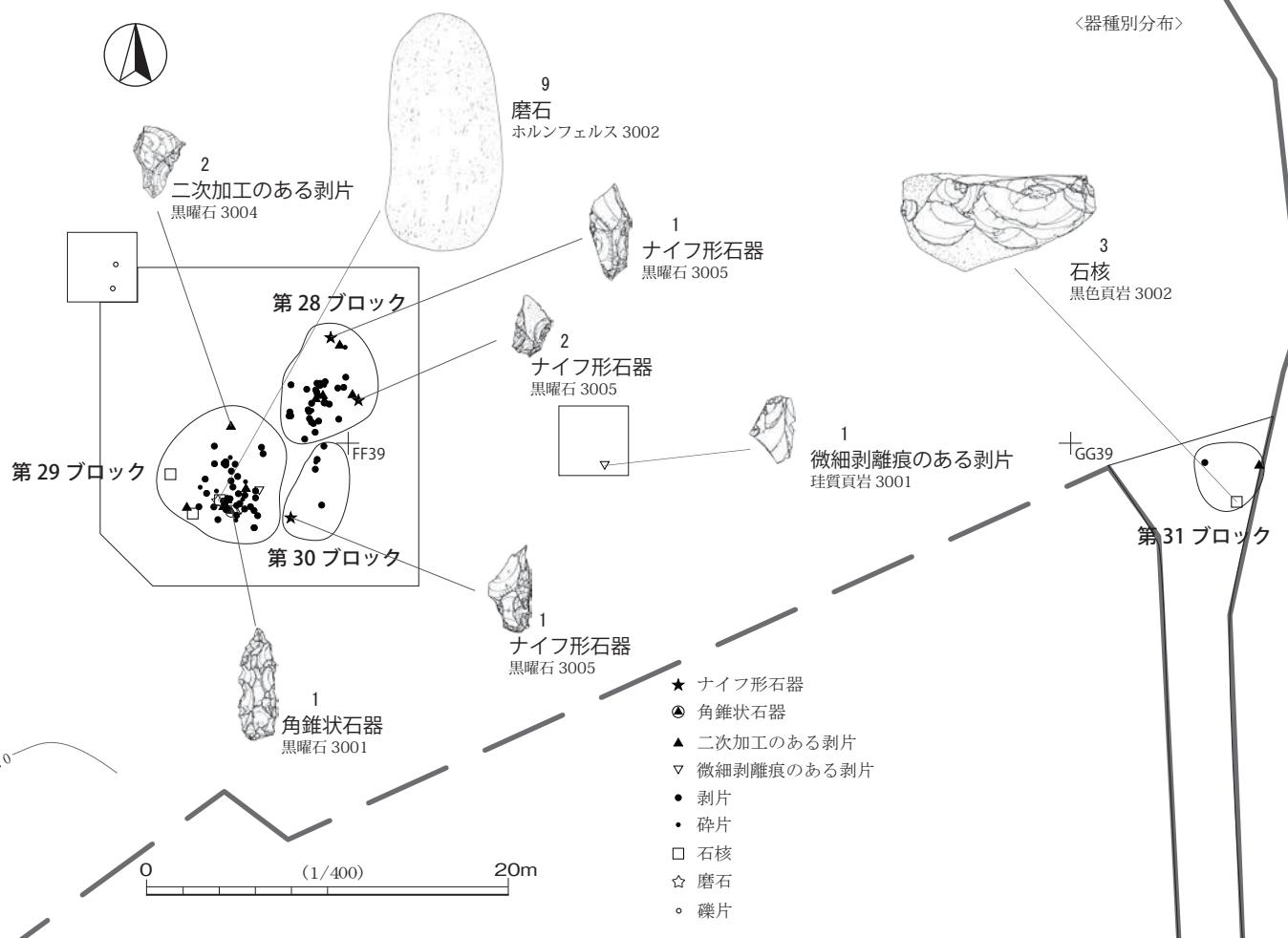
3・4は二次加工のある剥片である。3の両側面に抉り状の加工痕があり、上下が欠損する。4は剥片の縁辺を刃部とし、両側縁に主要剥離面側から加工が施されたナイフ形石器の上部ではないかと思われる。下部欠損により全体形状は分からず。3・4とも、何らかの石器の欠損品である可能性が高い。

5は二次加工のある剥片と剥片の接合資料である。5aは5bから剥離された調整初期の剥片である。

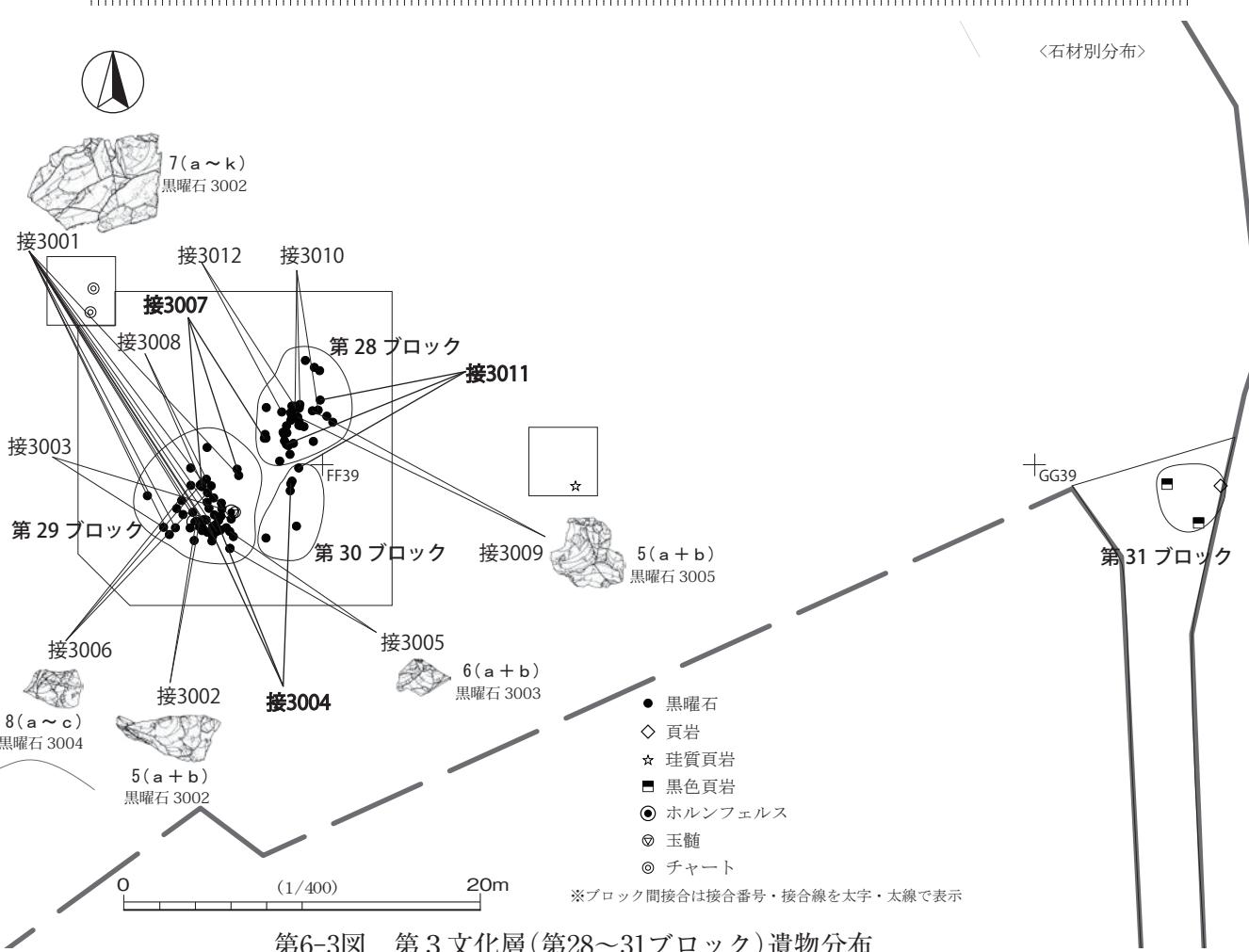
3～5は1のような形状のナイフ形石器を製作する途中で遺棄された破損品であろうと推定される。

図化した5資料はすべて黒曜石3005を母岩とする。4に残された平らな自然面から、素材の塊は小児の拳大ほどと思われる。

<器種別分布>



<石材別分布>



第6-3図 第3文化層(第28~31ブロック)遺物分布

第6-3表 第3文化層器種石材組成表

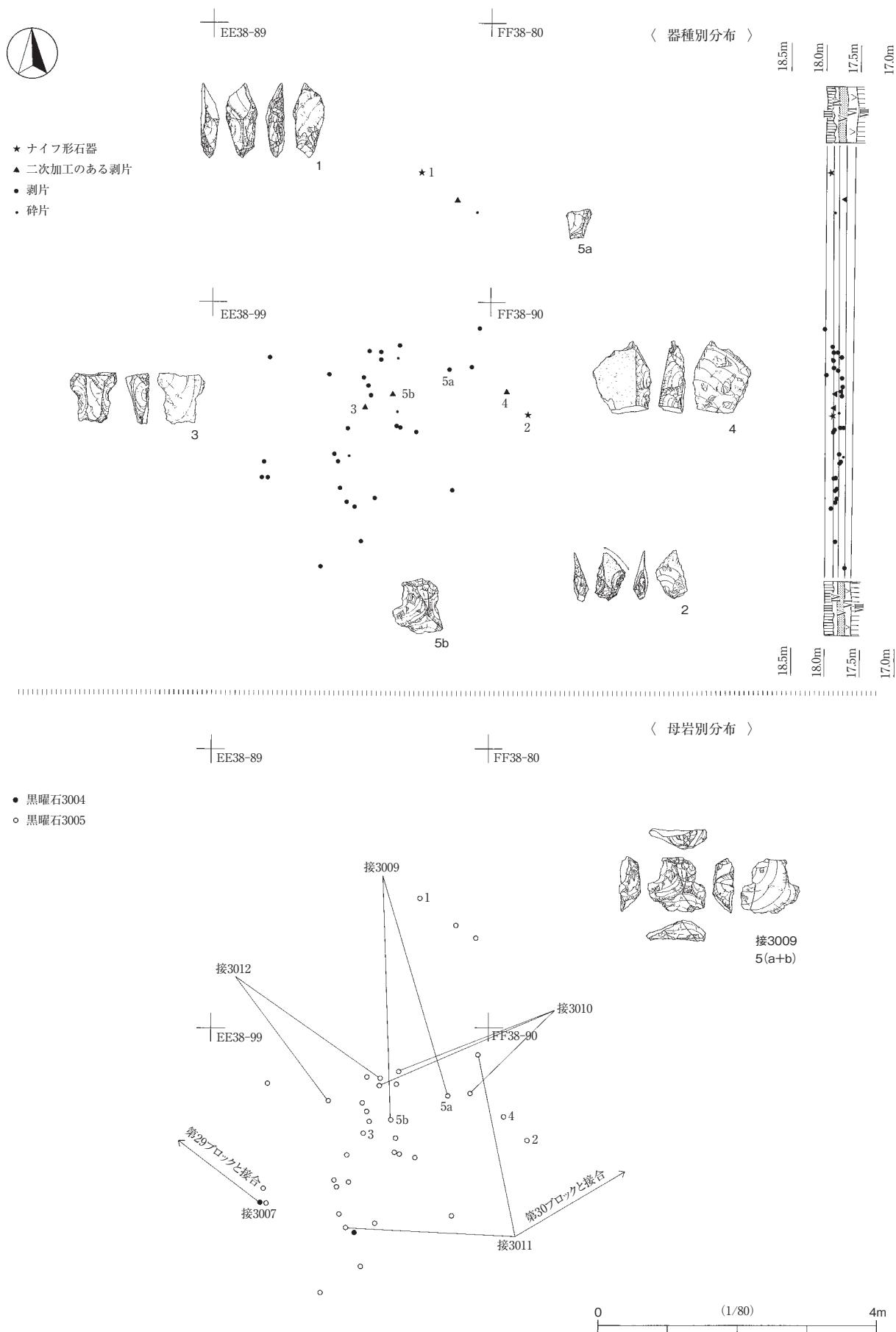
石材 器種	ナイフ形石器	角錐状石器	二次加工のある剥片	微細剥離痕のある剥片	剥片	碎片	石核	磨石	礫片	総計
黒曜石	3	1	10	1	69	12	3			99
安山岩								1		1
頁岩			1							1
珪質頁岩				1						1
黒色頁岩					1		1			2
玉髓				1						1
ホルンフェルス					1			1		2
チヤート									2	2
総計	3	1	11	3	71	12	4	2	2	109

第6-4表 第3文化層ブロック別組成表

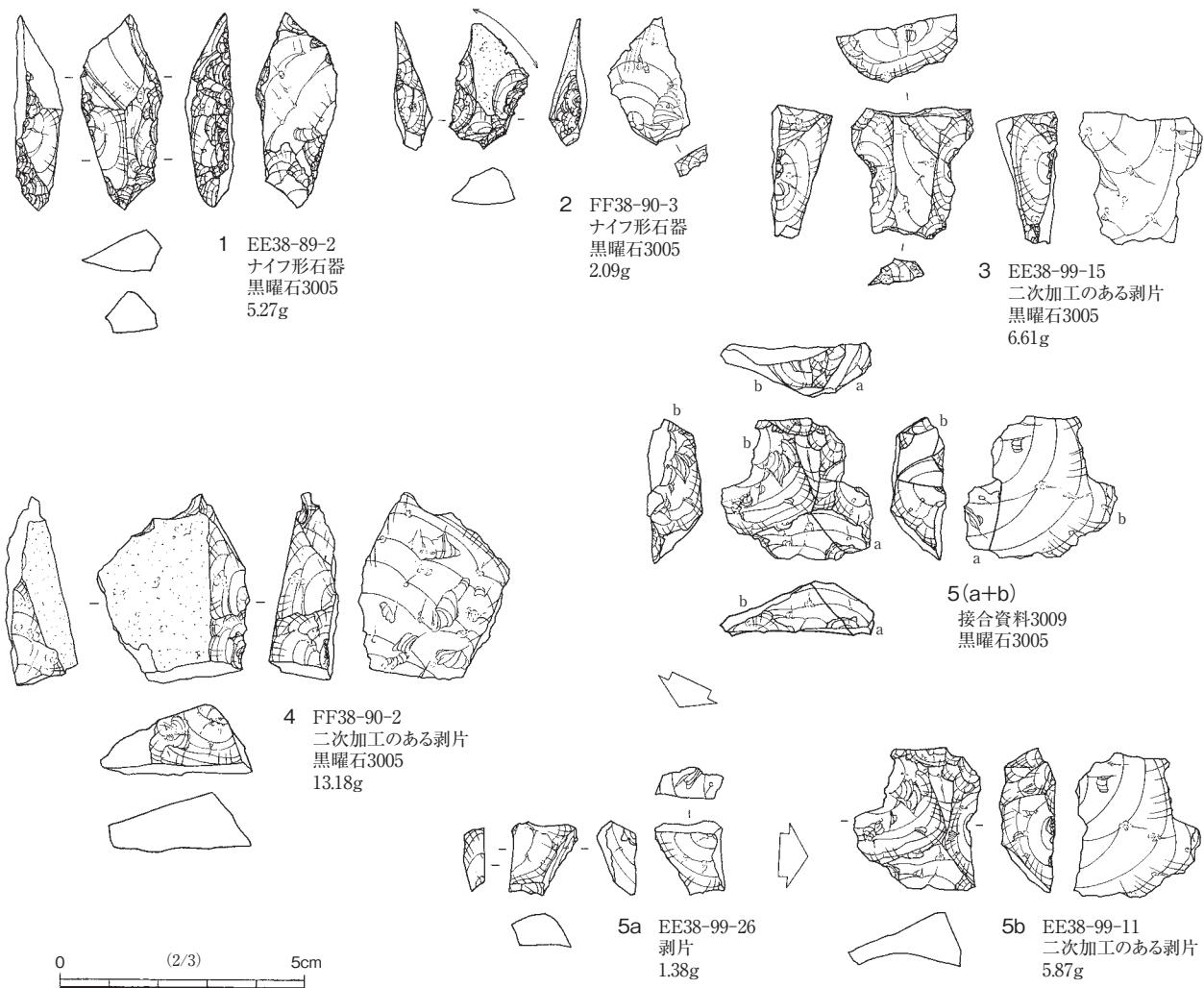
ブロック	石材	ナイフ形石器	角錐状石器	二次加工のある剥片	微細剥離痕のある剥片	剥片	碎片	石核	磨石	礫片	点数合計
28	黒曜石	2		4		28	4				38
第 28 ブロック合計		2		4		28	4				38
29	黒曜石		1	6	1	37	7	3			55
	玉髓				1						1
	ホルンフェルス					1			1		2
第 29 ブロック合計		1	6	2		38	7	3	1		58
30	黒曜石	1				4	1				6
第 30 ブロック合計		1				4	1				6
31	頁岩			1							1
	黒色頁岩					1		1			2
第 31 ブロック合計				1		1		1			3
単独	安山岩								1		1
	珪質頁岩				1						1
	チヤート									2	2
単独合計				1					1	2	4
全体点数合計		3	1	11	3	71	12	4	2	2	109

第6-5表 第3文化層第28ブロック組成表

母岩 器種	母岩番号	ナイフ形石器	二次加工のある剥片	剥片	碎片	点数合計	点数比 (%)	重量合計 (g)	重量比 (%)
黒曜石	3004		2			2	5.26	3.20	4.43
	3005	2	4	26	4	36	94.74	69.05	95.57
全体点数合計		2	4	28	4	38	100.00	72.25	100.00



第6-4図 第3文化層第28ブロック遺物分布



第6-5図 第3文化層第28ブロック出土石器

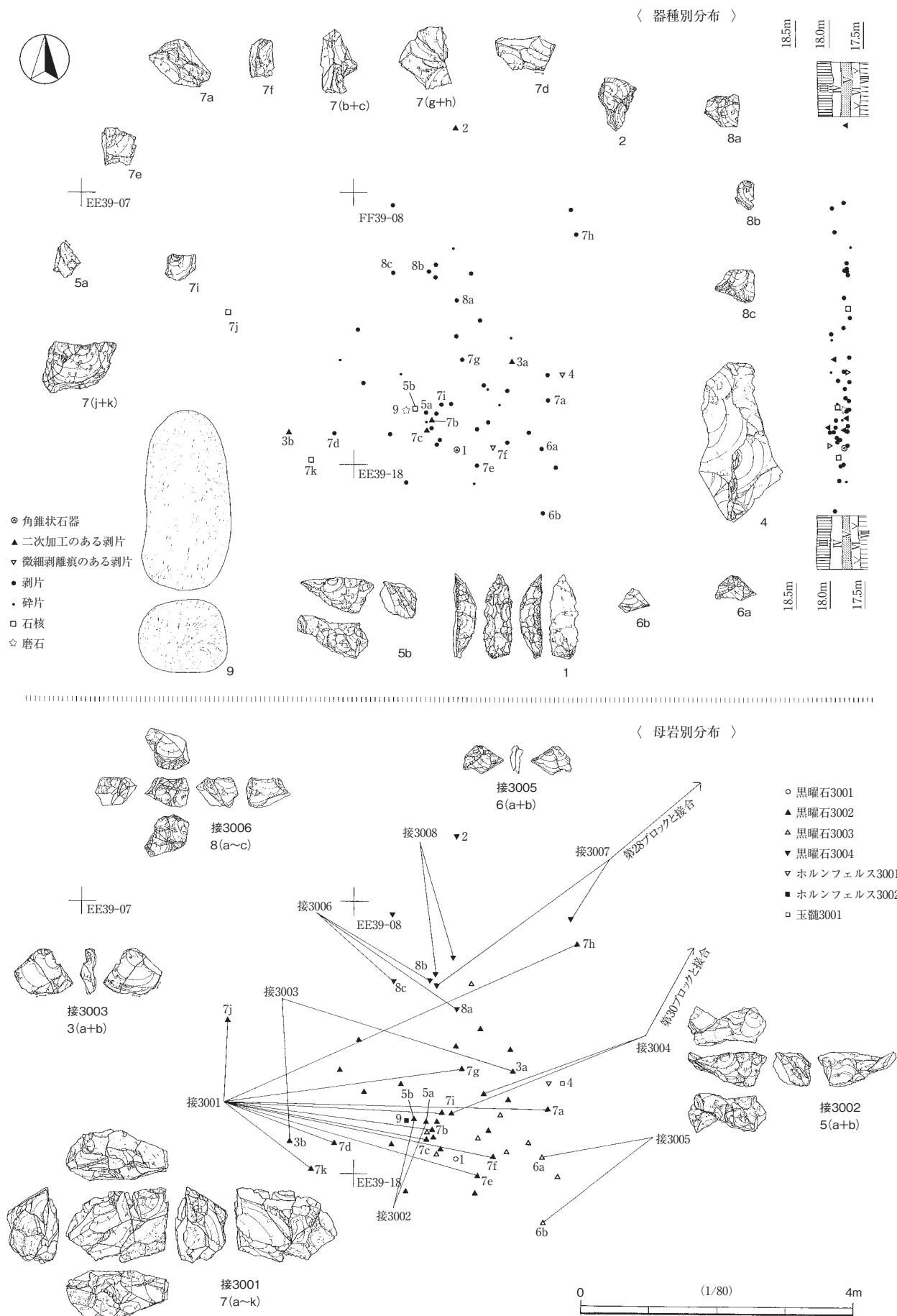
3 第3文化層第29ブロック(第6-6~9図、第6-6表、図版25・26)

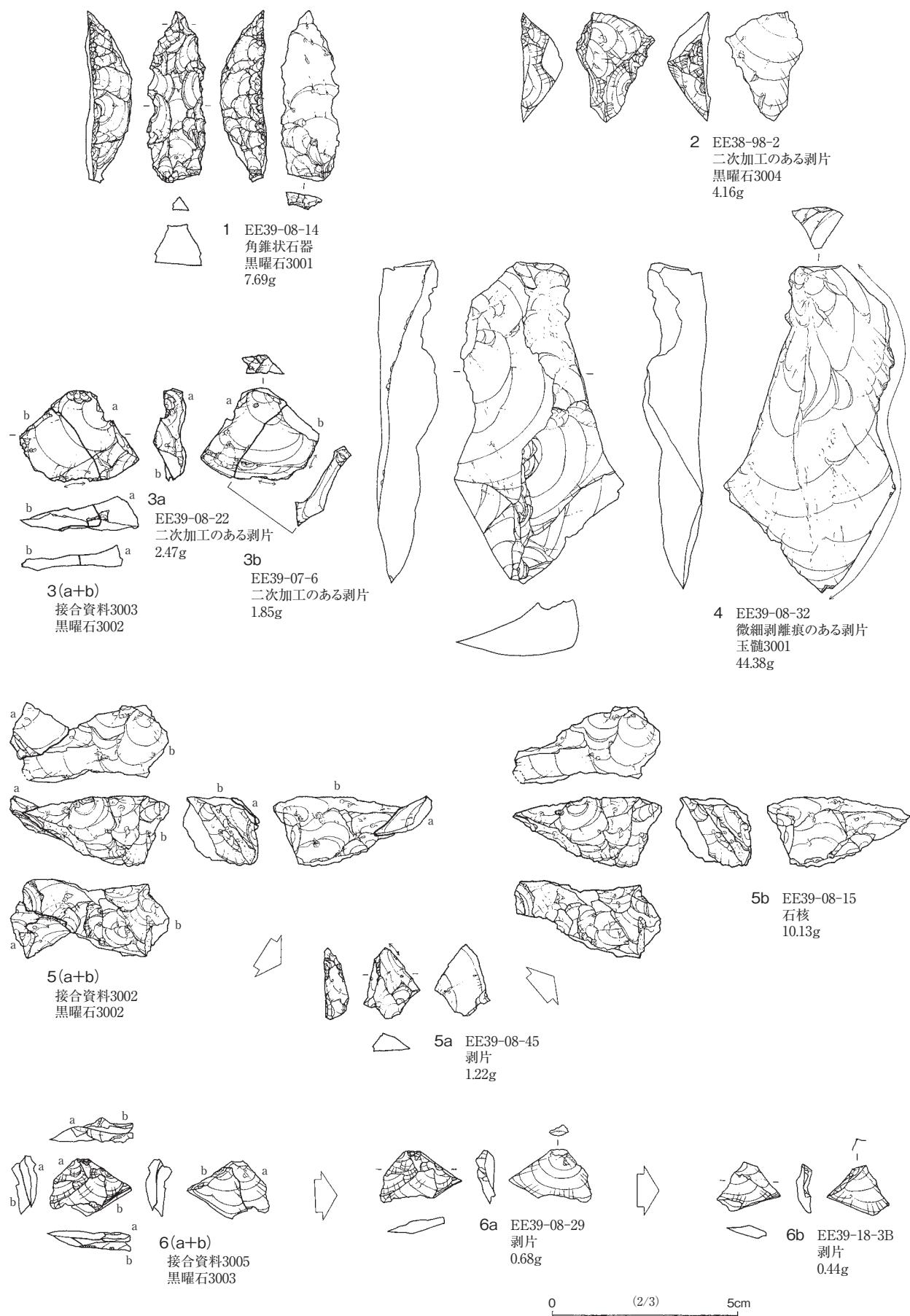
出土状況 調査区南東部のEE38-98、EE39-07・08・18グリッドに分布している。5.8m×5.3mの範囲から58点の石器類が出土した。ブロック南東部の直径3.3m円内に7割ほどが集中する。出土層位はV層からIII層にかけてで、V層上部～IV層下部に集中する。

出土遺物 器種組成は角錐状石器1点、二次加工のある剥片6点、微細剥離痕のある剥片2点、剥片38点、碎片7点、石核3点、磨石1点で構成される。石器類の石材は黒曜石55点、ホルンフェルス2点、玉髓1点である。

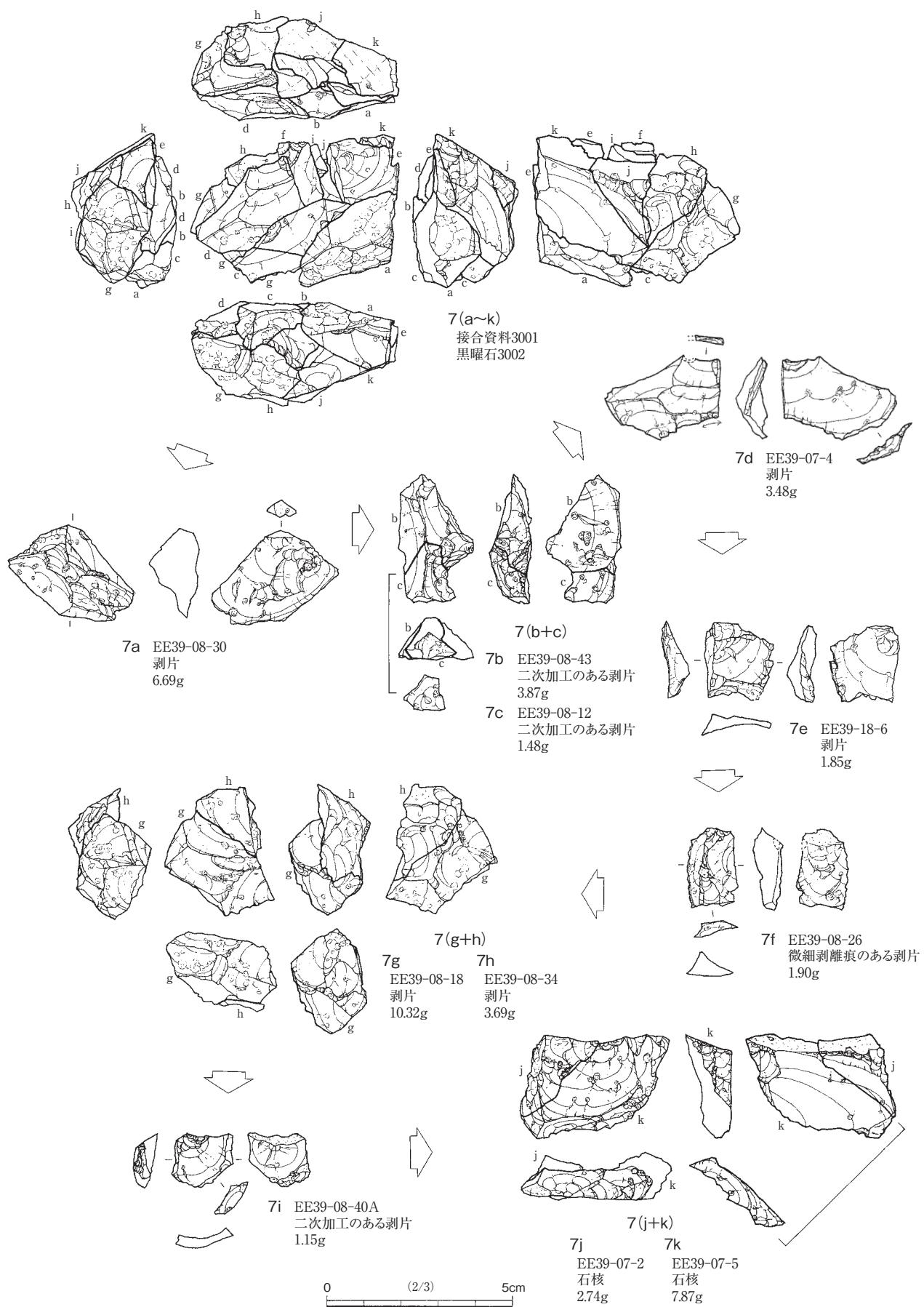
1は角錐状石器である。縦長剥片の両側縁が主要剥離面側から急角度に剥離され、端部には尖端が作出されている。素材打面部は遺存する。母岩の黒曜石3001は銀色と淡褐色が層状の石基であり、白色の夾雜物が少量含まれる。黒曜石3001はこの1点のみで、客体と思われる。

2・3は二次加工のある剥片である。2の両側面には急角度剥離が施されており、第28ブロック3～5と同様、何らかの石器の一部である可能性がある。3は二次加工のある剥片に生じた折れにより分割された資料である。人為的な折り取りか否かは不明である。黒曜石3004からわずかに光沢を除いたような黒曜石3002を母岩とする。

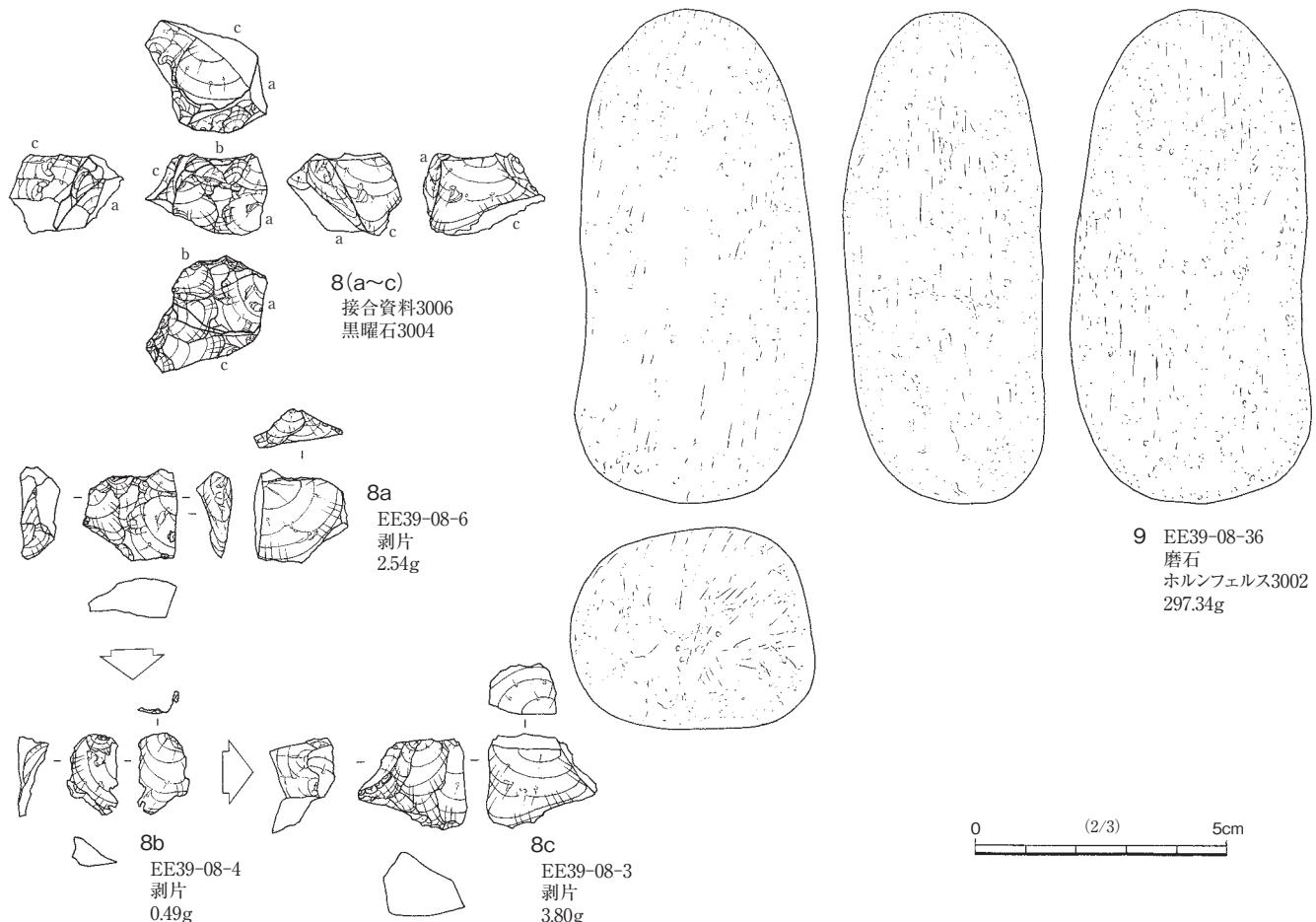




第6-7図 第3文化層第29ブロック出土石器(1)



第6-8図 第3文化層第29ブロック出土石器(2)



第6-9図 第3文化層第29ブロック出土石器(3)

4は最大長80mmを超える大型の縦長剥片であり、片側縁に微細剥離痕が連続する。打点直下のコーンにより主要剥離面に捩じれが生じ、右側面が形成される。母岩は小豆色、褐色、黄褐色がマーブル模様で、微光沢のある玉髓3001である。

5～8は接合資料である。5は剥片と石核、6は剥片2点が接合した。5aの縁辺に微細剥離痕がみられる。7は11点が接合した。器種の内訳は二次加工のある剥片3点、微細剥離痕のある剥片1点、剥片5点、石核2点を組成する。角柱状の素材を横位に設定し、上下面から剥離作業が行われている。作出された剥片は幅広で広い縁辺を持つものが5点あり、刃器の素材とした可能性がある。また7(j+k)の石核には縁辺部に急角度の剥離痕と、端部に調整痕がみられる。母岩の黒曜石3002は34点中33点が第29ブロックに分布するが1点のみ第30ブロックから出土している。

8は剥片3点の接合資料である。3点の出土地点はごく近く、剥離作業が連続して行われたためか7にみられるような間隙はない。また3点には剥離後の加工痕や使用痕は観察されない。黒曜石3004を母岩とする。黒曜石3004は第29ブロックに10点が分布する。

9は丸みを帯びた角柱状の磨石である。一端が緩く尖るが、敲痕や摩滅痕などはみられない。薄赤紫色と灰色の縞の中に白色の斑晶がみられ、弱い磁性を持つ。このため石材は流紋岩起源で変性度の弱いホルンフェルスと推定される。

第6-6表 第3文化層第29ブロック組成表

母岩 器種	母岩 番号	角錐状石器	二次加工の ある剥片	微細剥離痕 のある剥片	剥片	碎片	石核	磨石	点数合計	点数比 (%)	重量合計 (g)	重量比 (%)
黒曜石	3001	1							1	1.72	7.69	1.65
	3002		5	1	20	4	3		33	56.90	68.52	14.67
	3003				9	2			11	18.97	5.54	1.19
	3004		1		8	1			10	17.24	15.79	3.38
黒曜石合計		1	6	1	37	7	3		55	94.83	97.54	20.89
玉髓	3001			1					1	1.72	44.38	9.51
ホルンフェルス	3001				1				1	1.72	27.63	5.92
	3002							1	1	1.72	297.34	63.69
ホルンフェルス合計					1			1	2	3.45	324.97	69.60
全体点数合計		1	6	2	38	7	3	1	58	100.00	466.89	100.00

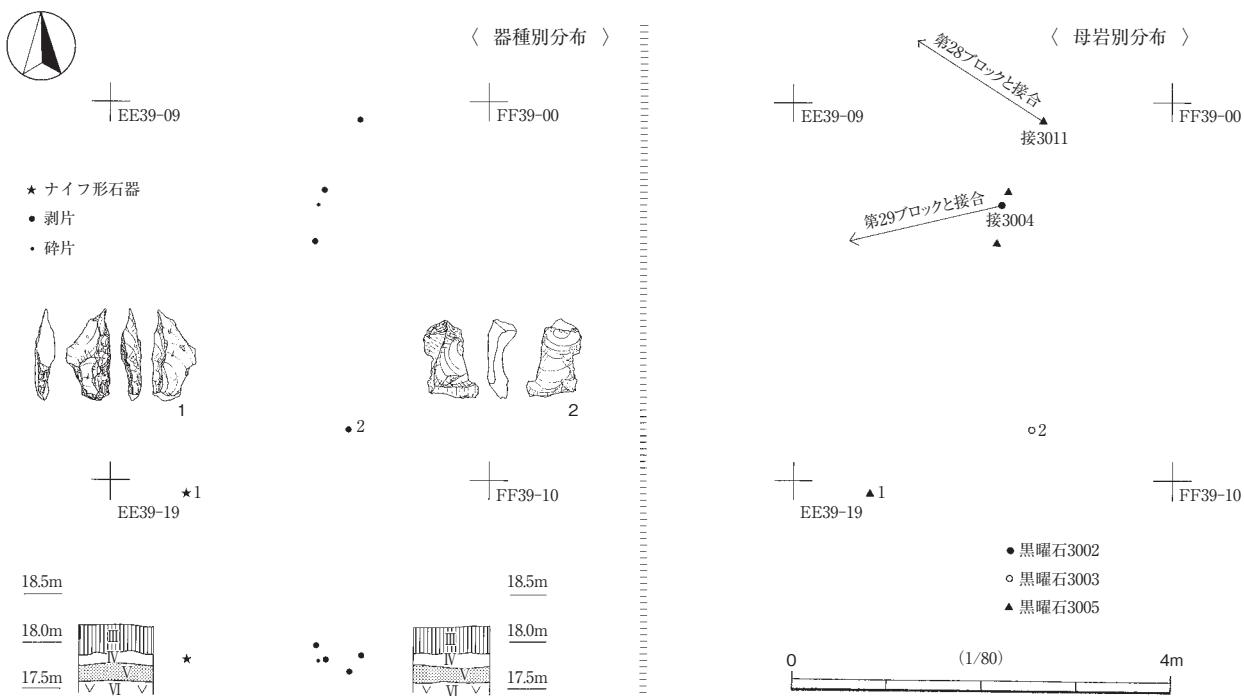
4 第3文化層第30ブロック(第6-10・11図、第6-7表、図版25・26)

出土状況 調査区南東部のEE39-09・19グリッドに分布している。4.3m×1.4mの範囲から6点の石器が出土し、直線状に分布する。出土層位はV層～Ⅲ層で、Ⅳ層下部に集中する。

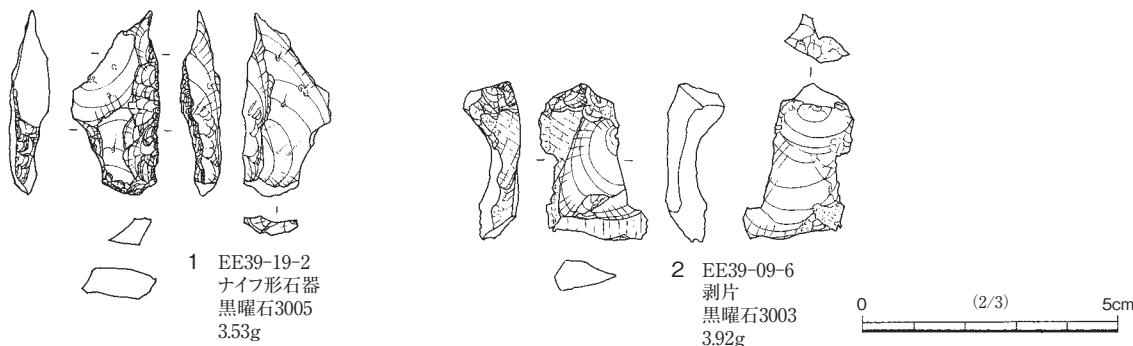
出土遺物 器種組成はナイフ形石器1点、剥片4点、碎片1点である。石器類の石材は第28ブロックと同様、すべて黒曜石である。

1はナイフ形石器である。打点直下折れの剥片が利用され、右側縁は刃潰しというよりむしろ減厚を目的とした平坦剥離によって調整される。刃部の傾きは45°で器長の1/2よりやや長く、刃こぼれがみられるが、フィッシャーのうねりに沿って生じた微小剥離かもしれない。母岩である黒曜石3005は第28ブロックに36点、第30ブロックに4点分布するが、両ブロックのナイフ形石器は集中部の中心ではなく、分布密度が疎らになる外縁部から出土している。

2は底面が残る剥片である。黒曜石3003が母岩であり、第29ブロックに11点、第30ブロックには1点の分布である。



第6-10図 第3文化層第30ブロック遺物分布



第6-11図 第3文化層第30ブロック出土石器

第6-7表 第3文化層第30ブロック組成表

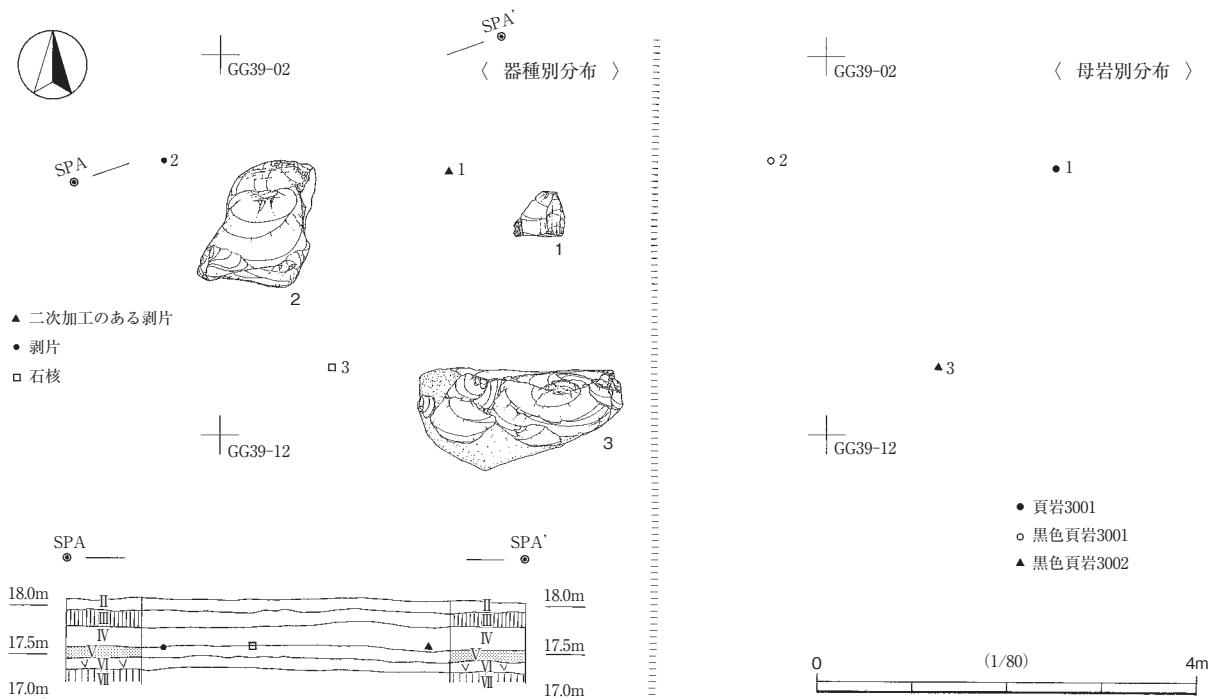
母岩	器種	母岩番号	ナイフ形石器	剥片	碎片	点数合計	点数比 (%)	重量合計 (g)	重量比 (%)
黒曜石	3002				1	1	16.67	0.11	1.18
	3003			1		1	16.67	3.92	42.06
	3005	1		3		4	66.67	5.29	56.76
全 体	点 数 合 計		1	4	1	6	100.00	9.32	100.00

5 第3文化層第31ブロック(第6-12・13図、第6-8表、図版25・26)

出土状況 調査区南東端のGG39-01・02グリッドに分布している。2.4m×3.0mの範囲から3点が出土した。3点は三角形状に点在しているが、V層上部に直線状に並ぶ。第28～30ブロックとは石材を共有せず、ナイフ形石器などの利器は出土していない。

出土遺物 器種組成は二次加工のある剥片1点、剥片1点、石核1点である。母岩は順に、頁岩3001、黒色頁岩3001、黒色頁岩3002である。

1の左側縁の加工痕は折れにより寸断される。相対する縁辺からの剥離痕がみられることから、楔形石



第6-12図 第3文化層第31ブロック遺物分布

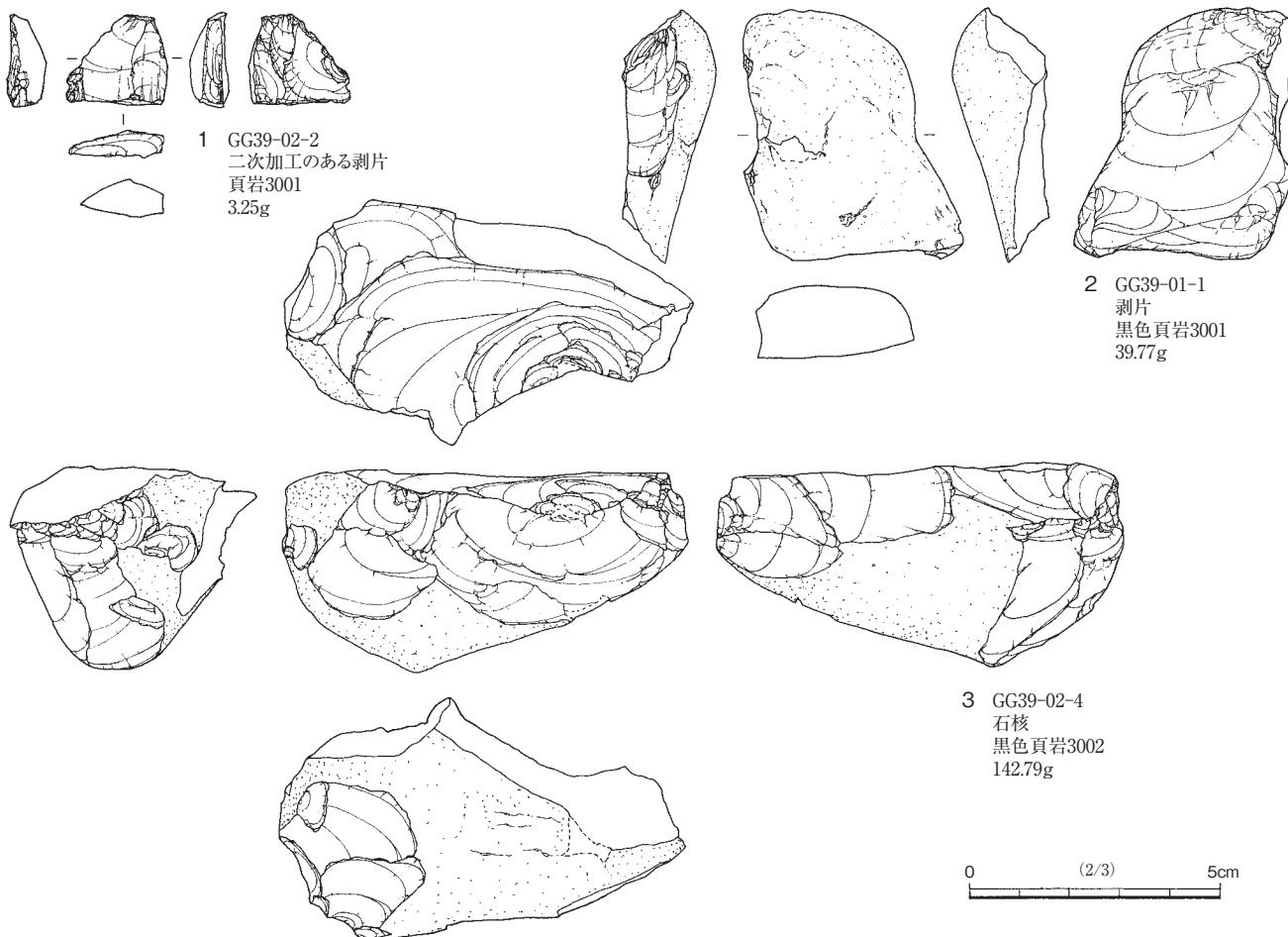
器を素材に用いたと思われる。

2の剥片は平坦打面、階段状の末端、自然面の背面を持つ。剥離工程初期の厚みある剥片である。

3は厚みのある楕円礫を素材とした石核である。素材礫を縦位に用いた縦長剥片作出の後、広く剥離された平坦面を打面として正面では横長の剥片、左側面では小型の縦長剥片が剥離された痕跡と頭部調整痕を確認できる。母岩の黒色頁岩3002は2よりも粒子が粗く淡色である。

第6-8表 第3文化層第31ブロック組成表

母 岩	器 種	母岩番号	二次加工のある剥片	剥片	石核	点数合計	点数比 (%)	重量合計 (g)	重量比 (%)
頁 岩		3001	1			1	33.33	3.25	1.75
黒 色 頁 岩		3001		1		1	33.33	39.77	21.40
		3002			1	1	33.33	142.79	76.85
黒 色 頁 岩 合 計				1	1	2	66.67	182.56	98.25
全 体 点 数 合 計			1	1	1	3	100.00	185.81	100.00



第6-13図 第3文化層第31ブロック出土石器

6 第3文化層単独出土石器(第6-14図、第6-9表、図版26)

出土状況 調査区南東部のCC37-30、EE38-76、FF39-03グリッドに最長約150m離れて4点が分布する。出土層位はVI層からⅢ層にかけてである。

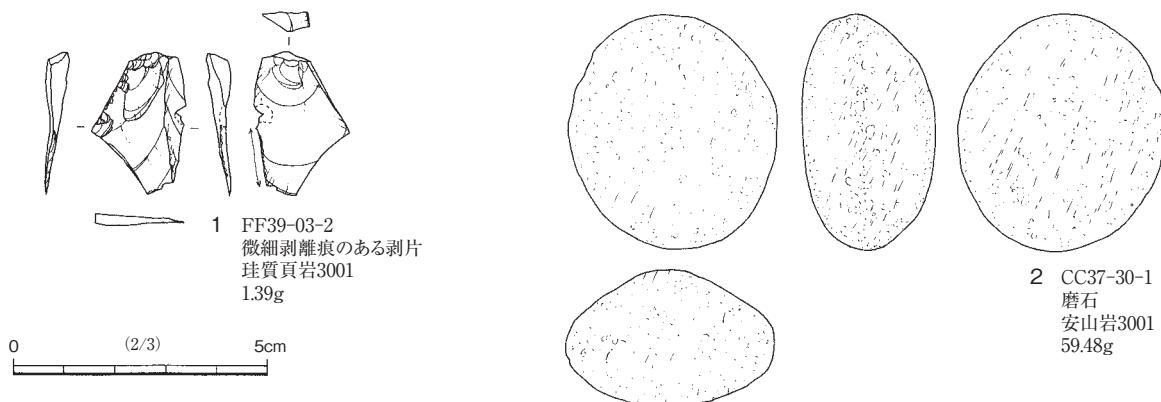
出土遺物 器種組成は珪質頁岩の微細剥離痕のある剥片1点、安山岩の磨石1点、チャートの礫片2点である。

1は微細剥離痕のある剥片である。薄い板状で縦長剥片と推定されるが下部は欠損し、縁辺に連なる微細剥離痕も寸断される。わずかに褐色を帯びた灰白色の珪質頁岩製である。

2は磨石である。平面形の最大長は4.6cm、最大幅4.2cmではほぼ円形である。正面中ほど弱い稜が左右の面を分けているが、擦痕は不明瞭である。CC37-30グリッドの一括採集資料である。石材の安山岩は灰白色を基調に、白色と黒色の斑晶を万遍なく含む。

第6-9表 第3文化層単独出土石器組成表

母岩	器種	母岩番号	微細剥離痕のある剥片	磨石	礫片	点数合計	点数比 (%)	重量合計 (g)	重量比 (%)
安山岩		3001		1		1	25.00	59.48	73.24
珪質頁岩		3001	1			1	25.00	1.39	1.71
チヤート		3999			2	2	50.00	20.34	25.05
全 体	点 数 合 計		1	1	2	4	100.00	81.21	100.00



第6-14図 第3文化層単独出土石器

第3節 第4文化層

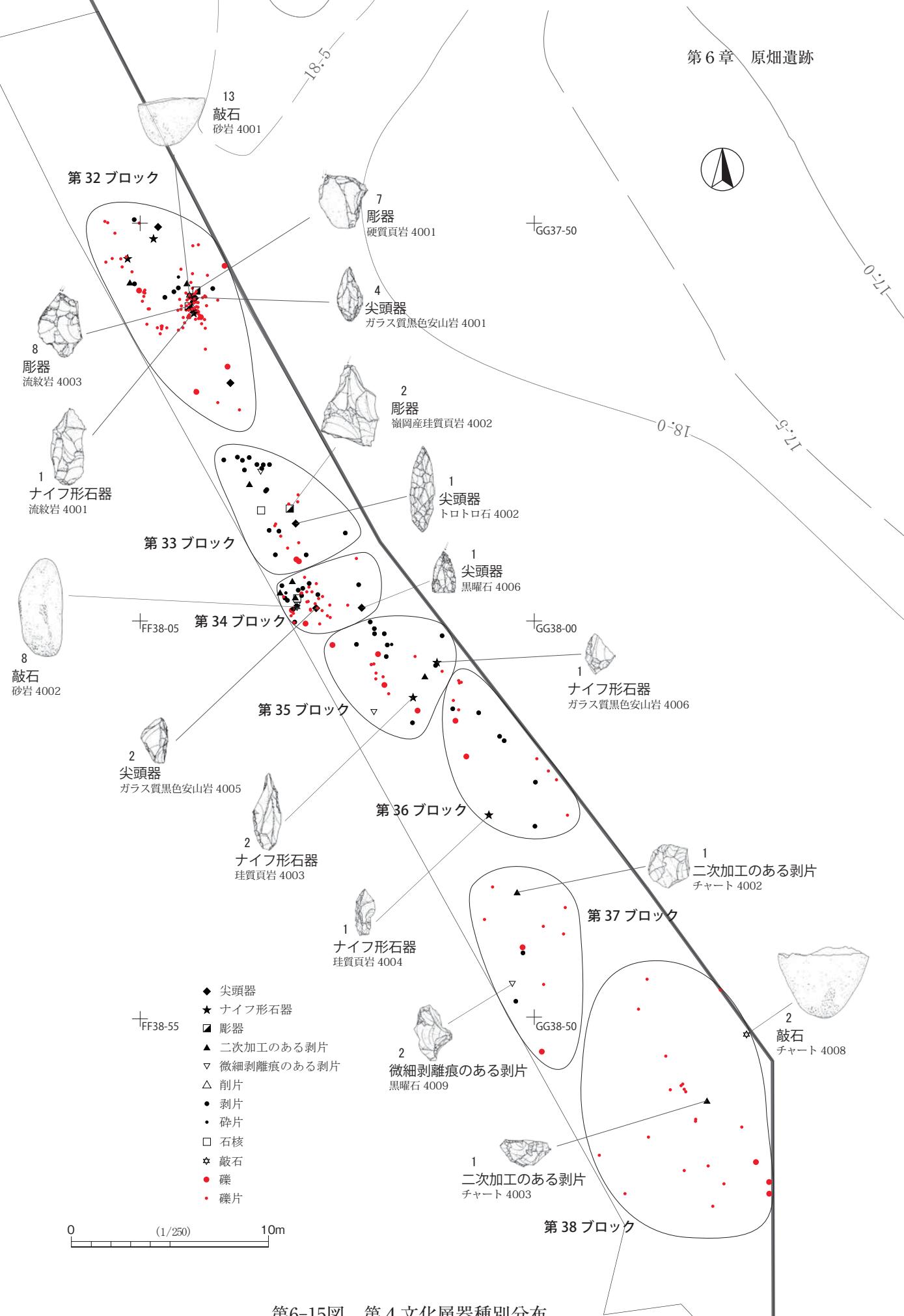
1 概要(第6-15・16図、第6-10・11表)

第4文化層の石器群は総計304点出土し、北西の第32ブロックから南東端の第38ブロックまで、7か所が識別できた。石器の垂直分布はIX層～Ⅲ層上部と幅を持つが、楕状剥離のある尖頭器や彫器がまとまって出土しており、駒形遺跡第3文化層と類似する石器組成を示すことから、Ⅲ層下部～Ⅲ層中部に生活面を持つ石器群と推定される。

これらのブロックは調査区南東端に位置し、標高18.0m～18.5m(現地表面)の、南東に緩やかに傾斜する斜面の縁辺部に立地している。石器は平均17.8mに分布し、現地表面との比高は0.7m～0.4mほどである。遺物の密集域は第32ブロックと第34ブロックにあり、いずれも礫集中域である。礫・礫片を除外すれば石器の分布状態は散漫となるが、第33・34ブロックに密度の高まりを求めることが可能である。ブロック間での接合資料はこの第33・34ブロックとその南東の第35・36ブロックに認められる。とはいっても、ブロックの境界は恣意的で曖昧なため、ここでのブロック間接合は場の違いや剥離工程の新旧を勘案すべきものではない。上位層からの流れ込みや現代ゴミの混入もあり、出土層位の設定にも不確実な要素を含む。

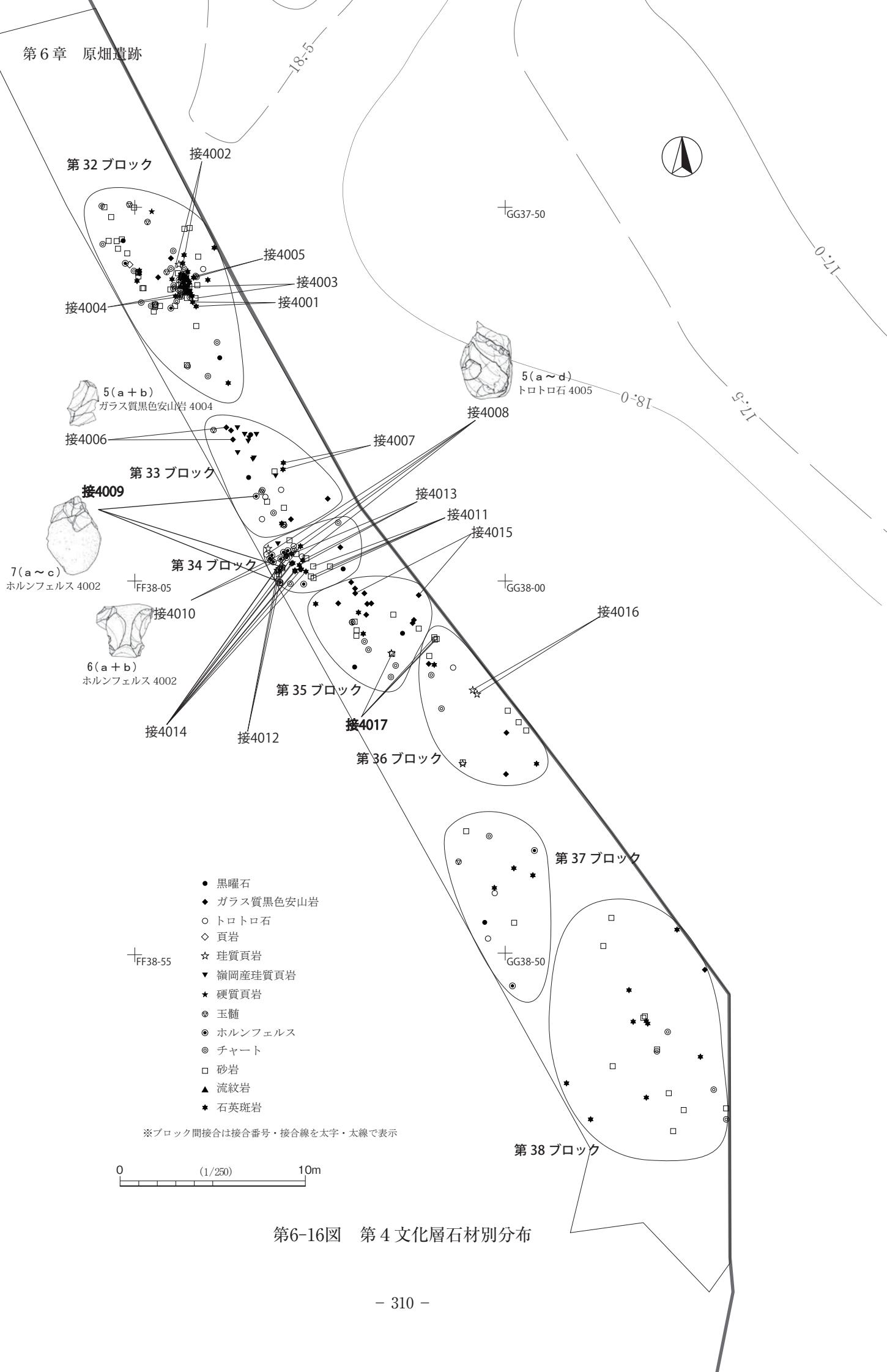
第4文化層の器種石材組成とブロック別組成は第6-10・11表のとおりである。

器種組成はナイフ形石器6点、尖頭器6点、彫器3点、二次加工のある剥片10点、微細剥離痕のある剥片4点、削片1点、剥片53点、碎片5点、石核2点、敲石3点の石器類93点と、礫21点、礫片190点で構成される。



第6-15図 第4文化層器種別分布

第6章 原畠遺跡



第6-16図 第4文化層石材別分布

第6-10表 第4文化層ブロック別組成表

ブ ロ ッ ク	石 材	ナ イ フ 形 石 器	尖 頭 器	彫 器	二 次 加 工 の あ る 剥 片	微 細 剥 離 痕 の あ る 剥 片	削	剥	碎	石	敲	礫	点 数 合 計	
32	黒曜石	1	1		1								3	
	ガラス質黒色安山岩		1					2	1				4	
	トロトロ石							1					1	
	真岩							1					1	
	珪質真岩				1								1	
	硬質真岩	1	1										2	
	玉髓	1					2						3	
	ホルンフェルス				1							2	3	
	チャート							1			3	19	23	
	砂岩									1		40	41	
	流紋岩	1		1			1		1				4	
	石英斑岩										3	29	32	
第32	ブロック合計	3	3	2	3		1	7	2		1	6	90	118
33	黒曜石							1		1				2
	ガラス質黒色安山岩							4						4
	トロトロ石		1					2						3
	嶺岡産珪質真岩			1	1	1		6						9
	玉髓							1						1
	ホルンフェルス							1						1
	チャート											3		3
	砂岩											2		2
	石英斑岩											2		2
第33	ブロック合計		1	1	1	1		15		1			7	27
34	黒曜石		1											1
	ガラス質黒色安山岩		1					2						3
	トロトロ石				1			2		1				4
	珪質真岩					1		1	1					3
	嶺岡産珪質真岩				1									1
	ホルンフェルス				1			8	1			2		12
	チャート										3	2		5
	砂岩									1		13		14
	石英斑岩										1	12		13
第34	ブロック合計		2		3	1		13	2	1	1	4	29	56
35	黒曜石				1	1								2
	ガラス質黒色安山岩	1						9	1					11
	珪質真岩	1												1
	チャート							1			2	3		6
	砂岩											6		6
	石英斑岩										2	2		3
第35	ブロック合計	2			1	1		10	1			4	10	29
36	ガラス質黒色安山岩							3						3
	トロトロ石							1						1
	珪質真岩	1						2						3
	チャート										2		2	
	砂岩											8		8
	石英斑岩											2		2
第36	ブロック合計	1						6				2	10	19
37	黒曜石					1								1
	トロトロ石							2						2
	玉髓											1		1
	ホルンフェルス										1	1		2
	チャート				1									1
	砂岩										2		2	
	石英斑岩										1	2		3
第37	ブロック合計				1	1		2				2	6	12
38	ガラス質黒色安山岩										1			1
	チャート				1						2	2		5
	砂岩										1	24		25
	石英斑岩											12		12
第38	ブロック合計					1					1	3	38	43
全 体 点 数 合 計		6	6	3	10	4	1	53	5	2	3	21	190	304

石材組成は、石器類がガラス質黑色安山岩26点、ホルンフェルス12点、トロトロ石11点、嶺岡産珪質頁岩10点、黒曜石9点、珪質頁岩8点、砂岩2点、玉髓4点、チャート4点、流紋岩4点、硬質頁岩2点、頁岩1点である。礫・礫片は砂岩96点、石英斑岩67点、チャート41点、ホルンフェルス6点、玉髓1点である。

第6-11表 第4文化層器種石材組成表

石材 器種	ナイフ形石器	尖頭器	彫器	二次加工のある剥片	微細剥離痕のある剥片	削片	剥片	碎片	石核	敲石	礫	総計	
	器	器	器			片	片	片	核	石	片		
黒曜石	1	2		2	2		1		1			9	
ガラス質黑色安山岩	1	2					20	2		1		26	
トロトロ石		1		1			8		1			11	
頁岩							1					1	
珪質頁岩	2			1	1		3	1				8	
嶺岡産珪質頁岩			1	2	1		6					10	
硬質頁岩		1	1									2	
玉髓	1						3					5	
ホルンフェルス				2			9	1			1	18	
チャート				2			2				12	29	
砂岩										2	1	95	
流紋岩	1		1			1		1				4	
石英斑岩										7	60	67	
総計	6	6	3	10	4	1	53	5	2	3	21	190	304

2 第4文化層第32ブロック(第6-17~19図、第6-12表、図版25・27)

出土状況 調査区南東部北側のFF37-44・54~56・65・66・75・76グリッドに分布している。9.8m × 6.4mの範囲から118点の遺物が出土した。石器は直径3.9mの円内に密集しており、南北では散漫な分布状況を示している。遺物はⅨ層下部～Ⅲ層上部まで幅広く分布するが、Ⅳ層上部～Ⅲ層に集中する。帯状に分布する7か所のブロックの中では遺物量が最も多い。

出土遺物 器種組成はナイフ形石器3点、尖頭器3点、彫器2点、二次加工のある剥片3点、削片1点、剥片7点、碎片2点、敲石1点の石器類22点と、礫6点、礫片90点の礫・礫片96点である。石器類の石材はガラス質黑色安山岩4点、流紋岩4点、黒曜石3点、玉髓3点、硬質頁岩2点、トロトロ石1点、頁岩1点、珪質頁岩1点、ホルンフェルス1点、チャート1点、砂岩1点である。礫・礫片の石材は砂岩40点、石英斑岩32点、チャート22点、ホルンフェルス2点である。

1～3はナイフ形石器である。3点とも素材打面側を基部に据え、末端部の縁辺を刃部に用いたと推定される。1は淡黄褐色でやや珪質な流紋岩4001を母岩とし、素材打面部を残している。末端部はVの字型に収束し、両側縁に刃こぼれのような微細剥離痕が廻る。背面の一部に平坦な自然面が残る。2は先端部の欠けたナイフ形石器の上部である。左側縁は急角度に加工され、右側縁は40°～42°の刃部を成す。夾雜物を多く含む黑色半透明の黒曜石4003を母岩とする。3は下部のみ遺存する。1と同じく、器厚が薄く両側縁は鋭い。また素材打面を残す点も共通する。玉髓4003を母岩とする。いずれも単独母岩であり、搬入品の可能性が高い。



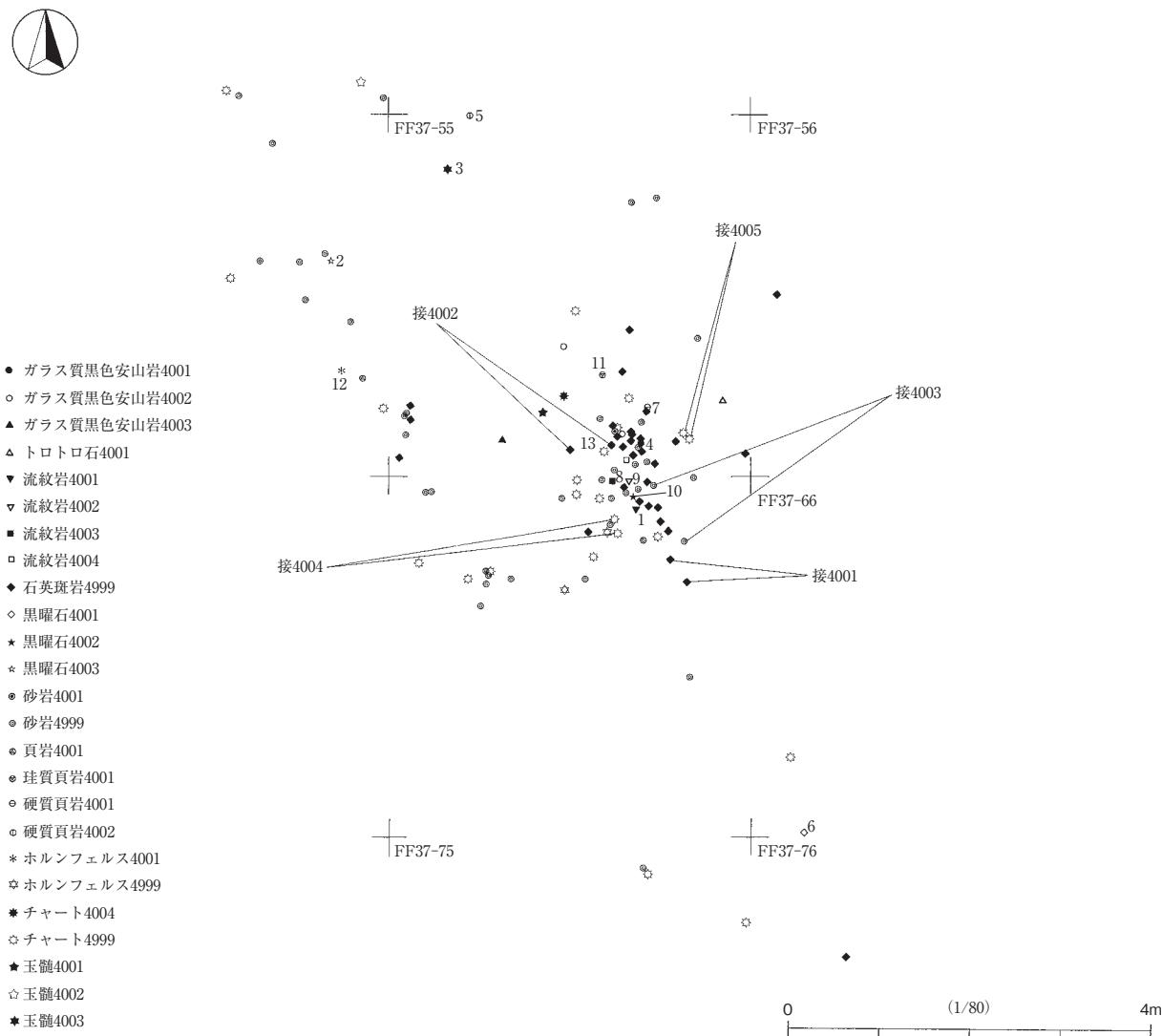
第6-17図 第4文化層第32ブロック器種別分布

第6-12表 第4文化層第32ブロック組成表

母岩 器種	母岩 番号	ナイフ形 石器	尖頭器	彫器	二次加工の ある剥片	削片	剥片	碎片	敲石	礫	礫片	点数 合計	点数比 (%)	重量合計 (g)	重量比 (%)	
黒曜石	4001		1									1	0.85	0.77	0.05	
	4002				1							1	0.85	0.04	0.00	
	4003	1										1	0.85	1.02	0.07	
黒曜石合計		1	1		1							3	2.54	1.83	0.12	
ガラス質黑色安山岩	4001		1									1	0.85	2.58	0.17	
	4002					1	1					2	1.69	0.74	0.05	
	4003					1						1	0.85	3.49	0.23	
ガラス質黑色安山岩合計			1			2	1					4	3.39	6.81	0.45	
トロトロ石	4001					1						1	0.85	11.09	0.74	
頁岩	4001					1						1	0.85	3.90	0.26	
珪質頁岩	4001			1								1	0.85	13.58	0.91	
硬質頁岩	4001			1								1	0.85	7.71	0.51	
	4002		1									1	0.85	1.22	0.08	
硬質頁岩合計			1	1								2	1.69	8.93	0.60	
玉髓	4001					1						1	0.85	2.49	0.17	
	4002					1						1	0.85	1.57	0.10	
	4003	1										1	0.85	3.70	0.25	
玉髓合計		1				2						3	2.54	7.76	0.52	
ホルンフェルス	4001			1								1	0.85	1.51	0.10	
	4999											2	2	1.69	23.11	1.54
ホルンフェルス合計				1								2	3	2.54	24.62	1.64
チャート	4004					1						1	0.85	0.51	0.03	
	4999											3	19	22	18.64	287.68
チャート合計						1						23	19.49	288.19	19.24	
砂岩	4001							1				1	0.85	36.54	2.44	
	4999											40	40	33.90	635.55	42.42
砂岩合計								1				41	34.75	672.09	44.86	
流紋岩	4001	1										1	0.85	5.49	0.37	
	4002					1						1	0.85	1.77	0.12	
	4003		1									1	0.85	5.13	0.34	
	4004						1					1	0.85	0.09	0.01	
流紋岩合計		1		1		1		1				4	3.39	12.48	0.83	
石英斑岩	4999											32	27.12	446.87	29.83	
全体点数合計		3	3	2	3	1	7	2	1	6	90	118	100.00	1,498.15	100.00	

4～6は尖頭器である。4は片面加工の尖頭器で、左上部には右斜め上方から加撃された剥離面があり、素材時の主要剥離面を切る。右縁辺は急角度の加工によって左右対称の形状が作られる。特に基礎部の調整は入念で、縁辺をすり潰して100°に近い鈍角に仕上げられる。ガラス質黑色安山岩4001が母岩である。5・6は上部のみ遺存する。5に厚みはなく、両側縁に微細剥離痕、上端部から左方向には衝撃剥離痕が残る。自然面は茶褐色、剥離面は淡褐灰色の硬質頁岩4002が母岩である。6は楕状剥離のある尖頭器の上部片かと思われる。折面の風化が他面よりも進んでいるように見受けられるため、左上部の剥離は加工途中に生じた欠損の可能性もある。黒曜石4001が母岩である。

7・8は彫器である。7は貝殻状剥片を素材とし、一側縁と末端縁辺の2か所に抉入状の小剥離痕・彫刀面を持つ。彫刀面打点は器体端部にあり、左側縁に向けて彫刀面が作出される。いずれの調整痕、彫刀面も裏面には及んでいない。明茶褐色で光沢のある自然面と暗緑色を帯びた褐色の剥離面の硬質頁岩製である。8は彫刀面打面を稜上から主要剥離面側に施した彫器で、ごく小規模ながら稜端部に直径2mmほどの平坦な打面をしつらえている。彫刀面は背面側の同じ位置に複数形成される。また、弧状の縁辺には刃



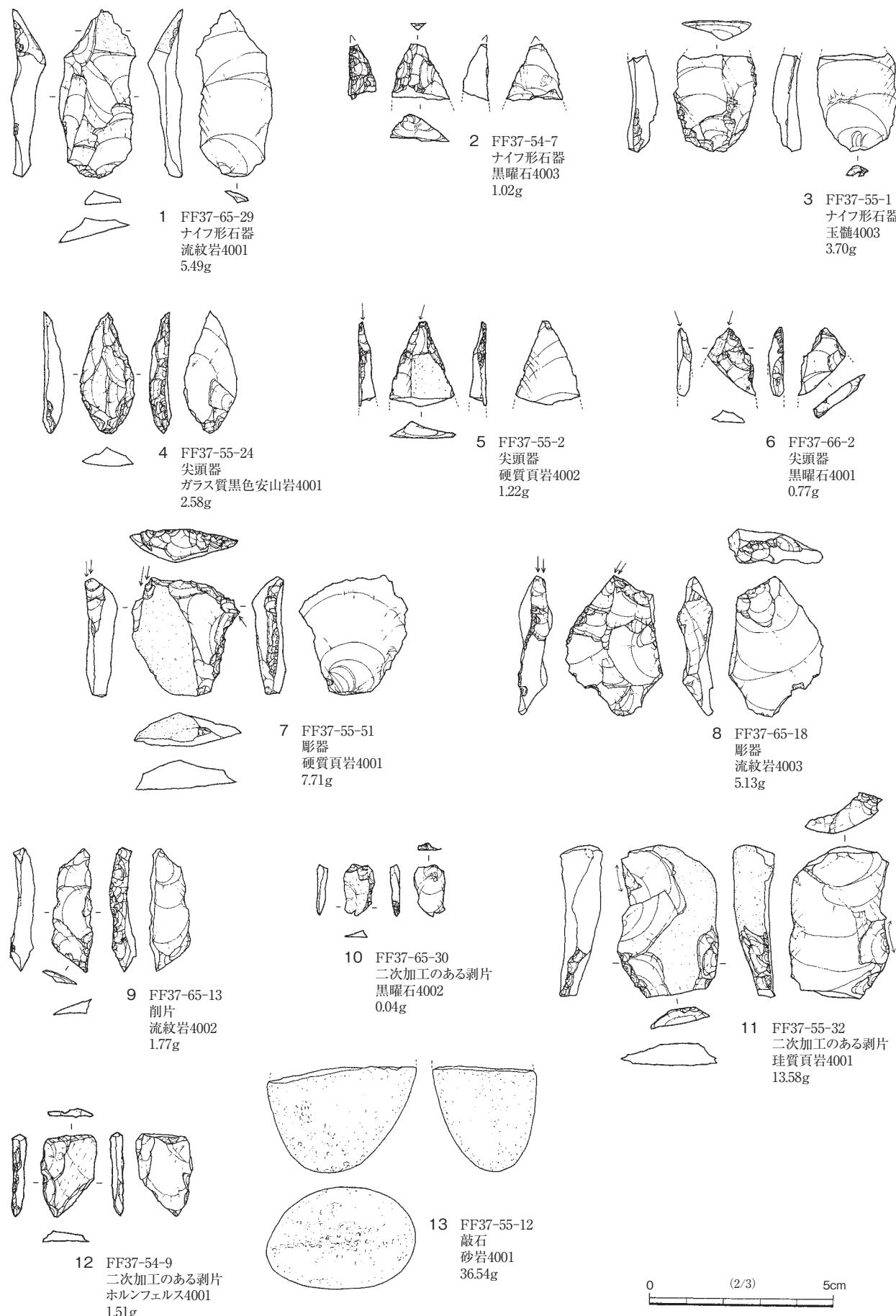
第6-18図 第4文化層第32ブロック母岩別分布

こぼれがみられる。石材は鈍い光沢を持つ灰白色でごく細粒の滑らかな質感であり、斑晶はみられない。流紋岩4003となっているが珪質泥岩、珪質貞岩とも分類されよう。

9は削片である。右側面に急角度の連続した剥離痕が連なるが主要剥離面に切られる。尖頭器や彫器などの刃部を作出するために剥離されたものと推定される。母岩の流紋岩4002は当ブロックではこの1点のみである。

10～12は二次加工のある剥片である。10は13.3mmと小型ながら右側縁下部に主要剥離面を打面とした加工痕がみられる。青みがかった濃灰色で、薄い縁辺では半透明な黒曜石4002が母岩である。11は両側縁下部に連続した小剥離痕と、左側縁に使用痕を持つ珪質貞岩製である。12は上部の折れた薄手の縦長剥片の左縁辺に急角度の連続した剥離痕がみられる。端部は折れ、あるいは折り取りにより尖鋭な端部となっており、何らかの石器の一部である可能性が高い。

13は敲石である。端部に弱い器面の荒れがみられるが、粗粒の砂岩で、一部褐色を帯びる。



第6-19図 第4文化層第32ブロック出土石器

3 第4文化層第33ブロック(第6-20・21図、第6-13表、図版25・27)

出土状況 調査区南東端部北側のFF37-76・86・87・96グリッドに位置し、5.0m×6.3mの範囲から27点の石器・礫片が出土した。石器類は全体に万遍なく分布するが、礫片は南東に偏在する。完形礫の出土はない。北西にガラス質黒色安山岩4004と嶺岡産珪質頁岩4001が形成する直径2mほどの集中域があり、3～5の剥片類が出土する。1の尖頭器と2の彫器、6の石核は礫片の分布域に重なるが、平面・垂直分布とも北西部ほどのまとまりはなく、散漫な傾向を示す。

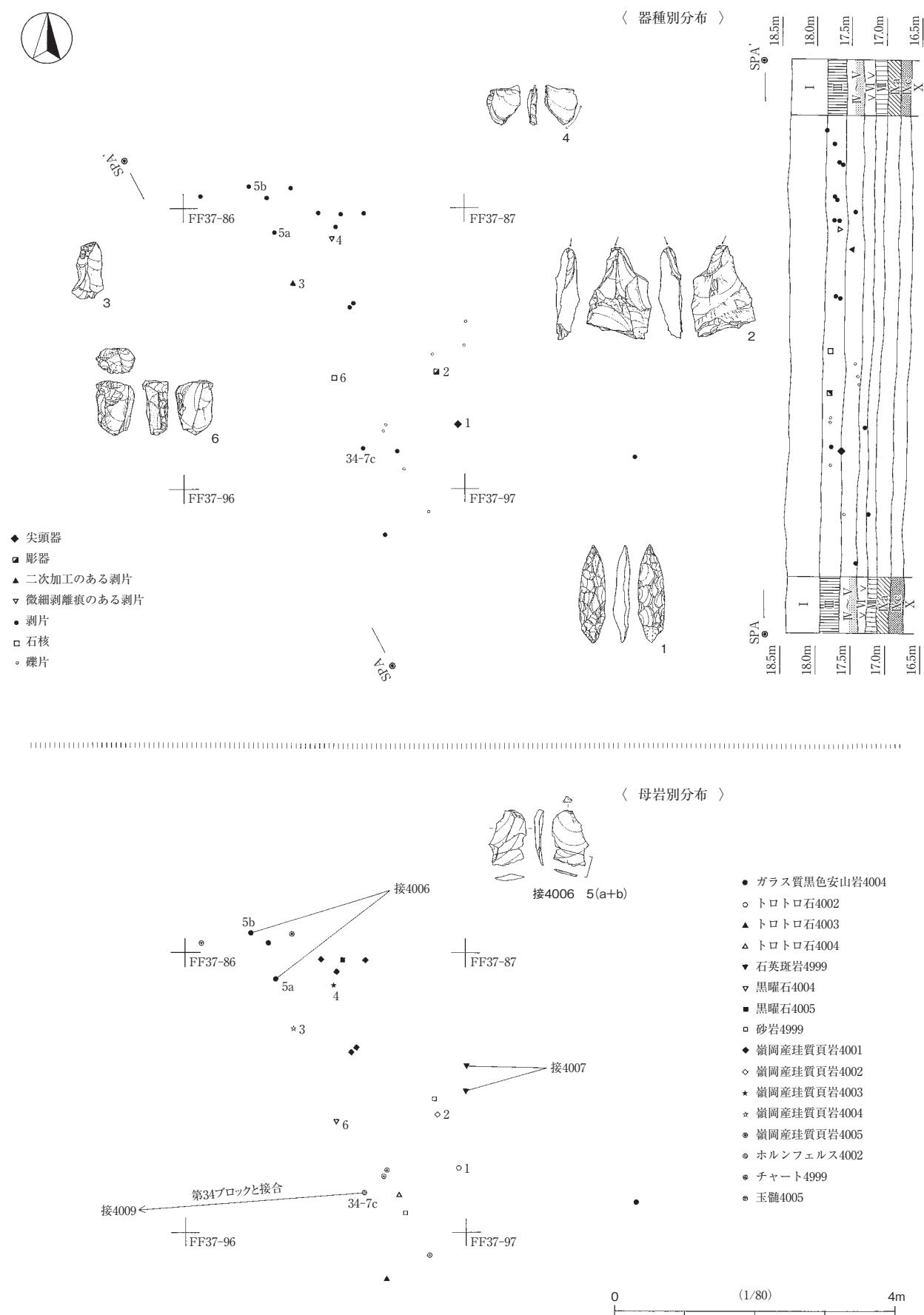
石器類を母岩別にみると、ガラス質黒色安山岩4004の4点と嶺岡産珪質頁岩4001の5点以外はすべて1点のみの出土であり、ブロック間で接合したホルンフェルス4002は隣接する第34ブロックで加工された1片であろうと推定される。こうした出土状況から第33ブロックは、数点の利器と石器素材が持ち込まれた一過性のキャンプ地のような場であり、石器のメンテナンスや簡単な加工を行うと同時に、使用の場でもあったことがうかがえる。

出土遺物 器種組成は尖頭器1点、彫器1点、二次加工のある剥片1点、微細剥離痕のある剥片1点、剥片15点、石核1点の石器類20点と礫片7点である。石器類の石材は嶺岡産珪質頁岩9点、ガラス質黒色安山岩4点、トロトロ石3点、黒曜石2点、玉髓1点、ホルンフェルス1点である。礫片の石材はチャート3点、砂岩2点、石英斑岩2点である。

1は尖頭器である。長さ51.5mmと小型だが、左右対称の精緻な両面加工で、断面形は凸レンズ状を呈する。先端部は尖鋭で基部裏面にガジリがみられるが、器形には影響しない。石材は青灰白色のトロトロ石で、裏面は明黄褐色に変色している。第33ブロックの南東側で礫・礫片とともに出土し、垂直分布図のⅣ層とⅢ層の境目に投影される。

第6-13表 第4文化層第33ブロック組成表

母岩 器種	母岩番号	尖頭器	彫器	二次加工の ある剥片	微細剥離痕 のある剥片	剥片	石核	礫片	点数合計	点数比 (%)	重量合計 (g)	重量比 (%)
黒曜石	4004					1			1	3.70	7.71	1.88
	4005				1				1	3.70	0.19	0.05
黒曜石合計					1	1			2	7.41	7.90	1.93
ガラス質黒色安山岩	4004				4				4	14.81	4.77	1.16
トロトロ石	4002	1							1	3.70	5.27	1.28
	4003					1			1	3.70	3.57	0.87
	4004					1			1	3.70	0.16	0.04
	トロトロ石合計	1				2			3	11.11	9.00	2.19
嶺岡産珪質頁岩	4001				5				5	18.52	12.13	2.96
	4002		1						1	3.70	12.35	3.01
	4003			1					1	3.70	1.59	0.39
	4004			1					1	3.70	1.24	0.30
	4005				1				1	3.70	0.56	0.14
嶺岡産珪質頁岩合計		1	1	1	6				9	33.33	27.87	6.79
玉髓	4005					1			1	3.70	4.83	1.18
ホルンフェルス	4002					1			1	3.70	5.20	1.27
チャート	4999							3	3	11.11	153.49	37.41
砂岩	4999							2	2	7.41	71.07	17.32
石英斑岩	4999							2	2	7.41	126.17	30.75
全体制点数合計		1	1	1	1	15	1	7	27	100.00	410.30	100.00



第6-20図 第4文化層第33ブロック遺物分布

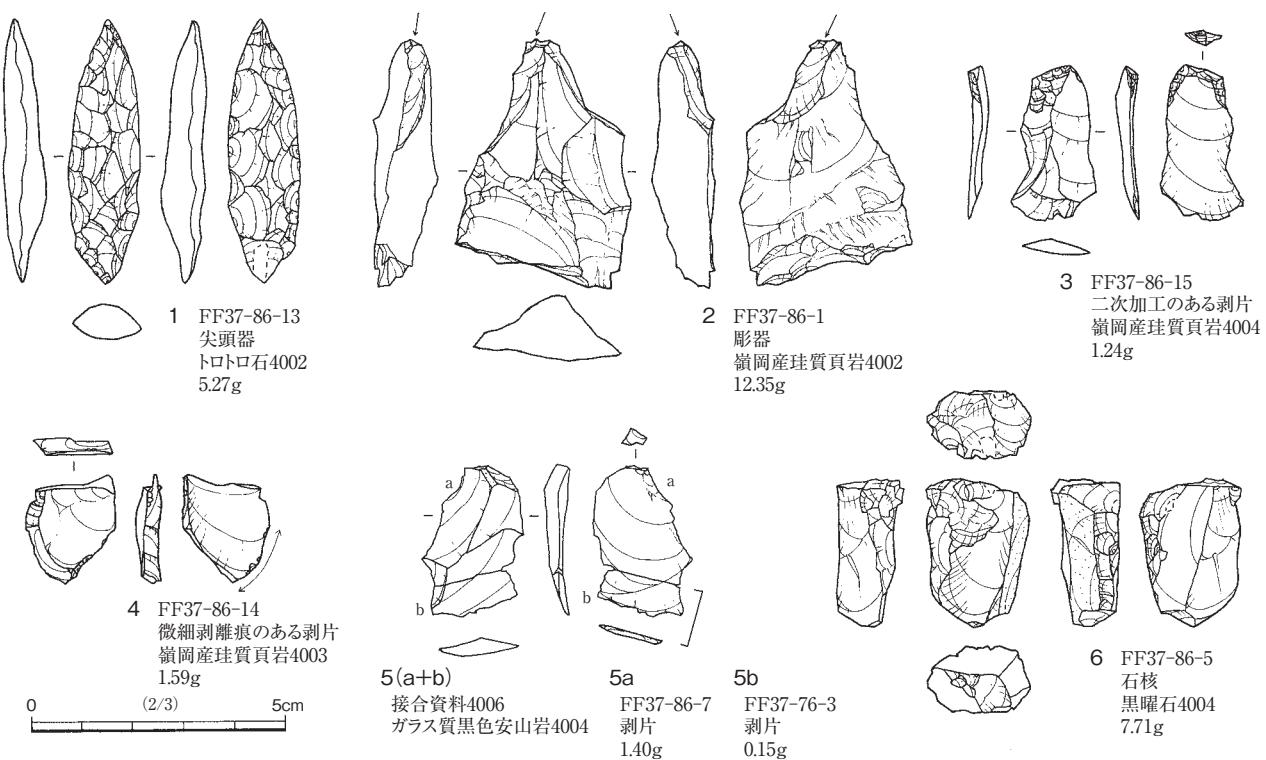
2は彫器である。背面に多方向の剥離痕が残る不定形剥片、あるいは石核調整剥片が素材である。素材打面部が彫刀面打面に設定され、凸状となった端部から双刃の彫刀面が左右に振り分けられるように作出されている。第33ブロックの嶺岡産珪質頁岩は5種類の母岩に分類されているが、この中でも特に灰白色の良質な部位が利用されており、油脂状の微光沢と緻密で滑らかな質感を持つ。

3は二次加工のある剥片である。小型で縦長であり厚みが少ない。背面には上方からの連続した剥離痕跡があり、同じような薄型縦長の剥片を目的としたことが理解される。小剥離痕は背腹両面の打面部付近にみられるが、打点を除去するかのような二次加工痕は主要剥離面側にみられ、両側縁に及ぶ。2よりも褐色の強い嶺岡産珪質頁岩4004が母岩である。

4は微細剥離痕のある剥片である。同じ打面から連続して剥離された1片で、均一な厚みを持つ。打面部は折れて遺存しない。主要剥離面側の側縁下部に刃こぼれ状の微細剥離痕がみられる。嶺岡産珪質頁岩4003を母岩とする。2の嶺岡産珪質頁岩4002と色や質感は近似するが接合関係はない。

5は剥片である。約6m離れた2片の接合資料であるが、折れ部分の厚みは1mmほどと大変薄く、人為的な折れとは考え難い。風化により赤茶色を帯びたガラス質黒色安山岩4004を母岩とする。同一母岩は北側に3点と、南東部に大きく離れて1点が分布する。

6は石核である。右側面と下面の一部に無光沢の風化剥離面が残る。正面の剥離痕は打点直下が大きく凹んでおり、そこから派生した剥離痕が左側縁に連なる。右側面に裏面からの連続した小剥離痕が並び、削器様の縁辺が作出される。上下両面は平坦だが両設打面ではなく、上面からの加撃のみが施される。打面調整や縁辺の調整などはみられない。薄墨色を基調とした半透明の黒曜石だが、全体に黄褐色の粉がかかったような濁りが覆う。器面の荒れ、剥離面の変色痕から、被熱した可能性がうかがわれる。



第6-21図 第4文化層第33ブロック出土石器

4 第4文化層第34ブロック(第6-22~24図、第6-14表、図版25・27)

出土状況 調査区南東端中央付近のFF37-96・97、FF38-06・07グリッドに位置し、4.2m×4.2mの範囲から56点の石器類、礫・礫片が出土した。大部分は直径3.0mの円内に集中するが、その外側の北から東にかけて約10点が散漫に分布する。この集中域には4個体19点の礫片接合資料が含まれており、熱を受けて赤黒く変色した破碎礫が大半である。細かく碎けたため全体の出土点数を押し上げているが、ブロックの形成当初は石器類と礫合させて十数個ほどが持ち込まれたものと思われる。出土層位はIX層～II層で、V層とIII層上部に集中域が分かれるが、上下で接合する資料があるため、同一の文化層・生活面ととらえた。

出土遺物 器種組成は尖頭器2点、二次加工のある剥片3点、微細剥離痕のある剥片1点、剥片13点、碎片2点、石核1点、敲石1点の石器類23点と、礫4点、礫片29点の礫・礫片33点である。石器類の石材はホルンフェルス10点、トロトロ石4点、ガラス質黒色安山岩3点、珪質頁岩3点、黒曜石1点、嶺岡産珪質頁岩1点、砂岩1点である。礫・礫片の石材は砂岩13点、石英斑岩13点、チャート5点、ホルンフェルス2点である。

1・2は尖頭器である。1の下部は欠損しているが、縦長剥片を素材とし、打面側を基部に、末端側を尖頭部とした片面加工であり、先端部左肩には樋状剥離がみられる。夾雜物のない黒色不透明の黒曜石製である。2は非対称形の片面打製の尖頭器であり、折れによって器厚が薄くなった部分を刃部としている。成形後の先端部正裏面に微細な剥離痕があり、尖頭部を作出あるいは調整した痕跡が残っている。ナイフ形石器の再加工品ともとらえられよう。母岩はガラス質黒色安山岩4005で、このほか剥片2点を組成する。

3は二次加工のある剥片である。左端部に衝撃剥離痕、打面を除く全周に微細な剥離痕がみられる。二次加工痕は端部の縁辺と抉入部に顕著である。自然面・剥離面とも明黄褐色で微光沢のある石材が利用されており、東北方面からの搬入石材の可能性もある。

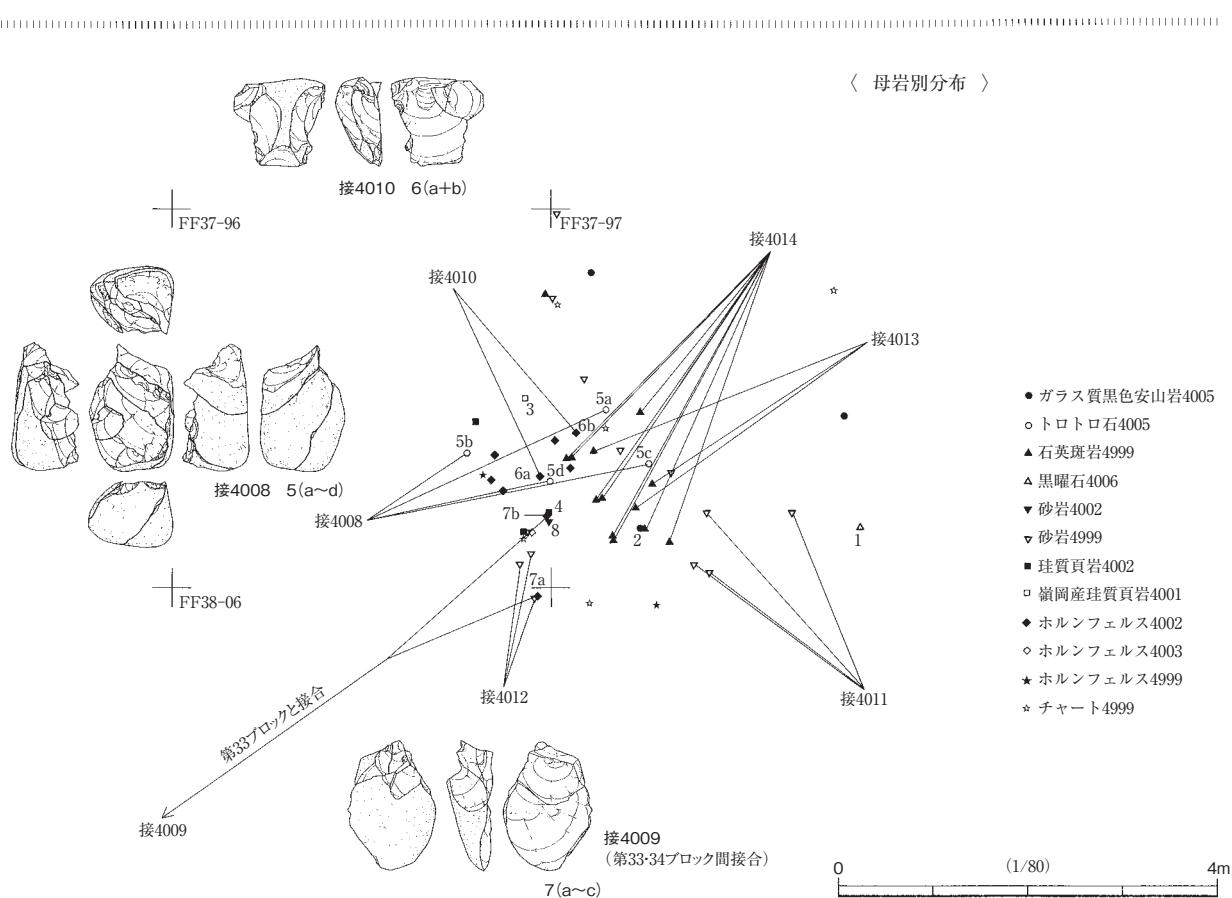
4は微細剥離痕のある剥片である。3端部が尖鋭の矩形を呈し、緩やかな弧状の縁辺には使用痕がみられる。黒色で微光沢を持つ珪質頁岩4002が母岩であり、このほかに剥片、碎片を組成する。

5～7は接合資料である。5は二次加工のある剥片1点、剥片2点、石核1点が接合した。作出された剥片類に打点はなく、5a・5cは折れによる欠損、5bは背面側から斜めに加工される。母岩のトロトロ石4005は出土した4点すべてが接合し、直径2mの円内に収まる。

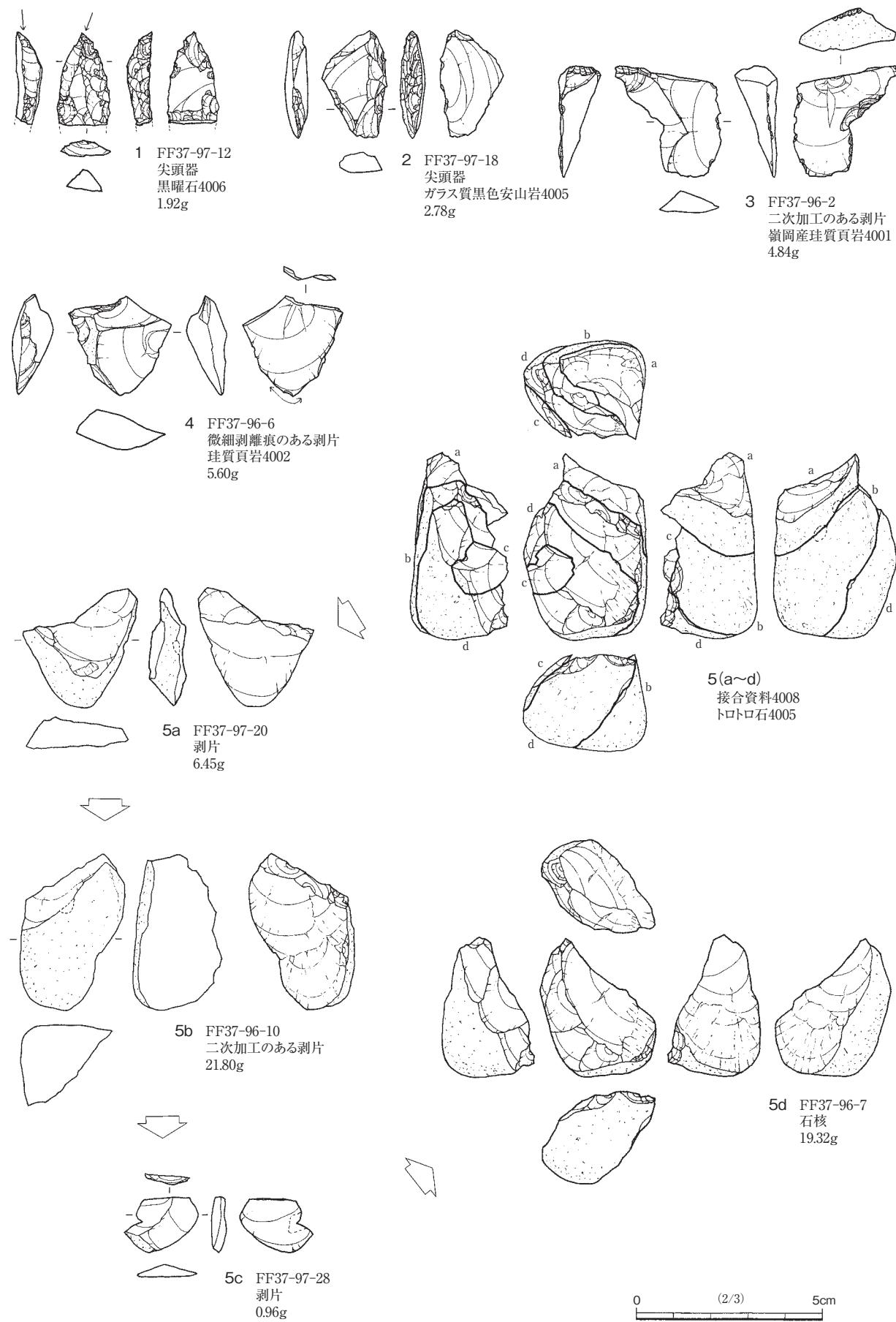
6は二次加工のある剥片と剥片が接合した。自然面を削いで打面とし、6aが剥離される。6bとの連続性はなく、別塊から剥離されものであろう。6aの右下縁辺に二次加工痕、左側縁に微細剥離痕が連続する。

7は第33ブロックの剥片1点と第34ブロックの2点が接合した。ブロック間の接合であるが、最長でも5mと離れていない。だが、第33ブロック出土の貝殻状の剥片は全体的に黄褐色に風化し、点状紋も顕著である。剥離工程は6と同様、自然面を削いで打面とし、縁辺の広い剥片が作出される。6・7とも灰色のホルンフェルス4002が母岩である。

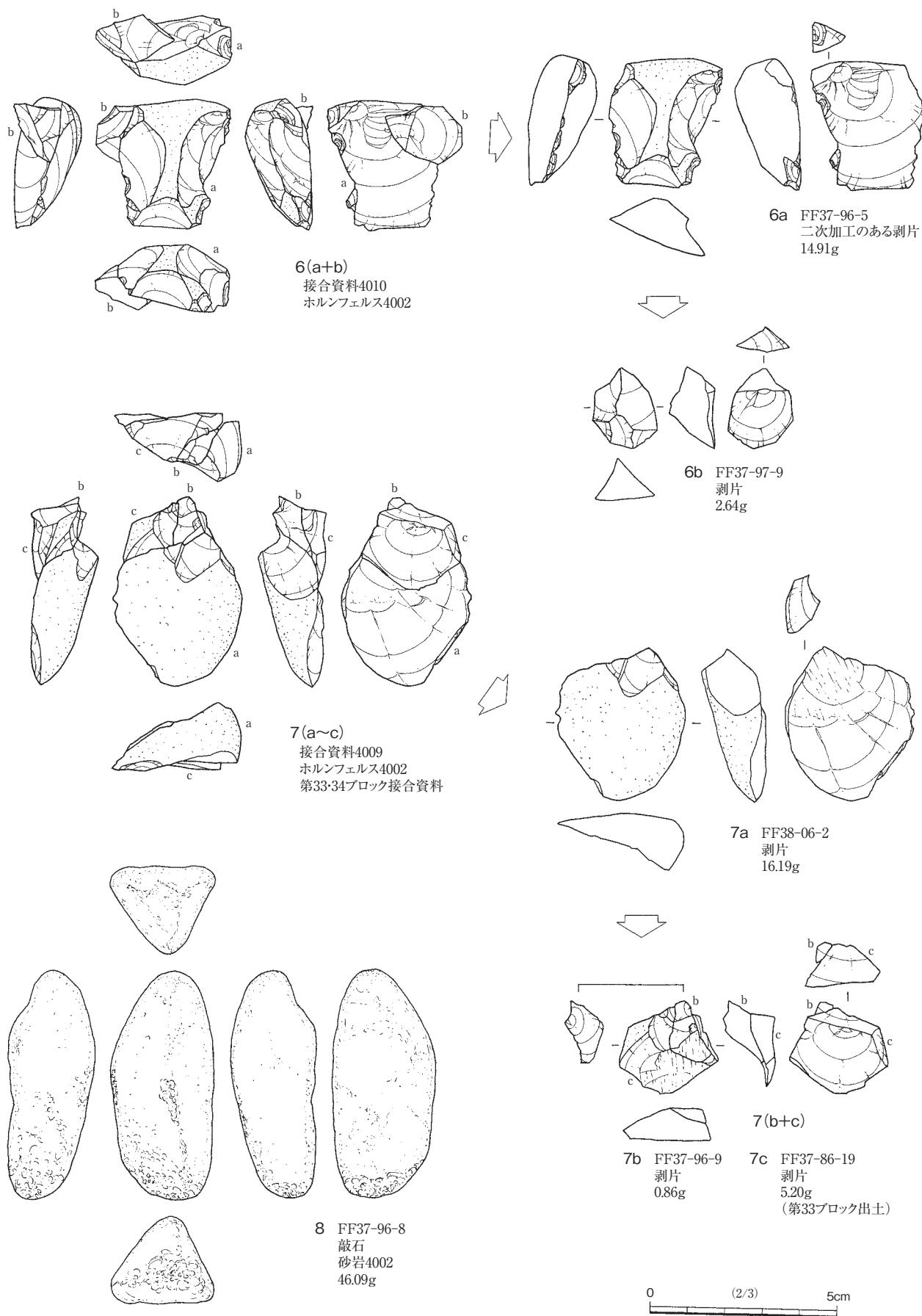
8は三角柱状の敲石で、一端は凸、もう一端は丸みを持つ。敲打痕は丸みのある端部にみられ、ざらついて白く変色している。砂岩製で所々赤みを帯びる。



第6-22図 第4文化層第34ブロック遺物分布



第6-23図 第4文化層第34ブロック出土石器(1)



第6-24図 第4文化層第34ブロック出土石器(2)

第6-14表 第4文化層第34ブロック組成表

母岩 器種	母岩 番号	尖頭器	二次加工の ある剥片	微細剥離痕 のある剥片	剥片	碎片	石核	敲石	礫	礫片	点数 合計	点数比 (%)	重量合計 (g)	重量比 (%)
黒曜石	4006	1									1	1.79	1.92	0.12
ガラス質黒色安山岩	4005	1		2							3	5.36	4.39	0.27
トロトロ岩	4005		1		2		1				4	7.14	48.53	3.00
珪質頁岩	4002			1	1	1					3	5.36	6.79	0.42
嶺岡産珪質頁岩	4001		1								1	1.79	4.84	0.30
ホルンフェルス	4002		1		7	1					9	16.07	40.81	2.52
	4003				1						1	1.79	47.42	2.93
	4999									2	2	3.57	36.99	2.29
ホルンフェルス合計			1		8	1				2	12	21.43	125.22	7.74
チャート	4999								3	2	5	8.93	223.25	13.81
砂岩	4002						1				1	1.79	46.09	2.85
	4999									13	13	23.21	510.78	31.59
砂岩合計							1		13	14	25.00	556.87	34.44	
石英斑岩	4999								1	12	13	23.21	645.11	39.90
全体点数合計		2	3	1	13	2	1	1	4	29	56	100.00	1,616.92	100.00

5 第4文化層第35ブロック(第6-25・26図、第6-15表、図版25・27)

出土状況 調査区南東端中央付近のFF38-07・08・17・18グリッドに位置し、5.2m×5.7mの範囲から29点の石器類、礫・礫片が出土した。全体に散漫な分布状況を示している。出土層位はⅨ層～Ⅲ層で、南東に分布する石器はⅨ層～Ⅶ層といった下位の層に、ガラス質黒色安山岩4006で構成される北側の石器はⅢ層に投影される傾向がある。また、礫・礫片は概ね上位層から出土している。

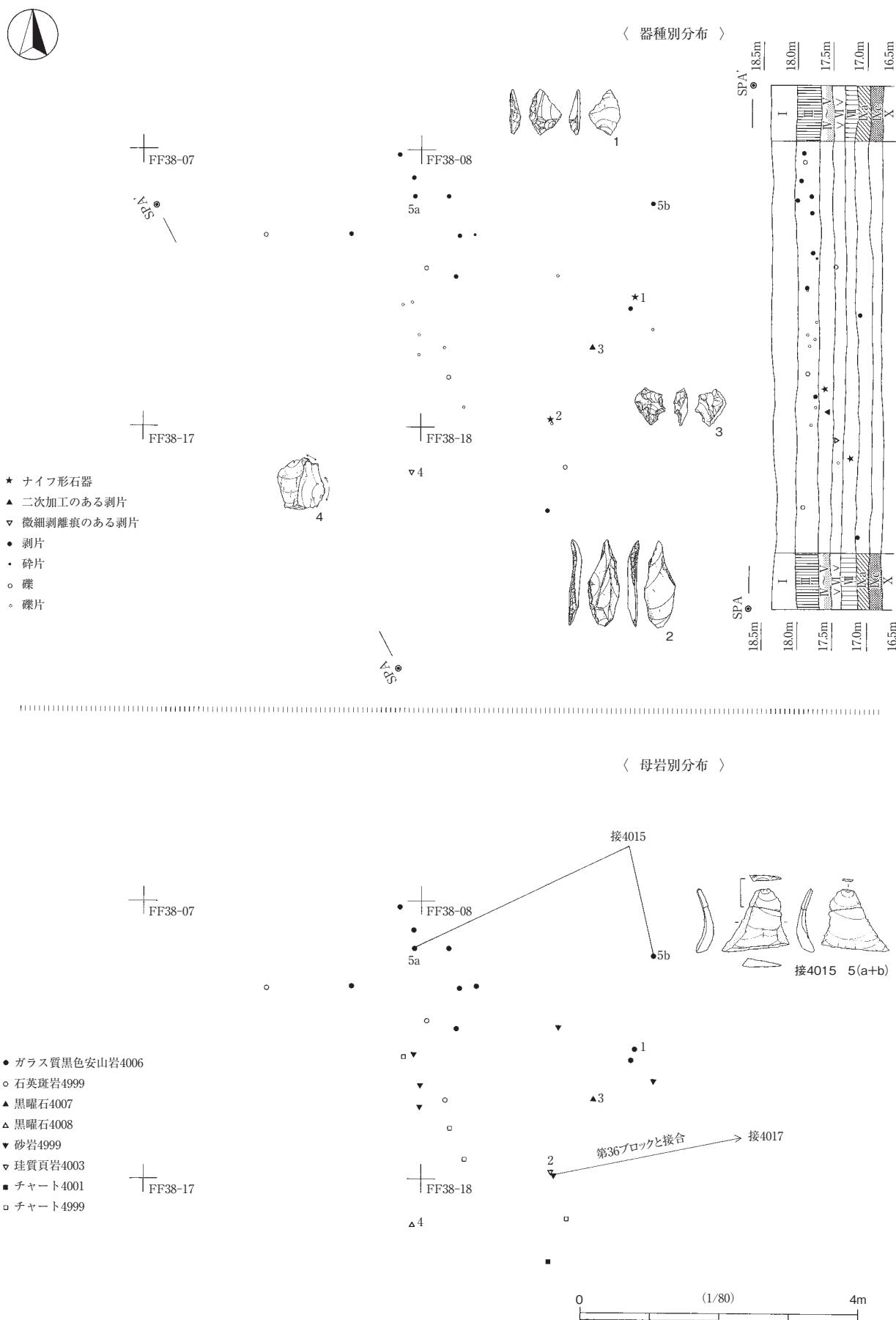
出土遺物 器種組成はナイフ形石器2点、二次加工のある剥片1点、微細剥離痕のある剥片1点、剥片10点、碎片1点の石器類15点と礫4点、礫片10点の礫・礫片14点である。石器類の石材はガラス質黒色安山岩11点、黒曜石2点、珪質頁岩1点、チャート1点である。礫・礫片の石材は砂岩6点、チャート5点、石英斑岩3点である。

1・2はナイフ形石器である。1の最大長は24.3mm、幅17.5mmであり、小型矩形である。左側縁に連続した鋸歯状の剥離が施され、刃部には刃こぼれのような弱い凹凸がみられるが、風化により磨耗し人為的なものかどうかはわからない。基部先端は尖る。ガラス質黒色安山岩4006を母岩とする。2は石刃素材のナイフ形石器である。打面側を刃部とし、左側縁下半部と右側縁上半部に主要剥離面側から急角度の加工が施される。初期の刃部は上方にわずかに遺存する。左上半部の内湾している部分には背面側からの剥離痕が連続しているが、風化の度合いが他面と違い、新鮮さが感じられる。再加工品あるいはガジリの可能性がある。灰褐色で光沢を失った珪質頁岩4003が母岩である。

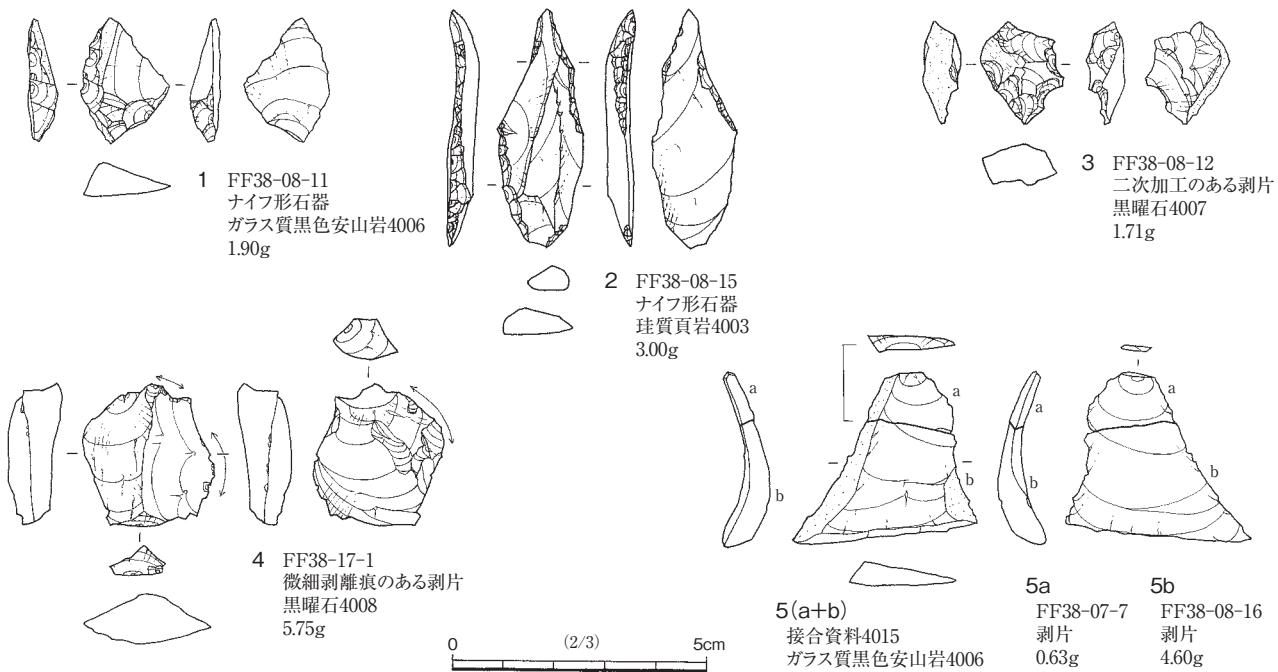
3は二次加工のある剥片である。左側面は自然面、背面左上部に風化剥離面がみられることから、素材は小型で板状を呈していたものと推定される。右縁辺は一端を残して鋸歯状に抉れており、錐などの機能部が存在したものと想定される。夾雜物を多く含み、灰色混じりで黒色不透明な黒曜石4007を母岩とする。

4は微細剥離痕のある剥片である。背稜が通り、主要剥離面にふくらみを持つ剥片で、縁辺に微細剥離痕がみられる。大小の夾雜物が万遍なく入り、全体的に黄褐色がかかった黒色不透明の黒曜石4008を母岩とする。

5は上下で接合した三角形状の剥片である。2片の距離は3.4mである。使用痕や加工痕はみられない。母岩は1と同じくガラス質黒色安山岩4006である。



第6-25図 第4文化層第35ブロック遺物分布



第6-26図 第4文化層第35ブロック出土石器

第6-15表 第4文化層第35ブロック組成表

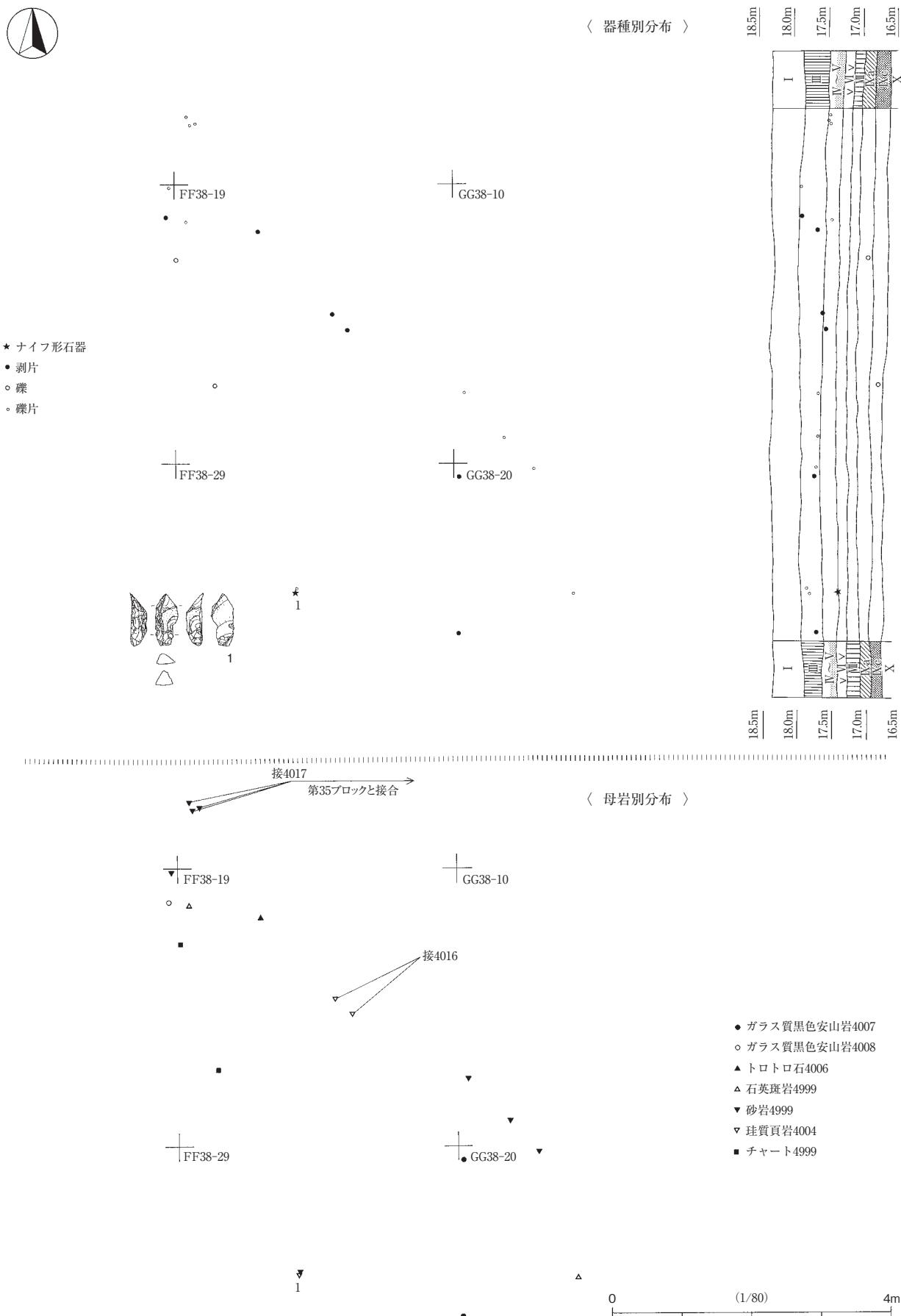
母岩	器種	母岩番号	ナイフ形石器	二次加工のある剥片	微細剥離痕のある剥片	剥片	碎片	礫	礫片	点数合計	点数比(%)	重量合計(g)	重量比(%)
黒曜石	4007			1						1	3.45	1.71	0.28
	4008				1					1	3.45	5.75	0.94
黒曜石合計				1	1					2	6.90	7.46	1.22
ガラス質黒色安山岩	4006	1				9	1			11	37.93	26.90	4.39
珪質頁岩	4003	1								1	3.45	3.00	0.49
チャート	4001					1				1	3.45	0.51	0.08
	4999							2	3	5	17.24	77.22	12.60
チャート合計						1		2	3	6	20.69	77.73	12.68
砂岩	4999							6		6	20.69	213.06	34.77
石英斑岩	4999						2	1	3	3	10.34	284.63	46.45
全点数合計		2	1	1	10	1	4	10		29	100.00	612.78	100.00

6 第4文化層第36ブロック(第6-27・28図、第6-16表、図版25・27)

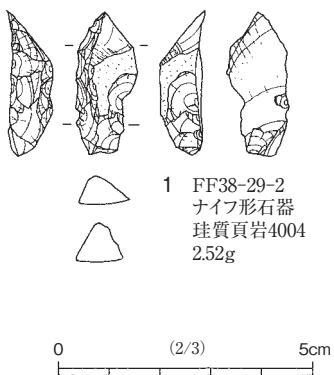
出土状況 調査区南東端南側のFF38-09・18・19・29、GG38-10・20グリッドに位置し、6.4m×5.8mの範囲から19点の石器類、礫・礫片が出土した。全体に散漫な分布状況を示している。出土層位はⅨ層～Ⅲ層で、Ⅲ層下部に集中する。礫・礫片が12点であり63%を占める。

出土遺物 器種組成はナイフ形石器1点、剥片6点、礫・礫片12点である。石器類の石材はガラス質黒色安山岩3点、珪質頁岩3点、トロトロ石1点である。礫・礫片の石材は砂岩8点、チャート2点、石英斑岩2点である。

1はナイフ形石器である。最大長は28.0mmに満たないが厚みがあり、断面は正三角形を呈す。山高の背稜からは左縁辺に向けて細かく加擊されており、器体左部には背腹両方向の剥離痕がみられる。灰色で光沢のある珪質頁岩4004が母岩であり、このほかに剥片2点を組成する。



第6-27図 第4文化層第36ブロック遺物分布



第6-28図 第4文化層第36ブロック出土石器

第6-16表 第4文化層第36ブロック組成表

母岩	器種	母岩番号	ナイフ形石器	剥片	礫	礫片	点数合計	点数比(%)	重量合計(g)	重量比(%)
ガラス質黒色安山岩		4007		2			2	10.53	1.50	0.16
		4008		1			1	5.26	0.95	0.10
ガラス質黒色安山岩	合計			3			3	15.79	2.45	0.26
トロトロ石		4006		1			1	5.26	33.61	3.58
珪質頁岩		4004	1	2			3	15.79	4.17	0.44
チャート		4999			2		2	10.53	73.00	7.78
砂岩		4999				8	8	42.11	795.46	84.80
石英斑岩		4999				2	2	10.53	29.32	3.13
全 体 点 数 合 計			1	6	2	10	19	100.00	938.01	100.00

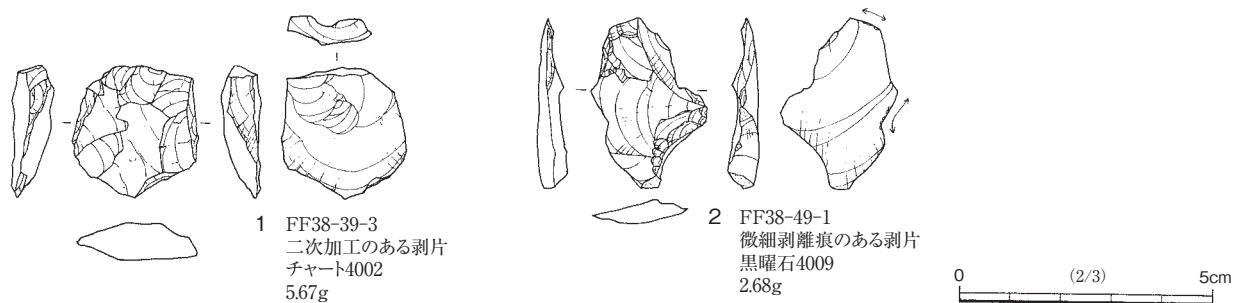
7 第4文化層第37ブロック(第6-29・30図、第6-17表、図版25・27)

出土状況 調査区南東端南側のFF38-39・49、GG38-30・40・50グリッドに位置し、5.9m×4.1mの範囲から12点の石器類、礫・礫片が出土した。石器類4点は南北の直線状に並ぶが、礫片8点は全体に散漫な分布状況を示している。出土層位はV層～Ⅲ層である。

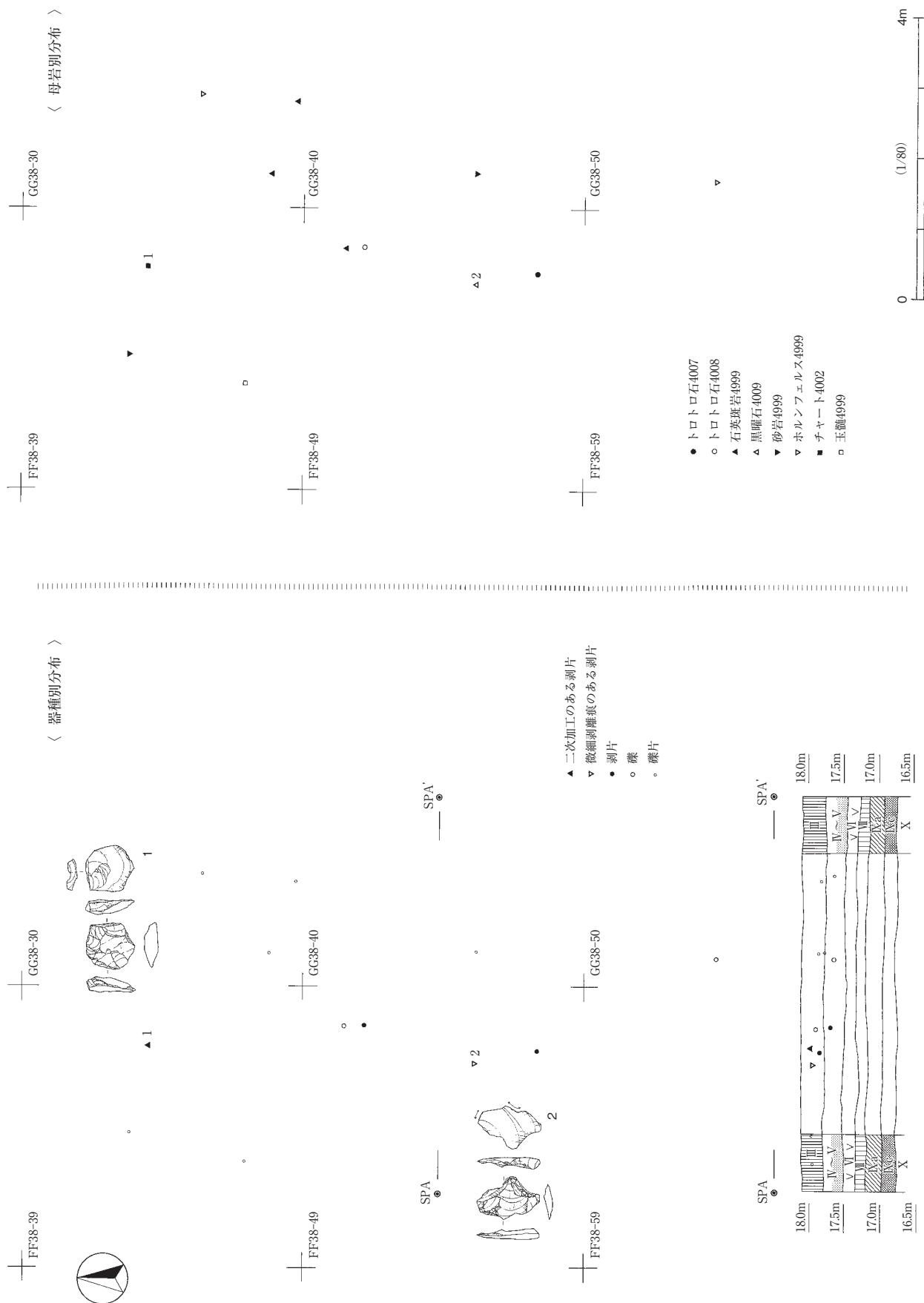
出土遺物 器種組成は二次加工のある剥片1点、微細剥離痕のある剥片1点、剥片2点の石器類4点と礫2点、礫片6点の礫・礫片8点である。石器類の石材はトロトロ石2点、黒曜石1点、チャート1点である。礫・礫片の石材は石英斑岩3点、ホルンフェルス2点、砂岩2点、玉髓1点である。

1は二次加工のある剥片である。貝殻状の剥片の縁辺に潰れたような加工痕が廻る。漆黒のチャートが用いられる。

2は上下に折れた剥片の下部であり、薄い縁辺に微細剥離痕がみられる。夾雜物が少なく透明度の高い黒曜石製で、わずかに青みを帯びる。



第6-29図 第4文化層第37ブロック出土石器



第6-30図 第4文化層第37ブロック遺物分布

第6-17表 第4文化層第37ブロック組成表

母岩 器種	母岩 番号	二次加工の ある剥片	微細剥離痕 のある剥片	剥片	礫	礫片	点数合計	点数比 (%)	重量合計 (g)	重量比 (%)
黒曜石	4009		1				1	8.33	2.68	0.76
トロトロ石	4007			1			1	8.33	10.43	2.96
	4008			1			1	8.33	10.15	2.88
トロトロ石	合計			2			2	16.67	20.58	5.85
玉髓	4999				1		1	8.33	1.44	0.41
ホルンフェルス	4999				1	1	2	16.67	59.14	16.81
チャート	4002	1					1	8.33	5.67	1.61
砂岩	4999					2	2	16.67	136.20	38.70
石英斑岩	4999				1	2	3	25.00	126.19	35.86
全 体 点 数 合 計		1	1	2	2	6	12	100.00	351.90	100.00

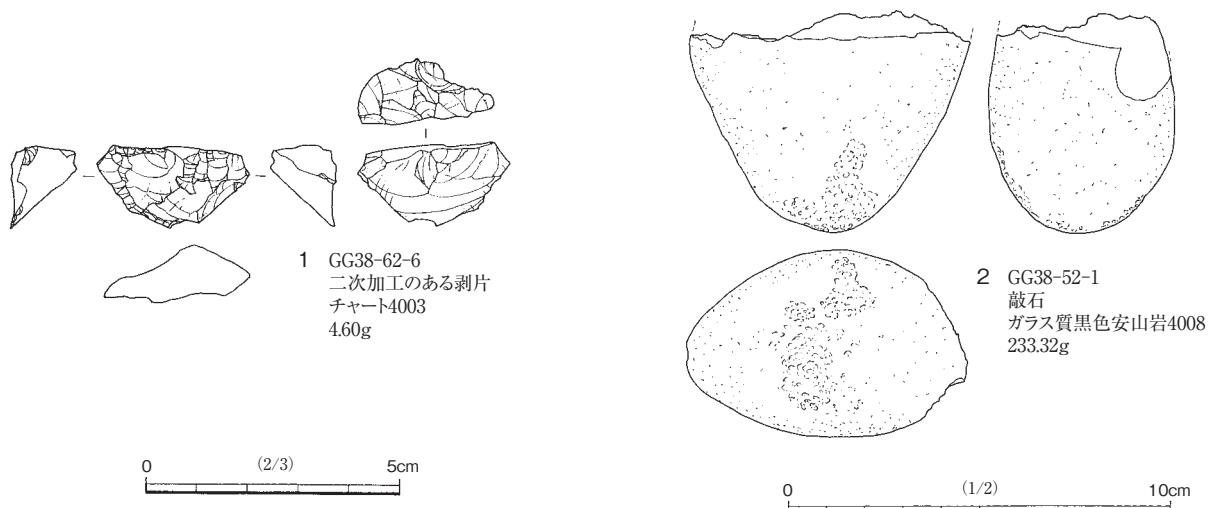
8 第4文化層第38ブロック(第6-31~33図、第6-18表、図版25・27)

出土状況 調査区南東端南側のGG38-41・42・51・52・60~62・71・72グリッドの11.2m×8.8mの範囲から43点の石器類、礫・礫片が出土し、それらはまとまりなく散漫な分布状況を示している。大部分が礫・礫片で、石器類は図示した2点のみである。出土層位はVI層~Ⅲ層で、1はVI層、2はV層、礫・礫片の分布はⅢ層付近に多い。

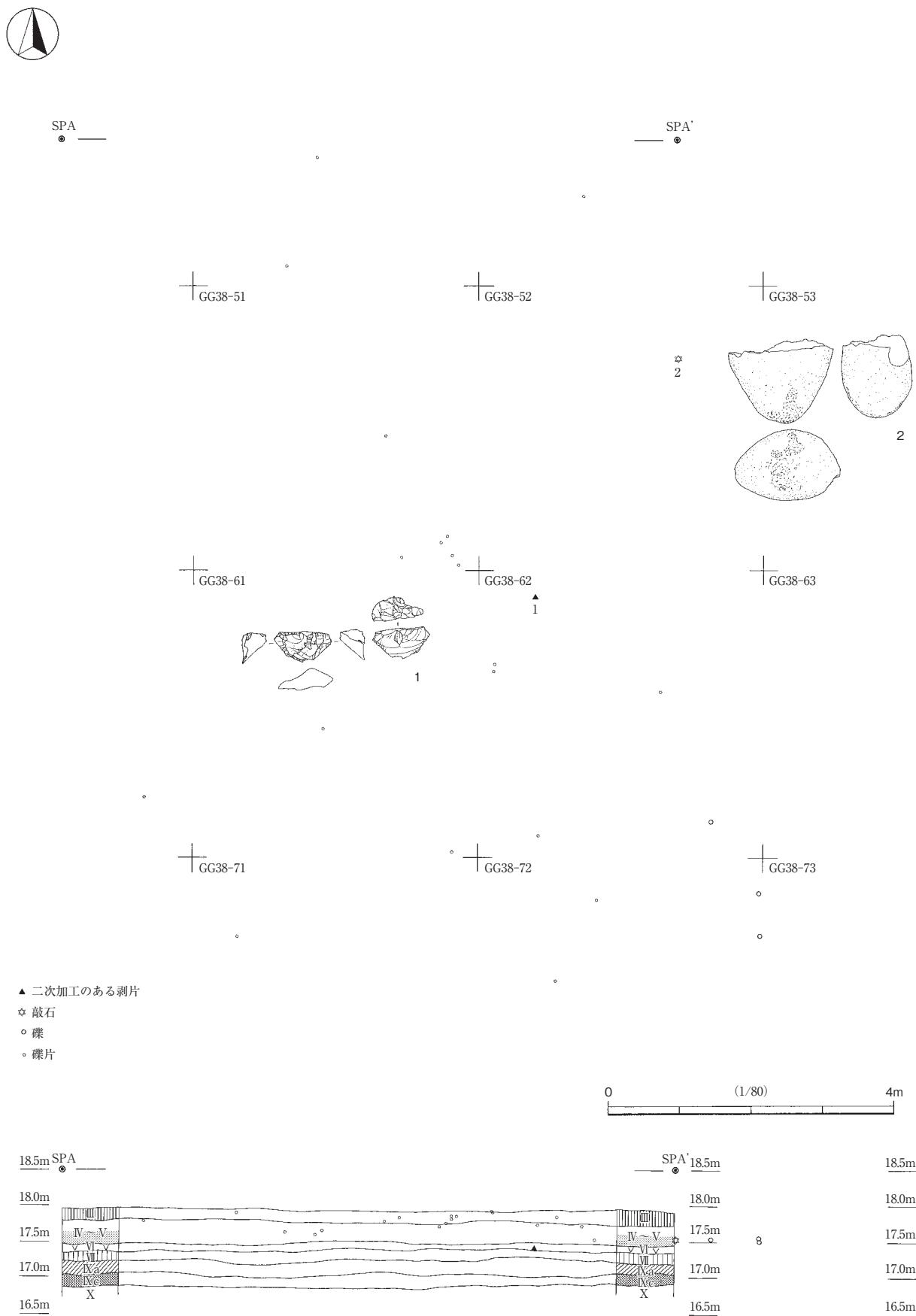
出土遺物 器種組成は二次加工のある剥片1点、敲石1点、礫3点、礫片38点である。石器類の石材はガラス質黒色安山岩1点、チャート1点で、礫・礫片の石材は砂岩25点、石英斑岩12点、チャート4点である。

1は二次加工のある剥片である。加工部位は打面と左側縁部であるが、玻璃質な石材ゆえ、加工痕か破碎かは明確ではない。褐色で油脂状光沢のあるチャートが利用される。

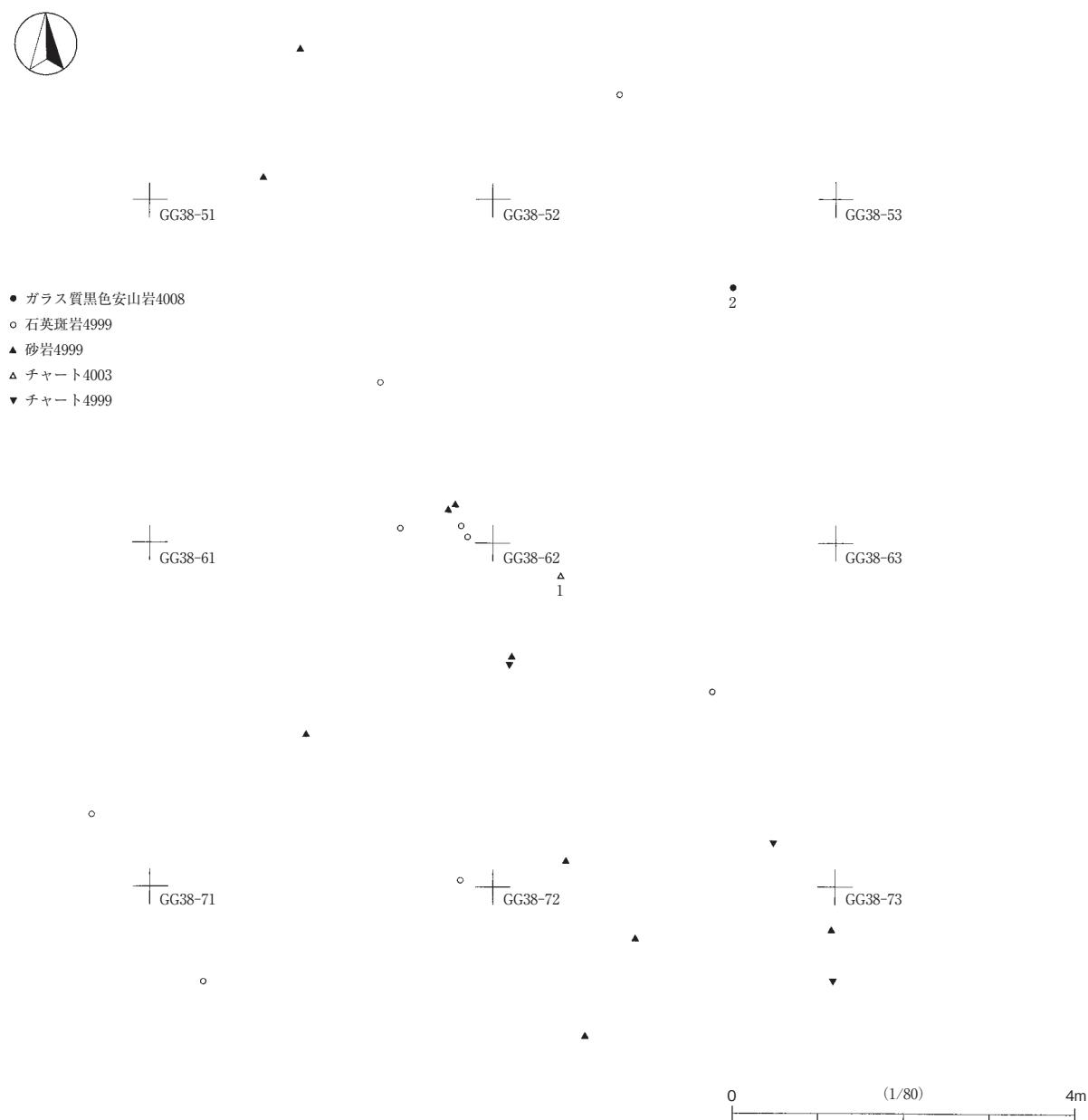
2は敲石である。握り拳大の原石の下部であり、弱い敲打痕が端部にみられる。剥片類の素材として用いられることの多いガラス質黒色安山岩製であるが、第38ブロックでは加工工具として利用される。



第6-31図 第4文化層第38ブロック出土石器



第6-32図 第4文化層第38ブロック器種別分布



第6-33図 第4文化層第38ブロック母岩別分布

第6-18表 第4文化層第38ブロック組成表

母 岩	器 種	母岩番号	二次加工 のある剥片	敲石	礫	礫片	点数合計	点数比 (%)	重量合計 (g)	重量比 (%)
ガラス質黒色安山岩		4008		1			1	2.33	233.32	6.73
チ ャ 一 ト		4003	1				1	2.33	4.60	0.13
		4999			2	2	4	9.30	1,272.93	36.69
チ ャ 一 ト 合 計			1		2	2	5	11.63	1,277.53	36.83
砂 岩		4999			1	24	25	58.14	1,373.51	39.59
石 英 斑 岩		4999				12	12	27.91	584.80	16.86
全 体 点 数 合 計			1	1	3	38	43	100.00	3,469.16	100.00

第4節　まとめ(第6-2・34図、第6-1・2表)

原畠遺跡第22～29次調査では、11か所のブロックから411点と単独2点を合わせた石器413点が出土した。これらはV層～IV層下部、Ⅲ層下部～Ⅲ層中部の2枚の文化層に分かれる。今回の調査では第1・2文化層の石器群が検出されなかったため、第3文化層第28ブロックから報告を始めた。文化層の概要については第6-2図の文化層ブロック位置図、第6-1・2表の文化層別器種・石材組成表を参照していただきたい。文化層別に主要石器を掲載した第6-34図を中心に、各石器群の様相を述べ、まとめとする。

1 第3文化層(第6-34図1～9)

V層～IV層下部に生活面を持つと考えられる石器群であり、第28～31ブロックの4か所から109点が出土した。南東部では第28～30ブロックの3か所がまとまり、出土した石器の大部分は夾雜物を多く含む黒色不透明の黒曜石である。だが、この中にあって挿図番号1の角錐状石器だけは、銀色の縞模様で夾雜物の少ない良質な黒曜石製である。厚みのある縦長剥片素材で、先端の断面形は正三角形、器体中央部では台形である。側縁部からの最終調整は背面まで抜けておらず、階段状剥離となる。側縁の加工は鋸歯縁状でやや粗い感があるが、先端部は尖銳で機能的な形態を呈する。2～4は二側縁加工のナイフ形石器、5～7は二次加工のある剥片である。5・6は上部の欠損したナイフ形石器、7は削器の下部欠損品である可能性がある。2～7はいずれもブロック内で作出された石器であり、左右非対称形を呈する。8・9は磨石である。8は第29ブロックの石器密集域を構成する直径1.5mの縁に位置する。円柱状を呈する磨石の端部にはごく弱いザラ感が残るが、砕けやすい黒曜石を剥離するための加工工具として、この場所で使用された可能性が考えられる。

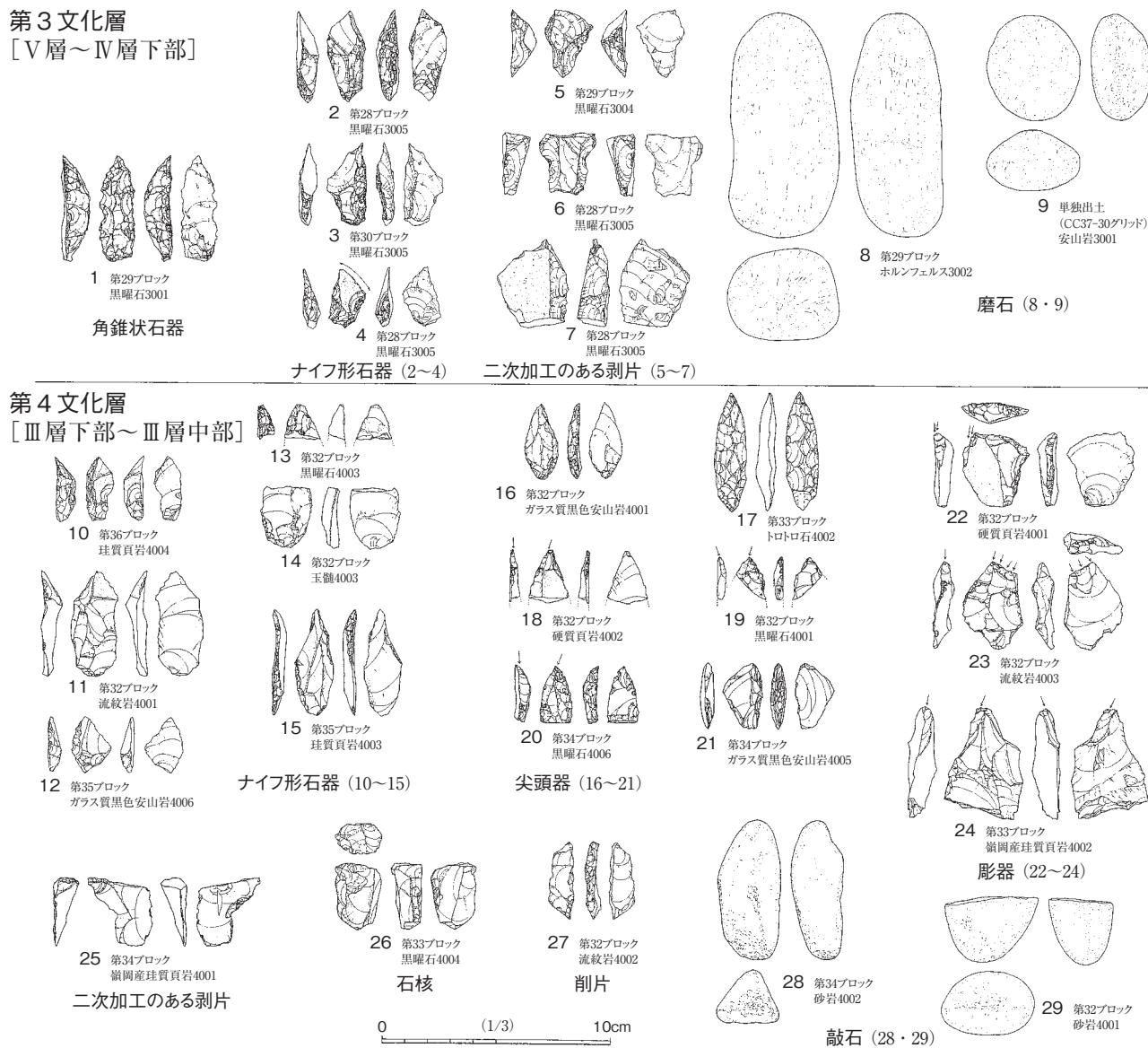
2 第4文化層(第6-34図10～29)

第4文化層はⅢ層下部～Ⅲ層中部に生活面を持つと考えられる石器群であり、北西の第32ブロックから南東端の第38ブロックの7か所から304点が出土した。ブロックは調査区南東端に位置し、調査域の制約を受けて北西-南東方向に直線状に連なる。石器は散漫に、礫・礫片は疎密をもって分布する。

10～15にナイフ形石器をまとめた。大きさや形状、石材に統一性はない。16～21は尖頭器である。石材は4種類だがすべて別母岩である。16は片面加工で左右対称形に近く、17は精緻な両面加工の対称形である。18～20に楕状剥離がみられる。21は剥落して器厚が薄くなった部分を刃部としている。先端部に細かな調整痕が残る。22～24は彫器である。22・23は彫刀面打面から左部に彫刀面が作出された資料で、24は双刃形である。いずれにも珪質硬緻な石材が用いられている。25は二次加工のある剥片、26は石核、27は削片である。28・29は敲石である。

このほか、図化には至らなかつたが、礫片が9点接合した資料、接4014(第6-22図で分布状況のみ提示)の復元値は長幅厚重各151.5mm、65.5mm、63.3mm、540.5gで、完形時の大さを推定すると、18cmは優に超えると思われる。尖頭器、彫器、敲石、大型の焼礫を組成した例は、9か所のブロックから732点が出土した白井市復山谷遺跡¹⁾第4文化層があげられ、規模の大きさこそ違うが多くの類似点を確認できる。

また、同じ事業地内の館林Ⅱ遺跡第5文化層第13ブロックでは第1石材に嶺岡産珪質頁岩が用いられており、本遺跡第33・34ブロックで出土した石材がこれに近似する。明確な示準石器の出土はないが器種組成・石材組成から、東内野型尖頭器²⁾を有する駒形遺跡第3文化層と同一段階の石器群と推定される。



第6-34図 原畠遺跡文化層別主要石器

注1 山岡磨由子 2012『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書27-白井市復山谷遺跡(6次~8次)(下層)-』

(公財)千葉県教育振興財団

2 東内野型尖頭器に関しては第4章駒形遺跡第3節のまとめ参照。

田村 隆ほか 2003『富里市東内野遺跡旧石器時代石器資料調査報告書』(財)千葉県史料研究財団

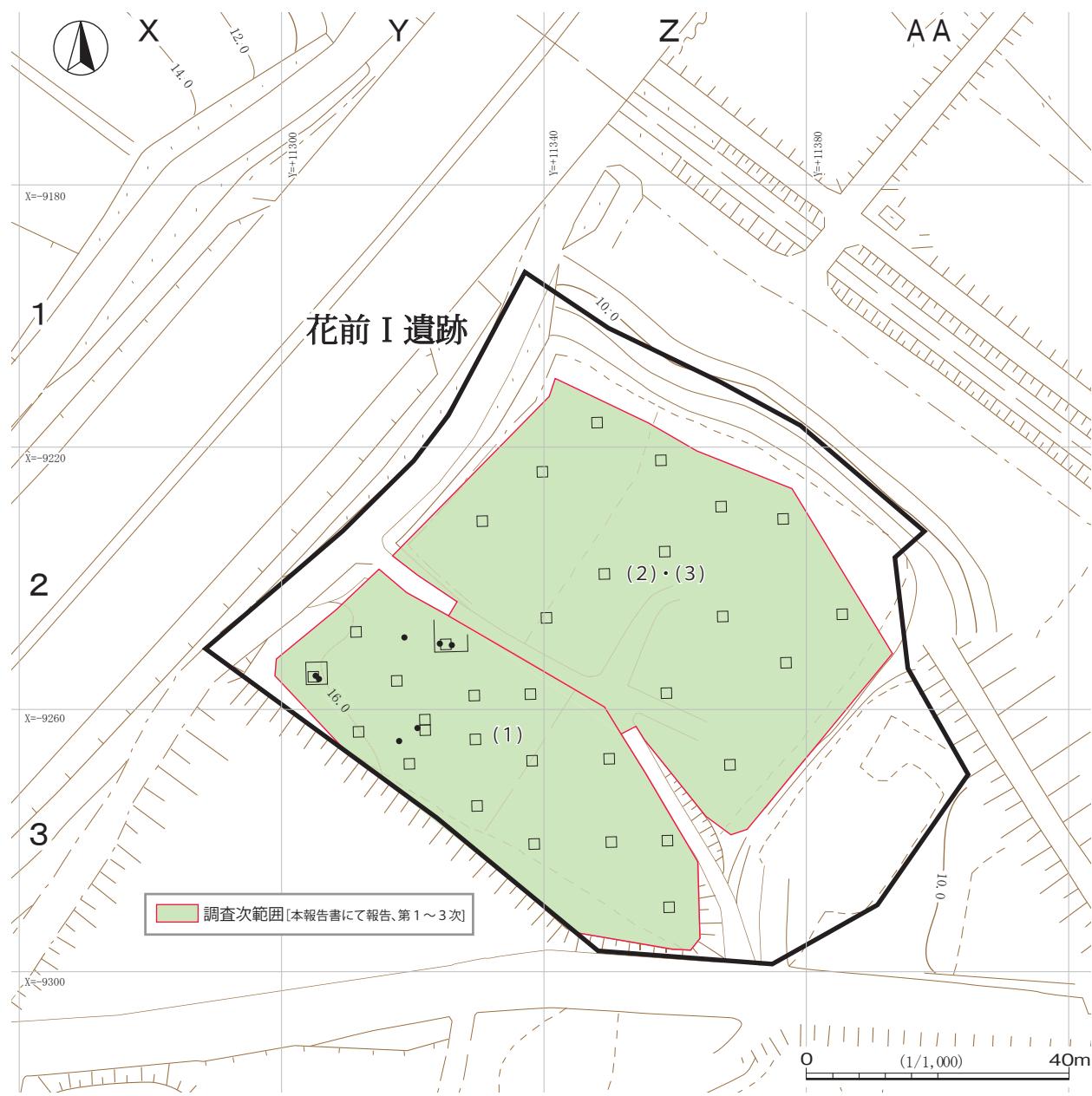
須藤隆司 2014「削片系両面調整石器-男女倉・東内野型有樋尖頭器の再構築-」『資源研究と人類』第4号

39-56頁

第7章 花前I遺跡

第1節 遺跡の概要(第7-1図)

調査範囲は第7-1図のとおりである。柏北部東地区では最北端に位置し、遺跡の北西には常磐自動車道、北東は南東方向へ向かう利根川に区画される。標高は15.0m～16.0mである。今回の下層調査では石器の集中域は確認されず、礫片を含む7点が南西部に散漫に出土するに留まったため、本調査には至らなかつた。ここではⅧ層出土の剥片1点と、上層調査時に出土した尖頭器、ナイフ形石器の計3点を報告する。なお、1984年の常磐自動車道建設に伴う調査では、Ⅸ層から扁平な橢円礫を用いた頁岩製の片刃礫器1点が出土している。



第7-1図 花前I遺跡調査次別区域と確認・本調査範囲

第2節 石器分布・出土石器(第7-2図、第7-1表、図版28・33)

石器は遺跡全体から疎らに出土している。包含される層位にはまとまりがなく、一括資料や上層の遺構に紛れ込んだ資料など、個々が単独出土の様相であるため、石器7点の出土した地点を全体図にプロットし、礫片を除いた3点を実測した。下位の層から順に記載する。

まず、IX層ではY2-76グリッドから2点の礫片が出土し、接合した。2点間は2m弱で上下差は約22cmである。自然面、剥離面とも灰白色の安山岩で、使用痕や被熱痕はないが、礫表面はごく滑らかである。推定される完形礫形状は小児の拳大ほどか。

VII層ではY3-05グリッドから砂岩の剥片1点が出土し、挿図番号1として実測した(第7-2図)。1の打面は2面あるが、背面はすべて自然面であり、工程初期の剥片と推定できる。打面を除く3縁辺は凸凹が顕著であり、フィッシャーによる器面の荒れや風化、使用の際の刃こぼれなどが要因として考えられる。

VI層～V層ではY2-81グリッドから礫片2点が出土した。流紋岩と砂岩であり、両方に赤変色がみられる。流紋岩は小片で元の形状は不明である一方、砂岩は扁平な橢円形を呈していたと推定される。

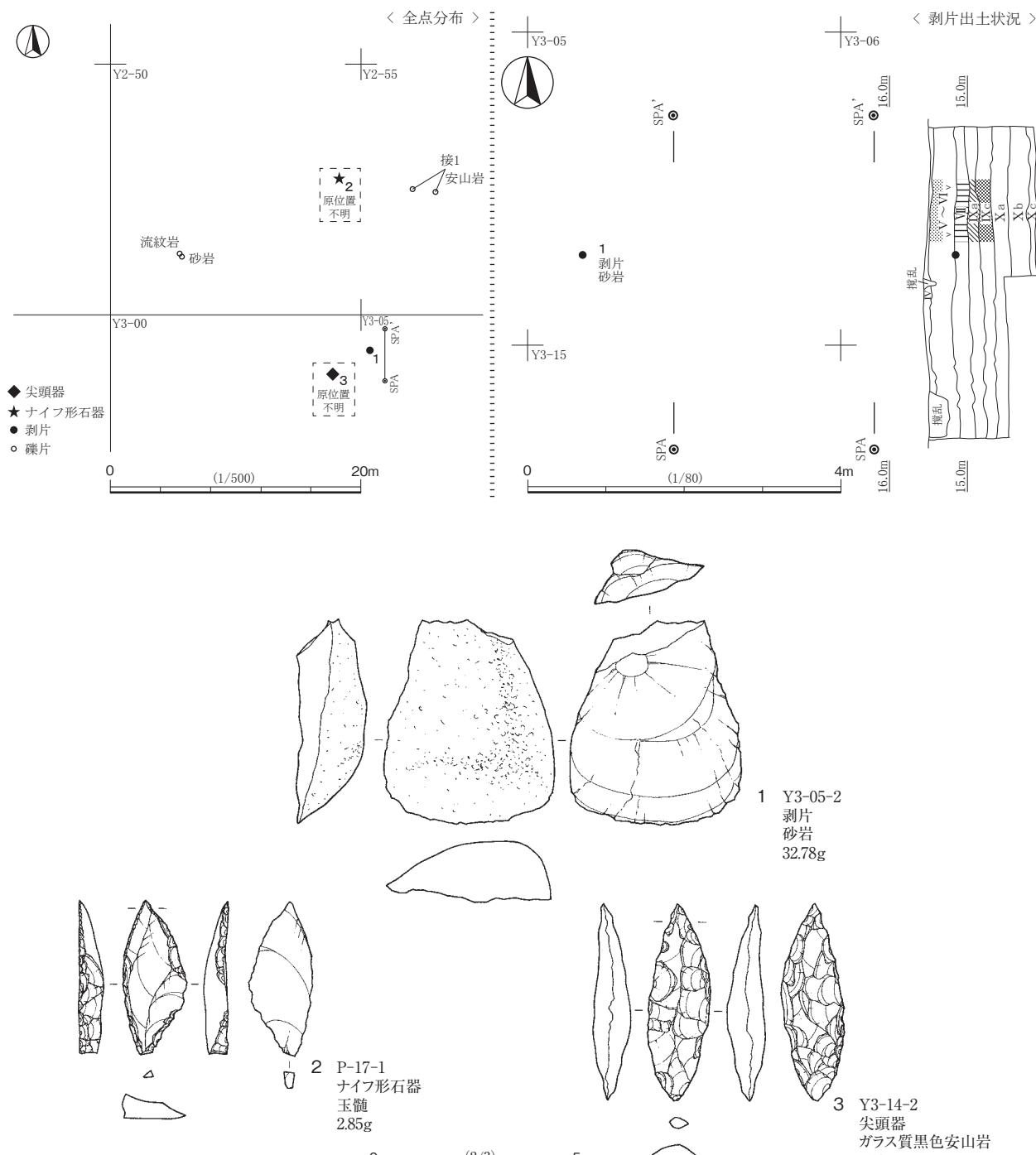
これらのはか、後世の遺構覆土から土器や礫、スラグとともに玉髓製のナイフ形石器(挿図番号2)が出土した。調査時の遺構はP-17(SB-003内のSK-009Aに変更)であり、この遺構が帰属するグリッドはY2-74である。当時の包含層や正確な出土位置は不明だが、旧石器時代のナイフ形石器ととらえた。石器の素材は橙色を帯びた白色半透明の玉髓の縦長剥片で、一側縁が急角度に調整される。主に主要剥離面を打面としているが、基部付近では背腹両面から入念な調整加工が施されている。なお、一側縁を急角度で調整し、尖鋭な先端部を持つ玉髓製の資料は成田市取香和田戸遺跡¹⁾第5文化層にもみられる。主要剥離面と右上部分の新旧関係において、主要剥離面が新しいと判断したが、逆であるならば、桶状剥離を持つ槍先形尖頭器の可能性を考えられる。

Y3-14グリッドでは槍先形尖頭器1点が出土した(挿図番号3)。グリッド一括資料の土器と混在していた石器であり、出土層位は当時遺存していた層位を反映してはいないが、近辺の土層堆積状況とともに出土状況を図版28に示した。石器の平面形は両端が尖鋭な細身の木葉形、いわゆる柳葉形を呈しており、背稜が中心を通る。最大幅は中央部にあるが、最大厚は中央からやや下方にある。全面に及ぶ両面加工により素材面は残されていない。なお、左上面には器面の1/4を削ぐような上方からの剥離面がみられるが、横方向から微調整され直線状に仕上げられている。風化面は濃い褐灰色だが、凹みに黄褐色のローム粉が混入したガラス質黒色安山岩が素材である。

注1 小久賀隆史・新田浩三 1994『新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅷ-取香和田戸遺跡(空港No60遺跡)-』(財)千葉県文化財センター

第3節 まとめ

花前I遺跡第1～3次調査区は柏北部東地区の北端に位置し、北東に利根川を臨む標高15.0m～16.0mに立地する。旧石器時代の遺物は遺跡の南西部、Y2グリッドからY3グリッドにかけて7点が点在する。礫・礫片4点、尖頭器・ナイフ形石器・剥片各1点が出土したが、石材、層位に統一感はなく、それぞれが単独で分布する。ガラス質黒色安山岩製の尖頭器は小型木葉形だが、リダクションが進んでいるため左右の形状はやや非対称である。ナイフ形石器は玉髓製の二側縁加工である。いずれにも明確な使用痕はみられなかった。



第7-2図 遺物分布・出土石器

第7-1表 石器組成表

石材	器種	尖頭器	ナイフ形石器	剥片	磚片	点数合計	点数比 (%)	重量合計(g)	重量比 (%)
ガラス質黑色安山岩		1				1	14.29	5.10	2.05
安山岩					1(2)	1(2)	28.57	170.01	68.23
流紋岩					1	1	14.29	3.43	1.38
砂岩				1	1	2	28.57	67.79	27.21
玉髓			1			1	14.29	2.85	1.14
合計		1	1	1	3(4)	6(7)	100.00	249.18	100.00

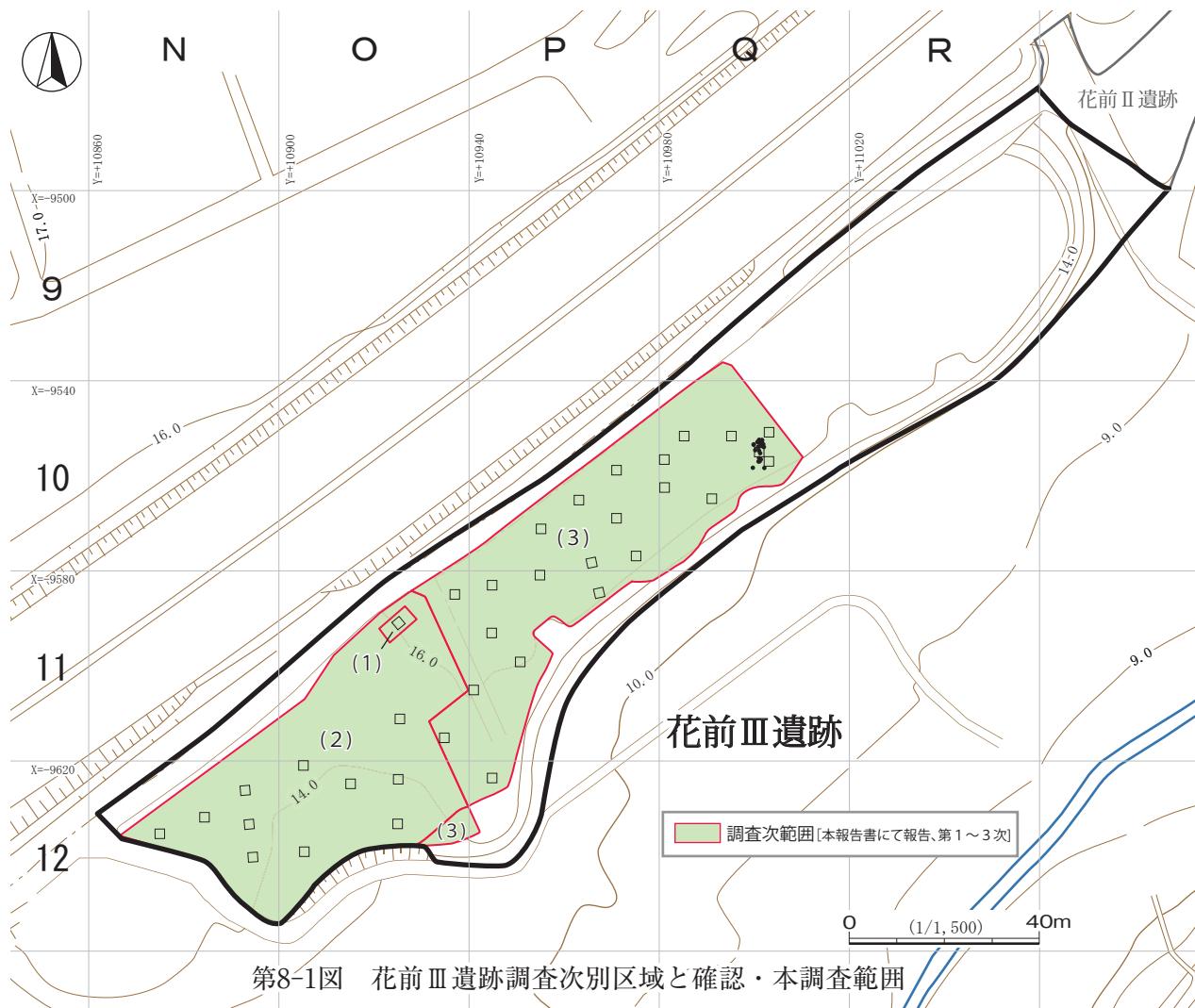
※ ()は出土点数

第8章 花前Ⅲ遺跡

第1節 遺跡の概要(第8-1図、第8-1表)

花前遺跡が所在する台地は下総台地の北西部に位置し、東には現在の利根川、南は古鬼怒湾水系の手賀沼に流入する地金堀(正連寺支谷)によって開析されている。東西に細長い我孫子台地の付け根付近にあたり、古常陸川から入る短い支谷により半島状に突出している。西側には古常陸川最奥部から入る谷としては最大である三ヶ尾沼谷がある。台地の標高は13.0m～18.0mである。

今回報告する花前Ⅲ遺跡第1～3次調査は柏市船戸字新町1479-1ほかに所在し、花前Ⅱ遺跡(標高約8m)の南西、標高16mほどの台地上に位置する。谷側と高位面とでは土層堆積状況に若干の違いがあるが、安定した堆積状況を示す高位面側の石器集中域北側、Q10-23グリッドを基本土層として実測した。花前Ⅲ遺跡第1～3次調査の縄文時代以降の報告は、柏北部東地区埋蔵文化財発掘調査報告書11にて刊行済みであり、本報告では旧石器時代の発掘成果を記載するものである。第1・2次調査では旧石器時代の遺構・遺物は検出されず、第3次調査で出土した石器の報告を行う。文化層・ブロックは1枚1か所で、V層～IV層下部に礫片を主体とした29点が分布する。器種・石材組成は第8-1表のとおりである。



第2節 第1文化層

1 第1ブロック(第8-2・3図、第8-1表、図版28・33)

出土状況

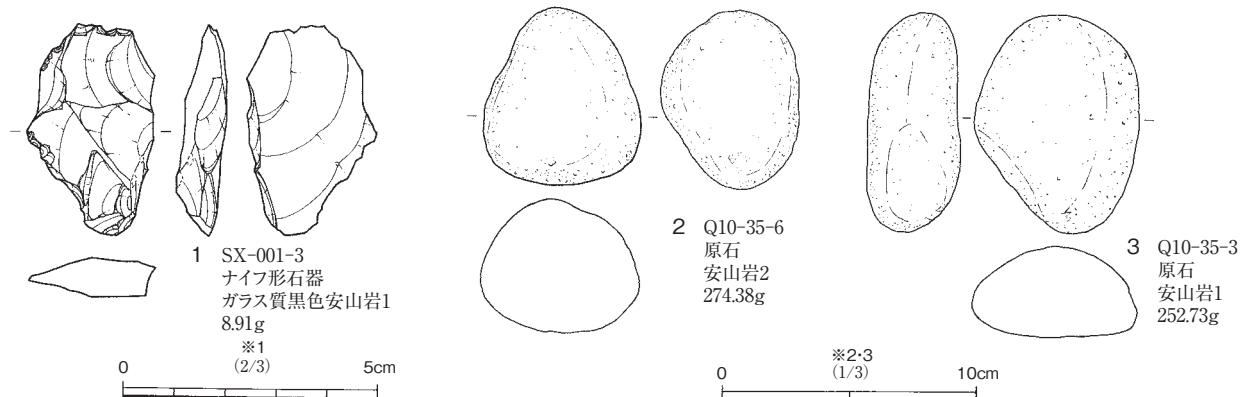
第1ブロックは第3次調査区の東端に位置し、東南側の低地との比高は現況で最少約6mである。Q10-35グリッドに分布の中心を持ち、3.2m×7.0mの橿円形状に礫片主体の集中域を確認した。石器、礫・礫片類の総出土点数は29点で、立川ロームV層～IV層下部に包含される。剥片石器は集中域の南端部から出土した1点のみで、これを除く原石2点、礫片26点が密度の高い分布域を形成しており、北東の調査区外へと広がっていることが予見される。また、北から南へ向かって緩やかに傾斜する地形上、南側から出土した石器はやや下位に位置付けられる傾向がある。

石材はガラス質黒色安山岩・安山岩・多孔質安山岩・流紋岩・石英斑岩・トロトロ石・砂岩・チャートである。ナイフ形石器のガラス質黒色安山岩と多孔質安山岩の小片を除くと、千葉県内で出土する礫・礫片類の石材構成と合致する。礫片には自然面に赤みを帯びるものが多く、被熱、あるいは自然に破碎したものと考えられる。

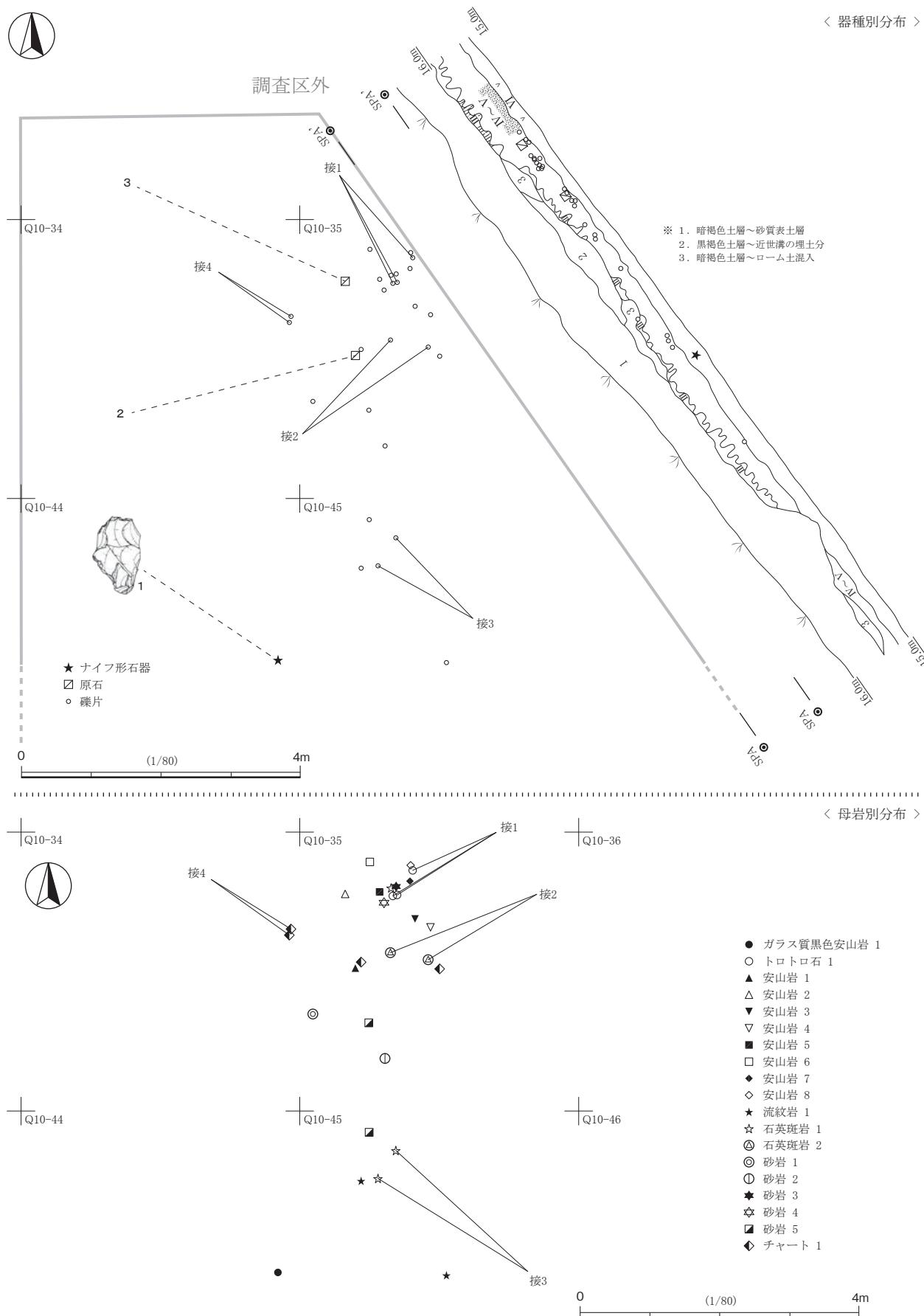
出土石器

1は横長剥片を素材とし、その打面部を急角度に折り取って基部とした石器である。明確な基部調整はみられないが、折り取りされた基部と使用痕のある刃部を持つため、ナイフのような刃器として機能した可能性が考えられる。石材は橙色～黄褐色の粉をまぶしたような褐灰色のガラス質黒色安山岩で、自然面は遺存しない。剥片素材の石器はQ10-44グリッドのV層からIV層下部にかけて出土したこの1点のみであり、上位層には焼土跡が検出されている。

2・3は安山岩の原石である。2は直径6cmほどのほぼ球形を呈し、ずっしりと持ち重りがする。3と同じく、明瞭な加工痕や使用痕はないが、表皮の針で搔いたような筋の中に粉状で赤褐色の付着物がみられる。全体的には黄褐色のローム粒をまとった濃灰色で、黒色角型の斑晶が疎らに入る。全面が自然面で覆われ、剥離面や欠損がない。関東各地の石器石材産地を踏査した橋本勝雄氏によれば、外皮の特徴は、栃木県鹿沼市武子川でみられるガラス質黒色安山岩に近似する、とのことである。どのような搬入経路を辿ったかは不明であるが、剥片石器の材料として遺跡内に持ち込まれた可能性が高い。3は厚みある橿円形だが、左側縁の1/2にやや凹み気味の平坦面がある。擦痕や敲打痕は確認できなかった。石材は灰茶色～臘脂色で、濃灰色の縞が同心円を描いている。黒色で角張った斑晶が入り、ザラ感が強い。



第8-2図 第1文化層第1ブロック出土石器



第8-3図 第1文化層第1ブロック遺物分布

第8-1表 第1文化層第1ブロック組成表

母岩	器種	母岩番号	ナイフ形石器	原石	礫片	点数合計	点数比(%)	重量合計(g)	重量比(%)
ガラス質黒色安山岩		1	1			1	3.45	8.91	0.41
トロトロ石		1			1(3)	1(3)	10.34	106.34	4.91
安山岩		1		1		1	3.45	252.73	11.67
		2		1		1	3.45	274.38	12.67
		3			1	1	3.45	15.69	0.72
		4			1	1	3.45	125.16	5.78
		5			1	1	3.45	137.07	6.33
		6			1	1	3.45	162.55	7.50
		7			1	1	3.45	5.37	0.25
		8			1	1	3.45	4.21	0.19
安山岩小計				2	6	8	27.59	977.16	45.11
流紋岩		1			2	2	6.90	77.56	3.58
石英斑岩		1			2(3)	2(3)	10.34	52.52	2.42
		2			1(2)	1(2)	6.90	97.87	4.52
石英斑岩小計					3(5)	3(5)	17.24	150.39	6.94
砂岩		1			1	1	3.45	102.78	4.74
		2			1	1	3.45	430.77	19.89
		3			1	1	3.45	47.05	2.17
		4			1	1	3.45	70.70	3.26
		5			2	2	6.90	104.37	4.82
砂岩小計					6	6	20.69	755.67	34.88
チャート		1			3(4)	3(4)	13.79	90.26	4.17
合計				1	2	21(26)	24(29)	100.00	2,166.29
※ ()は出土点数									

第3節 まとめ

常磐自動車道に沿って立地する花前遺跡の標高は、低地と台地とで約8mの高低差がある。花前Ⅲ遺跡の第1ブロックは標高16.0mのV層～IV層に生活面を持つ小礫群であるが、北東に隣接する花前Ⅱ遺跡の標高は概ね8mで旧石器の集中域を持たない。明治前期の花前Ⅲ遺跡南東部一帯は、利根川から進入する支谷によって湿地帯が形成されていたことは周知されているが、こうした低地を臨む高台に石器集中域が検出される傾向は当遺跡の第1ブロックに限らず、多くの遺跡でも同様である。

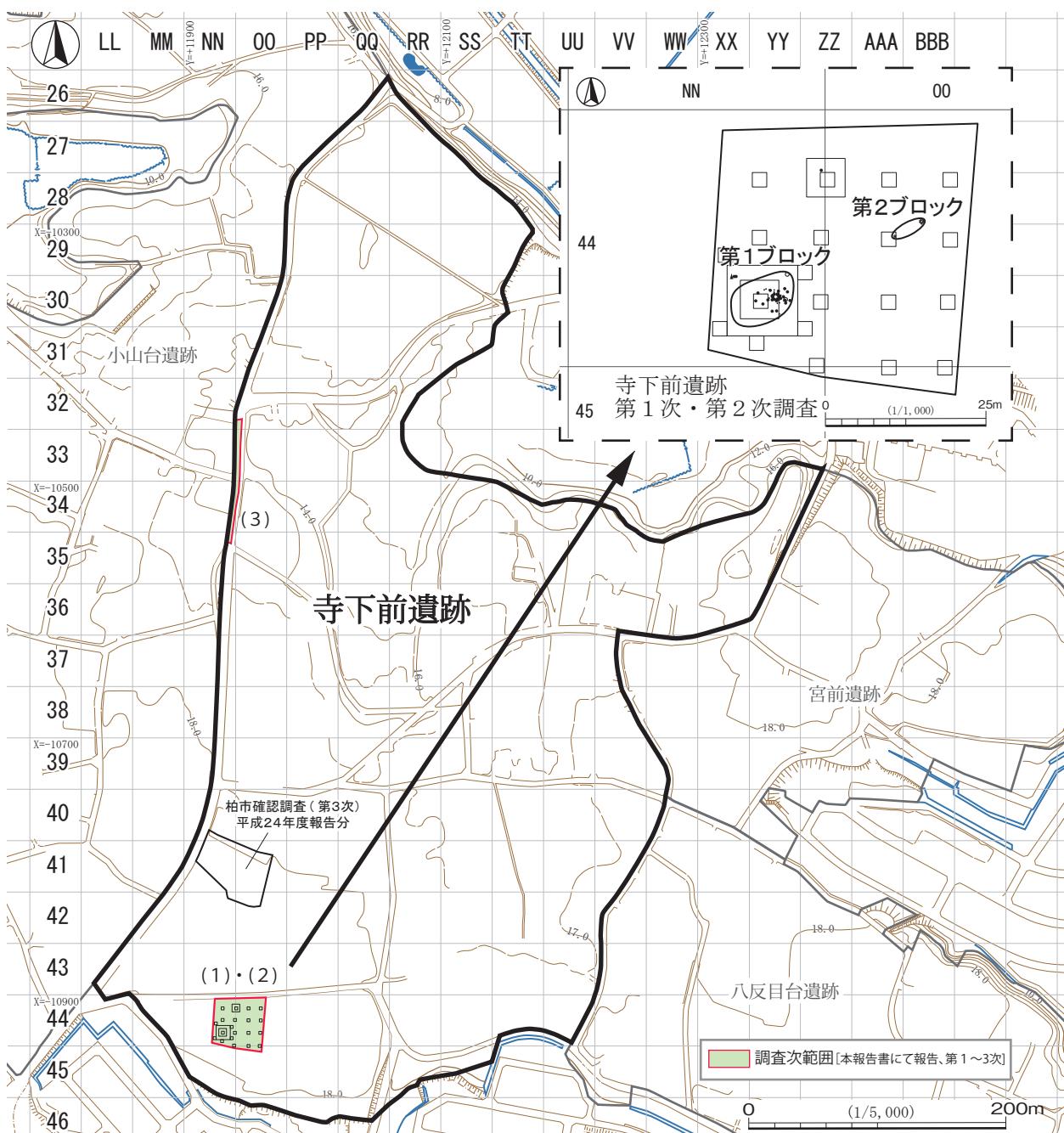
花前Ⅲ遺跡では礫・礫片26点のほか、集中域の南端からガラス質黒色安山岩のナイフ形石器1点、礫群中から安山岩の原石2点が出土した。この2点の原石石材は、礫群を構成する斑晶に富んだ安山岩とは異なり、濃灰色を基調とし角張った黒色の斑晶が入る。自然面に覆われているため内面をみることはできないが、剥片石器に利用されることの多い緻密質な黒色安山岩と推定される。

第9章 寺下前遺跡

第1節 遺跡の概要(第9-1図、第9-1・2表、図版28)

寺下前遺跡は、現利根川(古常陸川)右岸の標高約16.0m～18.0mの台地上に位置し、西側に小山台遺跡、東側に宮前遺跡と八反目台遺跡が隣接する。

発掘調査は平成11・12、27年度に行われ、遺跡南側のNN44・OO44グリッドから旧石器時代の石器集中域2か所が検出された。立川ロームIX層の石器群を第1文化層第1ブロック、上層の確認調査時に出土したⅢ層の石器群を第2文化層第2ブロックとした。石器の総点数は61点である。遺跡全体・ブロックごとの石器組成数は章末にまとめて表記した。



第9-1図 寺下前遺跡調査次別区域と確認・本調査範囲

第2節 第1文化層

1 概要(第9-2~4・7図、第9-3表、図版28・33)

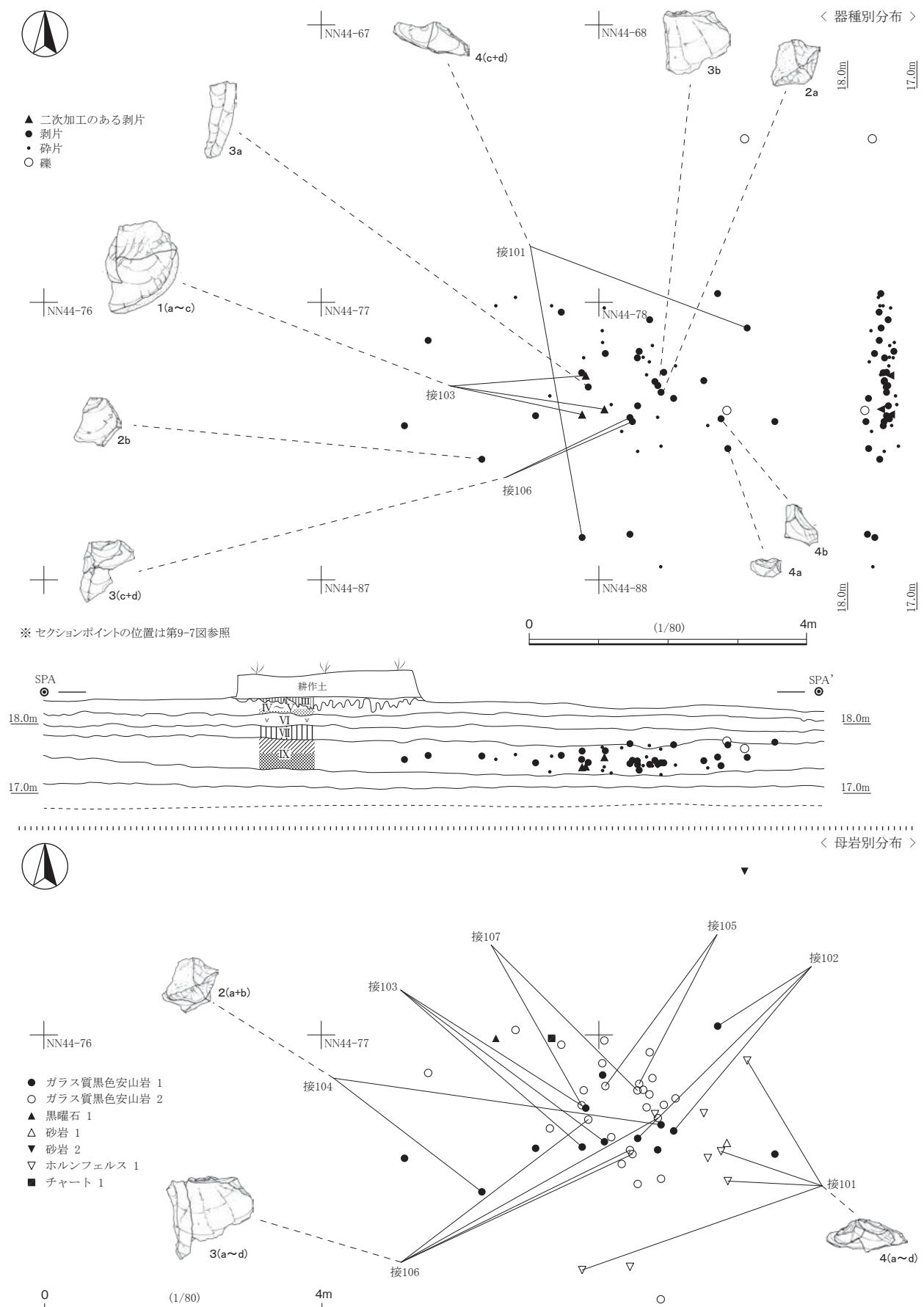
第1文化層の石器はNN44-78グリッドを中心に52点が出土し、このまとまりを第1ブロックと呼称する。これらは6.4m四方に分布するが、北東端の砂岩礫1点を除いた剥片類の分布範囲は南北4.4m、東西6.0mに収まる。調査時の所見では大部分が立川ローム層IX層下部に分布するとの見解であり、第1ブロックの中心から約6m南の土層断面(第9-7図のセクションポイント参照)に投影したところ、石器は標高17.27m~17.76mに帶状に分布した。最大49cmの分布幅をもつが、土層の堆積状態・石器の分布状況とも良好であり、ほぼ水平に推移する。調査時の所見や写真を検討した結果、IX層下部から中部に生活面を持つものと認識された。

2 第1ブロック

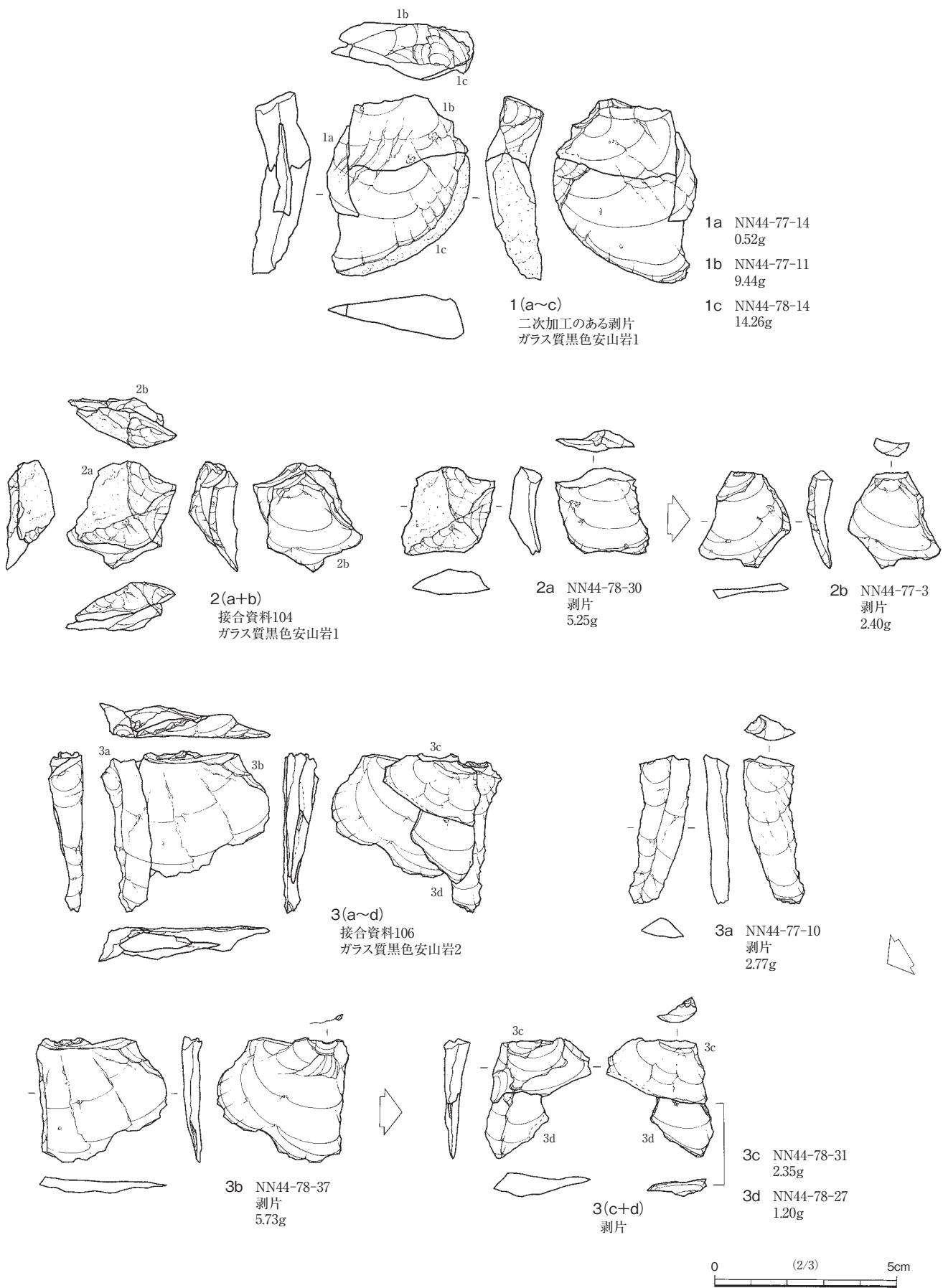
出土状況 特に目立った器種はなく、二次加工のある剥片、剥片、碎片、礫の4種を確認した。石材はガラス質黒色安山岩が最も多い40点、順にホルンフェルス8点、砂岩2点と続き、黒曜石とチャートが1点ずつ出土した。石材や風化の度合い、濃淡の違いはあるが、ガジリ(調査時の欠損)の色はすべて黒色である。分布状況は直径0.8mの空白域を囲むように剥片・碎片が密集し、外縁部では疎らになる。出土した石器の38%にあたる20点、7個体に接合関係がみられる。ガラス質黒色安山岩1・2が分布の中心を形成し、その南東側に沿うようにホルンフェルス1が最長4mの距離をもって分布し、接合する。

出土遺物 二次加工のある剥片1点と接合資料3個体を図示した。1は3片で1点の二次加工のある剥片である。握り拳大の円礫が素材である。礫端部に作出された打面から複数剥離されたうちの1片であり、厚みが均一で、側面に自然面が帶状に残る。1の打面は背面から腹面に向けて急角度に加撃され、打点の一部が剥離される。母岩はガラス質黒色安山岩1である。自然面が灰白色、剥離面は薄いベージュを帯びた灰色で、ガラス質の黒い斑晶がごく少量含まれる。新鮮面は漆黒である。

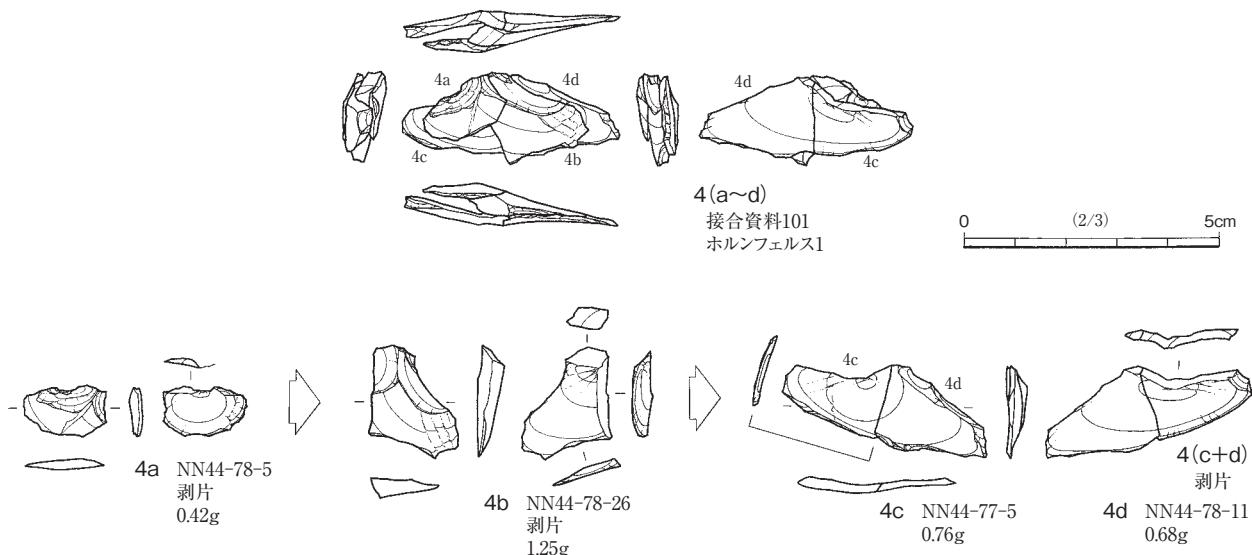
2は1と同じくガラス質黒色安山岩1の接合資料であり、剥片剥離の工程上、1に後続する。1と2は自然面が点で接するが密着せず、別個体として作図した。2aは複剥離打面の稜上が加撃された剥片である。端部が2か所突出する矩形であるが、加工の痕はみられない。2a剥離後、2bを含んだ石核は90°回転されて加撃され、再び2点の共通打面から2bが剥離されている。結果として同一打面から連続して剥離されたようにみえるが、打点置換型の資料である。3は板状剥片が素材である。3a、3b、3(c+d)は同一方向からの加撃によって、3aは素材側面、3b、3(c+d)は素材平坦面が薄く剥離される。3dの縁辺に刃こぼれが著しいが、人為的なものか否かは不明である。3片は直径0.8mの空白域に沿うように出土し、最長でも1mと離れていない。母岩であるガラス質黒色安山岩2の剥離面は黒みが強く、アスファルトのような粘性が感じられる。斑晶の方は抜け落ちているが、部分的に黒色板状の斑晶が8倍ルーペで観察できる。4の石片数は4点だが、組成上は剥片3点である。4a→4b→剥片→4(c+d)の順に上方から剥離される。打角は4a、4bが122°、4(c+d)は125°と鈍角であり、何らかの石器、おそらくは石斧などの調整剥片であろうと思われる。4aの打面にはφ5mmほどの打撃痕が残っており、先の細い敲打具の使用が想定される。それぞれの打面には庇状の張り出しが潰されずに遺存している。石材は黒色無光沢で粘板岩起源のホルンフェルスである。变成は弱く、粘板岩特有の薄く剥離される性質を残している。ホルンフェルスはブロック南東の外縁部を構成する。



第9-2図 第1文化層第1ブロック遺物分布



第9-3図 第1文化層第1ブロック出土石器(1)



第9-4図 第1文化層第1ブロック出土石器(2)

第3節 第2文化層

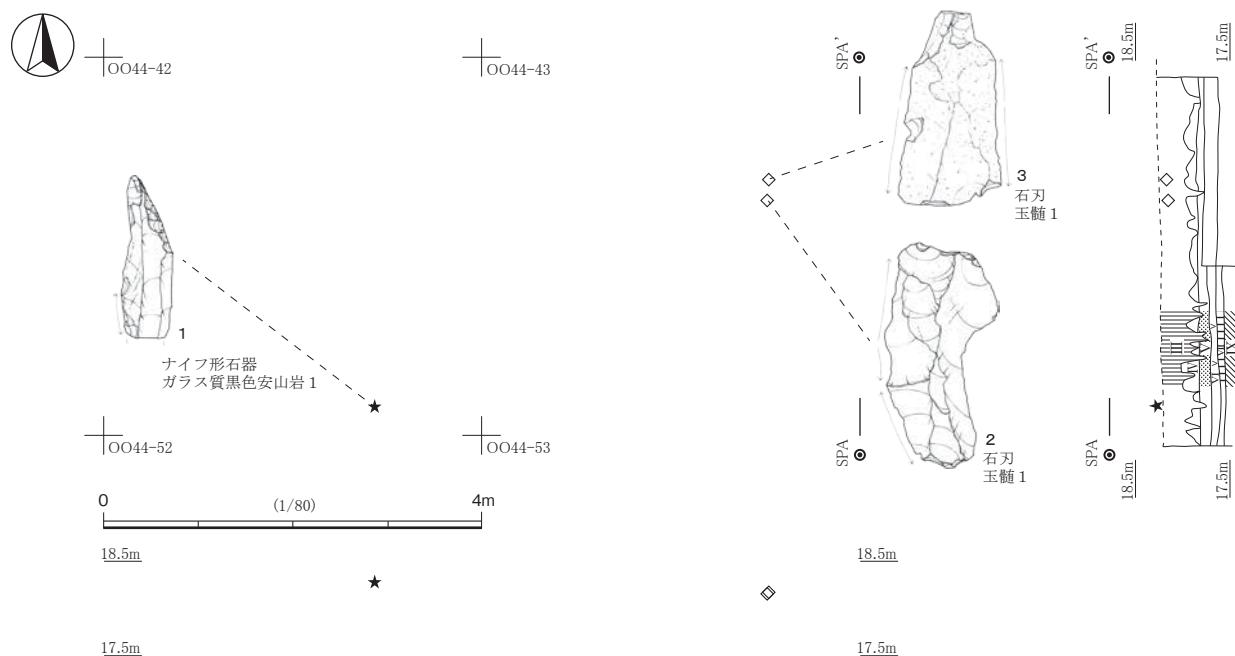
1 概要(第9-5・6図、第9-4表、図版28・33)

寺下前遺跡第2文化層においては、少数ではあるが、上層の確認調査で出土した旧石器3点を1か所のブロックとして認識し、第2ブロックと呼称した。3点はいずれもⅢ層から出土した大型の石刃が素材であり、OO44-42・43グリッドの標高18.2m付近に分布する。3点間は最長4.8m離れているが、高低差は13.1cmである。

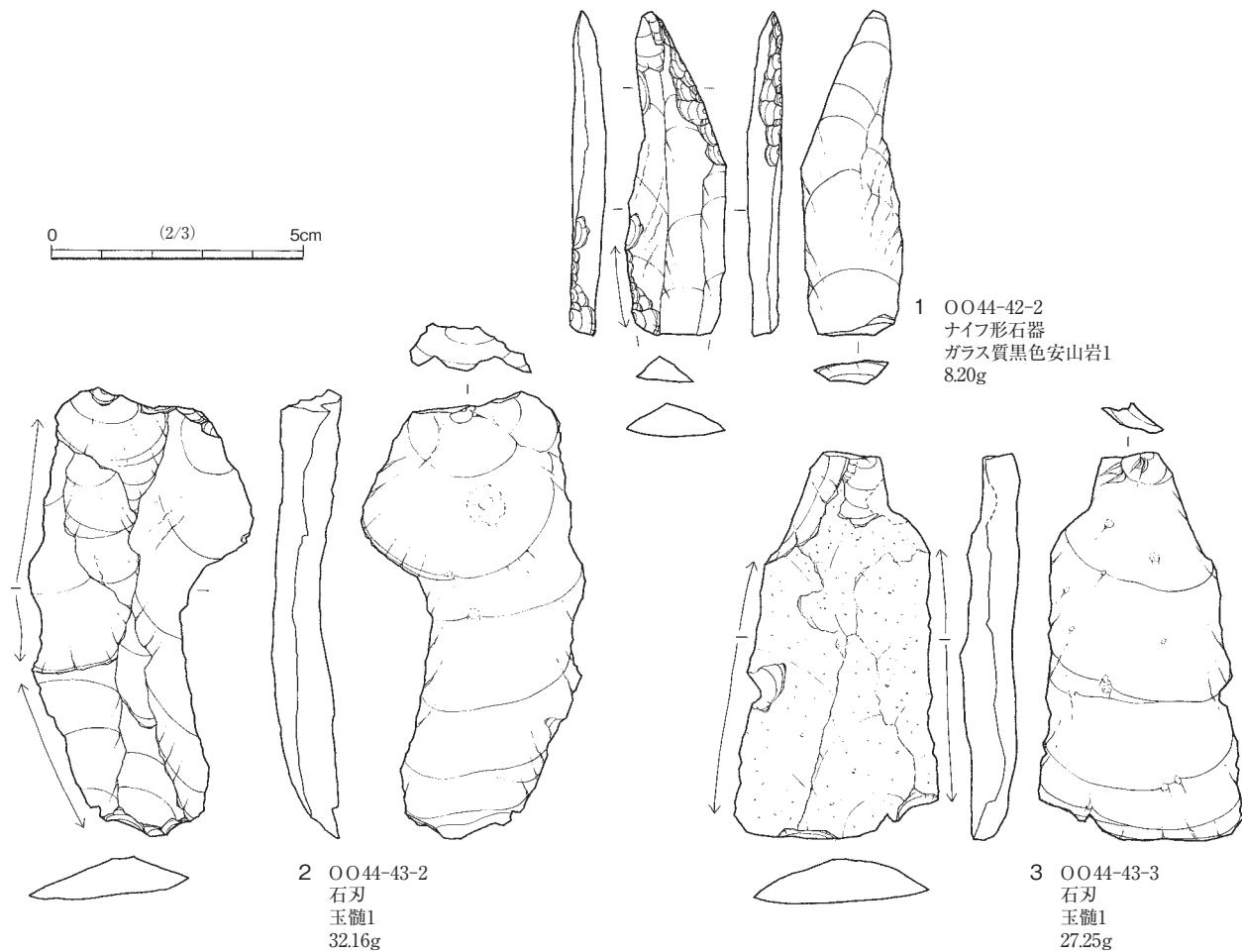
2 第2ブロック

出土状況 OO44-43グリッドでは玉髓の石刃2点が至近距離で出土した。2点間は17cmしか離れておらず、標高差はわずか1.7cmである。同一の母岩から剥離された大型の石刃だが、被熱により透明感と色調に差違が生じている。一資料には背面に自然面が残ることから、石材の部位による相違である可能性も否めない。この2点から南西に4.8m離れてガラス質黒色安山岩製のナイフ形石器が出土している。調査時の所見では玉髓製の石刃2点と同じ土層に包含されていたとの記載があり、同一時期の所産として報告する。

出土遺物 1はガラス質黒色安山岩のナイフ形石器である。同一方向から規則的に剥離され、両側縁が収束する石刃が素材である。刃部に65°～85°の加工が連続し、先端部には衝撃剥離が観察される。左下部に使用による微細剥離痕が連なるが、背面側からの折れにより寸断され、基部(素材打面)が欠損する。千葉県の旧石器時代の遺跡にはよくみられる石材であるが、斑晶痕はφ0.2mm～0.5mmで、ごく小さい。2の背面には上下2方向の剥離痕があり、凹凸のある左側縁に微細剥離痕が連続している。長幅比2.0だが厚みは少なく、幅広的印象が強い。背面上部に稜を潰すような頭部調整痕がある。3は両側縁が並行する石刃である。幅広のまま収束し、末端縁辺が背面に回り込む。背面は、自然面とシリガラス状の風化剥離面で構成される。両側縁に微細剥離痕がみられる。2・3の石材である玉髓は、大方は乳白色を呈するが、被熱した部分は橙色の半透明で、白色や褐色の丸い球顆—コロフォルム構造か—が万遍なく入っている。



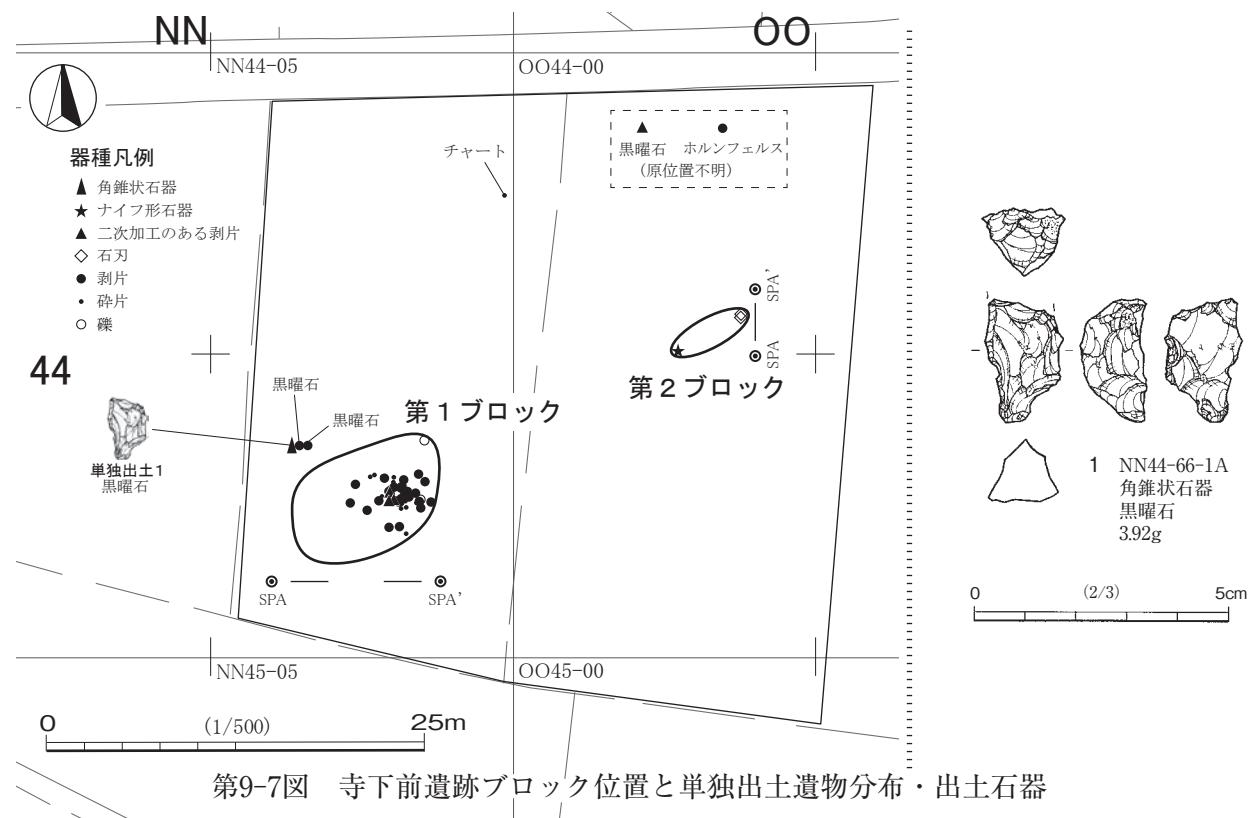
第9-5図 第2文化層第2ブロック遺物分布



第9-6図 第2文化層第2ブロック出土石器

第4節 単独出土石器(第9-7図、第9-5表、図版33)

単独出土及び表採資料は、出土地点や層位に不明な点が多くあり、石器の特徴から器種を推定した。1はNN44-66グリッドにて、帰属時期不明、産地不明の黒曜石製剥片2点と一緒に取り上げられたもので、上部が欠けた状態で検出された。全体の形状は不明であるが、幅と厚みが同程度であり、裏面を打面として両側面に急角度の加工が施されているため、抉り入りの基部を持つ角錐状石器ととらえた。おそらくは製作途中の破損品であり、細部の調整を行う前の段階であろうと思われる。上面の稜には潰れ痕が残る。石材は、黒色不透明で夾雜物を多く含む黒曜石である。



第5節 まとめ

当財団では平成11・12、27年度、柏市教育委員会では平成24年度に発掘調査が行われているが、旧石器時代の遺物は遺跡南側から2か所のブロック、61点が出土したのみである。その大半は第1ブロックから出土した立川ロームIX層下部～中部の剥片類で、ガラス質黒色安山岩とホルンフェルスなど、黒色の石材5種が用いられている。石核を欠き、加工痕や使用痕がみられず、自然面が残る資料は少ない。ごく薄い剥片同士の接合や折面で接合するものが多く、平面分布、垂直分布の状況から、一時的な立ち寄りの場といった様相がうかがえる。

もう一つの集中域である第2ブロックは、確認調査時に検出されたわずか3点というさらに小規模なブロックだが、Ⅲ層からガラス質黒色安山岩製ナイフ形石器1点と火熱痕を持つ玉髓製石刃2点が出土した。白色、黒色の球顆が多く入る乳白色の玉髓で、県内の遺跡では出土例が少ない種類と思われる。石材産地や搬入経路の検証のため、更なる類例を求めたい。

第9-1表 器種組成表

器種 文化層	角錐状石器	ナイフ形石器	二次加工 のある剥片	石刃	剥片	碎片	礫	点数合計	点数比 (%)	重量合計(g)	重量比 (%)
第1文化層			1(3)		25(27)	20	2	48(52)	85.25	85.56	52.81
第2文化層		1		2				3	4.92	67.61	41.73
単独出土	1		1		3	1		6	9.84	8.85	5.46
合 計	1	1	2(4)	2	28(30)	21	2	57(61)	100.00	162.02	100.00

※ ()は出土点数

第9-2表 石材組成表

石材 文化層	ガラス質黒色安山岩	黒曜石	砂岩	ホルンフェルス	チャート	玉髓	点数合計	点数比 (%)	重量合計(g)	重量比 (%)
第1文化層	37(40)	1	2	7(8)	1		48(52)	85.25	85.56	52.81
第2文化層		1				2	3	4.92	67.61	41.73
単独出土		4		1	1		6	9.84	8.85	5.46
合 計	38(41)	5	2	8(9)	2	2	57(61)	100.00	162.02	100.00

※ ()は出土点数

第9-3表 第1文化層組成表

器種 母岩	母岩番号	二次加工のある剥片	剥片	碎片	礫	点数合計	点数比 (%)	重量合計(g)	重量比 (%)
ガラス質黒色安山岩	1	1(3)	8	2		11(13)	25.00	42.27	49.40
	2		11(12)	15		26(27)	51.92	22.97	26.85
ガラス質黒色安山岩	小計	1(3)	19(20)	17		37(40)	76.92	65.24	76.25
黒曜石	1			1		1	1.92	0.23	0.27
砂岩	1				1	1	1.92	13.12	15.33
	2				1	1	1.92	1.99	2.33
砂岩	小計				2	2	3.85	15.11	17.66
ホルンフェルス	1		6(7)	1		7(8)	15.38	4.79	5.60
チャート	1			1		1	1.92	0.19	0.22
合 計		1(3)	26(27)	20	2	48(52)	100.00	85.56	100.00

※ ()は出土点数

第9-4表 第2文化層組成表

器種 母岩	母岩番号	ナイフ形石器	石刃	点数合計	点数比 (%)	重量合計(g)	重量比 (%)
ガラス質黒色安山岩	1	1		1	33.33	8.20	12.13
玉髓	1		2	2	66.67	59.41	87.87
合 計		1	2	3	100.00	67.61	100.00

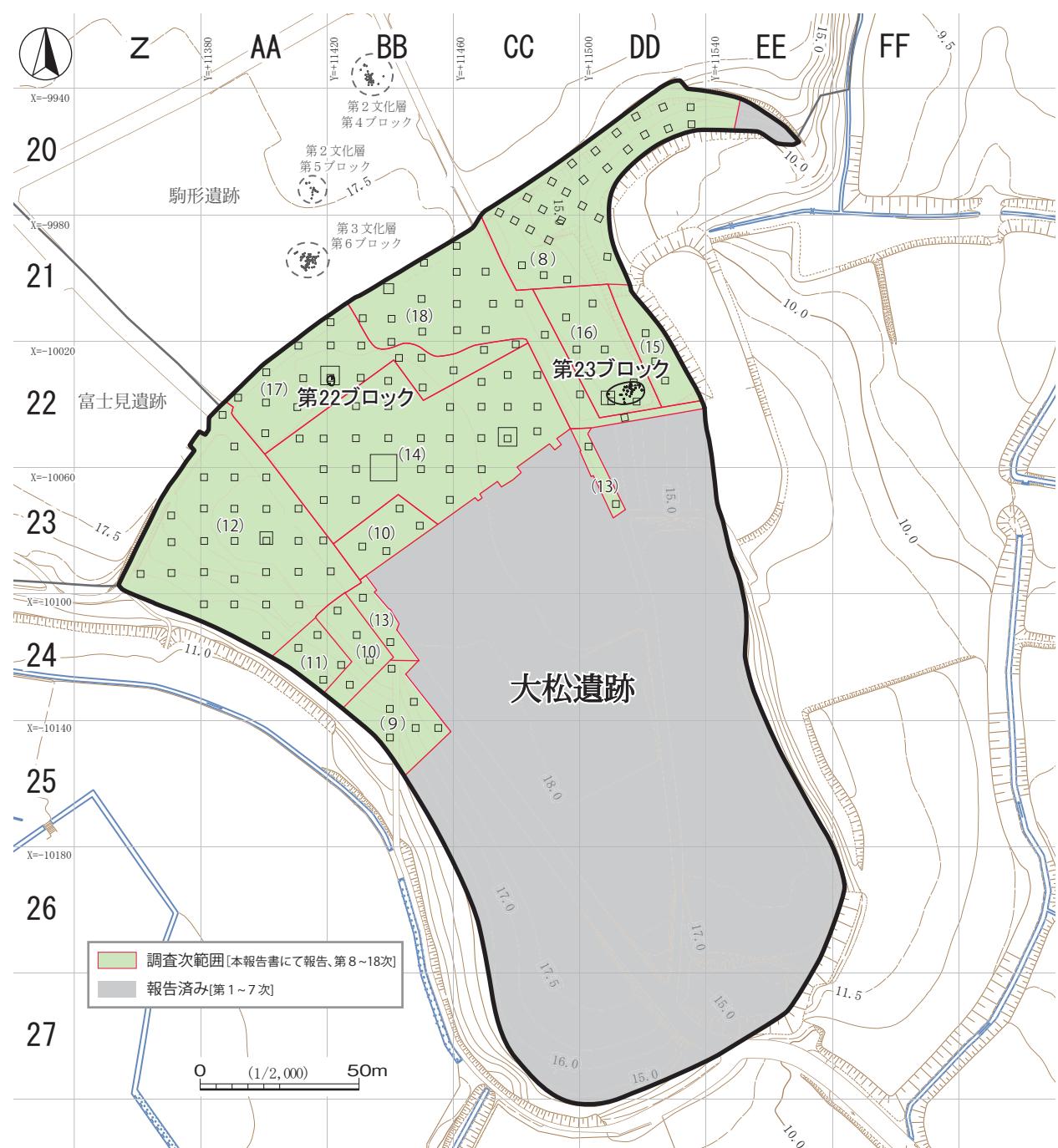
第9-5表 単独出土組成表

器種 石材	角錐状石器	二次加工 のある剥片	剥片	碎片	点数合計	点数比 (%)	重量合計(g)	重量比 (%)
黒曜石	1	1	2		4	66.67	7.99	90.28
ホルンフェルス			1		1	16.67	0.49	5.54
チャート				1	1	16.67	0.37	4.18
合 計	1	1	3	1	6	100.00	8.85	100.00

第10章 大松遺跡

第1節 遺跡の概要(第10-1図、図版28)

旧石器時代の調査では遺物集中地点2か所が検出された。この付近は遺跡の北端部に近く、第22ブロックが西の谷津、第23ブロックが東の谷津に臨む台地縁辺部に位置する。標高は16.0m～17.0mである。ちなみに両者は約80mの直線距離を隔てて互いに対峙している。



第10-1図 大松遺跡調査次別区域と確認・本調査範囲及びブロック位置図

第2節 ブロック分布

1 第22ブロック(第10-2・4図、第10-1表、図版28・34)

遺物分布 径2m程度の範囲から石器4点が散漫に出土した。

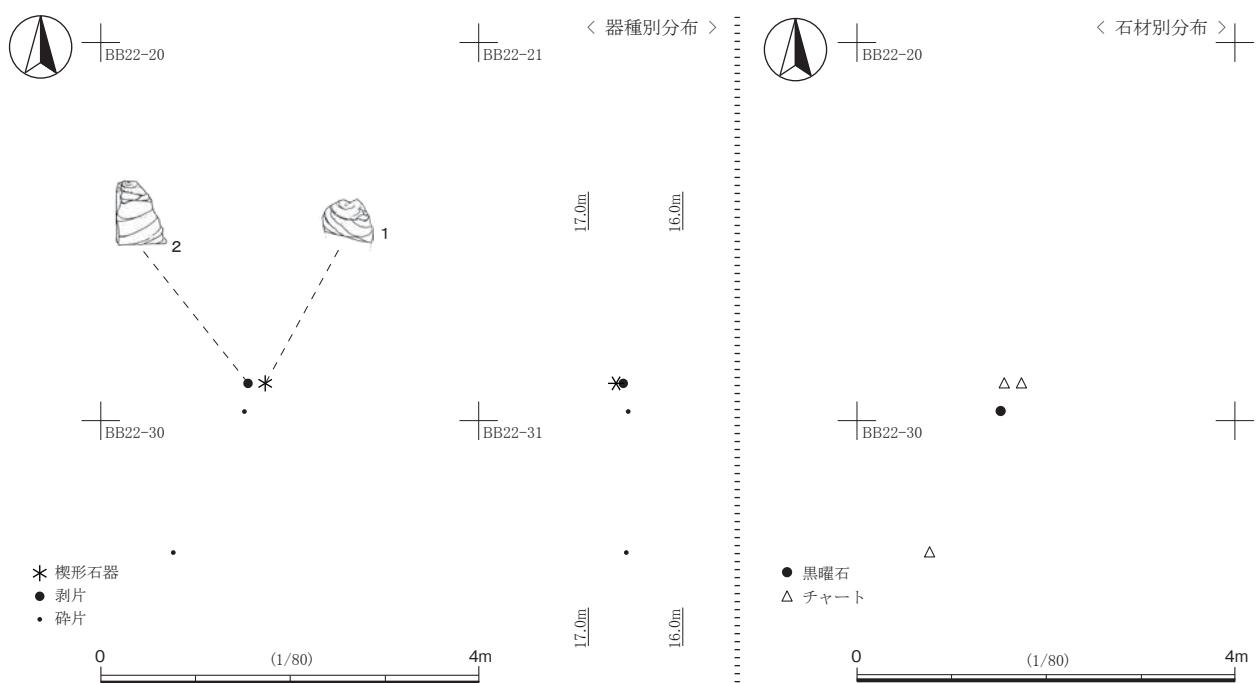
出土層位 出土層位は立川ロームIX層相当であるが、風倒木が至近にあり、上層の縄文石器の可能性は否めない。ただし、少なくとも高原山産黒曜石製の碎片については旧石器時代の遺物と考えられる。

器種 計4点の石器が出土した。内訳は楔形石器1点、剥片1点、碎片2点となっている。

1は楔形石器である。扁平なチャートの円礫を素材として、下半部が欠損している。2はチャート製の剥片である。

石材 石材組成はチャート3点、黒曜石1点となっている。

時期 出土層位はあまり明確ではないが、石器群の様相から、本ブロックの石器は、立川ロームIV層下部・V層段階に対比される。



第10-2図 第22ブロック遺物分布

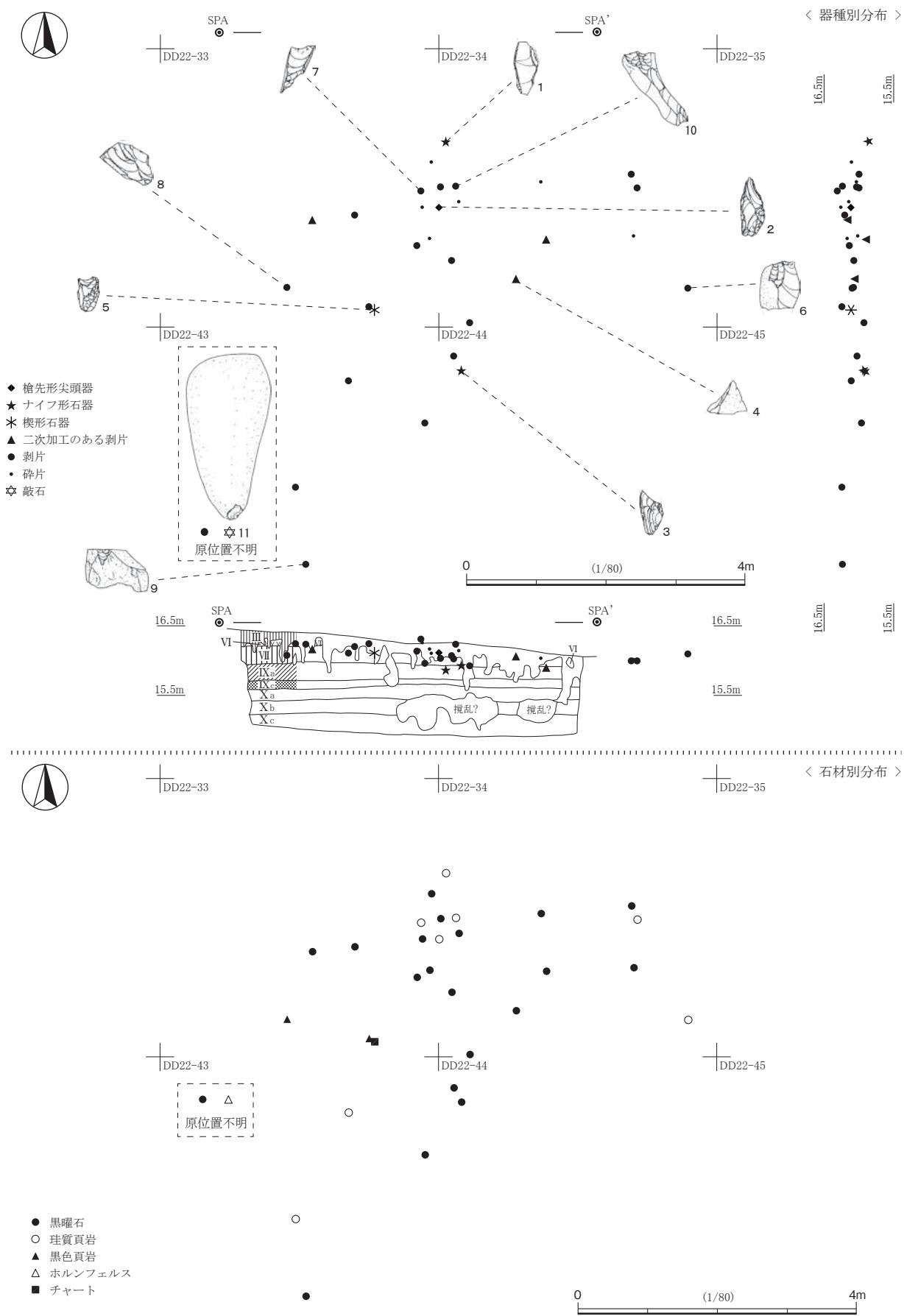
2 第23ブロック(第10-3・4図、第10-1表、図版28・34)

遺物分布 平面分布は長径約7.5m、短径約4.0mの楕円形を呈する。北端部にやや密集した箇所があるものの、全体的には散漫な傾向にある。利器のうちナイフ形石器は密集部、敲石は密集部からやや離れて出土した。

出土層位 立川ロームのⅢ層からⅣa層にかけて出土した。特にⅢ層付近に遺物が密集する。遺物の最大レベル差は約0.4mを測る。

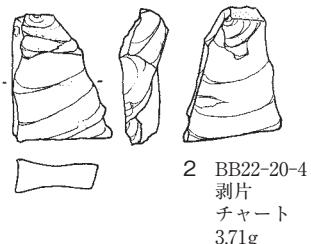
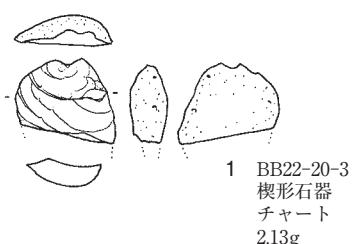
器種 計32点の石器が出土した。内訳は槍先形尖頭器1点、ナイフ形石器2点、楔形石器1点、二次加工のある剥片3点、剥片18点、碎片6点、敲石1点となっている。

1はナイフ形石器である。横長剥片を素材としており、二側縁加工で先端部が欠損している。2の外形



第10-3図 第23ブロック遺物分布

第22ブロック

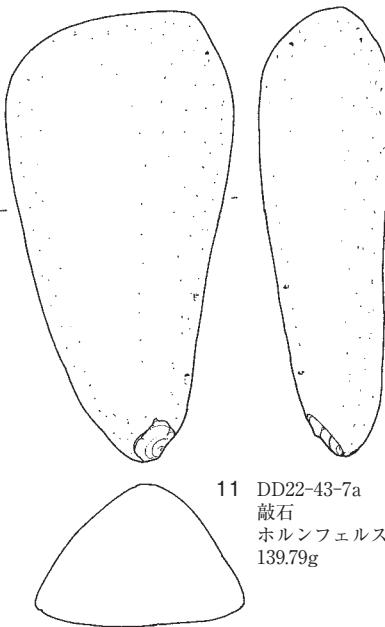
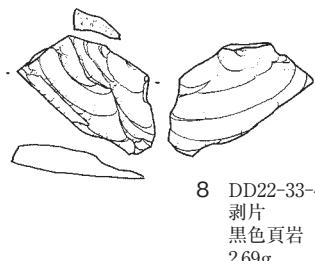
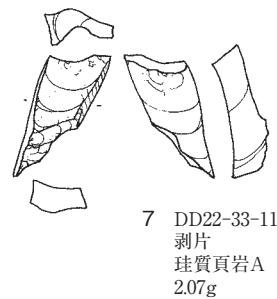
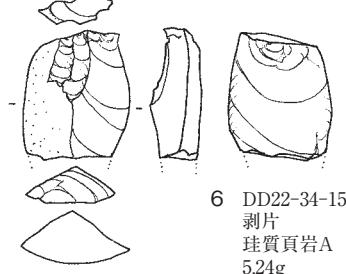
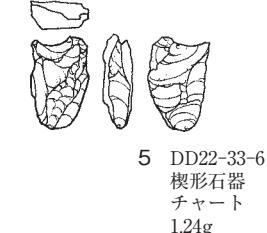
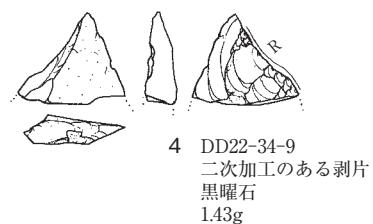
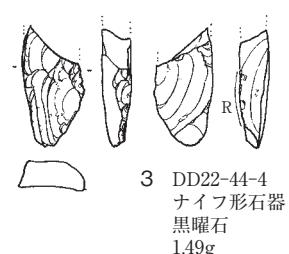
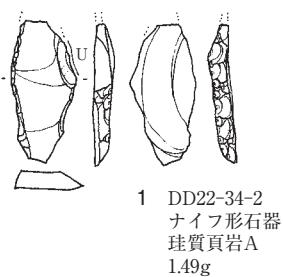


大松遺跡石器図凡例

- R — 二次加工痕
- U — 使用痕
- 風化剥離面、欠損面
- - - - 推定線

挿図番号に続く遺構番号は出土時のものであり、新番号は第10-2表に記した。

第23ブロック



0 (2/3) 5cm

第10-4図 第22・23ブロック出土石器

は切出形のナイフ形石器に近いが、二次加工が全周を廻っているため、槍先形尖頭器とした。横長剥片を素材としており、二次加工は概して急角度でナイフ形石器の刃潰し加工に近い。1・2はともに珪質頁岩であり、同一母岩の可能性が高い。3は横長剥片を素材とした二側縁加工のナイフ形石器である。先端部が欠損している。石材は漆黒の高原山産黒曜石であり、斑晶を若干含む。4は槍先形尖頭器の先端部である。表面には自然面、裏面には平坦な複数の剥離面が観察される。石材は3と同様である。5は楔形石器で、上下両端に打撃痕が残されている。石材は灰色のチャート製である。6~10は剥片である。6は縦長で石刃様であるが、他は横長を呈している。石材は6・7が珪質頁岩、8が黑色頁岩、9が高原山産黒曜石、10が珪質頁岩であり、6と7は同一母岩をなす。11はホルンフェルス製の敲石である。尖り気味の下端部には敲打痕がみられる。

石 材 石材組成は黒曜石20点、珪質頁岩8点、黑色頁岩2点、ホルンフェルス・チャート各1点となっている。

母岩別資料と接合資料 組成の主体をなす黒曜石に関しては特徴に乏しく、明確な母岩分類に堪えなかつた。このほか石材では珪質頁岩は3種(母岩別資料A、単独2)に分類できた。

時 期 出土層位と石器群の様相から本ブロックは立川ロームIV層下部・V層段階に対比される。

第10-1表 石器組成表

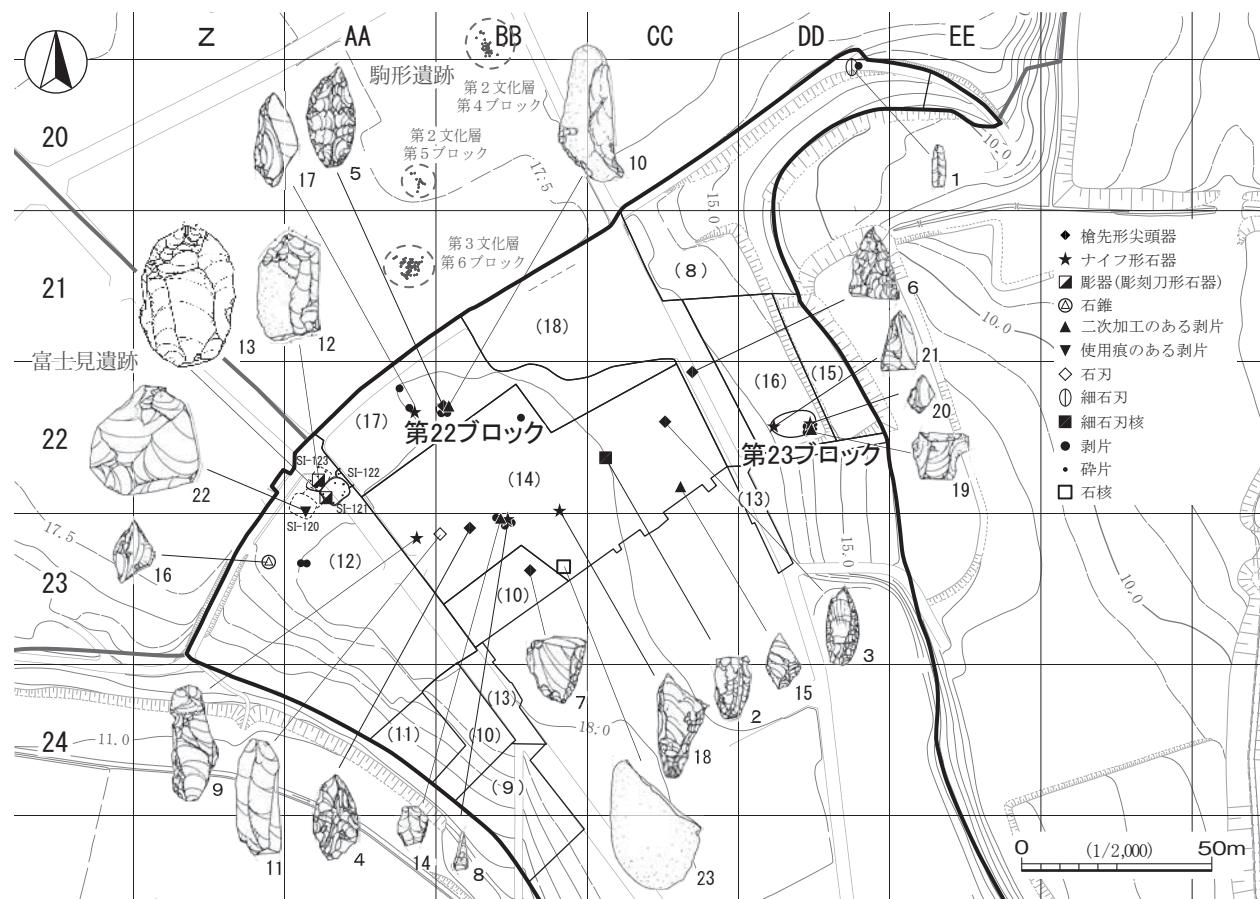
ブ ロ ッ ク ク 材	器 種	槍 先 形 尖 頭 石 器	ナ イ フ 形 刀 形 石 器	彫 器 (彫 刻 刀 形 石 器)	石 櫛 石 石 細 石 刃	櫛 形 石 石 刃 核	細 石 刃	二 次 加 工 の 有 る 剥 片	使 用 痕 の 有 る 剥 片	剥 片	碎 片	石 核 石	敲 石	点 数 合 計	点 数 比 %	重 量 合 計 g	重 量 比 %	
22 黒曜石											1				1	1.35	0.30	0.06
チヤート					1					1	1				3	4.05	6.03	1.16
第 22 ブ ロ ッ ク 小 計					1					1	2				4	5.41	6.33	1.22
23 黒曜石		1						3		10	6				20	27.03	16.21	3.12
珪質頁岩	1	1								6					8	10.81	19.54	3.76
黒色頁岩										2					2	2.70	3.03	0.58
ホルンフェルス														1	1	1.35	139.79	26.92
チヤート			1												1	1.35	1.24	0.24
第 23 ブ ロ ッ ク 小 計	1	2			1			3		18	6		1	32	43.24	179.81	34.62	
単独出土	ガラス質黒色安山岩									4		1			5	6.76	187.90	36.18
流紋岩						1				1					2	2.70	7.99	1.54
黒曜石	5	2		1			1	1	2	3	2				17	22.97	47.27	9.10
珪質頁岩	1														1	1.35	1.72	0.33
白滝頁岩		1							1		4				6	8.11	16.16	3.11
硬質頁岩		1	1							1	1				4	5.41	47.96	9.23
チヤート		1													1	1.35	7.27	1.40
メノウ			1						1					2	2.70	16.95	3.26	
単独出土小計	5	6	2	1		1	1	1	4	1	13	2	1		38	51.35	333.22	64.16
合 計	6	8	2	1	2	1	1	1	7	1	32	10	1	1	74	100.00	519.36	100.00

注) 白滝頁岩は嶺岡産珪質頁岩と同じものである

第3節 単独出土石器(第10-5~7図、第10-1・2表、図版34)

遺物総数は計38点である。うち37点は後世の遺構覆土等から出土したものであり、内訳は槍先形尖頭器5点、ナイフ形石器6点、彫器(彫刻刀形石器)2点、二次加工のある剥片4点、石錐・細石刃核・細石刃・使用痕のある剥片・石核・石刃各1点、剥片13点、及び碎片2点となっている。石器石材は黒曜石を主体として、ガラス質黒色安山岩、白滝頁岩、硬質頁岩等がこれに加わる。

石器群の様相から、これらの大半は立川ロームIV層下部・V層以降の比較的新しい時期の遺物と考えら



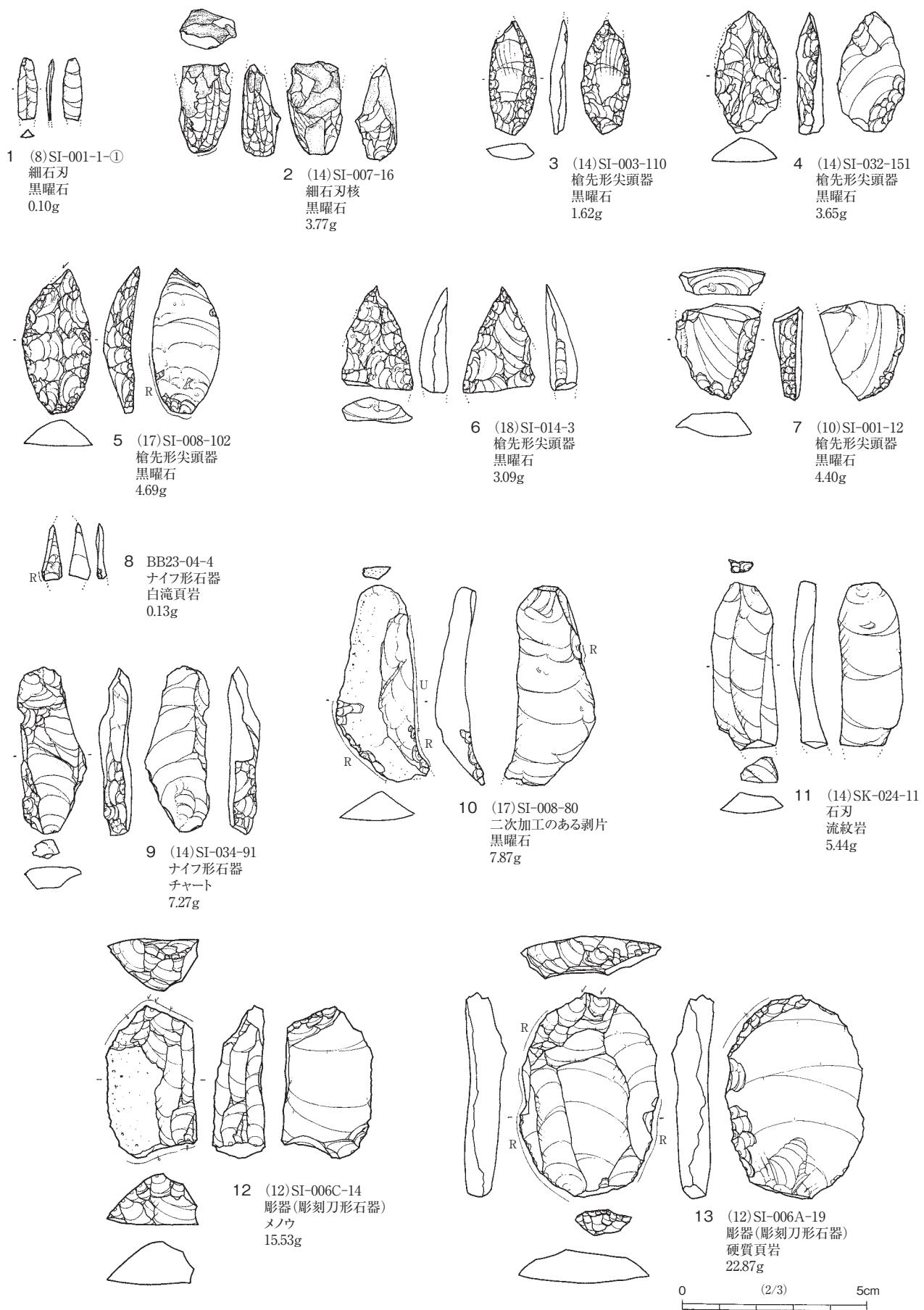
第10-5図 単独出土遺物分布

第10-2表 単独出土遺物一覧

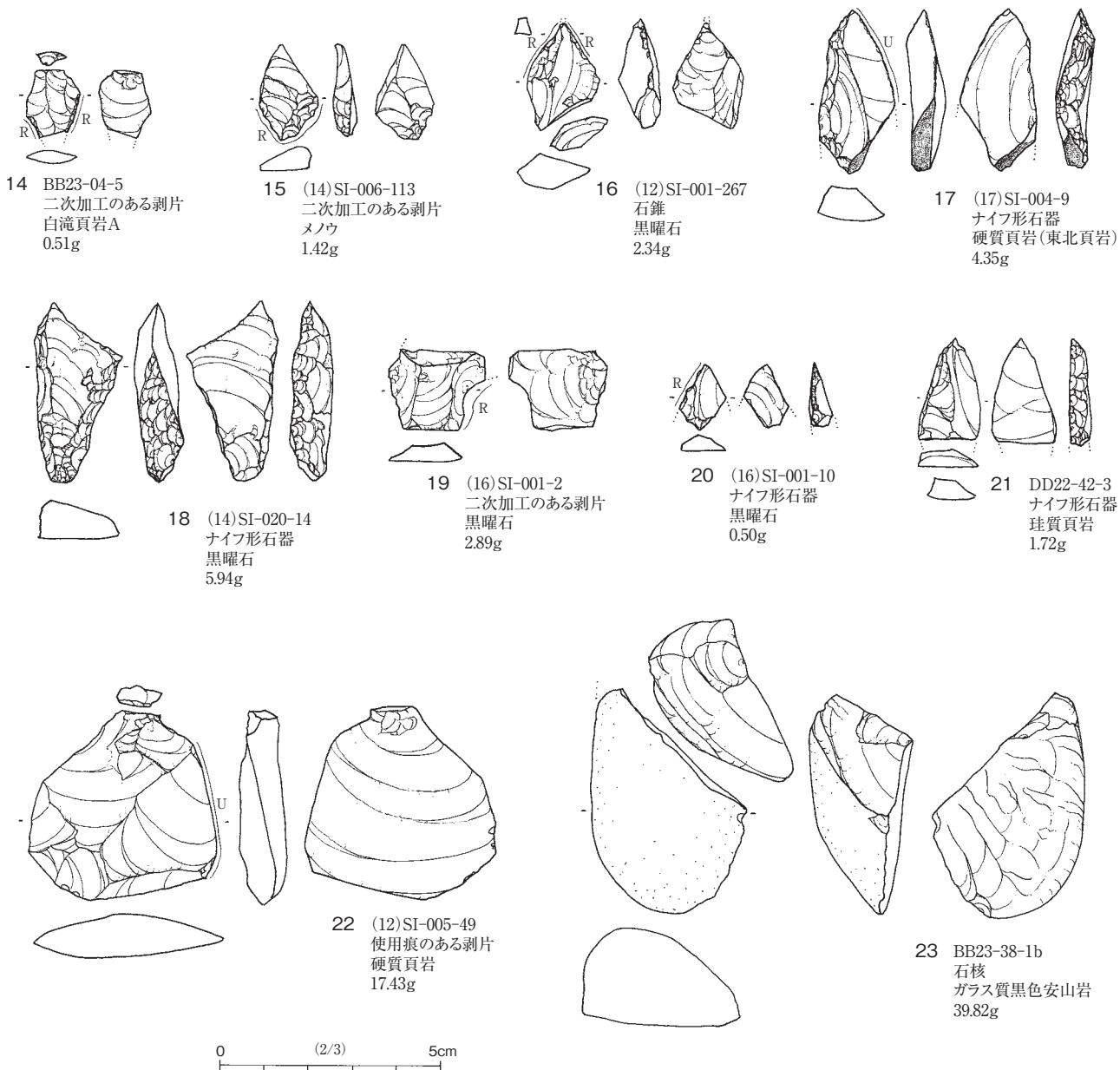
No.	遺構名	調査 次数	旧遺構名・ グリッド	遺物番号	挿図No.	器種	石材	計測値(cm/g)				母岩 No.	備考
								長さ	幅	厚さ	重量		
1	SI-181	8	SI-001	0001-①	1	細石刃	黒曜石	1.6	0.5	0.1	0.10	—	信州系、先端欠損
2	SI-139	14	SI-007	16	2	細石刃核	黒曜石	2.5	1.4	1.0	3.77	—	再加工痕(石鎌)
3	SI-135	14	SI-003	110	3	槍先形尖頭器	黒曜石	3.1	1.2	0.5	1.62	—	信州系、先端欠損先端部ガジリ
4	SI-163	14	SI-032	151	4	槍先形尖頭器	黒曜石	3.2	1.8	0.7	3.65	—	ハケ岳産、基部再加工
5	SI-174	17	SI-008	102	5	槍先形尖頭器	黒曜石	3.9	1.8	0.7	4.69	—	先端に衝撃剥離(彫器状)、箱根系?
6	SI-179	18	SI-014	3	6	槍先形尖頭器	黒曜石	2.8	1.9	0.7	3.09	—	半欠、衝撃剥離(折れ+彫器状剥離)
7	SI-112	10	SI-001	12	7	槍先形尖頭器	黒曜石	2.6	2.2	0.7	4.40	—	基部破片、信州系
8		14	BB23-04	4	8	ナイフ形石器	白滝頁岩	1.4	0.5	0.1	0.13	—	破片
9	SI-165	14	SI-034	91	9	ナイフ形石器	チャート	4.5	1.7	0.7	7.27	—	
10	SI-174	17	SI-008	80	10	二次加工のある剥片	黒曜石	5.3	2.5	0.8	7.87	—	高原山産
11	SK-308	14	SK-024	11	11	石刃	流紋岩	4.5	1.6	0.7	5.44	—	先端部欠損
12	SI-123	12	SI-006C	14	12	彫器(彫刻刃形石器)	メノウ	4.1	2.4	1.3	15.53	—	最終剥離面は左端の彫刻刃面、石刃素材
13	SI-121	12	SI-006A	19	13	彫器(彫刻刃形石器)	硬質頁岩	5.5	3.8	0.9	22.87	—	最終剥離面は左端の彫刻刃面、石刃素材
14		14	BB23-04	5	14	二次加工のある剥片	白滝頁岩	1.5	1.1	0.4	0.51	A	先端部欠損
15	SI-138	14	SI-006	113	15	二次加工のある剥片	メノウ	2.1	1.3	0.5	1.42	—	基部破片
16	SI-116	12	SI-001	267	16	石錐	黒曜石	2.4	1.6	0.9	2.34	—	高原山産
17	SI-172	17	SI-004	9	17	ナイフ形石器	硬質頁岩	3.5	1.8	0.8	4.35	—	国府型ナイフ 東北頁岩
18	SI-150	14	SI-020	14	18	ナイフ形石器	黒曜石	4.0	2.0	0.8	5.94	—	切出形、高原山産
19	SI-168	16	SI-001	2	19	二次加工のある剥片	黒曜石	1.7	2.2	0.8	2.89	—	破片、高原山産
20	SI-168	16	SI-001	10	20	ナイフ形石器	黒曜石	1.4	1.1	0.5	0.50	—	先端破片、高原山産
21		16	DD22-42	3	21	ナイフ形石器	珪質頁岩	2.4	1.4	0.5	1.72	—	单独
22	SI-120	12	SI-005	49	22	使用痕のある剥片	硬質頁岩	4.4	4.3	0.9	17.43	—	基部欠損
23		14	BB23-38	1b	23	石核	ガラス質黒色安山岩	4.2	3.5	2.2	39.82	—	剥片素材
24	SI-181	8	SI-001	0001-①		剥片	ガラス質黒色安山岩	3.1	4.7	1.0	10.95	—	
25		14	BB22-35	1		剥片	ガラス質黒色安山岩	6.1	4.3	3.6	110.11	—	被熱(タマネギ状剥離)
26	SI-172	17	SI-004	14		剥片	ガラス質黒色安山岩	3.7	1.8	1.2	8.28	—	被熱(タマネギ状剥離)
27		17	AA22-17	1G		剥片	ガラス質黒色安山岩	4.3	4.1	1.1	18.74	—	
28	SI-168	16	SI-001	15		剥片	流紋岩	2.6	2.5	0.5	2.55	—	
29	SI-168	16	SI-001	13		剥片	黒曜石	1.3	1.8	0.4	0.64	—	高原山産
30	SI-174	17	SI-008	81		剥片	黒曜石	4.0	2.3	0.5	3.78	—	高原山産
31	SI-174	17	SI-008	243		剥片	黒曜石	2.9	1.6	0.5	1.48	—	高原山産
32	SI-117	12	SI-002	41		剥片	白滝頁岩	2.8	2.3	1.2	6.26	—	円礫素材
33		14	BB23-04	2		剥片	白滝頁岩	1.5	1.3	0.3	0.50	A	
34		14	BB23-04	3		剥片	白滝頁岩	2.3	2.6	2.1	7.96	A	石核片?
35		14	BB23-04	6		剥片	白滝頁岩	1.5	2.1	0.3	0.80	A	
36	SI-117	12	SI-002	43		剥片	硬質頁岩	2.9	2.1	0.6	3.31	—	上下両端欠損
37	SI-168	16	SI-001	5		碎片	黒曜石	1.1	0.6	0.2	0.16	—	高原山産
38	SI-168	16	SI-001	17		碎片	黒曜石	1.1	1.4	0.3	0.35	—	高原山産

注:白滝頁岩は嶺岡産珪質頁岩と同じものである

※遺構配置は『柏北部東地区埋蔵文化財発掘調査報告書9-柏市大松遺跡-縄文時代以降編2』参照



第10-6図 単独出土石器(1)



第10-7図 単独出土石器(2)

れるが、大半は後世の遺構覆土等から出土したものであり、原位置をとどめていない。

1は細石刃、2は細石刃核である。ともに良質で漆黒の信州系黒曜石を用いている。細石刃核の上半部はガジリにより欠損している。3～7は槍先形尖頭器の関連資料である。1・2と同様に、本来の出土層位はⅢ層上部と推定される。3・4・7には信州系黒曜石、5・6には高原山産とおぼしき黒曜石が使用されている。3～5は完形に近いが、3の先端と4の左側縁の一部にはガジリ、5の先端には偶発的な損傷がみられる。

8は白滝頁岩製のナイフ形石器の破片、9は縦長断片を素材とした二側縁加工のナイフ形石器で、チャート製である。10は縦長剥片を素材とした二次加工のある剥片で、下端両側縁に二次加工が施されている。

石材は高原山産黒曜石である。11は石刃である。流紋岩製で先端が若干欠損している。8～11はいずれも優品であるが、特徴に乏しく明確な時間的な指標とはなり得ない。

12・13は石刃素材の彫器(彫刻刀形石器)である。いずれも先端部右肩に搔器様のインバース・リタッチ(表面から裏面への二次加工)があり、表面左肩に、ここを打面とした平坦な彫刻刀面が複数みられる。12の素材は両設打面を有する石刃石核から剥離されており、表面下端部には石核の一部が残存している。図示したように石核は比較的平坦な調整打面を持つ。彫刻刀面は4面みられる。13は調整打面を有する石刃を素材としている。12と同様に、斜め方向に並列した彫刻刀面(6面)がみられる。石材は12がメノウ、13が硬質頁岩(東北頁岩)である。

14・15・19は欠損により定型的な石器と判断しがたく、ここでは二次加工のある剥片とした。石材は14が白滝頁岩、15がメノウ、19が漆黒の高原山産黒曜石となっている。16は石錐である。急角度な片面加工により、断面三角形の機能部を作出している。石材は高原山産黒曜石であり、下端部が折損している。17・18・20はナイフ形石器である。17は翼状剥片を素材とした硬質頁岩(東北頁岩)製の国府型ナイフ形石器である。刃部はフェザーエンドを呈し、連続的な刃こぼれがみられる。残念ながら被熱により下半部が欠損している。18・20はともに高原山産黒曜石を使用した横長剥片素材の切出形ナイフ形石器である。

21は唯一、出土状況が明確な資料である。出土層位は立川ロームⅦ層下部で、縦長剥片を素材とした細身のナイフ形石器であるが、下半部が欠損しているため詳細は不明である。

22は使用痕のある剥片である。表面には複数の方向から剥離された痕跡が残されており、鋭利な縁辺の一部に連続的な刃こぼれがみられる。石材は硬質頁岩(東北頁岩)である。23は剥片素材の石核である。上端の折れ面の一部に小剥片を生産した痕跡をとどめる。石材はガラス質黑色安山岩である。

第4節まとめ(第10-4・6～8図、図版34)

1 時期区分

計74点の遺物が出土した。内訳はナイフ形石器8点、槍先形尖頭器6点、二次加工のある剥片7点、楔形石器・彫器(彫刻刀形石器)各2点、石錐・細石刃核・細石刃・使用痕のある剥片・敲石・石核・石刃各1点のほか、剥片類が42点となっている。

これらの石器群は概ね4時期に区分され、細石刃・細石刃核が下総Ⅲa期(立川ロームⅢ層)、槍先形尖頭器、彫器(彫刻刀形石器)、及び石刃が下総Ⅱc期(立川ロームⅣ層)、一部を除いたナイフ形石器の大半が下総Ⅱb期(立川ロームⅣ層下部・V層)、第10-7図21のナイフ形石器が下総Ⅱa期新段階(立川ロームⅦ層)にそれぞれ対比可能である。

検出された遺物集中地点は2か所である。ともに基本的な性格は一過性の生活跡であり、小規模で遺物の出土量も少ない。下総台地ではこのような方方が一般的であり、石材消費地の特徴を良く表している。当該ブロックは、まさしくその典型例と言えよう。

遺物のなかでは、特に第10-7図17の国府型ナイフ形石器が白眉である。重要性に鑑み、すでに別途紹介したので、そちらを参照願いたい¹⁾。

2 神山型に類する彫刻刀形石器

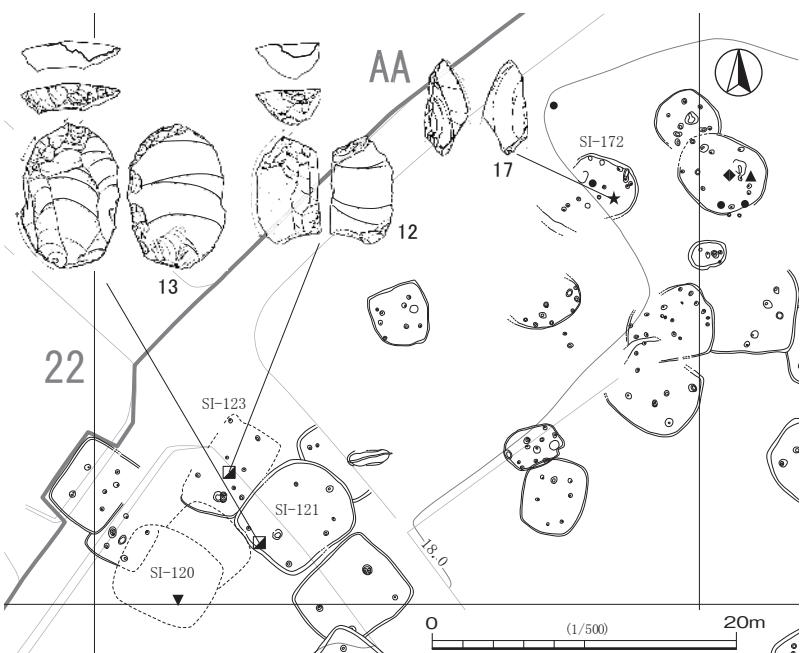
もう一つ、注目に値する資料は2点の彫刻刀形石器である。縄文時代前期の住居覆土に混入していた資料のため原位置を留めてはいないが、2点間は5.1mと近距離にある。12は玉髓(メノウ含む)製の石刃石

核素材で彫刻刀面の刃部角は63°～70°、13は硬質頁岩製の石刃素材で彫刻刀面の刃部角は70°～82°を測る。いずれも調整が加えられた素材腹面端部から背面側へ向けて彫刻刀面が作出された、いわゆる「神山型彫器」の特徴を有している。特に13は、標式遺跡の神山遺跡をはじめ、信濃川・阿賀野川水系に広く展開する杉久保石器群に多出する珪質で緻密な淡褐色の石材が用いられている。

12・13の2点の製作工程は共通するが、石材は硬質頁岩と玉髓(メノウ含む)と異なっている。どちらも遠方から持ち込まれた石材であり、玉髓は茨城・栃木方面、硬質頁岩は東北方面や新潟で産出することが知られている。

彫刀面作出方法から属性分類を行った山崎芳春氏²⁾に拠れば、南関東地方で神山型彫器と認識できうる資料として神奈川県大和市福田丙二ノ区遺跡³⁾出土の黒色頁岩1点をあげている。もとより関東では杉久保石器群の検出や神山型彫器の出土は非常に稀であり、13のように石材と属性の両方が定義に叶う資料はこれまで報告されていない。石材を異にするが、近接して複数出土した点も特筆される。

神山型彫器に類する石器は、国府型ナイフ形石器とともに極めて重要度の高い資料であり、白井市復山谷遺跡⁴⁾第4文化層や印西市角田台遺跡⁵⁾第Ⅲ層石器群との類似性、ひいては東北方面や甲信越を視野に入れた石材の搬入経路など、当遺跡の意義についても検討すべき課題は多い。なお、関連資料の一部を第14章第14-6図に示した。



第10-8図 国府型ナイフ形石器と神山型に類する彫器分布

注1 橋本勝雄 2016「柏北部東地区出土の旧石器・縄文時代の石器3例」『研究連絡誌』77 (公財)千葉県教育振興財団

2 山崎芳春 2016「関東地方の彫刀面作出方法が神山型に類似した彫器の様相」『津南段丘の杉久保石器群』津南シンポジウムXⅡ 予稿集 新潟県・津南町教育委員会、信濃川火焔街道連携協議会

3 畠中俊明ほか 1999『福田丙二ノ区遺跡-海上自衛隊厚木航空基地内隊舎建設に伴う発掘調査-』(財)かながわ考古学財団

4 山岡磨由子 2012『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書27-白井市復山谷遺跡(6次～8次)(下層)-』(公財)千葉県教育振興財団

5 古内 茂 2012『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書26-印西市角田台遺跡(旧石器・縄文時代編)-』(公財)千葉県教育振興財団

第11章 小山台遺跡

第1節 遺跡の概要(第11-1・2図、第11-1・2表)

確認・本調査範囲と文化層別ブロック位置図は第11-1・2図のとおりである。文化層は既報告の第1～50次調査報告と同様、第1文化層をIXc層上部～IXa層下部、第2文化層をIXa層上部～VII層下部、第3文化層をVII層上部～VI層、第4文化層をV層～IV層下部、第5文化層をIV層上部～III層下部、第6文化層をIII層上部と区分した。なお、第51～98次調査の出土石器総点数は270点であり、5枚の文化層、13か所のブロック、17点の単独資料を検出したが、IXa層上部～VII層下部の石器群は検出されなかったため、第2文化層の記載はない。ブロック番号もまた既報告に続く第80ブロックから開始した。よって第1文化層は第80・81ブロック、第3文化層は第82・83ブロック、第4文化層は第84～86ブロック、第5文化層は第87～89ブロック、第6文化層は第90～92ブロックと呼称する。隣接する原畠遺跡や既報告の小山台遺跡第1～50次調査検出のブロックに付帯する集中域が複数存在するが、独立したブロック番号を付し、個々のブロックとしてその内容を記載した。

全体の器種・石材組成は第11-1・2表のとおりである。石材の識別、実測図の表記、ブロックの記載方法については既報告を踏襲し、石器属性表は付属CD-ROMに収録した。

文化層の概要

5枚の文化層の概要是下記のとおりである。

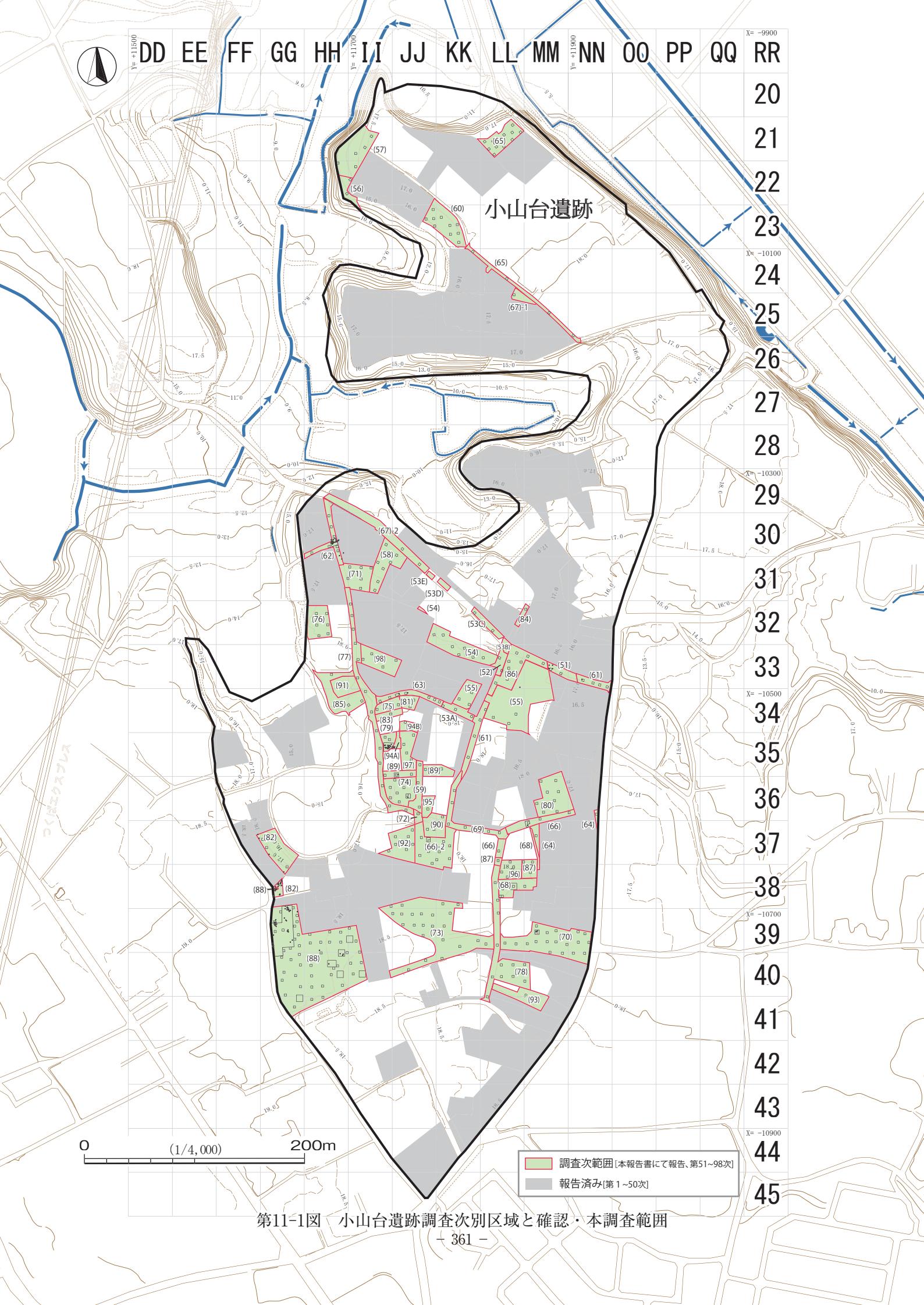
第1文化層 IXc層上部～IXa層下部に生活面を持つ。総計26点出土し、第80・81ブロックの2か所の小規模なブロックと単独出土の7点で構成される。きわめて良質な黒曜石製石刃を素材としたナイフ形石器や削器がみられる。

第3文化層 VII層上部～VI層に生活面を持つ。総計51点出土し、第82・83ブロックの2か所と単独出土の6点で構成される。ナイフ形石器や石錐、楔形石器を主要器種とするが、剥片を未加工のまま利用した微細剥離痕を持つ資料が多出する。石材は黒曜石、硬質頁岩、ガラス質黒色安山岩の3種が84%を占める。

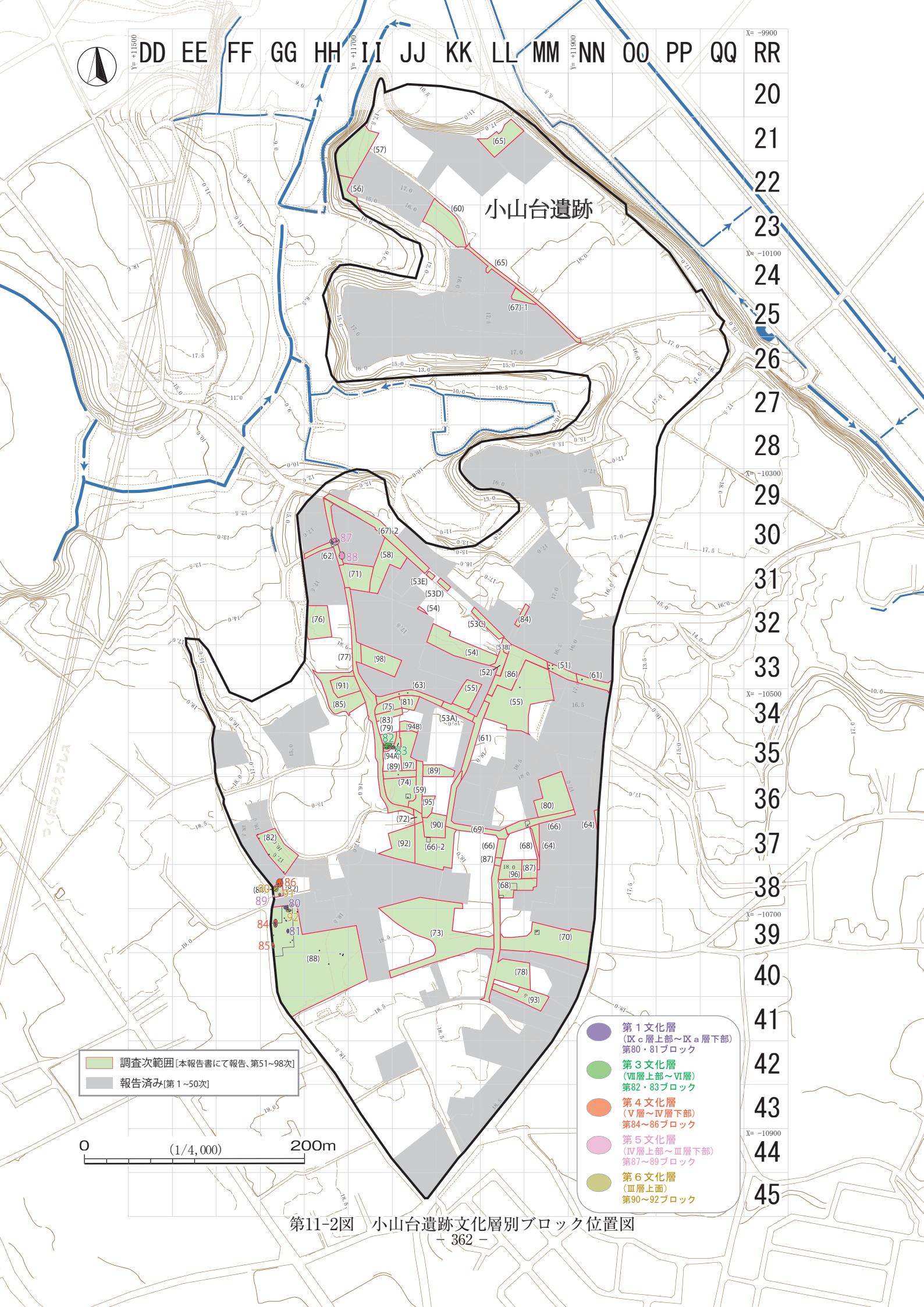
第4文化層 V層～IV層下部に生活面を持つ。総計108点で、今回報告分の文化層では最も出土点数が多い。第84～86ブロックの3か所と単独出土1点で構成される。ナイフ形石器、角錐状石器の接合資料からは石器製作終盤の工程が確認できた。石材は黒色で比較的軟質な黑色頁岩、凝灰岩、トロトロ石の3種が大半を占める。

第5文化層 IV層上部～III層下部に生活面を持つ。総計44点出土し、第87～89ブロックの3か所で構成される。それぞれのブロック間で共通する母岩はなく、同時に営まれたとは判じがたい。38点が第87ブロックで出土しており、ナイフ形石器6点のほか、上げ屋型彫器1点を有する。加工工具としては磨石類、敲石があり、第89ブロックでは800g前後の磨石類2点と原石1点がひとところから検出されている。

第6文化層 III層上部に生活面を持つ。総計24点、第90～92ブロックの3か所と単独出土の3点が該当するが、微細剥離痕のある剥片2点と剥片3点を除いた19点が変色した礫・礫片であり、点在する小規模な焼礫群といった様相である。



第11-1図 小山台遺跡調査次別区域と確認・本調査範囲



第11-1表 文化層別器種組成表

文化層	ブロツク	尖頭状石器	角錐形石器	ナイフ形石器	彫刻刀形石器	削器	石器	楔形石器	二次加工のある剥片	微細剥離痕のある剥片	石刃	剥片	碎石	磨石	敲石	台石	原石	礫	点数合計	点数比	重量合計	重量比	
1	80		1	1							1(2)	3	1	1					8(9)	3.33	54.47	0.66	
	81		2								2	4							10	3.70	35.18	0.43	
			1								1	2	3						7	2.59	38.27	0.47	
第1文化層小計			4	1					1	1	5(6)	10	1	1				1	25(26)	9.63	127.92	1.56	
3	82		4			2	1	3	4		16	3	2						35	12.96	207.21	2.53	
	83								1	1	6							1	10	3.70	87.25	1.06	
									2(3)		1			1	1				5(6)	2.22	3,207.69	39.12	
第3文化層小計			4			2	1	4	7(8)	1	23	3	2	1	1			1	50(51)	18.89	3,502.15	42.71	
4	84		1	2					3(4)	1	55(56)	16	1						1	80(82)	30.37	217.72	2.66
	85									1			1						3(7)	5(9)	3.33	196.33	2.39
	86									2		13	1						16	5.93	40.01	0.49	
			1																1	0.37	2.33	0.03	
第4文化層小計			1	3					3(4)	4	68(69)	16	3					4(8)	102(108)	40.00	456.39	5.57	
5	87		6	1					1		3	19	4		1			3	38	14.07	443.48	5.41	
	88										1	1						1	3	1.11	21.29	0.26	
	89												2			1		3	1.11	2,350.00	28.66		
第5文化層小計			6	1					1		3	20	5	2	1	1	4	44	16.30	2,814.77	34.33		
6	90									1								4(6)	5(7)	2.59	354.93	4.33	
	91																	1	5(6)	6(7)	2.59	450.67	5.50
	92										1	2						1	4(5)	6(7)	2.59	238.46	2.91
第6文化層小計										2		3						2	13(17)	20(24)	8.89	1,048.50	12.79
単独出土	2	2				1		1	2	6		1						1	1	17	6.30	249.35	3.04
合 計	2	1	19	1	1	2	2	9(10)	15(16)	11(12)	130(131)	20	12	3	1	1	2	3	23(31)	258(270)	100.00	8,199.08	100.00

※ () は出土点数

第11-2表 文化層別石材組成表

文化層	ブロツク	ガラス質黒色安山岩	トロツク	トロツク	安山岩	流紋岩	石英斑	黒曜石	凝灰岩	砂質泥岩	頁岩	珪質泥岩	珪質頁岩	嶺珪質頁岩	硬質珪質頁岩	黒色珪質頁岩	ホルンフェルス	チヤ	玉	碧玉	点数合計	点数比	重量合計	重量比
1	80								6(7)								1	1			8(9)	3.33	54.47	0.66
	81								9	1										10	3.70	35.18	0.43	
									5										2	2.59	38.27	0.47		
第1文化層小計									20(21)	1							1	1	2		25(26)	9.63	127.92	1.56
3	82	7							11								16			1	35	12.96	207.21	2.53
	83	3							4			1					1	1		10	3.70	87.25	1.06	
								2	1(2)									1	1	5(6)	2.22	3,207.69	39.12	
第3文化層小計		10		2		16(17)			1			1			16	1	1	2	1	50(51)	18.89	3,502.15	42.71	
4	84	17							23(24)	1							39(40)				80(82)	30.37	217.72	2.66
	85	1	1	2					1(5)											5(9)	3.33	196.33	2.39	
	86	2							1			4		7			2		16	5.93	40.01	0.49		
									1									1	0.37	2.33	0.03			
第4文化層小計		3	18	2		2	23(24)	2(6)			4		7	39(40)			2		102(108)	40.00	456.39	5.57		
5	87	17	4	1	2	1	1				1	4			3	3	1		38	14.07	443.48	5.41		
	88					2				1								3	1.11	21.29	0.26			
	89								2									3	1.11	2,350.00	28.66			
第5文化層小計		17	4	1	2	1	2	1		1	1	4			3	4	1		44	16.30	2,814.77	34.33		
6	90						3(5)			1								1	5(7)	2.59	354.93	4.33		
	91						4			2(3)								6(7)	2.59	450.67	5.50			
	92	1		1	2		1	1(2)										6(7)	2.59	238.46	2.91			
第6文化層小計		1				4(6)	6	2	1	4(6)								1	1	20(24)	8.89	1,048.50	12.79	
単独出土	4	1		1		5	1					2			2	1		17	6.30	249.35	3.04			
合 計	35	23	1	11(13)	7	47(49)	27(28)	8(14)	1	1	5	4	25	41(42)	4	7	9	2	258(270)	100.00	8,199.08	100.00		

※ () は出土点数

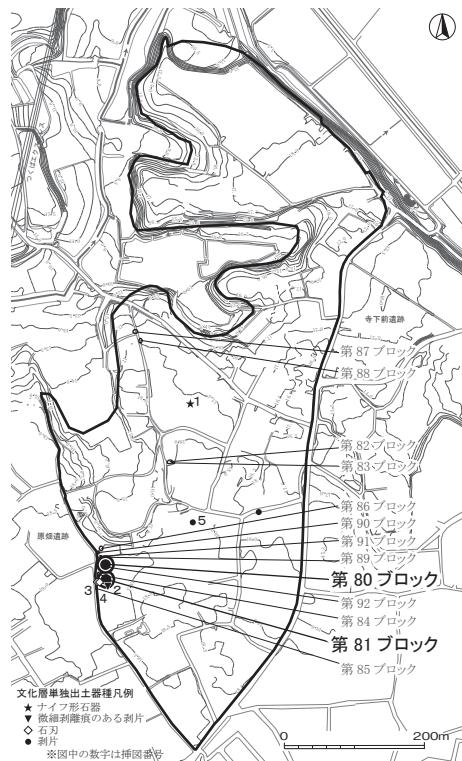
第2節 第1文化層

1 概要(第11-3図、第11-3表)

第1文化層では第80・81ブロックの2か所から19点と、単独出土の7点が加わり、総計26点の石器が出土した。IXc層上部～IXa層下部に生活面が想定される石器群である。2か所のブロックは調査区の南西GG38・GG39グリッドに位置し、それぞれ10点以下の小規模なブロックを形成している。第1文化層全体の器種組成はナイフ形石器4点、削器・二次加工のある剥片・微細剥離痕のある剥片・碎片・石核・原石各1点、石刃6点、剥片10点で、素材としての石刃と、石刃から派生する石器が目を引く。また、黒曜石製のナイフ形石器には、基部である素材打面に潰れ痕がみられるのが特徴の一つである。

一方、石材組成であるが、黒曜石21点のほかは玉髓2点、凝灰岩・黒色頁岩・チャート各1点で、81%を黒曜石が占める。特に第81ブロックの黒曜石は夾雜物の入らない透明度の高いもので、凝灰岩の原石1点を除く剥片類すべてが同一母岩の黒曜石から成る。

第1文化層の器種・石材別組成は第11-3表のとおりである。 第11-3図 第1文化層ブロック位置図



第11-3表 第1文化層器種石材組成表

石材	器種	ナイフ形石器	削器	二次加工のある剥片	微細剥離痕のある剥片	石刃	剥片	碎片	石核	原石	点数合計	点数比 (%)	重量合計 (g)	重量比 (%)
黒曜石		3	1	1		5(6)	9		1	20(21)	80.77	114.59	89.58	
凝灰岩									1	1	3.85	2.81	2.20	
黒色頁岩		1								1	3.85	2.05	1.60	
チャート							1			1	3.85	0.04	0.03	
玉髓					1		1			2	7.69	8.43	6.59	
合 計		4	1	1	1	5(6)	10	1	1	25(26)	100.00	127.92	100.00	

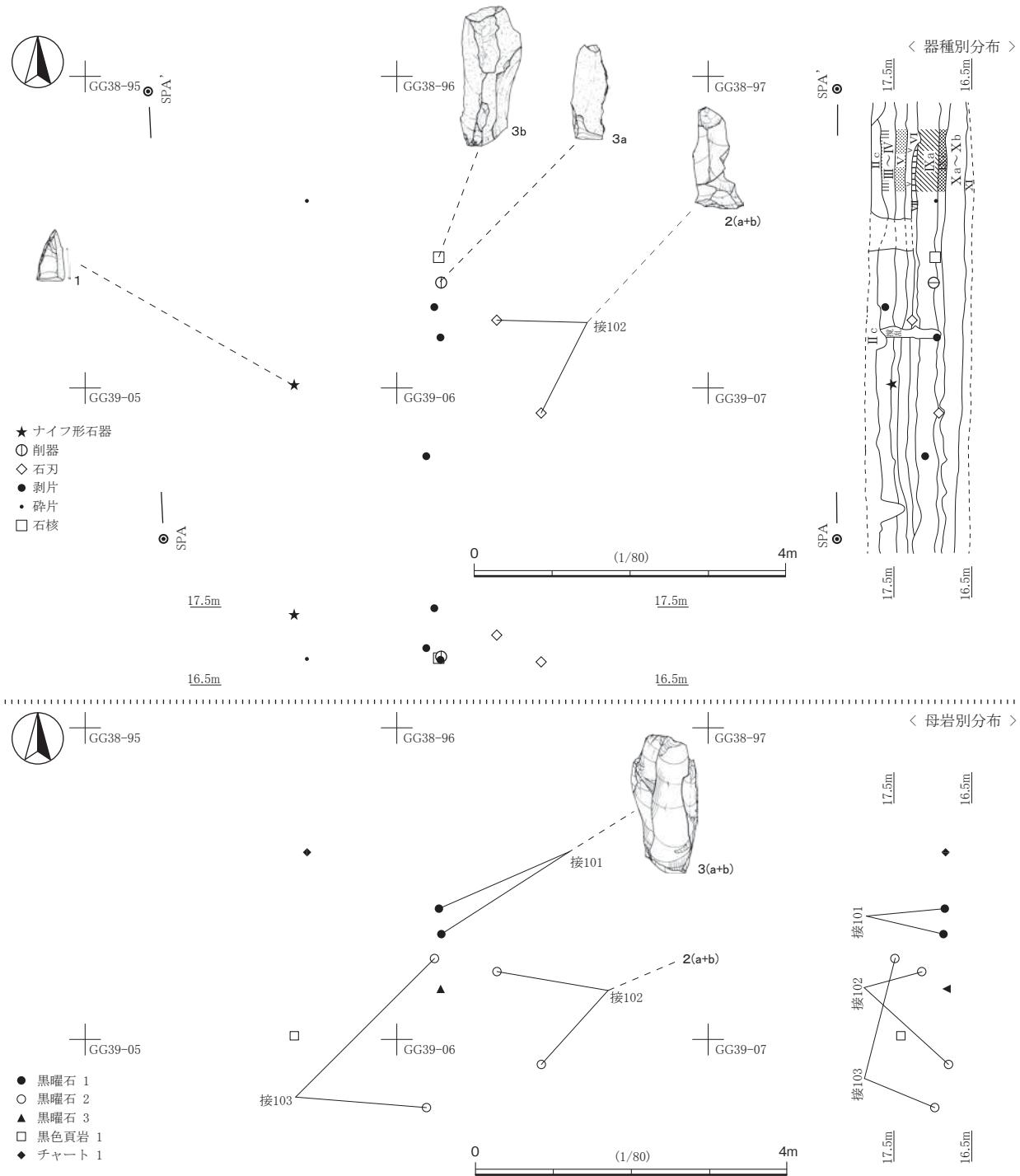
※ ()は出土点数

2 第80ブロック(第11-4・5図、第11-4表、図版29・35)

出土状況 第80ブロックではGG38-95・96、GG39-06グリッドから出土した9点が、直径4.1mの円内に分布する。標高の上下幅はIXc層～Ⅲ・Ⅳ層まで、約66cmを測るが、2aと2bの2点は48.8cmの幅をもって上部と下部が接合していることから、石器分布の上下幅に時間的な差違はないものとみなし、全点がIXc層上部～IXa層下部に生活面を持つ一つのブロックに帰属するものととらえた。黒色頁岩製のナイフ形石器が西端に、チャートの碎片が北西端に分布するが、黒曜石は削器・石刃・剥片・石核などが3.3m×2.0mの範囲内にまとまって出土した。

出土石器 1はナイフ形石器の上半部である。一側縁が自然面、その対縁が急角度に加工され、基部は欠損する。推定される器長の1/2程の遺存か。石材は灰色の黒色頁岩で、ガジリ部分は漆黒を呈する。

2は2点で1点の長幅比2.10の石刃であり、灰白色半透明の黒曜石を素材とする。2aは打面部を含む上部、2bが下部である。出土時の層位は2aがX層上面、2bがVII層下部となっているが、折面に人為的



第11-4図 第1文化層第80ブロック遺物分布

な痕跡がみられないことから自然な分布幅ととらえた。頭部調整で小さくしつらえた打面直上から垂直に加撃されたために、打撃直下ではコーン状の割れ円錐が残る。力の方向が内側へ向かったためか器形は湾曲し、計測値の最大厚は10mmを超えるが、下部以外は5mm内外の薄さで、カミソリのような薄い側縁を持つ。使用痕・剥離痕は見受けられない。同一方向から連続して剥離された規格性の高い石刃である。母岩の黒曜石2は半透明で白色の澱のようなものを含み、和田土屋橋北群産や北八ヶ岳産、冷山産に近似する。

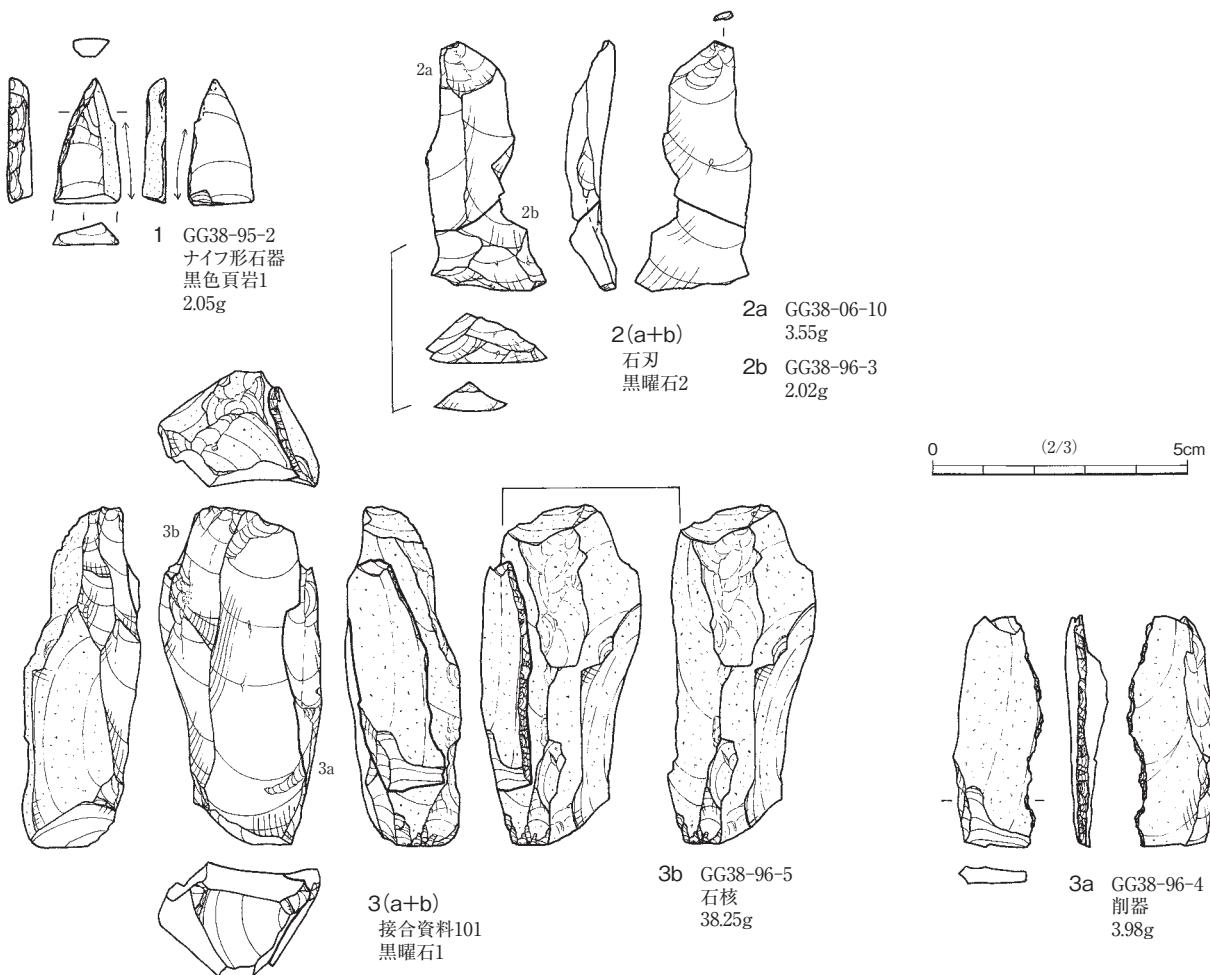
3は石核と削器の接合資料である。2点間は約30cmと近接しており、標高差はわずか1.7cmである。石

核裏面の稜線は丸みを帯び、多方向の剥離痕には光沢がないことから、裏面を風化剥離面ととらえた。正面の剥離痕の方向はすべて同じであり、石刀作出を目的として規格的に加撃した痕跡が残る。3aの削器は石核のパティナから剥がれた剥落片が素材である。薄い板状の剥落片の片側縁辺全体に二次加工が施されている。裏面の右側に素材である石核の表皮が瘡蓋のように取り込まれている。母岩は夾雜物をほとんど含まず、透明感のある良質な黒曜石1で、信州和田峠に近似する石材が産出する。石核3bは遠隔地石材の中でも最も貴重な石材のひとつ目される黒曜石であるにも関わらず、剥片作出の余力を残している大型の残核である。

第11-4表 第1文化層第80ブロック組成表

母岩	器種	母岩番号	ナイフ形石器	削器	石刃	剥片	碎片	石核	点数合計	点数比(%)	重量合計(g)	重量比(%)
黒曜石	1				1			1	2	22.22	42.23	77.53
	2				1(2)	2			3(4)	44.44	7.57	13.90
	3					1			1	11.11	2.58	4.74
黒曜石小計				1	1(2)	3		1	6(7)	77.78	52.38	96.16
黒色頁岩	1	1							1	11.11	2.05	3.76
チヤート	1						1		1	11.11	0.04	0.07
合計				1	1(2)	3	1	1	8(9)	100.00	54.47	100.00

※ ()は出土点数



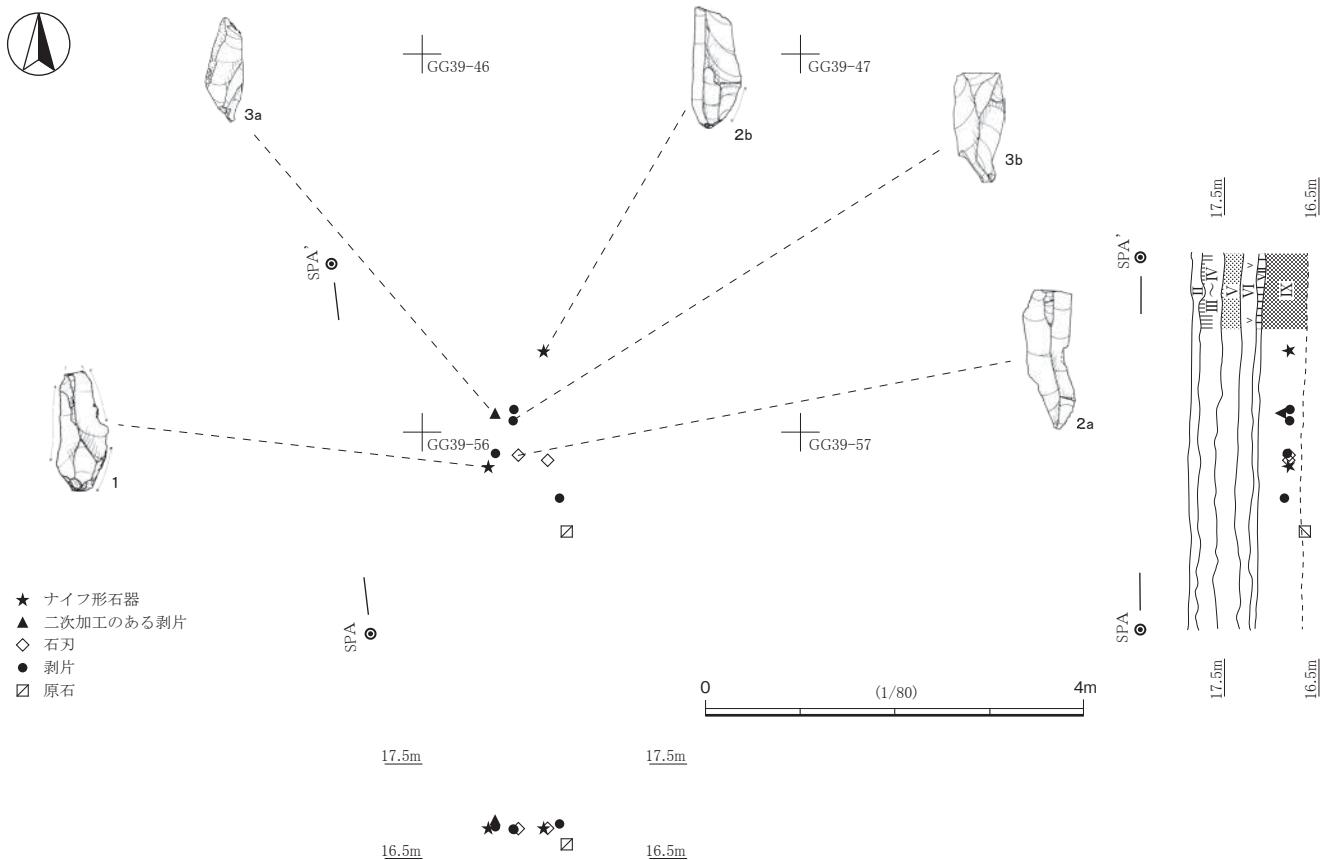
第11-5図 第1文化層第80ブロック出土石器

3 第81ブロック(第11-6~8図、第11-5表、図版29・35)

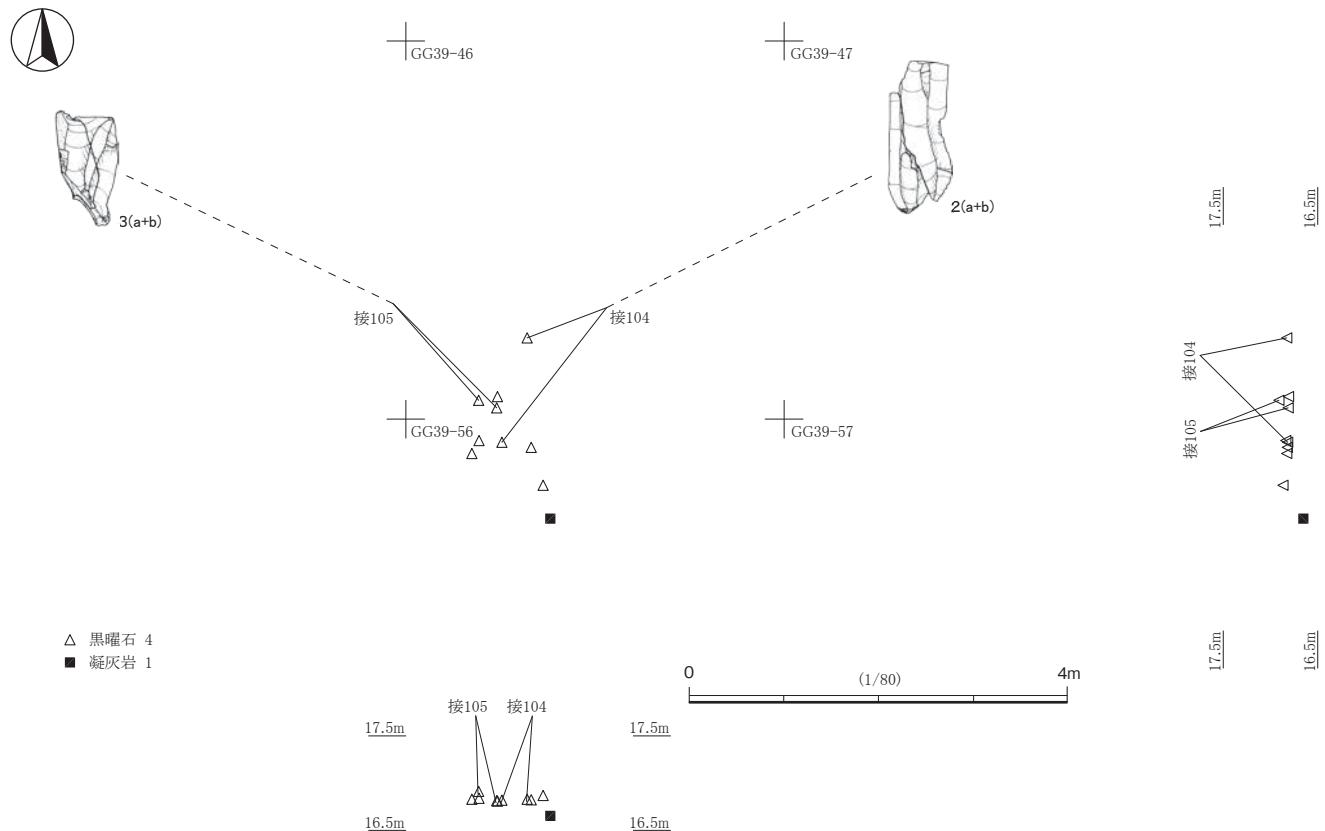
出土状況 第81ブロックではGG39-46グリッドから4点、GG39-56グリッドから6点の計10点が出土した。石器はIX層に包含され、調査時の所見ではIXc層～IXa層の出土とされる。黒曜石の9点は南北に1.6m、東西に0.8mの範囲に分布し、標高16.8m付近に一列に並ぶ。凝灰岩1点はそれよりも標高が10cmほど下位にあり、分布の南端に位置する。器種はナイフ形石器、二次加工のある剥片、石刃、剥片、原石で、原石の凝灰岩を除いた9点は極めて良質な信州産黒曜石製であり、すべて同一母岩から剥離されたものと推測される。石基はわずかに赤みを帯びるが透明度は高く、夾雜物を含まない。あくまで肉眼観察であるが、和田鷹山産、小深沢産の黒曜石に近似する。石核の出土はなかったが、これら9点からは石刃を目的とした剥離工程が観察される。石器の打面を小さくしつらえ、器厚はごく薄い。ナイフ形石器2点を含む5点を図化した。このうち2個体は接合資料である。

出土石器 1はナイフ形石器である。残存する長幅比は2.40で、整った形状の石刃を素材とし、頭部調整のある打面部は擦り潰しによって線状となる。薄い両側縁に連続する刃こぼれ痕は、端部の欠損により寸断される。

2はナイフ形石器と石刃の接合資料である。2点は正面図手前が上方から剥離された後、180°転移して打面を擦り調整したのちに2bの剥離に至る。この間、打面転移の後に最低一枚は同様の石刃が剥離される。2aの打面は欠損し、末端部は二側縁が収束する。2bは潰れ痕のある打面部を基部としたナイフ形



第11-6図 第1文化層第81ブロック器種別分布



第11-7図 第1文化層第81ブロック母岩別分布

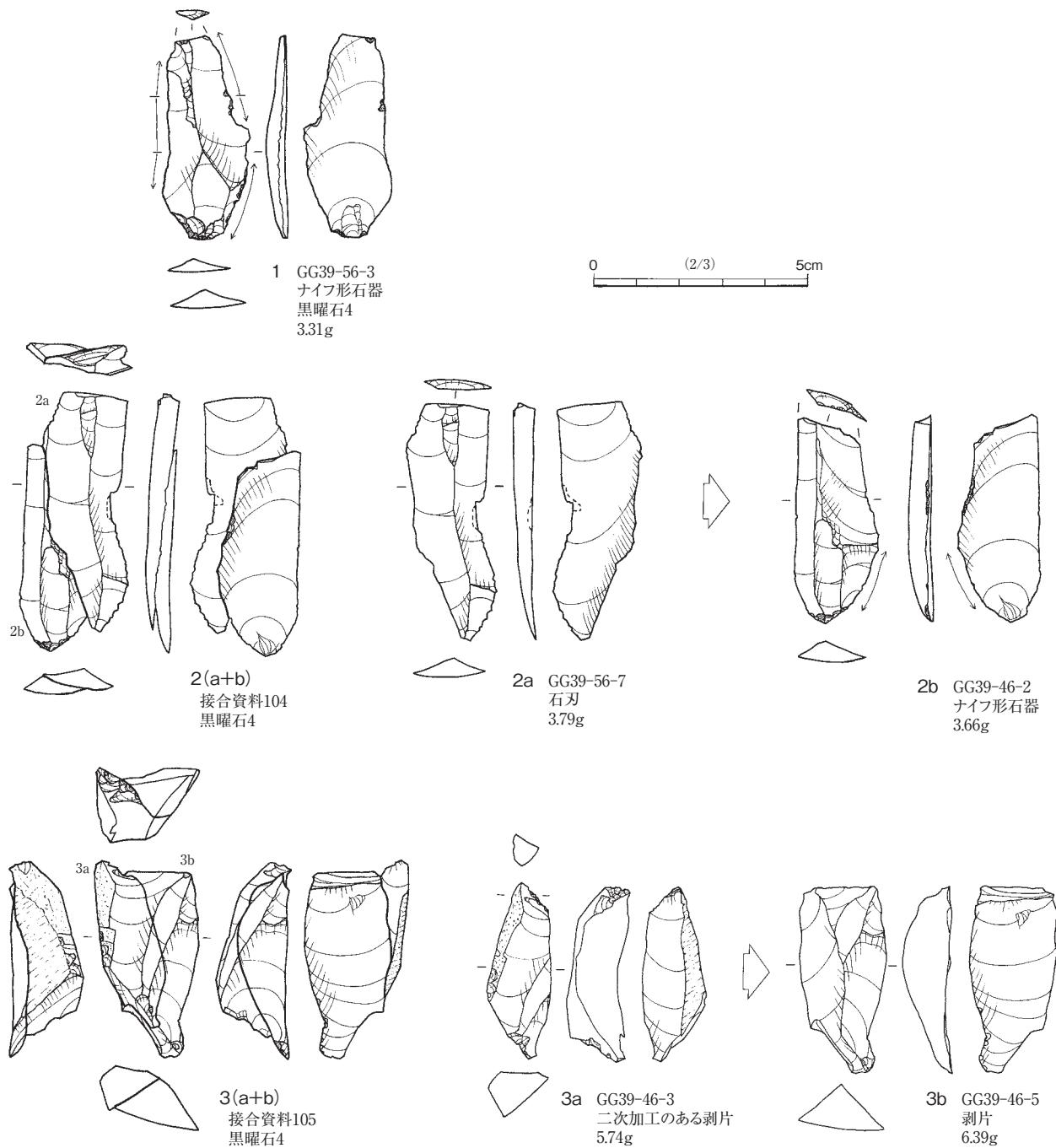
石器で、側縁には微細剥離痕がみられる。刃部先端は折れて欠損する。擦り潰しによる基部の作出、側縁の使用痕、刃部欠損の状態は1と一致する。遺存する長幅比も2.41と、ほぼ同じである。

3は、上部に二次加工のある剥片3aと、長幅比2.01の縦長の剥片3bの接合資料である。打面ではなく、強い力で押し込まれたような寸詰まりの剥離痕が接合時の背面上部に残る。3aの左側には板状の自然面がみられる。石核の角部であり、断面は厚みのある五角形を呈する。上部に細かな二次加工があり、尖頭部が作出されている。1～3はすべて黒曜石4を母岩とする。

第81ブロックと同様の石器群としては、西に隣接する原畑遺跡第1文化層第4ブロックがあげられ、8割以上に良質な和田エリアの黒曜石が用いられること、石器の打面部が小さくしつらえられていること、ごく薄い側縁部に微細剥離痕がみられることが共通する特徴である。また、頭部調整の後、上下両方向からの剥離によって石刃を剥離する工程が確認できる。

第11-5表 第1文化層第81ブロック組成表

母岩	器種	母岩番号	ナイフ形石器	二次加工のある剥片	石刃	剥片	原石	点数合計	点数比(%)	重量合計(g)	重量比(%)
黒曜石	4		2	1	2	4		9	90.00	32.37	92.01
凝灰岩	1						1	1	10.00	2.81	7.99
合	計		2	1	2	4	1	10	100.00	35.18	100.00



第11-8図 第1文化層第81ブロック出土石器

4 第1文化層単独出土石器(第11-3・9図、第11-6表、図版35)

出土点数が2点以下で集中域を持たないが、調査時の所見、示準石器の有無、出土状況等を検討したうえで、本文化層に帰属すると考えられるものを掲載した。分布の状況は第11-3図に示した。図中の遺物シンボル横の数字は挿図番号である。第3文化層以降も同様である。

1はナイフ形石器である。JJ37-26グリッドから出土した資料で、小型の石刃を素材とし、打面部を背稜、主要剥離面の両方から尖鋭に加工している。基部加工は右下側縁にみられるが折れにより寸断される。夾雜物の多い、黒色不透明な黒曜石製である。

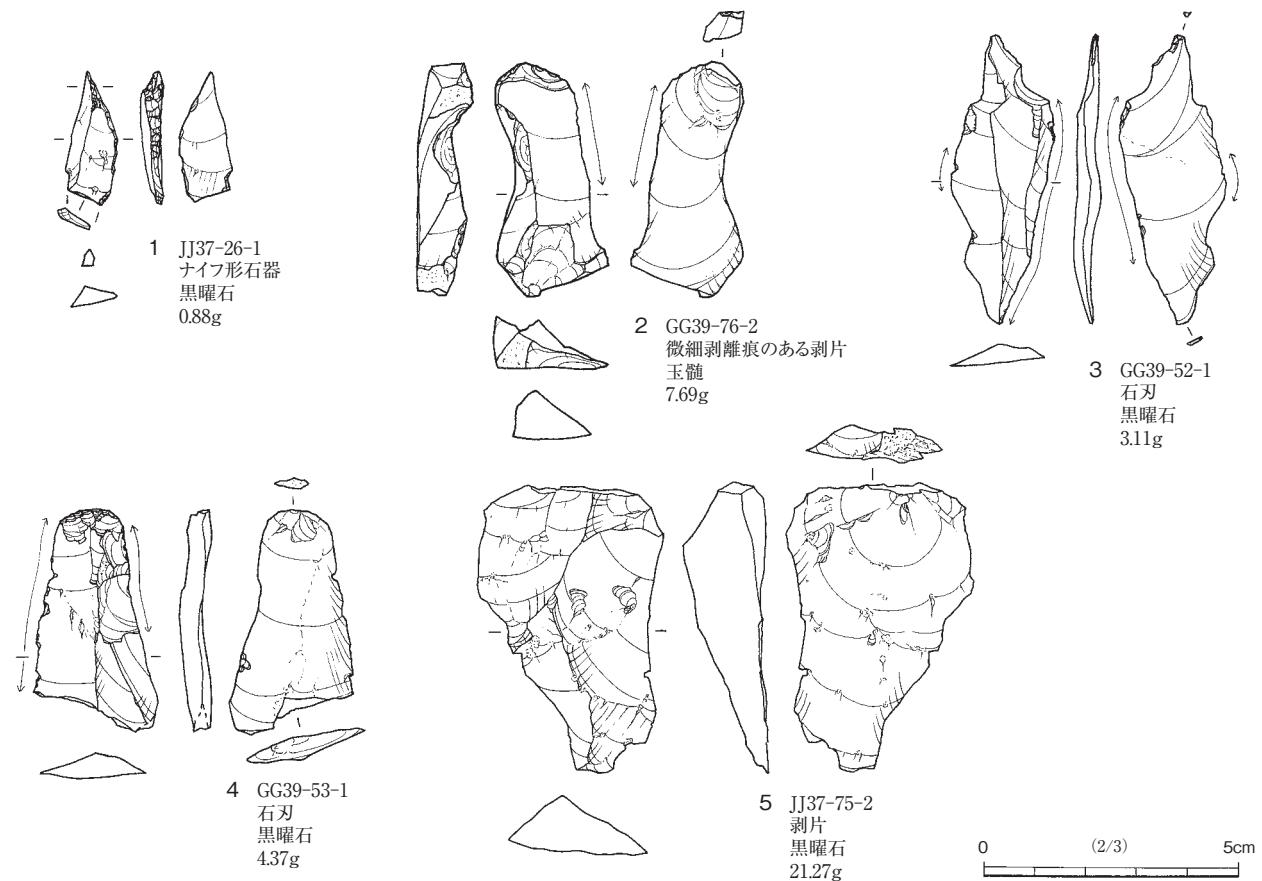
2はGG39-76グリッドから出土した微細剥離痕のある剥片で、長幅比2.13の縦長を呈し、直線状の右側縁部に細かい刃こぼれが連なる。下端からの剥離痕と折面が残ることから、底面が台石などに設置された状態で剥離作業が行われたものと推察される。打面にはわずかながら調整痕がみられる。石材は、自然面が赤褐色、剥離面は薄橙色であり、器厚の薄い部分が半透明な玉髓である。

3・4は微細剥離痕のある黒曜石製の石刃であり、GG39-52・53グリッドのIX層から出土した。2点の距離はわずか30cmほどである。3の打面部ではなく、両端部は少々欠損するが尖鋭である。透明度が高く、薄墨色の筋が数条入る良質な石材である。4は下部が欠損し、打面部に頭部調整痕がみられる。透明感はあるが所々スリガラス状で黒色斑が散在しており、第1文化層の黒曜石3と近似する。

5は自然面と剥離面から成る打面から加撃された最大長56.8mmの剥片である。JJ37-75グリッドで出土した。黒曜石を産出しない房総半島においては大型の部類に入る剥片で、背面に主要剥離面と同一方向の剥離痕が4面みられ、規格的な工程で剥離されたうちの1片であることがわかる。淡褐色の夾雜物を多く含む不透明な黒曜石で、肉眼観察では高原山産と推定される。

第11-6表 第1文化層単独出土石器組成表

石材	器種	ナイフ形石器	微細剥離痕のある剥片	石刃	剥片	点数合計	点数比 (%)	重量合計(g)	重量比 (%)
黒曜石		1		2	2	5	71.43	29.84	77.97
玉髓			1		1	2	28.57	8.43	22.03
合計		1	1	2	3	7	100.00	38.27	100.00



第11-9図 第1文化層単独出土石器

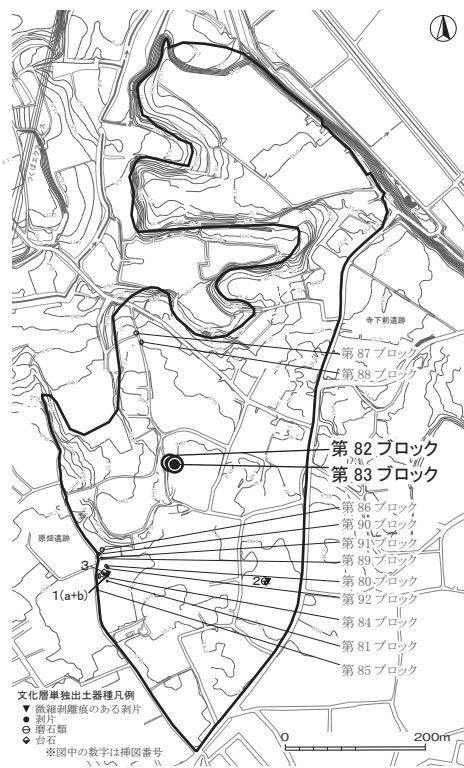
第3節 第3文化層

1 概要(第11-10図、第11-7表)

第3文化層はⅦ層上部～Ⅵ層に生活面を持つ石器群である。II35・JJ35グリッドの第82・83ブロック2か所から45点と単独6点が出土した。2か所のブロックは調査区中央部に隣接し、西側が第82ブロック、東側が第83ブロックである。西側に入り込んだ谷津に向かって下降気味の斜面に立地するため、石器が実際に包含される層位とそれらを投影した土層断面図とに差違が生じているが、特に調整は行わず、調査時の作成図にしたがった。出土した石器45点の標高の平均値は17.32mである。

器種組成はナイフ形石器4点、石錐2点、楔形石器1点、二次加工のある剥片4点、微細剥離痕のある剥片7(8)点、石刃1点、剥片23点、碎片3点、石核2点、磨石類1点、台石1点、礫片1点であり、ナイフ形石器や石錐など、製品(トゥール)の割合が比較的高い。また、加工痕のある剥片類が多いのも特徴的である。

石材は点数の多い順に、黒曜石16(17)点、硬質頁岩16点、ガラス質黑色安山岩10点、流紋岩・玉髓各2点、珪質泥岩・黑色頁岩・ホルンフェルス・碧玉各1点であり、黒曜石、硬質頁岩の占める割合は約65%である。千葉県内ではⅦ層上部からⅥ層にかけて展開する石器群の標準的な石材組成といえる。



第11-10図 第3文化層ブロック位置図

第11-7表 第3文化層器種石材組成表

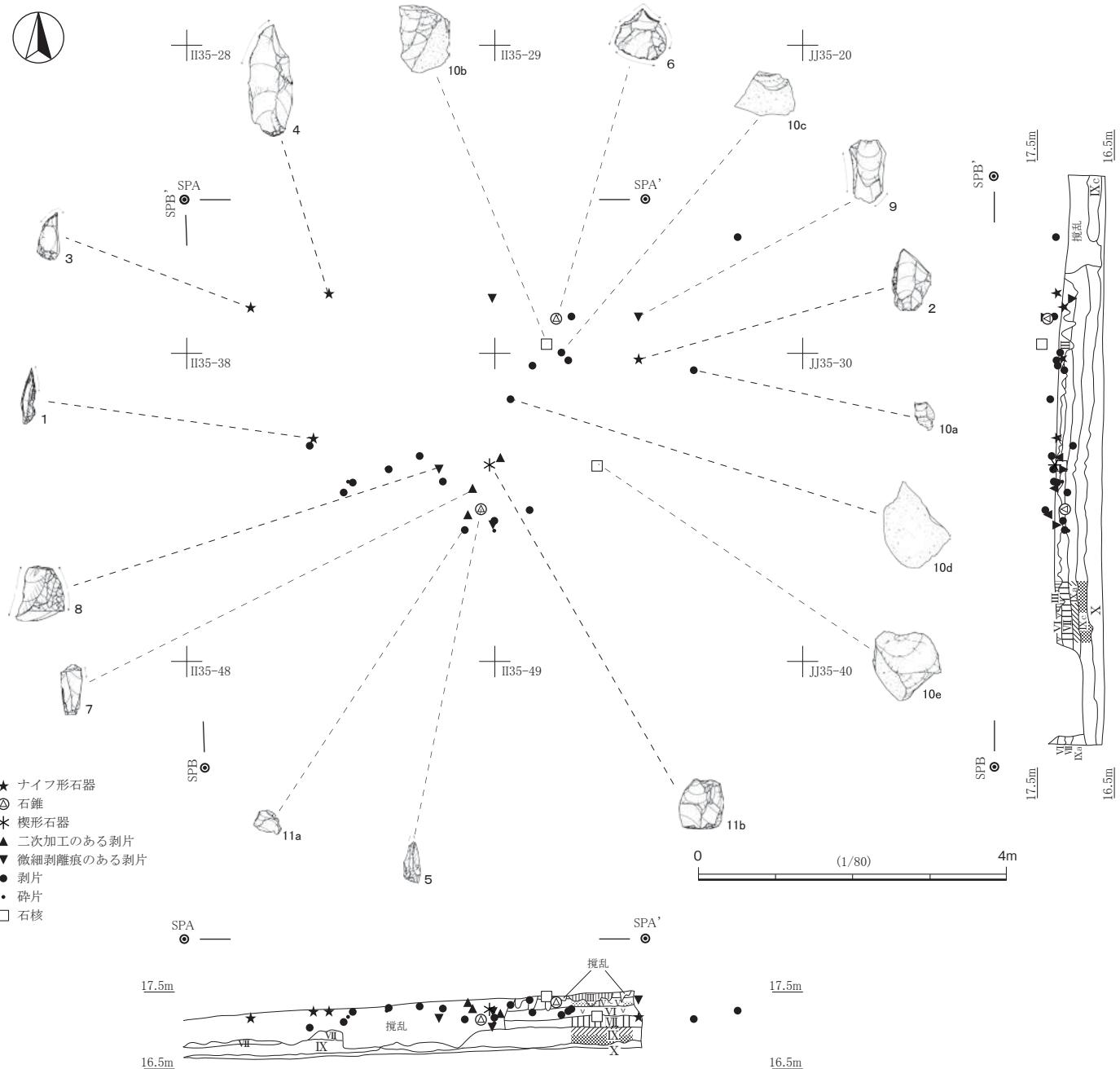
石材	ナイフ形 石器	石錐	楔形石器	二次加工 のある剥片	微細剥離痕 のある剥片	石刃	剥片	碎片	石核	磨石類	台石	礫片	点数合計	点数比 (%)	重量合計 (g)	重量比 (%)
ガラス質黑色安山岩				1			7		2				10	19.61	137.01	3.91
流 紋 岩							1						2	3.92	3,056.45	87.27
黒 曜 石	1	1			2(3)			10	2				16(17)	33.33	20.46	0.58
珪 質 泥 岩					1								1	1.96	4.13	0.12
硬 質 頁 岩	3	1	1	3	2			5	1				16	31.37	73.38	2.10
黒 色 頁 岩						1							1	1.96	43.85	1.25
ホルンフェルス												1	1	1.96	22.38	0.64
玉 髓					1								2	3.92	138.95	3.97
碧 玉					1								1	1.96	5.54	0.16
合 計	4	2	1	4	7(8)	1	23	3	2	1	1	1	50(51)	100.00	3,502.15	100.00

※()は出土点数

2 第82ブロック(第11-11～14図、第11-8表、図版29・35)

出土状況 調査区中央部のII35-28・29・38・39グリッドにて直径約6mの範囲に35点が分布する。出土した石器の高低差は40.5cmである。地形は東へ向かって高くなり、東西方向に実測した土層投影図では石器はほぼ一列に並んで右肩上がりの傾向を示すが、標高の低い西側ではⅢ層～Ⅵ層が10cm～15cmと薄く、土層の境界をとらえ難い。器種組成はナイフ形石器4点、石錐2点、楔形石器1点、二次加工のある剥片3点、微細剥離痕のある剥片4点、剥片・碎片19点、石核2点である。石材は多い順に硬質頁岩16点、黒曜石11点、ガラス質黑色安山岩7点、玉髓1点である。

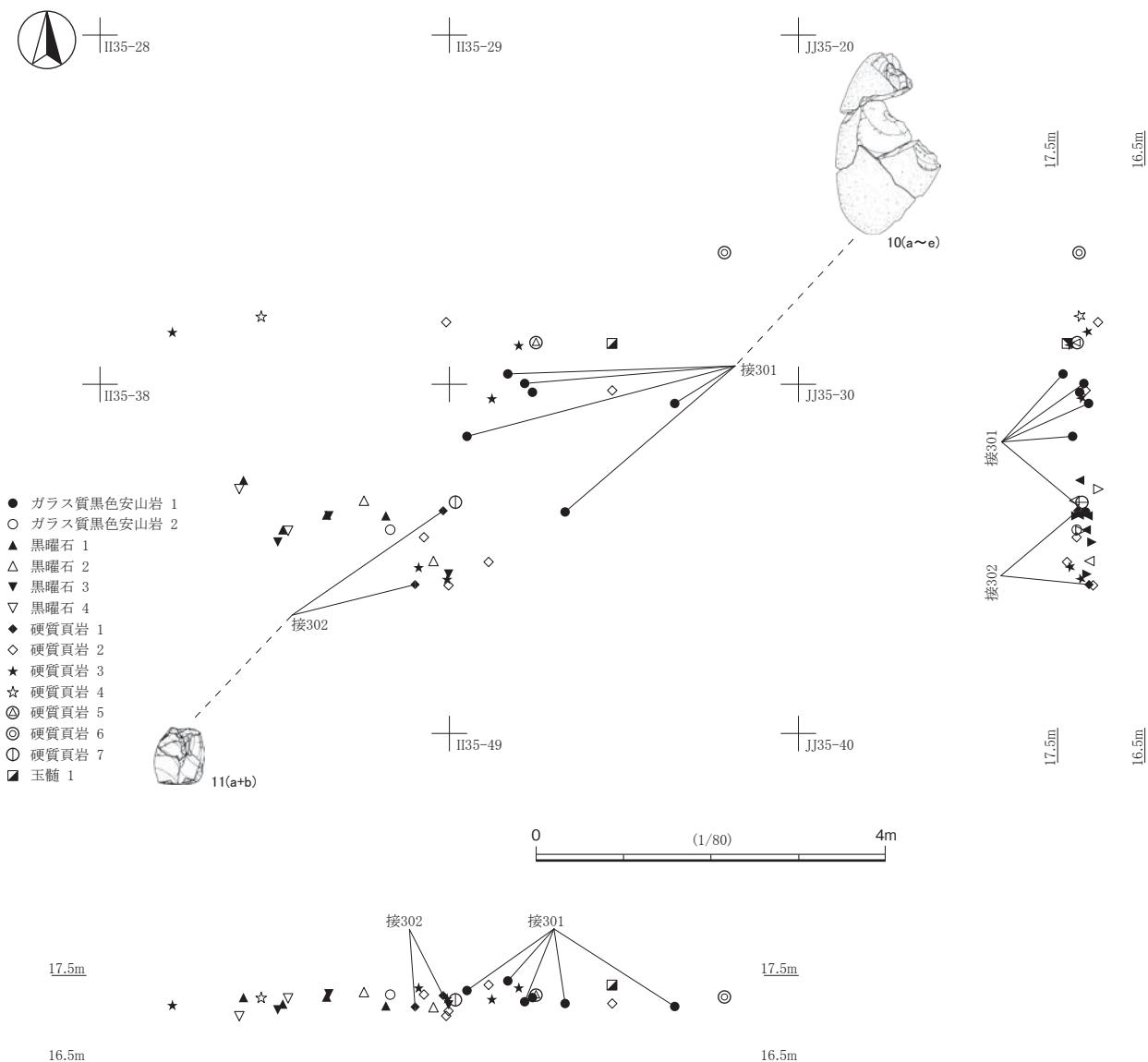
石器は1.5m四方の空白域を囲むように分布し、南東側に半円弧状の広がりをみせる。ナイフ形石器4



第11-11図 第3文化層第82ブロック器種別分布

点のうち2点は北西側に点在する。

出土石器 1～4はナイフ形石器である。1は尖鋭な先端と四角形の断面を持つ、細長い角錐状をしたナイフ形石器である。最大長は3cmに満たないが厚みがあり、錐としての機能も考えられる。機能部の稜4本のうち、2本に微細剥離痕が連続する。右側面全体は裏面から急角度に加工され、面状を呈する。透明度が高く、夾雜物を含まない、ごく良質な黒曜石1が母岩である。VI層に包含される。2は石刃素材で斜めに折れており、素材打面がわずかに残る。折面には加工痕や使用痕は看取されない。チョコレート色の



第11-12図 第3文化層第82ブロック母岩別分布

硬質頁岩2を母岩とする。3は小型の剥片が素材である。弧状の縁辺には背腹両面から施された微細な加工痕がみられる。先端部から生じた縦折れにより、右部欠損する。硬質頁岩3が母岩である。4は長幅比2.48の石刃を用いた基部加工のナイフ形石器である。素材打面は点状に残り、緩い弧状を描く刃部には微細剥離痕が連続する。明るい黄褐色だが基部はやや暗色で、さらさらとした質感の硬質頁岩4が母岩である。

5・6は石錐である。5は三ツ目錐状だが、先端部は破損している。幅と厚みは下部で逆転する。母岩の黒曜石2は、黒曜石1と同じほどの透明感だが白色の細かな夾雜物を多く含み、下部には自然面と潰れ痕が残る。6は貝殻状剥片の末端縁辺と側縁の交わる角部を錐の機能部としている。素材打面を除く全周に使用痕がみられる。背面は灰色、腹面は濃い褐色の硬質頁岩3が母岩である。この色調の違いは、腹面が地に接した状態で背面の風化が進行した結果であろうか。

7は二次加工のある剥片である。下端を固定した状態で剥離作業が行われた石刃が素材であり、左側縁

に刃潰し状の小剥離が、右側縁と打面の成す角部に微細剥離痕がみられる。淡褐色の硬質頁岩2が母岩である。

8・9は微細剥離痕のある剥片である。8の右側縁には上方から4条以上細長い剥離痕が並ぶが、主要剥離面に切られる。打面を除く3縁辺に微細剥離痕がみられる。透明度の高い良質な黒曜石1が母岩である。9の左側縁と末端縁に微細剥離痕がみられる。澄んだ黄橙色の玉髓製である。

10は剥片3点と石核2点の接合資料である。同一母岩は6点あり、5点が接合した。検出された層位はⅦ層～Ⅲ層と上下幅が大きく、Ⅲ層出土の石核10bにⅦ層出土の小型の剥片10aが接合する。厚みのある橢円礫が素材である。初期段階で10a、10bを含む端部が剥離され、その際に現れた面を打面として10c～10eを含んだ分厚い剥片が剥離される。この厚みを削ぐように10cが剥がされると同時に10dが弾かれ、この後、少なくとも1枚以上が10eから剥離されており、接合しない同一母岩の1片がこれに該当する可能性が高い。8倍のルーペでは、黒色で光沢のあるφ0.5mmほどの斑晶が少量観察される。ローム粒をまとめて黄色みを帯びた黒褐色の剥離面と自然面を持つ、ガラス質黒色安山岩1が母岩である。

11は楔形石器と剥片の接合資料で、2点間は約90cmの距離にある。11bの両面に上下両極からの剥離痕がみられ、正面形が四角形、器体の中央では両極からの剥離痕がせめぎ合う。剥離された11aの主要剥離面には打面とバルブがなく、平板な形状である。母岩は濃い褐色の硬質頁岩1である。

第11-8表 第3文化層第82ブロック組成表

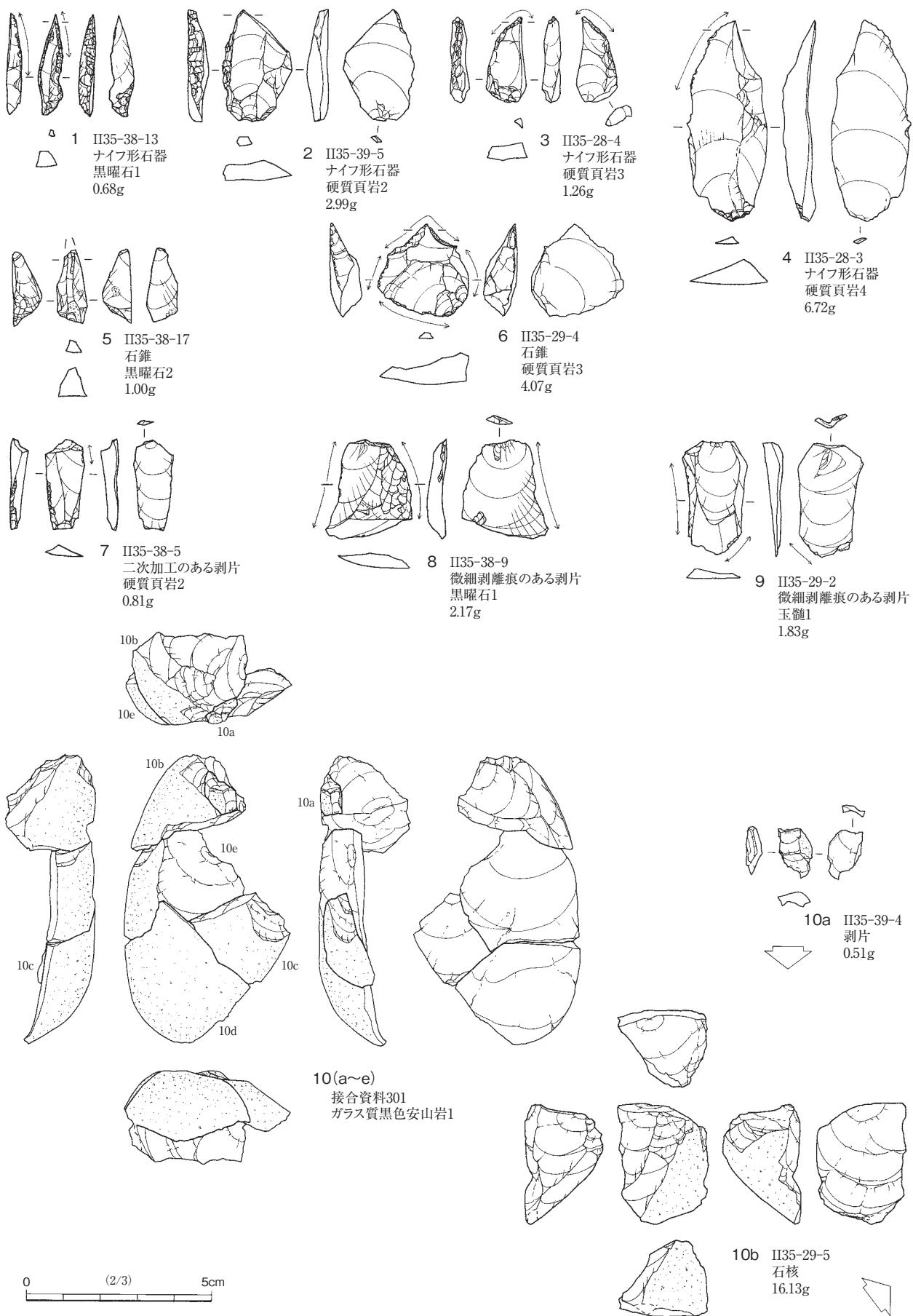
母岩	器種	母岩番号	ナイフ形石器	石錐	楔形石器	二次加工のある剥片	微細剥離痕のある剥片	剥片	碎片	石核	点数合計	点数比(%)	重量合計(g)	重量比(%)
ガラス質黒色安山岩	1							4		2	6	17.14	56.87	27.45
	2							1			1	2.86	66.30	32.00
ガラス質黒色安山岩	小計							5		2	7	20.00	123.17	59.44
黒曜石	1		1				1		2		4	11.43	2.91	1.40
	2			1				1			2	5.71	3.20	1.54
	3							3			3	8.57	1.16	0.56
	4							2			2	5.71	1.56	0.75
黒曜石	小計		1	1			1	6	2		11	31.43	8.83	4.26
硬質頁岩	1				1			1			2	5.71	8.13	3.92
	2		1			1	1	1			5	14.29	9.02	4.35
	3		1	1		1	1	1			5	14.29	8.12	3.92
	4		1								1	2.86	6.72	3.24
	5							1			1	2.86	9.23	4.45
	6							1			1	2.86	28.69	13.85
	7					1					1	2.86	3.47	1.67
硬質頁岩	小計		3	1	1	3	2	5	1		16	45.71	73.38	35.41
玉髓	1						1				1	2.86	1.83	0.88
合	計		4	2	1	3	4	16	3	2	35	100.00	207.21	100.00

3 第83ブロック(第11-15・16図、第11-9表、図版29・35)

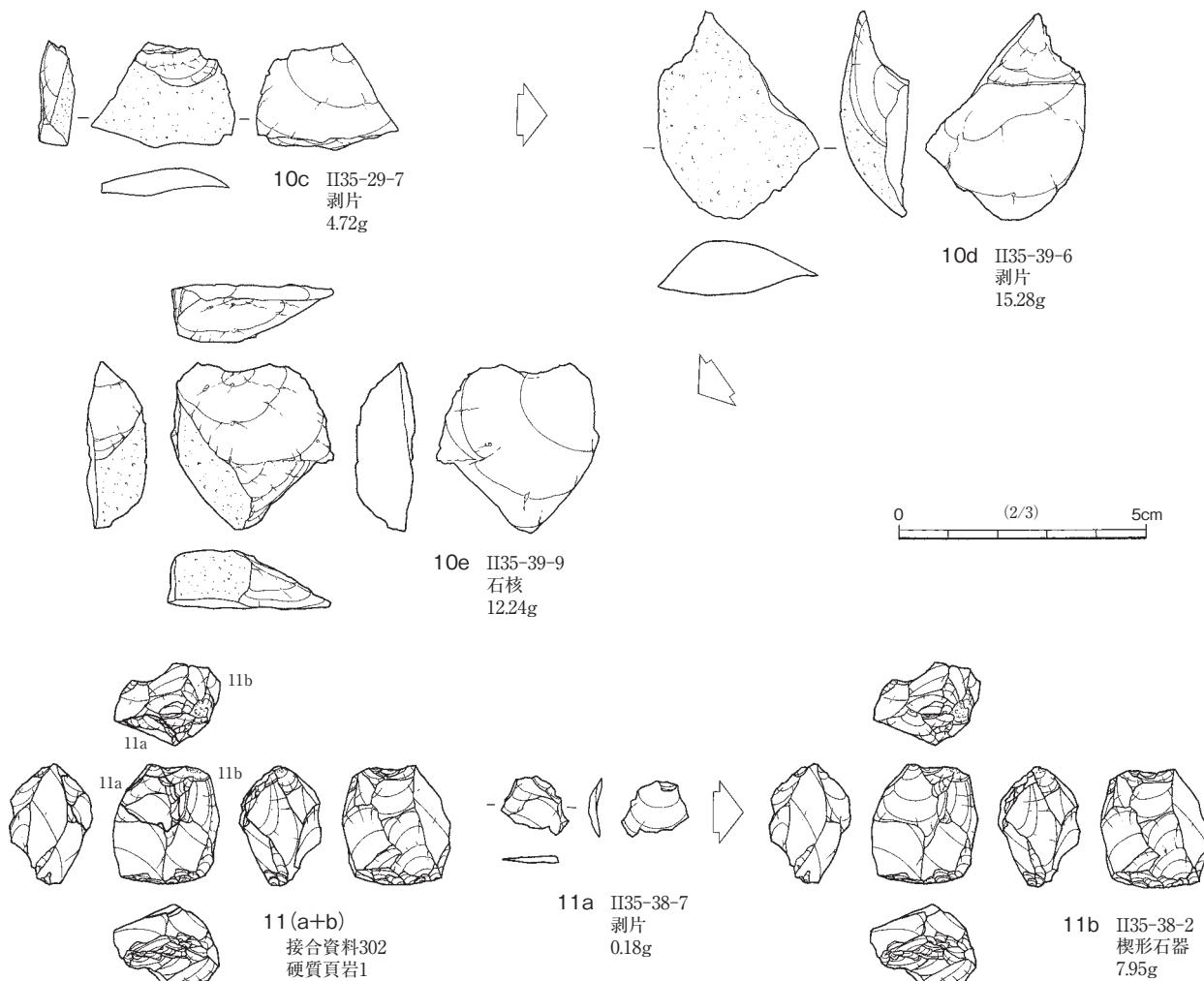
出土状況 第83ブロックは第82ブロックの東側に隣接し、II35-39、JJ35-30グリッドの直径3m程の円内に10点が分布する。第82ブロックとは違い、主要器種の出土はなく、半数近くを占めていた硬質頁岩は皆無である。ブロック間での接合資料は確認できなかった。石器は標高17.2m～17.5mから出土し、平均値は17.4mである。土層は実測されていないが、大半がⅦ層・Ⅵ層に包含される、との調査時の所見である。

器種組成は剥片6点、二次加工のある剥片・微細剥離痕のある剥片・石刀・礫片各1点である。石材は黒曜石4点、ガラス質黒色安山岩3点、珪質泥岩・黒色頁岩・ホルンフェルス各1点である。

出土石器 1は二次加工のある剥片である。右側縁に連続する加工痕は上部の折れで寸断される。剥片剥



第11-13図 第3文化層第82ブロック出土石器(1)



第11-14図 第3文化層第82ブロック出土石器(2)

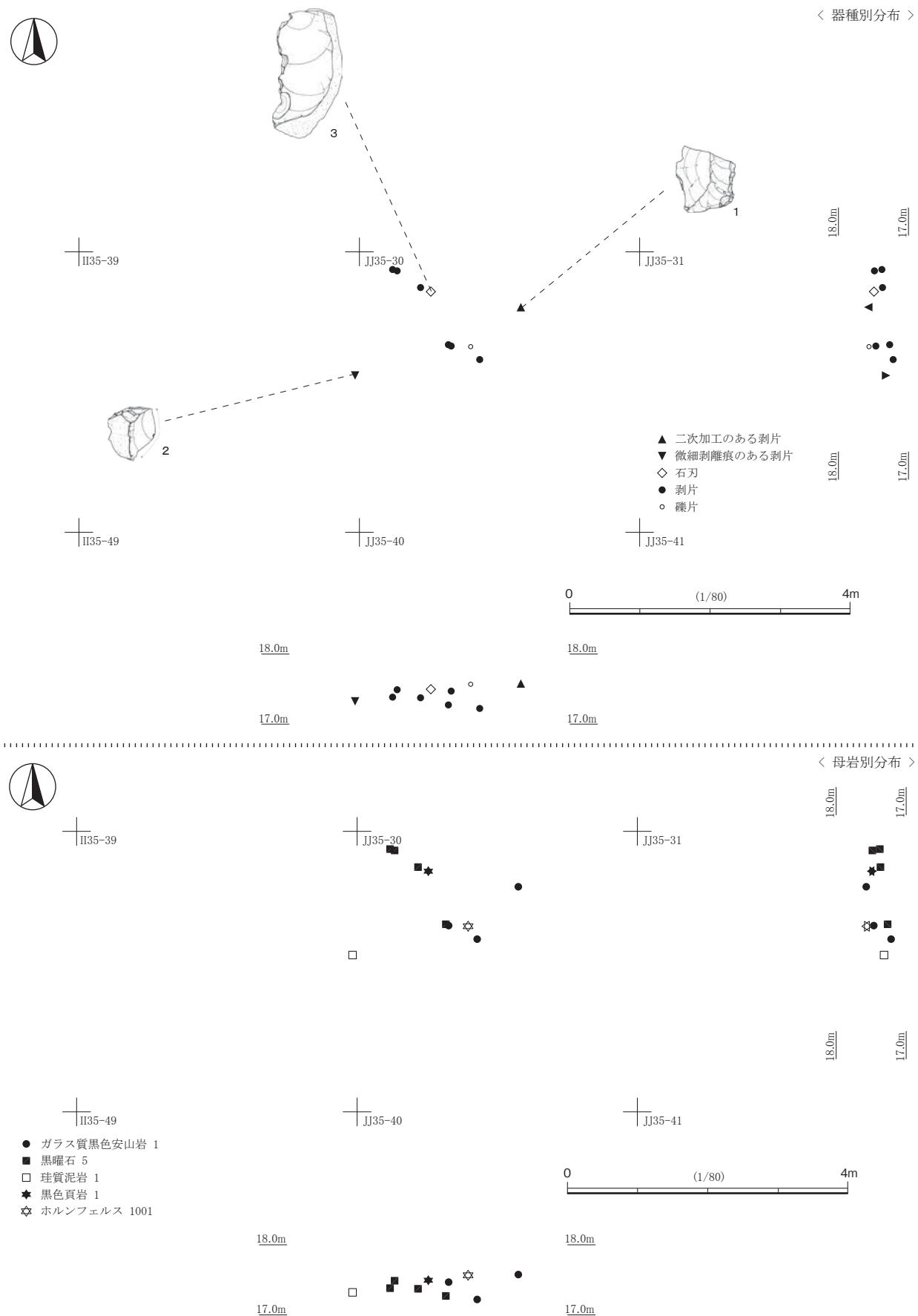
離時に下端を固定した状態で加撃されたためか、末端に自然面が面状に残る。ガラス質黒色安山岩1が母岩である。

2は微細剥離痕のある剥片である。平坦打面を有し、背面の半部を自然面が占める。右側縁には微細剥離痕が連なる。石材は外皮に近い部分が緑灰色で中ほどが純白の、2色がくっきりと区分された珪質泥岩である。

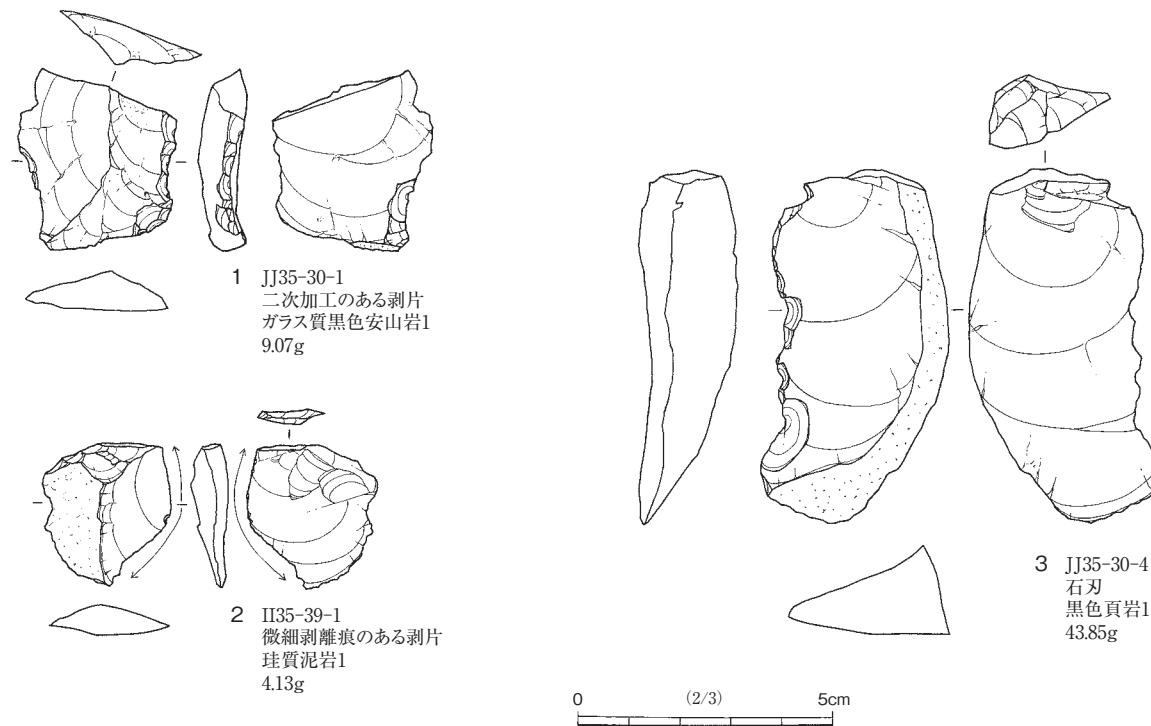
3は石刃である。複剥離打面を有し、側縁に刃こぼれが顕著である。右側縁から末端にかけて帯状に自然面が残る。握り拳大の原石から剥離された1片であり、自然面、剥離面とも灰白色に風化しているが、新欠部分は濃灰色～黒色の黑色頁岩製である。ほかに同一母岩の出土ではなく、単体で持ち込まれたものと思われる。

第11-9表 第3文化層第83ブロック組成表

母岩	器種	母岩番号	二次加工のある剥片	微細剥離痕のある剥片	石刃	剥片	礫片	点数合計	点数比(%)	重量合計(g)	重量比(%)
ガラス質黒色安山岩		1	1			2		3	30.00	13.84	15.86
黒曜石		5				4		4	40.00	3.05	3.50
珪質泥岩		1		1				1	10.00	4.13	4.73
黒色頁岩		1			1			1	10.00	43.85	50.26
ホルンフェルス		1001					1	1	10.00	22.38	25.65
合	計		1	1	1	6	1	10	100.00	87.25	100.00



第11-15図 第3文化層第83ブロック遺物分布



第11-16図 第3文化層第83ブロック出土石器

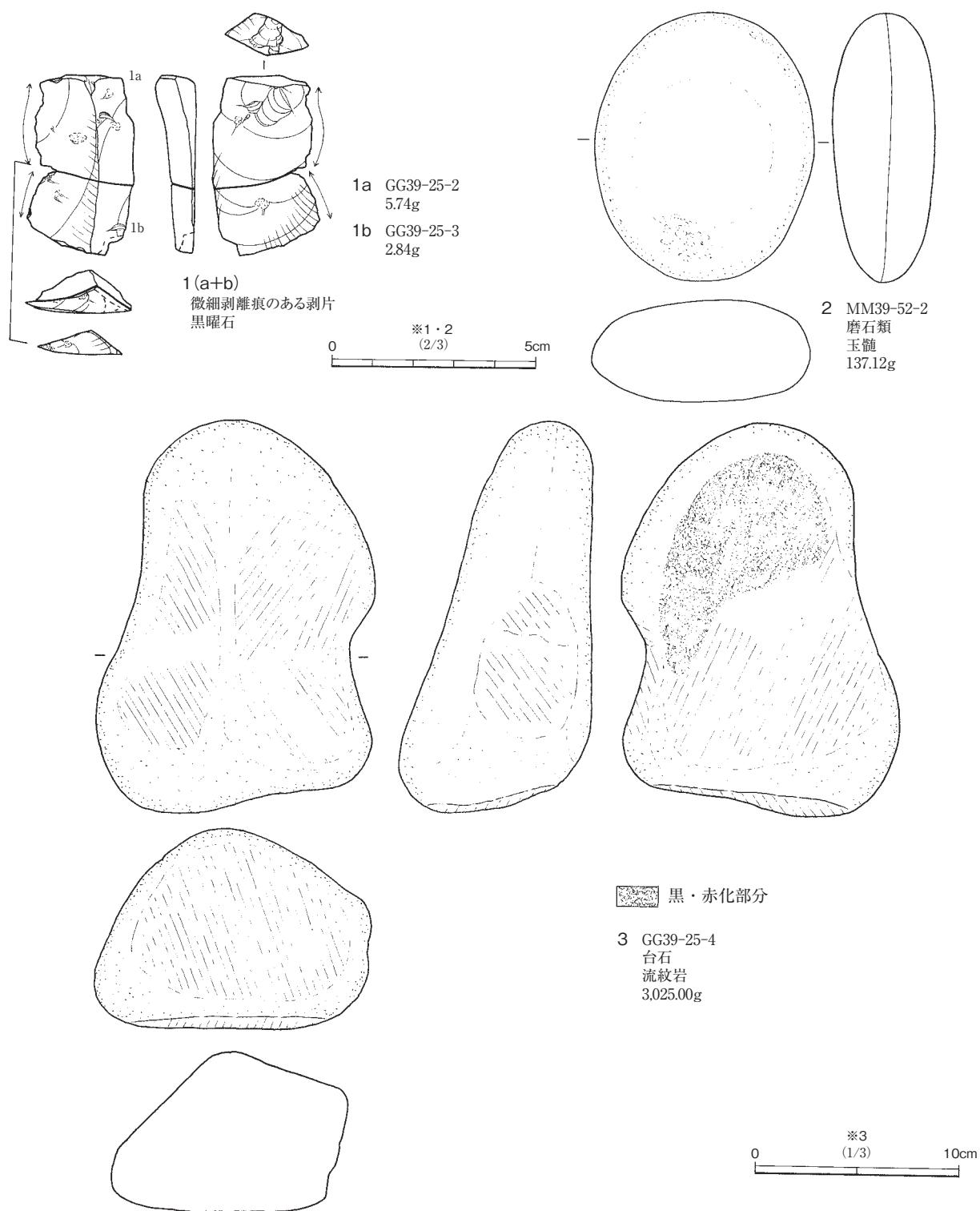
4 第3文化層単独出土石器(第11-10・17図、第11-10表、図版29・35)

分布状況は第11-10図に示した。1、3は遺跡の南西、原畑遺跡との境に分布する。2は南東部から出土した。石器の出土層は調査時の記載事項に基づき、本文化層に帰属すると考えられるものを掲載した。

1は上下折れした黒曜石製剥片で、片側縁に微細剥離痕を持つ。背稜がほぼ中心を通り、両側縁が平行する長方形状を呈する。打面は平坦だが、背面側から薄く削ぐような調整痕がみられる。底面付きで左側縁に微細剥離痕が連続しており、中央やや下寄りで夾雜物に起因する折れが生じている。石材は不透明な黒色に大小($\phi 0.1\text{mm} \sim 5.0\text{mm}$)の淡褐色の夾雜物を含んだ黒曜石であり、丸型を呈しない球顆の形状から、栃木県高原山産の可能性が大きい。高原山産とすれば、本報告では唯一の資料となろう。

2は円形に近い橢円形の磨石類である。縦横両断面とも角張ったところのない滑らかな形状で、平坦面の端部寄りに白く変色した弱い敲打痕が残っているが、器面を変形させるほどではない。MM39-52グリッドのVI層下部から出土した。石材は黄橙色の玉髓であり、25mm以上の厚みを持つが、光が透過する部分がある。

3は淡褐色を基調に、1mm～4mmほどの橢円や四角形の斑晶が入る流紋岩の台石である。角の丸い多面体で、図中では黒・赤化部分と示したスヌ状の変色痕がある平らな一面を接地すると座りが良い。緩い山高を呈し、稜に分けられたやや凹状の2面には擦痕がみられる。最大長192.9mm、重量は3,025gであり、当遺跡出土の石器の中では最も大きく重い。GG39-25グリッドの出土で、調査時の図面には1とともにVII層～VI層に包含されていたことが記載されている。



第11-17図 第3文化層単独出土石器

第11-10表 第3文化層単独出土石器組成表

石材	器種	微細剥離痕 のある剥片	剥片	台石	磨石類	点数合計	点数比 (%)	重量合計(g)	重量比 (%)
流 紋 岩			1	1		2	33.33	3,056.45	95.29
黒 曜 石		1(2)				1(2)	33.33	8.58	0.27
玉 體					1	1	16.67	137.12	4.27
碧 玉		1				1	16.67	5.54	0.17
合 計		2(3)	1	1	1	5(6)	100.00	3,207.69	100.00

※ ()は出土点数

第4節 第4文化層

1 概要(第11-18図、第11-11表)

第4文化層はV層～IV層下部に生活面を持つ石器群であり、石器108点が出土した。近接する3か所の集中地点と単独出土の1点で構成される。石器集中は調査区南西部のGG38・GG39グリッドに位置し、北側から順に第86ブロック、第84ブロック、第85ブロックと呼称する。出土点数は各々16点、82点、9点であり、石器は標高17.0m～18.0mの間に分布し、17.3m～17.6mに集中する。

第84ブロックは3地点の中では最も出土点数が多く、本文化層の主体となるブロックである。角錐状石器やナイフ形石器が出土し、それらを成形するための調整剥片が複数接合する資料がみられる。

第85ブロックは礫・礫片主体の小規模なブロックである。

第86ブロックは既報告(柏北部東地区埋蔵文化財発掘調査報告書10)の第4文化層4bユニットに帰属するブロックであり、北東に傾斜した台地縁辺に立地する4bユニット9か所のブロックの南東端に付帯する。このため、器種や石材に共通する特徴がみられる。第86ブロックでは既報告分と合わせた分布図、組成表を作成した。

第4文化層全体の組成は第11-11表のとおりである。個々の組成表は各ブロックの項にて記載した。

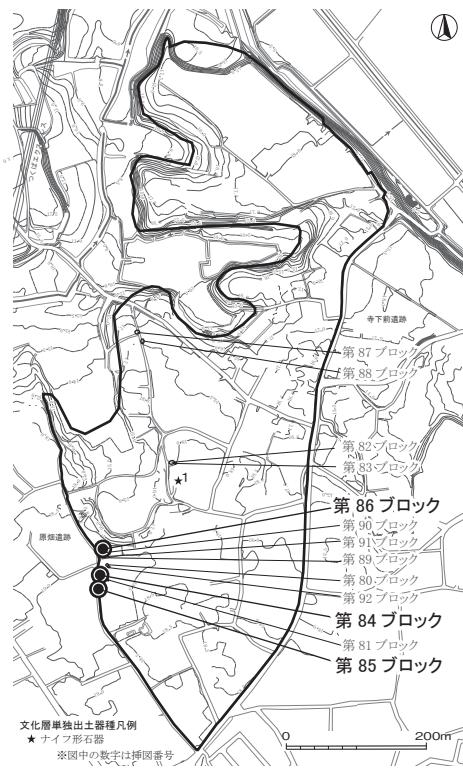
第11-11表 第4文化層器種石材組成表

石材	器種	角錐状石器	ナイフ形石器	二次加工 のある剥片	微細剥離痕 のある剥片	剥片	碎片	石核	礫片	点数合計	点数比 (%)	重量合計 (g)	重量比 (%)
ガラス質黒色安山岩						2		1		3	2.78	58.67	12.86
トロトロ石					1	15	1	1		18	16.67	70.96	15.55
流紋岩									2	2	1.85	31.29	6.86
黒曜石			1				1			2	1.85	2.82	0.62
凝灰岩	1			1(2)		1	19	1		23(24)	22.22	66.35	14.54
砂岩									2(6)	2(6)	5.56	116.83	25.60
珪質頁岩						3		1		4	3.70	19.11	4.19
硬質頁岩					2	5				7	6.48	11.28	2.47
黒色頁岩		2	2		21(22)		14			39(40)	37.04	78.12	17.12
玉髓						2				2	1.85	0.96	0.21
合計		1	3	3(4)	4	68(69)	16	3	4(8)	102(108)	100.00	456.39	100.00

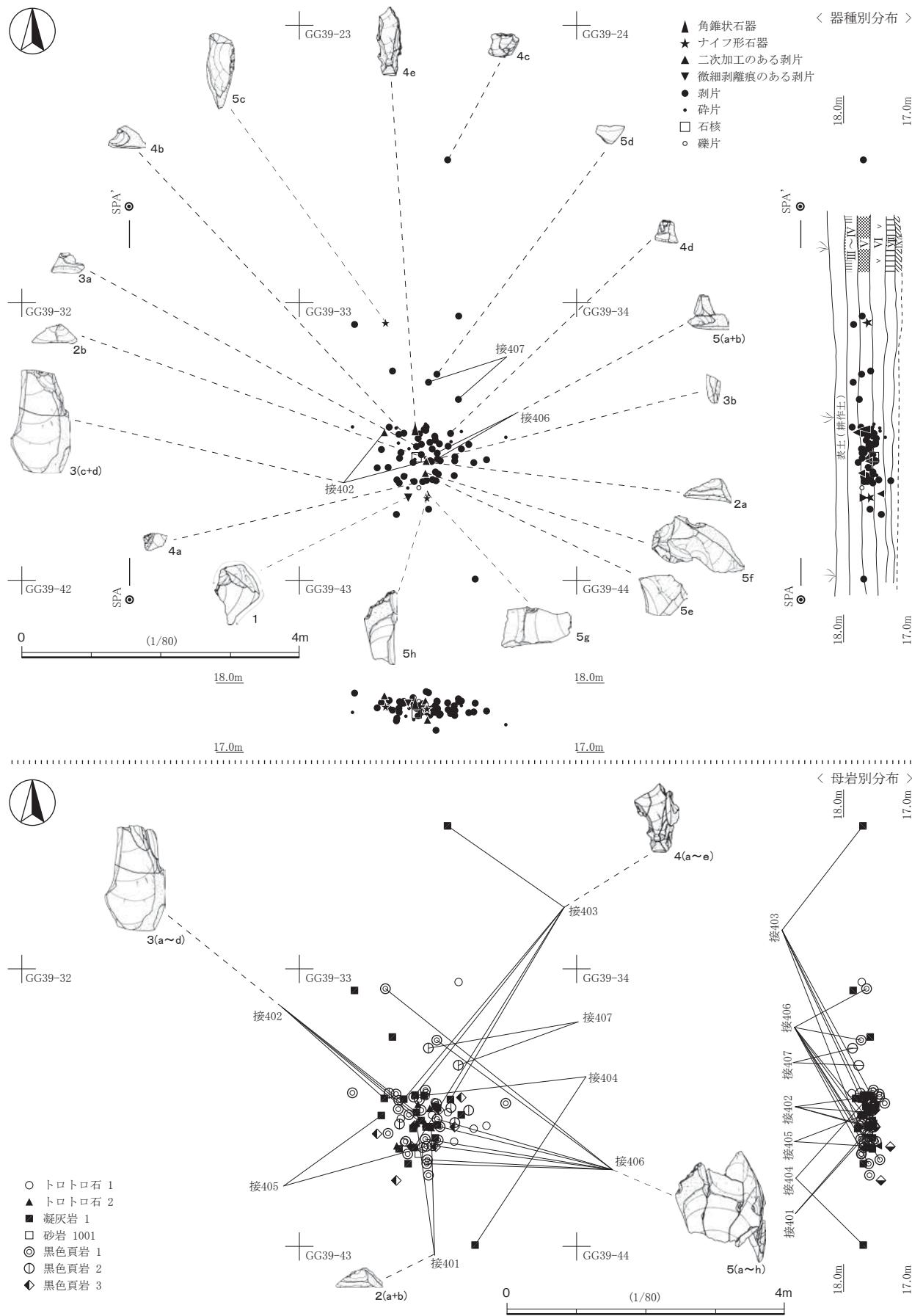
※()は出土点数

2 第84ブロック(第11-19～21図、第11-12表、図版29・36)

出土状況と石材 調査区南西部のGG39-23・33グリッドに82点が分布するが、南北に散在する2点を除くと直径約4mの範囲内にまとまっている。石器は約56cmの高低差でV層～Ⅲ層に包含されるが、分布の中心はV層にあり、平均標高は17.6mを測る。粗割後に持ち込まれた素材から石器製作に至る工程がこのブロック内で認められ、7個体24点に接合関係を確認した。剥片石器にはトロトロ石、凝灰岩、黒色頁岩の3種類の石材のみが利用されている。



第11-18図 第4文化層ブロック位置図



第11-19図 第4文化層第84ブロック遺物分布

凝灰岩1・黒色頁岩1を用いた資料について

斑紋のある灰色細粒の石材を凝灰岩(母岩番号1)としたが、黒色頁岩の一種かもしれない。厚みある楕円礫から角錐状石器が作出される工程を追うことができ、同様の工程で、黒色頁岩1ではナイフ形石器、凝灰岩1では角錐状石器が作られる。角錐状石器とナイフ形石器の別は、素材の厚みに起因する可能性がある。凝灰岩1は24点あり、角錐状石器1点に調整剥片4点が接合した最終工程資料(挿図番号4)、角錐状石器またはナイフ形石器の製作途中で折れた資料(挿図番号3)、微細剥離痕のある剥片(挿図番号1)などがある。また、素材剥片を剥離する段階で縦折れが生じた資料2個体があり、半数以上の13点に何らかの接合関係がみられた。接合した調整剥片6点の打角は109°～118°である。接合に至らなかった剥片・碎片の中には、これら接合する調整剥片と打角、形状が近似するものが複数あるが、組成表上は調整剥片を区別せず、剥片として計上した。

最大長3cm以上が6(9)点、2cm以下が15点あり、間の大きさを持つ資料は皆無である。全資料を足しても原石には到底復元し得ない。原石選択段階から明確な製作意図のうえで角錐状石器の製作、利用、搬出が行われたことが理解される。

第84ブロックでの凝灰岩1の分布は、GG39-33グリッドの直径1mの中に20点以上のまとまりを持ち、その東側に6点ほどが列をなすが次第に疎らとなり、分布の中心から北へ約4m、南東へ約2mの位置に各1点が散在する。南北に離れた2点によって第84ブロックの分布域は南北に長い楕円形状を示す。

黒色頁岩1は凝灰岩1と同じく24点出土し、1個体8点が接合する。直径2.8mの範囲内に全点が収まり、ナイフ形石器2点と剥片・碎片22点を組成するが、復元想定される原石の半身分は他所に持ち出されたか、当初から分割礫の状態で持ち込まれた可能性がある。

出土石器 1は微細剥離痕のある剥片である。線状打面を持ち、抉れ気味の両側縁からは尖端が作出される。側縁に微細剥離痕が並ぶが、錐として機能していた可能性も否めない。凝灰岩1を母岩とする。

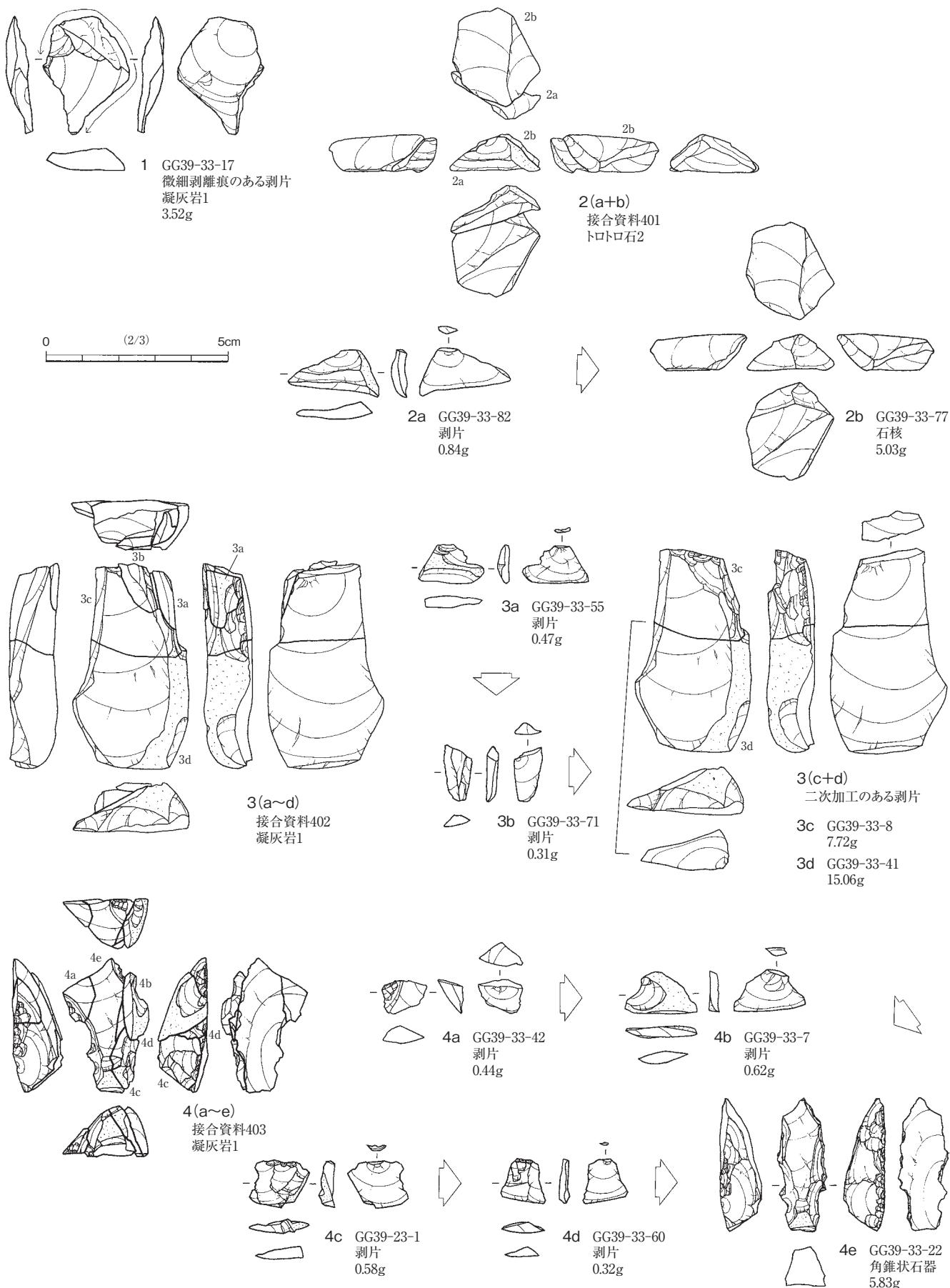
2は剥片と石核の接合資料である。トロトロ石2を母岩とする剥片素材の石核から、広い平坦面を打面として一端が凸状の剥片が生産されている。

3は4点の接合資料であり、角錐状石器などを製作する途中で素材が上下に折れた未成品、あるいは破損品である。厚みの均一な板状剥片の打面部片側に急角度の調整が加えられており、接合する2点の調整剥片は比較的早い段階に剥離されているのがわかる。

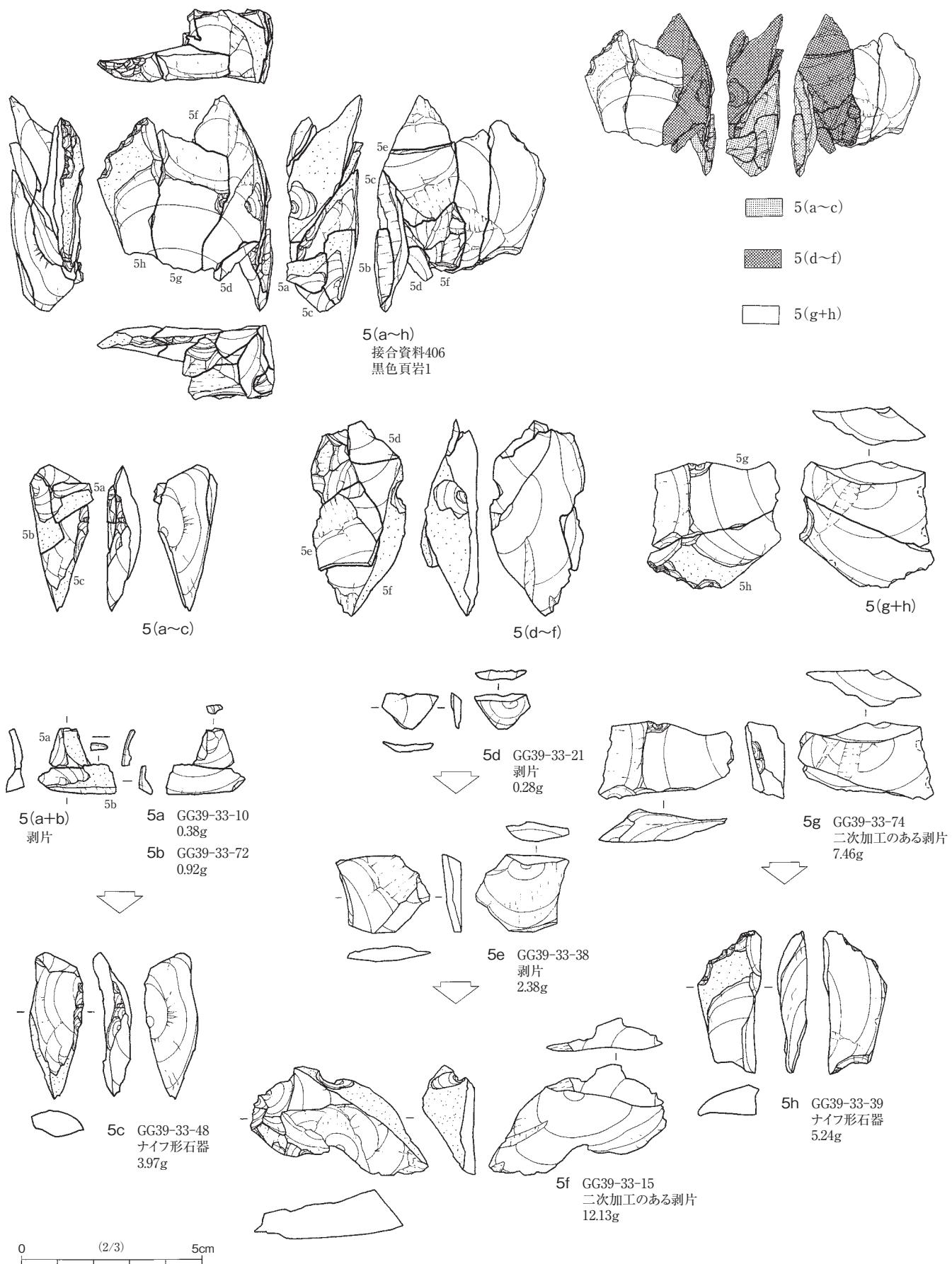
4は角錐状石器1点の周縁部に4点の調整剥片が接合した。調整剥片の打角は109°～118°で、いずれも素材の腹面側から剥離されている。調整剥片4点のうち北端から出土した4cの1点は茶褐色に変色しており、何らかの外的要因が考えられる。角錐状石器本体の4eは縁を粗く落とした後に形が整えられている。

5はナイフ形石器2点、二次加工のある剥片2点、剥片3点の接合資料である。出土点数は8点だが、接合作業にて2片で1点の剥片を確認したため、組成数は7点である。原石からの初期工程の資料ではなく、分割礫が持ち込まれてから刃器製作に至る経緯をみることができる。

厚みのある楕円礫を長軸方向からスライスするように剥離して、板状の素材(石核)が作出される。次に、平坦面を打面として加撃、3つの塊に細分されるが、それぞれが石器の母型であり、薄手のものは二次調整が加えられてナイフ形石器になり(5c)、厚みを削がれた幅広の剥片は上下に2分割され、やはりナイフ形石器に成形されている(5h)。なお、5a～5c、5d～5f、5g・5hの3つの塊に連続性はない。



第11-20図 第4文化層第84ブロック出土石器(1)



第11-21図 第4文化層第84ブロック出土石器(2)

接合状態から素材礫の形状を辛うじて認識でき得るが、7割方を他所で消費した後の素材であろう。同一母岩は24点44.09 g、接合した8点の総重量は32.83 gで、資料には間隙が多く、製作されたであろう石器類が持ち出されたことは明白である。石材は濃い灰色でサラサラとした質感であり、自然面には微光沢がある。ガジリは黒色、節理面は赤褐色の黒色頁岩1が母岩である。黒色頁岩3種の中では一番硬質であり、すべてGG39グリッドから出土している。

同様の工程は、流山市市野谷二反田遺跡V層～IV層下部の碧玉資料にみることができる。

第11-12表 第4文化層第84ブロック組成表

母岩 番号	器種	母岩 番号	角錐状石器	ナイフ形石器	二次加工 のある剥片	微細剥離痕 のある剥片	剥片	碎片	石核	礫片	点数合計	点数比 (%)	重量合計 (g)	重量比 (%)
トロトロ石	1						11				11	13.41	43.53	19.99
	2						4	1	1		6	7.32	12.60	5.79
トロトロ石小計							15	1	1		17	20.73	56.13	25.78
凝灰岩	1	1			1(2)	1	19	1			23(24)	29.27	66.35	30.47
砂岩	1001									1	1	1.22	17.12	7.86
黒色頁岩	1			2	2		9(10)	10			23(24)	29.27	44.09	20.25
	2						7	1			8	9.76	27.87	12.80
	3						5	3			8	9.76	6.16	2.83
黒色頁岩小計				2	2		22	14			40	48.78	78.12	35.88
合計		1	2	3(4)	1	55(56)	16	1	1	1	80(82)	100.00	217.72	100.00

※()は出土点数

3 第85ブロック(第11-22・23図、第11-13表、図版29・36)

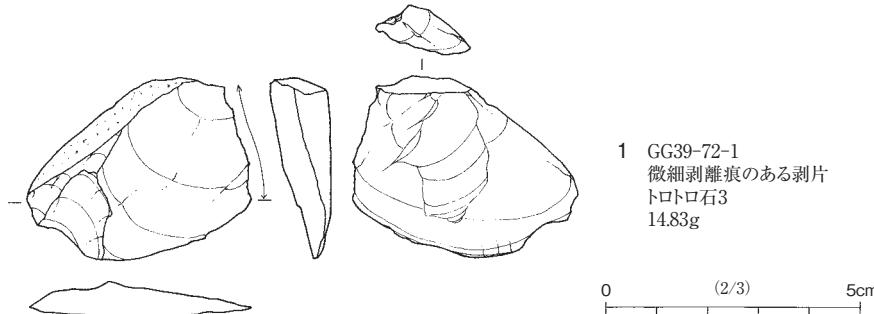
出土状況と石器 調査区南西部のGG39-72・82・83グリッドのⅦ層からⅢ層にかけて9点が出土した。高低差をもって接合する砂岩礫や調査時の所見から、V層～IV層下部に生活面のあるブロックと判断した。微細剥離痕のある剥片、自然礫に近い石核1点を除いた7点が礫片である。微細剥離痕のある剥片1点を図示した。

1はGG39-72グリッドから出土した微細剥離痕のある剥片である。貝殻状の剥片の縁辺には刃こぼれと磨耗光沢がみられる。緑色がかかった青灰色で、サラサラとした質感である。トロトロ石と分類したが、やや硬質で稜に丸みはなく、強い磁性があるため玄武岩質の凝灰岩かもしれない。

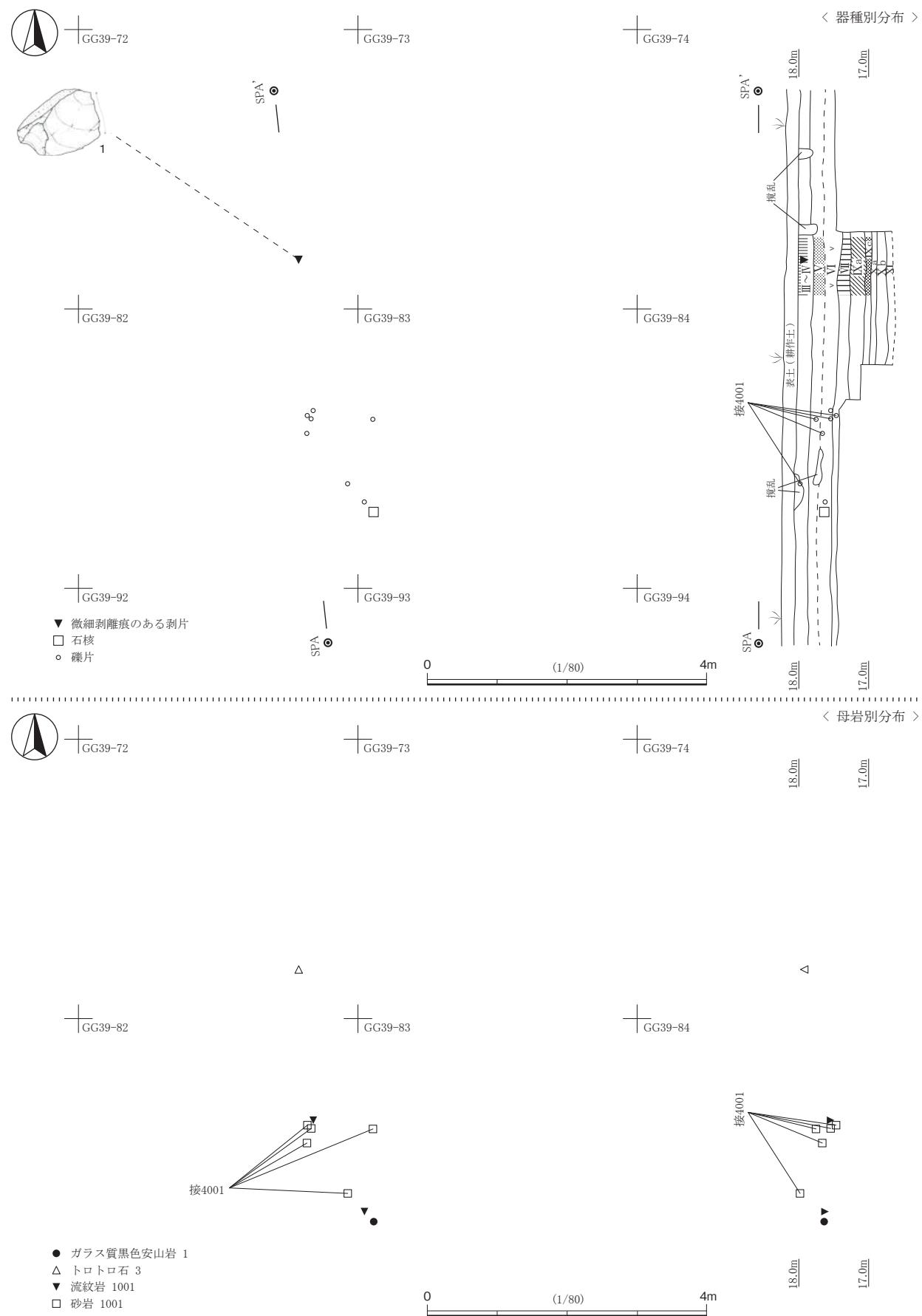
第11-13表 第4文化層第85ブロック組成表

母岩	器種	母岩 番号	微細剥離痕のある剥片	石核	礫片	点数合計	点数比 (%)	重量合計(g)	重量比 (%)
ガラス質黒色安山岩	1			1		1	11.11	50.50	25.72
トロトロ石	3		1			1	11.11	14.83	7.55
流紋岩	1001				2	2	22.22	31.29	15.94
砂岩	1001			1(5)	1(5)	1(5)	55.56	99.71	50.79
合計			1	1	3(7)	5(9)	100.00	196.33	100.00

※()は出土点数



第11-22図 第4文化層第85ブロック出土石器



第11-23図 第4文化層第85ブロック遺物分布

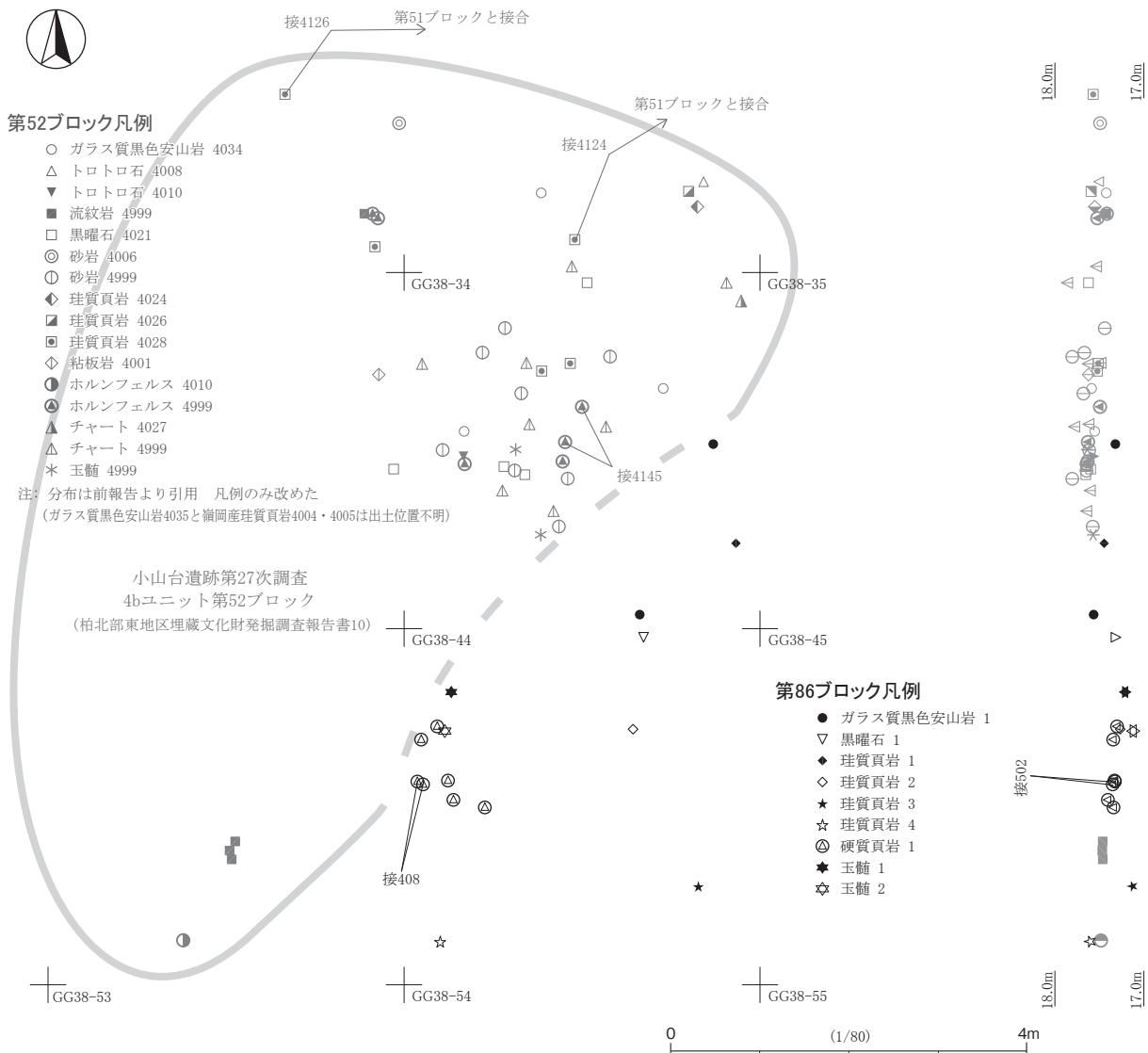
4 第86ブロック(第11-24~26図、第11-14・15表、図版30・36)

出土状況 調査区南西部のGG38-34・44グリッドに16点が分布する。範囲は北東から南西に長軸6.0m、短軸4.0mの不整円形であり、GG38-44グリッド杭南部では9点が集中する。石器はⅦ層～Ⅲ層の標高17.1m～17.6mに包含され、VI層～IV層に分布の中心を持つ。標高の平均値は17.3mであり、北西に隣接する4bユニット第52ブロックよりも下層に投影されるが、石材や器形の特徴に共通点が多いため、第86ブロックと第52ブロックは同時期に營まれたブロックと判断した。また、4aユニット第43ブロックとは硬質頁岩の多用という点でも類似する。第11-24・25図、第11-14表に2か所を合成した器種別・石材別分布図と組成表を併せて示した。

第86ブロックの器種組成は微細剥離痕のある剥片2点、剥片13点、石核1点であり、石材は多い順に硬質頁岩7点、珪質頁岩4点、ガラス質黒色安山岩・玉髓各2点、黒曜石1点である。このうち4の珪質頁岩4は第52ブロック珪質頁岩4028と同じ特徴を持つ。



第11-24図 第4文化層第86ブロック器種別分布

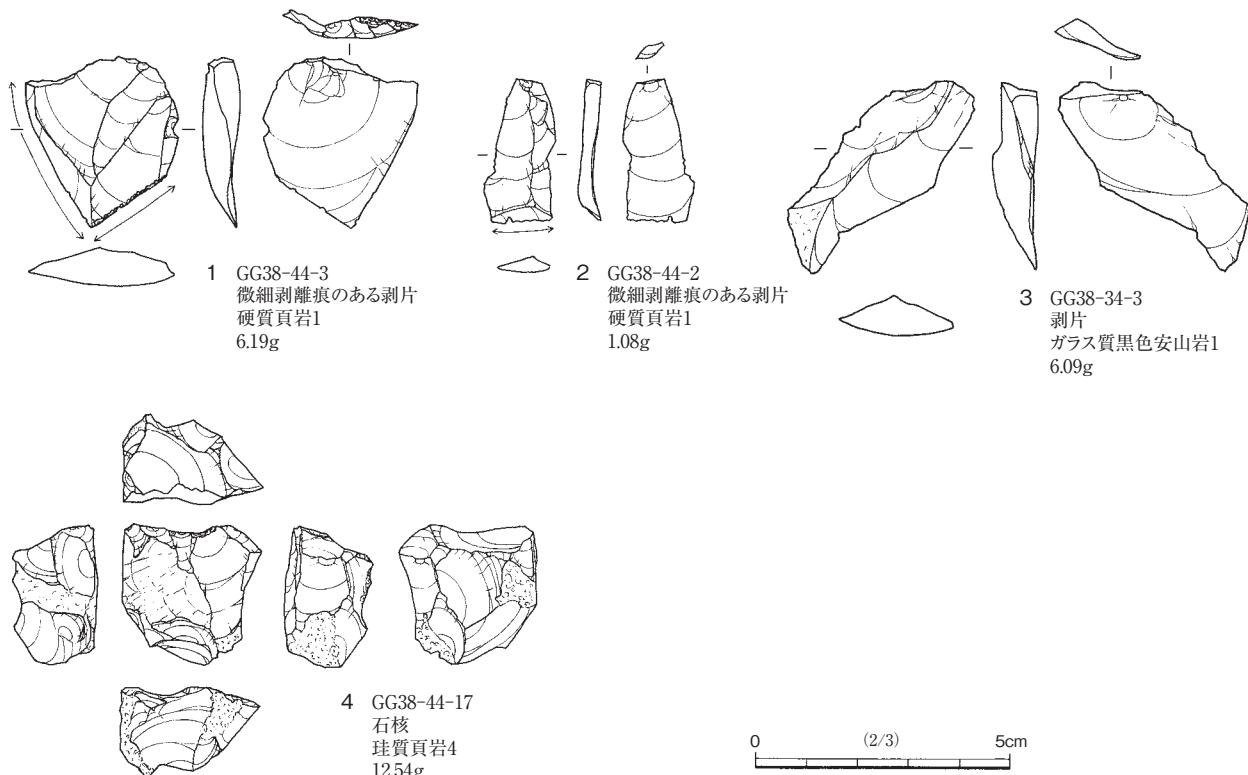


第11-25図 第4文化層第86ブロック母岩別分布

出土石器 1・2は微細剥離痕のある剥片である。1の打面には背面側から加撃された小剥離痕が一列に並び、丁寧な打面調整の痕がうかがえる。全体的な形状は四角形だが、使用痕のある鋭い縁辺が収斂する一角は鋭角である。2は長幅比1.97の石刃状であり、直線状の末端縁辺に刃こぼれがみられる。ともに黒褐色で細粒緻密な硬質頁岩1が母岩である。同一母岩は7点あり、上下に折れた2点の1資料のみが接合している。

3は同一方向からの連続した加撃によって作出された剥片のうちの1片である。端部に自然面がわずかに残っており、右側面上部は折面である。黒みの強いガラス質黒色安山岩製で斑晶はほとんどみられない。

4は石核である。多方向の剥離痕と節理面、凹凸のある凝灰岩質の自然面による複雑な面構成だが、端部を固定させながら加撃する両極打撃で剥離されている。節理面は褐色～黄緑色で平坦、自然面は灰白色でザラ感があり、剥離面は黄緑灰色で滑らかな質感を持つ硅質頁岩4を母岩とする。既報告の第4文化層4bユニットの硅質頁岩4028と同一母岩である。



第11-26図 第4文化層第86ブロック出土石器

第11-14表 第4文化層第52・86ブロック組成表

ブロック	母岩	器種	母岩番号	ナイフ形石器	二次加工のある剥片	微細剥離痕のある剥片	剥片	碎片	石核	敲石	礫	礫片	点数合計	点数比(%)	重量合計(g)	重量比(%)	
52	ガラス質黒色安山岩	4034					3						3	4.05	8.05	0.33	
		4035					1						1	1.35	17.85	0.74	
	ガラス質黒色安山岩小計						4						4	5.41	25.90	1.07	
	トロトロ石	4008					1						1	1.35	2.49	0.10	
		4010					1						1	1.35	6.60	0.27	
	トロトロ石小計						2						2	2.70	9.09	0.38	
	流紋岩	4999											4	5.41	601.90	24.96	
	黒曜石	4021					4	1					5	6.76	9.43	0.39	
	砂岩	4006							1				1	1.35	426.14	17.67	
		4999								10			11	14.86	263.65	10.93	
	砂岩小計								1	1	10		12	16.22	689.79	28.60	
	珪質頁岩	4024					1						1	1.35	0.08	0.00	
		4026	1										1	1.35	7.42	0.31	
		4028		1	4								5	6.76	25.39	1.05	
	珪質頁岩小計	1	1		4	1							7	9.46	32.89	1.36	
	嶺岡産珪質頁岩	4004					1						1	1.35	1.65	0.07	
		4005					1						1	1.35	0.37	0.02	
	嶺岡産珪質頁岩小計						2						2	2.70	2.02	0.08	
	粘板岩	4001					1						1	1.35	0.64	0.03	
	ホルンフェルス	4010						1			1	5	6	8.11	615.26	25.51	
		4999									1	5	7	9.46	727.29	30.16	
	ホルンフェルス小計								1		1	5	1	1.35	0.11	0.00	
	チャート	4027						1					10	10	13.51	206.06	8.54
		4999											11	14.86	206.17	8.55	
	チャート小計								1				3	4.05	66.54	2.76	
	玉髓	4999															
第52ブロック合計			1	1			17	2	2	1	2	32	58	78.38	2,371.66	98.34	
86	ガラス質黒色安山岩	1					2						2	2.70	8.17	0.34	
	黒曜石	1					1						1	1.35	0.49	0.02	
	珪質頁岩	1					1						1	1.35	3.13	0.13	
		2					1						1	1.35	1.37	0.06	
		3					1						1	1.35	2.07	0.09	
		4						1					1	1.35	12.54	0.52	
	珪質頁岩小計						3	1					4	5.41	19.11	0.79	
	硬質頁岩	1			2	5							7	9.46	11.28	0.47	
	玉髓	1					1						1	1.35	0.85	0.04	
		2					1						1	1.35	0.11	0.00	
	玉髓小計						2						2	2.70	0.96	0.04	
第86ブロック合計					2	13		1					16	21.62	40.01	1.66	
総計			1	1	2	30	2	3	1	2	32	74	100.00	2,411.67	100.00		

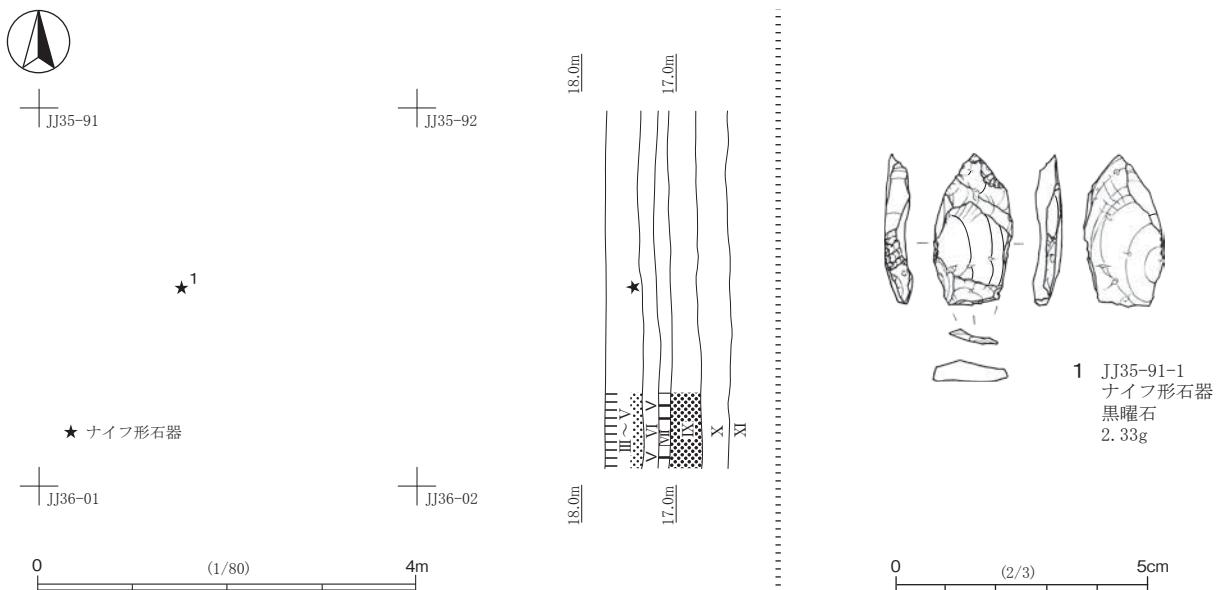
第11-15表 第4文化層第86ブロック組成表

母岩	器種 母岩 番号	微細剥離痕のある剥片	剥片	石核	点数合計	点数比 (%)	重量合計(g)	重量比 (%)
ガラス質黒色安山岩	1		2		2	12.50	8.17	20.42
黒曜石	1		1		1	6.25	0.49	1.22
珪質頁岩	1		1		1	6.25	3.13	7.82
	2		1		1	6.25	1.37	3.42
	3		1		1	6.25	2.07	5.17
	4			1	1	6.25	12.54	31.34
珪質頁岩小計			3	1	4	25.00	19.11	47.76
硬質頁岩	1	2	5		7	43.75	11.28	28.19
玉髓	1		1		1	6.25	0.85	2.12
	2		1		1	6.25	0.11	0.27
玉髓小計			2		2	12.50	0.96	2.40
合計		2	13	1	16	100.00	40.01	100.00

5 第4文化層単独出土石器(第11-18・27、14-1・2図、第11-11表、図版36)

1はJJ35-91グリッドのIV層に包含されていたナイフ形石器である。遺跡南側の比較的平坦な台地上、標高17.468mの地点に単独で出土しているが、既報告と本報告のブロック分布を重ねたところ、半円弧状に連なるV層～IV層下部のブロック群から派生した可能性があることが理解される(第14-1・2図)。周辺の地形を俯瞰すると、南東側に巾着袋のように張り出した水辺(現在は標高15mほどの低地)があり、その周縁を囲むかのように石器の集中域が密集する。V層～IV層下部のみならず、IX層上部～VII層下部やVII層上部～VI層の石器群もみられるが、V層～IV層下部・IX層上部～VII層下部の石器群は円弧状に沿い、VII層上部～VI層は円弧の外側に分布する傾向がある。

石器は連続した横打ちの剥離工程での1片とみられるが、工程前後の剥片や加工の際の碎片、接合資料はない。素材打面部に急角度の微細な調整が加えられて基部とし、素材末端部である打面対縁には折り取りによる整形が施されている。先端部は80°に収束する。石材は漆黒不透明の黒曜石で、器厚の薄い縁辺では微妙に光を透過する。白色球状の小さな斑晶が多数含まれる。



第11-27図 第4文化層単独出土遺物分布・出土石器

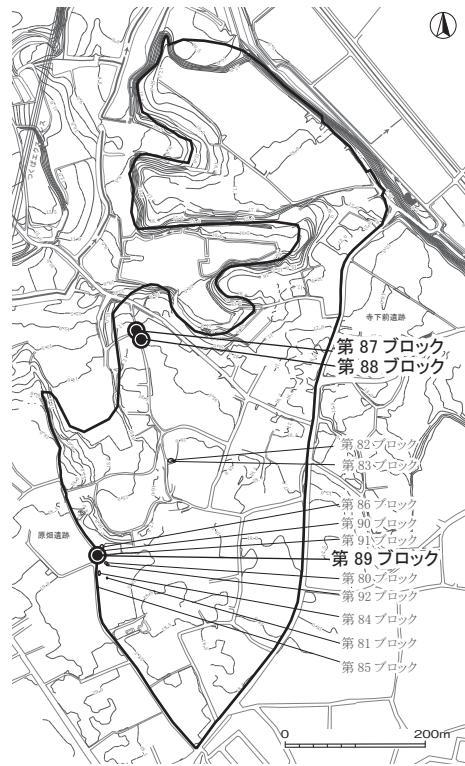
第5節 第5文化層

1 概要(第11-28図、第11-16表)

第5文化層の石器群はⅣ層上部～Ⅲ層下部に生活面を持つ。総計44点出土し、第87～89ブロックの3か所の集中地点で構成される(第11-28図)。調査区中央やや北寄りには西に向かって開口する谷津があり、谷津を臨む南側斜面には第87・88ブロックが展開する。両ブロックはHH30・HH31グリッドに位置し、第34次調査区の西側を区画する道路部分を調査した際に検出された。既報告(柏北部東地区10)の第5文化層5bユニットの第69～74ブロックと同じ一群に帰属すると考えられる。ナイフ形石器や彫器(彫刻刀形石器、以下彫器と呼称)を組成し、石材ではガラス質黒色安山岩が多出することも共通している。

第89ブロックは調査区南西部のGG38グリッドに位置し、磨石類2点と原石1点がまとまって出土した。

出土点数は44点だが、接合した資料は至近で接合した1個体のみである。ブロック間接合は確認されなかった。ナイフ形石器や彫器といった製品(ツール)の割合が高く、碎片の類は検出されなかった。多様な石材が分布する状況からも完形品、あるいは完成品に近い状態で持ち込まれたことが理解される。



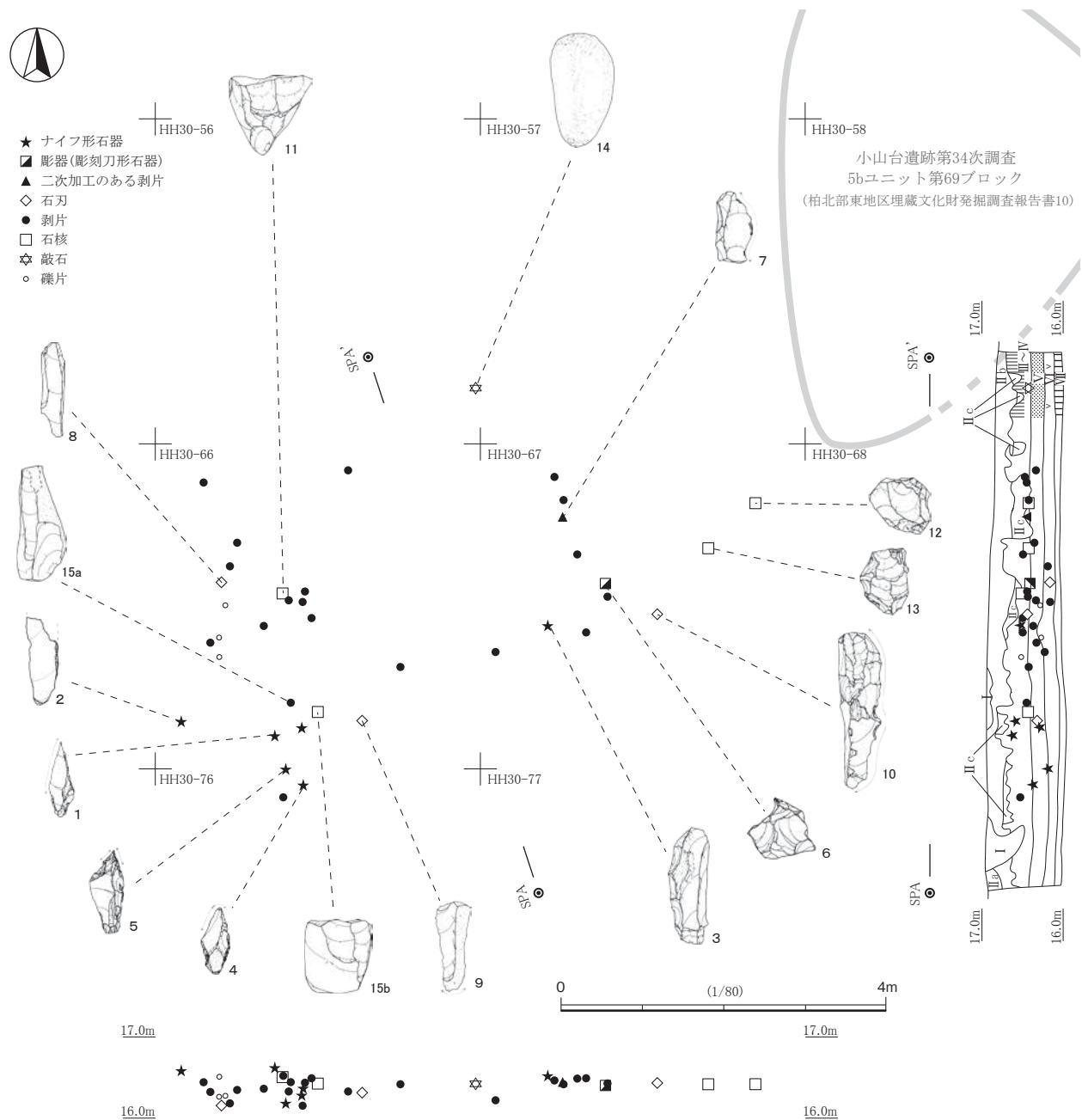
第11-28図 第5文化層ブロック位置図

第11-16表 第5文化層器種石材組成表

石材	ナイフ形 石器	彫器 (彫刻刀形石器)	二次加工 のある剥片	石刃	剥片	石核	磨石類	敲石	原石	礫片	点数合計	点数比 (%)	重量合計 (g)	重量比 (%)
ガラス質黒色安山岩	4			2	11						17	38.64	65.52	2.33
トロトロ石					2	2					4	9.09	95.12	3.38
安山岩										1	1	2.27	91.91	3.27
流紋岩			1					1			2	4.55	46.98	1.67
石英斑岩										1	1	2.27	48.64	1.73
黒曜石					1	1					2	4.55	17.07	0.61
凝灰岩	1										1	2.27	1.81	0.06
砂岩							2				2	4.55	1,540.00	54.71
頁岩									1	1	1	2.27	4.22	0.15
珪質頁岩					1						1	2.27	7.35	0.26
嶺岡産珪質頁岩		1		1	1	1					4	9.09	45.01	1.60
ホルンフェルス					2					1	3	6.82	26.20	0.93
チャート	1				2				1		4	9.09	817.91	29.06
玉髓						1					1	2.27	7.03	0.25
合 計	6	1	1	3	20	5	2	1	1	4	44	100.00	2,814.77	100.00

2 第87ブロック(第11-29～32図、第11-17表、図版30・37)

出土状況 調査区北部のHH30-56・66・67・76グリッドに位置し、西側に開口する谷津の南斜面に38点が分布する。石器は直径2mほどの空白域の周囲に疎密をもって分布しており、ナイフ形石器は南西に5点がまとまり、東に1点が出土している。ちなみに南西側で出土した5点のうち1点はガラス質黒色安山岩製の欠損部位の多い刃部小片であり、実測図の作成は行っていない。石核は西と南に各1点と、東に2点



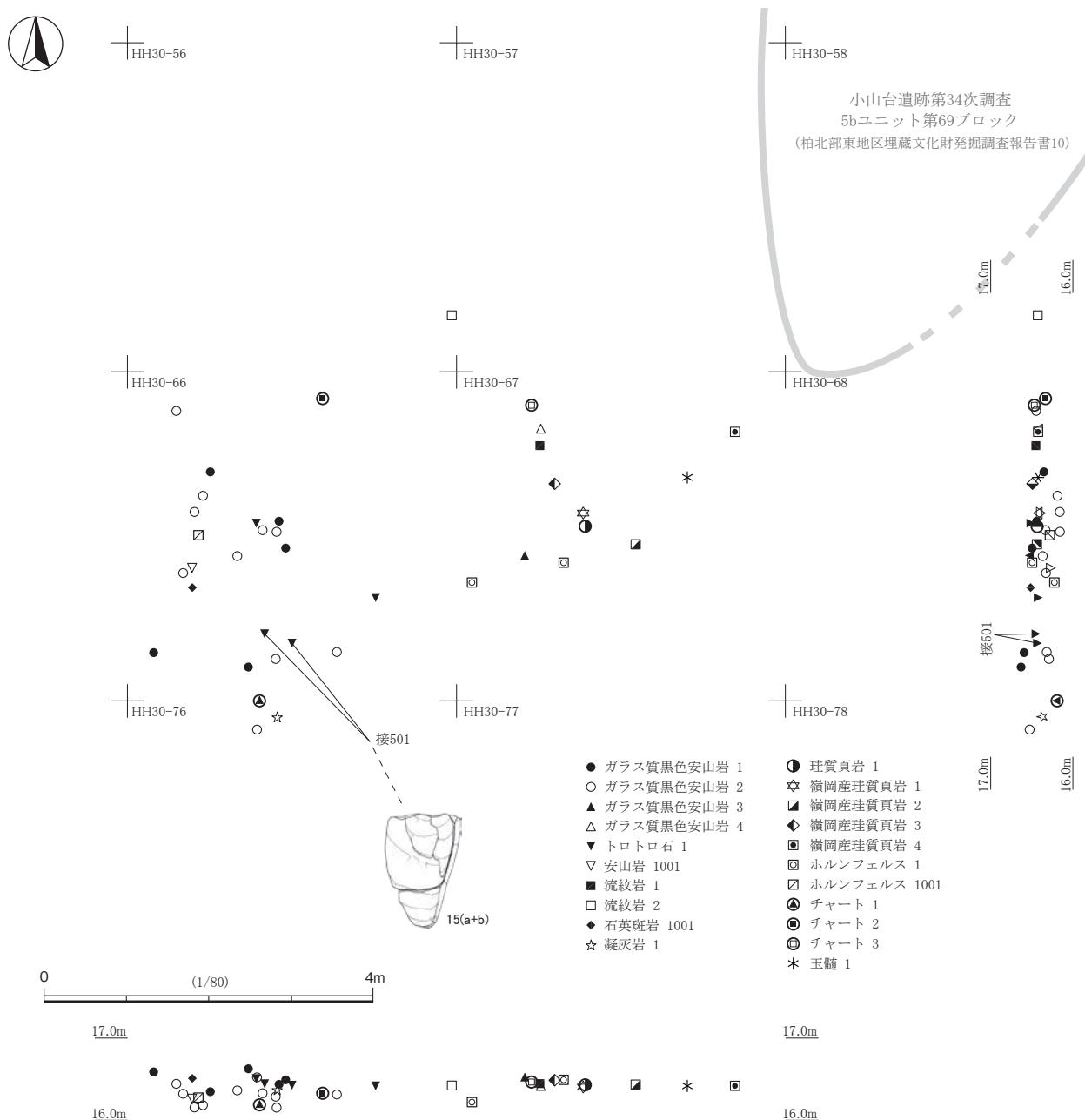
第11-29図 第5文化層第87ブロック器種別分布

が散在する。彫器は東に1点、敲石は分布の疎らな北側から出土している。11石材21母岩を数え、多様な石材がみられる。器種組成・石材組成は第11-17表に記載した。

出土石器 1～5はナイフ形石器である。1の加工は基部と右側面に施される。特に右側縁上部2/3には背腹両面からの対向剥離によって急角度に加工される。先端角は28°と鋭く、刃縁に微細剥離痕が観察される。最大長34.3mmと小型であるが三角錐状で、刺突具、あるいは錐として利用された可能性がある。

2は縦長剥片を素材とした一側縁加工のナイフ形石器で、上部は欠損する。1と同様に背腹両面から急角度に調整されており、素材剥片中央部の厚みを利用して基部を作出したものと思われる。1、2ともガラス質黒色安山岩1が母岩であり、千葉県の遺跡では多出する石材が利用されている。

3は頭部調整のある石刃を素材とする。器端部と一側縁が粗く加工される。主要剥離面は平坦で、背面



第11-30図 第5文化層第87ブロック母岩別分布

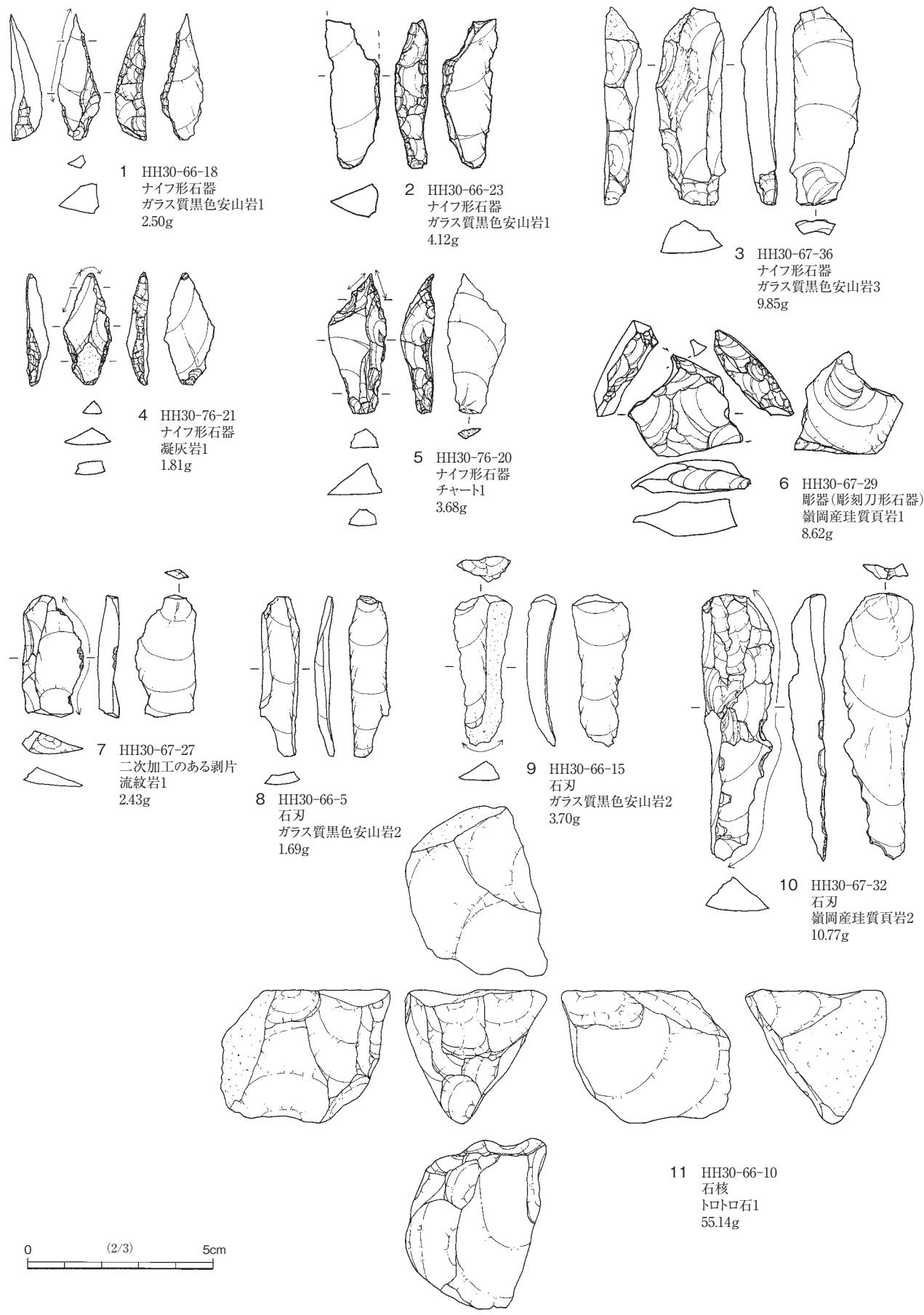
の一部に自然面が残る。この自然面付近に細かい階段状の潰れ痕がみられるが、左面からの剥離に切られる。母岩は、ガラス質黒色安山岩1よりも黒みが少ないガラス質黒色安山岩3である。

4は二側縁加工で、全体の形状は菱形である。刃部に微細剥離痕、端部に摩耗痕がみられる。凝灰岩1を母岩とする。

5は素材剥片の最大厚にあたる中心部分を急角度に加工し、高い背稜が作出されたナイフ形石器である。先端部の両側縁に微細剥離痕がみられる。石材は油脂状の微光沢のある灰緑色のチャートで、網目状構造はない。素材打面は茶褐色の節理面である。

4以外は素材の形状を維持していない。素材打面は3、5に残る。

6は彫器である。上下両端に彫刻刀面を持つ上ヶ屋型である。板状の素材縁辺を抉り、その頂点から樋



第11-31図 第5文化層第87ブロック出土石器(1)

状の剥離が施されているが、頭部と末端部に同様の工程が確認されるため、凹凸のある五角形状を呈している。石材の嶺岡産珪質頁岩は当ブロックから4点出土しているが、色や質感の異なる別母岩であり、接合関係はみられない。本資料の母岩は玉髓質の嶺岡産珪質頁岩1である。なお上ヶ屋型彫刻刀形石器については、橋本勝雄氏が2010年、2016年に資料集成を行っており、遺跡分布、製作技術、石器石材、集団の領域と動態など、多岐にわたって詳細な検討がなされている^{1・2)}。

7は二次加工のある剥片である。両極から剥離された剥片を素材とする。薄い弧状の縁辺に微細剥離痕が廻っている。下端部は背面側から加撃され、面状である。明灰色～暗褐灰色が筋状文様を成す流紋岩1を母岩とする。

8～10は石刃である。8は厚みの均一な板状を呈し、上方からの衝撃によって、めくれたような剥離痕が打面部を除去している。打面部は欠損するが、長幅比4.14の狭長な形態である。9の打面もまた欠損する。長幅比は2.60で、背面に自然面が多く残る。左側縁と末端部に細かな剥離痕が鋸歯状にみられる。8、9ともガラス質黒色安山岩2が母岩である。10は稜付きの石刃である。稜上に残る交互剥離痕に直交するように複剥離打面から加撃される。右側縁下半部は波状であり、その縁辺に微細剥離痕と刃こぼれが看取される。母岩は緑灰色で濃い灰色の斑紋を含む嶺岡産珪質頁岩2である。嶺岡産珪質頁岩は4点出土しているが、接合資料や碎片はなく、彫器、石刃、石核、剥片として遺跡内に持ち込まれたものと思われる。

11～13は石核である。11は2面の平坦面を打面として剥離作業が行われた石核である。自然面は明茶褐色だが、剥離面は青みがかった灰白色のトロトロ石1を母岩とする。トロトロ石は4点出土のうち、接合する2点を含めた3点を実測した。12は設定された打面と、正面・裏面に作業面を持つ。打面調整痕はみられず、加撃された打面部縁辺がU字状に凹んでいるのを2か所で確認できた。裏面の剥離痕は末端まで到達し、細長で湾曲の度合いの少ない剥片が作出されたことが看取される。一方、正面には下部からの弾け痕が残っており、下端が固定された状態で剥離作業が行われたことがわかる。灰色で油脂状光沢があり、濃灰色の斑紋を含む嶺岡産珪質頁岩4を母岩とする。13は周縁から小型の剥片を作出した石核と考えられるが、削器、あるいは石錐の可能性がある。石材は褐灰白色で油脂状光沢のある玉髓であり、白色球形の斑が入る。同様の石材は八千代市坊山遺跡³⁾S41、白井市復山谷遺跡⁴⁾第38ブロックにもみられる。

14は敲石である。長幅比1.80、断面形は角丸三角形である。上部に磨痕、両端部に弱い敲打痕が残る。灰褐色の流紋岩2が母岩であり、赤褐色部分では他面より磁性が弱い。

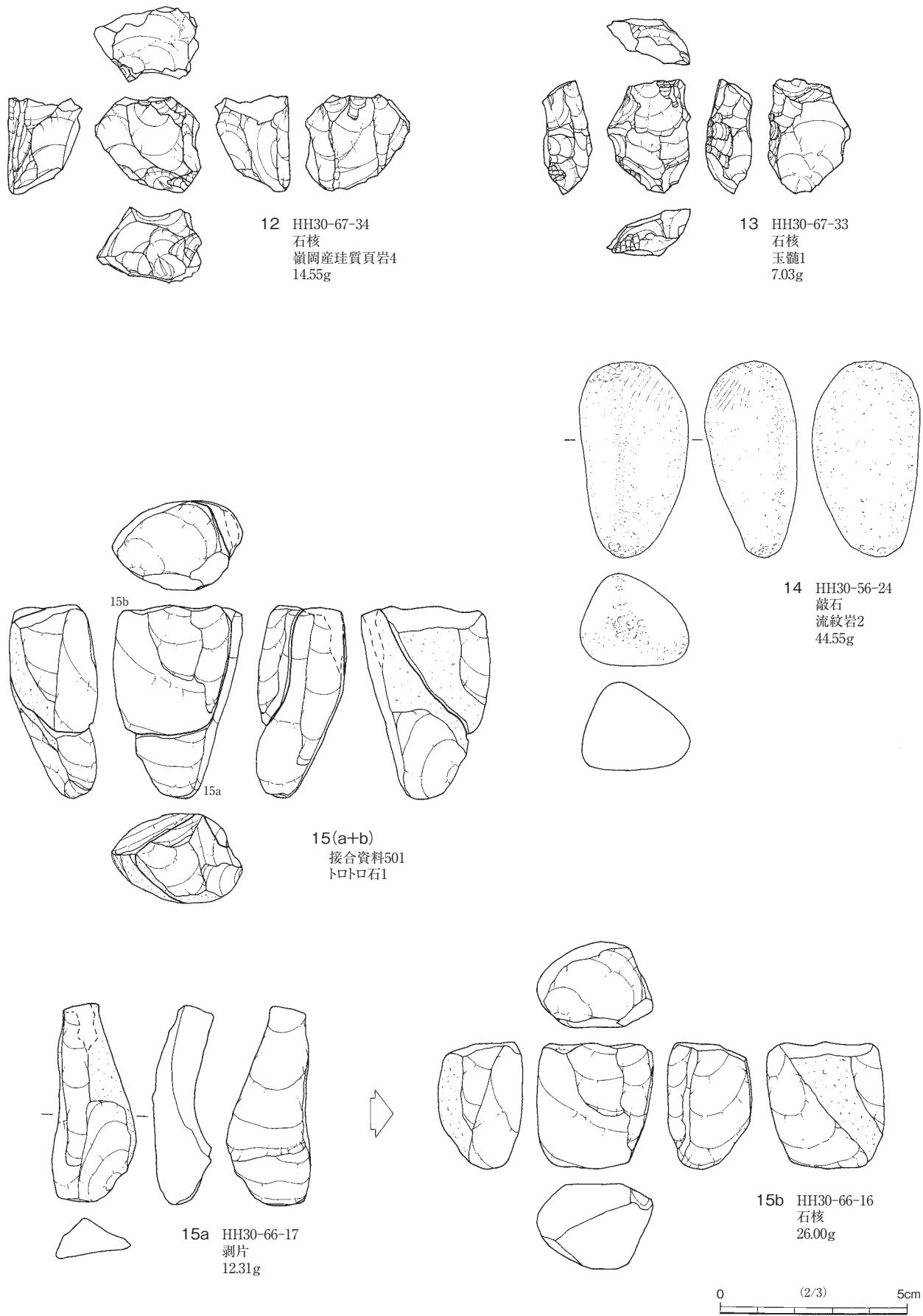
15は底面付きの剥片と石核の接合資料である。打面再生と剥片剥離が繰り返されているが、調整痕はみられない。最終剥離面は15b上面である。15aの打面は欠損し、濃灰色の新鮮な面がのぞく。母岩は11と同じくトロトロ石1である。

注1 橋本勝雄 2010「上ヶ屋型彫刻刀の技術的特質とその評価」『房総の考古学 史館終刊記念』1-21頁 史館同人、六一書房

2 橋本勝雄 2016「上ヶ屋型彫刻刀形石器の特質とその背景-上ヶ屋型の再検討-」『旧石器考古学』81 29-46頁 旧石器文化談話会

3 大野康男 1993『八千代市坊山遺跡-萱田地区埋蔵文化財調査報告書VI-』(財)千葉県文化財センター

4 山岡磨由子 2012『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書XXVII-白井市復山谷遺跡(6次～8次)(下層)-』(公財)千葉県教育振興財団



第11-32図 第5文化層第87ブロック出土石器(2)

第11-17表 第5文化層第87ブロック組成表

母岩	器種	母岩番号	ナイフ形石器	彫器 (彫刻刀形石器)	二次加工 のある剥片	石刃	剥片	石核	敲石	礫片	点数合計	点数比 (%)	重量合計 (g)	重量比 (%)
ガラス質黒色安山岩	1	2					3				5	13.16	13.34	3.01
	2	1				2	7				10	26.32	37.76	8.51
	3	1									1	2.63	9.85	2.22
	4						1				1	2.63	4.57	1.03
ガラス質黒色安山岩小計		4				2	11				17	44.74	65.52	14.77
トロトロ石	1					2	2				4	10.53	95.12	21.45
安山岩	1001								1	1	2.63	91.91	20.72	
流紋岩	1			1						1	2.63	2.43	0.55	
	2							1		1	2.63	44.55	10.05	
流紋岩小計				1				1		2	5.26	46.98	10.59	
石英斑岩	1001									1	1	2.63	48.64	10.97
凝灰岩	1	1								1	2.63	1.81	0.41	
珪質頁岩	1					1				1	2.63	7.35	1.66	
嶺岡産珪質頁岩	1		1							1	2.63	8.62	1.94	
	2				1					1	2.63	10.77	2.43	
	3					1				1	2.63	11.07	2.50	
	4						1			1	2.63	14.55	3.28	
嶺岡産珪質頁岩小計			1		1	1	1			4	10.53	45.01	10.15	
ホルンフェルス	1					2				2	5.26	7.27	1.64	
	1001								1	1	2.63	18.93	4.27	
ホルンフェルス小計						2			1	3	7.89	26.20	5.91	
チャート	1	1								1	2.63	3.68	0.83	
	2					1				1	2.63	3.12	0.70	
	3						1			1	2.63	1.11	0.25	
チャート小計			1			2				3	7.89	7.91	1.78	
玉髓	1							1		1	2.63	7.03	1.59	
合 計		6	1	1	3	19	4	1	3	38	100.00	443.48	100.00	

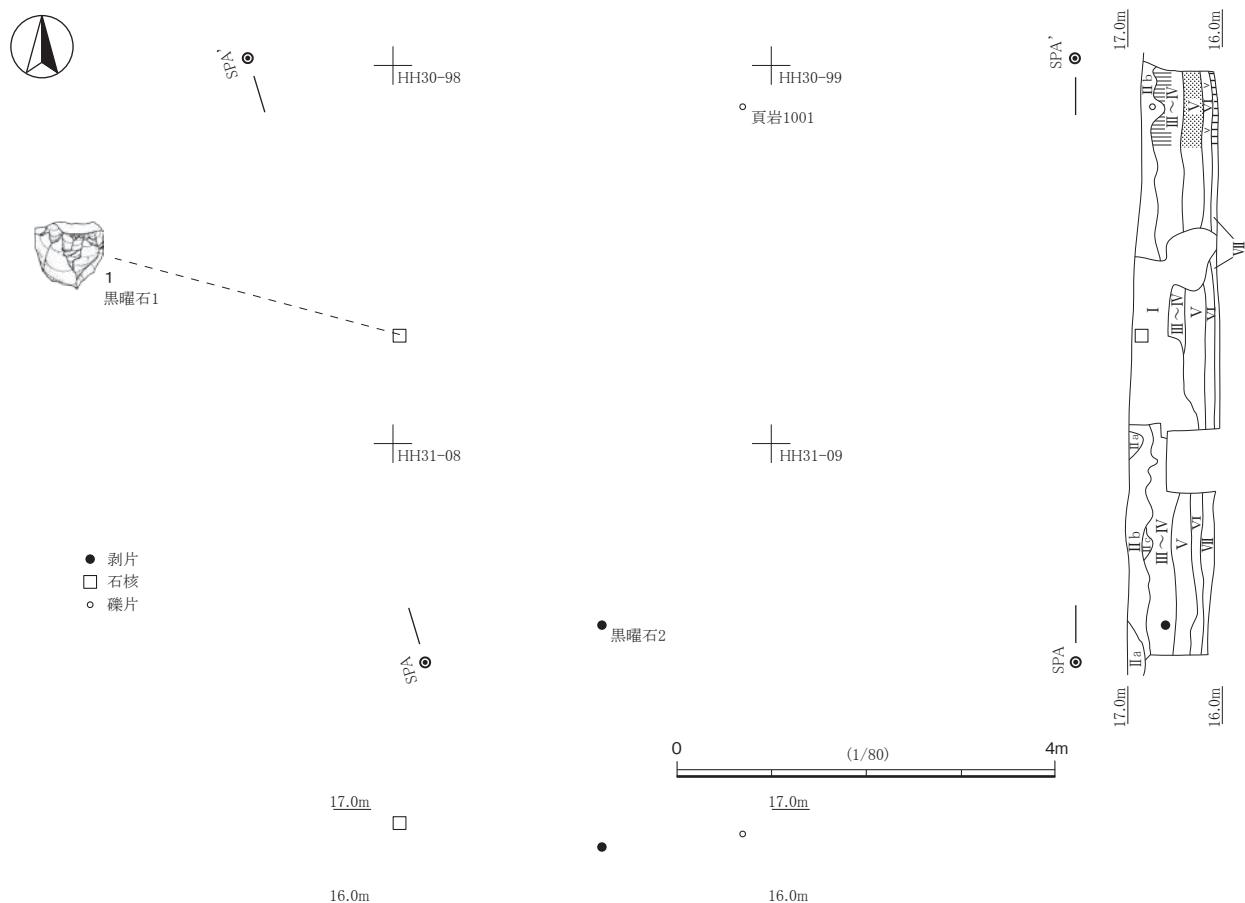
3 第88ブロック(第11-33・34図、第11-18表、図版30・37)

出土状況・出土石器 第88ブロックはHH30-98、HH31-08グリッドのⅣ層上部～Ⅲ層下部で出土した黒曜石の剥片・石核、頁岩の礫片の計3点で構成される、ごく小規模なブロックである。北側に約15m離れた第87ブロックや東に接する第5文化層5bユニット第68～74ブロックと接合する資料はないが、黒曜石2と第72ブロックの黒曜石5005は石基の色や斑晶の特徴が同じであり、同一母岩と考えられる。近接する土層断面はないが、調査時の所見と母岩の共通状況から第5文化層に帰属するブロックととらえた。3点のうち、黒曜石製石核1点を図化した。

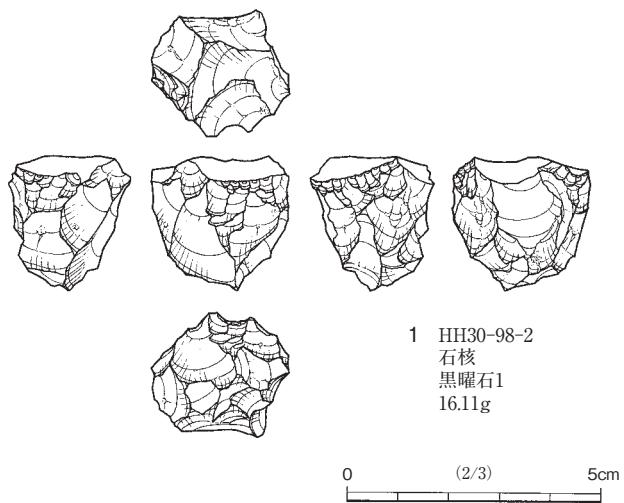
1の作業面は正裏側面の区別なく剥離作業が行われている。打面再生・打面調整の痕が部分的にみられるが、庇状、あるいは剥離されずに残った凸状の部分には磨り潰しなどの形跡はなく、剥離作業終了後すぐに廃棄されたものと推測される。母岩の黒曜石1は、白色で丸みある球顆を1～2/cm³含み、石基が均一な黒色で、縁辺部分は光を透過する。肉眼観察では神津島産に近く、剥離面の光沢の強さから縄文時代の所産である可能性も否めない。

第11-18表 第5文化層第88ブロック組成表

母岩	器種	母岩番号	剥片	石核	礫片	点数合計	点数比 (%)	重量合計(g)	重量比 (%)
黒曜石	1			1		1	33.33	16.11	75.67
	2		1			1	33.33	0.96	4.51
黒曜石小計			1	1		2	66.67	17.07	80.18
頁岩	1001				1	1	33.33	4.22	19.82
合 計			1	1	1	3	100.00	21.29	100.00



第11-33図 第5文化層第88ブロック遺物分布



第11-34図 第5文化層第88ブロック出土石器

4 第89ブロック(第11-35・36図、第11-19表、図版37)

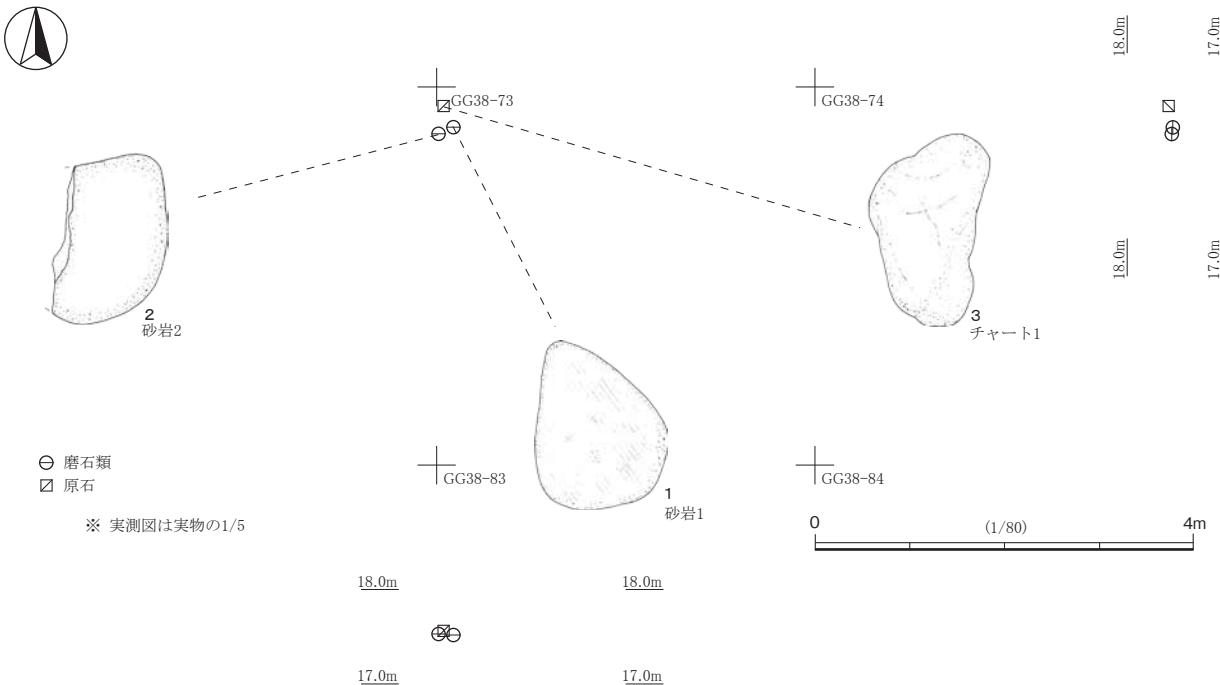
出土状況 第89ブロックはGG38グリッドに位置し、原畠遺跡の南東端からつながる石器集中域の一部である。水路あるいは溝、または水辺に沿って展開されたブロック群が列状に連なっており、原畠遺跡第4文化層第38ブロックに付帯するように立地する。調査時の所見では石器の出土層位はⅦ層～Ⅱ層と幅をもって記載されていたが、正確な出土状況は把握できていない。取り上げられた遺物には上部層を削平した際に混入した碎石が多く認められた。これらとともにGG38-73グリッド杭の南に磨石類2点と原石1点の3点がまとまって出土した。

出土石器 1・2は砂岩製の磨石類である。1は角の丸い四面体で、1面に磨耗光沢と5か所の弱い窪みがみられる。裏面が凸であるため、埋め込んだ状態で砥石として、あるいは凸部を握部として利用した可能性が考えられる。2は、一部に欠けが認められるが概ね平坦面で構成され、五面体を呈する。目立った擦痕はないが、全体的に滑らかな質感を持つ。

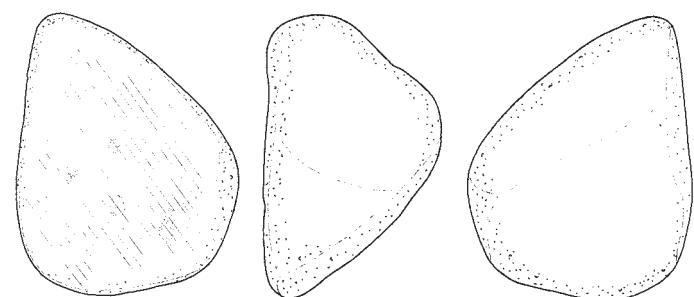
3はごろりとした寸詰まりの棒状の原石で、チャート製である。1～3の3点はGG38-73グリッド杭付近でまとめて出土しており、重量が700g以上、最大長は110mmを超え、県内で出土する礫・礫器としては大型の部類に入る。

第11-19表 第5文化層第89ブロック組成表

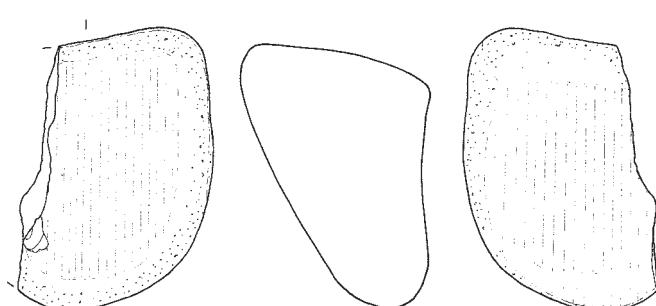
母岩	器種	母岩番号	磨石類	原石	点数合計	点数比 (%)	重量合計(g)	重量比 (%)	
砂岩	岩	1			1	33.33	835.00	35.53	
		2		1	1	33.33	705.00	30.00	
砂岩小計			2		2	66.67	1,540.00	65.53	
チャート		1		1	1	33.33	810.00	34.47	
合計			2	1	3	100.00	2,350.00	100.00	



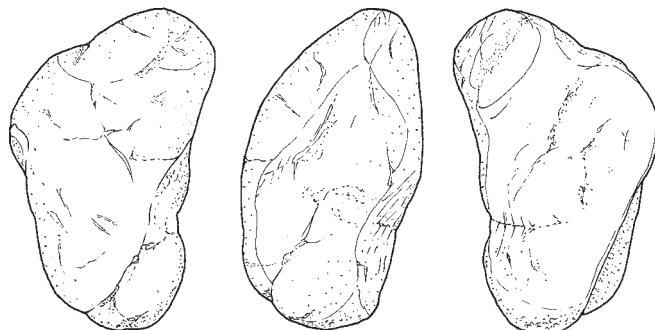
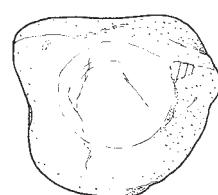
第11-35図 第5文化層第89ブロック遺物分布



1 GG38-73-2
磨石類
砂岩1
835.00g



2 GG38-73-3
磨石類
砂岩2
705.00g



3 GG38-73-1
原石
チャート1
810.00g

0 (1/3) 10cm

第11-36図 第5文化層第89ブロック出土石器

第6節 第6文化層

1 概要(第11-37図、第11-20表)

第6文化層は第90～92ブロックが該当する。いずれも調査区南西のGG38・GG39グリッドに位置する礫片を主体とした小規模な礫群で、北西から南東に幅4.0m×長さ28.0mの帯状に3か所が点在する。Ⅲ層上部で検出された礫片が多く、生活面も同様ととらえた。

これらのブロックは西側の原畑遺跡から続く一連の石器群である可能性が否定できないが、礫群の規模や剥片類の出土状況に若干の違いがみられる。一つには第90～92ブロックには示準となる石器の出土がなく、後世の遺物が混在する地点があること、もう一つには個々のブロックの規模が小さく、点在することがあげられる。

分布状況図と組成表をまとめて記載し、単独で出土した2点のうち黒曜石製の微細剥離痕のある剥片1点を図化した。

2 第90ブロック(第11-38図、第11-21表、図版30)

GG38-43・53グリッドの南北4m東西2mの範囲に、微細剥離痕のある剥片1点と礫片6点の計7点が出土した。調査時の所見ではIX層～Ⅲ層との記載があるが、縄文時代前期に多用される扁平な砂岩礫や現代の碎石、産業ゴミが多数混在するため、正確な生活面がとらえがたい。また、当ブロックの北側に位置する第5次調査区では縄文時代の礫群が検出され、玦状耳飾が出土していることも帰属時期に幅があることを示唆するものであり、縄文時代以降の焼礫群の可能性は否めない。一方、西側至近で検出された原畑遺跡第4文化層第38ブロックは砂川期相当の礫群との報告であり、当ブロックはこれと同時期か、やや新しい時期の所産と推定される。1点のみ出土した剥片類は碧玉製で、節理面の剥落と風化に起因する刃こぼれがみられる。このため石器の図化は行わず、分布図と組成表の記載に留めた。

3 第91ブロック(第11-38図、第11-21表)

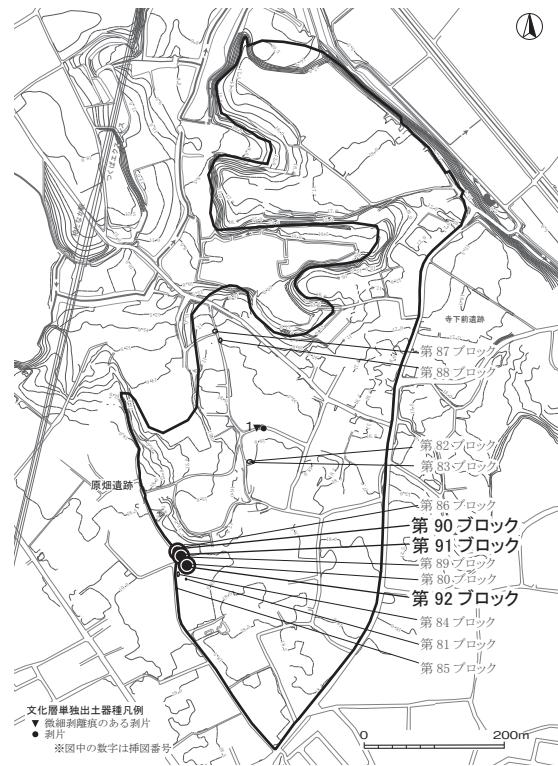
GG38-64グリッドから出土した礫1点、礫片6点の計7点で構成される小規模な焼礫群で、直径0.8m、上下幅4.6cmに収まる。石材は砂岩と石英斑岩であり、礫の大きさは長幅厚の順に、7.3cm、5.2cm、3.1cmで、重量は133gである。

4 第92ブロック(第11-38図、第11-21表)

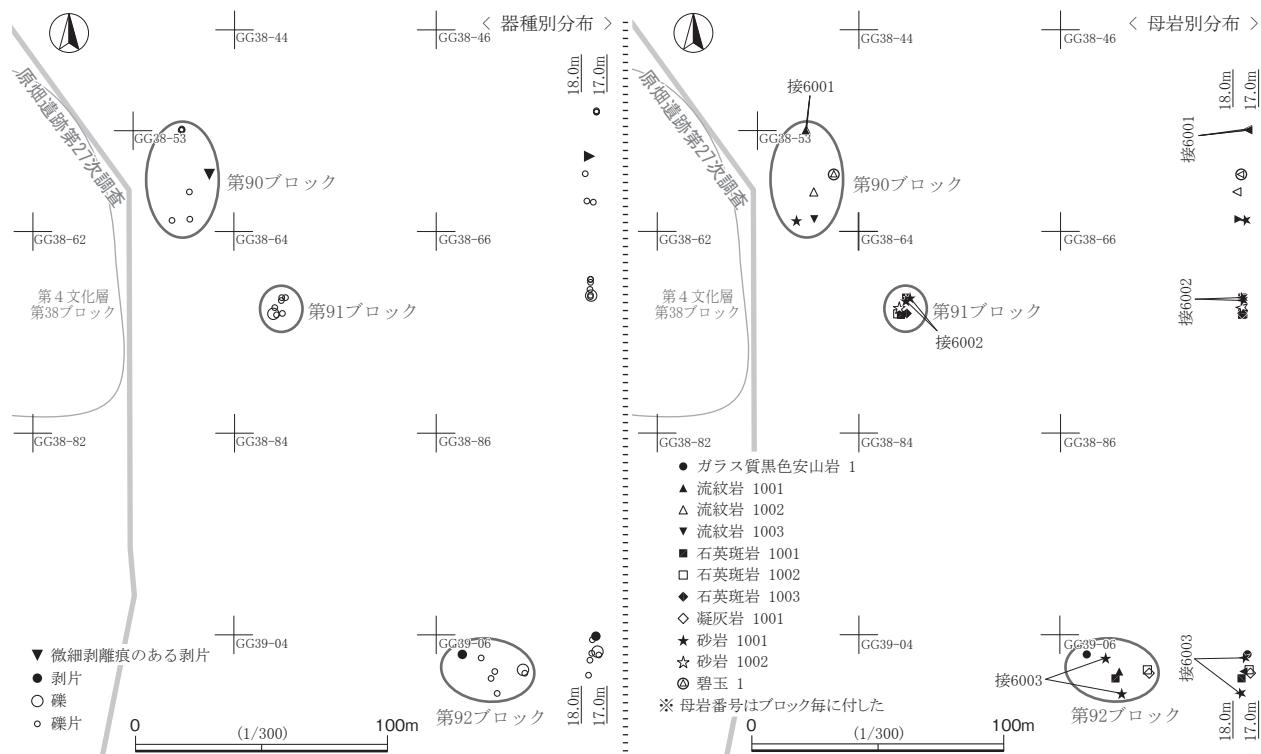
GG39-06グリッドから出土した剥片1点、礫1点、礫片5点の計7点が3.0m×1.4mの範囲内に分布する。調査時の所見ではVI層とⅢ層からの出土とあり、4点がⅢ層上部に包含される。

5 第6文化層単独出土石器(第11-37・39図、第11-21表、図版37)

1はJJ34-11グリッドのⅢ層から出土した微細剥離痕のある剥片である。調整痕のある打面から剥離され、末端が尖鋭に収束する。両側縁には粒状の微細剥離痕が連続するが、末端部には観察されない。夾雜物が少なく、やや青みを帯びた不透明な黒曜石製である。



第11-37図 第6文化層ブロック位置図



第11-38図 第6文化層第90～92ブロック遺物分布

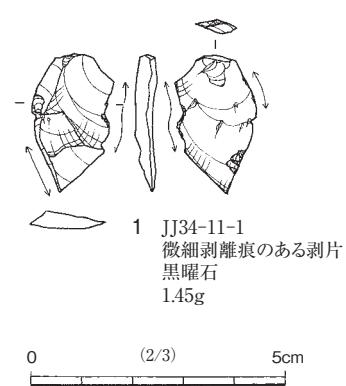
第11-20表 第6文化層器種石材組成表

石 材	器 種	微細剥離痕のある剥片	剥 片	礫	礫 片	点数合計	点数比 (%)	重量合計(g)	重量比 (%)
ガラス質黒色安山岩			1			1	4.17	1.71	0.16
流 紋 岩					4(6)	4(6)	25.00	328.95	31.37
石 英 斑 岩				2	4	6	25.00	385.10	36.73
黒 曜 石		1	1			2	8.33	1.96	0.19
凝 灰 岩					1	1	4.17	32.72	3.12
砂 岩					4(6)	4(6)	25.00	283.49	27.04
玉 體			1			1	4.17	2.48	0.24
碧 玉		1				1	4.17	12.09	1.15
合 計		2	3	2	13(17)	20(24)	100.00	1,048.50	100.00

※ ()は出土点数

第11-21表 第6文化層ブロック別組成表

ブロック	母 岩	器 種	母岩番号	微細剥離痕のある剥片	剥 片	礫	礫 片	点数合計	点数比 (%)	重量合計(g)	重量比 (%)
90	流 紋 岩	1001				1(3)	1(3)	12.50	179.55	17.12	
		1002				1	1	4.17	6.98	0.67	
		1003				1	1	4.17	93.25	8.89	
	砂 岩	1001				1	1	4.17	63.06	6.01	
91	石 英 斑 岩	1001				1	1	4.17	12.09	1.15	
		1002									
		1003									
	砂 岩	1001				1(2)	1(2)	8.33	64.57	6.16	
92	ガラス質黒色安山岩	1				1	1	4.17	71.69	6.84	
		1001									
		1002									
		1003									
91	石 英 斑 岩	1001				2	2	8.33	87.08	8.31	
		1002				1	1	4.17	133.00	12.68	
		1003				1	1	4.17	94.33	9.00	
		砂 岩	1001			1(2)	1(2)	8.33	64.57	6.16	
92	ガラス質黒色安山岩	1				1	1	4.17	71.69	6.84	
		1001									
		1002									
		1003									
92	流 紋 岩	1001				1	1	4.17	49.69	4.74	
		1002									
		1003									
		砂 岩	1001			1(2)	1(2)	8.33	84.17	8.03	
92	石 英 斑 岩	1001									
		1002									
		1003									
		砂 岩	1001								
92	凝 灰 岩	1001				1	1	4.17	32.72	3.12	
		1002									
		1003									
		砂 岩	1001								
92	砂 岩	1001				1(2)	1(2)	8.33	238.46	22.74	
		1002									
		1003									
		砂 岩	1001								
92	碧 玉	1				1	1	4.17	2.48	0.24	
		1001									
		1002									
		1003									
92	玉 體	1				2	2	8.33	1.96	0.19	
		1001									
		1002									
		1003									
92	第6文化層単独出土小計	1				3	12.50	4.44	0.42		
		1001									
		1002									
		1003									
92	合 計	2	3	2	13(17)	20(24)	100.00	1,048.50	100.00		

※ ()は出土点数
注: 母岩番号はブロック毎に付した

第11-39図 第6文化層単独出土石器

第7節 単独出土石器(第11-40~42図、第11-22表、図版37)

文化層・ブロックに帰属しない単独出土の石器17点を確認し、7点を図化した。12点は遺跡南西に位置する谷津頭を囲むように分布するが、5点は上層の溝状遺構や土坑から出土している。後世の攪乱中に含まれていたり、表面採集であったりと、出土位置が平面立面に関わらず不明確な資料が多いが、調査時の所見・写真を参照し原位置の特定に努めた。

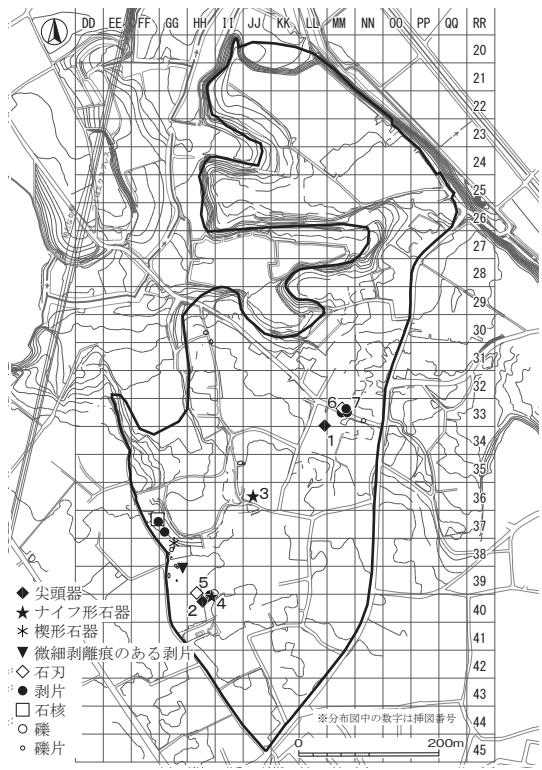
出土石器 1・2は黒曜石製の尖頭器である。1は第55次調査の際、LL33-99グリッドに位置する土坑の覆土中から採集された、いわゆる男女倉型と称される尖頭器である。残念ながら両端部は欠損するが左右対称の整美な形状であり、残存長は5.7cmを超える。側稜は概ねまっすぐに通ってはいるが、平坦面にある瘤を除去するための調整によって一部に乱れが生じている。石材は微妙に灰色を帯びた黒色不透明の良質な黒曜石で、白色の小さな斑晶を少量含む。また樋状剥離が施された部分は光沢が強く、夾雜物を含んでいない。材料選択の段階から、特に優れた部分を機能部に用いようとする意図が感じられる資料である。樋状剥離が施された後も器形の調整は行われており、対称形が保たれる。

2はHH40-25グリッドから出土した。上部は欠損しているが、石刃あるいは縦長の剥片を素材とした尖頭器であろう。主要剥離面側は器厚を均すような平坦剥離が施されている。夾雜物を含まない漆黒の黒曜石で、下端部にわずかに残る自然面は褐色板状でザラ感がある。調査時の所見ではⅢ層～Ⅱ層での出土である。

3・4は最大長が6cm以上のナイフ形石器である。3は調査区南西部の谷津頭を臨む縁辺部、JJ36-43グリッドから出土した。谷津の現地表面は15.0mで、3が検出された標高は17.3mと、2.3mの高低差がある。石器は横長剥片の打面部に急角度加工を施して背縁とし、側刃縁もまた主要剥離面側から62°～64°に加工される。器長の1/2が刃部であり、側刃縁との角度は130°である。先端部はわずかに欠損する。単独出土品であるが、調査時の所見ではⅥ層に包含されていたとの記載がある。石材はガラス質黒色安山岩である。4はHH40-08グリッドで出土した石刃素材のナイフ形石器である。左側の背縁は加工によって側縁全体が緩やかに湾曲し、対縁と収束して尖端を作る。打面を残した斜軸だが、全体の形状は一端(基部)に丸みのある木葉形となっている。褐色を帯びた灰白色で油脂状光沢を放つ硬質頁岩製である。

5・6は石刃である。ともに縁辺に微細剥離痕がみられ、使用痕かと思われる。5はHH39-93グリッドのⅡ層下部から出土した硬質頁岩製で、最大長は52.2mmを測り、長幅比は3.23の細身の石刃である。頭部調整、先端に微細剥離痕がみられる。6の両側縁にはごく小さな剥離痕が連続する。白色半透明の脈が入る玻璃質のチャート製で、自然面や剥離面など石器を構成する面が平らなことから、原石は10cmを超えるほどの大きさが想定される。

7はガラス質黒色安山岩の剥片である。全体の形状は楕円形を呈し、平坦打面から120°の角度で剥離さ



第11-40図 小山台遺跡単独出土遺物分布

第11章 小山台遺跡

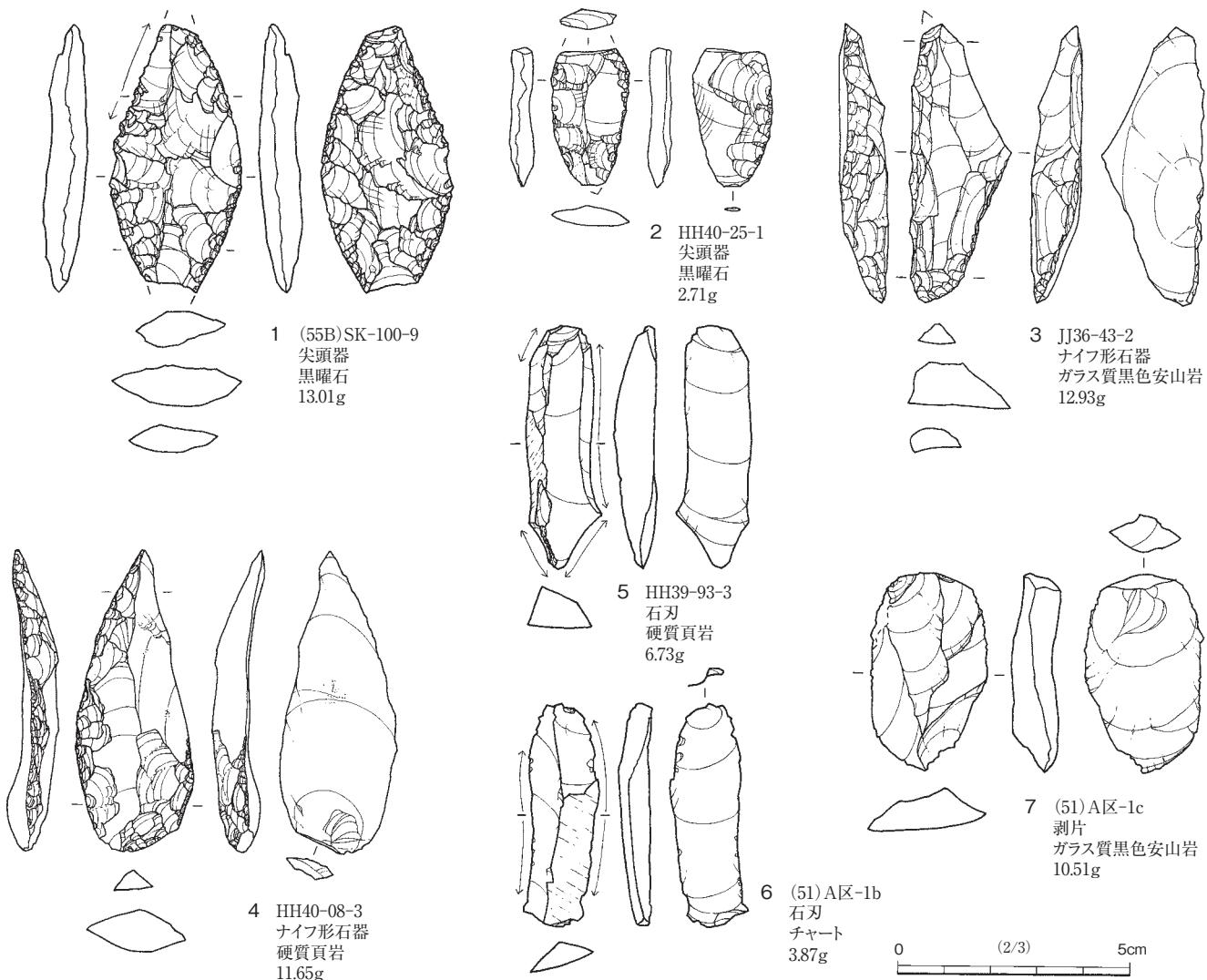


れる。背面に5面の剥離痕がみられる。

なお、6・7は第51次A区調査の際、道路下の攪乱土層中から4点出土したうちの2点で、正確な出土地点、層位とも不明である。第51次A区はMM33-35・45・46・55・56グリッドに位置し、ここから北へ20mほどの位置には第1文化層第2ブロックが検出されている。この第2ブロックは、1種類のガラス質黒色安山岩から剥離された剥片21点で構成される。7とこれらの石材は石基、斑晶、打角とも極めて近似するため、同ブロックで剥離された1片である可能性が高い。

第11-22表 単独出土石器組成表

石材	器種	尖頭器	ナイフ形石器	楔形石器	微細剥離痕のある剥片	石刃	剥片	石核	礫	礫片	点数合計	点数比(%)	重量合計(g)	重量比(%)
ガラス質黒色安山岩			1				2	1			4	23.53	60.68	24.34
トロットロ石							1				1	5.88	20.77	8.33
流紋岩										1	1	5.88	47.48	19.04
黒曜石	2							3			5	29.41	18.71	7.50
凝灰岩										1	1	5.88	60.04	24.08
硬質頁岩			1				1				2	11.76	18.38	7.37
チャート				1			1				2	11.76	11.20	4.49
玉髓						1					1	5.88	12.09	4.85
合計		2	2	1	1	2	6	1	1	1	17	100.00	249.35	100.00



第11-42図 単独出土石器

第8節　まとめ

小山台遺跡(第51～98次)各文化層の様相

小山台遺跡(第51～98次)の下層調査は調査対象面積が37,127m²であり、確認調査2,180m²と本調査890m²の計3,070m²を実施した。既報告の下層確認・本調査の合計は10,969m²であるので、調査の規模は前回の1/3弱ということになる。出土した石器は既報告の総数5,766点、文化層数6枚、ブロック数79か所に対して総数270点、文化層数5枚、ブロック数13か所と格段に少ない。第1文化層第80・81ブロックと第3文化層第82・83ブロックの4か所を除いた9か所は既報告分に付帯、あるいは関連性の高いブロックであり、小山台遺跡全体を俯瞰するにあたっては既報告の柏北部東地区10にはほぼ収斂される。よって本項では、今回調査分の各文化層について簡単にまとめつつ、特徴的な資料提示という観点から第1文化層の黒曜石製石刃を用いたナイフ形石器と、第4文化層の角錐状石器・ナイフ形石器の接合資料について補足するに留めた。

第1文化層 IXc層上部～IXa層下部に生活面を持つと推定される石器群で、2か所の小規模なブロックとその周辺部を中心に合計26点の石器が出土した。該当するブロックは第80・81ブロックであり、第80ブロックはGG38-95・96、GG39-06グリッド、第81ブロックはGG39-46・56グリッドに位置する。両ブロックとも、頭部調整のあるきわめて良質な黒曜石製石刃が素材として用いられ、わずかな基部加工が施されたナイフ形石器が製作されている。

約450m北西に位置する原畠遺跡第1文化層第4ブロックでも同様の石器群が検出されており、黒曜石は和田鷹山群、和田土屋橋北群、小深沢群等、すべて和田エリアと産地同定されている。本小山台遺跡では黒曜石の科学的な分析は叶わなかったが、肉眼観察では原畠遺跡黒曜石9(透明感はあるが全体が黒灰靄：和田土屋橋北群)は小山台遺跡黒曜石1に、原畠遺跡黒曜石7(赤みのある黒靄状：和田鷹山群)は小山台遺跡では黒曜石2に、原畠遺跡の黒曜石4(透明+黒斑：和田鷹山群)は小山台遺跡の黒曜石3に、原畠遺跡黒曜石5・8(わずかに赤みある透明：和田鷹山群)は黒曜石4に対応する。

原畠遺跡第4ブロック、小山台遺跡第80・81ブロックの共通点は、窪地に面した高台に立地する30点未満の小規模なブロックであること、ナイフ形石器と石刃を組成すること、側縁に微細剥離痕を持つ資料が多いこと、良質な黒曜石を主体とし、3種類以下の石材で構成されることがあげられる。

第3文化層 VII層上部～VI層に生活面を持つと推定される石器群で、第82・83ブロックの2か所と単独6点の51点が出土した。第82ブロックはII35-28・29・38・39グリッド、第83ブロックはII35-39、JJ35-30グリッドに位置し、隣接してはいるが1資料を除き母岩の共有関係はない。ナイフ形石器や石錐、楔形石器が主要器種であり、微細剥離痕を持つ資料が多出する。石材は黒曜石、硬質頁岩、ガラス質黒色安山岩の3種が84%を占めるが、主要石器には硬質頁岩が多く用いられる。千葉県では大～中型の石刃を素材とする下総型石刃再生技法が卓越する層位であるが、本遺跡には比較的小型の完形品が多い。

第4文化層 V層～IV層下部に生活面を持つと推定される石器群で、GG39グリッドに位置する第84・85ブロックとGG38グリッドの第86ブロックの3か所から107点、単独で出土した1点の計108点が帰属する。第86ブロックは既報告の第52ブロックに付帯し、第85ブロックは礫・礫片が主体であり、3か所のブロック間では接合関係や共通母岩はない。第84ブロックが本文化層を最も特徴づける集中域ととらえ、まとめしたい。

第84ブロックでは角錐状石器1点、ナイフ形石器2点、二次加工のある剥片2点、微細剥離痕のある剥

片1点、調整剥片6点を含む剥片58点、碎片16点、石核1点、礫片1点の計82点を組成する。剥片と碎片を足した合計が74点で、90%以上が加工痕・使用痕のない剥片類である。これらはナイフ形石器、角錐状石器などの主要な石器を製作する際に出た石屑が大半である。石材は黒色頁岩3種類、トロトロ石2種類、凝灰岩・砂岩各1種類で、母岩数は凝灰岩1と黒色頁岩1がともに24点だが、重量は凝灰岩1が最も重く66.35g、黒色頁岩1が44.09gである。凝灰岩1は鶏卵より一回り大きく厚みのある楕円礫が原石であり、ブロックに持ち込まれた時には既に、長軸方向から板状に剥離された状態であったと思われる。凝灰岩1の器種組成は角錐状石器1点、二次加工のある剥片1(2点接合)点、微細剥離痕のある剥片1点、剥片19点、碎片1点であり、4個体13点が接合した。このうちの縦折れ資料4点を除外した2個体(第11-20図3・4)については石器製作の痕跡を見ることができる。

一つは角錐状石器とその調整剥片4点が接合したもの(4)で、石器の側面を調整するために裏面から同じような角度で加撃される工程を追うことができた。ただ、製作された角錐状石器がそのまま調整の場に残されていた理由は不明である。

もう一つは石器製作途中での折れが原因で遺棄された資料(3)であり、上下に折れた二次加工のある剥片と調整剥片2点が接合している。厚みのある板状の素材から角錐状石器あるいはナイフ形石器などを製作する途中であったと推測されるが最終形態が不明なため、二次加工のある剥片とした。「石核」ともとらえられよう。一端を急角度に成形する際に石器が分断され、遺棄に至ったようである。

黒色頁岩1についても同様に、板状の素材から石器製作が行われる様相がみてとれる。本文中では接合資料の剥離順にaから並べてみたが、3分割された個体それぞれが石器母型である可能性があり、細かな調整を行う前の素材作出段階とも考えられる。

このように、第4文化層第84ブロックでは、黒色で比較的軟質な黒色頁岩、凝灰岩を石材とした角錐状石器・ナイフ形石器製作の工程を観察するのに良好な資料を得た。

第5文化層 IV層上部～Ⅲ層下部に生活面を持つと推定される石器群で、第87～89ブロックの3か所が該当する。総計44点のうち、38点がHH30-66・67グリッドを中心とした第87ブロックから出土した。第87ブロックは既報告(柏北部東地区10)の5bユニット第69ブロックの南西約8mに隣接しており、2つのブロックでは共通する石材が6種類観察された。一方の器種組成であるが、ナイフ形石器6点、上げ屋型彫刻刀形石器1点、敲石1点など、第87ブロックには主要な石器が偏在し、第69ブロックの剥片類と石核で構成される器種組成とは趣を異にする。

第6文化層 Ⅲ層上部に生活面を持つと推定される石器群であり、GG38・GG39グリッドで検出された第90～92ブロックが一列に並ぶ。いずれも6～7点の焼礫片主体のブロックであり、示準となる石器の出土はない。ブロックからの21点と、単独で出土した3点の計24点がこの文化層に帰属する。

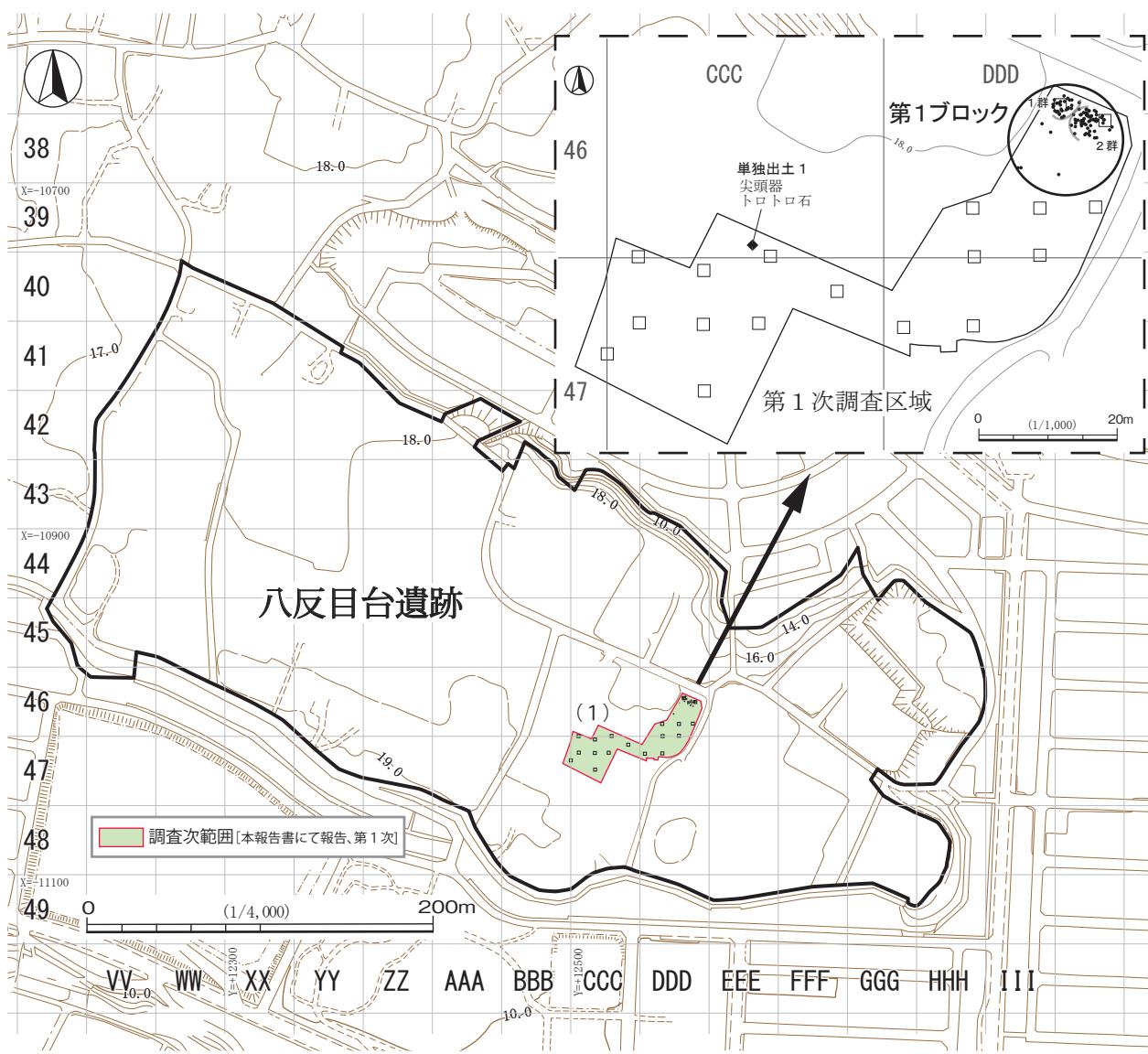
単独出土石器 いずれの文化層にも帰属しない単独出土石器は17点で、尖頭器(黒曜石)2点、ナイフ形石器(ガラス質黒色安山岩・硬質頁岩)2点、石刃(硬質頁岩・チャート)2点、剥片(ガラス質黒色安山岩)1点の計7点を図化した。男女倉型尖頭器や整美な形状のナイフ形石器をはじめ、完形品あるいは素材として持ち込まれた大型の資料が出土している。

第12章 八反目台遺跡

第1節 遺跡の概要(第12-1図、第12-1~3表、図版30)

八反目台遺跡は柏北部東地区の遺跡群の中では南東端部に位置し、北は宮前遺跡、西は寺下前遺跡に接している。今回報告する第1次調査の石器集中域は遺跡の中央から若干東寄りに位置し、北東方向から入り込んだ谷津頭を臨む場所であったことが推測される。現地形での高低差は地図上で約12mを測る。

この調査では、CCC46・DDD46グリッドのⅢ層～Ⅱ層にて101点の石器類が出土した。これらは疎らに分布する数点を除き、5.2m×9.3mの集中域を形作ってはいるが、分布の疎密からさらに北西と南東に二分することが可能である。DDD46-46グリッドの黒曜石主体のまとまりと、DDD46-47・57グリッドに集中するチャート主体のまとまりとを線引きして視覚化を試み、利用石材や器種の違いなどからそれぞれの場の特徴を検討する。



第12-1図 八反目台遺跡調査次別区域と確認・本調査範囲

出土した101点の器種内訳は尖頭器1点、搔器1点、楔形石器1点、二次加工のある剥片2点、微細剥離痕のある剥片2点、細石刃18点、細石刃石核3点、剥片(碎片含む)51点、石核8点、磨石1点、台石1点、原石1点、礫・礫片11点である。このうち尖頭器1点は石器集中域から40m以上離れたCCC45グリッドに単独で分布するため、単独出土資料として別枠で記載し、100点を第1ブロックとして報告する。第1ブロックで半数以上を占めるのは剥片で、紙のように薄い碎片・調整剥片や最大長8cmに達する大型剥片を含んでおり、石材で一括りにした組成を示すよりも母岩ごとの検討が必要であろうと思われる。器種、母岩の組成は第12-3表を参考資料として掲載した。石材はチャート41点、黒曜石34点、砂岩16点、流紋岩3点、ホルンフェルス4点、石英斑岩・玉髓は各1点が用いられている。

なお、当ブロックで出土したような細石刃石器群は、小山台遺跡や内山遺跡(地金堀を隔てて西側に1.8kmの位置にある柏北部中央事業地内。千葉県教育委員会にて現在整理中。)でも類例がみられる。

第2節 石器分布(第12-2図、第12-1~3表、図版30・38)

第1ブロックではⅢ層上部からⅡ層にかけて100点が出土した。石器が密集する8m四方での垂直分布幅は約60cmであり、わずかながら北に向かって帶状に下降している。23点、11個体の接合資料があり、同時期に形成された集中域と認識される。石器分布の疎密から、この集中域を視覚的に1群と2群とに分け(第12-2図)、石器組成と分布の内容を述べる(第12-1~3表)。

1群

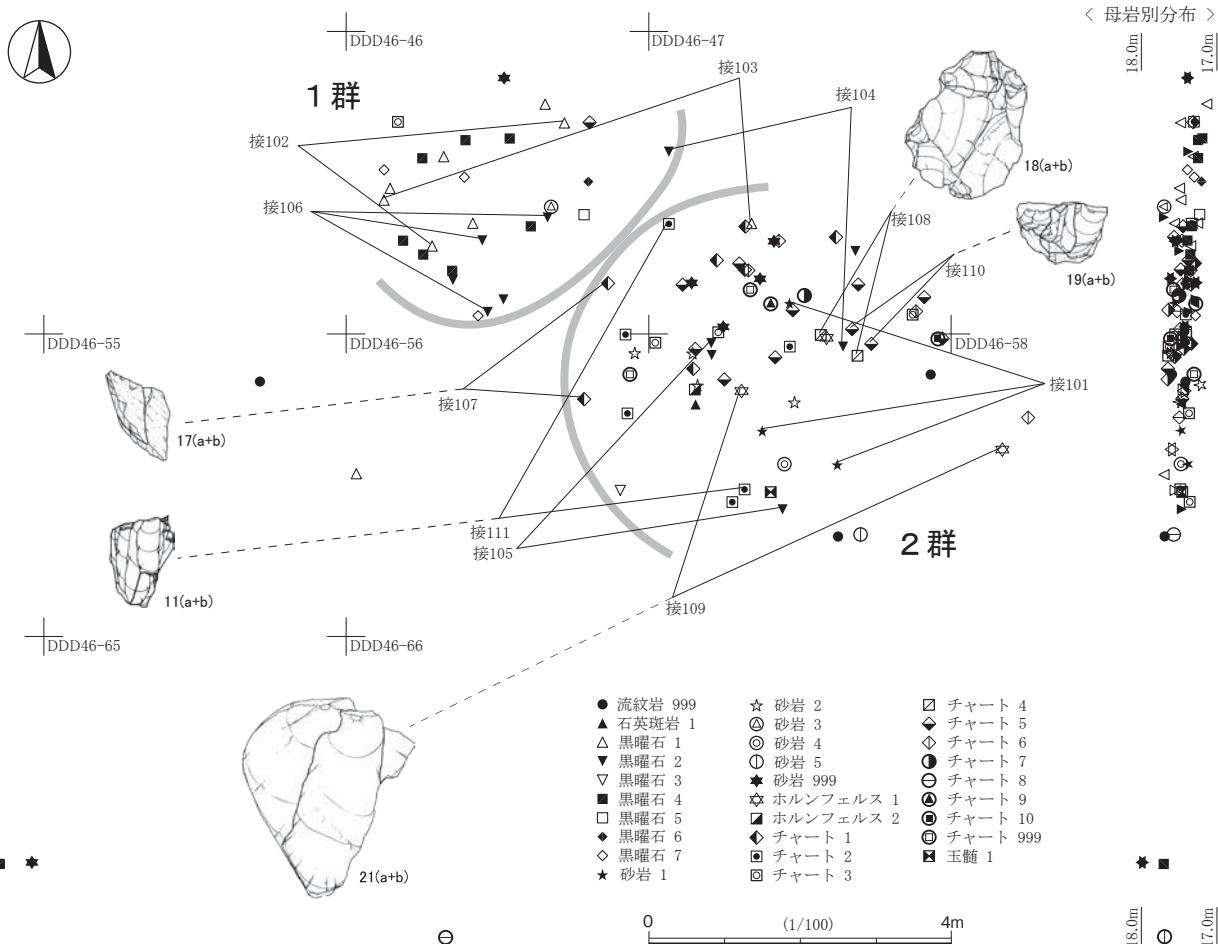
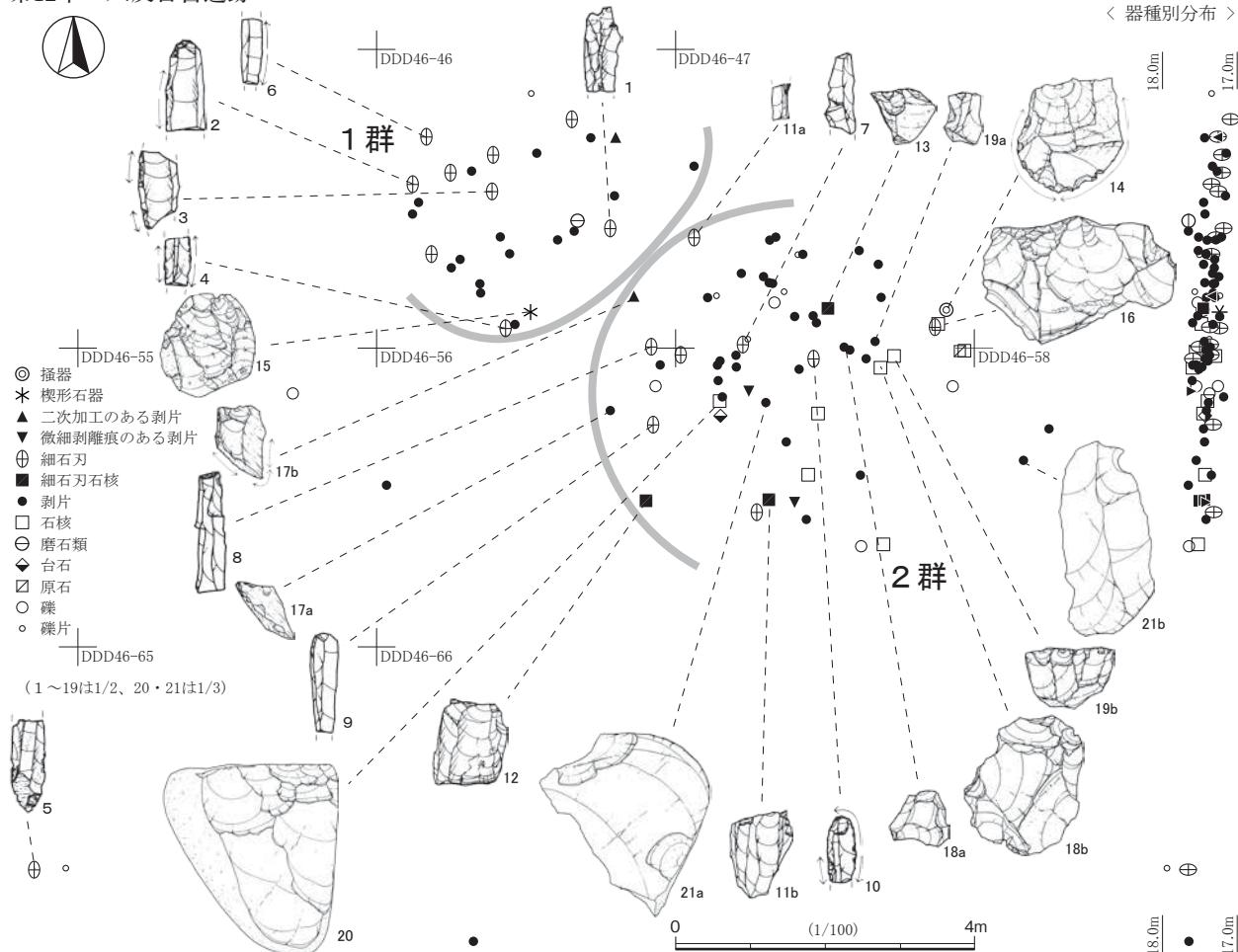
第1ブロックの北西側に円形に分布し、29点の石器で構成される。器種は細石刃9点、剥片16点、楔形石器・二次加工のある剥片・磨石類・礫片がそれぞれ1点ずつ出土した。このように1群では剥片と細石刃が大勢で、86%を占める。細石刃の形状は上部欠損6点、下部欠損1点で、上下両端部が欠けているものは2点であり、下部がステップで収束するものを除いたすべての細石刃に欠損(折り取りか)がみられる。これら以外に、欠損部位が大きいために剥片に分類せざるを得なかった資料が複数あるが、明確に細石刃ととらえられるものののみの記述に留めた。細石刃はいずれの側縁も直線的であり、湾曲の度合いが弱く、6点に刃こぼれが認められた。細石刃9点の分布域は直径2.7mの範囲に収まる。

石材は黒曜石が25点と圧倒的に多く、このほかにチャート2点、砂岩2点が分布する。磨石類、台石、原石、礫など、礫素材の加工工具類のほとんどは2群に分布しており、1群でみられる砂岩の磨石もやや2群寄りに出土している。

2群

2群は、第1ブロックの南東側、4.2m×6.0mの範囲に含まれる66点の集中域である。器種の内訳は搔器1点、二次加工のある剥片1点、微細剥離痕のある剥片2点、細石刃8点、細石刃石核(細石刃石核原型含む)3点、剥片33点、石核8点、台石1点、原石1点、礫・礫片8点である。石材には流紋岩・石英斑岩・黒曜石・砂岩・ホルンフェルス・チャート・玉髓が用いられ、石材に応じた作り分け、あるいは使い分けがなされている。一番多く出土したのはチャートで、38点を数える。このうち赤色を呈するいわゆる赤チャートと呼称される石材(チャート4~6)は17点あり、打面の縁を周回させて小型の剥片を作出した資料や、板状の剥片を素材とした搔器、粗割された剥片や打点の不明確な小片などがみられるが、細石刃・細石刃石核は皆無である。一方で、光沢のある濃灰色のチャート3は細石刃石核1点、細石刃5点を組成し、6点すべてが2群の3.8m四方に分布する。微細な調整剥片や初期工程の自然面付き剥片の検出

第12章 八反目台遺跡



第12-2図 第1ブロック遺物分布

第12-1表 器種組成表

器種		尖頭器	搔器	楔形石器	二次加工のある剥片	微細剥離痕のある剥片	細石刃	細石刃 石核	剥片	石核	磨石類	台石	原石	礫	礫片	点数合計	点数比 (%)	重量合計 (g)	重量比 (%)
1 ブロック	1群			1	1		9		16		1				1	29	28.71	329.43	7.60
	2群			1	1	2	8	3	33	8		1	1	4	4	66	65.35	3,871.99	89.33
	1・2群外						1		2					1	1	5	4.95	115.58	2.67
第1ブロック小計				1	1	2	18	3	51	8	1	1	1	5	6	100	99.01	4,317.00	99.60
単独出土		1														1	0.99	17.33	0.40
合 計		1	1	1	2	2	18	3	51	8	1	1	1	5	6	101	100.00	4,334.33	100.00

第12-2表 石材組成表

石材		トロトロ石	流紋岩	石英斑岩	黒曜石	砂岩	ホルンフェルス	チャート	玉髓	点数合計	点数比 (%)	重量合計 (g)	重量比 (%)
1 ブロック	1群				25	2		2		29	28.71	329.43	7.60
	2群		2	1	7	13	4	38	1	66	65.35	3,871.99	89.33
	1・2群外		1		2	1		1		5	4.95	115.58	2.67
第1ブロック小計			3	1	34	16	4	41	1	100	99.01	4,317.00	99.60
単独出土		1								1	0.99	17.33	0.40
合 計		1	3	1	34	16	4	41	1	101	100.00	4,334.33	100.00

第12-3表 第1ブロック組成表

器種		母岩番号	搔器	楔形石器	二次加工のある剥片	微細剥離痕のある剥片	細石刃	細石刃 石核	剥片	石核	磨石類	台石	原石	礫	礫片	点数合計	点数比 (%)	重量合計 (g)	重量比 (%)
1群 黒曜石	1群	1					1		6							7	7.00	9.84	0.23
		2		1					5							6	6.00	20.03	0.46
		4				3		4								7	7.00	0.52	0.01
		5				1										1	1.00	0.28	0.01
		6						1								1	1.00	0.47	0.01
		7				3										3	3.00	0.65	0.02
	黒曜石小計		1			8		16								25	25.00	31.79	0.74
2群 砂岩	2群	3								1						1	1.00	27.21	6.47
		999														1	1.00	15.25	0.35
	砂岩小計								1							1	2.00	294.46	6.82
1群 チャート	1群	2				1										1	1.00	0.08	0.00
		5		1												1	1.00	3.10	0.07
	チャート小計		1		1											2	2.00	3.18	0.07
1群点数合計		1	1		9		16		1							1	29	29.00	
1群重量(g)		10.91	3.10		1.57		19.39		279.21									329.43	7.63
2群 流紋岩	2群	999														2	2.00	228.00	5.28
	石英斑岩		1								1					1	1.00	1,201.40	27.83
	黒曜石		1								1					1	1.00	1.32	0.03
		2							5							5	5.00	33.44	0.77
		3						1								1	1.00	6.80	0.16
	黒曜石小計							1	6							7	7.00	41.56	0.96
	砂岩		1							3						3	3.00	62.39	1.45
2群 ホルンフェルス	2群	2						3	1							4	4.00	609.78	14.13
		4							1							1	1.00	124.20	2.88
		5							1							1	1.00	532.49	12.33
		999														4	4.00	8.80	0.20
	砂岩小計							6	3							4	13	13.00	1,337.66
	ホルンフェルス		1						3							3	3.00	172.09	3.99
		2							1							1	1.00	625.90	14.50
ホルンフェルス小計									3	1						4	4.00	797.99	18.48
1群 チャート	1群	1		1			6									7	7.00	32.86	0.76
		2				3										3	3.00	0.44	0.01
		3			5	1										6	6.00	6.18	0.14
		4					1	1								2	2.00	28.16	0.65
		5	1	1			7	2								11	11.00	67.43	1.56
		6				3	1									4	4.00	58.73	1.36
		7				1										1	1.00	4.79	0.11
		9					1									1	1.00	0.10	0.00
		10									1					1	1.00	61.18	1.42
		999														2	2.00	1.00	0.02
チャート小計		1		1	1	8	1	18	5							38	38.00	260.87	6.04
玉髓		1			1											1	1.00	4.51	0.10
2群点数合計		1	1	2	8	3	33	8	1	1	4	4	4	4	66	66.00			
2群重量(g)		10.19	1.33	10.17	1.47	16.74	335.42	1,996.29	1,201.40	61.18	229.00	8.80						3,871.99	89.69
1・2群 流紋岩	1・2群	999														1	1.00	59.70	1.38
	黒曜石		1													1	1.00	0.59	0.01
		4				1										1	1.00	0.38	0.01
	黒曜石小計					1		1								2	2.00	0.97	0.02
1・2群 砂岩	1・2群	999														1	1.00	54.10	1.25
	チャート		8						1							1	1.00	0.81	0.02
	1・2群外出土点数合計					1		2								1	5	5.00	
1・2群外出土重量(g)					0.38		1.40									59.70	54.10		115.58
合計点数		1	1	2	2	18	3	51	8	1	1	1	5	6	100	100.00			
合計重量(g)		10.19	10.91	4.43	10.17	3.42	16.74	356.21	1,996.29	279.21	1,201.40	61.18	288.70	78.15				4,317.00	100.00

はなく、整形された細石刃核の状態で遺跡に持ち込まれたものと推測される。

器種・母岩組成、出土石器を検討した結果、2群では選択された良質な石材から高い剥離技術を駆使して細石刃が作出される工程と、小型の剥片が単純な方法で作出される資料とを確認することができた。

第1ブロックの黒曜石

1群25点、2群7点、1・2群外2点と、1群に多く分布する黒曜石であるが、これら34点を肉眼観察により分類したところ、7母岩を認識した。黒曜石1は光沢のある黒色不透明で灰色～褐色の夾雜物を多く含んでいる。黒曜石2は光沢のある黒色不透明で赤褐色の夾雜物を多く含み、1より透明感がある。黒曜石3の石基の特徴は黒曜石2・3と同様であるが、発達した節理面を有する。黒曜石4は青みがかった黒色で、薄い部位は半透明である。夾雜物をわずかに含む。黒曜石5は青みのある濃灰色～灰霧状で、薄い部位は半透明である。褐灰色の斑晶を少量含む。黒曜石6は濃灰色で薄い部位は半透明である。 $\phi 1\text{ mm}$ ほどの褐灰色の斑晶を少量含む。黒曜石7は無色透明で夾雜物を含まない。厚みある部分にわずかに黒みが感じられる。

科学的な分析を行っておらず、目視であるが、黒曜石1～3は高原山産、黒曜石4・5・7は信州産、黒曜石6は神津島産の可能性がある。2群に分布する黒曜石7点はおそらく高原山産で、細石刃石核1点を含む。1群の黒曜石製細石刃8点のうち7点は信州産と推定されるが、細石刃石核の出土はない。

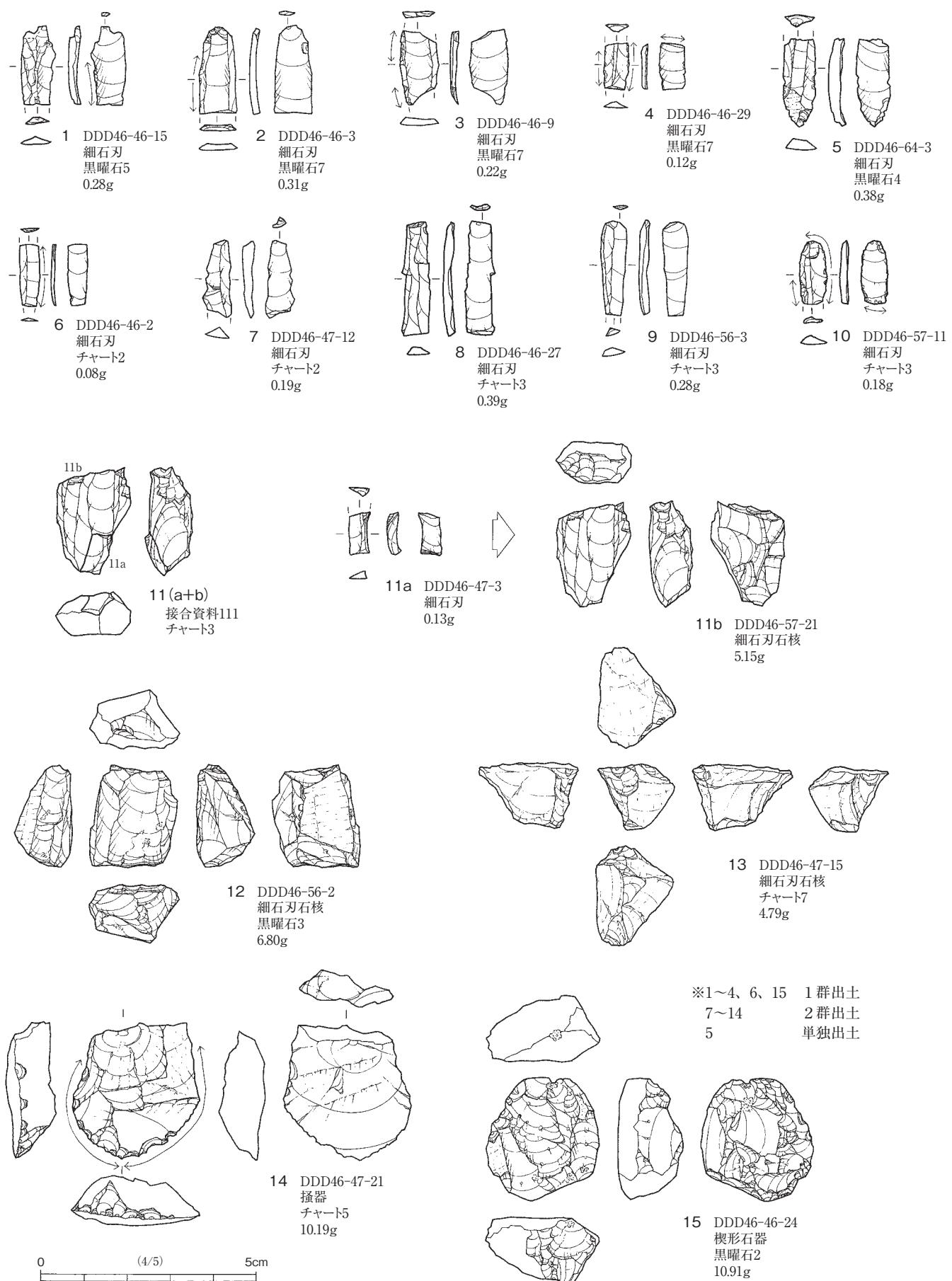
第3節 出土石器(第12-3～5図、第12-1～3表、図版38)

八反目台遺跡から出土した旧石器時代の石器は全101点を数えるが、1点を除いた100点が第1ブロックに属している。調査時の所見では立川ロームⅢ層上面からⅡ層にかけて安定的に分布し、旧石器時代～縄文時代の移行期に該当する石器群とされる。石器・石材組成は上記概要で示したとおりである。

石器は器種ごとに記載するが、接合関係のある資料に関しては剥離工程や母岩組成を考慮し、実測図の配置を入れ替えた。実測図の縮尺は、第12-3・4図1～19を4/5、第12-5図20・21を1/2とし、分布図(第12-2図)への添付は1～19を1/2、20・21を1/3として報告する。

1～10は細石刃である。細石刃として確認できた資料は18点で、このうち1点は接合資料として後述する。ここでは比較的残りの良い10点を掲載した。細石刃には黒曜石とチャートの2つの石材が用いられており、1～5は黒曜石、6～10はチャートである。1・2の打面はごく小さく、頭部調整がみられる。側縁はわずかに湾曲し、一側縁に微細剥離痕がみられる。下部を折り取ることで湾曲度合を減じた可能性がある。3・4は上下が欠損し、側縁に微細剥離痕がある。側縁は直線状で、板ガラスのように平らな形状である。5は打面部のみが欠損し、両側縁が末端で収束している。1～4と異なる点としては、厚みが1mm以上大きい、微細剥離痕がみられない、背面下部に風化剥離面が残っている、という特徴があげられる。また、1～4は第1ブロックの1群に属するが、5は1群から南西方向に約11m離れた位置に単独で分布する。同一母岩と目される黒曜石4は第1ブロックの1群に7点分布しており、いずれも自然面のない破損品である。このため自然面を持ち厚みのある5は、ごく初期の工程における製品であると推測する。

6～10の細石刃はチャート製である。チャート2、チャート3の2母岩のみで作出されている。いずれも網目状構造や器面を断するような節理面がなく、ガラス質でもない。濃灰色～褐色で微光沢があり、どちらかというと珪質泥岩のような手触りである。一つの石の中には様々な色みがあり、単色で構成される石材は稀である。この2つのチャートも質感が非常に似ており、同じ母岩の別部位である可能性が否めな



第12-3図 第1ブロック出土石器(1)

い。6の両端部は欠損し、側縁が直線状、1mmほどの厚さであるが、一側縁に微細剥離痕がみられる。2群寄りの1群に分布する。7は下端部が欠損した厚みのある資料である。使用痕は観察されない。8は完形である。側縁は末端まで平行し、中ほどに段差がある。湾曲の度合いは少なく直線的、精緻な形状であるが使用痕は観察されない。最大長は26.6mmで、11の細石刃石核の最大長を超えており、同じ打面から剥離された初期の資料、あるいは打面再生前に剥離された資料と推測される。2群の北西端、1群寄りに分布する。9の両側縁は末端に向かって収束していくようだが、欠損により詳細は不明である。打面はわずかに欠ける。微細剥離痕は看取されない。10は頭部調整され、点状打面を持つ。薄い縁辺には微細剥離痕が廻り、打面、折面に及ぶ。6・7はチャート2、8~10はチャート3を母岩とする。

11は細石刃と細石刃石核の接合資料である。細石刃を11a、細石刃石核を11bとする。11aは完形時の2/5程で、湾曲した末端部である。11bに残った剥離痕の形状から、上部は両側縁が平行し、直線的な側縁であったと推定される。11bの作業面は正面・裏面にみられ、加撃方向が90°異なる。打面は正面側からの調整によって急角度となっており、作業面との稜は直線状を呈している。正面の作業面には5条の細石刃剥離痕が整然と並び、すべて下端まで抜けている。母岩は8~10と同じく濃灰色のチャート3で、網目状の構造や節理・自然面は見受けられない。チャート3は細石刃石核1点、細石刃5点の計6点を組成するが、すべて2群に帰属する。接合した11aは11bから3.6m北西の1群に近い位置に分布する。

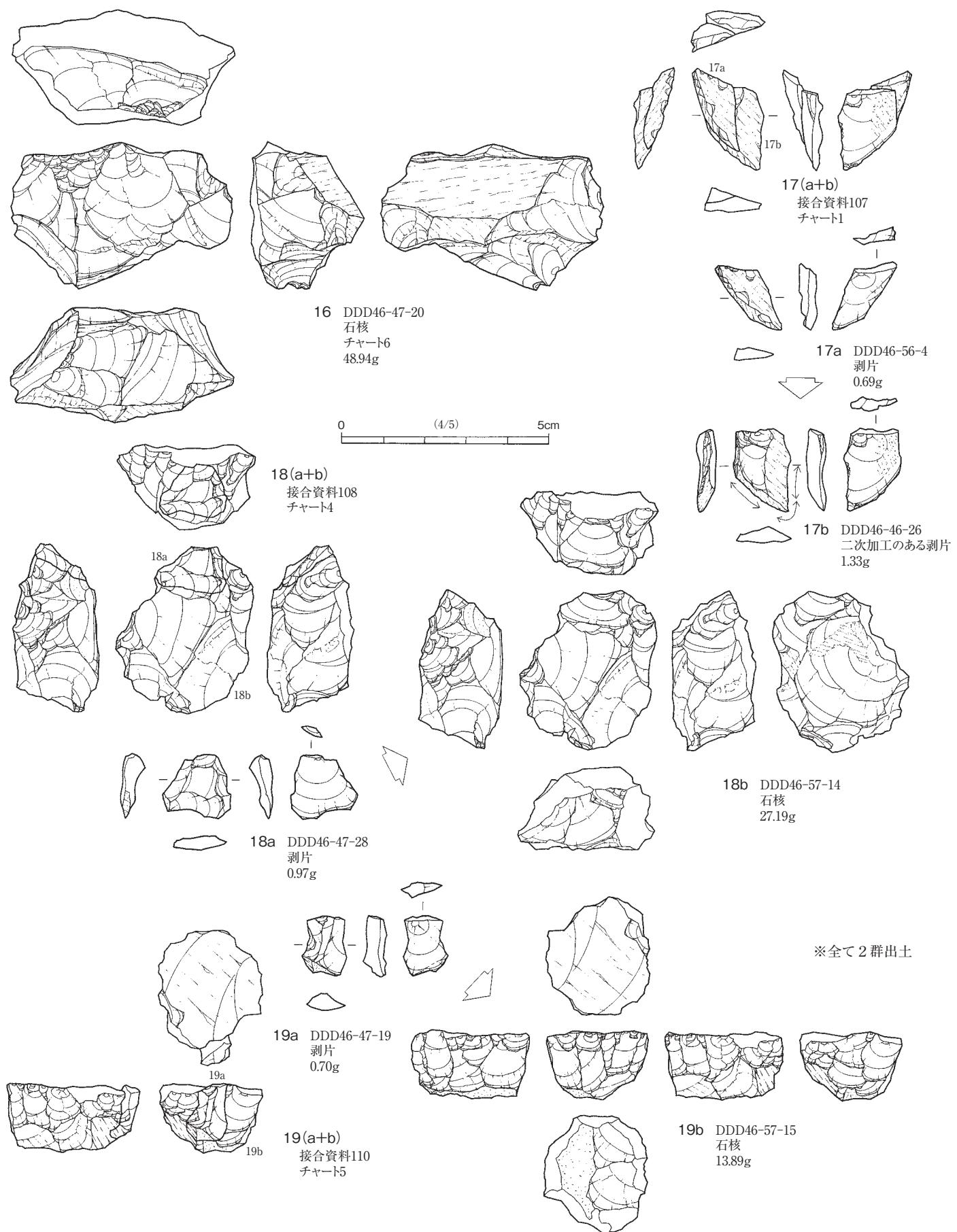
12・13は細石刃石核である。12の作業面は正面及び左側面であり、同一方向から5条の細石刃剥離痕が観察される。打面は正面上方から裏面へ向けて剥離された1枚の平坦面であり、稜は潰されて明確な打点が遺存しない。裏面は風化剥離面である。黒曜石の多くは1群に分布するが、12は2群の南西端から出土している。黒色で光沢のある黒曜石3が母岩である。目視であるが、高原山産の黒曜石と近似する。13は発達した節理を利用、あるいは活かし、三角錐状に成形された細石刃石核である。平坦な節理面を打面として3面の集まる角部で剥離作業が行われるが、下端に到達する剥離痕はなく、有効な細石刃の製作には至っていない。打面は庇状に遺存し、調整の痕跡はない。細石刃石核の原型に近い資料である。節理の発達したチャート7を母岩とする。

14は厚みのある剥片を素材に用いた搔器である。背面には多方向の剥離痕が残っており、複剥離打面から加撃されていることから、器面の調整を兼ねた石器ととらえた。スクレーピングエッジは左下部にみられ、65°~70°を測る。調整は粗く鋸歯縁状の半円弧を描いており、打面部を除く縁辺に刃こぼれが連続する。石材は光沢のある小豆色~赤色を呈し、母岩番号はチャート5である。2群に分布する。

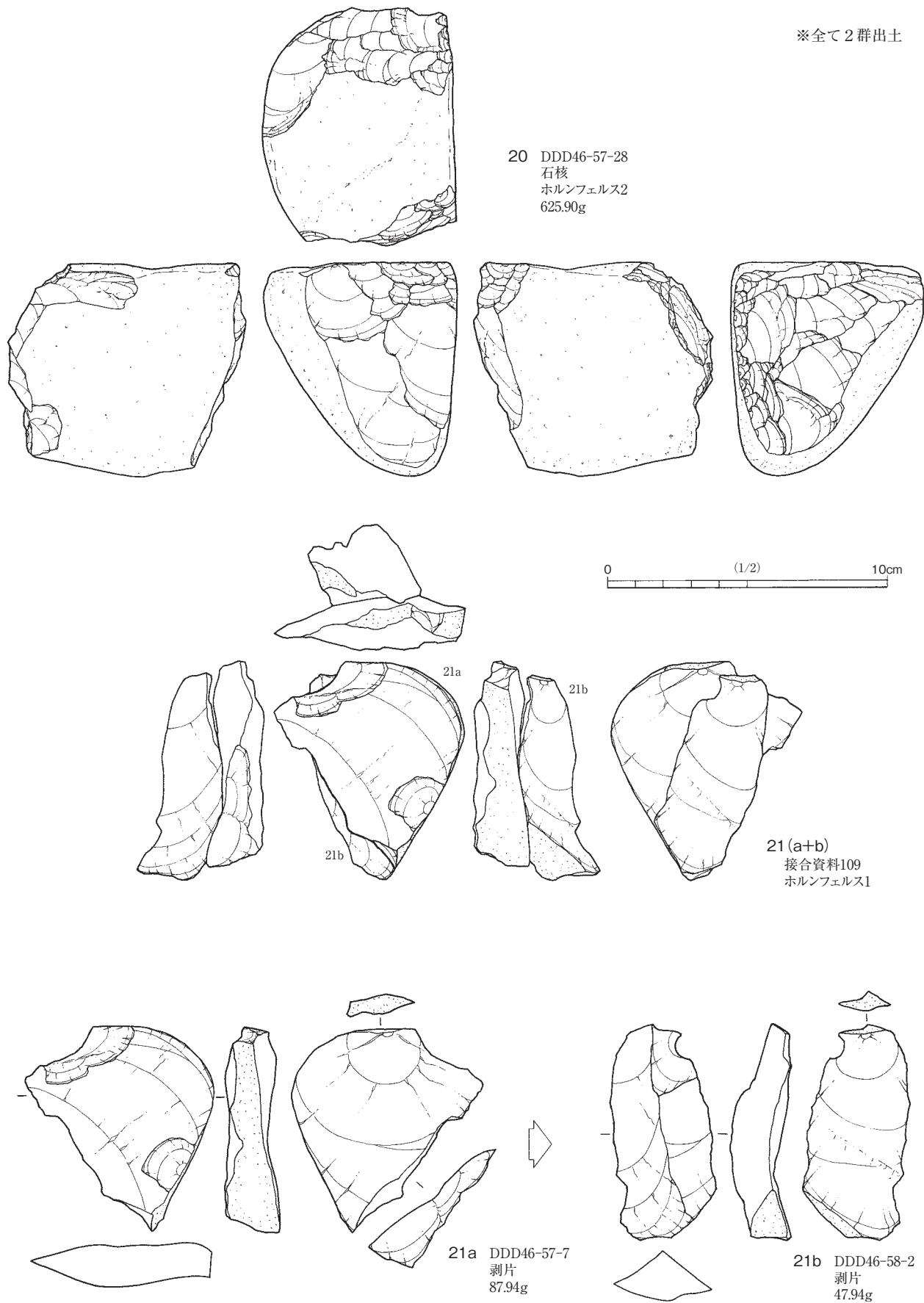
15は楔形石器である。挟み割りによる両極からの加撃痕、剥離痕がみられる。最大幅、最大厚とも器体中央部にあり、厚みのある亜円形を呈する。正面上部にわずかに自然面が残る漆黒不透明の黒曜石2が母岩で、 $\phi 0.5\text{mm} \sim 4.0\text{mm}$ の褐色・灰色の斑晶が散在する。黒曜石3と同じく高原山産に近似する。

16は石核である。節理折れした素材が多方向から加撃され、様々な形状の剥片が剥離されたことが看取される。母岩は赤色のチャート6である。最終作業面は下面左方に残る。2群の東端に分布する。

17は同一打面から剥離された2点の接合資料である。17aを剥離した後、2打以上加撃され、17bの剥離に至る。17bには左側縁に二次加工が施され、左右両縁辺に微細剥離、先端に小剥離が残る。石材は節理の発達した緑褐色のチャートであり、剥離面の良質な部分には網目構造はなく光沢がある。母岩であるチャート1は7点が2群を中心に分布しているが、17a、17bは1群と2群の境に出土し、2点間は1.6mである。



第12-4図 第1ブロック出土石器(2)



第12-5図 第1ブロック出土石器(3)

18は剥片と石核の接合資料であり、所々発達した節理面が不規則な剥離痕となっているが、工程終盤には裏面を打面として小型の貝殻状剥片が複数作出される。18aもその一つであり、この前後にも同様の剥離が行われた痕跡が残る。作出された18aには二次加工痕や使用痕はみられない。小豆色のチャート4を母岩とする。2点間は55cmほどであり、ともに2群から出土している。

19は打点周回型の石核と剥片の接合資料であり、18と同じく小型の剥片剥離痕が多数看取されるが、石核側面に残された節理面の高まりを除去しきれておらず、19aの剥離後は有効な剥片作出には至っていない。小豆色のチャート5を母岩とする。ともに2群に属し、2点間は約30cmというごく至近距離での接合である。単設打面、打点周回、小さな饅頭型を呈する同様の資料として、柏市屋敷内遺跡の黒曜石製石核があげられる(千葉県教育委員会にて現在整理中)。なお、接合図は19a、19b 2点の状態を表すにあたって必要最小限を実測するに留めた。

20は石核である。2枚の作業面はともに平坦な自然面を打面とし、切り合わない。このため、面の新旧は不明であるが、①加撃方向が一様である、②縦長の剥片作出を目的とするが、作業途中で寸詰まりの剥片しか得られなくなり作業面に段差が生じる、という2点において共通するため、2面に時間差はほとんどないものと思われる。自然面、剥離面とも青みのある灰色で褐灰色の帯状紋が部分的に入るホルンフェルス2で、握り拳大の自然礫が利用される。

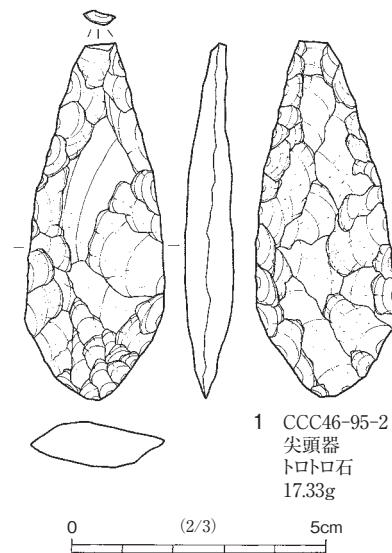
21はホルンフェルス1の接合資料である。原石は大型の円柱状を呈すると考えられる。21aの側面に自然面が帯状に廻ることから、石核器面の荒れを調整する意図があったものと推測される。21aから21bに至る工程間には、少なくとも同一方向から1打以上の剥離行為がある。21bは両側縁が平行で底部付きの縦長剥片であり、長さ77.9mm、長幅比2.04の石刃状である。ホルンフェルス1は3点出土しているが、接合はこの2点のみであり、21aはDDD46-57グリッド杭を中心としたブロックの高密度分布域、21bは21aから東に4.5m離れた分布の疎らな地点に在り、2点間に同一母岩の剥片1点が分布する。形状は縦長で21bと同じ長さであるが接合しない。遺跡外で剥離された剥片3点が持ち込まれたものであろう。

第4節 単独出土石器(第12-1・6図、第12-1~3表、図版38)

CCC46-95グリッドから尖頭器1点が出土した。上記の石器集中域とはおよそ40m離れており、器種、石材、時期に類似する特徴はない。単独資料として報告する。

1は最大長69.3mmで、最大幅・最大厚を下部に持つ尖頭器である。中央に残る素材面から、横長の剥片が利用されたものと推測する。両面は縁辺から丹念に調整されるが、正面上部に捲れたような剥離痕があり、折れ、あるいは刺突の際の衝撃による剥離と思われる。石材には灰白色のトロトロ石が用いられる。形態が近似する県内の資料¹⁾は、木更津市花山遺跡²⁾、同赤坂台遺跡³⁾にみられ、特に赤坂台遺跡の資料は当遺跡出土のものと石材も共通する。いざ

れも旧石器時代から縄文時代草創期への移行期の遺構外、表採、単独資料として報告されている。



第12-6図 単独出土石器

第5節まとめ

細石刃石器群に関わる類例と資料(第12-4表)

八反目台遺跡では旧石器時代終末期に相当する細石刃石器群1か所から100点が確認された。器種は細石刃18点をはじめとして、細石刃石核3点、楔形石器1点、搔器1点、石核4点、剥片類、礫素材の加工具などを組成する。細石刃・細石刃石核(楔形石器を含む)は黒曜石とチャートに二分されるが、石材に関わらず節理や夾雜物のない良質な母岩には打面・器面の調整痕が顕著であり、節理がちな母岩には挟み割りや単純な敲打による剥離作業が行われる傾向にある。

2010年に行なった悉皆調査⁴⁾によれば、県内の細石刃石器群は70か所を数え、下総台地西部分水界での石材の多くは良質な信州産と目される黒曜石であったが、白井市一本桜南遺跡第10文化層第29ブロック、同復山谷遺跡(第1~3次)Aブロック、印西市石頭第2遺跡第4文化層第12ブロック、佐倉市御塚山遺跡第1文化層第8ブロック、同大林遺跡第1文化層第1・4ブロックではチャート、嶺岡産珪質頁岩など、黒曜石以外の石材も用いられていた。特に大林遺跡では細石刃石核及びブロック状の石核の消費過程がみられ、八反目台遺跡や前述の内山遺跡と同様の器種・石材組成、剥離工程が認められる。

注1 岡本東三・田村 隆ほか 2002 『市原市南原遺跡縄文時代草創期石器資料調査報告書』千葉県

2 實川 理ほか 1988 『花山遺跡』(財)君津郡市文化財センター

3 井上 賢 1999 『赤坂台遺跡』(財)君津郡市文化財センター

4 田村 隆・山岡磨由子・川端結花・青山幸重 2010 「房総半島の後期旧石器時代石器群(上)」『千葉県立中央博物館研究報告-人文科学-』第11巻第2号 109-227頁

第12-4表 第1ブロック黒曜石・チャート数量

第1 ブロック	器種 母岩 番号	搔器		楔形石器		二次加工 のある剥片		微細割離痕 のある剥片		細石刃		細石刃石核		剥片		石核		原石		点数合計		点数比 (%)		重量合計 (g)		重量比 (%)	
		点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量		
1群	黒曜石	1								1	0.23					6	9.61					7	9.59	9.84	2.91		
		2		1	10.91											5	9.12					6	8.22	20.03	5.92		
		4								3	0.33					4	0.19					7	9.59	0.52	0.15		
		5								1	0.28											1	1.37	0.28	0.08		
		6														1	0.47					1	1.37	0.47	0.14		
		7								3	0.65											3	4.11	0.65	0.19		
		黒曜石小計		1	10.91					8	1.49					16	19.39					25	34.25	31.79	9.40		
チヤート	チヤート	2								1	0.08											1	1.37	0.08	0.02		
	チヤート	5				1	3.10															1	1.37	3.10	0.92		
	チヤート	チヤート小計				1	3.10			1	0.08										2	2.74	3.18	0.94			
1群合計				1	10.91	1	3.10			9	1.57					16	19.39					27	36.99	34.97	10.34		
2群	黒曜石	1														1	1.32					1	1.37	1.32	0.39		
		2														5	33.44					5	6.85	33.44	9.89		
		3														1	6.80					1	1.37	6.80	2.01		
黒曜石	黒曜石小計															1	6.80	6	34.76			7	9.59	41.56	12.29		
	チヤート	1				1	1.33									6	31.53					7	9.59	32.86	9.72		
	チヤート	2								3	0.44											3	4.11	0.44	0.13		
	チヤート	3								5	1.03	1	5.15								6	8.22	6.18	1.83			
	チヤート	4														1	0.97	1	27.19			2	2.74	28.16	8.33		
	チヤート	5	1	10.19					1	5.66						7	8.89	2	42.69			11	15.07	67.43	19.94		
	チヤート	6														3	9.79	1	48.94			4	5.48	58.73	17.37		
	チヤート	7														1	4.79					1	1.37	4.79	1.42		
	チヤート	9														1	0.10					1	1.37	0.10	0.03		
	チヤート	10																	1	61.18	1	1.37	61.18	18.09			
チヤート小計		1	10.19			1	1.33	1	5.66	8	1.47	2	9.94	18	51.28	4	118.82	1	61.18			36	49.32	259.87	76.84		
2群合計		1	10.19			1	1.33	1	5.66	8	1.47	3	16.74	24	86.04	4	118.82	1	61.18			43	58.90	301.43	89.13		
1・2群外	黒曜石	1														1	0.59					1	1.37	0.59	0.17		
	黒曜石小計	4								1	0.38											1	1.37	0.38	0.11		
	チヤート	8								1	0.38					1	0.59					2	2.74	0.97	0.29		
1・2群出土合計										1	0.38					2	1.40					3	4.11	1.78	0.53		
第1ブロック合計		1	10.19	1	10.91	2	4.43	1	5.66	18	3.42	3	16.74	42	106.83	4	118.82	1	61.18	73	100.00	338.18	100.00				

■ 赤色のチヤート

第13章 館林II遺跡

第1節 遺跡の概要(第13-1・2図、第13-1・2表、図版31)

今回報告する館林II遺跡は、館林遺跡(昭和52・53年、財団法人千葉県文化財センター調査)の東に位置し、矢船II遺跡の北西部と隣接する。現利根川(古常陸川)の北東から入り込む小支谷と北西から入り込む小支谷とに挟まれた台地の幅約250mの痩せ尾根上にあり、標高は17.0m前後である。石器は東側を中心立川ローム層の古い段階からハードローム上面に至るまで、それぞれのブロックで最大1mの標高差をもって出土している。平面分布の広がりは遺跡範囲の外へと期待されたが、東端に接する矢船II遺跡の低位面へは及んでいない。現況では2つの遺跡間の比高は3m～4mほどであり、館林II遺跡は眼下に窪地、あるいは低湿地を臨む高台に立地していたと推測される。遺跡西側の石器集中域は、柏北部東地区、柏北部中央地区、流山新市街地地区のみならず、千葉県北西部全体に広く展開するV層～IV層の石器群のひとつであり、石材の流通や生活圏を繙くうえで貴重な資料が追加された。遺跡東側には東内野型尖頭器との関連が指摘されるIII層の石器群、千田台技法・下総型石刃再生技法を用いた始良丹沢火山灰降下前後の石器群など、興味深い資料が多く出土している。

今回の報告は6次にわたって調査された内容をまとめたもので、確認・本調査範囲と文化層別ブロック位置図は第13-1・2図のとおりである。下層の調査においてはすべての調査区から石器が出土し、平面としてとらえると10か所、時期別の生活面を考慮して分層したところ、5枚の文化層、13か所の石器集中地点が確認された。単独で出土した7点を合わせた館林II遺跡出土総点数は703点である。

以下に各文化層の特徴を記す。

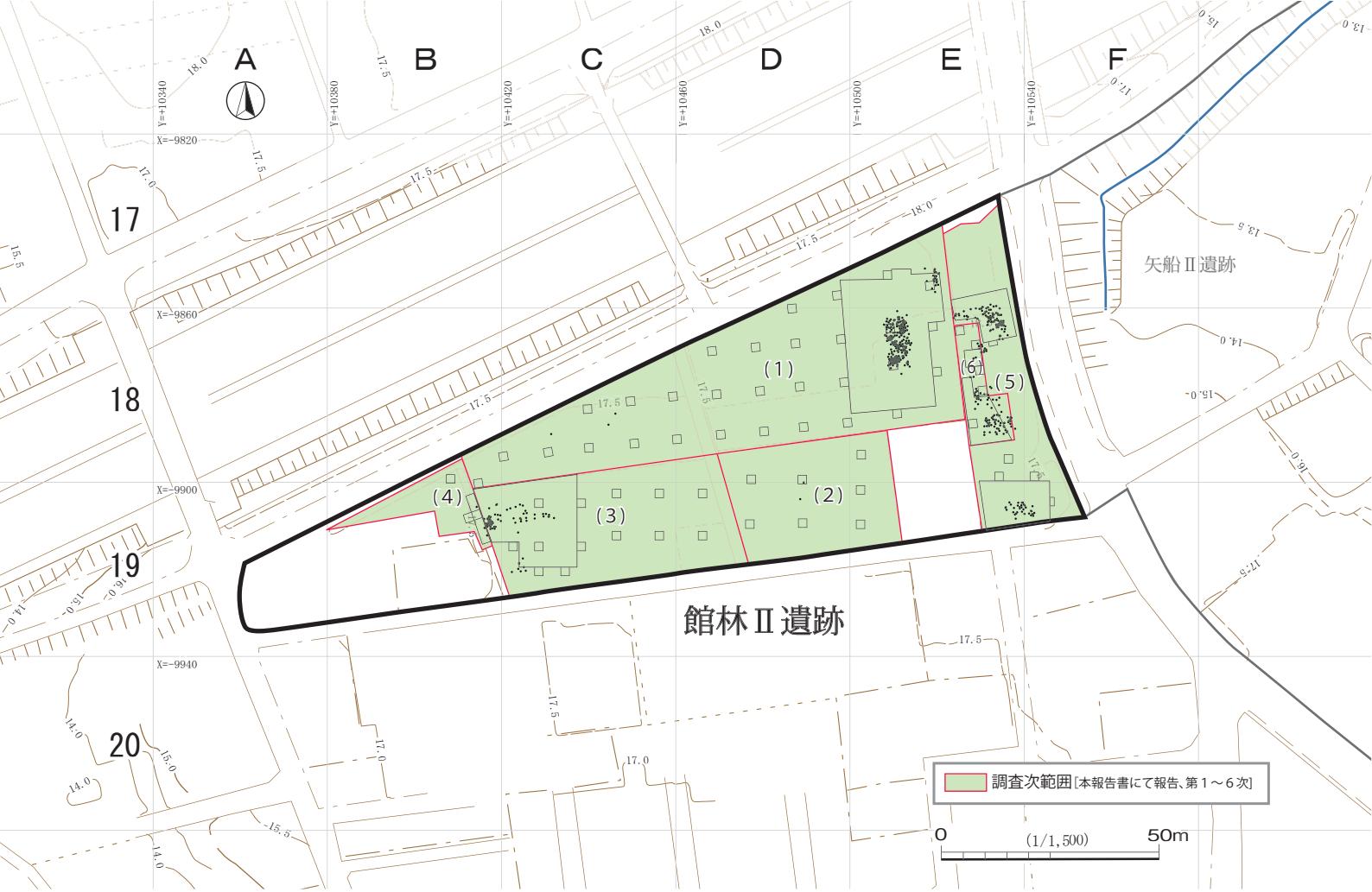
第1文化層 IX層に生活面を持つ。総計152点出土し、第1～4ブロックの4か所の集中地点で構成される。主要石器としてはナイフ形石器のほか、敲石や磨石類、砥石などの加工工具が複数出土している。剥片石器の石材はブロックによって異なり、チャート、玉髓、ガラス質黒色安山岩などがそれぞれ第一石材となる。

第2文化層 VII層に生活面を持つ。礫・礫片20点を含む63点が出土し、第5ブロックのみが該当する。ナイフ形石器や両極からの打撃痕を有する楔形石器、石核がみられる。石材はチャートとガラス質黒色安山岩が主体である。

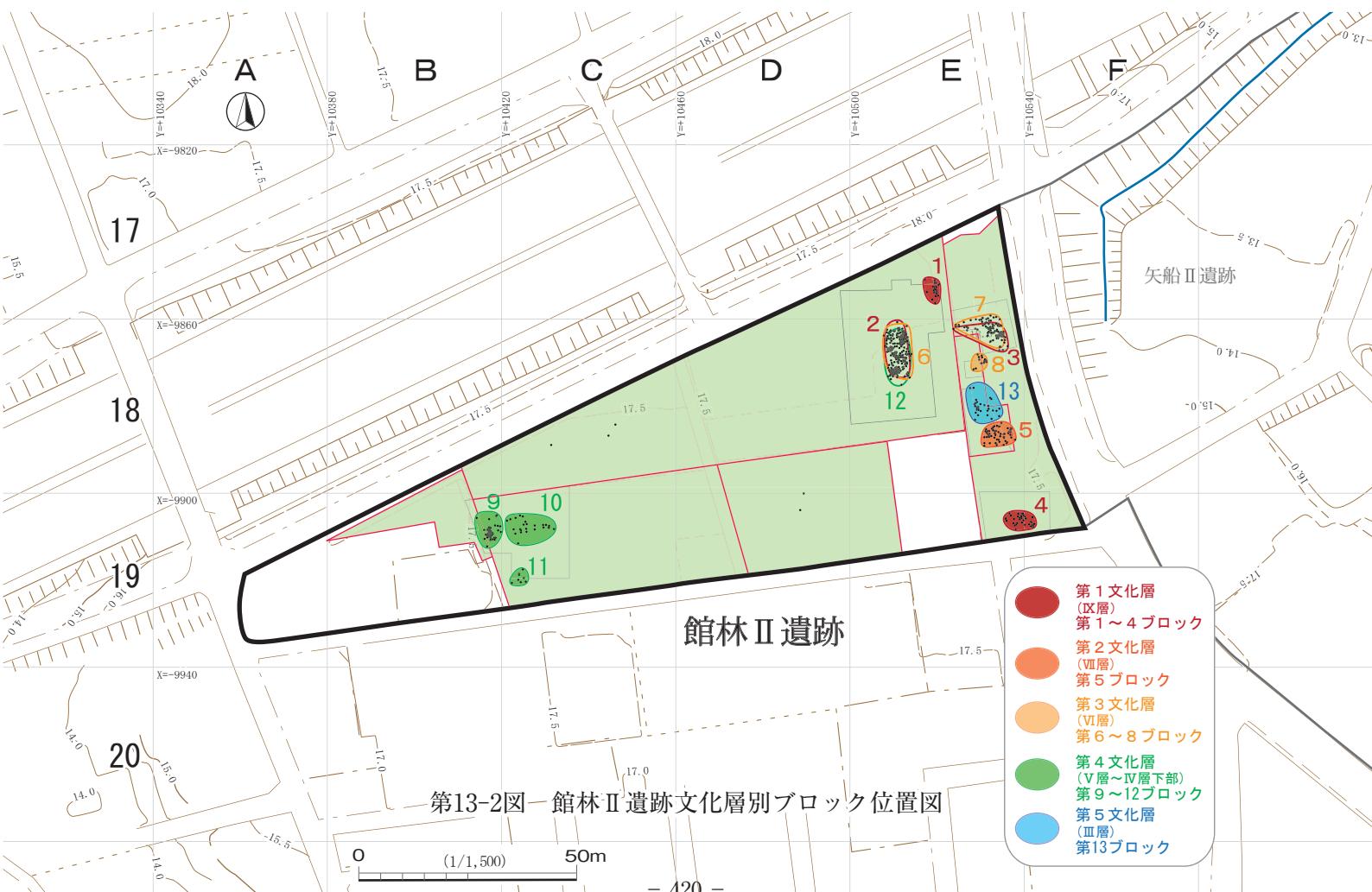
第3文化層 VI層に生活面を持つ。総計245点出土し、第6～8ブロックの3か所の集中地点で構成される。主要石器は石刃を素材としたナイフ形石器、搔器である。石材は透明度が高く夾雜物の少ない黒曜石を主体とするが、珪質頁岩と硬質頁岩がそれぞれ1割ほど混在する。

第4文化層 V層～IV層に生活面を持つ。総計205点出土し、第9～12ブロックの4か所の集中地点で構成される。主要石器は角錐状石器、ナイフ形石器である。石材は黒曜石とチャートを主体とする。当概地域では一般的とされる礫群は検出されなかった。

第5文化層 III層に生活面を持つ。総計31点出土し、第13ブロックのみが該当する。尖頭器やナイフ形石器をはじめ、石器素材が想定される大きさを有する剥片、石核を含む。石材は嶺岡産珪質頁岩を主体とし、チャートや玉髓、黒曜石、珪質頁岩など、ほとんどを珪質な石材が占める。規模の小さいブロックであるが、5石材11母岩を数える。



第13-1図 館林II遺跡調査次別区域と確認・本調査範囲



第13-1表 文化層ブロック別器種組成表

文化層	ブロッカ	尖頭器	角状石器	ナイフ器	削器	搔器	石器	楔形石	有孔石	二次加工のある剥片	微細剥離痕のある剥片	石刃	削片	剥片	碎石	磨石	敲原石	礫	砥石	点数合計	点数比	重量合計	重量比			
1	1									1				16	3	1	1	1	2	1	26	3.70	905.45	12.20		
	2		1							1	2			22(24)	8	1			2	1	38(40)	5.69	140.16	1.89		
	3									1	1	1		14	33	1		1			52	7.40	365.98	4.93		
	4		2							2				17(19)	4			1	2(3)	2	1	31(34)	4.84	1,087.07	14.64	
第1文化層小計			3							3	5	1		69(73)	45	5	1	3	3	4(5)	4	1	147(152)	21.62	2,498.66	33.66
2	5			1						4		1	3(4)			18	12	3			14	6	62(63)	8.96		
第2文化層小計			1							4		1	3(4)			18	12	3			14	6	62(63)	8.96	921.35	12.41
3	6			15	3	1	1	5	3	9	17	3	2	64(66)	24	2	1				3	153(155)	22.05	976.10	13.15	
	7			6		1		2	1	5	4(5)			4	35(38)	6	3		1	1	2	71(75)	10.67	1,275.10	17.18	
	8										3			1	7	2	1			1		15	2.13	289.55	3.90	
第3文化層小計			21	3	2	1	7	4	14	24(25)	3	7	106(111)	32	6	1	1		2	5	239(245)	34.85	2,540.75	34.23		
4	9		4	3			1				1			★22(23)	26	2(3)	1				2	☆62(64)	9.10	365.11	4.92	
	10			3						2	3			15(16)	2							25(26)	3.70	94.98	1.28	
	11									1	1			1					1	4	8	1.14	536.59	7.23		
	9~11単独			1																1	0.14	1.01	0.01			
	12			6						3	1			69	23	1			1	2	106	15.08	256.89	3.46		
第4文化層小計			4	13			1			6	6			107(109)	51	3(4)	1			2	8	202(205)	29.16	1,254.58	16.90	
5	13	1		2							5			14	8	1						31	4.41			
第5文化層小計		1		2							5			14	8	1						31	4.41	161.93	2.18	
単独出土				4										1	1	1					7	1.00	46.28	0.62		
合 計		1	4	44	3	2	2	11	4	24	43(45)	4	7	315(326)	149	9(20)	3	4	3	22(23)	23	1	688(703)	100.00	7,423.55	100.00

※ ()は出土点数
☆ ブロック間(第9ブロック+第10ブロック)で接合した2片で1点の剥片を含む

第13-2表 文化層ブロック別石材組成表

文化層	ブロッカ	ガラス質黒色安山岩	トロット山口	安紋	流石	黒英斑	緑曜	凝灰	砂質	頁岩	珪質	珪質	嶺岡産珪質	硬質	黒色	ホルンフェ	チエ	玉	碧玉	碧玉	点数合計	点数比	重量合計	重量比		
1	1	8	1		2	1	2			1	1		1	9							26	3.70	905.45	12.20		
	2					7										4	16(18)	11			38(40)	5.69	140.16	1.89		
	3	5			1		2	1		1							42				52	7.40	365.98	4.93		
	4	3			2	1(2)				2			5		1	12(13)	4(5)	1			31(34)	4.84	1,087.07	14.64		
第1文化層小計		16	1		12	2(3)	4	1		4	1		6	9	1	12(13)	50(51)	17(19)	11			147(152)	21.62	2,498.66	33.66	
2	5	12		1	12	1	1			3					2	1	29(30)				62(63)	8.96				
第2文化層小計		12		1	12	1	1			3					2	1	29(30)				62(63)	8.96	921.35	12.41		
3	6	1		1	3		76		1	4	2		5		20	6	12	1	11	10(12)	153(155)	22.05	976.10	13.15		
	7	1	2	1	2		27	1(3)		1	6(7)		17(18)	1	1	10					1	71(75)	10.67	1,275.10	17.18	
	8						8	1		1			2					3			15	2.13	289.55	3.90		
第3文化層小計		2	2	2	5		111	2(4)	1	6	8(9)		24(25)	1	21	16	12	1	14	10(12)	1	239(245)	34.85	2,540.75	34.23	
4	9	1					★49(50)						1	5		2(3)	1	1		1	☆62(64)	9.10	365.11	4.92		
	10	9					11(12)		2				2					1			25(26)	3.70	94.98	1.28		
	11						1	1		2			1			1	2				8	1.14	536.59	7.23		
	9~11単独						1														1	0.14	1.01	0.01		
	12						1	5		2			1				97					106	15.08	256.89	3.46	
第4文化層小計		10		1	1		1	67(69)		2	4		1	9		3(4)	1	101		1	202(205)	29.16	1,254.58	16.90		
5	13							1					1	19				6	4			31	4.41			
第5文化層小計								1					1	19				6	4			31	4.41	161.93	2.18	
単独出土		1	1				2										1	1	1			7	1.00	46.28	0.62	
合 計		41	4	4	30	4(5)	186(188)	3(5)	3	17	9(10)	1	40(41)	29	21	22(23)	27(28)	188(190)	36(38)	11	11(13)	1	688(703)	100.00	7,423.55	100.00

※ ()は出土点数
☆ ブロック間(第9ブロック+第10ブロック)で接合した2片で1点の剥片・黒曜石を含む

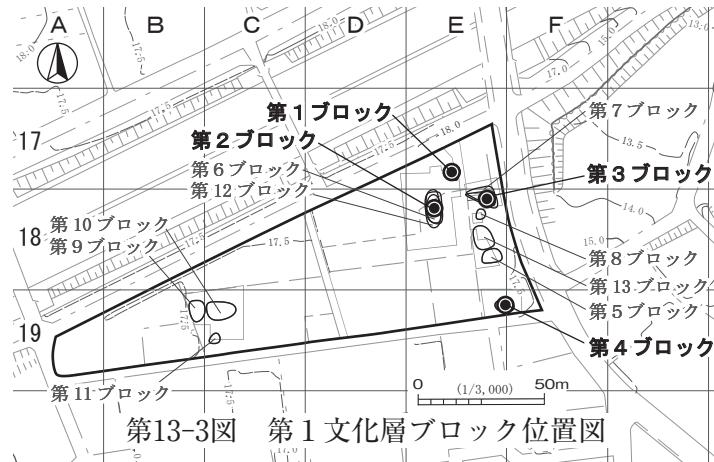
第2節 第1文化層

1 概要(第13-3図、第13-3表)

IX層を主体とする第1文化層では、152点の石器が4か所のブロックで確認された。いずれのブロックも遺跡の東側に所在し、南北65m×東西35mの範囲に立地する。第1～3ブロックはE17・E18グリッド、第4ブロックはこれらのブロックから40mほど南に離れたE19・F19グリッドに立地する。調査前の標高は第1～3ブロック付近では17.0m、第4ブロック付近は17.8mであるが、出土した石器の平均レベルをみると、第1～3ブロックは15.6m、第4ブロックでは16.0mであり、上下の幅は異なるが、古今ともに南側へ向かって高くなる様相を示す。

第1文化層全体の器種組成を第13-3表に示した。ナイフ形石器3点、二次加工のある剥片3点、微細剥離痕のある剥片5点、石刃1点、剥片73点、碎片45点、石核5点、磨石類1点、敲石3点、原石3点、礫・礫片9点、砥石1点である。石材ではチャート51点が1/3を占め、玉髓19点、ガラス質黒色安山岩16点がこれに続く。これらは剥片石器の材料として用いられるが、磨石類、敲石、砥石などの加工工具は流紋岩や砂岩、ホルンフェルス製であり、石材による使い分けが顕著である。少数ながらブロック間で共通する石材がみられるが、接合例がなく、同時に當まれたブロックとは判じ難い。

なお、ブロックごとの器種組成と母岩の個数・重量は、文章での羅列を廃し、組成表で示した。礫・礫片の母岩番号は999とした(第2文化層以下、同様)。



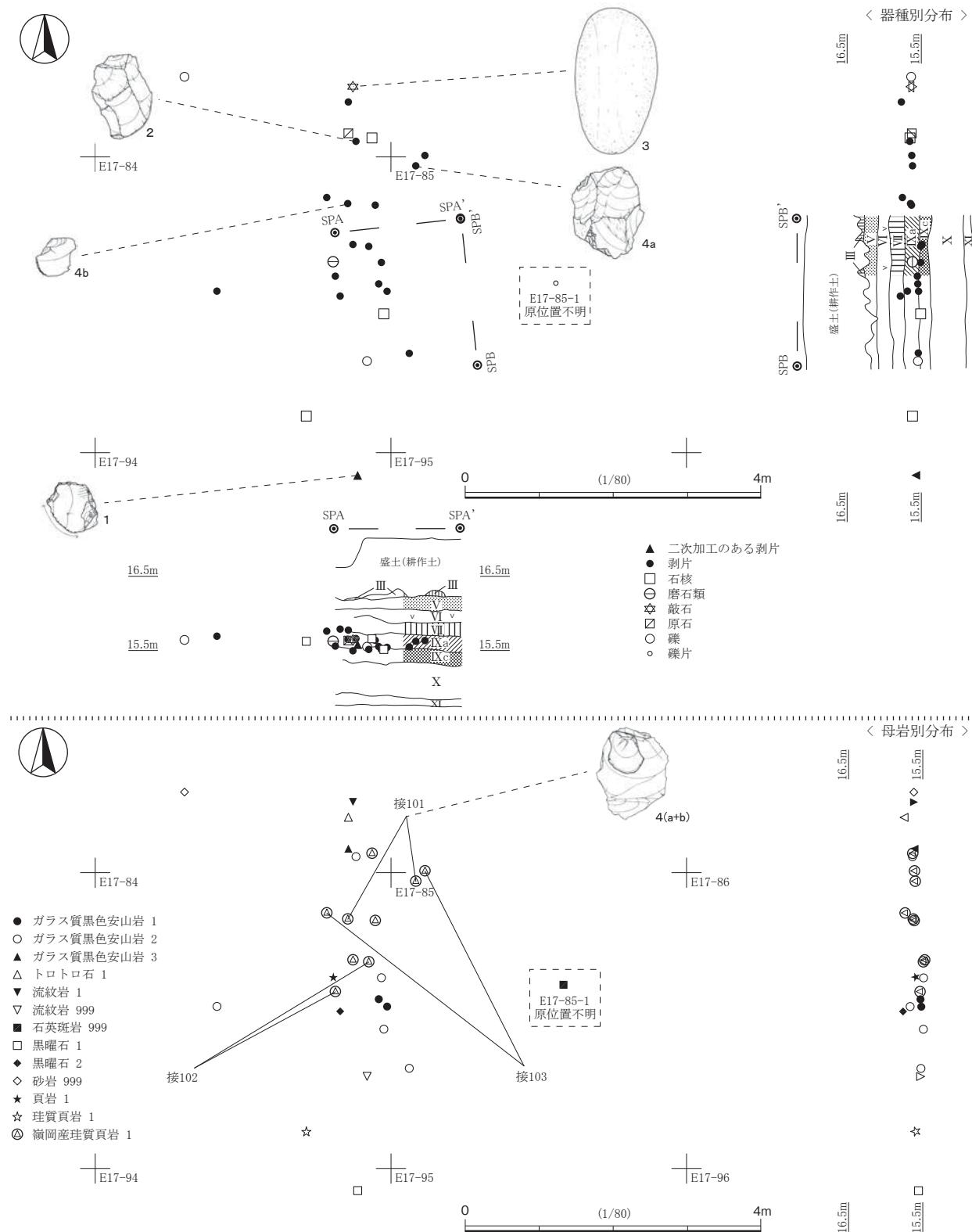
第13-3表 第1文化層ブロック別組成表

ブロック	石材	器種	ナイフ形 石器	二次加工 のある剥片	微細剥離痕 のある剥片	石刃	剥片	碎片	石核	磨石類	敲石	原石	礫	礫片	砥石	点数合計	点数比 (%)	重量合計 (g)	重量比 (%)
1	ガラス質黒色安山岩					6		1			1					8	5.26	155.11	6.21
	トロトロ石						1									1	0.66	7.72	0.31
	流紋岩								1		1					2	1.32	210.10	8.41
	石英斑岩												1		1	0.66	192.66	7.71	
	黒曜石		1				1									2	1.32	2.09	0.08
	砂岩											1			1	0.66	70.03	2.80	
	頁岩								1						1	0.66	72.81	2.91	
	珪質頁岩								1						1	0.66	76.40	3.06	
	嶺岡産珪質頁岩			8		1									9	5.92	118.53	4.74	
第1ブロック小計			1			16	3	1	1	1	2	1			26	17.11	905.45	36.24	
2	流紋岩			1	1	5							1		7	4.61	22.92	0.92	
	チャート			1		2						1			4	2.63	24.05	0.96	
	玉髓				1	9(11)	4	1			1				16(18)	11.84	76.79	3.07	
	碧玉		1			6	4								11	7.24	16.40	0.66	
第2ブロック小計			1	1	2	22(24)	8	1		2		1		38(40)	26.32	140.16	5.61		
3	ガラス質黒色安山岩					1	2	1	1						5	3.29	112.55	4.50	
	流紋岩					1									1	0.66	15.60	0.62	
	黒曜石				1		1								2	1.32	12.24	0.49	
	緑色凝灰岩						1								1	0.66	60.10	2.41	
	砂岩								1						1	0.66	144.31	5.78	
	チャート						11	31							42	27.63	21.18	0.85	
第3ブロック小計			1	1	1	14	33	1		1					52	34.21	365.98	14.65	
4	ガラス質黒色安山岩		1			2									3	1.97	46.25	1.85	
	流紋岩										1	1			2	1.32	283.16	11.33	
	石英斑岩									1(2)					1(2)	1.32	224.73	8.99	
	珪質頁岩					3	2					1			5	3.29	13.65	0.55	
	黒色頁岩			1											1	0.66	11.82	0.47	
	ホルンフェルス				1	8(9)	2								1	12(13)	8.55	343.24	13.74
	チャート		1			3(4)									4(5)	3.29	25.27	1.01	
	玉髓					1									1	0.66	1.60	0.06	
第4ブロック小計			2		2	17(19)	4		1		2(3)	2	1	31(34)	22.37	1,087.07	43.51		
合	計		3	3	5	1	69(73)	45	5	1	3	3	4(5)	4	1	147(152)	100.00	2,498.66	100.00

※ () は出土点数

2 第1ブロック(第13-4・5図、第13-4表、図版31・39)

出土状況 本遺跡の中で最も北側に位置するブロックである。7m四方の標高15.5m～15.8m間に26点が分布する。2点を除き南北の帶状に並ぶ。IXc層からVII層にかけて包含されるが、多くはIXa層からの出土である。比較的近在で入手可能と思われるガラス質黒色安山岩と嶺岡産珪質頁岩を用いた小規模なブロックである。

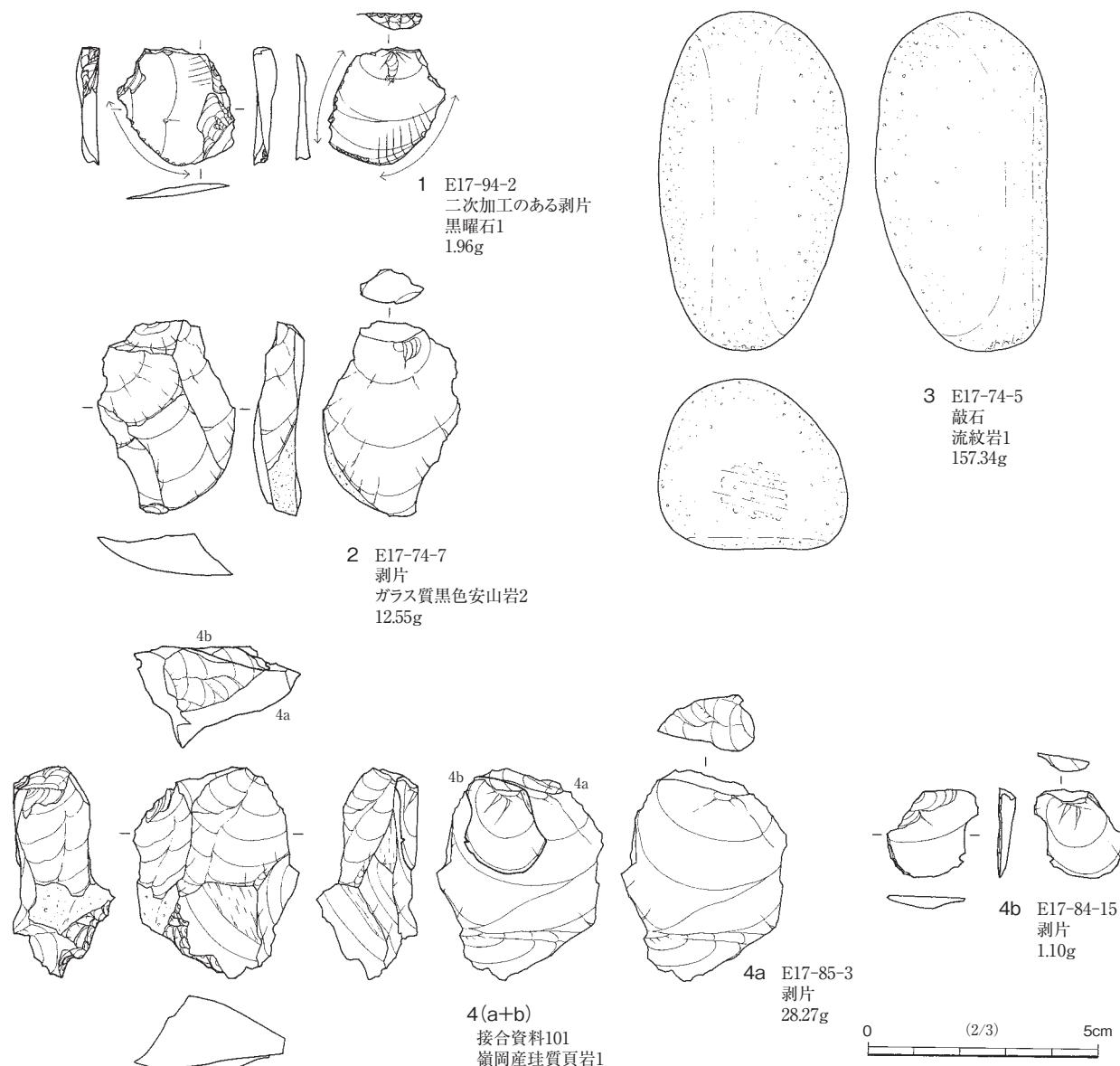


第13-4図 第1文化層第1ブロック遺物分布

クで、千葉県でのIX層石器群としては一般的な在りようである。同様のブロックは白井市復山谷遺跡(第8次)¹⁾石器集中A、流山市市野谷二反田遺跡²⁾第1ブロックがあげられる。

出土遺物 1は二次加工のある剥片である。幅は広いがごく薄く、末端に二次加工、両側縁に刃こぼれ痕がみられる。調整が細かく施された打面から剥離されたもので、刃器として機能していた可能性がある。透明度が高く、夾雜物をほとんど含まない良質な黒曜石製で、ほかに同一母岩の出土はない。

2はガラス質黒色安山岩2を母岩とする剥片である。背面には一方向からの剥離痕が5枚みられる。調整のない平坦打面であり、側面に丸みのある自然面が残ることから、拳大の円礫を素材として礫端片を剥ぎ、打面を作出した後、規格的に剥離作業が行われたことがわかる。ガラス質黒色安山岩2はIXa層から5点出土しているが、接合する資料はない。



第13-5図 第1文化層第1ブロック出土石器

3は流紋岩製の敲石である。長幅比1.80で断面形は隅丸三角形を呈する。裏面は平坦ですわりが良く、微光沢がある。細身の下端部は弱い敲き、もしくは擦りによって摩滅し、ざらざらとした触感がある。裏面(接地面か)を除く器面には赤褐色の変色痕がみられる。第1ブロックの北端部に分布する。

4は剥片2点の接合資料である。4aは器面を調整するための剥片であり、4bが含まれる塊とは別工程の所産である。4aが剥離された後の別塊を石核として4bが剥離されている。両者に二次加工痕や微細剥離痕はみられない。母岩である嶺岡産珪質頁岩1は9点中6点、3個体に接合関係がみられる。

第13-4表 第1文化層第1ブロック組成表

母岩	器種	母岩番号	二次加工のある剥片	剥片	石核	磨石類	敲石	原石	礫	礫片	点数合計	点数比(%)	重量合計(g)	重量比(%)
ガラス質黒色安山岩		1		2							2	7.69	5.61	0.62
		2		4	1						5	19.23	43.70	4.83
		3						1			1	3.85	105.80	11.68
ガラス質黒色安山岩	小計			6	1			1			8	30.77	155.11	17.13
トロトロ石	1			1							1	3.85	7.72	0.85
流紋岩	1						1				1	3.85	157.34	17.38
	999								1		1	3.85	52.76	5.83
流紋岩	小計						1		1		2	7.69	210.10	23.20
石英斑岩	999									1	1	3.85	192.66	21.28
黒曜石	1	1									1	3.85	1.96	0.22
	2		1								1	3.85	0.13	0.01
黒曜石	小計		1	1							2	7.69	2.09	0.23
砂岩	999								1		1	3.85	70.03	7.73
頁岩	1						1				1	3.85	72.81	8.04
珪質頁岩	1				1						1	3.85	76.40	8.44
嶺岡産珪質頁岩	1			8	1						9	34.62	118.53	13.09
合計			1	16	3	1	1	1	2	1	26	100.00	905.45	100.00

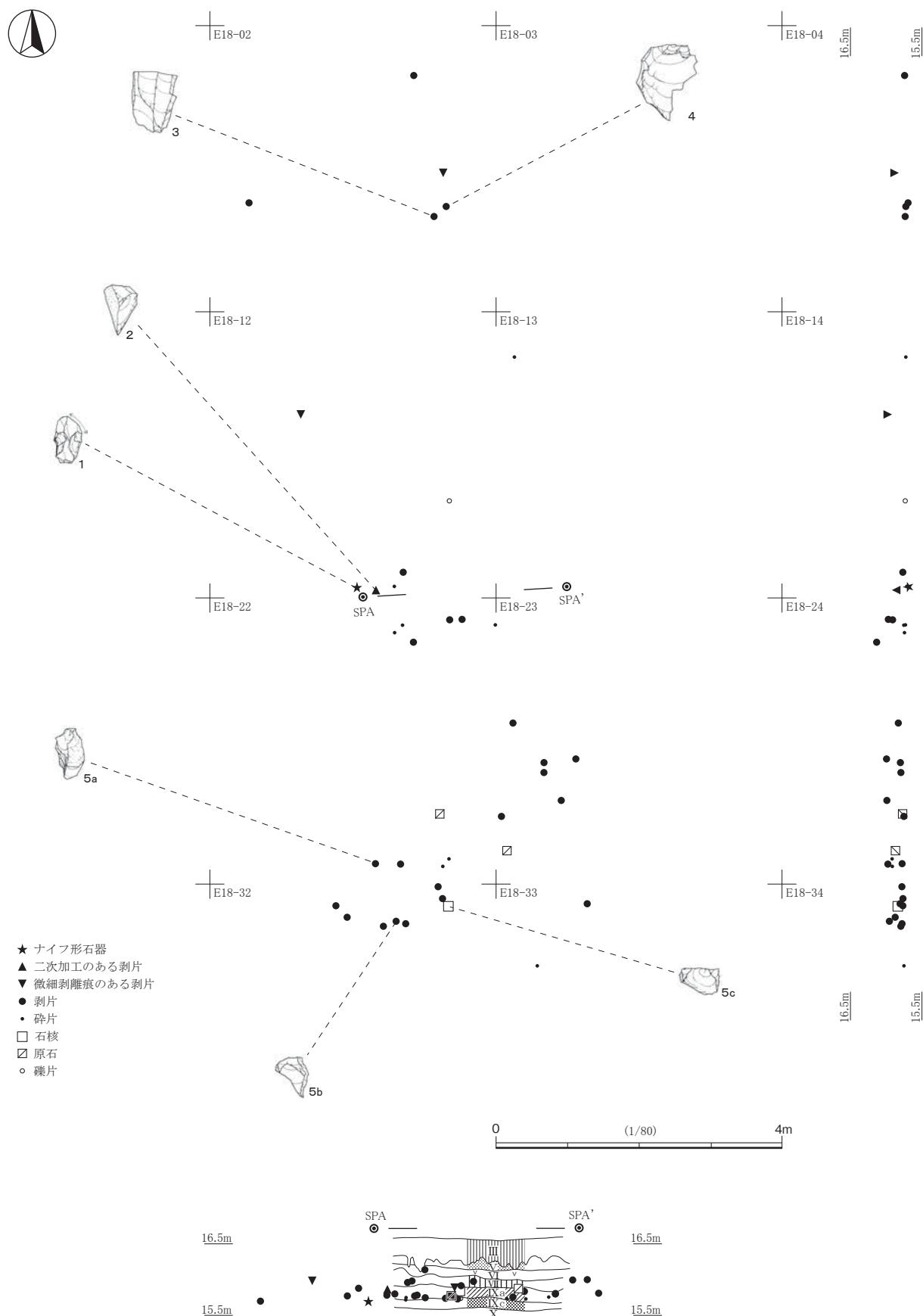
3 第2ブロック(第13-6~8図、第13-5表、図版31・32・39)

出土状況 調査区東部に位置し、E18-02、12・13、22・23、32・33グリッドの南北12.2m×東西4.4mの範囲に40点が分布する。標高15.7m~16.1mの0.4m間に包含され、出土層位はIXc層~VI層であり、IXa層に集中する。最多出土の玉髓1は全17点であり、南側の3.6m²に平均1.57gの小片15点が密集する。次に多い碧玉2種11点は中央の集中域を構成し、流紋岩1の4点は北側に分布する。このように、第2ブロックでは石材ごとにまとまって分布する傾向がある。

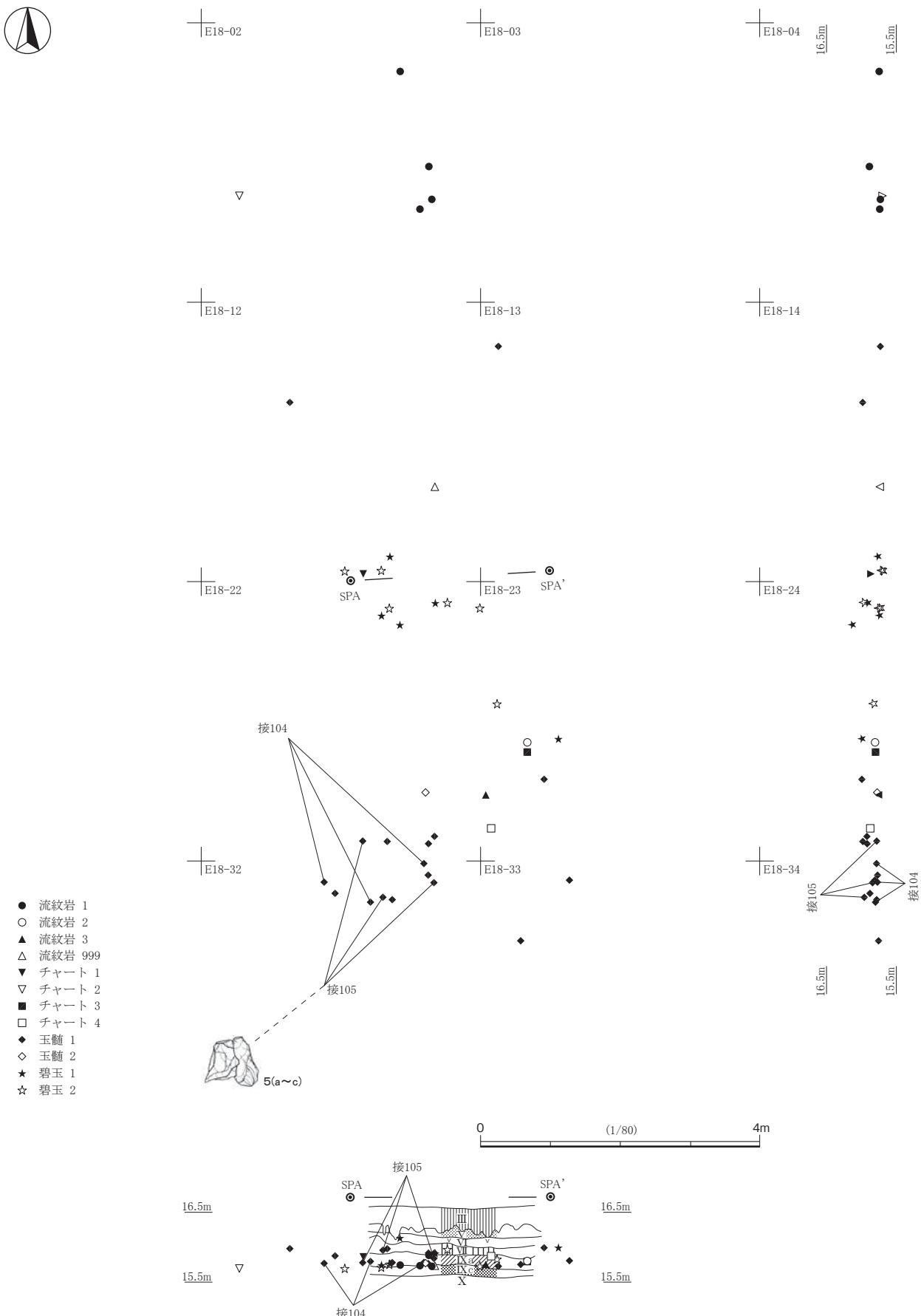
出土遺物 1は横長剥片を素材としたナイフ形石器である。打撃時の衝撃で半円形のコーンができ、主要剥離面全体にうねるような段差が生じている。両側縁から背面側へ向けて、台形様石器にみられるような平坦剥離が施されて器厚が減ぜられるが、左側縁下部にはさらに裏面へ向けて急角度の調整が行われている。上端部欠損、刃部に使用痕が看取される。石材は碧玉2で、群馬県の鏽川流域で産出される碧玉に近似する。剥離面は青みがかった黄褐色を基調とし、赤褐色、濃緑・紺灰色が混じる。印西市泉北側第3遺跡の環状ブロックでも利用された石材である。

2は二次加工のある剥片である。三角錐状で、断面は正三角形に近い。左面に自然面、右面に主要剥離面とし、平坦面を接地させて実測を行った。二次加工は平坦面の上方にみられる。自然面は明黄褐色、剥離面は暗褐色のチャート1が母岩である。中央域から碧玉とともに出土した。

3・4は剥片である。3は両側縁が平行で末端が階段状に収束する剥片下部である。背面には石刃、あるいは縦長剥片を規則的に作出した痕跡が残る。4は打面再生剥片である。左側面に2面、縦長の剥片が剥離された痕跡がある。縁辺は折れて角張る。母岩の流紋岩1は第2ブロックから4点、第3ブロックから1点の計5点が出土した。青みを帯びた灰白色の石基に、ごく微細なガラス質の斑晶が万遍なく入る剥



第13-6図 第1文化層第2ブロック器種別分布



第13-7図 第1文化層第2ブロック母岩別分布

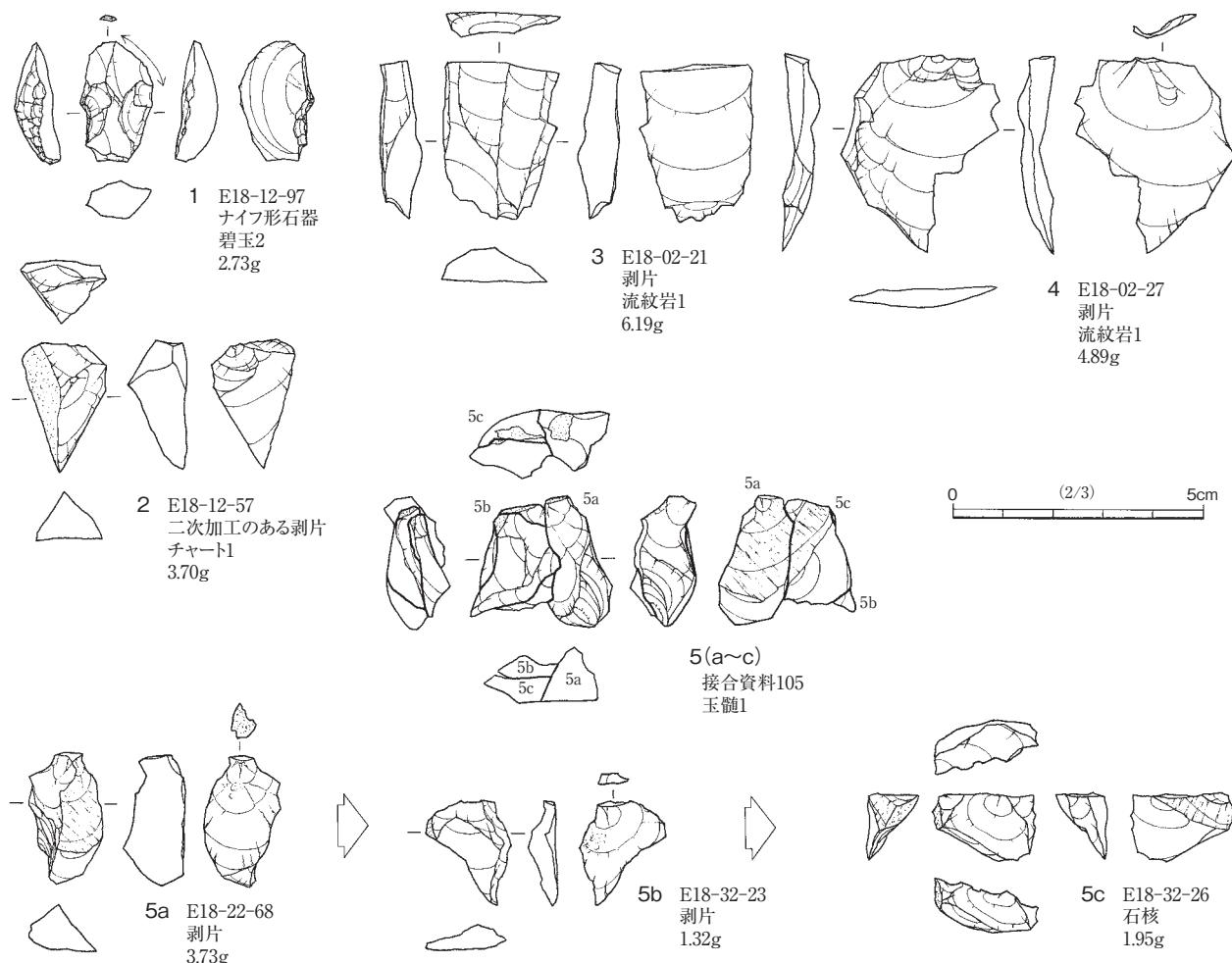
離面である。5点のうち2点は石核の打面を調整する際に剥離された剥片であり、ほか3片は目的的剥片だが、折れや欠損によりブロック内に残されたものと思われる。

5は3点の接合資料である。熱を受けて赤変した玉髓の小片であり、色調が個々に異なる。発達した節理と熱による器質の脆さゆえ、加工痕・使用痕の有無は不明瞭である。剥離順に5a、5b、5cとしたが、一撃による破碎である可能性が高い。濃橙色、黒色、白色の混ざる玉髓1が母岩である。

第13-5表 第1文化層第2ブロック組成表

母岩	器種	母岩番号	ナイフ形石器	二次加工のある剥片	微細剥離痕のある剥片	剥片	碎片	石核	原石	礫片	点数合計	点数比(%)	重量合計(g)	重量比(%)		
流紋岩	1					1	3				4	10.00	17.73	12.65		
	2					1					1	2.50	1.77	1.26		
	3					1					1	2.50	0.25	0.18		
	999									1	1	2.50	3.17	2.26		
流紋岩小計						1	5			1	7	17.50	22.92	16.35		
チャート	1			1							1	2.50	3.70	2.64		
	2					1					1	2.50	1.39	0.99		
	3					1					1	2.50	1.34	0.96		
	4									1	1	2.50	17.62	12.57		
チャート小計						1	2			1	4	10.00	24.05	17.16		
玉髓	1				1	9(11)	4	1			15(17)	42.50	26.69	19.04		
	2										1	2.50	50.10	35.74		
玉髓小計						1	10(12)	4	1		16(18)	45.00	76.79	54.79		
碧玉	1						4	1			5	12.50	5.90	4.21		
	2						2	3			6	15.00	10.50	7.49		
碧玉小計						1	6	4			11	27.50	16.40	11.70		
合計						1	2	22(24)	8	1	2	1	38(40)	100.00	140.16	100.00

※()は出土点数



第13-8図 第1文化層第2ブロック出土石器

4 第3ブロック(第13-9・10図、第13-6表、図版31・39)

出土状況 調査区東側に位置するE18-07・08、18・19グリッドの6.6m×4.4mの範囲に51点、分布の中心から約10m西に1点が出土した。出土層位はIXc層～VI層であり、石器は標高15.2m～15.7mの0.5m間に包含される。投影図ではIXc層に多く分布するようにみえるが、土層断面を実測した位置と石器の集中域が若干ずれて深めに投影されている。29点がIXa層から出土した、との調査時の所見や写真を検討した結果、第1・2ブロックと同じく、IX層上部に生活面を持つ石器群と判断した。剥片・碎片が90%であり、特にチャートの碎片が狭い範囲に濃密に分布する。主要石器はこの集中域の外側から出土している。

出土遺物 1は石刃である。長幅比は2.62で、中央部付近で最大幅となった後、右側縁が逆「く」の字状に角度を変え、先端に向かって収束する。左側面上方にシリガラス状の自然面が帶状に残るが、背面を構成する剥離面5枚は主要剥離面と同一方向である。打面は背面側からの細かな調整によって小さな山型に形成される。両側縁には刃こぼれがみられるが、縁辺の薄さと石材の脆さも相まってか、左側縁下部が鋸歯縁状となっている。石材は、赤みを帯びた透明な部分と太さの不均一な黒色縞状の部分が層状となった良質な黒曜石であり、ほかに同一母岩はない。

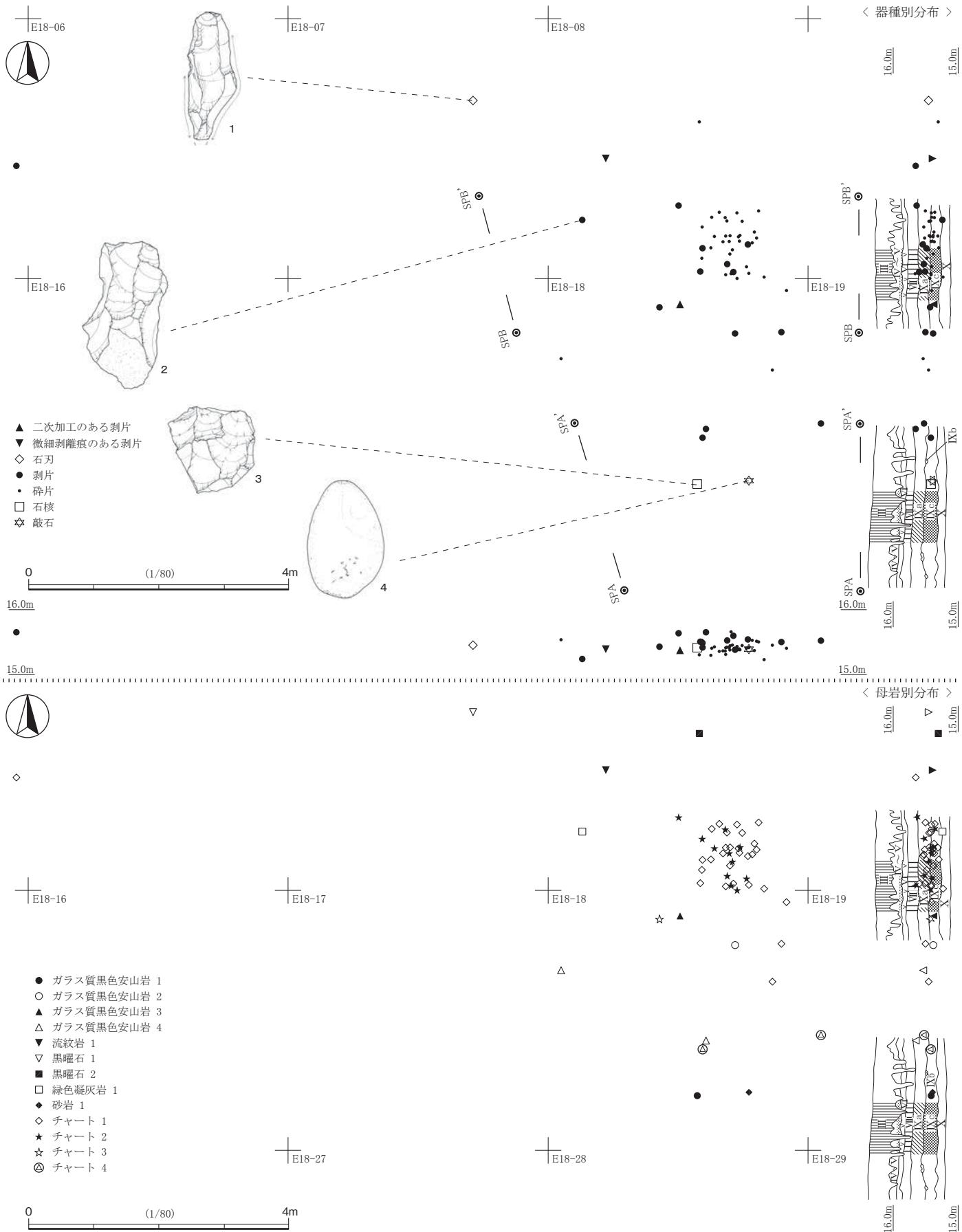
2は長幅比1.77の大型の剥片である。打面調整はなく、背面は多方向の剥離痕がみられる。背面下部に残る平坦な自然面から、小児の頭ほどの大さを持った原石が想定される、粗粒の緑色凝灰岩製である。1・2ともほぼ完形の状態でブロック内に持ち込まれたものである。

3は打面と作業面が頻繁に置換する石核である。左右側面と裏面に長さ3cm～4cmほどの剥片を複数剥離した痕跡が残るが、工程終末期には力が末端まで到達せず階段状となる。上面には打面調整痕、両極剥離痕がみられる。自然面はなく、推測される原石の大さは拳大ほどであろう。黒色～濃褐灰色で、無色透明の斑晶に入るガラス質黒色安山岩1が母岩である。

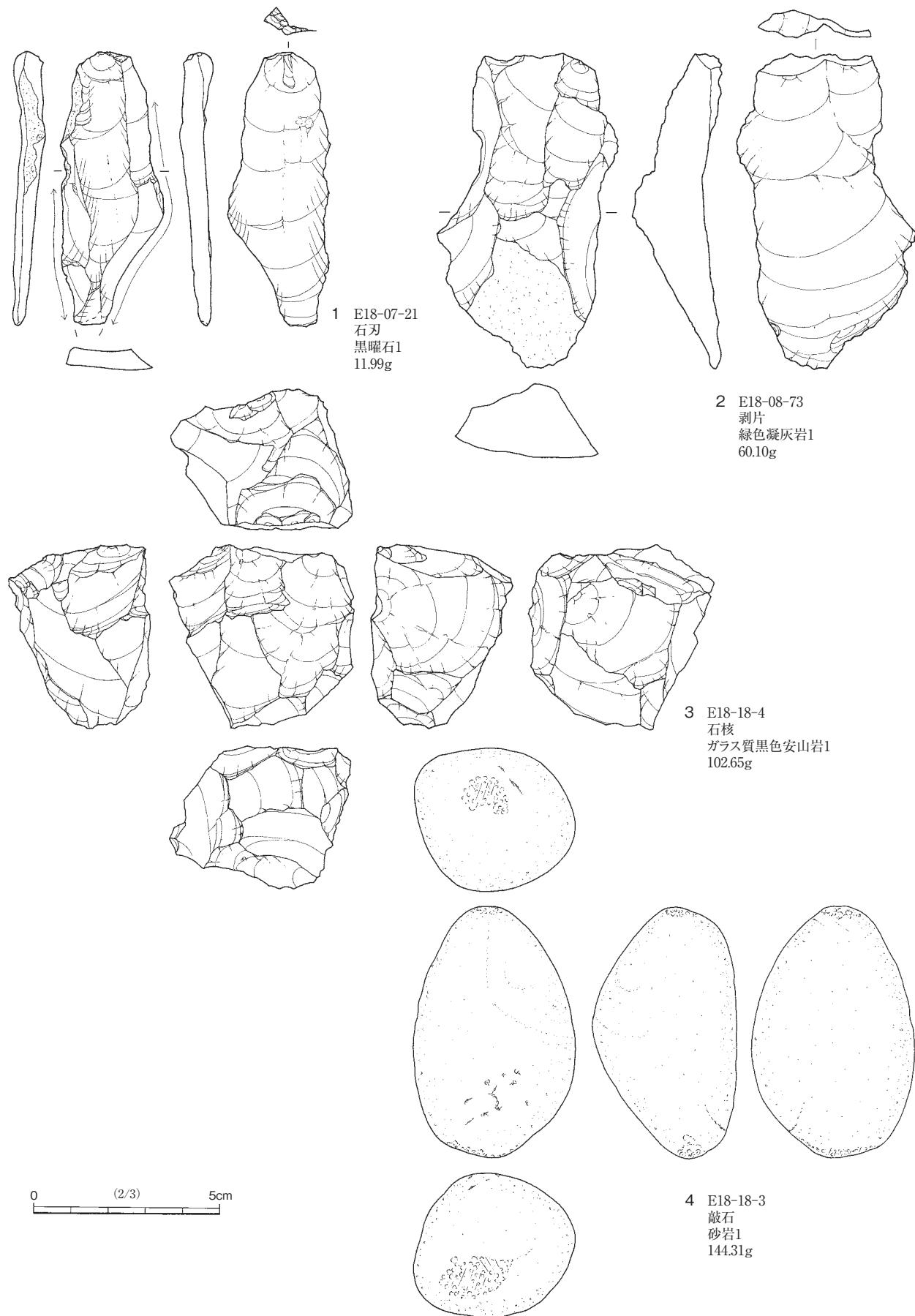
4は敲石である。鶏卵大で、長幅比は1.52である。両端部に敲打痕と擦り痕がみられ、器面が平らに変形している。両端部以外は光沢のある自然面である。第3ブロックの南端から出土しており、0.8m西方には3の石核が分布する。

第13-6表 第1文化層第3ブロック組成表

母岩	器種 番号	母岩 番号	二次加工の ある剥片	微細剥離痕 のある剥片	石刃	剥片	碎片	石核	敲石	点数合計	点数比 (%)	重量合計 (g)	重量比 (%)
ガラス質黒色安山岩	1							1		1	1.92	102.65	28.05
	2				1					1	1.92	3.93	1.07
	3	1								1	1.92	4.40	1.20
	4				1	1				2	3.85	1.57	0.43
ガラス質黒色安山岩 小計		1			2	1	1			5	9.62	112.55	30.75
流紋岩	1		1							1	1.92	15.60	4.26
黒曜石	1			1						1	1.92	11.99	3.28
	2						1			1	1.92	0.25	0.07
黒曜石 小計				1		1				2	3.85	12.24	3.34
緑色凝灰岩	1				1					1	1.92	60.10	16.42
砂岩	1								1	1	1.92	144.31	39.43
チャート	1				6	22				28	53.85	9.30	2.54
	2				2	9				11	21.15	6.61	1.81
	3				1					1	1.92	3.05	0.83
	4				2					2	3.85	2.22	0.61
チャート 小計					11	31				42	80.77	21.18	5.79
合 計		1	1	1	14	33	1	1	1	52	100.00	365.98	100.00



第13-9図 第1文化層第3ブロック遺物分布



第13-10図 第1文化層第3ブロック出土石器

5 第4ブロック(第13-11・12図、第13-7表、図版31・39)

出土状況 調査区南東端のE19-19、F19-10グリッドを中心とした東西7.4m×南北4.4mの範囲に、石器、礫・礫片34点が分布する。これらは標高15.8m～16.3m間のIXc層～VI層に包含され、IXa層に集中する。平面分布に疎密ではなく、剥片類は中央部に、礫・礫片や砥石、敲石は外縁部に分布する傾向がみられる。

出土遺物 剥片石器類の石材は、点数順にホルンフェルス13点、チャート・珪質頁岩各5点、ガラス質黒色安山岩3点、黒色頁岩・玉髓各1点であり、礫素材の加工工具類には砂岩やホルンフェルスが用いられる。剥片類と加工工具には共通してホルンフェルスが利用され、汎用性の高さがうかがわれる。

1・2はナイフ形石器である。1は長幅比2.10以上の縦長剥片が素材で、片側に72°～80°の加工が施される。この加工は下部では成形のみ行われるが、上部ほど急角度に調整され、上端部に至っては直角近くにまで整形されたうえ、さらに磨耗痕が認められる。角張った黒色の斑晶が入るガラス質黒色安山岩1が母岩である。2は両極剥離された縦長剥片が素材である。明確な基部加工はないが、下端部は背面側から急角度に加撃され、丸みを帯びる。左側縁に著しい刃こぼれがみられる。青みがかった灰色で縁辺に透明感のあるチャート1が母岩である。

3は微細剥離痕のある剥片である。原礫面を打面とし、打面以外の縁辺に微細剥離痕が廻り、右側面上部は軽く抉入する。青みある灰白色の黒色頁岩1を母岩とする。

4は上半部が欠損した砂岩製の敲石である。端部裏面に敲打痕、右側縁にごく弱い剥落痕がみられる。外側は濃灰色、内側は褐色を帯びた灰色で、被熱により脆弱化している。

5はホルンフェルス製の砥石である。丸みのある長方体が袈裟懸けに半截され、その際に現れた面を砥石機能面として使用している。機能面には微光沢があり、縦方向の磨耗痕がみられる。自然面に点状紋と同心円状の凹凸があり、ざらざらとした質感である。流紋岩の楕円礫とともに出土した。

注1 山岡磨由子 2012『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書27-白井市復山谷遺跡(6次～8次)(下層)』

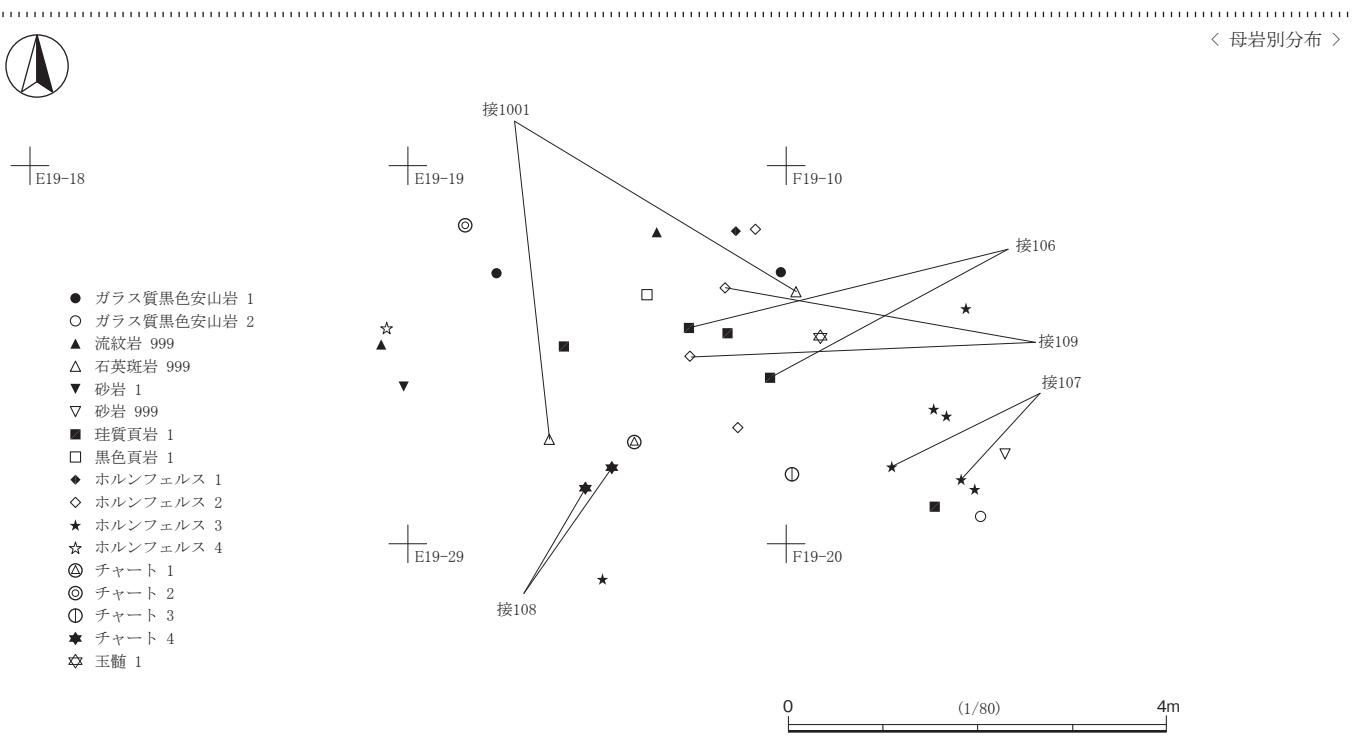
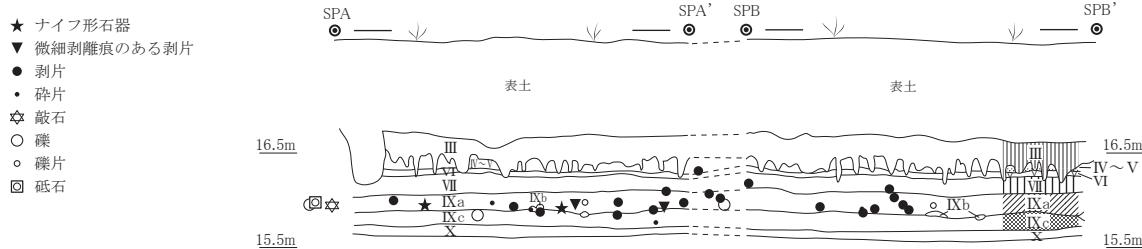
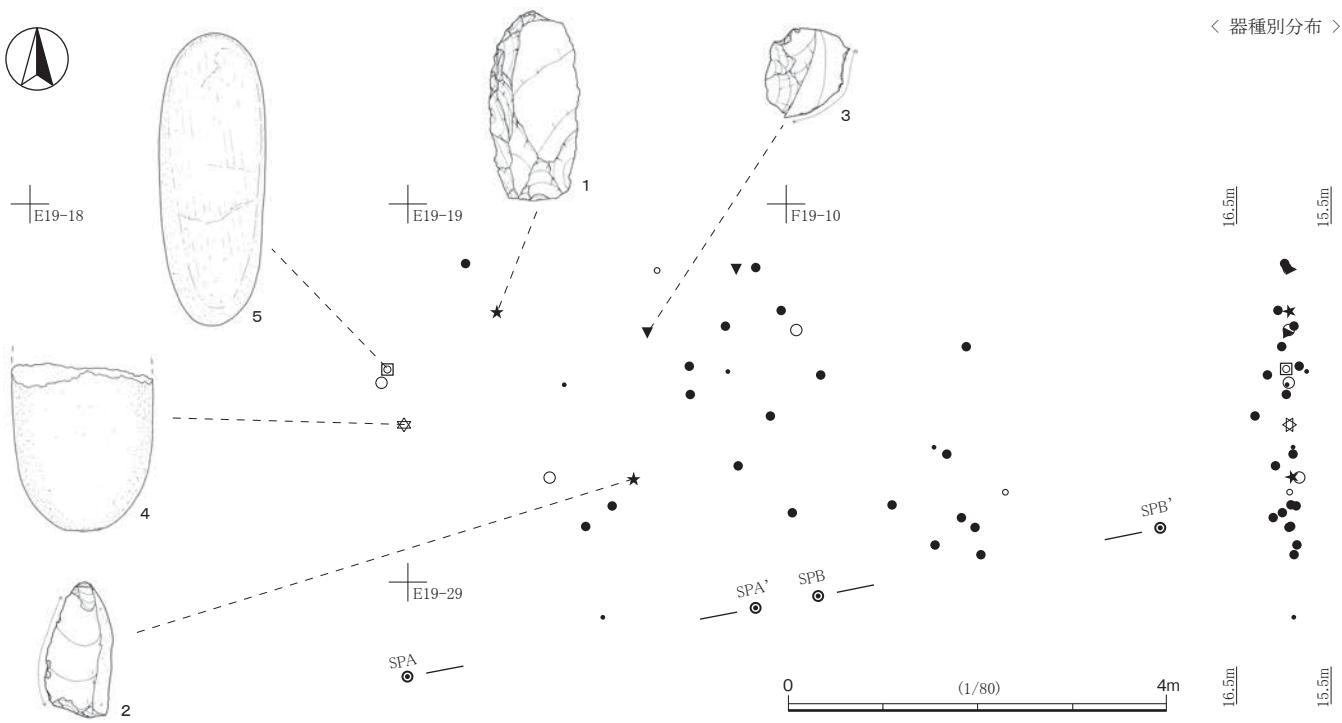
(公財)千葉県教育振興財団

2 山岡磨由子 2009『流山新市街地地区埋蔵文化財調査報告書4-流山市市野谷二反田遺跡-』(財)千葉県教育振興財団

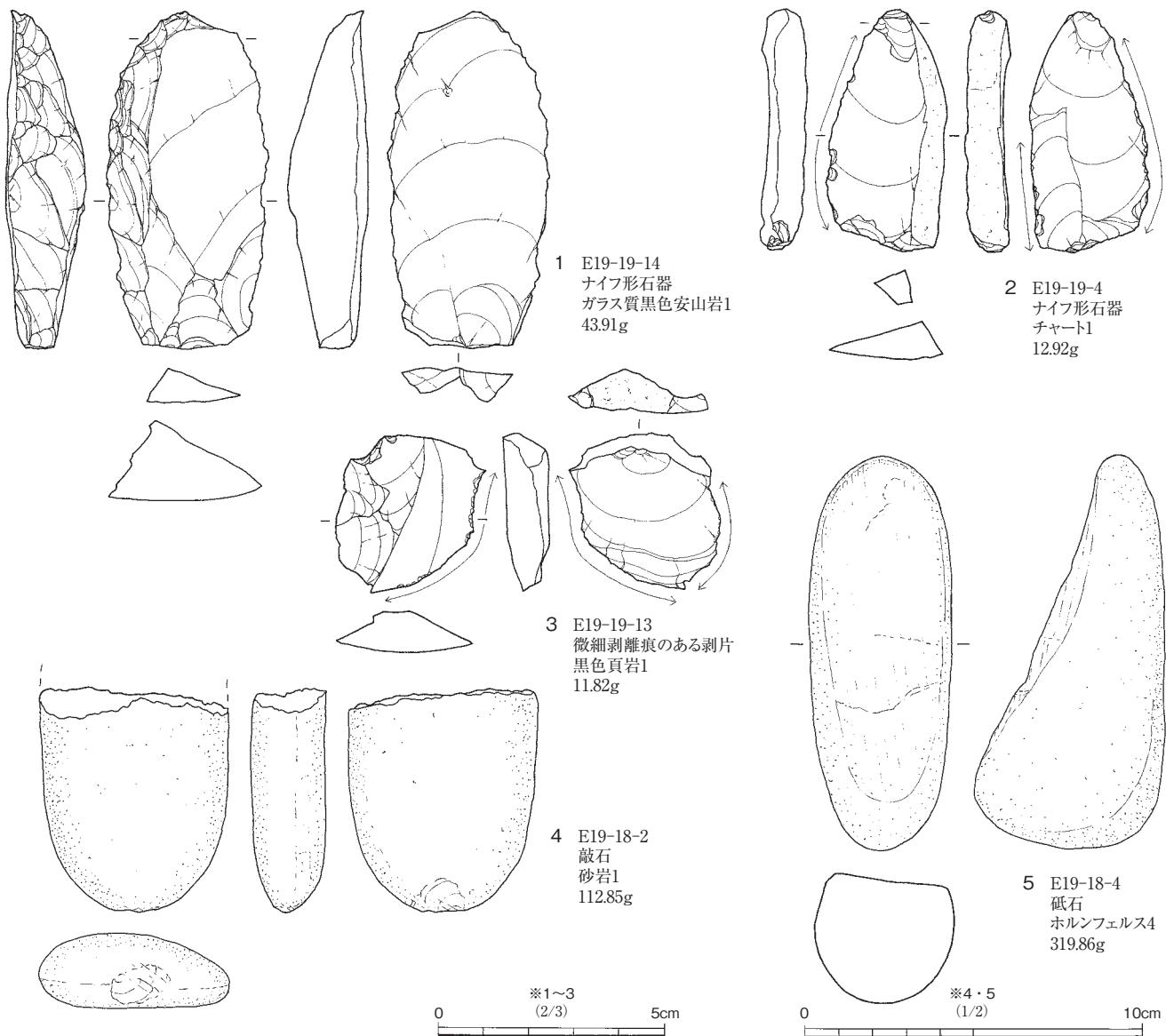
第13-7表 第1文化層第4ブロック組成表

母岩 番号	器種	母岩 番号	ナイフ形 石器	微細剥離痕 のある剥片	剥片	碎片	敲石	礫	礫片	砥石	点数合計	点数比 (%)	重量合計 (g)	重量比 (%)
ガラス質黒色安山岩	1	1			1						2	5.88	45.43	4.18
	2				1						1	2.94	0.82	0.08
ガラス質黒色安山岩	小計		1		2						3	8.82	46.25	4.25
流紋岩	999										1	5.88	283.16	26.05
石英斑岩	999										1(2)	5.88	224.73	20.67
砂岩	1					1					1	2.94	112.85	10.38
	999								1		1	2.94	24.50	2.25
砂岩	小計					1			1		2	5.88	137.35	12.63
珪質頁岩	1			3	2						5	14.71	13.65	1.26
黒色頁岩	1			1							1	2.94	11.82	1.09
ホルンフェルス	1			1							1	2.94	7.95	0.73
	2			3(4)							3(4)	11.76	10.11	0.93
	3			5	2						7	20.59	5.32	0.49
	4									1	1	2.94	319.86	29.42
ホルンフェルス	小計			1	8(9)	2				1	12(13)	38.24	343.24	31.57
チャート	1		1								1	2.94	12.92	1.19
	2				1						1	2.94	1.25	0.11
	3				1						1	2.94	7.85	0.72
	4				1(2)						1(2)	5.88	3.25	0.30
チャート	小計		1		3(4)						4(5)	14.71	25.27	2.32
玉髓	1				1						1	2.94	1.60	0.15
合計		2	2	17(19)	4	1	2(3)	2	1	31(34)	100.00	1,087.07	100.00	

※()は出土点数



第13-11図 第1文化層第4ブロック遺物分布



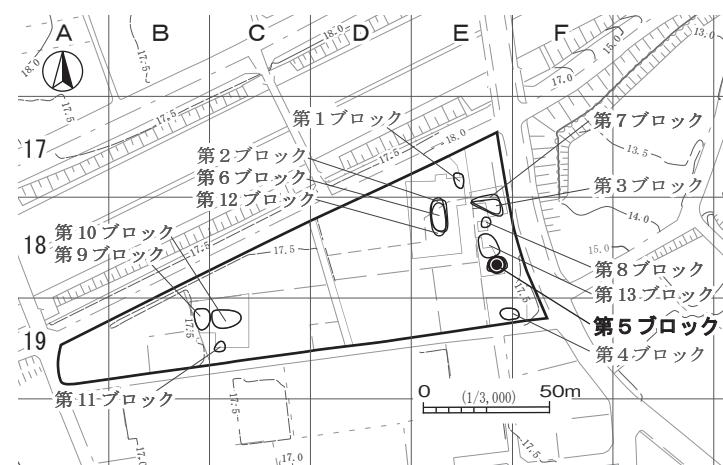
第13-12図 第1文化層第4ブロック出土石器

第3節 第2文化層

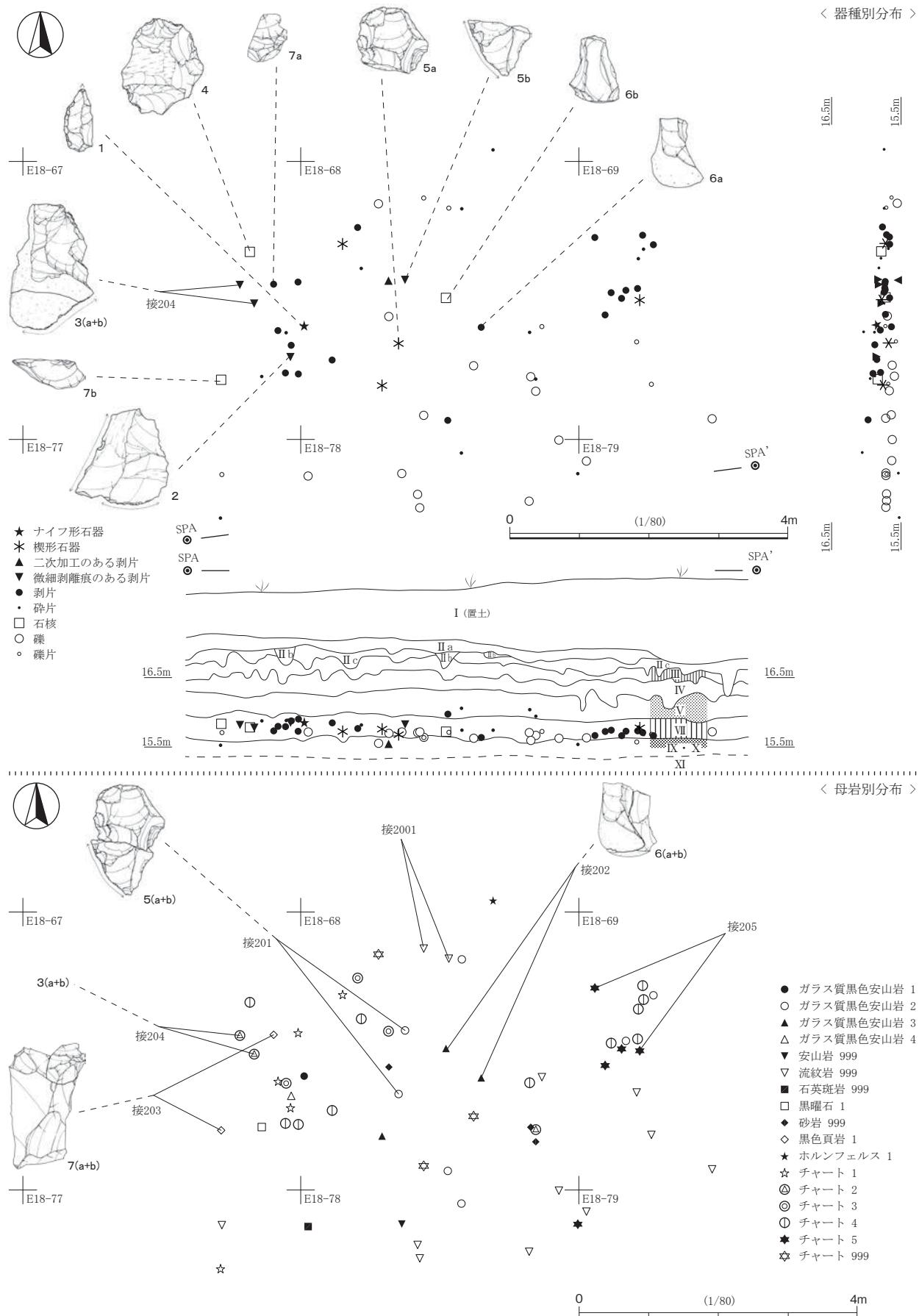
1 概要(第13-13図)

第2文化層は立川ローム層Ⅶ層に生活面を持つ石器群であり、調査区東側の第5ブロック1か所が該当する。IX層～Ⅲ層の石器群が集中する台地縁辺部にあり、北側にⅢ層の石器群、第13ブロックが近接する。

第5ブロック内の土層は西側では概ね安定した堆積状況であるが、東に向かって下降気味であり、南東端ではⅡb層以上は確認されない。中～大型の剥片・石刃が石器の素材、あるいは石核として持ち込まれている。



第13-13図 第2文化層ブロック位置図



第13-14図 第2文化層第5ブロック遺物分布

2 第5ブロック(第13-14~16図、第13-8表、図版31・40)

出土状況 調査区東部のE18-68グリッドを中心とした長径7.6m、短径6.0mの範囲に万遍なく分布する。疎密はみられないが石器類は北側に、礫・礫片は南側に分布する傾向がある。これら63点は標高15.5m~16.1mの0.6m間にあり、調査時の所見、垂直分布への石器投影とも、Ⅶ層に包含される。

出土遺物 剥片石器類43点、礫・礫片20点である。石器類の石材にはチャートやガラス質黒色安山岩、黒色頁岩、黒曜石、ホルンフェルスが用いられるが、分布域同様、剥片石器類と礫・礫片の石材はチャートを除いてはっきりと区別されている。礫類は褐色に変色した6cm未満のものが多く、大型の礫や敲石類を検出した矢船Ⅰ遺跡、矢船Ⅱ遺跡のⅦ層の石器群とは趣が異なる。

第5ブロック出土の剥片類は概ね大型で加工が粗い。器種に楔形石器が4点あるが、一端を固定して加撃された石核、あるいは剥片ともとらえられるため、明確な加工のある5aを代表して図化した。チャートは5母岩27点確認できた。いずれも透明度が低く泥岩質であり、節理が発達する。

1は、縦長剥片を素材とした一側縁加工のナイフ形石器である。基部側に素材打面が線状に残る。先端部はわずかに欠損する。ガラス質黒色安山岩1を母岩とし、1点のみの出土である。

2・3は微細剥離痕のある剥片であり、弧状の末端縁辺と直線状の側縁を持つ。弧と直線の切り替わる部位は尖鋭であり、刺突具としての機能が推測できる。2は単設打面から剥離された末端縁の広い剥片であり、打面以外の全周に微細な剥離痕がみられる。黒色で灰白色筋の入る不透明なチャート1が母岩である。3は大型の原石から粗割りされた大ぶりの剥片で、微細剥離痕は下縁辺に廻る。母岩はチャート2で、剥離面は不透明な濃灰色、自然面・節理面は灰白色である。

4は、自然面を打面とした平坦剥離と棒状の打撃具による縁辺の凹凸が観察される石核で、正裏両面に小型縦長の剥離痕を残す。チャート4を母岩とし、11点を数える。当資料のほかは剥片と碎片である。

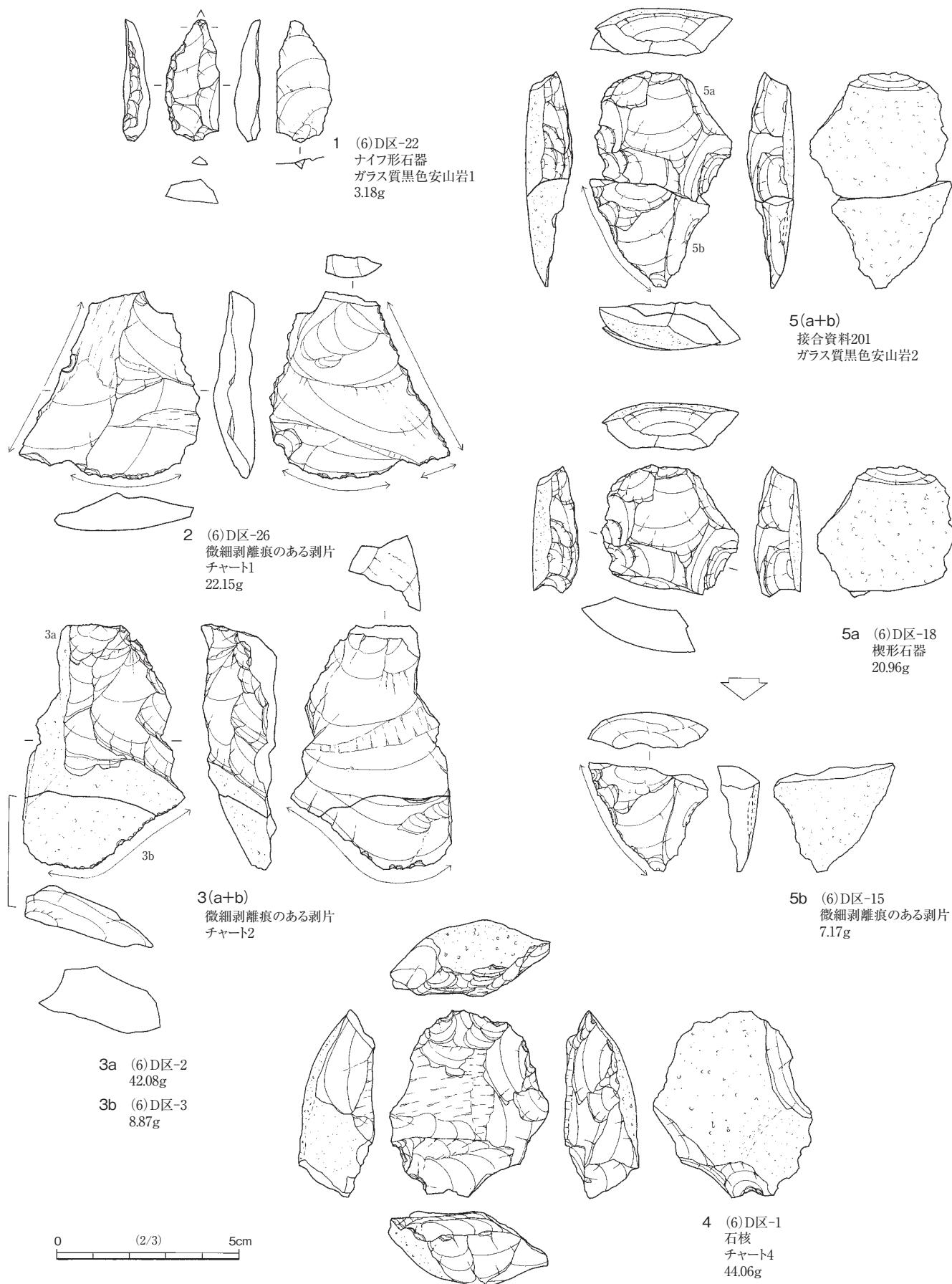
5~7は接合資料である。5は楔形石器と微細剥離痕のある剥片の接合資料で、2点の距離は約1mである。裏面は緩やかなカーブを描く自然面で、原石は直径10cm以上と思われる。縁辺を刃器として利用した後、折れた上部5aの周縁から剥片作出を試みた可能性がある。自然面、剥離面ともに褐灰色で、黒い玻璃質の斑晶を微量に含むガラス質黒色安山岩2が母岩である。

6は剥片と石核が接合した。6aは線状、6bは複剥離打面であるが、同じ打面から連続して剥離されている。6aの剥離の際、打面部が地すべり状に剥落し、打面付近は斜めに減厚される。6bは両側面から器厚を削ぐように剥離され、側湾する。母岩であるガラス質黒色安山岩3はこのほかに、両極剥離された楔形石器1点が出土している。

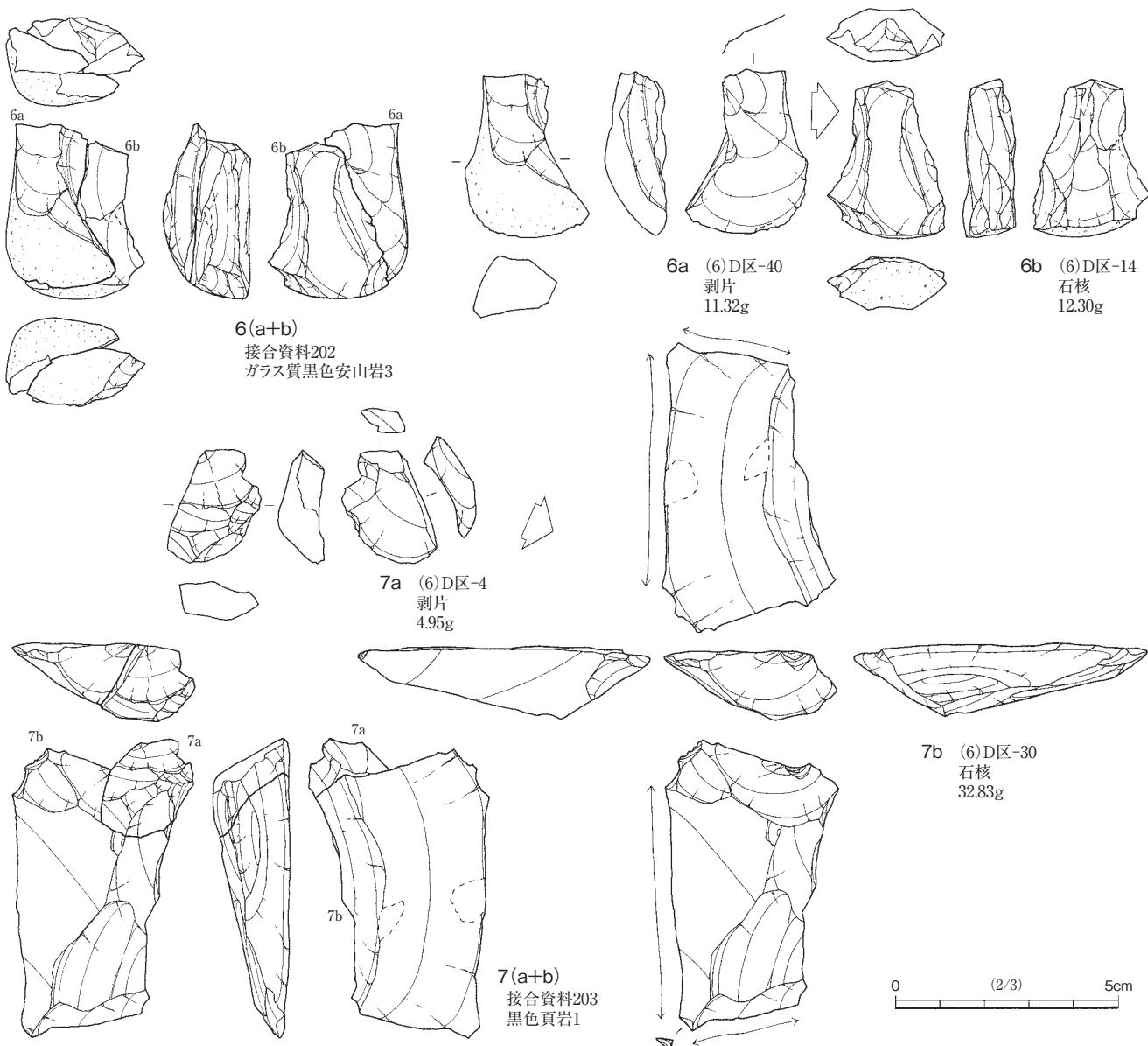
7は大型板状の剥片石核と、その端部から剥離された剥片1点が接合した。長方体に整えられた板状の石核から刺身を削ぐように、横長剥片を作出する工程がみられる。打面に設定されているのは素材の主要剥離面であり、7aに残る背面情報に、この作業の前にも同じような剥離が行われた痕跡が残されている。7bの直線状の二側縁に微細剥離痕が連なるが、加工により寸断される。大型の刃器が石核に転用された資料である。母岩の黒色頁岩1は、第5ブロックではこの2点のみの出土である。群馬県みなかみ町の利根川上流域、赤谷川に供給される黒色頁岩と同じ特徴を持つ¹⁾。

注1 山岡磨由子・田村 隆 2009「後期旧石器時代南関東における赤谷層産黒色頁岩の使用状況について」

『千葉県立中央博物館研究報告-人文科学-』第11巻第1号



第13-15図 第2文化層第5ブロック出土石器(1)



第13-16図 第2文化層第5ブロック出土石器(2)

第13-8表 第2文化層第5ブロック組成表

器種 母岩 番号	母岩	ナイフ形石器	楔形石器	二次加工の ある剥片	微細剥離痕 のある剥片	剥片	碎片	石核	礫	礫片	点数合計	点数比 (%)	重量合計 (g)	重量比 (%)
ガラス質黑色安山岩	1	1									1	1.59	3.18	0.35
	2		1		1	3	2				7	11.11	33.96	3.69
	3		1			1		1			3	4.76	35.64	3.87
	4					1					1	1.59	9.24	1.00
ガラス質黑色安山岩小計		1	2		1	5	2	1			12	19.05	82.02	8.90
安山岩	999								1		1	1.59	37.56	4.08
流紋岩	999								6	6	12	19.05	292.52	31.75
石英斑岩	999								1		1	1.59	43.03	4.67
黒曜石	1						1				1	1.59	0.12	0.01
砂岩	999								3		3	4.76	66.01	7.16
黒色頁岩	1					1		1			2	3.17	37.78	4.10
ホルンフェルス	1										1	1.59	0.43	0.05
チヤート	1		1		1	2	1				5	7.94	107.79	11.70
	2				1(2)		1				2(3)	4.76	51.15	5.55
	3			1		1	1				3	4.76	5.83	0.63
	4					6	4	1			11	17.46	74.84	8.12
	5		1			3	1				5	7.94	47.10	5.11
	999								3		3	4.76	75.17	8.16
チヤート小計			2	1	2(3)	12	8	1	3		29(30)	47.62	361.88	39.28
合計		1	4	1	3(4)	18	12	3	14	6	62(63)	100.00	921.35	100.00

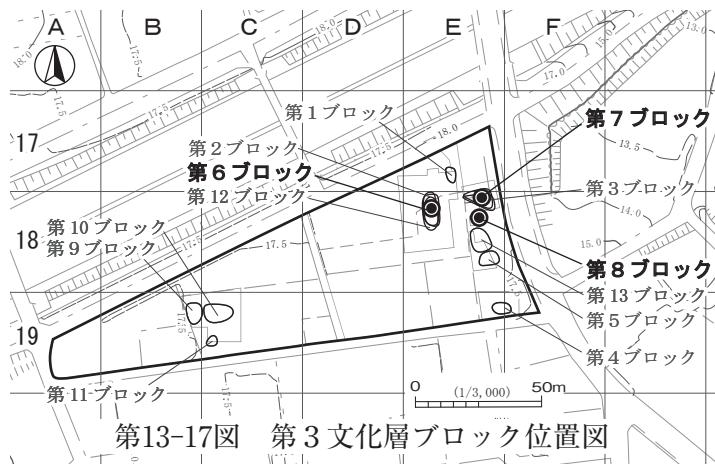
※()は出土点数

第4節 第3文化層

1 概要(第13-17図、第13-9表)

第3文化層はVI層に生活面を持つ石器群である。始良Tn火山灰(以下AT)降灰期前後の石刃主体の石器群で、東北地方で産出する硬質頁岩、信州産の黒曜石が石材として利用されることで知られる。特に千葉県内においては、遠方で産出する貴重な石材を究極なまでに利用する「下総型石刃再生技法」¹⁾、「千田台技法」^{2・3)}として提唱され、出土例が蓄積されている。当遺跡の第3文化層においては総点数245点のうち、黒曜石が111点(点数比45%、重量比8%)と数の上では主体を成しており、これに東北産の硬質頁岩、珪質頁岩、黒色頁岩、玉髓、碧玉などが少量加わる。石器はE18グリッドを中心に、第6～8ブロックの3か所で集中地点を形成している。器種の内訳は第13-9表で示したとおりであり、第3文化層全出土点数の1割弱がナイフ形石器である。

このような良質の黒曜石製石刃・縦長剥片を石器製作の素材に用いた近在の遺跡をあげると、流山市市野谷二反田遺跡⁴⁾第2文化層、柏市聖人塚遺跡⁵⁾第15ブロック、柏市中山新田II遺跡⁹⁾第13～16ユニット、柏市原山遺跡⁶⁾第III文化層第32ブロックに出土例がある。館林II遺跡から南東方向へ直線距離にして35km離れた佐倉市には栗野I・II遺跡⁷⁾があり、この第II文化層では、透明度の高い良質な黒曜石主体の石刃石器群がAT直上に展開していた。千葉県においてはAT以前とAT以後とでは硬質頁岩から黒曜石へと石材の主体が変わっていくように見受けられるが、立川ロームVI層の時期に石材の流通に関して、何らかの画期があったことが考えられる。



第6ブロックの黒曜石の特徴

黒曜石1は44点出土した。自然面は褐灰色で凹凸があり、ざらざらとした質感である。剥離面は赤みのある黒色で透明度が高い。斑晶は灰白色で $\phi 0.5\text{mm} \sim 7.0\text{mm}$ と開きがあり、ごく少量を含む。

黒曜石2は32点出土した。自然面は灰色でざらつく。剥離面は黒曜石1と同様だがより透明であり、器厚に起因するものと思われる。斑晶はごく少量で、全く含まない資料もある。黒曜石1と2は同じ母岩である可能性が高く、あくまで目視であるが、すべて信州産と推定される。

第7・8ブロックの黒曜石の特徴

黒曜石1は13点出土した。自然面は褐灰色で凹凸がみられ、平坦な風化剥離面を持つ。剥離面は灰色に白斑が混じり、靄あるいは霧状である。斑晶は灰白色でごく少量含まれる。

黒曜石2は12点出土した。自然面は褐灰色で凹凸があり、ざらざらとした質感である。剥離面は赤みのある黒色で透明度が高い。 $\phi 0.5\text{mm} \sim 7.0\text{mm}$ 程の斑晶をごく少量含む。なお、第6ブロックの黒曜石1・2と同じ母岩と推測されるが、接合関係が確認できなかったため、個々に母岩番号を付した。

黒曜石3は1点のみの出土である。剥離面は黒色不透明であり、斑晶は褐色混じりの灰白色で $\phi 0.2\text{mm}$

～3.0mmの粒が大量に入る。

黒曜石4は1点のみの出土である。自然面は灰色のスリガラス状で皺感がある。剥離面は灰色のスリガラス状で均一な色みである。灰白色の ϕ 1.0mm～2.5mmの斑晶が少量含まれる。

黒曜石5は2点出土した。自然面は褐灰色で平坦、剥離面は青みある灰色で濃淡がある。灰色で $\phi 0.3\text{mm}$ ～ 1.2mm の小さな斑晶がごくわずかに含まれる。

黒曜石6は1点のみ出土した。剥離面は灰色の筋があり、透明度が高い。斑晶は確認できない。

黒曜石7は1点のみ出土した。自然面は褐灰色で平滑である。剥離面は灰色の濃淡があり、器厚の薄い部分では半透明である。斑晶はみられない。

黒曜石8は2点出土した。剥離面は黒色不透明で、褐灰色のφ0.2mm~1.0mmほどの斑晶をわずかに含む。

黒曜石9は1点のみ出土した。剥離面は青みある灰色で半透明で、糞状である。斑晶は確認できない。

黒曜石10は1点のみ出土した。剥離面は黒色と赤褐色の2色が混在する。斑晶は白色 ϕ 0.3mm～1.0mmでごく少量含まれる。

これらの科学的な産地同定は行っていないが、目視では黒曜石1・2・6は信州産、黒曜石3は高原山産に近似する。なお、黒曜石2は第6ブロックの黒曜石1・2と同一母岩である可能性が高い。

第13-9表 第3文化層ブロック別組成表

ブ ロ ッ ク	器 種	削	搔	石	楔	有	微細剥離痕のある剥片	石	削	剥	碎	石	磨	敲	礫	点 数	点 数 合 計	重 量 合 計	重 量 比		
		ナイフ			形	槌	石	刃	片	片	片	核	類	石	礫	合 計	(%)	(g)	(%)		
石 材	石 材	器	器	器	錐	器	刃	剥片	刃	片	片	核	類	石	礫	片	合 計	(%)	(%)		
6	ガラス質黒色安山岩 安山岩 流紋岩 黒曜石 凝灰岩 砂岩 頁岩 珪質頁岩 硬質頁岩 黒色頁岩 ホルンフェルス チャート 玉髓 碧玉(黄玉)								1							1	0.41	4.20	0.17		
																1	0.41	207.91	8.23		
					1					1						1	3	1.22	10.18	0.40	
		8	2		3	6	10	1		29	16	1					76	31.02	140.22	5.55	
										1							1	0.41	1.34	0.05	
										2	1					1	4	1.63	265.86	10.53	
										1	1						2	0.82	1.38	0.05	
							3			2							5	2.04	18.33	0.73	
		4			3	1	2		2	7	1						20	8.16	79.82	3.16	
									1	5							6	2.45	88.61	3.51	
										7	1					1	12	4.90	92.66	3.67	
										1							1	0.41	0.15	0.01	
		2	1					1	1	3	3						11	4.49	22.28	0.88	
		1	1	1				1		5(7)	1						10(12)	4.90	43.16	1.71	
第6	ブロック小計	15	3	1	1	5	3	9	17	3	264(66)	24	2	1			3	153(155)	63.27	976.10	38.65
7	ガラス質黒色安山岩 トロトロ石 安山岩 流紋岩 黒曜石 緑色凝灰岩 砂岩 頁岩 珪質頁岩 嶺岡産珪質頁岩 硬質頁岩 黒色頁岩 碧玉(赤玉)									1							1	0.41	19.96	0.79	
										1	1						2	0.82	1.32	0.05	
																	1	0.41	511.21	20.24	
																	1	2	0.82	427.10	16.91
		3	1	1	1	2	1		3	12	1	2					27	11.02	58.94	2.33	
										1(3)							1(3)	1.22	16.43	0.65	
																	1	1	0.41	80.51	3.19
											6(7)						6(7)	2.86	10.36	0.41	
		3						3(4)		9	2						17(18)	7.35	97.42	3.86	
																	1	0.41	0.65	0.03	
								1									1	0.41	1.84	0.07	
										1							10	4.08	21.41	0.85	
					1	2				5	2						1	0.41	12.65	0.50	
第7	ブロック小計	6	1	2	1	5	4(5)		4	35(38)	6	3			1	1	2	71(75)	30.61	1,259.80	49.88
8	黒曜石 緑色凝灰岩 砂岩 珪質頁岩 玉髓							2	1	3	2						8	3.27	8.84	0.35	
										1							1	0.41	3.53	0.14	
																	1	0.41	195.30	7.73	
								1		1							2	0.82	11.34	0.45	
										2	1						3	1.22	70.54	2.79	
第8	ブロック小計							3	1	7	2	1				1	15	6.12	289.55	11.47	
合	計	21	3	2	1	7	4	14	24(25)	3	7	106(111)	32	6	1	1	2	5239(245)	100.00	2,525.45	100.00

※（）は出土点数

2 第6ブロック(第13-18~22図、第13-10表、図版32・40~42)

出土状況 調査区東部に位置し、E18-01~03、12・13、22・23、32・33グリッドの南北12.0m×東西6.2mの範囲に155点が分布する。標高15.7m~16.6mの0.9m間に包含され、出土層位はⅣa層~Ⅲ層であり、Ⅶ層~V層に集中する。黒曜石の分布がそのまま第6ブロックの範囲である。そのほかの石材は、第6ブロックを便宜的に北域と南域に二分すると、北域にガラス質黒色安山岩・安山岩・砂岩・碧玉、南域には流紋岩・凝灰岩・硬質頁岩・ホルンフェルス・チャートが分布し、頁岩・珪質頁岩・黑色頁岩・玉髓は両域にまたがって分布する。

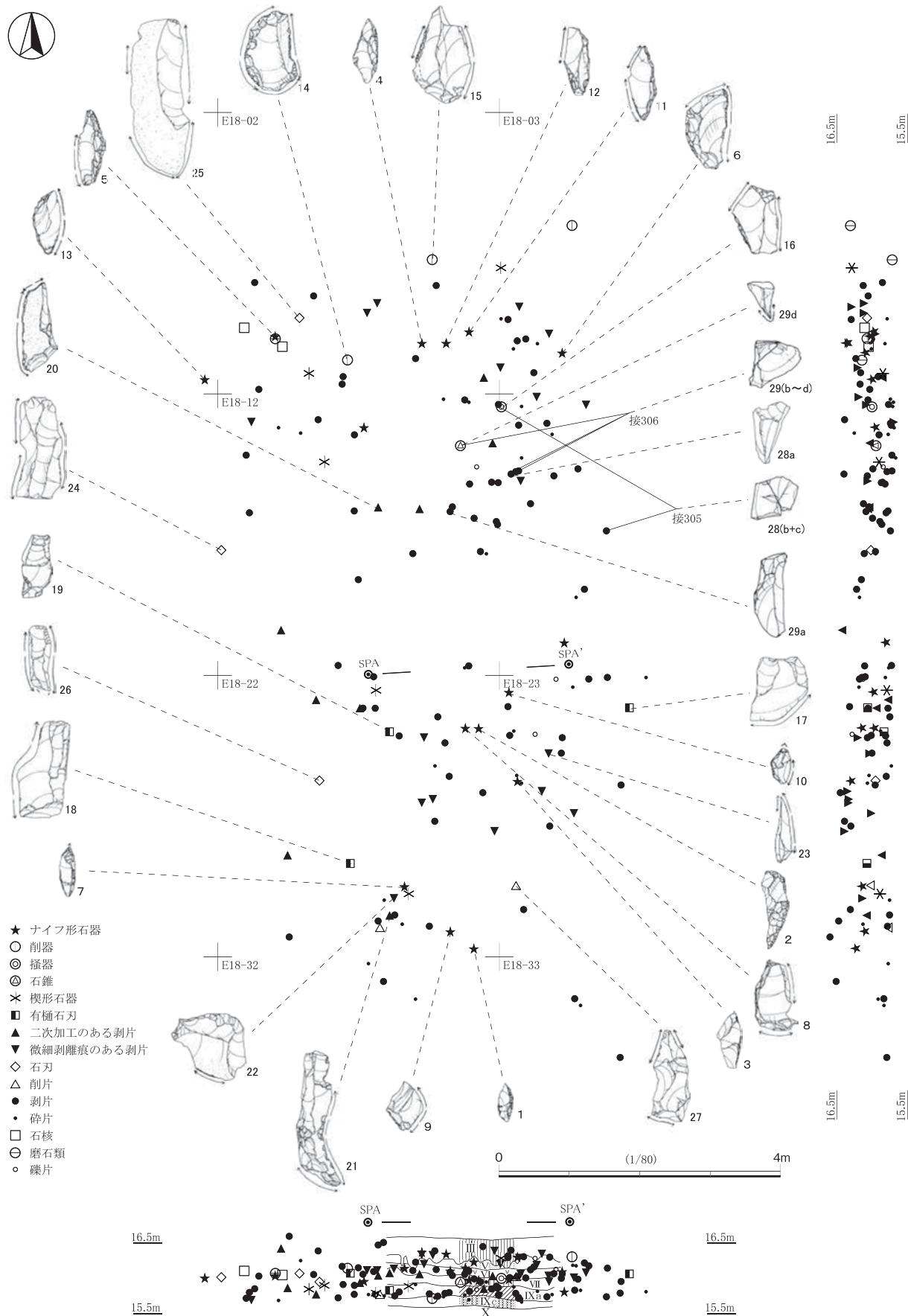
接合資料は6個体16点である。5個体は北域の狭い範囲で接合するが、黒曜石の1個体のみ両域間で接合する。2点間の直線距離は7.3mほどである。

器種に着目すると、ナイフ形石器が多出するという特異な器種組成を示す。ナイフ形石器は15点出土しており、そのうち10点には欠損、衝撃剥離痕、あるいは再調整痕が看取される。黒曜石製8点は全体に万遍なく分布するが、硬質頁岩製4点は南域のみに、玉髓・碧玉の3点は北域にのみ分布する。

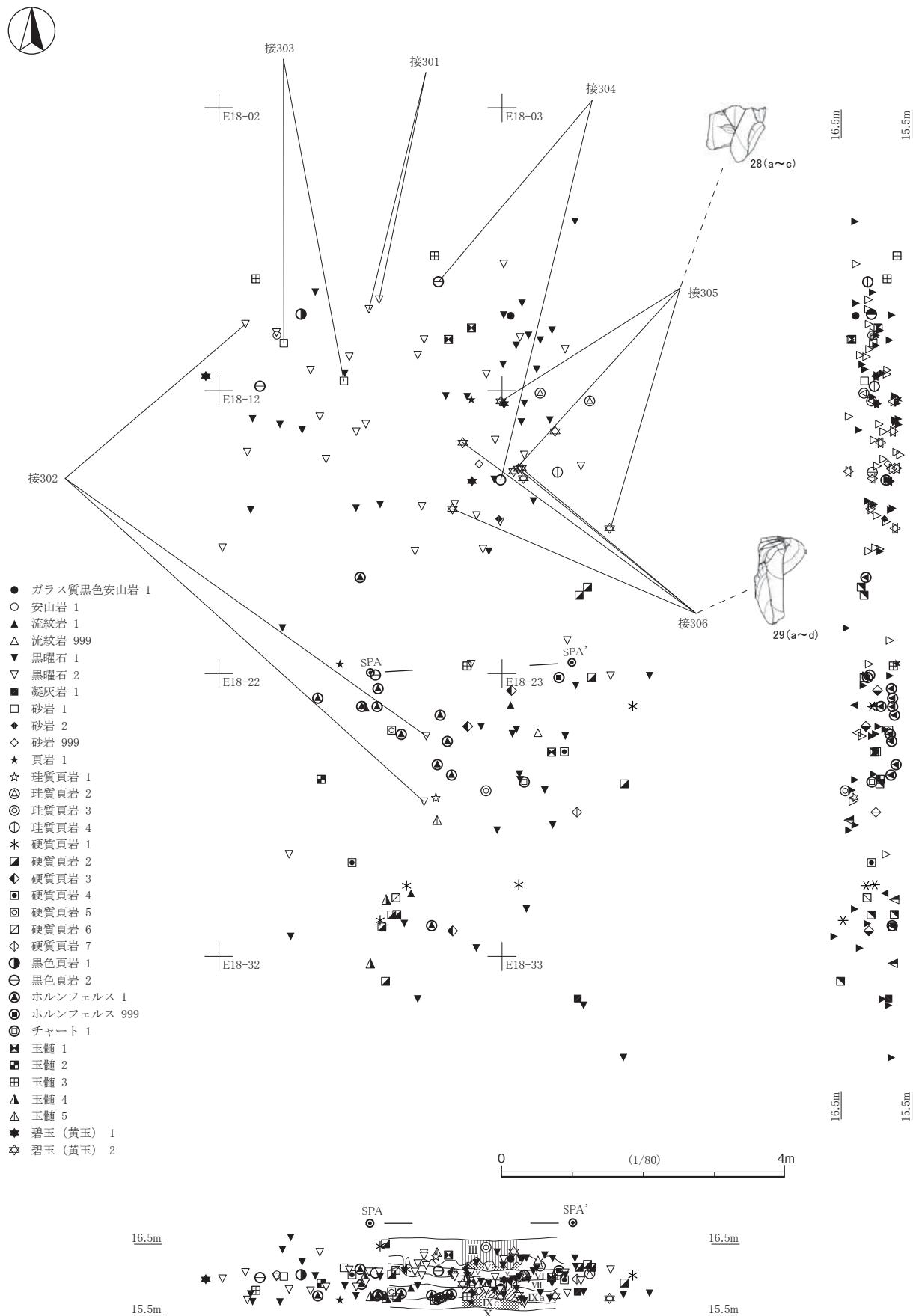
第13-10表 第3文化層第6ブロック組成表

器種	母岩番号	母岩	母岩	ナイフ	削器	搔器	石錐	楔形石	有孔石	二次加工のある剥片	微細剥離痕のある剥片	石刃	削片	剥片	碎片	石核	磨礫類	礫片	点数合計	点数比	重量合計	重量比	
			器	器	器	器	錐	器	刃										~%	~g	~%		
ガラス質黒色安山岩	1																		1	0.65	4.20	0.43	
安山岩	1																		1	0.65	207.91	21.30	
流紋岩	1							1											2	1.29	2.39	0.24	
	999																		1	1	0.65	7.79	0.80
流紋岩小計								1											1	3	1.94	10.18	1.04
黒曜石	1	3	1						2	6			17	15						44	28.39	29.34	3.01
	2	5	1					3	4	4	1		12	1	1				32	20.65	110.88	11.36	
黒曜石小計	8	2						3	6	10	1		29	16	1				76	49.03	140.22	14.37	
凝灰岩	1												1						1	0.65	1.34	0.14	
砂岩	1												1						2	1.29	240.40	24.63	
	2												1						1	0.65	3.32	0.34	
	999																		1	1	0.65	22.14	2.27
砂岩小計													2		1				4	2.58	265.86	27.24	
頁岩	1												1	1					2	1.29	1.38	0.14	
珪質頁岩	1																		1	0.65	5.43	0.56	
	2												1						2	1.29	11.12	1.14	
	3													1					1	0.65	1.25	0.13	
	4													1					1	0.65	0.53	0.05	
珪質頁岩小計													3		2				5	3.23	18.33	1.88	
硬質頁岩	1	1							1				1	1					4	2.58	14.51	1.49	
	2								1				1	5	1				8	5.16	13.05	1.34	
	3	3																	3	1.94	7.18	0.74	
	4																		2	1.29	14.35	1.47	
	5								1										1	0.65	13.29	1.36	
	6												1						1	0.65	11.21	1.15	
	7												1						1	0.65	6.23	0.64	
硬質頁岩小計	4							3	1	2			2	7	1				20	12.90	79.82	8.18	
黒色頁岩	1												1						1	0.65	21.29	2.18	
	2													5					5	3.23	67.32	6.90	
黒色頁岩小計													1		5				6	3.87	88.61	9.08	
ホルンフェルス	1							1	2				1	7	1				11	7.10	27.11	2.78	
	999																		1	0.65	65.55	6.72	
ホルンフェルス小計								1	2				7	1				1	12	7.74	92.66	9.49	
チヤート	1													1					1	0.65	0.15	0.02	
玉髓	1	2											1						3	1.94	6.81	0.70	
	2													1					1	0.65	1.19	0.12	
	3		1											1	1				3	1.94	10.30	1.06	
	4													1	2				3	1.94	3.44	0.35	
	5													1					1	0.65	0.54	0.06	
玉髓小計	2	1											1	1	3	3			11	7.10	22.28	2.28	
碧玉(黄玉)	1	1	1											1					3	1.94	15.60	1.60	
	2													1					7(9)	5.81	27.56	2.82	
碧玉(黄玉)小計	1		1	1										1		5(7)	1		10(12)	7.74	43.16	4.42	
合計	15	3	1	1	5	3	9	17	3	2	64(66)	24	2	1	3	153(155)	100.00	976.10	100.00				

※()は出土点数



第13-18図 第3文化層第6ブロック器種別分布



第13-19図 第3文化層第6ブロック母岩別分布

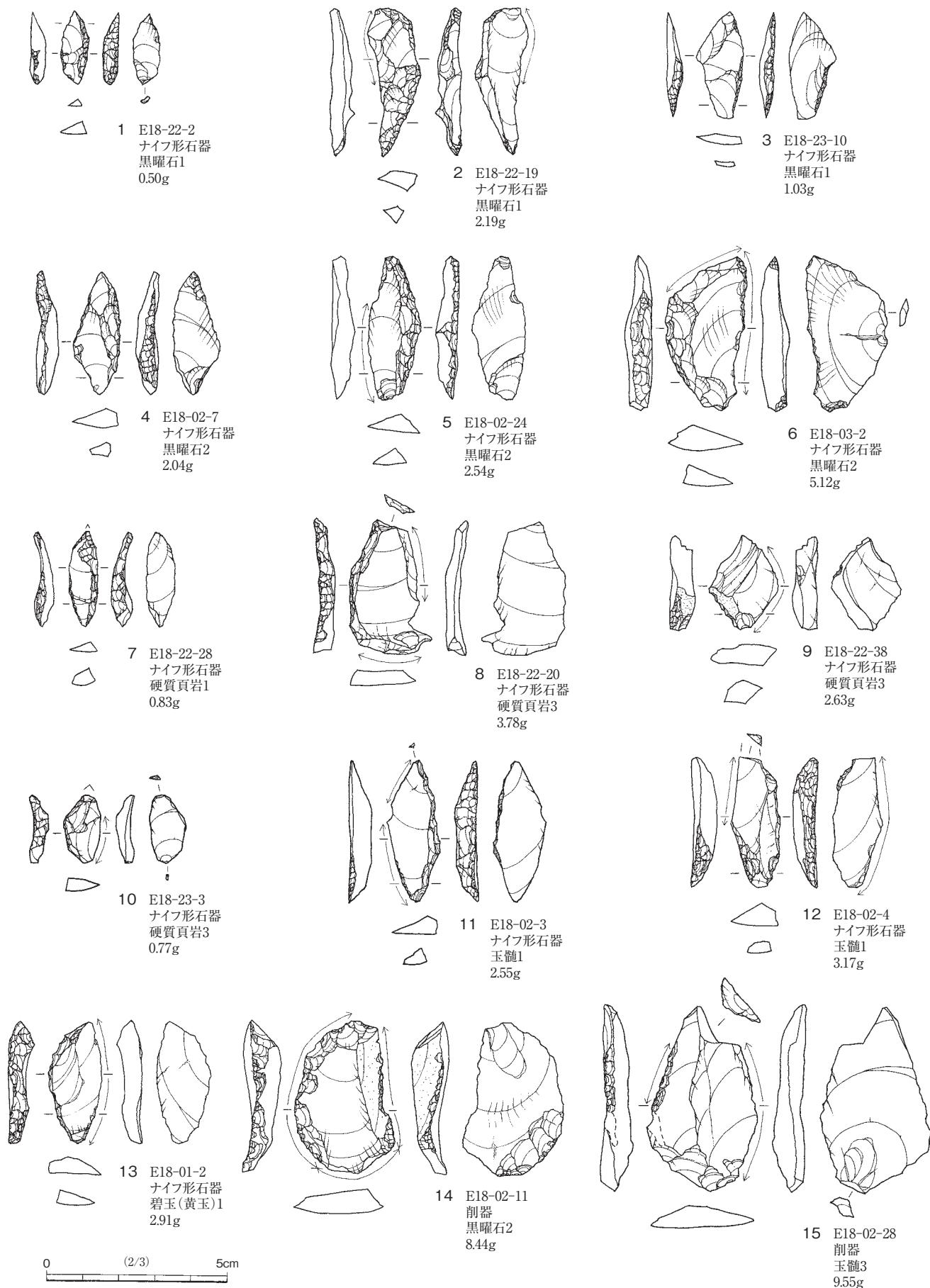
この傾向は石材の分布状況と概ね一致し、完形、あるいは完成品に近い形で遺跡に持ち込まれる硬質頁岩・玉髓・碧玉と、ブランクの状態で持ち込まれ、ブロックの中で製品化される黒曜石との違いかと推測される。加工工具としては安山岩製の磨石類があげられるが、緩い弧状の刃先と凸形の基部が残る石斧のような形状で、上下に大きく欠損している。このため実測対象とはしなかったが、片側面が平坦に、平坦面が丸みをもって擦られており、敲石、磨石、砥石など複合的な機能を持った加工工具と思われる。ブロックの北西に、砂岩・黒曜石の石核2点とともに出土している。

出土遺物 1～13はナイフ形石器である。1は2cmほどの縦長剥片を素材とした一側縁加工であり、素材時の打面がわずかに遺存する。2は削片が素材である。主要剥離面を切る加工痕は末端部にのみみられるが、他面と比して光沢が強く、新しい欠けの可能性がある。打面・頭部調整が細かく丁寧に施され、さらに剥離後の打面の稜もまた除去されている。薄い縁辺に微細な刃こぼれが連なる。3は横長剥片素材である。二側縁加工で、右側縁は裏面側、素材打面部である左下縁辺は正面側から急角度に加工される。刃部に目立った刃こぼれはみられないが、先端部は再調整され尖鋭となる。1～3は赤みを若干帯びるが透明度が高く、夾雜物を含まない良質な黒曜石1を母岩とする。

4の両端は尖鋭で、左肩部が張る。ほぼ全周に加工痕が廻るが、右上部にわずかながら刃部が残る。素材剥片が斜位に用いられているため、厚みのある中位の角度が90°に近い。先端部は側面、裏面から尖鋭に作出されており、刺突具的な用途を意図したものか。5は両端に衝撃剥離痕のあるナイフ形石器である。両面ともポジ面であり、正面図左が主要剥離面である。素材の石刃を主要剥離面と同方向から加撃し、斜めに分割している。こうすることで長さと幅、厚みの等しい2枚の素材剥片が作出され、のちに厚みのある部分にブランディングが行われる。刃部の刃こぼれは先端部からの衝撃剥離により寸断される。4と同様の製作工程がみられる。6は横長剥片を素材とする。素材打面部は半円弧、縁辺は直線状であり、全体形状は半円形を呈する。基部は両面から急角度に調整され、上縁辺、右側縁に微細な刃こぼれが連なっている。4～6は透明度が高く夾雜物を含まない黒曜石2を母岩とする。

7は最大長3cmに満たない両尖形であり、両側縁に主要剥離面側から急角度の加工が施されている。刃部には細かな調整痕がみられるが、端部の欠損により寸断される。灰褐色で微光沢のある硬質頁岩1が母岩である。8は底面付きの石刃が素材である。左側面下部に急角度の基部加工、上部には65°～70°の調整加工が施されており、上端部には上方からの折れにより背面側に捲れたような剥離痕が残る。右側面上方と下縁辺に微細な剥離痕が認められる。9は厚みの均一な剥片下部が素材である。自然面に基部加工が施され、左上部から地すべり状に生じた折れにより本来の形状は分からず。10は最大長が2cmに満たない小型品で、素材打面が点状に残っている。一側縁加工であり、対縁に刃こぼれが生じている。8～10は油脂状光沢のある褐色の硬質頁岩3が母岩である。11・12は二側縁加工であり、素材剥片の厚みある中心部に主要剥離面側から急角度の調整加工が施されている。両先は尖り、刃部に刃こぼれがみられる。12の先端は欠損するが、4cmを超える狭長な形状が推定される。ともに緑色を帯びた灰白色で、一部に薄い茶褐色が混在するツートーンの玉髓1が母岩である。13は横長剥片を素材とし、その打面部が主要剥離面側から急角度に加撃された一側縁加工となっている。両端部は背腹両面から調整され、尖鋭である。弱い弧状の刃部には微細剥離痕が連続する。母岩は16と同じく碧玉(黄玉)1である。

14・15は削器である。14は縦長で打点対縁の広い剥片を素材とする。ほぼ全周に剥離痕が廻り、半円弧状の左側縁は28°～46°、右側縁は約60°に調整される。また右下部のように角を丸めるような調整や、背



第13-20図 第3文化層第6ブロック出土石器(1)

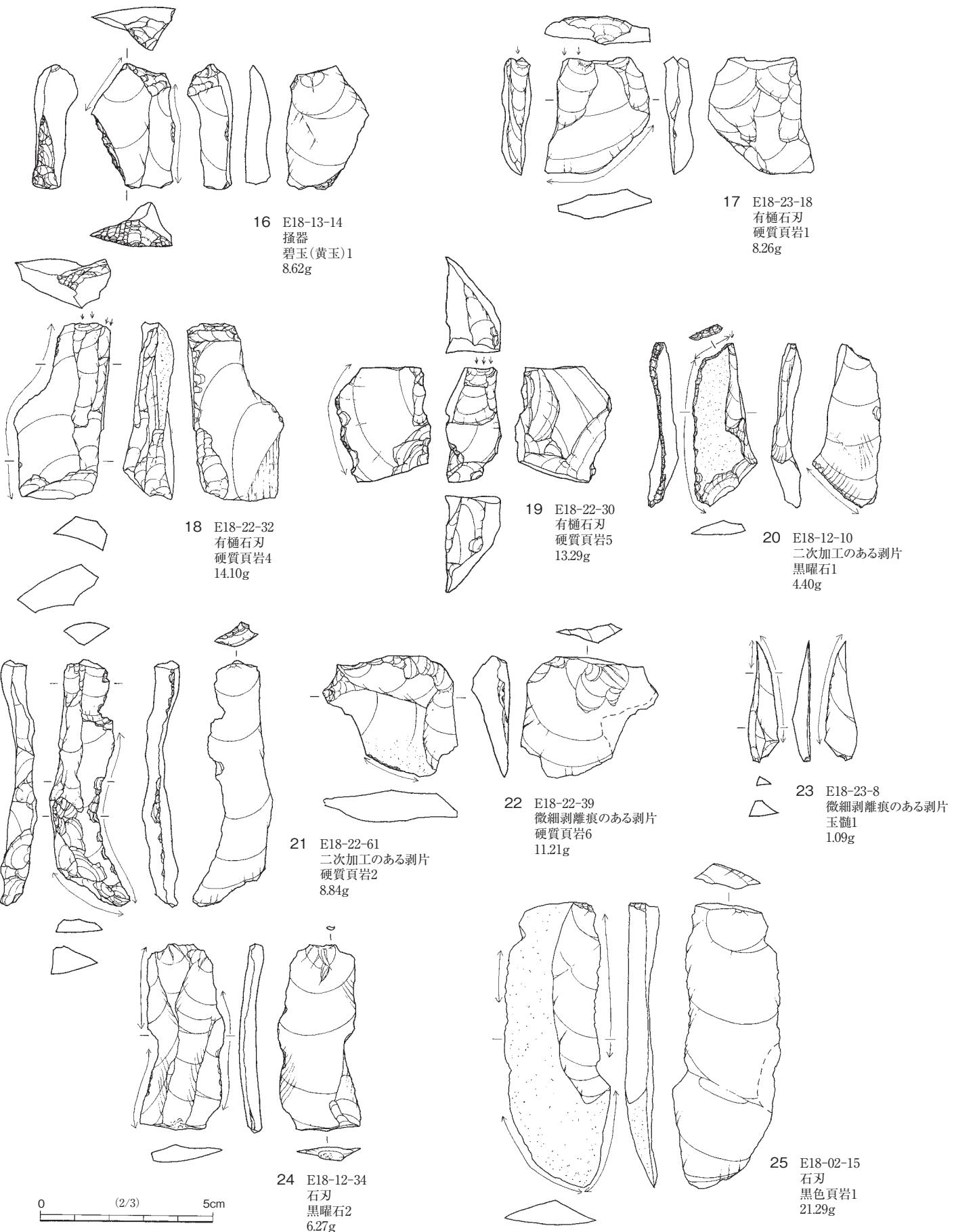
腹両面から器厚を減ずるような加工がみられる。右側面の風化剥離面縁辺には微細剥離痕が連続する。黒曜石2が母岩である。15は扁平な剥片の一側縁が62°～72°に加工され、上部では104°と鈍角になる。そのため錐状の先端部があったと推測されるが、欠損により不明である。右側縁の使用痕もまた、欠損のため寸断される。透明感のある黄白色の玉髓3が母岩である。第6ブロックの北端から出土した。玉髓3は北域北端に2点、南域に1点が分布し、いずれも立面図では下位の層に包含される。

16は、縦長剥片の主要剥離面側から、器面を斜断するように急角度加工が施された搔器である。加工は下部に及ぶが、背面の高まりを除去し切れておらず、スクレーピングエッジは104°と鈍角である。母岩は明黄褐色の中に茶褐色の斑が混じる碧玉(黄玉)1である。

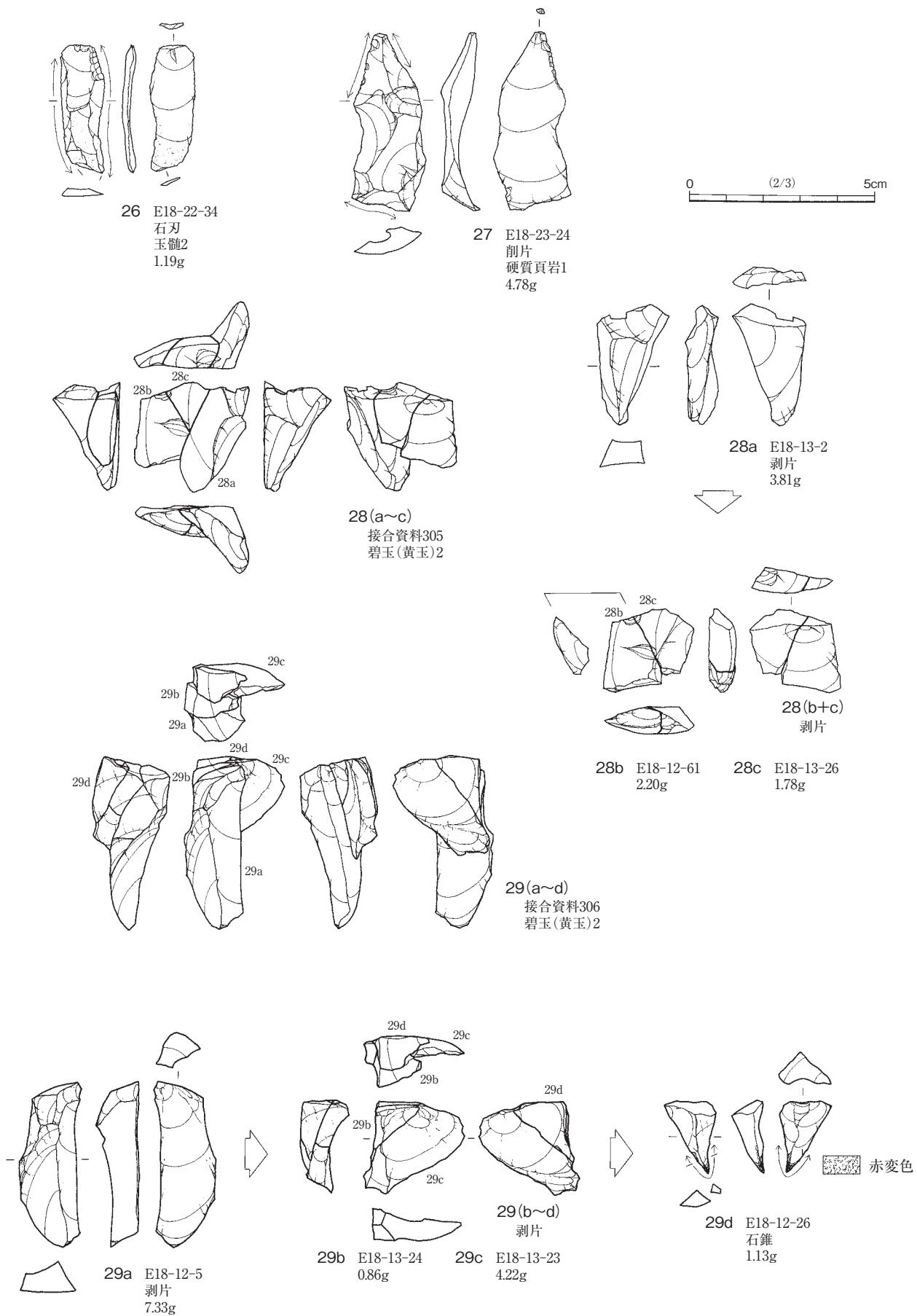
17～19は有樋石刃である。3点は硬質頁岩製で南域に分布する。17は大型の石刃の下部が素材である。折面を打面とした剥離痕を表すため、素材の主要剥離面を正面に図化した。素材背面に残された情報から、この工程と同様の作業が行われたことが看取される。つまり、素材打面あるいは折面を小口面打面と設定し、そのやや端部寄りを敲打して剥離作業が繰り返された資料である。東金市滝東台遺跡⁸⁾の前例(有樋石刃：小型の石刃生産を目的とした石刃石核)に倣い有樋石刃と分類したが、この17は側面を抉るまでには至っておらず、小型の縦長剥片を作り出すことを目的とした資料であろうと思われる。母岩は灰白色で油脂状光沢を持つ良質な硬質頁岩1である。18は大型の剥片の側面を作業面とし、調整された小口面打面を加撃することで、幅と長さが規格化された石刃が作出されている。石刃を作出するにあたっては、打点付近に厚みを減ずるように打撃方向と直交する横方向から4枚以上剥がされ、さらに稜を潰すような調整が行われている。抉れた側縁に鋸歯状の刃こぼれがみられる。小石刃剥離作業の初期段階は下端に到達する長い石刃が得られたものと思われるが、残された作業面をみるとかぎり、力は内側へ向かい器面中ほどに留まる。中～小型の石刃は少なくとも4点制作されているが、接合する資料はない。自然面はわずかに緑色を帯びた淡褐色、剥離面はミルクティーのような色合いで、鈍い光沢がある硬質頁岩4が母岩である。19は17と同じく、大型の剥片(石刃含む)の下部を素材とし、小口面打面から小型の縦長剥片作出が試みられている資料である。素材側面を折断して打面を作り、素材の厚みが幅となるよう打撃が加えられているが、力は器体中央部に留まる。同様の剥離は左側面、右下部にもみられる。また、素材の末端にあたる左側面の縁辺には微細な刃こぼれと鋸歯状の小剥離痕が残され、右側面中央部に磨耗光沢が観察される。黄土色～薄い褐色で光沢のある硬質頁岩5が母岩である。

20・21は二次加工のある剥片である。20は小剥離とグラインディングを駆使して打角68°に設定した打面から、器体右側縁が複数加撃される。1面は背面側へ向かうが、もう1面は側縁を切り取る。狭長な小型の石刃が作出されたと思われるが、接合する資料はない。左側縁全体に主要剥離面側から自然面へ向けて細かな二次加工が施された底面付きの剥片が素材である。背面の大部分が自然面であるが、有樋石刃ともとらえられよう。母岩は黒曜石1である。21は丁寧な打面調整が施された長幅比3.1の精美な石刃素材である。左側縁から下部には著しい刃こぼれと加工痕がみられる。素材打面の端部が加撃され、小型の縦長剥片が3点以上剥離された痕跡が背面に残る。明るい褐灰色で油脂状光沢を持つ硬質頁岩2を母岩とする。

22・23は微細剥離痕のある剥片である。22の縁辺は25°で、細かい刃こぼれが連なるが、ガジリに断絶される。油脂状光沢のある濃褐色を基調とし、明るい黄褐灰色の斑を持つ硬質頁岩6を母岩とする。ほかに同一母岩はない。23は二側縁に使用痕があり、刃器として使用されたことが明白である。下部の潰れ痕



第13-21図 第3文化層第6ブロック出土石器(2)



第13-22図 第3文化層第6ブロック出土石器(3)

はナイフ形石器などの基部調整とも考えられるため、刃部を上方に配置した。素材の縁辺を背稜とする細身の石刃(もしくは削片)であり、主要剥離面は正面図の左側にある。素材時の使用痕を右縁辺に、剥離後の使用痕を左上部に残している。母岩である玉髓1は第6ブロックで3点出土しており、ナイフ形石器2点は北域に、本資料のみ南域に分布する。

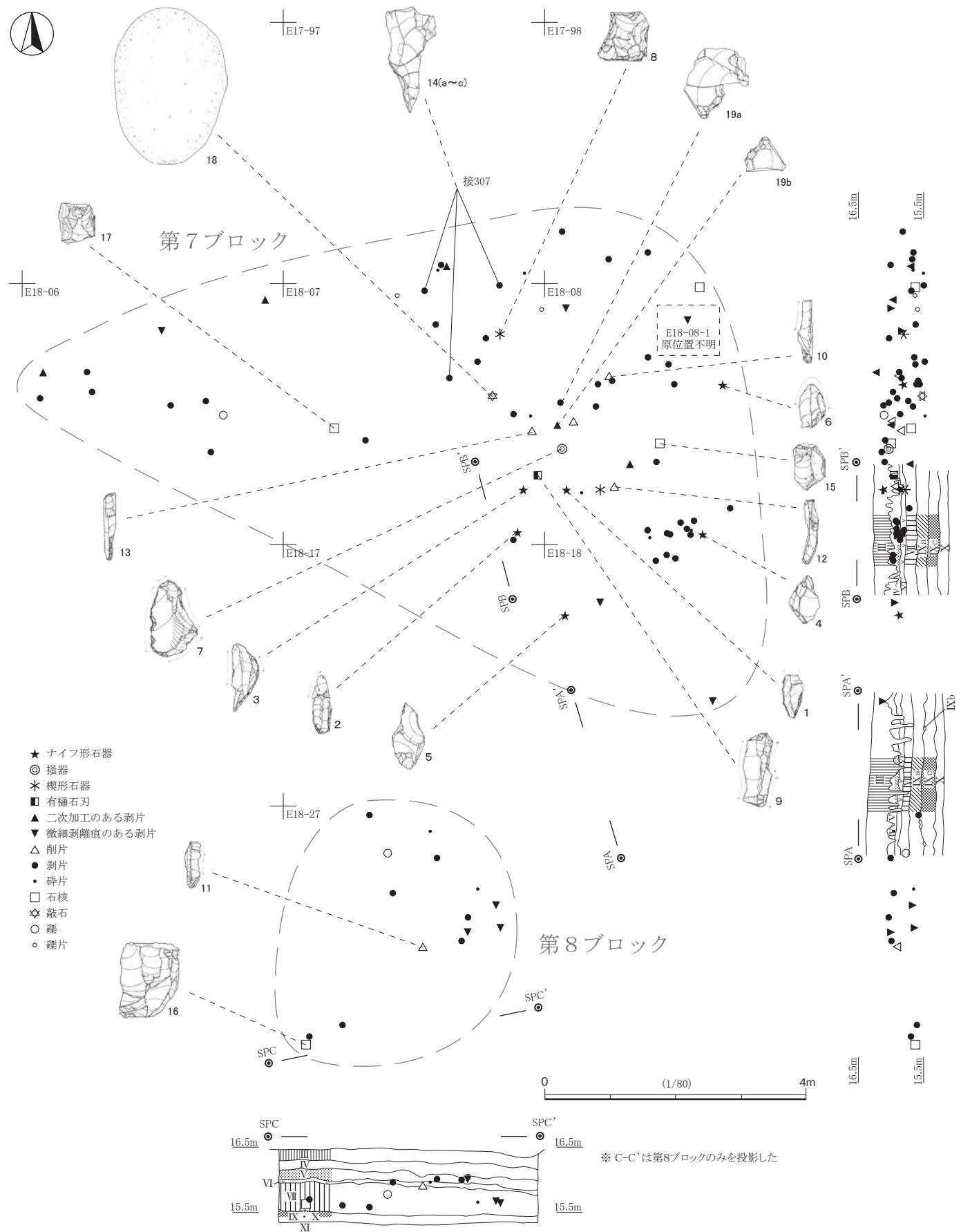
24~26は石刃である。24の打面は大部分が欠損し、下端部は球顆によって折れが生じている。裏面右下部にみられる剥離痕はこの折れから派生する。規格的に作出された石刃であり、平行する両側縁には刃こぼれが顕著である。母岩は薄靄がかかるが、透明度の高い良質な黒曜石2である。夾雜物はごく少量だが、この資料でも折れを生じさせたように、 $\phi 4.0\text{mm}$ ほどの灰色の球顆が混じる部位もある。25は単設打面から連続する動作にて作出された石刃である。背面に残る丸みの少ない自然面から推定される原石の大きさは、直径10cm以上であろう。主要剥離面は平坦で裏面右側縁にガジリ、裏面下部に段差が生じる。両側縁に微細な剥離痕が廻り、下端部は摩耗光沢がみられる。自然面・風化剥離面とも濃灰色の黒色頁岩製で、黒色頁岩1はこの1母岩のみである。26の長幅比は2.96で末端がわずかに欠損する。平行する両側縁には微細な刃こぼれが連続し、右上部は特に顕著である。青みを帯びた半透明灰白色だが、不透明な凝灰質部分のある玉髓2を母岩とする。玉髓2はこの1点のみ出土した。

27は、背面に多方向の剥離面を有する削片である。打面はごく小さく、石核底面を端部に残す。両側縁の上部と下縁辺に微細剥離痕がみられる。母岩である硬質頁岩1は第6ブロック南域に4点出土しており、ナイフ形石器、有樋石刃、削片、剥片を組成する。

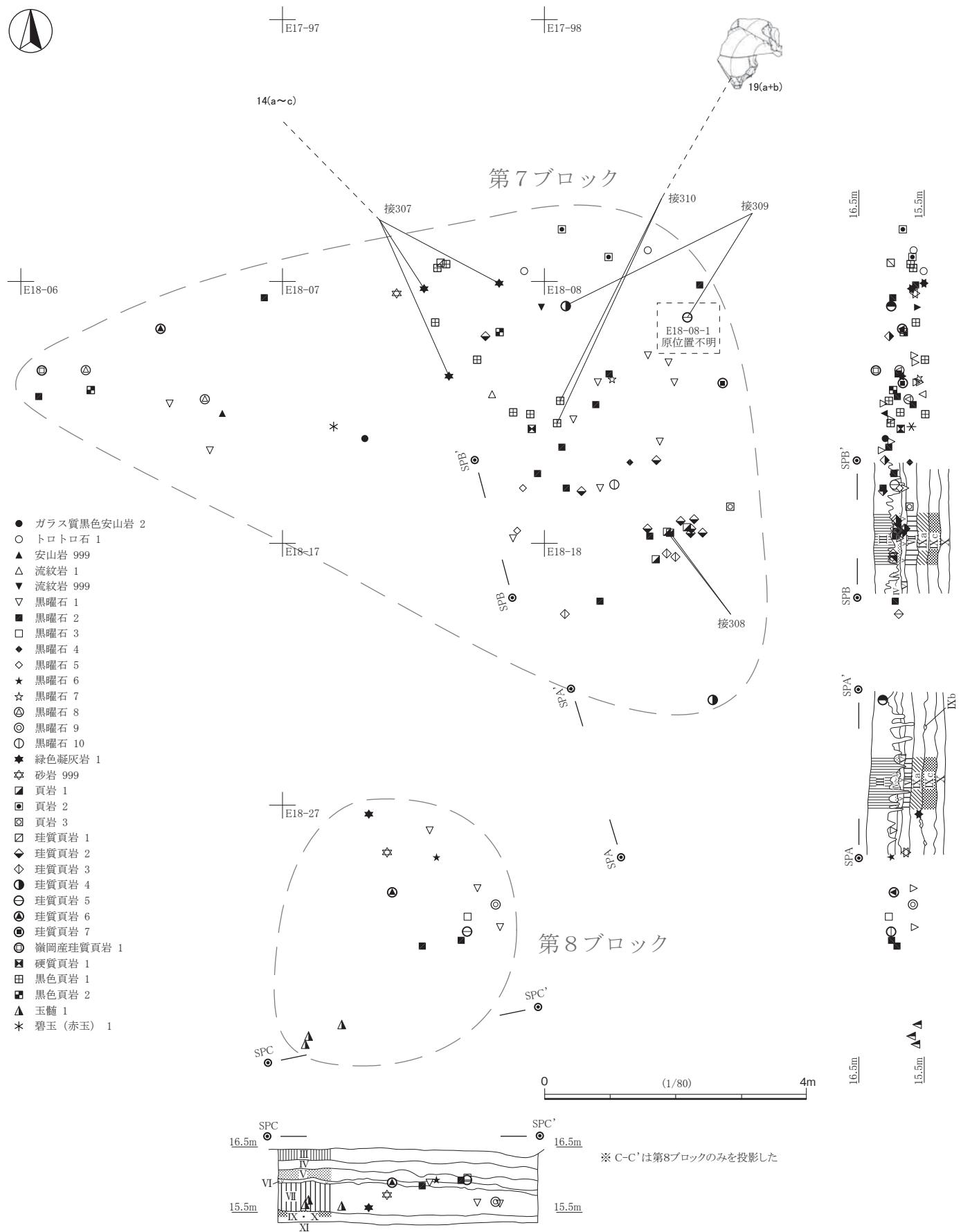
28・29とも、北域のE18-13グリッド付近の2.4m²内に分布する碧玉(黄玉)2の接合資料である。9点出土したうちの7点に接合関係がみられた。28の3点は剥離の際に打点直下で折れが生じたもので、器種組成としては剥片2点となる。29は1.2m²のごく狭い範囲に分布する剥片4点の接合資料である。29a剥離後、29b~29dは一撃で弾け3片に碎けたものであるが、29dの先端部は赤く変色しており、内部まで熱を受けた痕跡が認められる。また、この変色した部分の稜上には、光沢のある微細剥離痕が8倍のルーペにて観察された。このため、二次加工や敲打による機能部作出の痕跡はないが、破碎片を利用した石錐としてとらえ、変色痕をスクリーントーン、摩耗範囲を矢印で示した。碧玉(黄玉)2は明るい黄褐色で不透明であり、薄灰色の筋が靄状を成す。自然面がないことから、他所で原礫面を削ぐなどの作業が行われた石核がブロック内に持ち込まれ、28・29の元となった石器素材を供給した後、再び運び去られたことがうかがえる。

3 第7・8ブロック(第13-23~26図、第13-11~13表、図版32・41)

出土状況 第7ブロックと第8ブロックは遺跡東部に位置する。第7ブロックの下位には第1文化層第3ブロックが存在するが調査時の所見や写真、出土層位、器種などを考慮して分層した。また、平面分布上、第7ブロックと第8ブロックには最も近接する遺物間に4m以上の間隙があるため、これを別ブロックととらえた。2つのブロック間には接合する資料はないが、黒曜石1、黒曜石2、緑色凝灰岩1、珪質頁岩6の4母岩が共通しており、第13-23~26図にまとめて記載した。なお、第7ブロックでは標高15.5m~16.2mの0.7m間に13石材28母岩、75点が分布し、第8ブロックでは標高15.6m~16.0mの0.4m間に5石材10母岩、15点が分布する。南北に示した立面図には両ブロックの石器を投影させ、東西の立面図には第8ブロックを投影した。全体的には南東に向かってやや下降する感があり、主要な器種であるナイフ形石器、搔器、楔形石器、有樋石刃、敲石はすべて高位にある第7ブロックに帰属する。



第13-23図 第3文化層第7・8ブロック器種別分布



第13-24図 第3文化層第7・8ブロック母岩別分布

第13-11表 第3文化層第7・8ブロック組成表

母岩番号	器種	母岩	ナイフ	搔形	楔形	有撻石	二次加工のある剥片	微細剥離痕のある剥片	削片	剥片	碎核	石核	敲石	礫	点数合計	点数比	重量合計	重量比
		器	器	器	刃				片	片	片	核	石	片	計	～%	～g	～%
ガラス質黒色安山岩	2								1						1	1.11	19.96	1.29
トロントロ石	1								1	1					2	2.22	1.32	0.09
安山岩	999														1	1.11	511.21	33.00
流紋岩	1											1			1	1.11	420.90	27.17
	999											1			1	1.11	6.20	0.40
流紋岩小計												1			2	2.22	427.10	27.57
黒曜石	1				1				1	1	7	2	1		13	14.44	18.80	1.21
	2	1	1	1	1	1	2	3	1	1					12	13.33	30.56	1.97
	3								1						1	1.11	2.11	0.14
	4					1									1	1.11	4.31	0.28
	5	2													2	2.22	4.30	0.28
	6								1						1	1.11	0.80	0.05
	7								1						1	1.11	1.97	0.13
	8								2						2	2.22	2.33	0.15
	9					1									1	1.11	0.77	0.05
	10							1							1	1.11	1.83	0.12
黒曜石小計	3	1	1	1	2	3	4	15	3	2					35	38.89	67.78	4.37
緑色凝灰岩	1							2(4)							2(4)	4.44	19.96	1.29
	999														2	2.22	275.81	17.80
頁岩	1							3(4)							3(4)	4.44	7.80	0.50
	2							2							2	2.22	2.22	0.14
	3							1							1	1.11	0.34	0.02
頁岩小計								6(7)							6(7)	7.78	10.36	0.67
珪質頁岩	1							1							1	1.11	8.34	0.54
	2	1						6	2						9	10.00	13.37	0.86
	3	1						2							3	3.33	38.73	2.50
	4					2(3)									2(3)	3.33	11.92	0.77
	5					1									1	1.11	6.01	0.39
	6					1		1							2	2.22	28.77	1.86
	7	1						1							1	1.11	1.62	0.10
珪質頁岩小計	3					4(5)		10	2						19(20)	22.22	108.76	7.02
嶺岡産珪質頁岩	1					1									1	1.11	0.65	0.04
硬質頁岩	1							1							1	1.11	1.84	0.12
黒色頁岩	1					2			4	2					8	8.89	15.12	0.98
	2					1		1							2	2.22	6.29	0.41
黑色頁岩小計						1		5	2						10	11.11	21.41	1.38
碧玉(赤玉)	1							2		1					3	3.33	70.54	4.55
										1					1	1.11	12.65	0.82
合計		6	1	2	1	5	7(8)	5	42(45)	8	4	1	2	2	86(90)	100.00	1,549.35	100.00

※()は出土点数

出土遺物 1～6はナイフ形石器である。1は縦長剥片の打面側を基部とし、両側縁は主要剥離面側から急角度に調整される。細身の基部だが刃部は欠損し、全体形状は把握できない。2は削片の打面部に基部加工が施されている。素材背面、主要剥離面とも同じ方向からの剥離面と自然面で構成される。刃部の刃こぼれは欠損により寸断されるが、再調整され、刺突具として利用される。3の一側縁には急角度の加工が施され、弧状となる。左側縁に刃こぼれ、右側縁の中位に微細な剥離痕がみられる。1は黒曜石2、2と3は黒曜石5が母岩である。

4は小型で、上部と基部が折り取りによって成形される。先端に調整痕と刃こぼれがみられる。母岩は珪質頁岩2である。5は幅の広い剥片を斜位に用いており、素材の打面部がナイフ形石器としての基部となる。刃部先端は折れて欠損する。珪質頁岩3が母岩である。珪質頁岩3はE18-18グリッドから3点出土している。なお、珪質頁岩2～4は、濃褐色の節理面と青みがかった明灰色の剥離面があり、緻密細粒で微光沢という特徴を持ち、同一母岩の可能性が高いが、色調の違いから細分した。6は横長の剥片素材で広い縁辺を刃部とする。右下部に下面、裏面側から簡素な基部加工が施されている。18°～25°の薄い刃

部には刃こぼれが顕著である。明るい灰褐色で微光沢を持つ珪質頁岩7を母岩とする。

7は搔器である。末端部に向かって幅広になる縦長の石刃が素材であり、ほぼ全周に微細剥離痕が廻る。左下端部が弧状に加工されてはいるが、大半は素材の厚みを利用したもので、下縁部は搔器、両側縁は削器的に使用したと思われる。黒曜石2を母岩とする。

8は四角形状で上下、左右の対向する縁辺に剥離痕を持つ楔形石器であり、各縁辺に擦痕がみられる。剥離面は濃灰色、節理面は明るい褐色の黑色頁岩2を母岩とする。

9は黒曜石2を母岩とする有柄石刃である。打面に調整が施された石刃の側面から、小型の石刃が複数剥離されているが、剥離作業の終盤には力が器面上部に留まり、寸詰まりの小片となる。打面を除いた全周に微細剥離痕が廻る。なお、第6ブロックの挿図番号20と形状、工程、石材が近似する。

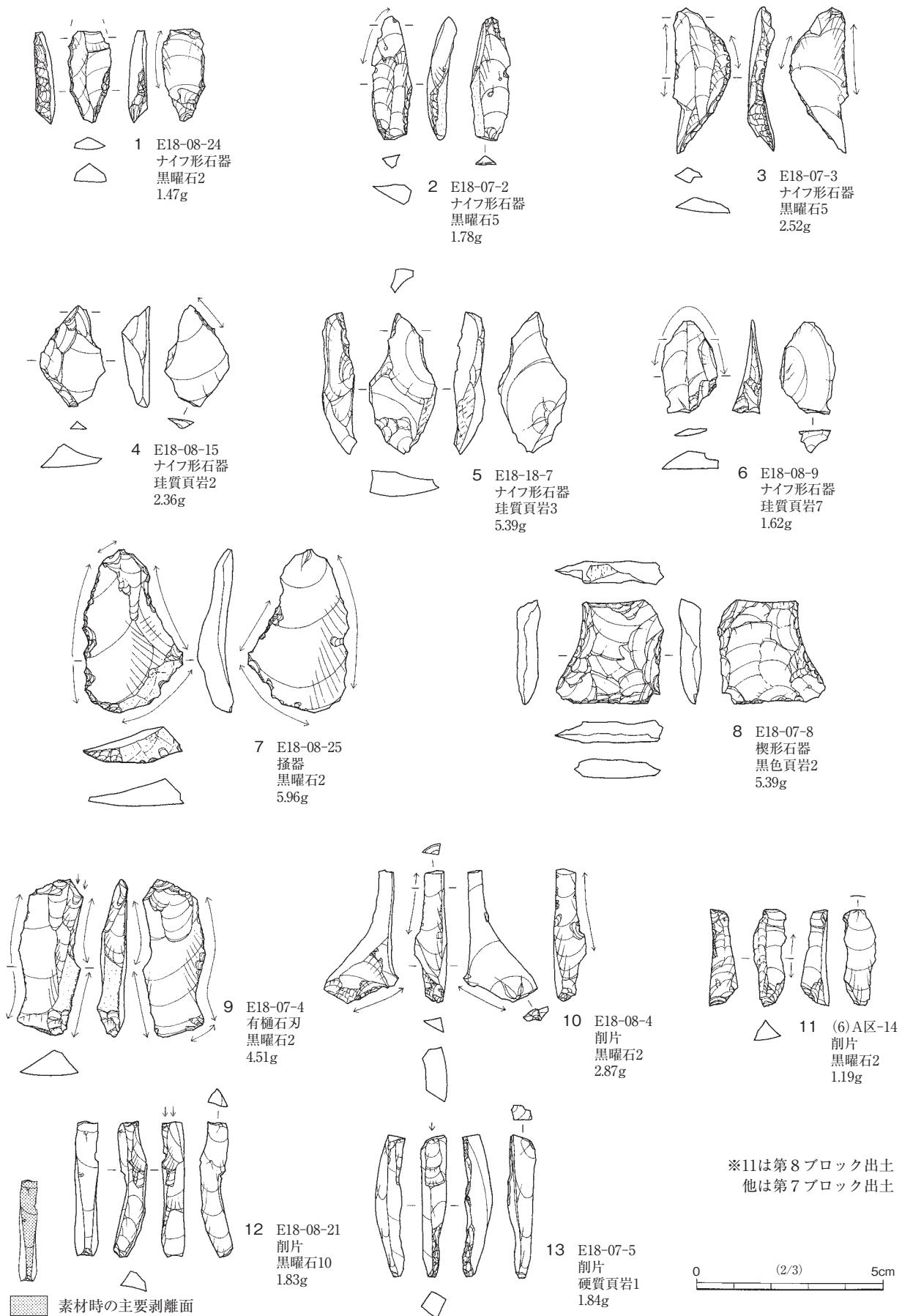
10～13は大型の石刃から剥離された削片である。10は素材尾部(下部)に設けられた小口面を打面とし、側縁が背稜となるよう作出された資料である。背面には先に剥ぎ取られた削片の剥離面が残っているため、背腹両面に同じ方向の剥離痕が現れている。打面部は欠損する。先に剥離されたものはフェザーエンドだが、本資料の末端は底面を大きく取り込むウートラパッセであり、破損品と目される。薄い稜上には微細な欠けが連続しているが、素材時の刃こぼれが特に顕著である。11の背面には両端からの剥離痕がせめぎ合う。断面はほぼ正三角形で打面は線状、楔形石器ともとらえられよう。10・11の母岩は黒曜石2である。12の素材時の主要剥離面を展開図左に示した。12が剥離される前に、下端を固定した状態で同じ方向から複数加撃されており、同様の削片が作出された可能性がある。下端には潰れ痕と小剥離痕が遺存する。母岩である黒曜石10は赤褐色と黒色が混在する不透明な石材であり、ごく少量の夾雜物を含んではいるが極めて良質で希少性が高い。第4文化層第9～11ブロックの黒曜石1～6と色調は近似するが、より滑らかな質感である。13は細長い四角柱状で断面は正方形に近い。板状の削片の小口面から剥離された削片である。下方側面にみられる細かな剥離痕は主要剥離面に及んでおらず、二次加工か否かは不明であるが、末端には潰れ状の剥離が残っており、刺突具として使用された可能性がある。硬質頁岩1が母岩である。

14は第7ブロックから出土した石片3点が接合し、1点の削片に復元された。背稜から振り分けるように加撃され大型の削片が作出された痕跡が残る。石核の器面調整を兼ねた削片であろう。緑青色を帯びた灰色でザラ感がある。新欠部分は黒く、磁性が強い。

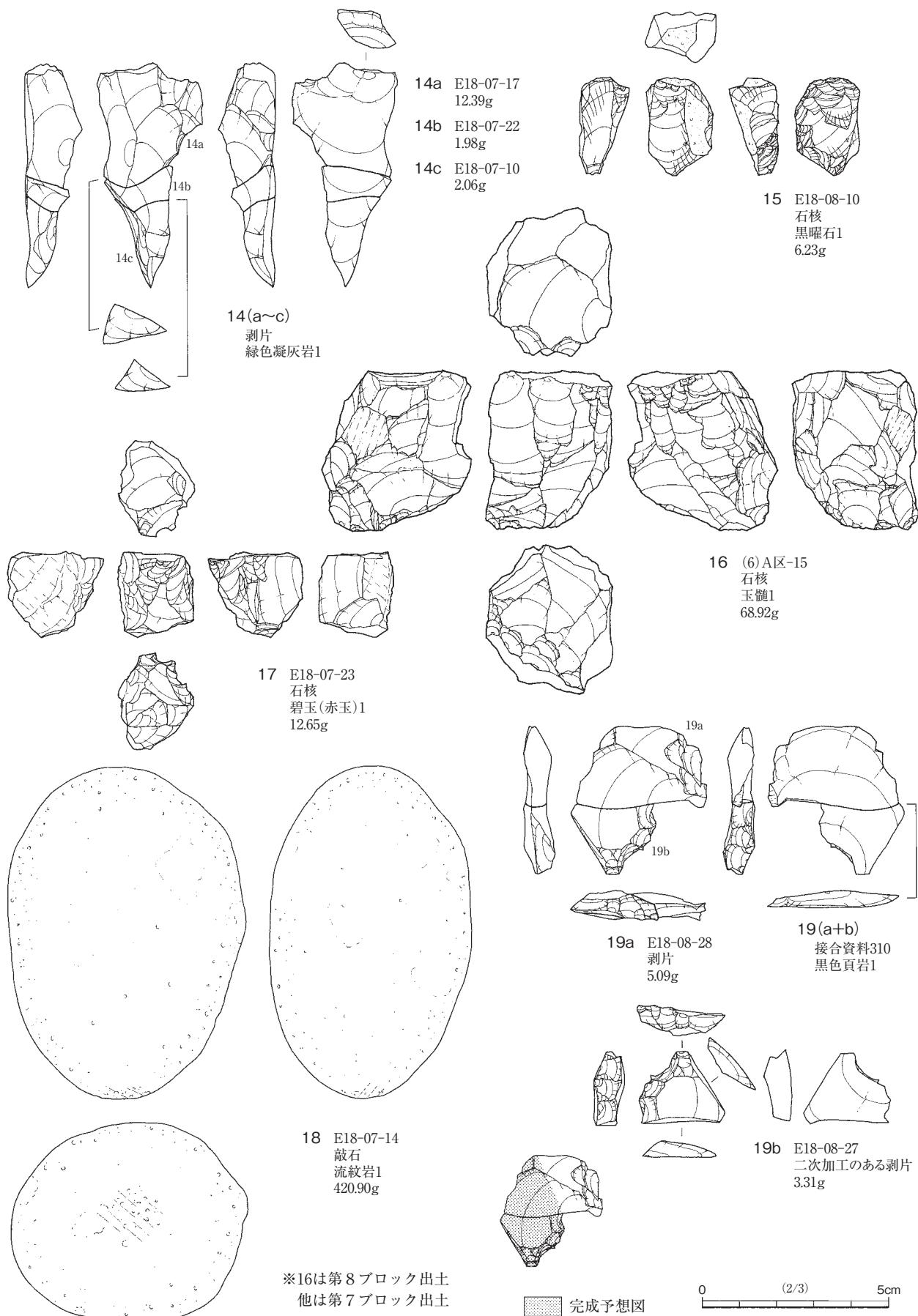
15～17は石核である。15は上面の自然面から正・裏面へ下部を固定した状態で剥離作業が行われるが、その際に稜線をすり潰すような細かな調整が施されている。正面と上面に光沢のない平坦な自然面が残る。灰色の濃淡が霧のような質感の黒曜石1が母岩である。16は打面調整、頭部調整が施され、打面再生など、規格的な削片生産の痕がみられる資料である。単設打面から器軸を回転させながら同一方向に加撃されるが次第に力は末端に届かなくなり、寸詰まりの削片が作られる。17はサイコロ状である。作業面は正面と下面にみられ、黄灰色の節理面を打面にした数片の剥離の後、正面側に作業面を移す。上面の縁辺は直径4.0mmの半円形に穿たれており、突出した先端部を持つ加撃具が使用されたことが確認できる。碧玉(赤玉)1の剥離面は黄褐色から小豆色の油脂状光沢があり、一部に明黄灰色で細粒の凝灰質部分がある。

18は敲石である。家鴨卵大で長幅比は1.40である。一端に、器面の荒れがわずかに感じられる程度のごく弱い擦・敲痕がある。黄緑色で、茶色、灰色、淡黄色の斑晶が万遍なく入る流紋岩製である。

19は接合資料であるが、ナイフ形石器の破損品と考えられる。このため変則的ではあるが予想される完成形を想定して接合図を実測、展開し、網掛けを施した。素材は黒色頁岩1の貝殻状削片である。厚みの



第13-25図 第3文化層第7・8ブロック出土石器(1)



第13-26図 第3文化層第7・8ブロック出土石器(2)

第13-12表 第3文化層第7ブロック組成表

母岩	器種	母岩番号	ナイフ形石器	搔器	楔形石器	有撓石刃	二次加工のある剥片	微細剥離痕のある剥片	削片	剥片	碎片	石核	敲石	礫	礫片	点数合計	点数比(%)	重量合計(g)	重量比(%)
ガラス質黒色安山岩		2								1						1	1.33	19.96	1.58
トロトロ石		1							1	1						2	2.67	1.32	0.10
安山岩		999											1		1	1.33	511.21	40.58	
流紋岩		1										1			1	1.33	420.90	33.41	
		999												1	1	1.33	6.20	0.49	
流紋岩	小計													1	1	2	2.67	427.10	33.90
黒曜石		1							1							10	13.33	16.41	1.30
		2	1	1			1	1	1	2	1	1				10	13.33	27.79	2.21
		4					1								1	1.33	4.31	0.34	
		5	2												2	2.67	4.30	0.34	
		7								1					1	1.33	1.97	0.16	
		8								2					2	2.67	2.33	0.18	
		10								1					1	1.33	1.83	0.15	
黒曜石	小計	3	1	1	1	2	1	3	12	1	2				27	36.00	58.94	4.68	
緑色凝灰岩		1								1(3)						1(3)	4.00	16.43	1.30
砂質岩		999													1	1	1.33	80.51	6.39
頁岩		1								3(4)						3(4)	5.33	7.80	0.62
		2								2					2	2.67	2.22	0.18	
		3								1					1	1.33	0.34	0.03	
頁岩	小計									7					6(7)	9.33	10.36	0.82	
珪質頁岩		1								1					1	1.33	8.34	0.66	
		2	1							6	2				9	12.00	13.37	1.06	
		3	1							2					3	4.00	38.73	3.07	
		4						2(3)							2(3)	4.00	11.92	0.95	
		6						1							1	1.33	23.44	1.86	
		7	1												1	1.33	1.62	0.13	
珪質頁岩	小計	3					3(4)		9	2					17(18)	24.00	97.42	7.73	
嶺岡産珪質頁岩		1					1								1	1.33	0.65	0.05	
硬質頁岩		1								1					1	1.33	1.84	0.15	
黒色頁岩		1					2			4	2				8	10.67	15.12	1.20	
		2				1				1					2	2.67	6.29	0.50	
黒色頁岩	小計					1				5	2				10	13.33	21.41	1.70	
碧玉(赤玉)		1													1	1.33	12.65	1.00	
合計		6	1	2	1	5	4(5)	4	35(38)	6	3	1	1	2	71(75)	100.00	1,259.80	100.00	

※()は出土点数

第13-13表 第3文化層第8ブロック組成表

母岩	器種	母岩番号	微細剥離痕のある剥片	削片	剥片	碎片	石核	礫	点数合計	点数比(%)	重量合計(g)	重量比(%)
黒曜石		1	1			2			3	20.00	2.39	0.83
		2		1	1				2	13.33	2.77	0.96
		3				1			1	6.67	2.11	0.73
		6				1			1	6.67	0.80	0.28
		9	1						1	6.67	0.77	0.27
黒曜石	小計	2	1	3	2				8	53.33	8.84	3.05
緑色凝灰岩		1			1				1	6.67	3.53	1.22
砂岩		999						1	1	6.67	195.30	67.45
珪質頁岩		5	1						1	6.67	6.01	2.08
		6				1			1	6.67	5.33	1.84
珪質頁岩	小計	1			1				2	13.33	11.34	3.92
玉髓		1			2		1		3	20.00	70.54	24.36
合計		3	1	7	2	1	1	1	15	100.00	289.55	100.00

ある中心部に主要剥離面側から急角度の加工が連続して施されるが、上部に向かう調整痕は折れによって寸断される。

- 注1 新田浩三 1995『下総型石刃再生技法の提唱』『研究紀要16』(財)千葉県文化財センター
- 2 矢本節朗 1996『多古町千田台遺跡-BR/W南側NDB用地無線施設埋蔵文化財調査報告書-』(財)千葉県文化財センター
- 3 矢本節朗 1991『千田台遺跡』『平成3年度千葉県遺跡調査研究発表要旨』(財)千葉県文化財センター
- 4 山岡磨由子 2009『流山新市街地地区埋蔵文化財調査報告書4-流山市市野谷二反田遺跡-』(財)千葉県教育振興財団
- 5 田村 隆ほか 1986『常磐自動車道埋蔵文化財調査報告書IV-元割・聖人塚・中山新田I-』(財)千葉県文化財センター
- 6 新田浩三 2009『柏北部中央地区埋蔵文化財調査報告書2-柏市原山遺跡-旧石器時代編』(財)千葉県教育振興財団
- 7 田島 新 1991『佐倉市栗野I・II遺跡』『佐倉第三工業団地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書VIII』(財)千葉県文化財センター
- 8 田村 隆ほか 1995『滝東台遺跡』『油井古塚原遺跡群』(財)山武郡市文化財センター
- 9 清藤一順ほか 1984『常磐自動車道埋蔵文化財調査報告書II-花前I・中山新田II・中山新田III-』(財)千葉県文化財センター

第5節 第4文化層

1 概要(第13-27図、第13-14表)

第4文化層は立川ロームV層～IV層下部に生活面を持つ石器群である。総点数205点、4か所のブロックが検出された。千葉県内のV層～IV層下部の石器群の多くは礫群を伴うが、館林II遺跡はほぼ石器のみで構成されており、10点以上の礫・礫片のまとまりはなかった。遺跡の範囲が東西に細長く区切られているため、北側、あるいは南側に礫分布の広がりがあった可能性は否めない。

4か所のブロックは、西側に黒曜石主体の第9～11ブロック、東側にチャート主体の第12ブロックが約100m離れて立地している。東西間の石材に共通性はなく西側では角錐状石器、東側では切出状のナイフ形石器と、狩猟具の形態にも違いがみられる。

第9～11ブロックの98点は南北16m、東西19mの範囲内に分布し、70%近くが黒曜石である。これらを肉眼観察によって7分類したが、6母岩(黒曜石1～6)に赤褐色の部分がモザイク状に混在する特徴がみられ、産出地が近在する可能性が高いと考えられる。一方、赤みを含まない黒曜石7は第10ブロックのごく狭い範囲に4点、このまとまりから北東に約30m離れて1点が分布している。

なお、第9～11ブロックは近接し、石材・器種に共通性があり、接合関係がみられることから、第13-28・32～34図、第13-18表に3ブロックをまとめて図表化し、分布図、組成表は個々にも作成した。

第13-14表 第4文化層ブロック別組成表

ブロック	石材	器種	角錐状 石器	ナイフ形 石器	石錐	二次加工 のある剥片	微細剥離痕 のある剥片	剥片	碎片	石核	磨石類	礫	礫片	点数 合計	点数比 (%)	重量合計 (g)	重量比 (%)	
9	ガラス質黒色安山岩							1						1	0.49	8.18	0.65	
	安山岩													1	0.49	38.13	3.04	
	黒曜石	2		1		1	☆19(20)	25	1					☆49(50)	24.39	44.72	3.56	
	珪質泥岩		1											1	0.49	3.81	0.30	
	珪質頁岩	1	2					1	1					5	2.44	18.44	1.47	
	黒色頁岩							1	1(2)					2(3)	1.46	241.14	19.22	
	ホルンフェルス													1	0.49	1.69	0.13	
	チャート													1	0.49	1.21	0.10	
	碧玉(黄玉)	1												1	0.49	7.79	0.62	
第9ブロック小計		4	3	1		1	☆22(23)	26	2(3)	1				2	☆62(64)	31.22	365.11	29.10
10	ガラス質黒色安山岩		1		1	7								9	4.39	17.00	1.36	
	黒曜石	2		1	1	1	6(7)	1						11(12)	5.85	20.51	1.63	
	凝灰岩					2								2	0.98	49.98	3.98	
	珪質頁岩							1	1					2	0.98	1.13	0.09	
	チャート							1						1	0.49	6.36	0.51	
第10ブロック小計			3		2	3	15(16)	2						25(26)	12.68	94.98	7.57	
11	石英斑岩													1	0.49	166.86	13.30	
	黒曜石							1						1	0.49	0.27	0.02	
	砂岩													2	0.98	269.15	21.45	
	珪質頁岩				1									1	0.49	1.00	0.08	
	黒色頁岩					1								1	0.49	32.95	2.63	
	チャート													2	0.98	66.36	5.29	
第11ブロック小計					1	1	1							8	3.90	536.59	42.77	
9～11単独	黒曜石	1												1	0.49	1.01	0.08	
第9～11ブロック単独出土小計				1												1.01	0.08	
12	流紋岩													1	0.49	50.12	3.99	
	黒曜石	2						2	1					5	2.44	10.81	0.86	
	砂岩													1	0.49	14.77	1.18	
	珪質頁岩	1												1	0.49	1.71	0.14	
	チャート	3		3	1	67	22	1						97	47.32	179.48	14.31	
第12ブロック小計			6		3	1	69	23	1					106	51.71	256.89	20.48	
合計			4	13	1	6	6	107(109)	51	3(4)	1	2	8	202(205)	100.00	1,254.58	100.00	

※()は出土点数
☆ブロック間で接合(第9ブロック+第10ブロック)した2片で1点の剥片を含む

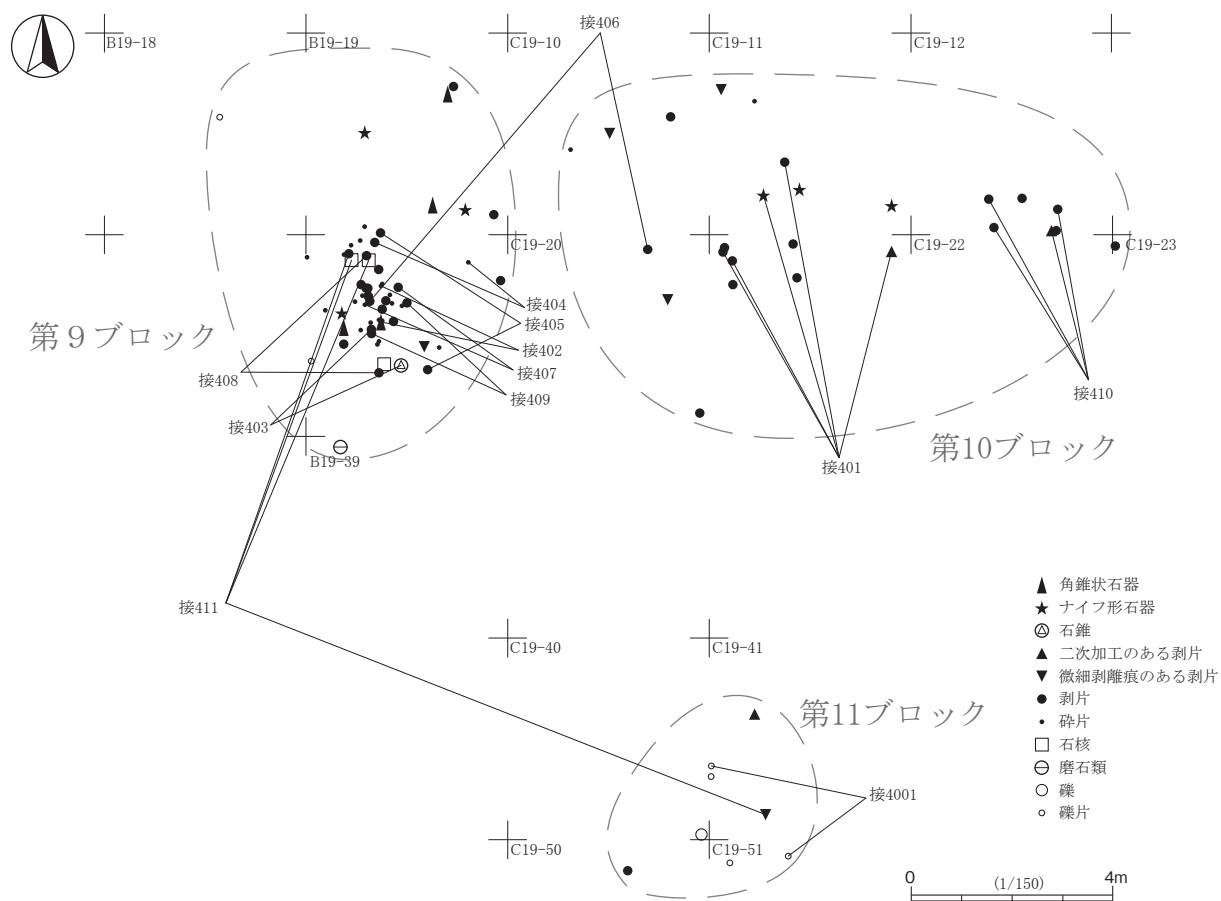
2 第9～11ブロック(第13-28～34図、第13-15～18表、図版32・41・42)

出土状況 第9ブロックの64点は、3m四方の黒曜石密集域であるB19-29グリッドを中心とした長軸8.0m、短軸6.0mの範囲に分布し、標高15.9m～17.0mの1.1m間に包含される。主要な器種としては、角錐状石器4点、ナイフ形石器3点、石錐1点、磨石類1点が出土しており、利器の割合が高い。石材は黒曜石が50点で78%を占め、珪質頁岩5点、黑色頁岩3点と続く。黒曜石密集域で出土した角錐状石器2点はいずれも欠損品であるが、密集域から外れて分布する碧玉製、珪質頁岩製の2点は完形品である。

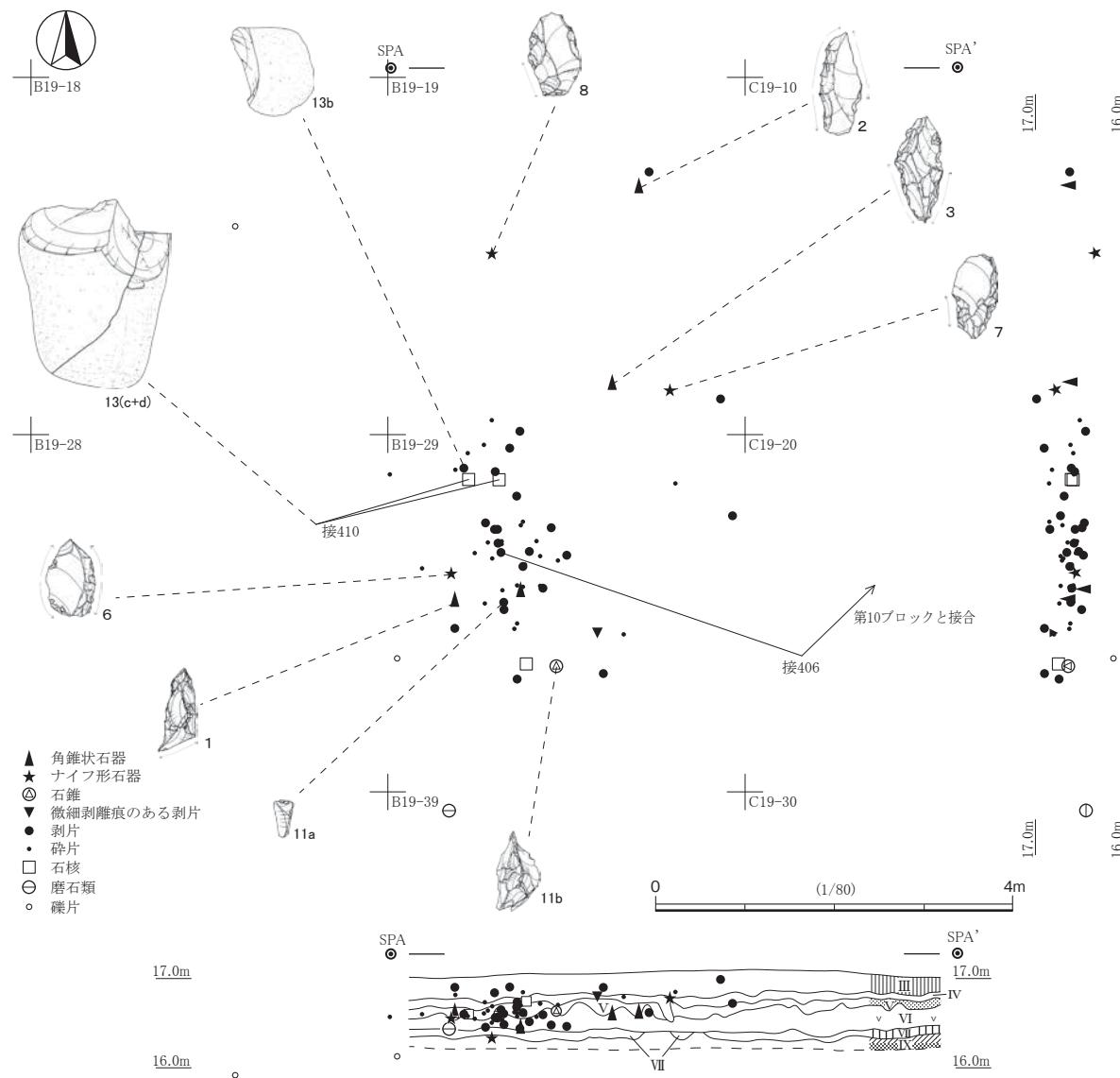
第10ブロックでは、26点がC19-10～12、C19-20～23グリッドの長軸11.0m、短軸7.0mの範囲に散漫に分布する。石器が出土した標高は16.5m～16.9mの0.4m間である。主要な器種としてはナイフ形石器3点があげられる。石材は多い順に黒曜石12点、ガラス質黑色安山岩9点、凝灰岩2点、珪質頁岩2点であり、第9ブロック同様、黒曜石が多出する。

第11ブロックは第9・10ブロックから南に10mほど離れた直径4.2mの円内に8点が分布するが、そのうち5点は礫・礫片である。石器は標高16.5m～16.9mの0.4m間に包含される。少数出土ながら石材は6種を数え、黒曜石は1点に留まる。

ブロック間の接合状況は第13-28・32図のとおりで、黒曜石の剥片・碎片が密集する第9ブロックには第10・11ブロックと接合する資料があるが、第10ブロックと第11ブロック間では接合資料、共通する母岩はない。これらを示すにあたり、第9～11ブロックの器種別分布図を個々に作成し、母岩別分布で3か所のブロックをまとめて提示した。



第13-28図 第4文化層第9～11ブロック器種別分布

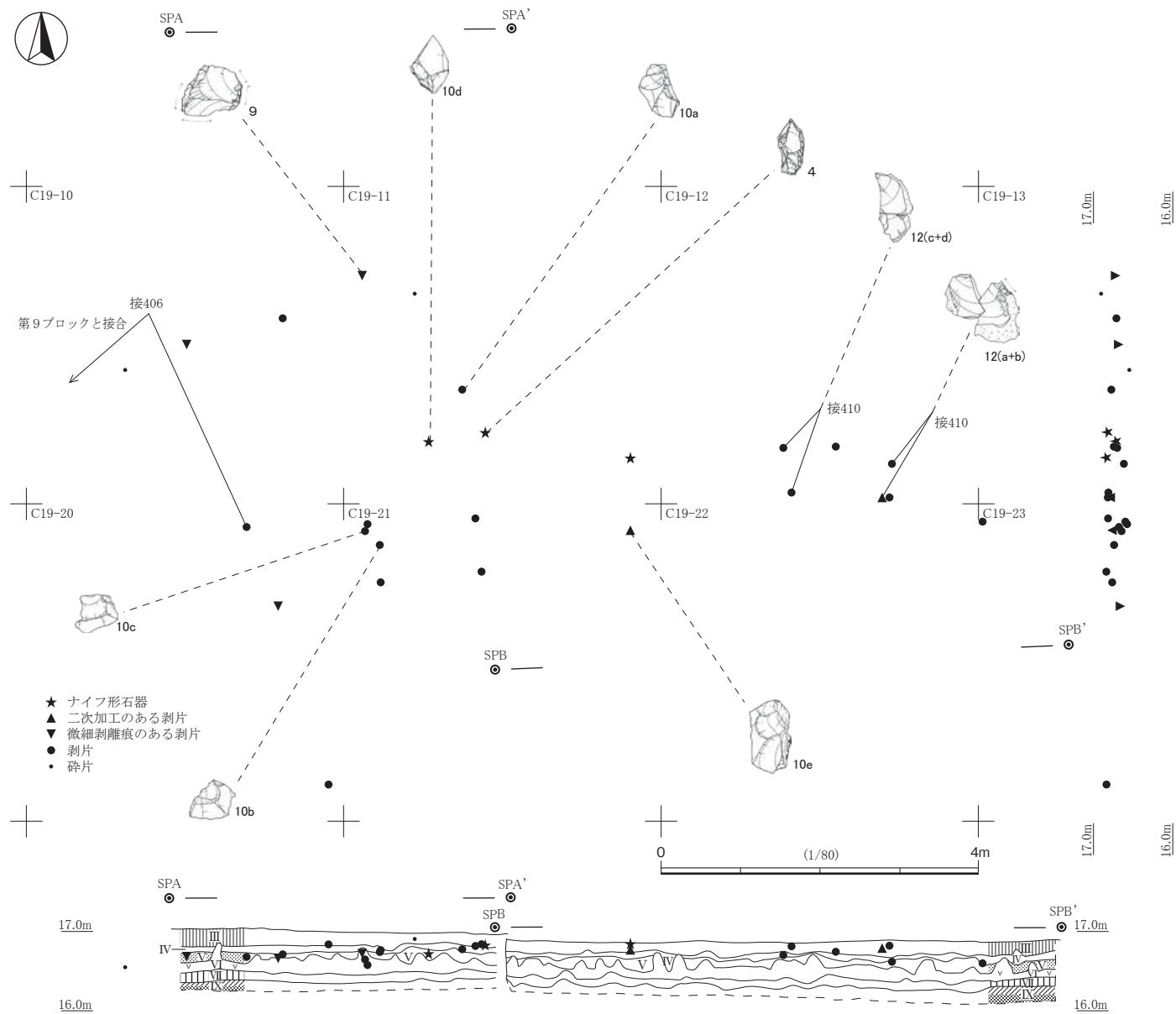


第13-29図 第4文化層第9ブロック器種別分布

第13-15表 第4文化層第9ブロック組成表

母岩	器種	母岩番号	角錐状石器	ナイフ形石器	石錐	微細剥離痕のある剥片	剥片	碎片	石核	磨石類	礫片	点数合計	点数比(%)	重量合計(g)	重量比(%)	
ガラス質黒色安山岩		1					1					1	1.56	8.18	2.24	
安山岩		1								1		1	1.56	38.13	10.44	
黒曜石	1	1		1	1	☆15(16)	15	1				☆34(35)	54.69	39.21	10.74	
	2					4	10					14	21.88	2.09	0.57	
	3	1										1	1.56	3.42	0.94	
黒曜石小計		2		1	1	☆19(20)	25	1				☆49(50)	78.13	44.72	12.25	
珪質泥岩		1		1								1	1.56	3.81	1.04	
珪質頁岩	1	1										1	1.56	6.53	1.79	
	2		1									1	1.56	5.34	1.46	
	3		1									1	1.56	5.70	1.56	
	4					1						1	1.56	0.64	0.18	
	5						1					1	1.56	0.23	0.06	
珪質頁岩小計		1	2			1	1					5	7.81	18.44	5.05	
黒色頁岩		1				1		1(2)				2(3)	4.69	241.14	66.05	
ホルンフェルス	999											1	1	1.56	1.69	0.46
チャート	999											1	1	1.56	1.21	0.33
碧玉(黄玉)	1	1										1	1.56	7.79	2.13	
合計			4	3	1	1	☆22(23)	26	2(3)	1	2	☆62(64)	100.00	365.11	100.00	

※()は出土点数

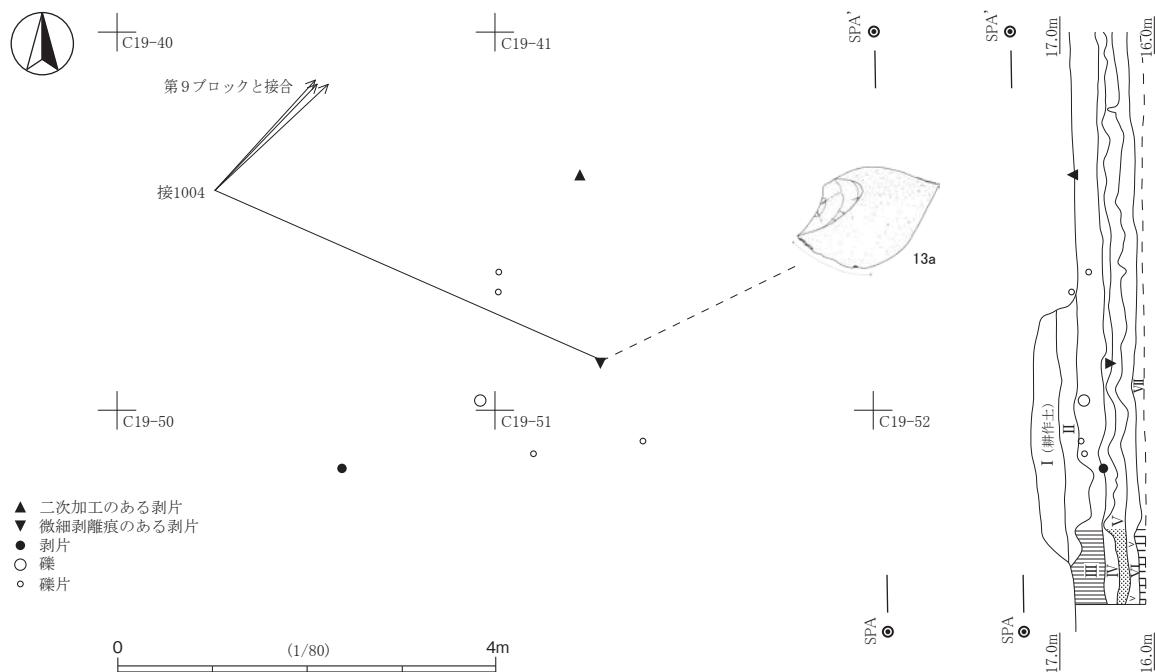


第13-30図 第4文化層第10ブロック器種別分布

第13-16表 第4文化層第10ブロック組成表

母岩	器種	母岩番号	ナイフ形石器	二次加工のある剥片	微細剥離痕のある剥片	剥片	碎片	点数合計	点数比 (%)	重量合計 (g)	重量比 (%)
黒曜石	ガラス質黒色安山岩	2	1	1		7		9	33.33	17.00	17.71
		1	1			3	1	5	18.52	7.51	7.82
		2				1		1	3.70	0.77	0.80
		4			1			1	3.70	3.49	3.64
		6	1					1	3.70	2.01	2.09
		7	★1	1		2(3)		4(5)	18.52	7.74	8.06
	黒曜石小計		★3	1	1	6(7)	1	★12(13)	48.15	21.52	22.42
凝灰岩		1			2			2	7.41	49.98	52.07
珪質頁岩	珪質頁岩	6				1	1	3.70	0.15	0.16	
		7				1	1	3.70	0.98	1.02	
珪質頁岩小計						1	1	2	7.41	1.13	1.18
チヤート		1				1		1	3.70	6.36	6.63
合計			★4	2	3	15(16)	2	★26(27)	100.00	95.99	100.00

※ ()は出土点数
★ 第9~11ブロック単独出土1点を含む



第13-31図 第4文化層第11ブロック器種別分布

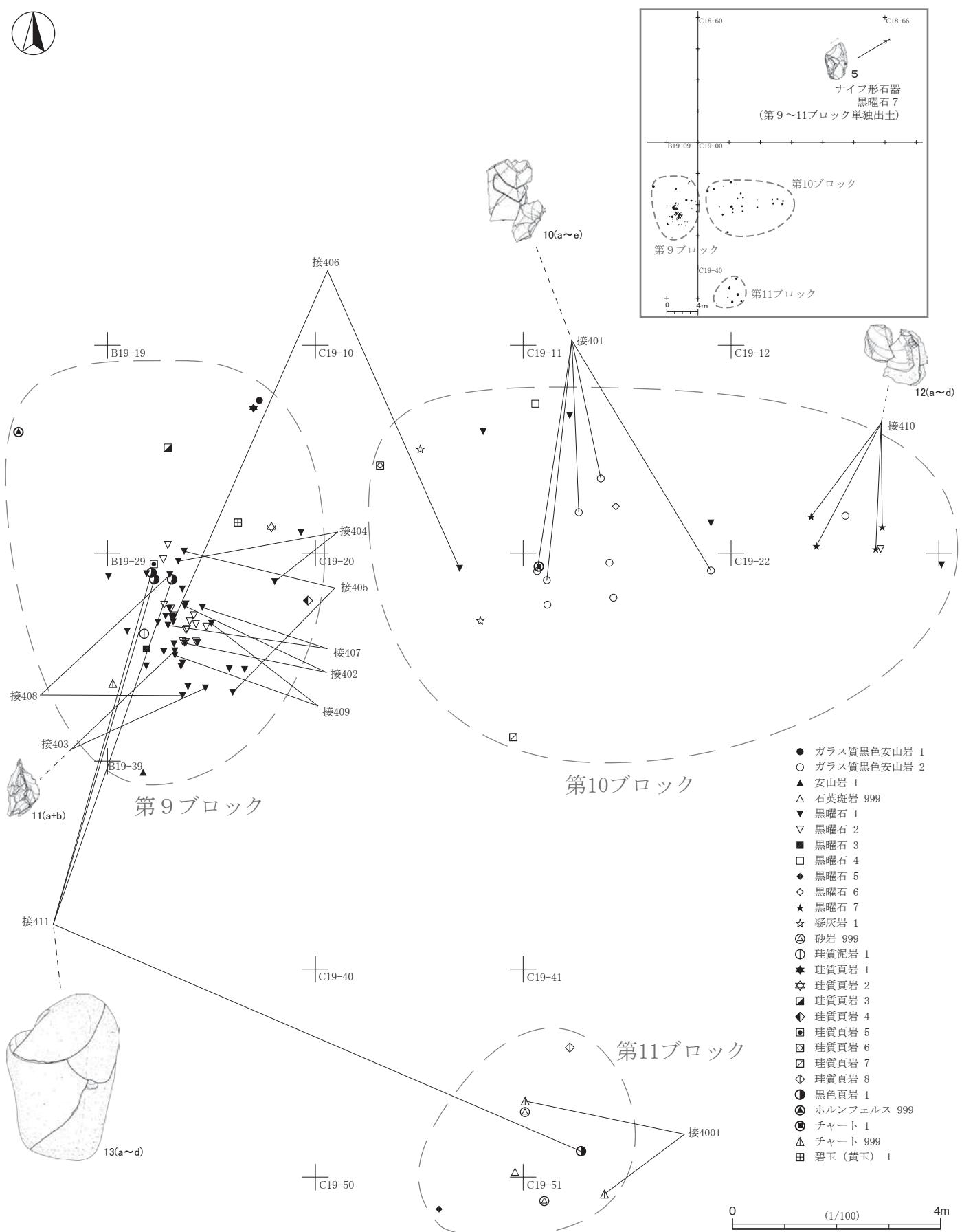
第13-17表 第4文化層第11ブロック組成表

母岩	器種	母岩番号	二次加工のある剥片	微細剥離痕のある剥片	剥片	碓	碓片	点数合計	点数比 (%)	重量合計 (g)	重量比 (%)
石英斑岩		999				1		1	12.50	166.86	31.10
黒曜石		5			1			1	12.50	0.27	0.05
砂岩		999					2	2	25.00	269.15	50.16
珪質頁岩		8	1					1	12.50	1.00	0.19
黒色頁岩		1		1				1	12.50	32.95	6.14
チヤート		999					2	2	25.00	66.36	12.37
合	計				1	1	1	4	100.00	536.59	100.00

第13-18表 第4文化層第9～11ブロック組成表

母岩	器種	母岩番号	角錐状石器	ナイフ形石器	石錐	二次加工のある剥片	微細剥離痕のある剥片	剥片	碎片	石核	磨石類	碓	碓片	点数合計	点数比 (%)	重量合計 (g)	重量比 (%)
ガラス質黒色安山岩		1						1						1	1.01	8.18	0.82
		2		1		1			7					9	9.09	17.00	1.71
ガラス質黒色安山岩	小計			1		1			8					10	10.10	25.18	2.53
安山岩		1								1				1	1.01	38.13	3.83
石英斑岩		999												1	1.01	166.86	16.74
黒曜石		1	1	1	1	1	18(19)	16	1					39(40)	40.40	46.72	4.69
		2						5	10					15	15.15	2.86	0.29
		3	1											1	1.01	3.42	0.34
		4						1						1	1.01	3.49	0.35
		5							1					1	1.01	0.27	0.03
		6		1										1	1.01	2.01	0.20
		7	★1			1	2(3)							★4(5)	5.05	6.73	0.68
黒曜石	小計	2	★3	1	1	2	26(28)	26	1					★62(64)	64.65	65.50	6.57
凝灰岩		1					2							2	2.02	49.98	5.01
砂岩		999												2	2.02	269.15	27.00
珪質泥岩		1		1										1	1.01	3.81	0.38
珪質頁岩		1												1	1.01	6.53	0.66
		2	1											1	1.01	5.34	0.54
		3	1											1	1.01	5.70	0.57
		4						1						1	1.01	0.64	0.06
		5							1					1	1.01	0.23	0.02
		6							1					1	1.01	0.15	0.02
		7							1					1	1.01	0.98	0.10
		8		1										1	1.01	1.00	0.10
珪質頁岩	小計	1	2		1		2	2						9	8.08	24.38	2.06
黒色頁岩		1				1	1	1(2)						3(4)	4.04	274.09	27.50
ホルンフェルス		999												1	1.01	1.69	0.17
チヤート		1					1							1	1.01	6.36	0.64
		999												3	3.03	67.57	6.78
チヤート	小計							1						3	4.04	73.93	7.42
碧玉(黄玉)		1	1											1	1.01	7.79	0.78
合	計	4	★7	1	3	5	38(40)	28	2(3)	1	1	6	★96(99)	100.00	996.68	100.00	

※ () は出土点数
★ 第9～11ブロック単独出土1点を含む



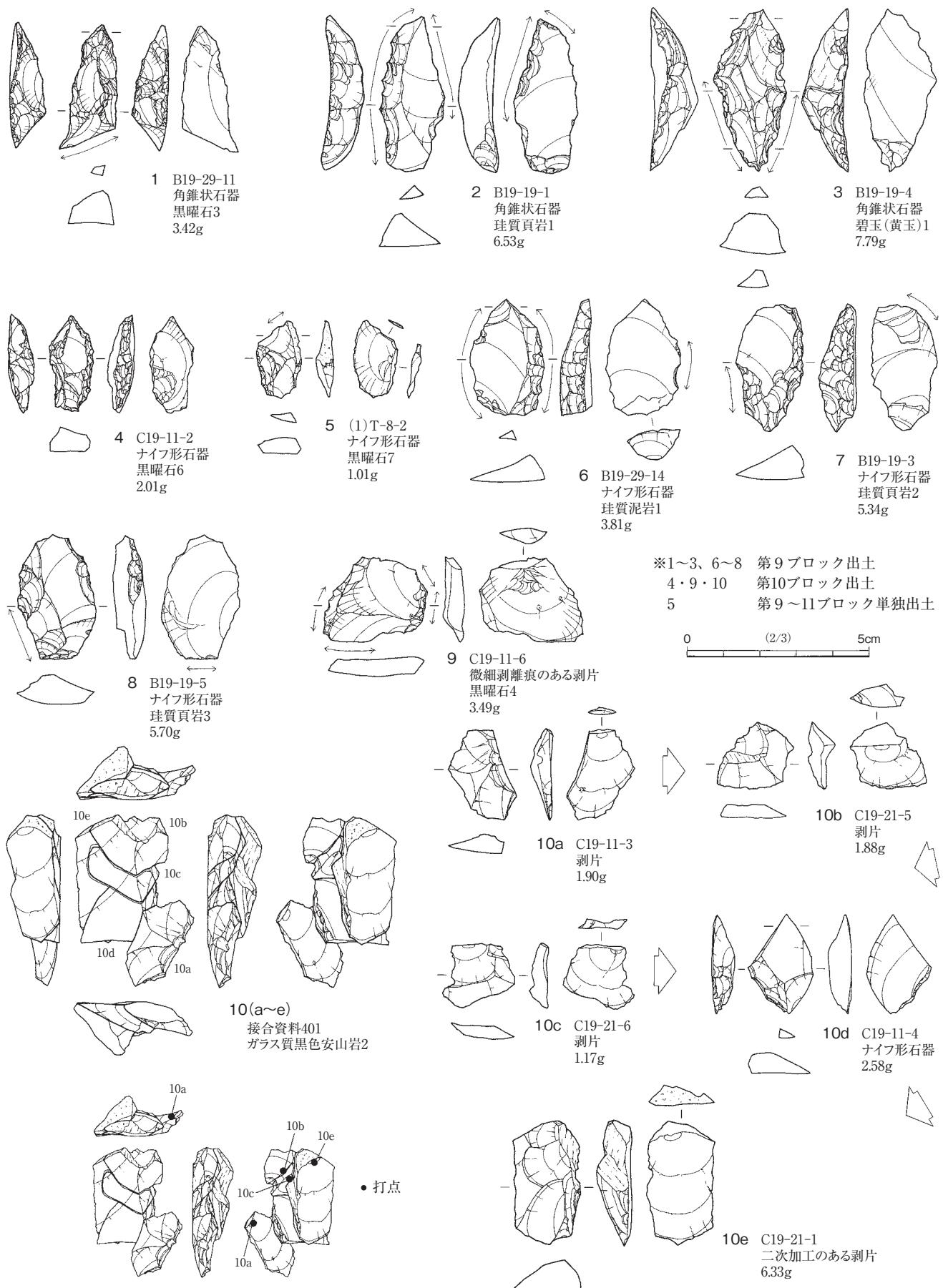
出土遺物 1～3は角錐状石器である。1は稜に交互剥離痕の残る横長剥片を素材とする。主要剥離面から背面方向に急角度の調整加工が施され、断面形は山高の四角形状となる。調整時の折れにより下半部が欠損しているが、その折面に現れた縁辺を刃部として利用している。黒曜石3を母岩とする。概要でも述べたが、第9～11ブロックで出土した黒曜石1～6は赤褐色混じりであり、同じ産地からもたらされた可能性が高い。黒曜石3はこの中では赤みが少なく黒色が強めである。2は素材の主要剥離面を打面とし、一側縁に急角度の剥離を、その対縁基部に下方から剥離を施した角錐状石器である。一見無加工の刃部を持つナイフ形石器に見えるが、右上半部には背面側から調整加工が施され、刃部としての鋭さが緩和される反面、刺突具としての機能性が付加されている。濃淡のある明黄褐色の珪質頁岩1が母岩であり、完成品として搬入されている。3は横長剥片を素材とし、全体の形状は菱形を呈する。最大厚は中央よりやや下方にあり、山高である。右上方から背面側に向けて加撃され、器面が大きく削がれた後、縁辺に微細な調整が加えられている。濃灰色、淡褐色、赤褐色が縞状に並ぶ碧玉(黄玉)1を素材とする。

4～8はナイフ形石器である。4は横長剥片の打面側に急角度の基部加工が施されている。素材打面部は粗い成形ののち刃潰し加工が行われ、面的な様相をみせる。母岩は黒曜石6である。5は横長剥片の素材打面部を基部とし、刃部に微細剥離がみられる。上層の確認調査時、8トレンチから出土しているが、第9～11ブロックの黒曜石7と同一母岩である。6は縦長の剥片が素材である。右側縁に主要剥離面側から65°～75°の加工が施されており、左右縁辺に刃こぼれのような微細剥離痕が観察される。素材の打面は背面側から除去される。白色で微光沢があり、ガジリ部分は白墨のような粉質の感触がある珪質泥岩1である。7は厚みのある縦長剥片が素材である。右側縁は急角度、左下縁は背面側へ40°ほどのやや平坦な加工が施される。上部には薄く削がれたような衝撃剥離痕がみられる。上部の微細剥離痕は使用による磨耗と欠け、基部にはグラインディングの痕がみられる。わずかに褐色を帯びた黒色の珪質頁岩2が母岩である。8は横長剥片素材である。素材打面部は主要剥離面側から加撃され、60°～65°の平坦剥離となる。下部から上へ向かう小剥離痕は使用時の衝撃によって派生した可能性がある。母岩は灰白色で油脂状光沢を持つ良質な珪質頁岩3である。

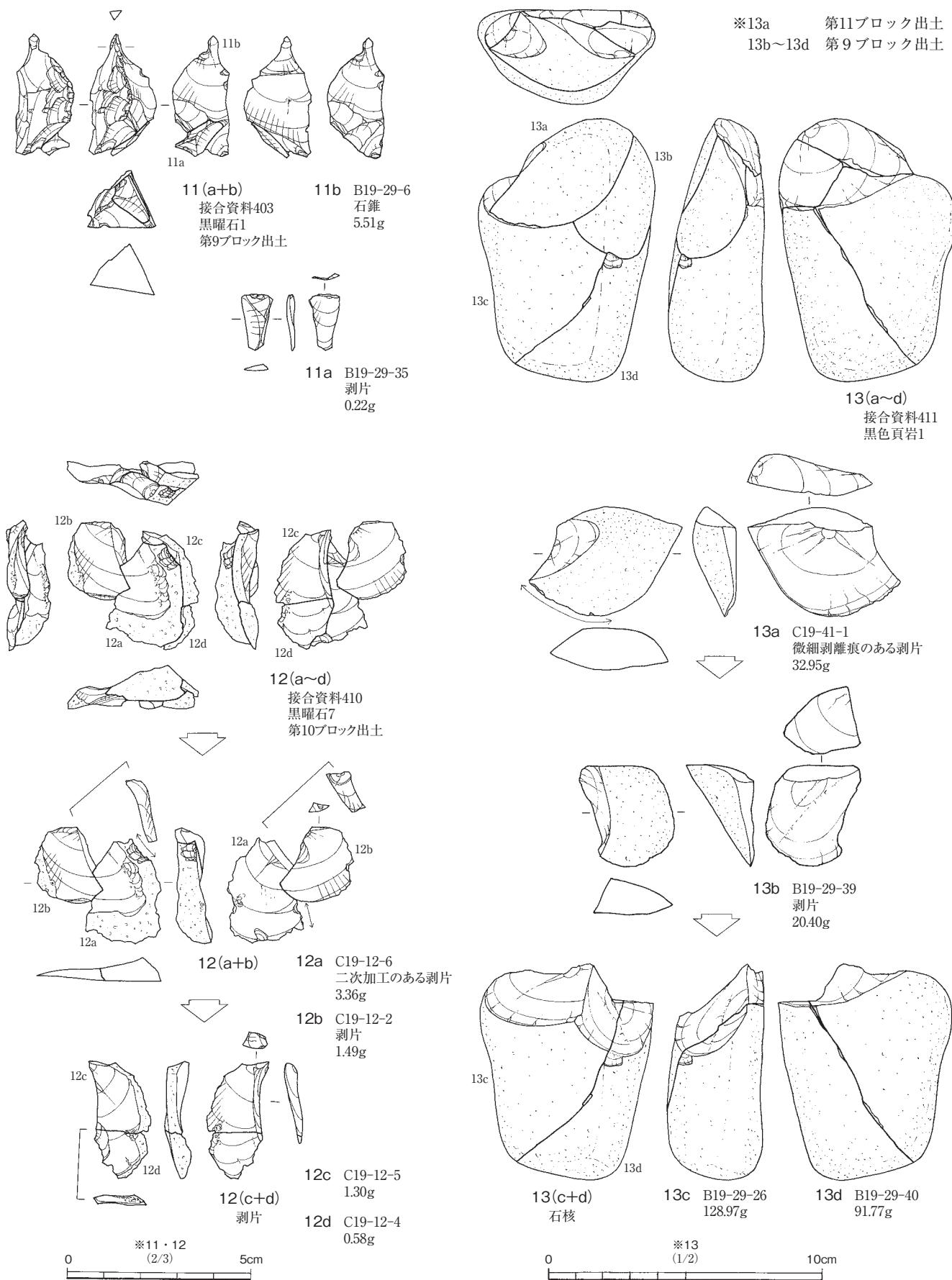
9は微細剥離痕のある剥片である。左側縁に連続する刃こぼれの形状から、ナイフとして機能していた可能性がある。母岩は黒曜石4で黒曜石1～3と同様に赤みのある黒色だが、器厚の薄い部分では光を透過するため別母岩とした。

10～13は接合資料である。10の母岩であるガラス質黒色安山岩2は、C19-11・12グリッドの6.5m×3.0mの範囲に9点が分布し、このうち5点が接合した。接合は1.8m×1.4mの狭い範囲内で確認された。素材は厚みのある板状剥片で、小型の剥片を規格的に剥離し、それを素材として刃器を製作する工程がみられる。特に10dは幅広の菱形を呈する小型のナイフ形石器であり、素材打面部に基部加工が施され、上部截断により器形が整えられている。先端部の角度は70°で、刺突具としても有効な形状と思われる。10eの右側縁と下部には二次加工がみられる。11は石錐と剥片の接合資料である。11bの両端に錐機能部を設けている。素材の主要剥離面側には両極から加わった打撃によってリングのせめぎ合いがみられる。上・下端部凸、特に上部には三稜のうち一側縁に抉りを施し、より長い機能部作出が試みられている。背稜に潰れ状の小剥離痕が連続する。また、末端には使用による刃こぼれがみられる。黒曜石1が母岩である。

12はC19-12グリッドで出土した黒曜石7の4点が全点接合した。4点は2度の加撃で剥離されたものであり、12(a+b)、12(c+d)の2剥片が当初の組成であろう。12aには二次加工がみられるが12bの折れ



第13-33図 第4文化層第9~11ブロック出土石器(1)



第13-34図 第4文化層第9~11ブロック出土石器(2)

との新旧は不明である。黒曜石7はこのほかにもC18-08グリッドにてトレンチ8の調査時に出土しており、やや青みを帯びた透明度の高い剥離面には薄墨を流したような濃淡があり、夾雜物は少ない。ザラついた梨地の自然面が残る。

13は黒色頁岩1を母岩とする4点の接合資料である。礫端片剥離後の面を打面として13a、13bが順に剥離される。13b、13c、13dの3点は第9ブロック、13aは南方へ約13.7m離れた第11ブロックから出土した。13aは簡素だが合理的な刃器であり、半円弧状の縁辺の約1/2に使用による刃こぼれが看取される。左部の剥離痕と微細剥離の新旧は不明であるが、新たな刃部を作出するため、あるいは尖端部を得るための加工痕と推察される。

3 第12ブロック(第13-35~37図、第13-19表、図版32・42)

出土状況 調査区東部に位置し、E18-02・12・13・22・32・33グリッドの南北12.4m×東西5.0mの範囲で標高15.7m~16.6mの0.9m間に106点が分布する。石器はIXa層~Ⅲ層に分布し、V層~Ⅳ層に集中する。第1文化層第2ブロックの上位面にあたり、チャート1が89%を占める。分布の疎密から北域と南域に二分することが可能であるが、多出するチャート1の細分は困難であり、同一のブロックとして報告した。主要な石器は南域に多く、剥片・碎片、接合資料は北域に集中する。

出土遺物 1~5はナイフ形石器である。1は二側縁加工の切出状を呈し、肉厚な基部を持つ。素材時の打面は夾雜物によって失われ、刃部先端に微細な刃こぼれがみられるが、使用痕、もしくは尖鋭な端部を作出するための調整痕である可能性がある。自然面・風化剥離面は褐色のスリガラス状、剥離面は黒色不透明で、褐灰色の夾雜物が多数入る黒曜石1を母岩とする。目視であるが、高原山産と推定される。2は横長剥片を素材とした二側縁加工である。右側縁の調整には急角度の折面が利用され、左側縁下部は背勢の強い湾曲した基部を作出している。刃部に刃こぼれはみられないが、先端には調整時の欠損が看取される。銀白色で、灰白色の夾雜物を含む黒曜石2を母岩とする。

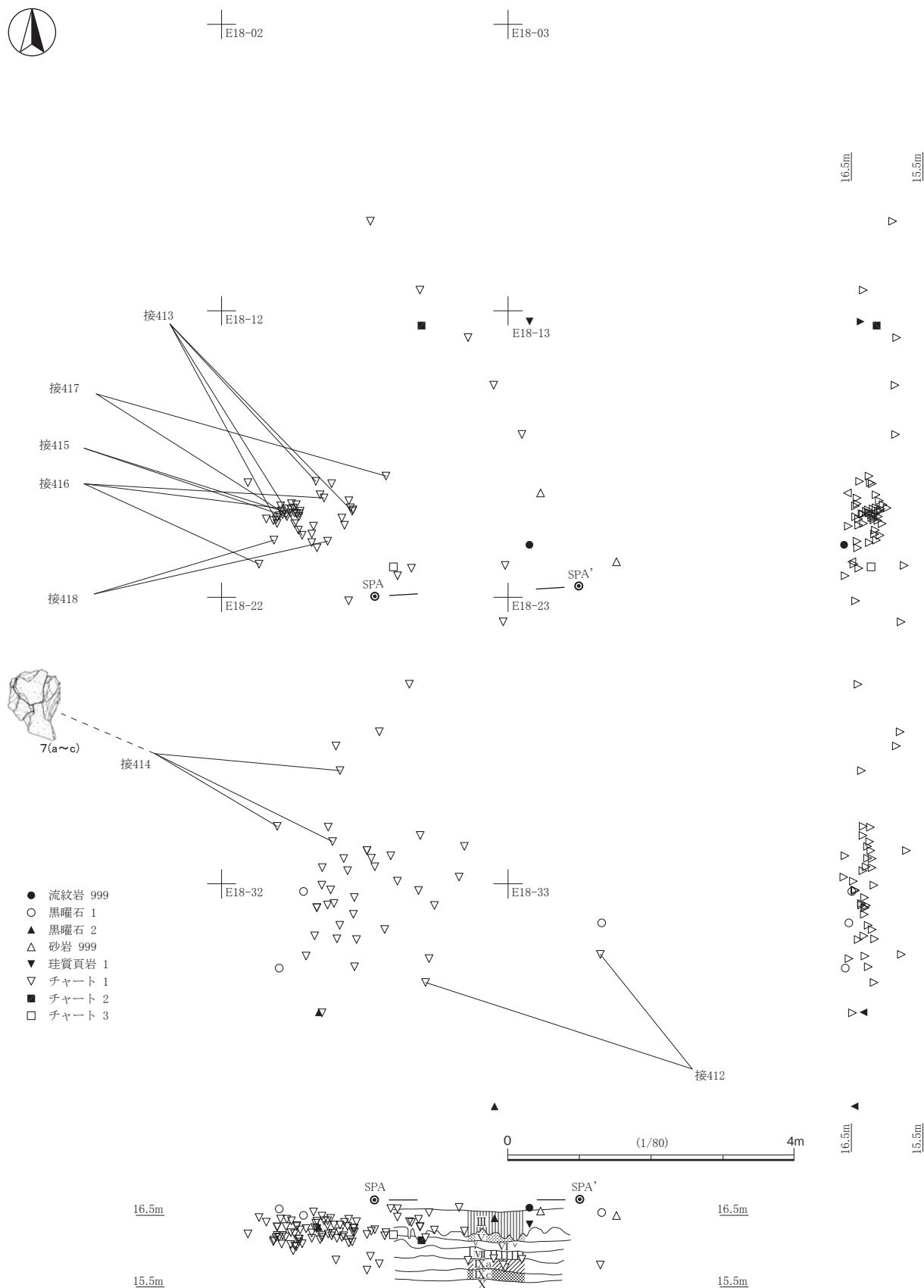
3の背面に残る打撃方向は主要剥離面と同一であり、規則的に剥離された縦長剥片を縦位に用いている。左側縁の縁辺すべてと対縁の基部付近が主要剥離面側から急角度に調整されているが、素材形状を大きく変えるものではない。素材打面は斜めに折れて遺存しない。直線状の刃部に微細な刃こぼれが連続する。灰白色で微光沢のある珪質頁岩1はこの1点のみの出土である。薄型木葉形で素材打面部のないナイフ形石器の出土例としては、印西市大割水溜遺跡¹⁾があげられる。4は横長剥片素材である。基部加工は正面下部にみられるが裏面には及んでいない。節理面が刃部にあたるため、著しく破損しているが、遺存する縁辺には微細剥離痕が観察される。5は貝殻状剥片を斜位に用いた二側縁加工であるが、刃部は欠損する。右側縁の加工は65°~83°、左側縁下部は50°ほどで、基部加工はすべて背面側にみられる。素材剥片の打面は複剥離打面であり、その稜上から加撃されているため、幅の広い器形であったことが想定される。

6は石核である。多方向から加撃されるが節理勝ちであり、有用な剥片作出は困難かと思われる。チャート1は95点出土しており、その中で最も重い54.52gである。

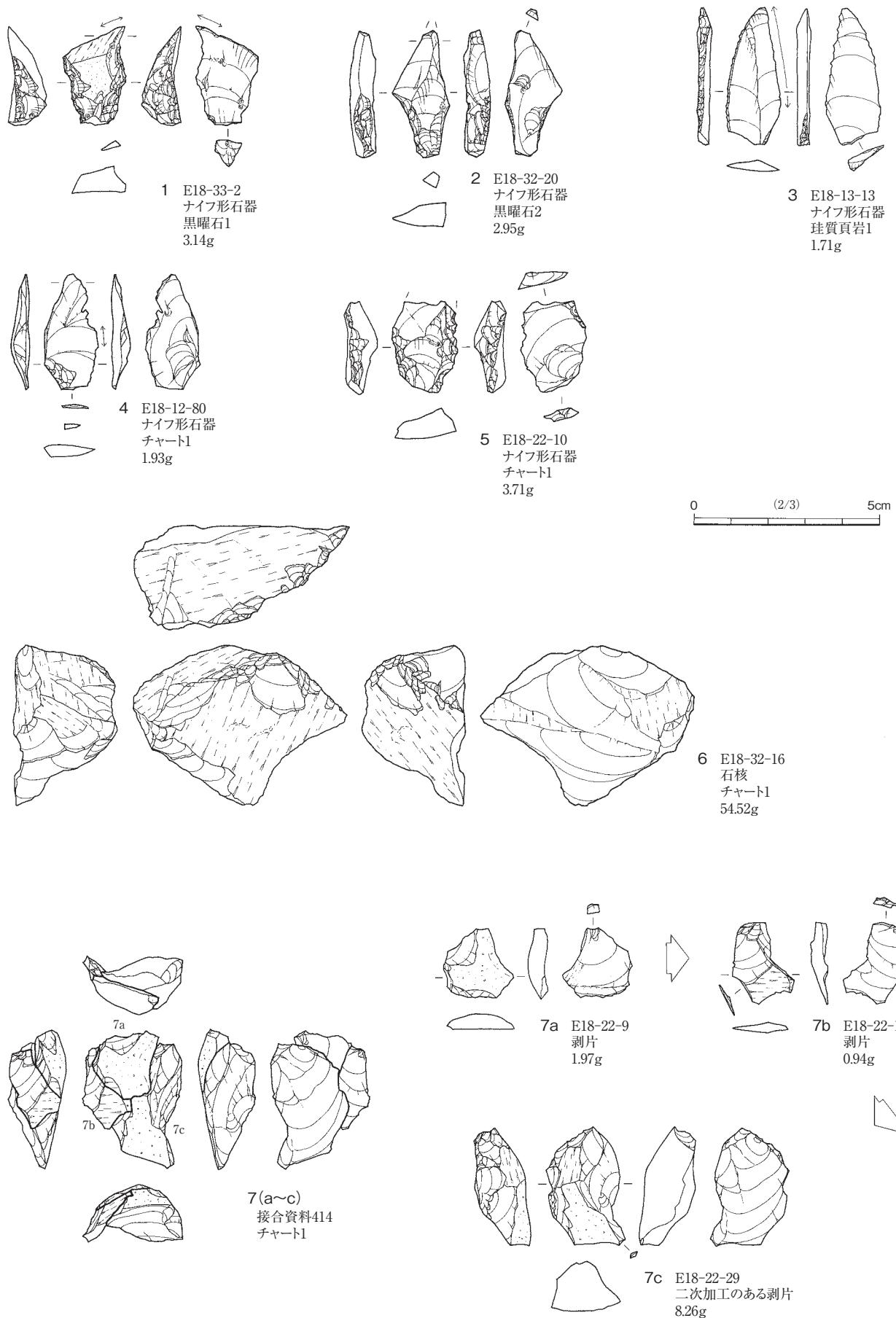
7は二次加工のある剥片1点、剥片2点の接合資料であり、E18-22グリッドの1m²ほどのごく狭い範囲に分布する。7a、7bは連続して剥離された小片であり、二次加工、使用痕は看取されない。7bから7cに至る間に最低でも2点の小片が剥離された痕跡がある。7cの左側縁には小剥離痕が並び、山高でんぐりとした形状である。内包された打撃痕を有し、打面は二次加工によって削除されている。ナイフ形石器の未完成品ともとらえられよう。



第13-35図 第4文化層第12ブロック器種別分布



第13-36図 第4文化層第12ブロック母岩別分布



第13-37図 第4文化層第12ブロック出土石器

4～7はチャート1を母岩とする。自然面は明るい黄土色、剥離面は緑青色を帯びた濃灰色～薄い灰白色と多様で、脂肪状光沢がある。網目状構造はみられないが、所々に発達した節理を持つ。柏市元割遺跡²⁾No.2地点、同富士見遺跡³⁾第4文化層第14・15ブロック、同大割遺跡⁴⁾第3文化層36X-Aブロック、流山市市野谷二反田遺跡⁵⁾、同市野谷入台遺跡⁶⁾のV層～IV層下部の石器群にも多用される石材であり、栃木・茨城の八溝山地から三毳山で産出するチャートと極めて近似する。

注1 山岡磨由子ほか 2014『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書XX-X-印西市大割水溜遺跡ほか』

(公財)千葉県教育振興財団

2 田村 隆 1986『常磐自動車道埋蔵文化財調査報告書IV-元割・聖人塚・中山新田I-』(財)千葉県文化財センター

3 新田浩三 2015『柏北部東地区埋蔵文化財発掘調査報告書8-柏市富士見遺跡・原畑遺跡・駒形遺跡-旧石器時代編』(公財)千葉県教育振興財団

4 島立 桂 2012『柏北部中央地区埋蔵文化財調査報告書4-柏市大割遺跡・須賀井遺跡-旧石器時代編』

(公財)千葉県教育振興財団

5 山岡磨由子 2009『流山新市街地地区埋蔵文化財調査報告書4-流山市市野谷二反田遺跡-』(財)千葉県教育振興財団

6 新田浩三 2008『流山新市街地地区埋蔵文化財調査報告書3-流山市市野谷入台遺跡-』(財)千葉県教育振興財団

第13-19表 第4文化層第12ブロック組成表

母岩	器種	母岩番号	ナイフ形石器	二次加工のある剥片	微細剥離痕のある剥片	剥片	碎片	石核	礫	礫片	点数合計	点数比(%)	重量合計(g)	重量比(%)	
流紋岩		999									1	1	0.94	50.12	19.51
黒曜石		1	1			1	1				3	2.83	3.65	1.42	
		2	1			1					2	1.89	7.16	2.79	
黒曜石	小計		2			2	1				5	4.72	10.81	4.21	
砂岩		999									2	1.89	14.77	5.75	
珪質頁岩		1	1								1	0.94	1.71	0.67	
チャート		1	3	2	1	66	22	1			95	89.62	165.47	64.41	
		2				1					1	0.94	1.77	0.69	
		3				1					1	0.94	12.24	4.76	
チャート	小計		3	3	1	67	22	1			97	91.51	179.48	69.87	
合	計		6	3	1	69	23	1	1	2	106	100.00	256.89	100.00	

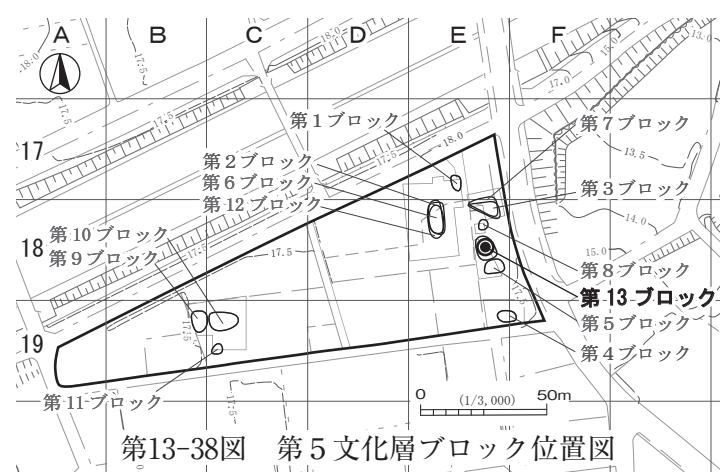
第6節 第5文化層

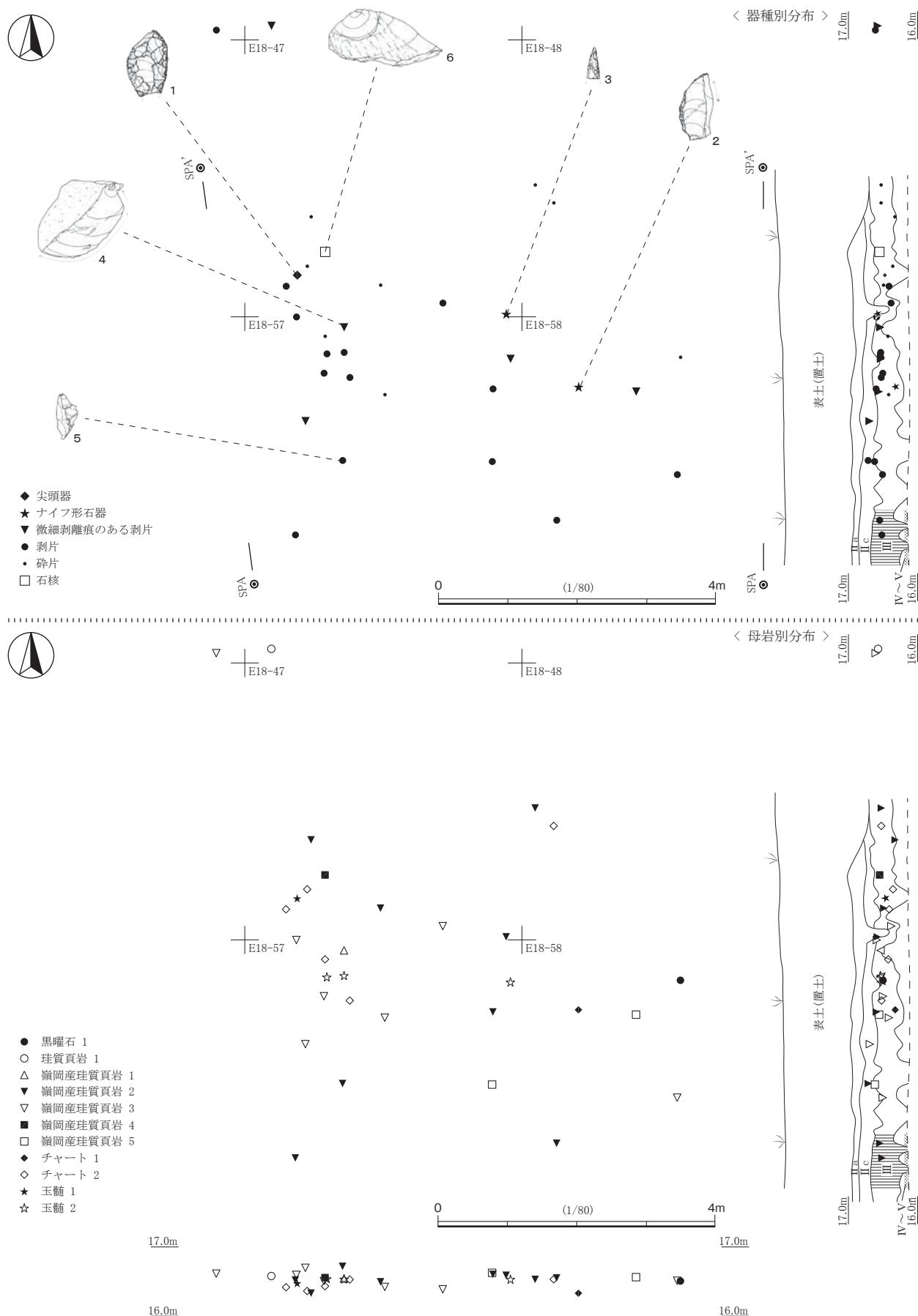
1 概要(第13-38図)

東側の台地縁辺部から検出された第13ブロック1地点が第5文化層に該当する。遺物の出土層位はⅢ層である。

2 第13ブロック(第13-39・40図、第13-20表、図版32・42)

出土状況 第13ブロックは、調査区東部のE18-57グリッドを中心とした長軸9.0m、短軸6.0mの楕円形の範囲に31点が分布する。石器が出土した標高は16.3m～16.7mで0.4mほどの高低差がある。小規模なブロックなが





第13-39図 第5文化層第13ブロック遺物分布

ら、尖頭器1点、ナイフ形石器2点を組成し、利器の割合は高い。また剥片の利用率も高く、微細剥離痕のある剥片は5点を数える。このほか、剥片・碎片22点、石核1点がまとまって出土している。第13ブロックの南にⅦ層に生活面を持つ第5ブロックが隣接するが、明らかな層位差があり石器の混在はない。

出土遺物 石器類の石材は嶺岡産珪質頁岩が圧倒的で、ブロックの中心に分布する。チャート2、玉髓1を分別したものの、これらも嶺岡産珪質頁岩の変質部分である可能性は否めない。このほか、黒曜石1と珪質頁岩1、チャート1の各1点が出土した。黒曜石1の碎片はブロックの東端、珪質頁岩1の微細剥離痕のある剥片はブロックの北端、チャート1のナイフ形石器は東側に分布する。

1は、基部が欠損した左右非対称の尖頭器である。右側面は72°～80°、左側面は55°～60°に調整され、裏面下半部には平坦剥離による減厚がみられる。一次剥離と二次剥離の作る稜(刃部)に、背腹両面からの調整痕が連なる。母岩は玉髓1としたが、オパール化、あるいは珪化が進んだ嶺岡産珪質頁岩の良質な部位ともとらえられよう。剥離面は光沢のある乳白色を基調とし、濃灰色の筋状紋を持つ。

2・3はナイフ形石器である。2の左側縁は、素材剥片の中央部分であり、一定の厚みを維持したまま75°～90°に調整される。先端部が直角に加工されていることから、欠損部分に再調整が施された可能性がある。素材打面は残置し、右上部に刃こぼれが看取される。母岩は光沢のある黒色で、網目構造を持たない良質なチャート1であり、このほかに同一母岩はない。3の左側面と下部は折れにより残存しない。玻璃質で乳白色の嶺岡産珪質頁岩2を母岩とする。

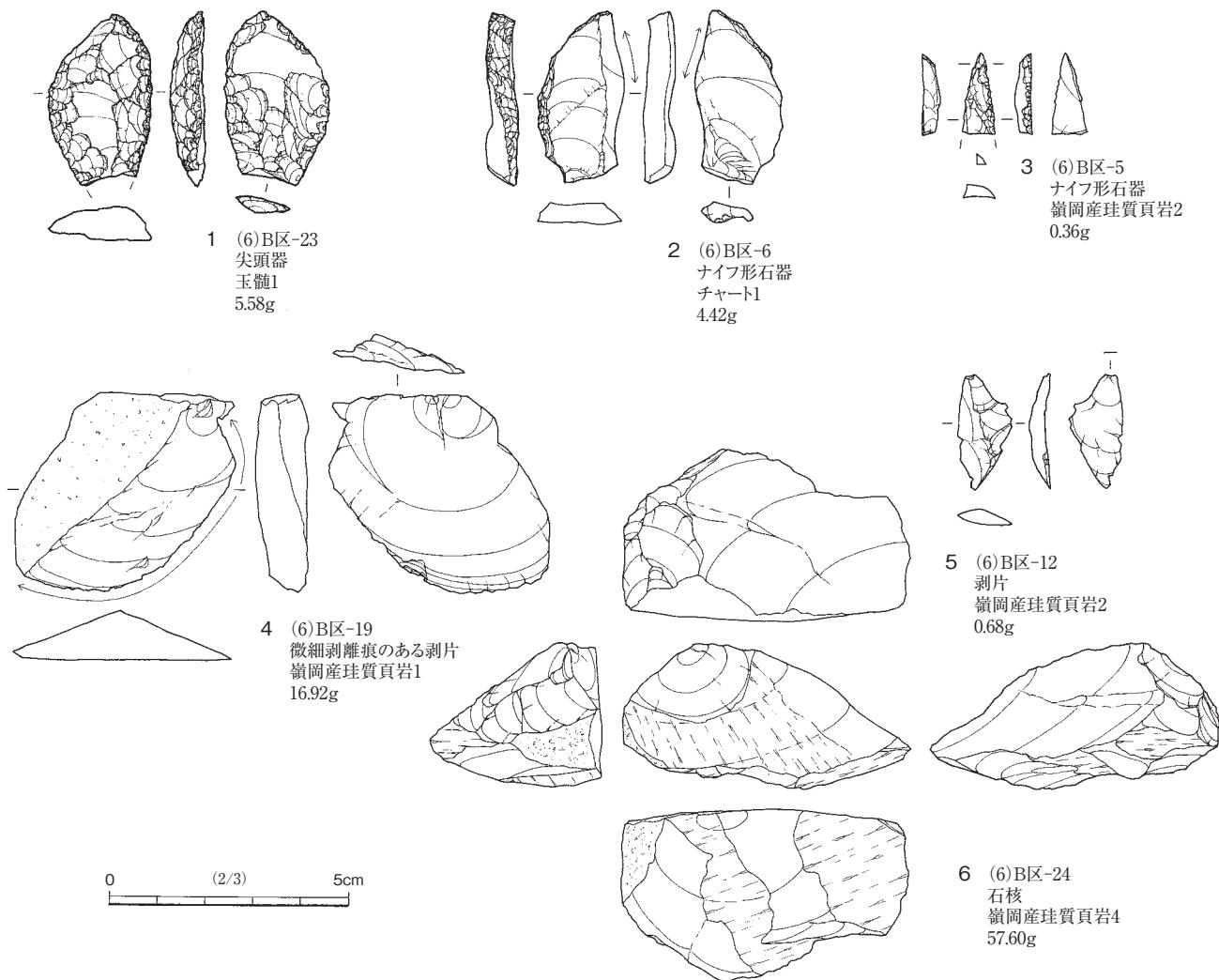
4は微細剥離痕のある剥片で、右側縁から下部にかけて細かな刃こぼれが弧状に連なる。自然面は茶褐色、剥離面は緑色を帯びた褐色で、濃灰色の斑紋が入る嶺岡産珪質頁岩1が母岩である。

5は剥片である。打面は線状で、両側縁は末端で収束する。3と同じく、玻璃質で乳白色の嶺岡産珪質頁岩2が母岩であり、8点を数える母岩の器種内訳はナイフ形石器1点、剥片4点、碎片3点である。5を含む7点は最大長25mm、個々の重さは1g未満で、石器の調整剥片と推察される。

6は石核である。節理面が多く、剥離方向が読みにくい。左側面に正面側から加撃された4枚の剥離痕が残るが、それらの打点は正面上方の剥離によって削られている。この石核に接合する剥片はない。母岩は玻璃質の嶺岡産珪質頁岩4で、剥離面は緑色を帯びた青灰色を呈す。単一母岩である。

第13-20表 第5文化層第13ブロック組成表

母岩	器種	母岩番号	尖頭器	ナイフ形石器	微細剥離痕のある剥片	剥片	碎片	石核	点数合計	点数比 (%)	重量合計 (g)	重量比 (%)
黒曜石	1						1		1	3.23	0.21	0.13
珪質頁岩	1				1				1	3.23	24.98	15.43
嶺岡産珪質頁岩	1				1				1	3.23	16.92	10.45
	2			1		4	3		8	25.81	6.23	3.85
	3				1	5	1		7	22.58	23.80	14.70
	4							1	1	3.23	57.60	35.57
	5				1	1			2	6.45	1.96	1.21
嶺岡産珪質頁岩	小計			1	3	10	4	1	19	61.29	106.51	65.78
チャート	1			1					1	3.23	4.42	2.73
	2					2	3		5	16.13	1.11	0.69
チャート	小計			1		2	3		6	19.35	5.53	3.42
玉髓	1	1							1	3.23	5.58	3.45
	2				1	2			3	9.68	19.12	11.81
玉髓	小計		1		1	2			4	12.90	24.70	15.25
合	計		1	2	5	14	8	1	31	100.00	161.93	100.00



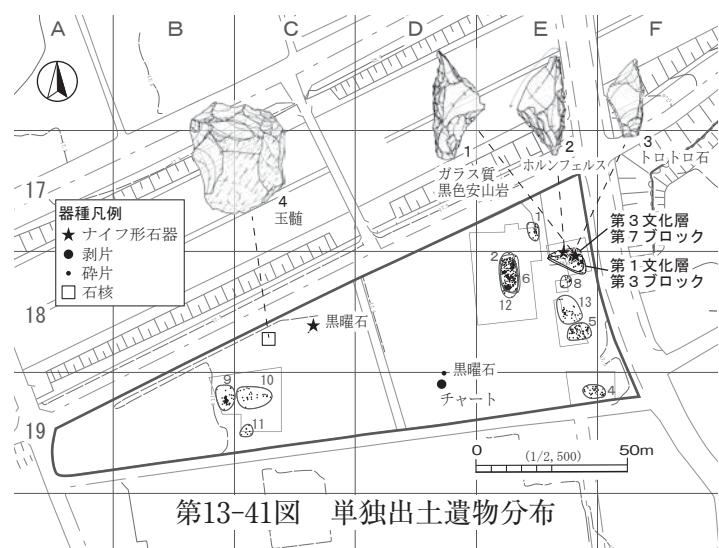
第13-40図 第5文化層第13ブロック出土石器

第7節 単独出土石器(第13-41・42図、第13-1表、図版42)

単独出土及び後世の遺構覆土から出土した石器は7点である。右の分布図中に器種・石材を明示し、組成表の代わりとする。

1～3のナイフ形石器、4の石核など、主要器種の図化に努めたが、C18グリッドから出土した黒曜石のナイフ形石器については、先端部の破片であり完形を想定できないため、分布状況のみ記した。

1は横長剥片の打面側を断ち落とすように $75^{\circ} \sim 83^{\circ}$ の急角度剥離が施され



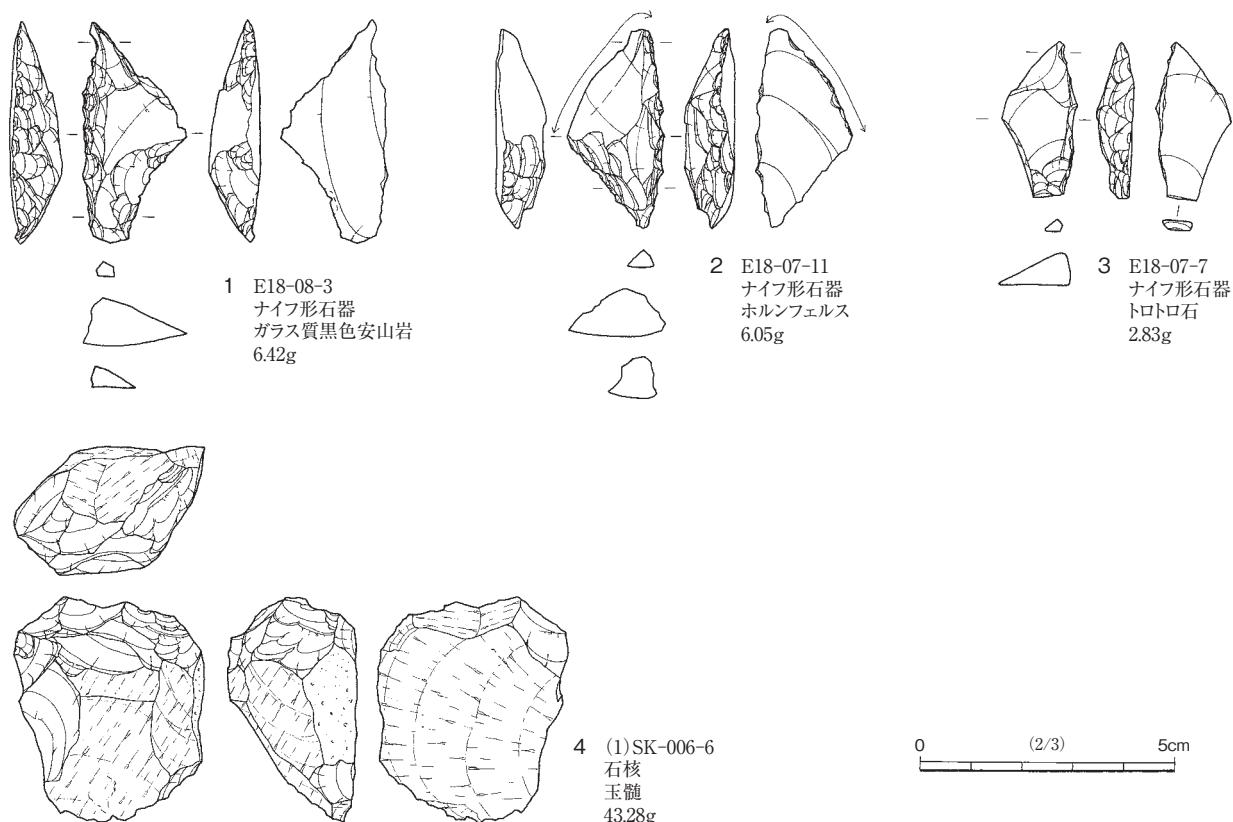
第13-41図 単独出土遺物分布

ており、その対縁の基部加工は45°～55°で内湾気味である。全体形状は切出状を呈し、先端は四ツ目錐状に尖る。石材は剥離面が暗褐色、ガジリは漆黒の、房総半島の旧石器時代遺跡に多出するガラス質黒色安山岩である。2は1と同じく切出状で、横長剥片の打面側に急角度加工が施される。ともに最大幅は中央にあるため平面形が鈍角の二等辺三角形を呈するが、刃部の向きは対照的である。2の刃部及び先端は摩耗しており、使用・風化の別は不明である。基部は厚く、尖鋭な端部に仕上げられている。石材はホルンフェルスである。

3は一側縁に主要剥離面側から急角度剥離が施される。対縁下部の加工は、器面を削ぐように下方からの一撃で剥離される。石材はトロトロ石である。

1～3はE18-07・08グリッドに位置し、第1文化層第3ブロック及び第3文化層第7ブロックの上位面からの出土である。調査時の所見は1と2がⅢ層、3がⅣ層である。いずれも単独母岩であり、第3・7ブロックはもとより、第1・3文化層全体にも共通する石材・母岩はない。当初は第7ブロックに帰属する資料と思われたが、明らかな層位差が確認できたため分けて報告する。

4は縄文時代中期の土坑覆土から出土した石核である。帰属するグリッドはC18-08グリッドで、V層～IV層下部の石器集中域である第10ブロックの北、約20mの距離にあるが、近似する石材は出土していない。石器は最大長44.5mm、厚さは25.8mmの、厚みのある形状である。右側面に赤褐色で透明感のある自然面が残る。被熱によって橙色に変色した素材を用い、上面及び左側面を裏面から敲打することで、小型の貝殻状剥片の作出を試みたものと推測される。正面図・右側面図のリングと斜線で表した部分が被熱部位である。



第13-42図 単独出土石器

第8節まとめ(第13-2・43・44図、第13-1・2表)

館林Ⅱ遺跡では13か所の石器集中域を数え、東側の台地縁辺に10か所が集中する。単一層のブロックは5か所のみであり、2か所は複数の層位から出土した石器が高低差をもって分布している。調査時における所見、包含される層位、器種や石材などを総合的に検討したうえで分層を行い、これらの結果を踏まえて、703点を5枚の文化層に区分し、7点を単独出土ととらえた。V層～IV層下部に分布する3か所のブロックと単独で分布する4点を除いた600点が、当遺跡東側に集中する傾向が認められた。

第1文化層 第1文化層は立川ローム層第2黒色帯下半部(IX層)に包含される石器群で、E17～E19、F19グリッドの第1～4ブロック、152点が該当する。大型の縦長剥片を素材としたナイフ形石器や複数の加工工具類を組成する。各ブロック間で接合する資料はなく、同時性は不明である。台地の縁辺に分布する。

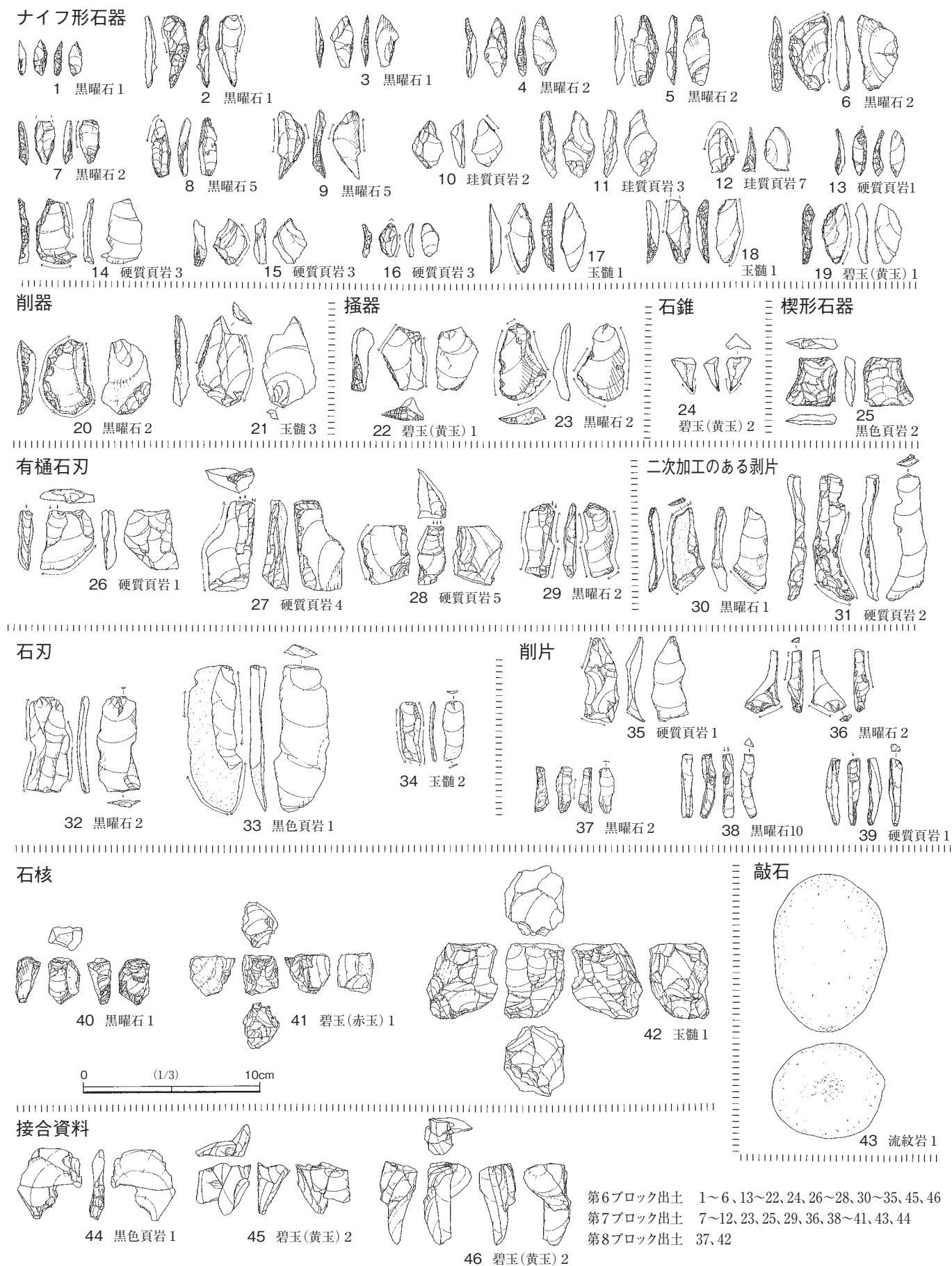
第2文化層 第2文化層は立川ローム層第2黒色帯下半部の上位に包含される石器群で、武蔵野台地のVII層の石器群に相当すると考えられる。第5ブロック、63点(このうち礫・礫片20点)が該当し、ナイフ形石器、楔形石器を組成する。石材はチャートとガラス質黒色安山岩が主体である。台地縁辺のE18グリッドに位置する。

第3文化層 最多出土数を検出した第3文化層は、立川ローム層第2黒色帶上半部とその周辺を中心に包含される石器群で、武蔵野台地のVI層段階の石器群に相当すると考えられる。E18グリッドを中心とした第6～8ブロック3か所が該当し、台地の縁辺部の2か所とやや内側に1か所が分布する。透明度の高い良質な黒曜石を主体とした集中域であり、第6、7、8ブロックの黒曜石出土点数/総出土点数はそれぞれ76/155、27/75、8/15である。第1石材はいずれも黒曜石だが、2番目に多い石材には第6ブロックから順に、硬質頁岩20点、珪質頁岩18点、玉髓3点が用いられている。ブロック間で接合する資料はなく、至近距離での接合に限られる。同様のブロックは利用石材や層位に若干の違いはあるが、遺跡外でもみられ、往時の谷津頭を囮むかのように矢船I遺跡、矢船II遺跡に分布する。

第13-43図に主要器種を図示した。ナイフ形石器(1～19)、削器(20・21)、搔器(22・23)、石錐(24)、楔形石器(25)、有柄石刃(26～29)、二次加工のある剥片(30・31)、石刃(32～34)、削片(35～39)、石核(40～42)、敲石1点(43)、接合資料(44～46)である。剥片・石刃素材のナイフ形石器や搔器、削器に加えて、有柄石刃や削片などが本文化層を特徴付けており、また、大量の碎片と敲石などの加工工具の存在からは、遺跡内で再加工や調整が行われたことがうかがい知れる。

立川ロームVI層段階の石器群は、高度な石刃技法を駆使したナイフ形石器の製作や信州産黒曜石の多用などの特徴を持つ。県内におけるVI層の石器群の発掘は昭和47年の印西市木苅崎遺跡¹⁾を皮切りに、第4節の概要で類例を示したように数多くの遺跡で検出されており、下総型石刃再生技法^{2・3)}や千田台技法^{4・5)}として研究が行われ、時間的な変遷や石器群の更なる細分が試みられている。

第4文化層 第4文化層は、立川ローム層のハードローム層上部に包含される石器群で、武蔵野台地におけるIV層下部から出土する石器群に対応すると考えられる。台地中央部のB19・C19グリッドに第9～11ブロック、縁辺部のE18グリッドに第12ブロックが立地する。第3文化層の次に出土点数が多いが、この時期に特徴的な礫群を組成していない。主要石器としては台地中央部に角錐状石器、縁辺部に切出状のナイフ形石器が分布しており、使用石材は前者が赤黒ツートーンの黒曜石、後者の第12ブロック縁辺部では青灰色のチャートを主体とする。主要石器の形態や使用石材の違いから、第9～11ブロックと第12ブロックは別集団の営みの痕跡、あるいは帰属時期に若干の差があると考えられる。

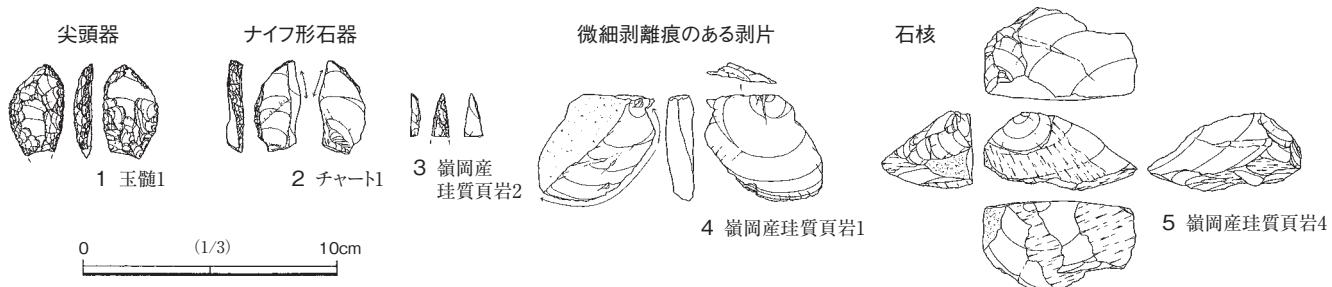


第13-43図 第3文化層主要石器

なおE18-07・08グリッドにて単独で出土した3点のナイフ形石器は、形態や調査時の所見から本文化層第12ブロックと同時期の所産である可能性が指摘される。

第5文化層 第5文化層は立川ローム層のソフトローム層を中心に包含される石器群で、武藏野台地における立川ロームⅣ層上部～Ⅲ層中部の砂川期の石器群に概ね対応すると考えられる。E18グリッドの第13ブロック1か所が該当する。31点の小規模集中域だが、嶺岡産珪質頁岩が61%を占め、チャート、玉髓、黒曜石、珪質頁岩と続く。玉髓、珪質頁岩と分類した中には嶺岡産珪質頁岩が特に珪化(オパール化)した部分や、変質部位と思しき資料があり、これらを含めると80%に近い。いずれの石材も珪質であり、剥片素材で非対称形の尖頭器(1)、ナイフ形石器(2・3)、背稜の斜行する剥片(4)、多面体の石核(5)を組成する。

嶺岡産珪質頁岩が主体を成す同様の石器群には市原市押沼第1遺跡⁶⁾第4文化層I4-Aブロックがあげられ、出土した76点の嶺岡産珪質頁岩からは7個体の接合資料を確認し、亜円礫からは剥離作業が行われた痕跡が残されている。また、富里市東内野遺跡⁷⁾では嶺岡産珪質頁岩とともにガラス質黒色安山岩の原石が搬入され、遺跡内での母岩消費の様相が押沼遺跡同様、確認された。一方、当遺跡には接合資料はなく、完成品、あるいは石器素材として持ち込まれているようである。南房総市の保田層群を嶺岡産珪質頁岩産出の拠点とすると、より近在の市原市や富里市近辺で粗割りから石器生産が行われ、完成品や半製品、石器素材を携えて柏市に辿り着き、仕上げの加工あるいはメンテナンスが行われた、という動線が推測される。



第13-44図 第5文化層主要石器

- 注1 鈴木道之助 1975「3.木薙峠遺跡(CN407)」『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書Ⅲ』(財)千葉県都市公社
- 2 新田浩三 1995「下総型石刃再生技法の提唱」『研究紀要16』(財)千葉県文化財センター
- 3 新田浩三 2016「南関東地方東部の石器群」『ナイフ形石器文化の発達期と変革期-浅間板鼻褐色軽石群降灰期の石器群-』予稿集 岩宿博物館 岩宿フォーラム実行委員会
- 4 矢本節朗 1996『多古町千田台遺跡-BR/W南側NDB用地無線施設埋蔵文化財調査報告書-』(財)千葉県文化財センター
- 5 矢本節朗 1991「千田台遺跡」『平成3年度千葉県遺跡調査研究発表要旨』(財)千葉県文化財センター
- 6 田島 新 2008『千原台ニュータウンXX-市原市押沼第1遺跡(下層)-』(財)千葉県教育振興財団
- 7 岡本東三・田村 隆・加納 実・国武貞克 2003『千葉県史編さん資料 富里市東内野遺跡旧石器時代石器資料調査報告書』(財)千葉県史料研究財団

第14章 おわりに

柏北部東地区の旧石器時代時期別概観(第14-1~6図、第14-1~3表)

本章では矢船I遺跡(第1~4次)・矢船II遺跡(第1~36次)・駒形遺跡(第1~42次)・富士見遺跡(第1~59次)・原畠遺跡(第1~29次)・花前I遺跡(第1~3次)・花前III遺跡(第1~3次)・寺下前遺跡(第1~3次)・大松遺跡(第1~18次)・小山台遺跡(第1~98次)・八反目台遺跡(第1次)・館林II遺跡(第1~6次)の柏北部東地区埋蔵文化財調査報告書1・8・10・13に掲載されたすべての調査区を対象とした。

上記の石器集中域において最も古いブロックはXa層上部~IXc層下部に生活面のある富士見遺跡第1・2ブロックで、旧石器時代終末期に相当するのは矢船II遺跡第37ブロックである。この間に含まれる旧石器時代のブロックはおしなべて緩斜面や微高地に立地し、明治13・14年の迅速測図(第1-3図参照)で低地・湿地・河川に識別された区画には分布していない。これらはXa層~II層下部まで、大枠10枚の文化層に分けられる。遺跡ごとに文化層の設定が異なることから、層序区分に対応するブロックの一覧を作成し、出土点数の多いIXa層~VII層下部とV層~IV層下部のブロック群の石材比を礫類、石器類に分けてグラフ化した。また、一部には標高と科学分析により同定された黒曜石の産地を記した。

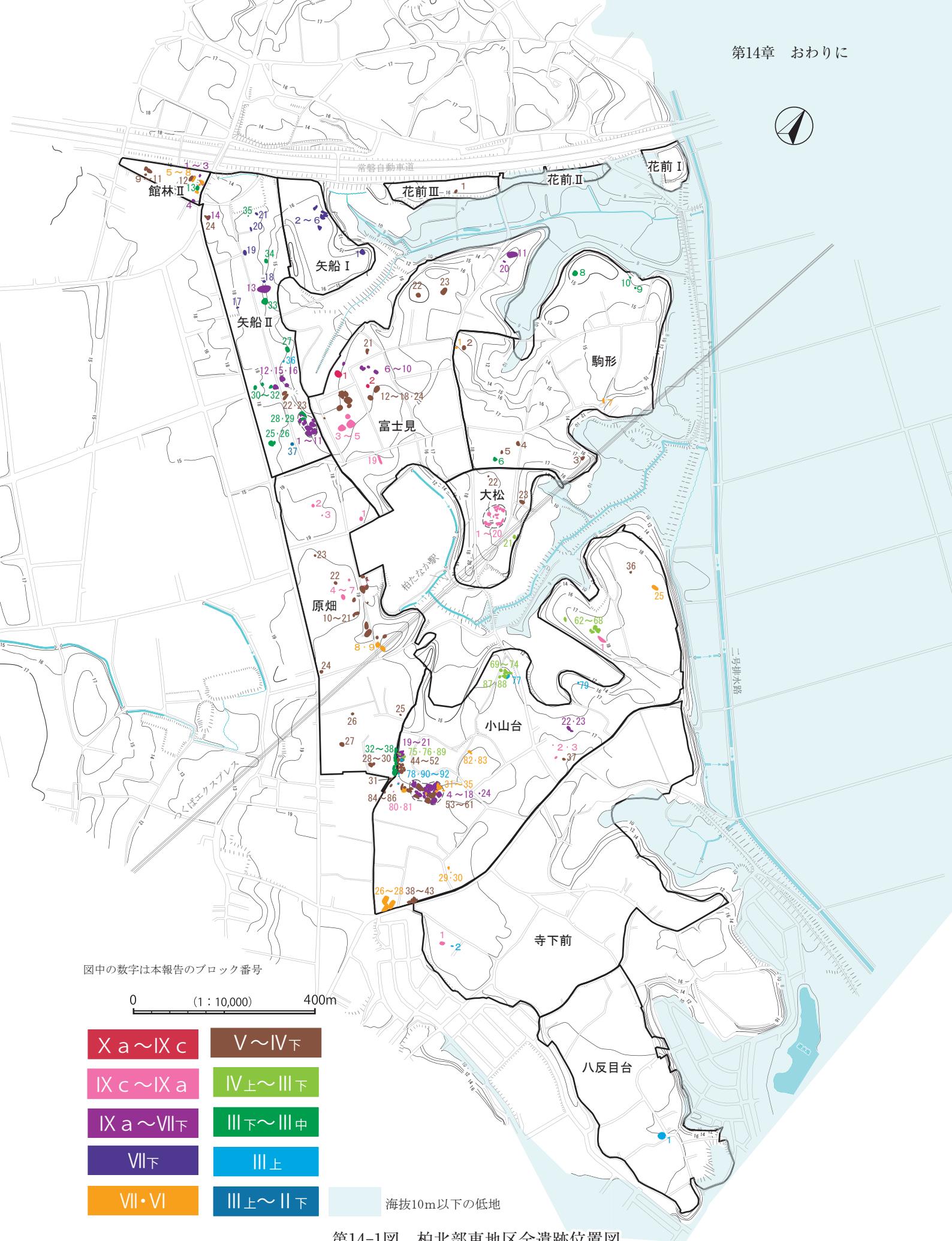
Xa層~IXc層 富士見遺跡第1文化層第1・2ブロックが該当する。柏北部東地区では最古の石器群である。第1ブロックは北へ向かう小河川の水源地付近にあたり、第2ブロックは第1ブロックの西方70mの位置にある。第1ブロックでは頭部調整痕のある基部加工のナイフ形石器、楔形石器、局部磨製石斧、

第14-1表 柏北部東地区遺跡ブロック一覧

遺跡名 層位	矢船I 遺跡 (第1~4次)	矢船II 遺跡 (第1~36次)	駒形 遺跡 (第1~42次)	富士見 遺跡 (第1~59次)	原畠 遺跡 (第1~29次)	花前III 遺跡 (第1~3次)	寺下前 遺跡 (第1~2次)	大松 遺跡 (第1~18次)	小山台 遺跡 (第1~98次)	八反目 台遺跡 (第1次)	館林II 遺跡 (第1~6次)	ブロック合計	点数合計
Xa~IXc				1文 (39点) 第1~2ブロック								2	39
IXc~IXa				2文 (625点) 第3~5、 19ブロック	1文 (119点) 第1~7ブロック		1文 (52点) 第1ブロック	1文 (2,449点) 第1~20ブロック	1文 (54点) 第1~3、 80~81ブロック			37	3,299
IXa~VII下		1文 (788点) 第1~16ブロック		3文 (432点) 第6~11、 20ブロック					2文 (2,276点) 第4~24ブロック		1文 (152点) 第1~4ブロック	48	3,648
VII下	1文 (264点) 第1~6ブロック	2文 (264点) 第17~21ブロック										11	409
VII~VI			1文 (58点) 第1~7ブロック		2文 (147点) 第8~9ブロック				3文 (818点) 第25~35、 82~83ブロック		2文 (63点) 第5ブロック	21	1,331
V~IV下	3文 (132点) 第22~24ブロック	2文 (228点) 第2~5ブロック	4文 (1,042点) 第12~18、 21~24ブロック	3文 (1,287点) 第10~27、 28~31ブロック	1文 (28点) 第1ブロック		2文 (36点) 第22~23ブロック	4文 (1,655点) 第36~61、 84~86ブロック		4文 (204点) 第9~12ブロック	76	4,612	
IV上~III下								2文 (28点) 第21ブロック	5文 (1,034点) 第62~76、 87~89ブロック			19	1,062
III下~III中	4文 (759点) 第25~35ブロック	3文 (340点) 第6、8~10ブロック		4文 (304点) 第32~38ブロック						5文 (31点) 第13ブロック	23	1,434	
III上	5文 (2点) 第36ブロック					2文 (3点) 第2ブロック		6文 (105点) 第77~79、 90~92ブロック	1文 (100点) 第1ブロック		9	210	
III上~II下	6文 (199点) 第37ブロック										1	199	
ブロック合計	6	37	10	24	38	1	2	23	92	1	13	247	
点数合計	264	2,025	626	2,138	1,857	28	55	2,513	5,942	100	695	16,243	

※赤文字は今回掲載分

※花前I遺跡は単独出土のため割愛



第14-1図 柏北部東地区全遺跡位置図

第14-2表 柏北部東地区遺跡別器種組成表

層準	遺跡名	ナイフ形石器	台形様石器	角錐状石器	尖頭器	削器	搔器	楔形石器	彫器(彫刻刃形石器)	石錐	有極石刃	微細剥離痕のある剥片	二次加工のある剥片	石刃	削片	細石刃	細石刃石核	剥片	碎片	石核	打製石斧調整剥片	局部磨製石斧	磨石(磨石類)	敲石	台石	砥石	原石	礫器	礫片	総計		
Xa~IXc	富士見	1						2			8	8				12	1				1	5						1		39		
IXc~IXa	富士見	5				1	1				29	28	2			465	63	23			2		2	1	1	2		625				
原畠	3							2			10	10	9			38	16				1	27		1				2		119		
寺下前											3					27	20											2		52		
大松	21										5	3				1,814	588	16											2,449			
小山台	3	1		1							3	4				37	2	2									1		54			
小計	32	1		2	3						50	41	15			2,381	689	41	1	29	3	2	1	1	1	1	6		3,299			
IXa~VII下	矢船II	12				1	11				37	43				501	90	34	1	1	10	4	1					7	35	788		
富士見	19					1	3	1			13	11	8			151	24	10			3							16	172	432		
小山台	42	8		8	6						73	43				1,606	356	84	12	3	4	5	1				9	16	2,276			
館林II	3										3	5	1			73	45	5			1	3	1	3		5	4	152				
小計	76	8			10	20				1	126	102	9			2,331	515	133	12	4	5	14	12	2	1	3	37	227	3,648			
VII下	矢船I	13					2				6	7	5	2		100	23	11									20	2	27	38	264	
矢船II	4						4	2			1	3	6		10		89	10									2	10		4	145	
小計	17						6	2			7	10	14	5	12		189	33	11			2	30	2			31	38	409			
VII・VI	駒形	4									4	8					25	17													58	
原畠	4										9	7	2			87	33	2										1		2	147	
小山台	28		4	2	11		2	6	34	25	8	7			416	103	17									3		13	139	818		
館林II	22		3	2	11		1	4	15	29	3	7			129	44	9									1		16	11	308		
小計	58		7	4	22		3	10	62	69	11	16			657	197	28									5		31	150	1,331		
V~IV下	矢船II	5		1	1						8	3	1			23	5	7										13	65	132		
駒形	7		1	1							17	13				112	70	6										1		228		
富士見	13	1	3	1	4		1	79	27						593	87	38			15	4						4	172	1,042			
原畠	13	10		2	1	1					52	36	2	3		445	56	28		1	3					39	595	1,287				
花前III																									2		26	28				
大松	2										3					19	8											1		36		
小山台	59	2	3	1	3						59	17				734	178	28			3	7					1		29	531	1,655	
館林II	12	4									1	6	6			109	51	4								1		2	8	204		
小計	111	17	1	8	4	12	1	2			224	102	2	4		2,035	455	111			19	15	1	3		87	1,398	4,612				
IV上~III下	大松	11														10	5											11		28		
小山台	19		1								4	2				281	21	36			3	2				1		14	613	1,034		
小計	20	1									25	8	3	1		291	26	36			3	3				1		14	624	1,062		
III下~III中	矢船II	8	7	4	4						29	7				320	85	20									10	265	759			
駒形		13	3	1	7						15	21	19			130	68	12								1		6	44	340		
原畠	6	6									10	4	1			53	5	2								3		21	190	304		
館林II	2	1										5				14	8	1										31				
小計	16	27	7	4	1	10					54	37	20			517	166	35									4		37	499	1,434	
III上	矢船II															2													2			
寺下前	1																												3			
小山台											2		4			17	7	35	19								2	17	105			
八反目台											2		2			18	3	51	8								1	1	1	5	6	100
小計	1										1	3	4	6	2	35	12	86	19	8						1		7	23	210		
III上~II下	矢船II		3	1							4	1	1			48	5	2										22	112	199		
プロック出土総計	332	9	17	32	35	13	73	15	6	17	567	388	47	54	34	12,854	2,106	405	12	6	39	39	39	72	7	4	9	1	271	3,071	16,243	
単独出土総計	45	7	52	3	5	2	2	2	12	1	5	8	130	14	17	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	6	25	387				

第14-3表 柏北部東地区遺跡別石材組成表

層準	遺跡名	黒曜石	ガラス質黑色安山岩	トロトロ石	安山岩	流紋岩	緑色岩	凝灰岩	砂岩	頁岩	珪質頁岩	珪質頁岩	硬質頁岩	黑色頁岩	粘板岩	珪質泥岩	ホルンフェルス	角閃片岩	チャート	玉髓	碧玉	碧玉(黄玉)	碧玉(赤玉)	結晶片岩	緑泥片岩	石英斑岩	総計	
Xa~IXc	富士見	5	5	2		2				6	1	14		1					2	1								39
IXc~IXa	富士見	42	3	21						10		21	148		23				3	34	320							625
原畠	34	19	2	2					28	2	3	10		1	2			4	10	2							119	
寺下前	1	40								2								8		1							52	
大松	1,828				7	105				1	184	70						12	242								2,449	
小山台	19	32				1																					54	
小計	1,924	94	23	7	107	1	28	15	187	101	148	1	26			15	58	564								3,299		
IXa~VII下	矢船II	25	185	11	14	20	2		24	16	5	96		45	27		1	260	55							2	788	
富士見	22	49	8	21	37				114	2	40			67			17		49	6							432	
小山台	22	1,217	52	2	129	2		1	9		94	30	3	83		27	1	254	436								2,276	
館林II	4	16	1						1	4	1	6	9	1		13		51	19	11					3	152		
VII下	矢船I	3	39	26		15				1	27	3	41				16		28	9							28	
矢船II	12	10		1	6					8	1	6		52	1	</td												

局部磨製石斧調整剥片などを組成する。剥片石器の石材は珪質頁岩が14点と最多だが、すべて別母岩で客体的である。局部磨製石斧とそれらの調整剥片は砂岩の同一母岩だが接合はしない。第2ブロックの不定形剥片は黒曜石、ガラス質黒色安山岩、トロトロ石の3種4母岩で構成される。黒曜石の石材原産地は蓼科冷山群産である。

入念な頭部調整が施され、打瘤の大きい縦長剥片を素材にしたナイフ形石器がまとまって出土した遺跡には酒々井町飯積原山遺跡¹⁾第1文化層があげられる。また、産出層順を同じくし、蓼科冷山群産の黒曜石が出土した遺跡には松戸市関場遺跡²⁾第2地点があげられる。このほか、出土層位は異なるが、IXc層上部にて蓼科冷山群産に近似する黒曜石がまとまって検出された例は、流山市西初石五丁目遺跡³⁾第6地点にみられ、出土した72点中65点がこの石材であり、多くの石刃が石核に接合した。

IXc層～IXa層 富士見遺跡第2文化層第3～5、19ブロック、原畑遺跡第1文化層第1～7ブロック、寺下前遺跡第1文化層第1ブロック、大松遺跡第1文化層第1～20ブロック、小山台遺跡第1文化層第1～3、80・81ブロックの37か所3,299点が該当する。

富士見遺跡では小河川につながる湧水源を囲むように立地するが、大松遺跡では、三方の湾入により半島状に突出した台地の、緩く括れた部分に環状ブロック群が展開する。この環状ブロック群で用いられた石材の74.6%が夾雜物の多い黒色不透明の高原山産黒曜石と推定され、塊状の原石を遺跡内で打ち割ったことが多数の接合資料や、組成する剥片・碎片・石核の状態から認識できる。一方、規模の小さいブロックでは、小山台遺跡第80・81ブロックや原畑遺跡第4ブロックにみられるように、ごく良質な信州産(和田峠産)黒曜石が石刃、あるいは縦長剥片の状態で持ち込まれている。これら的一部は前述のXa層～IXc層の富士見遺跡と同様、頭部調整のある縦長剥片・石刃製の基部加工のナイフ形石器であり、利器の形態は近似している一方、透明度の高い黒曜石が多用される点で違いが認められる。

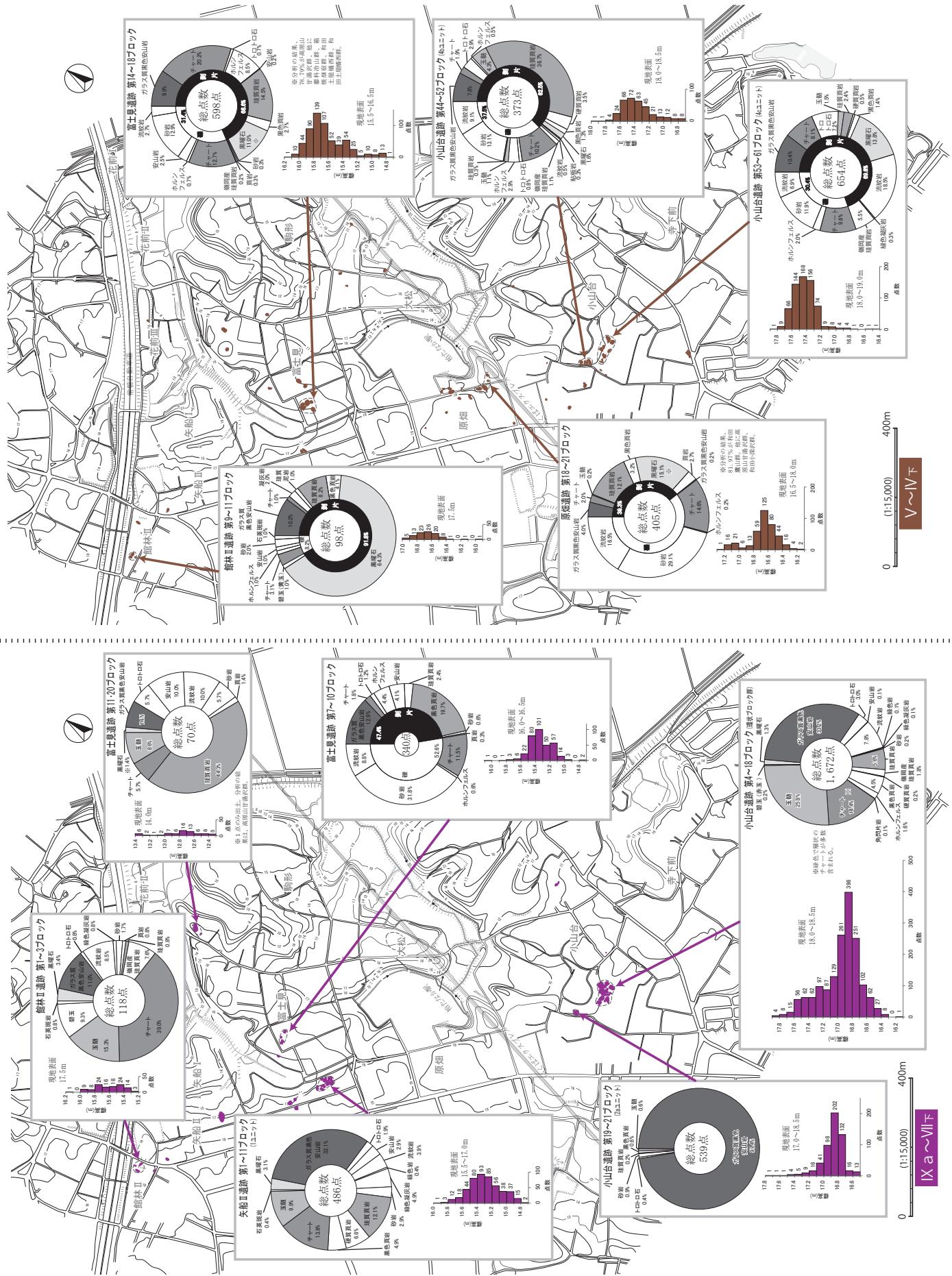
また、加工具類の中では富士見遺跡の砥石が特筆される。県内での砥石出土例は少なく、この層に含まれる砥石のほとんどは淡黄褐色で軟質細粒の砂岩製である。本資料が出土した第19ブロックには研磨の対象とされる局部磨製石斧は組成しなかったものの、約150m西方の第5ブロックに局部磨製石斧調整剥片2点が含まれていた。研磨という石器製作の最終工程と、剥離による刃部調整が遺跡内で行われていたことを示す一例となろう。IX層下部から出土した砥石例は第5章第2節2項の注にて提示した。

なお、原畑遺跡第1文化層第7ブロックでは緑色凝灰岩の局部磨製石斧1点とその調整剥片26点が、神津島恩馳島産の黒曜石4点とともに出土した。当概期には栃木県高原山甘湯沢、長野県蓼科冷山・和田峠、神奈川県天城柏峠・箱根畠宿、神津島恩馳島と、様々な産地の黒曜石が遺跡に持ち込まれているが、これらの黒曜石は原産地付近、あるいは道程上で調達可能な石材とともに検出される傾向がある。

本文化層に帰属する石器群は、柏市原山遺跡⁴⁾第II文化層、柏市中山新田I遺跡⁵⁾第4ユニット、市外では、印西市泉北側第3遺跡第1文化層環状ブロック群⁶⁾、市原市草刈六之台遺跡⁷⁾第3文化層があげられる。

IXa層～VII層下部 矢船II遺跡第1文化層第1～16ブロック、富士見遺跡第3文化層第6～11、20ブロック、小山台遺跡第2文化層第4～24ブロック、館林II遺跡第1文化層第1～4ブロックの48か所3,648点が該当する。北へ向かう小河川の水源を囲むように矢船II遺跡第1～12、15・16ブロックと富士見遺跡第7～10ブロックが標高15.3m付近に立地する。

小山台遺跡の環状ブロック群は、谷津最奥部の斜面を登りきった標高18.0m～18.5mの台地上に立地し、円環部・中央部、外部の3つのブロック群で構成され、重扇状へと分布形態が移行する過渡期の様相を呈



第14-2図 ブロック分布

する。主要器種にはナイフ形石器、台形様石器、削器、楔形石器、局部磨製石斧・局部磨製石斧調整剥片、敲石、台石を組成し、剥片素材の石材にはガラス質黒色安山岩と玉髓が多く用いられているが、緑灰色の縞模様のある玻璃質のチャートも母岩単位で消費されている。なお、このチャートは房総半島ではX層・IX層にのみ出土し、これ以降は確認されなくなる。当事業地内では大松遺跡の環状ブロック群、矢船II遺跡第13ブロック、富士見遺跡第19ブロックからも検出された。図版23-5～7が特徴的である。現在のところ、奥多摩町の海沢層に分布するチャートが最も近似する。

富士見遺跡では7か所のブロックから432点が出土している。石刃を素材とした二側縁加工のナイフ形石器をはじめ、石錐や削器、楔形石器を組成する。環状ブロック群に伴うとされる局部磨製石斧やその調整剥片、台形様石器の出土はない。石材の主体は黒色頁岩である。

館林II遺跡第1文化層では4か所のブロックから152点が出土し、縦長剥片や石刃を素材としたナイフ形石器がみられる。磨石類(砥石含む)や敲石などの礫素材の石器も組成するが、富士見遺跡同様、局部磨製石斧や台形様石器はみられない。石材の主体はガラス質黒色安山岩である。

小山台遺跡のような大規模な環状ブロック群と富士見・館林II遺跡などの中・小規模ブロックとでは、立地する環境が異なる。環状ブロック群が谷津の最奥部の高台に立地するのに対し、そのほかのブロックは河川の始まる水源地や河畔付近に形成される傾向がある。

IXa層～VII層下部に生活面を持ち、小山台遺跡のような比較的大型のブロック群を形成する石器群としては、八千代市西芝山南遺跡⁸⁾第1文化層、袖ヶ浦市台山遺跡⁹⁾第1文化層、白井市復山谷遺跡(6次～8次)¹⁰⁾第1文化層があげられ、第1石材にガラス質黒色安山岩、補完的に頁岩・黒色頁岩が用いられる石器群としては船橋市源七山遺跡¹¹⁾第1文化層が近似する。

VII層下部 矢船I遺跡第1文化層第1～6ブロック、矢船II遺跡第2文化層第17～21ブロックの11か所、409点が該当する。柏北部東地区の北西に位置し、南西から北東に向かって流れる小河川の水源地付近を囲むかのようにこの11か所が分布する。

石刃素材のナイフ形石器や有柄石刃、棒状や卵形の敲石を組成し、比較的大型の礫・礫片を伴う。これらのナイフ形石器は、二側縁加工で両端が尖鋭な「東林跡型ナイフ形石器」と呼称され、鎌ヶ谷市東林跡遺跡¹²⁾で出土したものと同じ形状である。また、橈状剥離を持つ有柄石刃は下総型石刃再生技法¹³⁾が駆使されており、大型の石刃から中・小型の剥片類(石刃・削片を含む)が作出される工程が確認された。石材にはガラス質黒色安山岩・珪質頁岩が多用され、黒色頁岩が混じる。石材の出土傾向はIXa層～VII層下部の石器群と近似する。

類似する石器群としては鎌ヶ谷市東林跡遺跡¹²⁾、市野谷向山遺跡¹⁴⁾第2文化層があげられる。

VII・VI層 駒形遺跡第1文化層第1・7ブロック、原畑遺跡第2文化層第8・9ブロック、小山台遺跡第3文化層第25～35、82・83ブロック、館林II遺跡第2文化層第5ブロック(VII層)・第3文化層第6～8ブロック(VI層)の21か所、1,331点が該当する。館林II遺跡と小山台遺跡北・中域では台地の縁辺に立地する傾向がある。

遺跡の規模に関わらず、各遺跡からは4点以上のナイフ形石器が出土しており、合計数は58点となった。多くは石刃を素材とした二側縁加工で、中・小型の柳葉形を呈しており、搔・削器、楔形石器や有柄石刃を組成し、石材に信州産の黒曜石と東北産の硬質頁岩が多用される。なかには利根川上流に産する黒色頁岩、ガラス質黒色安山岩を第一石材とする集中域もみられる。利器の多くは完成形か、それに近い形態で

遺跡内に搬入されているが、不定形剥片が多数接合して拳大にまで復元される資料もみられ、これらにはホルンフェルスや頁岩といった房総半島南部でも採取可能な石材が用いられている。

高度な石刃技法を駆使したⅦ・Ⅵ層段階の石器群には前出のⅦ層下部の石器群と同様、県内外の研究者によって下縦型石刃再生技法¹³⁾や千田台技法¹⁵⁾が提唱され、往時の人々の動線や、石器群の細分、変遷などが検証され続けている^{16・17・18)}。

類似する石器群には芝山町香山新田中横掘遺跡(空港No.7遺跡)¹⁹⁾A地点、荒野前遺跡²⁰⁾第3文化層、野見塚遺跡²¹⁾第Ⅲ文化層、船橋市源七山遺跡¹¹⁾第2文化層などがあげられる。

V層～IV層下部 矢船Ⅱ遺跡第3文化層第22～24ブロック、駒形遺跡第2文化層第2～5ブロック、富士見遺跡第4文化層第12～18、21～24ブロック、原畑遺跡第3文化層第10～31ブロック、花前Ⅲ遺跡第1文化層第1ブロック、大松遺跡第2文化層第22・23ブロック、小山台遺跡第4文化層第36～61、84～86ブロック、館林Ⅱ遺跡第4文化層第9～12ブロックの76か所、4,612点が該当する。

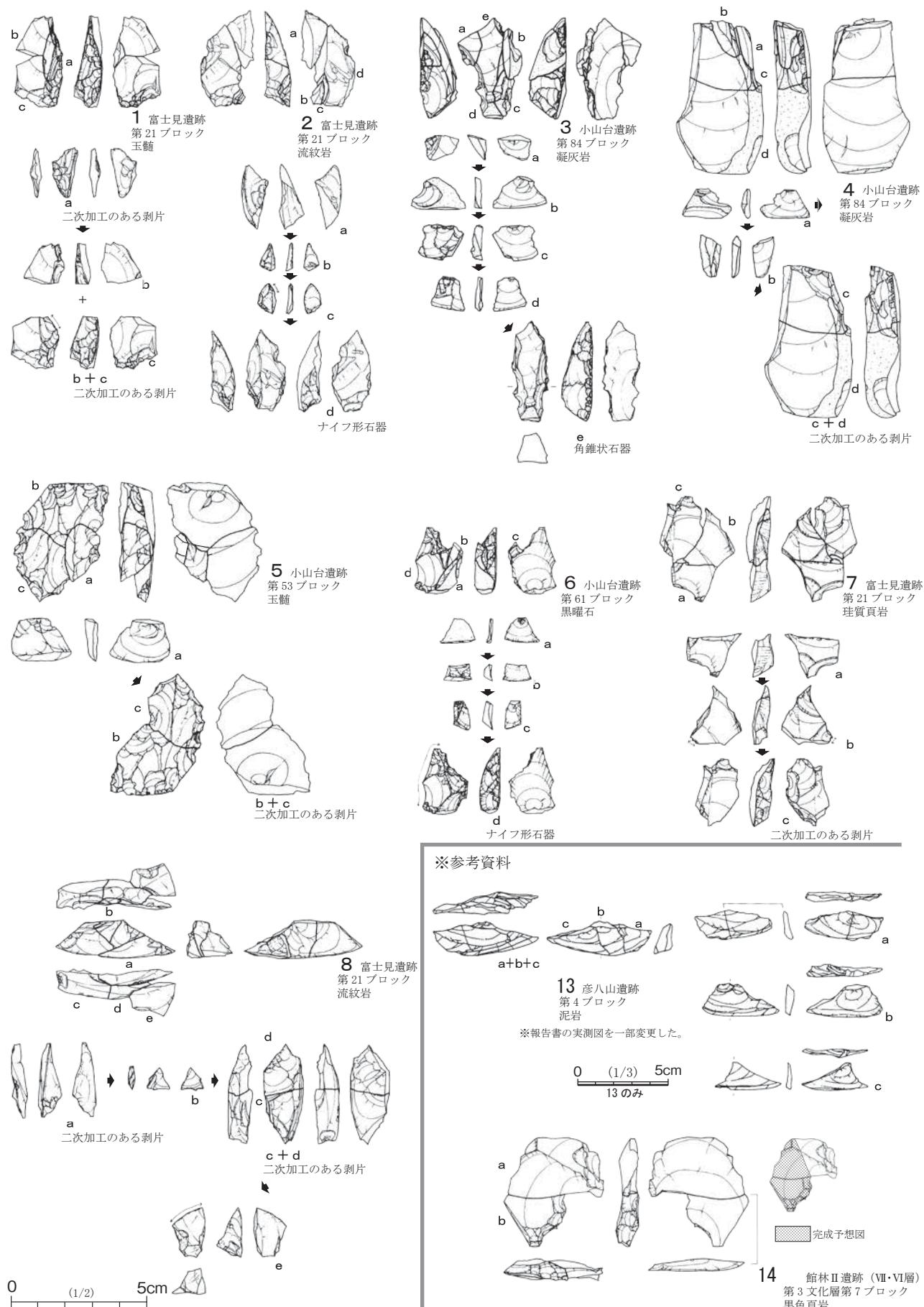
柏北部東地区のみならず、柏北部中央地区、流山新市街地地区といった下総台地北西部には当該期の石器群が数量ともに突出する。この要因として、礫・礫群を伴うことがあげられる。礫群は剥片石器の分布域と概ね一致するが、どちらかを主体にするものや剥片類のみ、礫・礫片のみで構成されるブロックもみられる。こうした傾向は武藏野台地や相模野台地でも同様である。

V層～IV層下部では、富士見・原畑・小山台遺跡で水辺を囲むように多数のブロックが集中地点を構成するが、小規模な集中域は台地の中ほどの平坦面に点在する。

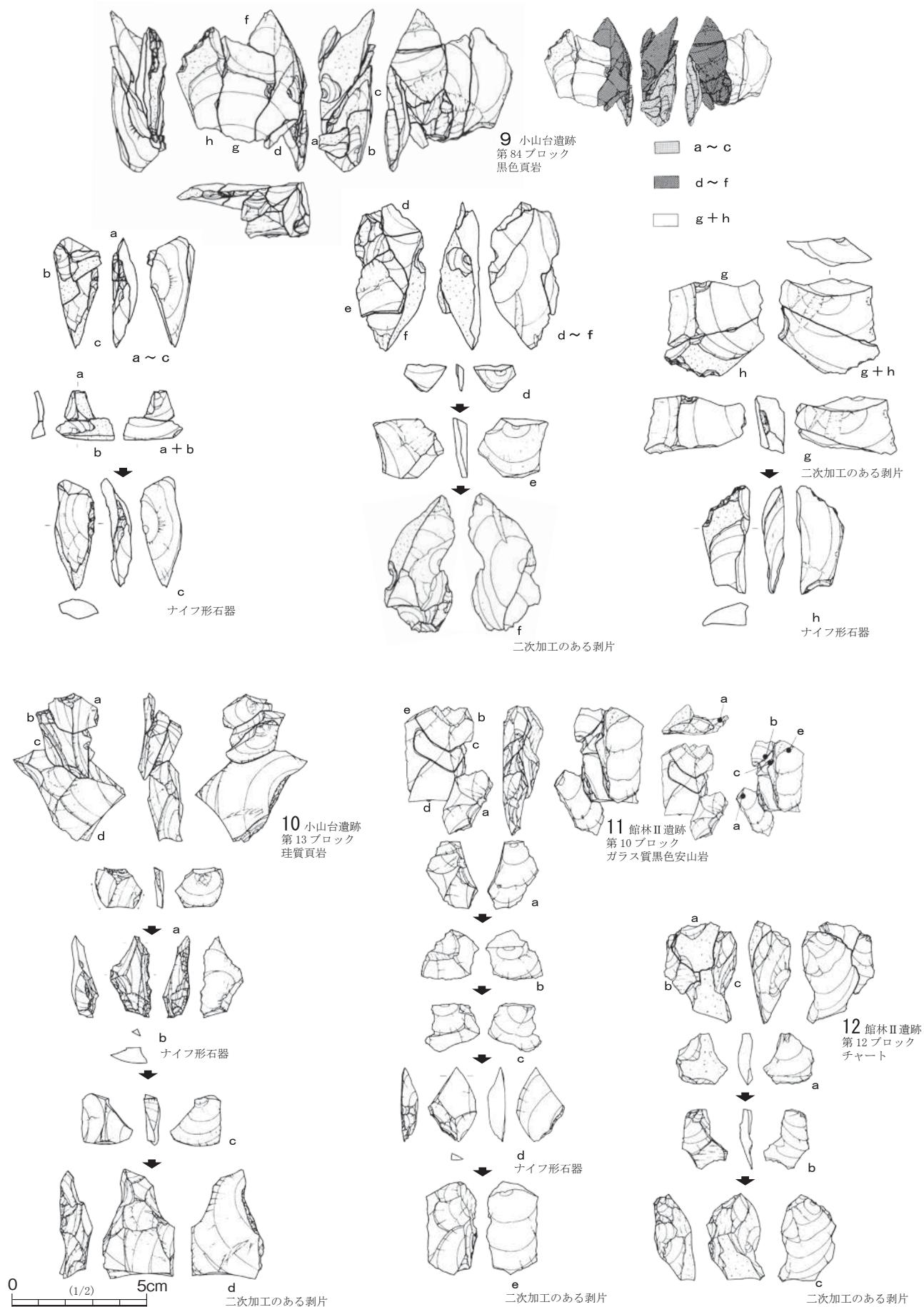
石器はこの時期特有の角錐状石器や切出状を呈するナイフ形石器を組成し、磨石や敲石などの加工工具類がまとまって出土している。剥片石器の石材は黒曜石が862点と最も多く、チャート、珪質頁岩がこれに続く。器種別・母岩別の数量は第14-2・3表に記載し、第14-2図には数量の多いブロック群の剥片類と礫類の石材構成をグラフ化した。産地が同定された黒曜石の原産地であるが、栃木県高原山、長野県和田峠が主体であり、長野県蓼科冷山群、神奈川県箱根畑宿群が少數混じる。チャートは緑灰色で不透明のものが多く、八溝山地で産出するチャートと近似する。珪質頁岩は光沢のある明黄褐色の円～亜円礫製のほか、灰白色や灰色で自然面に微光沢があるものが目立ち、遺跡によって主となる石材に違いがみられる。

第14-3・4図は本報告書から抜粋した接合資料である。ただし13は松戸市彦八山遺跡²²⁾、14は柏市館林Ⅱ遺跡第3文化層第7ブロック(Ⅶ層)出土の参考例で、13は剥離工程、14は最終形態を推定し、設置の角度を変更して図化したものである。ナイフ形石器や角錐状石器を製作する工程を追うことのできる資料を選んだが、欠損品がまとまって出土すること自体、製作された利器が捨て置かれた結果であることは自明であろう。完形品ととらえられるのは小山台遺跡出土の3eのみである。

剥片を素材としたものは1～8、石核素材は9～12である。剥片素材のうち、石器の外縁部を敲打し、不要部分を削ぎ落すようにして目的とする形状に近づけた資料には1～6がある。1の接合時の状態は、完成間近、もしくはメンテナンスの必要な欠損品であろう。横長剥片の打面部に急角度の加工を施した資料を背縁調整する際、器体の内側を敲打したことで上下折れが生じている。2も横長剥片が素材である。基部に接合した2片から、急角度の基部調整が施されたことが確認できる。3は厚みのある横長剥片の主要剥離面を打面と設定し、両側縁が加撃されて角錐状石器が作出される。4・5は縦長剥片が素材である。周縁を加工する途中で折れが生じ、1と同じく上下に分断される。7は厚みの均一な素材剥片が3片に折断された資料であり、各々の縁辺は鋭く端部が尖る。



第14-3図 V層～IV層下部段階接合資料(1)



第14-4図 V層～IV層下部段階接合資料(2)

8は台形を呈する板状の素材である。稜上からの交互剥離により、幅広の剥片が連続して剥離され、両端が尖鋭な8(c+d)や、切出状の8eが作出される。13の彦八山遺跡例と同様に、素材剥片の背面が打面であり、底面に素材の主要剥離面が残る。機能的で無駄の少ない素材製作工程がみられる。9は3つの塊に分けられたのちそれぞれが加工され、尖頭状の剥片(9c, 9f)、板状剥片の分割によるナイフ形石器未成品(9h)が作出される。10~12は多方向から剥離された不定形剥片の接合資料であり、作出された小型矩形の剥片には一側縁に急角度の加工が施されたナイフ形石器のほか、二次加工痕や刃こぼれが観察される。

以上のように、

- ① 板状素材の平坦面を加撃することで、長さと幅が一定で底面付きの横長剥片が連続して剥離される。
- ② 打点周回、多方向からの剥離により、貝殻状あるいは不定形剥片が作出される。
- ③ 型抜きをするように縁辺から不要な部分が弾かれる。

利器の作出には三様の工程がみられ、目的とする剥片に応じて作り分けられる。あらかじめ刃部や端部を想定した剥離作業が接合資料から確認できた。なお、本事業地内の有底剥片においては4点以上が連続して剥離された事例はなく、素材となる剥片石核の大きさは6cmに満たない。入手できる素材の大きさや質が限られることが要因の一つと考えられる。

2・8は流紋岩、13は泥岩、10は珪質頁岩とされるが、いずれも珪質緻密な質感の石材であり、栃木県さくら市・塩谷市一帯に分布する寺島累層の珪質な泥質岩と推定される。近似する資料に栃木県寺野東遺跡²³⁾第Ⅱ文化層の珪質凝灰岩があり、石材名は遺跡によって異なってはいるが、質感や色調に共通する特徴がある。また、8(c+d)の形状と調整痕は群馬県北町遺跡²⁴⁾第1文化層の黒色安山岩資料と酷似する。

類似する石器群は柏北部東地区、柏北部中央地区、流山新市街地地区、常磐自動車道柏地区、萱田遺跡群など、千葉県北西部をはじめ多数検出されており、当概期のナイフ形石器、角錐状石器の形態変遷や利用石材についてまとめた小原氏の論考²⁵⁾では、石器形態から時期細分が行われている。また、自然礫の構成岩石種と採取地推定については、小山台遺跡から出土した縄文時代前期の資料分析例²⁶⁾を参考とした。

IV層上部～III層下部 大松遺跡第2文化層第21ブロック、小山台遺跡第5文化層第62～76、87～89ブロックの19か所、1,062点が該当する。

主要石器には前述のV層～IV層下部石器群と同じくナイフ形石器が多くみられるが、角錐状石器は姿を消し、変わって尖頭器が出現する。搔器・削器・彫器・磨石類・敲石が複数検出された。剥片類にはガラス質黒色安山岩や黒曜石、玉髓が多用される。出土した半数以上の624点が砂岩やチャートの礫・礫片であり、前文化層と比してサイズは小型化する。ほとんどのブロックに礫群が伴う。

尖頭器の平面形は小型木葉形で、器軸は斜位、表裏周縁部に平坦剥離が廻る。ナイフ形石器の形態は柳葉形、小型幾何形、不定形剥片を一部加工したものなど多様である。彫器には珪質頁岩製の石刃素材のものと、嶺岡産珪質頁岩製の上ヶ屋型彫器が出土した。磨石類、敲石には自然礫を利用した不定形なものが多い。

類似する石器群としては、多古町一鍬田甚兵衛山北遺跡(空港No.11遺跡)²⁷⁾や成田市取香和田戸遺跡(空港No.60遺跡)²⁸⁾第2文化層があげられる。

III層下部～II層中部 矢船Ⅱ遺跡第4文化層第25～35ブロック、駒形遺跡第3文化層第6、8～10ブロック、原畑遺跡第4文化層第32～38ブロック、館林Ⅱ遺跡第5文化層第13ブロックの23か所のブロックから1,434点が出土した。

駒形遺跡第8ブロックでは東内野型尖頭器の典型例を有し、彫器や削片が多数出土した。東内野型尖頭

器は富里市東内野遺跡³²⁾から出土した樋状剥離のある尖頭器を示準石器とし、左右非対称で上下両尖形を呈し、弧状に張り出した背縁整形が特徴的である。尖頭部から剥離された削片が植刃や彫器として利用されるなど、副産物としての剥片類も多様な用途に用いられる。第4章第5節にて、それらの出土状況や製作工程を詳述しており、類似する石器群には印西市平賀一ノ台遺跡²⁹⁾、印西市角田台遺跡³⁰⁾、山武市四ツ塚遺跡³¹⁾があげられる。

Ⅲ層上部 矢船II遺跡第5文化層第36ブロック、寺下前遺跡第2文化層第2ブロック、小山台遺跡第6文化層第77~79、90~92ブロック、八反目台遺跡第1文化層第1ブロックの9か所、210点が該当する。

いずれのブロックも、眼下に谷津を臨む台地縁辺や台地の張り出し部に立地する。

細石刃石器群は小山台遺跡第77~79ブロックと八反目台遺跡にみられ、両遺跡からは細石刃34点、稜柱系細石刃石核12点、両極石核としての楔形石器3点などが出土した。小山台遺跡では黒曜石が卓越するが、八反目台遺跡は黒曜石とチャートの数が拮抗し、大型の台石や磨石などの加工工具類が出土した。

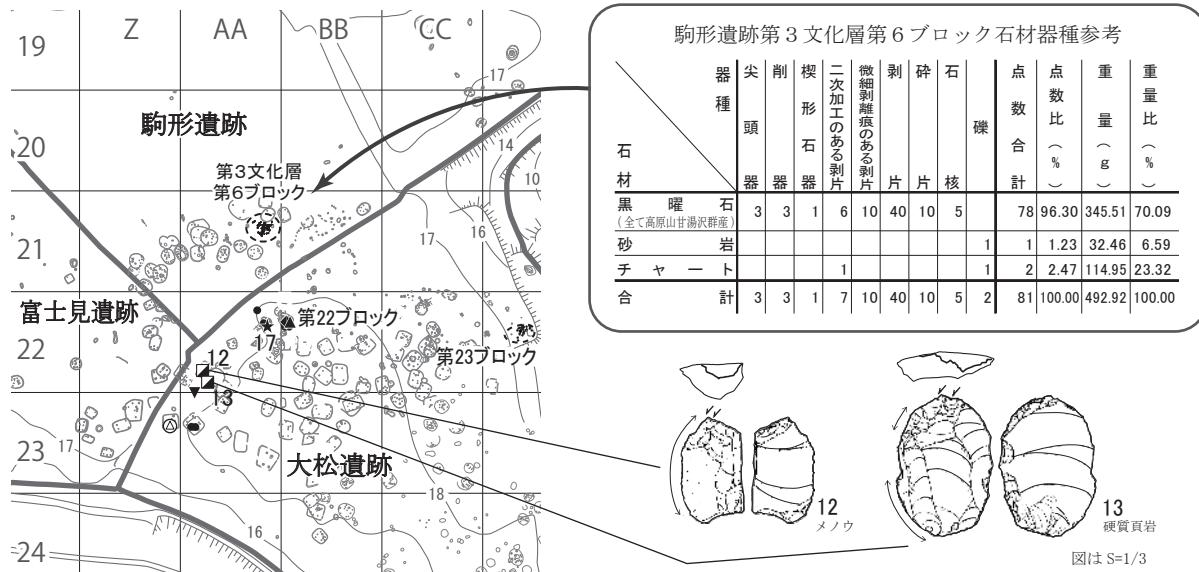
類似する石器群としては、黒曜石を主体とする成田市十余三稻荷峰遺跡(空港No.67遺跡)³³⁾第6文化層、流山市市野谷入台遺跡³⁴⁾第5文化層があげられ、八反目台遺跡のように黒曜石以外の細石刃・細石刃石核が出土した石器群には白井市一本桜南遺跡³⁵⁾第10文化層、白井市復山谷遺跡(1次~3次)³⁶⁾Aブロック、印西市石頭第2遺跡³⁷⁾第4文化層、佐倉市御塚山遺跡³⁸⁾第1文化層、佐倉市大林遺跡³⁸⁾第1文化層のほか、千葉県教育委員会にて整理作業中の柏市内山遺跡などがあげられる。

Ⅲ層上部~Ⅱ層下部 矢船II遺跡第6文化層第37ブロックの199点が該当する。2/3にあたる134点が礫・礫片だが、大・中・小型の尖頭器と削器・削片が出土した。終末期の石器群で、神子柴・長者久保期に比定される。類似する石器群には四街道市木戸先遺跡³⁹⁾第3群、富里市南大溜袋遺跡⁴⁰⁾、千葉市弥三郎第2遺跡⁴¹⁾があげられる。

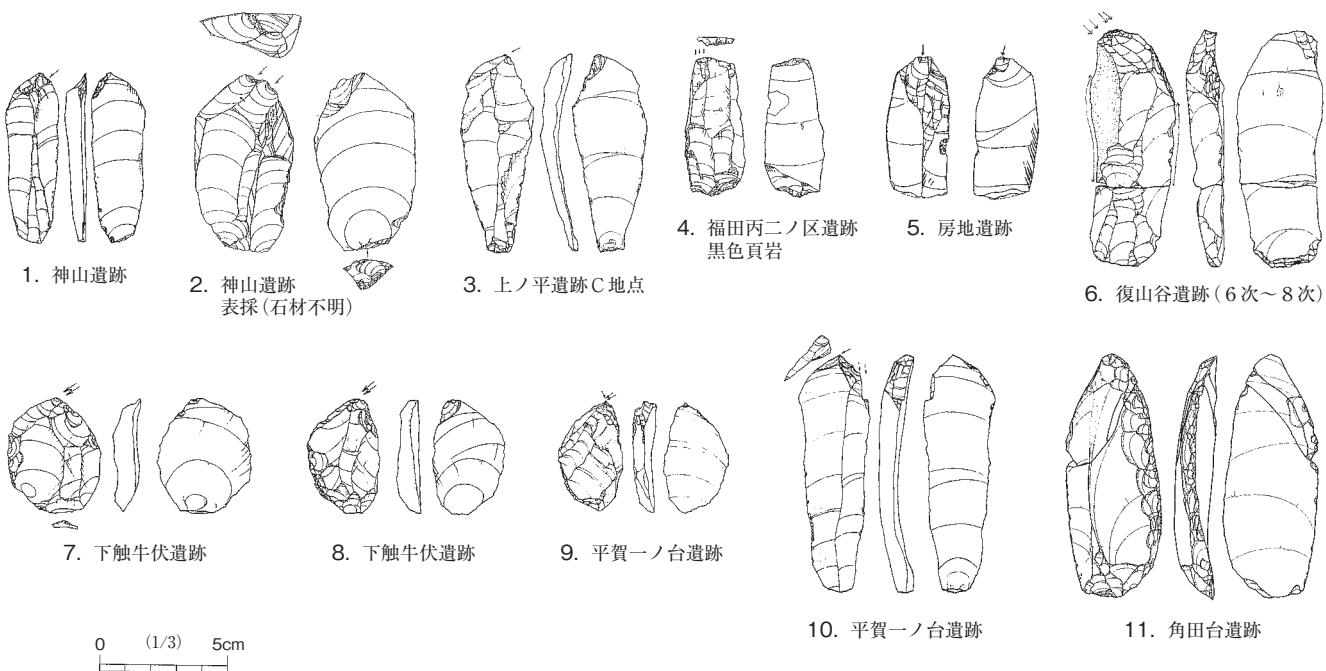
ブロック外・単独出土 ブロックに帰属せず、単独で出土した石器は全部で387点である。時期の示準とされる定型的な資料が数多く出土している。トゥールとしては尖頭器が52点と最も多く、ナイフ形石器44点、石刃10点、細石刃石核8点、角錐状石器7点、細石刃5点と続く。分布状況や石器の形態など、詳細な情報は各遺跡での報告に譲り、ここでは大松遺跡から出土した神山型に類する彫器について紹介する。大松遺跡ではこのほかにも硬質頁岩製の国府型ナイフ形石器(第14-5図17)が出土しているが、橋本勝雄氏によってすでに報告⁴²⁾済みであり、関東地方を対象とした悉皆調査の成果は考古学ジャーナル特集号⁴³⁾に掲載されている。

神山型彫器とは、中部・東北地方の日本海側に限定的に分布し、杉久保石器群に伴う彫器である。石刃末端部のインバース・リタッチを打面として背面側に彫刀面が作られ、上面の稜はZ形を呈する。関東地方の太平洋側ではごくわずかしか類例がないが、大松遺跡からはこの特徴を有する彫器が硬質頁岩・玉髓と、石材を違えて2点出土した(第14-5図12・13)。縄文時代前期の住居覆土に混在していたものだが、この一角ではⅣ層、Ⅲ層に比定される石器が多数出土しており、第10-5・14-5図、第10-2表にみられるところ、旧石器時代に石器集中域を形成していたことは想像に難くない。ただし、第22・23ブロックはⅤ層~Ⅳ層下部、北側に近接する駒形遺跡第3文化層第6ブロックは尖頭器石器群に位置付けられ、神山型彫器の帰属時期とは異なるようである。

第14-6図1・2に標式遺跡である新潟県中魚沼郡津南町の神山遺跡⁴⁴⁾出土の彫器を提示した。1は類例表示の際にも用いられる典型例だが、2は、竹岡俊樹氏の論文⁴⁵⁾中に津南町の小野塚永治氏より提供された神山遺跡表採資料と付記されており、大松遺跡出土13と形状・加工の状態が極めて近似する。3は新潟



第14-5図 大松遺跡の彫器出土位置・関連する遺構とブロック



第14-6図 神山型彫器関連資料

県東蒲原郡三川村(現阿賀町)の上ノ平遺跡C地点⁴⁶⁾例である。4～6は関東地方で発見された神山型彫器の特徴を持つとされる類例である。典型例との違いは4⁴⁷⁾は石材、5⁴⁸⁾は加工部位、6⁴⁹⁾は彫刀面打面の形成工程と彫刀面の方向にあろう。図示はしていないが、6と接合した削片に被熱痕跡が認められることから石刃石核としての要素が強い。7～9の下触牛伏遺跡⁴⁹⁾、平賀一ノ台遺跡²⁹⁾例は彫刀面打面が背面側に形成された、いわゆる細原型である。11は角田台遺跡³⁰⁾第1-6B地点から出土した多機能(搔器・削器・彫器・石核)的な石器である。左肩部に複数の彫刀面を持つ。石材が復山谷遺跡例や神山遺跡例と近似する。4を除く石材のほとんどは硬質緻密で光沢を持つ、極細粒の堆積岩であり、東北地方～新潟方面で採取可能な岩種⁵⁰⁾である。神山型の特徴を持つ彫器がどのようなルートを経て柏に到達したのか、なぜこの地では根付かなかったのか、面取りのある尖頭器との関係性など、検討すべき課題は多い。

なお、紙面の都合上掲載できなかった12・13の展開写真は、巻末のCDに収藏した。

- 注1 新田浩三ほか 2014『酒々井南部地区埋蔵文化財調査報告書-酒々井町飯積原山遺跡1-旧石器時代 奈良時代～中・近世編』(公財)千葉県教育振興財団
- 2 大森隆志・川口武彦 2009『関場遺跡第2地点出土旧石器資料報告・寒風台遺跡出土石器再整理報告』松戸市立博物館
中村雄紀ほか 2013『松戸の発掘60年史-市内の遺跡を再検討-』松戸市立博物館
- 3 山岡磨由子ほか 2015『流山新市街地地区埋蔵文化財発掘調査報告書7-流山市市野谷芋久保遺跡・市野谷中島遺跡(上層)・市野谷向山遺跡(上層)・市野谷立野遺跡・大久保遺跡(上層)・西初石五丁目遺跡・東初石六丁目第I遺跡(上層)・十太夫第I遺跡・十太夫第III遺跡-』(公財)千葉県教育振興財団
- 4 新田浩三 2009『柏北部中央地区埋蔵文化財調査報告書2-柏市原山遺跡-旧石器時代編』(財)千葉県教育振興財団
- 5 田村 隆ほか 1986『常磐自動車道埋蔵文化財調査報告書IV-元割・聖人塚・中山新田I-』(財)千葉県文化財センター
- 6 山岡磨由子 2011『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書XXIII-印西市泉北側第3遺跡-』(財)千葉県教育振興財団
- 7 島立 桂ほか 1994『千原台ニュータウンVI-草刈六之台遺跡-』(財)千葉県文化財センター
- 8 島立 桂ほか 2012『西八千代北部地区埋蔵文化財調査報告書2-八千代市西芝山南遺跡-』(公財)千葉県教育振興財団
- 9 新田浩三ほか 2002『東関東自動車道(千葉・富津線)埋蔵文化財調査報告書10-袖ヶ浦市台山遺跡-』(財)千葉県文化財センター
- 10 山岡磨由子 2012『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書-白井市復山谷遺跡(6次～8次)(下層)-』(公財)千葉県教育振興財団
- 11 山岡磨由子ほか 2006『船橋市源七山遺跡-坪井地区埋蔵文化財調査報告書-』(財)千葉県教育振興財団
- 12 織笠明子 2010『東林跡遺跡』『鎌ヶ谷市史 資料編I(考古)』18-93頁 鎌ヶ谷市教育委員会
- 13 新田浩三 1995『下総型石刃再生技法の提唱』『研究紀要』16 1-40頁 (財)千葉県文化財センター
- 14 新田浩三ほか 2011『流山新市街地地区埋蔵文化財調査報告書5-流山市大久保遺跡(下層)・市野谷向山遺跡(下層)・東初石六丁目第I遺跡(下層)・東初石六丁目第II遺跡・十太夫遺跡-』(財)千葉県教育振興財団
- 15 矢本節朗 1996『多古町千田台遺跡-BR/W南側NDB用地(無線施設)埋蔵文化財発掘調査報告書-』(財)千葉県文化財センター
- 16 酒井弘志・宇井義典 2004『印旛の原始・古代 旧石器時代編』(財)印旛郡市文化財センター
- 17 橋本勝雄 2006『南関東における石刃石器群(素描)-下総台地の立川ロームVI・VII層段階から-』『東北日本の石刃石器群』第20回 東北日本の旧石器文化を語る会
- 18 小菅将夫ほか 2016『ナイフ形石器文化の発達期と変革期-浅間板鼻褐色軽石群降灰期の石器群-』予稿集 岩宿博物館
- 19 西口 徹 1984『新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書IV-No.7遺跡-』(財)千葉県文化財センター
- 20 新田浩三ほか 2012『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書XXV-印西市荒野前遺跡-』(財)千葉県教育振興財団
- 21 田村 隆 1982『北総開発鉄道埋蔵文化財調査報告書III-野見塚遺跡-』(財)千葉県文化財センター
- 22 田村 隆 1987『北総開発鉄道埋蔵文化財調査報告書I-松戸市彦八山遺跡-』(財)千葉県文化財センター
- 23 森嶋秀一・谷中隆・津野仁・江原英 1998『寺野東遺跡I』 小山市小山東部地区工業用地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査 第1巻 (財)栃木県文化振興事業団 埋蔵文化財センター
- 24 小菅将夫ほか 2016『ナイフ形石器-発達期の石器群を追う-』第62回企画展展示図録48頁 岩宿博物館
後藤佳一 2016『赤城山西南麓における浅間板鼻褐色軽石群層序と石器群』『ナイフ形石器文化の発達期と変革期-浅間板鼻褐色軽石群降灰期の石器群-』予稿集 42-50頁 岩宿博物館・岩宿フォーラム実行委員会
- 25 小原俊行 2014『尖頭器の形態変遷と利用石材の変化-V・IV層下部段階の下総台地の石器群を中心に-』『石器文化研究』19 石器文化研究会
- 26 柴田 徹・橋本勝雄 2016『柏市小山台遺跡(7)(前期黒浜式期)自然礫の構成岩石種とその採取地についての検討』『研究連絡誌』第77号(公財)千葉県教育振興財団

- 27 新田浩三ほか 1995『新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書IX—鉢田甚兵衛山北遺跡(空港No11遺跡)-』(財)千葉県文化財センター
- 28 新田浩三ほか 1994『新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書VIII-取香和田戸遺跡(空港No60遺跡)-』(財)千葉県文化財センター
- 29 道澤 明 1986『平賀』平賀遺跡群発掘調査会
道澤 明 1990「下総台地における樋状剥離を有する尖頭器の縦年位置づけと再認識—平賀一ノ台遺跡を中心として、下総台地のA.T.降灰以後の石器群について-」『日本考古学研究所集報X II』1-66頁 日本考古学研究所
- 30 古内 茂 2012『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書XXVI-印西市角田台遺跡(旧石器・縄文時代編)-』(公財)千葉県教育振興財団
- 31 島立 桂 2007『四ツ塚遺跡・中島遺跡-国道126号線山武東総道路建設に伴う発掘調査報告書VI-』(財)山武郡市文化財センター
- 32 篠原 正 1977「東内野型尖頭器について」『東内野遺跡発掘調査概報』富里村教育委員会
篠原 正 1980「東内野型尖頭器と樋状剥離に関する一考察」『大野政治先生古稀記念房総史論集』1-54頁 大野政治先生古稀記念論集刊行会
- 33 永塚俊司 2004『新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書XX-十余三稻荷峰遺跡(空港No67遺跡)(旧石器時代編)-』(財)千葉県文化財センター
- 34 新田浩三 2008『流山新市街地地区埋蔵文化財調査報告書3-流山市市野谷入台遺跡-』(財)千葉県文化財センター
- 35 落合章雄 1998『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書X II-白井市一本桜南遺跡-』(財)千葉県文化財センター
- 36 鈴木定明 1978『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書VI』(財)千葉県文化財センター
- 37 落合章雄 1999『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書X III-石頭第2・泉南遺跡ほか-』(財)千葉県文化財センター
- 38 田村 隆・野口行雄 1989『佐倉市南志津地区埋蔵文化財発掘調査報告書1-佐倉市御塚山・大林・大堀・西野・芋窪遺跡-』(財)千葉県文化財センター
- 39 林田利之ほか 1994『木戸先遺跡』(財)印旛郡市文化財センター
- 40 田村 隆・橋本勝雄 1984『房総考古学ライブラリー1 先土器時代』(財)千葉県文化財センター
- 41 織笠 昭・寺門義範 1992『土気南遺跡群II-弥三郎第2遺跡-』(財)千葉市文化財調査協会
- 42 橋本勝雄 2016「<研究ノート>柏北部東地区出土の旧石器・縄文時代の石器3例」『研究連絡誌』第77号 1-9頁
(公財)千葉県教育振興財団
- 43 橋本勝雄 2017「東日本における国府系石器群の地域的様相-関東地方を中心として-」『考古学ジャーナル』6 No698
特集 国府石器群の出現と展開 ニューサイエンス社
- 44 芹沢長介・麻生 優 1959『神山』津南町教育委員会
- 45 竹岡俊樹 1996「彫刻刀形石器の分析(下)-『荒屋型・神山型・上ヶ屋型彫器』の再検討-」『古代文化』9 財団法人古代学協会
- 46 沢田 敦 1996『磐越自動車道関係発掘調査報告書上ノ平遺跡C地点』新潟県埋蔵文化財調査報告書第73集 (財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 47 峰 治・畠中俊明・井関文明 1999『福田丙二ノ区遺跡-海上自衛隊厚木航空基地内隊舎建設に伴う発掘調査-』(財)かながわ考古学財団
- 48 湖口淳一 1987『子和清水遺跡・房地遺跡・一枚田遺跡』(財)千葉市文化財調査協会
- 49 岩崎泰一・小島敦子 1986『下触牛伏遺跡 身体障害者スポーツセンター建設予定地埋蔵文化財調査報告書』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 50 秦 昭繁 2007『新潟県の珪質頁岩石材環境と特徴』『東北日本の旧石器文化を語る会』第21回 51-57頁 東北日本の旧石器文化を語る会
中村由克 2008『上ノ原遺跡(第5次・県道地点)』信濃町教育委員会

写 真 図 版



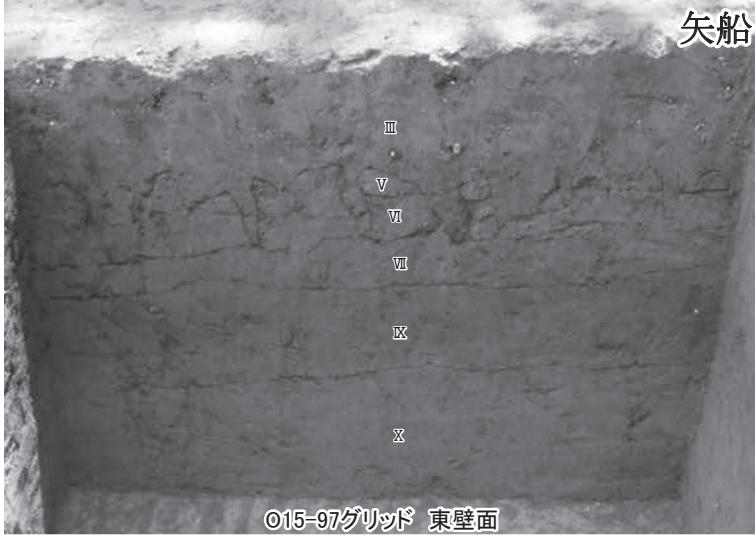
図版2



柏北部東地区遺跡航空写真（昭和48年撮影）

矢船I遺跡

図版3



O15-97グリッド 東壁面



L16-45グリッド 西壁面



第1文化層 第1ブロック 北から



第1文化層 第1ブロック 西から



第1文化層 第2~4ブロック 南から



第1文化層 第5ブロック 南東から



第1文化層 第6ブロック 南から



第1文化層 M16-97-1 南から

図版4

第1文化層 第1ブロック



矢船I遺跡出土石器(1)

第1文化層

第2ブロック



第3ブロック



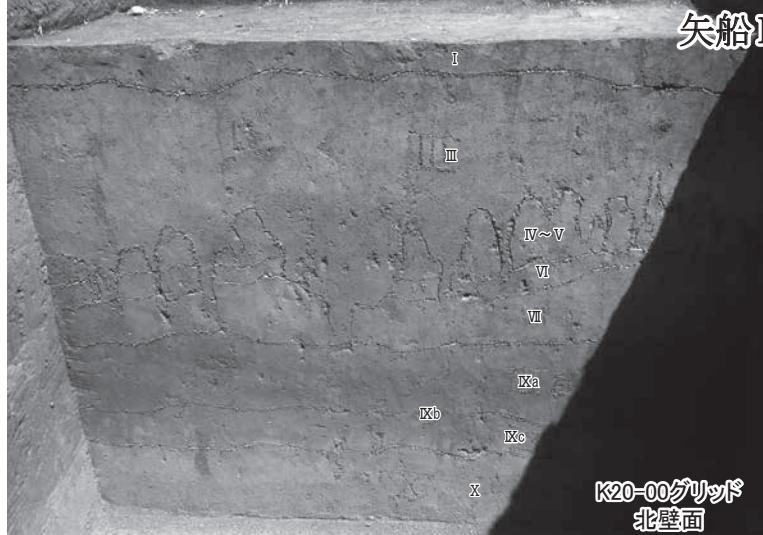
第4ブロック



矢船 I 遺跡出土石器 (2)

図版6



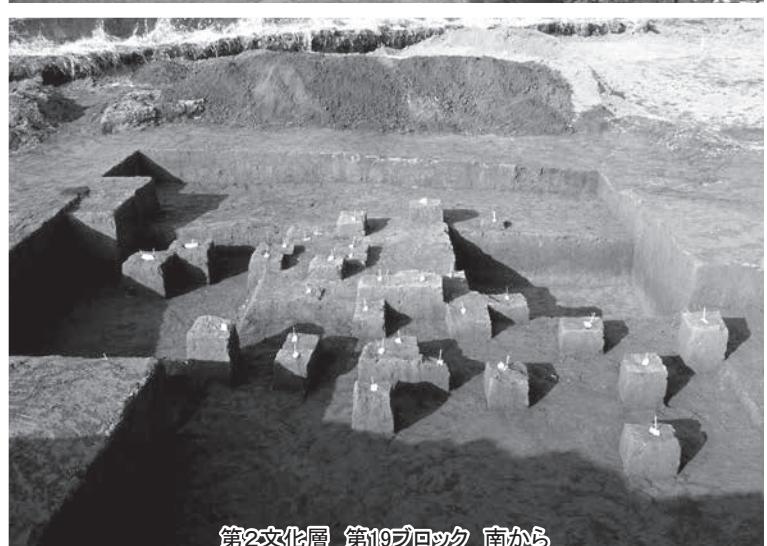
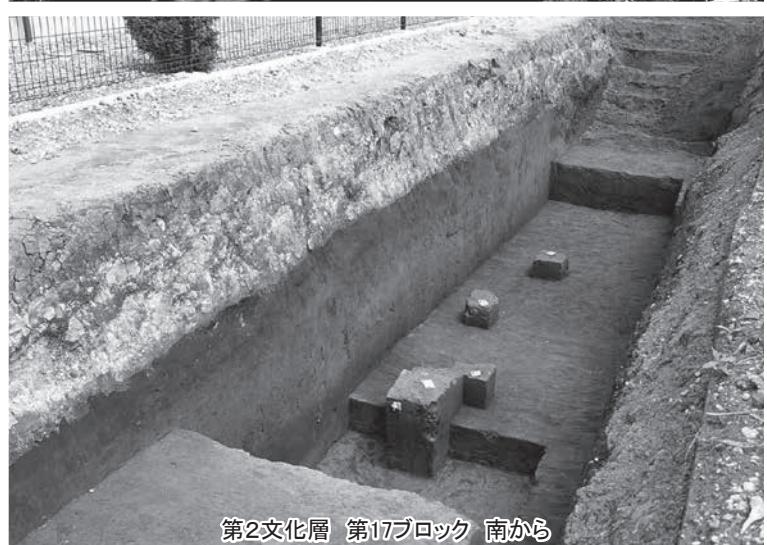


第1文化層 1ユニット 第8・9ブロック 北から



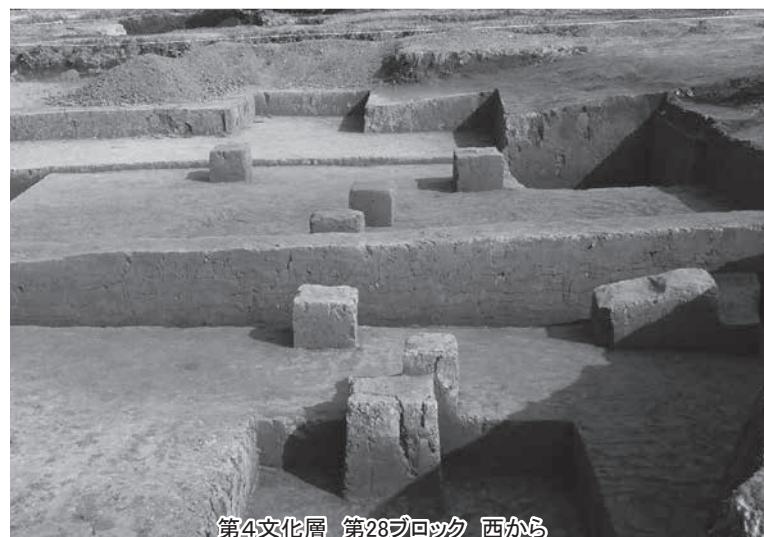
図版8

矢船II遺跡



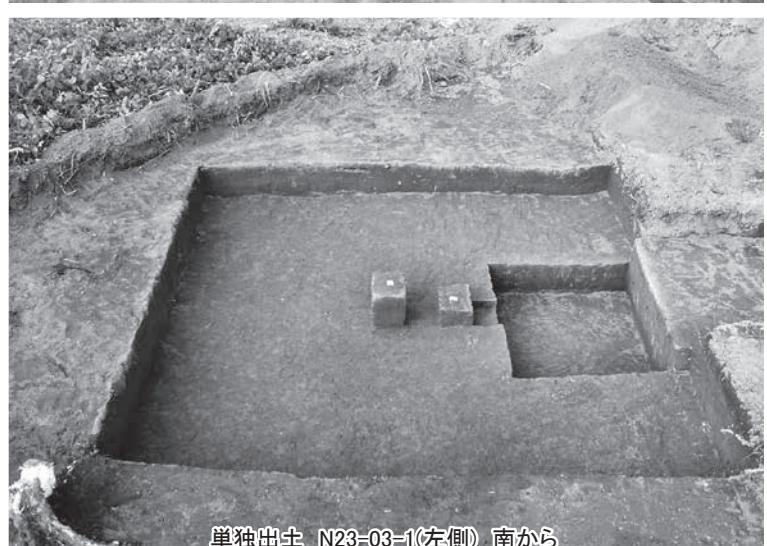
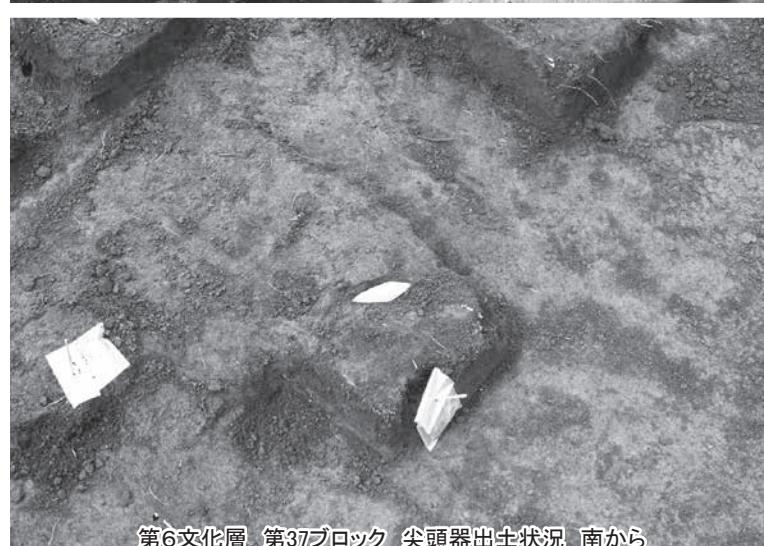
矢船II遺跡

図版9



図版10

矢船II遺跡





矢船II遺跡出土石器 (1)

図版12

第1文化層 1 ユニット

[チャート]



[玉髓]



[流紋岩]



矢船II遺跡出土石器 (2)



矢船II遺跡出土石器（3）

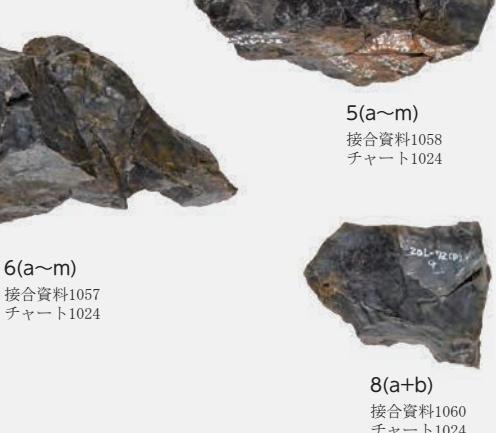
図版14

第1文化層

第12ブロック



第13ブロック



第14ブロック



0 (2/3) 5cm



0 ※5 (1/2) 10cm

0 (2/3) 5cm



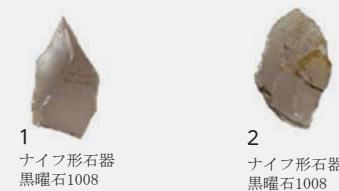
矢船II遺跡出土石器 (4)

第1文化層

第15ブロック



第16ブロック



第18ブロック

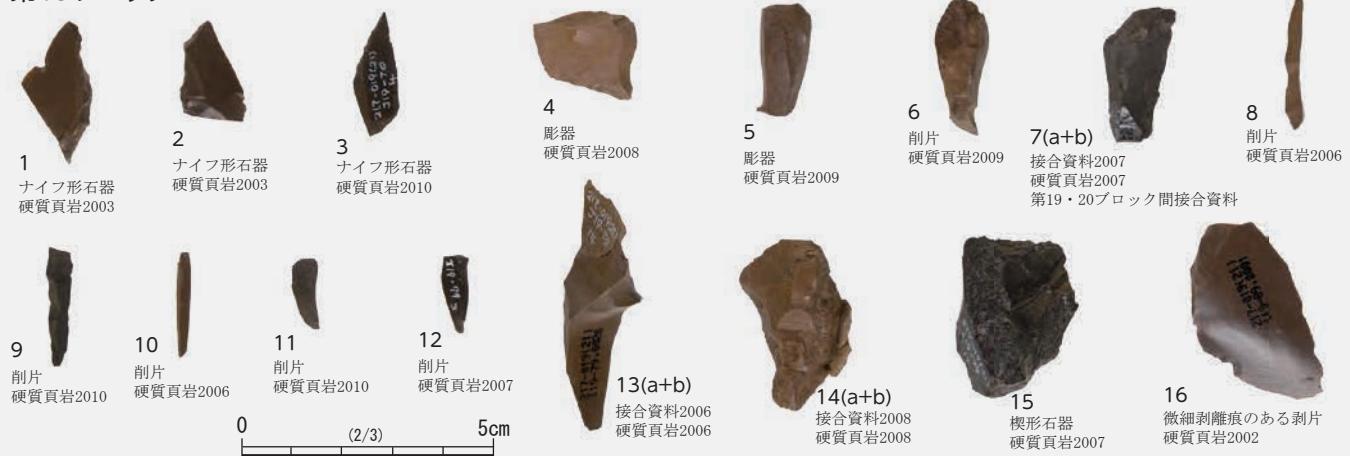


第2文化層

第17ブロック



第19ブロック



矢船II遺跡出土石器(5)

図版16

第2文化層

第19ブロック



第20ブロック



第21ブロック



第21ブロック



第3文化層

第22ブロック



第23ブロック



第24ブロック



矢船II遺跡出土石器 (6)



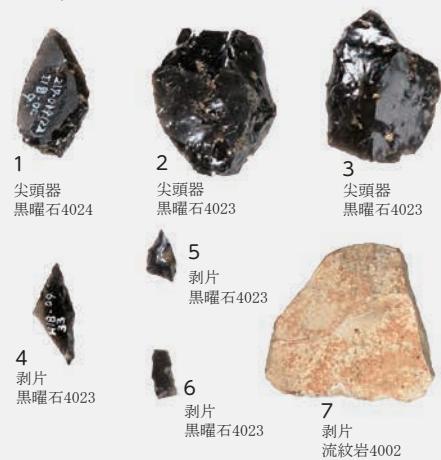
矢船II遺跡出土石器 (7)

図版18

第4文化層



第35ブロック



第6文化層



第5文化層

第36ブロック



単独出土



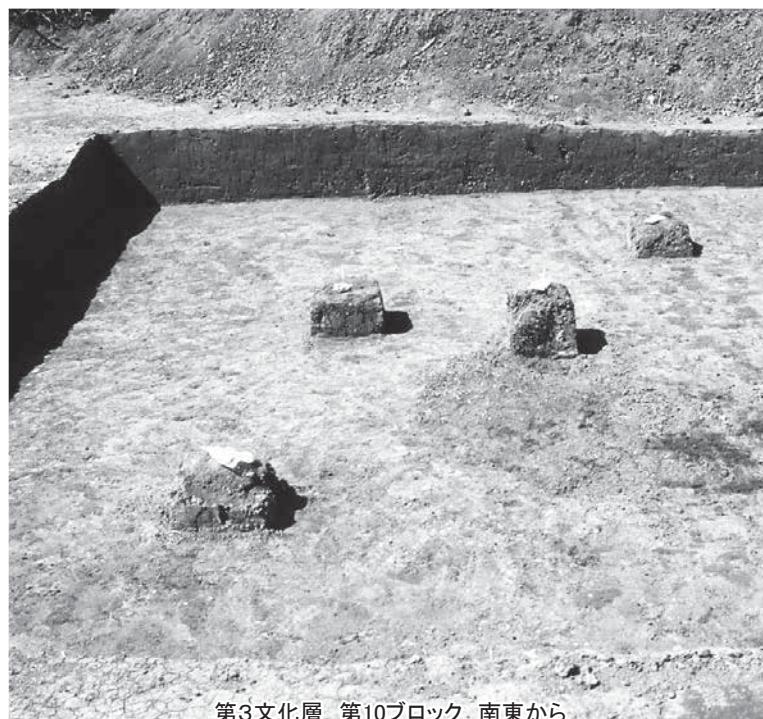
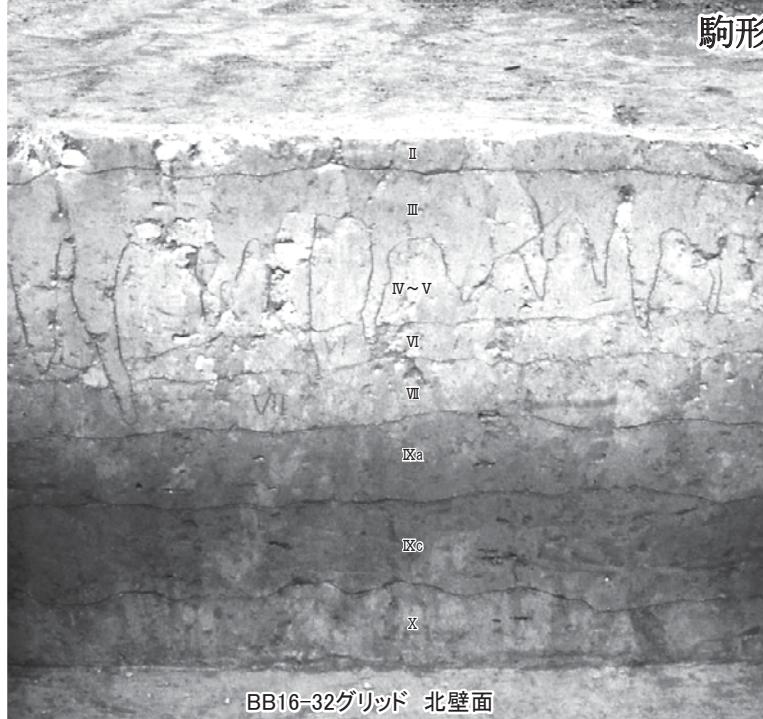
単独出土



矢船II遺跡出土石器 (8)

駒形遺跡

図版19



図版20

第1文化層 第7ブロック



第3文化層 第8ブロック



0 (2/3) 5cm

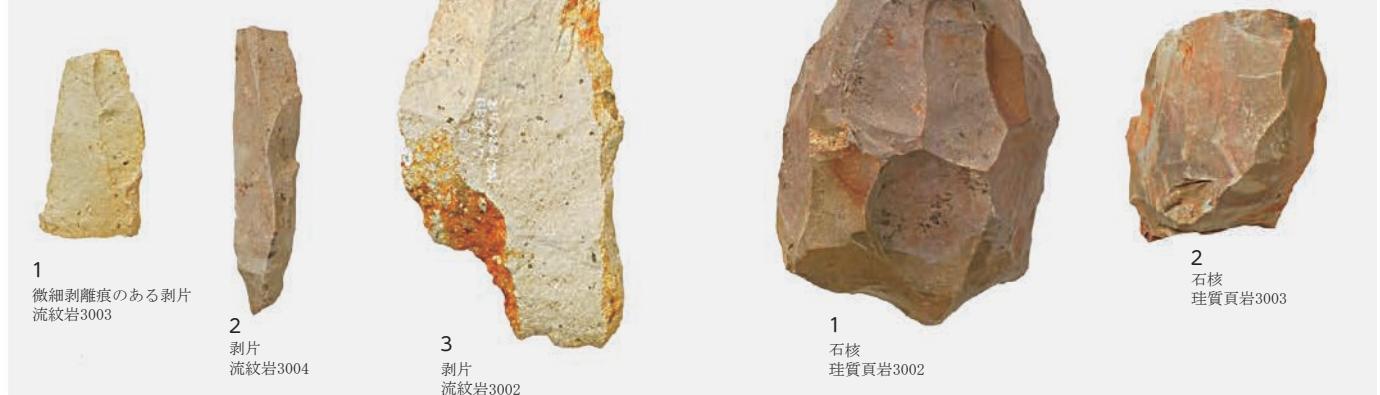
駒形遺跡出土石器（1）

第3文化層 第8ブロック



第10ブロック

第9ブロック



単独出土



駒形遺跡出土石器 (2)

図版22

富士見遺跡



第2文化層

第19ブロック



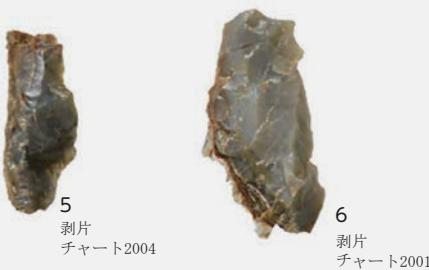
第3文化層

第20ブロック



1 微細剥離痕のある剥片
流紋岩3001

2 ナイフ形石器
黒色頁岩3001



※第19ブロック 9・第20ブロック 2
0 (1/3) 10cm

第4文化層

第21ブロック



10 (a~d)
接合資料4004
流紋岩4002

11 (a~e)
接合資料4001
流紋岩4002

第22ブロック



0 (2/3) 5cm

富士見遺跡出土石器（1）

図版24

第4文化層

第22ブロック



第23ブロック



第24ブロック



単独出土



富士見遺跡出土石器（2）

原畠遺跡

図版25



EE38-76グリッド 北壁面



FF37-24グリッド 北西壁面



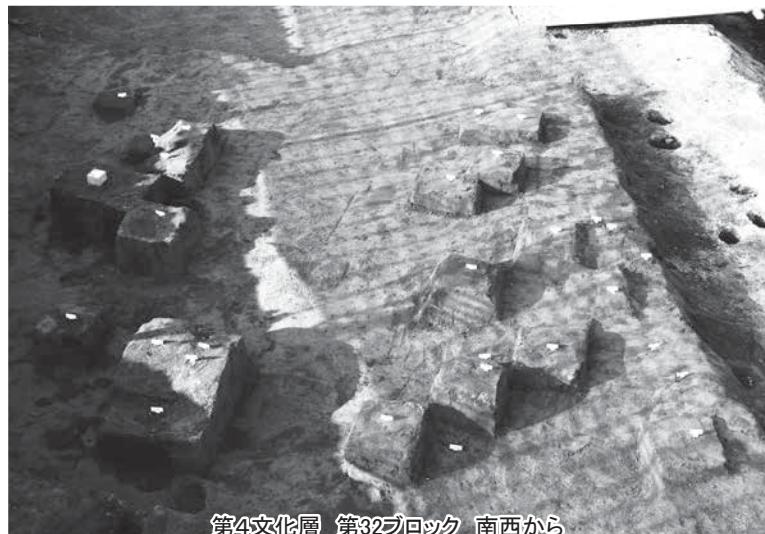
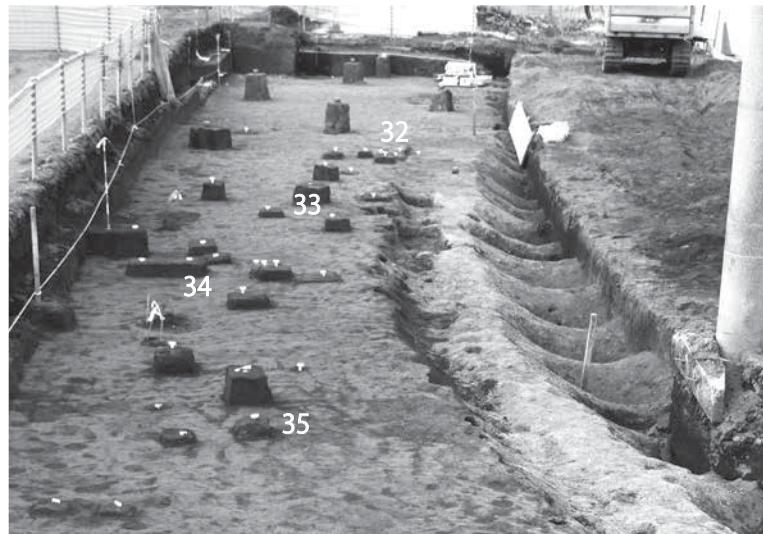
第3文化層 第28~30ブロック 南西から



第3文化層 第28~30ブロック 北東から



第4文化層 第31ブロック 南から



第4文化層 第32ブロック 南西から



第4文化層 第32~36ブロック 南東から

図版26

第3文化層

第28ブロック



1
ナイフ形石器
黒曜石3005



2
ナイフ形石器
黒曜石3005



3
二次加工のある剥片
黒曜石3005



4
二次加工のある剥片
黒曜石3005



5(a+b)
接合資料3009
黒曜石3005

第29ブロック



1
角錐状石器
黒曜石3001



2
二次加工のある剥片
黒曜石3004



3(a+b)
接合資料3003
黒曜石3002



4
微細剥離痕のある剥片
玉髓3001



9
磨石
ホルンフェルス3002



7(a~k)
接合資料3001
黒曜石3002



8(a~c)
接合資料3006
黒曜石3004

単独出土



1
微細剥離痕のある剥片
珪質頁岩3001



2
磨石
安山岩3001

第30ブロック

第31ブロック



1
ナイフ形石器
黒曜石3005



1
二次加工のある剥片
頁岩3001



2
剥片
黒色頁岩3001



2
剥片
黒曜石3003



3
石核
黒色頁岩3002



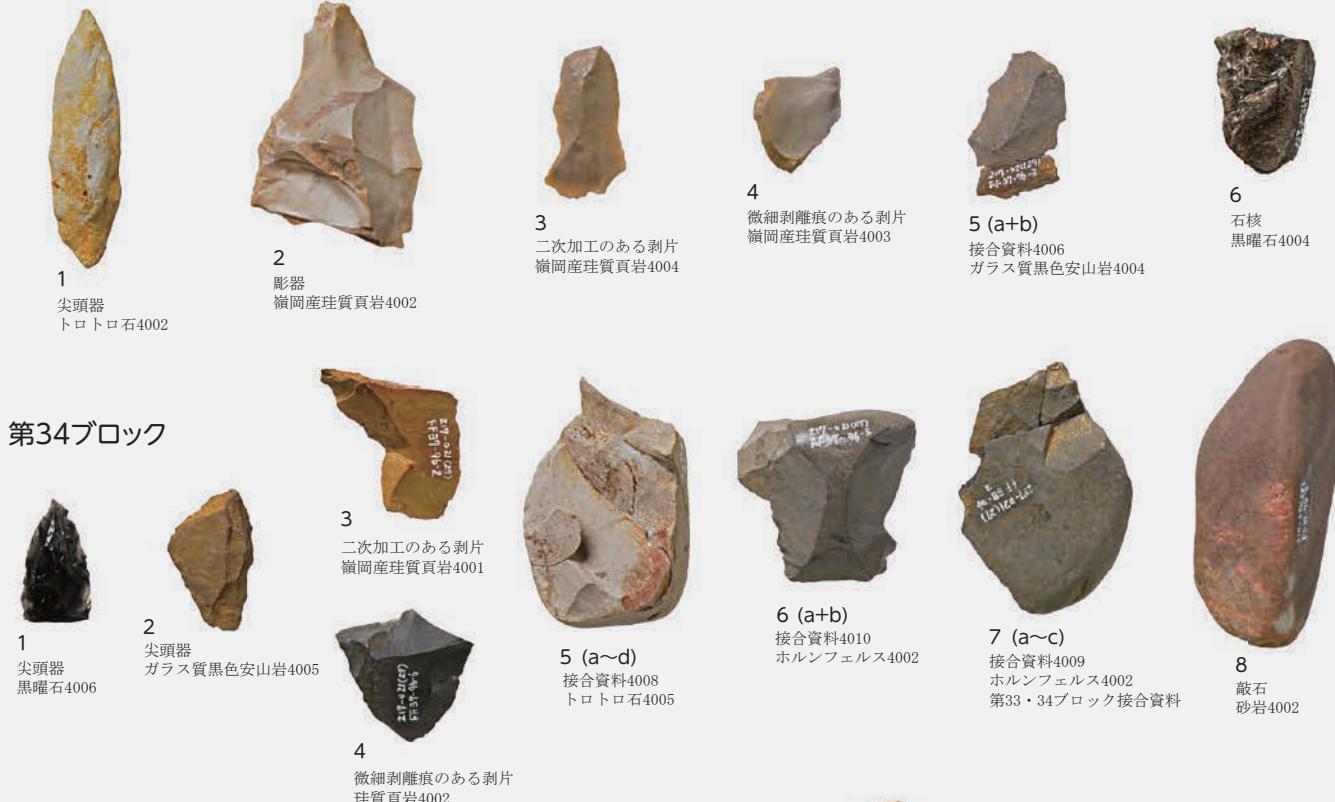
原畑遺跡出土石器（1）

第4文化層

第32ブロック



第33ブロック



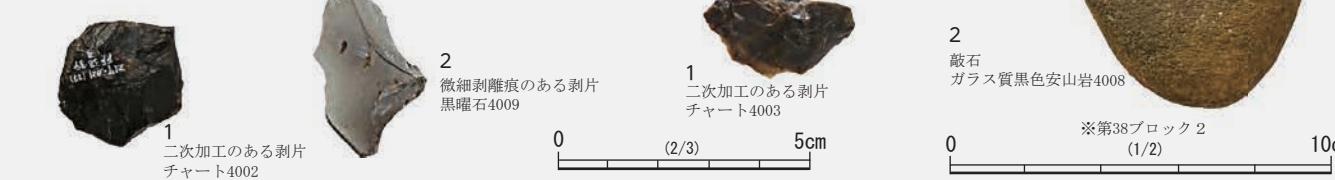
第35ブロック



第36ブロック



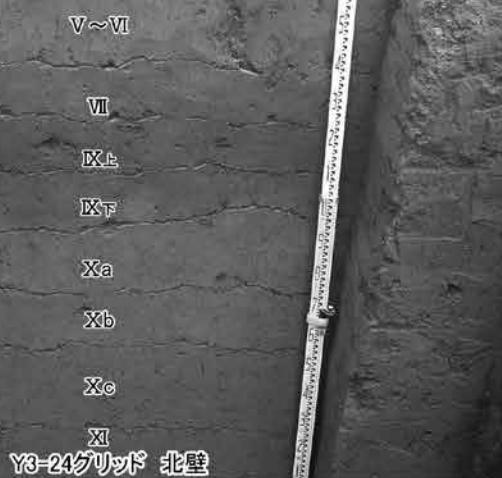
第37ブロック



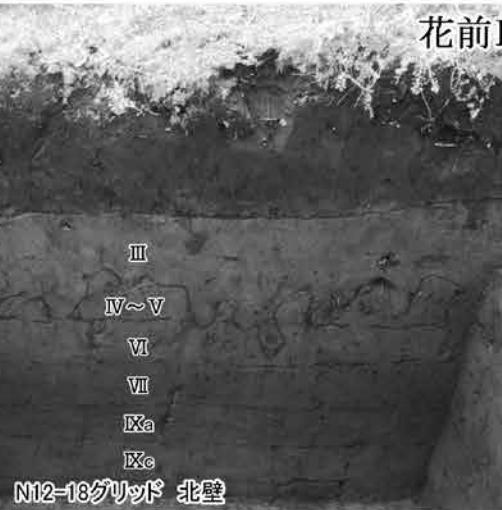
原畠遺跡出土石器（2）

図版28

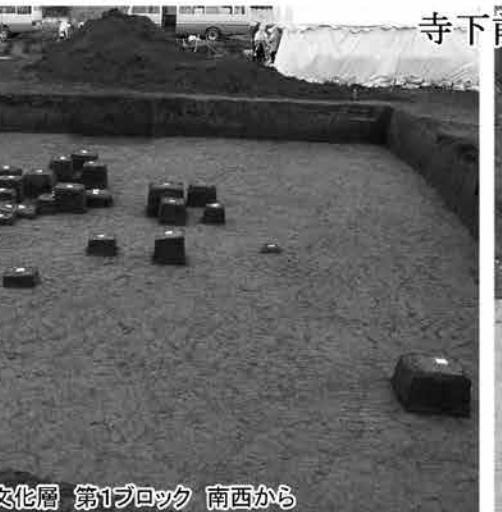
花前 I 遺跡



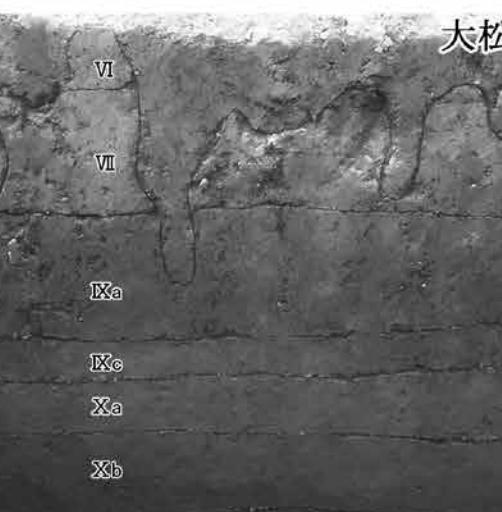
花前 III 遺跡



寺下前 遺跡

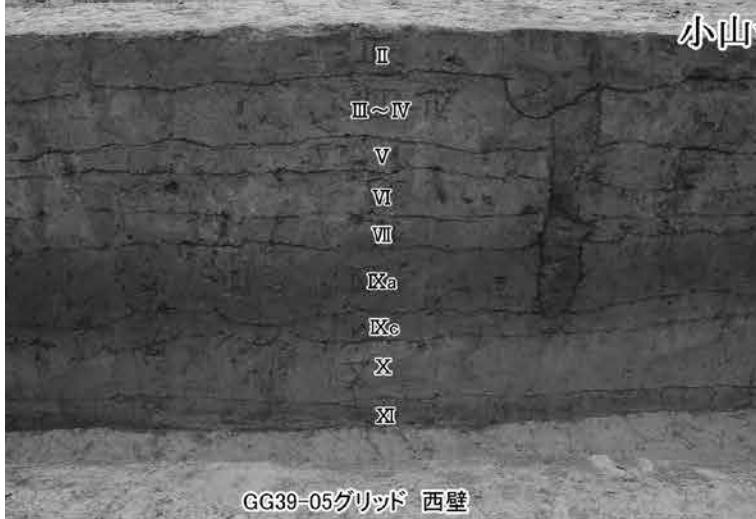


大松 遺跡



小山台遺跡

図版29



図版30

小山台遺跡

第4文化層 第86ブロック 南西から

第5文化層 第87ブロック 南西から

第5文化層 第88ブロック 南西から

第6文化層 第90ブロック 南から

八反目台遺跡

調査前風景

第1ブロック 南東から

第1ブロック 南西から

館林II遺跡

図版31



図版32

館林II遺跡



第1文化層第2ブロック・第3文化層第6ブロック・第4文化層第12ブロック 南東から



第1文化層第2ブロック・第3文化層第6ブロック・第4文化層第12ブロック 北から



第3文化層 第7ブロック 北から



第3文化層 第8ブロック 西から



第4文化層 第9ブロック 南東から



第4文化層 第9・10ブロック 北東から



第4文化層 第11ブロック 南東から



第5文化層 第13ブロック 南西から

花前 I 遺跡



花前 III 遺跡



寺下前遺跡

第1文化層

第1ブロック



第2文化層

第2ブロック



花前 I ・ 花前 III ・ 寺下前遺跡出土石器

図版34

第22ブロック

第23ブロック



単独出土



大松遺跡出土石器

0 (2/3) 5cm

第1文化層
第80ブロック



第81ブロック

第1文化層単独出土



第3文化層
第82ブロック



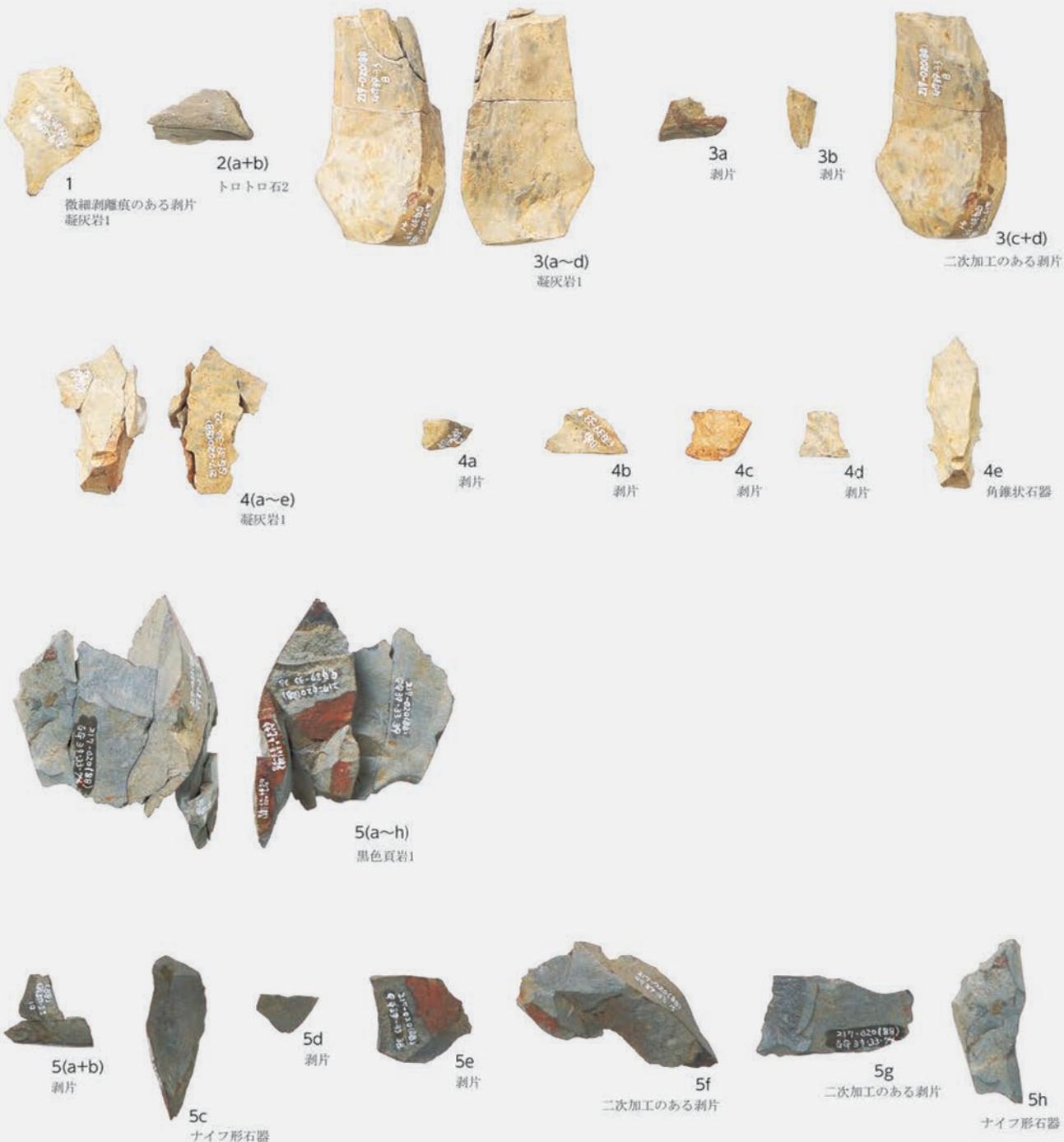
第83ブロック

第3文化層単独出土



小山台遺跡出土石器（1）

第4文化層
第84ブロック



第85ブロック



第86ブロック



第4文化層単独出土

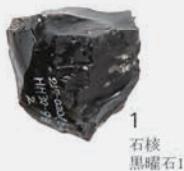


0 (2/3) 5cm

第5文化層
第87ブロック



第88ブロック



第6文化層
単独出土



第89ブロック



単独出土



小山台遺跡出土石器（3）

図版38

第1ブロック



接合資料



第1ブロック



八反目台遺跡出土石器

第1文化層
第1ブロック



第2ブロック



第3ブロック



第4ブロック



館林II遺跡出土石器（1）

図版40

第2文化層

第5ブロック



第3文化層

第6ブロック



0 (2/3) 5cm

第6ブロック



第7・8ブロック



第4文化層

第9~11ブロック



図版42

第12ブロック



第5文化層 第13ブロック



単独出土



第4文化層接合資料

第6ブロック



第10ブロック



0 (2/3) 5cm

報告書抄録

ふりがな	かしわほくぶひがしちくまいぞうぶんかざいはつくつちょうさほうこくしょ								
書名	柏北部東地区埋蔵文化財発掘調査報告書								
副書名	柏市矢船I遺跡・矢船II遺跡・駒形遺跡・富士見遺跡・原畑遺跡・花前I遺跡・花前III遺跡・寺下前遺跡・大松遺跡・小山台遺跡・八反目台遺跡・館林II遺跡 旧石器時代編								
卷次	13								
シリーズ名	千葉県教育振興財団調査報告								
シリーズ番号	第771集								
編著者名	新田浩三・山岡磨由子・橋本勝雄								
編集機関	公益財団法人 千葉県教育振興財団								
所在地	〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡809番地の2 TEL043-424-4848								
発行年月日	西暦2018年3月16日								
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード		経緯度 (世界測地系)		調査期間	調査面積 m ²	調査面積 m ² (下層)	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東經				
やぶねいちらいせき 矢船I遺跡 (1)～(4)	かしわし ふなとあざや ふね 柏市船戸字矢ノ船 1579-5ほか	12217	039	35° 54' 50"	139° 57' 02"	20050516 ～ 20130514	17,556	1,507	柏北部東地区土地 区画整理事業に伴 う埋蔵文化財調査
やぶねにいせき 矢船II遺跡 (1)～(36)	かしわし ふなとあざほんちう 柏市船戸字本町 1783-2ほか	12217	019	35° 54' 40"	139° 57' 05"	19990809 ～ 20130418	55,294	6,506	
こまがたいせき 駒形遺跡 (20)～(42)	かしわし こ あおたあざ やま 柏市小青田字ヤゴ山 402ほか	12217	024	35° 55' 06"	139° 57' 21"	20060406 ～ 20160826	46,222	3,540	
ふじみいせき 富士見遺跡 (27)～(59)	かしわし ふなとあざふじみ 柏市船戸字富士見 130-1ほか	12217	026	35° 54' 42"	139° 57' 08"	20060207 ～ 20160204	40,667	1,739	
はらはたいせき 原畑遺跡 (22)～(29)	かしわし おおむろあざまえはた 柏市大室字前畑 269-7ほか	12217	021	35° 54' 24"	139° 57' 30"	20090706 ～ 20160909	8,568	1,284	
はまえいちらいせき 花前I遺跡 (1)～(3)	かしわし ふなとあざはなまえ 柏市船戸字花前 1219-1ほか	12217	040	35° 55' 10"	139° 57' 20"	20120405 ～ 20160119	4,373	140	
はまえさんいせき 花前III遺跡 (1)～(3)	かしわし ふなとあざしんまち 柏市船戸字新町 1473-1ほか	12217	038	35° 55' 01"	139° 57' 03"	20050425 ～ 20130627	4,670	176	
てらしたまえいせき 寺下前遺跡 (1)～(3)	かしわし おおむろ ごりゆうまえ 柏市大室御領前 1060-1ほか	12217	022	35° 54' 17"	139° 57' 44"	20000201 ～ 20150820	1,942	273	
おおまついせき 大松遺跡 (8)～(18)	かしわし こ あおたあざおおまつ 柏市小青田字大松 334-1ほか	12217	031	35° 54' 48"	139° 57' 24"	20030623 ～ 20101129	15,757	840	
こやまだいせき 小山台遺跡 (51)～(98)	かしわし おおむろあざまえはた 柏市大室字前畑 427-6ほか	12217	020	35° 54' 20"	139° 57' 35"	20130201 ～ 20170228	37,127	2,594	
はっためだいせき 八反目台遺跡 (1)	かしわし おおむろあざひがしやま 柏市大室字東山 1479-1ほか	12217	023	35° 54' 13"	139° 58' 09"	19991101 ～ 20000107	1,841	73	
たてばやしにいせき 館林II遺跡 (1)～(6)	かしわし ふなとあざたばやし 柏市船戸字館林 1781-17ほか	12217	018	35° 54' 50"	139° 56' 48"	19990201 ～ 20130315	6,426	1,788	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
矢船 I 遺跡(1)～(4)	包蔵地	旧石器時代	石器集中地点6か所 单独出土2点	尖頭器・ナイフ形石器・楔形石器・有撃石刃・石刃・削片・石核・敲石・台石	下縦型石刃再生技法の石器群
矢船 II 遺跡(1)～(36)	包蔵地	旧石器時代	石器集中地点37か所 单独出土19点	尖頭器・ナイフ形石器・彫器・削器・搔器・楔形石器・有撃石刃・削片・細石刃石核・石核・局部磨製石斧・磨石・敲石・台石	VII層下部:下縦型石刃再生技法 III層下部:有撃尖頭器とナイフ形石器共伴
駒形遺跡(20)～(42)	包蔵地	旧石器時代	石器集中地点4か所 单独出土18点	尖頭器・角錐状石器・ナイフ形石器・彫器・削片・細石刃石核・石核・敲石	VII層:東林跡型ナイフ形石器 III層:東内野型尖頭器
富士見遺跡(27)～(59)	包蔵地	旧石器時代	石器集中地点6か所 单独出土44点	尖頭器・角錐状石器・ナイフ形石器・削器・石錐・楔形石器・細石刃・細石刃石核・石核・局部磨製石斧・磨石・敲石・台石	IX層下部:砥石 IV層下部:角錐状石器
原畠遺跡(22)～(29)	包蔵地	旧石器時代	石器集中地点11か所	尖頭器・角錐状石器・ナイフ形石器・彫器・削片・石核・磨石・敲石	東内野型尖頭器石器群
花前 I 遺跡(1)～(3)	包蔵地	旧石器時代		尖頭器・ナイフ形石器	
花前 III 遺跡(1)～(3)	包蔵地	旧石器時代	礫群1か所	ナイフ形石器・原石	
寺下前遺跡(1)～(3)	包蔵地	旧石器時代	石器集中地点2か所 单独出土6点	角錐状石器・ナイフ形石器・石刃	III層:大型石刃・ナイフ形石器
大松遺跡(8)～(18)	包蔵地	旧石器時代	石器集中地点2か所 单独出土38点	尖頭器・ナイフ形石器・彫器・石錐・楔形石器・石刃・細石刃・細石刃石核・敲石	国府型ナイフ形石器、神山型に類する彫器2点
小山台遺跡(51)～(98)	包蔵地	旧石器時代	石器集中地点13か所 单独出土17点	尖頭器・角錐状石器・ナイフ形石器・彫器・削器・石錐・楔形石器・石刃・磨石類・敲石・台石・原石	IX層:黒曜石製基部加工石刃石器群 V層～IV層下部:角錐状石器、ナイフ形石器接合資料
八反目台遺跡(1)	包蔵地	旧石器時代	石器集中地点1か所 单独出土1点	尖頭器・搔器・楔形石器・細石刃・細石刃石核・磨石類・台石・原石	黒曜石とチャートを用いた細石刃石器群
館林 II 遺跡(1)～(6)	包蔵地	旧石器時代	石器集中地点13か所 单独出土7点	尖頭器・角錐状石器・ナイフ形石器・削器・搔器・石錐・楔形石器・有撃石刃・石刃・削片・磨石類・敲石・原石	VII層～VI層:下縦型石刃再生技法の石器群 III層:東内野型に関連する石器群
要 約				<p>柏北部東地区遺跡群は古常陸川南岸の柏・我孫子低地と手賀沼水系の地金堀に挟まれた標高16m～18mの台地上に立地する。北西側は常磐自動車道によって区画される。</p> <p>矢船 I ・ 矢船 II 遺跡のVII層下部では下縦型石刃再生技法が駆使された石刃石器群が検出された。敲石を伴つており遺跡内で加工が行われたと推察される。矢船 II 遺跡はIXa層～VII層下部に石刃素材のナイフ形石器や石斧・石斧調整剥片、III層下部～III層中部で多様な形状のナイフ形石器と尖頭器が共伴する。駒形遺跡ではVII層段階から東林跡型ナイフ形石器、III層段階から東内野型尖頭器が出土した。富士見遺跡のIX層下部からは大型の砥石、V層～IV層下部ではナイフ形石器の製作工程がみられる。原畠遺跡ではV層～IV層下部から客体的な角錐状石器が出土している。これは富士見遺跡でも同様である。原畠遺跡III層の下部段階は東内野型尖頭器の石器群である。</p> <p>花前 I 遺跡は事業地北端に立地し、総点数7点が疎らに分布する。ナイフ形石器と尖頭器が単独出土した。花前 III 遺跡ではV層～IV層下部の礫群1か所が検出された。寺下前遺跡は、IX層下部のガラス質黒色安山岩剥片を主体とするブロックと、III層から石刃3点が出土した。大松遺跡は総点数74点と少数ながら多くの器種が確認された。特に縄文時代の遺構覆土に混じって国府型ナイフ形石器や神山型の定義に合致する彫器が2点（硬質頁岩・玉髓）出土したことは特筆に値する。小山台遺跡は5枚の文化層から13か所のブロックを確認したが、大方は前回報告分に付帯する集中域であった。IX層では黒曜石製石刃石器群が検出され、V層～IV層下部ではナイフ形石器・角錐状石器を含む接合資料から石器製作の工程を追うことができる。八反目台遺跡では良質なチャートと黒曜石の細石刃石器群が検出された。館林 II 遺跡は事業地の北西端に立地し、V層～IV層下部を除く4枚の文化層10か所のブロックはすべて台地の東縁辺に集中する。V層～VI層の黒曜石を主体とした石刃石器群を確認した。下縦型石刃再生技法、あるいは千田台技法と呼称される技法が用いられる。また、III層では嶺岡産珪質頁岩を用いた非対称形の尖頭器が出土しており東内野遺跡を標式遺跡とする東内野型尖頭器との関係が注目される。</p>	

千葉県教育振興財団調査報告 第771集

柏北部東地区埋蔵文化財発掘調査報告書13

-柏市矢船I遺跡・矢船II遺跡・駒形遺跡・富士見遺跡・原畠遺跡・花前I遺跡・
花前III遺跡・寺下前遺跡・大松遺跡・小山台遺跡・八反目台遺跡・館林II遺跡-

旧石器時代編

平成30年3月16日発行

編 集 公益財団法人 千葉県教育振興財団

発 行 独立行政法人 都市再生機構
首都圏ニュータウン本部
東京都新宿区西新宿6-5-1
公益財団法人 千葉県教育振興財団
四街道市鹿渡809番地の2

印 刷 株式会社 弘文社
千葉県市川市市川南2-7-2
